

授業科目	アジア経済論		開講時期	後期
担当教員	裴 海善		単 位	2
授業の目的と概要	<p>経済のグローバル化と共に世界経済はお互いに影響しあっており、発展しているアジア経済は世界経済に大きな影響を与えている。本講座は、韓国経済と日本経済との関係、アジア経済と世界経済との相互関係の実態を把握し、その背景を理解すると共に、今後の課題を考えるのが目的である。</p> <p>韓国経済と日本経済との関係、世界経済とアジア経済との相互関係、自由貿易協定、少子高齢化、などをキーワードにし、その実態と背景を学びます。</p>			
到達目標	<p>①アジアの中でも韓国経済の発展の歴史と特徴について 理解を深めることができる。</p> <p>②韓国経済と日本経済との相互関係、日本企業が韓国に進出する経済的背景や実態が把握できる。</p> <p>③アジア経済と世界経済との関係、世界経済の動きがアジア経済に及ぼす影響などが理解できる。</p> <p>④アジア経済と日本経済の今後の相互発展のための課題を的確にまとめることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本科目は、</p> <p>①アジア文化学科DP2「東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの各地域の社会事情について、具体的な事例を通じて説明できる」の達成に関わる科目です。アジア地域の経済の実態を把握しながら、世界経済とのかかわりを理解することができます。</p> <p>②アジア文化学科の「中等教職課程授業科目」で、「高等学校1種・公民」を充足するための科目です。</p> <p>関連科目としては、「東アジア入門」「経済学概論ⅠとⅡ」がある。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業概要紹介、日本・韓国・台湾・中国の技術の違いと特徴	国民性、発展の歴史、人口が技術発展に及ぼす影響をまとめる		
第2回	韓国経済概観；戦後から1980年代まで	戦後の援助、財閥成長、労働者の海外派遣の背景をまとめる		
第3回	韓国経済概観；1980年代から現在まで	歴代政権ごとの経済政策の違いをまとめる		
第4回	韓国の近代史と経済生活①	朝鮮戦争の原因と韓国経済に与えた被害を調べる		
第5回	韓国の近代史と経済生活②	労働者の海外派遣の背景と内容をまとめる		
第6回	アジア経済危機の原因と影響	IMF、SDR、外貨準備高を調べる		
第7回	世界経済がアジア経済に及ぼす影響 最近の中国経済とインド経済の動向	1970年代以後の世界経済の流れをまとめる		
第8回	イランの社会・経済 (11/5) 太宰府市いきいき情報センター	レポート提出；A4用紙800時程度（当日提出）		
第9回	日本と韓国の交易の特徴と課題	為替レートが貿易に及ぼす影響を調べる		
第10回	貿易構造と自由貿易協定の流れ	FTA、AEC、TPP、RCEPの特徴を調べる		
第11回	為替相場制度とアジア経済	日本の為替相場の歴史を確認する		
第12回	日本と韓国の企業構造	日韓の企業発展の歴史、大企業と中小企業との関係を調べる		
第13回	日本と韓国の金融市場	日韓の株式市場の規模、株価指数計算方法をまとめる		
第14回	日本と韓国の少子高齢化と社会保険、	アジア地域の少子高齢化を調べる		
第15回	まとめと質疑	なし		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	0%			
小テスト等	100%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>①小テストには教科書持ち込可</p> <p>②欠席が5回を超えると評価しない（就職活動、病気、その他の理由による欠席は5回内で認める。証明書提出必要）。</p>			
教科書	裴海善著『韓国経済がわかる20講』明石書店（2014年）			
指定図書	特になし			
参考図書	講義の中で適宜紹介			
オフィスアワー	火～木曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	アジア芸術思想概論		開講時期	後期
担当教員	小林 知美		単位	2
授業の目的と概要	この授業は、アジア文化学科での学びの柱となる3つの領域「言語」「文化」「社会」のうち、「文化」領域の学習の基礎をなすものである。 アジアの多様な文化を理解するためには、その源となっている人々の思想を知ることが不可欠である。アジアの思想の中でも、その芸術を支えてきた美学について概観した今道友信著『東洋の美学』を読み進みながら、アジアのなかでも特に日本と中国の芸術思想を中心にみてゆく。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の芸術思想史上のトピックについて、具体的な例を挙げて説明することができる。</li> <li>中国の芸術思想史上のトピックについて、具体的な例を挙げて説明することができる。</li> <li>現代社会においてアジアの伝統的芸術思想がどのような形であらわれているか、実地見学をとおして発見し、その現状と課題について自分なりの意見を持ち、他の人と意見交換することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	アジア文化学科のDP④「アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 「芸術思想を学ぶ意味」 (9月23日)	ミニレポート執筆 ※宿題：次回授業に詩の本1冊を持ってくる。		
第2回	中国の芸術思想①孔子 (9月30日)	ミニレポート執筆		
第3回	中国の芸術思想②荘子 (10月7日)	ミニレポート執筆		
第4回	中国の芸術思想③『詩経』 (10月14日)	ミニレポート執筆		
第5回	中国の芸術思想④『礼記』 (10月21日)	ミニレポート執筆		
第6回	中国の芸術思想⑤絵画論 (11月4日)	ミニレポート執筆		
第7回	日本の芸術思想①『万葉集』 (11月11日)	ミニレポート執筆		
第8回	日本の芸術思想②『古事記』 (11月18日)	ミニレポート執筆		
第9回	日本の芸術思想③垂迹美術 (11月25日)	ミニレポート執筆		
第10回	日本の芸術思想④「遊び」 (12月2日)	ミニレポート執筆		
第11回	日本の芸術思想⑤「能」 (12月16日)	ミニレポート執筆		
第12回	日本の芸術思想⑥「茶の湯」 (1月13日)	ミニレポート執筆		
	11月12日(土)午後 能「春日明神」鑑賞 (第13・14回合同) 大濠公園能楽堂 (学生1,000円)	事前学習と振り返り		
	11月12日(土)午後 能「春日明神」鑑賞 (第13・14回合同) 大濠公園能楽堂 (学生1,000円)	事前学習と振り返り		
第15回	まとめ「芸術思想を学ぶ意味」 (1月20日)	期末レポート「芸術思想を学ぶ意味」執筆		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% 各授業後にミニレポート、最後に期末レポートを執筆し、提出する。			
小テスト等	なし			
成果発表	10% 意見交換の際の参加態度			
受講態度他	10% 学外実地見学時をふくめた授業への参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	アジアの芸術思想関連見学を、第13・14回授業の合同授業として予定している。 実施日時は、11月12日(土)13:30~16:30、大濠公園能楽堂にて。(鑑賞券1,000円を事前徴収します) 見学時に必要な交通費・見学費は各自負担してもらう。 ミニレポートを各授業後に提出してもらう。提出期限を守らない場合は不可となる場合がある。			
教科書	なし			
指定図書	『ビギナーズ・クラシックス 万葉集』(2005年、角川書店)			
参考図書	今道友信『東洋の美学』(1986年、TBSブリタニカ)			
オフィスアワー	水曜日の昼休み~3限 (他は事前に連絡してください)	メールアドレス		

授業科目	アジア芸能史		開講時期	後期
担当教員	田村 史子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>目的：アジアには、音楽・舞踊・演劇など、実にさまざまな芸能があり、人々の生活や社会と深いかかわりを持っています。私たちは、そのような芸能を通じて、民族の間の文化の相違点や共通点などを、はっきりとしたイメージとして感じ取ることができます。この授業では、音や映像の資料をたくさん用いながら、アジアの芸能の歴史的な流れと、地域の間を、広く概観します。そして、それらが、変化し混ざり合いながら、現在の私たちの生活をどのように彩っているかを、観察したいと思います。</p> <p>概要：音楽と映像の資料を用いて、アジアの芸能の歴史を概観します。また、それぞれの文化の最も特徴的な要素を実例を用いて分かりやすく解説します。その中で、インドネシアの音楽（ガムラン）などの演奏体験もします。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アジアの文化の歴史を、大きな流れとして感じ取る。</li> <li>2. アジアの文化の多様性を、音楽や舞踊を通じて感じ取ることができる。</li> <li>3. アジアの他の文化と比べて、日本の文化の特徴を認識する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、アジア文化学科のDP④「アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる」という目的の達成に関わるアジアの多様な文化の基礎を学ぶ科目。</p> <p>関連科目としては、アジア芸術思想概論、アジア生活文化概論、アジアの建築、など。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 入門	アジアの芸能史概説1	配布資料を読み復習する		
第2回 入門	アジアの芸能史概説2	配布資料を読み復習する		
第3回	インドの音楽・舞踊の宇宙観	配布資料を読み復習する		
第4回	インドの音楽・舞踊の宇宙観	配布資料を読み復習する		
第5回	東南アジアの音楽と舞踊の特性	配布資料を読み復習する		
第6回	東南アジアの音楽と舞踊の特性	配布資料を読み復習する		
第7回	インドネシアの伝統音楽 ガムラン（体験）	配布資料を読み復習する		
第8回	インドネシアの伝統音楽 ガムラン（体験）	配布資料を読み復習する		
第9回	中国の音楽文化の歴史とアジアでの広がり	配布資料を読み復習する		
第10回	中国の音楽文化の歴史とアジアでの広がり	配布資料を読み復習する		
第11回	韓国音楽の独自性とK-Pop	配布資料を読み復習する		
第12回	韓国音楽の独自性と韓流ドラマ	配布資料を読み復習する		
第13回	日本の音楽文化のルーツと現代	配布資料を読み復習する		
第14回	日本の音楽文化のルーツと現代	配布資料を読み復習する		
第15回	総括	配布資料を読み復習する		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>集中して静かに音楽を聴いたり、映像を見たりできない学生の履修を認めない。</p> <p>学外で、芸能鑑賞を行うこともある。</p>			
教科書	随時プリントを用意			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください	メールアドレス		

授業科目	アジアジェンダー論		開講時期	後期
担当教員	成末 繁郎		単位	2
授業の目的と概要	この授業は、経済成長めざましいアジア社会をめぐり、女性・家族・ジェンダーを切り口にその特徴を理解することを目的とします。あつかう地域は、タイ、インドネシア、インド及び補足としてニューギニアや南米のインディオなど世界各地の、家族やジェンダーの、あり方と変化また女性の社会的地位における特徴と課題について検討します。また一方で、日本及び欧米の女性・家族やジェンダーについて、そのあり方の特徴と変化、女性の社会参加における課題を理解し、比較の視点から検討を加えます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アジア、特にタイ、インドネシア、インドの家族・ジェンダーの地域的な特徴と他の地域と共通する普遍的な特徴について理解し説明できる。</li> <li>2. 各社会における女性の社会的地位のあり方と課題について、多様性にかかれた観点から理解し説明できる。</li> <li>3. 1, 2について、日本および欧米におけるあり方と課題について比較の視点から理解し、説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	導入 ジェンダーを考える上で必要な概念の解説① フェミニズムの歴史と背景を解説する。	配布プリントリーディング		
第2回	ジェンダーを考える上で必要な概念の解説② 女性学の成立の背景及びその目的を解説する。	配布プリントリーディング		
第3回	ジェンダーを考える上で必要な概念の解説③ ジェンダーという概念の捉え方を歴史的な経緯を踏まえて解説する。	配布プリントリーディング		
第4回	グローバル化の中のジェンダー ① ジェンダーに関する映像資料を鑑賞することで、ジェンダーの現実を体感することを目指す	配布プリントリーディング		
第5回	ジェンダー概念と人類学① 人類学者の70年代の世界の男女の関係性の報告がジェンダー研究に及ぼした影響を検討する	配布プリントリーディング		
第6回	ジェンダー概念と人類学② 多様なジェンダー関係の具体的な事例を検討する。特にタイ・ニューギニア・南米アマゾン	配布プリントリーディング		
第7回	ジェンダー概念と人類学③ 宗教的原理主義とジェンダーとの関係を検討する。インドネシアやインド等。	配布プリントリーディング		
第8回	グローバル化の中のジェンダー ② 「美しさ」は一樣ではなく世界各地で捉え方が異なることを映像資料を通して解説する。	配布プリントリーディング		
第9回	欧米におけるジェンダー概念の革新① M ストラザーンの試み 女性人類学者によるジェンダー概念の鍛え直しのプロセスを解説する。	配布プリントリーディング		
第10回	欧米におけるジェンダー概念の革新② S. ヤナギサコの試み ジェンダーの二項対立的な枠組みを超えた新たなジェンダー概念の可能性の提案を検討する	配布プリントリーディング		
第11回	欧米におけるジェンダー概念の革新③ J. バトラーの試み 従来のジェンダー概念を拘束していた異性愛至上主義を脱構築する試みを解説する。	配布プリントリーディング		
第12回	グローバル化の中のジェンダー③ イスラームの女性の地位に関する映像資料を使い、イスラーム解釈の問題点を検討する。	配布プリントリーディング		
第13回	他者からの批判①貧困とジェンダー G. スピヴァクの献身 インドの自らを表象する言葉を持たない人に寄り添う彼女のジェンダー概念批判を検討する	配布プリントリーディング		
第14回	他者からの批判②イスラームとジェンダー ナワル・エル・サーダウィー及び岡真理の怒り 現今のイスラーム圏の混乱の原因をジェンダーの視点から検討する。	配布プリントリーディング		
第15回	アジアのジェンダー関係の現状と日本の現状との比較 最新のジェンダーの視点から取り上げたアジア諸地域と日本の問題を検討する。	配布プリントリーディング		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	95%			
レポート	5%			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	-			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	アジアの家族・ジェンダーに関心を持ち、TV新聞報道、ドキュメンタリー番組、雑誌記事、映画などに留意しておくこと。			
教科書	適宜レジュメや資料を配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	江原由美子(編) 1998 『性・暴力・ネーション フェミニズムの主張4』 劉草書房 ナワル・エル・サーダウィー 1988 『イヴの隠れた顔ーアラブ世界の女性たち』 村上真弓訳 未来社			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	アジア女性労働論		開講時期	前期
担当教員	婁 海善		単位	2
授業の目的と概要	本講義では、日本と韓国の少子化と女性雇用問題に関して、その実態を把握するとともに、女性が働きやすい制度の整備、女性の地位向上や雇用増加のための政府政策、今後の課題への理解を深めることを目的とする。 少子高齢化、政府の少子化対策、保育政策、女性雇用、仕事と家庭の両立と政府政策をキーワードにし、その実態と政策の背景、今後の課題を日本と韓国で比較しながら説明する			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日韓の少子高齢化の実態と原因の共通点と違いが比較できる。</li> <li>2. 日韓の少子化対策と保育政策の実態が把握できる。</li> <li>3. 日韓の女性雇用者の雇用実態、女性雇用政策、男女共同参画の実態が比較できる。</li> <li>4. 女性労働問題は社会・制度・経済的事情により多く影響を受けていることが理解できる。</li> <li>5. 韓国社会と日本社会の共通点と違いがもっと理解できるようになる。</li> <li>6. 今後、女性として、キャリアウーマンとしての生き方を考えることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本授業は、 ①中等教職課程授業科目（高等学校1種・公民） ②女性の生き方を考える副専攻（全学部） ③アジア分化学科のDP2のアジア諸地域の社会事情について、具多的な事例を通じて説明できる、を充足するための科目です。 関連科目は、「女性と経済（ワークライフバランスを含む）」がある。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業概要紹介、全体の概要を紹介、女性の社会進出	教科書を購入する		
第2回	人口政策の変遷	日本の人口政策を調べる		
第3回	少子高齢化実態	少子高齢化による諸問題を調べる		
第4回	少子化の原因	日韓の少子化原因の共通点と違いをまとめる		
第5回	政府の少子化対策	日本の少子化対策を調べる		
第6回	地方自治団体の少子化実態と対策	日本の自治体の出生率と少子化対策を調べる		
第7回	保育政策と保育所利用実態	日本の保育所利用実態と課題を調べる		
第8回	女性雇用者の雇用実態	女性雇用の日韓の共通点と違いを比較する		
第9回	女性雇用政策	アベ政権の女性雇用政策を調べる		
第10回	仕事と家庭の両立支援政策	日本のワークライフバランス実現を調べる		
第11回	男女格差と政府の男女平等実現措置	日本政府の男女平等実現のための取組みを調べる		
第12回	韓国と日本の少子高齢化と女性雇用における特徴	日韓の共通点と違いをまとめる		
第13回	韓国女性の結婚と仕事	日本と韓国女性の仕事に関する考えを比較する。		
第14回	韓国女性の再就業チャレンジ	自分自身にとって、結婚、出産、仕事の意味を考える		
第15回	日本と韓国の課題、ヨーロッパ先進国との比較	出席状況を確認する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	0%			
小テスト等	100%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席が5回を超えると評価しない（就職活動、病気、その他の理由による欠席は証明書提出要）。 小テストには教科書持ち込み可能			
教科書	婁 海善著『韓国の少子化と女性雇用』明石書店、2015年			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月-木曜日の昼休み時間	メールアドレス		

授業科目	アジア実用英語		開講時期	前期
担当教員	喜多村 百合		単位	2
授業の目的と概要	<p>アジア諸地域のめざましい経済発展とグローバル化は、ダイレクトな地域間のコミュニケーションを飛躍的に増大させている。その際使用される言語は、グローバル言語としての英語であることが多い。この英語は、地域言語の影響を受け、発音や表現に固有性を持つ。このセッションでは、こういったアジア地域で話される英語の特徴を知り、かつアジアの一員である私たち日本人の英語を再考することで、よりよき相互コミュニケーションを実現することを目的とする。授業をより実践的にするため、終盤に短期留学生との交流セッションを持ち、その準備も行う。また、国際交流センター開設の「International Cafe」への参加も奨励する。長年学んでも実用に耐えない学校英語から脱皮し、よりスムーズなコミュニケーション能力獲得の突破口を開くのがねらいである。</p>			
到達目標	<p>①アジア地域で話される多様な英語について、その特徴を述べることができる。  ②日本の学校英語を相対化し、実用的な英語への転換をはかる。  ③コミュニケーション・ツールとしての実践英語で、初歩的な自己表現と日本紹介、ディスカッションができる。？</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 導入：講義のねらいと方法（自己紹介）			授業時指示	
第2回 導入：講義のねらいと方法（ディスカッション）			授業時指示	
第3回 アジアの英語① 日本:国際的に評価される(!?)日本人の英語			課題文作成	
第4回 アジアの英語② インド（北インド、南インド）、バングラデシュ・スリランカ			課題文作成	
第5回 アジアの英語③ マレーシア・シンガポール			課題文作成	
第6回 アジアの英語④ タイ・フィリピン			International Cafeに参加しレポート提出	
第7回 アジアの英語⑤ 中国・韓国			課題文作成	
第8回 アジアの英語⑥ グロービッシュ			課題文作成	
第9回 自己表現①自己紹介基本バージョン			課題文作成	
第10回 自己表現②自己紹介発展バージョン			課題文作成	
第11回 日本紹介③日本文化・社会の特徴			課題文作成	
第12回 日本紹介④地域文化・社会の特徴			課題文作成	
第13回 ディスカッション Cool Japan, Cool Fukuoka			短期留学生との交流セッション用質問紙の完成	
第14回 短期留学生との交流セッション			交流セッションのレポート作成	
第15回 スピーチ発表・まとめ			レポート作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	定期レポート提出			
レポート	50% 課題文・期末レポート			
小テスト等	-			
成果発表	20% スピーチ制作・発表			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業は基本的に英語で行う。  国際交流センター「International Cafe」など、英語を話す国際交流の機会に数回参加すること。</p>			
教科書	適宜プリントを配布			
指定図書	<p>ジャン・ポール・ネリエール『世界のグロービッシュ』 河原俊明『アジア・オセアニアの英語』  本名信行『アジア英語辞典』『英語はアジアを結ぶ』</p>			
参考図書	祖慶壽子『アジアの視点で英語を考える』			
オフィスワー	火～木の午後	メールアドレス		

授業科目	アジア生活文化概論		開講時期	前期
担当教員	田村 史子		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：この授業では、古代からの大きな文化の流れに注目して、アジアに住む人たちが、なぜ、このような生活をするようになったのか、また、考え方をするようになったか、などというような問題について、考えていくための基本的な知識を学びます。また、アジアの文化を知る上で欠かすことのできない基本的な諸概念についても学習します。</p> <p>概要：具体的な事例を多く用いながら、アジアの人々の生活の基盤にある文化のシステムを概説します。また、それを形成した要素として、自然環境、生活環境、文化環境、また、他地域との歴史的な関係なども考えます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アジアとは何か、文化とは何か、という問いに答えを探す。</li> <li>2. アジアの環境とそこに住む人々の生活との関係について知る。</li> <li>3. 生活の中から生まれたさまざまな文化的活動の基本的な仕組みを知る。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、アジア文化学科のDP④「アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる」という目的の達成に関わるアジアの多様な文化の基礎を学ぶ科目。</p> <p>関連科目としては、アジア芸術思想概論、アジア芸能史、アジアの建築、など。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 入門 (1) アジアとは何か		地図を確認し復習する		
第2回 入門 (2) 文化とは何か①		配布資料を読み復習する		
第3回 入門 (2) 文化とは何か②		配布資料を読み復習する		
第4回 入門 (3) アジアの自然環境と文化		配布資料を読み復習する		
第5回 概論 (1) 生活文化の環境 ①食の文化-1		配布資料を読み復習する		
第6回 概論 (1) 生活文化の環境 ①食の文化-2		配布資料を読み復習する		
第7回 概論 (1) 生活文化の環境 ②住の文化-1		配布資料を読み復習する		
第8回 概論 (1) 生活文化の環境 ②住の文化-2		配布資料を読み復習する		
第9回 概論 (1) 生活文化の環境 ③衣の文化-1		配布資料を読み復習する		
第10回 概論 (1) 生活文化の環境 ③衣の文化-2		配布資料を読み復習する		
第11回 概論 (2) 芸術文化の環境 ①音楽と舞踊		配布資料を読み復習する		
第12回 概論 (2) 芸術文化の環境 ②美と造形		配布資料を読み復習する		
第13回 概論 (2) 芸術文化の環境 ③九州国立博物館見学→授業時間外に実施する		レポート作成		
第14回 概論 (2) 芸術文化の環境 ④九州国立博物館見学→授業時間外に実施する		レポート作成		
第15回 総括		自分なりに総括する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60%			
小テスト等	%			
成果発表	%			
受講態度他	40%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的な受講を求めます。</li> <li>2. 学期中に2回、学外の博物館などを見学します。授業時間外に行います。その時期は移動する可能性がある。</li> </ol>			
教科書	随時プリントを用意			
指定図書	随時プリントを用意			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください	メールアドレス		

授業科目	アジア政治論		開講時期	後期
担当教員	横山 豪志		単位	2
授業の目的と概要	<p>現代のアジア諸国の政治に対する知識を見につけ、理解を深めていくことがこの講義の目的です。理解を容易にするために、1. 軍政を含む権威主義体制と民主化、2. 経済発展、という2つの軸を設定し、各国の政治に対して認識を深めていきます。いくつかの国の事例を比較することで、アジア諸国の共通課題と相違点について、包括的な理解を目指します。</p> <p>現在のアジア諸国の政治には、権威主義から民主主義へ、国民国家建設からグローバル化の時代へ、という大きな流れがありますが、その様相は各国によって異なりますので、地域ごとに具体的に学びます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アジア各国の権威主義体制と民主化について説明できる。</li> <li>2. アジア各国の政治的ダイナミズムを具体的に説明できる。</li> <li>3. アジア各国の抱える今日的課題を具体的に説明できる。</li> <li>4. アジア政治に関する文献を、自ら集め分析することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この講義は、アジア文化学科のDP2「東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの各地域の社会事情について、具体的な事例を通じて説明できる。」の達成に関わる科目です。</p> <p>「現代韓国事情」や、「現代東南アジア事情」などの履修を通じて学ぶアジア各地域の現状や、また「政治学概論Ⅰ」、「政治学概論Ⅱ」の履修で身に付ける政治に関する基礎知識を踏まえて、この講義を履修すると、より理解が深まります。</p> <p>アジア諸国の経済発展については「アジア経済論」を併せて受講すると、経済学の論理から理解することができます。</p> <p>またアジア各国の政治に収まらない国家間の関係については、「国際政治学」を履修することで理解を深めることができます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 オリエンテーション		第2回用レジュメ、資料に基づき予習		
第2回 インドネシアの政治(1)多様性の中の統一		第3回用レジュメ、資料、教科書第1章に基づき予習		
第3回 インドネシアの政治(2)民主化後の課題		第4回用レジュメ、資料、教科書第1章に基づき予習		
第4回 マレーシアの政治(1)「民族の政治」		第5回用レジュメ、資料、教科書第2章に基づき予習		
第5回 マレーシアの政治(2)今日の課題		第6回用レジュメ、資料、教科書第2章に基づき予習		
第6回 フィリピン政治(1)エリート支配の構図		第7回用レジュメ、資料、教科書第4章に基づき予習		
第7回 フィリピン政治(2)民衆の台頭?		第8回用レジュメ、資料、教科書第4章に基づき予習		
第8回 タイの政治(1)王権と軍		第9回用レジュメ、資料、教科書第9章に基づき予習		
第9回 タイの政治(2)民主主義という課題		第10回用レジュメ、資料、教科書第9章に基づき予習		
第10回 中国の政治(1)社会主義化を目指して		第11回用レジュメ、資料に基づき予習		
第11回 中国の政治(2)改革開放路線		第12回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備		
第12回 中国の政治(3)今日の課題		第13回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備		
第13回 国際関係から見る北朝鮮		第14回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備		
第14回 韓国の政治		第15回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備		
第15回 アジア諸国の現在		期末レポート準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% 期末レポート40% 毎回提出の「講義の概要」(各回5段階評価)50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。			
教科書	清水一史、田村慶子、横山豪志(編)『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房2011年			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	火14:50~14:40、水12:00~13:00、16:30~17:30	メールアドレス		



授業科目	アジアと仏教		開講時期	後期
担当教員	小林 久泰		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は、インドを出発点とし、仏教を通じてアジア全体に広がった輪廻思想の成り立ちやそのアジア的な展開を理解することを目的とする。そしてその理解を通じて、現代日本を含めたアジアの諸地域における死生観についての知識を深めることを目的とする。</p> <p>人は死後どこに行くのか。あの世はどこに存在するのか。この授業では、インド、中国、日本における経典、文学作品、哲学論書に見られる「他界」の概念をそれぞれ検討し、アジア人が抱く死生観について知識を深める。特に「地獄」および「極楽」という概念に着目し、われわれの暮らす日本を含め、アジアでどのような「あの世」が考えられてきたのか、それがどのような思想文化を背景にしているのかということを考察していく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インドにおける輪廻思想の成立過程を説明することができる。</li> <li>2. インド、中国、日本における「他界」の概念の特徴をそれぞれ説明することができる。</li> <li>3. 現代日本人が持つ死生観の文化的重層性について、具体的に説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主にアジア文化学科の DP4「アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる。」の達成にかかわる科目です。「体験－伝統文化」「仏教美術史」などと関連する科目です。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	イントロダクション：世界の他界観	課題①レポート「インドにおける輪廻思想」		
第 2回	『ヴェーダ』の世界観：最初の死者ヤマ	課題①レポート「インドにおける輪廻思想」		
第 3回	『ウパニシャッド』の世界観：五火二道説	課題①レポート「インドにおける輪廻思想」		
第 4回	『ブラーフマナ』の世界観：地獄の誕生	課題①レポート「インドにおける輪廻思想」		
第 5回	仏教の世界観：釈尊の立場	課題①レポート「インドにおける輪廻思想」		
第 6回	上座部仏教の世界観：六道輪廻の世界	課題②レポート「仏教における他界観」		
第 7回	大乘仏教の世界観（1）：業報思想とその超越	課題②レポート「仏教における他界観」		
第 8回	大乘仏教の世界観（2）：菩薩の思想と仏陀観の変遷	課題②レポート「仏教における他界観」		
第 9回	浄土教の世界観：極楽浄土	課題②レポート「仏教における他界観」		
第10回	道教の他界観：泰山信仰と十王思想	課題②レポート「仏教における他界観」		
第11回	儒教の死生観：祖先崇拝	全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート		
第12回	古代日本の他界観：水平構造の世界	全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート		
第13回	『往生要集』の他界観：厭離穢土、欣求浄土	全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート		
第14回	近世の他界観：怖くない地獄とえんま様	全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート		
第15回	まとめ：日本人の死生観	全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70％ 課題レポート2回（20％×2回）・学期末レポート（30％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 質問等、講義への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語など、他の受講者に迷惑のかかる行為は慎んでください。			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜 3 講時	メールアドレス		

授業科目	アジアの儀礼と祭り		開講時期	前期
担当教員	田村 史子		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：人々はなぜ儀礼や祭りを執り行ってきたのか。そのメカニズムを、音楽・舞踊、染織、演劇、文学などを包括する文化とのかかわりの中で、説いてゆきます。その過程で、人が豊かに生きていくことの意味を、深く考えることになるでしょう。さらに、目を広く転じて、全アジア的な視野で文化を見る、という試みにも挑戦します。</p> <p>概要：アジアの儀礼や祭りについて基本的な概念や意味について学びます。また、映像記録を用いて多くの実例を比較し、広い視野と現代的視点で、伝統のシステムを見ることを学びます。さらに、現地体験と、自分の住む地域の儀礼や祭りを見ることを通じて実感を伴った文化理解を導きます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本を含めたアジアの、伝統的な社会のメカニズムを儀礼というものを通して学ぶ。</li> <li>2. 人間関係のメカニズムを、儀礼を通して見る。</li> <li>3. 現代を生き延びる知恵を探す。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連科目：アジア文化特殊講義、アジアの染と織			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 入門	アジアのさまざまな儀礼や祭りの紹介	復習と予習		
第2回 入門	アジアのさまざまな儀礼や祭りの紹介	復習と予習		
第3回 儀礼の分類	(1) 儀礼の意味論	復習と予習		
第4回 儀礼の分類	(2) 通過儀礼 ①	復習と予習		
第5回 儀礼の分類	(3) 通過儀礼②	復習と予習		
第6回 儀礼の分類	(4) 通過儀礼③	復習と予習		
第7回 儀礼の分類	(5) 宗教儀礼	復習と予習		
第8回 現地体験	(1) ー① 場所未定	復習と予習		
第9回 現地体験	(1) ー② 場所未定	復習と予習		
第10回 儀礼の体系	(1) 儀礼や祭りの相互関係について	復習と予習		
第11回 儀礼の体系	(2) 地域間の関係について	復習と予習		
第12回 現地体験	(2) 太宰府天満宮夏越の祓え (6月30日)	復習と予習		
第13回 儀礼の体系	(3) 芸能との関係	復習と予習		
第14回 現代の儀礼や祭りとは何か		復習と予習		
第15回 総括		復習と予習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60%自分の地域の儀礼や祭りについてのレポートを課します %			
小テスト等	%			
成果発表	%			
受講態度他	40%現地体験への積極的参加を求めます%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業時間外に、大学の近郊の儀礼や祭りに参加します。その折、交通費・参加費などの費用は自己負担となります			
教科書	随時プリントを用意			
指定図書	田村史子他『music gallery 祭りと芸能の島バリ』音楽之友社			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください	メールアドレス		

授業科目	アジアの建築		開講時期	前期
担当教員	大津 忠彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：建築には、とりわけその構造的特性に、地域ごとの自然とこれに働きかけてきた人間の営み、そしてその営みの積み重ねである歴史の総体を見出すことができます。日本を含む東アジアとともに、遠隔の地西アジアの風土に根ざした伝統建築物を概観し、それぞれの特性を異文化の所産として認識するだけでなく、そこに地域、時代を超えた相似性をあらためて見直します。そしてアジア建築の歴史的多様性を理解します。</p> <p>概要：建築の工学的要素や、建築史、建築美、建築にまつわる思想等を、民家・寺院・神社ほかの記念建造物や遺跡・遺物として残る文化遺産を通して学びます。日本の伝統的木造建築物や西アジアの泥・石・煉瓦建造物の実例を、パワーポイント画像やビデオ映像資料で観ることによりアジアの建築の多様性を再確認します。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本伝統家屋建築で使われる「尺」、「畳」、「間」、「坪」の意味を正しく解釈し、たとえば不動産情報誌・チラシ記事事項理解に応用することができる。</li> <li>・日本建築文化に聖徳太子を位置付けて説明することができる。</li> <li>・煉瓦（れんが）建築の歴史と特性を説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、アジア文化学科のDP④「アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる」という目的の達成に関わる科目です。この科目と共に、「西アジア入門」を受講すると相互の理解が深まります。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	「アジアの建築」より、「アジア」、「建築」の意味再考	課題①：住まいの平面図を試作する		
第2回	アジアの建築概観：建材や形式にみる地域性と伝統	第4回までに課題①を提出		
第3回	日本の「すまい」再発見（1）：畳と「尺モジュール」	第4回までに課題①を提出		
第4回	日本の「すまい」再発見（2）：屋根 ― 形と建材の多様性 ―	第4回までに課題①を提出		
第5回	法隆寺：世界最古の木造建築物と建築史家伊東忠太	課題②：身近の寺社建築の観察レポート		
第6回	聖徳太子と「太子講」	第8回までに課題②を提出		
第7回	日本建築史より：「寝殿造」、「書院造」	第8回までに課題②を提出		
第8回	建築と環境（1）：湿潤地域の日本建築文化	第8回までに課題②を提出		
第9回	建築と環境（2）：乾燥地域の西アジア建築文化	課題③：「世界遺産」よりアジアの煉瓦建築物レポート		
第10回	煉瓦（れんが）とアジア建築（1）：煉瓦（れんが）発現と展開	第11回までに課題③を提出		
第11回	煉瓦（れんが）とアジア建築（2）：「バベルの塔」は実在したか？	第11回までに課題③を提出		
第12回	西アジア建築の装飾美：スタッコとタイル	課題④：建築装飾美の具体例レポート		
第13回	建築にまつわる思想（1）：東アジアの「風水」	第14回までに課題④を提出		
第14回	建築にまつわる思想（2）：西アジアの「神話」	第14回までに課題④を提出		
第15回	アジアの建築総括	なし		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50% ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50% ②受講態度（含、時々的小テスト成果や提出課題成果）を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・上記「成績評価に関する情報」欄の、①と②の判定組合せが「秀&amp;秀」・「秀&amp;優」を秀、「秀&amp;良」・「優&amp;優」を優、「秀&amp;可」・「優&amp;良」・「優&amp;可」・「良&amp;良」を良、「良&amp;可」・「可&amp;可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。受講態度の良否は成績評価に大きく影響します。講義の進行に集中し自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス		

授業科目	アジアの世界遺産		開講時期	後期
担当教員	小林 知美		単 位	2
授業の目的と概要	<p>テーマ：「世界遺産」の現状と課題</p> <p>この授業では、世界遺産の考え方、内容、成立背景や問題点を知ること、そして具体的に日本を中心としたアジアの遺産の事例についてその概要を理解することを目的とします。また、地元太宰府の遺産の実地見学をとおして、地域の遺産を知り守る意識をもつことが、世界遺産の思想の本当の理解へとつながることを学びとります。</p> <p>まず参考図書『世界遺産学を学ぶ人のために』（奈良大学文学部世界遺産を考える会編、世界思想社、2000年初版）の第1章「世界遺産をどう学ぶか」を読み、学ぶ意義を確かめる。次に「負の遺産」、自然遺産、文化遺産の3区分により、日本を中心としたアジアの遺産（世界遺産に登録されないものも含む）について文献と映像を併用して知識を深める。また実地見学を通して主体的に地元の遺産を学ぶ姿勢を身につける。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界遺産のなかから具体的な例をあげて概要を説明することができる。（中間レポート）</li> <li>地域の文化遺産について具体的な例をあげて説明できる。（中間レポート）</li> <li>世界遺産の定義とその内容と問題点を説明し、今後の世界遺産のあり方について自分なりの意見をもつ。（期末レポート）</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ul style="list-style-type: none"> <li>アジア文化学科のDP④「アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる」の達成に関わる科目です。</li> <li>関連する主な科目は下記の通り。 「アジアの建築」「アジアと仏教」（1年次開講） 「体験－ミュージアムで学ぶアジア」「体験－伝統文化」「比較文化論」「仏教美術史」（2年次開講）</li> </ul>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション：『世界遺産を学ぶ人のために』を読む	世界遺産についての参考資料探し		
第2回	世界遺産をどう学ぶか：ユネスコの世界遺産条約	地元遺産と世界遺産の比較（地元遺産レポート）執筆準備		
第3回	世界遺産をどう学ぶか②：日本の世界遺産	地元遺産と世界遺産の比較（地元遺産レポート）執筆準備		
第4回	HIROSHIMAのモニュメント～厳島神社と原爆ドーム～	地元遺産と世界遺産の比較（地元遺産レポート）執筆準備		
第5回	「負の遺産」②：アウシュビッツ強制収容所	地元遺産と世界遺産の比較（地元遺産レポート）執筆準備		
第6回	「負の遺産」③：	地元遺産と世界遺産の比較（地元遺産レポート）執筆準備		
第7回	自然遺産①：知床と水俣	「これからの世界遺産」（期末レポート）の執筆準備		
第8回	自然遺産②：白神山と紀伊半島	「これからの世界遺産」（期末レポート）の執筆準備		
第9回	自然遺産③：屋久島	「これからの世界遺産」（期末レポート）の執筆準備		
第10回	文化遺産①：法隆寺	「これからの世界遺産」（期末レポート）の執筆準備		
第11回	文化遺産②：石窟庵と仏国寺	「これからの世界遺産」（期末レポート）の執筆準備		
第12回	文化遺産③：敦煌莫高窟	「これからの世界遺産」（期末レポート）の執筆準備		
第13回	まとめ：「世界遺産」の現状と課題	「これからの世界遺産」（期末レポート）の執筆準備		
第14回・15回合同授業	地元遺産関連見学 ※10月15日（土）太宰府市文化ふれあい館「大宰府歴史展」見学&講演会「歴史的環境の保存～市民の	これまでの復習		
第14回・15回合同授業	地元遺産関連見学 ※10月15日（土）太宰府市文化ふれあい館「大宰府歴史展」見学&講演会「歴史的環境の保存～市民の	見学レポート執筆		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	80％			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>地元遺産に関わる見学を全員参加で行います。見学は時間外授業・学外の授業の形式をとり、交通費・観覧料は各自の負担とします。</p> <p>10月15日（土）太宰府市文化ふれあい館「大宰府歴史展」見学&amp;講演会「歴史的環境の保存～市民の力」聴講 （太宰府市国分4丁目9番1号、電話092-928-0800）</p>			
教科書	なし			
指定図書	西岡常一『木のいのち木のこころ 天』（草思社、1996年） 島本慈子『戦争で死ぬ、ということ』（岩波書店、2006年）			
参考図書	『世界遺産学を学ぶ人のために』（奈良大学文学部世界遺産を考える会編、世界思想社、2000年初版）ほか。 ※必要部分をコピーして配布します。			
オフィスアワー	水曜日の昼休み～3限（他は事前に連絡してください）	メールアドレス		

授業科目	アジア文化人類学		開講時期	前期
担当教員	成末 繁郎		単位	2
授業の目的と概要	異文化を理解する学びである「文化人類学」。その最大の特徴は、フィールドワークを通してじかに「当事者（内部者）」たちの思考・生活様式、社会構造について知識を得る方法にあります。この授業では、「文化」とは何か、また「アジア」を対象としたときに見えてくる文化の特徴は何かを、人類学者のフィールドワークの記述を通して理解することをねらいとします。今回は「親族と結婚」という文化人類学が最も得意としてきたテーマを、相対主義的な解釈と普遍主義的な解釈との対立を軸に基本的に定評ある民族誌に依拠しながら解説していきます。したがって20世紀前半の古い資料が中心になりますが、今現在の状況については、多様な資料を活用して補足する予定にしています。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「文化」の概念について理解し説明できる。</li> <li>「文化人類学」という学びの構造が理解できる。</li> <li>親族の多様性を事例を踏まえて理解し説明できる。</li> <li>結婚の多様性と同時にアジアの文化的特性を理解し、課題を説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	「文化」という概念の定義 文化の概念の代表的な定義を複数取り上げ人類学での妥当な定義とは何かを考察する。	配布プリントリーディング		
第2回	文化相対主義の問題点 文化は価値的に認識論的にも相対的なシステムであると前提した場合の問題点を考察する。	配布プリントリーディング		
第3回	象徴人類学から見た文化の概念 徹底的な相対主義の立場から更に文化という概念を定義するとどうなるかを解説する。	配布プリントリーディング		
第4回	グローバル化を考える パート1 欧米のポップカルチャーの一部が全世界にどれくらい浸透しているかを体感する。	配布プリントリーディング		
第5回	親族の解釈学1 親族分類の多様性 概念整理 親族分類の多様性に関する問題提起と分析の道具である概念を整理する。	配布プリントリーディング		
第6回	親族の解釈学2 普遍的な解釈 親族の代数学 親族システムの構築原理に関する普遍的な解釈を説明する。	配布プリントリーディング		
第7回	親族の解釈学3 相対主義的な解釈 同じ親族システムが相対主義的な解釈と普遍主義的な解釈で別の意味を持つことを説明する。	配布プリントリーディング		
第8回	グローバル化を考える パート2 日本のポップカルチャーが他のアジアの国々にどのように受け入れられているかを検討する	配布プリントリーディング		
第9回	結婚の多様性と結婚の「本質」1 調整婚・一夫多妻制・一妻多夫制 結婚という制度の多様性をアジア各地の民族誌的資料を使って解説する。	配布プリントリーディング		
第10回	結婚の多様性と結婚の「本質」2 ハイパーガミーとハイポガミー 日本・タイ・ミャンマーの古典的な事例を検討する。	配布プリントリーディング		
第11回	インセスト・タブーの多様性 全ての人間の文化は近親相姦を禁止しているが禁止範囲が地域により変わることを解説する	配布プリントリーディング		
第12回	グローバル化を考える パート3 インドネシアや中東のイスラム圏のポップカルチャーを紹介する。	配布プリントリーディング		
第13回	インセスト・タブーの存在理由 なぜ全ての人間の文化にはインセスト・タブーがあるのかを人類学の観点から説明する。	配布プリントリーディング		
第14回	結婚の正体としての「交換」 レヴィ・ストロースの外婚制の理論を解説し、人類学的な観点から「結婚」を考察する。	配布プリントリーディング		
第15回	結婚の正体としての「同性愛嫌悪」 性的マイノリティの哲学者たちの観点から「結婚」を検討する。	配布プリントリーディング		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	95%			
レポート	5%			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義が中心となるので、なるべく私語をしないで静聴されることを望みますが、質問や反論は歓迎します。			
教科書	適宜資料やレジュメを配布します。			
指定図書	特になし。			
参考図書	Roy Wagner 1981 The Invention of Culture The University of Chicago Press.			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	アメリカ文学史		開講時期	前期
担当教員	大城 房美		単位	2
授業の目的と概要	<p>様々な民族や歴史に基づく文化の一部として生まれた「アメリカ」文学を、それを形成していった思想、政治、社会背景をふまえて幅広く考察することを目的とする。アメリカの植民地時代から現代までの文学の流れを概観し、複数の文化が共存する社会としての「アメリカ」の問題や時代背景が「書く」という行為にいかにかに反映されているのかを考えてゆく。</p> <p>学生の発表を中心として進める。各講義で4～5名の作家を扱う。</p> <p>発表者は次の要領でレジュメを作成する</p> <p>1. 作家の生涯 2. 代表作(例文紹介をつける) 3. 重要性 4. 感想 5. 参考資料</p>			
到達目標	「アメリカ」の代表的な作家や作品に関する知識を深め、その歴史的な流れを概観できるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英語学科DP3「英語を媒介とする言語・文化・文学について概要を説明できる」に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Introduction		講義の際に指示します。		
第2回 植民地文学、ピューリタン文学、リパブリカニズム		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第3回 ネイティブ・アメリカンの文学、フロンティア文学		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第4回 超越主義とアメリカン・ルネサンス		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第5回 19世紀アメリカ詩		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第6回 リアリズムと女性作家の自己探求、		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第7回 自然主義		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第8回 ハーレム・ルネサンス/ジャズ・エイジ/ロストジェネレーション		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第9回 南部文学/危機の文学		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第10回 ビート・ジェネレーション		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第11回 演劇		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第12回 サザン・ルネサンス		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第13回 アメリカニズムの拡張と多文化主義 1		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第14回 アメリカニズムの拡張と多文化主義 2		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。		
第15回 まとめ		講義の際に指示します。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60% 講義の1/3を超える欠席をした場合はFinal Examの受験資格無し			
レポート	受講態度に含む			
小テスト等	なし			
成果発表	受講態度に含む			
受講態度他	40% 受講態度、授業参加(発表・宿題など)を含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*講義中私語・居眠りをする学生は減点、もしくは欠席扱い(退出)。</p> <p>*各発表は、テキストをよく読んで、自分の言葉でまとめること。</p> <p>*発表のレジュメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、出席点は与えない。</p> <p>*作家や作品についての発表を担当する際、参考資料は複数あげること(例えば、Wiki pediaのみに頼った発表や報告は不可)。</p>			
教科書	21世紀から見るアメリカ文学史—アメリカニズムの変容(英宝社)			
指定図書	The Norton Anthology of American Literature, 7th ed. (Norton 2007)、A Companion to American Literature and Culture (Blackwell 2010)、『アメリカ文学入門』(三修社)			
参考図書	A New Literary History of America (Harvard UP)、The Complete Idiot's Guide to American Literature (Alpha)、『アメリカ文学史 コロニアルからポストコロニアルまで』、『楽しく読めるアメリカ文学』、『はじめて学ぶアメリカ文学史』			
オフィスアワー	講義の前後(予約を入れること)	メールアドレス		

授業科目	医学概論 I	開講時期	前期
担当教員	百瀬 義人	単位	2
授業の目的と概要	福祉専門職に必要な医学の基礎的知識を身につけ、医療における基本的考え方を理解すると同時に、社会福祉実践に求められる豊かな価値観が体得できることを目的とする。この目的を達成するために、福祉分野において必要とされる医学的知識と医療における考え方を中心に、福祉専門職としての実践に必要なレベルを常に意識する。入学初年次より福祉の対象となる様々な障害の医学的側面を学ぶことにより福祉専門職志向をしっかりと高めていく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一般臨床医学の概要について説明することができる。</li> <li>2. ヒトの成長・発達・老化について概略を説明することができる。</li> <li>3. 人体各臓器の構造と機能について説明することができる。</li> <li>4. 現代における重要な疾病について説明することができる。</li> <li>5. 援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業が目的としているDP: 人間科学部DP「③人間・社会支援を担う専門的能力・技術を身につけ、求められる場において実践・活用することができる。」を充足するための科目であり、社会福祉コース専攻DP「③援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる。」ことを学ぶための基盤の一つである。 関連する科目: 社会福祉原論、ソーシャルワーク総論。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	人の成長・発達 (1) 身体の成長・発達	予習pp. 2-7 配布資料を通読すること。	
第2回	人の成長・発達 (2) 精神の成長・発達	予習pp. 8-13 配布資料を通読すること。	
第3回	人の成長・発達 (3) 老化	予習pp. 14-24 配布資料を通読すること。	
第4回	身体構造と心身の機能 (1) 身体部位の名称と各器官の構造	予習pp. 25-52 配布資料を通読すること。	
第5回	身体構造と心身の機能 (2) 身体構造とその機能	予習pp. 25-52 配布資料を通読すること。	
第6回	身体構造と心身の機能 (3) こころの仕組みとその機能 (欲求、適応機制、ストレス)	予習pp. 25-52 配布資料を通読すること。	
第7回	各器官の機能と基本的な生活行動 (1) 身支度・移動・食事	予習pp. 25-52, 117-121 配布資料を通読すること。	
第8回	各器官の機能と基本的な生活行動 (2) 入浴・清潔・排泄・睡眠	予習pp. 25-52, 117-121 配布資料を通読すること。	
第9回	各器官の機能と基本的な生活行動 (3) 終末期・緊急時	予習pp. 25-52, 122-128 配布資料を通読すること。	
第10回	疾病の概要 (1) 生活習慣病と未病 悪性腫瘍 感染症	予習pp. 53-60, 103-106, 222-224 配布資料を通読すること。	
第11回	疾病の概要 (2) 脳血管疾患 心疾患 高血圧、糖尿病	予習pp. 61-75 配布資料を通読すること。	
第12回	疾病の概要 (3) 糖尿病と内分泌疾患 呼吸器疾患 消化器疾患	予習pp. 76-83 配布資料を通読すること。	
第13回	疾病の概要 (4) 血液疾患と膠原病 腎臓疾患 泌尿器疾患	予習pp. 84-94 配布資料を通読すること。	
第14回	疾病の概要 (5) 骨・関節疾患 目・耳の疾患	予習pp. 95-102 配布資料を通読すること。	
第15回	疾病の概要 (6) 神経疾患と難病・先天性疾患	予習pp. 107-116 配布資料を通読すること。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	50% (15回の講義内容に関する理解度について筆記試験を行い、50点満点とする)		
レポート	50% (授業時に提出するレポート内容に応じて50-0点を配点する)		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習箇所を明記している回は、授業前に予習をしてください。		
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉養成講座1 人体の構造と機能及び疾病 第3版』(中央法規)		
指定図書	なし		
参考図書	随時、図書や資料を紹介		
オフィスワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	医学概論Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	百瀬 義人		単位	2
授業の目的と概要	医学概論Ⅰとあわせて、福祉専門職に必要なとなる医学の基礎的知識、医療における基本的考え方を理解し、認知症や障害が日常生活に及ぼす影響とそれに対する支援のあり方について考察しながら、論理的思考力、創造的思考力、問題解決力のほか、社会の多様な問題を考えアプローチできる力を養うことを目的とする。この目的を達成するために、福祉分野において必要とされる医学的知識と医療における考え方を中心に、福祉専門職としての実践に必要なレベルを常に意識する。入学初年次より福祉の対象となる様々な障害の医学的側面を学ぶことにより福祉専門職志向をしっかりと高めていく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一般臨床医学の概要について説明することができる。</li> <li>2. 先天性疾患、加齢に伴う疾患の概要について説明することができる。</li> <li>3. 障害の原因となる諸疾患の医学的側面について説明することができる。</li> <li>4. リハビリテーションと生活機能分類について説明することができる。</li> <li>5. 認知症や障害が日常生活に及ぼす影響と、本人や家族に対する支援やケアのあり方について説明することができる。</li> <li>6. 健康に関する国の施策について説明することができる。</li> <li>7. 援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業が目的としているDP: 人間科学部DP「③人間・社会支援を担う専門的能力・技術を身につけ、求められる場において実践・活用することができる。」を充足するための科目であり、社会福祉コース専攻DP「③. 援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる。」ことを学ぶための基盤の一つである。 関連する科目: 社会福祉原論、ソーシャルワーク総論。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	発達と老化の理解 (1) 人間の成長と発達	予習pp. 14-24 配布資料を通読すること。		
第2回	発達と老化の理解 (2) 高齢期の理解と日常生活	予習pp. 14-24 配布資料を通読すること。		
第3回	発達と老化の理解 (3) 高齢者と健康 高齢者に多い疾患	予習pp. 117-128 配布資料を通読すること。		
第4回	欲求と適応機制 (高齢者、障害者のこころの理解)	予習pp. 117-128 配布資料を通読すること。		
第5回	認知症の理解 (1) 認知症の基礎的理解	予習pp. 156-161 配布資料を通読すること。		
第6回	認知症の理解 (2) 認知症に伴う心身の変化と日常生活	予習pp. 156-161 配布資料を通読すること。		
第7回	認知症の理解 (3) 認知症に対する支援とケアのあり方	予習pp. 156-161 配布資料を通読すること。		
第8回	障害の理解 (1) 視覚障害 聴覚障害 平衡機能障害	予習pp. 129-140 配布資料を通読すること。		
第9回	障害の理解 (2) 肢体不自由 内部障害	予習pp. 141-148 配布資料を通読すること。		
第10回	障害の理解 (3) 知的障害 発達障害	予習pp. 149-155 配布資料を通読すること。		
第11回	障害の理解 (4) 高次脳機能障害 精神障害	予習pp. 162-172 配布資料を通読すること。		
第12回	障害の理解 (5) 障害に対する支援とケアのあり方	予習pp. 129-172, 236-238 配布資料を通読すること。		
第13回	リハビリテーションの概要 (1) 定義 障害評価 段階	予習pp. 173-186 配布資料を通読すること。		
第14回	リハビリテーションの概要 (2) 専門職 包括リハ ICF	予習pp. 187-192 配布資料を通読すること。		
第15回	リハビリテーションの概要 (3) ICF 健康の概念とその捉え方	予習pp. 193-203 配布資料を通読すること。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50% (15回の講義内容に関する理解度について筆記試験を行い、50点満点とする)			
レポート	50% (授業時に提出するレポート内容に応じて50-0点を配点する)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習箇所を明記している回は、授業前に予習をしてください。			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座1 人体の構造と機能及び疾病 第3版』 (中央法規)			
指定図書	なし			
参考図書	随時、図書や資料を紹介			
オフィスワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		



授業科目	イギリス文学史	開講時期	前期
担当教員	宮原 牧子	単位	2
授業の目的と概要	イギリスの「文学」の歴史を学びます。 「文学」という堅苦しい言葉に拒否反応を示す人もいますでしょう。 ですが、そんな必要はありません。 詩や劇や小説が「学問」であると考えるのは学者や研究者たちだけで十分です。 小難しいことはみな学者や研究者に任せて、詩や劇や小説本来の楽しさを満喫しましょう。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イギリスの詩、劇、小説の歴史についての知識を深めること</li> <li>・文学を通して英語が生まれた国の伝統や文化を学ぶこと</li> <li>・文学作品に触れ、何を感じ、何を考えるか、自分の言葉で発信することができるようになること</li> </ul> <p>テキストに沿って様々な文学作品を紹介します。 毎回プリントを配布し、テキストの内容を補います。(A4のファイルを用意してください)</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、英語学科のDP3「英語を媒介とする言語・文化・文学について概要を説明できる」の達成に関わる科目です。「英語文学I」や「英語文学BII」の理解を深め、また3年生科目の「英語文学研究」に必要な基礎知識を習得します。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	イントロダクション	第2回の予習(テキストp.9~p.12を読む/課題プリントの記入)	
第2回	イギリスの黎明期	第3回の予習(テキストp.18~p.20を読む/課題プリントの記入)	
第3回	イギリス文学の誕生	第4回の予習(テキストp.36~p.39を読む/課題プリントの記入)	
第4回	ルネッサンス文学の開花(1) Thomas MoreからEdmund Spenserまで	第5回の予習(配布されたプリントを読む/課題プリントの記入)	
第5回	ルネッサンス文学の開花(2) William Shakespeare	第6回の予習(テキストp.61を読む/課題プリントの記入)	
第6回	政治と宗教の激動期	第7回の予習(テキストp.83~p.84を読む/課題プリントの記入)	
第7回	知性と秩序の文学	第8回の予習(テキストp.98~p.99を読む/課題プリントの記入)	
第8回	近代市民社会の文学(1) Daniel DefoeとJonathan Swift	第9回の予習(配布されたプリントを読む/課題プリントの記入)	
第9回	近代市民社会の文学(2) Samuel RichardsonとHenry Fielding	第10回の予習(テキストp.118~p.119を読む/課題プリントの記入)	
第10回	激動と情熱の時代(1) ロマン派の詩	第11回の予習(配布されたプリントを読む/課題プリントの記入)	
第11回	激動と情熱の時代(2) ロマン派の小説	第12回の予習(テキストp.144~p.145を読む/課題プリントの記入)	
第12回	新しい女性の文学活動	第13回の予習(テキストp.162~p.163を読む/課題プリントの記入)	
第13回	批評文学の隆盛	第14回の予習(テキストp.174~p.175を読む/課題プリントの記入)	
第14回	繁栄と退廃の時代	第15回の予習(テキストp.200~p.201を読む/課題プリントの記入)	
第15回	現代文学の道程	—	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	—		
レポート	70% 学期内に6種類のレポートを課します。別途「課題」プリントを添付して提出してください。		
小テスト等	—		
成果発表	—		
受講態度他	30% 講義への参加度・受講態度などで評価します。		
受講上の留意点・ルールに関する情報	初回の講義でレポートや課題について詳しく説明しますので、必ず出席してください。 また、レポートは計画的に作成し、不備なく講義最終日に提出してください。 必ず予習(テキストを読む)をして講義にのぞんでください。 欠席が全講義回数の3分の1を超えた場合は、登録を抹消します。毎回出席カードにコメントを書いて提出してもらいます。 コメントの無いものは出席とはみなしません。		
教科書	斉藤勇監修『イギリスの文学』英宝社		
指定図書	—		
参考図書	講義中、必要に応じて紹介します。		
オフィスアワー	火曜日4限	メールアドレス	

授業科目	異文化コミュニケーション		開講時期	前期
担当教員	鷹野 恵		単位	2
授業の目的と概要	<p>日本語教育や留学生教育は、さまざまなバックグラウンドを持った人々を対象にしている教育です。そして、その現場はまさに異文化コミュニケーションの宝庫といえます。この授業では、日本語教育を異文化コミュニケーションの現場としてとらえることによって、学生とのかかわり方や自分自身のコミュニケーションスタイルなどについての「自己」への気づきを促すことを目的としています。</p> <p>授業は、原則教科書に沿い、進めます。適宜、コミュニケーションに関するゲームなどを行いながら、体験を通じた学びを目指します。また、適宜、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。</p>			
到達目標	<p>①異文化コミュニケーションの分野の基礎的知識を得る。  ②得た知識をもとに、ゲームなどの体験を通じ、異文化コミュニケーションとは何かについて考察する。  ③授業や教科書で学んだ知識を在日外国人に直接インタビューすることを通して、その多様性を体得する。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に日本語・日本文学科のDP1「日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を用いて、適切なコミュニケーションができる。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション：異文化とは	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第2回	自分とは何だろう ―自己開示―	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第3回	異文化との接触	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第4回	イメージとステレオタイプ（1）ステレオタイプとは何か	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第5回	イメージとステレオタイプ（2）日本語教育とステレオタイプ	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第6回	人と出会うということ	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第7回	人とコミュニケーションするということ（1）コミュニケーションの種類	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第8回	人とコミュニケーションするということ（2）日本語教育とコミュニケーション	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第9回	外国語でコミュニケーションするということ（1）外国語を話す自分と母語を話す自分	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第10回	外国語でコミュニケーションするということ（2）学習者の立場からの考察	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第11回	非言語コミュニケーションを考える（1）非言語コミュニケーションとは	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第12回	非言語コミュニケーションを考える（2）日本語の非言語コミュニケーション	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第13回	誤解はどこから生まれるのか	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第14回	価値観の相違を考える	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第15回	多文化共生に向けて	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	20%			
レポート	60% 詳細は最初の授業で提示します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 学習活動への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>①教室での活動に積極的に参加すること。  ②授業や教科書、文献検索から知識を積み上げるよう努めること。  ③知識の積み上げと同時に、各タスクでは、自分の問題として引きつけ、熟考すること。</p>			
教科書	徳井厚子『多文化共生のコミュニケーション 日本語教育の現場から』アルク（2008）			
指定図書	なし			
参考図書	八代京子・世良時子『日本語教師のための異文化理解とコミュニケーションスキル』三修社（2010）			
オフィスアワー	水曜 1 講時	メールアドレス		

授業科目	【閉講】異文化コミュニケーション特論	開講時期	後期
担当教員	宮原 哲	単 位	2
授業の目的と概要	人間がシンボルを介して行うコミュニケーションの本質を理解し、日常生活、特にグローバル化が促進されると言われる今日の社会で、異文化コミュニケーションについての知識を習得し、明確な目的意識を備え、効果的で適切なコミュニケーション能力の習得を目指す。「異文化」は海外の文化と考えられがちだが、一つの国の中でも地域、年代、性、職業によって異なる文化が存在し、日々せめぎあっている、という認識を強めることも重要な目的の一つである。		
到達目標	この授業を受講することによって、以下の目標の達成を目指す。 1. 人間のコミュニケーションの本質に関する知識を習得する。 2. 「異文化」が指し示すことを、日常生活の中で実感、理解する。 3. 異文化コミュニケーション・コンピテンスが指し示すことを理解する。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 クラス・オリエンテーション		異文化コミュニケーションに興味ある領域を設定する	
第2回 コミュニケーション概論		日常起こる事象、問題点を「ノイズ」の観点からレポートする	
第3回 異文化コミュニケーション概論		自分の「文化的背景」について熟考し、口頭で発表する準備を行う。	
第4回 異文化コミュニケーションに影響を与える要因		社会的事象の「異文化的要素」を解説する準備をする	
第5回 言語と異文化コミュニケーション		ことばが人間関係に与えると思われる状況についてレポートを書く。	
第6回 外国語習得と異文化コミュニケーション		英語学習の異文化コミュニケーションへの影響を考えレポートする	
第7回 非言語シンボルと異文化コミュニケーション		「同じ」非言語メッセージの異文化での意味を口頭で発表する準備	
第8回 認識と異文化コミュニケーション		ひとつのモノが、異文化でいかに違った認識をされているか考える。	
第9回 ステレオタイプ、偏見		特定の文化に対するステレオタイプ、偏見について自省する。	
第10回 コミュニケーションの「政治力」		自分自身と相手とどのような関係を築こうとしているか熟考する。	
第11回 異文化コミュニケーションと医療		自分と医療者との間での「異文化コミュニケーション」をレポートする。	
第12回 異文化コミュニケーションとビジネス		ビジネスの異文化交流での文化的影響口頭発表する準備を行う。	
第13回 異文化コミュニケーションと教育		教師と生徒、親とのコミュニケーションについてレポートを作成する。	
第14回 文化の共依存		共文化の存在について考え、授業での討論に備える。	
第15回 まとめ		「研究プロポーザル」を提出する。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	行わない		
レポート	60% (随時指定する課題についてレポートを提出する 30% 研究プロポーザル 30%)		
小テスト等	行わない		
成果発表	30% 随時指定する口頭発表		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	コミュニケーションという「正解」が一つではない領域の学習、研究を行う以上、各自の探究心や好奇心が重要なカギを握る。授業中も積極的に発言し、クラス全体で複数の正解を探究する態度が重要である。		
教科書	後日発表		
指定図書	池田理知子(編)「よくわかる異文化コミュニケーション」ミネルヴァ書房(2010)		
参考図書	宮原哲「新版入門コミュニケーション論」松柏社(2006)		
オフィスアワー	授業終了後	メールアドレス	

授業科目	移民文化論		開講時期	後期
担当教員	喜多村 百合		単位	2
授業の目的と概要	<p>移民の世紀と呼ばれる21世紀。人の移動は人類発生と同時にあった現象でありながら、グローバル化で今日さまざまな問題を生じさせています。この講義は、日本と海外における移民現象をいくつか取り上げ、ホスト社会と移民集団間に生じる関係性「エスニシティ」を含めて問題を理解することを目的とします。</p> <p>まず在日コリアンと日系アメリカ人を挙げ、法的規制と文化的アイデンティティの形成について、当事者の位置から考察します。さらに移民大国と呼ばれるインド系移民についても、イギリスとアメリカの事例を通して同様の検討をします。</p>			
到達目標	<p>①在日コリアン3世の文化的アイデンティティについて説明できる。</p> <p>②日系アメリカ人の移民の軌跡の概要、および戦争補償問題とアイデンティティ形成について説明できる。</p> <p>③インド系移民の文化的アイデンティティの多様性について説明できる。</p> <p>④現代の移民問題について実践を含めて態度形成ができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 導入：移民の定義と歴史。本講義のねらい		プリント復習		
第2回 現代社会における移民現象と統計的把握		プリント復習		
第3回 移民研究動向(1)米国移民文化理論		プリント復習		
第4回 移民研究動向(2)エスニック・バウンダリー論とエスニシティ		プリント復習		
第5回 日本の移民(1) 在日コリアンの歴史		指定図書②前半		
第6回 日本の移民(2) 在日コリアンのライフヒストリーとエスニシティ		指定図書②後半		
第7回 日系移民(1) 歴史		指定図書①		
第8回 日系移民(2) 日系アメリカ移民のライフヒストリーとエスニシティ		中間レポート		
第9回 インド系移民(1) 「移民大国インド」概説		参考図書③		
第10回 インド系移民(2) イギリスのインド系移民の歴史		参考図書③		
第11回 インド系移民(3) インド系イギリス人のライフヒストリーとエスニシティ		配布プリント復習		
第12回 インド系移民(4) 米国のインド系移民の歴史		配布プリント復習		
第13回 インド系移民(5) インド系アメリカ人のライフヒストリーとエスニシティ		配布プリント復習		
第14回 移民研究・実践の可能性・課題		プリント復習		
第15回 まとめ		期末レポート		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート 60%、中間レポート 20%			
小テスト等	-			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ふだんから、移民をめぐるニュースや情報に関心を持つよう努めること。			
教科書	授業時にレジュメ・資料プリントを配布			
指定図書	①竹沢泰子『日系アメリカ人のエスニシティ』、②福岡安則『在日韓国・朝鮮人・若い世代のアイデンティティ』 ③ミラ・ナイール『その名にちなんで』(DVD)			
参考図書	①綾部恒雄他『文化人類学2：民族とエスニシティ』 ②古賀正則『移民から市民へ』 ③小熊英二『在日一世の記憶』			
オフィスアワー	月～水の午後	メールアドレス		

授業科目	医療福祉論		開講時期	前期
担当教員	池田 和彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>高齢化がさらに進行する日本社会では、団塊の世代がすべて後期高齢者となる2025年に向けた医療制度改革が展開されている。医療法改正や診療報酬改定、医療保険制度改革によって進められている医療制度改革の中にあつて、医療社会福祉および医療ソーシャルワークはますます重要性を増していると言えよう。</p> <p>本講義は、医療社会福祉および医療ソーシャルワークの概念的理解とその歴史的展開をふまえ、現在及び将来の日本における医療社会福祉、医療ソーシャルワークのあり方を検討する力量を身につけることを目的とする。</p> <p>そのため、人間にとってかけがえのない生命と健康の維持・再生産にとって医療が果たすべき役割と課題について理解し、医療社会福祉および医療ソーシャルワークの意義と必要性を検討する。また、医療制度（医療保障制度および医療供給体制）についても詳細に学び、医療ソーシャルワーカーにとって必要な知識を身につける。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本における医療の現状と今後の課題について理解できる。</li> <li>2. 医療社会福祉、医療ソーシャルワークの概念について説明できる。</li> <li>3. 生命と健康の維持・再生産に関わる問題について、具体的に理解できる。</li> <li>4. 医療の体系や体制、医療機関の種類について説明できる。</li> <li>5. 医療保障制度について詳細に説明できる。</li> <li>6. 医療供給（提供）体制について、医療法および診療報酬制度を含め、理解できる。</li> <li>7. 医療と介護の関連、介護保険制度について説明できる。</li> <li>8. 医療ソーシャルワークについて、その倫理や業務内容を含め、具体的に理解できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 「医療福祉論」とは何か			医療社会福祉、医療ソーシャルワーク（医療ソーシャルワーカー）	
第2回 生命と健康の維持・再生産と医療 — 貧困と疾病の悪循環			人間にとっての生命と健康、医療の重要性	
第3回 「医療」とは何か — 医療の範囲、体系と体制			保険医療について	
第4回 医療供給（提供）体制 — 医療法、診療報酬制度など			医療法、診療報酬制度	
第5回 医療機関の種類 — 医療法による区分と基準（地域支援病院、特定機能病院）			医療法にもとづく病院、病床の種類、人員・設備の基準など	
第6回 医療機関の種類 — 診療報酬制度による区分（入院基本料）			一般病棟、療養病棟、障害者施設等病棟など	
第7回 医療機関の種類 — 診療報酬制度による区分（特定入院料）			回復期リハビリテーション病棟、地域包括ケア病棟、緩和ケア病棟など	
第8回 医療機関の種類 — 医療政策上の区分など（拠点病院など）			拠点病院、医療保護施設、無料低額診療施設、助産施設など	
第9回 医療サービスの専門職 — チーム医療と専門職の連携、社会福祉士の役割（多職種連携）			医師、看護師、保健師、助産師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士など	
第10回 医療保障制度の概要 — 医療保険、医療扶助等の公費負担医療制度、医療ソーシャルワーク			医療保険、医療扶助、公費負担医療など	
第11回 医療制度と介護保険制度			介護保険制度の仕組みと課題	
第12回 医療政策の歴史			国民皆保険制度の成立と展開	
第13回 近年における医療制度改革の展開と問題点 — 医療政策のあり方 —			病床機能報告制度・地域医療構想と地域包括ケアシステム、医療保険制度改革	
第14回 医療ソーシャルワークの位置と役割			医療社会福祉におけるソーシャルワーク実践	
第15回 医療ソーシャルワーカーの倫理と業務			医療ソーシャルワーカー倫理綱領、医療ソーシャルワーカー業務指針	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	100%			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	○講義時に資料を配布するので、やむを得ず欠席したときなどは、後日研究室に資料を受け取りに来ること。			
教科書	講義時に資料を配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスワー	水-4	メールアドレス		

授業科目	インドネシア語 I	開講時期	前期
担当教員	石橋 ヘルミンガティ	単位	1
授業の目的と概要	この授業では、はじめてインドネシア語を学習する学生を対象にします。基礎的な文法と基本的な語彙を学び、代名詞をはじめ、肯定文、否定文、疑問文の構造を理解し、会話練習を取り入れて、耳から学習もできるように工夫します。そのため基本文法や語彙をしっかり身につけて、初対面の人と簡単な日常会話を交わすことができることを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 初対面の人とあいさつをはじめ、簡単な自己紹介ができる</li> <li>2. 身の回りの物を述べるができる</li> <li>3. 短文を読み書きをはじめ、訳すことができる。</li> <li>4. 数字を使って、年齢、値段、時刻を発表することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	「アジア地域で使用されている諸言語の一つを用いて、基礎的な会話ができる。」の達成に関わる科目である。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	インドネシアについて基本事情を学ぶ	なし	
第2回	第1課 発音、アクセント	アルファベットを発音しながら、似たような発音を区別する	
第3回	第2課 指示代名詞	肯定文、否定文、疑問文（疑問詞）の語順をりかいしながら、応用する	
第4回	会話練習と練習問題を解く	指示代名詞を使う会話を交わす	
第5回	第3課 人称代名詞、所有代名詞	人称代名詞の種類	
第6回	文型、例文を読み、会話、練習問題	人称代名詞を使って、短文を作って、発表する	
第7回	第4課 数字と助数詞	数字の数え方表現する	
第8回	数字と助数詞とその語順	数字を使って、年齢、電話番号を発表する	
第9回	第5課 曜日、日付け	今日の曜日、日付けを表現する	
第10回	、時刻、時間	今の時刻を発表する	
第11回	会話練習、練習問題を解く	日付け、曜日を使って、自分の誕生日を発表する	
第12回	第6課 形容詞	指示代名詞と形容詞を使う場合の語順	
第13回	形容詞の同等、比較、最上の分類	同等、比較、最上の表現	
第14回	会話練習、練習問題を解く	形容詞を使って、短文を書き、発表する	
第15回	インドネシア語 I の復習	会話テスト	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	40% （筆記テスト）		
レポート	なし		
小テスト等	30% （4回小テスト+課題）		
成果発表	20% （会話テスト式）		
受講態度他	10% （出席、授業に参加、発表する）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席3分の2達する</li> <li>2. どなたでも受講できる</li> <li>3. 教科書を有する</li> </ol>		
教科書	インドネシア語レッスン1	ホラス由美子	スリーエーネットワーク
指定図書	なし		
参考図書	指さし会話帳		
オフィスアワー	水曜日	メールアドレス	

授業科目	インドネシア語Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	石橋 ヘルミンガティ	単位	1
授業の目的と概要	<p>この授業では、インドネシア語Ⅰで取得した学生のみ受講できます。  インドネシア語Ⅰで学習した文法や単語を活かして、より実用的な文章を学んでいきます。  S V O の文法に入ります。動詞、助動詞、時制もしっかり身につけ、簡単な文書を書いて、発表します。</p> <p>この授業がマスターすると、ネイティブの人の会話を理解できコミュニケーションを取るができることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>①日常的な会話を始め、相互に会話を成り立つことができる  ②文法に動詞や時制を加わり、それに対して理解しつつ述べるができる  ③辞書を使用しながら、短文や長文を読み書きができ、意味を調べた上で、発表できる  ④ネイティブの人の言葉を理解し、積極的に参加し、自分の意見を述べるができる</p> <p>インドネシア語技能検定試験D及びE級が習得できる</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	「アジア地域で使用されている諸言語の一つを用いて、基礎的な会話ができる。」の達成に関わる科目である。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	インドネシア語Ⅰで学習した文法を復習	会話練習、語彙テスト	
第2回	第7課 語根動詞（日常的な動詞）	文法、肯定文、否定文、	
第3回	動詞の時制	文型、例文を読み、理解する	
第4回	会話練習、練習問題を解く	聴解、ペアで会話する	
第5回	第8課 自動詞（Ber-動詞）	接頭辞Ber-の意味を説明する	
第6回	Ber-動詞の応用	Ber-動詞の種類と意味、それから応用する	
第7回	会話練習	今まで習った動詞を使って、日記を作る	
第8回	第9課 他動詞（Me-動詞）	Me-動詞の変化	
第9回	文型、例文	Me-動詞の種類、意味、それから応用する	
第10回	会話練習	聴解、練習問題を解く	
第11回	インドネシアの文化をふれあい	PPTを使用し、インドネシアの食文化、習慣を知っておこう	
第12回	第10課 助動詞その1	①可能 ②希望 ③義務	
第13回	助動詞その2	④必要 ⑤許可	
第14回	会話練習、練習問題を解く	自分の「①可能②希望③義務④必要⑤許可」を述べる	
第15回	復習、会話テスト実施	今まで学習した文法など復習、会話テスト実施する	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	30％		
レポート	なし		
小テスト等	40％		
成果発表	20％（会話テスト、復習、課題）		
受講態度他	10％（出席、授業への積極的の参加、発表）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①出席率は3分の2以上 ②インドネシア語Ⅰを取得した学生		
教科書	インドネシア語Ⅰに使用した教科書		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワー	水曜日	メールアドレス	

授業科目	ウエルネス・スポーツ I		開講時期	前期
担当教員	宮平 喬・栗木 明裕・城戸 親男・秋峯 良二・百瀬 義人・山下 龍一郎		単位	1
授業の目的と概要	<p>本授業は各人が選択したスポーツの実習を通して、それぞれのスポーツの技術・ルール・マナーなどを学習しながら発育終期を迎えた学生の健康・体力向上を図る。また、体力のみならずスポーツを通して、社会の中で生きていく上でのソーシャルスキルを養う。</p> <p>実習するスポーツは、バレーボール、バドミントン、卓球、テニスであり、その他にレクリエーション等も適宜加えられる。また、多種多様なトレーニング方法を準備運動等へ盛り込み、体力の向上に役立てる。</p>			
到達目標	<p>1チームワークを含めたスポーツの楽しさを体得できる</p> <p>2スポーツを媒体にして仲間とのコミュニケーション能力をはじめとするソーシャルスキルを養う。</p> <p>3自らの体力レベルを把握し、自己評価することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本科目は共通科目のDP2「人に学び、人とのつながりの中で、人生を豊かにつくりあげる」ための科目である。スポーツの実践を通してコミュニケーション能力、創造力、上手な対人関係の構築、問題解決能力などのソーシャルスキルを養うことができる。また、同じ共通科目の「ウエルネス・スポーツII」、「ウエルネス・スポーツ論」と関連して健康づくりの知識・技術を身につけることができる。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	オリエンテーション	健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する		
第 2回	身体ほぐし運動、アイスブレイキング	健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する		
第 3回	体力テスト、ストレッチ、補助運動	健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する		
第 4回	体力テスト、ストレッチ、補助運動、種目分け	健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する		
第 5回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第 6回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第 7回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第 8回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第 9回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第10回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第11回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第12回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと応用技術について学習する		
第13回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと応用技術について学習する		
第14回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと応用技術について学習する		
第15回	まとめ	スポーツの役割、ウエルネススポーツの目的を再確認する		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	<p>出席状況（90%）：欠席1回に対して10%を減点する。</p> <p>授業への積極性（10%）：毎回の授業における受講状況・態度によって評価する。</p>			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1. 能率・安全のために、スポーツ用の服装やシューズを着用する。</p> <p>2. ルールに従い、クラスの成員と協力すること。</p> <p>3. 身体活動が中心の学習であるから、各自が自らの健康管理に配慮すると共に、他のメンバーの安全にも留意する。</p> <p>4. 用具・器具使用上の注意を守ると共に、長い爪や装身具の着用等も事故の原因になることを知り注意すること。</p>			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワーク	授業前後あるいは火、木、金の昼休み（要事前連絡）	メールアドレス		



授業科目	ウエルネス・スポーツⅡ		開講時期	後期
担当教員	宮平 喬・栗木 明裕・城戸 親男・秋峯 良二・百瀬 義人・山下 龍一郎		単位	1
授業の目的と概要	<p>本授業は各人が選択したスポーツの実習を通して、それぞれのスポーツの技術・ルール・マナーなどを学習しながら発育終期を迎えた学生の健康・体力向上を図る。また、体力のみならずスポーツを通して、社会の中で生きていく上でのソーシャルスキルを養う。</p> <p>実習するスポーツは、ウエルネス・スポーツⅠと同じ。Ⅱでは前期にⅠを履修し、①Ⅰと異なった種目を選択するグループ、②Ⅰと同じ種目を継続選択するグループの2つに分かれる。①はⅠと同じ要領で学習を進めるが、②の場合はⅠよりもレベルの高い技術やルールを加え、更に集団技能やゲームの学習に力点を置きながら学習を深める。</p>			
到達目標	<p>1チームワークを含めたスポーツの楽しさを体得できる</p> <p>2スポーツを媒体にして仲間とのコミュニケーション能力をはじめとするソーシャルスキルを養うことができる。</p> <p>3自らの体力レベルを把握し、自己評価することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本科目は共通科目のDP2「人に学び、人とのつながりの中で、人生を豊かにつくりあげる」ための科目である。スポーツの実践を通してコミュニケーション能力、創造力、上手な対人関係の構築、問題解決能力などのソーシャルスキルを養うことができる。また、同じ共通科目の「ウエルネス・スポーツⅠ」、「ウエルネス・スポーツ論」と関連して健康づくりの知識・技術を身につけることができる。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する		
第2回	身体ほぐし運動、体力テスト（未測定者のみ）	健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する		
第3回	レクリエーション、体力テスト（未測定者のみ）、種目分け	健康・体力・身体活動に対する自分の現状を検証する		
第4回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第5回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第6回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第7回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第8回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第9回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第10回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第11回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと基本技術について学習する		
第12回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと応用技術について学習する		
第13回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと応用技術について学習する		
第14回	種目（バレーボール、バドミントン、卓球、テニス）に分かれて実技	各自該当する種目のルールと応用技術について学習する		
第15回	まとめ	スポーツの役割、ウエルネススポーツの目的の再確認する		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	出席状況（90%）：欠席1回に対して10%を減点する。 授業への積極性（10%）：毎回の授業における受講状況・態度によって評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1. 能率・安全のために、スポーツ用の服装やシューズを着用する。</p> <p>2. ルールに従い、クラスの成員と協力すること。</p> <p>3. 身体活動が中心の学習であるから、各自が自らの健康管理に配慮すると共に、他のメンバーの安全にも留意する。</p> <p>4. 用具・器具使用上の注意を守ると共に、長い爪や装身具の着用等も事故の原因になることを知り注意すること。</p>			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワーク	授業前後あるいは火、木、金の昼休み（要事前連絡）	メールアドレス		

授業科目	ウエルネス・スポーツ論		開講時期	前期
担当教員	古田 瑞徳		単位	2
授業の目的と概要	現代は、何事にも便利さが追求され、人間の資本である健康に目を向けられない状態にある。この講義では、自らの健康のあり方、考え方を学習することを通じて、健康観の育成することを目的とする。加えて、人間が生活の中で培ってきたスポーツ文化の発生と定着を知ることにより、身体文化と健康との関連性を理解する。また、スポーツは元来、信仰を含めた生活と強い結びつきがあり、健康と無関係ではないことを認識する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ウエルネスに対する知見を日常生活に生かせるようになる。</li> <li>2. 身体活動・体力要素の特徴についての理解から、日常生活における運動の重要性を考えることができる。</li> <li>3. スポーツを運動の手段としてだけでなく、精神的、社会的なウエルネスに対して活用することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本科目は共通科目のDP2「人に学び、人とのつながりの中で、人生を豊かにつくりあげる」ための科目である。この科目で習得した知識は将来のより良い健やかな生活を送るための糧となる。また、同じ共通科目の「ウエルネス・スポーツⅠ」、「ウエルネス・スポーツⅡ」と関連して健康づくりの知識・技術を身につけることができる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業総論		高等学校の保健体育の教科書を見直す(復習)		
第2回 ウエルネスの概念		WHOの示す健康の概念について調べる(予習)		
第3回 健康と社会(1) 健康観の変遷(ヨーロッパを中心に)		医学の父、ヒポクラテスについて調べる(予習)		
第4回 健康と社会(2) 健康観の変遷(日本) 主に江戸時代から明治時代まで		日本における医学の発展の概要を調べる(予習)		
第5回 健康と社会(3) 健康観の変遷(日本) 主に昭和から平成にかけて		医学の発展に寄与した人物についてまとめておく(復習)		
第6回 健康と生活(1) 生活習慣と健康		日本人に多い死因について調べる(予習)		
第7回 健康と生活(2) ストレスと健康		セリエのストレス学説について調べる(予習)		
第8回 健康と生活(3) 体型と健康		自らのライフスタイルについて検証する(予習)		
第9回 スポーツと社会(1) よりよい身体活動を送るために。		幼少期、児童期の運動の発達について調べる(予習)		
第10回 スポーツと社会(2) 古代・中世のスポーツ文化		ヨーロッパにおける古代・中世の時代背景を調べる(予習)		
第11回 スポーツと社会(3) 近代・現代のスポーツ文化		ヨーロッパにおける近代・現代の時代背景を調べる(予習)		
第12回 スポーツと社会(4) スポーツと人権		アメリカの黒人解放運動とウーマンリブ運動を調べる(予習)		
第13回 女性と健康(1) 加齢に伴う身体の変化		更年期障害について調べる(予習)		
第14回 女性と健康(2) 子育てを踏まえた乳幼児の心身発達の理解		乳幼児の情緒、知的発達を調べる(予習)		
第15回 授業総括、授業評価		健康・スポーツに関わる知見の整理(復習)		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 全講義中3回求め、1回最大20%で採点			
小テスト等	40% 授業中に小テストを行う。全講義中4回行い、1回最大10%で採点			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度が悪い学生は減点の対象となり、注意1回につき5%-10%減点する。具体的には、私語、スマートフォンの使用、居眠り等である。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	単位取得としての授業参加も大切だが、ここで示した内容は、将来、自らの健康に関わってくるものだと捉えながら、授業にのぞんでもらいたい。 本講義では健康について考えてもらうために、様々な角度から授業を展開するつもりである。学生が「前のめり」する授業を目指していきたい。			
教科書	プリント配布			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	火曜日のお昼休み	メールアドレス		

授業科目	ウエルネス・スポーツ論		開講時期	前期
担当教員	栗木 明裕		単位	2
授業の目的と概要	<p>「ウエルネス」とは、「健康」を積極的かつ総合的に捉えた健康観を指す。換言すると「どのようにすれば毎日をそして将来をより楽しめるか?」という考え方である。本授業はスポーツをキーワードに身体構造や身体活動について学習するとどまらず、身の回りにあふれている健康や美容に関する情報を見極めるための知識と自分自身の健康観を養うことを目的としている。</p>			
到達目標	<p>1ウエルネスに対する知見を日常生活に生かせるようになる。  2身体活動・体力要素の特徴についての理解から、日常生活における運動の重要性を考えることができる。  3スポーツを運動の手段としてだけでなく、精神的、社会的なウエルネスに対して活用することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本科目は共通科目のDP2「人に学び、人とのつながりの中で、人生を豊かにつくりあげる」ための科目である。この科目で習得した知識は将来のより良い健やかな生活を送るための糧となる。また、同じ共通科目の「ウエルネス・スポーツⅠ」、「ウエルネス・スポーツⅡ」と関連して健康づくりの知識・技術を身につけることができる。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業総論		高等学校の保健体育の教科書を見直す		
第2回 ウエルネスの概念		WHO憲章の「健康」についての定義を調べる		
第3回 健康と社会（1） 健康観の変遷		自分自身の健康観について考えをまとめる		
第4回 健康と社会（2） ライフスタイルの変遷		「生活習慣病」について調べる		
第5回 健康と生活（1） 身体のしくみ		身体の内臓とその働きについて調べる		
第6回 健康と生活（2） 食と健康		一日の摂取カロリーを計算する		
第7回 健康と生活（3） 睡眠と健康		一週間の睡眠時間を調べる		
第8回 健康と生活（4） ストレスと健康		自身のストレスサーについて調べる		
第9回 健康と生活（5） フードファディズム		身近なフードファディズムの例を調べる		
第10回 スポーツと社会（1） スポーツ・運動の効果		運動の身体に対する効果について調べる		
第11回 スポーツと社会（2） スポーツ参加		周辺のスポーツイベントの魅力についてまとめる		
第12回 スポーツと社会（3） 観るスポーツ		メディアに取り上げられているスポーツとその効果について調べる		
第13回 女性と健康（1） 女性の身体特性		身体的性差について調べる		
第14回 女性と健康（2） 女性と体脂肪の関係		体脂肪の機能について調べる		
第15回 授業総括		自分自身の健康観について考えをまとめる		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 授業毎に確認課題（メモ程度）の提出を課す。			
小テスト等	50% 授業中に2回の小テストを行い、1回最大25%で評価する。			
成果発表	20% 授業外学修の成果発表を全講義中に1回実施する。			
受講態度他	私語など受講態度が悪く、授業の進行や他の学生の妨げとなる場合は減点もあり得る。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	単位取得としての授業参加も大切だが、ここで示した内容は自らの健康に関わってくるものであると捉えながら、授業にのぞんでもらいたい。授業の内容によって教室や授業計画が変更となる場合があるが、講義の際に指示する。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	これからの健康とスポーツの科学第4版、安部孝・琉子友男（編）、KSスポーツ医科学書 目でみる女性スポーツ白書、井谷 恵子・来田享子・田原 淳子（著）、大修館書店 など その他適宜紹介する。			
オフィスアワー	水曜日昼休み12:20～13:10（要事前連絡）	メールアドレス		

授業科目	ウエルネス・スポーツ論		開講時期	前期
担当教員	宮平 喬		単 位	2
授業の目的と概要	現代は、何事にも便利さが追求され、人間の資本である健康に目を向けられない状態にある。この講義では、自らの健康のあり方、考え方を学習することを通じて、健康観の育成することを目的とする。加えて、人間が生活の中で培ってきたスポーツ文化の発生と定着を知ることにより、身体文化と健康との関連性を理解する。また、スポーツは元来、信仰を含めた生活と強い結びつきがあり、健康と無関係ではないことを認識する。			
到達目標	1ウエルネスに対する知見を日常生活に生かせるようになる。 2身体活動・体力要素の特徴についての理解から、日常生活における運動の重要性を考えることができる。 3スポーツを運動の手段としてだけでなく、精神的、社会的なウエルネスに対して活用することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本科目は共通科目のDP2「人に学び、人とのつながりの中で、人生を豊かにつくりあげる」ための科目である。この科目で習得した知識は将来のより良い健やかな生活を送るための糧となる。また、同じ共通科目の「ウエルネス・スポーツⅠ」、「ウエルネス・スポーツⅡ」と関連して健康づくりの知識・技術を身につけることができる。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 授業総論		高等学校の保健体育の教科書を見直す(復習)		
第2回 ウエルネスの概念		WHOの示す健康の概念について調べる(予習)		
第3回 健康と社会(1) 健康観の変遷(ヨーロッパを中心に)		医学の父、ヒポクラテスについて調べる(予習)		
第4回 健康と社会(2) 健康観の変遷(日本) 主に江戸時代から明治時代まで		日本における医学の発展の概要を調べる(予習)		
第5回 健康と社会(3) 健康観の変遷(日本) 主に昭和から平成にかけて		医学の発展に寄与した人物についてまとめておく(復習)		
第6回 健康と生活(1) 生活習慣と健康		日本人に多い死因について調べる(予習)		
第7回 健康と生活(2) ストレスと健康		セリエのストレス学説について調べる(予習)		
第8回 健康と生活(3) 体型と健康		自らのライフスタイルについて検証する(予習)		
第9回 スポーツと社会(1) よりよい身体活動を送るために。		幼少期、児童期の運動の発達について調べる(予習)		
第10回 スポーツと社会(2) 古代・中世のスポーツ文化		ヨーロッパにおける古代・中世の時代背景を調べる(予習)		
第11回 スポーツと社会(3) 近代・現代のスポーツ文化		ヨーロッパにおける近代・現代の時代背景を調べる(予習)		
第12回 スポーツと社会(4) スポーツと人権		アメリカの黒人解放運動とウーマンリブ運動を調べる(予習)		
第13回 女性と健康(1) 加齢に伴う身体の変化		更年期障害について調べる(予習)		
第14回 女性と健康(2) 子育てを踏まえた乳幼児の心身発達の理解		乳幼児の情緒、知的発達を調べる(予習)		
第15回 授業総括、授業評価		健康・スポーツに関わる知見の整理(復習)		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 全講義中3回求め、1回最大20%で採点			
小テスト等	40% 授業中に小テストを行う。全講義中4回行い、1回最大10%で採点			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度が悪い学生は減点の対象となり、注意1回につき5%-10%減点する。具体的には、私語、スマートフォンの使用、居眠り等である。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	単位取得としての授業参加も大切だが、ここで示した内容は、将来、自らの健康に関わってくるものだと捉えながら、授業にのぞんでもらいたい。 本講義では健康について考えてもらうために、様々な角度から授業を展開するつもりである。学生が「前のめり」する授業を目指していきたい。			
教科書	プリント配布			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	月曜日のお昼休み	メールアドレス		

授業科目	英会話Ⅲ	開講時期	前期
担当教員	林 恵子	単 位	1
授業の目的と概要	映画『プラダを着た悪魔』（原題-The Devil Wears Prada）の鑑賞をとおして、シナリオが実際に聞き取れているかどうかを確認し、リスニング力の向上、並びに、英単語や英会話表現を学ぶことを目標とする。また、「英文法」を確認し、「言語運用能力」の向上を目指して、映画の様々な場面に応じた会話表現を身に着けることができる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>身近なトピックについて、自分の考えを基本的な文にして伝えることができる。</li> <li>一定のまとまりのある文章を聞きながら、同様に発話することができる。</li> <li>各場面に必要な会話表現を学び、英会話力を向上させる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション	特に無し	
第2回	Job Interview	Discussion Topicsを考えておく。小テストの準備しておく。	
第3回	First Day on the Job	Discussion Topicsを考えておく。小テストの準備しておく。	
第4回	Hurricane on the Weekend	Discussion Topicsを考えておく。小テストの準備しておく。	
第5回	Andy's Makeover	Discussion Topicsを考えておく。小テストの準備しておく。	
第6回	Andy Meets Christian	Discussion Topicsを考えておく。小テストの準備しておく。	
第7回	Miranda's Request	Discussion Topicsを考えておく。小テストの準備しておく。	
第8回	Nate's Birthday	Discussion Topicsを考えておく。小テストの準備しておく。	
第9回	中間口頭発表	中間口頭発表の練習しておく。小テストの準備しておく。	
第10回	Andy's Decision	Discussion Topicsを考えておく。小テストの準備しておく。	
第11回	Breakup with Nate	Discussion Topicsを考えておく。小テストの準備しておく。	
第12回	The Dream Job	Discussion Topicsを考えておく。小テストの準備しておく。	
第13回	Announcement at the Party	Discussion Topicsを考えておく。小テストの準備しておく。	
第14回	Andy's Final Choice	Discussion Topicsを考えておく。小テストの準備しておく。	
第15回	最終口頭発表	最終口頭発表の練習しておく。小テストの準備しておく。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	40%		
レポート	0%		
小テスト等	20%		
成果発表	20%（10%×2回）		
受講態度他	20%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>積極的なペア・ワークが求められます。</li> <li>授業中の私語、スマホの使用、許可なしでの教室の出入りは謹んでください。</li> <li>テキスト及び英語辞書は必ず持参してください。</li> </ol>		
教科書	Aline Brosh McKenna 著 Communicate in English with The Devil Wears Prada（松柏社、2016）		
指定図書	ありません。		
参考図書	授業中、適宜に紹介します。		
オフィスアワー	授業終了後	メールアドレス	

授業科目	英会話IV	開講時期	後期
担当教員	J. Stewart	単位	1
授業の目的と概要	To study conversational English, to put it into practice in a variety of situations, and to improve students' skills in English conversation.		
到達目標	<p>In this course, students will speak with the teacher. They will speak with other students in pairs or in groups.</p> <p>They may play games or do other activities that promote interaction.</p> <p>Themes include Introductions, Socializing, Factual Information, Expressing Attitudes, Persuasion, Structuring Discourse, and Communication Repair.</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	This course is offered under the 「共通科目」 program. It is open to students from several different departments.		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	Course overview, syllabus, texts, etcetera.	Chapter 1	
第2回	Family Ties	Chapter 2	
第3回	School Days	Chapter 3	
第4回	Sports	Chapter 4	
第5回	Hobbies	Chapter 5	
第6回	Getting Around	Chapter 6	
第7回	小テスト	Extra	
第8回	Holidays	Chapter 7	
第9回	Vacations	Chapter 8	
第10回	Restaurants & Shopping	Chapter 9	
第11回	Food	Chapter 10	
第12回	Making Friends	Chapter 11	
第13回	Entertainment	Chapter 12	
第14回	Future Plans	Chapter 13	
第15回	Review	Review Unit	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	40 %		
レポート	%		
小テスト等	24 %		
成果発表	%		
受講態度他	36 % (Cuisenaire Bears weekly homework assignments.)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Bring a dictionary to class.		
教科書	Simulator テキストはワークブックとしても使用するため、各自必ず購入するように。 Required.		
指定図書	n/a		
参考図書	Cuisenaire Bears and Other Delights (students will do one lesson per week as homework)		
オフィスワー	火曜日 3眼	メールアドレス	

授業科目	映画学概論		開講時期	前期
担当教員	間瀬 玲子		単位	2
授業の目的と概要	映画はフランスで始まった視覚芸術である。リュミエール兄弟による映画の発明から、ルノワールらの巨匠たちによる往年の傑作、映画の革命ヌーヴェル・ヴァーグ、近年のフランス映画までの100年以上の歩みを学ぶことを目的とする。また日本映画がフランスでどのような評価をされているかを考察することを目的とする。そして学習成果をレポートにまとめることにより、情報収集力、論理的思考力を高めることを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1895年から現在までのフランス映画の主要な出来事を説明することができる。</li> <li>フランスのヌーヴェル・ヴァーグが世界映画に果たした役割を説明することができる。</li> <li>フランスにおける日本映画の評価を説明することができる。</li> <li>映画を通して社会の多様な問題を考察する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	文学部英語学科 DP③ 「英語を媒介とする言語・文化・文学について概要を説明できる」を達成するための科目です。 関連科目は2年次 Visual Literature、現代ポップカルチャーです。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	フランス映画の魅力とはなにか		予習 シラバスを読む	
第2回	映画の始まり (リュミエール兄弟)		予習 配布資料 (第2回)	
第3回	映画産業の成立 (パテとゴーモン)		予習 配布資料 (第3回)	
第4回	映画芸術の深化 (ガンス)		予習 配布資料 (第4回)	
第5回	フランス映画の黄金時代 (クレール)		予習 配布資料 (第5回)	
第6回	天才と巨人 (ヴィゴとルノワール)		予習 配布資料 (第6回)	
第7回	占領と解放 (カルネ)		予習 配布資料 (第7回)	
第8回	フランス映画の安定期 (ベッケル)		予習 配布資料 (第8回)	
第9回	個性的な作家たち (プレッソン、タチ)		予習 配布資料 (第9回)	
第10回	映画の革命 ヌーヴェル・ヴァーグ (ゴダール)		予習 配布資料 (第10回)	
第11回	映画の革命、多様化の時代 (ユスターシュ)		予習 配布資料 (第11回)	
第12回	新たな技巧主義 (カラックス)		予習 配布資料 (第12回)	
第13回	フランスにおける日本映画の評価 (1) 小津安二郎		予習 配布資料 (第13回)	
第14回	フランスにおける日本映画の評価 (2) カンヌ国際映画祭		予習 配布資料 (第14回)	
第15回	授業のまとめ		期末レポートの準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	60% 期末レポート(授業の内容に即した複数の設問)			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	40% 質問等による授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業で見るのは映画のごく一部です。本学の図書館等を利用して授業中に紹介した映画を必ず見てください。			
教科書	なし。授業資料(冊子体)を配布します。			
指定図書	村山匡一郎編『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ新装増補版』フィルムアート社、三浦哲哉『映画とは何か フランス映画思想史』筑摩書房、筑摩選書、ロラン・バルト『映像の修辞学』筑摩書房、ちくま学芸文庫			
参考図書	授業中に適宜紹介します。			
オフィスアワー	木曜日2講時	メールアドレス		

授業科目	映画メディア研究		開講時期	前期
担当教員	一木 順		単 位	2
授業の目的と概要	<p>19世紀から現在にいたるアメリカ映画の歴史を概観し、「映像によって語る」技術がどのように発展してきたのかを理解する。また映像理解のための「映像文法」の基礎知識を学ぶ。</p> <p>アメリカ映画の歴史を概観しながら、映画というメディアがどのように技術革新を行ってきたのか、アメリカ社会とどのような関係を持ってきたのか、そしてどのようにその表象可能領域を拡大 / 縮小してきたのかを考察する。</p>			
到達目標	<p>1. 19世紀から現在にいたるまでアメリカ映画がどのように変遷してきたのかを、アメリカ史全体を俯瞰しながら説明できる</p> <p>2. 映画に関わる「cinema」「movie」「film」という言葉の違いについて説明できる</p> <p>3. 基礎的な「映像文法」を利用して映像分析を行うことができる</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業ではアメリカにおける映画というメディアの発達について学びます。「映画論」などで映画研究の基礎知識について理解しておくことより授業効果が高まります。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 授業の進め方についての説明			なし	
第 2回 アメリカ映画黎明期の状況について 課題映画「列車の到着」			課題映画を視聴し、指示された設問に答えること	
第 3回 黎明期の技術と映画的欲望について。 視聴「ヒューゴの不思議な発明」			19世紀末の社会状況について課題のプリントを行うこと	
第 4回 ハリウッド創世記の状況の概観 課題映画「大列車強盗」			20世紀初頭のアメリカ社会についての課題プリントを行うこと	
第 5回 ハリウッドの成立と映像技術の発展① 課題映画「国民の創生」			課題映画を視聴し、感想をまとめること	
第 6回 ハリウッドの成立と映像技術の発展② 視聴「国民の創生」			KKK（クー・クラックス・クラン）について調べること	
第 7回 映像文法と「語る映像」① 視聴「国民の創生」			課題映画を視聴し、指定された設問に答えること	
第 8回 1930年代とハリウッド黄金期の状況			大恐慌時代について調べること	
第 9回 古典的ハリウッド映画の紹介と特徴 視聴「風と共に去りぬ」			課題映画を視聴し、指定された設問に答えること	
第10回 ヘイズコードと映画的表象の可能性 視聴「白雪姫」「駄馬車」			課題映画を視聴し、指定された設問に答えること	
第11回 戦争とプロパガンダとしての映画 視聴「汝の敵 日本」			課題映画を視聴し、指定された設問に答えること	
第12回 1950年代の社会とアメリカ映画 ①視聴「マルタの鷹」など			課題映画を視聴し、指定された設問に答えること	
第13回 1960年代とアメリカン・ニューシネマ 視聴「俺たちに明日はない」			課題映画を視聴し、指定された設問に答えること	
第14回 1970年代とハリウッドの再生 視聴「ジョーズ」			課題映画を視聴し、指定された設問に答えること	
第15回 現代と更なる技術革新 視聴「アバター」			課題映画を視聴し、指定された設問に答えること	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50% 授業の理解度を測るテスト（60分間、100点満点）を実施する			
レポート	30% 授業前課題として指定されたレポートの提出度合、出来を勘案する			
小テスト等	—			
成果発表	0%			
受講態度他	20% 受講態度などを勘案する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講生は、毎回の授業の最後に、授業内容についてのコメントおよび授業の理解度を図るテスト問題を作成する。授業前課題を必ず行ってから授業に参加すること			
教科書	なし			
指定図書	村山匡一郎『映画史を学ぶクリティカルワーズ』 マイケル・ライアン『映画分析入門』、			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		



授業科目	映画メディア研究		開講時期	前期
担当教員	間瀬 玲子		単位	2
授業の目的と概要	映画はフランスで始まった視覚芸術である。2年次で学んだ「映画論」を土台として、各テーマに分類した映画を実際に鑑賞し、分析することを目的とする。そして分析した映画から現代社会で起きている諸問題に対してどのように考察すべきかを考えることも目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 映画の歴史を振り返り、概要を説明することができる。</li> <li>1. 各テーマに分類した映画を鑑賞し、分析することができる。</li> <li>2. 分析した映画を通じて、現代社会で起きている諸問題を考察することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 授業の進め方と分析	多言語映画（英語とフランス語） 『ダ・ヴィンチ・コード』の視聴		シラバスを前もって読む	
第2回 視聴と分析	フランス文学を題材とした映画 『レ・ミゼラブル』（英語圏の映画、フランス映画）の		授業資料（第2回）	
第3回 視聴と分析	フランス文学を題材とした映画 『モンテ・クリスト伯』（英語圏の映画、日本製のアニメ）の		授業資料（第3回）	
第4回 視聴と分析	フランス文学を題材とした映画 『三銃士』（英語圏の映画）の		授業資料（第4回）	
第5回 視聴と分析	フランス文学を題材とした映画 『オペラ座の怪人』（英語圏の映画）の		授業資料（第5回）	
第6回 視聴と分析	フランス文学を題材とした映画 『美女と野獣』（フランス映画、英語圏のアニメ）の		授業資料（第6回） 第1回から第5回までの授業資料の復習	
第7回 視聴と分析	フランスの学校 『スチューデント』（フランスの学生生活）の		授業資料（第7回）	
第8回 視聴と分析	フランスの学校 『プチ・ニコラ』（フランスの文章付のマンガ）の		授業資料（第8回）	
第9回 視聴と分析	ベルギー出身の作家によるマンガの映画化 『タンタンの冒険』の		授業資料（第9回）	
第10回 視聴と分析	フランスの宗教 『ぼくセザール10歳半1m39cm』の		授業資料（第10回）	
第11回 視聴と分析	パリを舞台にしたアメリカ映画 『シャレード』の		授業資料（第11回） 第6回から第10回までの授業資料の復習	
第12回 視聴と分析	外国文学のフランス映画化 『アガサ・クリスティーの奥さまは名探偵』の		授業資料（第12回）	
第13回 視聴と分析	フランスの歴史映画 『マリー・アントワネット』の		授業資料（第13回）	
第14回 視聴と分析	パリを舞台にした日本製の映画 『のだめカンタービレ』の		授業資料（第14回）	
第15回 視聴と分析	映画史の重要人物が登場する映画『ヒューゴの不思議な発明』の		授業資料（第15回） 第11回から第14回までの授業資料の復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%（授業でテーマとして言及した映画に関する複数の設問）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	50%（受講態度、授業への積極的参加、筑女ネットを使った理解度チェックテスト）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	原則として2年次の「映画論」を履修した人を対象とします。筑女ネットに最新情報等を掲載しますので、必ずチェックしてください。本学の図書館等を利用し、授業で言及した映画の中で2本以上は必ず視聴してください。授業中では映画のごく一部を見ます。			
教科書	教科書はありません。授業資料を配布します。			
指定図書	佐藤久理子『映画で歩くパリ』スペースシャワーネットワーク、アンドレ・バザン『映画とは何か 上』岩波書店、岩波文庫、アンドレ・バザン『映画とは何か 下』岩波書店、岩波文庫			
参考図書	授業中適宜紹介します。			
オフィスアワー	木曜日 2 講時	メールアドレス		

授業科目	英語 I		開講時期	前期
担当教員	田口・Stewart・船津・三日月・太田・Wood・Kamada・大場(明)・萱嶋・林(恵)・一木(順)・宮原・田吹		単位	1
授業の目的と概要	この授業は、高校までに既習の英語知識を確認するとともに、それらの知識を英語によるコミュニケーションへ接続するための運用能力を身に付けることを目的としています。英語をコミュニケーション言語として活用するためには、英語のリズムや発音といった音声的な特徴を理解することも重要ですが、英文の構造を理解し、その理解に基づいて発話したり、聞き取ったりすることも重要です。そのためにこの授業ではコミュニケーション活動に必要な基本的な文型や文法事項の理解を進めていきます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な文法知識を使いながら、英文の構造を説明できる</li> <li>2. 基本的な文法に従った英文を作ることができる</li> <li>3. ポーズ（息継ぎ）やストレス（強弱）を意識しながら、英語を発話することができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この「英語I」は共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の習得に関わっています。また後期に開講される「英語II」はこの科目の上級編です。さらにこれらの科目で培った基礎力を使って「実用英語」などで英検やTOEICなどの試験対策にチャレンジしましょう。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業の概要の説明、自己診断テスト	特にありません。		
第2回	Be動詞	Unit 1 の Warm Up (p.9) を教員の指示に従って行ってください。		
第3回	一般動詞	Unit 2 の Warm Up (p.13) を教員の指示に従って行ってください。		
第4回	未来形・進行形	Unit 3 の Warm Up (p.17) を教員の指示に従って行ってください。		
第5回	助動詞	Unit 4 の Warm Up (p.21) を教員の指示に従って行ってください。		
第6回	Review 1	テキストの p.24-27		
第7回	小テスト 1	ここまでの復習を行うこと。		
第8回	能動態・受動態	Unit 5 の Warm Up (p.29) を教員の指示に従って行ってください。		
第9回	動名詞・分詞	Unit 6 の Warm Up (p.33) を教員の指示に従って行ってください。		
第10回	不定詞	Unit 7 の Warm Up (p.37) を教員の指示に従って行ってください。		
第11回	現在完了形・過去完了形（1） 完了時制の考え方	Unit 8 の Warm Up (p.41) を教員の指示に従って行ってください。		
第12回	現在完了形・過去完了形（2） 現在完了と過去完了	授業内で指示します。		
第13回	Review 2	テキストの p.24-27		
第14回	小テスト 2	ここまでの復習をしてください。		
第15回	前期のまとめ	前期の復習をしてください。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験期間中に60分間、100点満点のテストを行います。詳細は授業内で指示します。			
レポート	なし			
小テスト等	20% 学期中に2回実施します。			
成果発表	なし			
受講態度他	20%（その中に授業外の課題10%を含みます）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業には必ず指定された授業前課題を行って参加してください。。また上記以外の課題を授業内で指定することもあります。			
教科書	芝垣茂 他 『始めよう！文法からコミュニケーションへ』 CENGAGE Learning			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーカー	担当教員の他科目のシラバス参照	メールアドレス		

授業科目	英語Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	Stewart・Kamada・大場(明)・蒲原・林(恵)・萱嶋・太田・船津・田口・石井・緒方・行時・麻生(雅)		単位	1
授業の目的と概要	この授業は、「英語Ⅰ」に続いて、英語による自己表現能力の養成を目的とします。英語運用の基礎となるのは、基本的な文法ルールに従って英文を作ったり、そうしたルールに従って英文を理解することです。そのために、前期の「英語Ⅰ」に引き続きこの授業でも基本的な文法事項の確認から始めます。そのうえで、そうした文法知識を実際のコミュニケーションに活用する方法を学びます。英作文やプレゼンテーションなどを通して、コミュニケーションの実践も重視します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的な文法知識を使いながら、英文の構造を説明できる</li> <li>2. 基本的な文法に従った英文を作ることができる</li> <li>3. 簡単な英文を使いながら口頭で自己表現できる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この「英語Ⅱ」は共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の習得に関わっています。また後期に開講される「英語Ⅰ」はこの科目の初級編です。さらにこれらの科目で培った基礎力を使って「実用英語」などで試験にチャレンジしましょう。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業の概要の説明、自己診断テスト	特にありません		
第2回	名詞・冠詞・数詞	Unit 9 の Warm Up (p.49) を教員の指示に従って行ってください。		
第3回	代名詞	Unit 10 の Warm Up (p.53) を教員の指示に従って行ってください。		
第4回	形容詞・副詞	Unit 11 の Warm Up (p.57) を教員の指示に従って行ってください。		
第5回	前置詞	Unit 12 の Warm Up (p.61) を教員の指示に従って行ってください。		
第6回	Review 3	テキスト p.64-67		
第7回	小テスト 1	ここまでの復習をしてください。		
第8回	接続詞	Unit 13 の Warm Up (p.69) を教員の指示に従って行ってください。		
第9回	比較	Unit 14 の Warm Up (p.73) を教員の指示に従って行ってください。		
第10回	関係代名詞・関係副詞(1) 関係詞と接続詞	Unit 15 の Warm Up (p.77) を教員の指示に従って行ってください。		
第11回	関係代名詞・関係副詞(2) 関係代名詞と関係副詞の使い分け	授業内で指示します		
第12回	仮定法	Unit 16 の Warm Up (p.81) を教員の指示に従って行ってください。		
第13回	Review 4	テキスト p.84-87		
第14回	小テスト 2	ここまでの復習をしてください。		
第15回	後期のまとめ	後期の復習をしてください。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験期間中に60分間、100点満点のテストを行います。詳細は授業内で指示します。			
レポート	なし			
小テスト等	20% 学期中に2回実施します。			
成果発表	なし			
受講態度他	20% (その中に授業外の課題10%を含みます)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業には必ず指定された授業前課題を行って参加してください。また上記以外の課題を授業内で指定することもあります。			
教科書	芝垣茂 他 『始めよう！文法からコミュニケーションへ』 CENGAGE Learning			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバス参照、または授業の前後	メールアドレス		

授業科目	英語Ⅲ	開講時期	前期
担当教員	松崎 徹・J.Stewart・田口 純・L.Aoki	単 位	1
授業の目的と概要	本授業は、英語によるコミュニケーションのための読み・書きに関する能力をさらに向上させることを目的とします。「英語I」・「英語II」によって培われた能力（文法・構文・語彙などを包括する総合的・基礎的な英語能力）を土台として、少人数の演習形式により、文法事項を含む読解問題に取り組み、英文法の理解力と英文読解能力や、英語を使った情報の受信及び発信（リーディング・ライティング）に関する実践的な能力の向上を目指します。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実践的な文法知識を使いながら、英文の構造を説明できる。</li> <li>2. 実践的な文法に従った英文を作ることができる。</li> <li>3. 実践的な文法力を生かして、英文を正しく読解することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この「英語Ⅲ」は共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の習得に関わっています。さらにこの科目で培った基礎力を使って英検やTOEICなどの試験対策授業「実用英語」にもチャレンジしましょう。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要の説明、自己診断テスト	自己診断テストで間違った箇所を中心とした復習	
第2回	Unit 1 Jobs & Careers 現在時制	教科書 pp.14-16 までの Exercise の予習	
第3回	Unit 2 Entertainment 可算名詞/不可算名詞	教科書 pp.22-24 までの Exercise の予習及び Unit 1 の既習事項の復習	
第4回	Unit 3 Work Schedule 前置詞	教科書 pp.26-28 までの Exercise の予習及び Unit 2 の既習事項の復習	
第5回	Unit 4 Health & Fitness 過去時制	教科書 pp.32-34 までの Exercise の予習及び Unit 3 の既習事項の復習	
第6回	Unit 7 Recruitment 現在完了	教科書 pp.50-52 までの Exercise の予習及び Unit 4 の既習事項の復習	
第7回	Unit 8 Customer Needs 接続詞	教科書 pp.56-58 までの Exercise の予習及び Unit 7 の既習事項の復習	
第8回	小テスト #1 & Review	第7回までの復習	
第9回	Unit 10 Advertising 比較	教科書 pp.68-70 までの Exercise の予習及び小テストの復習	
第10回	Unit 11 Factory Tour 受動態	教科書 pp.74-76 までの Exercise の予習及び Unit 10 の既習事項の復習	
第11回	Unit 12 Money Matters 動名詞/不定詞	教科書 pp.68-70 までの Exercise の予習及び Unit 11 の既習事項の復習	
第12回	Unit 13 Leisure 助動詞	教科書 pp.86-88 までの Exercise の予習及び Unit 12 の既習事項の復習	
第13回	Unit 14 Environment 分詞	教科書 pp.92-94 までの Exercise の予習及び Unit 13 の既習事項の復習	
第14回	Unit 15 Business Tie-Up 関係詞節	教科書 pp.98-100 までの Exercise の予習及び Unit 14 の既習事項の復習	
第15回	小テスト #2 & Review	第9回から第14回までの復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	60% 定期試験期間中に60分間、100点満点のテストを行います。詳細は授業内で指示します。		
レポート	なし		
小テスト等	20% 学期中に2回実施します。		
成果発表	なし		
受講態度他	20% 予習等に不備があると減点します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業には必ず指定された授業前課題を行って参加してください。		
教科書	Rober Hickling / Misato Usukura 『English Switch』 金星堂		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	担当教員の他科目のシラバス参照	メールアドレス	

授業科目	英語IV	開講時期	後期
担当教員	J. Stewart	単位	1
授業の目的と概要	本授業は、主として英語によるオーラル・コミュニケーション能力の実践的能力養成を目的とする。英語を聞き・話す力の基礎となる知識・技能を習得するため、リズムやイントネーションといった英語の音声的な特徴や脱落や同化などの音声変化についての基礎知識、さらにはコミュニケーション活動に必要な文法力や作文力の養成をはかる。少人数の演習形式により、具体的な言語の使用場面を想定したペアワークなどを取り入れながら授業を展開する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実践的な文法知識を使いながら、英文の構造を説明できる</li> <li>2. 実践的な文法に従った英文を作ることができる</li> <li>3. 実践的な文法力を生かして口頭で自己表現できる</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この「英語IV」は共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の習得に関わっています。さらにこの科目で培った基礎力を使って「実用英語」などで英検やTOEICなどの試験対策にチャレンジしましょう。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 授業の概要の説明		特にありません	
第2回 現在時制		Unit 1, pp. 12-13, 17 を教員の指示に従って行ってください。	
第3回 可算名詞/不可算名詞		Unit 2, pp. 18-19, 23 を教員の指示に従って行ってください。	
第4回 前置詞		Unit 3, pp. 24-25, 29 を教員の指示に従って行ってください。	
第5回 過去時制		Unit 4, pp. 30-31, 35 を教員の指示に従って行ってください。	
第6回 現在完了		Unit 7, pp. 48-49, 53 を教員の指示に従って行ってください。	
第7回 小テスト		ここまでの復習をしてください。	
第8回 接続詞		Unit 8, pp. 54-55, 59 を教員の指示に従って行ってください。	
第9回 比較		Unit 10, pp. 66-67, 71 を教員の指示に従って行ってください。	
第10回 受動態		Unit 11, pp. 72-73, 77 を教員の指示に従って行ってください。	
第11回 動名詞/不定詞		Unit 12, pp. 78-79, 83 を教員の指示に従って行ってください。	
第12回 助動詞		Unit 13, pp. 84-85, 89 を教員の指示に従って行ってください。	
第13回 分詞		Unit 14, pp. 90-91, 95 を教員の指示に従って行ってください。	
第14回 関係詞節		Unit 15, pp. 96-97, 101 を教員の指示に従って行ってください。	
第15回 小テスト/前期のまとめ		ここまでの復習をしてください。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	40% 定期試験期間中に60分間、100点満点のテストを行う。詳細は授業内で指示する。		
レポート	なし		
小テスト等	20%		
成果発表	20%		
受講態度他	20% (その中に授業外の課題10%を含む)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業には必ず指定された授業前課題を行って参加すること。また上記以外の課題を授業内で指定することもありうる。		
教科書	『English Switch ストーリーで学ぶ大学基礎英語と TOEIC テスト頻出語彙』 金星堂		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワーカー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス	

授業科目	英語音声学 I	開講時期	前期
担当教員	石井 康仁	単位	2
授業の目的と概要	<p>本講では、英語のコミュニケーションをスムーズに行うために必要な、正しく自然な発音をすることを学ぶ。具体的には、英語の母音、子音、アクセント、リズム、イントネーションなどに関する解説と発音練習を通して、正しい自然な発音を習得する。また、それに留まらず、英会話のビデオ等の練習・暗記を通して、英語表現を習得し、英語コミュニケーション力を高める。</p> <p>全体として、英語におけるコミュニケーション・スキルの向上を目指す。</p> <p>毎時間、英語の発音に関する解説の後に発音練習を行う。英語の各母音・子音から始めて、強勢（アクセント）、リズム、イントネーションまで、解説と発音練習を通して、正しい英語の発音を身につける。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の発音がある程度の自信をもってできる。</li> <li>2. 英語の発音に関する解説を十分理解できる。</li> <li>3. 英語の発音の仕方を人にも説明できる。</li> <li>4. 英語のリスニングも上達する。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は、学科のDP1. 英語の聴き、話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができる、を達成目標とする科目である。英語の正しい標準的な発音ができるようになることは、英語を話す際に必要なことである。他のEnglish Communication ProgramのConversation等の科目にも大いにかかわる科目で、ある程度の成果を上げることが大事である。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	音声学とはどのような学問か？ 発音練習	予習、発音練習	
第2回	英語の母音について（前方母音） 発音練習	予習、発音練習	
第3回	英語の母音について（後方母音） 発音練習	予習、発音練習	
第4回	英語の母音について（中央母音、二重母音など） 発音練習	予習、発音練習	
第5回	英語の子音について（破裂音） 発音練習	予習、発音練習	
第6回	英語の子音について（摩擦音、破擦音） 発音練習	予習、発音練習	
第7回	英語の子音について（側音、反転音） 発音練習	予習、発音練習	
第8回	英語の子音について（鼻音、半母音、気音） 発音練習	予習、発音練習	
第9回	英語の強勢（アクセント）について（語強勢） 発音練習	予習、発音練習	
第10回	英語の強勢（アクセント）について（文強勢） 発音練習	予習、発音練習	
第11回	英語のリズムについて 発音練習	予習、発音練習	
第12回	英語のイントネーションについて（下降調） 発音練習	予習、発音練習	
第13回	英語のイントネーションについて（上昇調） 発音練習	予習、発音練習	
第14回	英語のリズムとイントネーションについて 発音練習	予習、発音練習	
第15回	まとめ	全体の復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	期末試験（筆記および発音の試験）の評価に基づく（50%）		
レポート	-		
小テスト等	英会話ビデオ教材の表現暗記テストを随時行い、その結果を評価に入れる（30%）		
成果発表	-		
受講態度他	講義回数3分の2以上の出席が必須；欠席・遅刻などここで評価（20%）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎時間出席して解説を聞き、発音練習を重ねることで発音が上達するのである。</p> <p>この科目は必修科目なので、病欠などを除き、可能な限り出席し、1回で合格するよう努力してほしい。</p> <p>欠席が増えると発音も上達せず、単位も取れないので、注意すること。</p>		
教科書	「英語の発音について」（講義資料プリント）他		
指定図書	-		
参考図書	『英語音声学活用辞典』（2004）、『英語音声学辞典』（2005）（共に日本英語音声学会編）		
オフィスアワー	火曜日 5 限目、水曜日 4 限目	メールアドレス	

授業科目	英語音声学Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	石井 康仁	単位	2
授業の目的と概要	<p>本講では、英語のコミュニケーションをスムーズに行うために必要な、正しく自然な発音をすることを学ぶ。具体的には、英語の母音、子音、アクセント、リズム、イントネーションなどに関する解説と発音練習を通して、正しい自然な発音を習得する。</p> <p>また、それに留まらず、英会話ビデオ教材の英語表現の暗記・習得を通して、英語コミュニケーション力の向上を目指す。一般の学生もだが、特に教職生は得るところが多い。</p> <p>シャドウイングの練習を含めて、全体として、英語におけるコミュニケーション・スキルの向上を目指す。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の発音がある程度の自信をもってできる。</li> <li>2. 英語の発音に関する解説を十分理解できる。</li> <li>3. 英語の発音の仕方を人にも説明できる。</li> <li>4. 英語のリズニングも上達する。</li> </ol>		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>この科目は、便宜上学科のDP3. 英語を媒介とする言語・文化・文学について概要を説明できる、を達成目標とする科目である。英語の正しい標準的な発音ができるようになることは、英語を話す際に必要なことである。他のEnglish Communication ProgramのConversation等の科目にも大いにかかわる科目で、英語音声学Iに引き続き受講する学生は、更に発音練習をして上達することが期待される。また、それを理論的にも理解し、人に教えることもできるようになる。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	第1章：強勢(アクセント)：英語の強勢の特徴	プリント予習	
第2回	第2章：語強勢(アクセント)	プリント予習	
第3回	第2章：文強勢(アクセント)	プリント予習	
第4回	第3章：強勢とイントネーション（上昇調）	プリント予習	
第5回	第3章：強勢とイントネーション（下降調）	プリント予習	
第6回	第4章：リズム（英語のリズムの特徴）	プリント予習	
第7回	第4章：リズムとイントネーション	プリント予習	
第8回	第5章：音変化（同化）	プリント予習	
第9回	第5章：母音の注意すべき点	プリント予習	
第10回	第6章：子音の注意すべき点	プリント予習	
第11回	第6章：イントネーションの注意すべき点	プリント予習	
第12回	第7章：イギリス英語とアメリカ英語の発音の違い	プリント予習	
第13回	第7章：アメリカ英語とオーストラリア英語の発音の違い	プリント予習	
第14回	第8章：総合練習	プリント予習	
第15回	まとめ	全体の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	期末試験の評価による（50％）		
レポート	-		
小テスト等	英会話ビデオ教材の内容暗記の小テストを随時行い、その結果を評価に入れる（30％）		
成果発表	-		
受講態度他	授業への参加態度、遅刻・欠席などここで評価する（20％）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎時間出席して解説を聞き、発音練習を重ねることで発音と聴解力が上達するのである。</p> <p>この科目は選択科目であるが、病欠などを除き、可能な限り出席し、合格するよう努力してもらいたい。</p> <p>欠席が増えると発音も上達せず、単位も取れないので、注意すること。3分の2の出席が必須。</p>		
教科書	日本英語音声学会（編）『英語の発音と聴解』（プリント配布）		
指定図書	-		
参考図書	『英語音声学活用辞典』（2004）、『英語音声学辞典』（2005）（共に日本英語音声学会編）		
オフィスアワー	月曜日 13：30～15：00、火曜日 13：30～14：40	メールアドレス	

授業科目	英語科教育法Ⅰ【中等教職】		開講時期	前期
担当教員	山内 ひさ子		単 位	4
授業の目的と概要	本授業では、中学校や高等学校の英語教育に関する基本的な知識を身につけ、4年次に教育実習における授業を実践できる指導力を目指すことを目的とする。英語教育全般について理解した後、学習指導要領、言語要素や指導や4技能の活動、授業展開、教材・教具、評価やテストなど、中学生や高校生を指導する際に必要な要素を学んでいく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語教育について理論・実践の両面から包括的な理解ができる。</li> <li>2. 情報収集や情報発信の手段として各種の情報機器を効果的に活用できる。</li> <li>3. さまざまな英語教授法を学び、それらを活用して学習指導案に工夫することができる。</li> <li>4. 教育実習を視野に置いて、学習指導案作成に欠かせない要素を理解することができる。</li> <li>5. 異文化理解や国際理解にまで視野を広げた考え方ができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の指導法 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等を組み入れ、実践的な指導力を身につけさせるような具体的な事項を授業計画に示す</li> <li>② 学習指導要領に掲げる事項に即して包括的な内容を含む</li> <li>③ 国語および英語については中学及び高校の内容をバランスよく取り扱う</li> <li>④ 教科書、参考図書などに、学習指導要領の利用を記載すること</li> </ol> </li> <li>・教育課程の意義及び編成の方法</li> </ul>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション(授業の進め方など)		復習	
第2回	成長する英語教師を目指して		予習 pp. 6-12	
第3回	日本の英語教育と世界		予習 pp. 13-25	
第4回	英語教育課程		予習 pp. 26-36	
第5回	言語習得と教授法		予習 pp. 37-45	
第6回	学習者論		予習 pp. 46-58	
第7回	教師論		予習 pp. 59-72	
第8回	音声と文字の指導		予習 pp. 73-84	
第9回	リスニング指導		予習 pp. 85-98	
第10回	スピーキング指導		予習 pp. 99-115	
第11回	リーディング指導		予習 pp. 116-135	
第12回	ライティング指導		予習 pp. 136-152	
第13回	文法指導		予習 pp. 153-163	
第14回	語彙と辞書指導		予習 pp. 164-178	
第15回	授業のまとめ		復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40%：テキストからの出題。			
レポート	40%：テキスト内の課題。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%：積極的な授業参加を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自ら主体的に活動するように心がけてください。 教員志望の学生が遅刻することは厳禁です。特別な事情がない限り、遅刻は欠席とみなします。 まずは自分自身の英語力を高めるように努力してください。			
教科書	JACET教育問題研究会編『新しい時代の英語科教育の基礎と実践 --成長する英語教師を目指して--』三修社 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』『高等学校学習指導要領解説 外国語編』など全部で7点			
指定図書	①村野井仁ほか著『統合的英語科教育法』成美堂 ②木村松雄編著『新版英語科教育法』学文堂 ③高梨庸雄・高橋正夫著『新・英語教育学概論』金星堂			
参考図書	授業中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		



授業科目	英語科教育法Ⅱ【中等教職】		開講時期	後期
担当教員	山内 ひさ子		単 位	4
授業の目的と概要	「英語科教育法Ⅱ」では、「英語科教育法Ⅰ」で学んだ中学・高校の英語教員として必要な英語科指導法についての理論をもとにして、英語科指導法に基づいての具体的な実践例を学習し、実際に模擬授業を体験することにより、確実にこれを習得して4年生の教育実習に備えることを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教案作成、教具・補助教材の利用の仕方などについて理解を体得する。</li> <li>・模擬授業を実践することにより、英語で授業が出来る技能及び態度を身に付ける。</li> </ul>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の指導法 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等を組み入れ、実践的な指導力を身につけさせるような具体的な事項を授業計画に示す</li> <li>② 学習指導要領に掲げる事項に即して包括的な内容を含む</li> <li>③ 国語および英語については中学及び高校の内容をバランスよく取り扱う</li> <li>④ 教科書、参考図書などに、学習指導要領の利用を記載すること</li> </ul> </li> <li>・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）</li> </ul>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション(授業の進め方など)、学習指導要領の研究		復習	
第2回	検定教科書の研究、指導案の作成、情報機器・教材の活用		復習	
第3回	グループによる模擬授業(1) 中学校での授業実践		講義の際に指示します	
第4回	グループによる模擬授業(2) 高等学校での授業実践		講義の際に指示します	
第5回	ペアによる模擬授業(1) 中学校1年生への授業実践		講義の際に指示します	
第6回	ペアによる模擬授業(2) 中学校2年生への授業実践		講義の際に指示します	
第7回	ペアによる模擬授業(3) 中学校3年生への授業実践、高等学校1年生への授業実践		講義の際に指示します	
第8回	個別による模擬授業(1) 中学校1年生1学期の授業実践		講義の際に指示します	
第9回	個別による模擬授業(2) 中学校1年生2学期の授業実践		講義の際に指示します	
第10回	個別による模擬授業(3) 中学校2年生1学期の授業実践		講義の際に指示します	
第11回	個別による模擬授業(4) 中学校2年生2学期の授業実践		講義の際に指示します	
第12回	個別による模擬授業(5) 中学校3年生1学期の授業実践		講義の際に指示します	
第13回	個別による模擬授業(6) 中学校3年生2学期の授業実践		講義の際に指示します	
第14回	個別による模擬授業(7) 高等学校1年生1学期の授業実践		講義の際に指示します	
第15回	教育実習に向けて・まとめ		復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%：模擬授業。			
レポート	20%：模擬授業の評価。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%：積極的な授業参加を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自ら主体的に活動するように心がけてください。 教員志望の学生が遅刻することは厳禁です。特別な事情がない限り、遅刻は欠席とみなします。 まずは自分自身の英語力を高めるように努力してください。			
教科書	JACET教育問題研究会編『新しい時代の英語科教育の基礎と実践 --成長する英語教師を目指して--』三修社 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』『高等学校学習指導要領解説 外国語編』など全部で7点			
指定図書	①教育実習を考える会編『教育実習生のための学習指導案作成教本 英語科【改訂版】』蒼丘書林 ②米山朝二著『新編 英語教育指導法事典 改訂新版』研究社 ③石渡一秀ほか著『現場で使える教室英語 重要表現から授業への展開まで』三修社			
参考図書	授業中に適宜紹介する。			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	英語概説	開講時期	前期
担当教員	那須 省一	単位	2
授業の目的と概要	「英語」の歴史的成り立ちを理解する。世界共通語の観のある「英語」は今や“World Englishes”とも呼ばれ、世界各地で15億人以上が話す言語だ。その現実には英国や米国で話されている「英語（米語）」だけでなく、多くの「英語」が流布しているのが実情だ。生きた躍動する「英語」の過去と現在を知り、未来の「英語」についても考察する。		
到達目標	国際社会で通用する正しい「英語」とは何かを知る。なぜ英国の「英語」が米国では独自の「変遷」をしたのか理解できるようになる。それは日本人の「英語」に自信を持つことでもある。英語への理解を深め、コミュニケーション能力を高める。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	授業の進め方の説明。まず国際語としての英語の現状把握。全世界で15億人以上が話す言語の現実の姿を紹介する。	授業で指示	
第2回	英語のルーツを探る。英語は西暦五世紀にゲルマン人がブリテン島に移住して、言語としての原型が作られたと言われる。1066年のノルマン・コンクエストで苦難に。	授業で指示	
第3回	語彙の増大1 ギリシア語やラテン語、フランス語の語彙の増加。類義語を数多く作ることにつながる。	授業で指示	
第4回	語彙の増大2 外来語への反発も起きる。英語純正運動と呼ばれる。シェイクスピアの登場。	授業で指示	
第5回	語彙の増大3 inro (印籠) や hara-kiri (切腹) など日本語からの借用語も多数。今も多数の日本語表現が英語に採り入れられている。	授業で指示	
第6回	綴り字・発音・文法の変化1 night やthroughなど、英語の綴り字と発音の不規則性は我々には悩ましい。歴史的背景を考える。ここでそれまでの授業を振り返る小テストを実施。	授業で指示	
第7回	綴り字・発音・文法の変化2 can という助動詞が「能力・可能」から「許可」を意味するようになるなど、文法の変化過程を考える。	授業で指示	
第8回	英語の広がり 英語が今の「繁栄」を示しているのは新大陸アメリカが世界の表舞台に登場してきたからだ。アメリカ建国に伴い、英語はさらなる変化・発展を遂げる。	授業で指示	
第9回	現代の英語1 20世紀以降に英語がどのように変容してきているのかを考える。時代の変遷がよくうかがえる新語リストを参考に。	授業で指示	
第10回	現代の英語2 インターネット時代の到来で英語にも大きな変化が生じている。ポリティカルコレクトネスの考慮も一因となっている。	授業で指示	
第11回	世界の諸英語1 西アフリカ・ナイジェリアでは独特の英語が話されている。いわゆるビジン英語だ。これを理解するのは至難の業。ここで2回目の小テストを実施。	授業で指示	
第12回	世界の諸英語2 シンガポールで話されている英語は「シングリッシュ」(Singlish) と呼ばれるほどの独特のもの。	授業で指示	
第13回	世界の諸英語3 オーストラリアやニュージーランドなどその他の英語を母国語とする国々の英語の特長を見る。	授業で指示	
第14回	英語の未来 21世紀、英語はこれからどういふ変遷を遂げるのだろうか。学者によっては英米の英語(米語)は将来、全く理解不能の異なった言語になるという予測も。	授業で指示	
第15回	まとめ	授業で指示	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	70%		
レポート	なし		
小テスト等	20%		
成果発表	なし		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の際に告知。 筑女ネットの時間割欄に毎回、授業後にアップする授業のまとめを熟読してください。		
教科書	「英語の歴史」(中公新書・寺澤盾著)		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に適宜紹介する		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	英語学概説	開講時期	前期
担当教員	石井 康仁	単 位	2
授業の目的と概要	この授業では、ことばを話す際どのようなことが頭の中で起きているのかという視点、つまり心理言語学の観点から、ことばがどのように作りだされるのか、英語とはどのような言語であるかということを理解する。また、毎回英会話のビデオを使って、音声面からことばとしての英語に慣れるための練習を行う。全体として、英語学、言語学の基礎を身につけるとともに、なぜそうなるのかという問題意識を持ち、論理的思考力を身につけるようにすると同時に、英語コミュニケーション力の基礎作りをする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語に関するさまざまな研究分野の基本的な研究成果が理解できる。</li> <li>2. 英語コミュニケーションの基礎が身に付いている。</li> <li>3. 全体的に英語とはどのような言語か理解できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この「英語学概説」は英語学科のDP3「英語を媒介とする言語・文化・文学について概要を説明できる」の中で、特に英語を言語一般、また人間の言語能力一般の中で理解し、概要を説明できるようにする基礎の部分に当たる。英語文法論、英語音声学、英語発達史、世界英語概説等の科目に関わり、その基礎的な説明も行う。</p> <p>具体的には、ことばとコミュニケーションということから説き起こし、心理言語学の視点から、英語という言語の成り立ちを解説する。また、英語の歴史的背景から、イギリス英語とアメリカ英語、その他の英語の違いなどについて後半で学ぶ。更に、実践的な英会話の練習を通して、英語コミュニケーション力の基礎作りをする。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション、英語の辞書の話、英会話練習	なし	
第2回	ことばとコミュニケーション、英会話練習	教科書予習	
第3回	動物のコミュニケーションについて（ビデオ）、英会話練習	教科書予習	
第4回	心理言語学という視点、英会話練習	教科書予習	
第5回	ことばの生成1（意味概念）、英会話練習	教科書予習	
第6回	ことばの生成2（言語への変換1：語彙・文法の処理、その1）、英会話練習	教科書予習	
第7回	ことばの生成3（言語への変換1：語彙・文法の処理、その2）、英会話練習	教科書予習	
第8回	ことばの生成4（言語への変換2：音韻の処理）、英会話練習	教科書予習	
第9回	ことばの理解のプロセス、英会話練習	教科書予習	
第10回	英語の歴史1（英語発達の背景の社会史）、英会話練習	プリント予習	
第11回	英国の世界的発展の礎について（ビデオ）、英会話練習	教科書予習	
第12回	英国の世界的発展の礎について（ビデオ）、英会話練習	教科書予習	
第13回	英語の歴史2（英語発達の歴史）、英会話練習	教科書予習	
第14回	世界の英語（英国、アメリカ、オーストラリア等の英語）、英会話練習	教科書予習	
第15回	まとめ	全体の復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	期末試験の評価に基づく（70%）		
レポート	-		
小テスト等	随時英会話の表現の小テストを行う（10%）		
成果発表	-		
受講態度他	授業回数3分の2以上の出席が必須；欠席・遅刻をここで評価（20%）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この科目は必修科目であり、専門科目の基礎となる科目なので、毎時間休まず出席して理解を深め、1回で合格できるよう頑張ってください。きちんと出席すれば、内容が理解できるし、英語学・言語学の基礎もしっかり頭に入るので、まずは出席すべし。		
教科書	石井康仁『英語学序説』、他プリント教材		
指定図書	-		
参考図書	随時紹介		
オフィスアワー	火曜日5限目、水曜日4限目	メールアドレス	

授業科目	英語教育演習 I		開講時期	後期
担当教員	石井 康仁		単位	2
授業の目的と概要	<p>この講義では、4年次の教育実習と教員採用試験に備えて、まず教育実習の準備としての心構えと授業の行いかたを学ぶ。そのために、実習校への依頼の仕方、学校訪問でのあいさつ、打ち合わせ、取るべき態度、授業のための教材研究、授業の準備、実際の授業の展開、教案の書き方などを学ぶ。</p> <p>更に、お互いに実際に模擬授業を行って、その成果について話し合う機会をもつ。</p> <p>また、4年次の7月に行われる教員採用試験に向けて、昨年度各県で出題された教員採用試験等の問題を用いて、英語力を高める。</p> <p>ビデオを用いて具体的に教育実習のやりかたや授業の展開のしかたを学ぶ。</p> <p>また、各都道府県で教員採用試験に実際に出題された問題等を解く練習をしながら、教員採用試験に備えて英語力を高める。</p>			
到達目標	<p>①教育実習の目的を知る。</p> <p>②英語の授業の進め方を身につける。</p> <p>③中学・高校の指導要領を理解して、授業に活用できるようにする。</p> <p>④教員採用試験に備えて、英語力を高める。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は、教職生向けに学科で設けた科目である。教職専門科目に関わりがあることは勿論のこと、学科のDPの全てに関わりがあるが、特にDP1. 英語の聴き、話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができる、DP2. 社会生活に必要な英語の基本的文書や資料を読み、書くことができる、DP3. 英語を媒介とする言語・文化・文学について概要を説明できる、の科目群に関わりが深い。それら多くの科目で学んだことを更に深めて、教職に就くことができるよう実力をつけ、能力を伸ばすことが目的である。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	教育実習の目的、依頼の仕方、学校訪問	教科書 p p . 9 - 1 9		
第2回	教育実習に備えて：教育実習の心構え、教育実習の打ち合わせ	教科書 p p . 2 1 - 3 0		
第3回	過去の教員採用試験を解く練習①	-		
第4回	過去の教員採用試験を解く練習②	-		
第5回	英語の授業：授業の流れ	教科書 p p . 3 3 - 5 0		
第6回	教材研究	教科書 p p . 5 2 - 7 2		
第7回	授業中の留意事項	教科書 p p . 7 4 - 8 8		
第8回	教授方法：授業の展開のしかた	教科書 p p . 9 0 - 1 0 2		
第9回	教授方法：文法の教え方	教科書 p p . 1 0 7 - 1 0 9		
第10回	教案の書き方	教科書 p p . 1 1 0 - 1 1 3		
第11回	10回までのまとめ	これまでの復習		
第12回	模擬授業実施	教案作成		
第13回	過去の教員採用試験を解く練習③	-		
第14回	過去の教員採用試験を解く練習④	-		
第15回	まとめ	これまでの総復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	期末試験としてレポートを課す（30%）			
小テスト等	-			
成果発表	模擬授業により評価する（50%）			
受講態度他	授業への参加態度（出欠・遅刻などを含む）により評価（20%）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	実際に教員になるという意欲、覚悟をもって臨んでもらいたい			
教科書	田中誠『英語科教育実習生のためのミニマム・エッセンシャルズ』（プリント資料配布）			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	月曜日 13:30～15:00、火曜日 13:30～14:40	メールアドレス		

授業科目	英語教育演習Ⅱ	開講時期	前期
担当教員	石井 康仁	単位	2
授業の目的と概要	この授業では、「英語教育演習Ⅰ」に引き続き、教育実習に向けて点検すべきところを洗い出して、確実に自分のものとするように復讐する。また、7月から実施される教員採用試験の受験に備えて、過去出題された問題等を解きながら、英語の力をさらに伸ばすことを目指す。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育実習の準備として、模擬授業をある程度自信を持って行える。</li> <li>2. 中学・高校の英語の指導要領を理解して、(模擬)授業に活かせる。</li> <li>3. 教員採用試験に合格できるような英語力を培い、生徒にも文法事項など説明できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、将来教職に就きたいと望むならば是非とも身につけてもらいたいことを学びます。上記の英語教育演習Ⅰの他、英語文法論、英語音声学、英語文学等、いくつもの科目と関わりがあり、これらの科目で学んだことを各自復讐することも求められます。この科目だけでなく、多くの科目で学んだことの積み上げで教育実習、教員採用試験の結果が出ることを肝に銘じ、心して精進してほしい。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション		講義の際、課題を出します(教員採用試験過去出題問題等)	
第2回 英語科教育法のおさらい①(発表形式)		講義の際、課題を出します(教員採用試験過去出題問題等)	
第3回 英語科教育法のおさらい②(発表形式)		講義の際、課題を出します(教員採用試験過去出題問題等)	
第4回 教授法ビデオ		講義の際、課題を出します(教員採用試験過去出題問題等)	
第5回 模擬授業		講義の際、課題を出します(教員採用試験過去出題問題等)	
第6回 模擬授業		講義の際、課題を出します(教員採用試験過去出題問題等)	
第7回 教授法ビデオ		講義の際、課題を出します(教員採用試験過去出題問題等)	
第8回 模擬授業		講義の際、課題を出します(教員採用試験過去出題問題等)	
第9回 模擬授業		講義の際、課題を出します(教員採用試験過去出題問題等)	
第10回 教授法ビデオ		講義の際、課題を出します(教員採用試験過去出題問題等)	
第11回 教員採用試験対策		講義の際、課題を出します(教員採用試験過去出題問題等)	
第12回 教員採用試験対策		講義の際、課題を出します(教員採用試験過去出題問題等)	
第13回 教員採用試験対策		講義の際、課題を出します(教員採用試験過去出題問題等)	
第14回 教員採用試験対策		講義の際、課題を出します(教員採用試験過去出題問題等)	
第15回 まとめ		全体の復讐	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	50% 期末試験		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	30% 授業中の発表、模擬授業の出来栄		
受講態度他	20% 授業への参加態度(積極性)で評価		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出欠に関しては、大学の教務規程にある通り。就職活動等で休み過ぎないように注意すること。また、就職活動の証明書等をきちんと提出すること。		
教科書	プリント教材		
指定図書	なし		
参考図書	授業で随時紹介		
オフィスアワー	火曜日 5 限目、水曜日 4 限目	メールアドレス	

授業科目	英語教育研究セミナーA		開講時期	前期
担当教員	田口 純		単 位	2
授業の目的と概要	読み応えのある英文を精読することにより、英語の構造や文体について理解力をさらに深めて、論理的思考力に磨きをかけ、英語のリーディング力を発展させていくとともに、自ら英文を味わおうとする主体性を身につけることを目的とする。また、計画的な学習を継続できる力を養うことも目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の構造や文体を理解することができる。</li> <li>・英検2級レベル以上のリーディング力を身につけることができる。</li> <li>・文学作品の理解を深めることができる。</li> <li>・計画的な学習を継続できる力を養うことができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション(授業の進め方など)	指定された資料をよく読んでおく		
第2回	映画視聴	視聴した映画の感想をまとめておく		
第3回	英文精読の仕方	指定された資料をよく読んでおく		
第4回	Unit 1 The Curriculum	Unit 1 pp. 4-7 の課題を行っておく		
第5回	Unit 2 The Syllabus (1)	Unit 2 pp. 8-11 の課題を行っておく		
第6回	Unit 3 The Syllabus (2)	Unit 3 pp. 12-15 の課題を行っておく		
第7回	Unit 4 The Student	Unit 4 pp. 16-19 の課題を行っておく		
第8回	Unit 5 Our First Class in My Freshman Year	Unit 5 pp. 20-23 の課題を行っておく		
第9回	Unit 6 The First Tuesday (1)	Unit 6 pp. 24-27 の課題を行っておく		
第10回	Unit 7 The First Tuesday (2)	Unit 7 pp. 28-31 の課題を行っておく		
第11回	Unit 8 The Seventh Tuesday (1)	Unit 8 pp. 32-35 の課題を行っておく		
第12回	Unit 9 The Seventh Tuesday (2)	Unit 9 pp. 36-39 の課題を行っておく		
第13回	Unit 10 The Eighth Tuesday (1)	Unit 10 pp. 40-43 の課題を行っておく		
第14回	映画視聴	視聴した映画の感想をまとめておく		
第15回	授業のまとめ	指定された課題をよく準備しておく		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%：テキストからの出題。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	30%：担当箇所の発表。			
受講態度他	20%：積極的な授業参加を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	精読テキストは、自分の担当箇所をよく予習をして、わからないところを明らかにしておくこと。			
教科書	Mitch Albom著 『モリー先生との火曜日』 南雲堂			
指定図書	江川泰一郎著 『英文法解説 改訂三版』 金子書房 安藤貞雄著 『現代英文法講義』 開拓社			
参考図書	授業中に適宜紹介する。			
オフィスワー	月曜・火曜の昼休み、またはメールで相談	メールアドレス		

授業科目	英語教育研究セミナーB		開講時期	後期
担当教員	田口 純		単 位	2
授業の目的と概要	読み応えのある英文を精読することにより、英語の構造や文体について理解力をさらに深めて、論理的思考力に磨きをかけ、英語のリーディング力を発展させていくとともに、自ら英文を味わおうとする主体性を身につけることを目的とする。また、計画的な学習を継続できる力を養うことも目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語の構造や文体を理解することができる。</li> <li>・英検2級レベル以上のリーディング力を身につけることができる。</li> <li>・文学作品の理解を深めることができる。</li> <li>・計画的な学習を継続できる力を養うことできる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション(授業の進め方など)	指定された資料をよく読んでおく		
第2回	Tuesdays with Mrrrie: Unit 11 The Eighth Tuesday (2)	Unit 11, pp. 44-47 の課題を行っておく		
第3回	Tuesdays with Mrrrie: Unit 12 The Tenth Tuesday	Unit 12, pp. 48-51 の課題を行っておく		
第4回	Tuesdays with Mrrrie: Unit 13 The Thirteenth Tuesday	Unit 13, pp. 52-55 の課題を行っておく		
第5回	Tuesdays with Mrrrie: Unit 14 Graduation	Unit 14, pp. 56-59 の課題を行っておく		
第6回	Tuesdays with Mrrrie: Unit 15 Conclusion	Unit 15, pp. 60-63 の課題を行っておく		
第7回	本文精読 : A Small, Good Thing (1)	pp. 1-5の課題を行っておく		
第8回	本文精読 : A Small, Good Thing (2)	pp. 6-10の課題を行っておく		
第9回	本文精読 : A Small, Good Thing (3)	pp. 11-15の課題を行っておく		
第10回	本文精読 : A Small, Good Thing (4)	pp. 16-20の課題を行っておく		
第11回	本文精読 : A Small, Good Thing (5)	pp. 21-25の課題を行っておく		
第12回	本文精読 : A Small, Good Thing (6)	pp. 26-30の課題を行っておく		
第13回	本文精読 : A Small, Good Thing (7)	pp. 31-35の課題を行っておく		
第14回	本文精読 : A Small, Good Thing (8)	pp. 36-42の課題を行っておく		
第15回	授業のまとめ	指定された課題をよく準備しておく		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50% : テキストからの出題。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	30% : 担当箇所の発表。			
受講態度他	20% : 積極的な授業参加を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	精読テキストは、自分の担当箇所をよく予習をして、わからないところを明らかにしておくこと。			
教科書	Mitch Albom著 『モリー先生との火曜日』 南雲堂 (前期からの継続) Raymond Carver著 『味のある話』 南雲堂			
指定図書	江川泰一郎著 『英文法解説 改訂三版』 金子書房 安藤貞雄著 『現代英文法講義』 開拓社			
参考図書	授業中に適宜紹介する。			
オフィスワー	月曜・水曜の昼休み、またはメールで相談	メールアドレス		

授業科目	英語圏女性作家研究	開講時期	後期
担当教員	大城 房美	単位	2
授業の目的と概要	<p>「女性」の自己表現の歴史における「主体性」というテーマの重要性を理解する。19世紀から現代まで、女性の「主体性」の問題を扱ってきたアメリカ女性作家たちと作品、それぞれの問題意識とアプローチの方法を概観する。</p> <p>発表の準備          &lt;レジュメの準備&gt;          2種類の発表を行う。          ・各講義のテーマとなる発表          ・Small presentations (10分程度) 英語圏女性作家・作品紹介</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「女性」と「主体性」のつながりを理解する。</li> <li>2. 代表的な英語圏女性作家や作品に関する知識を深める。</li> <li>3. 「女性」と「主体性」表現というテーマで、自分自身の視点から問題提起ができるようになる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	◇女性の生き方を考える副専攻授業科目（副専攻課程の修了証書取得）の一つ。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 Introduction		講義の際に指示します。	
第2回 Margaret Fullerの女性解放論『19世紀の女性』		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第3回 Margaret Fullerの女性解放論『19世紀の女性』		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第4回 Kate Chopin 女性の自立とThe Awakening (『目覚め』)		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第5回 Kate Chopin 女性の自立とThe Awakening (『目覚め』)		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第6回 Betty Friedan第二波フェミニズムの創成『女らしさの神話』		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第7回 Betty Friedan第二波フェミニズムの創成『女らしさの神話』		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第8回 Kate Millettと「権力」への挑戦 『性の政治学』		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第9回 Kate Millettと「権力」への挑戦 『性の政治学』		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第10回 Wakako YamauchiとHisae Yamamoto 日系アメリカ人二世女性作家と母と娘の問題		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第11回 Wakako YamauchiとHisae Yamamoto 日系アメリカ人二世女性作家と母と娘の問題		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第12回 Alice Walker 黒人女性作家 『カラー・パープル』		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第13回 Alice Walker 黒人女性作家 『カラー・パープル』		予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第14回 film showing		講義の際に指示します。	
第15回 まとめ		講義の際に指示します。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	70% 講義の1/3を超える欠席をした場合はFinal Examの受験資格無し		
レポート	受講態度に含む		
小テスト等	なし		
成果発表	受講態度に含む		
受講態度他	30% 講義での活動(受講状況・発表・宿題など)を含む		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*講義中私語・居眠りをする学生は欠席扱い(退出)。          *各発表は、テキストをよく読んで、自分の言葉でまとめる。          *発表のレジュメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価しない。          *作家や作品についての発表を担当する際、参考資料は複数あげること(例えば、Wikipediaのみに頼った発表や報告は不可)。</p>		
教科書	『行動するフェミニズム アメリカの女性作家と作品』		
指定図書	The Norton Anthology of Literature by Women: THE TRADITIONS IN ENGLISH, Third Edition (Norton, 2007) 『反知性の帝国』、『アメリカ文学にみる女性改革者たち』、		
参考図書	The Cambridge Guide to Women's Writing in English、『日系アメリカ人の歴史社会学』、『ハーストン、ウォーカー、モリスン』、『新しい女性の創造』、『性の政治学』、『19世紀の女性』、『フェミニズム小説論』、『イメージとしての女性』		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	



授業科目	英語圏児童文学研究	開講時期	後期
担当教員	宮原 牧子	単位	2
授業の目的と概要	<p>本年度は主に英国の児童文学について学びます。  19世紀以降、純粋に「子ども」のために書かれた物語を中心に取り上げます。  毎回、作品の一部を読んでいきます。  英語で書かれた文章を正確に読むことはもちろん、ひとつひとつの作品に込められたメッセージを読み取りましょう。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英米の児童文学についての知識を深めること</li> <li>・文学を通して英語が生まれた国の伝統や文化を学ぶこと</li> <li>・文学作品に触れ、何を感じ、何を考えるか、自分の言葉で発信することができるようになること</li> </ul> <p>毎回プリントを配布します。A4のファイルを用意してください。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	イントロダクション ―児童文学の誕生―	次回の予習（配布されたプリントを読むこと）	
第2回	児童文学の新しい流れ1 ―ルイス・キャロル 『不思議の国のアリス』―	作品カードの記入と次回の予習（配布されたプリントを読むこと）	
第3回	児童文学の新しい流れ2 ―C. キングズリー 『水の子』―	作品カードの記入と次回の予習（配布されたプリントを読むこと）	
第4回	児童文学の新しい流れ3 ―G. マクドナルド 『北風のうしろの国』	作品カードの記入と次回の予習（配布されたプリントを読むこと）	
第5回	R. L. スティーブンソン 『宝島』とR. キプリング 『ジャングル・ブック』	作品カードの記入と次回の予習（配布されたプリントを読むこと）	
第6回	B. ボター 『ピーター・ラビット』	作品カードの記入と次回の予習（配布されたプリントを読むこと）	
第7回	A. A. ミルン 『クマのプーさん』	作品カードの記入と次回の予習（配布されたプリントを読むこと）	
第8回	C. S. ルイス 『ナルニア国物語』	作品カードの記入と次回の予習（配布されたプリントを読むこと）	
第9回	J. R. R. トールキン 『指輪物語』	作品カードの記入と次回の予習（配布されたプリントを読むこと）	
第10回	R. ダール 『チョコレート工場の秘密』ほか	作品カードの記入と次回の予習（配布されたプリントを読むこと）	
第11回	D. W. ジョーンズ 『魔法使いハウルと火の悪魔』	作品カードの記入と次回の予習（配布されたプリントを読むこと）	
第12回	J. K. ローリング 『ハリー・ポッター』	作品カードの記入とプレゼンの準備	
第13回	プレゼン（1）	プレゼン準備	
第14回	プレゼン（2）	プレゼン準備	
第15回	プレゼン（3）	プレゼンの報告書を作成	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	10% プレゼンの内容を報告書にまとめて提出します。詳細については初回の授業でご説明します。		
小テスト等	なし		
成果発表	70% プレゼン		
受講態度他	20% 講義への参加度・受講態度などで評価します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回、プリントを配布します。必ず予習をして講義にのぞんでください。  辞書は必ず持ってきてください。  欠席が全講義回数の3分の1を超えた場合は、受講資格を認めません。  初回に作品カードを配布します。カードは毎回持ってきてください。</p>		
教科書	―		
指定図書	―		
参考図書	授業中ご紹介します。		
オフィスアワー	水曜 3限目	メールアドレス	

授業科目	英語圏歴史概説		開講時期	前期
担当教員	後藤 真希		単位	2
授業の目的と概要	<p>イギリスの歴史、文化について、特に近世以降の連合王国体制に注目しながら学ぶ。 現代イギリスを理解するために連合王国体制がどのように形成され、変遷し、現代にいたるのかについて把握し、これからの可能性についても考える。こうした歴史の流れを概観しつつ、現代との関連からより重要だと思われる項目を取り上げて考察する。</p> <p>また、現代とのつながりを意識することによって、「歴史を学ぶ」ということ自体についても考察を深める。</p>			
到達目標	<p>イギリスの歴史、文化についての基本的な理解を深める。 歴史、外国史を学ぶ意味を理解する。 物事を多角的な視野にもとづいて把握し、客観的に判断する力を身につける。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP3「英語を媒介とする言語・文化・文学について概要を説明できる。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス 歴史を学ぶということ 時代区分	別途指示		
第2回	英語圏とイギリス帝国	別途指示		
第3回	チューダー王朝の誕生	別途指示		
第4回	宗教改革	別途指示		
第5回	プロテスタント国家の成立	別途指示		
第6回	連合王国への道	別途指示		
第7回	ウェールズ	別途指示		
第8回	同君連合	別途指示		
第9回	スコットランド合同	別途指示		
第10回	帝国の中のスコットランド	別途指示		
第11回	分断されるアイルランド	別途指示		
第12回	アイルランドの選択	別途指示		
第13回	帝国と植民地	別途指示		
第14回	連合王国の行方	別途指示		
第15回	総評	別途指示		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70% 定期試験(論述)による。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 授業態度による。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>講義は配布プリントにそって行います。 板書をしますので、ノートを取ってください。 自分の意見をいう機会には積極的に参加するなど、自主性をもって授業に臨んでください。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	<p>川北稔・木畑洋一編、『イギリスの歴史 帝国＝コモンウェルスのあゆみ』、有斐閣アルマ、2000年。 井野瀬久美恵編、『イギリス文化史』昭和堂、2010年。</p>			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	英語で読む現代アジア	開講時期	後期
担当教員	妻 海善	単位	2
授業の目的と概要	<p>日本とアジアの最近の事情、経済関係、経済協力関係を英語で触れることによって、英語の読解力を養いながら、日本経済、日本とアジアとの経済関係についての理解力を高めるのが目的である。</p> <p>①日本とアジア諸地域の最新のニュースを読み、内容を解釈するとともに、英語の経済用語を説明する。  ②用語の確認→. 図表を分析する→. 内容をまとめる→内容の解釈順に進める。  ③日本やアジアにおける毎年の最新論点を扱うので、シラバスの内容は参考にしてください。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最近の日本やアジア諸国の経済・社会の事情を英語文献で楽しむことができる。</li> <li>2. 日本とアジアとの経済関係や経済協力、貿易についての理解を広げることができる。</li> <li>3. 統計表を見るスキルを身につけることができる。</li> <li>4. 経済用語を英語で確認することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、アジア文化学科のDP1、「アジア地域で使用されている諸言語の一つを用いて、基礎的な会話ができる」を充足するための科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	授業概要、ノートのまとめ方説明、教材のプリント配布説明	次回の授業のため、英語文章をノートにまとめておく。	
第2回	日本経済の論点-1	為替レートと日本経済を調べる	
第3回	日本経済の論点-2	原油価格と日本経済を調べる	
第4回	日本社会の論点	少子高齢化の対策を調べる	
第5回	韓国経済の論点-1	韓国と北朝鮮との関係を調べる	
第6回	韓国経済の論点-2	韓国の雇用政策を調べる	
第7回	韓国社会の論点	韓国の少子高齢化対策を調べる	
第8回	中国経済の論点-1	中国の海外インフラ輸出を調べる	
第9回	中国経済の論点-2	中国人民元のSDR通貨を調べる	
第10回	中国社会の論点	中国の女性の社会進出と少子化を調べる	
第11回	アセアン経済の論点	RECの内容と期待効果を調べる	
第12回	アセアン社会の論点	REC参加国の特徴を調べる	
第13回	インドの経済・社会論点	インドの経済成長戦略を調べる	
第14回	西アジアの経済・社会論点	原油価格暴落と西アジア経済関係を調べる	
第15回	まとめ	全体内容のまとめ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	0%		
小テスト等	小テスト(ノート持ち込み可) 100%		
成果発表	0%		
受講態度他	0%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>①B5サイズのノートを準備し毎回の授業の内容をまとめておく。</p> <p>②小テストには手書きノートのみ持ち込可</p> <p>③欠席が5回を超えると無資格になる(就職活動、病気、その他の理由による欠席も5回の中でカウントする)。</p>		
教科書	プリントは毎回の授業時に配布する		
指定図書	特になし		
参考図書	特になし。		
オフィスアワー	月、水曜日の昼休み	メールアドレス	

授業科目	英語発達史	開講時期	前期
担当教員	松崎 徹	単 位	2
授業の目的と概要	本講座では、英語の歴史を学ぶことによって、現代英語に見られる興味深い言語現象に対して納得がいく説明ができるようになることを目的とします。具体的には、国際語としての地位を確立したといえる英語の、その誕生（5世紀）から中世（15世紀）に至るまでの歴史を概観していきます。特に、他のヨーロッパ諸言語と比べて現代英語の際立った特徴とされる（1）語尾変化の少なさ（2）語彙の豊富さ、の2点に焦点を当て、こうした特徴がフランス語を中心とした諸外国語の影響によるものが大きいことを具体例を通して学んでいきます。その過程で、英語の発達の歴史はいわば異質の言語・文化との交流の歴史であることも同時に学んでいきます。本講座を受講することで、現代英語に見られる興味深い現象や謎の多くに納得のいく答えが見いだせるようになり、英語の歴史を学ぶ真の目的とは現代英語をより深く理解ができるようになることだと実感できるでしょう。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の起源について具体的に説明ができる。</li> <li>2. 英語がどのようにして滅亡の危機に陥り、それをどうやって切り抜けることができたかを説明できる。</li> <li>3. 他のヨーロッパの言語の語尾変化と比較して英語の語尾変化がなぜ簡略化しているかを説明できる。</li> <li>4. 他のヨーロッパの言語の語彙と比較して英語の語彙がなぜ格段に豊富なのかを説明できる。</li> <li>5. 将来の英語の姿・形を予測できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	講義内容の説明および導入問題の解答と解説	導入問題の復習	
第 2回	はしがき & はじめに	予習 pp. i-iv; pp. 1-2	
第 3回	英語史の概観（1）	予習 pp. 3-4	
第 4回	英語史の概観（2）	予習 pp. 5-9	
第 5回	印欧祖語（1）	予習 p. 12	
第 6回	印欧祖語（2）	予習 pp. 12-13	
第 7回	印欧祖語（3）	予習 pp. 13-14	
第 8回	古英語の文献・特殊文字（1）	予習 pp. 20-21	
第 9回	古英語の文献・特殊文字（2）	予習 pp. 22-25	
第10回	海賊と英語（1）	予習 pp. 51-52	
第11回	海賊と英語（2）	予習 pp. 53-56	
第12回	海賊と英語（3）	予習 pp. 53-56	
第13回	ノルマン人の征服と英語（1）	予習 p. 69	
第14回	ノルマン人の征服と英語（2）	予習 pp. 70-71	
第15回	ノルマン人の征服と英語（3）	予習 pp. 71-74	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	80% 定期試験		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20% 授業への積極的な参加（口頭による復習を含む）を考慮します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎講義の冒頭に前回の講義内容に関する質問を口頭でおこないますので、講義開始時までに前回の講義内容を復習しておいてください。		
教科書	児馬修 『ファンダメンタル英語史』 ひつじ書房		
指定図書	なし		
参考図書	授業の中で適宜紹介します。		
オフィスアワー	水：3講目、金：4講目	メールアドレス	

授業科目	英語文学A I	開講時期	前期
担当教員	大城 房美	単 位	2
授業の目的と概要	<p>作品を批評分析するための基礎的能力を養うことを目的とする。</p> <p>本講義は、世界中で広く読まれているThe Wonderful Wizard of Oz(1900) (『オズの不思議な魔法使い』)を読みながら、英語表現の特徴をつかむと共に、文学用語、作家、作品、などの基礎知識を確認しながら、テーマを読み取り、考察する力を養う。発表の準備&lt;レジュメの準備&gt;2種類の発表を行う。(1)各講義のテーマとなる発表(2)small presentations (10分) 英語圏作家・作品紹介</p> <p>(1)は、担当グループがハンドアウトを準備。以下の1,2,3,4,5をまとめハンドアウトを作成し、講義が始まる前に配付すること</p> <p>1. あらすじ(キーワードは英語も併記) 2. 登場人物(英語を併記)の特徴や性格・役割 3. ポイント (4つ以上を英語(+日本語)で抜き出し[ページと行]、それぞれなぜ重要か、どのように面白いかなど説明) 4. みんなに考えて欲しいこととその理由を2つずつ</p>		
到達目標	<p>1. 作品を分析・批評するための基礎力を習得する。</p> <p>2. 文学用語、作家、作品など文学に関する基礎知識を習得する。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英語学科DP3：英語を媒介とする言語・文化・文学について概要を説明できる。</p> <p>関連する科目 英語文学B 英語文学研究 イギリス文学史 アメリカ文学史 英語圏女性作家研究 英語文学特殊講義</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 Introduction		講義の際に指示します。	
第2回 文学の基礎 & Frank Baum and The Wonderful Wizard of Oz		講義の際に指示します。	
第3回 作品鑑賞・分析 発表 pp. 1-16		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第4回 作品鑑賞・分析 発表 pp. 17-32		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第5回 作品鑑賞・分析 発表 pp. 33-49		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第6回 作品鑑賞・分析 発表 pp. 50-65		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第7回 作品鑑賞・分析 発表 pp. 66-81		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第8回 作品鑑賞・分析 発表 pp. 82-114		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第9回 作品鑑賞・分析 発表 pp. 115-128		予習・復習。	
第10回 作品鑑賞・分析 発表 pp. 129-146		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第11回 作品鑑賞・分析 発表 pp. 147-158		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第12回 作品鑑賞・分析 発表 pp. 159-171		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第13回 film showing(The Wizard of Oz)前半		講義の際に指示します。	
第14回 film showing(The Wizard of Oz)後半		講義の際に指示します。	
第15回 まとめ		講義の際に指示します。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	70% 講義の1/3を超える欠席をした場合はFinal Examの受験資格無し		
レポート	受講態度に含む		
小テスト等	なし		
成果発表	受講態度に含む		
受講態度他	30% 講義での活動(受講状況・発表・宿題など)を含む		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*講義中私語・居眠りをする学生は欠席扱いにします(退出)。</p> <p>*各発表は、テキストをよく読んで、自分の言葉でまとめてください。</p> <p>*発表のレジュメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価は与えません。</p> <p>* 作家や作品についての紹介は、指定図書を利用してください。</p> <p>*講義の進み具合によって講義計画を適宜調整します。また、時間割外の講義や補講などが入る可能性があります。講義での連</p>		
教科書	The Wonderful Wizard of Oz (Penguin) 『オズの不思議な魔法使い』 (松柏社)		
指定図書	『20世紀英語文学辞典』(研究社) 『オックスフォード世界英語文学大事典』(DHC) 『英語文学事典』(ミネルヴァ書房)		
参考図書	オズシリーズ(図書館所有、早川文庫版) 『ファンタジー文学入門』 『いま、ファンタジーにできること』(河出書房新社)		
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス	

授業科目	英語文学AⅡ	開講時期	後期
担当教員	大城 房美	単 位	2
授業の目的と概要	<p>作品を批評分析するための基礎的能力を養うことを目的とする。アニメ化でも親しまれたファンタジーの名作を英語原作で読み、英語表現の特徴をつかみ、テーマを読み取り考察する基礎力を養う。また各講義で、各自が作品・作家紹介を行い、英語文学作品や作家についての基礎的な知識を養う。発表の準備&lt;レジュメの準備&gt;2種類の発表を行う。(1)各講義のテーマとなる発表 (2)small presentations (10分) 英語圏作家・作品紹介 (1)は、担当グループがハンドアウトを準備。(担当グループは1, 2, 3, 4, 5をまとめハンドアウトを作成し、講義が始まる前に配付すること 1. あらすじ(キーワードは英語も併記) 2. 登場人物(英語を併記)の特徴や性格・役割 3. ポイント (4つ以上を英語(+日本語)で抜き出し[頁と行]、それぞれなぜ重要か、どのように面白いかなど説明) 4. みんなに考えて欲しいこととその理由を2つずつ (ディスカッショントピック) 5. コメント</p>		
到達目標	<p>1. 作品を分析・批評するための基礎的な力を習得する。 2. 文学用語、作家、作品など文学に関する基礎知識を習得する。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>英語学科DP3：英語を媒介とする言語・文化・文学について概要を説明できる。 英語運用能力、英語学・文学/文化など専門の基礎力の育成</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 Introduction		講義の際に指示します。	
第2回 ファンタジーというジャンル		発表者はハンドアウト準備。	
第3回 作品鑑賞・分析 Chapter 1		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第4回 作品鑑賞・分析 Chapter 2		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第5回 作品鑑賞・分析 Chapter 3		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第6回 作品鑑賞・分析 Chapter 4		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第7回 作品鑑賞・分析 Chapter 5		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第8回 中間のまとめ film showing (Howl's Mving Castle) (1)ディスカッション		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第9回 作品鑑賞・分析 Chapter 6		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第10回 作品鑑賞・分析 Chapter 7		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第11回 作品鑑賞・分析 Chapter 8		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第12回 作品鑑賞・分析 Chapter 9		予習・復習。発表者はハンドアウト準備。	
第13回 作品鑑賞・分析 Chapter 10		予習・復習。	
第14回 作品鑑賞・分析 Chapter 11		予習・復習。	
第15回 まとめ		まとめ: film showing (Howl's Mving Castle) (2)ディスカッション	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	70% 講義の1/3を超える欠席をした場合はFinal Examの受験資格無し		
レポート	受講態度に含む		
小テスト等	なし		
成果発表	受講態度に含む		
受講態度他	30% 講義での活動(受講状況・発表・宿題など)を含む		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*講義中私語・居眠りをする学生は欠席扱いにします(退出)。 *各発表は、テキストをよく読んで、自分の言葉でまとめてください。 *発表のレジュメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価は与えません。 *作家や作品についての紹介は、指定図書を利用してください。 *講義の進み具合によって講義計画を適宜調整します。また、時間割外の講義や補講などが入る可能性があります。講義での連</p>		
教科書	Howl's Mving Castle (Greenwillow Books, 2008) 『魔法使いハウルと火の悪魔』(徳間文庫)		
指定図書	『コロンビア大学現代文学・文化批評用語辞典』(松柏社)、Women In Science Fiction And Fantasy, 『現代批評理論のすべて』(新書館)、		
参考図書	Articles on Films Directed by Hayao Miyazaki (Hephaestus), Diana Wynne Jones(Equ P, ), JThe Bedford Glossary of Critical and Literary Terms (Palgrave)、『ファンタジー文学入門』、『今、ファンタジーにできること』(ル=グウィン著)		
オフィスアワー	講義の前後(予約を入れること)	メールアドレス	

授業科目	英語文学B I	開講時期	前期
担当教員	宮原 牧子	単位	2
授業の目的と概要	<p>イギリスの伝承バラッドを読みます。「バラッドとは、中世以来ヨーロッパ各地で、吟遊詩人や一般庶民によって創られ、口承伝承としてうたい継がれてきた物語歌を指します。」(テキスト、「まえがき」より) ワーズワース、キーツ、デニスンといったイギリスのあらゆる詩人たちの作品の土台とも言える「伝承バラッド」の世界を、簡単な現代英語で楽しみましょう。「国際化」や「グローバル化」といった言葉が氾濫する現代、必要なのは英語のテクニックだけではありません。他国の文化や歴史を知ることとはとても大切なことです。イギリスの詩を通して英語が生まれた国の伝統に触れ、国際化の一步を踏み出しましょう。</p> <p>①詩を正確に読み、日本語に訳します。 ②時代背景や詩人の伝記について学び、詩の内容について考えます。 ③詩を鑑賞し、自分の言葉で発信します。 ④意見の交換をします。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語で書かれた詩を精読すること</li> <li>・詩を通して、その作品が書かれた時代背景などを理解すること</li> <li>・詩の内容について、自分の言葉で語ること</li> <li>・教養としての詩についての知識を深めること</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、英語学科のDP3「英語を媒介とする言語・文化・文学について概要を説明できる」の達成に関わる科目です。「英語文学BII」や「イギリス文学史」、また3年生科目の「英語文学研究」の理解を深めるための知識を習得します。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	イントロダクション 一詩を読むということの意味— 英語を正確に読むことに必要な技能とは何かについて考えます	第2回の予習 (テキストpp. 10-12)	
第2回	「バーバラ・アレン」 一辞書を正確にひくことの大切さ— 辞書の特性を知り、使いこなしましょう	第3回の予習 (テキストpp. 21-23)	
第3回	「エドワード」 一詩の形式について— 散文とは異なる、韻文の特性について考えます	第4回の予習 (テキストpp. 52-54)	
第4回	「ロード・ランダル」 一詩の背景を知る(1)— 詩が生まれた時代背景について考えます	第5回の予習 (テキストpp. 18-20)	
第5回	「サー・バトリック・スペンス」 一詩の背景を知る(2)— 時代背景を考慮して作品を鑑賞します	第6回の予習 (テキストpp. 33-35)	
第6回	「魔性の恋人」 一詩を味わう— 詩を鑑賞し、自分の考えを言葉にしてみましょう	中間レポートの作成・提出	
第7回	中間レポート講評・返却・指導	第8回の予習 (テキストpp. 42-44と配布されたプリント)	
第8回	中間レポート講評・返却・指導「二羽のカラス」 一パロディの文学的意味— 「二羽のカラス」から派生した「三羽のカラス」を読み、パロディとは何かについて考えます	第9回の予習 (テキストpp. 15-17と配布されたプリント)	
第9回	「二人の兄弟」 一伝承バラッドの普遍性— 「二人の兄弟」と同じテーマの作品の鑑賞をしてみましょう	第10回の予習 (配布されたプリント)	
第10回	伝承バラッドからバラッド詩へ (1) 一詩人が書いたバラッド— 「二人の兄弟」を元に書かれたヴィクトリア朝時代のバラッド詩を読みます	第11回の予習 (テキストpp. 58-60と配布されたプリント)	
第11回	「うたびとトマス」 伝承バラッドからバラッド詩へ (2) 一文化の伝承— 「うたびとトマス」を元に書かれたロマン派詩人J. キーツのバラッド詩を読みます	第12回の予習 (配布されたプリントを完成させる)	
第12回	伝承バラッドからバラッド詩へ (3) 一伝統の変奏— 「うたびとトマス」を元に書かれたヴィクトリア朝詩人R. キプリングのバラッド詩を読みます	第13回の予習 (配布されたプリントを完成させる)	
第13回	期末レポートの作成準備 作品とテーマの選定します	期末レポートの作成準備・資料の収集	
第14回	期末レポートの構成 レポートの構成について、議論します	期末レポートの作成	
第15回	まとめ 一期末レポート提出に向けて— レポートの構成・内容について個別に検討します	期末レポートの作成・提出	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	—		
レポート	30% 中間レポート 50% 期末レポート		
小テスト等	—		
成果発表	—		
受講態度他	20% 講義への参加度・受講態度などで評価します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして講義にのぞんでください。 辞書は毎回必ず持ってきてください。 欠席が全講義回数の3分の1を超えた場合は、受講資格を認めません。		
教科書	中島久代他著『イギリス伝承バラッド』英光社		
指定図書	なし		
参考図書	講義中、必要に応じてご紹介いたします。		
オフィスアワー	火曜日4限	メールアドレス	

授業科目	英語文学BⅡ	開講時期	後期
担当教員	宮原 牧子	単 位	2
授業の目的と概要	前期で学んだ英詩の基礎を土台に、ロマン派からヴィクトリア朝時代にかけて書かれたイギリスの詩を読み、鑑賞します。 詩を正確に読み、自分の言葉で詩を論じましょう。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語で書かれた詩を正確に読むことができるようになること</li> <li>詩を通して、その作品が書かれた時代背景などを理解すること</li> <li>詩の内容について、自分の言葉で論じることができるようになること</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、英語学科のDP3「英語を媒介とする言語・文化・文学について概要を説明できる」の達成に関わる科目です。「イギリス文学史」や「英語文学研究」の理解を深めるための知識を習得します。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション	第2回の予習	
第2回	「詩を語る言葉を知る」 「感受性とは何か」、「自分の言葉で語ることの大切さ」について学びましょう	第3回の予習（テキストp.13、および配布されたプリント）	
第3回	「詩を精読し 詩人の意図を探る（1）」 ブレイクの詩作の意義を考えてみましょう	第4回の予習（テキストp.1, 7、および配布されたプリント）	
第4回	「詩を精読し 詩人の意図を探る（2）」 ワーズワスの詩作の意義を考えてみましょう	第5回の予習（テキストp.16, 17、および配布されたプリント）	
第5回	「詩を精読し 詩人の意図を探る（3）」 テニソンの詩作の意義を考えてみましょう	第6回の予習（配布されたプリントを完成させる）	
第6回	「詩を精読し 自分の言葉で語る（1）」 詩を読み、グループごとに思ったこと・考えたことについて意見交換してきましょう	第7回の予習（配布されたプリントを完成させる）	
第7回	レポートの書き方 「中間レポートを書くにあたって」	中間レポートの作成・提出	
第8回	中間レポート講評・返却・指導	第9回の予習（テキストp.30を訳す）	
第9回	「詩を精読し 詩人の意図を探る（4）」 バーンズの詩作の意義を考えてみましょう	第10回の予習（テキストp.35を訳す）	
第10回	「詩を精読し 詩人の意図を探る（5）」 バイロンの詩作の意義を考えてみましょう	第11回の予習（テキストpp.36-38を訳す）	
第11回	「詩を精読し 自分の言葉で語る（6）」 キーツの詩を読み、グループごとに思ったこと・考えたことについて意見交換してきましょう	第12回の予習（テキストpp.67-73を訳す）	
第12回	「詩を精読し 自分の言葉で語る（7）」 ロッセッティの詩を読み、グループごとに思ったこと・考えたことについて意見交換してきましょう	第13回の予習（配布されたプリントを完成させる）	
第13回	ロマン派、およびヴィクトリア朝時代の詩人・詩作品についてのまとめ	第14回の予習（配布されたプリントを完成させる）	
第14回	期末レポートの作成準備	第15回の予習（配布されたプリントを完成させる）	
第15回	期末レポートの内容確認	期末レポートの作成・提出	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30% 中間レポート 50% 期末レポート		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20% 講義への参加度・受講態度などで評価します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして講義にのぞんでください。 辞書は毎回必ず持ってきてください。 欠席が全講義回数数の3分の1を超えた場合は、受講資格を認めません。		
教科書	『Palgrave's Golden Treasury』（南雲堂）		
指定図書	なし		
参考図書	講義中、必要に応じてご紹介します。		
オフィスアワー	水曜日 3限	メールアドレス	



授業科目	英語文学概説		開講時期	前期
担当教員	高森 暁子		単位	2
授業の目的と概要	<p>「英語文学」(Literature in English)と呼ばれるものの今日的な多様性を踏まえつつ、英語で書かれた20世紀後半以降の作品を、「越境」をテーマにグローバルな観点から捉えます。様々な地理的、文化的あるいは政治的バックグラウンドを持つ作者たちが、どのような理由で英語で作品を書き、それぞれのアイデンティティが作品にどのような形で反映されているのかを考察します。そして、それが読者である私たちに日本語の翻訳として伝えられていることの意味についても考えます。授業でとりあげる文学作品は20世紀後半以降に創作されたもので、英語圏出身者の手になるものに限らず、英語を本来母国語としない作家が表現手段として英語で書いたものも含まれます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「英語文学」と呼ばれるものの今日的状況を説明することができる。</li> <li>2. 個々の作品が、どのような文化や社会状況を描いているのか具体的に述べることができる。</li> <li>3. 個々の作品のテーマについて議論することができる。</li> <li>4. 文学作品を翻訳や原文で読むことを通じて、文章表現力や読解力を向上させることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション(「英語文学」の多様性について)	現在のイギリスの作家について調べる		
第2回	イギリスの英語文学(2000年以降)	課題、およびイギリスの文学賞について調べる		
第3回	イギリスの英語文学(1990年代)	課題、および「英連邦」の国々について調べる		
第4回	イギリスの英語文学(1960-80年代)	課題、および現在のアメリカの作家について調べる		
第5回	アメリカの英語文学(1990年代以降)	課題、および1970年代、80年代のアメリカの社会の状況について調べる		
第6回	アメリカの英語文学(1970~80年代)	課題、および1960年代のアメリカの社会の状況について調べる		
第7回	アメリカの英語文学(1960年代)	課題、およびカナダの文学のテーマや作家について調べる		
第8回	カナダの英語文学	課題、およびカリブ海地域の国々やその歴史について調べる		
第9回	カリブ海地域の英語文学(2000年以降)	課題、およびカリブ海地域の言語や作家について調べる		
第10回	カリブ海地域の英語文学(1960-90年代)	課題、およびベトナム戦争とその後の移民問題について調べる		
第11回	アジアの英語文学	課題、およびアフリカの民族と国家の現状について調べる		
第12回	アフリカの英語文学	課題、「外国から祖国を描く」作家について調べる		
第13回	ディアスポラ文学について	課題、文学作品のレポートの書き方について調べる		
第14回	レポートの書き方について	後期レポートのテーマを決める		
第15回	まとめ	後期レポートの作成準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート 50%、毎回の授業に関する課題 40%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業では主に翻訳を使用します。英語力は履修の必要条件ではありません。6回欠席すると学則に従って無資格になります。欠席者はその回の課題を提出することができません。したがって欠席が多いと課題分の点数も低くなります。遅刻・早退は2回で欠席1回とみなします。</p>			
教科書	なし。 毎回プリント資料を用意します。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜 5 時間目	メールアドレス		

授業科目	英語文学研究	開講時期	前期
担当教員	大城 房美	単位	2
授業の目的と概要	アメリカ文学の新ジャンルとして注目を集めるGraphic Novelからは、現在多くの自伝的作品が生み出されている。発表以来、世界で数多くの賞を獲得してきたFun Home(2006)はその代表的作品である。著者は突然の父の死をきっかけに、権威主義的な父との難しかった関係を振り返る。そこにみえてきたのは、セクシャルマイノリティとしての、そして、文学を愛するものとしての共感と繋がりがあった。いかに父が娘としての自分に言葉を与え、その存在を受け止めようとしていたかが、丁寧に迎られてゆく。本作品を通して、現代の自己、そして自己表現のあり方について考察する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文学用語、作家、作品など文学に関する知識を深める。</li> <li>2. 作品を「分析・批評」する視点を持つ。</li> <li>3. 作品から自分なりの「テーマ」を立て、問題提起を行うことができるようになる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 Introduction	講義の進め方についての説明など	特になし。	
第2回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 1前半	発表担当者はハンドアウト作成。	
第3回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 1後半	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第4回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 2前半	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第5回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 2後半	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第6回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 3前半	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第7回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 3後半	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第8回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 前4半	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第9回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 4後半	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第10回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 5前半	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第11回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 5後半	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第12回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 6前半	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第13回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	Chapter 6後半	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第14回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	最終章前半	予習・復習。発表担当者はハンドアウト作成。	
第15回、作品分析・鑑賞、ディスカッション	最終章 まとめ	特になし。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	70% 講義の1/3を超える欠席をした場合はFinal Examの受験資格無し		
レポート	受講態度に含む		
小テスト等	なし		
成果発表	受講態度に含む		
受講態度他	30% 講義での活動(受講状況・発表・宿題など)を含む		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 4回欠席で受講態度に関する点数はなくなります。</li> <li>* 講義中私語・居眠りをする学生は欠席扱い(退出)。</li> <li>* 各講義で英文を読みます。予習や発表担当を怠る学生は、受講資格はありません。</li> <li>* 発表のレジメ・宿題などにネットなどからのコピーが無断で挿入されている場合は、評価は与えない。</li> <li>* 補講(時間外講義)の連絡に注意すること。</li> </ul>		
教科書	Alison Bechdel, Fun Home (購入すること)		
指定図書	『ファン・ホーム』(小学館集英社プロダクション) Graphic Women(Columbia UP 2010) Teaching the Graphic Novel (MLA 2009)		
参考図書	Women's Review of Books (8号館図書館)、Graphic Women(Columbia UP 2010) Teaching the Graphic Novel (MLA 2009) Maus (Penguin)、Comics, Manga and Graphic Novels: a History of Graphic Narrati		
オフィスワー	講義の前後(予約を入れること)	メールアドレス	

授業科目	英語文学研究	開講時期	後期
担当教員	宮原 牧子	単位	2
授業の目的と概要	<p>イギリスの詩を読み、作品を分析・批評します。</p> <p>作品を批評する自分の言葉には責任を持たなければなりません。先行研究について調べ、研究者の言葉を引用したり、参考にしたりする際の方法を学びましょう。</p> <p>さらに、自分の視点で作品を分析します。自分だけの視点でオリジナリティのあるテーマを決め、詩を論じましょう。</p>		
到達目標	<p>1. 文学用語、詩人、作品に関する知識を深める。</p> <p>2. 作品を「分析・批評」する視点を持つ。</p> <p>3. 作品について自分なりの「テーマ」決め、先行研究を踏まえた上で論じる。</p> <p>各回、担当者を決め、「作品の紹介・先行研究の紹介・自分のテーマ・作品の批評」を発表します。担当する作品は、第2回から第4回目までの講義の中から選ぶか、独自にテキストから選びます。担当者が発表する作品は、受講者全員が前もって読んでおきましょう。担当者は発表のためのレジュメを準備して、前日までにメールで提出してください。（講義人数によっては、グループ作業になります）</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 イントロダクション 1994年に発表された「英国国民の好きな詩100選」の全体像についてご紹介しします		第2回の予習 指定された作品を読んでおくこと	
第2回 詩を精読しよう（1） TOP 10の作品から1作品選び、作品の精読と鑑賞をします		第3回の予習 指定された作品を読んでおくこと	
第3回 詩を精読しよう（2） TOP 10の作品から1作品選び、作品の精読と鑑賞をします		第4回の予習 指定された作品を読んでおくこと	
第4回 詩を精読しよう（3） 11位～20位の作品から1作品選び、作品の精読と鑑賞をします		第5回の予習 指定された作品を読んでおくこと	
第5回 詩を精読しよう（4） 21位～30位の作品から1作品選び、作品の精読と鑑賞をします		第6回の予習 指定された作品を読んでおくこと	
第6回 詩を精読しよう（5） 31位～40位の作品から1作品選び、作品の精読と鑑賞をします		第7回の予習 指定された作品を読んでおくこと	
第7回 詩を精読しよう（6） 50位～59位の作品から1作品選び、作品の精読と鑑賞をします		第8回の予習 指定された作品を読んでおくこと	
第8回 詩を精読しよう（7） 60位～79位の作品から1作品選び、作品の精読と鑑賞をします		第9回の予習 指定された作品を読んでおくこと	
第9回 詩を精読しよう（8） 80位～100位の作品から1作品選び、作品の精読と鑑賞をします		発表する作品の選定準備、および資料集め	
第10回 作品の選択と先行研究について 担当作品を決めます。また、先行研究とは何か、について学びます。		発表の準備、および資料集め	
第11回 発表準備 担当作品の作者・テーマ・背景についてまとめます。		発表担当者はレジュメの作成。担当者以外は、詩の精読。	
第12回 担当者による発表とディスカッション（1）		発表担当者はレジュメの作成。担当者以外は、詩の精読。	
第13回 担当者による発表とディスカッション（2）		発表担当者はレジュメの作成。担当者以外は、詩の精読。	
第14回 担当者による発表とディスカッション（3）		発表担当者はレジュメの作成。担当者以外は、詩の精読。	
第15回 担当者による発表とディスカッション（4）		発表報告書の作成	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60% 発表内容を報告書にして提出します。詳細は講義中に説明します。		
小テスト等	なし		
成果発表	30% 講義内での発表を評価		
受講態度他	10% 講義への参加度・受講態度などで評価します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして講義にのぞんでください。 やむを得ず発表の担当の回に欠席する場合は、当日の朝8時までにメールで連絡すること。 欠席が全講義回数の3分の1を超えた場合は、受講資格を認めません。		
教科書	『The Nation's Favourite Poems』（BBC Books）		
指定図書	なし		
参考図書	講義中、必要に応じてご紹介しします。		
オフィスアワー	水曜日 3限	メールアドレス	

授業科目	英語文学講読		開講時期	後期
担当教員	高森 暁子		単位	2
授業の目的と概要	A. A. ミルン作の『くまのプーさん(Winnie-the-Pooh)』(1926)とその続編『プー横町にたった家(The House at Pooh Corner)』(1928)からのエピソードを原文で読みます。「くまのプーさん」は、イギリスの作家ミルンが、幼い息子クリストファー・ロビンのために、息子が持っていたぬいぐるみたちを登場人物のモデルにして描いた作品です。ストーリーのなかのユーモアをくみ取り、言葉と挿絵のコンビネーションの効果や、随所に出てくる歌の韻やリズムを理解します。親しみやすさの中にも言語表現の巧みさの光る作品を通じて、言葉に対する感受性を高めます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストを読むことを通じて、英語の文章表現力や語彙力を向上させることができる。</li> <li>2. テキストの中の重要な文法事項を習得することができる。</li> <li>3. テキストの英語をスムーズに音読し、言葉のリズムをつかむことができる。</li> <li>4. 英文を読みながらその場の状況や場景を把握し、作品のストーリーを正確に理解することができる。</li> <li>5. 作品に現れた作者のユーモアやウィットについて、その性質を理解することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	イントロダクション		予習p.5-13	
第2回	In which We are introduced to Winnie-the-Pooh and some Bees, and the Stories begin. (前半)		予習p.14-22	
第3回	In which We are introduced to Winnie-the-Pooh and some Bees, and the Stories begin. (前半)		予習p.23-28	
第4回	In which Eeyore loses a Tail and Pooh finds One (前半)		予習p.29-33	
第5回	In which Eeyore loses a Tail and Pooh finds One (後半)		予習p.34-42	
第6回	In which Kanga and Baby Roo come to the Forest, and Piglet has a Bath (前半)		予習p.43-52	
第7回	In which Kanga and Baby Roo come to the Forest, and Piglet has a Bath (後半)		予習p.53-60	
第8回	In which Piglet is Entirely Surrounded by Water (前半)		予習p.61-68	
第9回	In which Piglet is Entirely Surrounded by Water (後半)		予習p.69-77	
第10回	In which a House is built at Pooh Corner for Eeyore (前半)		予習p.78-85	
第11回	In which a House is built at Pooh Corner for Eeyore (後半)		予習p.86-93	
第12回	In which Pooh invents a New Game and Eeyore joins in (前半)		予習p.94-101	
第13回	In which Pooh invents a New Game and Eeyore joins in (後半)		予習p.102-110	
第14回	In which Christopher Robin and Pooh come to an Enchanted Place, and We leave them There (前半)		予習p.111-118	
第15回	In which Christopher Robin and Pooh come to an Enchanted Place, and We leave them There (後半)		全体の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% (平素の予習の状況)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席回数が6回に達すると無資格になります。 遅刻・早退は欠席0.5回とカウントします。 必ず毎回辞書を持参し、予習を行って授業に望んでください。			
教科書	A・A・ミルン 『クマのプーさん』 英光社			
指定図書	A・A・ミルン 『クマのプーさん』 『プー横町にたった家』 岩波書店 A・A・ミルン 『ウィニー・ザ・プー』 新潮社			
参考図書	なし			
オフィスアワー	金曜の昼休み	メールアドレス		

授業科目	英語文法論 I	開講時期	前期
担当教員	緒方 隆文	単 位	2
授業の目的と概要	<p>目標 1 : 英語コミュニケーション能力向上のため、基礎となる英文法を習得し正しい英語を使えるようになる。目標 2 : 専門知識への導入となるよう、言語に対する関心を高め、ことばとしての英語及び日本語を考察し比較する。目標 3 : より自然に表現が使えるよう、英語の母国語話者が持つ感覚をイメージスキーマを通して感じられるようになる。目標 4 : コミュニケーション・スキルを身につけるとともに、文法を通して論理的思考力も身につける。</p> <p>授業は二部構成で進める。前半は英文法の演習を行い、数週ごとに小テストを行う。この英文法演習は、英語文法論Ⅱと併せて、主要な文法項目をすべて学習する予定である。後半は下記テキストを用いて、英語語法及び英語に関するトピックを見ていく。このテキストは項目数が634項目(658ページ)あるため、講義では項目を厳選し、特に学習者の文法理解の助けとなるものを、取り上げていく。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習する文法問題を正しく解ける(受動態、現在分詞・過去分詞、関係節、比較、最上級、語法、付加疑問、Someとany)。</li> <li>2. 文法問題の解答がなぜそのようになるのかを、適切に説明することができる。</li> <li>3. Practical English Usageで学習した内容を、適切に説明することができる(数の英語、食事、日付、他)。</li> <li>4. Practical English Usageで学習した内容に対する問いに、適切に答えることができる。</li> <li>5. 論理的思考力をもって、文法事項を説明することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、英語学科のDP1「英語の聴き、話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができる。」及び、DP2「社会生活に必要な英語の基本的文書や資料を読み、書くことができる。」の達成にかかわる科目です。英語の聞く、話す、読む、書くの四技能に必要な英文法の知識を身に付けることを目的としています。この科目は2年後期の英語文法論Ⅱの科目とあわせて、1年間で基本的な英文法の内容を学習していきます。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 英文法演習 (Unit 42 Passive 1) ; Practical English Usage ①		Unit 42の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第2回 英文法演習 (Unit 43 Passive 2) ; Practical English Usage ②		Unit 43の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第3回 英文法演習 (Unit 44 Passive 3) ; Practical English Usage ③		Unit 44の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第4回 英文法演習 (Unit 97 -ing and -ed) ; Practical English Usage ④		Unit 97の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第5回 英文法演習 (Unit 92 Relative clauses 1) ; Practical English Usage ⑤		Unit 92の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第6回 英文法演習 (Unit 93 Relative clauses 2) ; Practical English Usage ⑥		Unit 93の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第7回 英文法演習 (Unit 94 Relative clauses 3) ; Practical English Usage ⑦		Unit 94の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第8回 英文法演習 (Unit 105 Comparison 1) ; Practical English Usage ⑧		Unit 105の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第9回 英文法演習 (Unit 106 Comparison 2) ; Practical English Usage ⑨		Unit 106の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第10回 英文法演習 (Unit 107 Comparison 3) ; Practical English Usage ⑩		Unit 107の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第11回 英文法演習 (Unit 108 Superlatives) ; Practical English Usage ⑪		Unit 108の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第12回 英文法演習 (Unit 47 Reported Speech 1) ; Practical English Usage ⑫		Unit 47の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第13回 英文法演習 (Unit 48 Reported Speech 2) ; Practical English Usage ⑬		Unit 48の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第14回 英文法演習 (Unit 52 Tag Question) ; Practical English Usage ⑭		Unit 52の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第15回 英文法演習 (Unit 85 Some and any) ; Practical English Usage ⑮		Unit 85の復習、テキストの復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	50% 定期試験を実施する。		
レポート	20% 毎回の授業において課題が課せられる。		
小テスト等	10% 小テストを3回実施する。		
成果発表	なし		
受講態度他	20% 十分な予習をもとにした、積極的な受講を考慮する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	英文法プリントは、分かる範囲ですべて必ず予習しておくこと。また授業後は、しっかり復習すること。Practical English Usageは、ノートまたはテキストに書き込む形でしっかり復習をし、期末試験にそなえること。細かい授業のルールについては、第1回の授業で配布する。		
教科書	Michael Swan, Practical English Usage (Third Edition), Oxford University Press.		
指定図書	特になし		
参考図書	授業中、必要に応じて紹介する。		
オフィスアワー	月曜日と火曜日と水曜日の昼休み(予約が望ましい)	メールアドレス	

授業科目	英語文法論Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	緒方 隆文	単 位	2
授業の目的と概要	<p>目標1：英語コミュニケーション能力向上のため、基礎となる英文法を習得し正しい英語を使えるようになる。目標2：専門知識への導入となるよう、言語に対する関心を高め、ことばとしての英語及び日本語を考察し比較する。目標3：より自然に表現が使えるよう、英語の母国語話者が持つ感覚をイメージスキーマを通して感じられるようになる。目標4：コミュニケーション・スキルを身につけるとともに、文法を通して論理的思考力も身につける。</p> <p>授業は二部構成で進める。前半は英文法の演習を行い、数週ごとに小テストを行う。この英文法演習は、英語文法論Ⅰと併せて、主要な文法項目をすべて学習する予定である。後半は下記テキストを用いて、英語語法及び英語に関するトピックを見ていく。このテキストは項目数が634項目(658ページ)あるため、講義では項目を厳選し、特に学習者の文法理解の助けとなるものを、取り上げていく。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習する文法問題を正しく解ける(未来形、ing形と不定詞、形容詞と分詞、仮定法、代名詞と限定詞、完了形、接続詞と前置詞、冠詞、可算・不可算、wish構文)。</li> <li>2. 文法問題の解答がなぜそのようなのかを、適切に説明することができる。</li> <li>3. Practical English Usageで学習した内容を、適切に説明することができる(丁寧表現、理由表現、類似表現の語法、他)。</li> <li>4. Practical English Usageで学習した内容に対する問いに、適切に答えることができる。</li> <li>5. 論理的思考力をもって、文法事項を説明することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、英語学科のDP1「英語の聴き、話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができる。」及び、DP2「社会生活に必要な英語の基本的文書や資料を読み、書くことができる。」の達成にかかわる科目です。英語の聞く、話す、読む、書くの四技能に必要な英文法の知識を身につけることを目的としています。この科目は2年前期の英語文法論Ⅰの科目とあわせて、1年間で基本的な英文法の内容を学習していきます。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 英文法演習 (Unit 25 Future) ; Practical English Usage ①		Unit 25の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第2回 英文法演習 (Unit 58 -ing & infinitive 1) ; Practical English Usage ②		Unit 58の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第3回 英文法演習 (Unit 68 -ing & infinitive 2) ; Practical English Usage ③		Unit 68の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第4回 英文法演習 (Unit 98 Adjectives ending in -ing&-ed) ; Practical English Usage ④		Unit 98の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第5回 英文法演習 (Unit 38 If and wish 1) ; Practical English Usage ⑤		Unit 38の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第6回 英文法演習 (Unit 39 If and wish 2) ; Practical English Usage ⑥		Unit 39の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第7回 英文法演習 (Unit 40 If and wish 3) ; Practical English Usage ⑦		Unit 40の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第8回 英文法演習 (Unit 87 Pronouns & Determiners) ; Practical English Usage ⑧		Unit 87の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第9回 英文法演習 (Unit 7 Present Perfect & Past 1) ; Practical English Usage ⑨		Unit 7の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第10回 英文法演習 (Unit 10 Present Perfect & Past 2) ; Practical English Usage ⑩		Unit 10の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第11回 英文法演習 (Unit 15 Present Perfect & Past 3) ; Practical English Usage ⑪		Unit 15の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第12回 英文法演習 (Unit 118 Conjunctions & Prepositions) ; Practical English Usage ⑫		Unit 118の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第13回 英文法演習 (Unit 73 The 1) ; Practical English Usage ⑬		Unit 73の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第14回 英文法演習 (Unit 70 Countable and Uncountable 2) ; Practical English Usage ⑭		Unit 70の復習及び次回予習、テキストの復習及び予習	
第15回 英文法演習 (Unit 41 Wish) ; Practical English Usage ⑮		Unit 41の復習、テキストの復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	50% 定期試験を実施する。		
レポート	20% 毎回の授業において課題が課せられる。		
小テスト等	10% 小テストを3回実施する。		
成果発表	なし		
受講態度他	20% 十分な予習をもとにした、積極的な受講を考慮する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	英文法プリントは、分かる範囲ですべて必ず予習しておくこと。また授業後は、しっかり復習すること。Practical English Usageは、ノートまたはテキストに書き込む形でしっかり復習をし、期末試験にそなえること。細かい授業のルールについては、第1回の授業で配布する。		
教科書	Michael Swan, Practical English Usage (Third Edition), Oxford University Press. (前期購入した学生は購入する必要はない)		
指定図書	特になし		
参考図書	授業中、必要に応じて紹介する。		
オフィスワー	月曜日と火曜日と水曜日の昼休み(予約が望ましい)	メールアドレス	

授業科目	英語翻訳論	開講時期	後期
担当教員	宮原 牧子	単位	2
授業の目的と概要	英文を正確に理解し、そこから読みとれる著者の意図や真の意味を、本当に伝わる日本語で表現する方法の習得を目的とします。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 辞書を正確に引き、単語一つ一つの意味を正確に捉えること</li> <li>2. 英文を正確に訳し、文脈に沿った日本語に置き換えること</li> <li>3. 文章の奥に込められている著者の意図を読み取ること</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	イントロダクション	第2回の予習(テキストの指定された部分を読んでくること)	
第2回	エッセイの翻訳(1) ~英文に慣れる~	課題プリント(エッセイ1)・第3回の予習(テキスト指定部分)	
第3回	エッセイの翻訳(2) ~正確に読む~	課題プリント(エッセイ2)・第4回の予習(テキスト指定部分)	
第4回	エッセイの翻訳(3) ~背景を考える~	課題プリント(小説1)・第5回の予習(テキスト指定部分)	
第5回	小説の翻訳(1) ~筋を読む~	課題プリント(小説2)・第6回の予習(テキスト指定部分)	
第6回	小説の翻訳(2) ~登場人物の心を読む~	課題プリント(小説3)・第7回の予習(テキスト指定部分)	
第7回	小説の翻訳(3) ~登場人物の心を訳に反映させる~	課題プリント(小説4)・第8回の予習(テキスト指定部分)	
第8回	小説の翻訳(4) ~文章の奥にある意味をさぐる~	課題(小説4の校正)・第9回の予習(テキスト指定部分)	
第9回	シナリオの翻訳(1) ~映像と言葉の関係を考える~	課題プリント(シナリオ1)・第10回の予習(テキスト指定部分)	
第10回	シナリオの翻訳(2) ~字幕翻訳と吹替え翻訳~	課題プリント(シナリオ2)・第11回の予習	
第11回	シナリオの翻訳(3) ~ドラマの翻訳~	課題プリント(シナリオ3)・第12回の予習	
第12回	シナリオの翻訳(4) ~映画の翻訳~	課題プリント(シナリオ4&詩1)・第13回の予習	
第13回	詩の翻訳(1) ~行間を読む~	課題プリント(詩2)・第14回の予習	
第14回	詩の翻訳(2) ~作品の翻訳~	課題プリント(詩3)・第15回の予習	
第15回	詩の翻訳(3) ~作品の翻訳と解説~	試験勉強	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	60% 期末テスト		
レポート	30% 課題の提出とその評価		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% 講義への参加度・受講態度などで評価します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	辞書は毎回必ず持ってきてください。 欠席が全講義回数の3分の1を超えた場合は、受講資格を認めません。		
教科書	行方昭夫著『英文の読み方』岩波新書 プリント		
指定図書	—		
参考図書	授業中、必要に応じてご紹介します。		
オフィスアワー	水曜日 3限	メールアドレス	

授業科目	【閉講】英米文化特論	開講時期	前期
担当教員	一木 順	単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義の目的は二つである。</p> <p>1. ハリウッド映画群を分析することで、映像分析の基本的な方法を習得し、習得した「映像文法」の基礎知識を利用して自分なりの映像分析を実践すること</p> <p>2. 一見娯楽目的で作られているとしか見えないハリウッド映画作品群を分析することでアメリカ社会の底流を流れる意識を明らかにする。またそれとおして「表象」という概念について理解することを目指す。</p>		
到達目標	<p>1. 映像分析を行いながら、「表象」という概念について説明することができる</p> <p>2. アメリカ社会の思潮を説明することができる</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この「英米文化特論」はハリウッド映画をテキストとして授業を行います。それらの映画群はいうまでもなく商業目的、娯楽目的で作られたものですが、それらを時代や社会といった文脈の中に置き、「映像文法」の基礎知識を利用して分析することで、そこにアメリカ人の深層心理が表れていることが見えてきます。その作業を実際に行うことで、表象文化研究の基礎を学んでもらいたいと思います。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回：オリエンテーション	授業方法および評価についての説明	講義の際に指示します	
第2回：映像分析とは①		America on Film pp.3-13	
第3回：映像分析とは②		America on Film pp.13-17	
第4回：アメリカ映画における人種とその表象		America on Film pp.49-52	
第5回：『猿の惑星』の意味するもの		『猿の惑星』観賞レポート	
第6回：『猿の惑星』②		1960年代の黒人解放運動についてのプレゼン準備	
第7回：『猿の惑星』③、1960年代の黒人解放運動についてのプレゼン		『猿の惑星征服』観賞レポート	
第8回：『猿の惑星』④：シリーズが示すもの		講義の際に指示します	
第9回：『猿の惑星』ロジックツリーの作成		学びのキーワードの整理	
第10回：アメリカの恐怖と『猿の惑星』		グレムリン鑑賞レポート	
第11回：『グレムリン』①		映画内のキーワード整理	
第12回：『グレムリン』②-日系人の体験とは		日系人の歴史についてのプレゼン準備	
第13回：『グレムリン』③		ジョン・ダワー『人種偏見』ブックレポート	
第14回：『グレムリン』④-ロジックツリー作成		映画に関するキーワードの整理	
第15回：まとめ アメリカにとって人種とは		講義の際に指示します	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	80% 授業時に指定された映画の鑑賞レポート、授業時に指示された項目についてのリサーチペーパーが50%、学期末のレポートが30%です。		
小テスト等	-		
成果発表	0%		
受講態度他	20% 受講態度、授業内でのプレゼンテーションを勘案します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業は授業中に観賞する映画についての学生のレポート、授業外で観賞した映画のレポートおよびリサーチペーパーの発表と講義を組み合わせるため、授業外での準備、リサーチは必須です。		
教科書	授業中にプリントを配布します。		
指定図書	ライアン『映画分析入門』		
参考図書	授業中に適宜紹介します。		
オフィスアワー	授業の前後です。	メールアドレス	



授業科目	エコシステム論		開講時期	後期
担当教員	速水 良晃		単位	2
授業の目的と概要	<p>教科書は、我々が住む地球やその周りに広がる宇宙の形成や生命の発生から現在に至る変化を分かりやすく解説しており、現在の環境問題の原因の理解や解決の糸口になる要素を地球の歴史の中に発見することができるように書かれている。教科書の内容を正確に理解するためには、十分な予習時間を掛けて明確な自分の考えを持つことが必要である。しっかり予習すれば、理解できる所と理解できない所の線引きが出来る。どこからが分からないかをはっきり認識し、質問して理解しようという意欲を持つことが大事である。質問すべき所が分からないというのは、予習不足である。</p>			
到達目標	<p>① 宇宙や地球の形成の概要を説明することができる。  ② 宇宙の中で生命が発生し進化した地球の独自性を、具体的に説明することができる。  ③ 自分の生活と地球環境の関係を、具体的に説明することができる。  ④ 自分の身の回りの環境問題について地球環境的に考えた改善策を幾つか提案できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に環境共生社会コースのDP①「人間と自然環境との調和のための基礎知識を持っている」の達成に関わる科目である。環境について様々な観点からの科目があるが、物質としての地球が主題である「エコシステム論」は物質としての環境を考える場合の実質的な基礎になる科目である。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス：講義のねらい、トピック概説、ペットボトルの水	復習		
第2回	太陽系の誕生、地球型惑星の誕生、原始地球の誕生	予習・復習		
第3回	兄弟星・月	予習・復習		
第4回	コアの誕生、マントルの層構造、マントルの対流	予習・復習		
第5回	リソスフェア・アセノスフェア・メソスフェア、地殻、沈み込むプレート	予習・復習		
第6回	ぶつかりあうプレート、ホットスポット、岩石	予習・復習		
第7回	先カンブリア時代、古生代、中生代、新生代、地球史年表	予習・復習		
第8回	北極の氷、全球凍結（スノーボールアース）、繁栄した恐竜	予習・復習		
第9回	巨大隕石の衝突、海の誕生	予習・復習		
第10回	生命の誕生、海水の大循環、深海調査	予習・復習		
第11回	海底資源開発、サンゴ礁、大気誕生	予習・復習		
第12回	大気循環、水循環、気象現象	予習・復習		
第13回	日本の気象、対流圏、成層圏、中間圏・熱圏・外気圏、（地球を回る人工衛星、GeoEyeは省略）	予習・復習		
第14回	植物の進化、水中生物の繁栄、エネルギー資源と環境問題、動物の陸上進出	予習・復習		
第15回	霊長類の進化、五界説による生物分類、総合的な質問、まとめ、授業評価	予習・復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 各回の学習記録（毎回、その中から有用な質問を1つ以上すること）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40％ 授業内容の理解を深める質問（内容と回数）、適切なタイミングで教科書を読ませた時に漢字が読めなければ、1つにつき2点減点			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>分からない所を質問すれば、その内容に応じて加点するが、教科書に解答がそのまま書いてあるような質問は対象としない。初歩的な内容であっても、授業内容の理解を深め、他の受講者の理解度も高まるような質問が望ましい。日頃から地球環境や日本の環境についてのニュースに関心を持ち、世の中の出来事と自分の関係を考えることが重要である。予習したかどうかの確認のためにも適切なタイミングで教科書を読ませたり、こちらから質問したりする。</p>			
教科書	谷合 稔『「地球科学」入門』ソフトバンク クリエイティブ			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	研究会（金曜日）・講義・会議時間を除き、いつでも可	メールアドレス		

授業科目	エコハウス論	開講時期	前期
担当教員	安恒 万記	単 位	2
授業の目的と概要	環境配慮型のライフスタイルを実現する場として住宅建築が果たす役割は大きい。本講義では、自然と共生する住まいのプランニングや構造など、環境建築（エコハウス）に関する基本的な内容を理解することを目的としています。また、伝統的な住宅建築の枯渇性エネルギーに頼らない住まい方から現代のパッシブデザインの技術と手法を学ぶことによって、自らの生活への新しい視座を養います。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. エコハウスの概念が説明できる。</li> <li>2. エコハウスの計画のための建築技術を説明できる。</li> <li>3. 環境に配慮し住まいやまちについて具体的に提案できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、環境共生社会コースのDP2「環境共生社会実現のための住まいやまちのデザインのための知識と技能を獲得」するための科目です。この授業で習得した知識や技能は環境共生社会を構成する住まいと環境を考える基礎知識となります。また1年次に開講される「住まいと環境」の発展科目であり、「住環境デザイン演習」はこの授業で学んだものを具体的に形に落とししていく演習です。 その他、関連する科目として地域環境に視野を広げた「地域環境論」や資源やエネルギーに視野を広げた「循環型社会論」や「資源とエネルギー」などがあります。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	スマートホン、スマートハウス、スマートって何？	賢く生きることを考える	
第2回	縄文時代の住まい、竪穴式住居	縄文時代と竪穴式住居について調べる	
第3回	自然と住まい～太陽、風、湿度、熱	太陽と風について調べる	
第4回	自然と住まい～気候、気象	気候区分、気象現象について調べる	
第5回	伝統的な建物①～校倉造、高床式	日本の歴史の復習	
第6回	伝統的な建物②～ゲル	世界に目を向ける	
第7回	伝統的な建物③～オンドル	世界に目を向ける	
第8回	伝統的な建物④～合掌造り、茅葺屋根	茅について調べる	
第9回	建築の材料	建築材料を探す	
第10回	現代のエコハウス①～寒冷地	事例収集	
第11回	現代のエコハウス②～温暖地	事例収集	
第12回	現代のエコハウス③～蒸暑地	事例収集	
第13回	エコハウスの設計手法①～配置計画、屋根、開口部	これまでの復習と発展	
第14回	エコハウスの設計手法②～設備計画	事例収集	
第15回	ライフスタイルを考える	復習と発表準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	60％		
レポート	0％		
小テスト等	0％		
成果発表	25％		
受講態度他	15％ 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。		
教科書	プリントを配布します		
指定図書	なし		
参考図書	授業の中で適宜紹介します		
オフィスアワー	火曜日 9：10～16：30	メールアドレス	

授業科目	江戸の小説を読む		開講時期	前期
担当教員	安永 美恵		単位	2
授業の目的と概要	この授業では、高校までに触れることの少ない江戸時代の文学作品を読むことを通して、近世文学の言語、世界、独特の表現に触れ、近世文学を理解する入口としての知識を身につけることを目的とします。部分的ながら作品を読むことで、江戸時代小説が持つ、ことばの魅力や、描かれる世界の多様性に触れます。また、絵画との関わりの深さを実感し、江戸時代の作品への関心を高めます。知識の面では、具体的な作品に触れることにより、作者、描かれる場、表現形式がそれぞれに異なることを体感し、文学史的な理解を深めることができます。			
到達目標	1 授業で取り上げた作品について、取り上げた箇所の文意を理解し、説明することができる。 2 教科書の各巻の間に答えることができる。 3 授業で取り上げた作品の、文学史上の位置づけを説明できる。 4 授業で取り上げた作品について、ことば、表現、作品世界の観点から、江戸時代小説の特長を具体例をあげて説明できる。 5 興味を持った江戸時代小説を読み、授業で学んだことを踏まえて、作品に対する自分の読み方をレポートにまとめることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に日本語・日本文学科のDP③「各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる。」の達成に関わる科目です。必修科目「中・近世文学概論」の範囲の内、近世小説についての具体的な作品に触れることができます。また、近世小説については、「中・近世文学講読Ⅱ」でより専門的な知識を得ることができます。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	江戸時代の文学について： 三つのポイント、文学史の区切り	・テキストの予習 ・参考文献から作品を読む。		
第2回	巻十一 醒睡笑： 仮名草子の世界①	・テキストの予習 ・参考文献から作品を読む。		
第3回	巻十一 醒睡笑： 仮名草子の世界② その他の作品を読む	・テキストの予習 ・参考文献から作品を読む。		
第4回	巻十二 好色一代男： 浮世草子の世界①	・テキストの予習 ・参考文献から作品読んでみる。		
第5回	巻十二 好色一代男： 浮世草子の世界② 掲載本文の続きと関連資料	・テキストの予習 ・配布課題の提出（西鶴作品）		
第6回	巻十三 雨月物語： 初期読本の世界①	・テキストの予習 ・参考文献から作品を読む。		
第7回	巻十三 雨月物語： 初期読本の世界②掲載作品の関連資料	・テキストの予習 ・参考文献から作品を読む。		
第8回	巻十四 南総里見八犬伝： 後期読本の世界①	・テキストの予習 ・参考文献から作品を読む。		
第9回	巻十四 南総里見八犬伝： 後期読本の世界②掲載箇所以外の部分の紹介など	・テキストの予習 ・参考文献から作品を読む。		
第10回	巻十五 金々先生栄花夢： 黄表紙の世界①	・レポート作成（近世の小説作品の感想文）		
第11回	巻十六 孔子縞于時藍染： 黄表紙の世界②	・テキストの予習 ・参考文献から作品を読む。		
第12回	巻十七 傾城買四十八手： 洒落本の世界	・テキスト前半部「詩歌」の部分を読む。		
第13回	巻十八 東海道中膝栗毛： 滑稽本の世界	・テキストの予習 ・参考文献から作品を読む。		
第14回	巻十九 春色梅児誉美： 人情本の世界	・テキストの予習 ・参考文献から作品を読む。		
第15回	まとめ	課題：レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	70%			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	30% 課題提出、授業に関して求める記述の内容等を含む。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	原則として、三分の二以上の出席がなければ無資格になりますので注意してください。授業中は、読み・考えることに集中してください。これを妨害する行為（私語、授業中の入退室、携帯電話の使用、飲食など）は、慎んでください（体調の問題に関わる場合は除きます）。互いに気持ちよく受講できるように配慮しましょう。			
教科書	鈴木健一編『江戸の詩歌と小説を知る本』笠間書院、配布プリント。			
指定図書	なし			
参考図書	テキスト参照。他に補う場合は、授業時に指示する。			
オフィスアワー	木曜昼休み、火曜5限	メールアドレス		

授業科目	オフィスコミュニケーション		開講時期	前期
担当教員	藤村 やよい		単 位	2
授業の目的と概要	<p>仕事を円滑に進めるためには、コミュニケーション能力を高め、職場やお客様との良好な人間関係を構築することが大切です。その良好な人間関係の第一歩が言葉遣い（言語コミュニケーション）です。一方、身だしなみ、表情、態度、動作などの非言語コミュニケーションからも、相手は何かを感じとっています。信頼される職業人として、第一印象を大切に、相手に好感を与えて人間関係を円滑にするために、オフィスでのコミュニケーション能力を高めることを目的とします。「社員の言動で会社のイメージが決まる」といわれていますので、第一印象の大切さとして身だしなみ、表情、態度、動作、言葉遣いの実技を行います。さらにビジネスの現場を想定した電話応対、来客応対のロールプレイングなども行い、実践的な実務内容を習得します。そうすることが「なぜ」必要なのかという考え方を考察しながら、知っているだけでなく「できる」「気づく」ところまで学習します。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第一印象をよくし、相手に好感を与えることができるようになる。</li> <li>2. 社内や社外の方との良好な人間関係構築のためのコミュニケーション能力を高める。</li> <li>3. 知っているだけでなく、「できる」「気づく」ところまで学習することができるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	オリエンテーション：オフィスコミュニケーションとは	講義の際に指示します		
第 2回	信頼される職業人：職業意識（学生と社会人の違い）、職場の心構えなど	講義の際に指示します		
第 3回	第一印象の大切さ（1）：挨拶とお辞儀、身だしなみ	日常生活の中で実践してください		
第 4回	第一印象の第切さ（2）：表情、態度、動作など	日常生活の中で実践してください		
第 5回	コミュニケーション（1）：言葉遣いと人間関係、話し方と聞き方	日常生活の中で実践してください。		
第 6回	コミュニケーション（2）：敬語、接遇用語、職場用語	日常生活の中で実践してください		
第 7回	コミュニケーション（3）：受命と報告、連絡、相談	講義の際に指示します		
第 8回	模擬会社の設立、プレゼンテーション	講義の際に指示します		
第 9回	電話応対（1）：心構え、受け方・かけ方、伝言メモ	講義の際に指示します		
第10回	電話応対（2）：ケーススタディ	講義の際に指示します		
第11回	来客応対（1）：心構え、基本要素、訪問	講義の際に指示します		
第12回	来客応対（2）：受付（取次）→案内→接待→見送り→後片付け	講義の際に指示します		
第13回	来客応対（3）：ケーススタディ	講義の際に指示します		
第14回	ホスピタリティとサービス：顧客満足とおもてなしの心	講義の際に指示します		
第15回	慶弔と贈答の知識：冠婚葬祭、上書き、プロトコールなど	講義の際に指示します		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 実技試験（40％）、筆記試験（20％）			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	講義の際に指示します			
受講態度他	40％ 受講態度、（実技が中心となりますので受講態度を重視します） 講義の際に指示します			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講希望者は、次のことを厳守してください。①初日のオリエンテーション日には必ず出席してください。②受講者は毎回クルートスーツを着用してください。 ＊受講者数を制限することがあるかもしれません。			
教科書	藤村やよい編著『ビジネス実務—信頼を得ることの大切さ—』 樹村房			
指定図書	なし			
参考図書	講義の中で適宜紹介します			
オフィスワーク	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	音楽演習		開講時期	前期
担当教員	北原・今釜・藤野（誠）・井上（智）・藤田・藤・大島・名子・八尋		単位	1
授業の目的と概要	<p>小学校教諭や保育者になるために必要な音楽に関する基礎知識及び基礎技能を習得しすることを目的とする。具体的には、音楽理論と実技の基礎技能（ピアノ演奏の基礎、歌唱の基礎としての発声法）を習得することを目指す。授業形態は、声楽・器楽に関わる実技を含めた演習を組み合わせて行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）  （北原・藤野・井上・藤田・藤・大島・名子・八尋 /10回）音楽理論の理解を図るとともに、音楽実技の基礎技能（ピアノ演奏の基礎）の習得を目指す。  （今釜 / 5回）音楽実技の基礎技能（歌唱の基礎としての発声法）の習得を目指す。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に関する基礎知識として音楽理論を理解し、読譜力を習得する。</li> <li>・音楽に関する基礎としてのピアノ演奏技能を身につける。</li> <li>・音楽に関する基礎としての発声法と歌唱力を身につける。</li> <li>・リズム遊びなど、子どもが音楽に興味・関心がもてるような活動についての指導力を培う。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本授業は、人間科学部初等教育コースDP4「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的技能を身に付け、活用することができる。」、幼児保育コースDP4「幼児教育・保育の専門的知識や保育技能、音楽や図画工作、体育などの基礎的技能を身に付け、活用することができる。」の達成に関わる科目です。読譜の能力やピアノ演奏や声楽の基礎技能を身に付けることを目指します。後期や上位学年で履修する器楽Ⅰや器楽Ⅱの弾き歌いに結びつく大切な科目です。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション、ピアノ伴奏の基礎的な知識と技能①	規定曲を進めること		
第2回	歌唱の基礎としての発声法①	随時復習すること		
第3回	ピアノ伴奏の基礎的な知識と技能②	規定曲を進めること		
第4回	ピアノ伴奏の基礎的な知識と技能③	規定曲を進めること		
第5回	歌唱の基礎としての発声法②	随時復習すること		
第6回	ピアノ伴奏の基礎的な知識と技能④	規定曲を進めること		
第7回	ピアノ伴奏の基礎的な知識と技能⑤	規定曲を進めること		
第8回	歌唱指導①（ハーモニー、簡単な合唱）	随時復習すること		
第9回	ピアノ伴奏の基礎的な知識と技能⑥	規定曲を進めること		
第10回	ピアノ伴奏の基礎的な知識と技能⑦	規定曲を進めること		
第11回	歌唱指導②（合唱、簡単な歌曲）	随時復習すること		
第12回	ピアノ伴奏の基礎的な知識と技能⑧	規定曲を進めること		
第13回	実用的な伴奏のための応用練習①	規定曲を進めること		
第14回	歌唱指導③（歌唱のまとめ、試験曲）	随時復習すること		
第15回	実用的な伴奏のための応用練習②	規定曲を進めるとともに復習すること		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	器楽60％ 歌唱30％			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	10％ 授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各自、自主練習を充分した上で、授業に参加すること。			
教科書	<p>初等教育コース：『バイエル教則本』（音楽之友社） 『続こどものうた200』（チャイルド社） プリント配布  幼児保育コース：『バイエル教則本』（音楽之友社） 『こどものうた200』『続こどものうた200』（チャイルド社） プリン</p>			
指定図書	授業中に適宜指示			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	音楽概論		開講時期	前期
担当教員	北原 幸子・今釜 亮		単位	2
授業の目的と概要	幼稚園教育要領「表現」、保育所保育指針「保育表現技術」、小学校学習指導要領「音楽」のねらいと内容をふまえて、実践で必要となる音楽理論（読譜の基礎等）や歌唱における発声法の指導、我が国や世界の音楽についての音楽鑑賞など、基本的な考え方を習得し、音楽に親しみを持つことを目的としている。 幼稚園や保育所における音楽活動および小学校音楽科の授業に際しての視野を拡大し、基礎的知識を習得する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育者および小学校教諭養成のために必要な音楽の理論について読譜など基礎力を身につける。</li> <li>・ 歌唱における発声法について、基本的な知識・技能を身につける。</li> <li>・ 音楽をより楽しみ理解を深めるために、我が国の音楽や世界の音楽の素晴らしさを感じとる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本授業は、人間科学部初等教育コースDP4「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的スキルを身に付け、活用することができる。」、幼児保育コースDP4「幼児教育・保育の専門的知識や保育技術、音楽や図画工作、体育などの基礎的スキルを身に付け、活用することができる。」、の達成に関わる科目です。</p> <p>読譜の基礎や歌唱、器楽などの音楽技能の基礎、音楽鑑賞の基本的考え方などの基礎的知識を習得することを目指します。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	幼稚園や保育所における音楽活動および小学校音楽科指導の基本的な考え方について	小学校学習指導要領、幼稚園教育要領、保育所保育指針について復習すること		
第2回	音楽の基礎理解①（音の長さ、音の高さ）	随時復習すること		
第3回	音楽の基礎理解②（音の長さ、音の高さ）	随時復習すること		
第4回	音楽の基礎理解③（音の長さ、音の高さ）	実際の楽譜、リズム譜を見て実践すること		
第5回	音楽の基礎理解④（音程）	随時復習すること		
第6回	音楽の基礎理解⑤（音階）	随時復習すること		
第7回	音楽の基礎理解⑥（音階）	音階を鍵盤で弾いて確かめること		
第8回	音楽の基礎理解⑦（記号、和音、コードネーム）	随時復習すること		
第9回	音楽の基礎理解⑧（コードネーム、コード伴奏）	簡単なコード伴奏を付けてみる		
第10回	歌唱の基礎①（呼吸法、発声法、姿勢など）	随時復習すること		
第11回	歌唱の基礎②（演奏形態（斉唱、合唱、独唱、重唱）合唱の実際）	実際に輪唱や合唱曲に触れてみる		
第12回	身近な楽器の奏法（ソプラノリコーダー、鍵盤ハーモニカ、カスタネット、鈴など）	実際に演奏すること		
第13回	世界の音楽に親しむ	復習しまとめる		
第14回	世界の音楽を学ぶ	復習しまとめる		
第15回	まとめ	理解が不十分なことを復習しまとめる		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30％ 授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各自予習・復習を求める。また、発表などを中心に授業へ積極的に参加することを期待する。			
教科書	『小学校学習指導要領解説（音楽編）』教育芸術社、『改訂音楽通論』教育芸術社 『幼稚園教育要領』（平成20年度告示）※他教科で購入済み			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワー	月曜日の午後、水曜日昼休み（北原） 授業前後、火曜水曜2限～昼休み（今釜）	メールアドレス		

授業科目	音楽基礎		開講時期	後期
担当教員	北原 幸子・今釜 亮・樋口 康江・藤田 道久・吉田 慶子・井上 智子・篠原 敏男		単位	1
授業の目的と概要	<p>小学校教諭や保育者として、音楽活動や授業に必要なピアノの演奏技能について、初級者を対象に、基礎的な能力を身につけることを目的とする。</p> <p>具体的には、音楽活動の基礎力となる音楽理論の学習を行いながら、ピアノ演奏の基礎技能を培う学習を行う。初心者を対象にした導入のための授業であり、ピアノに抵抗感をなくすように合同での活動も取り入れる。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽活動や授業に必要な譜面の読み方など基礎的な音楽理論を理解できる。</li> <li>・鍵盤楽器への抵抗感をなくし、楽しく音楽に取り組むことができる。</li> <li>・テクニックマスターやバイエルの基本的な楽曲を演奏できるようになるとともに、C・F・Gなどの基本的なコードを用いて簡単な曲の弾き歌いができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本授業は、人間科学部初等教育コースDP4「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的な技能を身に付け、活用することができる。」、幼児保育コースにDP4「幼児教育・保育の専門的知識や保育技能、音楽や図画工作、体育などの基礎的な技能を身に付け、活用することができる。」の達成に関わる科目です。</p> <p>この授業では、主に初級者を対象に、読譜の能力やピアノ演奏の基礎技能を育てるためのものです。上位学年で履修する音楽演習や器楽Ⅰ、器楽Ⅱなどに結びつく大切な科目です。未経験者や初級者、自信のない人にとって役に立ちます。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	音楽を楽しむためのピアノ		別途指示する	
第2回	読譜の指導① 一音階、ト音記号とヘ音記号の違い		随時、予習・復習すること	
第3回	読譜の指導② 和音（コード）の意味について		随時、予習・復習すること	
第4回	ピアノ演奏技術の習得 ①		随時、予習・復習すること	
第5回	ピアノ演奏技術の習得 ②		随時、予習・復習すること	
第6回	ピアノ演奏技術の習得 ③		随時、予習・復習すること	
第7回	ピアノ演奏技術の習得 ④		随時、予習・復習すること	
第8回	コードネームを用いた演奏技術の習得 ①		随時、予習・復習すること	
第9回	コードネームを用いた演奏技術の習得 ②		随時、予習・復習すること	
第10回	ピアノ演奏技術の習得 ⑤		随時、予習・復習すること	
第11回	ピアノ演奏技術の習得 ⑥		随時、予習・復習すること	
第12回	弾き歌いのための演奏技術の習得 ①		随時、予習・復習すること	
第13回	弾き歌いのための演奏技術の習得 ②		随時、予習・復習すること	
第14回	ピアノ演奏技術の習得 ⑦		随時、予習・復習すること	
第15回	ピアノ演奏技術の習得 ⑧		別途指示する	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	20％ 課題への取り組み			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>自主練習を充分した上で授業に出席すること。</p> <p>一定ライン以下の学生を対象とし、上級レベルの学生は履修を免除することとする。</p>			
教科書	『おとなのためのテクニックマスター』ドレミ楽譜出版、『バイエル教則本』音楽之友社、プリント配布			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後（北原） 授業前後、火曜水曜2限～昼休み（今釜）	メールアドレス		

授業科目	音楽芸術演習		開講時期	後期
担当教員	田村 史子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>目的：主としてアジアの音楽芸術を、その文化的背景のもとに深く理解していくためのさまざまな約束事を、演習を通じて身につける。</p> <p>概要：導入二回で演習の諸作業について説明する。その後、講師によって アジアの音楽芸術を理解していくためのさまざまな約束事についての講義が行われる。さらに、各自にテーマを割り当て、報告を行ってもらい、全員でそれについて討論する。全二回の体験プログラムを設定し、アジアの音楽の実習または実演の鑑賞を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主としてアジアの音楽について研究するために必要な基礎知識を身につける。</li> <li>2. 異なった外観を示すさまざまな音楽文化の底に流れる真の価値を知ることの座標軸を得る。</li> <li>3. 人の文化活動に対するあくなき好奇心を養う。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連科目：アジア文化特殊講義、体験ーアジア音楽実習、体験ーアジア舞踊実習、アジアの儀礼と祭り			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 導入①			復習と予習	
第2回 導入②			復習と予習	
第3回 入門①			復習と予習	
第4回 入門②			復習と予習	
第5回 体験プログラム①			小レポートの作成	
第6回 報告と討論①			復習と予習	
第7回 報告と討論②			復習と予習	
第8回報告と討論③			復習と予習	
第9回報告と討論④			復習と予習	
第10回体験プログラム②			小レポートの作成	
第11回 報告と討論⑤			復習と予習	
第12回 報告と討論⑥			復習と予習	
第13回 報告と討論⑦			復習と予習	
第14回 報告と討論⑧			復習と予習	
第15回 総括			復習と予習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	％			
レポート	70％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	体験プログラムは演奏者などの都合により、予定が変更になる場合がある。演奏会などのチケット代、交通費などは自己負担となる。			
教科書	随時プリントを用意			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で随時指示。			
オフィスワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください	メールアドレス		



授業科目	海域文化交流史		開講時期	後期
担当教員	大津 忠彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>授業の目的：海は、その「海流（潮流）」や強い「恒風」を帆船で有効利用することによって、古来より、人々の往来、大量の物資輸送、情報伝達等を可能としてきました。この講義は海洋の自然、海洋交通の技術の発展ならびに海洋を通じての諸地域間の相互文化交流を歴史的に理解することが目的です。</p> <p>授業の概要：まず、北部九州の遺跡出土品や「海のシルクロード」関連品によって諸地域間の文化交流をたどります。そして、10世紀以降の日中間海域交流や「イスラーム航海者」東方進出、「大航海時代」以降の欧亜間交流の様相、さらには近現代における我が国の海域文化交流等々を通史的にたどります。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本、特に北部九州の古代・中世史に「海域文化交流」の具体的事象を説明することができる。</li> <li>・「海のシルクロード」の歴史的意味を具体例に基づいて説明することができる。</li> <li>・10世紀以降の中国やイスラームの「海域文化交流」について具体的に説明できる。</li> <li>・「大航海時代」以降のヨーロッパ勢力と海のシルクロードとの関係について説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、アジア文化学科のDP④「アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる」という目的の達成に関わる科目です。この科目と共に、「西アジア入門」、「シルクロード文化交流史」を受講すると相互の理解が深まります。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	はじめに～「海域文化交流史」関連海洋・海域の自然～	第2回までに関連地域の地図作成		
第2回	「海域」をめぐる現代の交流 ①「オイルロード」	第2回までに関連地域の地図作成		
第3回	北部九州弥生人たちの高級装身具「南海産貝製腕輪」（紀元前後）	第5回までに関連資料を博物館展示品に見しレポートにまとめる		
第4回	「海のシルクロード」①海の正倉院 古代「沖ノ島」（4～9世紀）	第5回までに関連資料を博物館展示品に見しレポートにまとめる		
第5回	「海のシルクロード」②遣隋使・遣唐使（600～894年）	第5回までに関連資料を博物館展示品に見しレポートにまとめる		
第6回	日宋貿易と博多や平氏（10世紀後半～13世紀）	第8回までに要衝（港市）と交易品についてレポートにまとめる		
第7回	船乗りシンドバッドの世界～イスラーム商人とインド洋（12世紀前後）	第8回までに要衝（港市）と交易品についてレポートにまとめる		
第8回	「陶磁の道」：日本陶磁器、中国陶磁器の海外進出（12世紀）	第8回までに要衝（港市）と交易品についてレポートにまとめる		
第9回	「大航海時代」（15～17世）	第11回までに当時の外航船についてレポートにまとめる		
第10回	南蛮貿易（16世紀半ば～17世紀初期）	第11回までに当時の外航船についてレポートにまとめる		
第11回	「プラントハンター」の活躍（18世紀）	第11回までに当時の外航船についてレポートにまとめる		
第12回	文久遣欧使節（江戸幕府使節団：1862～1863年）	第14回までに関連人物についてレポートにまとめる		
第13回	明治期遣波使節（1880年）～近代日本の中東交流開始～	第14回までに関連人物についてレポートにまとめる		
第14回	「海域」をめぐる現代の交流 ②「豪華客船クルーズ」	第14回までに関連人物についてレポートにまとめる。受講ノート補筆。		
第15回	総括～到達目標の確認～	受講ノート補筆、参考資料再点検		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50％ ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50％ ②受講態度（含、時々的小テスト成果や提出課題成果）を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・上記「成績評価に関する情報」欄の、①と②の判定組合せが「秀&amp;秀」・「秀&amp;優」を秀、「秀&amp;良」・「優&amp;優」を優、「秀&amp;可」・「優&amp;良」・「優&amp;可」・「良&amp;良」を良、「良&amp;可」・「可&amp;可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。受講態度の良否は成績評価に大きく影響します。講義の進行に集中し自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日の5時間目	メールアドレス		

授業科目	会計と簿記		開講時期	後期
担当教員	谷 和也		単 位	2
授業の目的と概要	企業の経済活動を一定の方法で記録・計算整理して、経営成績・財政状態を明らかにするのが簿記である。簿記のしくみを理解し、財務諸表の作成方法を身につける。さらに作成された財務諸表を読みこなす方法も身につける。			
到達目標	①企業の日々の経済活動を帳簿に記録する方法について知ることができる ②作成された企業の財務諸表からその企業の経営状況を知ることができる。③日本経済新聞等で報道されている企業の財務情報について関心を持つことができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本講義は、会計と簿記の基礎を学ぶことを目的とする。昨今ほとんどの職場では会計ソフトを用いることで、専門知識は無くとも会計処理がいちおうは可能になっている。しかし会計の仕組みを知った上で利用すれば、会計ソフトはより有効に使いこなすことができる。本講義では企業等におけるお金の流れを把握するとともに、会計の目的や基礎的概念、簿記上の取引の仕訳や記帳方法を学び、帳簿と伝票、決算と財務諸表等について理解してもらいたい。 また、この授業は、主に現代社会学部ビジネス社会コースのDP④「現状分析、要因分析の方法に沿って問題を解明していく方法と実践力を身に付けている。」の達成に関わる科目である。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業のイントロダクション 株式会社のしくみと企業会計の目的・役割	復習		
第2回	株式会社を取り巻く利害関係者と企業の情報開示	予習・復習		
第3回	簿記のしくみを理解する1 自分自身の財務諸表を作ってみよう	予習・復習		
第4回	簿記のしくみを理解する2 仕訳と転記その1	予習・復習		
第5回	簿記のしくみを理解する3 仕訳と転記その2	予習・復習		
第6回	簿記のしくみを理解する4 現金と預金の処理	予習・復習		
第7回	簿記のしくみを理解する5 商品売買と有形固定資産	予習・復習		
第8回	簿記のしくみを理解する6 決算予備手続きと試算表の作成	予習・復習		
第9回	簿記のしくみを理解する7 決算本手続き 売上原価・見越し繰り延べ・減価償却	予習・復習		
第10回	簿記のしくみを理解する8 決算報告手続き 損益計算書・貸借対照表	予習・復習		
第11回	第3の財務諸表 キャッシュフロー計算書について知る	復習		
第12回	財務諸表を読みこなす1 損益計算書・経営安全率とは	ここまでの内容を復習しておくこと		
第13回	財務諸表を読みこなす2 貸借対照表・自己資本比率とは	ここまでの内容を復習しておくこと		
第14回	あの企業の財務諸表を見てみよう（東京ディズニーランド・USJ等）	指定されたテーマについて各自調べること		
第15回	まとめ	定期試験の準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％（帳簿の作成方法・財務諸表の読み方についての理解度を定期試験で確認します）			
レポート	0％			
小テスト等	20％（各单元ごとに3回程度の小テストを実施します）			
成果発表	0％			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	簿記・会計は机上の学問ではなく、実社会において広く普及している計数管理の実務です。この授業を通して、毎日報道されている企業の財務情報等に関心を持っていただくことを期待しています。また簿記検定試験に積極的にチャレンジされること併せて期待します。			
教科書	『日商簿記3級テキスト』（ネットスクール出版） 別に適宜プリントを配布します			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	介護概論	開講時期	後期
担当教員	金 圓景	単 位	2
授業の目的と概要	介護の概念や対象及び理念などについて学ぶとともに、具体的な事例を参考に介護の在り方について理解することを目的とする。また、高齢者を取り巻くフォーマル・インフォーマルな介護資源を調べ、理解するだけでなく、それらを発掘・活用できる力を育むことを目標とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護の概念や対象及び理念について理解できる。</li> <li>2. 介護の在り方について考察できる。</li> <li>3. フォーマル・インフォーマルな介護資源について理解でき、活用できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は社会福祉コースのDP4「人間が直面する心理・社会的諸問題や諸課題に対処し、改善・解決を図るために有効な援助法や社会資源・制度について説明することができる」を充足するための科目です。「高齢者福祉論」で学んだことをさらに深めることができます。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	介護の概念や対象(1) ー介護の概念と範囲ー	介護概念の整理	
第2回	介護の概念や対象(2) ー介護の対象、介護予防の概念ー	各地域の介護予防プログラムを調べる	
第3回	介護の倫理・原理	日本介護福祉士会の倫理基準（行動規範）のまとめ	
第4回	高齢者とその家族への支援方法(1)	介護現場における個人・家族への支援内容のまとめ	
第5回	高齢者とその家族への支援方法(2)	介護現場における個人・家族への支援プログラムに参加	
第6回	介護リスクマネジメントの現状と課題	介護リスクマネジメントの事例整理	
第7回	高齢者を支援する専門職の役割と実際(1) ー専門職の役割と実際ー	介護現場における各種専門職の役割の整理	
第8回	高齢者を支援する専門職の役割と実際(2) ーチームアプローチー	チームアプローチ実際のまとめ	
第9回	地域における介護資源	各地域の介護資源を調べる	
第10回	介護過程 ー介護過程の概要・展開方法ー	介護過程のまとめ	
第11回	介護各論(1) ー自立に向けた支援、家事における自立支援ー	自立支援のまとめ	
第12回	介護各論(2) ー食事・身支度・移動・睡眠・入浴・排泄の介護などー	具体的場面での介護技法のまとめ	
第13回	介護各論(3) ー認知症ケア、終末期ケアー	認知症ケア、終末期ケアのまとめ	
第14回	介護各論(4) ー高齢者の住環境問題ー	高齢者の住環境のまとめ	
第15回	諸外国の介護事情	諸外国の介護事情のまとめ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60% 中間レポート(30%)、期末レポート(30%)		
小テスト等	40% 授業中に小テスト実施		
成果発表	0%		
受講態度他	0%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回プリントを配布するので、やむを得ず欠席したときなどは、後日研究室にプリントを受け取りに来ること。 また、講義中の私語は厳禁とする。		
教科書	プリントを配布		
指定図書	なし		
参考図書	『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	介護技術演習	開講時期	前期
担当教員	安藤 悦子・因 利恵	単位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会福祉の相談援助を求める方々は介護を必要とされる方が多い。</li> <li>・日本は世界に類のない超高齢社会となっているので、国民一人一人が介護知識を持つことは必要になっている。</li> <li>・この授業は国家的課題である介護を学ぶものである。</li> <li>・介護理論の原則を理解し、感染予防対策、緊急時対応の方法、介護のリスク管理、認知症の理解、原因疾患別に求められる対応方法を学ぶものである。</li> <li>・地域における認知症の方のサポート及び家族介護者の方々への相談援助に役立つ技術を学習する。</li> </ul>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全な介護技術を学び介護をする人、される人のモデル体験において介護を必要とする人の気持ちを理解することができる。</li> <li>2. 介護を安全に行うためのコミュニケーション（説明と同意）を大切に、自立支援と残存機能活用を意識した介護を行う事ができる。</li> <li>3. 認知症の方への理解と、老老介護や認知介護の家族介護者への理解を深め、本来の相談援助の専門性を高めることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション（演習の心得、グループ編成） 特別講義「なぜ、介護を学ぶか」（パワーポイント使用）【因担当】	テキスト 第1章 介護の基本となるもの（P10～P33予習）	
第2回	介護の目的と生活を捉える視点、介護の対象となる人、ベッドメイキング 脳トレニング、ピンちゃん体操（有酸素運動）【安藤担当】	テキスト 第2章 介護に必要な視点（P35～P66予習）	
第3回	ベッド上の体位変換、介護者の腰を痛めない優しい介護 ボディメカニクスの活用 水平移動、上方移動、仰臥位から側臥位、安楽の姿勢、起き上がり【安藤担当】	テキスト 第3章 生活支援の介助（P67～P81予習）	
第4回	ベッドから車いすへの移乗（片麻痺の方を想定して行う） 車いすの操作方法、車いすの広げ方・たたみ方、車椅子からベッドへ【安藤担当】	テキスト 第3章 生活援助の介護（P82～P90予習）	
第5回	移動の介助、歩行の介助、階段の上りと下り（方麻痺の方の杖歩行） 視覚障害の方への対応、アイマスク使用【安藤担当】	テキスト 第4章 利用者の状態に応じた介護（P182～P185予習）	
第6回	認知症サポーター養成講座、太宰府市の学習教材使用 オレンジリング配布、受講アンケート太宰府市に提出【安藤担当】	テキスト 第4章 利用者の状態に応じた介護（P178～P181予習）	
第7回	認知症の医学的理解と原因疾患別対応について（パワーポイント使用） 行動・心理症状（BPSD）、介護職員の行うパーソンセンタードケアとは【安藤担当】	テキスト 第4章 利用者の状態に応じた介護（P155～P160予習）	
第8回	感染症予防対策（ノロウイルス、疥癬、食中毒、MRSA、インフルエンザ予防） スタンダードプレコーション（手洗い、うがい、消毒など）【安藤担当】	テキスト 第3章 生活支援の介助、食事の介助（P92～P97予習）	
第9回	食事介助、食事姿勢、口腔ケアの重要性、誤嚥はなぜ起こる？その予防方法 演習（プリン、ティスプーン、お茶、タオル）【安藤担当】	テキスト 第3章 生活支援の介助、衣類の着脱（P136～P153予習）	
第10回	ベッド上での寝間着の交換、パジャマの交換、一部介助の方法 背中の上を伸ばして床ずれをつくらない【安藤担当】	テキスト 第4章 利用者の状態に応じた介護、緊急時の介護（P208～P214）	
第11回	リスク管理（リスクマネジメント）（パワーポイント使用） 働く介護現場で起こるヒヤリ・ハット事例の対応方法【安藤担当】	テキスト 第3章 生活支援の介助、排泄の介助（P102～P117予習）	
第12回	排泄の介助（高齢者の尊厳と羞恥心を大切に）、ポータブル介助 オムツ交換と陰部洗浄(ビデオ)【安藤担当】	テキスト 睡眠と入浴（P121～P129、P130～P135予習）	
第13回	より良い睡眠を促すために、眠る環境を整える、安全な入浴の方法（身体の清潔の支援） 就寝前の習慣を振り返り、それぞれのアイデアを話し合う。【安藤担当】	テキストを振り返り質問事項をまとめる②	
第14回	振り返り（これまでの介護技術の復習と確認） 質疑応答【安藤担当】	安全の確認と着脱履、残存機能活用、介護技術の総復習	
第15回	演習事例（介護の手順の確認、モデルへの声掛け、体調の確認、排泄の確認、説明と同意） ②	演習課題（ベッド上のモデル）に対し、安全な介護実技を行う	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	60% 実技試験：8月1日（月）		
レポート	20% 課題提出（2回）：7回目と11回目		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20% ベッドの準備・片付け（全員で取り組みます） 結んでいない髪、ヒールの靴、私語は不可。テキストや教材忘れば自主申告。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストの予習を行い授業内容を把握しておいて下さい。理解出来なかったことは、そのままにせず必ず質問して下さい。</li> <li>・ベッドメイキングは、わずかな時間でも練習すれば上達しますので、毎回積極的に取り組んで下さい。</li> <li>・グループごとにベッドの出し入れを致しますので、ベッド使用日は出し入れ作業をみんなで協力して行って下さい。</li> <li>・携帯電話や私物を教室には持ち込まないようお願い致します。（テキストとノート・教材のみ）です。</li> <li>・演習時の服装（肌を露出させない、ノースリーブ、ジーパンは不可。肩にかかる髪は結ぶ。靴は上靴に履き替える）</li> </ul>		
教科書	川島みどり編集『イラストで理解する初めての介護一心と技術』中央法規（2200円）		
指定図書	なし		
参考図書	『新しい介護』講談社 『北欧に学ぶ優しい介護（腰痛を起こさないための介助テクニック）』株式会社ワールドプランニング		
オフィスアワー	毎週月曜日 質問や相談受付 11：30～17：00	メールアドレス	

授業科目	【閉講】 カウンセリング演習	開講時期	後期
担当教員	浦田 英範	単 位	2
授業の目的と概要	<p>カウンセリングとは、人と人の心理臨床学的な関係性の中でクライアントさんを支援するものである。そこで臨床心理査定（アセスメント、見立て）を行いどのようにクライアントさんを支援していくのか。その支援の方法を理解し、技法を学ぶ事を目的とする。</p> <p>精神分析的カウンセリングのアセスメントについて概観し、症例に基づいて、実際のインテーク面接でのアセスメントを学習する。</p>		
到達目標	<p>1、臨床心理査定について理解し、説明する事が出来る。</p> <p>2、支援の方法を理解し、説明する事が出来る。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション 文献、レジュメについてのレクチャー	各自、文献を選びレジュメを作成しておく事。	
第 2回	文献講読 口頭発表 討論	各自、文献を選びレジュメを作成しておく事。	
第 3回	文献講読 口頭発表 討論	各自、文献を選びレジュメを作成しておく事。	
第 4回	文献講読 口頭発表 討論	各自、文献を選びレジュメを作成しておく事。	
第 5回	文献講読 口頭発表 討論	各自、文献を選びレジュメを作成しておく事。	
第 6回	文献講読 口頭発表 討論	各自、文献を選びレジュメを作成しておく事。	
第 7回	文献講読 口頭発表 討論	各自、文献を選びレジュメを作成しておく事。	
第 8回	文献講読 口頭発表 討論	各自、文献を選びレジュメを作成しておく事。	
第 9回	文献講読 口頭発表 討論	各自、文献を選びレジュメを作成しておく事。	
第10回	文献講読 口頭発表 討論	各自、文献を選びレジュメを作成しておく事。	
第11回	文献講読 口頭発表 討論	各自、文献を選びレジュメを作成しておく事。	
第12回	文献講読 口頭発表 討論	各自、文献を選びレジュメを作成しておく事。	
第13回	文献講読 口頭発表 討論	各自、文献を選びレジュメを作成しておく事。	
第14回	文献講読 口頭発表 討論	各自、文献を選びレジュメを作成しておく事。	
第15回	文献講読 口頭発表 討論	各自、文献を選びレジュメを作成しておく事。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50% レポートはA4版3枚程度にまとめ、どのようなアセスメントを行い支援したのかを自分なりにまとめておくこと。		
小テスト等	なし		
成果発表	50% レジュメの発表はそのままレジュメを読むのではなく、理解したことを自分の言葉で相手に分かるように伝える。		
受講態度他	この演習では相手に伝える練習も含んでいるので、間違いを恐れず自分なりに発言をして欲しい。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	発表に関しては積極的に行って欲しい。 分からないことは自分なりに整理し、討論のところで自分なりの理解を示し、どの点が分からないのか明確にしておくこと。 出席に関しては当然、全回出席が前提であるが、やむを得ない場合きちんと連絡をすること。		
教科書	使用しない		
指定図書	平井典子 著『朝日選書 カウンセリングの話』朝日新聞出版（2004） 前田重治 著『心理療法の進め方』創元社（1978）		
参考図書	松木邦裕 著『私設 対象関係論的心理療法入門』金剛出版（2005）		
オフィスワー	講義の前後に相談ください。	メールアドレス	

授業科目	カウンセリング概論	開講時期	前期
担当教員	石井 洋平	単位	2
授業の目的と概要	カウンセリングの具体的なイメージをつかむとともに、理論の学習を通じて多様な人間観に触れ、自己理解・他者理解ができるようになることを目的とします。		
到達目標	1・カウンセリングとは何かについて説明することができる。 2・カウンセリングの基礎となる理論や、様々な技法について説明することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション：カウンセリングとは何か	教科書「まえがき」を読書	
第2回	カウンセラーの基本的態度。カウンセリングのプロセス	教科書「第一章」を読書	
第3回	さまざまな心の病	参考書・参考資料を読書	
第4回	インテーク面接とその目的	教科書「第二章」を読書	
第5回	カウンセリングの技法①	教科書「第三章」「第四章」を読書	
第6回	カウンセリングの技法②	教科書「第四章」「第五章」を読書	
第7回	カウンセリングの終結：終結とは何か？	教科書「第六章」を読書	
第8回	思春期・青年期の心と症状	参考書・参考資料を読書	
第9回	クライアント中心療法	参考書・参考資料を読書	
第10回	認知行動療法	参考書・参考資料を読書	
第11回	精神分析療法	参考書・参考資料を読書	
第12回	家族療法	参考書・参考資料を読書	
第13回	こどもの心と症状	参考書・参考資料を読書	
第14回	プレイセラピー	参考書・参考資料を読書	
第15回	総括	参考書・参考資料を読書	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	80% 学んだことの復習として行う。		
レポート	%		
小テスト等	%		
成果発表	%		
受講態度他	20% 講義への参加態度や出席状況も考慮します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義をよく聴き、積極的に討論に参加してください。		
教科書	平木典子著『カウンセリングとは何か』朝日新聞出版（1997）		
指定図書	なし		
参考図書	平木典子著『カウンセリングの話』ほか(必要に応じ授業中に適宜紹介)		
オフィスアワー	講義の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	家族関係特論		開講時期	前期
担当教員	小川 直樹		単位	2
授業の目的と概要	<p>社会の変貌とともに、家族関係のあり方や機能もゆれ動いている。核家族が一般化するとともに、家事や育児についての男女の柔軟な役割分担、老親の介護・扶養や相続をめぐる問題などが続出している。こうした日々の生活周辺で認められる具体的な諸問題に関して家族法の基本理念に立ち戻って考察することができるような判断力を身につけることができます。夫婦別姓の論議も本格化して、法改正案の国会提出が日程にのぼっているがまだならず、その現在の世論の動向をふまえて検討します。</p>			
到達目標	<p>家族関係の原点にある出生と死亡に関する論議ならびに家庭の教育的機能の低下、弱体化、あるいは脆弱化などから派生する社会的諸問題を提出しながら、これからの家族関係の対応と課題を探ります。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	家族関係の基礎概念 「いえ」の語源論、家族の意義		予習(教科書)	
第2回	家族の種類と現代家族 歴史的研究の周辺		第1章	
第3回	日本国憲法における家族 家族の位置		第1章	
第4回	民法・家族法制度論 民法施行100年のときと暮らし		第1章	
第5回	家族機能論 家族社会学研究の展開		第2章	
第6回	婚姻制度 婚約・結納、内縁関係		第3章	
第7回	夫婦関係 一般的・財産的効果論		第4章	
第8回	出生と死亡 生殖医療科学と法制度		第5章	
第9回	親子関係 養子・親権の内容		第6章、第7章	
第10回	親族 法的効果・親族間の扶養論		第9章	
第11回	相続と遺言(1) 相続の意義・効果・承認と放棄		第10章	
第12回	相続と遺言(2) 遺言・遺留分制度		第11章	
第13回	家庭紛争と家庭裁判所(1) 役割論・調停前置主義		第8章	
第14回	家庭紛争と家庭裁判所(2) 調停の進め方		第8章	
第15回	家族関係をめぐる動向と今後の論点 超高齢社会・少子化社会の構造と対応		第12章	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	75% 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	10% 社会の動きに注目して発言してください。			
受講態度他	15% 授業に積極的に参加する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1) 毎回テキストの重要箇所を指示します。予習をして授業に臨んでください。</p> <p>2) 新聞を読んでおくことで、授業内容を広い視野で見つめることができます。新聞は社会そのもの、現実の国際社会・全宇宙の情報を伝えます。Newspaper in Education「教育に新聞を」。積極的に接して、考えてみて下さい。</p>			
教科書	井上 馨 編『これからの家族関係—現代家族の諸問題—』建帛社			
指定図書	湯沢雍彦・宮本みち子著『データで読む家族問題』日本放送出版協会、利谷信義著『家族の法』有斐閣、菅野耕毅著『新版・図説家族法』法学書院			
参考図書	利谷信義著『家族と国家—家族を動かす法・政策・思想』筑摩書房 各章・節をめぐり、その都度に授業の中で紹介します。			
オフィスワー	月曜日の3限前後、非常勤室に在室しています。講義の際に指示します。	メールアドレス		

授業科目	家族社会学		開講時期	前期
担当教員	徳永 勇		単 位	2
授業の目的と概要	<p>家族の自明性と存在意義とが疑われるようになって久しい。近年では、依存症やひきこもりをはじめとする社会的不適応の病巣として機能不全家族の問題がクローズアップされてもいる。さらなる小家族化と家族紐帯の弱体化、家庭内暴力と子ども・高齢者虐待、夫婦別姓、同性愛者の家族認定、生殖技術の進展にともなう問題等々、家族をめぐる問題状況は、ますます複雑化している。本講義では、家族社会学の基礎的な知見とともに、そうした家族をめぐる問題状況について解説する。本講義の目的は、家族のしくみと歴史、現状と問題点について理解を深め、あわせてよりよき家族のあり方を展望する想像力をもつことにある。上記のとおり、家族をめぐる問題状況は、ますます多様化、深刻化している。自閉化しがちな家族が抱える深刻な問題を、地域社会の人的資源を活かして解決していく方途を考えていくことも、本講義の目的の一つである。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ジェンダーとセクシュアリティ、家父長制の意味を説明できる。</li> <li>2. 家族形成の原理と家族の範囲について説明できる。</li> <li>3. 近代家族の成立過程と特徴について説明できる。</li> <li>4. 現代家族の特徴と家族問題について説明できる。</li> <li>5. 家族と社会福祉援助、生殖テクノロジーの問題について説明できる。</li> <li>6. 人間を不幸にしない家族のあり方を自らのこれからの人生と重ね合わせて構想できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本講義は、人間関係専攻DP②「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」、初等教育コースDP②「初等教育に関する専門的知識や子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況についての知識を身に付けることができる。」、幼児保育コースDP②「子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況に関する知識を身に付けることができる。」に準拠する。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	ジェンダーとセクシュアリティ		予習 講義ノートp.1	
第 2回	性差別と家族		予習 講義ノートpp.1-2	
第 3回	ジェンダーと家父長制		予習 講義ノートp.2	
第 4回	近代社会と家父長制家族		予習 講義ノートpp.2-3	
第 5回	婚姻規則と家族類型		予習 講義ノートpp.3-4	
第 6回	家族法とファミリー・アイデンティティ		予習 講義ノートpp.4-5	
第 7回	近代家族の成立と展開		予習 講義ノートpp.5-6	
第 8回	近代家族の形態と機能		予習 講義ノートpp.6-7	
第 9回	現代家族の動向		予習 講義ノートpp.7-8	
第10回	少子化と晩婚化・非婚化		予習 講義ノートp.8	
第11回	機能不全家族とアダルト・チルドレン		予習 講義ノートp.8	
第12回	子ども虐待と高齢者虐待、ドメスティック・バイオレンス		予習 講義ノートp.9	
第13回	家族機能と社会福祉事業		予習 講義ノートp.10	
第14回	生殖テクノロジーと家族		予習 講義ノートpp.10-11	
第15回	家族ではないがそれでも家族であるということ		予習 講義ノートpp.11-12	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	100%：テーマ選択、論述式の筆記試験で評価する。持ち込みは配布プリント、自筆ノートのみ可。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義で紹介する参考文献をできる限り多く読みこなし、自主的な学修をはかっていただきたい。			
教科書	使用しない。			
指定図書	神原文子・杉井潤子・竹田美知編著『よくわかる現代家族』ミネルヴァ書房(2009)、井上俊・伊藤公雄編『近代家族とジェンダー』世界思想社(2010)、牟田和恵編著『家族を超える社会学』新曜社(2009)			
参考図書	講義中に、適宜紹介する。			
オフィスワー	月曜日3限・火曜日3限		メールアドレス	



授業科目	家族社会学		開講時期	後期
担当教員	橋本 嘉代		単位	2
授業の目的と概要	<p>個人や家族のあり方、変化や多様性についてさまざまな「問い」を設定し、社会学の視点で読み解くことで、論理的思考力を身につけることを目指します。</p> <p>Q 家族とはいつの時代も変わらないものか？ 歴史的に変化してきたのか？</p> <p>Q 日本では家族にどのような役割が期待されているのか？</p> <p>Q 若い女性の間では、キャリア志向と専業主婦志向、どちらが支持されているのか？</p> <p>Q 日本ではなぜ少子化が進んでいるのか？</p> <p>Q 日本社会のなかで公的に認められてこなかった人々の権利を保障するためにはどうしたらよいか？ …… etc</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当たり前だと思っている「家族」について、データや仮説をもとにとらえ直す情報リテラシーを身につける。</li> <li>・個人の生き方が多様化するなか、誰もが尊重される社会を作るためには何が必要かを考える創造的思考力を身につける。</li> <li>・女性の貧困や男女格差、女性労働者の二極化、性別役割分業など、女性の人生をとりまく諸問題を知り、自己の将来設計に生かす。</li> <li>・関心のあるテーマで個人研究をし、その結果をまとめて発表することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は「女性の生き方を考える副専攻」の科目です。ほかに「現代社会とジェンダー」、「女性とビジネス」、「アジアジェンダー論」、「Gender and Communication」、「女性と文学」、「女性・ジェンダー論」などがあります。該当科目の所定の単位を修得すると、「女性の生き方を考える副専攻」の修了証書が授与されます。詳しくは『学生便覧』を参照のこと。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス：個人研究+レポートの説明	目次と第1章を読む。授業で紹介された文献やデータを参照する		
第2回	家族を読み解くために（第1章） p. 1-22	テキストの範囲の予習・復習		
第3回	「近代家族」の成立（第2章）	テキストの範囲の予習・復習。小テスト対策		
第4回	家族・貧困・福祉①（第3章） +1-2章の範囲の小テスト	テキストの範囲の予習・復習。小テスト対策		
第5回	家族・貧困・福祉②（第3章）	テキストの範囲の予習・復習		
第6回	結婚（第4章）	テキストの範囲の予習・復習。小テスト対策		
第7回	就業と家族①（第5章） +3-4章の小テスト	テキストの範囲の予習・復習。小テスト対策		
第8回	就業と家族②（第5章）	テキストの範囲の予習・復習		
第9回	妊娠・出産・子育て①（第6章）	テキストの範囲の予習・復習		
第10回	妊娠・出産・子育て②（第6章） + 『「育メン現象」の社会学』から	テキストの範囲の予習・復習。小テスト対策		
第11回	個人研究+レポートの準備 +5-6章の小テスト	個人研究+レポートの準備。小テスト対策		
第12回	親一人子関係のゆくえ①（第7章）	テキストの範囲の予習・復習、個人研究+レポートの準備		
第13回	親一人子関係のゆくえ②（第7章）	テキストの範囲の予習・復習、個人研究資料作成、レポート提出		
第14回	個人研究発表①	パワーポイント資料作成、プレゼン準備		
第15回	個人研究発表②	パワーポイント資料作成、プレゼン準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	30%（どちらか選択①父親インタビュー ②家族がテーマの映画、ドラマ、マンガなどを家族社会的に批評したもの）			
小テスト等	15%（基本用語の確認テスト。3回実施）			
成果発表	40%（=個人研究プレゼン。テーマは各自が設定）			
受講態度他	15%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は必ず早めに購入し、授業の範囲を事前に読んでおきましょう。</li> <li>・レポートは第13回の授業日の16時が締切（教務課BOXに提出）</li> <li>・個人研究の準備（文献探し、プレゼン資料の作り方の説明）のため、教室変更をする場合があります（事前に連絡します）。</li> </ul>			
教科書	岩間暁子、大和礼子、田間泰子、2015、『問いからはじめる家族社会学 -- 多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣			
指定図書	なし			
参考図書	石井クンツ昌子、2013、『育メン現象の社会学』ミネルヴァ書房			
オフィスアワー	火曜14:50-16:20	メールアドレス		

授業科目	家族心理学	開講時期	後期
担当教員	洪田 登美子	単位	2
授業の目的と概要	現代では、家族を取り巻く社会文化的文脈が大きく変化しており、その影響を受けて家族の変容が指摘されている。一方で、子どもの発達からは、家族の重要性がより強調されている。そのような家族の理解と支援を考えると、家族システム論からの視点が重要となる。 この授業の目的は、家族を家族システム論から理解することである。さらに現代家族が抱える諸問題について考察する。それらの問題についての家族支援について基礎的知識を得る。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族をシステムとしてとらえ、家族のライフサイクルについて文章で説明することができる。</li> <li>2. 家族は、家族を取り巻くより大きなシステムである社会から常に影響を受けていることを、具体的な例を挙げて述べることができる。</li> <li>3. 家族療法の特徴と代表的な技法について簡潔な文章で記述することができる。</li> <li>4. 現代の家族が抱える問題について説明することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、人間関係専攻DP2「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」に関連した科目である。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 家族とは何か		予習：第1章	
第2回 家族の健康とは		予習：第2、3章	
第3回 家族の発達①：家族ライフサイクルと発達課題		予習：第2、3章	
第4回 家族の発達②：結婚と離婚の現状、現代日本の夫婦が抱える問題		予習：第4章	
第5回 家族の発達③：子どもが育つ場としての家族		予習：第5章	
第6回 家族の発達④：子育てに関する神話と誤った思い込み		予習：第5章	
第7回 家族と社会の関わりを児童虐待の発生要因から考える		予習：第5章	
第8回 変動する社会の中の家族：システム論によって家族を理解する		予習：第6章	
第9回 家族システム論から家族関係や家族の問題を理解する		予習：第7章	
第10回 多世代伝達過程から家族を理解する		予習：第7章	
第11回 家族への臨牀的アプローチ、DVD視聴		予習：第8、9章	
第12回 現代家族の諸問題①：不登校・引きこもりの子どもがいる家族への臨牀的アプローチ		予習：第8、9章	
第13回 現代家族の諸問題②：家庭における4つの暴力		予習：第9章	
第14回 現代家族の諸問題③：高齢者虐待		予習：第9章	
第15回 総括と質疑		復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	—		
レポート	70%		
小テスト等	20% 2回実施（10%×2）		
成果発表	—		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず教科書の該当箇所を読んで受講してください。		
教科書	平木典子・中釜洋子著 『家族の心理 ― 家族への理解を深めるために』 サイエンス社		
指定図書	使用しない		
参考図書	平木典子著 『家族との心理臨床』 垣内出版 中釜洋子著 『いま家族援助が求められるとき』 垣内出版		
オフィスワー	水曜日の昼休みと4限	メールアドレス	

授業科目	【閉講】家族心理特論	開講時期	前期
担当教員	渋田 登美子	単位	2
授業の目的と概要	<p>個人が何かの問題を抱えているとき、その人個人の問題としてとらえたり、親子関係の問題として語られることが多い。しかし実際は、家族内の人間関係はみな相互に関係しており、またその家族を取り巻く人間関係や地域社会、文化とも相互に影響しあっている。したがって、心理的援助を考えるとき、社会の中の家族、家族の中の個人を理解する必要がある。</p> <p>この授業の目的は、家族についてシステム的な理解や多世代の観点からの理解できるようになることである。さらに家族臨床や家族支援について理解することである。また、家族を通して現代社会の様々な問題を考察する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族をシステムとしてとらえ、家族のライフサイクルについて述べることができる。</li> <li>2. 家族は、取り巻くより大きなシステムである社会から常に影響を受けていることを具体的な例を挙げて述べるができる。</li> <li>3. 現代社会が抱える家族に関するトピックスを一つ取り上げ、各自の研究テーマと関連させながら、考察することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	家族心理学とは : 家族システム論	第1章の予習と復習	
第2回	家族を取り巻く社会文化的文脈の変動と家族の変化	第1章の予習と復習	
第3回	心理的構造から家族を理解する : 境界、連合、パワー	第2章の予習と復習	
第4回	多世代伝達過程から家族を理解する : 自己分化、三角関係化、忠誠心	第2章の予習と復習	
第5回	家族のアセスメント : ジェノグラム、FIT	ジェノグラムを作成	
第6回	家族のライフサイクルと発達課題①	第3、4、5章の予習と復習	
第7回	家族のライフサイクルと発達課題②	第6、7章の予習と復習	
第8回	家族臨床① : 子ども虐待と子育て支援	第11、14章予習と復習	
第9回	家族臨床② : 家族のストレス	第12章予習と復習	
第10回	家族臨床③ : 配偶者間暴力	第13章予習と復習	
第11回	家族臨床④ : 高齢者虐待	第8章予習と復習	
第12回	家族療法① : コミュニケーションへのアプローチ	課題資料を読んでおく	
第13回	家族療法② : 解決志向アプローチ	課題資料を読んでおく	
第14回	家族療法③ : 心理教育的アプローチ	課題資料を読んでおく	
第15回	まとめ	レポート作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	50% 期末レポート		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	50% 授業に対する積極的参加態度を評価		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>ディスカッションを通して、現代の家族を多角的に理解していきたい。</p> <p>教科書及び資料は、事前に読んでおくこと。</p>		
教科書	中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・武藤清子著『家族心理学 家族システムの発達と臨床的援助』 有斐閣ブックス		
指定図書	なし		
参考図書	<p>日本家族心理学会編 『家族のストレス』 金子書房</p> <p>岡田隆介著 『こころの援助レシピ 家族の法則2』 金剛出版</p>		
オフィスアワー	月曜日4限	メールアドレス	

授業科目	家庭支援論		開講時期	後期
担当教員	西原 尚之		単 位	2
授業の目的と概要	現代社会における家庭の意義と機能を理解し、子育て環境や家族関係などの現実について理解し、子育て家庭の支援について理解することを目的とする。特に保育所における「子育て支援」が重要な社会的役割であること、子どもと親を含めた支援が保育の対象であること、さらにはその他の児童福祉施設の親についても、子育て支援が必要とされることについての理解を深める。また、家庭のニーズに応じた多様な支援対策を提供するため、種々の支援の実際及び関係機関との連携の必要性についても理解を促す。			
到達目標	①家庭の意義とその機能について説明することができる。 ②社会環境の変化が、子育て家庭に及ぼしている影響や特徴を説明することができる。 ③子育て家庭のニーズに応じた多様な支援および関係機関との連携について考えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	子どものよさや課題を理解し、適切に支援するための理論について概要を説明することができる。社会理解の領域では「家族社会学」「地域社会学」の理解が本授業を受講するうえでベースになる。また人間支援の領域では「児童家庭福祉論」「社会的養護」を事前に復習しておく必要がある。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	家庭支援の意義と機能	家庭支援・家族援助に関する書籍を最低1冊は読んでおく		
第2回	現代社会における家庭支援の必要性	子どもの家庭支援に関する新聞記事を3つ探してコメントを書く		
第3回	保育士等が行う家庭支援の原理	保育士がおこなう家庭支援の事例を探してみる		
第4回	家庭生活を取り巻く社会状況① 現代の家庭における人間関係	4回目の講義内容を自分の生活に照らして具体例をあげる		
第5回	家庭生活を取り巻く社会状況② 地域社会の変容と家庭支援	5回目の講義内容を自分の生活に照らして具体例をあげる		
第6回	家庭生活を取り巻く社会状況③ 男女共同参画社会とワーク・ライフ・バランス	自分の家族や身近な家族を例にワークライフバランスの課題を探す		
第7回	子育ての家庭の支援体制① 子育て家庭の支援を図るための社会資源について	自分の居住地の社会資源を調査する		
第8回	子育て家庭の支援体制② 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	自分が住んでいる市町村の子育て支援施策・次世代育成支援施策を調べる		
第9回	多様な支援の展開と関係機関との連携① 子育て支援サービスの概要	革新的な子育て支援サービスを行っている自治体の支援内容を調べる		
第10回	多様な支援の展開と関係機関との連携② 保育所を利用する家庭への支援	保育所利用している家庭の福祉ニーズの特徴をまとめる		
第11回	多様な支援の展開と関係機関との連携③ 地域の子育て家庭への支援	保育所と連携する機関の特徴を調べる		
第12回	多様な支援の展開と関係機関との連携④ 要保護児童およびその家庭に対する支援	「社会的養護」の授業の復習をしておく		
第13回	多様な支援の展開と関係機関との連携⑤ 子育て支援における関係機関との連携	連携・協働・ネットワークアプローチの概念を整理しておく		
第14回	多様な支援の展開と関係機関との連携⑥ 子育て支援サービスの課題	連携・協働・ネットワークアプローチで支援した事例を探す		
第15回	まとめ	全回を復習しておく		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. 2/3(10回)以上の出席で定期試験を受験することができる 2. 毎回出席カードの裏に「感想・質問」を記入する 3. 授業態度は出席カードに適度な感想、質問の記入がある場合毎回2点を与える			
教科書	使用しない。資料配布			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中随時紹介			
オフィスアワー	火曜4・5講	メールアドレス		

授業科目	環境学		開講時期	後期
担当教員	速水 良晃		単位	2
授業の目的と概要	地球上に生物が誕生してから約40億年、人類が誕生してからも数万年になる。しかし、僅かこの100～150年で人類の生産活動が著しく発達し、地球全土にわたる物質循環のバランスを崩し、大きな環境破壊が起こっている。この科目では、有史以来の人間の環境への関わりと主な問題点を学び、環境問題解決のための第一歩として、現在の複雑化した社会システムの中での自分の生活と地球環境問題のつながりを把握し、その対策を検討できるようになることを目的とする。教科書として選んだ本は、現代の環境問題の重要テーマを分かりやすく解説しており、地球環境問題解決への有効な取り組みを学ぶことができる。			
到達目標	① 人間の文明と環境問題の関係を、具体的に説明することができる。 ② これまでに発生した主な環境問題について、具体的に説明することができる。 ③ 自分の生活と環境問題の関係を、具体的に説明することができる。 ④ 自分の身の回りの環境問題について問題点を設定し、幾つかの改善策を提案できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に文学部共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。同じ学部共通科目である「天文学」や「経済学」などを受講すると相互の理解が深まります。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス：講義のねらい、トピック概説、ペットボトルの水	復習		
第2回	(第1章) 人間活動と環境とのかかわり	予習・復習		
第3回	(第2章) 環境変化にともなう異変	予習・復習		
第4回	(第2章) 環境変化にともなう異変(砂漠化、有害廃棄物の越境移動)、(第3章) 大気汚染(地球温暖化)	予習・復習		
第5回	(第3章) 大気汚染(地球温暖化、オゾン層破壊)	予習・復習		
第6回	(第3章) 大気汚染(酸性雨、黄砂、光化学スモッグ、PM 2.5、アスベスト)	予習・復習		
第7回	(第4章) 水質汚染	予習・復習		
第8回	(第5章) 土壌汚染	予習・復習		
第9回	(第6章) 化学物質による汚染	予習・復習		
第10回	(第8章) ごみと廃棄物	予習・復習		
第11回	(第10章) 生物濃縮と生物モニタリング、(第11章) 汚染物質の毒性と生体内での代謝、(第12章) 内分泌攪乱物質	予習・復習		
第12回	(第14章) エネルギー資源と環境問題(エネルギー消費、再生可能エネルギー、省エネルギー)	予習・復習		
第13回	(第14章) エネルギー資源と環境問題(原子力発電)	予習・復習		
第14回	(第15章) 食料自給率と環境	予習・復習		
第15回	(第7章) 水と食品の安全性、(第16章) 水の有効利用、(第13章) 環境保全に向けたさまざまな活動、総合的な質問、まとめ、授業評価	予習・復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験(学習記録のみ持込可、コピーの持ち込みは不可)			
レポート	30% 毎回の学習記録(記載した疑問点について15回の授業で1回以上質問すること、終了時提出、翌週返却)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 授業内容の理解を深める質問(内容と回数)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	分からない所を質問すれば、その内容に応じて加点していただきますが、教科書に回答がそのまま書いてあるような質問は対象としません。授業内容の理解を深めて、他の受講者の理解度も高まるような質問を歓迎します。			
教科書	川合・張野・山本 著、「環境科学入門」、化学同人			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	研究会(金曜)・講義・会議時間を除き、いつでも可	メールアドレス		

授業科目	環境社会学		開講時期	後期
担当教員	柴田 祐		単 位	2
授業の目的と概要	環境破壊の歴史と環境保護の取り組みについて理解を深め、説明できるようになることを目的とする。環境社会学は、社会学の中でも比較的新しい分野である。本授業では、そのような環境社会学の性格を概観しながら、開発にもなう環境破壊の歴史をふまえ、環境と共生しうるライフスタイル創造と環境保護の様々な取り組みの具体事例をビジュアルに提示しながら検討し、持続可能な環境・資源利用のあり方について考察する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境問題の本質、原理について説明できる</li> <li>2. 地域の環境問題の歴史的背景と地球環境問題の時代的背景を説明できる</li> <li>3. 都市と農村の関係と、それぞれの発展の歴史を説明できる</li> <li>4. 新たな環境対策のあり方を構想できる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に現代社会学部DP2「現代社会を理解するために、社会学の基礎的な知識と技能を身につけている。」の達成に関わる科目です。「地域社会学」「地域環境論」「循環型社会論」などについても受講すると、相互の理解が深まります。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	環境社会学とは	環境社会学の概念について復習する		
第2回	環境問題の歴史（その1）	縄文時代にまでさかのぼる環境問題について復習する		
第3回	環境問題の歴史（その2）	主に戦後の環境問題について復習する		
第4回	都市環境問題	身近な都市の環境問題について復習する		
第5回	混住化と地域社会	郊外の地域社会について復習する		
第6回	歴史的環境の保全と地域再生	歴史的環境の保全の現状について復習する		
第7回	景観形成とコミュニティ	景観形成の現状について復習する		
第8回	農村、集落の現状	農村の現状について復習する		
第9回	過疎地域のこれまでのこれから	過疎の現状について復習する		
第10回	農業における環境破壊と環境創造	農業による環境破壊と創造について復習する		
第11回	森林保全とその担い手	森林保全の現状について復習する		
第12回	都市農村交流の現状と課題	都市農村交流の現状について復習する		
第13回	内発的発展論と地域社会	内発的発展論の概念について復習する		
第14回	人間にとっての自然	人間にとっての自然について復習する		
第15回	自然環境の保全と利用	自然環境の保全の現状について復習する		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	70% 定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	30% 小テストを3回実施します。			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	なし			
教科書	使用しない。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	授業中に適宜、紹介する。			
オフィスワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	環境と経済		開講時期	前期
担当教員	村上 佳世		単位	2
授業の目的と概要	この授業は、環境問題の背後にある経済の仕組みについて理解することを目的とする。企業の環境報告書に記載される数値を読み解きながら、社会的費用やライフサイクルアセスメントの考え方を学び、環境と経済を両立できる「持続可能な社会」を実現する解決策を検討できるヒントとなるアイデアを学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業活動と環境問題とのつながりについて具体例を用いて説明することができる。</li> <li>2. 企業の環境報告書の概要を読み解くことができる。</li> <li>3. 企業による経済活動と環境問題とのかかわりについて自分なりに意見を持ち、ディスカッションに参加することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	主に環境共生社会コースのDP3「環境共生社会実現のための個人や企業の活動のあり方や社会全体の仕組みを説明することができる」の達成に関わる科目。1年次配当の「環境と商品」を既に履修していることが望ましい。（なお、1年次配当の学部共通科目「現代経済論」もあわせて受講しておくことを強く進める）			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 ガイダンス			学習に向けた事前調査	
第2回 環境経営とは何か①			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第3回 環境経営とは何か②			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第4回 環境管理会計を知らう①環境コストの考え方			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第5回 環境管理会計を知らう②手法の体系			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第6回 環境管理会計を知らう③マテリアルフローコスト会計の考え方			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第7回 環境管理会計を知らう④マテリアルフローコスト会計の実例			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第8回 ライフサイクルアセスメントを知らう①基本的な手順			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第9回 ライフサイクルアセスメントを知らう②利用動向と課題			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第10回 ライフサイクルアセスメントを知らう③環境影響の統合化指標への発展			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第11回 環境効率とファクタ			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第12回 企業の環境報告書を読んでみよう①みんなで読もう			好きな企業の環境報告書を入手する	
第13回 企業の環境報告書を読んでみよう②各自で読んでまとめよう			好きな企業の環境報告書を読んで情報を整理する	
第14回 説明資料を作ろう			好きな企業の環境報告書に掲載されている情報を説明する資料を作る	
第15回 発表			様々な産業の環境報告書を各自で調べて授業内容を復習する	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	%			
レポート	60%			
小テスト等	%			
成果発表	30%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>①毎授業後に簡単な復習レポートを課す。</li> <li>②授業で学んだ知識を活かして実際の企業の環境報告書を読み込み、説明資料を作成する。</li> <li>③作成した資料を、第15回授業で成果として発表する。</li> </ol>			
教科書	毎回の授業時に資料を配布する。			
指定図書	特になし。			
参考図書	國部克彦・伊坪徳宏・水口剛（2012）「環境経営・会計（第2版）」有斐閣アルマ			
オフィスワー	月曜昼休み（12:20-13:10）、火曜昼休み（12:20-13:10）	メールアドレス		

授業科目	環境と健康		開講時期	後期
担当教員	栗木 明裕		単位	2
授業の目的と概要	<p>&lt;目的&gt; 「健康」という日々の生活の中で最も大切なことを社会および環境との関わりの中で理解する。さらに自分自身の生活を振り返り、より快適なライフスタイルを創造・実施できる能力を身につける。</p> <p>&lt;概要&gt; 社会環境や政治経済の変化、テクノロジーの進歩に伴い、私たちの生活も大きな変容を遂げてきました。この授業では、身近な生活環境を通して自分自身を見つめ直し、自分自身の健康観を養います。また、実際に身体を動かしたり、太宰府の生活環境を調査したりしながら関心を深めます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人や生活を生態系に位置づけて理解する。</li> <li>2. 社会や環境と健康との関係を学び、それらの変化が健康に与える影響を理解する。</li> <li>3. 人への理解を深め、より良いライフスタイルを創造し、能動的に生活できる能力を養う。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本科目は現代社会学部環境共生社会コースDP3「環境共生社会実現のための個人や企業の活動のあり方や社会全体の仕組みを説明することができる」ための科目です。また、「エコハウス論」「地域デザイン」「NPO論」「環境教育」などの科目に関連しています。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 ガイダンス		授業に向けた事前調査		
第2回 健康像について・・・健康を表す指標		平均余命について調べる		
第3回 健康情報を読み解く（１）・・・保健統計情報		指定された統計情報を収集する		
第4回 健康情報を読み解く（２）・・・身近な保険統計情報		指定された統計情報を収集する		
第5回 健康づくりを考える（１）・・・太宰府探訪		太宰府の地図を確認する		
第6回 生活環境と健康（１）・・・経済、教育		健康に過ごすための教育とは何かを考える、まとめる		
第7回 生活環境と健康（２）・・・食		食事調査を実施する		
第8回 生活環境と健康（３）・・・働く		労働問題の例を挙げる		
第9回 生活環境と健康（４）・・・睡眠と休養		睡眠時間を調査する		
第10回 自分自身を知る（１）・・・身体のしくみ		内臓の機能について調べる		
第11回 自分自身を知る（２）・・・形態、姿勢		良い姿勢について調べる		
第12回 自分自身を知る（３）・・・心		自分自身のストレスを調べる		
第13回 健康づくりを考える（２）・・・ホリスティックな運動プログラムを考える		快適な身体環境のための運動プログラムを考える		
第14回 ライフスタイルの提言（１）・・・準備		テーマを決定し、プロポーサルを作成する		
第15回 ライフスタイルの提言（２）・・・発表		発表の準備をする		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 授業中に1回課す（30％）、授業毎に小課題（30％）			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ プレゼンテーション			
受講態度他	10％ 積極的な授業態度、発言私語など受講態度が悪く、授業の進行や他の学生の妨げとなる場合は減点もあり得る。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	環境と健康は切り離せない関係にあり、みなさんの非常に身近にあるものです。そのため、みなさんの興味を大切にして授業を進めていきますので、みなさんも自分の頭で考えて自分の言葉でたくさん語るように心がけてください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日13:10～14:40（要事前連絡）	メールアドレス		



授業科目	環境と商品		開講時期	後期
担当教員	村上 佳世		単位	2
授業の目的と概要	私たちの生活と環境問題とのかかわりについて当事者意識をもって理解することを目的とする。私たちの生活の基礎となる消費行動は、ごみ問題や資源枯渇問題、地球温暖化問題等の環境問題と密接に関係している。そのメカニズムを商品の購買行動やエネルギー消費行動等、日常の身近な行動事例を通して検討することで、消費者としての自分を発見し、さらに生活者としての自覚をもって社会とのかかわりを考える主体性を身につける。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食生活と環境問題とのかかわりについて具体例を用いて説明することができる。</li> <li>2. エネルギー消費と環境問題とのかかわりについて具体例を用いて説明することができる。</li> <li>3. 私たちの生活と環境問題とのかかわりについて自分なりに意見を持ち、ディスカッションに参加することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	主に環境共生社会コースのDP3「環境共生社会実現のための個人や企業の活動のあり方や社会全体の仕組みを説明することができる」の達成に関わる科目。2年次配当の「環境と経済」履修予定者はできる限りこちらも履修しておくことが望ましい。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 ガイダンス			学習に向けた事前調査	
第2回 私たちの食と環境問題①イントロダクション			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第3回 私たちの食と環境問題②食品の生産と環境負荷（水産資源の管理問題）			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第4回 私たちの食と環境問題③食品の生産と環境負荷（環境にやさしい農産物）			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第5回 私たちの食と環境問題④食品の消費と廃棄物問題			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第6回 環境負荷はどうやって測れるか（ライフサイクルアセスメント）			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第7回 消費者に何が出来るか（ラベルについて学ぼう）			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第8回 応用（エネルギー消費と環境負荷について考えよう）			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第9回 応用（省エネ機器は選べるか）			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第10回 応用（電力は選べるか）			授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第11回 レポートに向けて課題を整理しよう			自分で選んだトピックについて各自調査をする	
第12回 レポートを書こう①執筆			レポートを書き進める。適宜添削を繰り返す。	
第13回 レポートを書こう②加筆修正（添削）			レポートを仕上げる	
第14回 プレゼンテーションをしよう①（準備）			プレゼンテーション資料を作成する	
第15回 プレゼンテーションをしよう②（発表）			受講者同士でディスカッションをする	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	%			
レポート	70%			
小テスト等	%			
成果発表	30%			
受講態度他	%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>①毎授業後に簡単な復習レポートを課す。提出期限は毎週金曜正午。研究室のドアに提出ボックスを設けておくのでそこへ提出すること。</li> <li>②後半に1回のレポート（A4×4枚程度）を課す。出題内容の詳細は授業時に説明する。</li> <li>③②の課題レポートを仕上げ、第15回授業で成果を発表する。</li> </ol>			
教科書	毎回の授業時にプリントを配布する。			
指定図書	特になし。			
参考図書	授業中に適宜紹介する。			
オフィスワー	月曜昼休み（12:20-13:10）、火曜昼休み（12:20-13:10）	メールアドレス		

授業科目	環境と倫理		開講時期	後期
担当教員	野見山 待子		単 位	2
授業の目的と概要	この授業のテーマは、環境について倫理です。つまり、今日の重要な社会問題である自然環境保護の問題を、思想のレベルから考察し、21世紀における自然と人間の関わり合いはいかにあるべきかについて考えることを目的とします。環境倫理（自然保護思想）と一口に言っても、多様な考え方や立場があります。この授業では、それら様々な考え方を系統立てて理解できるようにすることを目指します。さらに、それを土台に、自然と人間の関係のあるべきあり方について自ら考えることができるようになることを目的とします。			
到達目標	1 様々な自然保護思想について知り、かつ理解できるようになる。 2 環境問題を身近な問題として、当事者意識をもって考えることができるようになる。 2 これからあるべき自然と人間の関係にあり方について、自ら考える姿勢を身につけることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に環境共生社会コースのDP1「人間と自然環境との調和のための基礎知識を持っている」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 環境倫理学について			環境倫理とは何か、についての復習	
第2回 現在の資源消費は地球の持つ限界を超えていることについて			現代文明の資源消費のあり方についての復習	
第3回 フロンティア倫理から宇宙船倫理へ			従来の環境政策とこれからあるべき環境政策についての復習	
第4回 自然の保全か？保存か？			自然保護の二つのあり方についての復習	
第5回 食糧問題について			現在の食糧危機についての復習	
第6回 将来世代の人々の利益保護としての自然保護			世代間倫理についての復習	
第7回 土地倫理について			生命共同体の倫理についての復習	
第8回 核廃棄物の処理の問題について			原子力発電の問題点についての復習	
第9回 自然物の権利という考え方			自然物の原告適格についての復習	
第10回 動物解放論			動物の道徳的資格についての復習	
第11回 生物多様性の保護の重要性について			現在の生物多様性の危機的状況についての復習	
第12回 自然保護は生命共同体全体の幸福を考慮すべきか？			全体論的環境倫理学についての復習	
第13回 ディープ・エコロジーについて			関係論的な世界観についての復習	
第14回 使い捨て文化の再考			プラスチック・ゴミや化学物質の問題についての復習	
第15回 非西洋文明の自然観			アニミズムや自然崇拝についての復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％（授業内容を理解した上で、どれだけ自分で考えようとしているかを評価基準とします。）			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	50％（授業中のディスカッションへの貢献度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各回の講義は、前回もしくは以前の講義の内容を前提として話を進めるケースが多いので、各自でその都度の内容を復習しておいて下さい。私語をせず、積極的な関心をもって参加して下さい。なお、授業計画は授業の進行に応じて一部変更することがあります。授業では、映像資料も適宜使用します。			
教科書	プリントを配布			
指定図書	なし			
参考図書	鬼頭秀一『自然保護思想を問いなおす』 ちくま新書（1996年）			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	環境保護論		開講時期	後期
担当教員	佐々木 浩		単 位	2
授業の目的と概要	人間は、氷河期以降、人口を増加させながら自然に大きな影響を与えて来ました。食料として自然を利用し、自然を改変する事によって生産活動を行っており、自然を持続的に利用できるようにしないと、人間に将来はありません。日本では足尾銅山の鉍毒事件から始まり、水俣病などの4大公害病などを起こして来ました。最近では、国境を越えた問題として地球温暖化、オゾン層の破壊などがあります。様々な環境問題に、私たちがどのように対応してきたかを振り返り、様々な立場からの意見を学ぶことによって、各自の考えをつくっていく基礎を作ることをこの講義は目的としています。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間とその環境との関係を考える様々な思想を説明できるようになる。</li> <li>・自分がどのように環境問題を考えるかを説明できるようになる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	「人間と自然環境との調和のための基礎知識を持っている」という環境共生社会コースのDP1に該当する科目であり、様々な考え方を学んで自らの考えを作り上げる基礎を学ぶ科目です。「現代社会と環境」で概論を学び、この講義では身近な問題について考えていきます。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 講義概論			復習をして下さい。	
第2回 カワウソ絶滅の歴史			復習をして下さい。	
第3回 水俣病研究			本を読んで調べてください。	
第4回 水俣病討論とまとめ			レポートまとめ	
第5回 環境保護の論理1			復習をして下さい。	
第6回 環境保護の論理2			復習をして下さい。	
第7回 外来種問題			復習をして下さい。	
第8回 原子力発電研究 1			本を読んで調べてください。	
第9回 原子力発電研究 2			本を読んで調べてください。	
第10回 原子力発電討論とまとめ			レポートまとめ	
第11回 シカ・イノシシ・サル問題			復習をして下さい。	
第12回 捕鯨問題			本を読んで調べてください。	
第13回 捕鯨問題討論とまとめ			レポートまとめ	
第14回 フィールドワーク			事前、事後学習をしましょう。	
第15回 発表			パワーポイントの準備をして下さい。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	84% レポート3つ			
小テスト等	なし			
成果発表	8%			
受講態度他	8%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	個人的な理由での欠席は欠席として扱います。フィールドワークは受講者数と受講者の希望を聞いて決めたいと思います。この講義では、関連する本を何冊か読むこととなりますので、本を読んで調べることに慣れて下さい。			
教科書	なし			
指定図書	小田康徳 2008 『公害・環境問題史を学ぶ人のために』 世界思想社 高橋広次 2011 『環境倫理学入門』 勁草書房			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日 昼休み 及び 3講時		メールアドレス	

授業科目	【閉講】環境問題の科学		開講時期	後期
担当教員	速水 良晃		単位	2
授業の目的と概要	<p>僅かこの100～150年で人類の生産活動が著しく発達し、地球全土にわたる物質循環のバランスが壊れて、大きな環境破壊が起こっていることはよく知られているが、その中で生じている様々な化学変化については、複雑すぎて一般のニュースで採りあげられることはない。</p> <p>この科目では、環境問題の中で発生している化学変化を学ぶ前に、まず自然な状態での地球の姿を学ぶことから始める。我々の周りの気圏・水圏・地殻・土壌・生物圏では、どのような物質がどう関係しあっているのかを、科学の目を通して理解し、その上で環境問題の中で発生している様々な変化について学んでいく。</p>			
到達目標	<p>① 地球上の気圏・水圏・地殻・土壌・生物圏における物質の相互関係を、具体的に説明することができる。</p> <p>② これまでに発生した主な環境問題について、物質的な観点から説明することができる。</p> <p>③ 自分の生活と環境問題の関係を、科学的に説明することができる。</p> <p>④ 自分の身の回りの環境問題の科学的な側面を分析し、何らかの改善策を検討できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に環境共生社会コースのDP1「人間と自然環境との調和のための基礎知識を持っている」の達成に関わる科目である。同じ分類である「環境と倫理」や「自然環境演習」などを受講すると相互の理解が深まります。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス：講義のねらい、地球の姿	復習		
第2回	環境化学の工具箱	予習・復習		
第3回	大気の化学（1）	予習・復習		
第4回	大気の化学（2）	予習・復習		
第5回	陸地の化学（1）	予習・復習		
第6回	陸地の化学（2）	予習・復習		
第7回	陸地の化学（3）	予習・復習		
第8回	陸水の化学（1）	予習・復習		
第9回	陸水の化学（2）	予習・復習		
第10回	海の化学（1）	予習・復習		
第11回	海の化学（2）	予習・復習		
第12回	海の化学（3）	予習・復習		
第13回	変わりゆく地球（1）	予習・復習		
第14回	変わりゆく地球（2）	予習・復習		
第15回	総合的な質問、まとめ、授業評価	予習・復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	90% 定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 授業内容の理解を深める質問（内容と回数）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	分からない所を質問すれば、その内容に応じて加点していきますが、教科書に回答がそのまま書いてあるような質問は対象としません。授業内容の理解を深めて、他の受講者の理解度も高まるような質問を歓迎します。			
教科書	J.E.アンドリュース、他 著、渡辺 正 訳、「地球環境化学入門」、丸善出版			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	研究会（金曜）・講義・会議時間を除き、いつでも可	メールアドレス		

授業科目	観光学概論	開講時期	後期
担当教員	浮田 英彦	単 位	2
授業の目的と概要	観光とは何かと問われた場合。あなたは何と答えますか。この間は簡単ではありません実に奥深いものです。観光産業に従事する人でも、きちんと説明できる人は少ないのが現状です。ですから、観光は、と問われたら正しく答えることができる力をグループワーク等を用いて学習します。一方通行の授業では観光は学べません、双方向（参加型）なホスピタリティ的な授業を行います。		
到達目標	観光文化の一つを形成する、観光産業を理解する入門編です。その中で観光とはいったい何であるか、という問に対して答えを探ることを目標としています。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この「観光学概論」は、ビジネス社会コースのコースDP①「現代社会を構成する機能の中で、ビジネスが果たさなければならない役割を説明することができる。」の習得に関わっています。また、観光は専門分野だけではなく、教養科目とも関連してきます。幅広い知識が観光を育てます。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	観光の概念 観光を考えてみよう	ガイダンス	
第2回	観光の歴史 意外です観光の正体	授業内で指示します	
第3回	観光の諸制度と影響と効果 観光の貢献度を知ろう	発表の準備	
第4回	観光と社会 観光サービス産業は公共性が強い	授業内で指示します	
第5回	観光と情報 イメージってどこで作られるの？	発表の準備	
第6回	観光と地域社会 地域と調和する観光サービス産業ってなに？	授業内で指示します	
第7回	観光行動の成立 あなたはなぜ観光をするの？	発表の準備	
第8回	観光者の心理 あなたの知らない自分を知る事ができる観光	授業内で指示します	
第9回	観光と交通 便利な観光でいいの？	発表の準備	
第10回	観光と宿泊 非日常性で女王に変身	授業内で指示します	
第11回	観光と諸事業 こんなにある観光サービスの仕事	発表の準備	
第12回	観光旅行業 旅行業正体を少し知ろう	授業内で指示します	
第13回	観光サービス産業の労働と人材 キツイ仕事ですか？キツイとはなに？	復習	
第14回	観光サービス業が必要とする人材	ここまでの復習をしてください	
第15回	まとめ	特にありません	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	なし		
小テスト等	20%		
成果発表	なし		
受講態度他	発言50%、提出物30%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義形式で進めていきますが、一方通行にならないようにするために、観光サービス産業が抱えている社会的な問題点等を随時提供し意見を求めています。		
教科書	特に指定しません。プリントを配布します。		
指定図書	服部勝人 『ホスピタリティ・マネジメント入門』 丸善株式会社（第2版）		
参考図書	『観光学基礎』 JHRS（2012）、前田勇 『現代観光総論』 学文社（2005）		
オフィスワーク	授業時の前後	メールアドレス	

授業科目	観光経営論		開講時期	後期
担当教員	浮田 英彦		単 位	2
授業の目的と概要	無形形で在庫することができず、季節変動に、把握しにくい欲求など、観光産業は多くの特徴を持ちます。その構造と、特性を学ぶことを目的としています。			
到達目標	就労人口の7割がサービス産業に従事しているわが国では、いかにしてサービスから有効に収益を生じさせるかが重要な問いとなっています。そのためにマネジメントという手法が必要となるのです。授業では、サービスとホスピタリティの理解に関して多くの事例を参考にしながら学習する経営学系の授業です。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目はビジネス社会コースのDP①「現代社会を構成する機能の中で、ビジネスが果たさなければならない役割を説明することができる。」の達成に関わる科目です。 また、観光学概論と関連します。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 ガイダンス	マネジメントとは何か	配布プリント、授業の復習		
第2回 ホスピタリティとマネジメント	顧客志向とは	配布プリント、授業の復習		
第3回 日本の経営とホスピタリティ	日本の経営	配布プリント、授業の復習		
第4回 ホスピタリティ産業	ホスピタリティ・マネジメント	配布プリント、授業の復習		
第5回 ツーリズムマーケティング	ライフサイクル（商品の寿命）	配布プリント、授業の復習		
第6回 ツーリズムの商品企画	プロモーション（SP効果）	配布プリント、授業の復習		
第7回 接客とホスピタリティ	顧客満足（CS）	配布プリント、授業の復習		
第8回 ツーリズムビジネスの役割	旅行業の発達と形態	配布プリント、授業の復習		
第9回 国際航空業とホスピタリティ	サウスウエスト航空の戦略	配布プリント、授業の復習		
第10回 国際観光ホテル業とホスピタリティ	イールドコントロール	配布プリント、授業の復習		
第11回 プライダル産業の展望	躍進するプライダル産業とは何か	配布プリント、授業の復習		
第12回 ホスピタリティ効果の多面性	様々な効果	配布プリント、授業の復習		
第13回 事例研究	良いサービス悪いサービス	発表の準備		
第14回 事例研究	良い評価 悪い評価	配布プリント、授業の復習		
第15回 まとめ		配布プリント、授業の復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	進捗により			
小テスト等	50%			
成果発表	なし			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義形式で進めますが、一方通行にならないようにするために、グループワークなどを取り入れていきます。			
教科書	特に指定しません。プリントを配布します。			
指定図書	P. F. ドラッツカー 『マネジメント基本と原則』 ダイヤモンド社（2011）			
参考図書	矢作敏行 『日本の優秀小売企業の底力』 日本経済新聞社			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	観光産業論		開講時期	前期
担当教員	古田 龍輔		単位	2
授業の目的と概要	<p>観光産業とは、人々が旅行に出かける際に利用する様々なサービスを提供する会社の集合体です。具体的には、旅行代理（保険を含む）業・運輸業・宿泊業・飲食業・その他娯楽業に分類されます。この科目では、まず日本の観光産業が直面するいろんな問題点を世界的な視野で理解することから始まり、次に日本の観光産業の各セクターに固有の問題を理解します。最後に、蓄積した観点と知識を応用して、どうすれば太宰府観光をもっと活性化できるのかを、グループワークで追究してもらいます。</p> <p>授業の進行は以下のように行います。ほぼ毎回の授業で、事前の教科書または資料の読み込みとレポート提出があり、前半の30分でグループでレポートの相互評価をします。次の30分では、当日の教科書または資料の内容を当番グループが発表します。最後の30分で、当日のテーマに関連したビデオを視聴します。</p>			
到達目標	<p>(1) 日本の観光産業が直面する諸問題を世界的な視野で理解し説明できる。</p> <p>(2) 日本の観光産業の各セクターが抱える問題を理解し説明できる。</p> <p>(3) 身近な太宰府を対象として、観光振興の強化策をグループで考案することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>ビジネス社会コースDPのうち、「(2)現代社会を生きる自己を実現するための幅広い教養と特定分野の知識・技能を獲得している」が、この科目の目的ということになります。このDPの細部の中でもとくに、「②現代社会を構成する機能の中で、ビジネスが果たさなければならない役割を説明することができる」が、最も合致しています。</p> <p>同じ前期に、古田による「ホスピタリティと経営戦略」が開講されますが、観光産業は「ホスピタリティ産業」とも称されるくらいだから、2つの科目は密接に関連しています。ただ他方の科目は、とくに観光産業だけではなく、どんな業界でも見られる優れたホスピタリティ型の経営を取り上げます。本科目は、個別企業の経営のあり方よりも観光産業全般を大きく眺めることが中心になります。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 ガイダンス			とくになし	
第2回 教科書第1章			第1章の読後レポートを書き、発表グループは準備をする。	
第3回 教科書第2章			第2章の読後レポートを書き、発表グループは準備をする。	
第4回 教科書第3章			第3章の読後レポートを書き、発表グループは準備をする。	
第5回 教科書第4章			第4章の読後レポートを書き、発表グループは準備をする。	
第6回 教科書第5章			第5章の読後レポートを書き、発表グループは準備をする。	
第7回 教科書第6章			第6章の読後レポートを書き、発表グループは準備をする。	
第8回 太宰府観光の現状分析（ゲストスピーカー）			指定された資料を読んでレポートを書いておく。	
第9回 日本の宿泊業			指定された資料を読んでレポートを書き、発表グループは準備をする。	
第10回 日本の運輸業			指定された資料を読んでレポートを書き、発表グループは準備をする。	
第11回 日本の飲食業			指定された資料を読んでレポートを書き、発表グループは準備をする。	
第12回 日本のその他娯楽業			指定された資料を読んでレポートを書き、発表グループは準備をする。	
第13回 太宰府観光振興策の中間発表会			すべてのグループが中間発表の準備をしておく。	
第14回 太宰府観光振興策のグループワーク			中間発表までの成果を踏まえて、グループワークのために情報収集をしておく。	
第15回 太宰府観光振興策の最終発表会			すべてのグループが最終発表会の準備をしておく。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	33%			
小テスト等	なし			
成果発表	34%			
受講態度他	33%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この科目は、受講生のグループによる発表を主体に進行しますので、発表者の無断欠席があれば、その時点で不合格となります。毎回、A4 1～2枚程度のレポートを書いて授業前に提出してもらいますので、このことを覚悟のうえで受講してください。			
教科書	デービッド・アトキンソン著 『新・観光立国論』 東洋経済新報社 2015年			
指定図書	授業中に指定します。			
参考図書	授業中に指定します。			
オフィスワーク	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	観光文化論		開講時期	後期
担当教員	岩井 朝子		単位	2
授業の目的と概要	本授業は、様々な観光文化の形態について知識を持ち、観光立国を目指す日本にとって、将来的に有望な観光文化について考察することを目的とする。観光客の需要や旅行形態の変化について研究し、新しい大衆観光文化形成の提案ができるような知識を習得する。授業では、教科書に書かれていない最新のサブカルチャーについても触れていく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 観光文化の種類とその特徴について簡潔に説明できる</li> <li>2 最新の観光文化について情報を集め、その人気の秘密などを分析できる</li> <li>3 観光文化の情報を常にアンテナを張り、最新情報を収集できる</li> <li>4 これから人気を集めそうなサブカルチャーを指摘し、その魅力について説明できる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 授業についてのイントロダクション 旅行会社のしくみとその現状について			観光文化、大衆観光という言葉について調べる	
第2回 観光文化学案内 教科書 p2-7			観光の歴史について調べる	
第3回 観光の誕生 教科書 p8-13			現代の観光と明治時代以前の観光の違いについて調べる	
第4回 数字で見る世界の観光 p20-27			新聞やネットで人気観光地やその特徴について調べる	
第5回 情報資本主義と近代観光 p30-35 絵巻書と観光 p36-39			旅行者の観光地での行動について調べる	
第6回 メディアと観光 p41-44			メディアによって作られた観光地について具体例を探してみる	
第7回 観光商品の作り方 p65-69			九州の観光商品をピックアップし、よりよいPR方法を考えてみる	
第8回 エスニックツーリズム p70-75			日本のエスニックツーリズムについて具体例を挙げて検討してみる	
第9回 ディズニーランドの巡礼観光 1 p119-124			ディズニーランドの戦略についてまとめる	
第10回 ディズニーランドの巡礼観光 2			日本のテーマパークの現状について調べる	
第11回 ハウステンボスはいかにして復活したか			ハウステンボスの最新の取り組みについて調べる	
第12回 グリーンツーリズム 大分県安心院町の事例から p115-117			日本のグリーンツーリズムの始まりや現状について調べる	
第13回 フードツーリズム p125-128			日本のB級グルメを売りにしたツアーを検討してみる	
第14回 メディカルツーリズム インドの事例から p155-160			日本の医療観光の課題についてまとめる	
第15回 講座のまとめ			これまでの授業を振り返り、重要箇所をまとめる	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 授業内で指定された課題を提出する。			
小テスト等	40% 授業内で小テストを行う。			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 建設的で積極的な授業参加態度を成績評価に加える。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業には前回の復習を行ってから参加すること。また上記以外の課題を授業内で指定することもありうる。			
教科書	山下晋司編集『観光文化学』新曜社			
指定図書	なし			
参考図書	『観光概論』JTB総合研究所			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		



授業科目	韓国語 I		開講時期	前期
担当教員	鄭 美京・慎 順花・金 英姫・辛 貞仙・姜 昌賢・朴 順伊		単位	1
授業の目的と概要	<p>ハングルの読み方・文法・聴き取り・基本的な会話を中心に、基礎を正しく理解し表現できると共に、視聴覚教材や資料を取り入れて、韓国の文化や韓国の諸事情を紹介することにより、韓国・韓国文化が理解できるようになることを目的とする。</p> <p>前期には、時間をかけて正確な発音が自然に身に付くように、基本会話を中心に繰り返し練習し、文字と発音（発音法則）に慣れていくことに重点を置く。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ハングルの子音・母音の組み合わせが理解でき、ハングルを読むことができる。</li> <li>・ 基本語彙と文型、文法を学習し、短文を作ることができる。</li> <li>・ 基本的な挨拶や簡単な会話ができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、文学部共通科目、人間科学部共通科目、現代社会学部共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。次の段階の韓国語やほかの外国語も受講することで、グローバル社会でのコミュニケーション能力がさらに深まります。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス・韓国語の概略 1. 母音字母 (1) 基本母音 p p. 12~14、 p. 24	予習・復習		
第2回	1-(2) 複合母音 p p. 15~16	予習・復習		
第3回	2. 子音字母 (1) 基本子音 p p. 17~18、 p. 25	予習・復習		
第4回	2- (2) 複合子音 p. 19 / 4. 平音・激音・濃音 p p. 21、 28	予習・復習		
第5回	3. 音節 p p. 20~21、 p p. 26~27	予習・復習		
第6回	5. パッチム p p. 22~23、 p. 28 / 連音化	予習・復習		
第7回	発音の復習 / 濃音化・激音化	予習・復習		
第8回	第1課 自己紹介(名詞+です・名詞の否定形・会話練習) p p. 30~35	予習・復習		
第9回	第1課 課題(話す・読み書き・聞く) p p. 36~39	予習・復習		
第10回	第2課 家族紹介(存在の表現・漢数字・会話練習) p p. 40~45	予習・復習		
第11回	第2課 課題(話す・読み書き・聞く) p p. 46~49	予習・復習		
第12回	第3課 どこにありますか?(場所・位置の表現・会話練習) p p. 50~55	予習・復習		
第13回	第3課 課題(話す・読み書き・聞く) p p. 56~59	予習・復習		
第14回	第4課 いつですか(日付・曜日・会話練習) p p. 60~65	予習・復習		
第15回	第4課 課題(話す・読み書き・聞く) p p. 66~69 // 口蓋音化	予習・復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40%			
レポート	なし			
小テスト等	40% (単語・読みテスト・会話テストなど)			
成果発表	なし			
受講態度他	20% (授業への参加度、課題、積極性などを考慮する)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席必須。 CDを聞き、予習・復習は欠かさずに行うこと。			
教科書	康承恵(延世大学校)著『楽しく学ぶ韓国語1』多楽園(DARAKWON)			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業の後に応じる。	メールアドレス		

授業科目	韓国語Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	朴 順伊・辛 貞仙・姜 昌賢・金 英姫・慎 順花・鄭 美京		単位	1
授業の目的と概要	<p>目的：前期に続き、後期では韓国語Ⅰで学習した表現を活かし、より実践的な場面を設定しながら外国人とのコミュニケーションが取れる会話中心の楽しい授業を目指す。主に、日常会話の内容を通して韓国社会の文化・習慣などに触れ、多様化する現在の韓国社会の様子や文化の違いを会話と共に楽しむことを目指す。韓国語Ⅱを通して、グローバル化する現代社会の中で、自ら国際人としての円満な対人関係能力を身に付けるため積極的な自己挑戦を目指す。</p> <p>概要：韓国語は日本語の語順や文法と大変似ていることから覚えやすい。最近では日本で韓国のドラマやアーティストなどの活躍もあり、韓国語に接する機会が多い。日本から近い国である韓国を知ること、より豊かな情報を獲得すると共に、将来、社会に貢献できる幅広い活躍のチャンスを見つけることができる。それに韓国能力試験の情報や、韓国の諸事情を総合的に取り入れながら講義を行う。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動詞・形容詞を活用してより豊かな表現を学習する。</li> <li>・丁寧形や会話体を学習し、趣味・食べ物物の注文・日常生活・買い物・乗物の乗換えなどを表現することができる。</li> <li>・連音化・激音化・濃音化・鼻音化など終声の発音をよく理解し、正しく自分の意思を他人に伝えることができる。</li> <li>・単語の終声表記・用言変化・時制変化・尊敬表現をよく理解し、短文を正しく書き、聞き取りや会話ができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、文学部・人間科学部・現代社会学部の共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関係する科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 第5課 < 趣味がなんですか? >	P 7 0 ~ 7 5 本文、趣味について、「を」助詞、会話練習	予習・復習		
第2回 第5 課 課題1, 2, 3 : 読み・書き・聞きについて	P 7 6 ~ 7 9	予習・復習		
第3回 第6課 < スンドゥップとテンジャンゲ下さい >	P 8 0 ~ 8 5 本文、料理について、「～したい」表現、会話練習	予習・復習		
第4回 第6 課 課題1, 2, 3 : 読み・書き・聞きについて	P 8 6 ~ 8 9	予習・復習		
第5回 第7課 < 家で休みました >	P 9 0 ~ 9 5 本文、日常について、過去形表現、会話練習	予習・復習		
第6回 第7 課 課題1, 2, 3 : 読み・書き・聞きについて	P 9 6 ~ 9 9	予習・復習		
第7回 第5, 6, 7 課 復習と副教材活用		K-POP・DVDを楽しむ		
第8回 第8課 < デパート正面入口の前で3時に会いましょう >	P 1 0 0 ~ 1 0 5 本文、日課について、「～で～ましょうか」表現、会話練習	予習・復習		
第9回 第8 課 課題1, 2, 3 : 読み・書き・聞きについて	P 1 0 6 ~ 1 0 9	予習・復習		
第10回 第9課 < 2号線から3号線に乗換なければいけません >	P 1 1 0 ~ 1 1 5 本文、乗換について、「～れば、～なければならぬ」表現、会話練習	予習・復習		
第11回 第9 課 課題1, 2, 3 : 読み・書き・聞きについて	P 1 1 6 ~ 1 1 9	予習・復習		
第12回 第10課 < 少し大きいのを下さい >	P 1 2 0 ~ 1 2 5 本文、買物、「～てみる」表現、会話練習	予習・復習		
第13回 第10 課 課題1, 2, 3 : 読み・書き・聞きについて	P 1 2 6 ~ 1 2 9	予習・復習		
第14回 第8, 9, 10 課 復習と副教材活用		K-POP・DVDを楽しむ		
第15回 総合復習		予習・復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	80% ① 小テスト(単語・読みテスト・会話テスト・表現力など) 40% ② 定期テスト40%で総合的に評価			
レポート	なし			
小テスト等	各課が終わる前に必ず単語と本文内容の確認の為に小テストを行う			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 出席点検(受講態度、積極性を考慮)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席必須、 小テストなど全部受けること、 教科書を持参し、授業を受けること			
教科書	康 承恵 著『楽しく学ぶ 韓国語』DARAKWON			
指定図書	なし			
参考図書	電子辞書、ポータブル『日韓辞典』・『韓日辞典』三修社			
オフィスワー	授業前後に応じる	メールアドレス		

授業科目	韓国語Ⅲ(再)		開講時期	前期
担当教員	鄭 美京		単 位	1
授業の目的と概要	<p>国際化がますます進む現代の社会において、外国語の必要性が高まっている。お隣の国である韓国の言葉を学ぶことで、現代韓国の社会や文化を理解することができる。これは、日本から一歩踏み出し、新しい世界を経験するきっかけになるでしょう。</p> <p>基本的な文法を学びながら、聞く・話す・読む・書くという四つの機能を中心に進めていく。 講義と共に、会話の練習、作文の作成などを行う。 そのほか、韓国の映画、歌などを利用し、現代の韓国の文化を紹介し、韓国に対する理解を深めていく。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国語で日常会話ができる</li> <li>・韓国語で簡単に自分の考えを書ける。</li> <li>・韓国に関する様々な情報を自ら取り入れ、その内容を理解することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	自己紹介とあいさつの言葉		復習 39	「楽しく学ぶ韓国語1」 pp. 30-
第2回	相手のことを聞く		復習 69	「楽しく学ぶ韓国語1」 pp. 40-
第3回	文型の練習 (丁寧形・否定形・過去形)		復習 99	「楽しく学ぶ韓国語1」 pp. 70-
第4回	接続形の練習 (～て・～けれども・～のでなど)		復習 119	「楽しく学ぶ韓国語1」 pp. 100-
第5回	連体形の練習		復習 129	「楽しく学ぶ韓国語1」 pp. 120-
第6回	第1課：韓国に来て6か月になります。(準備と文型練習)		復習 19	「楽しく学ぶ韓国語2」 pp. 16-
第7回	第1課：韓国に来て6か月になります。(会話練習・読み書き・聞く)		復習 25	「楽しく学ぶ韓国語2」 pp. 20-
第8回	第2課：お召し上がりですか。(準備と文型練習)		復習 29	「楽しく学ぶ韓国語2」 pp. 26-
第9回	第2課：お召し上がりですか。(会話練習・読み書き・聞く)		復習 35	「楽しく学ぶ韓国語2」 pp. 30-
第10回	第3課：交通カードはどこでチャージするんですか。(準備と文型練習)		復習 39	「楽しく学ぶ韓国語2」 pp. 36-
第11回	第3課：交通カードはどこでチャージするんですか。(会話練習・読み書き・聞く)		復習 45	「楽しく学ぶ韓国語2」 pp. 40-
第12回	第4課：このカバンを返品できますか。(準備と文型練習)		復習 49	「楽しく学ぶ韓国語2」 pp. 46-
第13回	第4課：このカバンを返品できますか。(会話練習・読み書き・聞く)		復習 55	「楽しく学ぶ韓国語2」 pp. 50-
第14回	第5課：禁煙席と喫煙席、どちらになさいますか。(準備と文型練習)		復習 59	「楽しく学ぶ韓国語2」 pp. 56-
第15回	第5課：禁煙席と喫煙席、どちらになさいますか。(会話練習・読み書き・聞く)		復習 65	「楽しく学ぶ韓国語2」 pp. 60-
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	なし			
小テスト等	30%			
成果発表	なし			
受講態度他	20% (授業への参加度、積極性などを考慮する)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ハンブルが読めること。欠席しないこと。			
教科書	康承恵 著『楽しく学ぶ韓国語2』ダラクウォン			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に紹介する			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	韓国語IV(再)		開講時期	後期
担当教員	朴 順伊		単 位	1
授業の目的と概要	<p>目的：韓国語を中心に学習しながら、それから広がる韓国社会・文化なども視野に入れ、日常会話に必要な語学スキルをアップしながら異文化を理解することである。</p> <p>概要：韓国語IVでは、韓国語IIIで学習した表現を活かし、より長い文章を理解しながら簡単な作文を書くようになる。そして場面などを設定し、実践的な会話を中心に授業を進めると共に、それに関連する画像などを取り入れて、総合的な観点から進めていく。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介はもちろん、日常的な簡単な会話ができる。</li> <li>韓国語で日記をはじめ、メールなど、より長い文章を書くことができる。</li> <li>人とのコミュニケーションができるようになる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	前期の復習と授業についての説明		文字の復習	
第2回	第6課 本文と単語		復習 (PP 6 8～6 9)	
第3回	練習問題と会話練習 (1) (2)		復習 (PP70～7 1)	
第4回	第7課 本文と単語		復習 (PP 7 6～7 7)	
第5回	文法と練習問題		復習 (PP 7 8～7 9)	
第6回	会話練習 (1) (2)		復習 (PP80～8 1)	
第7回	第8課 本文と単語		復習 (PP 8 6～8 7)	
第8回	文法と練習問題		復習 (PP 8 8～8 9)	
第9回	会話練習 (1) (2)		復習 (PP 9 0～9 1)	
第10回	第9課 本文と単語		復習 (PP 9 6～9 7)	
第11回	文法と練習問題		復習 (PP 9 8～9 9)	
第12回	会話練習 (1) (2)		復習 (PP 1 0 0～1 0 1)	
第13回	第10課 本文と単語		復習 (PP 1 0 6～1 0 7)	
第14回	文法と練習問題		復習 (PP108～1 0 9)	
第15回	会話練習 (1) (2)		復習 (PP 1 1 0～111)	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	5 0 %			
レポート	0 %			
小テスト等	3 0 % (読み・書き取りなど)			
成果発表	0 %			
受講態度他	2 0 %			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻しないこと、小テストを必ずうけること。			
教科書	康承恵著 『楽しく学ぶ韓国語2』 多楽園 (DARAKWON)			
指定図書	なし			
参考図書	電子辞書など			
オフィスワー	授業の前後に応じる。	メールアドレス		

授業科目	漢字と故事成語	開講時期	後期
担当教員	桐島 薫子	単 位	2
授業の目的と概要	<p>文学作品を読み解く語彙力・社会人として必要とされる日本語力の一つである漢字や二字・四字熟語について、実践的な能力を身につけていきます。実践的能力については、新常用漢字に対応し、企業の採用試験に対応できるレベル、漢検「準2・2級」程度を設定しています。また、熟語に関する学習の便宜上、常用漢字の表外の読み（漢検「準1級」程度）の学習を取り入れることがあります。</p> <p>漢字一字には、情報を伝達しようとした古代の人の英知が溶け込んでいます。漢字が重なり合ってきた二字熟語には思想・文化の発展過程が反映されています。四字熟語にはダイナミックな歴史背景や劇的な人間のドラマが投影されています。こうしたことを学びながら、単なる暗記学習ではない学習を行っていきます。具体的には、漢字の成り立ち・字体の変遷・熟語の構成・も</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>漢字についての知識を深め、説明することができる。</li> <li>授業で学んだ二字熟語について、「熟語の構成」を理解し説明するとともに、「誤字訂正」に役立てることができる。</li> <li>授業で学んだ漢字について、成り立ち・意味を理解し、「部首」を示すことができる。</li> <li>授業で学んだ「四字熟語」について、構成や中国古典を把握し、用例を理解しながら覚えることができる。</li> <li>興味のあるテーマを設定し、考えをまとめて述べるることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は、主に日本語・日本文学科のDP③「各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる」の達成に関わる科目です。具体的には、漢字に関する知識を学んで運用能力を向上させ、1年後期「中国文学概論」や2年「中国文学講読ⅠⅡ」で学ぶ作品を理解するための漢字や語彙の基礎力を養成します。</p> <p>この他、漢字の実践的能力も養成するので、DP①「日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を用いて、適切なコミュニケーションができる」の達成に関わる科目でもあります。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	①日本語と漢字・漢語、②企業試験・マスコミ表現、③漢検「準2・2級」、④字体の変遷	配布資料の復習、到達目標を考える	
第2回	①漢字の成り立ち（諸説・六書・部首・『説文解字』）、②視聴覚教材（漢字と中国文化）	課題一（教科書p138-145）、到達目標の確認	
第3回	①故事成語（二字・四字熟語）、②二字熟語の構成と文法、③課題一の提出	配布資料の予習・復習	
第4回	①熟語の構成	配布資料の予習・復習、教科書「熟語の構成」の反復練習	
第5回	①熟語の構成、②誤字訂正の理解への応用	教科書「熟語の構成」の反復練習、「誤字訂正」の自習	
第6回	①熟語の構成、②視聴覚教材（現代の漢字事情）	配布資料の予習・復習、教科書「熟語の構成」の反復練習	
第7回	①熟語の構成、②誤字訂正、類義語・対義語の理解への応用	配布資料の予習・復習、教科書「誤字訂正、類義語・対義語」の自習	
第8回	①部首と漢字の成り立ち	配布資料の予習・復習、小テスト準備	
第9回	①部首と漢字の成り立ち、②小テスト（「熟語の構成」「誤字訂正」）	配布資料の予習・復習、教科書「部首」の反復練習	
第10回	①部首と漢字の成り立ち	配布資料の予習・復習、教科書「部首」の反復練習	
第11回	①部首と漢字の成り立ち	配布資料の予習・復習、教科書「部首」の反復練習	
第12回	①四字熟語の解説と使用例、②四字熟語と文学作品	「学習シート」予習・復習	
第13回	①四字熟語の解説と使用例、②定期試験について	「学習シート」予習・復習、課題二	
第14回	①四字熟語の解説と使用例、②課題二の提出について	「学習シート」予習・復習、定期試験の準備	
第15回	①四字熟語の解説と使用例、②まとめ	定期試験の準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	60％ 定期試験		
レポート	なし		
小テスト等	30％		
成果発表	なし		
受講態度他	10％（課題提出を含む）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回に授業の目的、内容、漢字・漢語レベルなどを説明するので、確認の上、受講を決定して下さい。</li> <li>・予習・復習・準備・課題に、積極的に取り組むこと。</li> <li>・課題は、締め切り通りに提出すること。</li> <li>・資格の取得や課外学習サポートを希望する人には、授業中に説明を行います。</li> </ul>		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布教材（プリント、冊子）</li> <li>・財団法人日本漢字能力検定協会著『漢検 2級 ハンディ漢字学習』改訂版（新書判）</li> </ul>		
指定図書	・阿辻哲次著『図説漢字の歴史』大修館書店		
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森野繁夫・佐藤利行著『漢文 まとめと要点』白帝社</li> <li>・笹原宏之著『訓読みのはなし 漢字文化圏の中の日本語』光文社新書、その他、授業中、適宜伝えていく予定</li> </ul>		
オフィスアワー	火曜 4限、木曜昼休み	メールアドレス	

授業科目	漢文読解		開講時期	前期
担当教員	桐島 薫子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>歴史（史伝）・思想・漢詩・散文の代表的な作品を取り上げます。さまざまなジャンルの作品を読み解きながら、語法・文章の構造・表現の特徴・作者伝を理解していきます。また、日本における漢文の文化を概観し、現代に学ぶ意義についても考察していきます。</p> <p>この授業では、実践的なトレーニングを通じて、白文を読み解く能力（教員採用試験レベル・文献読解の基礎レベル）や、そのための漢字能力を向上させていきます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 各ジャンルの漢文の構造・語法・表現の特徴を理解して、習熟することができる。</li> <li>2 読解力の基礎となる漢字能力を向上させることができる。</li> <li>3 日本における漢文の文化を理解し、現代に学ぶ意義について考えを述べることができる。</li> <li>4 自身の課題を把握することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	①日本と漢字・漢文文化、②小テスト・定期試験・課題について	課題（配布する各種試験）		
第 2回	①前回の復習、②自己の課題の認識と目標の設定、③今後の学習方法について	配布プリントの講読		
第 3回	漢文の文章理解（基礎から応用へ）、語法の学習について	小テストの準備		
第 4回	歴史 1：『史記』	教科書「歴史 1」予習、小テスト準備		
第 5回	歴史 2：『十八史略』、第 1 回小テスト	教科書「歴史 2」予習、小テスト準備		
第 6回	歴史 3：『戦国策』	教科書「歴史 3」予習、小テスト準備、課題（語法）		
第 7回	思想 1：『論語』	教科書「思想 1」予習、小テスト準備、課題（語法）		
第 8回	思想 2：『孟子』、第 2 回小テスト	教科書「思想 2」予習、小テスト準備、課題（語法）		
第 9回	思想 3：『韓非子』	教科書「思想 3」予習、小テスト準備、課題（語法）		
第10回	漢詩 1：「送友人」	教科書「漢詩 1」予習、小テスト準備、課題（語法）		
第11回	漢詩 2：「登高」、第 3 回小テスト	教科書「漢詩 2」予習、小テスト準備、課題（語法）		
第12回	散文 1：「捕蛇者説」、古文復興運動	教科書「散文 1」予習、小テスト準備、課題（語法）		
第13回	散文 2：「春夜宴桃李園序」、四六駢儷文、課題（語法）提出	教科書「散文 2」予習、小テスト準備		
第14回	漢文読解の基本用語・語彙について、第 4 回小テスト、課題（語法）返却	配布プリントの講読、小テスト準備		
第15回	まとめ、自身の課題についての振り返り	定期試験の準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	20%			
レポート	なし			
小テスト等	60% 授業中に行う 4 回の小テスト			
成果発表	なし			
受講態度他	20%（授業中の発表・質疑応答、課題への取り組み。詳細は、授業中に指示する）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習と復習をしっかりと行い、積極的な参加態度で臨むこと。</li> <li>・教職履修者は必ず受講すること。</li> <li>・本講義で学ぶ内容は、教職生（3年生）対象に実施されてる「国語科基礎学力テスト」の漢文分野と関連しています。詳細は、適宜、説明していきます。</li> </ul>			
教科書	①2017年版時事通信出版局編『よくわかる中高国語』（時事通信社） ②松井光彦著『実戦演習標準 漢文』（桐原書店）、③森野繁夫・佐藤利行著『漢文 まとめと要点』（白帝社）			
指定図書	・加藤徹著『漢文の素養 誰が日本文化をつくったのか?』（光文社新書）			
参考図書	授業中に適宜紹介。			
オフィスワー	火曜 昼休み、金曜 4 限	メールアドレス		

授業科目	学校教育相談【中等教職】		開講時期	後期
担当教員	松尾 公孝		単位	2
授業の目的と概要	<p>学校での教育相談は、教師による生徒支援の一つのあり方である。この授業では、教育相談を実践していく上で基本的に必要な以下の項目について具体的に取り上げ、考察する。学校で生じる様々な現象についてその背景を考慮する。生徒や保護者等から話を聴くことができる。関係職員と連携して問題の解決に向けて見通しを持てる。継続的な努力を重ねられる。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談の基礎である話の聴き方、人間関係づくりについて理解し、実践の基本について述べることができる。</li> <li>・学校現場で生じる諸問題についてその背景を理解し、基本的対処法について述べるができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本授業は、教育職員免許法施行規則に定める「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」に該当し、以下の内容について学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)の理論及び方法</li> </ul>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		事前に、本授業のシラバスを読む。		
第2回 学校教育相談		復習として、授業で配布した資料を読む		
第3回 話の聴き方、観察のポイント		復習として、授業で配布した資料を読む		
第4回 青年期の心身の不適応		復習として、授業で配布した資料を読む		
第5回 青年期の性の発達と性指導		復習として、授業で配布した資料を読む		
第6回 人間関係づくり		復習として、授業で配布した資料を読む		
第7回 不登校の背景と基本的対処法		復習として、授業で配布した資料を読む		
第8回 いじめの背景と基本的対処法		復習として、授業で配布した資料を読む		
第9回 少年非行の背景と基本的対処法		復習として、授業で配布した資料を読む		
第10回 家庭と子どもの成育(1) 家族の成り立ち		復習として、授業で配布した資料を読む		
第11回 家庭と子どもの成育(2) 食育 虐待		復習として、授業で配布した資料を読む		
第12回 発達障害の背景と基本的対処法		復習として、授業で配布した資料を読む		
第13回 授業で学んだことを発表する。		授業全体で学んだことを事前にまとめる		
第14回 アサーション・トレーニング		復習として、授業で配布した資料を読む		
第15回 まとめ		授業全体を振り返り、整理する。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験			
レポート	10% 授業中に適宜課します。			
小テスト等	10% 授業の振り返り			
成果発表	20% 授業で学んだことを発表する			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級を経営する教師として、生徒をどのようにとらえ、どのように接すれば、生徒の成長に寄与できるのか、実践することを想定して積極的に授業に参加してほしい。</li> <li>・飲食、私語、携帯電話等の使用は厳禁。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	学校経営と学校図書館【司書教諭】		開講時期	前期
担当教員	工藤 邦彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>現代の学校教育における学校図書館の意義と役割という観点から、学校図書館法ほか関連法規、図書館活動を概観し学校図書館の経営について理解する。 特に学校図書館メディアの組織化、学校図書館の運営計画立案、学校間、公共図書館との相互協力など司書教諭の職務全般について学習する。 学校図書館に求められる役割を明らかにするべく、学校図書館の成立など歴史的側面をたどりながら、社会における学校図書館の立ち位置を検証する。さらに学校図書館の経営に携わる司書教諭および学校司書の役割についても学校現場の事例を紹介しながら具体的な業務内容を明らかにしていく。</p>			
到達目標	<p>学校図書館経営の背景となる新しい学力観を理解のうえ、学校図書館の全体像を把握できる。</p> <p>学校図書館の事例をレポートし、図書館運営の評価と改善点を提示できる。</p> <p>地域と連携した学校図書館運営計画（案）の策定方法を身につけることができる。</p> <p>国や地方公共団体の学校図書館に関する新しい動きを掴むことができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本科目は学校図書館の教育的意義や経営など全般的事項についての理解を図る科目であり、司書教諭科目の基礎科目として位置づけられている。</p> <p>関連科目として、学校図書館メディアの構成、学習指導と学校図書館、読書と豊かな人間性、情報メディアの活用が挙げられる。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
	オリエンテーション 学校図書館法に基づく司書教諭資格	指定図書資格関係箇所を熟読		
	教育改革と学校図書館	学習指導要領の確認		
	学校教育における学校図書館の役割	改正学校図書館法の確認		
	学校図書館の意義	『学校図書館の手引』の確認		
	学校図書館の経営	学校図書館経営の組織図を整理		
	司書教諭と学校司書の任務	図書館行政の動向に関する資料を熟読		
	学校図書館メディアの種類と特性	指定図書記載のコレクションに関する専門用語の確認		
	学校図書館の施設と設備	指定図書記載の施設、設備に関する専門用語の確認		
	子どもの読書推進活動と学校図書館	ブックトーク、読み聞かせ体験の実践		
	学校図書館における情報サービス	学校図書館公式ウェブサイトの閲覧		
	学校図書館の相互協力態勢	地域における貸出文庫の運営事例集を熟読		
	学校図書館活動の評価と改善	学校図書館経営計画（案）の作成		
	学校図書館活動と連携する図書館：公共図書館を中心に	図書館法ほか読書推進に関する法律の確認		
	学校図書館活動と連携する図書館：大学・専門図書館を中心に	大学設置基準、著作権法の確認		
	これからの学校図書館：課題と展望	講義資料のまとめ		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 期末レポートを課す。			
小テスト等	なし			
成果発表	10% 整理された発表ができていること。 10% 発表者に対し、適切な質問もしくはコメントができていること。			
受講態度他	20% 授業中に提示した課題について、適宜ミニツペーパーを提出すること。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>期末レポート、ミニツペーパーなど提出物の期限を遵守すること。</p> <p>欠席および遅刻、早退については事由を明示のうえ、必要な届を提出すること。</p>			
教科書	特に使用しない。授業時にレジュメを配布する。			
指定図書	今まど子編著『図書館学基礎資料 第12版』樹村房			
参考図書	福永義臣、紺野順子編『学校経営と学校図書館 改訂』樹村房			
オフィスアワー	月曜日 3限目（13:10～14:40）	メールアドレス		



授業科目	学校心理学	開講時期	後期
担当教員	石原 努	単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、学校に関する全ての人（子ども、教師、保護者等）に対し、どのような援助ができるのかについて考えていくものです。講義前半では、主に、心理教育的援助サービスの基礎的な知識や技法について学修します。講義後半では、主に、学校現場で起こりうる具体的な諸問題について考えながら、解決策やその技法について学修します。</p> <p>目的は、心理教育的援助サービスに関する基礎的な知識を身につけ、その知識を活用して、学校現場における心理学的な援助の技法を習得することです。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>心理教育的援助サービス（アセスメント・カウンセリング・コンサルテーション・コーディネート）に関する基礎的な理論体系を説明することができる。</li> <li>学校現場で起こりうる諸問題（いじめ、不登校、学級の荒れ、集団形成、発達障害等）について学校心理学の視点から考察し、それらの諸問題に対する援助策を創造していくことができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、初等教育コースのDP2「初等教育に関する専門的知識や子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況についての知識を身に付けることができる。」と幼児教育コースのDP2「②子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況に関する知識を身に付けることができる。」と、発達臨床心理コース・社会福祉コースのDP2「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」の達成に関わる科目です。教育心理学、発達心理学、教育方法論、教育課程・方法論との関連があり、それらを受講することで、学校心理学についてより深く理解することができます。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
1	講義の概要説明とオリエンテーション	学校心理学の概要について簡潔にまとめる。	
2	学校心理学の意義と特色	学校心理学の意義・特色について簡潔にまとめる。	
3	学校心理学における心理教育的援助サービス	心理教育的援助サービスを行う対象とその内容についてまとめる。	
4	学校心理学における援助方法①：アセスメント	アセスメントの種類や方法を分類・整理しまとめる。	
5	学校心理学における援助方法②：カウンセリング	カウンセリングの技法等について整理しまとめる。	
6	学校心理学における援助方法③：コンサルテーション、コーディネート	チーム援助の方策や手順について簡潔にまとめる。	
7	主に学習に関係する心理学的援助	学習に関する援助の手法について分類整理しまとめる。	
8	主に学級集団に関する心理学的援助	集団形成に関する援助の手法についてまとめる。	
9	主に社会性・道徳性に関する心理学的援助	社会性・道徳性の発達についてまとめる。	
10	主にキャリア教育に関する心理学的援助	キャリア教育に関する援助の手法についてまとめる。	
11	主に健康面に関する心理学的援助	健康面に関する援助の手法についてまとめる。	
12	特別支援教育に関する心理学的援助	発達障害がある子への支援方法についてまとめる。	
13	主に学校全体に関する心理学的援助	問題解決に向けたチームでの動きについて、その手法をまとめる。	
14	教師や保護者等を対象とした心理学的援助	教師や保護者に関する援助の手法についてまとめる。	
15	学校心理学のまとめと今後の展望	学校心理学の役割や心理学的な援助の手法について全体的まとめを行う。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50% 多面的に課題を吟味し、その支援策について自分の考えをまとめレポートする。		
小テスト等	なし		
成果発表	30% 授業内で、話し合った結果等を発表する。		
受講態度他	20% 課題の討議へ対する取組や、その参加態度等		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>提出物（レポート）の期限は厳守すること。</li> <li>毎時間の学習した内容を簡潔にまとめること。</li> <li>グループでのディスカッションは、積極的に参加すること。</li> </ul>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	水野治久編著『よくわかる学校心理学』ミネルヴァ書房 学校心理士資格認定委員会『学校心理学ガイドブック』風間書房		
オフィスアワー	月曜日3限、水曜日2限	メールアドレス	

授業科目	学校図書館メディアの構成【司書教諭】		開講時期	前期
担当教員	出雲 俊江		単位	2
授業の目的と概要	<p>学校図書館司書教諭資格取得に係る科目である。</p> <p>学校図書館におけるメディアの重要性、種類、及び特性を論じ、次にメディアの有効利用のための前提として、各種メディアの選択・組織化について検討する。</p> <p>学校図書館メディア概念を整理し、それを活用するためのデータベースの構築方法と成果について解説する。</p> <p>学校図書館メディアの組織化については、分類、図書記号、巻冊番号など図書ラベルの表記について実践的な対応について紹介する。</p> <p>学校図書館におけるメディア構築をめぐって、基本原則、選択のポイント、主要な情報源などを解説する。</p> <p>演習として、近隣の学校図書館に出向き、学校図書館メディア・データベースについて調査・検討・発表を行う。</p>			
到達目標	<p>学校図書館メディアの概念・定義が理解できること。</p> <p>学校図書館メディアの種類とそれらの特性を説明できること。</p> <p>学校図書館メディア構築の基本原則及び手順を列挙できること。</p> <p>学校図書館メディアの構築を実践できるよう、学校図書館メディア組織化の実際的な知識と技術の習得。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は、学校図書館司書教諭免許取得に関わる科目です。</p> <p>「学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図る」ことをねらいとし、以下の内容について学びます。</p> <p>1)学校図書館メディアの種類と特性 2)学校図書館メディアの選択と構成</p> <p>3)学校図書館メディアの組織化 ・分類の意義と機能、日本十進分類法等の解説 ・件名標目表の解説 ・目録の意義と機能、日本目録規則の解説 ・目録の機械化</p> <p>4)多様な学習環境と学校図書館メディアの配置</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 導入 授業計画（講義・演習）について説明する。 学校図書館メディアの役割と組織化の意義について知る。		教科書第1章を読んでおく。		
第2回 学校図書館メディアの種類と特性（学校図書館メディアの特性と種類について知る。）		教科書 第2章を読んでおく。		
第3回 学校図書館メディアの構築の基本（メディアの選択・収集とその管理について知る。）		教科書 第3章-1を読んでおく。		
第4回 資料の組織化（目録の機能、アクセスと展開など組織化の概要について知る。）		教科書 第3章-2を読んでおく。		
第5回 目録規則、記述、排列（『日本目録規則 改訂2～3版（NCR）』を理解する）		教科書 第3章-3を読んでおく。		
第6回 目録とコンピュータ（メディアの蓄積、共有の機械化について。コンピューター導入の成果と課題について説明する。）		教科書 第4章-3を読んでおく。		
第7回 主題からのアクセス1（分類）（『日本十進分類法 新訂9版（NDC）』を理解する。）		教科書 第5章-1を読んでおく。		
第8回 主題からのアクセス2（件名）（『小学校件名標目表』『中学高校件名標目表』を紹介する。）		教科書 第5章-2を読んでおく。		
第9回 演習1 分類記号付与・目録作成を行う		教科書 第5章-3を読んでおく。		
第10回 演習2 カード目録記入を行う。		教科書 第3章-5を読んでおく。		
第11回 学校図書館メディアの実際 近隣の小中学校図書館の調査・検討1		グループで調査を行い、発表する。		
第12回 学校図書館メディアの実際 近隣の小中学校図書館の調査・検討2		グループで調査を行い、発表する。		
第13回 学校図書館メディアの実際 近隣の小中学校図書館の調査・検討3		グループで調査を行い、発表する。		
第14回 図書館利用促進の試み		利用案内、ブックリスト、広報物を作成する。		
第15回 まとめ特別な支援を要する児童生徒と学校図書館メディア		教科書 第6章を読んでおく。調査協力校への報告書と御礼状を作成する。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	試験 60%			
レポート	なし			
小テスト等	行わない。			
成果発表	近隣の小中学校の図書館についての調査・検討の発表（取り組み状況・内容・表現 30%）			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	後半の实地調査は、前半の受講内容を基に行う。 ここでの学びが、資格取得のためだけでなく、何らかの形で調査協力校の役に立てるように、積極的に取り組んで欲しい。			
教科書	「シリーズ学校図書館2 学校図書館メディアの構成」（編著 発行とも学校図書館協議会 2010）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜4限	メールアドレス		

授業科目	外国語活動指導法		開講時期	後期
担当教員	林 裕子		単 位	2
授業の目的と概要	小学校外国語活動の指導目標・理念、指導法、教材研究、評価方法などを扱いながら、授業実践に関わる諸問題や、実践を支える諸理論についての理解・考察を深めていく。言語材料の導入・展開・まとめなどの授業の流れについては、授業実践DVDの鑑賞や模擬授業実践を取り入れることにより、英語指導技術を身につけさせる。			
到達目標	以下の2つを到達目標として設定する。 1. 小学校外国語活動の目標・内容、及び言語習得や外国語指導法に関する諸理論についての理解・考察を深め、建設的な議論を行うことができる。 2. 指導実践の諸問題についての基礎知識を修得し、単元の授業構成・授業実践を行うことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション, 外国語活動の目的と目標	復習・課題		
第2回	外国語活動の目的と目標, 英語教育の動向・課題	復習・課題		
第3回	関連分野の諸理論からみる外国語活動	復習・課題		
第4回	指導者の役割	復習・課題		
第5回	外国語指導法と指導技術	復習・課題		
第6回	教材・テキストの構成と内容	復習・課題		
第7回	指導目標・指導計画の立て方	復習・課題		
第8回	教材研究	復習・課題		
第9回	教材研究 一演習一	復習・課題		
第10回	評価のあり方	復習・課題		
第11回	授業過程と学習指導案の作り方	復習・課題		
第12回	授業過程と学習指導案の作り方 一演習一	復習・課題		
第13回	小中連携のための外国語活動	復習・課題		
第14回	小中連携のための外国語活動 一演習一	復習・課題		
第15回	外国語活動の成果、今後の課題・展望	復習・課題		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50% 筆記テスト			
レポート	20% 授業中に課す学習課題			
小テスト等	10% 教室英語テスト			
成果発表	20% 単元計画を含む指導案と授業構想発表			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席は必須である。特に、授業中に課す学習課題や発表については主体的に取り組むこと。			
教科書	樋口ほか著『小学校英語教育法入門』研究社			
指定図書	Hi, Friends! 1 & 2 東京書籍			
参考図書	直山木綿子著『小学校外国語活動のあり方と“Hi, friends!”の活用』東京書籍			
オフィスワー	授業の前後、もしくはメールにて連絡してください。	メールアドレス		

授業科目	学習指導と学校図書館【司書教諭】		開講時期	前期
担当教員	稲田 八徳		単位	2
授業の目的と概要	<p>学習指導要領には「読書活動の充実」が改訂の要点としてあげられています。「読書センター」と「学習情報センター」という二つの役割をもつ学校図書館の機能について、理論と実践の面から学んでいきます。実践面では学校現場での観察も実施します。</p> <p>○生涯にわたって必要な情報活用能力を学校現場でどのように育成していけばいいのかを理解する。 ○情報活用能力の重要性を司書教諭として発信していくリーダーシップを取らなければならないことを認識し、その力を身に付ける。</p>			
到達目標	<p>○学習指導における学校図書館にはどのような役割があるか具体的に説明できる。 ○それに伴う司書教諭の役割と支援のあり方を理解し、具体的な活動や指導を想定することができる。 ○情報を判断し活用する能力・態度を育てるための学校図書館の機能を理解し、課題解決活動を中心に指導法を工夫することができる。 ○学校図書館を教育課程全体に位置づけ、教科指導と学校図書館の関連や情報の活用指導について考えることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業に関連する教科は、「読書と豊かな人間性」です。読書の意義をしり、生涯読書につながるような学校図書館司書教諭としての任務の理解が深まります。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 持続可能な社会のための学びと学校図書館の役割	予習 教科書P10～P25		
第2回	学校教育カリキュラムと学校図書館	予習 教科書P26～P47		
第3回	主体的学習と情報活用能力の育成	予習 教科書P48～P64 復習 主体的学習への図書館の関わり		
第4回	情報活用能力の育成の計画	予習 教科書P69～P81 復習 情報活用能力の種類		
第5回	情報活用能力の育成の方法	予習 教科書P82～P92 復習 どのようにすれば活用能力が育つ		
第6回	学校図書館における情報サービス	予習 教科書P93～P118 復習 情報サービスの種類		
第7回	教職員に対する支援と働きかけ	予習 教科書P119～P156 発表準備 選んだ校種の支援をまとめる		
第8回	小・中・高における支援についての発表	復習 発表の振り返り（評価カード）		
第9回	学校現場における司書教諭の役割観察	復習 観察の振り返り		
第10回	ブックトークについてのグループ討議	ブックトークの準備		
第11回	ブックトーク発表 1回	復習 ブックトーク振り返り（評価カード）		
第12回	ブックトーク発表 2回	復習 ブックトーク振り返り（評価カード）		
第13回	ブックトーク発表 3回	復習 ブックトーク振り返り（評価カード）		
第14回	総合的な学習、特別活動・道徳における支援	予習 P157～P170、復習 支援のあり方をまとめる		
第15回	特別な支援を要する児童生徒、帰国児童生徒、外国籍児童生徒への支援、多様な教育方法への支援	予習 教科書P171～P191		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％ 課題に対し要点を簡潔に述べ、自分の考えを主張している。			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ ブックトークをグループで協働的に計画し、実践している。			
受講態度他	20％ 真面目に誠実な態度で受講し、意見発表に積極的に参加している。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>教育実習等に際して実際の図書館活動や、図書館を活用した学習指導へ参加してください。</p> <p>メディアを活用した学習指導の試みを経験したり、指導案等を作成する体験をすることが望ましい。</p>			
教科書	『学習指導と学校図書館』（全国学校図書館協議会）（シリーズ学校図書館学3）			
指定図書	『読書の発達心理学』秋田喜代美			
参考図書	学校図書館・司書教諭講習資料（全国学校図書館協議会編）			
オフィスアワー	火曜日午前、木曜日午後	メールアドレス		

授業科目	キャリアインターンシップ		開講時期	前期
担当教員	大橋 健治		単位	1
授業の目的と概要	<p>本学の学生の大半は就職する。しかし、就職したからといってそれがゴールではない。女性であるからには、結婚・妊娠・出産などのライフイベントと仕事を絡めてキャリアを形成していくことを考える必要がある。本授業では、そのために必要な知識・技能を体得することを目的とする。そのために、インターンシップ経験を通じて知識と体験を合わせて自分の職業人生を考える。本授業の構成は、前期の授業+インターンシップ経験+事後の研修で1単位である。</p> <p>授業の目的を効果的に達成するために、TBL (Team-Based Learning) を導入する。TBLを成立させるためには、個々の学生が責任を持って授業外学修に取り組み→授業において真摯にチームで討議を行い→クラス全体で討議を行うとともに→教員からのメッセージを受け取り、気づきを内省するというプロセスが不可欠である。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. キャリアを形成していくために必要な、知識・技能・態度について説明することができる。</li> <li>2. 職業選択に関する自らの思いを、第三者に伝えることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>全学共通科目のDPの2. 人に学び、人とのつながりの中で、人生を豊かにつくりあげる、を具現化するための科目である。「キャリアデザイン基礎」や「ライフマネジメントⅠ」、「ライフマネジメントⅡ」、「こころと身体のフィットネス」などと併せて受講することで、DP2の達成を支援していく。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業の概要説明 (授業の全体像を理解するための模擬授業) 0時間目 女だからチャンスはある	復習：シラバスの内容の吟味と履修の意思決定		
第2回	1時間目 就・妊・婚三大「活」はつながっている	受講ノートの指示に沿った教科書「1時間目」事前学修・事後学修		
第3回	2時間目 いま就活に何が起きているか?	受講ノートの指示に沿った教科書「2時間目」の事前学修・事後学修		
第4回	インターンシップについてのガイダンス (進路支援課)	進路支援課の学内での役割を事前に調べて参加すること		
第5回	チームビルディング演習	継続して受講予定の学生は必ずチームビルディング演習に参加すること		
第6回	3時間目 女子学生の就活・常識のウソ	受講ノートの指示に沿った教科書「3時間目」の事前学修・事後学修		
第7回	4時間目 女子学生のための“納得就活”のコツ	受講ノートの指示に沿った教科書「4時間目」の事前学修・事後学修		
第8回	5時間目 女子が働きやすいのはどんな職場? — “埋める就活”のヒント	受講ノートの指示に沿った教科書「5時間目」の事前学修・事後学修		
第9回	6時間目 社会で役立つ雇用の常識・法律知識	受講ノートの指示に沿った教科書「6時間目」の事前学修・事後学修		
第10回	7時間目 後悔しないための「結婚」とお仕事の基礎知識	受講ノートの指示に沿った教科書「7時間目」の事前学修・事後学修		
第11回	8時間目 後悔しないための「妊娠」とお仕事の基礎知識	受講ノートの指示に沿った教科書「8時間目」の事前学修・事後学修		
第12回	9時間目 女子が本当に幸せになるための働き方	受講ノートの指示に沿った教科書「9時間目」の事前学修・事後学修		
第13回	成果発表 (オーラル・プレゼンテーション) と質疑応答 受講ノートの提出	持論の整理とプレゼンテーションの準備 @受講ノートの完成		
第14回	成果発表 (オーラル・プレゼンテーション) と質疑応答	持論の整理とプレゼンテーションの準備		
第15回	インターンシップの課題の提示、授業のまとめ 受講ノートの返却	授業で提示したインターンシップの課題の達成方法を考案		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 受講ノート (最終ページで授業全体の振り返りを記述したもの) の提出			
小テスト等	なし			
成果発表	20% オーラル・プレゼンテーション			
受講態度他	50% TBLへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の目的と概要で述べたように、本授業ではTBL (Team-Based Learning) を導入する。TBLを成立させる大前提は、個々の学生による自らとチームの仲間の学修への責任をもった授業外学修である。これを怠る学生は授業の場に入ることを拒否する。初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し、受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。</p>			
教科書	『女子と就活 20代からの「就・妊・婚」講座』 (白河桃子+常見洋平、中央公論新社、2012、1,015円税込)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	キャリアデザイン基礎		開講時期	前期
担当教員	大橋 健治・古田 龍輔・藤原 隆信		単位	2
授業の目的と概要	<p>キャリア (Career) の語源は“轍(わだち)”である。われわれが歩んできた人生には“経歴”という轍が残る。この世に生を受けた以上、われわれはより有意義な轍を残したい。本授業では、自らのキャリアをより有意義なものにするために大切にしなければならない考え方と行動原則を学ぶことを目的とする。</p> <p>授業の目的を達成するためにアクティブ・ラーニングを導入する。この授業では、教員それぞれが提示するアクティブ・ラーニングの手法によって、より良い自律的学習をすることをめざす。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自らのキャリアを、教科書にそって第三者と議論をしながら考えることができる。</li> <li>2. 自らのキャリアビジョンを、第三者に語るすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>全学共通科目のDPの2. 人に学び、人とのつながりの中で、人生を豊かにつくりあげる、を具現化するための科目である。本科目に続き「ライフマネジメントI」や「ライフマネジメントII」、「こころと身体のフィットネス」、「キャリアインターンシップ」などを引き続き受講することで、DP2の達成を支援していく。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業の概要説明 (授業の全体像を理解するための模擬授業)	シラバスの内容の吟味と履修の意思決定		
第2回	現代社会とキャリアデザイン (教科書第1章)	受講ノートの指示に沿った教科書第1章の事前学修・事後学修		
第3回	現代人のライフサイクルと職業 (教科書第2章)	受講ノートの指示に沿った教科書第2章の事前学修・事後学修		
第4回	チームビルディング演習	継続して受講予定の学生は必ずチームビルディング演習に参加すること		
第5回	現代人の生涯収支と職業 (教科書第3章)	受講ノートの指示に沿った教科書第3章の事前学修・事後学修		
第6回	キャリアの広がりや生涯発達 (教科書第4章)	受講ノートの指示に沿った教科書第4章の事前学修・事後学修		
第7回	働く意味と自分の職業観 (教科書第5章)	受講ノートの指示に沿った教科書第5章の事前学修・事後学修		
第8回	相互インタビューによる自己分析 (教科書第6章)	第8回は無し		
第9回	学生生活で得るキャリア意識の明確化 (教科書第7章)	受講ノートの指示に沿った教科書第7章の事前学修・事後学修		
第10回	経済・雇用環境に応じた働き方の理解 (教科書第8章)	受講ノートの指示に沿った教科書第8章の事前学修・事後学修		
第11回	インターンシップを活用したキャリア考察 (教科書第9章)	受講ノートの指示に沿った教科書第9章の事前学修・事後学修		
第12回	キャリア形成と求められる基礎能力 (教科書第10章)	受講ノートの指示に沿った教科書第10章の事前学修・事後学修		
第13回	多彩な職種や業種と自分の適職 (教科書第11章)	受講ノートの指示に沿った教科書第11章の事前学修・事後学修		
第14回	自らのキャリアビジョンを語る I 受講ノートの提出	持論の整理とプレゼンテーションの準備		
第15回	自らのキャリアビジョンを語る II、授業の総括 受講ノートの返却	過去14回の授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 受講ノートの提出 (最終ページに授業全体の振り返りを必ず記述のこと)			
小テスト等	なし			
成果発表	20% オーラル・プレゼンテーション			
受講態度他	50% アクティブ・ラーニングへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の目的と概要で述べたように本授業はアクティブ・ラーニングで運営する。アクティブ・ラーニングの前提は学生による事前学修への誠実な取り組みである。また、授業への無遅刻・無欠席での参加も重要な要素である。やむを得ない遅刻・欠席は可能な限り事前に連絡を入れること。私語や居眠りは当然のこと、主体的・能動的に学修しようとしないうちは授業の場にいたとしても出席として認めない。なお、初回の授業で本授業専用の受講ノートの配付し受講に関するルールについて説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加すること。</p>			
教科書	『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座 第2版』 (大宮登監修、2014年、日経BP社、1,800円+税) ※初回の授業時に本授業専用の受講ノートを配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	大橋・藤原→火曜日の昼休み 古田→月曜日の13:00~16:00	メールアドレス		

授業科目	九州の自然		開講時期	前期
担当教員	佐々木 浩		単 位	2
授業の目的と概要	本講義は、現在ある九州の自然はどのようなものを理解することを目的とする。そのために、地球の誕生、大陸の移動、日本列島の歴史などから、現在の九州が形成される過程について解説する。さらに、生物の進化を概観し、大陸の移動による現在の生物相の基礎の成立や、日本列島の生物相への氷河の影響などから、どのように現在の九州の自然が形成されて行ったかを解説する。また、人間が日本列島に辿りつく歴史や、身近にある古墳やその当時の生活等も解説し、現在の生活との繋がりを考えて行く。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の進化と地球の変化を結びつけて説明できるようになる。</li> <li>・九州の自然について説明できるようになる。</li> <li>・自然環境と文化の結びつきについて説明できるようになる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現代社会学部の共通科目のDPの一つである「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」授業の一つである。九州の自然が作られてきた歴史を学び、現在の自然保護の問題を考える基礎を身につけることができます。生物の面では、「生物のしくみ」「総合講座（生命）」、文化の面では「太宰府学」「九州の歴史と文化」などの授業を取ることによってさらに学びを深めることができる。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 講義概説			復習をして下さい。	
第2回 地球の誕生から現在の大陸の成立			復習をして下さい。	
第3回 日本列島の成立			復習をして下さい。	
第4回 生物の進化 第一回小テスト			復習をして下さい。	
第5回 生物の進化と地理的隔離			復習をして下さい。	
第6回 日本の自然（植物）			復習をして下さい。	
第7回 九州の自然（植物）			復習をして下さい。	
第8回 日本の自然（動物）			復習をして下さい。	
第9回 九州の自然（動物）			復習をして下さい。	
第10回 日本人の生活（ホモサピエンスの侵入から縄文時代） 第二回小テスト			復習をして下さい。	
第11回 日本人の生活（弥生時代から古墳時代）			復習をして下さい。	
第12回 自然と文化			復習をして下さい。	
第13回 照葉樹林 第三回小テスト			復習をして下さい。	
第14回 筑女の森研究			復習をして下さい。	
第15回 まとめ			復習をして下さい。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	83% 小テストを3回実施			
成果発表	なし			
受講態度他	17%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	個人的事情による欠席はすべて欠席扱いとなります。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜 昼休み と 3講時目		メールアドレス	

授業科目	【閉講】九州の歴史と文化	開講時期	後期
担当教員	横山 尊	単 位	2
授業の目的と概要	本講義は、日本の近現代を中心に、九州諸地域の主要なトピックを重点的に論じるものである。一般的な日本史教科書などから見れば、九州の占めるウェイトは驚くほど小さい。しかし、本講義が扱う九州各地を題材にした各テーマは、それぞれの時代のあり方を映し出し、同時代の政治、社会、文化の構造に多大な影響を与えたものばかりである。本講義は、九州各地域の地域社会の形成、中央や国民間の機能のあり方に着目し、そこから近現代社会の全体像を見通すことを試みる。このような事柄を知ることは、教育、マスコミ、観光、広報などの進路を目指す学生にとって有力な知的資源になるだろうし、多くの人々に必須の教養であろう。		
到達目標	①近現代の九州の歴史と文化をめぐる問題の基礎的知識を習得し、中学・高校で学習した歴史・日本史の学習内容を定着、発展させること。 ②九州の歴史と文化を近現代の日本全体、さらには東アジアを中心としたグローバルな観点から理解すること。 ③こうした視野の獲得を通して、現代の身近な地域を理解する素養となるだけでなく、本学での関連講義を理解する上での基礎体力も形成する。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	導入―幕藩体制の諸藩の成立までの九州地域の概観	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい	
第2回	明治維新―薩摩藩の活躍と九州諸藩の動向	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第3回	廃藩置県から市制・町村制へ―九州各都市の成立事情	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第4回	琉球処分から沖縄県へ	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第5回	九州の士族反乱、西南戦争	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第6回	九州の自由民権運動と玄洋社	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第7回	北部九州の産業革命―鉄道、炭鉱、八幡製鉄所	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第8回	九州帝国大学との成立と展開―そして旧制高校との関係	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第9回	爆弾三勇士と「九州男児」、九州各地の戦時動員	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第10回	九州各地における空襲、沖縄戦、長崎の被爆	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第11回	占領政策と朝鮮戦争―福岡県との関わりを中心に	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第12回	水俣病の発生と訴訟、水俣学	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第13回	三池闘争と三池炭塵爆発事故	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第14回	沖縄・奄美群島の占領から本土復帰まで	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第15回	総括	講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	80%		
レポート	%		
小テスト等	%		
成果発表	%		
受講態度他	20%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義中の私語など迷惑行為を行なった者には退室を命じます。		
教科書	なし。講義レジュメに従って講義を進める。		
指定図書	なし		
参考図書	『福岡県の歴史』(山川出版社、1999年)など山川出版社が刊行した九州各県の県史シリーズ		
オフィスアワー	講義の休憩時間の前後	メールアドレス	



授業科目	教育課程・方法論	開講時期	前期
担当教員	出雲 俊江	単位	2
授業の目的と概要	<p>授業・学習の捉え方、学校と学習指導要領など、教育にかかわる基礎的な考え方についての知識を得る。          学校における教育課程の意義、歴史、編成、法規に關しての基礎的な内容を理解する。          最後に、具体的な事例の紹介を通して、教育の方法や教材（情報機器を含む）の活用について具体的に考える。          現在の教育問題に關して、新聞記事を用いたプレゼンを行う。</p>		
到達目標	<p>教育課程の意義、歴史的変遷について、理解する。          教育課程編成、教育方法に關して、主要な概念を理解する。          教育の方法や教材（情報機器を含む）の活用について、具体的な提案が出来る。          現在の教育問題について、自分で調査し、考えを述べる事が出来る。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に關する科目」に該当し、以下の内容について学びます。          ・教育課程の意義及び編成の方法          ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション ー本講義の内容と構成ー	課題・レポート	
第2回	教育課程とは何か ー教育課程の概念とカリキュラムの類型ー	課題・レポート	
第3回	教育課程の編成原理 ー学問中心と児童中心ー	J. デューイ『学校と社会』指定箇所を読む	
第4回	さまざまな教育課程 ー大正新教育の実践ー	黒柳徹子『窓際のトットちゃん』読む	
第5回	教育課程の歴史① ー明治の教育と修身／教科書主義の源流ー	明治～戦前期の教育課程について調べてレポートする。	
第6回	教科書の現在 ー教科書検定についてー	教科書にとりまくさまざまな問題について、レポートする。	
第7回	教育課程の歴史② ー学習指導要領の変遷1 1922年版～カリキュラムの現代化ー	1922年版学習指導要領 指定部分を読む	
第8回	教育課程の歴史③ ー学習指導要領の変遷2 新しい学力観～現行学習指導要領ー	教育課程や学習指導要領の観点から受けてきた授業を振り返る。	
第9回	学力とは何か ー授業観・学習観の転換／知の構造化、知の共有化ー	「ゆとり」の実際についてレポート	
第10回	教育評価 ー教育評価の類型と方法ー	課題・レポート	
第11回	さまざまな教育実践 ー問題解決型学習と系統学習の実践例／学びの共同体・生活綴方ー	実践例についての報告	
第12回	教育の技術 ー動機づけ、適性処遇交互作用ー	課題・レポート	
第13回	学習指導の形態 ー一斉授業、小集団学習、個別学習、T.Tー	課題・レポート	
第14回	学習指導における教材の活用 ー視聴覚・情報機器等教材の活用の方法ー	パワーポイントによる課題の作成	
第15回	教育時事小研究 発表会	パワーポイントによる課題の作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	定期試験 40％ 教科書の指定部分から出題する。		
レポート	読書課題2回20％ ・ 毎回ミニレポート 15％		
小テスト等	行わない。		
成果発表	教育に關するプレゼン20％（準備・内容・表現）		
受講態度他	討議への参加、主体的な参加を評価する。5％		
受講上の留意点・ルールに關する情報	講義形式で進めるが、教育時事についてまたは課題研究についてのプレゼンを各人1回行う。		
教科書	柴田義松 『教育の方法と技術（教育学のポイントシリーズ）』（学文社 2005） 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 総則編』（東洋館出版社）		
指定図書	使用しない		
参考図書	使用しない		
オフィスアワー	水曜日 4限	メールアドレス	

授業科目	教育課程・方法論【中等教職】	開講時期	前期
担当教員	出雲 俊江	単位	2
授業の目的と概要	授業・学習の捉え方、学校と学習指導要領など、教育にかかわる基礎的な考え方についての知識を得る。学校における教育課程の意義、歴史、編成、法規に関する基礎的な内容を理解する。最後に、具体的な事例の紹介を通して、教育の方法や教材（情報機器を含む）の活用について具体的に考える。現在の教育問題に関して、新聞記事を用いたプレゼンを行う。		
到達目標	教育課程の意義、歴史の変遷について、理解する。 教育課程編成、教育方法に関して、主要な概念を理解する。 教育の方法や教材（情報機器を含む）の活用について、具体的な提案が出来る。 現在の教育問題について、自分で調査し、考えを述べる事が出来る。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。 ・教育課程の意義及び編成の方法 ・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション ー本講義の内容と構成ー	課題・レポート	
第2回	教育課程とは何か ー教育課程の概念とカリキュラムの種類ー	課題・レポート	
第3回	教育課程の編成原理 ー学問中心と児童中心ー	J. デューイ『学校と社会』指定箇所を読む	
第4回	さまざまな教育課程 ー大正新教育の実践ー	黒柳徹子『窓際のトットちゃん』読む	
第5回	教育課程の歴史① ー明治の教育と修身／教科書主義の源流ー	明治～戦前期の教育課程について調べてレポートする。	
第6回	教科書の現在 ー教科書検定についてー	教科書にとりまくさまざまな問題について、レポートする。	
第7回	教育課程の歴史② ー学習指導要領の変遷1 1922年版～カリキュラムの現代化ー	1922年版学習指導要領 指定部分を読む	
第8回	教育課程の歴史③ ー学習指導要領の変遷2 新しい学力観～現行学習指導要領ー	教育課程や学習指導要領の観点から受けてきた授業を振り返る。	
第9回	学力とは何か ー授業観・学習観の転換／知の構造化、知の共有化ー	「ゆとり」の実際についてレポート	
第10回	教育評価 ー教育評価の種類と方法ー	課題・レポート	
第11回	さまざまな教育実践 ー問題解決型学習と系統学習の実践例／学びの共同体・生活綴方ー	実践例についての報告	
第12回	教育の技術 ー動機づけ、適性処遇交互作用ー	課題・レポート	
第13回	学習指導の形態 ー一斉授業、小集団学習、個別学習、T.Tー	課題・レポート	
第14回	学習指導における教材の活用 ー視聴覚・情報機器等教材の活用の方法ー	パワーポイントによる課題作成	
第15回	教育時事小研究 発表会	パワーポイントによる課題作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	定期試験 40％ 教科書の指定部分から出題する。		
レポート	読書課題2回20％ ・ 毎回ミニレポート 15％		
小テスト等	行わない。		
成果発表	教育に関するプレゼン20％（準備・内容・表現）		
受講態度他	討議への参加、主体的な参加を評価する。5％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義形式で進めるが、教育時事についてまたは課題研究についてのプレゼンを各人1回行う。		
教科書	柴田義松 『教育の方法と技術（教育学のポイントシリーズ）』（学文社 2005） 文部科学省『中学校学習指導要領解説（総則編）』『高等学校学習指導要領解説（総則編）』		
指定図書	使用しない		
参考図書	J. デューイ／市村尚久『学校と社会・子どもとカリキュラム』（講談社学術文庫 1998） 黒柳徹子『窓際のトットちゃん』（講談社 1981）		
オフィスアワー	水曜日4限	メールアドレス	

授業科目	教育課程論 I	開講時期	後期
担当教員	原 陽一郎	単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義では、幼稚園、保育所、認定こども園などで教育をおこなう上で重要な「保育の計画」の意義を学び、その計画立案の仕方を習得する。また、この計画をもとにおこなった実践を評価し、改善するための方法について学ぶことを目的とする。</p> <p>よって、「保育の計画」としての教育課程・保育課程と指導計画などの理解、短期指導計画の立案と模擬授業の実施と相互批判、長期指導計画の検討などをおこなう。</p>		
到達目標	<p>①教育課程・保育課程の編成を具体的に理解する。</p> <p>②短期指導計画を立案し、模擬授業を実施する。</p> <p>③計画、実践、省察・評価、改善の過程を、模擬授業の実施などによって具体的に理解する。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、初等教育コースのDP⑤「教育に関する諸課題にアプローチする思考力・判断力、表現力、コミュニケーション能力を身に付け、客観的研究方法により探求し、得られた結果を研究成果としてまとめることができる。」並びに幼児保育コースのDP⑤「幼児教育・保育に関する諸課題にアプローチする思考力・判断力、表現力、コミュニケーション能力を身に付け、客観的方法により探求し、得られた結果を研究成果としてまとめることができる。」の達成に関わる科目です。幼稚園教諭免許取得のための科目ですが、各保育内容演習などで学ぶ専門的な知識や技能を実践へと発展させるための科目です。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	教育課程とは何か-幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領を理解する。	上記要領・指針の総則に関わる部分を読んでポイントを把握する	
第2回	教育課程・保育課程と指導計画	上記要領・指針の「保育の計画」に関わる部分を読んでポイントを把握する	
第3回	教育課程・保育課程のあり方・編成のポイント	配付された資料を読み、編成のポイントを把握する	
第4回	長期的指導計画のあり方・立案のポイント	対象とする園の環境・保育課程・保育内容などの情報を収集し、検討する	
第5回	短期的指導計画のあり方① 教育課程・保育課程、長期的指導計画をもとに立案するために	年齢毎の発達のポイントを把握しておく	
第6回	短期的指導計画のあり方② 生活と遊びを通して総合的におこなう教育について考える	対象とする園の環境、実施時期、対象年齢から内容を考えておく	
第7回	短期指導計画のあり方③ 幼児期の特性を元にした設定保育のあり方について	内容の発展させるために各種資料を集めておく	
第8回	教材研究の重要性① 教材研究は何をするべきか	自分の興味のある教材について資料を集めておく	
第9回	教材研究の重要性② 教材研究はどこまでおこなうべきか	集めた資料を整理し、さらに何を深めるかを考えておく	
第10回	教材研究の重要性③ 保育で展開するために	何が面白いのか、子どもの何が育つのかを整理しておく	
第11回	指導案の作成① 「ねらい」と「内容」を位置づける	教材研究を基に指導案のねらいと内容を検討しておく	
第12回	指導案の作成② 時間配分と環境設定のあり方	実習する園の環境を調べておく	
第13回	テーマに基づいた比較的長期間の指導計画の立案① テーマ設定の留意点	テーマを持たせるための絵本を検討する	
第14回	テーマに基づいた比較的長期間の指導計画の立案② 計画立案の留意点	絵本内容からどのように展開するかについて考えておく	
第15回	教育・保育課程と指導計画のまとめ	これまでの講義内容をふり返る	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	40% 基本的項目について		
レポート	50% 短期指導案の作成		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% 講義中の発表や小レポート提出などで参加態度を評価する		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教材研究はグループ活動とするので、きちんと参加すること。 短期指導案の作成など課題をきちんと遂行すること。		
教科書	なし		
指定図書	幼少年教育研究所『遊びの指導 乳・幼児編』同文書院(2009)		
参考図書	久富陽子編『幼稚園・保育所実習 指導計画の考え方・立て方』萌文書林(2009)		
オフィスアワー	木曜日2限	メールアドレス	

授業科目	教育課程論Ⅱ(再)		開講時期	前期
担当教員	大元 千種		単位	2
授業の目的と概要	<p>幼稚園や保育所等の教育・保育実践における指導の計画を立て、その展開(実践)のための教材準備や方法について具体的に考える力を養うことを目的とする。さらに、実践についての記録をもとにした自己評価を行うことによる、より質の高い実践的な視点を養い、幼稚園教諭や保育士等の教育者・保育者としての資質を高めることを目的とする。具体的に教育・保育について理解し計画できるようなるため、授業では「筑女の森」での遊びや活動をグループで工夫して実践する。学生自らの体験に基づき、季節や自然の移り変わりによる活動展開を考えることができるようにする。また、毎回授業での気づきや考察を「学びの軌跡」にまとめ、自らの学びを確認する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼児教育課程・保育課程(以下、教育・保育課程)の編成について、地域や子どもおよび保護者等のニーズを具体的に意識しと入れられることができる。</li> <li>2. 「筑女の森」での遊びや活動を具体的に考え、行動することができる。</li> <li>3. 指導計画について、クラスの子どもおよび保護者等を意識して、年計画、期案または月案、週案、日案を作成することができる。</li> <li>4. 作成した指導計画を状況に応じて柔軟に修正、変更することができる。</li> <li>5. 指導計画に基づいて教材の準備、手順を具体的にイメージし表現できる。</li> <li>6. 幼稚園幼児指導要録、保育所児童保育要録の記述のポイントを習得する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回教育課程の今日的意義と課題		第2章、幼稚園教育要領、保育所保育指針予習		
第2回教育課程の諸要素(教材・教具の検討)／筑女の森での活動(1)		課題：教材研究／「筑女の森で遊ぼうノート」記録(1)		
第3回教育課程と指導計画の作成について① 教育・保育課程／筑女の森での活動(2)		課題：「筑女の森で遊ぼうノート」記録(2)		
第4回教育課程と指導計画の作成について② 指導計画：教育課程・保育課程／筑女の森での活動(3)		課題：課題：「筑女の森で遊ぼうノート」記録(3)		
第5回教育課程と指導計画の作成について③ 指導計画：年間計画、期案または月案／筑女の森での活動(4)		課題：：「筑女の森で遊ぼうノート」記録(4)／月案作成		
第6回教育課程と指導計画の作成について④ 月案検討／筑女の森での活動(5)		課題：「筑女の森で遊ぼうノート」記録(5)／期案作成		
第7回教育課程と指導計画の作成について⑤期案検討と週案／筑女の森での活動(6)		課題：「筑女の森で遊ぼうノート」記録(6)／週案作成		
第8回教育課程と指導計画の作成について⑥週案検討と日案／筑女の森での活動(7)		課題：「筑女の森で遊ぼうノート」記録(7)／日案作成		
第9回教育課程と指導計画の作成について⑦日案検討／筑女の森での活動(8)		課題：「筑女の森で遊ぼうノート」記録(8)／年間計画作成、日案清書		
第10回省察および記録の重要性／筑女の森での活動(9)		課題：「筑女の森で遊ぼうノート」記録(9)／実践記録の分析		
第11回指導の記録の実際 記録の書き方／筑女の森での活動(10)		課題：「筑女の森で遊ぼうノート」記録(10)／指導計画発表準備		
第12回指導計画の展開① 指導計画の発表と評価		課題：指導案作成		
第13回指導計画の展開② 指導計画の発表と評価		課題：指導案作成		
第14回指導計画の展開③ 指導計画の発表と評価		課題：指導案作成、ミニレポート		
第15回幼稚園幼児指導要録と保育所児童保育要録		課題提出：作文、指導計画、筑女の森で遊ぼうノート、学修のまとめ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	70% 年間計画、月案、週案、日案、指導案、「筑女の森で遊ぼうノート」、作文			
小テスト等	0%			
成果発表	10% 指導案発表			
受講態度他	20% 「学修のまとめ」で授業への参加態度を確認し、評価の対象に含む。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>講義ではあるが、授業の課題として「筑女の森」での活動とまとめや指導案作成、作文がある。指導計画を立案するにあたっては、意識的、具体的に取り組むことができるよう、「筑女の森で遊ぼう」をテーマにする。また、指導案については作成するだけでなく、何人か模擬保育として発表も行い、それに対するコメントも課す。さらに、毎回授業での気づきや考察を「学びの軌跡」にまとめ、自らの学びを確認することとする。積極的な授業参加を期待する。</p>			
教科書	北野幸子(編著) 『シードブック 乳幼児の教育保育課程論』 建帛社 2010年			
指定図書	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針 <原本>』 チャイルド本社 2014年			
参考図書	授業で適宜紹介する			
オフィスアワー	月曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	教育経営論		開講時期	前期
担当教員	古賀野 卓		単位	2
授業の目的と概要	現代社会における教育制度の関する仕組みを理解するとともに、豊かな人間形成に向けた幼稚園や小学校における学校経営・学級経営のあり方について学ぶことを目的としている。また、そうした教育の場で起きている諸問題の制度的、社会的背景をおさえながら、システムやマネジメントの視点から改善に向けて何が出来るかその方向性を明らかにするとともに、教師のリーダーシップの基本を理解することを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の教育制度のしくみを説明することができるとともに、教育の機能と役割について説明することができる。</li> <li>2. いじめ・不登校など、現代日本の教育病理の実態や背景について、システムという視点と関連づけて説明できる。</li> <li>3. 学級経営において必要となる教師のリーダーシップについて、基本認識をもてるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育の基礎理論に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項</li> </ul>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーションー教育をシステムとして捉えるー	復習		
第2回	シンプルな経営学のすすめ	課題①		
第3回	子どもをみつめるⅠー今どきの子どもの人間関係と学級経営ー	復習		
第4回	子どもをみつめるⅡー学級崩壊の現象学ー	復習		
第5回	子どもにアプローチするⅠープロ教師の会と鳥山敏子氏ー	復習		
第6回	子どもにアプローチするⅡー『5年3組リョウタ組』よりー	課題②		
第7回	授業をつくるⅠー「スクールオブロック」よりー	復習		
第8回	授業をつくるⅡー「いまを生きる」よりー	復習		
第9回	集団をつくるⅠー『もしドラ』よりー	復習		
第10回	集団をつくるⅡー「伏見工業高校ラグビー部の挑戦」ー	課題③		
第11回	学校をつくるー「リオンオンミー」よりー	復習		
第12回	教師に求められる力ー共鳴する力とゆるやかさー	復習		
第13回	集団のなかで子どもを育てるということ	復習		
第14回	新しい教育経営学へ	課題④		
第15回	まとめ	復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	ー			
レポート	70%			
小テスト等	ー			
成果発表	ー			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業への積極的な参加を求める。			
教科書	古賀野卓著『新しい教育経営学ー物語を通じたアプローチー』（中川書店）			
指定図書	なし。			
参考図書	随時、紹介する。			
オフィスアワー	前期水曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	教育経営論【中等教職】		開講時期	前期
担当教員	古賀野 卓		単 位	2
授業の目的と概要	現代社会における教育制度の関する仕組みを理解するとともに、豊かな人間形成に向けた中学校や高等学校における学校経営・学級経営のあり方について学ぶことを目的とする。授業では、教育において問題となっているいじめ・不登校・学級崩壊の事例や学校経営、学級経営に関わる問題をとりあげながら、システムやマネジメントの視点から改善に向けて何ができるかその方向性や教師のリーダーシップを明らかにするとともに子どもたちの人間力を育てるためにどうしたらよいか議論を進めていく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の教育制度のしくみを説明することができるとともに、教育の機能と役割について説明することができること。</li> <li>2. いじめ・不登校など、現代日本の教育病理の実態をふまえて、学校や学級をシステムとしてどのように改善すればよいかについて基本認識をもてるようになること。</li> <li>3. 学級経営において必要となる教師のリーダーシップについて、基本認識をもてるようになること。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育の基礎理論に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション ―教育をシステムとして捉える―	復習		
第2回	シンプルな経営学のすすめ	課題①		
第3回	子どもをみつめるⅠ―今どきの子どもの人間関係と学級経営―	復習		
第4回	子どもをみつめるⅡ ―学級崩壊の現象学―	復習		
第5回	子どもにアプローチするⅠ ―プロ教師の会と鳥山敏子氏―	復習		
第6回	子どもにアプローチするⅡ―『5年3組リョウタ組』より―	課題②		
第7回	授業をつくるⅠ ―「スクールオブロック」より―	復習		
第8回	授業をつくるⅡ ―「いまを生きる」より―	復習		
第9回	集団をつくるⅠ ―『もしドラ』より―	復習		
第10回	集団をつくるⅡ ―「伏見工業高校ラグビー部の挑戦」―	課題③		
第11回	学校をつくる ―「リーンオンミー」より―	復習		
第12回	教師に求められる力 ―共鳴する力とゆるやかさ―	復習		
第13回	集団のなかで子どもを育てるといふこと ―現代の社会状況をふまえて―	復習		
第14回	新しい教育経営学へ	課題④		
第15回	まとめ	復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	―			
レポート	70%			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的な授業参加を求める。			
教科書	古賀野卓著『新しい教育経営学―物語を通じたアプローチ―』中川書店			
指定図書	なし。			
参考図書	随時紹介する。			
オフィスアワー	前期水曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	教育原理	開講時期	前期
担当教員	古賀野 卓	単 位	2
授業の目的と概要	いじめ・不登校などの現代日本の教育病理現象をとりあげながら、その実態や社会的背景について学ぶ。さらに、その影響のもとで、子ども同士の人間関係や子どもの自己認識・社会認識がどのように変容してきたかを探る。それを踏まえて、幼児期の教育の大切さと幼稚園・保育園の機能と役割とともに、それ以後の学校教育の果たすべき機能と役割について理解できるようになることを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. いじめ・不登校・学級崩壊などの教育病理現象の実態や背景を説明することができる。</li> <li>2. 子ども同士の人間関係や自己認識・社会認識の変容について説明することができる。</li> <li>3. 幼児期の教育の大切さとともに、幼稚園や保育園の果たすべき機能と役割について説明することができる。</li> <li>4. 初等教育以降の学校教育制度の機能と役割について説明することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に初等教育コースのDP2「初等教育に関する専門的知識や子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況についての知識を身に付けることができる。」、幼児保育コースのDP2「子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況に関する知識を身に付けることができる。」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：様々な教育病理現象に潜む課題について	復習	
第2回	いじめを考えるⅠ：陰湿化するいじめの実態	課題①	
第3回	いじめを考えるⅡ：いじめ現象の背後にあるもの	課題②	
第4回	いじめを考えるⅢ：子どもの自己認識・社会認識	復習	
第5回	不登校を考えるⅠ：多様化する不登校の実態と社会的背景	復習	
第6回	不登校を考えるⅡ：学校制度の自明性の揺らぎ	課題	
第7回	学級崩壊を考える：親密権の重さと公共権の軽さ	復習	
第8回	学校制度からこぼれ落ちた子どもたちⅠ：夜回り先生からみた世界	課題①	
第9回	学校制度からこぼれ落ちた子どもたちⅡ：子どもの貧困を考える	課題②	
第10回	現代の子育てⅠ：児童虐待問題から見えてくるもの	復習	
第11回	現代の子育てⅡ：早期教育の隆盛とその意味	課題	
第12回	幼児教育について考える：幼稚園・保育園制度の歴史と現在	復習	
第13回	特別支援教育について考える：障がい児教育のいまを見つめる	課題	
第14回	<子どもが育つ>ということの意味	復習	
第15回	まとめ	復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0％		
レポート	50％		
小テスト等	—		
成果発表	20％		
受講態度他	30％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	進んで質問をするなどして、積極的に授業に参加するように。		
教科書	古賀野卓著『未来への教育原理—子どもが育つ場をともに創る—』中川書店		
指定図書	なし		
参考図書	適宜紹介する		
オフィスワー	前後期とも水曜日昼休み	メールアドレス	

授業科目	教育史(再)	開講時期	後期
担当教員	松本 和寿	単 位	2
授業の目的と概要	<p>現代日本の教育をめぐる諸問題を考察するために、教育の理念及び思想、また社会的、制度的あるいは経営的事項について、歴史的視点から検証する。</p> <p>近代教育の根幹をなす子ども観、家族観、義務教育制度の成立について、日本の教育の歴史を中心に考察する。また、欧米の教育の歴史について、教育思想や教育方法の観点から考察する。</p>		
到達目標	<p>①子ども観について、歴史的視点から具体例に説明できる。</p> <p>②近代国家成立時における学校教育の役割について、説明できる。</p> <p>③近代の制度である公教育がもつ本質的な性格と今日的な課題について、評価できる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション 古代日本の教育（律令体制下の教育）	授業のテーマに則しテキストを用いて日本史を復習しておく。	
第 2 回	古代・中世の教育	日本史（古代・中世）の学習（高等学校程度の内容）	
第 3 回	近世の教育（武士の教育、庶民の教育）	日本史（近世）の学習（高等学校程度の内容）	
第4回	近世の教育（私塾）	日本史（近世）の学習（高等学校程度の内容）	
第5回	近代の教育（国民教育制度の創設）	日本史（近代）の学習（高等学校程度の内容）	
第6回	近代の教育（天皇制教育体制の構築）	日本史（近代）の学習（高等学校程度の内容）	
第7回	近代の教育（新教育運動の展開）	日本史（近代）の学習（高等学校程度の内容）	
第8回	戦時下の教育（国家総力戦体制の確立）	日本史（昭和戦前期）の学習（高等学校程度の内容）	
第9回	戦時下の教育（国民学校）	日本史（太平洋戦争期）の学習（高等学校程度の内容）	
第10回	戦後教育改革期の教育（占領下の教育政策）	日本史（占領期）の学習（高等学校程度の内容）	
第11回	戦後教育改革期の教育（戦後新教育）	日本史（占領期）の学習（高等学校程度の内容）	
第12回	独立後の教育（「55年体制」と教育政策の転換）	日本史（独立前後）の学習（高等学校程度の内容）	
第13回	高度経済成長期の教育（学歴社会、「受験戦争」）	日本史（高度経済成長期）の学習（高等学校程度の内容）	
第14回	西洋の教育（教育思想）	日本の教育の歴史について概観しまとめる。	
第15回	西洋の教育（教育方法）	西洋の教育の歴史を教育思想・方法の観点からまとめる。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	80% 授業で得た知見をもとに具体的な事例を説明し、自説を展開できる。		
レポート	なし。		
小テスト等	なし。		
成果発表	なし。		
受講態度他	20% 真摯な態度で授業に臨むこと。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと。		
教科書	『山川 詳説日本史図録』山川出版社		
指定図書	指定しない。		
参考図書	授業の際に指示する。		
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み（他の時間帯でも可能な場合あり）	メールアドレス	



授業科目	教育史【中等教職】	開講時期	後期
担当教員	松本 和寿	単位	2
授業の目的と概要	<p>現代日本の教育をめぐる諸問題を考察するために、教育の理念及び思想、また社会的、制度的あるいは経営的事項について、歴史的視点から検証する。</p> <p>近代教育の根幹をなす子ども観、家族観、義務教育制度の成立について、日本の教育の歴史を中心に考察する。また、欧米の教育の歴史について、教育思想や教育方法の観点から考察する。</p>		
到達目標	<p>①子ども観について、歴史的視点から具体例に説明できる。</p> <p>②近代国家成立時における学校教育の役割について、説明できる。</p> <p>③近代の制度である公教育がもつ本質的な性格と今日的な課題について、評価できる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育の基礎理論に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</li> </ul>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション 古代日本の教育（律令体制下の教育）	授業のテーマに則しテキストを用いて日本史を復習しておく。	
第2回	古代・中世の教育	日本史（古代・中世）の学習（高等学校程度の内容）	
第3回	近世の教育（武士の教育、庶民の教育）	日本史（近世）の学習（高等学校程度の内容）	
第4回	近世の教育（私塾）	日本史（近世）の学習（高等学校程度の内容）	
第5回	近代の教育（国民教育制度の創設）	日本史（近代）の学習（高等学校程度の内容）	
第6回	近代の教育（天皇制教育体制の構築）	日本史（近代）の学習（高等学校程度の内容）	
第7回	近代の教育（新教育運動の展開）	日本史（近代）の学習（高等学校程度の内容）	
第8回	戦時下の教育（国家総力戦体制の確立）	日本史（昭和戦前期）の学習（高等学校程度の内容）	
第9回	戦時下の教育（国民学校）	日本史（太平洋戦争期）の学習（高等学校程度の内容）	
第10回	戦後教育改革期の教育（占領下の教育政策）	日本史（占領期）の学習（高等学校程度の内容）	
第11回	戦後教育改革期の教育（戦後新教育）	日本史（占領期）の学習（高等学校程度の内容）	
第12回	独立後の教育（「55年体制」と教育政策の転換）	日本史（独立前後）の学習（高等学校程度の内容）	
第13回	高度経済成長期の教育（学歴社会、「受験戦争」）	日本史（高度経済成長期）の学習（高等学校程度の内容）	
第14回	西洋の教育（教育思想）	日本の教育の歴史について概観しまとめる。	
第15回	西洋の教育（教育方法）	西洋の教育の歴史を教育思想・方法の観点からまとめる。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	80% 授業で得た知見をもとに具体的な事例を説明し、自説を展開できる。		
レポート	なし。		
小テスト等	なし。		
成果発表	なし。		
受講態度他	20% 真摯な態度で授業に臨むこと。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと。		
教科書	『山川 詳説日本史図録』山川出版社		
指定図書	指定しない。		
参考図書	授業の際に指示する。		
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み（他の時間帯でも可能な場合あり）	メールアドレス	

授業科目	教育心理	開講時期	前期
担当教員	S. Kumar	単位	2
授業の目的と概要	人間形成の原理と社会に生きていく上で、教育学や心理学の考え方やそれに関する様々な方法を学びます。心理学的な視点から教育に関する、子どもの成長として、発達、教授や学習の過程、学習への動機、人格の形成を学びます。保育士という職業的自立のため必要となる知識として、人間は生まれてからどのような発達段階を得て、成長していくことの理解。それに関して、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期の理解。それぞれの発達段階で知能の発達、情緒の発達、社会性や集団遊びの発達、運動の発達、言語の発達などを理解しながら学ぶ。		
到達目標	社会の中生きることとして生まれてから成長していく発達の段階、様々な学習プロセスと理論、考え方、人格の形成や人間の行動について様々な心理テストを通して理解する。社会自立として日常生活の中、上記のものを取り入れて、教育心理学の適切な理解や判断力を身につけることができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は幼稚園教諭に關しての科目であり、子どもの成長、学習、人格などと教育心理学の基本知識を学びます。保育現場で対応できる教育心理的な活動体験を基にした保育又は教育指導を学びます。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 教育心理とは何か		教育心理の定義の理解課題	
第2回 教育心理の歴史		教育心理学者についての課題	
第3回 乳幼児期の運動と知能の発達		発達についての理解	
第4回 ピアジェの発達段階論の理解		ピアジェ理論の課題	
第5回 幼児期の知識、運動、言語と情緒の発達		幼児期の発達についての理解	
第6回 愛着、道徳性、仲間関係と社会性の形成		集団遊びの絵本を読むの予習	
第7回 学習の成立 (S-R説)		日常生活の中学習の理解課題	
第8回 学習過程の知識論		パヴロフ論についての復習	
第9回 内発的動機付けと外発的動機づけ		動機はなぜ必要かの課題	
第10回 人格の理解		血液型として人格の理解課題	
第11回 人格の理解の方法		人格について復習	
第12回 人格の理解の投影法検査		ロールシャハールについての復習	
第13回 発達と人格に関する心理テストの理解		心理テストはなぜ必要かの予習	
第14回 発達・学習・人格に関する心理テスト		心理テストの理解課題	
第15回 授業全体の理解と総まとめ		教育心理の総理解	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	90% 筆記試験		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% : 「私語5%、遅刻3%、授業中携帯電話の使用など2%」		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の際提示します。		
教科書	指定しない (資料配布)		
指定図書	なし		
参考図書	勝地 三郎 監修『新教育心理』ナカニシヤ出版 岩田純一・佐々木正人・石田勢津子・落石幸子『児童の心理学』		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	教育心理【中等教職】		開講時期	前期
担当教員	酒井 均		単 位	2
授業の目的と概要	<p>教育活動を活発にし、教育効果をあげるためには、学習に対する子どもの取り組みや環境の作用について分析し、子どもが望ましい方向へ発達していくような指導の方法を考える必要がある。</p> <p>そこで、本講義では教育の対象である幼児・児童・生徒（障がいのある幼児・児童・生徒を含む）の心身の成長と発達を理解、および幼児・児童・生徒（障がいのある幼児・児童・生徒を含む）の望ましい成長と発達のための学習や、生活の指導のあり方に関する理論ならびに方法論について学ぶことによって、教育実践力の基礎となる知識を習得することを目的とする。</p> <p>今日、教師の資質向上が求められる中で、教育実践力として必要となるのが「子どもを理解する力」「子どもたちに働きかける力」「活動内容を構成する力」「実践を認識する力」である。本講義では、これら4つの基礎となる理論や技術についての学習をすすめていく。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育心理学の領域「発達」「学習」「人格と適応」「教育評価」における基本的知識（理論、概念、方法）を理解し、正確に述べることができる。</li> <li>・学習した事柄が教育活動としてどのように活用されるのか考え、自らの見解を述べることができる。</li> <li>・障がい児に対する学習支援のあり方を理解し、説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育の基礎理論に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）</li> </ul>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	教育心理学を学ぶ意義		ショートレポート	
第 2回	発達理論Ⅰ：発達の定義、発達の規定要因		ショートレポート	
第 3回	発達理論Ⅱ：主な発達理論（フロイト、ピアジェ、エリクソン）		ショートレポート	
第 4回	発達の諸相 子どものこころ		ショートレポート	
第 5回	学習理論		ショートレポート	
第 6回	動機づけ、記憶		ショートレポート	
第 7回	学力と知能		ショートレポート	
第 8回	学習理論の適用		ショートレポート	
第 9回	学級集団		ショートレポート	
第10回	適応の心理		ショートレポート	
第11回	人格		ショートレポート	
第12回	心理療法		ショートレポート	
第13回	教育評価		ショートレポート	
第14回	心の問題と発達障害		ショートレポート	
第15回	障がい児に対する学習支援		ショートレポート	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 持ち込み不可			
レポート	30％			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	—			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度については、教職生にふさわしい態度を求めます。遅刻、私語、携帯電話の使用は厳禁です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜お昼休み	メールアドレス		

授業科目	教育心理学	開講時期	前期
担当教員	S. Kumar	単位	2
授業の目的と概要	人間形成の原理と社会に生きていく上で、教育学や心理学の考え方やそれに関する様々な方法を学びます。心理学的な視点から教育に関する、子どもの成長として、発達、教授や学習の過程、学習への動機、人格の形成を学びます。保育士という職業的自立のため必要となる知識として、人間は生まれてからどのような発達段階を得て、成長していくことの理解。それに関して、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期の理解。それぞれの発達段階で知能の発達、情緒の発達、社会性や集団遊びの発達、運動の発達、言語の発達などを理解しながら学ぶ。		
到達目標	社会の中生きることとして生まれてから成長していく発達の段階、様々な学習プロセスと理論、考え方、人格の形成や人間の行動について様々な心理テストを通して理解する。社会自立として日常生活の中、上記のものを取り入れて、教育心理学の適切な理解や判断力を身につけることができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は教職課程に關しての科目であり、子どもの成長、学習、人格などと教育心理学の基本知識を学びます。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 教育心理とは何か		教育心理の定義の理解課題	
第2回 教育心理の歴史		教育心理学者についての課題	
第3回 乳幼児期の運動と知能の発達		発達についての理解	
第4回 ピアジェの発達段階論の理解		ピアジェ理論の課題	
第5回 幼児期の知識、運動、言語と情緒の発達		幼児期の発達についての理解	
第6回 愛着、道徳性、仲間関係と社会性の形成		集団遊びの絵本を読むの予習	
第7回 学習の成立 (S-R説)		日常生活の中学習の理解課題	
第8回 学習過程の知識論		パヴロフ論についての復習	
第9回 内発的動機付けと外発的動機づけ		動機はなぜ必要かの課題	
第10回 人格の理解		血液型として人格の理解課題	
第11回 人格の理解の方法		人格について復習	
第12回 人格の理解の投影法検査		ロールシャハールについての復習	
第13回 発達と人格に関する心理テストの理解		心理テストはなぜ必要かの予習	
第14回 発達・学習・人格に関する心理テスト		心理テストの理解課題	
第15回 授業全体の理解と総まとめ		教育心理の総理解	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	90% 筆記試験		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% : 「私語5%、遅刻3%、授業中携帯電話の使用など2%」		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の際提示します。		
教科書	指定しない (資料配布)		
指定図書	なし		
参考図書	勝地 三郎 監修『新教育心理』ナカニシヤ出版 岩田純一・佐々木正人・石田勢津子・落石幸子『児童の心理学』		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	教育実習Ⅰ【中等教職】	開講時期	通年
担当教員	出雲 俊江・竹熊 真波	単位	4
授業の目的と概要	<p>本講義は、中学校教員免許取得希望者が、教育実習を通じて教育現場や教師の仕事の実際を理解することを目的とする。同時に、これまでに学んできた「教職に関する科目」ならびに「教科に関する科目」における理論的な知識を応用する力を身につけるといふ目的も有する。その上で、自己の教師としての適性を再考するものである。</p> <p>実習の基本的な流れは以下のとおり。まずは先生方の授業や生徒達の様子、学校の規則等を「観察」する。次に、ホームルームでの点呼や掃除の指導など徐々に学校や学級での教育活動に「参加」していく。最終的に指導教員の下で指導案を作成し、実際に授業を行う（実証実習）。また、実習は単に授業を教えるだけでなく、ホームルームや課外活動、学校行事、生徒指導など、教科外の活動における指導も含まれる。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育現場や教師の仕事の実際を体験的に理解する</li> <li>・これまで学んできた理論的な知識を現場にいかす</li> <li>・教師としての実践的力量を経験的・実践的に形成する</li> <li>・教師としての職業倫理を経験的に培う</li> <li>・教職に就くことの適性を自ら判断する</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本授業は、4年前期開講の「中等教育実習指導」並びに4年後期開講の「教職実践演習（中・高）」と連動する。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
	基本的には5月から6月にかけて3週間中学あるいは高校での実習となる。実習校の状況によっては9月から11月の受け入れもあり得る。	実習前に指導案を作成し、50分フルの模擬授業を実践しておく。	
	第1週目 観察実習・参加実習：基本的には観察実習が中心となり、徐々に参加実習となるが、初日から教壇に立つ場合もあるので準備を怠らないこと。	教材研究や実習校との事前打合せを十分に行った上で実習に臨む。	
	第2週目 実証実習：指導教員の助言をしっかりと受け止め、授業を改善していく。	教材研究や授業準備を行う。栄養・睡眠を十分にとる。	
	第3週目 研究（査定）授業に向けて：授業準備を綿密に行い、教育実習の集大成をする。	指導案の作成。誤字脱字や提出期限等最後まで細心の注意を払うこと	
	—	—	
	—	—	
	—	—	
	—	—	
	—	—	
	—	—	
	—	—	
	—	—	
	—	—	
	—	—	
	—	—	
	—	—	
	—	—	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0％		
レポート	50％（教育実習日誌・教育実習報告書）		
小テスト等	0％		
成果発表	0％		
受講態度他	50％（実習校からの評価）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習日誌は、実習校から特に指示がない限り、ボールペンで記入すること。誤字・脱字がないよう留意し、丁寧に書くこと。</li> <li>・無断欠勤や遅刻は決して許されない（提出物も期限内に出すこと）。</li> <li>・教材研究は必要だが、それだけに終始せず、他の授業や部活動などにも、先生方の許可を得た上で積極的に参加すること。</li> <li>・社会人としてのマナー（服装、言葉遣いなど）や健康管理に留意すること。</li> <li>・生徒との個人的な交流（携帯番号を教えるなど）をしてはならない。</li> </ul>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	文部科学省『中学校学習指導要領』東山書房、文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房		
オフィスワー	水曜2限（竹熊）	メールアドレス	

授業科目	教育実習Ⅱ【中等教職】		開講時期	通年
担当教員	出雲 俊江・竹熊 真波		単位	2
授業の目的と概要	<p>本科目は、高等学校教員免許取得希望者が、教育実習を通じて教育現場や教師の仕事の実際を理解することを目的とする。同時に、これまでに学んできた「教職に関する科目」ならびに「教科に関する科目」における理論的な知識を応用する力を身につけるという目的も有する。その上で、自己の教師としての適性を再考するものである。</p> <p>実習の基本的な流れは以下のとおり。まずは先生方の授業や生徒達の様子、学校の規則等を「観察」する。次に、ホームルームでの点呼や掃除の指導など徐々に学校や学級での教育活動に「参加」していく。最終的に指導教員の下で指導案を作成し、実際に授業を行う（実証実習）。また、実習は単に授業を教えるだけでなく、ホームルームや課外活動、学校行事、生徒指導など、教科外の活動における指導も含まれる。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育現場や教師の仕事の実際を体験的に理解する</li> <li>・これまで学んできた理論的な知識を現場にいかす</li> <li>・教師としての実践的力量を経験的・実践的に形成する</li> <li>・教師としての職業倫理を経験的に培う</li> <li>・教職に就くことの適性を自ら判断する</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本授業は、4年前期開講の「中等教育実習指導」と4年後期開講の「教職実践演習（中・高）」と連動する。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
	基本的には5月から6月にかけての2週間、内諾済みの高校（あるいは中学）において実習が行われる。	実習校での実践を想定し、指導案作成と50分フルの模擬授業を行うこと		
	第1週目 観察実習・参加実習：1週目中旬から（時には初日から）実証実習が開始される	事前の教材研究・実習校との打合せを十分にを行うこと		
	第2週目 実証実習：指導教員の助言をしっかりと受け止め、授業を改善し、研究（査定）授業につなげる	授業準備を綿密に行うこと、体調管理にも留意すること		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
	—	—		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％（教育実習日誌・教育実習報告書）			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	50％（実習校からの評価）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習日誌は、実習校から特に指示がない限り、ボールペンで記入すること。誤字・脱字がないよう留意し、丁寧に書くこと。</li> <li>・無断欠勤や遅刻は決して許されない（提出物も期限内に出すこと）。</li> <li>・教材研究は必要だが、それだけに終始せず、他の授業や部活動などにも、先生方の許可を得た上で積極的に参加すること。</li> <li>・社会人としてのマナー（服装、言葉遣いなど）や健康管理に留意すること。</li> <li>・生徒との個人的な交流（携帯番号を教えるなど）をしてはならない。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	文部科学省『高等学校学習指導要領』東山書房			
オフィスワー	水曜2限（竹熊）	メールアドレス		

授業科目	教育相談	開講時期	後期
担当教員	板井 修一	単位	2
授業の目的と概要	<p>登園拒否や不登校、いじめ、非行といった、教育現場で子どもたちが示す問題行動への対応は、教師にとって、避けて通ることのできない重要な問題です。的確な見立てと適切な対応がとれるかによって、教師の力量が問われます。教師には、幼児や児童のこころを理解するための理論や方法を、しっかりと身につけたうえで、子どもたちと真摯に向き合い関わり合う姿勢が求められています。</p> <p>この「教育相談」の授業をととして、問題や課題を抱える子どもたちへの指導・援助にとどまらず、問題発生の予防ならびに、子どもたちの人間的成長を促す積極的・開発的な援助や支援のあり方についての理解が深まっています。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育現場における教育相談の意義について説明することができるようになる。</li> <li>・教育相談に役立つカウンセリングの基本的態度や技法を身につける。</li> <li>・教育相談の対象となる登園拒否や不登校、発達障害等の問題について、説明できるようになる。</li> <li>・幼児理解の理論及び方法の意義について説明できるようになる。</li> </ul>		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>この授業は、人間形成専攻DP③「子どものよさや課題を理解し、適切に支援するための理論について概要を説明することができる」に対応したものである。</p> <p>「臨床心理学概論」や「生涯発達心理学Ⅰ」を受講していると、理解が助けられるものと考えます。「カウンセリング概論」を併せて受講することによって、具体的支援の技術について理解が深まると思われます。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 教育相談とは 幼児教育および初等教育の現状、教育相談の意義		教育の現場が抱える子どもの問題について調べる	
第2回 カウンセリング カウンセリングの基礎的知識と技法		配布資料をもとに、受容・共感・自己一致について復習する	
第3回 スクールカウンセラー(SC)制度 制度と今後の課題、制度化のプロセス、心の相談員		授業で指示したウェブサイトの関連ページからSCの仕事について調べる	
第4回 教育相談の三要素 学業相談、進路相談、適応相談		配付資料をもとに復習	
第5回 心理療法の三大流派 精神分析療法、来談者中心療法、行動療法		配付資料をもとに復習	
第6・7回 発達心理学の観点からみた子ども理解 ⑥幼児期の子ども理解、⑦児童期の子ども理解		配付資料をもとに復習	
第8・9回 心理アセスメント ⑧幼児のアセスメント、⑨児童のアセスメント		配付資料をもとに復習	
第10・11回 心理的援助技法 ⑩幼児期(プレイセラピー等)、⑪児童期(プレイセラピー・箱庭・描画療法等)		配付資料をもとに復習	
第12回 現場で出会う心理的諸問題(幼児期) 登園拒否と発達障がいを中心に		指示したウェブサイトのページから、登園拒否・発達障がいについて調べる	
第13回 現場で出会う心理的諸問題(児童期1) 不登校を中心に		授業で指示したウェブサイトの関連ページから不登校について調べる	
第14・15回 現場で出会う心理的諸問題(児童期2) ⑭精神遅滞、⑮発達障がい(ADHD・高機能自閉症・アスペルガー症候群等)を中心に		授業で指示したウェブサイトの関連ページから発達障がいについて調べる	
第16回 現場で出会う心理的諸問題(児童期3) いじめ問題を中心に		授業で指示したウェブサイトの関連ページからいじめの現状を調べる	
第17回 教師の心のケア 教師の心の健康、ストレスケアマネジメント		教師の心の健康に関する問題について調べる	
第18回 園や学校での危機への対応 危機の対応と心のケア、PTSDの予防		PTSDと心のケアについて調べる	
第19回 保護者支援、地域支援 地域のネットワーク、他職種との協働		コラボレーションの意義について調べる	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	100% 期末レポート		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	授業の進行を妨げるような私語については、厳しく注意を与え、5点(1回につき)の減点とする。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業外学修として出された課題は、各自ファイルを作成し整理する。提出を求め、点検をすることがある。		
教科書	なし 授業内容と関連した配付資料を毎回配布する		
指定図書	なし		
参考図書	授業のなかで適宜紹介		
オフィスアワー	水曜日の3時間目	メールアドレス	

授業科目	【閉講】教育文化特論Ⅰ	開講時期	前期
担当教員	田中 友佳子	単 位	2
授業の目的と概要	子どもに向けられる感情や眼差し、接し方、子どもと大人の関係、子どもに関する文化や問題群が、歴史的にいかに変化し創られてきたのかを本授業では扱う。西洋社会の子ども期と子どもの歴史について論じたヒュー・カニンガム著『概説 子ども観の社会史ーヨーロッパとアメリカにみる教育・福祉・国家』（新曜社、2013年、北本正章訳）を講読し、その要旨を作成した上で、受講生全員で議論を行う。さらに、日本の子ども期と子どもに関する教育社会史的研究の進展を把握し、論評を行う。これらの過程を通して、研究の課題の立て方、方法、論理構成といった論文作成上の基礎的技能について学ぶことを目指す。		
到達目標	①子ども期の歴史を理解する。 ②教育学が前提としてきた諸概念やテーマについて論じることができる。 ③論文の主旨を読み取り、その内容を的確に整理できる。 ④関連する論文を収集できる。 ⑤的確に論評を行うことができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	本授業のねらいと課題	次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第2回	文献講読と議論ー序文 / 第1章 序論-子ども期の概念と実態	次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第3回	文献講読と議論ー第2章 古代と中世ヨーロッパの子ども観	次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第4回	文献講読と議論ー第3章 中産階級の子ども期イデオロギーの展開 一五〇〇～一九〇〇年	次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第5回	文献講読と議論ー第4章 家族・労働・学校 一五〇〇～一九〇〇年	次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第6回	文献講読と議論ー第5章 ヨーロッパの子ども・博愛団体・国家 一五〇〇～一九〇〇年	次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第7回	文献講読と議論ー第6章 子どもの救済 一八三〇年頃～一九二〇年頃	次回該当部分を閲読。担当者はレジュメを作成する。	
第8回	文献講読と議論ー第7章 「子どもの世紀」？ 一九〇〇～現在 / 第八章 結論	復習	
第9回	日本の子ども期の歴史に関する論文を収集し、後半に読む論文を選択する。	次回論文を閲読。担当者は論評作成を行う。	
第10回	論評①	次回論文を閲読。担当者は論評作成を行う。	
第11回	論評②	次回論文を閲読。担当者は論評作成を行う。	
第12回	論評③	次回論文を閲読。担当者は論評作成を行う。	
第13回	論評④	次回論文を閲読。担当者は論評作成を行う。	
第14回	論評⑤	次回論文を閲読。担当者は論評作成を行う。	
第15回	論評⑥	復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	80% 選択した章の適切なまとめと疑問を提示できること。選択した論文の適切な論評を発表できること。		
受講態度他	20% 積極的発言、態度を評価する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的に議論に参加する姿勢を持って受講することを期待する。		
教科書	ヒュー・カニンガム『概説 子ども観の社会史ーヨーロッパとアメリカにみる教育・福祉・国家』新曜社、2013年、北本正章訳 経済的理由等で入手困難な受講生には、該当箇所をコピーするなどして対応する予定。初回到相談を受け付ける。		
指定図書	なし		
参考図書	適時、紹介を行う。		
オフィスアワー	授業の前後またはメールにて相談可	メールアドレス	



授業科目	【閉講】 教育文化特論Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	古賀野 卓	単位	2
授業の目的と概要	<p>子どもの世界に起きている様々な問題および改善策をシステム論の視点から複眼的に分析する能力を身につけることを目的としている。</p> <p>ここでのシステムとは、制度というより、研究者の認識枠組みのようなものである。システム論の利点は、次の3つにまとめられる。第一に、学級における特定の子ども集団、学校という組織、教育行政という制度という異なったスケール（尺度）で複眼的に子どもを捉えることが可能となる。第二に、子どもらの自己認識や社会認識に影響を与えている学校以外の文化をシステムと見なして、その様態の研究を通して、子ども理解を深めていくこともできる。第三に、システム論の知見を応用しながら、子どもの利益を優先した社会づくりをめざしていくことができる。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. システム論の考え方やその利点について理解し、説明することができる。</li> <li>2. システム論を用いて、いじめ・不登校などの教育問題を分析することができる。</li> <li>3. 私たちの社会生活を包み込んでいる国家・社会のしくみというマクロな構造へと考察を広げることができる。</li> <li>4. 子どもを中心とした社会づくりのために、システム論の知見を応用することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	システムとは何か：つながりのなかで生きている私	復習	
第2回	システムで考えると何が見えてくるか	課題①	
第3回	システム論の視点について ―ミクロとメゾとマクロという視点―	復習	
第4回	学校をシステムとしてみる ―学級集団から学校教育制度まで―	復習	
第5回	子どもに影響を及ぼす様々なシステム	課題②	
第6回	システム論からみた現代のいじめの構造	復習	
第7回	学級崩壊にみる学校制度の自明性の衰退	復習	
第8回	学校をつくるということ ―システムづくりとルールづくり―	課題③	
第9回	組織が変わるとのこと ―共通するプロセスを見つけ出す―	復習	
第10回	教師に求められる力 ―生きたシステムをつくるリーダーとして―	復習	
第11回	集団のなかで子どもを育てるとのことの意味	課題④	
第12回	子どもを中心にシステムを見つめ直すということ	復習	
第13回	子どもにとって最も重要なシステムを探る	復習	
第14回	子どもを生かすためのシステムづくり ―大人社会の責任―	復習	
第15回	まとめ	講義の際に指示します	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	―		
レポート	60%		
小テスト等	―		
成果発表	―		
受講態度他	40%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特になし。		
教科書	使用しない。		
指定図書	ない。		
参考図書	随時、紹介する。		
オフィスアワー	後期水曜日昼休み	メールアドレス	

授業科目	教育方法論	開講時期	前期
担当教員	松尾 智則	単位	2
授業の目的と概要	<p>教師(保育者)としての科学的教育方法の基礎を学ぶ。  具体的には、教育目標、教育対象、教育内容、教師に必要なプレゼンテーションスキルの基礎、情報機器等を利用する方法などを学ぶ。  さらにその総合的実践とし学生による模擬保育を体験・参観することによつ理論と実践の統合を理解する。</p>		
到達目標	<p>教育方法の科学的理解の視点を持つ。  教育環境に関して基礎的に理解する。  学習者の管理に関して基礎的に理解する。  教師に必要なプレゼンテーションスキルを理解する。  指導案の作成と模擬保育を体験し、考察する。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>幼児保育コースDP (1)i②(教育者として)自分の感情や欲求・行動をコントロールする「自己管理能力」を育て、他者と調和して生きる力  (2)④子どものよさや課題を理解し、適切に支援するための理論について概要を説明することができる。  ⑤のうち幼児教育・保育の専門的知識や保育技術ヲに付け、活用することができる。</p> <p>関連する科目 教育原理、教育心理、幼児教育実習Ⅱ</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 はじめに		授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめること。	
第2回 教師の課題		授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめること。	
第3回 目標の分析		授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめること。	
第4回 教育内容と具体化		授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめること。	
第5回 教育環境の管理1 物的環境の整備		授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめること。	
第6回 教育環境の管理2 学校・学級経営		授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめること。	
第7回 学習者の管理1 学習者の特性と個人差		授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめること。	
第8回 学習者の管理2 学習集団の編成		授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめること。	
第9回 教師の課題実践編1 プレゼンテーションスキル		授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめること。	
第10回 教師の課題実践編2 指導計画の作成		授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめること。	
第11回 教師の課題実践編3 指導案の作成		授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめること。	
第12回 教師の課題実践編4 模擬保育1		授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめること。	
第13回 教師の課題実践編5 模擬保育2		授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめること。	
第14回 教師の課題実践編6 模擬授業・保育の評価と指導案の改善		授業で配布する省察用紙にその日の内容をまとめること。	
第15回 教育方法論の授業の振り返り		14枚の省察用紙及びノートをよく整理して試験に備えること。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	60%		
レポート	20%		
小テスト等	%		
成果発表	10%		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>積極的な参加を求める。積極的な受講態度の表れとして教室前方から着席すること。特に教室の最後列には着席しないこと。  教育者を指す者として遅刻や私語がないように心して授業に臨んでほしい。</p>		
教科書	特に指定しない。		
指定図書	なし		
参考図書	適宜紹介する。		
オフィスワー	相談のある者は授業の前後に適宜対応する。	メールアドレス	

授業科目	教職実践演習（中・高）【中等教職】		開講時期	後期
担当教員	出雲 俊江・竹熊 真波		単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業の目的は、教職課程での教科に関する科目及び教職に関する科目の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認することにある。</p> <p>具体的には、まず、履修カルテや教育実習日誌等を基に、教育実習を含むこれまでの学修の到達度や課題を自己分析する。次いで、それぞれのテーマについて模擬授業やグループ討議等を通じて学びの検証を行う。さらに、現職教員を招聘しての講義、近隣の学校への授業参観等によって教師の仕事を再確認する。これらの活動を通して、約3年半の教職課程における学びを振り返り、自身の教師としての適性や教師として実践の場に出るにあたっての課題を考察する。</p> <p>なお、実施に当たっては、担当教員以外の教員、太宰府市教育委員会、太宰府市内の中学・高校、併設中学・高校等の連携と協力を仰ぐことにしている。</p>			
到達目標	<p>①教師としての使命感や責任感、教育的愛情を獲得している。</p> <p>②教師として最低限必要な社会性や対人関係能力を獲得している。</p> <p>③教師として最小限必要な生徒理解の知識や能力を獲得している。</p> <p>④学級経営に最小限必要な知識やコミュニケーション能力を獲得している。</p> <p>⑤各教科に関する専門的知識および指導能力の基礎を獲得している。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本授業は、4年前期に「中等教育実習指導」を修得済みで、「教育実習Ⅰ」または「教育実習Ⅱ」として教育実習を実施したものが、教職課程の総括として受講するものである。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション：教職実践演習の進め方について（合同授業）	ボランティア体験レポートの提出と発表、模擬授業者の確定		
第2回	履修カルテに基づく大学での学修の振り返りと使命感・責任感等の検証（合同授業）	「学びの軌跡の自己分析」シートの作成		
第3回	日誌、実習レポート、指導案、実習校からの評価等に基づく教育実習の振り返り（クラス別授業）	「学びの軌跡の自己分析」シートの完成		
第4回	教科内容等についてのグループ討議及びロールプレイ（クラス別授業）	指導案や板書計画の作成などの再吟味		
第5回	模擬授業①：よりよい英語の授業のために（合同授業）	指導案や板書計画の作成など模擬授業の準備と反省		
第6回	模擬授業②：よりよい社会・福祉の授業のために（合同授業）	指導案や板書計画の作成など模擬授業の準備と反省		
第7回	模擬授業③：よりよい国語の授業のために（合同授業）	指導案や板書計画の作成など模擬授業の準備と反省		
第8回	学校の授業参観 ①中学校（合同授業）	授業参観の感想レポートと礼状の作成		
第9回	学校の授業参観 ②高等学校（合同授業）	授業参観の感想レポートと礼状の作成		
第10回	社会性や対人関係能力についてのグループ討議及びロールプレイ（クラス別授業）	場面指導についてのメタディスカッション		
第11回	生徒理解や学級経営についてのグループ討議及びロールプレイ（クラス別授業）	特別支援教育との関係についての再検討		
第12回	現職教師による「教師という仕事」についての講義（合同授業）	講義についての感想レポートの作成		
第13回	教科別の課題研究①内容構成を中心に（国語、英語、社会・福祉）（クラス別授業）	自身の授業設定についての内省		
第14回	教科別の課題研究②発展的内容を中心に（国語、英語、社会・福祉）（クラス別授業）	自身の授業設定についての内省		
第15回	各自の現状評価と課題の再確認（合同授業）	総括レポートの完成（A4・2枚以上）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%：ボランティアレポート、学びの軌跡の自己分析、授業参観レポート、総括レポート等の提出状況			
小テスト等	なし			
成果発表	25%：「教育実習報告書」作成、模擬授業、グループ発表など			
受講態度他	25%：授業や授業外活動（学校参観や学校ボランティア）への取り組み状況など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業が始まる前に、学校ボランティアを行い、レポート（A4・1枚）を作成しておいてください（後期期間中でも可）。</li> <li>・実習での公欠であっても、欠席する場合は、必ず事前に担当教員（竹熊）に連絡を入れてください。</li> <li>・招へいする先生や訪問する学校の都合により予定が変更になる場合がありますので、留意してください（変更は筑女ネットで知らせます）。</li> <li>・教職課程の最終段階ですので、教師としての資質（責任感やコミュニケーション能力、専門知識等）を総合的に評価します。</li> </ul>			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	<p>中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、中学校学習指導要領解説（国語編、英語編、社会編）、高等学校学習指導要領解説（国語編、英語編、地理・歴史編、公民編、福祉編）、西岡加名恵他著「教職実践演習ワークブック」ミネルヴァ書房</p>			
オフィスアワー	竹熊：水曜2限	メールアドレス		

授業科目	教職実践演習（幼・小）		開講時期	後期
担当教員	稲田 八徳・一木 信治・松本 和寿		単位	2
授業の目的と概要	<p>情報収集の方法の学習や大学教員及び現場教員の講義、あるいは学生同士によるグループ活動、幼稚園・小学校での授業参観、模擬授業を行うことによって、教師としての使命感や責任感、および教師として必要な教科指導力やコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。</p> <p>大学教員及び現職教員の講義、学生同士によるグループ活動、幼稚園・小学校での授業参観などを中心に実施する。また、それらをもつた模擬授業（指導）などを行う。本授業は、卒業後、教壇に立つために、これまでの学びを総括する授業である。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 教師としての使命感や責任感、子ども理解の能力を身につける。</li> <li>2 教師としての自発的で応用力をもった学習能力、問題解決能力を身につける。</li> <li>3 学級経営に必要な知識やコミュニケーション能力を身につける。</li> <li>4 教科指導の専門的知識および指導力を身につける。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	教育実習の成果と課題を確認しておく。		
第2回	教育実習の課題と成果についてのグループ討議	教育実習の課題と成果を確認しておく。		
第3回	小学校教諭の講義（小学校教諭のやりがいについて）	第2回までの内容を基に質問事項等を整理しておく。		
第4回	幼稚園教諭の講義（幼稚園教諭のやりがいについて）	第2回までの内容を基に質問事項等を整理しておく。		
第5回	授業参観（小学校）	参観後に気付きや感想等をまとめる。		
第6回	授業参観（小学校） ※第5回と連続して実施	参観後に気付きや感想等をまとめる。		
第7回	小学校教諭として目指す姿についての討議	自らが目指す小学校教師像を明らかにしておく。		
第8回	授業参観（幼稚園）	参観後に気付きや感想等をまとめる。		
第9回	授業参観（幼稚園） ※第8回と連続して実施	参観後に気付きや感想等をまとめる。		
第10回	幼稚園教諭として目指す姿についての討議	自らが目指す幼稚園教諭像を明らかにしておく。		
第11回	模擬指導（朝の会・帰りの会での指導）	第10回で与えるテーマに則し指導内容を考えておく。		
第12回	模擬指導（教科指導の導入場面）	第11回で与えるテーマに則し指導内容を考えておく。		
第13回	ロールプレイ（問題行動への対応）	第12回で与えるテーマに則し子どもへの対応を考えておく。		
第14回	ロールプレイ（保護者対応）	第13回で与えるテーマに則し保護者への対応を考えておく。		
第15回	まとめ	授業後にこれまでの学修内容を総括する。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない。			
レポート	60％			
小テスト等	実施しない。			
成果発表	30％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教師になる、教師を目指すという自覚をもち積極的に学修すること。			
教科書	特に指定しない。			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	授業の際に別途指示する。			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	教職入門		開講時期	後期
担当教員	薄 千里		単 位	2
授業の目的と概要	<p>教職の意義及び教員の役割、教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）に関する知識の修得を通して、教職に就いての理解を深めること、及び教員の職務の事例や子どもと教育の現状について検討することを通して、自らの教員としての適性や能力、進路について考察する。</p> <p>授業においては、講義を通して教職についての知識を修得し、グループ討議等を通して、教員の職務の事例や子どもと教育の現状の検討、及び目指す教員像に向けての目標設定など、主体的に授業の目標に到達できるようにする。</p>			
到達目標	<p>1 教職の意義、及び教員の役割について理解し、説明することができる。</p> <p>2 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等）について理解し、説明することができる。</p> <p>3 教員の職務の事例、子どもと教育の現状についてグループ討議等を通して検討し、自らの教員としての適性や能力について考察し記述することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に初等教育コースのDP2「初等教育に関する専門知識や子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況についての知識を身に付けることができる」、幼児保育コースのDP2「子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況に関する知識を身に付けることができる」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	学校教育について（教育基本法、学校教育法、学校教育施行規則、学習指導要領、幼稚園教育要領等）、教職を目指す私	法規を基に教育の目的等についてノートにまとめる。		
第2回	教員観の変遷と求められる教員像	求められる教員像、自らの教員観を確認する。（復習）		
第3回	教育の動向と教育施策	教育の動向と教育施策について確認する。（復習）		
第4回	教職の意義と教員の役割	教職の意義、教員の役割についてノートにまとめる。		
第5回	子どもと教育の現状	子どもと教育の現状について振り返り、自らの考えをもつ。		
第6回	教員の職務内容 1 研修、服務及び身分保障等	教員の職務内容（研修等）についてノートにまとめる。		
第7回	教員の職務内容 2 教育課程の編成と指導計画の作成	教育課程と指導計画についてノートにまとめる。		
第8回	教員の職務内容 3 学習指導・保育（学級経営と指導力、授業・保育の成立）	学級経営、指導力について確認する。（復習）		
第9回	教員の職務内容 4 学習指導・保育（魅力ある授業・保育）	自分が受けてきた学習指導・保育について想起し考察する。		
第10回	教員の職務内容 5 生徒指導・生活指導（意義と課題）	生徒指導の意義と課題について確認する。（復習）		
第11回	教員の職務内容 6 生徒指導・生活指導の実際	自分が受けてきた生徒指導・生活指導について想起し考察する。		
第12回	学校事故と危機管理	学校事故と危機管理について確認する。（復習）		
第13回	学校・家庭・地域社会の連携と信頼性の確立	学校・家庭・地域社会の連携について確認する。（復習）		
第14回	学校教育目標の具現化と学校組織、学校評価	学校教育目標の具現化、学校組織、学校評価について確認する。		
第15回	目指す教員像と目標設定	行動目標の達成に向けて努力を継続する。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％			
レポート	30％			
小テスト等	0％			
成果発表	20％			
受講態度他	20％（グループ・全体討議の参加状況を含む。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	将来教職に就くことを前提に、それにふさわしい態度で受講すること。 配布資料をファイルしていくこと。			
教科書	「小学校学習指導要領解説 総則編」文部科学省 「幼稚園教育要領解説」文部科学省、「保育所保育指針 解説書」厚生労働省編			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日午後	メールアドレス		

授業科目	教職入門【中等教職】		開講時期	後期
担当教員	竹熊 真波		単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業の目的は、第1に教職の意義や教員の役割、職務内容等に関する知識の修得を通じ、教職についての理解を深めることにある。第2に、教師の仕事を多角的に考察する過程を通じて、自らの教職への意欲、適性、最終的な進路等を熟考する機会を得ることである。</p> <p>従って、授業では、講義を通じて必要な知識を身につけるだけでなく、教育現場に関する映像の視像やグループディスカッション、調べ学習のアクティブ・ラーニングを行う。これらを通じて、目標とする教師像を設定するとともに自身の教員としての適格性を考える。その上で、これから卒業までにすべき学習・行動目標を具体的に設定していく。</p>			
到達目標	<p>①職業としての教職のやりがいとその難しさ、厳しさについて整理できる。</p> <p>②教員になるための道筋を理解し、自身のキャリアプランを設計できる</p> <p>③教員の職務内容について、具体的かつ批判的に説明できる。</p> <p>④教職に関する様々な事例を通して、自らの教師としての適性や能力について考えることができる。</p> <p>⑤受講者と適宜グループを組み、意見交換を行い、一定の結論を得ることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教職の意義等に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職の意義及び教員の役割</li> <li>・教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。）</li> <li>・進路選択に資する各種の機会の提供等</li> </ul> <p>「教育原理」や「教育心理」など2年時以降の教職に関する専門科目の基礎となる科目です。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション（自己紹介等）	講義ノートの穴埋め（以降毎回）		
第2回	理想の教師像とは（グループ討議）	教師像の変遷について整理し、理想の教師像を再考する		
第3回	教員への道1 免許状の取得	自身が希望する教師になるために必要な単位等を整理する		
第4回	教員への道2 採用試験等	希望する県のHPにアクセスし、採用状況を確認する		
第5回	教員の職務内容 1 学習指導（1）カリキュラム	自身が関係する学習指導要領を確認する		
第6回	教員の職務内容 1 学習指導（2）教育方法	教え方が上手であった先生について、その理由を考察する		
第7回	教員の職務内容 1 学習指導（3）評価	評価する側の注意点を自身の経験をもとに考察する		
第8回	教員の職務内容 2 生徒指導	自身の経験をもとに、生徒指導のあり方を考察する		
第9回	グループ討論；生徒指導のあり方について	体罰規定など討論会において提示しうる資料を集めておく		
第10回	教員の職務内容 3 学級経営（1）学級担任	学級崩壊や学級経営についての具体的な事例を検証する		
第11回	教員の職務内容 3 学級経営（2）新たな課題	講義で触れた以外の課題を新聞等の報道から探る		
第12回	学校の組織と教師	教師のメンタルヘルスについての文献に触れ、考察する		
第13回	教員の研修、服務及び身分保障	免許証更新制について文部科学省のHPを確認する		
第14回	教員の評価と資質向上	理想の教師像について再考する		
第15回	まとめ：自己の教師としての適性と進路選択の再考	教職以外の職業についても調べ教職と比較する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 授業で得た知見をもとに具体的な事例を説明し、自説を展開できる。			
レポート	25％ 与えられた課題に取り組み、自らの見解をまとめ提出する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	25％ 受講態度の適切性についても成績評価に加える。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>教職履修生には、将来的に教職に就くことを前提に、それにふさわしい受講態度を求める。</p> <p>学校の現状を理解するためにも学生サポーターなどの学校ボランティア活動に積極的に関わることを奨励する。</p>			
教科書	自作の講義ノートを使用する。			
指定図書	なし			
参考図書	講義ノートにおいて参考文献一覧を示す。			
オフィスアワー	月曜 11時～14時	メールアドレス		

授業科目	器楽 I		開講時期	後期
担当教員	北原 幸子・今釜 亮・大和 聡子・大島 陽子・藤田 道久・吉賀 貴子・篠原 敏男		単位	1
授業の目的と概要	<p>小学校教諭や保育者になるために必要とされる、ピアノ伴奏に関して、基礎的な知識と技能および応用力をつけることを目的とする。ピアノを楽しく弾くこと、右手（メロディー）に対して、左手（伴奏）を付ける「伴奏付け」の能力、ピアノの弾き歌い、キイを子どもが歌いやすいように調子をあわせる「移調奏」など、保育の場面や小学校音楽の授業で役に立つ演奏能力を育てる授業を行う。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノを楽しく弾くことができる。</li> <li>・左手の伴奏など、伴奏付けについてピアノ演奏の基礎的知識と技術を身につける。</li> <li>・弾き歌い、コード伴奏、移調奏など、基礎をふまえて、実践で役に立つ演奏能力を培う。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本授業は、人間科学部初等教育コースDP4「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的スキルを身に付け、活用することができる。」、幼児保育コースDP4「幼児教育・保育の専門的知識や保育技能、音楽や図画工作、体育などの基礎的スキルを身に付け、活用することができる。」の達成に関わる科目です。 ピアノ伴奏に合わせて歌う弾き歌いのスキルを身に付けることを目指します。小学校や幼稚園での音楽の実践的指導力に結びつく大切な科目です。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	コードネーム、和音・カデンツの基礎知識	別途指示する		
第2回	コードネーム、和音・カデンツの基礎練習	随時、予習・復習すること		
第3回	左手和音と右手メロディ（片手伴奏）の練習	随時、予習・復習すること		
第4回	左手ベースと右手和音（両手伴奏）の練習	随時、予習・復習すること		
第5回	各調のカデンツ	随時、予習・復習すること		
第6回	伴奏付けの基礎知識①	随時、予習・復習すること		
第7回	伴奏付けの基礎知識②	随時、予習・復習すること		
第8回	実用的な伴奏のための基礎練習①	随時、予習・復習すること		
第9回	実用的な伴奏のための基礎練習②	随時、予習・復習すること		
第10回	弾き歌いと移調奏の基礎練習①	随時、予習・復習すること		
第11回	弾き歌いと移調奏の基礎練習②	随時、予習・復習すること		
第12回	前奏の付け方、伴奏リズムの付け方①	随時、予習・復習すること		
第13回	前奏の付け方、伴奏リズムの付け方②	随時、予習・復習すること		
第14回	発展的な伴奏の練習	随時、予習・復習すること		
第15回	まとめ	別途指示する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	原則として一定ライン以下の学生を対象とし、上級レベルの学生は履修を免除することとする。			
教科書	こどものうた200（チャイルド社）※幼稚園教諭を目指す学生対象、続こどものうた200（チャイルド社）※全学生対象 初等科音楽教育法（音楽之友社）※小学校教諭を目指す学生対象、プリント配布			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業の際に指示する			
オフィスアワー	月曜日の午後（北原） 授業前後、火曜水曜2限～昼休み（今釜）	メールアドレス		

授業科目	器楽応用 I		開講時期	前期
担当教員	今釜 亮・大和 聡子・篠原 敏男・大島 陽子・井上 智子・藤田 道久		単位	1
授業の目的と概要	<p>小学校教諭や保育者になるために必要とされる、ピアノ伴奏に関して、基礎的な知識と技能および応用力をつけることを目的とする。ピアノを楽しく弾くこと、右手（メロディー）に対して、左手（伴奏）を付ける「伴奏付け」の能力、ピアノの弾き歌い、キイを子どもが歌いやすいように調子をあわせる「移調奏」など、保育の場面や小学校音楽の授業で役に立つ演奏能力を育てる授業を行う。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノを楽しく弾くことができる。</li> <li>・左手の伴奏など、伴奏付けについてピアノ演奏の基礎的知識と技術を身につける。</li> <li>・弾き歌い、コード伴奏、移調奏など、基礎をふまえて、実践で役に立つ演奏能力を培う。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本授業は、人間科学部初等教育コースDP4「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的スキルを身に付け、活用することができる。」、幼児保育コースDP4「幼児教育・保育の専門的知識や保育技能、音楽や図画工作、体育などの基礎的スキルを身に付け、活用することができる。」の達成に関わる科目です。 ピアノ伴奏に合わせて歌う弾き歌いのスキルを身に付けることを目指します。小学校や幼稚園での音楽の実践的指導力に結びつく大切な科目です。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	コードネーム、和音・カデンツの基礎知識	別途指示する		
第2回	コードネーム、和音・カデンツの基礎練習	随時、予習・復習すること		
第3回	左手和音と右手メロディ（片手伴奏）の練習	随時、予習・復習すること		
第4回	左手ベースと右手和音（両手伴奏）の練習	随時、予習・復習すること		
第5回	各調のカデンツ	随時、予習・復習すること		
第6回	伴奏付けの基礎知識①	随時、予習・復習すること		
第7回	伴奏付けの基礎知識②	随時、予習・復習すること		
第8回	実用的な伴奏のための基礎練習①	随時、予習・復習すること		
第9回	実用的な伴奏のための基礎練習②	随時、予習・復習すること		
第10回	弾き歌いと移調奏の基礎練習①	随時、予習・復習すること		
第11回	弾き歌いと移調奏の基礎練習②	随時、予習・復習すること		
第12回	前奏の付け方、伴奏リズムの付け方①	随時、予習・復習すること		
第13回	前奏の付け方、伴奏リズムの付け方②	随時、予習・復習すること		
第14回	発展的な伴奏の練習	随時、予習・復習すること		
第15回	まとめ	別途指示する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	原則として一定ライン以下の学生を対象とし、上級レベルの学生は履修を免除することとする。			
教科書	こどものうた200（チャイルド社）※幼稚園教諭や保育士を目指す学生対象、続こどものうた200（チャイルド社）※全学生対象 初等科音楽教育法（音楽之友社）※小学校教諭を目指す学生対象、プリント配布			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業の際に指示する			
オフィスアワー	授業前後、火曜水曜2限～昼休み	メールアドレス		



授業科目	器楽応用Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	北原 幸子・今釜 亮・大和 聡子・篠原 敏男・大島 陽子		単位	1
授業の目的と概要	器楽応用Ⅰでの学習をふまえて上で、小学校教諭や保育者になるために必要とされる、ピアノ伴奏に関して、基礎的な知識と技能およびさらなる応用力をつけることを目的とする。ピアノを楽しく弾くこと、右手（メロディー）に対して、左手（伴奏）を付ける「伴奏付け」の能力、ピアノの弾き歌い、キイを子どもが歌いやすいように調子をあわせる「移調奏」など、保育の場面や小学校で役に立つ演奏能力を育てることを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ピアノを楽しく弾くことができる。</li> <li>・ 左手の伴奏など、伴奏付けについてピアノ演奏の基礎的知識と技能を身につける。</li> <li>・ 弾き語り、移調奏など、基礎をふまえて、実践で役に立つ演奏能力を養う。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	1年次「器楽基礎」、2年次「音楽演習」、3年前期「器楽応用Ⅰ」を受けていると理解が深まります。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	左手和音と右手メロディ（片手伴奏）の基礎練習	規定曲を進める		
第2回	左手和音と右手メロディ（片手伴奏）の応用練習	規定曲を進める		
第3回	左手ベースと右手和音（両手伴奏）の基礎練習	規定曲を進める		
第4回	左手ベースと右手和音（両手伴奏）の応用練習	規定曲を進める		
第5回	伴奏付けの基礎知識①	予習復習をする		
第6回	伴奏付けの基礎知識②	予習復習をする		
第7回	実用的な伴奏のための基礎練習①	規定曲を進める		
第8回	実用的な伴奏のための基礎練習②	規定曲を進める		
第9回	実用的な伴奏のための基礎練習③	規定曲を進める		
第10回	弾き歌いと移調奏の基礎練習①	予習復習をする		
第11回	弾き歌いと移調奏の基礎練習②	予習復習をする		
第12回	伴奏の応用練習①	予習復習をする		
第13回	伴奏の応用練習②	予習復習をする		
第14回	伴奏の応用練習③	予習復習をする		
第15回	まとめ	試験曲の練習をする。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	器楽応用Ⅰと同様、原則として一定ライン以下の学生を対象とし、上級レベルの学生は履修を免除することとする。			
教科書	初等教育コース：『こどものうた200』、『続こどものうた200』、『初等科音楽教育法』、プリント配布 幼児保育コース：『こどものうた200』、『続こどものうた200』、プリント配布			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業の際に指示する			
オフィスアワー	火・水の昼休み、授業前後	メールアドレス		

授業科目	基礎専門ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	花野 裕康・野中 亮・赤枝 香奈子		単位	2
授業の目的と概要	基礎専門ゼミナールIでは、社会学系教員がオムニバス形式で各4回授業を行い、3年次開講の専門ゼミナールへの道筋をつける。初回と最終回は3教員が揃ってそれぞれ授業の趣旨と総括とを行うが、それ以外の回は3教員が各自専門ゼミおよび卒業ゼミにて実施する「各教員の得意分野」を紹介・解説する形式となる。中には屋外でのフィールドワークを実施する回もあり、その内容は多彩である（野外活動に関し健康状態等に不安がある場合は応相談）。なお中間部にゲストを招く回も設ける予定である。受講者はこの授業を通じて各教員の研究内容を把握する事が目的となる。その上で、自分が（基礎専門ゼミナールIIの経営学系3教員と併せて比較検討することで）どの教員の専門ゼミおよび卒業ゼミへ所属を希望するかを判断することが最終目的となる。なお本授業は受講者を3グループに分けて同時進行で行われるので、野中・赤枝・花野の担当順序はグループによって異なる。			
到達目標	①社会学系3教員それぞれの研究内容をおおまかに理解し、自分の言葉で説明出来る。 ②1年次履修した社会学系授業を土台として、社会学という学問が現在どのような研究を行っているか理解し説明出来る。 ③自身の進路や興味関心に応じて、3教員のうちどの教員の専門ゼミナールへ所属を希望するか明確に判断できる（最終的な専門ゼミナールの希望は、後期開講の基礎専門ゼミナールIIとも考え併せた上で決めることができる）。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、現代社会学科ビジネス社会コースのDP5である「現代社会の諸事象の中から問題を発見し、収集した情報を主体的に分析し、協働作業の中で議論し、その成果を発信できる」の達成に関わる科目です。達成目標の達成により、自身の関心に応じた「問題の発見と分析」が促され、次年度以降のゼミに繋がることで本DP5が達成されます。2年次カリキュラム・ポイントの「基幹科目から発展科目へと学びの幅を広げ、ビジネス社会の多様性を知る学修」に該当します。また、1年次に履修した「基礎ゼミナール」の発展版として、現代社会学部共通科目のDP2である「人に学び、人とのつながりの中で、人生を豊かにつくりあげる」の基礎の上に立つ性格を持ちます。その他、ビジネス社会コースで1年次に必修となっている科目はすべて関連性があると考えてください。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション (3教員参加)	オリエンテーションを受けて3教員の研究内容を調べる		
第2回	野中担当① フィールドワークとは何か：太宰府門前町を事例に	プリントで予習。次回までに調査対象を考えてくる		
第3回	野中担当② 調査項目の策定とデータの取り方：ノート・写真・録音	設定した課題に対する適切な調査方法の選択・考案		
第4回	野中担当③ フィールドワークの実施：門前町での調査体験	タイムスケジュールの確認と収集したデータの整理		
第5回	野中担当④ フィールドワークのまとめ：「報告書」の作成	データ整理と報告書の作成		
第6回	赤枝担当① 今まで行ってきた研究について：ジェンダー／セクシュアリティ研究	レポートに備えて自宅でこの回の内容と見解をまとめる		
第7回	赤枝担当② 資料を読んでみる①：戦前編	レポートに備えて自宅でこの回の内容と見解をまとめる		
第8回	赤枝担当③ 資料を読んでみる②：戦後編	レポートに備えて自宅でこの回の内容と見解をまとめる		
第9回	赤枝担当④ 資料からわからないことをどうやって調べるか	赤枝担当の4回分の授業内容に関してレポートを作成		
第10回	ゲストスピーカー（未定：3教員参加）	ゲストスピーカーの授業を受けてのレポートを作成		
第11回	花野担当① 人のふるまいとコミュニケーション：理論社会学へのいざない	レポートに備えて自宅でこの回の内容と見解をまとめる		
第12回	花野担当② 社会問題の社会学：社会問題論へのいざない	レポートに備えて自宅でこの回の内容と見解をまとめる		
第13回	花野担当③ 音楽と社会：音楽社会学へのいざない	レポートに備えて自宅でこの回の内容と見解をまとめる		
第14回	花野担当④ ネット「社会」：メディア論へのいざない	花野担当の4回分の授業内容に関してレポートを作成		
第15回	総括 (3教員参加)	全授業を総括した上で自身の関心を提出		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100% (全4回：各教員のゼミ終了時およびゲストの回終了時にそれぞれ提出)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	欠席や授業に積極的に参加しない等、受講態度が良くない受講者は評価に影響する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること。これまでの自らの経験と知識とを総動員しながら考えつつ受講すること。授業に積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	野中：月曜4限 赤枝：木曜2限 花野：授業の前後（長引く場合はその時に日時を決めましょう）	メールアドレス		

授業科目	基礎専門ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	栗山(俊)・須藤(遙)・吉野(嘉)・岡本(文)・一木(順)・荒巻(龍)・小山(昌)・橋本(嘉)・一ノ瀬(元)		単位	2
授業の目的と概要	この授業では、1年次の「基礎ゼミナール」の内容を踏まえつつ、そこで学んだ様々な学習上の手法をメディアコース専任教員の専門領域で活用することを目的とする。各教員が3回ずつ講義を担当し、それぞれの専門領域の概要、調査・研究方法の解説などのほか、授業内外で様々な活動を行うことで自律的な学習態度を身につけることを目的とする。 この講義は3年次の「専門ゼミ」、4年次の「卒業ゼミ」の前段階に当たるものであり、関連する分野を幅広く学びつつ自らの希望する研究分野を明確にすることができることが望ましい。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 共通する基礎的な内容と個別の調査・研究方法や実践方法の両方を大まかに理解することができる。</li> <li>2. 自分の目指す研究や学修の方向性を見定め、今後の研究等のイメージを持つことができる。</li> <li>3. 基礎ゼミナールで学んだ様々な学習手法を活用することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は現代社会学科メディアコースのDP⑤「現代社会の諸事象の中から問題を発見し、収集した情報を主体的に分析し、協働作業の中で議論し、その成果を発信できる」の達成のための科目です。この科目を受講することで3年次の「専門ゼミナールI、II」4年次の「卒業ゼミナールI、II」への準備を行うことができます。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション：授業の概要・趣旨、日程・授業の進め方など		復習		
第2回 映像制作(1) 映像制作の手順、映像制作の準備		(予習)「映像制作の手順」を読む (復習)企画(書)を各自作成		
第3回 映像制作(2) 企画(グループワーク)から絵コンテまで		(予習)「絵コンテの描き方」を読む (復習)絵コンテを各自作成する		
第4回 映像制作(3) 絵コンテ(グループワーク)から撮影準備まで		(予習)ロケハン実施 (復習)グループで絵コンテを作成する		
第5回 情報システムについて 情報社会の機能を担うコンピュータについて		「情報システム」とは何かについて調べる		
第6回 コンピュータプログラム アルゴリズムについて		アルゴリズムとは何かを調べる		
第7回 コンピュータプログラミング プログラミングの実際		アルゴリズムについて		
第8回 映像メディアと情報編集-ニュース、ドキュメンタリーの手法とは		授業資料を読むこと		
第9回 映像メディアと情報編集-わかりやすく伝える技術とは		ニュース記事の作成		
第10回 映像メディアと情報編集-“情報がありすぎる社会”での情報活用法		ニュース記事の修正		
第11回 映像メディア資料・フィールドワーク・ボランティアを通して学ぶという方法		映像メディア・フィールドワーク・ボランティアに関する経験の振り返り		
第12回 映像メディア資料・フィールドワーク・ボランティアの実際		事前に配布した資料を読む		
第13回 課題の抽出と課題解決のための学び、そして実践		事前に配布した資料を読む		
第14回 戦争の不在-『スターウォーズ』における戦争表象		『スターウォーズIV』の鑑賞レポートを作成すること		
第15回 まとめ		授業内で指示します		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	90% 各担当教員が課するレポート課題など			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	10% 受講態度など(遅刻や欠席が多い場合には減点します。)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修前に必ず「基礎ゼミナール」で行われた内容を復習しておいて下さい。授業では「筑女ネット」も活用しながら行われることがあります。詳細な時間割は初回の授業で示します。			
教科書	なし(プリントならびに「筑女ネット」のオンライン教材など)			
指定図書	なし			
参考図書	各担当教員が授業の時に紹介します。(「基礎ゼミナール」テキスト)			
オフィスワー	各担当教員のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	基礎専門ゼミナールⅠ		開講時期	前期
担当教員	村上 佳世・佐々木 浩・速水 良晃		単 位	2
授業の目的と概要	本演習は、3年次「専門ゼミナールⅠ」、「専門ゼミナールⅡ」、「4年次「卒業ゼミナールⅠ」、「卒業ゼミナールⅡ」の導入と位置づけられた科目です。環境共生コースのいろいろな分野について複数教員がオムニバス形式で、3、4年次に開講する各教員のゼミナールで取り上げる内容やテーマを紹介します。「基礎専門ゼミナールⅡ」と合わせて履修し、環境共生社会コースのいろいろな分野の学びに触れ、3年次の「専門ゼミナール」へと繋げることを目的とします。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.各テーマについて詳しく説明できる。</li> <li>2.自らの興味関心と各テーマとを結びつけることができる。</li> <li>3.目的意識を持って研究テーマを選択できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、環境共生社会コースのDP④「現代社会の諸事象の中から問題を発見し、収集した情報を主体的に分析し、協働作業の中で議論し、その成果を発信できる」ようになるための科目です。「基礎専門ゼミナールⅡ」と合わせて履修し、3年次の「専門ゼミナールⅡ」に繋がります。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		情報整理	
第2回	ゼミナール村上佳世①		情報整理	
第3回	ゼミナール村上佳世②		情報整理	
第4回	ゼミナール村上佳世③		情報整理	
第5回	ゼミナール村上佳世④		情報整理	
第6回	ゼミナール佐々木浩①		情報整理	
第7回	ゼミナール佐々木浩②		情報整理	
第8回	ゼミナール佐々木浩③		情報整理	
第9回	ゼミナール佐々木浩④		情報整理	
第10回	ゼミナール速水良晃①		情報整理	
第11回	ゼミナール速水良晃②		情報整理	
第12回	ゼミナール速水良晃③		情報整理	
第13回	ゼミナール速水良晃④		情報整理	
第14回	フィールドワーク体験		情報整理	
第15回	まとめ（プレゼンテーション）		発表準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	50％			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	修科目なので全員受講し、遅刻・欠席をしないよう心がけてください。授業外学習が多く組まれていますので、しっかりと取り組んでください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	各担当者から授業の中で適宜指示がある場合があります。			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授業科目	基礎専門ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	古田 龍輔・藤原 隆信・大橋 健治		単位	2
授業の目的と概要	この科目は、3年次から始まる専門ゼミナールのための準備として開設されています。ビジネス社会コースに所属する3名のビジネス分野の教員が4回を分担し、それぞれの教育方針や教育スタイルを受講生に知ってもらうのが目的です。授業計画では、藤原→大橋→古田の順番になっていますが、実際には3クラス編成なので、最初に古田が担当するクラスもあります。どのクラスに属しても、3名の教員がそれぞれ4回を各自の授業計画にしたがって教えることとなります。			
到達目標	<p>(1) ソーシャルビジネスというものを理解でき、自分たちなりにソーシャルビジネスを構想できる。</p> <p>(2) 企業における社員の働き方がイメージできる。</p> <p>(3) 学生にも馴染みがある企業を取り上げた20頁ほどの雑誌記事でも読み通し、学生同士の議論を通じて、事例の会社の現状と将来像について自分なりの見方ができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、ビジネス社会コースのDP2（現代社会を生きる自己を実現するための幅広い教養と特定分野の知識・技能を獲得している）のうち、とくに「現代社会の諸事象の中から問題を発見し、収集した情報を主体的に分析し、協働作業の中で議論し、その成果を発信できる」に該当します。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス：3名の教員がそれぞれ概要を説明します。	とくにありません。		
第2回	ソーシャルビジネス①（担当：藤原） ——「ソーシャルビジネス」とは何か？	「ソーシャルビジネス」とは何ですか？ @各自で調べてきて下さい。		
第3回	ソーシャルビジネス②（担当：藤原） ——事例紹介とディスカッション（1）：社会問題から「ニーズ」を読む	あなたの関心のある「社会問題」は何ですか？その実態を調べてきて下さい。		
第4回	ソーシャルビジネス③（担当：藤原） ——事例紹介とディスカッション（2）：「仕組み」を考える	あなたの関心のある「社会問題」を解決する方法を考えてきて下さい。		
第5回	ソーシャルビジネス④（担当：藤原） ——成果発表：「あなたの考えるソーシャルビジネス！」	チームメンバーで議論し、発表の準備をしてきて下さい。		
第6回	企業活動と社員の役割①（担当：大橋） ——ケースメソッド「ある日の午後の喫茶店」	A4一枚のケースを分析して、どのような手を打つか考えて下さい。		
第7回	企業活動と社員の役割②（担当：大橋） ——ケースメソッド「ある会社の事業計画」	A4一枚のケースを分析して、どのような手を打つか考えて下さい。		
第8回	企業活動と社員の役割③（担当：大橋） ——正規雇用と非正規雇用の社員の役割を考えよう	正規雇用と非正規雇用の社員の得失を、徹底的に調べてきて下さい。		
第9回	企業活動と社員の役割④（担当：大橋） ——目標統合と組織課題への積極的参加	企業がめざしている経営のあり方（A4一枚）に質問を洗い出してきて下さい。		
第10回	ゲストスピーカー	ゲストスピーカーにかんする資料を読み、感想を書いて下さい。		
第11回	簡単な事例研究①（担当：古田） ——銀だこは世界で通用するか？	5頁ほどの雑誌記事を読み、3つの設問に対して解答を書いて下さい。		
第12回	簡単な事例研究②（担当：古田） ——すらいらーくは生き残れるのか？	5頁ほどの雑誌記事を読み、3つの設問に対して解答を書いて下さい。		
第13回	本格的な事例研究①（担当：古田） ——LEGOはなぜ強いのか？	20頁ほどの雑誌記事を読み、3つの設問に対して解答を書いて下さい。		
第14回	本格的な事例研究②（担当：古田） ——ヨドバシはアマゾンに勝てるのか？	20頁ほどの雑誌記事を読み、3つの設問に対して解答を書いて下さい。		
第15回	総括	全体的な学習内容を詳述して下さい。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	33%			
小テスト等	なし			
成果発表	33%			
受講態度他	33%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ゼミナールは通常の講義科目よりも、受講生の自発的かつ主体的な関わりが求められます。またゼミナールでは、通常科目よりも事前学習が重要になってきます。授業計画で指示した授業外学修の成果は、必ず提出してもらいますので、提出がない場合は欠席と見なされます。			
教科書	とくにありません。			
指定図書	必要に応じて指示します。			
参考図書	必要に応じて指示します。			
オフィスワーク	担当教員の他科目のシラバス参照	メールアドレス		

授業科目	基礎専門ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	荒巻(龍)・一木(順)・一ノ瀬(元)・岡本(文)・栗山(俊)・小山(昌)・須藤(遙)・橋本(嘉)・吉野(嘉)		単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は前期の「基礎専門ゼミナールⅠ」に続いて、1年次の「基礎ゼミナール」の内容を踏まえつつ、そこで学んだ様々な学習上の手法をメディアコース専任教員の専門領域で活用してみることを目的とする。各教員が3回ずつ講義を担当し、それぞれの専門領域の概要、調査・研究方法の解説などのほか、授業内外で様々な活動を行うことで自律的な学習態度を身につけることを目的とする。</p> <p>この講義は3年次の「専門ゼミ」、4年次の「卒業ゼミ」の前段階に当たるものであり、関連する分野を幅広く学びつつ自らの希望する研究分野を明確にすることができることが望ましい。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 共通する基礎的な内容と個別の調査・研究方法や実践方法の両方を大まかに理解することができる。</li> <li>2. 自分の目指す研究や学修の方向性を見定め、今後の研究等のイメージを持つことができる。</li> <li>3. 基礎ゼミナールで学んだ様々な学習手法を活用することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は現代社会学科メディアコースのDP⑤「現代社会の諸事象の中から問題を発見し、収集した情報を主体的に分析し、協働作業の中で議論し、その成果を発信できる」の達成のための科目です。この科目を受講することで3年次の「専門ゼミナールⅠ、Ⅱ」4年次の「卒業ゼミナールⅠ、Ⅱ」への準備を行うことができます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	表象されるベトナム戦争	ベトナム戦争についてA41枚程度のリサーチペーパーを作成		
第2回	ベトナム戦争とアメリカ	指定された資料を読んでくること		
第3回	カラーコーディネートの基礎、色彩に関する専門知識について	復習：カラーコーディネート課題、デザイン演習準備		
第4回	デザイン演習①：美的形式原理に基づくカラーコーディネート	デザイン演習課題		
第5回	デザイン演習②：カラーコーディネートの応用	色彩とカラーコーディネートプリント		
第6回	DTP入門?：出版コンテンツ産業と著作権（画像の種類と扱い方を学ぶ）	著作権侵害の事例を調べる、ペイントソフトpixiaの使い方		
第7回	DTP入門?：雑誌の表紙風ページ制作（ネット上での共同作業の進め方も学ぶ）	PCでのメールの送り方のマナー、制作にしたい写真（高画質）の準備		
第8回	データベースを用いたコンテンツ分析（新聞・雑誌記事や部数を調べる）	競合誌比較等のレポート（＝課題）		
第9回	魔法少女アニメのジェンダーを読む－「魔法使いサリー」「ミンキーモモ」「まど☆マジ」	三作品のいずれかについて事前に少しでも視聴しておくこと		
第10回	2つの「ブラックジャック」－手塚治虫「ブラックジャック」／佐藤秀峰「ブラックジャックによろしく」を読む	二作品のいずれも事前に少しでも読んでおくこと		
第11回	「ラブコメ」の恋愛イデオロギーを読む－「うる星やつら」「いちご100%」「アオハライド」	三作品のいずれかについて事前に少しでも視聴しておくこと		
第12回	消費社会とメディア	大衆文化論に関するレポートを作成すること		
第13回	プロパガンダとポピュラー文化	国家とサブカルとの関係に関するレポートを作成すること		
第14回	新自由主義と文化政策	指定資料を読んでくること		
第15回	専門ゼミナールに向けて	各教員の専門領域についての紹介資料を再読すること		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	90% 各担当教員が課するレポート課題など			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	10% 受講態度など(遅刻や欠席が多い場合には減点します。)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修前に必ず「基礎ゼミナール」で行われた内容を復習しておいて下さい。授業では「筑女ネット」も活用しながら行われることがあります。詳細な授業時間割は初回の授業で示します。			
教科書	なし(プリントならびに「筑女ネット」のオンライン教材など)			
指定図書	なし			
参考図書	各担当教員が授業の時に紹介します。(「基礎ゼミナール」テキスト)			
オフィスアワー	各担当教員のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	基礎専門ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	栗木 明裕・上村 真仁・安恒 万記		単 位	2
授業の目的と概要	本演習は、3年次「専門ゼミナールⅠ」、「専門ゼミナールⅡ」、「4年次「卒業ゼミナールⅠ」、「卒業ゼミナールⅡ」の導入と位置づけられた科目です。環境共生コースのいろいろな分野について複数教員がオムニバス形式で、3、4年次に開講する各教員のゼミナールで取り上げる内容やテーマを紹介します。「基礎専門ゼミナールⅠ」と合わせて履修し、環境共生社会コースのいろいろな分野の学びに触れ、3年次の「専門ゼミナール」へと繋げることを目的とします。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.各テーマについて詳しく説明できる。</li> <li>2.自らの興味関心と各テーマとを結びつけることができる。</li> <li>3.目的意識を持って研究テーマを選択できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、環境共生社会コースのDP④「現代社会の諸事象の中から問題を発見し、収集した情報を主体的に分析し、協働作業の中で議論し、その成果を発信できる」ようになるための科目です。「基礎専門ゼミナールⅠ」と合わせて履修し、3年次の「専門ゼミナール」に繋がります。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		情報整理	
第2回	フィールドワーク体験		情報整理	
第3回	ゼミナール安恒万記①		情報整理	
第4回	ゼミナール安恒万記②		情報整理	
第5回	ゼミナール安恒万記③		情報整理	
第6回	ゼミナール安恒万記④		情報整理	
第7回	ゼミナール上村真仁①		情報整理	
第8回	ゼミナール上村真仁②		情報整理	
第9回	ゼミナール上村真仁③		情報整理	
第10回	ゼミナール上村真仁④		情報整理	
第11回	ゼミナール栗木明裕①		情報整理	
第12回	ゼミナール栗木明裕②		情報整理	
第13回	ゼミナール栗木明裕③		情報整理	
第14回	フゼミナール栗木明裕④		情報整理	
第15回	まとめ（プレゼンテーション）		発表準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	50%			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	修科目なので全員受講し、遅刻・欠席をしないよう心がけてください。授業外学習が多く組まれていますので、しっかりと取り組んでください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	各担当者から授業の中で適宜指示がある場合があります。			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授業科目	基礎ゼミナールⅠ（英語学科）		開講時期	前期
担当教員	石井 康仁・緒方 隆文・田口 純・宮原 牧子・小林 久泰・三日月 雅子		単位	2
授業の目的と概要	「基礎ゼミナールⅠ」は、これから大学での学修を始める皆さんに、大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基礎的知識やスキルを学んでもらうための科目です。その中には、自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集することや、レポートやオーラルプレゼンテーションを通して自己表現を行うことなどが含まれます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学を学びの場をして活用することができる。</li> <li>・それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる。</li> <li>・問題解決に必要な情報を集めることができる。</li> <li>・同級生との対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる。</li> <li>・自分の意見をプレゼンやレポートを通して表現することができる。</li> <li>・自分の希望するキャリアの中で、大学生活の意義を発見することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	「基礎ゼミナールⅠ」は共通科目のDP2「人に学び、人とのつながりの中で人生を豊かに作り上げる」ための科目です。この授業で習得した知識や技能は今後の大学生活における基礎知識となります。また後期に開講される「基礎ゼミナールⅡ」はこの授業の上級編です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：大学で「自ら学ぶ」ということについて	年間目標を作る		
第2回	先輩学生による大学オリエンテーション	4年間の履修モデルを作る		
第3回	ライフマネジメント	10年計画表を作る		
第4回	九州国立博物館見学	ネットで博物館・美術館情報を調べる		
第5回	図書館・インターネットの利用法について	読書レポート		
第6回	読書レポート報告（口頭発表）および意見交換/文章の読み方	新聞記事、雑誌 文庫本、新書等 から課題		
第7回	自分の興味・関心に基づきテーマを設定することについて	テーマの決定・資料収集		
第8回	テーマの絞り込み・決定、調査・研究の仕方について	発表資料作成		
第9回	効果的なオーラルプレゼンテーションとは？	発表資料作成		
第10回	発表資料作成	発表準備		
第11回	プレゼンテーション、討論	発表準備		
第12回	プレゼンテーション、討論	発表準備		
第13回	プレゼンテーション、討論	レポート作成の準備		
第14回	レポートの書き方（引用の仕方、参考資料の挙げ方など）	レポート作成の準備		
第15回	レポート作成	レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50％ 学期末レポート			
小テスト等	—			
成果発表	30％ プレゼンテーションの評価			
受講態度他	20％ 授業への参加態度の評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	少人数制のクラスなので、積極的に授業に参加すること。また、レポートを書く際、引用の仕方が適切でないと、盗用・剽窃となるので（最悪の場合単位が取れないなど、評価が悪くなる）、その点は重々注意すること。			
教科書	各担当教員が指定			
指定図書	各担当教員が指定			
参考図書	各担当教員が指定			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照してください。	メールアドレス		



授業科目	基礎ゼミナールⅠ（アジア文化学科）		開講時期	前期
担当教員	妻 海善・田村 史子・小林 知美		単位	2
授業の目的と概要	<p>「基礎ゼミナールⅠ」は、これから大学での学習を始める皆さんに、大学で学ぶことの意義と大学で学んでいくうえで必要な基本的知識やスキルを学んでもらうための科目です。その中には、「自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと」、「自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること」、「レポートやオーラルプレゼンテーションを通して、自己表現を行うこと」が含まれています。</p> <p>具体的には、全体での大学の学びに関する講義、ABクラス別の図書館利用案内・九州国立博物館見学・ガムラン等の体験学習、4グループに分かれての調べ学習・発表を行います。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学を学びの場として活用することができる。</li> <li>2. それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる</li> <li>3. 問題解決に必要な情報を集めることができる</li> <li>4. 同級生との対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる</li> <li>5. 自分の意見をプレゼンやレポートを通して表現することができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>「基礎ゼミナールⅠ」は、共通科目カリキュラムのDP2「人に学び、人とのつながりの中で、人生を豊かに作り上げる」ための科目です。この授業で習得した知識や技能は今後の大学生活における基礎知識となります。</p> <p>また後期に開講される「基礎ゼミナールⅡ」はこの授業の上級編です。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	はじめに ゼミナールの内容紹介 受講生の自己紹介・キャンパスツアー（グループ別）	大学の設備や学びの雰囲気把握すること		
第2回	筑女の森ツアー（合同）	感想レポートの作成		
第3回	大学での学び①キャリアを見据えた学びの意義（合同）	進路支援課の情報を把握する		
第4回	大学での学び②図書館利用のオリエンテーション（合同）	図書館やCJコモンズ、学生自習室等を利用する		
第5回	九州国立博物館見学／ガムラン体験学習（クラス別）	感想レポートの作成		
第6回	ガムラン体験学習／九州国立博物館見学（クラス別）	感想レポートの作成		
第7回	大学での学び③レジュメ・レポートの書き方について（合同）	テーマ設定の検討		
第8回	図書館ガイダンス（合同）	図書館で本を借り、レジュメを作成する		
第9回	学生各自によるテーマのプレゼンテーションと討論（グループ別）	資料の収集と検索、レジュメの作成、プレゼンの準備		
第10回	学生各自によるテーマのプレゼンテーションと討論（グループ別）	資料の収集と検索、レジュメの作成、プレゼンの準備		
第11回	国際交流体験①アジア文化賞紹介	感想レポートの作成・夏休みの宿題の確認		
第12回	アジア学への招待「中国の伝統芸能から見るアジア」鑑賞（於：スクワーヴァティールホール）	感想レポートの作成（A4用紙、800字）		
第13回	学生各自によるテーマのプレゼンテーションと討論（グループ別）	資料の収集と検索、レジュメの作成、プレゼンの準備		
第14回	国際交流体験②留学経験者との座談会	感想レポートの作成		
第15回	まとめ	最終レポートの作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 図書検索票 博物館・ガムランレポート 最終レポート その他			
小テスト等	-			
成果発表	40% 授業中のプレゼンテーション			
受講態度他	欠時数が3分の1を超えるものは、「無資格」とする			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業回数の3分の2以上の出席を要する。			
教科書	なし。但し、各担当教員の指示に従う。			
指定図書	なし。但し、各担当教員の指示に従う。			
参考図書	なし。但し、各担当教員の指示に従う。			
オフィスワー	各担当教員の他のシラバス参照	メールアドレス		

授業科目	基礎ゼミナールⅠ（日本語・日本文学科）		開講時期	前期
担当教員	小野 望・松下 博文・時里 奉明・宇野 智行・高山 百合子・森田 真也		単位	2
授業の目的と概要	<p>「基礎ゼミナールⅠ」は、これから大学での学修を始める皆さんに、大学で学ぶことの意義と、大学で学んでゆく上で必要となる基本的知識やスキルを学んでもらうための科目です。その中には、「周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけること。大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけること。自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること。レポートやオーラルプレゼンテーションを通して、自己表現を行うこと。」などが含まれています。合わせて、日本語・日本文学科では、大学生活のルールを理解し、学ぶための基本的な態度を身につけることや、基礎ゼミナールのクラスの仲間とのコミュニケーションも重視しています。具体的な内容については、各担当教員の指導によります。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学を学びの場として活用することができる。</li> <li>2. 自分の興味や関心のあるテーマを設定することができる。</li> <li>3. 図書館やインターネット等を有効に利用し、問題解決に必要な情報を集めることができる。</li> <li>4. 集めた情報を分類し整理することができる。</li> <li>5. 受講生同士の対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる。</li> <li>6. 自分の意見をプレゼンテーションやレポートを通して表現することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>「基礎ゼミナールⅠ」は共通科目のDP2「人に学び、人とのつながりの中で人生を豊かに作り上げる」ための科目です。この授業で習得した知識や技能は、今後の大学生活における基礎知識となります。また後期に開講される「基礎ゼミナールⅡ」は、この授業の発展科目です。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：これからの学びと自己紹介	授業の目的と内容について理解する		
第2回	大学で自ら学ぶとは？（本学科の学び、講義の受け方、ノートの取り方を含む）	大学の授業の特徴と受講する上での注意点について理解する		
第3回	大学生活について、学内各施設や研究室案内	大学生活の基礎や学内の施設について理解する		
第4回	日本語・日本文学科のカリキュラム	日本語・日本文学科のカリキュラムのポリシーと構造について理解する		
第5回	資料の検索と収集（図書館ガイダンス）	図書館の利用の仕方について理解する		
第6回	興味・関心から問題の発見とテーマ設定について（レポート・プレゼンテーション共通内容を含む）	発表の目的と内容について考える		
第7回	資料の収集（レポート・プレゼンテーション共通内容を含む）	資料の収集を行なう		
第8回	発表の仕方・配布資料の作成（レポート・プレゼンテーション共通内容を含む）	発表方法について理解し発表資料を作成する		
第9回	口頭発表と質疑応答①	発表準備		
第10回	口頭発表と質疑応答②	発表準備		
第11回	外部講師による特別講義	特別講義の内容に関するレポート		
第12回	口頭発表と質疑応答③	発表準備		
第13回	口頭発表と質疑応答④	発表準備		
第14回	レポート（文章）の書き方	口頭発表内容のレポート		
第15回	まとめ。レポートの提出。	授業全体の復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％ レポートおよび提出物。			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ 口頭発表と質疑応答。			
受講態度他	40％ 積極的な授業参加を重視します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず授業に出席すること。欠席・遅刻のないように。成績は口頭発表のほか、授業に対する態度、レポートの内容などを合わせて評価する。具体的な評価は、各担当教員による。課題は、各担当教員より適時指示する。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし（ただし、担当教員が授業中に紹介することがある）。			
オフィスアワー	水曜日昼休み（12:30～13:00）。	メールアドレス		

授業科目	基礎ゼミナールⅠ（社会福祉コース）		開講時期	前期
担当教員	徳永 勇・金 圓景・高木 佳世子		単位	2
授業の目的と概要	<p>本演習は、大学で学ぶことの意義を知り、大学で学ぶために必要な基本的知識や技能を習得する科目である。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること</li> <li>2. 調べてわかったことや自分の意見をとりまとめて、口頭やレポートで発表すること</li> <li>3. 周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけること</li> </ol> <p>以上を目的とする。</p> <p>所属する専攻の専任教員が分担して、学生20名前後のゼミ形式で実践的に学んでいく。学生一人ひとりが、設定したテーマもとづき文献を読みこなし、口頭発表を行い、レポートを書く。発表担当者以外は、発表者に対する質問、意見を言うことで授業に参加しよう。スケジュールは担当教員や学生数によって若干異なる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の興味や関心のあるテーマを設定することができる。</li> <li>2. 図書館やインターネット等を有効に利用し、文献・資料の収集ができる。</li> <li>3. 集めた情報を分類し整理することができる。</li> <li>4. 自分が調べた内容をプレゼンテーションできる。</li> <li>5. 質の高いレポートを書くことができる。</li> <li>6. 学生同士で的確なコミュニケーションをとることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本演習は、次の人間科学部共通科目DP②に準拠する。  「人に学び、人とのつながりの中で人生を豊かにつくりあげる。」  ここで習得する知識や技能は今後の大学生活を支える基礎となる。なお、後期に開講される「基礎ゼミナールⅡ」はこの授業の上級編である。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 自己紹介		自分を表現するためのアイデアを考えておこう。		
第2回 大学での学びの特徴と講義の聞き方・ノートの取り方		テキスト pp. 2-21 予習および復習		
第3回 本の読み方とレポートの書き方		テキスト pp. 22-80 予習および復習		
第4回 文献の検索・収集の方法——大学図書館利用法、とくにPCを利用した情報収集の方法		テキスト pp. 126-133 予習および復習		
第5回 発表テーマの設定および発表資料の作成方法、発表の仕方、聞き方		テキスト pp. 82-101 予習および復習 発表テーマの設定		
第6回 発表と討論		各回の発表担当者は発表要旨（レジюме）を準備		
第7回 発表と討論		各回の発表担当者は発表要旨（レジюме）を準備		
第8回 発表と討論		各回の発表担当者は発表要旨（レジюме）を準備		
第9回 発表と討論		各回の発表担当者は発表要旨（レジюме）を準備		
第10回 発表と討論		各回の発表担当者は発表要旨（レジюме）を準備		
第11回 発表と討論		各回の発表担当者は発表要旨（レジюме）を準備		
第12回 発表と討論		各回の発表担当者は発表要旨（レジюме）を準備		
第13回 発表と討論		各回の発表担当者は発表要旨（レジюме）を準備		
第14回 発表と討論		各回の発表担当者は発表要旨（レジюме）を準備		
第15回 まとめ——さらなる学びへ		レポートの作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 口頭発表を叩き台にして作成したレポート			
小テスト等	なし			
成果発表	40％ 各自が担当する口頭発表の内容			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻・欠席をしないよう心がけること。本演習では、積極的な参加、自発的な学習が必要となる。その他、各ゼミ担当教員の指示にしたがうこと。			
教科書	田中共子編著、2010、『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に指示します。			
オフィスワー	徳永勇：月曜日3限・火曜日3限 金圓景：授業の前後	メールアドレス		

授業科目	基礎ゼミナールⅠ（人間形成専攻）		開講時期	前期
担当教員	板井・宮平・古田（瑞）・薄・原・山之内・原田（博）・今釜		単位	2
授業の目的と概要	「基礎ゼミナールⅠ」はこれから大学で学修を始める皆さんに、大学で学ぶことの意義及び大学で学んでいく上で必要な基本的知識やアカデミックなスキルを身につけるための科目です。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学における学習に意義を見いだすことができる。</li> <li>・課題解決に必要な情報を集めることができる。</li> <li>・文章を批判的な目線で読んだり、要約することができる。</li> <li>・自分の主張をレポート作成や、プレゼンテーションを行うことを通して表現することができる。</li> <li>・グループ協議の中で他者の意見を聞き、自ら意見を述べるることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	「基礎ゼミナールⅠ」は共通科目DP2「人に学び、人とのつながりの中で人生を豊かに作り上げる」ための科目です。この授業で習得した知識や技能は今後の大学生活における基礎知識となります。また、後期に開講される「基礎ゼミナールⅡ」は、本授業を継続、発展した様式で展開される関連科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：授業概要の説明、ゼミ内の交流等	自己を分析し表現する手段を考える		
第2回	大学での学び：高校と大学の違い、学生生活等	予習：テキストA, 0章		
第3回	基本的な文献検索方法：図書館、学習支援センターの利用法	予習：テキストA, 5-7章 テキストB, 3章		
第4回	リーディングとノートテイキング：文章の読み方と大学の授業に対応したノートの取り方	予習：テキストA, 1章 ノートの取り方を再検証		
第5回	クリティカルリーディング：批判的な文章の読み方、要約の仕方（著書、新聞、教育論文）	予習：テキストA, 2-3章 要約文書の発表準備		
第6回	リーディングとプレゼン：要約した文章（著書、新聞、教育論文）を発表する。 グループ討議及び全体協議を通じてプレゼン手法を学ぶ。	予習：テキストA, 2-3章 テキストB, 3章 レポートのテーマを探す		
第7回	レポート作成：書式と構成	予習：テキストA, 4-5章 テキストB, 1章 レポートの下書き		
第8回	レポート作成：テーマ決め、参考文献、構成等	予習：テキストA, 4-5章 テキストB, 2章 レポート作成		
第9回	レポート作成：見解、結論の吟味、文章の推敲	予習：テキストA, 4-5章 テキストB, 4章 レポート完成させる		
第10回	プレゼンの方法：レジュメ作成及び、その手段やポイント等	予習：テキストA, 8-9章 発表資料の作成		
第11回	プレゼンテーション：発表と討議①	予習：テキストA, 8-9章 発表の準備、知見の整理		
第12回	プレゼンテーション：発表と討議②	予習：テキストA, 8-9章 発表の準備、知見の整理		
第13回	プレゼンテーション：発表と討議③	予習：テキストA, 8-9章 発表の準備、知見の整理		
第14回	プレゼンテーション：発表と討議④	予習：テキストA, 8章 発表の準備、知見の整理		
第15回	総括：学びの再確認及び基礎ゼミナールⅡの説明	復習：授業で得た内容を整理する。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	％ なし			
レポート	％ 40％（1200-1600字）			
小テスト等	％ 20％ 文書要約（読書感想・新聞記事・教育論文等）（400-600字）			
成果発表	％ 20％ レジュメを用いたプレゼンテーション			
受講態度他	％ 20％ 授業への積極的な態度は加点し、授業態度が悪い学生は減点する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数クラス（ゼミナール形式）の授業形態です。</li> <li>・理由のない欠席や遅刻は減点の対象となります。</li> <li>・提出物のメ切りは厳守すること。</li> <li>・発表資料等は余裕を持って準備しておくこと。</li> </ul>			
教科書	世界思想社編集部編 「大学生学びのハンドブック」世界思想社（テキストA） 小笠原喜康 「新版 「大学生のためのレポート・論文術」講談社現代新書（テキストB）			
指定図書	特になし			
参考図書	田中共子『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房			
オフィスワー	担当教員のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	基礎ゼミナールⅠ（現代社会学科）		開講時期	前期
担当教員	速水(良)・岡本(文)・花野(裕)・村上(佳)・上村(仁)・小山(昌)・須藤(遙)		単 位	2
授業の目的と概要	「基礎ゼミナールⅠ」はこれから大学での学修を始める皆さんに、大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基本的知識やスキルを学んでもらうための科目です。その中には、大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけることはもちろん、周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけることや、自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと、などが含まれています。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学を学びの場として活用することができる。</li> <li>2. それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる。</li> <li>3. 問題解決に必要な情報を集めることができる。</li> <li>4. 自分の意見をプレゼンやレポートを通して表現することができる。</li> <li>5. 自分の希望するキャリアの中で、大学生活の意義を発見することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	「基礎ゼミナールⅠ」は共通科目のDP2「人に学び、人とのつながりの中で人生を豊かに作り上げる」ための科目です。この授業で習得した知識や技能は今後の大学生活における基礎知識となります。また後期に開講される「基礎ゼミナールⅡ」はこの授業の上級編です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション（筑女で学ぶ意義、コース案内、グループワークの基礎的理解）	学生便覧（pp3-11, pp14-28）ともだちを作る・大学施設を把握する		
第2回	オリエンテーション（カリキュラム理解・マッピング、CPとDP、シラバスの見方）	学生便覧（pp90-112）シラバスを読む		
第3回	大学での学び（学習・研究の基本的な方法や姿勢）	教科書 第1章（pp. 2-15）教科書 第2章（pp16-25）第2章課題		
第4回	大学での学び（ノートテイキング）	教科書 第4章（pp40-49）第4章課題		
第5回	キャリアプランニング（アクティブラーニング体験、ラーニングポートフォリオ作成）	クラージュ（p5）1年後・4年後の自分をイメージする		
第6回	筑女ネット（利用・活用案内）	教科書 第17章（CD-Rom）筑女ネット練習課題		
第7回	図書館・学習支援センター（利用案内）	教科書 第6章（pp. 62-77）学習支援センターパンフレット		
第8回	図書・PC情報検索（ビブリオバトル準備含む）	教科書 第7章（pp. 78-91）課題図書を読む・ビブリオバトルを理解		
第9回	読むとは・論理的思考（ビブリオバトル準備含む）	教科書 第14章（CD-Rom）課題図書を読む・ビブリオバトル準備		
第10回	ビブリオバトル予選	課題図書を読む ビブリオバトル原稿準備・発表練習		
第11回	ビブリオバトル本選	課題図書を読む ビブリオバトル原稿準備・発表練習		
第12回	レポート① レポートとは・テーマ・主張	教科書 第8章（pp. 92-101）第8章課題 教科書 第11章（pp. 128-141）		
第13回	レポート② 検索・整理	教科書 第9章（pp. 101-118）第9章課題 教科書 第15章プレイジャリズム）		
第14回	レポート③ 構成	アウトライン(プロポーザル)課題の作成		
第15回	レポート④ 執筆（書き方）	レポート課題の作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	40% レポート			
小テスト等	0% なし			
成果発表	30% ビブリオバトル			
受講態度他	30% 授業での小課題（15%）、受講態度など（15%）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必修科目なので全員受講し、遅刻・欠席をしないよう心がけてください。授業外学習が多く組まれていますので、しっかりと取り組んでください。			
教科書	北尾謙治ほか 『広げる知の世界 大学での学びのレッスン』 ひつじ書房			
指定図書	なし			
参考図書	各担当者から指示がある場合があります。			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	基礎ゼミナールⅠ（発達臨床心理コース）		開講時期	前期
担当教員	浅田 淳一・洪田 登美子・大鷲 香・酒井 均		単位	2
授業の目的と概要	<p>大学で学ぶことの意義を知り、大学で学ぶために必要な基本的知識やスキルを習得する科目です。具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること</li> <li>2. レポートやオーラルプレゼンテーションを通して自己表現を行うこと</li> <li>3. 周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけること</li> </ol> <p>を目的とします。所属する専攻の専任教員が分担して、学生20名前後のゼミ形式で実践的に学んでいきます。学生一人ひとりが設定したテーマについて、調べ、口頭発表し、レポートを書きます。発表担当者以外は、発表者に対する質問、意見を言うことで授業に参加しましょう。スケジュールは担当教員や学生数によって若干異なります。また、卒業生の話聞く会などを、ゼミ合同で開催することもあります。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の興味や関心のあるテーマを設定することができる。</li> <li>2. 図書館やインターネット等を有効に利用し、文献の検索・資料の収集ができる。</li> <li>3. 集めた情報を分類し整理することができる。</li> <li>4. 自分が調べた内容をプレゼンテーションできる。</li> <li>5. レポートを書くことができる。</li> <li>6. 学生同士で的確なコミュニケーションをとることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、共通科目のDP2である「人に学び、人とのつながりの中で人生を豊かに作り上げる」ことを達成するためのものです。ここで習得する知識や技能は今後の大学生活を支える基礎となります。なお、後期に開講される「基礎ゼミナールⅡ」はこの授業の上級編です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：大学で学ぶとは	tx. p. 2-11 予習および復習		
第2回	授業理解を深めるために：講義の聞き方・ノートの取り方	tx. p. 12-21 予習および復習		
第3回	各自の課題を設定する：興味・関心から発表テーマへ	テーマ設定		
第4回	情報を集める：大学図書館利用法、PCを利用した情報収集	文献等リスト作成		
第5回	深く読むために：本の読み方、文章のまとめ方	文献等リスト作成		
第6回	上手な口頭発表のために：発表資料の作成、発表の仕方、聞き方	tx. p. 82-114 予習および復習		
第7回	レポートの書き方	tx. p. 36-79 予習および復習		
第8回	発表と討論：担当者が選んだテーマでの発表と討論	各回の発表担当者は発表準備		
第9回	発表と討論	発表テーマについて質問や意見の準備		
第10回	発表と討論	発表テーマについて質問や意見の準備		
第11回	発表と討論	発表テーマについて質問や意見の準備		
第12回	発表と討論	発表テーマについて質問や意見の準備		
第13回	発表と討論	発表テーマについて質問や意見の準備		
第14回	発表と討論	発表テーマについて質問や意見の準備		
第15回	まとめ：さらなる学びへ	レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 口頭発表後に調べ直して補足訂正したレポート			
小テスト等	なし			
成果発表	40％ 各自が担当する口頭発表と、発表資料			
受講態度他	20％ 他の人が発表するときの、質問意見			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻・欠席をしないよう心がけてください。積極的な参加、自発的な学習が必要です。その他、各ゼミ担当教員の指示を受けてください。			
教科書	田中共子（編）『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に指示			
オフィスワー	浅田：火除く昼休、宇治：火水5限、洪田：月4限、大鷲：火昼休と3限	メールアドレス		

授業科目	基礎ゼミナールⅡ（英語学科）		開講時期	後期
担当教員	井料 洋美・桐生 直代		単位	2
授業の目的と概要	「基礎ゼミナールⅡ」は、前期の「基礎ゼミナールⅠ」に引き続いて大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基礎的知識やスキルを皆さんに学んでもらうことを目的としています。その中には、レポートを通して自己表現を行うこと、周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけることなどが含まれています。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学を学びの場をして活用することができる。</li> <li>・それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる。</li> <li>・問題解決に必要な情報を集めることができる。</li> <li>・同級生との対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる。</li> <li>・自分の意見をレポートを通して表現することができる。</li> <li>・自分の希望するキャリアの中で、大学生生活の意義を発見することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は共通科目のDP2「人に学び、人とのつながりの中で人生を豊かに作り上げる」ための科目です。この授業で習得した知識や技能は今後の大学生活における基礎知識となります。また前期に開講される「基礎ゼミナールⅡ」はこの授業の初級編です。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	イントロダクション		課題（プリント）	
第2回	大学生活に必要な文章力 ―レポートの書き方―		課題（プリント）	
第3回	文章の書き方（1） ―自分の意見の伝え方―		課題（プリント）	
第4回	文章の書き方（2） ―構想メモから文章へ―		課題（プリント）	
第5回	文章の書き方（3） ―前回の振り返り―		課題（プリント）	
第6回	文章の書き方（4） ―根拠の示し方―		課題（プリント）	
第7回	文章の書き方（5） ―構想メモから文章へ（2）―		課題（プリント）	
第8回	文章の書き方（6） ―前回の振り返り―		課題（プリント）	
第9回	授業感想文やコメントの書き方について		課題（プリント）	
第10回	文章の要約（1）		課題（プリント）	
第11回	文章の要約（2）		課題（プリント）	
第12回	レポートの書き方（1） ―先行研究とは？―		レポート作成の準備・資料集め	
第13回	レポートの書き方（2） ―自分の意見を文章にする―		レポート作成	
第14回	レポートの書き方（3） ―振り返り―		課題	
第15回	ライフマネージメント		試験準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％			
レポート	30％ 学期中に3回程度レポートを提出			
小テスト等	―			
成果発表	―			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	配布された資料を熟読してから講義にのぞむこと。 配布された資料や課題をファイルにまとめ、必ず振り返りをする事。 欠席回数が授業全回の3分の1を超えた場合は、登録を抹消します。 授業とは無関係な私語、飲食、携帯電話の使用など、講義の妨げとなる行為は一切禁止します。			
教科書	各担当教員が指定			
指定図書	各担当教員が指定			
参考図書	各担当教員が指定			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	基礎ゼミナールⅡ（日本語・日本文学科）		開講時期	後期
担当教員	桐島 薫子・安永 美恵		単 位	2
授業の目的と概要	<p>「基礎ゼミナールⅡ」は、前期の「基礎ゼミナールⅠ」に引き続いて大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基本的知識やスキルを皆さんに学んでもらうことを目的としています。その中には、「自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと。周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけること。・大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけること。自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること。レポートやオーラルプレゼンテーションを通して、自己表現を行うこと」などが含まれています。合わせて、受講生同士での確かなコミュニケーションをとることや、グループ活動を積極的に進めようとする態度も重視します。具体的な内容については、各担当教員の指導によります。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学を学びの場として活用することができる。</li> <li>2. それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる。</li> <li>3. グループごとにテーマ設定をしたり、役割分担をして、問題解決に必要な情報を集めることができる。</li> <li>4. 受講生同士の対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる。</li> <li>5. 自分の意見（あるいはグループの意見）を、プレゼンテーションやレポートを通して表現することができる。</li> <li>6. 自分の希望するキャリアの中で、大学生生活の意義を発見することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>「基礎ゼミナールⅡ」は共通科目のDP2「人に学び、人とのつながりの中で人生を豊かに作り上げる」ための科目です。この授業で習得した知識や技能は今後の大学生活における基礎知識となります。また前期に開講される「基礎ゼミナールⅠ」はこの授業の初級編です。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス、クラスアドバイザー教員とクラス学生との交流。	資料（大学や学科）の講読		
第2回	日本語・日本文学科（言語・文学・文化）の学びについて。	資料（大学や学科）の講読		
第3回	身近な日本を手がかりに広く深く学んでみよう！（例：菅原道真・太宰府天満宮）	関連資料やHPの復習、課題①		
第4回	日本をテーマにした発表について（PCでの発表資料の作り方・資料収集の方法など）	実習内容の操作確認・復習、課題②		
第5回	グループワークによる発表準備 1（テーマを考える・資料収集について）	資料の収集、発表の資料作り、課題③		
第6回	特別授業 「日本の伝統文化」（仮題）	資料の収集、発表の資料作り、課題④		
第7回	キャリアについて考える 1（大学生生活の充実）	大学やキャリアに関する資料の講読、課題⑤		
第8回	キャリアについて考える 2（自分について考える）	大学やキャリアに関する資料の講読、課題⑥		
第9回	グループワークによる発表準備 2（発表テーマに関するディスカッション・資料の仕上げ）	発表の準備、課題⑦		
第10回	発表と質疑応答 1	テーマの調査、発表資料の作成、質疑応答の準備		
第11回	発表と質疑応答 2	テーマの調査、発表資料の作成、質疑応答の準備		
第12回	発表と質疑応答 3	テーマの調査、発表資料の作成、質疑応答の準備		
第13回	発表と質疑応答 4	テーマの調査、発表資料の作成、質疑応答の準備		
第14回	インターネット講習	資料の講読、課題⑧		
第15回	まとめ（発表の振り返り）、レポート提出	資料の講読、レポート準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% レポートおよび提出物。			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 口頭発表と質疑応答。			
受講態度他	40% 積極的な受講態度を重視します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Aクラス、Bクラス合同で、別の教室にて授業を行うことがあります。詳細は、授業中に説明します。</li> <li>・必ず授業に出席し、欠席や遅刻がないようにすること。</li> <li>・成績は口頭発表のほかに、授業に対する態度、レポートの内容などを含めて評価する。</li> <li>・具体的な評価は、各担当教員による。課題①～⑧は、各担当教員より指示する。</li> </ul>			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	桐島：火曜4限、木曜昼休み 安永：木曜昼休み、金曜4限	メールアドレス		



授業科目	基礎ゼミナールⅡ（アジア文化学科）		開講時期	後期
担当教員	田村 史子・占部 匡美		単位	2
授業の目的と概要	<p>「基礎ゼミナールⅡ」は、前期の「基礎ゼミナールⅠ」に引き続き、大学で学ぶことの意義と大学で学んでいくうえで必要な基本的知識やスキルを皆さんに学んでもらうことを目的としています。その中には、「自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと」、「周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけること」、「大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけること」などが含まれています。</p> <p>具体的な講義概要としては、2名の担当教員によってクラス別に「日本語表現（読書する力と文章にする力）」の技能を身につける他、留学生徒の交流会や先輩方の体験を聞く機会を設け、キャリア・プランニング形成を図ることにしています。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学を学びの場として活用することができる</li> <li>2. それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる</li> <li>3. 同級生との対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる</li> <li>4. 自分の意見をプレゼンやレポートを通して表現することができる</li> <li>5. 自分の希望するキャリアの中で、大学生活の意義を発見することができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>「基礎ゼミナールⅡ」は、共通科目のDP2「人に学び、人とのつながりの中で、人生を豊かに作り上げる」ための科目です。この授業で習得した知識や技能は、今後の大学生活における基礎知識となります。</p> <p>また、前期に開講される「基礎ゼミナールⅠ」はこの授業の初級編です。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション 後期ゼミナールの内容紹介（合同）	夏休みの課題の整理・提出		
第2回	日本語表現法①講読（クラス別）	授業の復習		
第3回	日本語表現法②講読（クラス別）	授業の復習		
第4回	ゲストティーチャー①アジアの芸術を学ぶ	感想レポートの作成		
第5回	日本語表現法③講読（クラス別）	授業の復習		
第6回	日本語表現法④講読（クラス別）	授業の復習		
第7回	国際交流：留学生との交流会（合同）	感想レポートの作成		
第8回	日本語表現法⑤文章力（クラス別）	授業の復習		
第9回	日本語表現法⑥文章力（クラス別）	授業の復習		
第10回	ゲストティーチャー②アジアの人と文化を知る（合同）	感想レポートの作成		
第11回	日本語表現法⑦文章力（クラス別）	授業の復習		
第12回	日本語表現法⑧文章力（クラス別）	授業の復習		
第13回	ゲストティーチャー③キャリアを考える（合同）	感想レポートの作成		
第14回	日本語表現法⑨プレゼン力（クラス別）	プレゼンテーションの準備		
第15回	まとめ：さらなる学びへ（合同）	最終レポートの作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 感想レポート、最終レポート その他			
小テスト等	-			
成果発表	40% 授業中に提示された課題への取り組み状況			
受講態度他	欠時数が3分の1を超えるものは、「無資格」とする			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業回数の3分の2以上の出席を要する。			
教科書	なし。但し、各担当教員の指示に従う。			
指定図書	なし。但し、各担当教員の指示に従う。			
参考図書	なし。但し、各担当教員の指示に従う。			
オフィスアワー	授業の前もしくはメールで相談	メールアドレス		

授業科目	基礎ゼミナールⅡ（社会福祉コース）		開講時期	後期
担当教員	徳永 勇・金 圓景・高木 佳世子		単 位	2
授業の目的と概要	「基礎ゼミナールⅡ」は、前期の「基礎ゼミナールⅠ」に引き続いて、大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基本的知識や技能を各自に学んでもらうことを目的とする。そのなかには、「大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけること」、「自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること」、「質の高い口頭発表やレポート作成を行うこと」、「自らのキャリア設計を行い、そのなかで大学で学ぶ意義を発見すること」などが含まれている。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学を学びの場として活用することができるようになる。</li> <li>2. それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できるようになる。</li> <li>3. 問題解決に必要な情報を集めることができるようになる。</li> <li>4. 自分の意見を口頭発表やレポートをとおして表現することができるようになる。</li> <li>5. 将来のキャリアを想定するなかで、大学生生活の意義を発見することができるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	[「基礎ゼミナールⅡ」は共通科目のDP2「人に学び、人とのつながりの中で人生を豊かに作り上げる」ための科目である。この授業で習得した知識や技能は今後の大学生活における基礎知識となる。また前期に開講される「基礎ゼミナールⅠ」はこの授業の初級編である。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回：前期の発表とレポートを振り返り、達成できたこと、できなかったことを検討する。		各自「基礎ゼミⅠ」での学習成果を反省してみる。		
第2回：発表と討論		発表担当者は、「基礎ゼミⅠ」で提出したレポートを元に、発表要旨を準備		
第3回：第2回：発表と討論		発表担当者は、「基礎ゼミⅠ」で提出したレポートを元に、発表要旨を準備		
第4回：第2回：発表と討論		発表担当者は、「基礎ゼミⅠ」で提出したレポートを元に、発表要旨を準備		
第5回：発表と討論		発表担当者は、「基礎ゼミⅠ」で提出したレポートを元に、発表要旨を準備		
第6回：発表と討論		発表担当者は、「基礎ゼミⅠ」で提出したレポートを元に、発表要旨を準備		
第7回：発表と討論		発表担当者は、「基礎ゼミⅠ」で提出したレポートを元に、発表要旨を準備		
第8回：発表と討論		発表担当者は、「基礎ゼミⅠ」で提出したレポートを元に、発表要旨を準備		
第9回：発表と討論		発表担当者は、「基礎ゼミⅠ」で提出したレポートを元に、発表要旨を準備		
第10回：上級生の経験に学ぶ——充実した学生生活をおくるために。		上級生の講話内容について感想文を作成、提出。		
第11回：第10回：上級生の経験に学ぶ——充実した学生生活をおくるために。		上級生の講話内容について感想文を作成、提出。		
第12回：本専攻の卒業生の講話を聴き、大学での学修を社会のなかでどのように活かせるかを学ぶ。		卒業生の講話内容について感想文を作成、提出。		
第13回：本専攻の卒業生の講話を聴き、大学での学修を社会のなかでどのように活かせるかを学ぶ。		卒業生の講話内容について感想文を作成、提出。		
第14回：本専攻の卒業生の講話を聴き、大学での学修を社会のなかでどのように活かせるかを学ぶ。		卒業生の講話内容について感想文を作成、提出。		
第15回：卒業後の進路を考えながら、大学での学修目標を構想する。		各自、大学での今後の学修目標を構想し、発表する。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	60%			
小テスト等	10%			
成果発表	30%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学生参加型の授業なので、積極的に発言することをこころがけること。			
教科書	田中共子編著, 2010, 『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	徳永勇：月曜日3限・火曜日3限 金圓景：授業の前後	メールアドレス		

授業科目	基礎ゼミナールⅡ（人間形成専攻）		開講時期	後期
担当教員	宮平 喬・S.Kumar・古田 瑞穂・石原 努・原田 博子・今釜 亮・吉川 暢子		単 位	2
授業の目的と概要	「基礎ゼミナールⅡ」は、前期の「基礎ゼミナールⅠ」に引き続いて大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基本的知識やスキルを皆さんに学んでもらうことを目的としています。その中には「自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと」「オーラルプレゼンテーションを通して、自己表現を行うこと」などが含まれています。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学を学びの場として活用することができる</li> <li>・それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる</li> <li>・問題解決に必要な情報を集めることができる</li> <li>・同級生との対話の中で、他者の意見を聞き、また自らの意見を理解してもらうことができる</li> <li>・自分の意見をプレゼンやレポートを通して表現することができる</li> <li>・自分の希望するキャリアの中で、大学生活の意義を発見することができる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	「基礎ゼミナールⅡ」は共通科目のDP2「人に学び、人とのつながりの中で人生を豊かに作り上げる」ための科目です。この授業で習得した知識や技能は今後の大学生活における基礎知識となります。また前期に開講される「基礎ゼミナールⅠ」はこの授業の初級編です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション：社会人や専門職におけるマナーなど	見学実習に向けて名札を作成		
第2回	専門職の現場理解①：現場の先生の話/先輩たちの話（卒業までの学び方・過ごし方）	感想レポートを提出		
第3回	専門職の現場理解②：見学実習オリエンテーション、事前学習	幼稚園や子どもの発達について調べ、感想レポートを提出		
第4回	附属幼稚園見学実習①：見学実習	見学実習の準備		
第5回	附属幼稚園見学実習②：見学実習	見学実習の準備		
第6回	見学実習振り返り	見学実習での気づきをまとめ、感想を提出		
第7回	プレゼンテーションの方法：・パワーポイントについて	プレゼンテーションの方法やスライドの作成を確認		
第8回	スライド作成①：テーマ決め、発表資料集め	発表内容を作成		
第9回	スライド作成②：スライド作成	スライド原稿を提出		
第10回	プレゼンテーションに向けての準備	プレゼンテーションの練習		
第11回	プレゼンテーションの実践①	発表準備		
第12回	プレゼンテーションの実践②	発表準備		
第13回	プレゼンテーションの実践③	発表準備		
第14回	プレゼンテーションの実践④	発表の振り返り		
第15回	まとめ	半期を振り返り、2年生以降の展望をたてる		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20％ 感想用紙の提出や内容を採点します			
小テスト等	なし			
成果発表	60％ プレゼンテーションの内容や取り組み			
受講態度他	20％ 積極性など普段の受講態度を点数化します			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・遅刻や理由のない欠席は大幅な減点をします			
教科書	『大学生学びのハンドブック』世界思想社、『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書			
指定図書	『学生・研究者のための 使える!PowerPoint スライドデザイン 伝わるプレゼン1つの原理と3つの技術』化学同人			
参考図書	『大学生の学習テクニック 第3版』大月書店			
オフィスワーカー	各教員の他科目のシラバスを参照してください	メールアドレス		

授業科目	基礎ゼミナールⅡ（現代社会学科）		開講時期	後期
担当教員	佐々木(浩)・藤原(隆)・大橋(健)・花野(裕)・赤枝(香)・小山(昌)・須藤(遙)		単 位	2
授業の目的と概要	「基礎ゼミナールⅡ」は、前期の「基礎ゼミナールⅠ」に引き続いて大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基本的知識やスキルを皆さんに学んでもらうことを目的としています。その中には、大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけることはもちろん、周囲との円滑な意見交換のためのソーシャルスキルを身につけることや、自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集することや、レポートやオーラルプレゼンテーションを通して自己表現を行うこと、などが含まれています。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学を学びの場として活用することができる。</li> <li>2. それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる。</li> <li>3. 問題解決に必要な情報を集めることができる。</li> <li>4. 自分の意見をプレゼンやレポートを通して表現することができる。</li> <li>5. 自分の希望するキャリアの中で、大学生活の意義を発見することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	「基礎ゼミナールⅡ」は共通科目のDP2「人に学び、人とのつながりの中で人生を豊かに作り上げる」ための科目です。この授業で習得した知識や技能は今後の大学生活における基礎知識となります。また前期に開講される「基礎ゼミナールⅠ」はこの授業の初級編です。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（前期の復習・確認）		クラーヂュ	
第2回	論理的思考（クリティカルシンキング）		教科書 第10章（pp. 119-125）第10章課題 教科書 第14章（CD-Rom）	
第3回	論理的思考（ディベートの作法、テーマ設定とリサーチ）		教科書 第8章（pp. 92-101）第8章課題	
第4回	プレゼンテーションとは（方法と種類・評価方法・レジュメ作成）		教科書 第12章（pp. 142-151）	
第5回	口頭発表		口頭発表の準備	
第6回	レポートの実践① テーマ設定		教科書 第8章（pp. 92-101）第8章課題 自分のレポートテーマを決める	
第7回	レポートの実践② 情報収集・整理		教科書 第9章（pp. 101-118）第9章課題 レポートに関する資料収集と整理	
第8回	レポートの実践③ 資料通読・整理		レポートに関する資料収集と整理	
第9回	プレゼンテーション① 構成		レポートのアウトラインをまとめる プレゼンテーションのイメージを決める	
第10回	プレゼンテーション② PP作成		教科書 第19章（CD-Rom） PP作成	
第11回	プレゼンテーション③ 発表・相互評価		発表準備・発表練習	
第12回	レポートの実践④ レポートの構成		レポートのアウトラインの見直し	
第13回	レポートの実践⑤ 執筆		レポートの執筆と修正	
第14回	レポートの実践⑥ 執筆		レポートの執筆と修正	
第15回	基礎専門ゼミナールへの導入		レポートの執筆と修正 クラーヂュによる振り返り	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	40% レポート			
小テスト等	0% なし			
成果発表	30% 口頭発表（10%）、PPによるプレゼンテーション（20%）			
受講態度他	30% 授業での小課題（15%）、受講態度など（15%）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必修科目なので全員受講し、遅刻・欠席をしないよう心がけてください。 @ 授業外学習が多く組まれていますので、しっかりと取り組んでください。			
教科書	北尾謙治ほか 『広げる知の世界 大学での学びのレッスン』 ひつじ書房			
指定図書	なし			
参考図書	各担当者から指示がある場合があります。			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授業科目	基礎ゼミナールⅡ（発達臨床心理コース）		開講時期	後期
担当教員	浅田 淳一・大鶴 香		単 位	2
授業の目的と概要	「基礎ゼミナールⅡ」は、前期の「基礎ゼミナールⅠ」に引き続いて大学で学ぶことの意義と大学で学んでいく上で必要な基本的知識やスキルを皆さんに学んでもらうことを目的としています。その中には「自らのキャリア設計を行い、その中で大学で学ぶ意義を発見する方法を学ぶこと」「大学で学ぶ上で必要なアカデミックスキルを身につけること」「自身の関心に基づいた問いを設定し、その解決のために必要な情報を収集すること」「レポートやオーラルプレゼンテーションを通して、自己表現を行うこと」などが含まれています。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学を学びの場として活用することができる。</li> <li>・それぞれの専門科目を学ぶことの意義を説明できる。</li> <li>・問題解決に必要な情報を集めることができる。</li> <li>・自分の意見をプレゼンやレポートを通して表現することができる。</li> <li>・自分の希望するキャリアの中で、大学生生活の意義を発見することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>【「基礎ゼミナールⅡ」は共通科目のDP2「人に学び、人とのつながりの中で人生を豊かに作り上げる」ための科目です。この授業で習得した知識や技能は今後の大学生活における基礎知識となります。また前期に開講される「基礎ゼミナールⅠ」はこの授業の初級編です。</p> <p>この講義で習得した内容を、今後の多様な専門科目での学習に役立ててください。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回：前期の様々な講義を聞いた上での自分の中での問題点を、アンケートの形で収集し議論する。		自分なりに大学での勉強の仕方に関する問題点を反省してみる。		
第2回：様々な講義の受講に関するアンケートから分かる問題点に関して、解決策を考える。		問題に対する解決策を自分なりに考えてみる。		
第3回：前期の発表とレポートを振り返り、難しかった点などを取り上げて、改善点などを検討する。 レポートの課題の提示		自分なりに後期のレポートの課題を探す。		
第4回：講師が、自分の読書体験を紹介しつつ、読書の魅力について考え、読書課題（本の推薦）を説明する。		各自、読みたい本を選び、読書を開始する。		
第5回：本専攻を卒業した先輩方を招き、専門を社会の中でどのように活かしているかを学ぶ？		各自、卒業後の自分の姿について、考えてみる。		
第6回：本専攻を卒業した先輩方を招き、専門を社会の中でどのように活かしているかを学ぶ？		各自、卒業後の自分の姿について、考えてみる。		
第7回：本専攻を卒業した先輩方を招き、専門を社会の中でどのように活かしているかを学ぶ		各自、卒業後の自分の姿について、考えてみる。		
第8回：第4回講義で提示された課題に対する解答から優秀作品を選び、本の魅力についてプレゼンしてもらう。		プレゼンされた内容について考え、改善点などを各自検討する。		
第9回：前期で行った発表に関する反省点についてアンケートを行い、問題点を集約し議論する。		具体的にプレゼンの仕方を考えて、レポートの形で次週提出		
第10回：よりよい発表（プレゼン）の仕方について、具体例（レポートから抽出）を挙げながら皆で議論する。		各自、自分なりにプレゼン方法についてさらに工夫してみる。		
第11回：学内で様々な活動をしている先輩たちを招き、課外活動の重要性と面白さを学ぶ？		自分なりに課外活動の可能性について考えてみる。		
第12回：学内で様々な活動をしている先輩たちを招き、課外活動の重要性と面白さを学ぶ？		自分なりに課外活動の可能性について考えてみる。		
第13回：大学での今後の生活から卒業後の人生までも含めて、自分の将来のイメージについて、皆で考えてみる。		自分の将来の姿について、幾つかの観点から思いを巡らせてみる。		
第14回：第13回の講義を踏まえて、大学の四年間について、自分なりの目標を立ててみる。		これからの大学生活でやってみたいこと取り組んでみたいことを考える		
第15回：第14回講義の成果を踏まえて、大学四年間の自分なりのポートフォリオを作成する。		第3回講義で設定した課題についてレポートを作成する。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%			
小テスト等	20%			
成果発表	20%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	参加型の授業なので、積極的に授業に参加することに心がけること。			
教科書	『よくわかる学びの技法』田中共子編（ミネルヴァ書房）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み	メールアドレス		

授業科目	近・現代文学演習Ⅰ		開講時期	前期
担当教員	出雲 俊江		単位	2
授業の目的と概要	<p>文学作品を読んで、自分自身で感じることを、自分の視点から考えることを学ぶ。 文学作品の読みについて、自分の視点から客観的に論述することを学ぶ。</p> <p>大正期に活躍した歌人岡本かの子についてとりあげ、その作品について考察する。 途中2回、当時の小説作品などをとりあげ、読書会を行う。 岡本かの子は、初め与謝野晶子らに師事し、その後独自の表現を切り開きました。晩年の小説作品も知られています。 岡本かの子の短歌作品を丁寧に追いつながりながら、当時の短歌について、特に女性にとっての短歌という観点から考えてみたいと思っています。</p>			
到達目標	<p>文学作品（特に短歌作品）を、自らの視点で読むことができる。 これまでの研究に目を向け、資料を収集・整理できる。 伝えたいことを整理して、口頭発表することができる。 自分の論を文章としてのべることが出来る。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	近・現代文学演習Ⅱ			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 ガイダンス	(本授業の内容・演習について)		講義の際に指示します	
第2回 岡本かの子について	短歌にかかわる文献購読(1)		指定された文献を読んでくること	
第3回 歌集『かろきねたみ』	(1912年) より1～50首		講義の際に指示します	
第4回 歌集『かろきねたみ』	(1912年) より51～150首		発表準備	
第5回 読書会			課題図書を読んで、感想などのレポートを書く。	
第6回 歌集『かろきねたみ』	(1912年) 後半		発表準備	
第7回 歌集『愛のなやみ』	1919年 (1) 前半		発表準備	
第8回 歌集『愛のなやみ』	1919年 (2) 中半		発表準備	
第9回 歌集『愛のなやみ』	1919年 (3) 後半		発表準備	
第10回 歌集『浴身』	1926年 (1) 前半		発表準備	
第11回 読書会			課題図書を読んで、感想などのレポートを書く。	
第12回 歌集『浴身』	1926年 (2) 中半		発表準備	
第13回 歌集『浴身』	1926年 (3) 後半		発表準備	
第14回 レポートを書くために	短歌にかかわる文献購読(2)		指定された文献を読んでくること	
第15回 まとめ	レポート相談		講義の際に指示します	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	担当の発表内容 20% 最終レポート40% 読書会レポート 20%			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	20% 討議への参加状況など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>岡本かの子の短歌を読むことを通じて、短歌を読むとはどうすることなのかを体験的に学んでゆきます。 最終レポートは、卒業論文のための練習として役立つことを目指してとりくみたいと考えています。 読書会の課題図書は、大正期の文学作品から、皆さんと相談の上決めます。</p>			
教科書	岡本かの子の短歌集を複製して用います。			
指定図書	ありません。授業中に紹介します。			
参考図書	ありません。			
オフィスアワー	水曜日 4限	メールアドレス		

授業科目	近・現代文学演習 I		開講時期	前期
担当教員	松下 博文		単位	2
授業の目的と概要	夏目漱石「夢十夜」の解釈と鑑賞を通して、自らの文学的感性を高めることを目指す。			
到達目標	①図書館等を利用して、関係資料を収集する。 ②収集した資料を正確に整理し、正確に読み取る。 ④作品を柔軟に解釈できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日本語・日本文学科のDP（1）の「⑥ 大学での学修をもとに各自の知的興味・関心を深め、卒業論文において自らの考えを明確に伝えることができる。」に関連する科目であり、「近・現代文学概論」「近・現代文学基礎演習」「近・現代文学講読」等で培った知識と方法を、更に発展的に追究することができる。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 漱石入門（1）			次回演習のための資料収集と作成	
第2回 漱石入門（2）			次回演習のための資料収集と作成	
第3回 漱石入門（3）			次回演習のための資料収集と作成	
第4回 「第一夜」読解			次回演習のための資料収集と作成	
第5回 「第二夜」読解			次回演習のための資料収集と作成	
第6回 「第三夜」読解			次回演習のための資料収集と作成	
第7回 「第四夜」読解			次回演習のための資料収集と作成	
第8回 「第五夜」読解			次回演習のための資料収集と作成	
第9回 「第六夜」読解			次回演習のための資料収集と作成	
第10回 「第七夜」読解			次回演習のための資料収集と作成	
第11回 「第八夜」読解			次回演習のための資料収集と作成	
第12回 「第九夜」			次回演習のための資料収集と作成	
第13回 「第十夜」読解			次回演習のための資料収集と作成	
第14回 まとめ（1）			次回演習のための資料収集と作成	
第15回 まとめ（2）			レポート作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 担当箇所をレポートとして仕上げる。また、その都度レポートを要求することもある。			
小テスト等	なし			
成果発表	50％			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席（欠席扱い）させます。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物を置かないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	夏目漱石『夢十夜』（ワイド版岩波文庫）			
指定図書	清水孝純『漱石「夢十夜」探索』（翰林書房）・山田晃『夢十夜参究』（朝日書林）			
参考図書	笹渕友一『夏目漱石論 ―「夢十夜」論ほか―』（明治書院）・坂本育男編『夏目漱石「夢十夜」作品論集成ⅡⅢ』（大空社） ・鳥井正晴・藤井淑禎編『漱石作品論集成 第4巻 滌虚集・夢十夜』（桜楓社）			
オフィスワー	水曜日 12時30分～13時	メールアドレス		

授業科目	近・現代文学演習Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	松下 博文		単位	2
授業の目的と概要	奄美大島出身の作家安達征一郎の文学世界に触れ、日本文学と南島文学の違いについて検証することを目的とする。			
到達目標	①作品を解釈・鑑賞しながら、作品が生まれてきた歴史や風土について考察する。 ③文学的感性を身につける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日本語・日本文学科のDP（1）の「⑥ 大学での学修をもとに各自の知的興味・関心を深め、卒業論文において自らの考えを明確に伝えることができる。」に関連する科目であり、「近・現代文学概論」「近・現代文学基礎演習」「近・現代文学講読」等で培った知識と方法を、更に発展的に追究することができる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	安達征一郎の世界（その1）	予習 文学的事項について文学事典で調べる。		
第2回	安達征一郎の世界（その2）	予習 文学的事項について文学事典で調べる。		
第3回	憎しみの海	予習 6～16ページ		
第4回	鱻に曳きずられて沖へ	予習 17～20ページ		
第5回	太陽狂想	予習 21～36ページ		
第6回	伐られたガジュマル	予習 37～45ページ		
第7回	風葬守	予習 46～63ページ		
第8回	種族の歌	予習 64～107ページ		
第9回	怨の儀式	予習 108～139ページ		
第10回	島を愛した男	予習 140～176ページ		
第11回	海のモーレ	予習 177～205ページ		
第12回	少年奴隷	予習 206～239ページ		
第13回	安達征一郎の世界（その3）	予習 担当作品の考察とまとめ		
第14回	安達征一郎の世界（その4）	予習 担当作品の考察とまとめ		
第15回	安達征一郎の世界（その5）	予習 担当作品の考察とまとめ		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 担当箇所をレポートとして仕上げる。また、その都度レポートを要求することもある。			
小テスト等	なし			
成果発表	50%			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席（欠席扱い）させます。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物は出さないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	なし			
指定図書	川村湊編・解説『憎しみの海・怨の儀式—安達征一郎南島小説集』（インパクト出版）			
参考図書	安達征一郎『小さな島の小さな物語』（インパクト出版） 松下博文編『安達征一郎「小さな島の小さな物語」の世界—喜界島の文学と風土』（弦書房）			
オフィスアワー	水曜日 12時30分～13時まで	メールアドレス		



授業科目	近・現代文学演習Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	出雲 俊江	単位	2
授業の目的と概要	<p>文学作品を読んで、自分自身で感じることを、自分の視点から考えることを学ぶ。 文学作品の読みについて、自分の視点から客観的に論述することを学ぶ。</p> <p>演習発表は、テキストの歌人の中から各自一人をとりあげ、その作品について自由に考察する。 特に短歌作品における「私」を共通のテーマとし、留意することとする。 途中2回、小説作品などをとりあげ、読書会を行う。</p>		
到達目標	<p>文学作品（特に短歌作品）を、自らの視点で読むことができる。 これまでの研究に目を向け、資料を収集・整理できる。 伝えたいことを整理して、口頭発表することができる。 自分の論を文章としてのべることが出来る。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	近・現代文学演習Ⅰ		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 ガイダンス	演習について・現代の短歌概観	講義の際に指示します	
第2回	短歌の文学史1 明星・スバルとその時代	該当の短歌を読んでくる。	
第3回	短歌の文学史2 アララギを中心に	該当の短歌を読んでくる。	
第4回	演習発表1	担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。	
第5回	演習発表2	担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。	
第6回	読書会（1回目）	読書会の課題図書読んでレビューを書く。	
第7回	演習発表3	担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。	
第8回	演習発表4	担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。	
第9回	演習発表5	担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。	
第10回	読書会（2回目）	読書会の課題図書読んでレビューを書く。	
第11回	演習発表6	担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。	
第12回	演習発表7	担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。	
第13回	演習発表8	担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。	
第14回	演習発表9	担当者は発表準備。他は該当の短歌を読んでくる。	
第15回	まとめ レポート相談	最終レポート作成。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	行わない。		
レポート	読書会レポート（2回） 20％ 最終レポート 40％		
小テスト等	行わない。		
成果発表	担当の発表 20％		
受講態度他	討議への参加状況など 20％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>短歌を読むことを通じて、短歌を読むとはどうすることなのかを体験的に学んでゆきます。 最終レポートは、卒業論文のための練習として役立つことを目指してとりくみたいと考えています。 読書会の課題図書は、皆さんと相談の上決めます。</p>		
教科書	小高賢『現代の歌人140』新書館2009		
指定図書	特になし		
参考図書	特になし		
オフィスアワー	水曜日 4限	メールアドレス	

授業科目	近・現代文学概論（日本文学史を含む）		開講時期	後期
担当教員	松下 博文		単位	2
授業の目的と概要	近現代文学の文学的潮流を作家と作品を中心に検証することを目指す。 ①それぞれの講義において、必ず代表作一篇を取り上げ、原作を読みながら講義を進行する。 ②その読解力の基礎として、毎回、指定のテキストによる漢字の読み書きテスト（10分）を行なう。			
到達目標	①各時代の文学的潮流の概略を把握できる。 ②近現代文学の名作を原文で読むことができる。 ③文学的感性を身につけることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、日本語・日本文学科のDP（2）「④各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる。」に関連する科目であり、「近・現代文学基礎演習」「近・現代文学演習」「近・現代文学講読」「卒業論文」に発展・展開して行く科目である。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	横光利一「頭ならびに腹」	予習		
第2回	川端康成「雨傘」	予習		
第3回	宮沢賢治「注文の多い料理店」	予習		
第4回	江戸川乱歩「押絵と旅する男」	予習		
第5回	梶井基次郎「闇の絵巻」	予習		
第6回	堀辰雄「不器用な天使」	予習		
第7回	伊藤整「生物祭」	予習		
第8回	小林秀雄「故郷を失った文学」	予習		
第9回	石川淳「山桜」	予習		
第10回	内田百閒「虎」	予習		
第11回	井伏鱒二「へんろう宿」	予習		
第12回	坂口安吾「桜の森の満開の下」	予習		
第13回	武田泰淳「橋を築く」	予習		
第14回	大庭みな子「青い狐」	予習		
第15回	古井由吉「人形」	予習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30%			
レポート	30% 内容による			
小テスト等	40% 平素			
成果発表	毎回の小テストを含む 定期試験で評価する			
受講態度他	静粛に。私語は慎むこと。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	提出物は必ず期限までに提出すること。			
教科書	「大学で読む 現代の文学」（双文社出版）⇒絶版によりテキスト変更しますので、後期購入時にテキスト要再確認 佐藤喜一「基礎からのジャンプアップノート 漢字」（旺文社）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	火曜日12時30分～13時	メールアドレス		

授業科目	近・現代文学基礎演習	開講時期	後期
担当教員	松下 博文	単位	2
授業の目的と概要	森鷗外「舞姫」本文のテキストクリティークを行う作業を通して、資料収集の方法と本文の文献学的整理方法を学ぶ。		
到達目標	①図書館等を利用して、文学資料を収集する。 ②収集した資料を正確に整理する。 ③収集した資料を正確に読み取れる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日本語・日本文学科DP（4）の「② 溢れる情報の中から必要なものを取捨選択できる「情報リテラシー」 および「③ 手に入れた情報や獲得した知識を使って適切に判断するための「論理的思考力」」に関連する科目であり、「日本の詩歌」「近・現代文学入門」「近・現代文学概論」等で培ってきた知識と方法を、更に発展的に追究することができる。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 「舞姫」入門		予習：文学事典で「舞姫」について調べる。	
第2回 「舞姫」通読（1）		予習：テキスト7～20ページを読む。	
第3回 「舞姫」通読（2）		予習：テキスト21～35ページを読む。	
第4回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集	
第5回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集	
第6回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集	
第7回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集	
第8回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集	
第9回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集	
第10回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集	
第11回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集	
第12回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集	
第13回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集	
第14回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集	
第15回 まとめ		予習：全資料確認	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	100% 毎回提出		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席（欠席扱い）させます。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物は置かないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。		
教科書	森鷗外『舞姫・うたかたの記』（岩波文庫）		
指定図書	嘉部嘉隆編『森鷗外「舞姫」諸本研究と校本』（桜楓社）		
参考図書	『国語語彙史の研究』（和泉書院）・『日本近代語研究』（ひつじ書房）・小島憲之『ことばの重み』（講談社）・『森鷗外集1・2』（日本近代文学大系・角川書店）・竹盛天雄『森鷗外必携』（学燈社）・『森鷗外「舞姫」作品論集』（クレス出版）		
オフィスワー	水曜日 12時30分～13時	メールアドレス	

授業科目	近・現代文学基礎演習		開講時期	前期
担当教員	松下 博文		単位	2
授業の目的と概要	森鷗外「舞姫」本文のテキストクリティークを行う作業を通して、資料収集の方法と本文の文献学的整理方法を学ぶ。			
到達目標	①図書館等を利用して、文学資料を収集する。 ②収集した資料を正確に整理する。 ③収集した資料を正確に読み取れる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日本語・日本文学科DP（4）の「② 溢れる情報の中から必要なものを取捨選択できる「情報リテラシー」 および「③ 手に入れた情報や獲得した知識を使って適切に判断するための「論理的思考力」」に関連する科目であり、「日本の詩歌」「近・現代文学入門」「近・現代文学概論」等で培ってきた知識と方法を、更に発展的に追究することができる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 「舞姫」入門		予習：文学事典で「舞姫」について調べる。		
第2回 「舞姫」通読（1）		予習：テキスト7～20ページを読む。		
第3回 「舞姫」通読（2）		予習：テキスト21～35ページを読む。		
第4回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集		
第5回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集		
第6回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集		
第7回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集		
第8回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集		
第9回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集		
第10回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集		
第11回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集		
第12回 鷗外と中国文学（花の夢）		筑紫女学園大学公開講座		
第13回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集		
第14回 「舞姫」精読（1）		予習：次回の資料収集		
第15回 まとめ		予習：全資料確認		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	100% 毎回提出			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席（欠席扱い）させます。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物は置かないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	森鷗外『舞姫・うたかたの記』（岩波文庫）			
指定図書	嘉部嘉隆編『森鷗外「舞姫」諸本研究と校本』（桜楓社）			
参考図書	『国語語彙史の研究』（和泉書院）・『日本近代語研究』（ひつじ書房）・小島憲之『ことばの重み』（講談社）・『森鷗外集1・2』（日本近代文学大系・角川書店）・竹盛天雄『森鷗外必携』（学燈社）・『森鷗外「舞姫」作品論集』（クレス出版）			
オフィスワー	水曜日 12時30分～13時	メールアドレス		

授業科目	近・現代文学講読 I		開講時期	前期
担当教員	松本 常彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>芥川龍之介の小説を素材として、読むという行為（リテラシー）一般が持つことの意味と方法と可能性について考える。文学作品を読むということは、それ自体、きわめて倫理的実践であるという説もあるが、その意味について考える。上記のことを通じて、リテラシーが社会性や人間性と密接に関係することを理解する。</p> <p>芥川「羅生門」を素材とする。同じ一つの本文が、読み方に応じて、どのように解釈できるかを検討する。個々の読み方については、授業計画を参照のこと。</p>			
到達目標	<p>多様な読みの方法やスタイルがあることを知り、その読み方を意識することで、読みの方法と内容の相関性を自覚する。読みに応じて本文の読解可能性が変化することを理解する。読みに応じた本文の変容性について指摘できる。読みに応じた本文の解釈を提示できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業はいわば基礎編にあたり、応用編は後期の近・現代文学講読 II で講義する。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第 1回 授業概要の説明			全体的な注意点について確認する	
第 2回 読む行為・読み方のモデルについての考察 1			配布資料を再読しておく	
第 3回 読む行為・読み方のモデルについての考察 2			小説「羅生門」の本文など配布資料を再読しておく	
第 4回 従来身につけてきた基本的な読み方についての検討（語彙注釈からの読み）			本文の語彙注釈の報告書の作成	
第 5回 作家と作品との関係（伝記情報を援用した読み）			任意の作家の略年譜の報告書の作成	
第 6回 作品（ワーク）とテキスト（作家の主体と読者の受容からの読みの検討）			配布資料を再読する	
第 7回 本文の生成と異同の検討 1			配布資料を再読する	
第 8回 本文の生成と異同の検討 2			本文異同の事例報告を作成する・随筆「大川の水」を読んでおく	
第 9回 作品の時空を読む 1			配布資料を再読する	
第10回 作品の時空を読む 2			作品の時空についての具体的事例についての報告書を作成する	
第11回 作品の同時代性という視点			小説「六の宮の姫君」の本文を再読する	
第12回 女性史・女性言説という視点			配布資料を再読する	
第13回 翻案の志向性を読む			配布資料を再読する	
第14回 先行論文の検討から読む			「六の宮の姫君」についての報告書の作成	
第15回 授業の概括			試験準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％			
レポート	30％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	およそ受講上の一般的なルールを厳守する。			
教科書	使用しない。小説本文および資料は複写を授業時に配布する。			
指定図書	個々の参考書については授業時に指示する。			
参考図書	芥川龍之介全集、芥川龍之介全作品事典、芥川龍之介作品論集成など。（図書館にある）			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	近・現代文学講読Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	松本 常彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>近・現代文学講読Ⅱは、講読Ⅰで分類的に試みた読み方法を踏まえ、それを読みの実践として総合化する。読みの総合化は、単一化ではなく、むしろ読み手一人ひとりに応じた手仕事化であることを理解する。それは言い換えるなら、ひとつの小説と読み手との人間的な交渉であり、人間づきあいがそうであるように、相手の微妙な呼吸をはかって上手につきあわなければならぬ呼吸法でもあるが、そのことを実際の作品に即して体感し、表現できるようになる。</p> <p>1 9世紀から現在にいたる日本の小説を素材に、それらを系譜的に捉えるメタテキスト次元での文脈構成能力を涵養するとともに、個々の作品の表現や解釈が同時代的地平や読書環境との相関的な関係によって左右されることを考察する。</p>			
到達目標	<p>1、近代小説の特色について、複数の具体的な作品を読解することで、整理、分類した上で、表現できる。  2、文学を通して表現された人間観や社会観や世界観について、その特色や表現の志向性を理解し、自分の意見が提示できる。  3、上記を通して多様な価値観があることを理解し、その上で、それらを生の実践の場で援用できる柔軟で創造的な思考力を養う。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	講読Ⅰを回顧して 講読Ⅰの回顧と講読Ⅱの展望	次週までに配布資料を読んでおく		
第2回	明治後期の小説・国木田独歩	次週までに配布資料を読んでおく		
第3回	明治後期の小説・国木田独歩	次週までに配布資料を読んでおく		
第4回	明治後期の小説・国木田独歩	次週までに配布資料を読んでおく		
第5回	大正期の小説・芥川龍之介	次週までに配布資料を読んでおく		
第6回	大正期の小説・芥川龍之介	次週までに配布資料を読んでおく		
第7回	大正期の小説・芥川龍之介	次週までに配布資料を読んでおく		
第8回	大正期の童話・宮澤賢治	次週までに配布資料を読んでおく		
第9回	大正期の童話・宮澤賢治	次週までに配布資料を読んでおく		
第10回	大正期の童話・宮澤賢治	次週までに配布資料を読んでおく		
第11回	昭和戦前期の小説・中島敦	次週までに配布資料を読んでおく		
第12回	昭和戦前期の小説・中島敦	次週までに配布資料を読んでおく		
第13回	昭和戦前期の詩・萩原朔太郎	次週までに配布資料を読んでおく		
第14回	昭和戦前期の詩・萩原朔太郎	次週までに配布資料を読んでおく		
第15回	全体のまとめ	試験の準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	課さない			
小テスト等	課さない			
成果発表	課さない			
受講態度他	30%(出席)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	およそ授業を受講する上での一般的なルールを守る			
教科書	使用しない。小説などの本文および資料は複写を授業時に配布する。			
指定図書	配布資料に記載			
参考図書	配布資料に記載			
オフィスアワー	金曜日午前中の授業の前後	メールアドレス		

授業科目	近・現代文学入門		開講時期	前期
担当教員	松下 博文		単位	2
授業の目的と概要	①近現代詩の文学的潮流を作家と作品を中心に検証することを目指す。 ②それぞれの講義において、必ず代表作一篇を取り上げ、原作を読みながら講義を進行する。 ③その読解力の基礎として、毎回、指定のテキストによる漢字の読み書きテスト（10分）を行なう。 ④場合によっては、特別講義として外部の講師を招聘することもある。			
到達目標	①各時代の文学的潮流の概略を把握する。 ②近現代詩の名作を原文で読める。 ③文学的感性を身につける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日本語・日本文学科のDP（2）「④各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる。」に関連する科目であり、「近・現代文学概論」「近・現代文学講読」「近・現代文学演習」へと発展・展開して行く科目である。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 島崎藤村			予習 詩人について文学事典で調べる	
第2回 高村光太郎			予習 詩人について文学事典で調べる	
第3回 北原白秋			予習 詩人について文学事典で調べる	
第4回 萩原朔太郎			予習 詩人について文学事典で調べる	
第5回 室生犀星			予習 詩人について文学事典で調べる	
第6回 西脇順三郎			予習 詩人について文学事典で調べる	
第7回 宮沢賢治			予習 詩人について文学事典で調べる	
第8回 安西冬衛			予習 詩人について文学事典で調べる	
第9回 三好達治			予習 詩人について文学事典で調べる	
第10回 草野心平			予習 詩人について文学事典で調べる	
第11回 伊東静雄			予習 詩人について文学事典で調べる	
第12回 中原中也			予習 詩人について文学事典で調べる	
第13回 石垣りん 茨木のり子 新川和江			予習 詩人について文学事典で調べる	
第14回 黒田三郎 吉野弘			予習 詩人について文学事典で調べる	
第15回 谷川俊太郎			予習 詩人について文学事典で調べる	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100％ 3回提出。			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席（欠席扱い）させます。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物は出さないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	山内祥史編『新編 日本現代詩』（双文社出版）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日 12時30分～13時まで		メールアドレス	

授業科目	近代日本とアジア		開講時期	後期
担当教員	横山 豪志		単位	2
授業の目的と概要	<p>国際的な視野を持つために、近代日本とアジアの関係について、印象論や思い込みあるいは一面的な見方ではなく、文脈に即した事実関係に基づき、総合的に理解していく姿勢を身につけること、これがこの講義の目的です。戦争や侵略もさることながら、そこに至った経緯、具体的には、近代の日本は「アジア」をどう捉え、どう付き合おうとしたのか、という思想面にも焦点をあて、理解を深めていきます。</p> <p>近代の日本にとってアジアは両義的な存在でした。日本はアジアなのかそれとも脱亜に始まり、「アジアの解放」を謳いながらアジアを侵略し、そして現在も親近感と優越感を併せ持っているかのようです。日本にとって「アジア」とは一体何なのか、多角的な考察を目指します。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近代の日本は、「アジア」をどう捉えていたのかを、系統立てて説明できる。</li> <li>2. 近代の日本が、アジアにどう関与していったのかを具体的に説明できる。</li> <li>3. アジアの人びとは、近代日本についてどのように捉えていた、あるいは捉えているのかを説明できる。</li> <li>4. 近代日本とアジアの関係について、学術的信用度の高い文献を、自ら集め分析することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この講義は、アジア文化学科のDP3「アジアの地理・歴史についての基礎的・専門的知識を身につけている。」の達成に関わる科目です。</p> <p>とりわけ東アジアや東南アジアといった日本に近接する地域に関して「東アジア近現代史」、「東南アジア近現代史」を履修したうえで、この科目を履修すると、近代の日本とアジアの関係について理解を深めることができます。</p> <p>近代以前の日本とアジアの関係については「日中交流史」や「シルクロード文化交流史」の履修を通じて学ぶことができます。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション 根拠のある議論のために		第2回用レジュメ、資料に基づき予習		
第2回 アジアとは、日本にとってのアジア		第3回用レジュメ、資料に基づき予習		
第3回 脱亜論とアジア主義		第4回用レジュメ、資料に基づき予習		
第4回 アジア主義の系譜(1)宮崎滔天など		第5回用レジュメ、資料に基づき予習		
第5回 アジア主義の系譜(2)石原莞爾、大川周明		第6回用レジュメ、資料に基づき予習		
第6回 日本のアジア進出(1) 蝦夷・琉球・台湾		第7回用レジュメ、資料に基づき予習		
第7回 日本のアジア進出(2) 朝鮮・満洲		第8回用レジュメ、資料に基づき予習		
第8回 時代の見方		第9回用レジュメ、資料に基づき予習		
第9回 朝鮮半島の植民地支配		第10回用レジュメ、資料に基づき予習		
第10回 日本の南方関与		第11回用レジュメ、資料に基づき予習		
第11回 近代日本への眼差し(1) 20世紀初めまで		第12回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備		
第12回 近代日本への眼差し(2) 1920年代以降		第13回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備		
第13回 今日のアジアから見た近代日本(1)韓国、台湾		第14回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備		
第14回 今日のアジアから見た近代日本(2)中国、東南アジア諸国		第15回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備		
第15回 戦後日本とアジア		期末レポート準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% 期末レポート40% 毎回提出の「講義の概要」(各回5段階評価)50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。</p> <p>その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	火14:50~14:40、水12:00~13:00、16:30~17:30	メールアドレス		



授業科目	グループアプローチ	開講時期	後期
担当教員	榊 祐子	単 位	2
授業の目的と概要	小中学校や精神科領域、企業など様々な領域で応用されている実践活動であるグループアプローチの基本的概念を理解し、実際の体験を通して自分自身のコミュニケーションや対人関係のとり方について振り返り、その効果を認識できるようになることを目的とする。この講義では、グループアプローチに関する理論のみにとどまらず、「実際に経験してみる」ということを重視する。自らの経験を通して感じたことを再認識する力を身につけるとともに、社会に適用できるようなグループの企画や運営方法についても実際に計画する。		
到達目標	①グループアプローチの方法や実践領域について説明することが出来る ②グループをファシリテート（促進）する技法を実践することが出来る ③エクササイズでの体験について、自らが感じたことやグループのプロセスについて解釈し、表現することが出来る ④現代社会においてグループアプローチを適用、介入されうる問題を推測し、実践方法を構築することが出来る		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に発達臨床心理コースのDP④人間が直面する心理・社会的諸問題や諸課題に対処し、改善・解決を図るために有効な援助法や社会資源・制度について説明することができる。」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1 回	オリエンテーション：授業の進め方と概要	グループアプローチのイントロダクションについての復習	
第 2 回	グループ体験①：他己紹介	他己紹介についての復習	
第 3 回	グループ体験②：絵による自己紹介	絵による自己紹介と他己紹介との違いについてのまとめ	
第 4 回	グループ体験③：私は誰？	自己概念についての復習	
第 5 回	グループ体験④：私の第一印象	第一印象の形成についての復習	
第 6 回	振り返り①：これまでのグループ体験についての振り返り	自己概念、自己紹介についての復習	
第 7 回	グループ体験⑤：流れ星	コミュニケーションの方法についての振り返り	
第 8 回	グループ体験⑥：図形伝達	コミュニケーションの方法の違いについての振り返り	
第 9 回	グループ体験⑦：自分の話し方、聴き方	自分のコミュニケーションのあり方についての振り返り	
第10回	グループ体験⑧：聴く、話す、観る	効果的なコミュニケーションの方法についての復習	
第11回	振り返り②：これまでのグループ体験についての振り返り	様々なコミュニケーションの方法についての復習	
第12回	グループアプローチの全体像①	グループアプローチの方法についての復習	
第13回	グループアプローチの全体像②と模擬グループの企画と運営計画①	グループの目的についての整理	
第14回	模擬グループの企画と運営計画②	グループの実施計画についての復習	
第15回	まとめと模擬グループの発表	グループの実施計画についての振り返り	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60％ グループの概要と体験したこと、模擬グループの計画について		
小テスト等	20％ 毎回のグループ体験についてのレポートと振り返りのレポート		
成果発表	なし		
受講態度他	20％ グループへの参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	「集団は苦手」など、受講にあたり、不安がある人は事前に相談してください。 毎回のグループ体験に参加することが重要です。出席重視の授業であり、授業前半にグループ分けをするので遅刻も厳禁です。		
教科書	指定なし		
指定図書	指定なし		
参考図書	星野欣生『人間関係づくりトレーニング』金子書房 (財)日本レクレーション協会『新グループワーク・トレーニング』遊戯社		
オフィスアワー	火曜日5限	メールアドレス	

授業科目	グローバルツーリズム I		開講時期	前期
担当教員	三日月 雅子		単位	2
授業の目的と概要	英語を使う能力があれば、世界における機会が大きく広がるということは紛れもない事実です。この授業では、世界の国々の歴史・文化・社会などを紹介する映像 (DVD) を通して、世界の人々が話す生の英語に触れて、その多様性と柔軟性に目を向けてみましょう。単語・語句の学習や歴史・地理など様々な側面から観光英語の基礎力を養います。ReadingとListeningのスキルアップと、海外の文化や観光に関する知識を、国際共通語である英語を通して学習し理解することを目的とします。			
到達目標	1. 観光英語の学習をする。 2. Reading, Listening, Writingの3技能を増強する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に世界の国々の歴史・文化・社会などの学習を通して、海外の文化や観光に関する知識を養う科目です。三年生に向けて開講されている「Hotel and Airline English」を受講することにより、海外への理解がさらに深まり、英語を活かすための職業上の知識やスキルの基礎を学びます。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション：授業概要の説明		課題	
第2回	Unit 1		課題	
第3回	Unit 2		課題	
第4回	Unit 3		課題	
第5回	Unit 4		課題	
第6回	Unit 5		課題	
第7回	Unit 6		課題	
第8回	Unit 7		課題	
第9回	Unit 8		課題	
第10回	Unit 9		課題	
第11回	Unit 10		課題	
第12回	Unit 11		課題	
第13回	Unit 12		課題	
第14回	Unit 13		課題	
第15回	まとめ		復習	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%：定期試験の評価に基づく			
レポート	必要に応じて指示			
小テスト等	ノートチェックを実施する			
成果発表	20%：授業時の発表			
受講態度他	20%：出席状況および発表等による授業への参加を考慮			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	指示された課題の予習が必ず必要です。 辞書を必ず持参すること。			
教科書	著者：Scott Berlin他 World Adventures 出版社：金星堂 ISBN978-4-7647-3907-9			
指定図書	特になし			
参考図書	授業時に適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日：昼休みと4限目以降 水曜日：昼休み		メールアドレス	

授業科目	グローバルツーリズムⅡ		開講時期	後期
担当教員	三日月 雅子		単位	2
授業の目的と概要	英語を使う能力があれば、世界における機会が大きく広がるということは紛れもない事実です。後期のこの授業では、前期に引き続き世界の国々の歴史・文化・社会などを紹介する映像（DVD）を通して、世界の人々が話す生の英語に触れて、その多様性と柔軟性に目を向けてみましょう。単語・語句の学習や歴史・地理など様々な側面から観光英語の基礎力を養います。ReadingとListeningのスキルアップと、海外の文化や観光に関する知識を、国際共通語である英語を通して学習し理解することを目的とします。			
到達目標	1. 観光英語の学習をする。 2. Reading, Listening, Writingの3技能を増強する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に世界の国々の歴史・文化・社会などの学習を通して、海外の文化や観光に関する知識を養う科目です。三年生に向けて開講されている「Hotel and Airline English」を受講することにより、海外への理解がさらに深まり、英語を活かすための職業上の知識やスキルの基礎を学びます。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション：授業概要の説明		課題	
第2回	Unit 1		課題	
第3回	Unit 2		課題	
第4回	Unit 3		課題	
第5回	Unit 4		課題	
第6回	Unit 5		課題	
第7回	Unit 6		課題	
第8回	Unit 7		課題	
第9回	Unit 8		課題	
第10回	Unit 9		課題	
第11回	Unit 10		課題	
第12回	Unit 11		課題	
第13回	Unit 12		課題	
第14回	Unit 13		課題	
第15回	まとめ		復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	60%：定期試験の評価に基づく			
レポート	必要に応じて指示			
小テスト等	必要に応じて実施			
成果発表	20%：授業時の発表			
受講態度他	20%：出席状況および発表等による授業への参加を考慮			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	指示された課題の予習が必ず必要です。 辞書を必ず持参すること。			
教科書	著者：Scott Berlin他 On Board for Mre World Adventures 出版社：金星堂 ISBN978-4-7647-3991-8			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に適宜紹介する			
オフィスアワー	火曜日：昼休みと4限目以降 金曜日：昼休み		メールアドレス	

授業科目	経営管理論		開講時期	前期
担当教員	藤原 隆信		単位	2
授業の目的と概要	一般的に、企業経営にはヒト、モノ、カネ、情報といった経営資源が存在し、経営者はそれら経営資源を効果的にマネジメント（管理）していただくことが求められています。本科目では、企業の経営管理に関する諸理論を学ぶとともに、それらの理論を具体的な事例に当てはめながら考えていきます。受講生の皆さんが、経営管理に関する諸理論を正確に理解し、具体的な経営現場への適応力を身に付けることで、現代企業が直面する多様な管理問題を「経営者の視点」と「労働者の視点」の両方から考え、その解決方法を提案できるようになることを目指します。			
到達目標	①企業（組織）と労働者（個人）の関係を、身近な例を使って説明できる。 ②企業で働く人々の「欲求」について理解し、それをマネジメントする方法を説明できる。 ③自分が管理者になった際、どのように部下と良好な関係を構築すれば良いかを説明できる。 ④上記①～③を踏まえ、どのような経営管理（マネジメント）が、企業（組織）と労働者（個人）をとともに成長・発展させることができるのかを自分の言葉で説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に現代社会学部ビジネス社会コースDP2「ビジネス組織の目標を達成していくための、効果的なマネジメントのあり方を説明することができる。」の達成に関わる科目です。「ホスピタリティと経営戦略」や「組織行動論」、「リスクマネジメント」をあわせて受講することで、基幹科目から発展科目へと学びの幅を広げ、ビジネス社会の多様性を理解できるようになります。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	はじめに ——経営管理論を学ぶ意義	日常生活で「管理」を意識するのはどのような時ですか？考えてきて下さい。		
第2回	個人と組織の関係を考える（1） ——公式組織と非公式組織（人間関係論）	自分が所属している「組織」にはどのようなものがあるか考えて下さい。		
第3回	個人と組織の関係を考える（2） ——個人目的と組織目的（バーナード理論）	自分が「組織」に所属する理由（複数の組織について）を考えてきて下さい。		
第4回	個人と組織の関係を考える（3） ——VTRで考える経営管理（個人と組織の統合とは？）	講義前課題（個人目的と組織目的の関係を考える内容）をやってきて下さい。		
第5回	経営管理の基礎を考える（1） ——マズローの「欲求階層説」	あなたが今、「一番欲しいもの」と「欲しい理由」を考えてきて下さい。		
第6回	経営管理の基礎を考える（2） ——マグレガーの「X-Y理論」	「好きな先生」と「苦手な先生」について、その理由を考えてきて下さい。		
第7回	経営管理の基礎を考える（3） ——VTRで考える経営管理（人事管理はどうあるべきか？）	講義前課題（「部下に対する接し方」を考える内容）をやってきて下さい。		
第8回	経営管理の基礎を考える（4） ——成果発表&討論（人事管理はどうあるべきか？）	チームメンバーで議論し、発表の準備をしてきて下さい。		
第9回	経営管理の応用を考える（1） ——ハーズバーグの「動機づけ-衛生理論」	仕事に対するやる気は何によってもたらされるのかを考えてきて下さい。		
第10回	経営管理の応用を考える（2） ——VTRで考える経営管理（モチベーション管理）	講義前課題（「部下への仕事の与え方」を考える内容）をやってきて下さい。		
第11回	経営管理の応用を考える（3） ——成果発表&討論（モチベーション管理）	チームメンバーで議論し、発表の準備をしてきて下さい。		
第12回	経営管理の実践を考える（1） ——『もしドラ』のマネジメント①	事前に配布された資料に目を通し、与えられた課題をやってきて下さい。		
第13回	経営管理の実践を考える（2） ——『もしドラ』のマネジメント②	事前に配布された資料に目を通し、与えられた課題をやってきて下さい。		
第14回	経営管理の実践を考える（3） ——『もしドラ』のマネジメント③	事前に配布された資料に目を通し、与えられた課題をやってきて下さい。		
第15回	経営管理の実践を考える（4） ——成果発表&討論（マネジメントの実践）	チームメンバーで議論し、発表の準備をしてきて下さい。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	期末レポート（30%）、講義前課題レポート（15%）、講義内課題レポート（15%）の提出状況（内容含む）で判断する。			
小テスト等	なし。			
成果発表	30% 授業の進行に合わせて適宜、チームでの発表をしてもらいます。その内容で判断します。			
受講態度他	10% 授業への出席状況や受講態度などを勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目では、授業の中で課題レポートの作成やチーム討議、チーム発表に取り組んでもらう予定にしています。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。			
教科書	担当教員が作成した資料を使用する（授業の際に配布する）。			
指定図書	なし。			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12：20～13：10） ※事前に予約を取って下さい。	メールアドレス		

授業科目	経営史	開講時期	後期
担当教員	古田 龍輔	単 位	2
授業の目的と概要	<p>「経営」という言葉を見ると、現代の会社を想像するかも知れませんが、国家も含めてどんな組織も、何らかの共通の目的を達成するには不可欠の考え方です。太古の昔から現代に至るまで、革新的な経営のやり方を実行できた組織が生き残り繁栄してきました。この科目では、江戸時代から現代までの歴史を対象に、日本人はどのように賢いまたは愚かな経営を行ってきたのかを理解してもらいます。ただし、講義を聴くだけの学習スタイルではなく、グループワークを通じて学生同士が教え合うアクティブ・ラーニングを全面的に導入します。具体的には、受講生は数名のグループに分かれ、12個の設問ごとに毎週、3グループが調査内容を発表します。どのグループも2～3回の発表を行うことになります。各グループの評価は、所定の評価項目にしたがってグループ相互に行います。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 所定の設問に対して、グループで必要な資料の取捨選択ができ、お互いに読み教えるによって適切な解答を導きだせる。</li> <li>2 導きだした解答をPowerPointのスライドにわかりやすくまとめ、他の学生の前で明瞭かつ流暢に説明できる。</li> <li>3 他のグループの発表内容を、資料収集から発表まで複数の側面から適切に評価できる。</li> <li>4 他のグループの発表を聴いたあと、疑問を感じたら進んで質問ができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、ビジネス社会コースのDP2の「ビジネス組織の目標を達成していくための、効果的なマネジメントのあり方を説明することができる」を目指す最初の科目になります。後期の同じ時間に「ベンチャー起業論」がありますが、ここでは会社をどのように立ち上げるかを学ぶので、経営史で習得した幅広い経営の見方があれば、理解するのが容易になると思います。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
授業全体の概要説明		とくに指定なし	
江戸時代の商家経営 1		当番のグループは発表資料と用意し練習しておく。	
効果的なプレゼンテーションのやり方 (外部講師によるデモンストレーション)		とくに指定なし	
江戸時代の商家経営 2		当番のグループは発表資料と用意し練習しておく。	
明治・大正時代の工業経営 1		当番のグループは発表資料と用意し練習しておく。	
明治・大正時代の工業経営 2		当番のグループは発表資料と用意し練習しておく。	
戦時下の軍需経営 1		当番のグループは発表資料と用意し練習しておく。	
戦時下の軍需経営 2		当番のグループは発表資料と用意し練習しておく。	
終戦後の復興期における企業経営		当番のグループは発表資料と用意し練習しておく。	
高度成長期の企業経営 1		当番のグループは発表資料と用意し練習しておく。	
高度成長期の企業経営 2		当番のグループは発表資料と用意し練習しておく。	
1990年以降の企業経営 1		当番のグループは発表資料と用意し練習しておく。	
1990年以降の企業経営 2		順番のグループは発表資料と用意し練習しておく。	
これからの企業経営		順番のグループは発表資料と用意し練習しておく。	
グループワークを振り返って		とくに指定なし	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	30% 定期試験中に60分間で行われる試験の点数 (100点満点)		
レポート	30% 教科書を読んで提出する読後シートの合計点		
小テスト等	なし		
成果発表	30% グループで合計3回の発表をしたあと、受講生の相互評価による点数		
受講態度他	10% 授業の出席状況		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	無断欠席をしたら、受講を放棄したものと見なします。やむを得ず欠席する場合は、必ずメールなどで事前に連絡すること。ただし、連絡すれば欠席はいくらでも出来るというわけではありません。		
教科書	とくになし		
指定図書	日本経営史の基礎知識		
参考図書	とくになし		
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	経営情報論 I		開講時期	前期
担当教員	古田 龍輔		単位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は受講生諸君の情報活用力を高めることを目的にしています。情報活用力と言えば、すぐに情報機器の操作を思い浮かべるかも知れませんが、経営情報論 I ではそれよりもむしろ、そもそも何が正しい情報なのかを判別できるための基礎知識から講義を始めることにします。</p> <p>(1) 世の中で流通している情報は、マスコミ・ロコミ・インターネットと発信源が実に様々なので、信頼できる情報をうまく判別できるための基礎知識として、日本そして世界の実情を理解してもらうこと。これを知ることが大人にとっても難しいのですが、日本のマスコミからは決して発信されない世界の現実を知っておく必要があります。</p> <p>(2) いま世の中に出回っている安価または無料のネットサービスを知り活用することで、個人としての情報感度を高めてもらうこと。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 一口に「情報」と言っても、「資料情報」・「信号情報」・「意味情報」といった区別があることを理解できる。</li> <li>2 マスコミやネットで流通する雑多な情報から、ある程度まで信頼できる情報を取捨選択できる。</li> <li>3 現代企業の経営にとってデータ分析がいかに重要であるかを、実例を見聞することで理解できる。</li> <li>4 上場企業の決算書を経営分析してみることで、初歩的にでも企業活動を数値的に理解できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、ビジネス社会コースのDP4の「現状分析、要因分析の方法に沿って問題を解明していく方法と実践力を身に付けている」に対応しています。1年次の「データからみる社会」と「調査データの集め方」が密接に関連しています。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 科目の概要説明		とくになし		
第2回 情報の意味とデータ分析による仮説検証の重要性 1		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第3回 情報の意味とデータ分析による仮説検証の重要性 2		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第4回 若者とICT		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第5回 地震とマスコミ報道		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第6回 再度、人工知能を考える		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第7回 マスコミ情報の信頼性 1		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第8回 マスコミ情報の信頼性 2		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第9回 株式相場の真実 1		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第10回 株式相場の真実 2		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第11回 データ分析と企業経営		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第12回 経営分析実習 1		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第13回 経営分析実習 2		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第14回 上場企業の経営分析発表会 2		グループで選んだ上場企業の経営分析をプレゼンできるように準備する。		
第15回 上場企業の経営分析発表会 2		グループで選んだ上場企業の経営分析をプレゼンできるように準備する。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	30% 定期試験中に60分間で行われる試験の点数(100点満点)			
レポート	30% 指定資料を読んで提出する予習シートの評価点			
小テスト等	なし			
成果発表	30% グループ課題の評価点			
受講態度他	10% 授業の出席状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	無断欠席をしたら、受講を放棄したものと見なします。やむを得ず欠席する場合は、必ずメールなどで事前に連絡すること。ただし、連絡すれば欠席はいくらでも出来るというわけではありません。			
教科書	とくになし			
指定図書	とくになし			
参考図書	とくになし			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	経営情報論Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	古田 龍輔		単位	2
授業の目的と概要	この科目は受講生諸君の情報活用力を高めることを目的にしています。前期の経営情報論Ⅰでは、世間一般や企業経営において情報やデータがいかに重要であるかを学びますが、それだけでは仕事で使える情報活用力を身に付けることはできません。そこで経営情報論Ⅱでは、Excelのピボットテーブルという簡単ながら非常に強力なデータ分析のツールをかなりのレベルまで使えることを目指します。高校時代に検定試験のために操作実習した人もいますが、今回はいろんな経営関連のデータを使って、仮説検証型の実践的な分析を何度もしてもらいます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>Excelのピボットテーブルをデータ分析のツールとして実務的なレベルで使える。</li> <li>一連のピボット分析を通じて、仮説検証型の問題解決発想を身に付ける。</li> <li>データ分で解明した事実をわかりやすく説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、ビジネス社会コースのDP4の「現状分析、要因分析の方法に沿って問題を解明していく方法と実践力を身に付けている」に対応しています。1年次の「データからみる社会」と「調査データの集め方」と、2年次前期開講の「経営情報論Ⅰ」が密接に関連しています。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 科目の概要説明		とくになし		
第2回 ピボット分析の実習1		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第3回 実習1の結果発表		発表できるようにデータ分析をし、筑女ネットに提出しておく。		
第4回 ピボット分析の実習2		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第5回 実習2の結果発表		発表できるようにデータ分析をし、筑女ネットに提出しておく。		
第6回 ピボット分析の実習3		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第7回 実習3の結果発表		発表できるようにデータ分析をし、筑女ネットに提出しておく。		
第8回 ピボット分析の実習4		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第9回 実習4の結果発表		発表できるようにデータ分析をし、筑女ネットに提出しておく。		
第10回 アンケート調査課題の仮説設定		グループの仮説について発表できるように事前に準備しておく。		
第11回 アンケート調査課題の質問紙作成1		アンケート調査用紙の初期バージョンを準備しておく。		
第12回 アンケート調査課題の質問紙作成2		アンケート調査用紙の最終バージョンを準備しておく。		
第13回 アンケート調査課題のデータ入力		アンケート調査用紙を回収しておく。		
第14回 アンケート調査課題の事前発表会		アンケート調査データを分析して発表できるように準備しておく。		
第15回 アンケート調査課題の最終発表会		アンケート調査データをさらに分析して発表できるように準備しておく。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	30% ピボットテーブルのスキルを確認するために、実技試験を行います。			
レポート	30% 指定資料を読んで提出する予習シートの評価点			
小テスト等	なし			
成果発表	30% グループ課題の評価点			
受講態度他	10% 授業の出席状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	無断欠席をしたら、受講を放棄したものと見なします。やむを得ず欠席する場合は、必ずメールなどで事前に連絡すること。ただし、連絡すれば欠席はいくらでも出来るというわけではありません。			
教科書	とくになし			
指定図書	とくになし			
参考図書	とくになし			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	経済学	開講時期	後期
担当教員	妻 海善	単位	2
授業の目的と概要	<p>日本は様々な面で国際社会と関わりを持ちながら、自らの経済・経営システムを発展させてきた。本講座では、近代産業の形成期から現在に至るまでの約120年間の日本経済の変化の流れと特徴を理解するとともに、現在の日本経済を理解するために必要な基礎的知識を学ぶことを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>17世紀後半から現在に至るまでの日本経済の変化と経済システムの形成過程でみられる特徴を説明する。</li> <li>現在の日本経済が抱えている諸問題を、雇用、産業、金融、経済政策、少子高齢化、国際分業に焦点をおいて説明する。</li> </ol>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>幕藩体制以後から現在に至るまでの現代日本経済の発展の歩みと特徴が理解できる。</li> <li>日本的経済システムが形成された背景は何かを説明できる。</li> <li>現在の日本経済の現状、直面している課題が理解できる。</li> <li>国際情勢が日本経済に与える影響、日本経済がアジアや世界経済に及ぼす影響が説明できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、文学部共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。関連科目としては、「経済学概論Ⅰ」「経済学概論Ⅱ」がある。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	授業概要紹介、近代産業の形成期	内容のまとめのため、ノートを準備する	
第2回	産業基盤の整備と工業化	地租改正と殖産興業政策を調べる	
第3回	日本の産業革命、会社制度の発展	1914-1937年の国際情勢を調べる	
第4回	経済統制期の経済システム	1937-1954年の国勢情勢を調べる	
第5回	GHQと経済民主化	GHQの経済面の3大改革を調べる	
第6回	GHQ管理下での日本の貿易、傾斜生産方式	朝鮮戦争が日本経済に与えた影響を調べる	
第7回	高度成長の国内環境と国際環境	戦後から現在までの景気循環を確認する	
第8回	高度成長期の産業発展	高度成長の成果と問題を調べる	
第9回	高度成長期の企業行動と日本的経営	雇用面での3種の神器を調べる	
第10回	オイルショック以後の国際情勢	オイルショック以後の国際情勢を調べる	
第11回	プラザ合意とバブル経済	プラザ合意が日本、アジア諸国に及ぼした影響を調べる	
第12回	バブル崩壊後の長期不況	バブル崩壊後の日本経済の課題を調べる	
第13回	現代日本経済が抱えている諸問題	少子高齢化、国際分業、金融システム、雇用不安を中心にまとめる	
第14回	アベノミクスの背景と目標は	3本の矢、新3本の矢を調べる	
第15回	まとめ	全体内容のまとめ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	0%		
小テスト等	小テスト100%		
成果発表	0%		
受講態度他	0%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>①B5サイズのノートを準備し毎回の授業の内容をまとめておく。</li> <li>②小テストには手書きノートのみ持ち込可</li> <li>③欠席が5回を超えると無資格となる(就職活動、病気、その他の理由による欠席も5回の中でカウントする)。</li> </ol>		
教科書	毎回、資料配布		
指定図書	特になし		
参考図書	講義の中で適宜紹介		
オフィスアワー	月、水曜日の昼休み	メールアドレス	



授業科目	経済学概論（国際経済学を含む）		開講時期	後期
担当教員	村上 佳世		単 位	2
授業の目的と概要	本講義は、初めて経済学を学ぶ学生のための経済学の入門コースである。現代の日本経済及び世界経済の動向について関心を高め、日本経済のグローバル化をはじめとする経済生活の変化、現代経済の仕組みや機能について身近なものとして理解するとともに、その特質を把握し、経済についての基本的な見方や考え方を身につける。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 経済の基礎理論に関する知識を身につける。</li> <li>2 経済理論はどのように作られ、記述されるか、その仕組みを理解する。</li> <li>3 現実の経済問題を理論的に説明できる知識を身につける。</li> <li>4 経済人として効率よく行動する方法を考え、実行することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、人間科学部の以下のコースのDPの達成する科目です。発達臨床心理コースおよび社会福祉コースのDP2「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる」、初等教育コースのDP1「教育者としての豊かな人間性や社会人として必要な知識・技能を身に付けることができる」、幼児保育コースのDP1「保育者としての豊かな人間性や社会人として必要な知識・技能を身に付けることができる」。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション	配布テキストを通し読みする		
第2回	経済学の論理と方法①基本的な考え方	配布テキストを通し読みする		
第3回	経済学の論理と方法②費用の考え方	配布テキストを通し読みする		
第4回	需要、供給、価格（市場均衡）	配布テキストを通し読みする		
第5回	価格弾力性	配布テキストを通し読みする		
第6回	市場の効率性①余剰の考え方	配布テキストを通し読みする		
第7回	市場の効率性②政策介入の効果	配布テキストを通し読みする		
第8回	不完全な市場①導入と外部性	配布テキストを通し読みする		
第9回	不完全な市場②公共財	配布テキストを通し読みする		
第10回	不完全な市場③独占企業の戦略（価格差別）	配布テキストを通し読みする		
第11回	情報の非対称性	配布テキストを通し読みする		
第12回	マクロ経済の指標①経済成長	配布テキストを通し読みする		
第13回	マクロ経済の指標②物価指数と為替レート	配布テキストを通し読みする		
第14回	マクロ経済の指標③失業統計	配布テキストを通し読みする		
第15回	復習テスト	配布テキストを通し読みする		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	100%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>①毎回の授業の最後に小テスト（簡単な穴埋め数問、論述式1問）を行う。</li> <li>②欠席が6回以上の場合には評価しない（就職活動、病気、その他の理由による欠席は証明書提出要）。</li> <li>③最後の小テストはすべて論述式（1週間前にWeb上で問題を公開する）。</li> </ol>			
教科書	毎回の授業時にプリントを配布する。配布資料の全ては、授業後に筑女ネットでダウンロード可。欠席した場合は、各自ダウンロードし、次回の授業までに必ず自分で読んでおくこと。			
指定図書	特になし。			
参考図書	J・E・スティグリッツ, C・E・ウォルシュ著（藪下他訳）「スティグリッツミクロ経済学」東洋経済新聞社。 J・E・スティグリッツ, C・E・ウォルシュ著（藪下他訳）「スティグリッツマクロ経済学」東洋経済新聞社。			
オフィスアワー	月曜昼休み（12:20-13:10）、火曜昼休み（12:20-13:10）	メールアドレス		

授業科目	経済学概論 I		開講時期	前期
担当教員	妻 海善		単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、初めて経済学を学ぶ学生のための経済学の入門コースである。経済学概論 I ではマイクロ経済学に焦点を当て、消費者と生産者の行動、また消費者と生産者があう市場の種類と各市場における価格決定理論を理解することを目標とする。</p> <p>①需要曲線と供給曲線による市場均衡、消費者理論、企業の生産理論、市場の種類と価格決定理論、市場失敗の原因を説明する。</p> <p>②国際貿易の基本仕組みにマイクロ経済理論がどのように応用されるかを説明する。</p> <p>③マイクロ経済理論づくりの思考を説明する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済理論はどのように作られるか、その仕組みが理解できる。</li> <li>2. 経済の基本理論の知識を身に付けることができる。</li> <li>3. 現実の経済問題を理論的に説明する知識を身に付けることができる。</li> <li>4. 経済人として効率高く行動する方法を考え、実行することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、</p> <p>①アジア文化学科のDP2「東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの各地域の社会事情について、具体的な事例を通して説明できる」、②アジア文化学科の「中等教職課程授業科目」で、「高等学校1種・公民」を充足するための科目です。</p> <p>この授業との関連科目は、「アジア経済論」「経済社会演習」「経済学」「女性と労働」などである。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	授業計画紹介、現代経済学の範囲や分析体系	ノートを準備する		
第 2回	経済学の論理と方法	マクロ経済学とマイクロ経済学の違いをまとめる		
第 3回	需要決定要因	需要決定要因をまとめる		
第 4回	供給決定要因	供給決定要因をまとめる		
第 5回	市場均衡	最低価格、最高価格を調べる		
第 6回	限界効用理論	限界効用逓減法則、価値の逆説を理解する		
第 7回	無差別曲線理論	無差別曲線の傾きの意味を考える		
第 8回	消費者均衡	無差別曲線理論に基づき、需要曲線を誘導する		
第 9回	代替効果と所得効果	代替効果と所得効果を描いてみる		
第10回	企業の利潤極大化	限界費用曲線と平均費用曲線を描いてみる		
第11回	短期の生産曲線と費用曲線	生産において短期と長期の区分を考える		
第12回	市場の種類	四つの市場の違いを比較する		
第13回	寡占理論	共謀、ゲーム理論を調べる		
第14回	寡占理論とゲーム理論	ゲーム理論の発展を調べる		
第15回	全体のまとめ	まとめ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	0%			
小テスト等	100%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>①B5サイズのノートを準備し毎回の授業の内容をまとめておく。</p> <p>②小テストには手書きノートのみ持ち込可</p> <p>③就職活動、病気、その他の理由による欠席は証明書提出要。</p> <p>④マクロ経済分析が体系的なマイクロ経済学に基づき、またマイクロ経済学はマクロ経済学の基礎を与えるので、1年を通しての受講を進める。</p>			
教科書	プリントは毎回の授業時に配る			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	火～木曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	経済学概論Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	妻 海善		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講座ではマクロ経済学に焦点を置き、国民所得、雇用と失業、インフレ率、消費、投資、貿易等のマクロ経済指標に影響を及ぼす要因を学び、具体的に日本経済を例とし、日本経済の動向をマクロ経済指標に基づいて理解する知識と能力を身に付けることを目標とする。</p> <p>①経済を見る二つの観点としてミクロ経済学とマクロ経済学があるが、経済学概論Ⅱではマクロ経済学に焦点をおいて講義を行う。</p> <p>②国民所得、雇用と失業、インフレ率、消費、投資、貿易等のマクロ経済指標の理論と仕組みを学ぶ。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マクロ経済指標の決定要因を説明することができる。</li> <li>2. 新聞やニュースで主に扱われる経済データの種類と用語、またそれを解釈する方法が理解できる。</li> <li>3. 政府の金融政策と財政政策が我々の生活に与える影響を説明することができる。</li> <li>4. 為替レート、金利、原油価格などが、日本経済に与える影響を的確な用語で説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、</p> <p>①アジア文化学科のDP2「東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの各地域の社会事情について、具体的な事例を通して説明できる」</p> <p>②アジア文化学科の「中等教職課程授業科目」で、「高等学校1種・公民」を充足するための科目です。</p> <p>この授業との関連科目は、「アジア経済論」「経済社会演習」「経済学」「女性と労働」などである。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	本講義で学ぶこと、ミクロとマクロの関係	ミクロとマクロの思考の違いを比較する		
第 2回	マクロ経済学の起源	マクロ経済理論の流れをまとめる		
第 3回	ケインズの一般理論	国民所得を決める四つの要因の仕組みを描いてみる		
第 4回	国内総生産	生産面と所得面での国民所得を比較する		
第 5回	国民所得関連指標	GDPの世界順位を調べる		
第 6回	経済データの読み方	経済データの相互つながりを考える		
第 7回	景気循環	日本の戦後の景気循環を描いてみる		
第 8回	先行指数・運行指数・一致指数	雇用状態がわかる景気指数を調べる		
第 9回	国際金利、原油価格と日本経済	国際金利、原油価格の推移を調べる		
第10回	為替レートの歴史、為替レートが日本経済に与える影響	円高、円安の効果を比較する		
第11回	国際貿易、日本の貿易収支	日本の貿易収支赤字の原因を調べる		
第12回	財政政策、金融政策	不況の時の財政・金融政策をまとめる		
第13回	社会問題を経済的に思考する方法	社会の諸問題の中で一つを選び、経済理論に基づいて考えてみる		
第14回	経済統計で社会現象を理解する	消費者決定、様々な不正、インセンティブなどを経済学的に考えてみる。		
第15回	全体のまとめ、小テスト、授業評価など	全体のまとめ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	0%			
小テスト等	小テスト100%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>※経済学概論Ⅰを受講してから本科目を受講してください。</p> <p>①B5サイズのノートを準備し毎回の授業の内容をまとめておく。</p> <p>②小テストには手書きノートのみ持ち込み可(ルーズリーフ持ち込み不可)。</p> <p>③欠席が5回を超えると評価しない(就職活動、病気、その他の理由による欠席は証明書提出要)。</p>			
教科書	プリントは毎回の授業時に配る。欠席した人はオフィスアワー時間に研究室に取りに行くこと。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜日～火曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	経済社会演習	開講時期	前期
担当教員	妻 海善	単位	2
授業の目的と概要	日本の経済と社会の最新の論点、アジア及び世界経済の大きな変化と重要な基本問題について現状を把握しながら、日本と世界経済との関連性を理解するのが目的である。 ①日本経済、海外経済、金融・マーケット、制度・政策、ビジネス・社会の最新の論点が何かを学ぶ。 ②毎回課題の内容を一緒に確認し、要約担当者は各課題の補足説明及びポイントを発表する。 ③受講者全員、各回の内容をノートにまとめ、試験に備える。		
到達目標	1. 就職試験の面接で、最近の日本経済と社会や世界経済の動きに関して質問されても困らないように、新社会人としての基礎知識を身につけることができる。 2. 私たちの暮らしを大きく左右するニュースが理解でき、日本の経済や国際情勢について説明できるようになる。 3. プレゼンテーションスキル、コミュニケーションスキル、責任感を向上することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本科目との関連科目は、「経済学概論ⅠとⅡ」、「経済学」、「東アジア入門」、「アジア経済論」である。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 (4/15休講、7/9補講予定) 授業概要・進み方を紹介する、次回の報告者及び要約担当者決める。(39) 女性活躍推進法		教科書を購入する	
第2回 日本経済； (1) 景気、 (2) 企業収益、 (3) 設備投資		消費増税の効果、日本企業の収益拡大要因、投資拡大可能性を調べる	
第3回 (4) 雇用・賃金、 (5) 個人消費、 (6) 住宅		女性/高齢者雇用増効果、増税後の個人消費への影響、貸家の状況を調べる	
第4回 (7) 公共事業、 (8) 輸出、 (9) 物価		期待投資分野、中国経済沈滞と輸出環境、日本の物価の行方を調べる	
第5回 (10) 生産性、 (11) 米国経済Ⅰ、 (12) 米国経済Ⅱ		持続的成長と生産性との関係、アメリカの景気と大統領選挙の効果を調べる	
第6回 (13) 欧州経済Ⅰ、 (14) 欧州経済Ⅱ、 (15) ロシア経済		ユーロ圏の経済の行方、ギリシャ・イギリスの政治不安、ロシア経済の行方は	
第7回 (16) 中国経済Ⅰ、 (17) 中国経済Ⅱ、 (18) アジア経済Ⅰ		中国の経済と経済外交の行方、アジア地域の重要選挙を調べる	
第8回 (30) 原油相場 (33) 所得税改革 (34) 消費税増税と低所得者対策		原油価格の行方、所得税改革と消費税増税の効果を調べる	
第9回 (19) アジア経済Ⅱ、 (20) 中南米経済、 (24) 国内金融政策		AEC元年、ブラジル経済の回復可能性、日銀の物価目標を調べる	
第10回 (25) 米国金融政策、 (27) 国内長期金利、 (28) 為替相場		米利上げ効果、日本のゼロ金利の行方、円安の行方を調べる	
第11回 第8回 ドキュメンタリー映画「花の夢ーある中国残留婦人ー」 上映と監督トーク (7/9予定、13:30-15:30) 飛翔会館3階、スクワアヴェアティーホール		レポート：800字程度(内容まとめ)、当日授業後提出(用紙配布)	
第12回 (35) 被用者保険 (36) マイナンバー (37) メガFTA		保険と給付、MN制度、TPPの行方を調べる	
第13回 (41) インバウンド観光、 (43) 北海道新幹線 (45) アジアのインフラ需要		訪日客拡大、アジアインフラへの日本企業の進出を調べる	
第14回 (46) インダストリー4.0 (49) 格差問題 (50) 東日本大震災から5年		ドイツの製造業戦略、日本の所得格差の原因、復興の道のりを調べる	
第15回 全体内容のまとめ		内容をまとめる	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし。		
レポート	なし		
小テスト等	小テスト80点		
成果発表	課題報告20点		
受講態度他	発表態度20点(出席13回以上、報告日に欠席していない受講者が対象)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1. B5サイズのノートを準備し毎回の課題のポイントをまとめる。 2. 全員内容を読み、まとめ役の人はポイントを説明する。 3. 小テストには手書きノートのみ持ち込可。 4. 欠席が5回を超えると評価しない(就活、病気、その他の理由による欠席は5回の中でカウントする)。 5. 本講座は、演習科目であるゆえ、受講者は報告順番を必ず守り、各課題を責任もって準備するのが求められる。		
教科書	みずほ総合研究所『経済がわかる 論点50、2016』東洋経済出版社、2015年11月		
指定図書	特になし。		
参考図書	特になし。		
オフィスワー	月、水曜日の昼休み	メールアドレス	

授業科目	研究基礎	開講時期	前期
担当教員	森田 真也・森田 理香	単位	2
授業の目的と概要	<p>大学院における専門的研究生活に必要な研究スキル（文献検索やレポート作成、プレゼンテーションに関わる諸技能）を身につける。</p> <p>この科目では、少人数の演習形式での授業を通して、大学院での研究生活、修士論文作成に関して必要なスキルを学ぶ。それによって大学院でのより主体的かつ専門的な修学環境の構築を目指す。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自分の専門領域の中から研究テーマを設定し、調査分析し、論を立てることができる。</li> <li>2) そのテーマについて、先行研究、参考文献の検索、フィールドワーク、インタビュー、アンケートの実施などの調査を行うことができる。</li> <li>3) 調査結果を文章にまとめて、その問題について自分の言葉で語ることができる。</li> <li>4) 問題提起・研究経過・分析解釈を短時間で要約し、口頭発表し、質疑応答に答え、議論を深めることができる。</li> <li>5) 修士論文作成に関する基礎的スキルを身に付ける。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	各自の研究テーマによる修士論文作成のための「研究指導Ⅰ」「研究指導Ⅱ」と関係する。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 授業のイントロダクション		大学院のシラバスを読んで参加すること	
第2回 大学院における研究とは		大学院のシラバスを読んで参加すること	
第3回 研究計画の立て方（問いのたて方）		各自の研究題材についてA4用紙一枚程度にまとめること	
第4回 文献検索の方法		自分の研究題材に関する文献を数冊列挙すること	
第5回 文献リストの作成、文献の読み方		指定された書式にあわせた文献リストの作成	
第6回 研究データの収集と分析		各自の研究内容の概要についてA4用紙一枚程度にまとめること	
第7回 研究の方法と研究倫理について		大学院生研究倫理綱領を読んで参加すること	
第8回 論文の輪読①		事前に配布された論文を熟読してくること	
第9回 論文の輪読②		事前に配布された論文を熟読してくること	
第10回 研究計画の作成		研究のアウトラインを作成すること	
第11回 プレゼンテーションと発表資料の作成①（ハンドアウト）		ハンドアウトの作成	
第12回 プレゼンテーションと発表資料作成②（パワーポイント作成）		パワーポイントの作成	
第13回 研究テーマによる口頭発表		発表と質疑応答	
第14回 レポートの作成		レポートの作成	
第15回 まとめ		全体の復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	50%		
小テスト等	20%（授業内での諸課題）		
成果発表	30%（研究発表）		
受講態度他	0%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席は必須である（諸事情で欠席の際には連絡すること）。この科目は、段階を追って毎回の課題を行うことで、大学院生活のための研究スキルを習得できるようにデザインされており、授業出席のほか、毎回の課題を確実に行うことが要求されている。		
教科書	特に指定しない		
指定図書	特に指定しない		
参考図書	授業内で指示を行う		
オフィスワーク	各担当教員の他科目のシラバスを参照すること。	メールアドレス	

授業科目	研究指導 I	開講時期	通年
担当教員	研究指導担当教員	単 位	4
授業の目的と概要	この授業科目は、修士論文作成のための基礎的な指導をするものである。「研究指導 I」においては、修士論文の完成に向けて、下記の授業（指導）計画にしたがって、研究計画を立て、研究課題の明確化、資料の収集方法、資料の講読あるいは解析（分析）、研究動向の把握、先行研究の整理、発表方法の習得等を内容とする個別的な指導を行う。 下記、授業（指導）内容に記載した時期を失することなく準備することはもとより、必要な資料を収集し、できるだけ多くの関連する資料文献を講読し、これらの先行研究を充分解析（分析）することが「研究指導 I」の重要な要素である。各自の研究テーマや研究方法に従い、個別もしくは複数での指導を行っていく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究計画を立て、研究課題を明確にし、関連する資料を収集することができる。</li> <li>2. 収集した資料を講読、解析（分析）し、先行研究の動向を把握して、研究の視点と方法を整理することができる。</li> <li>3. 研究の進行状況を報告書にまとめ、「中間発表会」の準備をととのえることができる。</li> <li>4. 修士論文作成の過程を通して、社会生活上の基礎的技能、特定分野の専門的知識、社会の多様な問題を考える視点を獲得することが出来る。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	研究のスキルを身につけ、研究計画に基づき、研究課題の明確化、論証性、独自性を追求していく。 主に「研究基礎」、「人間科学概論」、そして「研究指導 II」と関係する。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
前期 第 1 ～ 5回：	修士論文作成のための、研究テーマ、視座、方法、資料収集、資料の扱い方等の基礎的指導を受ける。「研究計画の概要」を作成し、提出する。	課題は研究指導教員の指示による	
前期 第 6 ～10回：	研究課題を明確化する。修士論文作成のための「研究計画書」を作成し、提出する。	課題は研究指導教員の指示による	
前期 第 11～15回：	資料収集と解析（分析）方法等の指導を受ける。資料を収集する。	課題は研究指導教員の指示による	
後期 第 16 ～20回：	研究動向を把握し、先行研究の整理と検証を行う。	課題は研究指導教員の指示による	
後期 第 21 ～25回：	文献、及び論文の講読を進め、資料の解析（分析）を進める。	課題は研究指導教員の指示による	
後期 第 26 ～30回：	一年間の研究概要をまとめる。「中間報告書」を作成、提出し、「中間報告会」の準備をする。指導教員の指示に従い、次年度、修士論文提出までの研究計画を確認する。	課題は研究指導教員の指示による	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし。		
レポート	20％ 各報告書、提出物の内容が評価の対象となる。		
小テスト等	なし。		
成果発表	20％ 指導における成果発表が評価の対象となる。		
受講態度他	60％ 資料収集のとりくみ、研究推進の姿勢が評価の対象となる。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	研究指導と修士論文作成の過程に基づき成績評価を行う。各研究指導教員の指示を受けること。 書類等の提出締め切りを厳守すること。 「研究基礎」を「研究指導 I」とあわせて履修すること。長期履修生は、「研究基礎」を出来るだけ「研究指導 I」以前の初年次に履修してほしい。 なお、「研究指導 I」は、修了予定年次の前年に履修すること。「研究指導 II」は、修了予定年次に履修すること。		
教科書	なし。		
指定図書	なし。		
参考図書	各研究指導教員の指示を受けること。		
オフィスワー	各研究指導教員の他科目のシラバスを参照すること。	メールアドレス	

授業科目	研究指導Ⅱ	開講時期	通年
担当教員	研究指導担当教員	単位	4
授業の目的と概要	この授業科目は、修士課程の修了年次、主に修士論文作成を指導するものである。「研究指導Ⅱ」においては、修士論文の完成に向けて、下記の授業（指導）計画にしたがい、各自の研究テーマに則して、論文全体のテーマ性、論証性、独自性を追及し、論文構成、執筆等について個別に指導を行う。 下記授業（指導）内容に記載した時期を失することなく、十分な検討を行いながら、修士論文完成に向けた授業（指導）を行う。各自の研究テーマや研究方法に従い、個別、もしくは複数での指導を行っていく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 収集した資料を講読、解析（分析）し、研究の視点と方法を明確にすることができる。</li> <li>2. 論証性、独自性を追求し、的確な論文構成を作成することができる。</li> <li>3. 先行研究の議論を踏まえた論理的な文章で、修士論文を執筆することができる。</li> <li>4. 修士論文の作成を通して、特定分野の専門的知識の獲得、自己と向きあい、現代社会を生きる力、社会の多様な問題を考え、アプローチする力を獲得することが出来る。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	研究計画に基づき、研究課題の明確化、論証性、独自性を追求していきながら、修士論文を作成する。 主に「研究基礎」、「人間科学概論」、そして「研究指導Ⅰ」と関係する。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
前期 第1～5回：	修士論文の中間発表を行う。「中間発表会」を通して、論文の研究課題、方法、論文構成等について検討し、方向性と骨子をまとめる。	課題は研究指導教員の指示による	
前期 第6～10回：	資料の講読、解析（分析）、研究の視点と方法について指導を受ける。論文題目を検討し、「修士論文題目届」を提出する。その後、必要に応じて「変更届」を提出する。	課題は研究指導教員の指示による	
前期 第11～15回：	論文全体の構成と執筆について指導を受ける。	課題は研究指導教員の指示による	
後期 第16～20回：	論文全体の構成と執筆について指導を受ける。「修士論文概要」を作成し、提出する。	課題は研究指導教員の指示による	
後期 第21～25回：	論文構成、文章、論旨の展開等に関する指導を受けながら、執筆を進める。	課題は研究指導教員の指示による	
後期 第26～30回：	修士論文をまとめ、提出する（1月15日（日曜日）の為→16日締め切り）。論文提出後は、「修士論文審査」における口頭試問の準備、「修士論文発表会」の準備を行う。	課題は研究指導教員の指示による	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
—	—	—	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	—		
レポート	20％ 各報告書、提出物の内容が評価の対象となる（修士論文は別途審査）。		
小テスト等	—		
成果発表	20％ 指導における成果発表が評価の対象となる（口頭試問は別途評価）。		
受講態度他	60％ 資料収集と解析（分析）のとりくみ、論文作成過程が評価の対象となる。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	研究指導と修士論文作成の過程に基づき成績評価を行う。各研究指導教員の指示を受けること。 書類等の提出締め切りを厳守すること。 「研究指導Ⅱ」は、修了予定年次に履修すること。 修士論文提出後の「修士論文審査」（2月予定）については別途評価する。 上記、合格者は「修士論文発表会」（3月予定）において口頭発表をする。		
教科書	なし。		
指定図書	なし。		
参考図書	各研究指導教員の指示を受けること。		
オフィスワー	各研究指導教員の他科目のシラバスを参照すること。	メールアドレス	

授業科目	研究ゼミナール		開講時期	後期
担当教員	荒巻・間瀬・Stewart・一木（順）・一ノ瀬・田口・吉野・高森・橋本		単位	2
授業の目的と概要	この授業は4年次開講の「卒業ゼミナール」の前段階と位置づけられるものです。1年次の「基礎ゼミナール」で学んだ大学での学習・研究方法の基礎を再確認しながら、「卒業ゼミナール」および「卒業論文・制作」での発展的な研究に備えます。各担当教員から、それぞれの研究分野の概要や、研究内容に応じた調査や研究方法について学びます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 共通する基礎的な内容と個別の調査・研究方法や実践方法の両方を大まかに理解することができる。</li> <li>2. 自分の目指す研究や学修の方向性を見定め、今後の研究等のイメージを持つことができる。</li> <li>3. 「卒業論文」や「卒業制作」がどのようなものかを理解できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：授業の概要・趣旨、日程、授業の進め方	オリエンテーションの内容の復習		
第2回	今後の大学生活のスケジュール	卒業までの学習、研究スケジュールの確認		
第3回	調査・研究の基礎	調査・研究の基礎についての復習		
第4回	発展的、実践的なゼミにおける学習・実習方法	様々な研究分野に関する情報を収集する		
第5回	コンピュータの仕組み、プログラミング	コンピュータの仕組み、プログラミングについての課題		
第6回	情報社会の諸問題	情報社会の諸問題についての課題		
第7回	映像表現、映像メディアコンテンツ	映像表現、映像メディアコンテンツについての課題		
第8回	コンピュータを活用した英語学習・英語教育	コンピュータを活用した英語学習・英語教育についての課題		
第9回	現代メディア文化、メディア・リテラシー	現代メディア文化、メディア・リテラシーについての課題		
第10回	放送メディア	放送メディアについての課題		
第11回	英語圏文学とメディア	英語圏文学とメディアについての課題		
第12回	メディアを利用した比較文化研究	メディアを利用した比較文化研究についての課題		
第13回	メディアの言説分析	メディアの言説分析についての課題		
第14回	まとめ	これまでの授業内容の復習		
第15回	「卒業ゼミナール」に向けての準備	「卒業ゼミナール」準備のための課題		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% 各担当教員が課するレポート課題など			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	「基礎ゼミナール」で学んだ内容を復習しておいてください。 授業は「筑女ネット」を活用しながら行われることがあります。 欠席が5回を超えると単位修得の資格を失います。 各担当者の課題は指示された期限までに必ず提出してください。			
教科書	なし(プリントならびに「筑女ネット」のオンライン教材など)			
指定図書	なし			
参考図書	各担当教員が授業時に指示します。			
オフィスワー	各担当教員のシラバスを参照	メールアドレス		



授業科目	健康心理学	開講時期	後期
担当教員	板井 修一	単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、人が病気に陥ったり、健康でいることができたりすることについて、身体的な側面からだけ捉えるのではなく、心理学的な側面や社会的な側面も含めた「全人的」な立場から捉えようとする「健康心理学」の基本的な考え方と、アプローチの仕方について、理解することを目的としています。また、人間の弱さよりも、ストレスや過酷な状況のなかにあっても、病気にならず健康を維持し続ける人間の持つ「強さ」やポジティブな側面に注目をします。WHOの「健康」の定義と、新しい「健康」概念について解説した後、ストレスと健康の関係、健康行動と疾病予防の関係について考察を深め、健康心理カウンセリングの基本について理解することを授業の目的としています。おそらく、授業終了時には、健康と病気についての、いままで持っていた考え方が、大きく変わることになっているのではないのでしょうか。		
到達目標	①WHOの「健康」の定義と、新しい「健康」概念について説明できる。 ②ストレスと健康の関係について説明することができる。 ③健康リスク要因としてのパーソナリティ特性について、例を挙げて説明できる。 ④健康心理学が果たすヘルスケアシステムに対する役割を説明できる		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、発達臨床心理コースのDP③「援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる」に対応したものです。 この授業の前には、「臨床心理学概論」を受講し、臨床心理学の基礎的な概念や視点について理解しておくこと、この授業の理解が深まります。また、「生涯発達心理学Ⅰ」「生涯発達心理学Ⅱ」を受講しておくこと、ライフサイクルの観点から、健康問題について理解することが容易になります。また、「カウンセリング概論」や「コミュニティ心理学」を併せて受講すると、臨床心理における支援のあり方について相互の理解が深まります。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 健康とウェルビーイング 健康心理学とは何か、健康の定義、医療制度のモデルとその限界、生物心理社会モデルの		WHOの健康の定義がその後どのように再検討されてきたか調べる	
第2回 健康な社会づくり 現代社会の健康観、学校・社会・地域の健康づくり活動、健康づくりのための政策・法律		健康と関係した広告、出版物等について調べる	
第3回 現代社会とストレス ストレスの仕組み、ストレスの感じ方と個人差、効果的なストレス対処法		現代社会に溢れるストレスについて、どのようなものがあるか調べてくる	
第4回 健康な食生活 日本人の食生活の現状、食行動のメカニズム、食行動の発達と病理		自分の一週間の食生活について記録する	
第5回 運動と休養による健康づくり 日本における身体活動・運動と睡眠の現状と課題 等		身近な地域で行われているスポーツイベントについて調べる	
第6回 健康リスクへのアプローチ 健康リスクの考え方、発達段階と健康リスク、健康リスクへの対処		あなたの健康法と、その科学的根拠について調べる	
第7回 健康リスク要因とパーソナリティ 健康リスク要因としてのパーソナリティ、心疾患やがんとパーソナリティ、パーソナリテ		授業で実施したパーソナリティテストの分析・解釈を報告書にまとめる	
第8回 健康リスク要因と行動 健康を阻害する行動リスク要因、喫煙、依存・嗜癖、事故、リスク認知		あなたの健康阻害行動のチェックとリストアップ	
第9回 女性と健康 女性の健康と健康問題、母性に関する健康問題		女性の喫煙・飲酒に関する情報を収集し分析する	
第10回 高齢者と健康 高齢者の現状と健康概念、高齢者の自立と社会参加、スピリチュアルヘルス		高齢者の生き甲斐づくりと健康について考え意見をまとめる	
第11回 健康心理学と臨床心理学 健康心理学の臨床心理学的展開		自分の「心の健康法」について、その効果と科学的裏付けについて考える	
第12回 患者の心理と病気対処行動 病気の知覚とその対処、病気行動の自己調節過程、病気体験に関する心理的要因、病気体験の克服		自分の「病気体験」「病気行動」について振り返り整理する	
第13回 健康心理学の臨床的展開 肥満と糖尿病患者・心臓病患者・がん患者等の治療における健康心理学的介入		「がんの告知」について考えをまとめる	
第14回 医療場面でのコミュニケーション 医療コミュニケーション、よりよいコミュニケーションを目指して		授業で観たビデオをもとに、医療コミュニケーションの問題点を考え整理	
第15回 ヘルスケアシステムの現状と将来の展望 日本のヘルスケアシステムの歴史、ヘルスケアシステムの現状と問題点、今後の問題		「健康心理学」で学んだことのポイントを整理する	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	60%		
レポート	30% 15回の授業回数を3期に分け、それぞれの適切な時期に課題を提示し、レポートの提出を求める。各回10点の配点で評価する。		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各回の授業では、前週に提示した課題を基に、教師-学生双方向の対話型授業を行う。学生からの活発な発言を求める。		
教科書	なし 授業内容と関連したプリントを毎回配布する。		
指定図書	なし		
参考図書	必要に応じて、授業の中で随時紹介する		
オフィスアワー	水曜日の3時間目	メールアドレス	

授業科目	芸術思想演習		開講時期	前期
担当教員	小林 知美		単位	2
授業の目的と概要	<p>テーマ：銘文からよむ人々の思い</p> <p>この授業では、日本の古美術作品に親しみ、それらについて深く知るために、日本美術の作者についての銘文の読み取りと作品鑑賞を並行しておこなう。また、実際に近隣の寺院や美術館・博物館に足を運んで古美術作品を見学し、演習で学んだ知識を実際に応用し、日本の古美術に接近する方法を身につける。東京国立文化財研究所美術部・情報資料部編『日本絵画史年記資料集成 十世紀～十四世紀』に掲載された美術作品を、1人1作品ずつ分担して講読する。担当作品の写真図版をさがし、作品の概要説明と銘文を読み取った結果をレジュメを作って報告する。また第2回目の授業時と終盤に2度見学を実施し、講読で身につけた知識を体験を通して確認する</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>美術作品に記された銘文を読み取るため、関連の辞書や文献などの調べ方を身につける。</li> <li>作品に記された銘文の内容を解釈することができる。</li> <li>銘文を読み取ることをとおして、古美術作品を積極的に鑑賞する姿勢を身につける。</li> </ul>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<ul style="list-style-type: none"> <li>学科DP④の「アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる。」を目標とする。</li> <li>関連する代表的科目は下記のとおり。 「アジア生活文化概論」「アジア芸能史」「アジアの建築」「アジア芸術思想概論」（1年次開講科目） 「体験－ミュージアムで学ぶアジア」「比較文化論」「仏教美術史」（2年次開講科目） 「日本美術史」（4年次開講科目）</li> </ul>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション：テキスト紹介		オリエンテーション内容の復習	
第2回	見学①：九州国立博物館文化交流展示室		見学レポート（第3回授業時に提出）執筆	
第3回	授業の進め方、調べ物の方法、参考図書紹介、テキストの分担など		担当部分の報告準備	
第4回	講読：担当者による報告		担当部分の報告準備	
第5回	講読：担当者による報告		担当部分の報告準備	
第6回	講読：担当者による報告		担当部分の報告準備	
第7回	講読：担当者による報告		担当部分の報告準備	
第8回	講読：担当者による報告		担当部分の報告準備	
第9回	講読：担当者による報告		担当部分の報告準備	
第10回	講読：担当者による報告		担当部分の報告準備	
第11回	講読：担当者による報告		担当部分の報告準備	
第12回	講読：担当者による報告		担当部分の報告準備	
第13回	講読：担当者による報告		口頭発表「銘文の語るもの」の準備	
第14回	まとめ：口頭発表「銘文の語るもの」		これまでの復習	
第15回	見学②：寺院もしくは美術館・博物館見学 ※日時・見学先は未定		見学の予習と復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	20％			
小テスト等	—			
成果発表	40％			
受講態度他	40％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	見学②の日程は未定で、見学地への交通費・観覧料は各自の負担とする。			
教科書	東京国立文化財研究所美術部・情報資料部編『日本絵画史年記資料集成 十世紀～十四世紀』中央公論美術出版（1984年） ※必要部分のみコピーを配布。			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日の昼休み～3限（他は事前に連絡してください）		メールアドレス	

授業科目	芸術文化論		開講時期	後期
担当教員	岡本 文子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>イタリアルネッサンスから現代までの芸術作品を鑑賞します。ただ絵画などの作品のタイトルや芸術家の名前を知識として知るだけでなく、画材や作家のエピソード、社会的背景などの周縁の情報も取り入れて、多角的な視点から作品を理解し、「芸術とは感動」であることを体得することを目的としています。</p> <p>この授業はイタリア・ルネッサンスから現代までの代表的な芸術家について、具体的な作品をスクリーンで見ながら、作品や作家の背景やエピソードを知り、クイズ形式でプリントに記入していきます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が好きな芸術家を挙げ、なぜその作品に惹かれるのかを説明できる。</li> <li>・作品のマチエールによる違いを画材や技法から説明できる。</li> <li>・芸術家と作品、社会的背景を関連づけて理解し、説明できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に文学部、人間科学部の共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	オリエンテーション、芸術とは、画材のいろいろ、鑑賞の観点	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習		
第 2回	イタリアルネッサンス (1)	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習		
第 3回	イタリアルネッサンス (2)	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習		
第 4回	ビエール・オーギュスト・ルノワール	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習		
第 5回	フィンセント・ファン・ゴッホ	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習		
第 6回	クロード・モネ	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習		
第 7回	葛飾北斎	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習		
第 8回	アルペール・アンカー	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習		
第 9回	パブロ・ピカソ	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習		
第10回	アルフォンス・ミュシャ (1)	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習		
第11回	アルフォンス・ミュシャ (2)	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習		
第12回	エルテ (ロマン・ドゥ・ティルトフ)	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習		
第13回	トーベ・ヤンソン	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習		
第14回	デザイン実習	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習		
第15回	マウリッツ・エッシャー	授業中に各自で記入した授業内容確認プリントを復習		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	—			
小テスト等	90% 各回に行う前回の定着確認プリント			
成果発表	10% デザイン実習			
受講態度他	—			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書は使用しません。毎回授業内容確認プリントを配布します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日 12:00~13:00	メールアドレス		

授業科目	言語学	開講時期	後期
担当教員	田口 純	単 位	2
授業の目的と概要	言語学とは言語を科学的に研究する学問である、と言われますが、言語の何をどのように研究するのでしょうか。この授業では、「言語学への入門」と題して、いくつかの切り口から言語について皆さんとともに考えてみたいと思います。これまで当たり前のように使ってきた言語（コトバ）ですが、客観的にとらえることによって、いろんな見え方が可能となることでしょうか。文学部の教養科目として、それぞれの学科の専門科目に繋がられることを目的としています。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言語の本質と機能について理解を深めることができるようになる。</li> <li>・音声の果たす役割について理解を深めることができるようになる。</li> <li>・文字の果たす役割について理解を深めることができるようになる。</li> <li>・オノマトペについて理解を深めることができるようになる。</li> <li>・世界の言語について理解を深めることができるようになる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は文学部の共通教養科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目であり、文学部の各学科のとくに言語系の諸科目と関連しています。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（授業の進め方など）	指定された資料をよく読んでおく	
第2回	言語の本質と機能について（1）—ことばってなんだろう？	指定された資料をよく読んでおく	
第3回	言語の本質と機能について（2）—ことばってなんだろう？	指定された資料をよく読んでおく	
第4回	音声の果たす役割について（1）—音楽的？絵画的？	指定された資料をよく読んでおく	
第5回	音声の果たす役割について（2）—音楽的？絵画的？	指定された資料をよく読んでおく	
第6回	文字の果たす役割について（1）—どんな文字知ってますか？	指定された資料をよく読んでおく	
第7回	文字の果たす役割について（2）—どんな文字知ってますか？	発表内容を準備しておく	
第8回	文字の果たす役割について（3）—どんな文字知ってますか？	発表内容を準備しておく	
第9回	オノマトペについて（1）—ドンドン と トントン と	指定された資料をよく読んでおく	
第10回	オノマトペについて（2）—ドンドン と トントン と	発表内容を準備しておく	
第11回	オノマトペについて（3）—ドンドン と トントン と	発表内容を準備しておく	
第12回	世界の言語について（1）—どんな「外国語」を知ってますか？	指定された資料をよく読んでおく	
第13回	世界の言語について（2）—どんな「外国語」を知ってますか？	発表内容を準備しておく	
第14回	世界の言語について（3）—どんな「外国語」を知ってますか？	発表内容を準備しておく	
第15回	総まとめ	指定された課題を準備しておく	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	50％：授業で取り扱った内容について試験を行います。		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	30％：授業中に指示した内容の成果発表。		
受講態度他	20％：授業に対する意欲や受講態度により評価。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中は必要以外の私語をすることのないよう、気をつけましょう。教科書はありませんので、自分で工夫してノートを取るようにしましょう。図書館やインターネットを利用して、検索ができるようになります。		
教科書	なし		
指定図書	佐久間淳一著 『フシギなくらい見えてくる！本当にわかる言語学』 日本実業出版社 斎藤純男著 『言語学入門』 三省堂		
参考図書	授業中に適宜紹介します。		
オフィスアワー	月曜・水曜の昼休み、またはメールで相談	メールアドレス	

授業科目	【閉講】言語生活特論	開講時期	前期
担当教員	小野 望	単位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、本研究科の主題である「人間科学」のうち、「人間の社会・文化とは何か」を理解するための基幹科目として設置されているものである。</p> <p>社会を形成し、文化を創造・継承する人間のあり方と、言語の使用は不可分の関係にある。言語を要素に分けて研究するのではなく、実際の生活との関わりの中で考えていこうとするのが「言語生活論」である。近代以前から、方言や民俗・文化の研究とともに扱われてきた言語生活研究は、現代の社会言語学、コミュニケーション論へとつながるものでもある。</p> <p>本講では、これらの研究の歩みにも触れながら、言語（ツールを含む）の変化と生活・社会の変化の相互影響について考察を加えることにより、言語と社会・文化の相互作用の観点から人間理解を深めることを目的とする。</p>		
到達目標	<p>(1) 言語現象を観察し、問題点を整理して示すことができる。</p> <p>(2) 言語現象の意味について、先行研究を参照して考察することができる。</p> <p>(3) 人間科学の課題として、言語の問題を位置づけることができる。</p> <p>(4) 自らのテーマについて調査し、考察を加えて論理的に述べることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>人間存在または人間と社会の中に存在する問題の理解          関連する科目：言語文化特論、現代言語特論 など</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 言語生活とは		キーワード：「人間と言語」について考えをまとめておく	
第2回 言語生活研究と社会言語学		キーワード：「言語の多様性への視点」について事例を探す	
第3回 話題提供：井上史雄『日本語ウォッチング』より		キーワード：「ら抜き言葉」について現状を整理する	
第4回 意見交換：「ら抜き言葉」の考え方		キーワード：「歴史的な見方」について参考プリントをまとめる	
第5回 意見交換：「を」入れ言葉		キーワード：「表現と意識」についてプリントを参考に考えをまとめる	
第6回 話題提供：日本語は乱れているか（『日本語学2002.8』より）		キーワード：「変化と乱れ」についてプリントを参考に考えをまとめる	
第7回 意見交換：変化と乱れ		キーワード：「言語と社会」を念頭に考えをまとめ、意見交換の準備をする	
第8回 言語の地域差		キーワード：「言語地理学・新方言」について参考プリントをまとめる	
第9回 言語の地域差：意見交換		キーワード：「言語の地域差は消滅するか？」を念頭に意見をまとめる	
第10回 ことばの変化とは		キーワード：「意識調査」について、参考データをもとに方法を考える	
第11回 ことばの変化とは		キーワード：「間違い？ 乱れ？ 変化？」について問題点を整理する	
第12回 ことばの変化とは：意見交換		キーワード：「ことばの変化とは何か？」について考えをまとめる	
第13回 コミュニケーション・ツールと言語生活		キーワード：「情報ツールとコミュニケーション」	
第14回 コミュニケーション・ツールと言語生活：意見交換		キーワード：「ツールはコミュニケーションに影響するか？」	
第15回 現代言語生活の課題		期末レポートのテーマを報告し、意見交換する。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	行わない。		
レポート	50％：期末レポート（2000字程度）		
小テスト等	0％		
成果発表	0％		
受講態度他	50％：各テーマに関する問題提起・実例考察、自主的調査・報告を評価する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者数の状況等によっては、上記授業計画を変更することがあります。</li> <li>・プリントを参考に、身近な言語生活から具体例を探し、考察を深めましょう。</li> <li>・情報ソース、アイデア、考察等を記録し、整理する、「自分の」方法論を見出しましょう。</li> <li>・先行研究に接することで、論理的な思考法、記述法を意識しましょう。</li> <li>・筆記試験（16回目）は行いません。</li> </ul>		
教科書	使用しない。各テーマについて、参考プリントを配布する。		
指定図書	使用しない。		
参考図書	真田信治編『社会言語学の展望』くろしお出版（2006）ほか、授業中に紹介する。		
オフィスアワー	木曜日：2講時～昼休み	メールアドレス	

授業科目	言語文化特殊講義		開講時期	前期
担当教員	金 英姫		単 位	2
授業の目的と概要	本講義では、TOPIKの問題演習に丁寧に取り組むことにより、韓国語のコミュニケーション能力を向上させ、初級レベルに到達することを狙いとする。授業では、受験対策用に作成された聞取り・読解問題中心のテキストを用い、問題を解きながらTOPIK I (旧初級) 類型を把握し、実際のTOPIK I に準拠した問題を解くことにより、TOPIKの問題形式に事前に慣れることができる。また、語彙力強化のために、毎回単語のテストを実施する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「自己紹介、買い物、飲食店での注文」など、生存に必要な基礎的な言語技能を遂行することだ出来る。</li> <li>2. 「自分自身、家族、趣味、天気」など、身近な話題の内容を理解し、表現できる。</li> <li>3. 基礎語彙(800語程度)と基本文法が理解でき、簡単な文章を作ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、アジア文化学科のDP2「アジア地域で使用されている諸言語の一つを用いて、基礎的な会話ができる。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	位置・買い物・価格に関するトピックの聞取り・読解の過去問題(プリント)	今日の復習と次回の範囲の予習(聞) pp. 14-17, (読) pp. 14-17)		
第2回	(聞取り) 類型1 質問に対する答えを選ぶ / (読解) 類型1 問題の内容を把握する	今日の復習と次回の範囲の予習(プリント)		
第3回	過去の経験・計画に関するトピックの聞取り・読解の過去問題(プリント)	今日の復習と次回の範囲の予習(聞) pp. 18-21, (読) pp. 18-21)		
第4回	(聞取り) 類型2 相応しい挨拶言葉を選ぶ / (読解) 類型2 文脈に相応しい適切なものを選ぶ	今日の復習と次回の範囲の予習(プリント)		
第5回	プレゼント・招待・友達に関するトピックの聞取り・読解の過去問題(プリント)	今日の復習と次回の範囲の予習(聞) pp. 22-25, (読) pp. 22-27)		
第6回	(聞取り) 類型3 対話の場所を選ぶ / (読解) 類型3 簡単な実用文の内容を把握する	今日の復習と次回の範囲の予習(プリント)		
第7回	将来の希望・職業・家族に関するトピックの聞取り・読解の過去問題(プリント)	今日の復習と次回の範囲の予習(プリント)		
第8回	買い物・天気・季節に関するトピックの聞取り・読解の過去問題(プリント)	今日の復習と次回の範囲の予習(聞) pp. 26-29)		
第9回	(聞取り) 類型4 対話のテーマを選ぶ	今日の復習と次回の範囲の予習(読) pp. 32-35) と課題		
第10回	(読解) 類型4 文章のポイントを把握する	今日の復習と次回の範囲の予習(聞) pp. 30-33) と課題		
第11回	(聞取り) 類型5 対話の内容に合う絵を選ぶ	今日の復習と次回の範囲の予習(読) pp. 28-31) と課題		
第12回	(読解) 類型5 文脈に相応しいものを選ぶ	今日の復習と次回の範囲の予習(聞) pp. 34-40) と課題		
第13回	(聞取り) 類型6 聞いた内容と一致するものを選ぶ	今日の復習と次回の範囲の予習(読) pp. 36-39) と課題		
第14回	(読解) 類型6 文章の内容と一致するものを選ぶ	今日の復習と課題		
第15回	韓国語能力試験(TOPIK I) の模擬テストと解説	間違った問題の分析及び文法項目の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	45%			
レポート	20% 授業内容によっては課題が課せられる			
小テスト等	20% 単語テスト(10%)、模擬テスト(10%)を行う			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 授業への積極的な参加(予習の状況など)を考慮する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 韓国語I・IIを履修しているかそれに相当する韓国語力を持っていることが望ましい。</li> <li>2. 必ず予習・復習を欠かさずに行うこと(毎回単語テストを行う)。</li> <li>3. 韓国への留学を考えている学生は、TOPIKを受験しなければいけません(審査条件の一つです)。</li> <li>4. 後期にも引き続き、受講する学生は、先ず7月初~8月初のTOPIKの申し込みを行うことが履修条件です(試験日は10月16日です)。</li> </ol>			
教科書	『合格の神 NEW TOPIK I 読解』 DONGYANGBOOKS 2014年9月 『合格の神 NEW TOPIK I 聞取り』 DONGYANGBOOKS 2015年6月			
指定図書	特になし			
参考図書	講義の中で適宜紹介します			
オフィスアワー	授業の前後に質問・相談してください	メールアドレス		

授業科目	言語文化特殊講義		開講時期	後期
担当教員	金 英姫		単 位	2
授業の目的と概要	本講義では、TOPIKの問題演習に丁寧に取り組むことにより、韓国語のコミュニケーション能力を向上させ、初級レベルに到達することを狙いとする。授業では、受験対策用に作成された聞取り・読解問題中心のテキストを用い、問題を解きながらTOPIK I（旧初級）類型を把握し、実際のTOPIK Iに準拠した問題を解くことにより、TOPIKの問題形式に事前に慣れることができる。また、語彙力強化のために、毎回単語のテストを実施する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「電話する、頼む」などの日常生活に必要な表現や、「郵便局、銀行」などの公共機関での会話ができる。</li> <li>約1,500～2,000語の語彙を用いた、身近な話題に関する文章の内容を段落単位で理解し、使用できる。</li> <li>公式的・非公式的な状況における表現を使い分けることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、アジア文化学科のDP2「アジア地域で使用されている諸言語の一つを用いて、基礎的な会話ができる。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	銀行・郵便局・注文に関するトピックの聞取り・読解の過去問題（プリント）	今日の復習と次回の範囲の予習（聞） pp. 41-44		
第2回	（聞取り）類型7 女性/男性の考えのポイントを選ぶ	今日の復習と次回の範囲の予習（プリント）		
第3回	予約・準備・旅行に関するトピックの聞取り・読解の過去問題（プリント）	今日の復習と次回の範囲の予習（読） pp. 40-43, pp. 56-63		
第4回	（読解）類型7 空欄の中を埋めること＋文章のあらすじを把握する	今日の復習と次回の範囲の予習（プリント）		
第5回	家・引っ越し・頼みに関するトピックの聞取り・読解の過去問題（プリント）	今日の復習と次回の範囲の予習（聞） pp. 45-53		
第6回	（聞取り）類型8 文章の内容を把握すること＋文章の内容と一致するものを選ぶ	今日の復習と次回の範囲の予習（読） pp. 52-55		
第7回	（読解）類型8 文章を順番通りに並べる	今日の復習と課題（模擬テストの問題を解く）		
第8回	TOPIK I の実践模擬テスト①及び解説	間違った問題の分析及び文法項目の復習と次回の範囲の予習（プリント）		
第9回	習い事・運動・勉強に関するトピックの聞取り・読解の過去問題（プリント）	今日の復習と次回の範囲の予習（読） pp. 44-51		
第10回	（読解）類型9 空欄の中を埋めること＋文章の内容と一致するものを選ぶ（類型7よりは長文）	今日の復習と次回の範囲の予習（プリント）		
第11回	外見・性格・友達に関するトピックの聞取り・読解の過去問題（プリント）	今日の復習と次回の範囲の予習（読） pp. 64-71		
第12回	（読解） 類型10 文章を書いた目的を選ぶこと＋文章の内容と一致するものを選ぶ	今日の復習と次回の範囲の予習（プリント）		
第13回	規則・礼儀・約束に関するトピックの聞取り・読解の過去問題（プリント）	今日の復習と次回の範囲の予習（読） pp. 72-79		
第14回	（読解） 類型11 空欄に入る適切なものを選ぶこと＋空欄の中に入る適切なものを選ぶ	今日の復習と課題（模擬テストの問題を解く）		
第15回	TOPIK I の実践模擬テスト②及び解説	間違った問題の分析及び文法項目の復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	45%			
レポート	20% 授業内容によっては課題が課せられる			
小テスト等	20% 単語テスト（10%）、模擬テスト（10%）を行う			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 授業への積極的な参加（予習の状況など）を考慮する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>韓国語 I・II を履修しているか、それに相当する韓国語力を持っていることが望ましい。</li> <li>必ず、予習・復習及び課題を誠実に行ってください。</li> <li>韓国へ留学を考えている学生は、TOPIK を受験しなければいけません（審査条件の一つです）。</li> <li>韓国語能力試験（TOPIK）は年に2回（4月、10月）行われます。履修する前に必ず、TOPIK の申し込みを行ってください。</li> </ol>			
教科書	『合格の神 NEW TOPIK I 読解』 DONGYANGBOOKS、2014年9月 『合格の神 NEW TOPIK I 聞取り』 DONGYANGBOOKS、2015年6月			
指定図書	特になし			
参考図書	講義の中で適宜紹介します			
オフィスアワー	授業の前後に質問・相談してください	メールアドレス		

授業科目	【閉講】言語文化特論	開講時期	前期
担当教員	緒方 隆文	単位	2
授業の目的と概要	<p>言葉と文化は強く結びついており、互いに影響しあっています。そのつながりを多面的に見ることで、関係をしっかりと捉え、深く理解し、言語事象を考察しなおすことを目的とします。テキストにより、人—言葉—文化という3つの観点で、言葉や文化を見つめ直すこととなります。人類がもつ普遍的なものは何か、あるいは文化による違いは何かを見つめ、自分自身の見方を見つめられるようになることも目的とします。</p> <p>授業は2部構成です。前半はテキストを受講者発表の形で読み進めていきます。そして内容について議論します。後半はことばと文化に関わるテーマを見ていきます。第2回～第12回はテキスト内容の要旨を簡潔に説明発表し、第13回～第14回は院生が選んだテーマを各自発表します。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 言語事象と文化の関わりの中から、課題を発見できる。</li> <li>2. 文献を読み解くことで、多角的視点から言語と文化の事象を解釈できる。</li> <li>3. 課題について資料を作成し、分かりやすく解説することができる。</li> <li>4. 関連する資料から論理的思考力を身につけ、自らの見解を論理的に述べることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション： テキスト① (p. 1～p. 18 1. 2)	テキスト①及び言語文化テーマを復習。	
第2回	テーマ： 文字のない言語文化、テキスト② (p. 18. 1. 3～p. 34 1. 8)	テキスト②を事前に読み、文字のない言語文化を復習。	
第3回	テーマ： 非言語伝達、テキスト③ (p. 34. 1. 9～p. 51. 1. 7)	テキスト③を事前に読み、非言語伝達を復習。	
第4回	テーマ： 含意と文化、テキスト④ (p. 51. 1. 8～p. 68. 1. 3)	テキスト④を事前に読み、含意と文化を復習。	
第5回	テーマ： 会話スタイル<日米のセールストーク>、テキスト⑤ (p. 68. 1. 4～p. 86)	テキスト⑤を事前に読み、日米のセールストークを復習。	
第6回	テーマ： 会話スタイル<日米の説得法>、テキスト⑥ (p. 87～p. 104)	テキスト⑥を事前に読み、日米の説得法を復習。	
第7回	テーマ： 会話スタイル<日米の学長祝辞>、テキスト⑦ (p. 105～p. 122. 1. 4)	テキスト⑦を事前に読み、日米の学長祝辞を復習。	
第8回	テーマ： 役割語、テキスト⑧ (p. 122. 1. 5～p. 137)	テキスト⑧を事前に読み、役割語を復習。	
第9回	テーマ： ことばのイメージとメタファー<1>、テキスト⑨ (p. 138～p. 154. 1. 12)	テキスト⑨を事前に読み、メタファー(1)を復習。	
第10回	テーマ： ことばのイメージとメタファー<2>、テキスト⑩ (p. 154. 1. 13～p. 172. 1. 8)	テキスト⑩を事前に読み、メタファー(2)を復習。	
第11回	テーマ： ことばによるていねい表現<1>、テキスト⑪ (p. 172. 1. 9～p. 187)	テキスト⑪を事前に読み、ていねい表現(1)を復習。	
第12回	テーマ： ことばによるていねい表現<2>、テキスト⑫ (p. 188～p. 206)	テキスト⑫を事前に読み、ていねい表現(2)を復習。	
第13回	テーマ： 言語の性差、院生発表(各自のテーマ)	発表の準備、レポート作成、言語の性差を復習	
第14回	テーマ： 呼びかけ表現、院生発表(各自のテーマ)	発表の準備、レポート作成、呼びかけ表現を復習	
第15回	講義の総括： レポート内容の確認及び討議	レポート作成、修正、最終確認	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60%		
小テスト等	なし		
成果発表	20% (授業内でのプレゼンテーション)		
受講態度他	20% (意見交換等、積極的な取り組みを評価する)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>受講者数の状況等によっては、上記授業計画を変更することがあります。</p> <p>教科書は当該授業の分は、事前に読んでおきます。</p>		
教科書	鈴木孝夫 『ことばと文化 (岩波新書)』 岩波書店		
指定図書	なし		
参考図書	講義中に適宜紹介する。		
オフィスアワー	月・火・水の昼休み(12:30-13:00)。事前にメールでアポイントメントを取ってください。	メールアドレス	



授業科目	源氏物語入門	開講時期	後期
担当教員	二宮 愛理	単位	2
授業の目的と概要	<p>『源氏物語』はこれまでの歴史の中で、多くの人々から愛読、研究され、日本の文学に影響を与え続けています。その『源氏物語』について理解を深めることは、文学の専門性を深めるだけでなく、歴史や文化など、幅広い教養を身につける上でも非常に有意義です。</p> <p>この授業では、『源氏物語』の全体像を把握し、基本的な知識を身につけます。巻名と大まかな物語の流れ、主要登場人物の特徴、作者や時代背景、受容について、テキストや資料を使って『源氏物語』を学びます。</p> <p>これにより、文学史の中で重要な存在である『源氏物語』や、その他古典文学について理解を深めることを目的としています。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>『源氏物語』を3部構成ととらえる場合の、それぞれのおおまかな物語の流れを説明できる。</li> <li>主要登場人物について、特徴や人物同士の関係などを説明できる。</li> <li>『源氏物語』の成立時代や作者、時代背景や環境について説明できる。</li> <li>『源氏物語』の巻名を読むことができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日本語・日本文学科DP(3)③「各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる」に該当する授業です。「古代文学演習」などで古典作品を読む際に役立ちます。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 ガイダンス		教科書を確認し、シラバスを読んでおく。	
第2回 桐壺～源氏の誕生		教科書の該当箇所を読んでくる。	
第3回 雨夜の品定		教科書の該当箇所を読んでくる。	
第4回 中の品の女～空蝉・夕顔・末摘花		教科書の該当箇所を読んでくる。	
第5回 源氏の恋～紫の上・六条御息所・葵の上		教科書の該当箇所を読んでくる。	
第6回 須磨・明石の物語		教科書の該当箇所を読んでくる。	
第7回 帰京・政治家としての源氏		教科書の該当箇所を読んでくる。	
第8回 六条院の人々～源氏の栄花		教科書の該当箇所を読んでくる。	
第9回 玉鬘の物語		教科書の該当箇所を読んでくる。	
第10回 女三宮降嫁～紫の上の陰り		教科書の該当箇所を読んでくる。	
第11回 柏木の物語		教科書の該当箇所を読んでくる。	
第12回 紫の上との別れ		教科書の該当箇所を読んでくる。	
第13回 薫と宇治		教科書の該当箇所を読んでくる。	
第14回 浮舟の物語		教科書の該当箇所を読んでくる。	
第15回 まとめ		この授業で学んだことを総括する	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60% 最終課題		
小テスト等	30% 授業中に数回行います		
成果発表	なし		
受講態度他	10% 授業への積極的な参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	PCでのノート取り、カメラでの板書撮影(無音であっても)はご遠慮ください。(障がいのある学生への支援の場合を除く)		
教科書	『源氏物語』 角川書店編/角川ソフィア文庫		
指定図書	なし		
参考図書	随時紹介します。		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	現代インド事情	開講時期	前期
担当教員	喜多村 百合	単位	2
授業の目的と概要	<p>「南アジア入門」の基礎・発展編。前半で、民族の博覧会と呼ばれる南アジアの家族・親族のあり方を、文化人類学の視点から理解し、その多様性を学ぶ。さらにカーストやジェンダーの視点を含めて、発展的に理解する。</p> <p>中盤以降では、1991年以降空前の経済成長を続け変化する現代インド社会の諸相を検討する。国内・国際政治や経済といったダイナミックな側面から、経済発展で私たちが変わらない豊かな生活を楽しむ都市中間層の暮らしや価値変化まで扱う。さらに急速な経済変化がもたらす課題として、経済格差や環境問題、加熱する学歴社会がもたらす教育の矛盾、ジェンダー・マイノリティ問題などを挙げ、実証的に理解することをねらいとする。</p>		
到達目標	<p>①南アジアの家族・親族体系の多様性について説明できる。</p> <p>②カースト・ジェンダーをめぐる主たる問題について説明できる。</p> <p>③現代インド社会の「光と影」をめぐる争点を理解し、その構造を諸背景とともに説明できる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 導入：講義のねらいと方法		プリント復習	
第2回 家族・親族概論		プリント復習	
第3回 婚姻とジェンダー		家族理論復習	
第4回 インドの家族・親族論(1)：「合同家族」論批判		プリント復習	
第5回 インドの家族・親族論(2)：ヒンドゥー家族		親族論(1) (, 2)復習	
第6回 インドの家族・親族論(3)：イスラーム家族		プリント復習	
第7回 インドの家族・親族論(4)：ナーヤルカースト、少数部族の家族		親族論(3, 4)復習	
第8回 現代インド社会の諸相(1)：国内・国際政治		小レポート	
第9回 現代インド社会の諸相(2)：経済発展と人材育成		小レポート	
第10回 現代インド社会の諸相(3)：貧困問題：政策と課題		小レポート	
第11回 現代インド社会の諸相(4)：女性・ジェンダー		小レポート	
第12回 現代インド社会の諸相(5)：マイノリティ問題		小レポート	
第13回 現代インド社会の諸相(6)：都市中間層のライフスタイルと変化する価値観		小レポート	
第14回 ディスカッション		小レポート	
第15回 まとめ		期末レポート	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	期末レポート40%、小レポート40%		
小テスト等	-		
成果発表	なし		
受講態度他	20%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日ごろから南アジア、特にインドについてのニュース、番組、その他の情報に注意し、レディネスを養ってほしい。		
教科書	講義レジュメと抜粋コピーを配布		
指定図書	『叢書激動のインド第一巻変動のゆくえ』 『現代南アジア⑤社会・文化・ジェンダー』 『現代インドを知るための60章』		
参考図書	『文化人類学事典』 『インドを知る事典』 村武精一編『家族と親族』		
オフィスアワー	月～水午後	メールアドレス	

授業科目	現代英語研究		開講時期	後期
担当教員	那須 省一		単位	2
授業の目的と概要	英米のメディアや国際社会で今のような英語が使われているかを探る。その上で日本人が英語を習得する上で陥りやすい間違いを認識したい。それが国際社会で使える正しい英語の語法を身につけることでもある。授業の冒頭に毎回、アメリカの若者が人種・民族について討論するDVDを開き、彼らの話す英語の特徴をつかむ。拙著「アメリカ文学紀行」を参考に、アメリカを実際に旅する感覚で現代の英語表現について考える。			
到達目標	英語表現のかぎを握る正しい語法のコツを体得する。日本人が陥りやすい間違いに気づくようになる。英語を使って旅する（生活する）上での留意点も身に付ける。耳からの英語摂取にも慣れるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション DVD聴取。英語語法①「彼を待っている」は "I'm waiting him" でOK?		授業で指示		
第2回 DVD聴取。英語語法②"Remember to call me." と I remember calling her once. の意味の違いを再確認する。		授業で指示		
第3回 DVD聴取。英語語法③get seated, be dressed など通常受身で使われる動詞について再確認する。		授業で指示		
第4回 DVD聴取。英語語法④fromは「否定」、ofは「切り離す」など前置詞の基本的意味合いを再確認する。		授業で指示		
第5回 DVD聴取。英語語法⑤poor at と poor in ではどう異なるのか？ 「アメリカの旅」⑤No'm Killed a nigger. "Well, it's lucky." マーク・トウエインのCDを聞		授業で指示		
第6回 DVD聴取。英語語法⑥excited と exciting はどう異なるのか。interested と interesting では？		授業で指示		
第7回 DVD聴取。英語語法⑦ as a result, therefore, however など接続副詞について再確認する。		授業で指示		
第8回 DVD聴取。英語語法⑧「イチロー知っている？」="Do you know Ichro?"でOKだろうか？ 「アメリカの旅」⑧"old sport"		授業で指示		
第9回 DVD聴取。英語語法⑨「お金を返す」=return the money で通じるのか？ 「アメリカの旅」⑨"picking his nose" "swear words"		授業で指示		
第10回 DVD聴取。英語語法⑩「顔と手を洗う」=wash one's face and hands で大丈夫？ 「アメリカの旅」⑩"Don't be too particular."		授業で指示		
第11回 DVD聴取。英語語法⑪落書きを消す=erase the graffiti (落書き)でOK？ 「アメリカの旅」⑪"I'm nothing." 小テスト		授業で指示		
第12回 DVD聴取。英語語法⑫彼女は今日は黄色いスカートををはいている=Today she wears a yellow skirt.でOK？		授業で指示		
第13回 DVD聴取。英語語法⑬結婚生活=a marriage life でいいの？ 「アメリカの旅」⑬"After all, tomorrow is another day."		授業で指示		
第14回 DVD聴取。英語語法⑭車間距離=a car distance で通じるのか？ 「アメリカの旅」⑭"homely"		授業で指示		
第15回 DVD聴取。まとめ 「アメリカの旅」⑮ "iceberg の文体"		授業で指示		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	なし			
小テスト等	20%			
成果発表	なし			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に際して告知します。授業後に毎回、筑女ネットの時間割欄に授業のまとめをアップします。覚えて欲しい学習のポイントもできるだけアップします。授業後の数日間に必ず熟読してください。質問なども遠慮なく筑女ネットの私のメルアドにしてください。			
教科書	「アメリカ文学紀行」(書肆侃侃房・講師著)			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	現代韓国事情	開講時期	前期
担当教員	裊 海善	単 位	2
授業の目的と概要	韓国の基礎知識、韓国語の創造背景、5000年の歴史、韓服、料理、音楽を学ぶと共に、韓国の冠婚葬祭の昔と今の特徴を比較しながら把握することによって、韓国の社会構造・文化に対する理解を深めることを目的とする。 ①韓国社会と文化、歴史の多様な面を貴重な映像と豊富な資料を使って詳しく、分かりやすく説明する。 ②見て、聴いて、触れながら韓国文化と社会を学ぶ。 ③韓国の文化・社会面における特徴を日本と比較しながら学ぶ。		
到達目標	1. 韓国の政治・歴史、社会、文化、音楽、料理など、韓国の基礎知識を身につけることができる。 2. 多様な分野における韓国の特徴について見解を述べるができる。 3. 韓国社会を日本社会と比較して説明することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	アジア文化学科のDP2「アジア諸地域の社会事情について、具体的な事例を通じて説明できる」を充足するための科目である。関連科目としては、「東アジア入門」「アジア経済論」「アジア女性労働論」がある。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回 4/13	授業概要、ダイナミック 코리아、韓国の行政区域、基礎知識	<a href="http://www.sejonghaktang.org">http://www.sejonghaktang.org</a> (セゾンヌリ学堂)にアクセスする。	
第 2回 4/20	韓国の伝統衣装、チマチョゴリ/バジチョゴリの着付け/折り紙	Youtubeで韓国の伝統衣装の着付けを見る	
第 3回 4/27	調理実習料理を紹介とプランをたてる (チヂミとトッポッキ)	グループ分け、買い物、予算などを決める	
第 4回 5/11	材料購入を説明、韓国の代表料理	各組の代表は調理実習室集合 (12:30-13:00)	
第 5回 5/14	調理実習 (3309) 09:00-12:20、三角巾、エプロン持参要	材料代を徴収する	
第 6回 5/18	調理実習 (3309) と感想発表	調理実習室の後片付け	
第 7回 5/25	キムチの種類と栄養	キムチを利用した料理を作ってみる	
第 8回 6/1	朝鮮半島の歴史と歴代大統領	朝鮮の27人の王様 11人の大統領をまとめる	
第 9回 6/8	朝鮮王朝の歴史①	朝鮮王朝の身分制度、王室文化	
第10回 6/15	朝鮮王朝の歴史②	映画の中の王様を調べる	
第11回 6/22	氏名、結婚式の種類、現代風の結婚式	韓国の結婚式関連用語を調べる	
第12回 6/29	葬式、祭祀、風水地理説 (映像で確認)	韓国の冠婚葬祭を調べる	
第13回 7/6	コン教室；韓国研修プラン (チケットと宿泊先予約)	パスポート発行手続きを調べる	
第14回 7/13	コン教室：韓国研修プラン (旅行先を調べる) 交流大学、釜山、済州道、巨済道を調べる	旅行スケジュール表と見直し書を完成して提出	
第15回 7/20	まとめ	全体をまとめる	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	20% (研修プラン)		
小テスト等	小テスト80%		
成果発表	0%		
受講態度他	0%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①B5サイズのノートを準備し毎回の授業の内容をまとめておく。 ②小テストには手書きノートのみ持ち込可。 ③欠席が5回を超えると評価しない (就職活動、病気、その他の理由による欠席は5回の中でカウントする)。		
教科書	プリントは毎回の授業時に配る。欠席した人はオフィスアワー時間に研究室に取りに行くこと。		
指定図書	特になし。		
参考図書	講義の中で適宜紹介		
オフィスアワー	火～水曜日の昼休み	メールアドレス	

授業科目	現代経済論	開講時期	後期
担当教員	村上 佳世	単 位	2
授業の目的と概要	本講義は、現代の日本や世界の経済の動きを把握するための基礎的な知識を身につけることを目的とする。経済学的な思考に不可欠な「インセンティブ」「(機会)費用」「交換」「分配」について正確に理解し、現代経済の仕組みや機能を身近なものとして理解する。ニュースで目にするGDP、デフレ、円高等の基本知識の習得に加え、日本や世界で起きている問題について経済学の側面から客観的に分析、理解できる力を習得する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 経済の基礎理論に関する知識を身につける。</li> <li>2 現実の経済問題を理論的に説明できる知識を身につける。</li> <li>3 日常生活と経済の繋がりを知り、世界の動きを敏感に感じ取る力とグローバルに物事をとらえる力を身につける。</li> <li>4 上記の力を実社会で活用できる能力を習得する。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	主にビジネス社会コースのDP1「現代社会を構成する機能の中で、ビジネスが果たさなければならない役割を説明することができる」の達成に関わる科目。また、環境共生社会コースのDP3「環境共生社会実現のための個人や企業の活動のあり方や社会全体の仕組みを説明することができる」の達成にも関わるため、「環境と経済(2年次)」「環境と企業社会(3年次)」「環境と経営(3年次)」「環境政策と法律(4年次)」のいずれかを受講予定の学生も、1年次で受講しておくことが望ましい。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 インTRODクシヨン		授業時に配布したテキストを読み返し、授業内容を復習する。	
第2回 経済学の論理と方法①基本的な考え方		授業時に配布したテキストを読み返し、授業内容を復習する。	
第3回 経済学の論理と方法②費用の考え方		授業時に配布したテキストを読み返し、授業内容を復習する。	
第4回 需要、供給、価格(市場均衡)		授業時に配布したテキストを読み返し、授業内容を復習する。	
第5回 価格弾力性		授業時に配布したテキストを読み返し、授業内容を復習する。	
第6回 市場の効率性①余剰の考え方		授業時に配布したテキストを読み返し、授業内容を復習する。	
第7回 市場の効率性②政策介入の効果		授業時に配布したテキストを読み返し、授業内容を復習する。	
第8回 不完全な市場①導入と外部性		授業時に配布したテキストを読み返し、授業内容を復習する。	
第9回 不完全な市場②公共財		授業時に配布したテキストを読み返し、授業内容を復習する。	
第10回 不完全な市場③独占企業の戦略(価格差別)		授業時に配布したテキストを読み返し、授業内容を復習する。	
第11回 不完全な市場④情報の非対称性		授業時に配布したテキストを読み返し、授業内容を復習する。	
第12回 ミクロ経済学小テスト解法(レポート課題の出題)		これまでのテキストを読み返し、レポートを作成する。	
第13回 マクロ経済指標①経済成長		授業時に配布したテキストを読み返し、授業内容を復習する。	
第14回 マクロ経済指標②物価指数と為替レート		授業時に配布したテキストを読み返し、授業内容を復習する。	
第15回 復習テスト		全ての配布資料と小テスト解法を読み返し、復習テストを攻略する。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	%		
レポート	30%		
小テスト等	70%		
成果発表	%		
受講態度他	%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業の最後に毎回小テスト(簡単な穴埋め数問、論述式1問)を行う。</li> <li>②1度のレポートを課す。</li> <li>③欠席が6回以上の場合には評価しない(就職活動、病気、その他の理由による欠席は証明書提出要)。</li> <li>④最後の復習テストは主に論述式(一週間前に問題をすべて公開する)。</li> </ol>		
教科書	毎回の授業時にプリントを配布する。全ての配布資料は、授業終了時間以降に筑女ネットからダウンロードできる。欠席した場合は、各自ダウンロードをして、自分で読んで、次回の授業に備えておくこと。		
指定図書	特になし。		
参考図書	J・E・スティグリッツ, C・E・ウォルシュ著(載下他訳)「スティグリッツミクロ経済学」東洋経済新聞社。 J・E・スティグリッツ, C・E・ウォルシュ著(載下他訳)「スティグリッツマクロ経済学」東洋経済新聞社。		
オフィスアワー	月曜昼休み(12:20-13:10)、火曜昼休み(12:20-13:10)	メールアドレス	

授業科目	【閉講】現代言語特論	開講時期	後期
担当教員	高山 百合子	単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は、方言から現代日本語の文法を観察し分析する力を養うことを、主な目的とする。とくに次の2点を重視する。</p> <p>(1) 日本語の文の根幹である述語構造について、現代共通語や方言を、変化の激しかった中世期と対比しながら観察することで、現代語の文の成り立ちを理解できるようになる。</p> <p>(2) 文法的観察のポイントを押さえられるようになる。</p> <p>この講義では、現在方言から遡れる中世期の中央語と、我々にとって身近な北部九州方言を比較し、肥筑方言に認められるさまざまな古態性を見出していく。現在方言から中世日本語の要素を取り出していく中で、北部九州方言の特色、もっと言えば特殊性が浮かび上がってくる。この講義は、そうした一連の過程の中から、母語である日本語を観察し、見極める力を養うことを最も重要な目的とする。</p>		
到達目標	<p>(1) 近代語、つまり中世から現代までの日本語中央語を概観する知識を持つ。</p> <p>(2) そこから、とくに文法について、一定の傾向性やルールを導き出す観察眼と方法論の基礎を身につける。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連する科目：日本語学特論、言語生活特論 など		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回：オリエンテーション／日本語の文の基本構造―通時的側面、共時的側面		開講前に山口仲美『日本語の歴史』（岩波新書）を読んでおく。	
第2回：日本語の文の基本構造と文法カテゴリについて		事前予習	
第3回：述部構造と動詞		事前予習	
第4回：アスペクトと動詞の分類		事前予習	
第5回：中世語概観		事前予習	
第6回：【調査発表①】肥筑方言概観		発表準備	
第7回：肥筑方言の文構造の特徴		発表準備	
第8回：係り結び現象について		事前予習	
第9回：係り結びの周辺		事前予習	
第10回：方言に残る係り結び		事前予習	
第11回：連体と連用（1）		事前予習	
第12回：連体と連用（2）		事前予習	
第13回：文法化		事前予習	
第14回：【調査発表②】方言の文法研究（受講者の設定したテーマによる）		発表準備	
第15回：まとめ		これまでの復習、まとめ	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	80％		
小テスト等	特になし		
成果発表	20％（演習；授業での調査発表）		
受講態度他	特に点数化はしない。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*授業開始の際、あらかじめ山口仲美『日本語の歴史』（岩波新書）を読んでおく。</p> <p>*予習・復習、課題の提出などはきちんと行うこと。</p> <p>*上記授業計画は、受講生の専門など、状況に応じて変更する可能性がある。</p>		
教科書	小林隆『方言が明かす日本語の歴史』岩波書店、プリント併用。		
指定図書	特になし		
参考図書	山口仲美『日本語の歴史』岩波新書、文法辞典類、他、必要に応じて授業の中で提示する。		
オフィスアワー	水曜4・5講時、金曜5講時	メールアドレス	

授業科目	現代社会学概論 I		開講時期	前期
担当教員	花野 裕康		単位	2
授業の目的と概要	いま私たちが当たり前のように暮らしている現代社会の特徴はいかなるものであるか。またその問題はどこにどのような形で存在するのか。この2つの観点から現代社会の全体像を考察する。その際、抽象的な考察は避け、できる限り具体的な社会事象を取り上げながら「いまここにある社会」のありさまを見てゆく。なお授業では講義者（花野）が受講者と対話を行いながら考察を進めて行く。結果として、現代社会のおよそのありさまについて知ることが第一目的となる。そしてそれを自分の言葉で説明できるようになることが最終（第二）目的である。なお本授業は学問（日進月歩で「終わり」がない）としての「現代社会『学』」概論であり、高校までの『教科（文部科学大臣が検定した教科書が存在する）』である「現代社会」とは無関係のものであることに注意されたい。			
到達目標	①現代社会学とはどのような学問であるか、1分程度で要領よく口頭解説する事ができる。 ②現在問題となっている社会現象について、その概要・問題点・解決策を現代社会的視点から口頭解説する事ができる。 ③現在問題となっている社会現象について、受け売りの知識でない自前の現代社会的議論を他者と交わす事ができる。 ④現在問題となっている社会現象について、受け売りの知識でない自前の現代社会的見解を小論文として記述できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、現代社会学部の学部DP1である「現代社会の諸相を理解し、現代社会を生きるための幅広い教養を身につけている」の達成に関わる科目です。到達目標の内容通り、その達成がそのまま本DP1の達成となります。現代社会を理解するためのもっとも基礎的な科目であり、続いて、もしくは同時に開講されている「現代社会とビジネス」「現代社会とメディア」「現代社会と環境」「現代社会と地域」「現代社会とジェンダー」「現代社会と仏教」等を理解するための良き準備となる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 現代社会学とは何か		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第2回 現代社会学における問題の立て方とその答え		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第3回 現代社会学における理論と方法		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第4回 1-3回のまとめと討論		1-3回のまとめノートを作成し次週提出		
第5回 グローバリゼーションと社会変動		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第6回 環境		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第7回 都市と生活		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第8回労働と経済		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第9回 5-8回のまとめと討論		5-8回のまとめノートを作成し次週提出		
第10回 社会的相互作用と日常生活		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第11回 ライフコース		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第12回 家族と親密な関係		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第13回 健康・疾病・障碍		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第14回 階層と階級		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第15回 10-14回のまとめと討論		10-14回のまとめノートを作成し提出		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	100%（毎回の授業にて実施するものと、授業後に自宅で解答してもらうものがある。その積み重ねで評価する）			
成果発表	なし			
受講態度他	欠席や授業に積極的に参加しない等、受講態度が芳しくない受講者に関しては、小テストを受け取らない。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること（病欠や忌引きであってもその回の小テストが受けられない事には変わりはないので要注意）。これまでの自らの経験と知識を総動員しながら考えつつ受講すること。講義者（花野）とのやり取りに積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。特に（許可された場合以外での）スマホ操作、居眠り、他の受講者に迷惑がかかる行為は厳禁とする。見つけ次第退席もしくはこれに代わる措置を取る。その代わり授業中に5分休憩を取る。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前後（長引く場合はその際に面会日時を打ち合わせしましょう）	メールアドレス		

授業科目	現代社会学概論Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	花野 裕康		単 位	2
授業の目的と概要	現代社会はどのような経緯で生まれ、今のようなありさまであり、来たるべき社会はどのようなありさまになって行くか。この授業では、現代社会学概論Ⅰで扱った現代社会のありさまと諸問題との考察をさらに進めて、特に全世界的に問題となっている事柄を中心に考察する。なお授業では講義者（花野）が受講者と対話を行いながら考察を進めて行く。結果として、現代社会のおおよそのありさまについて（現代社会学概論Ⅰより）さらに広く・深く知ることが第一目的である。その上で、それを自分の言葉で説明できるようになることが最終（第二）目的である。なお本授業は学間（日進月歩で「終わり」がない）としての「現代社会『学』」概論であり、高校までの『教科（文部科学大臣が検定した教科書が存在する）』である「現代社会」とは無関係のものであることに注意されたい。			
到達目標	①現代社会学とはどのような学問であるか、世界規模の視点から1分程度で要領よく口頭解説する事ができる。 ②世界規模の社会現象・問題について、その概要・問題点・解決策を現代社会的視点から口頭解説する事ができる。 ③世界規模の社会現象・問題について、受け売りの知識でない自前の現代社会的議論を他者と交わす事ができる。 ④世界規模の社会現象・問題について、受け売りの知識でない自前の現代社会的見解を小論文として記述できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、現代社会学部の学部DP1である「現代社会の諸相を理解し、現代社会を生きるための幅広い教養を身につけている」の達成に関わる科目です。達成目標の内容通り、その達成がそのまま本DP1の達成となります。現代社会を理解するためのもっとも基礎的な科目であり、続いて、もしくは同時に開講されている「現代社会とビジネス」「現代社会とメディア」「現代社会と環境」「現代社会と地域」「現代社会とジェンダー」「現代社会と仏教」等を理解するための良き準備となる科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 現代社会学概論Ⅰの振り返りと「足りなかったもの」		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第2回 貧困・社会的排除・福祉		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第3回 世界規模の不平等		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第4回 1-3回のまとめと討論		1-3回のまとめノートを作成し次週提出		
第5回 ジェンダーとセクシャリティー		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第6回 人種・民族・移民		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第7回 宗教		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第8回 5-7回のまとめと討論		5-7回のまとめノートを作成し次週提出		
第9回 メディア		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第10回 組織とネットワーク		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第11回 9-10回のまとめと討論		9-10回のまとめノートを作成し次週提出		
第12回 犯罪と逸脱		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第13回 政治・政府・社会運動		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第14回 国民・戦争・テロ		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第15回 10-14回のまとめと討論		10-14回のまとめノートを作成し提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	100%（毎回の授業にて実施するものと、授業後に自宅で解答してもらうものがある。その積み重ねで評価する）			
成果発表	なし			
受講態度他	欠席や授業に積極的に参加しない等、受講態度が芳しくない受講者に関しては、小テストを受け取らない。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること（病欠や忌引きであってもその回の小テストが受けられない事には変わりはないので要注意）。これまでの自らの経験と知識を総動員しながら考えつつ受講すること。講義者（花野）とのやり取りに積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。特に（許可された場合以外での）スマホ操作、居眠り、他の受講者に迷惑がかかる行為は厳禁とする。見つけ次第退席もしくはこれに代わる措置を取る。その代わり授業中に5分休憩を取る。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前後（長引く場合はその際に面会日時を打ち合わせしましょう）	メールアドレス		



授業科目	現代社会と環境		開講時期	前期
担当教員	佐々木 浩		単位	2
授業の目的と概要	生物はそれぞれを取り巻く環境に影響を与え、影響を受けて進化して来ましたが、生命が誕生して38億年になりますが、人間が他の生物と大きく異なる生活を始めるようになるのは、氷河期以降のこの1万年くらいの話です。氷河期が終わってから、世界中に進出し、大型哺乳類を絶滅させながら人口を増やして行きました。特に、18世紀から19世紀にかけての産業革命以降、生産活動と人口の拡大によって各地で大きな環境問題を引き起こして来ました。この講義では、人間の歴史を考え、現代社会の環境問題について理解を深め、持続可能な社会を作るために、家庭、地域、会社、社会の場でどのように変えて行くべきかを考えることができるようになることを目的としています。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間とその環境との関係を歴史的に考えることができるようになる。</li> <li>・主な環境問題について、その現状を理解し、解決策を考えることができるようになる。</li> <li>・個人、NPO、企業、行政がどのように環境問題と関わっているかを説明できるようになる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	「現代社会の諸相を理解し、現代社会を生きるための幅広い教養を身につける」という学部DP①の科目であり、現代社会で大きな課題となっている環境問題を全般を概論的に理解するための科目です。教科書に、企業等が環境に関わる資格として扱っているECO検定の公式テキストを使っており、この講義で現代社会の環境問題について全体を理解し、ビジネス社会コースの「ソーシャルビジネス論」、環境共生社会コースの「環境と経済」などで学びを深めることができます。特に環境共生社会コースでは、それぞれの講義担当者の専門領域についてコースの講義で詳細に学んでいきます。また、7月末にはECO検定がありますので、是非、この講義を受けた人は受験して見て下さい。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 講義概要説明		教科書を読んで何を勉強していくのかを把握してください。		
第2回 環境問題の歴史		予習と復習をして下さい。		
第3回 身近な自然観察：筑女の森散策		テストの準備をして下さい。		
第4回 地球の基礎知識 第1回小テスト		予習と復習をして下さい。		
第5回 いま地球で起きていること		予習と復習をして下さい。		
第6回 地球温暖化 第2回小テスト		予習と復習をして下さい。		
第7回 エネルギー問題		予習と復習をして下さい。		
第8回 生物多様性		予習と復習をして下さい。		
第9回 地球環境問題・循環型社会 第3回小テスト		予習と復習をして下さい。		
第10回 地域環境問題		予習と復習をして下さい。		
第11回 化学物質、東日本大震災と原子力発電		予習と復習をして下さい。		
第12回 パブリックセンター 第4回小テスト		予習と復習をして下さい。		
第13回 企業の役割		予習と復習をして下さい。		
第14回 個人の生活、NPO 第5回小テスト		全体を復習して下さい。		
第15回 模擬テスト		自己採点し、間違ったところを確認して下さい。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	8% 宿題レポートを一回出します。			
小テスト等	84% 小テストを5回します。			
成果発表	なし			
受講態度他	8%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	個人的事情による欠席はすべて欠席扱いとなります。			
教科書	東京商工会議所. 2015. 『ECO検定 改訂5版』 日本能率協会マネジメントセンター. 2600円+税			
指定図書	東京商工会議所. 2015. 『ECO検定 公式過去・模擬問題集 2015年度版』 日本能率協会マネジメントセンター.			
参考図書	なし			
オフィスアワー	月曜日 昼休み 及び 3講時	メールアドレス		

授業科目	現代社会とジェンダー		開講時期	後期
担当教員	赤枝 香奈子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>わたしたちが生きていく上で、「女」や「男」といった「性別」は非常に大きな意味を持っている。それは社会のしくみの多くが性別を基準にして成り立っているからである。このように社会のすみずみにまで浸透し、わたしたちの生/性を規定する性別について、「ジェンダー」という概念を用いて理解する。さらに、「ジェンダー」とかかわりの深い「セクシュアリティ」という概念について理解する。現代社会に特徴的なジェンダーをめぐる諸問題について、歴史的背景や他国の事例なども紹介しながら解説する。</p> <p>生/性の多様なあり方について具体的にイメージし、思考する力を養うことを目指す。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>ジェンダーやセクシュアリティという概念について理解し、それらがどのように社会とかかわっているか説明できる。</li> <li>ジェンダーやセクシュアリティが映画などメディアでどのように表象されているか考察できる。</li> <li>ジェンダーやセクシュアリティにかんする近年の変化を説明できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、現代社会学部DP①「現代社会の諸相を理解し、現代社会を生きるための幅広い教養を身につけている」の達成にかかわる科目です。「現代社会と地域」の授業とともに、社会学的な知識を現代社会理解に応用する方法を修得するための授業です。</p> <p>また、「女性とビジネス」「メディア産業論」「環境と倫理」などとともに、全学部共通の「女性の生き方を考える副専攻」授業科目の一つになっています。</p> <p>事前に全学共通科目の「女性・ジェンダー論」を履修していることが望ましいです。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション	授業後に復習を行う。		
第2回	ジェンダーとセクシュアリティ	配布資料を読み、ポイントをまとめてくる。		
第3回	女性性/男性性の表象(1)	配布資料を読み、ポイントをまとめてくる。		
第4回	女性性/男性性の表象(2)	配布資料を読んでくる。グループ発表の準備を行う。		
第5回	ウーマンリブ	配布資料を読んでくる。グループ発表の準備を行う。		
第6回	性と生殖の権利	配布資料を読んでくる。グループ発表の準備を行う。		
第7回	階級とジェンダー/セクシュアリティ	配布資料を読んでくる。グループ発表の準備を行う。		
第8回	同性愛/異性愛	配布資料を読んでくる。グループ発表の準備を行う。		
第9回	HIV/AIDSの影響(1)	配布資料を読んでくる。グループ発表の準備を行う。		
第10回	HIV/AIDSの影響(2)	配布資料を読んでくる。グループ発表の準備を行う。		
第11回	「新しい家族」?	配布資料を読んでくる。グループ発表の準備を行う。		
第12回	ジェンダー/セクシュアリティとアイデンティティ	配布資料を読んでくる。グループ発表の準備を行う。		
第13回	クィアという概念	配布資料を読み、ポイントをまとめてくる。		
第14回	「SOGIE」について	配布資料を読み、ポイントをまとめてくる。		
第15回	まとめ	これまでの復習を行う。レポート提出に向けた作業を行う。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%			
小テスト等	15%(授業内での小課題)			
成果発表	25%			
受講態度他	10%(発表準備、ディスカッションへの参加度、受講態度も成績評価に含める)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業では、受講生は小グループに分かれ、関連する映像資料などを見て、資料を用意し、発表を行っていただきます。発表後には全員でディスカッションを行います。毎回、配布資料には必ず目を通してください。授業や発表、ディスカッションへの積極的参加が求められます。			
教科書	適宜プリントを配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	授業内で指示する。			
オフィスアワー	水曜 4限	メールアドレス		

授業科目	現代社会と地域		開講時期	前期
担当教員	上村 真仁		単位	2
授業の目的と概要	現代社会は、少子高齢化、グローバル化、情報化、都市化社会など様々な特徴で語られている。これらの社会は、私たちの暮らしを豊かにしてくれたのだろうか。本講義では、私たちの生活の基盤となる「地域」が、時代の変化とともにどのように変遷を遂げてきたかについての基礎的な知識を習得することを目的とする。そのために、現代社会との対比として高度経済成長を通じた各時代の象徴的な社会の特徴を取り上げ、暮らしに与えた影響について考察を加えることとする。また、統計や世論調査などのデータをもとに現代社会の特徴を捉えることで、情報収集、分析による社会描写の方法についても触れる機会とする。			
到達目標	第二次世界大戦終結から現在までの日本社会に起こった社会変化について理解し、説明できるようになる。 高度経済成長前後の地域での暮らしの変化について、その要因を理解し、説明できるようになる。 現代社会の特徴が、地域に与える影響について、そのメリット、デメリットを考え、発表することが出来る。 自身の関心のあるテーマについて、地域の暮らしとの関連性について具体的に述べるとともに、より豊かな暮らしを実現するために必要となる対策について提案することが出来るようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に現代社会学部のDP1「現代社会の諸相を理解し、現代社会を生きるための幅広い教養を身につけている。」の達成に関わる科目です。環境共生社会コースの「地域環境論」や「地域デザイン」と併せて受講することで、相互に理解が深まります。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	現代社会と地域について 授業の進め方、自分たちの暮らしを振り返る	暮らしの中の不満や不便について考えて来ててください。		
第2回	「地域」とは何か？ 地域に関する様々な定義	自分の出身地の長所についてまとめて来ててください。		
第3回	戦後の地域・暮らしの変遷について 統計・データにみる戦後社会	戦後の日本の出来事と興味のあるものを調べて来ててください。		
第4回	高度経済成長 産業化・都市化とモータリゼーションの進展	都市・地方の良い点、悪い点を考えて来ててください。		
第5回	映像にみる高度経済成長期の社会 ドキュメンタリーフィルム視聴とディスカッション	高度経済成長の良い点を3つ考えて来ててください。		
第6回	高度経済成長の弊害と暮らしへの影響	高度経済成長の負の影響を考えて来ててください。		
第7回	豊かな暮らしとは何か？ 成長至上主義への警鐘	あなたにとって豊かな暮らしとは何かを考えて来ててください。		
第8回	映像にみるバブル期の社会 ドキュメンタリーフィルム視聴とディスカッション	バブル時代（80～90年代）について調べて来ててください。		
第9回	孤立化、合理化、画一化する社会 マクドナルド化、ファスト風土化とは	福岡（太宰府）らしいと思う場所の写真を撮ってきてください。		
第10回	グローバル化と地域	グローバル化が地域の暮らしに与える影響を考えて来ててください。		
第11回	情報化社会と地域	情報化が地域の暮らしに与える影響を考えて来ててください。		
第12回	少子高齢化、人口減少社会と地域	人口減少が地域に与える影響について考えて来ててください。		
第13回	これからの豊かさを考える（豊かさの考え方、指標）・グループディスカッション	地域で豊かに暮らすために出来ることを考えて来ててください。		
第14回	発表会 地域だからできる豊かな暮らし	グループで豊かな地域像を取りまとめて来ててください。		
第15回	まとめ 地域の暮らしの行方考える	期末レポートの作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート40% 今後の地域社会のあるべき姿について自身の考えを述べる。			
小テスト等	なし			
成果発表	40% 授業内でのグループ・プレゼンテーションを評価する。			
受講態度他	20% 授業でのグループワークへの貢献度等で評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目では、授業中での小テストを実施しますので、出席するようにしてください。			
教科書	担当教員が作成した資料を使用する（授業の際に配布する）。			
指定図書	なし			
参考図書	国民生活白書、環境白書、少子高齢化白書など			
オフィスアワー	水曜日の授業前後	メールアドレス		

授業科目	現代社会とビジネス		開講時期	前期
担当教員	藤原 隆信		単位	2
授業の目的と概要	現代社会と企業経営（ビジネス）は切っても切れない関係にあります。本科目では、「経営学をはじめて学ぶ」という学生の視点から、身近な事例を取り上げて企業経営の基本原則を学んでいきます。具体的には、①企業経営と私たちの暮らしはどのように関係しているのか、②企業経営の仕組みはどのようにになっているのか、③企業はどのようにして経営資源（ヒト・モノ・カネ・情報）を活用しているのか、といった知識を身に付けていきます。授業を通じて皆さんが、現代社会と企業経営（ビジネス）の関係性や日本社会の全体像を理解できるようになることを目指します。			
到達目標	①現代社会で働く際に必要となる企業経営の基礎知識（経営学の基礎）を身につける。 ②企業経営の仕組みやその実態を理解する。 ③現代社会の課題を知ると共にその実態を理解する。 ④上記①～③を踏まえ、現代社会における企業経営（ビジネス）のあるべき姿を自分の言葉で説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に現代社会学部DP1「現代社会の諸相を理解し、現代社会を生きるための幅広い教養を身につけている。」の達成に関わる科目です。「現代社会学概論Ⅰ・Ⅱ」や「現代社会とメディア」、「現代社会と環境」をあわせて受講することで、私たちが暮らしている社会を多面的に理解できるようになります。このような理解は、現代社会学部で学びを継続していく上で必要不可欠な土台（基礎知識）となります。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 私たちの暮らしと企業経営（1）	——私たちの生活を支える企業	商品って何ですか？身の回りの「もの」と企業との関係を考えてきて下さい。		
第2回 私たちの暮らしと企業経営（2）	——私たちが支える企業	仕事って何ですか？自分のやりたい仕事と企業との関係を考えてきて下さい。		
第3回 私たちの暮らしと企業経営（3）	——私たちの暮らしと「お金」	「お金」って何ですか？自分の生活と「お金」との関係を考えてきて下さい。		
第4回 企業経営の仕組みについて（1）	——株式会社の仕組みと経営資源	株式会社はどのような「仕組み」で動いているのかを調べてきて下さい。		
第5回 企業経営の仕組みについて（2）	——VTRで考える企業経営（「会社」は誰のものか？）	講義前課題（「会社は誰のものか？」を考える内容）をやってきて下さい。		
第6回 企業経営の仕組みについて（3）	——発表&討論（「会社」は誰のものか？）	チームメンバーで議論し、発表の準備をしてきて下さい。		
第7回 企業による経営資源の活用（1）	——消費者ニーズと販売管理	「今、売れている商品」を調べ、売れている理由を考えてきて下さい。		
第8回 企業による経営資源の活用（2）	——研究開発と生産管理	「今、売れている商品」を調べ、どのように製造されたのか調べてください。		
第9回 企業による経営資源の活用（3）	——VTRで考える企業経営（「研究開発」と人間の命）	講義前課題（「研究開発の必要性」を考える内容）をやってきて下さい。		
第10回 企業による経営資源の活用（4）	——発表&討論（「研究開発」と人間の命）	チームメンバーで議論し、発表の準備をしてきて下さい。		
第11回 現代の企業社会と労働（1）	——現代の企業社会と自立した個人	現代社会で「働き続けるために求められる能力」は何かを考えて来て下さい。		
第12回 現代の企業社会と労働（2）	——VTRで考える企業経営（現代の労働とワーキングプア）	講義前課題（「私たちの生活と雇用」を考える内容）をやってきて下さい。		
第13回 現代の企業社会と労働（3）	——データとVTRで考える企業経営（格差社会と企業経営）	講義前課題（企業社会と労働の関係を考える内容）をやってきて下さい。		
第14回 現代の企業社会と労働（4）	——発表&討論（現代の企業社会と労働）	チームメンバーで議論し、発表の準備をしてきてください。		
第15回 現代社会の課題と企業経営	——社会的課題の解決と企業経営	第14回授業時に配布する「期末レポート」をやってきて下さい。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート（30%）、講義前課題レポート（15%）、講義内課題レポート（15%）の提出状況（内容含む）で判断する。			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 授業の進行に合わせて適宜、チームでの発表をしてもらいます。その内容で判断します。			
受講態度他	10% 授業への出席状況や受講態度などを勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目では、授業の中で課題レポートの作成やチーム討議、チーム発表に取り組んでもらう予定にしています。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。			
教科書	担当教員が作成した資料を使用する（授業の際に配布する）。			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12：20～13：10） ※事前に予約を取って下さい。	メールアドレス		

授業科目	現代社会と仏教		開講時期	前期
担当教員	金見 倫吾・宇治 和貴		単位	2
授業の目的と概要	<p>現代社会が直面している様々な問題を取り上げ、それを乗り越えていく上で、仏教思想がもつ可能性について理解する。さらに、仏教が希求する社会像の理解を通じて、人間と社会のあり方に対する洞察力を深める。</p> <p>仏教が追求する問題は、人間苦悩の解決の方向性を抽象的に示すことだけにとどまらない。人間が生きていく上で社会的現実と直面することを避けられないように、仏教もまた、そこで生じる社会的な諸問題をいかに理解し乗り越えていくのかということに鋭くアプローチしてきた。授業では、現代社会が直面する具体的な課題を取り上げ、それらを乗り越えて行く方向性を、仏教の思想的立場から考えていきたい。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族、地域社会、医療、差別、福祉等に関して、現代社会がどのような課題に直面しているのかを述べることができる。</li> <li>2. 仏教的視点に立つとき、現代社会が直面する諸課題の問題性がどのように認識されてくるのかを説明することができる。</li> <li>3. 現代社会の直面する諸課題に対し、仏教の果たすべき役割とその思想的可能性に関して自分の意見を述べるができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要）	新聞などを読み、社会で起きている事柄に興味を持つ		
第2回	仏教から社会をみる視点	1年生の時の仏教学の復習をする		
第3回	浄土真宗から社会をみる視点	2年生の時の親鸞・人と思想の復習をする		
第4回	憲法問題と仏教①（大日本帝国憲法下での戦時教学）	明治憲法の内容を調べておく		
第5回	憲法問題と仏教②（仏教からみた日本国憲法と人権）	自民党の改憲草案を見ておく		
第6回	憲法問題と仏教③（仏教における平和の問題）	現行憲法20条が何かを調べておく		
第7回	憲法問題と仏教④（仏教者からみた集団的自衛権・安保法制・憲法改定の問題）	憲法改定に関する議論を見ておく		
第8回	仏教からみた総理大臣による靖国神社参拝問題	靖国問題についての議論を見ておく		
第9回	東日本大震災と仏教	新聞などで東日本大震災に関する記事を読んでおく		
第10回	原発問題と仏教	原発問題についての議論を見ておく		
第11回	沖縄基地問題を仏教ではどうみるか	新聞などで沖縄基地問題に関する記事を読んでおく		
第12回	仏教からみたセクシャルマイノリティの問題	新聞などにある「セクシャルマイノリティ」関連の記事を読んでおく		
第13回	仏教からみた「赤ちゃんポスト」の問題	新聞などで通称「赤ちゃんポスト」に関する記事を読んでおく		
第14回	仏教からみた社会保障の問題ーホームレス問題ー	新聞などでホームレスに関する記事を読んでおく		
第15回	仏教と現代社会の問題（まとめ）	新聞などにある「福祉」関連の記事を切り取る		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	%			
レポート	50%			
小テスト等	%			
成果発表	%			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	社会に関する最低限の知識を前提とします。新聞などを読み、現実社会で起こっている問題に関心を持ってください。			
教科書	特に指定しない			
指定図書	無し			
参考図書	無し			
オフィスアワー	火・水・木の3限目	メールアドレス		

授業科目	現代社会とメディア	開講時期	前期
担当教員	荒巻 龍也	単位	2
授業の目的と概要	<p>1. 日本人のメディアに関する情報行動のこれまでについて理解を深める。  2. 日本人のメディアに関する情報行動の現状について理解を深める。  3. 日本におけるメディアに関する諸問題について理解を深める。  現代社会とメディアの関係について理論的な裏付けや具体的な事象、出来事、データなどを取り上げながら学びます。現代社会においてメディアはどのような経緯で誕生し、どのように活用され、どのような変遷をたどり、現在どのような状況にあり、これからどこへ向かおうとしているのか。メディアは現代社会にどのような影響を及ぼしているのか、またメディアは現代社会からどのような影響を受けているのかという「メディアと社会との関わり方」を中心に考察していきます。</p>		
到達目標	<p>1. 日本人のメディア受容の歴史を説明することができる。  2. 現代の日本におけるメディアの諸問題について考察し、自分なりの考えを述べるすることができる。  3. ネット世代の日本人のあり様について説明できる。  4. メディアについて自分なりの未来図を描くことができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現代社会学部DP1：現代社会の諸相を理解し、現代社会を生きるための幅広い教養を身につけている。  関連科目：現代社会学概論Ⅰ・Ⅱ、現代社会とビジネス、現代社会と環境、現代社会と地域、現代社会とジェンダー、現代社会と仏教、メディア論、ポピュラー文化論、文化と現代社会 など</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション（授業の概要、授業計画、授業の進め方・受け方、メディアとは何か）	資料の復習	
第2回	1章 日本人はメディアをどう受け入れてきたか(1) テキスト内容（1章）の解説とまとめ	テキスト1章熟読、課題1	
第3回	1章 日本人はメディアをどう受け入れてきたか(2) メディアの歴史と日本人のメディア受容に関するグループワーク	テキスト1章熟読、課題2	
第4回	1章 日本人はメディアをどう受け入れてきたか(3) メディアVSメディアに関するグループワーク	テキスト2章熟読、課題3	
第5回	2章 メディアの利用実態はどう変わったか(1) テキスト内容（2章）の解説とまとめ	テキスト2章熟読、課題4	
第6回	2章 メディアの利用実態はどう変わったか(2) メディア受容の変化に関するまとめと（個人）発表	テキスト2章熟読、課題4	
第7回	2章 メディアの利用実態はどう変わったか(3) メディア受容の変化に関するグループワーク	テキスト2章熟読、課題5	
第8回	3章 メディアの「悪影響」を考える(1) テキスト内容（3章）の解説とまとめ	テキスト3章熟読、課題6	
第9回	3章 メディアの「悪影響」を考える(2) メディアの「悪影響」に関するグループワーク	テキスト3章熟読、課題6	
第10回	3章 メディアの「悪影響」を考える(3) メディアの「悪影響」に関するグループワーク・発表準備	テキスト3章熟読、課題7	
第11回	3章 メディアの「悪影響」を考える(4) メディアの「悪影響」に関するグループ発表	テキスト3章熟読、課題7	
第12回	4章 ネット世代のメンタリティー(1) テキスト内容（4章）の解説とまとめ、ネット依存度診断	テキスト4章熟読、課題8	
第13回	4章 ネット世代のメンタリティー(2) ネット世代のメンタリティーに関するグループワーク	テキスト4章熟読、課題8	
第14回	終章 メディアの未来にむけて(1) テキスト内容（終章）の解説とまとめ	テキスト終章熟読、課題9	
第15回	終章 メディアの未来にむけて(2)、（期末）レポートについて メディアの未来に関するグループワーク	テキスト終章熟読、発表準備、（期末）レポート	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	0% なし		
レポート	60% 各授業での課題、メディアの未来についてのレポート課題（60%）		
小テスト等	0%		
成果発表	30% グループワーク、発表など		
受講態度他	10% 授業態度その他		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業は講義形式で行いますが、個人作業、グループワーク、発表などを随時取り入れながら、進めていきます。テキストや教材・資料を授業中に読んでいくようなことはしません。パワーポイント教材を中心に短時間で説明したのちに、アクティブな行動をできるだけ行ってもらうようにしていきます。授業ではクリッカーを使用したアンケート調査を取り入れながら行うこともあります。  必ず予習・復習とそれぞれの課題は各自授業時間外に行き、期日までに提出してください。</p>		
教科書	橋元良明 『メディアと日本人 ー変わりゆく日常』 岩波新書 プリントならびに「筑女ネット」のオンライン教材も併用していきます。		
指定図書	なし		
参考図書	その都度授業で紹介します。 藤竹 暁著 『図説 日本のメディア』 NHKブックス（NHK出版）		
オフィスアワー	水曜日 10:00 - 12:00、金曜日 10:00 - 12:00	メールアドレス	

授業科目	現代中国と教育	開講時期	後期
担当教員	崔 淑芬	単 位	2
授業の目的と概要	<p>教育の重要性については古今東西を問わず国民の大きな関心事である。21世紀を担う今日の青少年の実像に迫りながら、今日の教育あり方を再検討する必要がある。本講義では、中国の教育を取り上げ、その教育の発足・発展、また、現代中国教育の変わりつつある教育制度、教育内容及び問題を踏まえ、主に改革開放の中での教育の現状、特徴及び社会との関係に目を向け、教育や社会などの根本的な問題を検討し、今日的教育課題に対する理解を深めるようになることを目的とする。</p> <p>中国教育の変わりつつある教育制度・内容について国家近代化の過程との関連を考察すると共に、今日の改革開放の中で、教育の現状、特徴及び社会との関係に目を向け、なおかつ、現在の教育に対する理解を深めるために、近年の中国現地において女子教育や少数民族教育の調査結果、また、海外で取材した映像を使用し、レジュメの作成などにより講義を展開していく。</p>		
到達目標	<p>1、中国の教育を通して、アジアにおける教育問題にどのような傾向があるのかを認識することができる。</p> <p>2、現代中国の少数民族教育現状を理解することができる。</p> <p>3、今日の教育実相と社会などの根本的な問題を検討し、自ら心豊かな人間の形成を自覚することができる。</p> <p>4、現代教育の理念・あり方、社会との関係への認識を促進し、自己教育力を育成することができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>関連する科目： 現代社会理解、日中交流史、東南アジア近現代史、アジアジェンダー論、現代東南アジア事情 など</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 教育とは、教育の意義・授業計画		儒教とは	
第2回 中国の伝統教育①儒学思想と塾教育		科举制度とは	
第3回 中国の伝統教育②教育と科举制		教育近代化とは	
第4回 中国の教育近代化と日本		女子の教育と社会地位	
第5回 女子教育① 纏足・三従四徳と女子教育の在り方		女子の地位と教育	
第6回 女子教育② 女子留学・男女共学		今日の教育と宗教	
第7回 教育と宗教①（仏教を中心に）		イスラム教とは	
第8回 教育と宗教②（イスラム教を中心に）		義務教育とは	
第9回 農村部の教育の現状		一人っ子政策とは	
第10回 一人っ子政策と80後・90後の教育①		80後・90後とは	
第11回 一人っ子政策と80後・90後の教育②		21世紀の留学	
第12回 教育改革と「留学熱」①		留学生の現状	
第13回 留学の現状と特徴②		大学教育の特徴	
第14回 大学をめぐる日中現代教育の比較		教育についての総合的考察	
第15回 総括復習		レポートの作成・提出	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40%		
小テスト等	なし		
成果発表	20%		
受講態度他	40%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に必ず出席し、積極的な授業参加を望む。授業中の私語は慎むこと。		
教科書	使用しない。各テーマの参考プリントを配布する。		
指定図書	伊藤俊夫編『豊かな体験が青少年を育てる』（財）全日本社会教育連合会（2003年） 村瀬嘉代子ほか編『青年期の課題と支援』新曜社		
参考図書	松本ますみ『中国民族政策の研究』多賀出版 崔淑芬『中国女子教育史』中国書店 ほか、授業中に紹介する。		
オフィスワー	火・木	メールアドレス	

授業科目	現代東南アジア事情		開講時期	前期
担当教員	横山 豪志		単位	2
授業の目的と概要	<p>現代の東南アジアの社会に対する知識を見につけ、理解を深めていくことがこの講義の目的です。多様な東南アジアについて、1. 戦争の影、2. 経済発展、3. 日本との関係の3つの側面に着目し、認識を深めていきます。いずれも国家レベルのマクロな事柄と、個人レベルのミクロな事柄の、双方に配慮できる、包括的な理解を目指します。現代の東南アジアには2つの側面があります。1つは、20世紀後半に起こった戦争の影響を引きずっている側面であり、もう1つは、近代化し経済発展を続けている側面です。こうした事情は各国によって異なりますので、地域ごとに具体的に学びます。併せて、日本との関係についても考察します。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東南アジアにおける軍事的紛争とその社会的影響について、具体的に説明できる。</li> <li>2. 東南アジアの経済発展の構図と歪みについて説明できる。</li> <li>3. 日本と東南アジアの関係について、具体的に説明できる。</li> <li>4. 東南アジアの現代社会に関する文献を、自ら集め分析することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この講義は、アジア文化学科のDP2「東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの各地域の社会事情について、具体的な事例を通じて説明できる。」の達成に関わる科目です。「東アジア入門」、「東南アジア入門」、「南アジア入門」、「西アジア入門」の履修を通じて身につけた基礎知識をもとに、東南アジアという地域の特徴と今日的課題、また日本との関係について理解を深めることができます。また「現代韓国事情」や「現代インド事情」という他地域に関する科目を履修することで、比較という視点を身につけることができます。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 オリエンテーション	東南アジアの基礎知識		第2回用レジュメ、資料に基づき予習	
第2回	ベトナム戦争(1) 冷戦と東南アジア		第3回用レジュメ、資料に基づき予習	
第3回	ベトナム戦争(2) 戦争の悲劇		第4回用レジュメ、資料に基づき予習	
第4回	カンボジア紛争(1) ポルポト政権の成立		第5回用レジュメ、資料に基づき予習	
第5回	カンボジア紛争(2) 内戦と和平への試み		第6回用レジュメ、資料に基づき予習	
第6回	今日のベトナムとカンボジア		第7回用レジュメ、資料に基づき予習	
第7回	東南アジアの経済発展 基本的構図		第8回用レジュメ、資料に基づき予習	
第8回	経済発展の光と影(1) フィリピンの事例		第9回用レジュメ、資料に基づき予習	
第9回	経済発展の光と影(2) インドネシアの事例		第10回用レジュメ、資料に基づき予習	
第10回	東南アジアの華人社会(1) 華僑から華人へ		第11回用レジュメ、資料に基づき予習	
第11回	東南アジアの華人社会(2) 華人の経済活動		第12回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備	
第12回	日本と東南アジア(1) さまざまな援助		第13回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備	
第13回	日本と東南アジア(2) 経済連携協定		第14回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備	
第14回	ASEAN概論 その役割と課題		第15回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備	
第15回	東南アジアの現在		期末レポート準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% 期末レポート40% 毎回提出の「講義の概要」(各回5段階評価)50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	水13:00~14:40、木12:20~13:30		メールアドレス	



授業科目	現代日本語研究		開講時期	後期
担当教員	小野 望		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は、日本語学の発展科目として設置されているものである。 本講では、現代日本語においてしばしば取り上げられるトピックについて、それらが生じた経緯を明らかにすることで、言語変化のメカニズムや日本語の大きな流れを理解することを目的とする。			
到達目標	(1) 現代日本語のトピックについて、根拠を示してその発生の経緯を論ずることができる。 (2) 説明の根拠となる資料・データ等を収集し、活用することができる。 (3) 課題に関する先行研究等を参照し、考察のための視点や方法論を選択することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連する科目：日本語文法論、日本語意味論、日本語学演習Ⅰ・Ⅱ、日本語の現在 など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 オリエンテーション		次回のトピックについて、配布プリントを読んで概要を理解しておこう。		
第2回 トピック（1）ラ抜きことば		ラ抜きことばの現状を観察し、まとめる。		
第3回 トピック（1）ラ抜きことば		ラ抜きことばについて、先行研究・調査データ等を調べる。		
第4回 トピック（1）ラ抜きことば		ラ抜きことばの発生の経緯・メカニズムをまとめる。		
第5回 トピック（2）新しい敬意表現		敬意表現の現状を観察し、まとめる。		
第6回 トピック（2）新しい敬意表現		敬意表現について、先行研究・調査データ等を調べる。		
第7回 トピック（2）新しい敬意表現		新しい敬意表現の発生の経緯・メカニズムをまとめる。		
第8回 トピック（3）評価詞「かわいい」		「かわいい」の現状を観察し、まとめる。		
第9回 トピック（3）「かわいい」（4）「やばい」「かわいい」「やばい」の語誌		用例をもとに、語誌を概観する。		
第10回 トピック（3）評価詞「かわいい」「かわいい」の語誌		「かわいい」を手がかりに、評価詞の歴史を見る。		
第11回 トピック（3）評価詞「かわいい」太宰治の「かわいい」		太宰作品の「かわいい」を観察し、分類する。		
第12回 トピック（3）評価詞「かわいい」アンケート調査		参考論文をもとに、調査の方法を確認する。		
第13回 トピック（3）評価詞「かわいい」調査結果の分析		先行研究を参考に、調査結果の分析方法を考える。		
第14回 トピック（4）評価詞「やばい」		「やばい」の発生の経緯・メカニズムを考察する。		
第15回 トピック（4）評価詞「やばい」参考論文に見る研究の方法		参考論文を読んで、語彙分析の方法を考える。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 各自が選んだテーマについて、先行研究を示して自らの考えをまとめる。			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	60% 授業で取り上げる各現象について、発生の経緯・メカニズム等をまとめて報告する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・興味分野に関わらず、卒業論文作成に役立つよう、資料・データや先行研究の扱い方を学修します。 ・取り組み方によって成果は大きく異なります。考える力を高めるための、自分なりの方法を身につけることを目標に、積極的に参加しましょう。			
教科書	使用しない。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	井上史雄著『日本語ウォッチング』（岩波新書）ほか、授業中に指示する。			
オフィスアワー	木曜日：2講時～昼休み	メールアドレス		

授業科目	現代文読解	開講時期	前期
担当教員	松下 博文	単位	2
授業の目的と概要	短歌、俳句、詩、随筆、評論など、多岐にわたる現代文の世界を詳細に解説することを目指す。過去の大学入試問題を取り扱いながら、教員採用試験、公務員試験、就職試験などへの対策を講じつつ、学習を進める。また、指定のテキストによって、毎回、漢字の小テストを行なう。		
到達目標	①さまざまなジャンルの作品を正確に読み解ける。 ②現代文に対する幅広い知識を身につける。 ③「国語」の基礎力を身につける。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日本語・日本文学科DP(2)の「③ 日本語の構造や特徴について説明することができる。」および「④ 各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる。」に関連する科目であり、「近・現代文学入門」「近・現代文学概論」「近・現代文学講読」等で培ってきた知識と方法を、更に発展的に追究することができる。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	中村雄二郎 術語集	予習 6～13ページ	
第2回	白澤卓二 老化時計	予習 14～19ページ	
第3回	三浦雅士 考える身体	予習 20～27ページ	
第4回	青木保 異文化理解	予習 28～35ページ	
第5回	高史明 人間と言葉の深淵	予習 36～45ページ	
第6回	加藤周一 夕陽妄語	予習 46～51ページ	
第7回	養老孟司 人間科学	予習 52～61ページ	
第8回	鷲田清一 鷲田清一の文章	予習 62～71ページ	
第9回	佐野山寛太 現代広告の読み方	予習 72～79ページ	
第10回	西谷修 宗教への問い	予習 80～89ページ	
第11回	長田弘 感受性の領分	予習 90～95ページ	
第12回	芥川龍之介 毛利先生	予習 96～103ページ	
第13回	口語文法	予習 自立語と付属語	
第14回	口語文法	予習 助動詞	
第15回	口語文法	予習 助詞	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	60%		
レポート	なし		
小テスト等	40%		
成果発表	なし		
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席(欠席扱い)させます。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①私語は慎むこと。 ②机上に飲食物を出さないこと。 ③携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。		
教科書	板野博行『ターゲット 現代文』(旺文社)・佐藤喜一『基礎からのジャンプアップノート 漢字』(旺文社)		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	水曜日12時30分～13時	メールアドレス	

授業科目	現代ポップカルチャー		開講時期	後期
担当教員	大城 房美		単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義では、21世紀以降海外で加速したマンガ/アニメブームを中心に、日本文化と異文化の関係を取り上げる。グローバル化/ローカル化をキーワードとして、国際社会の中で目まぐるしく変化している多様な価値観が、私たちの生活や考え方にどのように関わっているのか、そしてこれから私たちは現代とどのように関わってゆくことができるのかを考察する。  *発表の準備について* 発表は2種類行う。  1. テキストをまとめる発表。&lt;担当者は、以下の要領でレジュメを作成すること&gt; (1) テキストのまとめ(用語・キーワード説明などを含む) (2) ポイント (3) みんなに考えて欲しいこと(問題提起) (4) 感想 *発表はテキストをよく読み、自分の言葉でまとめること。 2. small presentation(10分程度) ポップカルチャー紹介 (OHC/CD/DVD/PC使用可) また講義では、美術館などで開催される展示会視察など、学外授業、ゲスト講演も計画している。</p>			
到達目標	<p>1. 「ポップカルチャー」への関わり方を単に楽しいからということだけでなく、なぜ私はこれが好きなのだろう、という問題提起につなげ、自分の考え方や嗜好に影響を与えているものに意識的になる。  2. 現代を生きる「自分」とうまく付き合い、より良い生き方へとつながるリテラシーを習得する。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英語学科DP3「英語を媒介とする言語・文化・文学について概要を説明できる」に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Introduction		講義の際に指示します。		
第2回 ソフト・パワーとグローバル化/ローカル化		予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。		
第3回 ゲストレクチャー「POP Cultureにおける性表現」by Jaqueline Berndt		復習。		
第4回 文化としての日本マンガ・アニメ		予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。		
第5回 北九州市漫画ミュージアム 他 視察(ミュージアムの予定により、変更が生じることがあります)		展覧会の下調べ。		
第6回 海外からみた日本のポップ・アジア/欧米		予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。		
第7回 「国境」を越えるメディアとしてのマンガ 『マンガは越境する!』第1章		予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。		
第8回 「国境」を越えるメディアとしてのマンガ 『マンガは越境する!』第6章		予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。		
第9回 『女性MANGA研究』第1部		予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。		
第10回 『女性MANGA研究』第1部		予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。		
第11回 『女性MANGA研究』第2部		予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。		
第12回 『女性MANGA研究』第2部		予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。		
第13回 『女性MANGA研究』第3部		予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。		
第14回 『女性MANGA研究』第3部		予習・復習。発表担当者はハンドアウトを準備。		
第15回 まとめ		講義の際に指示します。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70% 講義の1/3を超える欠席をした場合はFinal Examの受験資格無し			
レポート	受講態度に含む			
小テスト等	なし			
成果発表	受講態度に含む			
受講態度他	30% 受講状況[遅刻・欠席]、授業参加(発表・宿題など)を含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*講義中私語・居眠りをする学生は欠席扱い(退出)。  *発表を担当する際、参考資料は複数あげる(例えば、Wiki pediaのみに頼った発表や報告は受け付けない)。  *レジュメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価しない。  *補講(時間割外講義)の連絡に注意すること。</p>			
教科書	『女性マンガ研究—欧米・アジア・日本を繋ぐMANGA』(青弓社) 指定図書、その他、文化論関係資料のコピー配付。			
指定図書	『出版指標年報』2016年度版(毎年4月発売)、『デジタルコンテンツ白書』2016年度版、Japanese Pop Culture			
参考図書	『メディア芸術アーカイブス』(2012)、『現代漫画博物館』(2006)、Reading Japan Cool (2010)、Internationalizing Cultural Studies (2003)、『マンガは越境する!』、『思想地図』(NHK)、英語版MANGA、マンガ関係の図書は請求番号726.1で検索			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	考古学Ⅰ	開講時期	前期
担当教員	大津 忠彦	単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：「考古学」といえば、珍しいものの「発見」や古代遺跡の発掘といったイメージが強いようです。それではなぜ発見物・遺跡発掘が考古学にとって必要なのでしょう。また考古学はデータをどのように生かし、解釈して人類史を考察するのでしょうか。石器や土器や金属器が遺跡から出土し、それらが博物館等で展示活用されるまでの流れにそって、考古学についての基礎的知識を身に付けます。</p> <p>概要：石器が「霹靂礎(へきれきちん)」と認識されていた段階から、近代的考古学の研究資料、社会教育資源へと変遷していく様相を、江戸時代古文書や文明開化期の大森貝塚(東京)の発掘調査事例等を通じて概観します。様々な考古遺物・遺跡や考古学研究法とその成果を、パワーポイント画像を多くまじえて紹介します。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「遺跡」・「遺物」・「遺構」について、具体例を挙げて考古学研究上の意味を説明することができる。</li> <li>・考古学的年代決定の原理・方法を具体的に列挙することができる。</li> <li>・「大森貝塚」発掘調査の動因、成果、その後への影響を学史的に説明することができる。</li> <li>・考古資料の収集から社会的活用までの流れを具体的に述べることができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、日本語・日本文学科のDP④「日本文化の構造や特徴について説明することができる」、および、アジア文化学科のDP③「アジアの地理・歴史についての基礎的・専門的知識を身につけている」という目的の達成に関わる科目です。この科目と共に、「考古学Ⅱ」を受講すると相互の理解が深まります。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	「考古学」的アプローチ：「遺跡」、「遺物」、「遺構」について	課題①：『雲根志』より、「霹靂礎」の項要約	
第2回	考古学遺物の発現：石器とカミナリさま	第4回までに課題①を提出	
第3回	木内 石亭著『雲根志』を読む - その(1)：考古遺物の分類	第4回までに課題①を提出	
第4回	木内 石亭著『雲根志』を読む - その(2)：考古遺物の解釈	第4回までに課題①を提出	
第5回	考古学的年代特定 - その(1)：層序と「型式」	課題②：身近な弥生時代遺跡・遺物レポート	
第6回	考古学的年代特定 - その(2)：絶対年代：記年銘鏡、理化学的年代測定法	第8回までに課題②を提出	
第7回	時代区分：とくに「石器時代」について	第8回までに課題②を提出	
第8回	C. J. トムセンと「三時期区分法」	第8回までに課題②を提出	
第9回	E. S. モースと大森貝塚の発掘	課題③：E. S. モースの講演録(1878年)の要約	
第10回	モースと「進化論」：近代日本がモースから学んだ科学的精神	第11回までに課題③を提出	
第11回	大森貝塚発掘調査の「副産物」	第11回までに課題③を提出	
第12回	遺跡の考古学的発掘調査 ― その目的と方法 ―	課題④：博物館展示品より考古資料1点のレポート	
第13回	考古資料の保存と活用 - その(1)：研究資源	第15回までに課題④を提出	
第14回	考古資料の保存と活用 - その(2)：「博物館」・「観光」資源	第15回までに課題④を提出	
第15回	「考古学Ⅰ」総括	第15回までに課題④を提出	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	-		
レポート	50% ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。		
小テスト等	-		
成果発表	-		
受講態度他	50% ②受講態度(含、時々的小テスト成果や提出課題成果)を秀・優・良・可・不可で判定。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・上記「成績評価に関する情報」欄の、①と②の判定組合せが「秀&amp;秀」・「秀&amp;優」を秀、「秀&amp;良」・「優&amp;優」を優、「秀&amp;可」・「優&amp;良」・「優&amp;可」・「良&amp;良」を良、「良&amp;可」・「可&amp;可」を可と成績評価する(これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可)。</p> <p>・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。受講態度の良否は成績評価に大きく影響します。講義の進行に集中し自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる(ノートを作成する)力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。</p>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。		
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス	

授業科目	考古学Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	大津 忠彦	単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：考古学をその題材に扱った文学、映像作品にわたしたちはしばしば出会います。授業では遺跡・遺物の採り挙げられ方の多様性や、なぜ読み手・鑑賞者を夢中にさせるのかについて考えます。そして作品理解を深化させる一助にすると共に、文学作品が考古学への関心を高揚、大衆化するに寄与したことや、考古学が社会からどのように認知されてきたかについて、実際にいくつかの文学作品を資料としながら理解します。</p> <p>概要：アニメ・劇画・小説等に「考古学」がどのように登場・利用されているかを、いくつかの作品に読み解きます。またそこで使われた考古資料や遺跡を考古学的に学びます。パワーポイントにより、画像資料を多用すると共に、レプリカを実際に手に取ったり、銘文解説を実際に体験して学びます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「考古学」の社会的登場形態事例を具体的に列挙することができる。</li> <li>・小説『真知子』における「考古学」と「遙かな別の世界」とを関連づけることができる。</li> <li>・「金印」、「石庖丁」等の考古資料を事例として、弥生文化の特性を説明することができる。</li> <li>・「青銅鏡」の図柄意匠や銘文の意味を説明することができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、日本語・日本文学科のDP④「日本文化の構造や特徴について説明することができる」、および、アジア文化学科のDP③「アジアの地理・歴史についての基礎的・専門的知識を身につけている」という目的の達成に関わる科目です。この科目と共に、「考古学Ⅰ」を受講すると相互の理解が深まります。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 考古学と社会：どこで、どのように「考古学」に遭遇するか？		課題①：文学、劇画、アニメ等に「考古学」をさがす	
第2回 アニメ・劇画作品と考古学－その（1）：ファンタジーと「考古学」		第3回までに課題①を提出	
第3回 アニメ・劇画作品と考古学－その（2）：主人公を取り巻く世界の構成		第3回までに課題①を提出	
第4回 「遙かな別の世界」－その（1）：野上弥生子『真知子』の時代と考古学		課題②：『真知子』の時代背景レポート	
第5回 「遙かな別の世界」－その（2）：野上弥生子『真知子』と考古学の世界		第6回までに課題②を提出	
第6回 「遙かな別の世界」－その（3）：野上弥生子『真知子』とそのモデル		第6回までに課題②を提出	
第7回 小説の主題を担う考古学遺物、遺跡、学説－その（1）：井上靖『玉碗記』と正倉院御物「白瑠璃碗」		課題③：「正倉院御物」1点レポート	
第8回 小説の主題を担う考古学遺物、遺跡、学説－その（2）：井上靖『玉碗記』とそのモデル		第8回までに課題③を提出	
第9回 松本清張小説に登場する様々な「考古資料」－その（1）：『月』と志賀島出土「金印」		課題④：博物館展示品より弥生時代遺物1点レポート	
第10回 松本清張小説に登場する様々な「考古資料」：－その（2）『月』と「魏志倭人伝」		第11回までに課題④を提出	
第11回 松本清張小説に登場する様々な「考古資料」－その（3）：『支払い過ぎた縁談』と「石庖丁」		第11回までに課題④を提出	
第12回 松本清張小説に登場する様々な「考古資料」－その（4）：『支払い過ぎた縁談』と弥生時代稲作		課題⑤：『魏志倭人伝』（指定箇所）読解レポート	
第13回 松本清張小説に登場する様々な「考古資料」－その（5）：『神の里事件』と「青銅鏡」		第15回までに課題⑤を提出	
第14回 松本清張小説に登場する様々な「考古資料」－その（6）：「青銅鏡」銘文の世界		第15回までに課題⑤を提出	
第15回 「考古学Ⅱ」総括		第15回までに課題⑤を提出	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	—		
レポート	50% ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。		
小テスト等	—		
成果発表	—		
受講態度他	50% ②受講態度（含、時々的小テスト成果や提出課題成果）を秀・優・良・可・不可で判定。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・上記「成績評価に関する情報」欄の、①と②の判定組合せが「秀&amp;秀」・「秀&amp;優」を秀、「秀&amp;良」・「優&amp;優」を優、「秀&amp;可」・「優&amp;良」・「優&amp;可」・「良&amp;良」を良、「良&amp;可」・「可&amp;可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。受講態度の良否は成績評価に大きく影響します。講義の進行に集中し自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。</p>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。		
オフィスアワー	水曜日の5時間目	メールアドレス	

授業科目	公的扶助論		開講時期	後期
担当教員	高木 佳世子		単位	2
授業の目的と概要	1. 貧困問題の原因と公的扶助の意義について学び、生活保護制度のあるべき運用について検討する。 2. 生活保護制度の運用の実際と生活保護法改正の概要について学び、問題点についても検討する。			
到達目標	1. 貧困問題が生じる原因と公的扶助の意義について説明できる。 2. 生活保護制度の概要について説明できる。 3. 生活保護制度改革や運用上の問題点について指摘できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	1. この科目は、社会福祉コースのDP「④人間が直面する心理・社会的諸問題や諸課題に対処し、改善・解決を図るために有効な援助法や社会資源・制度について説明することができる。」の達成に関わる科目です。 2. 社会福祉士・精神保健福祉士養成科目です。 3. 「社会保障論」と関連が深いため、履修を済ませていることをお勧めします。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	公的扶助の概念と歴史		第1章、第2章	
第2回	生活保護法と生活保護制度、生活保護の目的		第3章第1節	
第3回	生活保護の原理（1）1～4条		第3章第2節1～3、5、6	
第4回	生活保護の原理（2）4条 稼働能力活用要件		第3章第2節4	
第5回	生活保護の原則（1）7条、8条		第3章第3節1、2	
第6回	生活保護の原則（2）9条、10条		第3章第3節3、4	
第7回	生活保護基準と保護の種類、内容及び方法		第3章第4節	
第8回	保護施設		第3章第6節	
第9回	被保護者の権利及び義務		第5章第1節、第2節	
第10回	不服申立てと訴訟		第5章第3節、第4節	
第11回	生活保護の実施体制、実施機関		第6章第1節1、2、第2節	
第12回	生活保護の財政		第6章第1節3	
第13回	就労支援と自立支援プログラム		第8章第5節	
第14回	生活保護法2013年改正について		第8章第6節	
第15回	低所得者対策（ホームレス自立支援法、社会手当、生活福祉資金貸付制度等）		第10章	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	100%			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。			
教科書	吉永純・布川日佐史・加美嘉史編著『現代の貧困と公的扶助 低所得者に対する支援と生活保護制度』高学出版			
指定図書	池田和彦・砂脇恵編著『公的扶助の基礎理論－現代の貧困と生活保護制度』ミネルヴァ書房			
参考図書	講義の際に紹介します。			
オフィスアワー	水曜2,3限	メールアドレス		

授業科目	高齢者福祉論	開講時期	前期
担当教員	金 圓景	単 位	2
授業の目的と概要	高齢者を取り巻く社会問題を理解した上で、介護の概念と高齢者を支える諸制度、特に介護保険制度について学び、今日における高齢者の暮らしや課題を検討することを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者を取り巻く社会問題を理解し、説明できる。</li> <li>2. 高齢者を支える諸制度について理解できる。</li> <li>3. 今日における高齢者の暮らしや課題を検討した上で、解決策を提示できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は社会福祉コースのDP4「人間が直面する心理・社会的諸問題や諸課題に対処し、改善・解決を図るために有効な援助法や社会資源・制度について説明することができる」を充足するための科目です。この授業で学んだことを「介護概論」でさらに深めることができます。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	高齢者を取り巻く社会問題（1）－人口学からみた少子高齢社会と家族の変容－	少子高齢社会と家族の変容のまとめ	
第2回	高齢者を取り巻く社会問題（2）－現代社会における孤立死の増加、高齢者の虐待、就労問題－	高齢者の孤立死の状況・原因を調べる	
第3回	高齢者の特性－高齢者の特性と疾病－	高齢者の特性と主な疾病を整理する	
第4回	高齢者の総合的な理解－高齢者の生活実態及び老いについて－	老いについてまとめる	
第5回	認知症ケア－認知症の定義・種類や認知症ケアのための基本的理解・関連制度・施策－	認知症ケアのまとめ	
第6回	認知症高齢者と家族介護－認知症高齢者とその家族介護者の現状と課題、家族介護者への支援内容など－	家族介護の現状と課題についてまとめる	
第7回	高齢者を支える制度（1）－「老人福祉法」及び「高齢者の住まい法」などの概要及び介護のための住環境－	老人福祉法など関連法律を調べる	
第8回	高齢者を支える制度（2）－地方自治体独自のサービス・事業－	各地域の関連サービス・事業を調べる	
第9回	高齢者を支える制度（3）－新介護システムへの展開過程－	新介護システムのまとめ	
第10回	介護保険制度（1）－介護保険制度設立の背景・目的・仕組み－	介護保険制度概要のまとめ	
第11回	介護保険制度（2）－介護保険制度のサービス提供機関と、そこで働く社会福祉士の役割と実際－	介護保険制度関連機関などのまとめ	
第12回	地域包括支援センターの役割と実際－地域包括支援センターの役割と機能、現状、地域包括ケアに関する政策展開－	地域包括支援センターの役割まとめ	
第13回	介護保険制度下における専門職とネットワーク－多職種間連携の実際－	多職種間連携の意味と必要性についてまとめる	
第14回	高齢者虐待をめぐる現状と課題－高齢者虐待の実態、虐待予防の取り組み、虐待発見時の対応、「高齢者虐待防止法」の概要	高齢者虐待問題の対応システムをまとめる	
第15回	高齢者の権利擁護のための制度と実際－権利擁護の概要、成年後見制度の利用状況－	成年後見制度の現状と課題についてまとめる	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	50% レポート（小レポート5回）		
小テスト等	50% 小テスト		
成果発表	0%		
受講態度他	0%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回レジュメと資料を配布するので、やむを得ず欠席したときなどは、後日研究室に資料を受け取りに来ること。 また、講義中の私語は厳禁とする。		
教科書	プリントを配布		
指定図書	なし		
参考図書	『老いと社会』有斐閣、『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規		
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	高齢者保健福祉特論		開講時期	後期
担当教員	金 圓景		単 位	2
授業の目的と概要	日本の介護システムを知り、諸外国との比較を通して、介護システムの在り方について理解できるようにすることを目的とする。また、高齢者になっても地域で暮らし続けることができるようするための地域包括ケアシステムについて学ぶ。さらに、要介護高齢者と家族介護者の実態を知り、必要な支援システムについて理解できることを目標とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の介護システムについて理解し、その現状と課題について説明することができる。</li> <li>2. 地域包括ケアシステムについて理解し、実践事例を参考に、在り方を考察できる。</li> <li>3. 要介護高齢者と家族介護者への支援システムの現状と課題について理解し、必要な支援システムを提案できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	老いと社会		老いの概念整理	
第2回	日本の介護システム（1）		介護保険制度の概要整理及び介護保険法を読む	
第3回	日本の介護システム（2）		介護保険制度改正内容について整理	
第4回	日本の介護システム（3）		介護保険制度の現状と課題について整理	
第5回	諸外国の介護システム		諸外国の介護システムを調べ、日本と比較整理	
第6回	介護システムの在り方		介護システムの在り方についてプレゼンテーション準備	
第7回	施設福祉の歴史と現状		高齢者施設の類型と機能を整理	
第8回	在宅福祉の歴史と現状		高齢者の在宅福祉サービス内容の整理	
第9回	地域包括ケアシステム（1）		地域包括ケアシステム関連報告書を読む	
第10回	地域包括ケアシステム（2）		地域包括ケアシステムの実践現場見学	
第11回	地域包括ケアシステム（3）		地域包括ケアシステムの実践事例を調べ、整理	
第12回	要介護高齢者と家族介護者への理解		家族介護当事者の声を聴く	
第13回	要介護高齢者と家族介護者への支援システム（1）		家族介護者支援システムの現状と課題整理	
第14回	要介護高齢者と家族介護者への支援システム（2）		家族介護者支援システム関連文献を読む	
第15回	要介護高齢者と家族介護者への支援システム（3）		家族介護者支援システムの在り方について整理	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 課題レポート			
小テスト等	0％			
成果発表	50％ 授業内でのプレゼンテーション			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業では、授業内でのプレゼンテーション及びディスカッションへの積極的な参加を求める。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	副田あけみ編『リーディング日本の社会福祉3 高齢者と福祉一ケアのあり方』 日本図書センター			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		



授業科目	国語科教育法Ⅰ【中等教職】		開講時期	前期
担当教員	出雲 俊江		単位	4
授業の目的と概要	<p>&lt;目的&gt; 中学校・高等学校の国語科授業を理論的に構築し、実践するための基礎的な力を養うことを目的とする。特に、国語科教育についての理論と実践の歴史についての学びを土台として、学習者が真の主体となる「国語」の授業を構成するための考え方、及び、教材研究から学習指導案作りまでを身に着けることを目指す。特に演習によって、よい授業のあり方について互いに考え合い、実践のための視点と方法の獲得を目指す。</p> <p>&lt;概要&gt; テーマ毎に、理論についての学びと実践演習の両方を行うことを基本とする。現行教科書に採録された国語の内容、学習材をとりあげる。①教材研究の基礎的資料を作成・発表し、それについてのディスカッションを行う。②学習指導案を作成発表し、それについてのディスカッションを行う。教材は主にプリント配布。 授業内容と並行して、読書課題を設ける（2回）。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科教育の教育課程及びその歴史について大体の知識を持っている。</li> <li>・中学校・高等学校国語の授業のための基本的な「教材研究」を行うことができる。</li> <li>・「教材研究」と学習指導案の結びつきについて理解し、学習指導案を立案することができる。</li> <li>・授業実践のための基本的な技術やコミュニケーション力を身につけている。</li> <li>・情報収集や情報発信の手段として、各種の情報機器を活用できる。</li> </ul>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の指導法</li> <li>● 実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等を組み入れ、実践的な指導力を身につけさせるような具体的な事項を授業計画に示す</li> <li>● 学習指導要領に掲げる事項に即して包括的な内容を含む</li> <li>● 国語および英語については中学及び高校の内容をバランスよく取り扱う</li> <li>● 教科書、参考図書などに、学習指導要領の利用を記載すること</li> <li>・教育課程の意義及び編成の方法</li> </ul>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション 〈総論〉 国語科教育とは何か。		読書課題（5月末提出）にとりかかる。	
第2回	理論：（国語科教育の歴史）国語科教育課程の意義と変遷（1） 実践：〈読むこと〉 文学教材 自分の読みを見つける		指定教材についての自由な感想文を書く。	
第3回	理論：（国語科教育の歴史）国語科教育課程の意義と変遷（2） 実践：〈読むこと〉：文学教材の授業作り（中心となる問いを作る。）		学習指導要領変遷のまとめ。 授業のための大問を考える。	
第4回	理論：文学教育の現在（国語科教育と読者論） 実践：〈読むこと〉文学教材の授業作り（大問の検討 授業計画の立て方）		単元全体の大まかな授業計画を立てる。	
第5回	〈読むこと〉 理論：文学教育の現在（国語科教育と分析批評） 実践：〈読むこと〉文学教材の授業作り（授業計画の検討）		授業計画の仕上げ。	
第6回	理論：古典学習について 古典学習の意義と特徴 実践：〈読むこと〉古典教材（古文 高校入門教材 説話）の教材研究について		学習指導案のうち、教材観・指導観を書く。	
第7回	理論：古典知識や文法の扱いについて 実践：〈読むこと〉古典教材（古文 『枕草子』） 学習指導案について（考え方と書き方）		学習指導案のうち、全体案を作成する。	
第8回	理論：生活につながる授業作り 実践：古典教材 全体案（『枕草子』）の検討 学習指導案 本時の計画について		本時の計画（『枕草子』）を作成。 読書課題（7月締切）	
第9回	理論：〈話すこと・聞くこと〉の授業について 実践：古典教材 本時の計画（『枕草子』）の検討		現行教科書より〈話すこと・聞くこと〉の教材分析	
第10回	理論：国語科教育課程 編成の方法 実践：複合的な授業の学習指導案 古典教材を用いて（古文 高校教材 『伊勢物語』）		複合的な授業の学習指導案（『伊勢物語』）を書く。	
第11回	理論：学習指導案の作成と発表について 実践：複合的な授業の学習指導案（『伊勢物語』）の検討。		文学教材から、自由に学習材を選んで、学習指導案を作成	
第12回	学習指導案の検討1（文学教材）		発表者は学習指導案を作成。他は教材を読んでおく。	
第13回	学習指導案の検討2（評論教材）		発表者は学習指導案を作成。他は教材を読んでおく。	
第14回	学習指導案の検討3（古典教材）		発表者は学習指導案を作成。他は教材を読んでおく。	
第15回	まとめ 課題について。		課題の準備。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	行わない。			
レポート	最終レポート（学習指導案）30％ 読書課題 2回 20％ 毎回の課題レポート 40％			
小テスト等	行わない。			
成果発表	学習指導案の発表 5％			
受講態度他	討議への参加状況 5％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教壇に立つつもりで、毎回の授業や課題に臨むこと。			
教科書	『中学校学習指導要領解説（国語編）』『高等学校学習指導要領解説（国語編）』文部科学省 森田信義他『新訂 国語科教育学の基礎』溪水社（平成22年）			
指定図書	特になし			
参考図書	中学校国語教科書 1・2・3年 各社 高等学校 国語総合 現代文 古典 教科書 各種			
オフィスアワー	水曜日 4限	メールアドレス		

授業科目	国語科教育法Ⅱ【中等教職】		開講時期	後期
担当教員	出雲 俊江・平元 道雄		単 位	4
授業の目的と概要	<p>中学校・高等学校の国語科授業を理論的に構築し、実践するための基礎的な力を養うことを目的とする。特に、国語科教育についての理論と実践の歴史についての学びを土台として、学習者が真の主体となる「国語」の授業を構成するための、考え方や学習指導案作成、また模擬授業を通じた基礎的実践力養成を目指す。</p> <p>取り上げたテーマに沿って、それに関する理論についてと実践演習の両方を行うことを基本とする。現行教科書に採録された国語の内容、学習材をとりあげる。学習指導案を作成・発表し、それについてのディスカッションを行う。模擬授業とそれについてのディスカッションを行う。これらの演習は、よい授業のあり方について互いに考え合い、実践のための視点と方法の獲得を目指すものである。</p> <p>授業内容と並行して、読書課題を設ける（2回）。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科教育についての理論と実践の歴史について、自身で学びを進めることができる。</li> <li>・中学校・高等学校国語の授業のための基本的な「教材研究」を行うことができる。</li> <li>・「教材研究」と学習指導案の結びつきについて理解し、「学習指導案を立案することができる。</li> <li>・授業実践のための基本的な技術やコミュニケーション力を身につけている。</li> <li>・国語科の基本的な授業を構築することができる。</li> <li>・情報収集や情報発信の手段として、各種の情報機器を活用できる。</li> </ul>			
この授業が目的とするDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の指導法</li> <li>● 実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等を組み入れ、実践的な指導力を身につけさせるような具体的な事項を授業計画に示す</li> <li>● 学習指導要領に掲げる事項に即して包括的な内容を含む</li> <li>● 国語および英語については中学及び高校の内容をバランスよく取り扱う</li> <li>● 教科書、参考図書などに、学習指導要領の利用を記載すること</li> <li>・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）</li> </ul>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	「国語科教育法Ⅰ」の課題レポート返却と要点のまとめ ＜書くこと＞の授業構築①ー＜書くこと＞指導の現在	読書課題1の準備		
第2回	＜読むこと＞の授業構築① ー評論文教材の教材研究と学習指導案の検討	「水の東西」（山崎正和）読む		
第3回	＜読むこと＞の授業構築② ー評論文教材の教材研究と学習指導案の検討（2）	参考文献（配布）読む		
第4回	＜読むこと＞の授業構築③ ー古文教材の教材研究と学習指導案の検討（1）	「北山の垣間見」（『源氏物語』）読む		
第5回	＜書くこと＞の授業構築① ー書くことの教材研究と学習指導案の検討	参考文献（配布）読む		
第6回	＜書くこと＞の授業構築② ー書くことの教材研究と学習指導案の検討（2） ／地区中学校授業研究会に参加	学習指導案の作成／授業研究会参加レポート		
第7回	模擬授業1（現代文1 文学教材）ー模擬授業及び検討会ー 自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。	学習指導案の作成。教材読んでおく。		
第8回	模擬授業2（現代文2 評論教材）ー模擬授業及び検討会ー 自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。	学習指導案の作成。教材読んでおく。		
第9回	模擬授業3（古文1 入門教材 説話 随筆など）ー模擬授業及び検討会ー 自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。	学習指導案の作成・教材読んでおく。		
第10回	模擬授業4（古文2 日記・物語）ー模擬授業及び検討会ー 自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。	模擬授業の準備・教材読んでおく		
第11回	模擬授業5（古文3 韻文）ー模擬授業及び検討会ー 自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。	模擬授業の準備・教材読んでおく		
第12回	模擬授業6（漢文1 文章）ー模擬授業及び検討会ー 自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。	模擬授業の準備・教材読んでおく		
第13回	模擬授業7（漢文2 思想）ー模擬授業及び検討会ー 自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。	模擬授業の準備・教材読んでおく		
第14回	模擬授業8（漢文3 韻文）ー模擬授業及び検討会ー 自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。	模擬授業の準備・教材読んでおく		
第15回	模擬授業9（電子黒板・その他の情報機器を用いた授業）ー模擬授業及び検討会ー 自由に教材を選んで模擬授業を行い、検討会を行う。	模擬授業の準備・教材読んでおく		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	行わない			
レポート	毎回のレポート 20％ 読書課題（2回） 20％			
小テスト等	行わない。			
成果発表	学習指導案 20％ 最終模擬授業 30％			
受講態度他	討議への参加状況 10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教壇に立つつもりで、毎回の授業や課題に臨むこと。			
教科書	『中学校学習指導要領解説（国語編）』『高等学校学習指導要領解説（国語編）』文部科学省 森田信義他『新訂 国語科教育学の基礎』溪水社（平成22年）			
指定図書	特になし			
参考図書	中学校国語教科書 1・2・3年 各社 高等学校 国語総合 現代文 古典 教科書 各種			
オフィスアワー	金曜日 3限	メールアドレス		

授業科目	国語教材研究A（現代文）		開講時期	後期
担当教員	松下 博文		単 位	2
授業の目的と概要	「口語文法」（学校文法）の知識を身につける。正しい筆順を身につける。 現行の中学校で学習するための総合的な国語力を身につける。			
到達目標	①読む・書く・聞く・話す・創作するために必要な学力を身につけることができる。 ②「口語文法」を多様な視点から研究することができる。 ③正しい筆順を身につける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、日本語・日本文学 科のDP（1）の「① 確かな「倫理観・人間観」を身につけ、社会の一員として生きる力」「② 自分の感情や欲求・行動をコントロールする「自己管理能力」を育て、他者と調和して生きる力」「③ 他者と協調して共に課題に取り組む「チームワーク力」 「④ 共生社会の一員として果たすべき「市民としての社会的責任」の自覚」「⑤ 社会的に自立する「健全な勤労観」 日本語の構造や特徴について説明することができる。」及びDP（2）の「③ 日本語の構造や特徴について説明することができる。」に関わる科目であり、「日本語学概論」「日本語学演習」「近・現代文学演習」で培った知識と方法を、更に発展的に追究することができる。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス（上）		予習	
第2回	ガイダンス（下）		予習	
第3回	自立語について（上）		資料作成	
第4回	自立語について（中）		資料作成	
第5回	自立語について（下）		資料作成	
第6回	付属語について（上）		資料作成	
第7回	付属語について（中）		資料作成	
第8回	付属語について（下）		資料作成	
第9回	紛らわしい品詞の見分け方（上）		資料作成	
第10回	紛らわしい品詞の見分け方（中）		資料作成	
第11回	紛らわしい品詞の見分け方（下）		資料作成	
第12回	正しい筆順（上）		資料作成	
第13回	正しい筆順（中）		資料作成	
第14回	正しい筆順（下）		資料作成	
第15回	まとめ		資料作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 定期試験			
レポート	0％			
小テスト等	30％			
成果発表	0％			
受講態度他	自覚を持って臨むこと。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①講義中は静粛に。 ②飲食物はなるべくカバンの中に入れておくこと。 ③提出物は必ず期限までに提出すること。			
教科書	江守賢治『漢字筆順 ハンドブック』（三省堂） 『中学総合的研究 国語』（旺文社）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日12時30分～13時		メールアドレス	

授業科目	国語教材研究B（古文）		開講時期	後期
担当教員	白石 良夫		単 位	2
授業の目的と概要	<p>「古文読解」で養った読解力を活かし、主として高校教科書に掲載されている古文教材を用いて、さまざまな有名古典の有名場面を読んでいきます。教職課程履修者もそうでない学生も、授業者のつもりで教材を分析してみることで、授業を受けるのとは違う見方で古典に接することができるはずです。文法や単語の知識に加えて、場面の背景にある個人的・時代的な事情にも注意しながら、より深く古典を読むための力を養います。</p> <p>学生として授業を受ける立場ではなく、授業者としての立場から、1つ1つの教材を捉え直してみましょ。教材はプリントを配布し、授業は主として演習形式で行います。発表者が担当教材を分析・解説し、質疑応答のあと、その教材を用いて受講者全員が作問します。</p>			
到達目標	<p>それぞれの教材について、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 文法や単語の知識を深め、理解し、説明できる。</li> <li>2) その場面における個人的・時代的な事情・背景を説明できる。</li> <li>3) 授業者としての立場から解説できる。</li> <li>4) 教材を用いて作問できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	ガイダンス（授業の進め方、教材研究などについての説明）	シラバスを読んでおく。		
第 2回	教材研究の方法	配布プリント		
第 3回	教材研究 竹取物語（以下、各回の作品については受講生と相談しながら決定するので仮のものを記しておく）	教材の予習 発表準備		
第 4回	教材研究 伊勢物語	教材の予習 発表準備		
第 5回	教材研究 源氏物語	教材の予習 発表準備		
第 6回	教材研究 枕草子	教材の予習 発表準備		
第 7回	教材研究 説話	教材の予習 発表準備		
第 8回	地区中学校授業研究会に参加	参加レポート		
第 9回	教材研究 和歌・俳句	教材の予習 発表準備		
第10回	教材研究 徒然草	教材の予習 発表準備		
第11回	教材研究 更級日記	教材の予習 発表準備		
第12回	教材研究 蜻蛉日記	教材の予習 発表準備		
第13回	教材研究 大鏡	教材の予習 発表準備		
第14回	教材研究 平家物語	教材の予習 発表準備		
第15回	まとめ	この授業で学んだことを総括する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30%			
レポート	20% 毎回の振り返りレポート			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 発表（資料作成ふくむ）			
受講態度他	20% 授業への積極的な参加を評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>教職課程履修者は必ず受講してください。</p> <p>自分が授業者であるという意識で、レポートや発表資料を作成しましょう。</p> <p>レポートは毎回の振り返りレポートを課します。</p>			
教科書	現行教科書教材等をプリント配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	随時紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	国語教材研究C (漢文)		開講時期	後期
担当教員	平元 道雄		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本授業は、漢文における思想分野についての基礎的な理解を持ち、思想文献の基本的な読解力を身につけることを目的とする。それにより国語として学んできた中国古典や日本文化に影響を与えた中国伝統文化に対する理解を深め、漢文訓読の基礎を培う。同時にまた、中学校もしくは高等学校の国語教員を志している学生は、漢文の指導に必要な基礎力を習得できる。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 訓読のリズムに慣れ、句法に習熟し、返り点の施された漢文を読むことができる。</li> <li>・ 論語・孟子等の文章に慣れ、儒家思想の基本的な思想傾向について説明できる。</li> <li>・ 道家・法家等の文章に慣れ、その基本的な思想傾向について説明できる。</li> <li>・ 唐宋の思想家の文章に慣れ、その基本的な思想傾向について説明できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	訓読という方法—日本語としての漢文訓読について	教科書の「基礎編」を読む。		
第 2回	訓読の基礎—語順・句法の確認	予習プリント1を仕上げる。教科書「句法編・否定」を暗誦する。		
第 3回	儒家の文章1—孔子と論語一	予習プリント2を仕上げる。教科書「句法編・否定」を暗誦する。		
第 4回	儒家の文章2—孔子と論語二	予習プリント3を仕上げる。教科書「句法編・疑問」を暗誦する。		
第 5回	儒家の文章3—孔子と論語三	予習プリント4を仕上げる。教科書「句法編・疑問」を暗誦する。		
第 6回	儒家の文章4—孔子と論語四	予習プリント5を仕上げる。教科書「句法編・反語」を暗誦する。		
第 7回	儒家の文章5—孟子について一	予習プリント6を仕上げる。教科書「句法編・反語」を暗誦する。		
第 8回	儒家の文章6—孟子について二	予習プリント7を仕上げる。教科書「句法編・使役/受身」を暗誦する。		
第 9回	儒家の文章7—荀子について	予習プリント8を仕上げる。教科書「句法編・比況/感嘆」を暗誦する。		
第10回	道家の文章1—老子について	予習プリント9を仕上げる。教科書「句法編・願望」を暗誦する。		
第11回	道家の文章2—荘子について	予習プリント10を仕上げる。教科書「句法編・仮定」を暗誦する。		
第12回	法家の文章—韓非子について	予習プリント11を仕上げる。教科書「句法編・比較/選択」を暗誦する。		
第13回	墨家の文章—墨子について	予習プリント12を仕上げる。教科書「句法編・比較/選択」を暗誦する。		
第14回	唐宋八大家の文章1—韓愈について	予習プリント13を仕上げる。教科書「句法編・限定/累加」を暗誦する。		
第15回	唐宋八大家の文章2—王安石について	予習プリント14を仕上げる。教科書「句法編・抑揚/倒置」を暗誦する。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50% 定期試験期間中に90分、50点満点のテストを実施。詳細は授業内で指示する。			
レポート	なし			
小テスト等	30% 句法の暗誦を確認する、14回の小テストを実施。詳細は授業内で指示する。			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 出席の状況や受講態度について評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習プリントを配布するので、必ずプリントを仕上げて授業を受けること。また、2回目以降は、句法暗誦確認の小テストを実施するので、句法暗誦の励行を切望する。			
教科書	『再編二訂版 漢文入門』(教育研究会)			
指定図書	『漢文教育の理論と実践』江連隆著 大修館書店			
参考図書	適宜、授業の中で紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	国際関係文化論		開講時期	後期
担当教員	濱野 健		単 位	2
授業の目的と概要	グローバル化する社会における文化の特徴について理解することを目的とする。とりわけ、特定の地域を越えた経済や政治の影響を受けながら、文化がどのように生成され、そして消費されていくのかを明らかにする。 なお、講義では週末の課外授業も予定している。			
到達目標	社会における文化の重要性について理解できるようになる。グローバル化する社会において、自分自身がどのような文化から影響を受けているのかを具体的に把握できるようになる。身の回りでおきている文化変容について明確に意識できるようになる。またこうした事象について批判的な視点から、理論的に考察できるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP4「英語を活かすための職業上の知識や技能の基礎を身につけている。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
	文化の概念	「文化」について、自分なりの定義をも考えてきてください。		
	グローバリゼーションと文化変容	事前配付資料を読んでおいてください。		
	複雑化する民族・エスニシティ	事前配付資料を読んでおいてください。		
	グローバリゼーションとジェンダー・セクシュアリティ	事前配付資料を読んでおいてください。		
	グローバリゼーションと近代国家・国民文化	事前配付資料を読んでおいてください。		
	伝統文化の変容と再創造	事前配付資料を読んでおいてください。		
	ポスト・コロニアルな文化	事前配付資料を読んでおいてください。		
	カルチュラル・スタディーズと文化の政治	事前配付資料を読んでおいてください。		
	観光と文化 - 文化の消費とグローバリゼーション	事前配付資料を読んでおいてください。		
	グローバル経済とグローバル社会の文化①-新自由主義とはなにか (前編)	事前配付資料を読んでおいてください。		
	グローバル経済とグローバル社会の文化②-新自由主義とはなにか (後編)	事前配付資料を読んでおいてください。		
	グローバル化する家族	事前配付資料を読んでおいてください。		
	多文化主義 ①- グローバリゼーションと社会の多元化	事前配付資料を読んでおいてください。		
	多文化主義② - 日本社会と多文化共生	事前配付資料を読んでおいてください。		
	第15回：各回のまとめ	これまでに配付した資料やノートを用意してください。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% 期末レポート(4000文字)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	事前に配付した資料を読んで、自分なりの関心や疑問を持って講義にのぞんでください。講義中は、他の受講生の迷惑にならないようにお願いします。講義内容に関する質問は講義中、その前後でいつでも歓迎します。			
教科書	特になし			
指定図書	必要に応じて、講義の際に適時資料を配布します。			
参考図書	講義の際に適時紹介します。			
オフィスアワー	非常勤のため講義の前後に対応します。	メールアドレス		

授業科目	国際観光論		開講時期	後期
担当教員	岩井 朝子		単位	2
授業の目的と概要	本授業は、日本に観光客を誘致するインバウンドに着目し、いかにしてインバウンド産業を盛り上げ、日本に国際観光都市を形成していくかを学ぶことを目的とする。観光国としては後進国である日本の問題点と改善方法を他の観光立国から学び、観光客誘致に役立つような知識を習得する。最終的に、授業において人気を集めそうなインバウンドツアーを企画立案してプレゼンテーションを行い、その企画の分析評価を検討し合う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 インバウンドとアウトバウンドの違いについて簡潔に説明できる</li> <li>2 外国人から見た日本の観光資源について着目し、その人気の理由を分析できる</li> <li>3 観光国として後進国である日本の課題について説明できる</li> <li>4 インバウンドツアーを企画立案し、そのプレゼンテーションができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	授業についてのイントロダクション インバウンドは21世紀のリーディング産業		インバウンドとアウトバウンドという言葉について調べる	
第2回	訪日観光客数の推移と大旅行時代の到来		新聞やインターネットで直近の統計を調べる	
第3回	観光の語源・歴史 観光の始まりから江戸時代まで		明治時代以前の旅行形態について調べる	
第4回	観光の歴史 明治時代から観光基本法ができるまで		観光基本法の内容について調べる	
第5回	ビジットジャパンキャンペーン 国策としての観光事業		ビジットジャパンの経緯を調べる	
第6回	外国人旅行者の誘致と受け入れ課題 国・地域別のマーケット特性について発表		国・地域別の外国人の行動傾向についてリサーチする	
第7回	外国人旅行者から見た日本の観光資源		外交人旅行者に人気なのでそうな観光資源について検討する	
第8回	外国人旅行者をいかにして地方に呼び込むか 地方広域ルートの提案		外国人旅行者誘致の方法について考える	
第9回	スペインの観光政策から学ぶべきこと		観光立国スペインを参考にして、日本の改善点考える	
第10回	エジプト観光から学ぶリスクマネジメント 1		旅行中のリスクへの対処方法について考える	
第11回	エジプト観光から学ぶリスクマネジメント 2		日本で起こりうる旅行時のリスクについて検討する	
第12回	観光形態や観光客の需要の変化に対応したマーケティング 1		インバウンド産業の日本が遅れている点とその改善策を検討する	
第13回	観光形態や観光客の需要の変化に対応したマーケティング 2 人気が出るインバウンドツアーを作る		人気でそうな観光地、アクティビティについて情報を収集する	
第14回	人気が出るインバウンドツアーを作る グループ発表 1		ツアーを実際に作成し、その販売方法を検討する	
第15回	人気が出るインバウンドツアーを作る グループ発表 2 講座の総括		これまでの授業を振り返り、重要な箇所をノートにまとめる	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	25% レポートを提出すること。			
小テスト等	20% 授業内で小テストを行う。			
成果発表	25% 授業内でのグループ発表。			
受講態度他	30% 建設的で積極的な授業参加態度を成績評価に加える。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業には前回の復習を行ってから参加すること。また上記以外の課題を授業内で指定することもありうる。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『観光白書』国土交通省ホームページ			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	国際社会と日本		開講時期	前期
担当教員	須藤 遙子		単位	2
授業の目的と概要	現在、国際社会のなかで日本が直面している問題やトピックを時事ニュースを通して考えていく。「憲法改正」「シリア難民」「非正規雇用」「爆買い」など、回ごとに1つのテーマを決めて解説・考察する。授業後には毎回考察ペーパーを提出し、評価対象とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の現状をグローバルな観点から考察できる。</li> <li>・多角的な視野で情報を分析できる。</li> <li>・自分の考えを文章で表現する。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現代社会学部DP1：現代社会の諸相を理解し、現代社会を生きるための幅広い教養を身につけている。 関連科目：現代社会学概論Ⅰ・Ⅱ、現代社会とビジネス、現代社会と環境、現代社会と地域、現代社会とジェンダー、現代社会とメディア、メディア論、ポピュラー文化論、文化と現代社会 など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第2回	メディアとは。	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第3回	「911, 311後の世界」	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第4回	日朝近代史1	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第5回	日朝近代史2	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第6回	「LGBT」	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第7回	ビデオ学習1「イラク帰還兵の苦悩」	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第8回	ドキュメンタリーとは。	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第9回	「投票」と「メディア・リテラシー」	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第10回	「憲法改正」	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第11回	「自衛隊」	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第12回	「TPP」	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第13回	ビデオ学習2「イラク青春ラブソニー」	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第14回	「参議院選挙」	ネットやテレビでニュースをチェックする。		
第15回	世界の中の日本。まとめ。	復習。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	80%(授業後に提出する考察ペーパー、レポート)			
小テスト等	%			
成果発表	%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	その時々最新のニュースを扱うため、シラバスのテーマが前後・変更することを了承のこと。その他、細かいルールに関しては、第1回目のオリエンテーションで説明します。			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		



授業科目	国際政治学	開講時期	前期
担当教員	横山 豪志	単位	2
授業の目的と概要	国際社会の一員として生きていくために、1945年以降、今日に至るまでの日本やアジアを取り巻く国際環境と課題を理解することが、この講義の目的です。具体的には、1. 戦後日本の安全保障政策と対アジア政策、2. 国連の平和維持活動、3. 地球環境問題の3点に焦点を当て、それぞれa. 問題の所在、b. 日本の対応、c. 今後の課題について理解を深めていきます。現在の国際関係において、政治と経済は密接に関連しており、経済的要因を無視して国際政治は語れないのですが、他の講義との重複を避けるため、安全保障や紛争処理、地球環境問題といった事柄に焦点を当て考察します。なお現実の国際情勢に応じて、講義内容を一部変更することがありますので、ご了承ください。		
到達目標	1. 戦後日本の安全保障政策と対アジア政策について、基本姿勢とその変遷について説明できる。 2. 国連の平和維持活動について、その成果と課題が説明できる。 3. 地球環境問題に対する国際的取り組みと課題が具体的に説明できる。 4. 現在の国際関係に関する文献を、自ら集めて分析することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション	国際関係論を学ぶとは	第2回用レジュメ、資料に基づき予習	
第2回	アジアにおける冷戦の構図	第3回用レジュメ、資料に基づき予習	
第3回	日本の主権回復と日米安保	第4回用レジュメ、資料に基づき予習	
第4回	日本の安全保障政策(1) 安保体制の下で	第5回用レジュメ、資料に基づき予習	
第5回	日本の安全保障政策(2) 国際環境の変化	第6回用レジュメ、資料に基づき予習	
第6回	戦後賠償からODAへ	第7回用レジュメ、資料に基づき予習	
第7回	日中国交正常化	第8回用レジュメ、資料に基づき予習	
第8回	残された「戦後処理」	第9回用レジュメ、資料に基づき予習	
第9回	日本の領土問題	第10回用レジュメ、資料に基づき予習	
第10回	国連の平和維持活動	第11回用レジュメ、資料に基づき予習	
第11回	平和維持活動のジレンマ(1) 具体的事例	第12回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備	
第12回	平和維持活動のジレンマ(2) ディスカッション	第13回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備	
第13回	日本の国際貢献	第14回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備	
第14回	地球環境問題(1) 環境問題の政治化	第15回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備	
第15回	地球環境問題(2) 気候変動に対する取り組み	期末レポート準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	90% (期末レポート40% 毎回提出の「講義の概要」(各回5段階評価) 50%)		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	講義内で適宜、指示します。		
オフィスアワー	水13:00～14:40、木12:20～13:30	メールアドレス	

授業科目	国際ボランティア概論	開講時期	後期
担当教員	濱野 健	単 位	2
授業の目的と概要	現代社会におけるボランティアの役割について批判的に学ぶ。とりわけ、グローバル化する社会における人と人との関係性の在り方としての国際ボランティアを取り上げ、その基本的な思想と活動理念を知る。 なお、講義では週末の課外授業も予定している。		
到達目標	ボランティアについて知ることで、グローバル化する社会における人間関係の多様な繋がり方を具体的に描けるようになる。グローバル化する社会で、ボランティアを通しての社会参加のあり方を考えることができるようになる。また、こうした活動がわたしたちの身近な生活やそこで培われている人間関係と具体的にどのように関わるのかを知るための方法を身につけることができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP3「英語を媒介とする言語・文化・文学について概要を説明できる。」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
	他者と「関わる」こと-社会の基礎的な成り立ち	人間関係のかたちがあるのか考えてきてください。	
	個人化する社会-社会の中のつながりととらえ直し	「自分らしさ」について考えてきてください。	
	グローバリゼーション-拡張する社会の問題と可能性	「グローバリゼーション」とは何なのか考えてきてください。	
	他者への配慮①-ケアという思想	事前に配布された資料を読んでから講義にのぞんでください。	
	他者への配慮②-ボランティアの思想	事前に配布された資料を読んでから講義にのぞんでください。	
	相互行為とボランティア-個人化する社会の中で他者と関わり合うことの意義	事前に配布された資料を読んでから講義にのぞんでください。	
	地球公共財と国際ボランティア	事前に配布された資料を読んでから講義にのぞんでください。	
	現代の若者と国際ボランティア①（前編）	事前に配布された資料を読んでから講義にのぞんでください。	
	現代の若者と国際ボランティア②（後編）	事前に配布された資料を読んでから講義にのぞんでください。	
	国際ボランティアの中心的な活動母体について	「国際ボランティア」の活動内容を一つあげてください。	
	身近な国際ボランティア	事前に配布された資料を読んでおいてください。	
	ボランティアと自己承認①-ボランティアという社会的行為	事前に配布された資料を読んでおいてください。	
	ボランティアと自己承認②-現代日本人のボランティア意識	事前に配布された資料を読んでおいてください。	
	ボランティアと自己承認③-ボランティアを通しての自己理解	事前に配布された資料を読んでおいてください。	
	まとめ	これまでに作成したノートと配付資料を持参してください。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし。		
レポート	80% 期末レポート（2000文字）		
小テスト等	なし。		
成果発表	なし。		
受講態度他	20%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義中は、他の受講生の迷惑にならないようお願いします。講義内容に関する質問は講義中、その前後でいつでも歓迎します。		
教科書	なし。		
指定図書	必要に応じて講義中に適時資料を配布。		
参考図書	講義中に適時紹介。		
オフィスワーカー	非常勤のため講義の前後に対応します。	メールアドレス	

授業科目	こころと身体のフィットネス	開講時期	前期
担当教員	古田 瑞徳	単位	2
授業の目的と概要	本演習では、特に女性の「こころと身体」の諸問題について焦点を当て、多様で変化していく社会環境において、常に変化する自分自身を最適化するマネジメント能力と実践力を養うことを目的としています。そのため、パーソナルな運動実践を通して、身体の機能と構造を理解しながら身体感覚を高めるとともに、呼吸法、栄養摂取法、身体トレーニング法、リラクセス法、心の調整法などの心身問題解決のための理論と実践法を学びます。さらにそれらをに日常生活の中で実行可能な自分のための心身活動としてプランニングでき、実行する力を養います。		
到達目標	① こころや身体の機能と構造を理解する。 ② さまざまなトレーニング方法を経験し、1人で実施することができる。 ③ 日常生活の中で実施できるプログラムを作成することができる。 ④ 変化に応じたプログラムの作成ができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	全学共通科目DP2の「人に学ぶ、人とのつながりの中で人生を豊かにつくりあげる」を充足するための科目です。 関連科目として「ウエルネス・スポーツ論」、「ウエルネス・スポーツⅠ」、「ウエルネス・スポーツⅡ」などがあります。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション		自分の課題をレポートする	
第2回 私は何でできているか		資料にもとづき、自分の身体を視覚化する復習を行う	
第3回 どのような法則に従っているのか		資料にもとづき、自分の身体を視覚化する復習を行う	
第4回 トレーニング実践 エアロビクス・エクササイズ		歩行時に練習をしてくる	
第5回 トレーニング実践 レジスタンス・エクササイズ		日常生活の中でできるトレーニングの復習	
第6回 トレーニング実践 ストレッチ・エクササイズ		日常生活の中でストレッチングの復習	
第7回 ヨーガ・エクササイズ 姿勢・スタンス・呼吸		アーサナ復習とスタンスの復習	
第8回 ヨーガ・エクササイズ 力学を利用する		日常性格の中で筋肉の力の発揮を意識する練習	
第9回 ヨーガ・エクササイズ 調整する力		日常生活の中で、快・不快の真ん中を探る練習	
第10回 こころの法則とトレーニング 観察する		単純な動作を観察する練習	
第11回 こころの法則とトレーニング データをそろえる		日常生活をを観察する練習	
第12回 こころの法則とトレーニング 集中する		社会の様々な出来事を観察する練習	
第13回 ヨーガ 動きの瞑想 日常生活での瞑想		運動を通して、自分を観察する練習	
第14回 プログラム作成		プログラム作成課題	
第15回 どのように社会にフィットしていくのか		まとめ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	1回 40%		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	毎時、観察記録とる。 60%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	運動にふさわしいヘアスタイル・服装で臨むこと。身体の動きがわかりやすいものが好ましいが、高校時の運動服でも可。(運動用のタンクトップやタイツ姿など歓迎。ジーンズ不可。長髪の方はゴムなどで束ねること。) 私語など他の受講生を妨害するような行為は禁止。		
教科書	資料配布		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	火曜日 昼休み	メールアドレス	

授業科目	こころと身体のフィットネス	開講時期	後期
担当教員	古田 瑞徳	単位	2
授業の目的と概要	本演習では、特に女性の「こころと身体」の諸問題について焦点を当て、多様で変化していく社会環境において、常に変化する自分自身を最適化するマネジメント能力と実践力を養うことを目的としています。そのため、パーソナルな運動実践を通して、身体の機能と構造を理解しながら身体感覚を高めるとともに、呼吸法、栄養摂取法、身体トレーニング法、リラクセス法、心の調整法などの心身問題解決のための理論と実践法を学びます。さらにそれらをに日常生活の中で実行可能な自分のための心身活動としてプランニングでき、実行する力を養います。		
到達目標	① こころや身体の機能と構造を理解する。 ② さまざまなトレーニング方法を経験し、1人で実施することができる。 ③ 日常生活の中で実施できるプログラムを作成することができる。 ④ 変化に応じたプログラムの作成ができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	全学共通科目DP2の「人に学ぶ、人とのつながりの中で人生を豊かに作りあげる」を充足するための科目です。 関連科目として「ウエルネス・スポーツ論」、「ウエルネス・スポーツⅠ」、「ウエルネス・スポーツⅡ」などがあります。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション	自分の課題をレポートする	
第2回	身体・動きのオリエンテーション	資料にもとづき、自分の身体を視覚化する復習を行う	
第3回	トレーニング実践 エアロビック・エクササイズ①	歩行時に練習をしてくる	
第4回	トレーニング実践 レジスタンス・ストレッチ・エクササイズ①	日常生活で練習をしてくる	
第5回	トレーニング実践 エアロビック・エクササイズ②スローで	日常生活の中でできるトレーニングの復習	
第6回	トレーニング実践 レジスタンス・ストレッチ・エクササイズ②スローで	日常生活の中でストレッチングの復習	
第7回	ヨーガ（陽）・エクササイズ① 姿勢・スタンス・呼吸	アーサナ復習とスタンスの復習	
第8回	ヨーガ（陽）・エクササイズ② 力学を利用する	日常性格の中で筋肉の力の発揮を意識する練習	
第9回	ヨーガ（陰）・エクササイズ① 観察力 調整力	日常生活の中で、快・不快の真ん中を探る練習	
第10回	ヨーガ（陰）・エクササイズ② 観察力 調整力	単純な動作を観察する練習	
第11回	こころの法則とトレーニング 考えない練習	日常生活をを観察する練習	
第12回	こころの法則とトレーニング 瞑想 座る・立つ・歩く	活動・運動を通して、自分を観察する練習	
第13回	ヨーガ 動きの瞑想 日常生活での瞑想	活動・運動を通して、自分を観察する練習	
第14回	講義 プログラムのまとめ	プログラム作成課題	
第15回	講義 どのように社会にフィットしていくのか（質疑・応答）	まとめ	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	1回 40%		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	毎時、観察記録とる。 60%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	運動にふさわしいヘアスタイル・服装で臨むこと。身体の動きがわかりやすいものが好ましいが、高校時の運動服でも可。（運動用のタンクトップやタイツ姿など歓迎。ジーンズ不可。長髪の方はゴムなどで束ねること。） 私語など他の受講生を妨害するような行為は禁止。		
教科書	資料配布		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	火曜日 昼休み	メールアドレス	

授業科目	こころの危機を支える		開講時期	前期
担当教員	浦田 英範		単位	2
授業の目的と概要	<p>ストレス社会といわれる現代社会において、心の健康を維持し自分らしく主体的に生きていくためには、どうすればよいのだろうか。</p> <p>本講義では、こころについて理解し、その危機をも理解する。こころの危機が生じた場合、どのような症状が出るのか。その症状を理解し、対処方法を理解することを目的とする。</p> <p>この講義の目的はこころを理解し、どのような場合こころが危機に陥るのかを知ることである。また、そのような不適応症状が出現したら、どうこころを支援するのか、あるいはリラクゼーションする方法を身につけることをも目的としている。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. こころの働きを理解する。</li> <li>2. こころの危機を理解する。</li> <li>3. 不適応症状について、簡潔な文章で説明することができる。</li> <li>4. 支えるとはどういうことか理解し説明できる</li> <li>5. 自分自身のストレス反応とストレス対処行動について考察し、的確な言葉で説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に人間科学部の共通科目DPの③「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」に相当する。関連科目としては、臨床心理学概論、臨床心理学各論である。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	こころは何か？（人間の行動の源なのか？）	復習		
第2回	こころの働きについて？	復習		
第3回	こころの危機とは何か？	復習		
第4回	臨床心理学で言う適応・不適応とは	復習		
第5回	ストレスとは何か？	復習		
第6回	ストレスによる精神症状・身体症状について	復習		
第7回	ストレスの緩和要因とは何か？	復習		
第8回	ストレスマネジメント（問題焦点がコーピング）	復習		
第9回	ストレスマネジメント（感情調整法）	復習		
第10回	リラクゼーション法	復習		
第11回	総合リラクゼーション法	復習		
第12回	支援とは何か？	復習		
第13回	支援の方法について	復習		
第14回	共感的理解に基づく支援とは	復習		
第15回	総括	復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80%資料、ノート持ち込み可とする。			
レポート	—			
小テスト等	なし			
成果発表	—			
受講態度他	20%：授業内容にどのくらいコミットメントしていたかを確認するショート・ライティングを評価の対象に含みます。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	意見を求められたときは積極的に発言してください。			
教科書	使用しない、プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に紹介します。			
オフィスアワー	講義の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	古代日本語研究		開講時期	後期
担当教員	高山 百合子		単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業の目的は、日本語の歴史の変遷の概要を知ることにより、改めて現代日本語について理解を深めることである。併せて、言語研究の意味・価値を理解することが、もう1つの重要な目的である。</p> <p>日本語の歴史の中から、〈音韻史〉〈語彙史〉〈条件表現〉〈疑問表現〉〈係り結び〉などのトピックを採り上げ、それぞれの変化・変遷の実相と、その日本語史における意味を考えていく。 日本語の構造や特徴について基本的な知識を持ち、説明することができるようになることが目標となる。</p>			
到達目標	<p>(1) 現代語に到るまでの日本語の歴史の変遷が、一通り把握できる。 (2) 重要なトピックについては、その概要が理解できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>◇日本語の構造や特徴について説明することができる。 関連する科目；日本語文法論など</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション／言語変化の捉え方、日本語史の時代区分	講義のまとめ（復習）		
第2回	日本語史概観	講義のまとめ（復習）		
第3回	日本語史の資料について	講義のまとめ（復習）		
第4回	音韻の変遷①	講義のまとめ（復習）		
第5回	音韻の変遷②	講義のまとめ（復習）		
第6回	語彙の変遷	講義のまとめ（復習）、中間レポートの作成		
第7回	条件表現の変遷①	講義のまとめ（復習）		
第8回	条件表現の変遷②	講義のまとめ（復習）		
第9回	条件表現の変遷③	講義のまとめ（復習）		
第10回	疑問表現の変遷①	講義のまとめ（復習）		
第11回	疑問表現の変遷②	講義のまとめ（復習）		
第12回	係り結びについて①	講義のまとめ（復習）		
第13回	係り結びについて②	講義のまとめ（復習）		
第14回	係り結びについて③	講義のまとめ（復習）		
第15回	連体と連用／まとめ	講義のまとめ（復習）		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％			
レポート	中間レポート20％			
小テスト等	特になし			
成果発表	評価の際考慮する。			
受講態度他	出席状況・受講態度などを、成績評価の際、加味する。講義内容は、すべて関連しながら全体像を形作っていくので、極力欠席しないようにしてほしい。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	適宜演習形式を織り交ぜながら授業を進めて行く。具体的には、テーマごとに前の時間の学習のまとめ、および調べたことを発表する。			
教科書	高山善行・青木博史 編『ガイドブック日本語文法史』（ひつじ書房）、プリント併用			
指定図書	特になし			
参考図書	日本語史・国語史概説書、日本語文法大辞典、日本語学研究事典、国語学大辞典など			
オフィスアワー	水曜 4・5 講時	メールアドレス		

授業科目	古代文学演習 I		開講時期	前期
担当教員	辛島 正雄		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的： 『源氏物語』野分巻を、影印本（写本をそのまま印刷したもの）を用いて読みすすめます。先行注釈をふまえた考察を通して、古典文学を解釈するための基本を身につけることを目的とします。</p> <p>概要： 毎回、野分巻の影印を3頁程度ずつ読みすすめます。受講者は、各自ノートを作成し、毎回本文の翻字・校訂・解釈の予習をしておくとともに、授業を通じてその点検・修正を行い、内容の正確・充実を目指します。そのようにして、予習と復習を繰り返して完成したノートを、定期試験終了時に、提出することを求めます。</p>			
到達目標	<p>1) 「古典文学基礎演習」で身につけた変体仮名の読解技能をもとに、影印を読むことができる。</p> <p>2) 先行注釈をふまえ、読解上の問題点を明らかにし、正しい解釈に到達するための手続きを身につける。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 ガイダンス	(授業の進め方、ノートの作成方法、『源氏物語』の伝本・注釈などについて)		シラバスを読んでおく。次回の予習。	
第2回 野分巻	1頁～3頁 (以下、ページ数はおおよその目安。)		授業の復習と次回の予習。	
第3回 野分巻	4頁～6頁		授業の復習と次回の予習。	
第4回 野分巻	7頁～9頁		授業の復習と次回の予習。	
第5回 野分巻	10頁～12頁		授業の復習と次回の予習。	
第6回 野分巻	13頁～15頁		授業の復習と次回の予習。	
第7回 野分巻	16頁～18頁		授業の復習と次回の予習。	
第8回 野分巻	19頁～21頁		授業の復習と次回の予習。	
第9回 野分巻	22頁～24頁		授業の復習と次回の予習。	
第10回 野分巻	25頁～27頁		授業の復習と次回の予習。	
第11回 野分巻	28頁～30頁		授業の復習と次回の予習。	
第12回 野分巻	31頁～33頁		授業の復習と次回の予習。	
第13回 野分巻	34頁～36頁		授業の復習と次回の予習。	
第14回 野分巻	37頁～39頁		授業の復習。	
第15回	まとめ		ノートを点検し、定期試験に備える。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40% 翻字・本文解釈についての試験。60分。持ち込み不可。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	40% 定期試験終了時に、ノートを提出。			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>「古代文学演習Ⅱ」を受講予定の方は、まずこの授業を受講してください。</p> <p>毎回予習・復習が必要です。最後にノートの提出を求めます。</p> <p>他学科の学生の履修は原則として認めません。</p>			
教科書	今泉忠義編『宮内庁書陵部蔵 青表紙本 源氏物語 野分』新典社			
指定図書	新日本古典文学大系『源氏物語』（岩波書店）、新編日本古典文学全集『源氏物語』（小学館）			
参考図書	随時紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。		メールアドレス	

授業科目	【閉講】古代文学演習Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	辛島 正雄	単 位	2
授業の目的と概要	<p>目的： 『和泉式部日記』を、影印本（写本を印刷したもの）で読みます。先行注釈をふまえた考察を通して、古典文学を解釈するための基本を身につけることを目的とします。</p> <p>概要： 毎回、『和泉式部日記』の影印を2頁程度ずつ担当者に割り当てます。担当者は発表資料を準備し、本文の翻字・校訂・解釈を行い、その過程で見出した自分なりの問題点について調査・考察したものを説明します。発表後は、受講者全員による討議を行いますので、発表者以外の受講者も、翻字などの予習が必要です。</p>		
到達目標	<p>1) 「古典文学演習Ⅰ」で身につけた古典文学読解の能力に磨きをかける。 2) 古典文学を読解するなかで問題点を見出し、先行研究をふまえて、自分なりの考えを主張できる。 3) 古典文学の内容や特質を、人が理解できるように説明できる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス（授業の進め方、ノート作成方法、『和泉式部日記』の伝本・注釈などについて。）	シラバスを読んでおく。	
第2回	発表担当の決定。発表資料作成についての注意。	次回の予習。	
第3回	1頁～4頁（以下、頁数はおおよその目安。） 発表と質疑応答、討議	授業の復習と次回の予習。	
第4回	5頁～8頁 発表と質疑応答、討議	授業の復習と次回の予習。	
第5回	9頁～12頁 発表と質疑応答、討議	授業の復習と次回の予習。	
第6回	13頁～16頁 発表と質疑応答、討議	授業の復習と次回の予習。	
第7回	17頁～20頁 発表と質疑応答、討議	授業の復習と次回の予習。	
第8回	21頁～24頁 発表と質疑応答、討議	授業の復習と次回の予習。	
第9回	25頁～28頁 発表と質疑応答、討議	授業の復習と次回の予習。	
第10回	29頁～32頁 発表と質疑応答、討議	授業の復習と次回の予習。	
第11回	33頁～36頁 発表と質疑応答、討議	授業の復習と次回の予習。	
第12回	37頁～40頁 発表と質疑応答、討議	授業の復習と次回の予習。	
第13回	41頁～44頁 発表と質疑応答、討議	授業の復習と次回の予習。	
第14回	45頁～48頁 発表と質疑応答、討議	授業の復習。	
第15回	まとめ	発表資料を見直し、ノートを点検して、定期試験に備える。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	40％ 翻字・本文解釈について。60分。持ち込み不可。		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	40％ 発表資料に基づく説明の内容・分かりやすさについて評価する。		
受講態度他	20％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>「古代文学演習Ⅰ」を受講のうえ、受講してください。 活発な質疑応答・討議のために、予習が必要です。 なお、他学科の学生の履修は原則として認めません。</p>		
教科書	吉田幸一編『榊原本 和泉式部日記』笠間書院		
指定図書	新潮日本古典集成『和泉式部日記』（新潮社）、新編日本古典文学全集『和泉式部日記』（小学館）		
参考図書	随時紹介します。		
オフィスアワー	授業の前後に相談を受けます。	メールアドレス	



授業科目	古代文学概論（日本文学史を含む）		開講時期	前期
担当教員	辛島 正雄		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的： 古代文学を学んでゆくうえで必要な基礎知識を身につけることを目的とします。ただし単に文学史の知識を学ぶだけではなく、一つひとつの作品が生まれた歴史的な土壌や環境を知り、実際の作品の文章に触れることで、作品やその時代に対するより深い認識・鑑賞力を養います。古代文学を学ぶことは、現代を生きる私たちの日常生活に根づく日本の伝統・文化を知ることにつながります。また、各作品の九州に関わる事項・人物などについても知り、古代文学と九州との関わりについて認識を深めます。</p> <p>概要： どの作品も、突然生み出されることはありません。時間の流れの中で、生み出される土壌や環境が整い、作品生成が促されます。この授業では上代（大和・奈良時代）から中古（平安時代）までの「古代」の作品たちについて、時間の流れや歴史的背景の中心</p>			
到達目標	<p>1) 古代文学のジャンルについて説明できる。 2) 古代文学の作品と作者について説明できる。 3) 古代文学の作品がどのような歴史的な背景で成立したか説明できる。 4) 古代文学と九州との関わりについて説明できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は日本語日本文学科のDP3「各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 ガイダンス（授業の進め方、文学史上の「古代」について、など）		教科書を確認し、シラバスを読んでおく。		
第2回 古事記 日本書紀 風土記		教科書「上代」概説・1・2章		
第3回 万葉集（1）		教科書「上代」3章		
第4回 万葉集（2）		教科書「上代」3章		
第5回 漢詩文 ★小テスト		教科書「上代」4章、「中古」2章		
第6回 古今和歌集 土佐日記 竹取物語		教科書「中古」概説・1章の1・5章の1・3章の1		
第7回 伊勢物語 大和物語 後撰和歌集 拾遺和歌集		教科書「中古」3章の2・1章の2		
第8回 宇津保物語 落窪物語 蜻蛉日記 ★小テスト		教科書「中古」3章の3・5章の1		
第9回 源氏物語		教科書「中古」3章の4		
第10回 紫式部日記 枕草子 源氏物語以後		教科書「中古」5章の2、4・3章の5		
第11回 和泉式部日記 更級日記 讃岐典侍日記 ★小テスト		教科書「中古」5章の2、3		
第12回 三代集以後 歌謡		教科書「中古」1章の2～5章		
第13回 歴史物語		教科書「中古」4章の1		
第14回 説話 ★小テスト		教科書「中古」4章の2		
第15回 まとめ		この授業で学んだことについて総括する。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	40%（50分。持ち込み不可。）			
レポート	なし			
小テスト等	40%（授業冒頭10分。持ち込み不可。）			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書の予習をして授業に臨むこと。 4回の小テストと、定期試験を実施。 授業中は授業にのみ集中すること。周囲に迷惑のかかるような行為は厳禁とし、そのような行為に対しては厳正に対処する。			
教科書	『日本文学史』（久保田淳編、おうふう）。必要に応じて資料を配布。			
指定図書	なし			
参考図書	随時紹介。			
オフィスワー	授業前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	古代文学講読 I		開講時期	前期
担当教員	辛島 正雄		単位	2
授業の目的と概要	平安時代を代表する文学のひとつである清少納言の『枕草子』を、読み所が分かるように抜粋された教科書を用いて読み進めながら、この作品の特徴を説明できるようになること、また、古代文学ならではの作品のありかたについて、現代との相違を意識しながら説明できるようになることを目的とする。			
到達目標	(1) 古代文学を原文で読めるようになる。 (2) 古代文学の特質やその背景を説明できるようになる。 (3) 現代とは異なる古代文学の世界について意見が述べられるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 ガイダンス		次回の予習をしておくこと。		
第2回 「王朝の四季絵巻をひもとけば」～「大進生昌をやりこめる」		次回の予習をしておくこと。		
第3回 「中宮様のまわりはいつも春爛漫」～「期待はずれでしらけてしまう」		次回の予習をしておくこと。		
第4回 「春の人事のゆくえ」～「やるせない追憶の日々」		次回の予習をしておくこと。		
第5回 「ある残暑の朝に一後朝の別れ」～「鳥は」		次回の予習をしておくこと。		
第6回 「上品なもの」～「暁の別れの美学」		次回の予習をしておくこと。		
第7回 「草の花はススキが一番」～「もと夫橘則光はこんな人」		次回の予習をしておくこと。		
第8回 「無名という名の琵琶」～「ホトトギスの声をもとめて」		次回の予習をしておくこと。		
第9回 「父元輔の名前は重い」～「見苦しいもの」		次回の予習をしておくこと。		
第10回 「普段と違って格別に聞こえるもの」～「ばつの悪いもの」		次回の予習をしておくこと。		
第11回 「晩秋の雨上がり一前栽の露」～「品のないもの」		次回の予習をしておくこと。		
第12回 「どきどきして胸がつぶれそうになるもの」～「女の一人住まい」		次回の予習をしておくこと。		
第13回 「実家は窮屈一宮仕えの女」～「野分の翌朝」		次回の予習をしておくこと。		
第14回 「初夏の山をゆけば、ヨモギが香る」～「うれしいもの」		次回に備えて全体を読み返しておくこと。		
第15回 「香炉峰の雪」～「この草子が世に出たのは」、総括		定期試験に備えてノートを整理し、復習しておくこと。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	80% 定期試験(60分、教科書・ノート持ち込み可)			
レポート	%			
小テスト等	%			
成果発表	%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中は授業にのみ集中すること。周囲に迷惑のかかるような行為は厳禁とし、そのような行為に対しては厳正に対処する。			
教科書	角川書店編『ビギナーズ・クラシックス日本の古典 枕草子』(角川ソフィア文庫)			
指定図書	なし			
参考図書	『枕草子』の全文は、新潮日本古典集成、新日本古典文学大系、新編日本古典文学全集等の叢書に所収されるほか、岩波文庫、角川ソフィア文庫からも刊行されている。			
オフィスアワー	授業前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	古代文学講読Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	辛島 正雄		単位	2
授業の目的と概要	平安時代に書かれた短編物語集『堤中納言物語』から七作品を取り上げ、読み所が分かるように解説された教科書を用いて読み進めながら、この作品の特徴を説明できるようになること、また、古代文学ならではの作品のありかたについて、現代との相違を意識しながら説明できるようになることを目的とする。			
到達目標	(1) 古代文学を原文で読めるようになる。 (2) 古代文学の特質やその背景を説明できるようになる。 (3) 現代とは異なる古代文学の世界について意見が述べられるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 ガイダンス		次回の予習をしておくこと。		
第2回 「第一話 花桜折る中将」(その1)		次回の予習をしておくこと。		
第3回 「第一話 花桜折る中将」(その2)		次回の予習をしておくこと。		
第4回 「第二話 このついで」		次回の予習をしておくこと。		
第5回 「第三話 虫めづる姫君」(その1)		次回の予習をしておくこと。		
第6回 「第三話 虫めづる姫君」(その2)		次回の予習をしておくこと。		
第7回 「第三話 虫めづる姫君」(その3)		次回の予習をしておくこと。		
第8回 「第四話 ほどほどの懸想」		次回の予習をしておくこと。		
第9回 「第五話 逢坂越えぬ権中納言」(その1)		次回の予習をしておくこと。		
第10回 「第五話 逢坂越えぬ権中納言」(その2)		次回の予習をしておくこと。		
第11回 「第六話 貝合せ」(その1)		次回の予習をしておくこと。		
第12回 「第六話 貝合せ」(その2)		次回の予習をしておくこと。		
第13回 「第九話 はい墨」(その1)		次回の予習をしておくこと。		
第14回 「第九 はい墨」(その2)		次回に備えて全体を読み返しておくこと。		
第15回 総括		定期試験に備えてノートを整理し、復習しておくこと。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	80% 定期試験(60分、教科書・ノート持ち込み可)			
レポート	%			
小テスト等	%			
成果発表	%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中は授業にのみ集中すること。周囲に迷惑のかかるような行為は厳禁とし、そのような行為に対しては厳正に対処する。			
教科書	坂口由美子編『ビギナーズ・クラシックス日本の古典 堤中納言物語』(角川ソフィア文庫)			
指定図書	なし			
参考図書	『堤中納言物語』は、新潮日本古典集成、新日本古典文学大系、新編日本古典文学全集等の叢書に所収されるほか、岩波文庫、講談社学術文庫等からも刊行されている。			
オフィスアワー	授業前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	古典文学基礎演習		開講時期	前期
担当教員	二宮 愛理		単位	2
授業の目的と概要	<p>舞台演劇を鑑賞するとき、動画で画面越しに見ただけでは本当にその作品を理解することはできません。古典文学を解釈する上でも同様です。これまでの歴史の中で、古典文学が書かれ、読まれてきた文字は、今のような活字ではなく、あの「うねうねした字」——「くずし字」です。この授業では、古典文学を考えるための第一歩としてくずし字を読み、活字におこせるようになること（「翻字」）を第一目標としています。また、読解のために本文を整える「校訂」、読解に必要なことを解説する「注釈」の基礎を学び、そのために必要な参考資料、ツールの使い方を身につけます。その中で適宜、高校レベルの古典文法を復習します。これにより、「翻字」「校訂」「注釈」といった古典読解の基本的な作業ができるようになることを目的としています。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. くずし字（変体仮名）を読んで翻字ができる</li> <li>2. 異同に注意して本文の校訂ができる</li> <li>3. 本文の中から自分なりの興味や問題点を発見し、考察することができる</li> <li>4. 適切なツールを用いて、古典作品の読解に必要な情報を収集できる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日本語・日本文学科DP(3)③「各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる」に該当する授業です。3年次の「古代文学演習」に向けて、古典文学読解の手順を身につけます。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 ガイダンス		教科書とシラバスを確認する		
第2回 古代の本とくずし字（変体仮名）		配布資料を見直す		
第3回 翻字／古典文法1：文の要素、文節、品詞		課題プリント		
第4回 翻字／古典文法2：動詞		課題プリント		
第5回 翻字／古典文法3：形容詞、形容動詞		課題プリント		
第6回 翻字／古典文法4：助詞、助動詞		課題プリント		
第7回 校訂：本文を読みやすく整える		課題プリント		
第8回 校訂：本文異同を整理する		課題プリント		
第9回 注釈：簡単な注釈をつける		課題プリント		
第10回 注釈：ことばの意味、用法を調べる		課題プリント		
第11回 注釈：引歌、類歌を調べる		課題プリント		
第12回 注釈：人物を調べる		課題プリント		
第13回 注釈：歴史を調べる		課題プリント		
第14回 注釈：先行研究を調べる		課題プリント		
第15回 まとめ		この授業で学んだことを総括する		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 毎回の課題プリントと最終課題			
小テスト等	30% 翻字の小テスト			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 授業への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	古典文学の演習や「卒業論文」で古典文学をとる予定の方は、本演習を受講してください。PCでのノート取り、カメラでの板書撮影（無音であっても）はご遠慮ください。（障がいのある学生への支援の場合を除く）			
教科書	『字典かな一出典明記一』（笠間書院）、ほかプリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	随時紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	古典文学基礎演習		開講時期	後期
担当教員	二宮 愛理		単位	2
授業の目的と概要	<p>舞台演劇を鑑賞するとき、動画で画面越しに見ただけでは本当にその作品を理解することはできません。古典文学を解釈する上でも同様です。これまでの歴史の中で、古典文学が書かれ、読まれてきた文字は、今のような活字ではなく、あの「うねうねした字」——「くずし字」です。この授業では、古典文学を考えるための第一歩としてくずし字を読み、活字におこせるようになること（「翻字」）を第一目標としています。また、読解のために本文を整える「校訂」、読解に必要なことを解説する「注釈」の基礎を学び、そのために必要な参考資料、ツールの使い方を身につけます。その中で適宜、高校レベルの古典文法を復習します。これにより、「翻字」「校訂」「注釈」といった古典読解の基本的な作業ができるようになることを目的としています。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. くずし字（変体仮名）を読んで翻字ができる</li> <li>2. 異同に注意して本文の校訂ができる</li> <li>3. 本文の中から自分なりの興味や問題点を発見し、考察することができる</li> <li>4. 適切なツールを用いて、古典作品の読解に必要な情報を収集できる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>日本語・日本文学科DP(3)③「各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる」に該当する授業です。3年次の「古代文学演習」に向けて、古典文学読解の手順を身につけます。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 ガイダンス			教科書とシラバスを確認する	
第2回 古代の本とくずし字（変体仮名）			配布資料を見直す	
第3回 翻字／古典文法1：文の要素、文節、品詞			課題プリント	
第4回 翻字／古典文法2：動詞			課題プリント	
第5回 翻字／古典文法3：形容詞、形容動詞			課題プリント	
第6回 翻字／古典文法4：助詞、助動詞			課題プリント	
第7回 校訂：本文を読みやすく整える			課題プリント	
第8回 校訂：本文異同を整理する			課題プリント	
第9回 注釈：簡単な注釈をつける			課題プリント	
第10回 注釈：ことばの意味、用法を調べる			課題プリント	
第11回 注釈：引歌、類歌を調べる			課題プリント	
第12回 注釈：人物を調べる			課題プリント	
第13回 注釈：歴史を調べる			課題プリント	
第14回 注釈：先行研究を調べる			課題プリント	
第15回 まとめ			この授業で学んだことを総括する	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 毎回の課題プリントと最終課題			
小テスト等	30% 翻字の小テスト			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 授業への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>古典文学の演習や「卒業論文」で古典文学をとる予定の方は、本演習を受講してください。PCでのノート取り、カメラでの板書撮影（無音であっても）はご遠慮ください。（障がいのある学生への支援の場合を除く）</p>			
教科書	『字典かな一出典明記一』（笠間書院）、ほかプリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	随時紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	古典文学入門		開講時期	前期
担当教員	桐島 薫子・安永 美恵		単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業では、中国文学（漢文・漢詩）と日本文学（古文）に関して基本的な語法を学びながら分かり易い作品を読解し、大学での古典学習に取り組んでいくための能力を身につけることができるようになることを目的としています。</p> <p>具体的には、高校で古典（古文・漢文）を学んでいなかったり、学んできたが復習したいと考えていたりする学生を対象とし、中国文学・日本文学の関連科目を学習するために必要な基礎的な事柄を学んでいきます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中国文学：課題に取り組むとともに、学んだ作品の時代背景や作者の意図を把握し、正しく解釈することができる。</li> <li>2 中国文学：学んだ文章の構造・語法を理解し、書き下し文を読んで、訓点を付けることができる。</li> <li>3 中国文学：学んだ文章の白文を書き下し文に、書き下し文を白文に直すことができる。（学習シートを準備）</li> <li>4 日本文学：基礎的な古典文法を理解し、基本的な問題を解くことができる。</li> <li>5 日本文学：古文の基礎知識を理解し、作品本文を、正しく解釈することができる。</li> <li>6 日本文学：学んだ作品の背景を理解し、描かれる世界や人物像について説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に日本語・日文学科のDP③「各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる」の達成に関わる科目です。</p> <p>中国文学の分野では、1年後期の「中国文学概論」や2年の「中国文学講読ⅠⅡ」で取り扱う作品を理解するための初歩的な漢文の語法を学んでいきます。</p> <p>日本文学の分野では1年次の「古代文学概論」「中・近世文学概論」や2年次の「古代文学講読ⅠⅡ」「中・近世文学講読ⅠⅡ」で取り扱う内容を理解するための初歩的な知識を学びます。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	レベルチェックテスト（成績評価には関係しない）	配布プリントの講読、課題に取り組む		
第2回	中国文学：漢文の基本形式、訓読、語法の基礎（レベルチェックテストの解説を含む）、課題	レベルチェックテストの復習、課題に取り組む		
第3回	中国文学：語法の基礎（レベルチェックテストの解説を含む）	レベルチェックテストの復習、課題（語法）に取り組む		
第4回	中国文学：①漢文作品1の訓読	配布プリントの予習・復習、課題（語法）に取り組む		
第5回	中国文学：①作品理解、②文章構造・語法の理解	配布プリントの予習・復習、課題（語法）に取り組む		
第6回	中国文学：①漢文作品2の訓読	配布プリントの予習・復習、課題（語法）に取り組む		
第7回	中国文学：①作品理解、文章構造・語法の理解、②課題（語法）の提出	配布プリントの予習・復習、教科書p94-107を繰り返し読む		
第8回	中国文学：①文章構造・語法の理解、②課題の返却、③定期試験について	配布プリント・課題（語法）の復習、教科書p94-107を繰り返し読む		
第9回	日本文学：①レベルチェックテストの解説、②歴史的仮名遣い・古語と現代語	配布プリントの復習。課題（文法）に取り組む。テキストの予習。		
第10回	日本文学：①『竹取物語』一 ②用言の活用	配布プリントの復習。課題（文法）に取り組む。テキストの予習。		
第11回	日本文学：①『竹取物語』二、②助動詞（1）	配布プリントの復習。課題（文法）に取り組む。テキストの予習。		
第12回	日本文学：①『竹取物語』五の1、②助動詞（2）	配布プリントの復習。課題（文法）に取り組む。テキストの予習。		
第13回	日本文学：①『竹取物語』五の2、②和歌の修辞	課題：配布プリントの予習・復習。テキスト本文の予習・復習。		
第14回	日本文学：①『竹取物語』八 ②係り結びと助詞	配布プリントの復習。テキストの予習。		
第15回	日本文学：①『竹取物語』九 ②敬語	課題：試験準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	75% 定期試験（日本文学40%＋中国文学35%）			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	25%（日本文学10%＋中国文学15% 課題提出を含む）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・初回に到達レベル確認のためのレベルチェックテストを行うので、レベルを確認の上、履修を決定してもらいたい。			
教科書	<p>・日本文学：室伏信助訳注『新版 竹取物語』角川学芸出版、配布プリント</p> <p>・中国文学：森野繁夫・佐藤利行著『漢文 まとめと要点』白帝社、配布プリント</p>			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	(安永) 火曜 5 限、木曜 昼休み (桐島) 火曜 昼休み、金曜 4 限	メールアドレス		

授業科目	子ども環境論	開講時期	前期
担当教員	安恒 万記	単 位	2
授業の目的と概要	<p>未来を担う子どもたちが心身ともに健康に育つことができる環境を保障することは社会の責任です。  「子ども環境論」では、子どもの育つ環境を総合的に見つめ、住環境を中心に子どもの成育環境の問題を探り、そのあり方を考えます。さまざまな環境が子どもの心身に与える影響を深く理解し、豊かな成育環境の実現に向けて自ら考え、創意工夫する力を養うことを目的とします。  授業は講義を中心に、DVDなどによる映像も使用しながら、子どもの成育環境の問題を探ります。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの成育環境を総合的に説明することができる。</li> <li>2. さまざまな環境が子どもの心身に与える影響を分析することができる。</li> <li>3. 子どもの成育環境における課題の解決に向けて自ら考え、取り組むことができる。</li> </ol>		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>この授業は、発達臨床心理コース・社会福祉コースのDP2「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」、初等教育コースのDP2「初等教育に関する専門的知識や子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況についての知識を身に付けることができる。」、幼児保育コースのDP2「子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況についての知識を身に付けることができる。」の達成に関する科目です。  「家族社会学」や「地域社会学」など同一DPの科目はもちろんですが、現代社会学科の「環境保護論」や「地域環境論」とともに受講することで、幅広い知識を得ることが出来、相互の理解が深まります。また、「女性の生き方を考える副専攻」の科目でもあります。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	子どもと環境について	情報の整理	
第2回	子どもの家庭環境① 変化する家族形態	家族形態について調べる	
第3回	子どもの家庭環境② 家族機能の変化	社会の問題を調べる	
第4回	子どもの虐待—その背景	虐待について調べる	
第5回	子育て支援	社会の問題を考える	
第6回	子どもと住まい	住宅について調べる	
第7回	子どもとまち～地域で育つ	まちの問題を考える	
第8回	子どもの遊び環境～遊びのサンマ	子どもの遊びを考える	
第9回	子どもと自然	自然環境について考える	
第10回	子どもと環境教育～ドイツの事例	事例収集	
第11回	ドイツ森の幼稚園	事例収集	
第12回	ビオトープ・園庭改造	事例収集	
第13回	プレイパーク	事例収集	
第14回	プレイリーダーと子どもたち	事例収集	
第15回	まとめ	課題⑤（視野を広げる・課題の抽出）	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	85％		
レポート	0％		
小テスト等	0％		
成果発表	0％		
受講態度他	15％ 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎講義の冒頭に、前回の講義内容に関する質問を口頭で行うので、前回の講義内容を復習しておくこと。  配布プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。</p>		
教科書	プリントを配布します		
指定図書	なし		
参考図書	授業の中で適宜紹介します		
オフィスワー	火曜日：9：10～16：30	メールアドレス	

授業科目	子どもの科学		開講時期	後期
担当教員	速水 良晃		単位	1
授業の目的と概要	小学生が学ぶ科学の内容を楽しく分かりやすく理解させるために、教科書で紹介されている実験を学習指導要領に位置づけるとともに、実験を行いながら科学のおもしろさを体験させる。また、学習指導要領における理科や生活科の目標や内容構成を科学実験という視点から分析し、理科教育の現状と具体的改善事項を学習する。さらに、広く知られている各種の科学実験を幅広く収集し、学校で行うことのできる科学実験を通して、科学に対する実践的な資質や力を形成する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に示された小学校理科・生活科の中で行う実験の準備ができ、安全に配慮した実験ができる。</li> <li>・子どもの興味関心を引き出す科学実験の工夫ができる。</li> <li>・発達段階に応じた安全でおもしろい実験を創り出すことができる。</li> <li>・おもしろく楽しい実験を取り入れた模擬授業ができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	小学校理科の実験の概要および発展的導入例：シャボン玉の科学	予習とレポート作成		
第 2回	実験での安全配慮、簡単なてんびん製作、ものの形と重さ	予習とレポート作成		
第 3回	風の働き、ゴムの働き	予習とレポート作成		
第 4回	電気を通すものと通さないもの	予習とレポート作成		
第 5回	磁石に引きつけられるものと引きつけられないもの	予習とレポート作成		
第 6回	乾電池の数とつなぎ方、電気の性質とはたらき	予習とレポート作成		
第 7回	骨ときん肉の働き	予習とレポート作成		
第 8回	ものの温度と体積、ものあたためり方	予習とレポート作成		
第 9回	水を熱したときの変化	予習とレポート作成		
第10回	ものが水に溶ける量の変化 (1)	予習とレポート作成		
第11回	ものが水に溶ける量の変化 (2)	予習とレポート作成		
第12回	だ液による食べものの変化	予習とレポート作成		
第13回	いろいろな水よう液、金属をとかず水よう液	予習とレポート作成		
第14回	振り子の運動	予習とレポート作成		
第15回	顕微鏡操作法、ガラス細工、その他の質問への回答	予習とレポート作成		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 毎回の実験内容のまとめをレポートとして翌週に提出、評価ポイントは観察・測定結果のまとめ方と考察内容			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40% 予習、正しい結果を出すための操作、後片付け等における積極性			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	成績評価の両項目は、いずれも出席していないと評価出来ない項目である。レポートの考察では、授業中に行った実験の内容だけではなく自分が授業を行う時に予想される問題点についても考えることが大事である。			
教科書	渡邊重義・梶山正明 編著『小学校理科「授業力をみがく」観察・実験ガイドブック』新興出版社啓林館			
指定図書	なし			
参考図書	『たのしい理科 3年～6年』大日本図書、その他 授業中に適宜紹介			
オフィスワー	研究会 (金曜)・講義・会議時間を除き、いつでも可	メールアドレス		



授業科目	子どもの食と栄養	開講時期	前期
担当教員	山崎 京子	単 位	2
授業の目的と概要	<p>子どもの栄養と食生活が健康と生活の基礎であることを理解し、成長していく過程に於いて子どもに適切な食事指導ができるようにまた、食事が心の健康と疾病に大きく影響することを認識する。  食は生命を維持するために必要不可欠である。子どもの食生活は順調な発育・発達を促す特性があり、適切に食べることが必要である。その時期に適した食事の特殊性を理解し、子どもにとって望ましい食事内容・組み合わせ方・調理内容を講義、実習で学ぶ。</p>		
到達目標	<p>①健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する知識を理解する。  ②子どもの発育、発達と食料の関連について理解する。  ③特別な配慮をする子どもの食と栄養について理解する。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に幼児保育コースのDP②「子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況に関する知識を身に付けることができる。」の達成に関わる科目です。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	子どもの栄養と食生活の意義（間食実習）	現在の子どもの食生活の問題についてレポート	
第2回	幼児期の栄養	間食実習 レポート	
第3回	乳汁期栄養・離乳期栄養	離乳食の初期実習 レポート	
第4回	離乳期栄養	離乳食の中期実習 レポート	
第5回	離乳期栄養	離乳食の後期実習 レポート	
第6回	離乳期栄養	離乳食の完了期実習 レポート	
第7回	発育、発達の基本的理解①	幼児期の実習、献立の組合せ レポート	
第8回	栄養と食事の基本的知識②	学童期の実習、献立の組合せ レポート	
第9回	栄養と食事の基本的知識③	思春期の実習、献立の組合せ レポート	
第10回	栄養と食事の基本的知識④	成人期の献立実習 レポート	
第11回	妊娠・授乳期における栄養と食生活	妊娠中の献立実習 レポート	
第12回	学童期・思春期の栄養と食生活	栄養上の問題と健康の対応 レポート	
第13回	病気のとときの栄養と食生活	子どもの疾病における食事療法 レポート	
第14回	まとめ	特になし	
第15回	復習	特になし	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	70％ 定期試験		
レポート	10％		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20％ 授業の出席状況		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	実習のためのエプロン・三角巾の持参。		
教科書	堤ちはる『子どもの食と栄養』萌文書林		
指定図書	なし		
参考図書	武藤 静子監修『小児栄養理論と実習』		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス	

授業科目	子どもの食と栄養	開講時期	後期
担当教員	山崎 京子	単 位	2
授業の目的と概要	子どもの栄養と食生活が健康と生活の基礎であることを理解し、成長していく過程に於いて子どもに適切な食事指導ができるようにまた、食事が心の健康と疾病に大きく影響することを認識する。 食は生命を維持するために必要不可欠である。子どもの食生活は順調な発育・発達を促す特性があり、適切に食べる必要がある。その時期に適した食事の特殊性を理解し、子どもにとって望ましい食事内容・組み合わせ方・調理内容を講義、実習で学ぶ。		
到達目標	①健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する知識を理解する。 ②子どもの発育、発達と食料の関連について理解する。 ③特別な配慮をする子どもの食と栄養について理解する。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に幼児保育コースのDP②「子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況に関する知識を身に付けることができる。」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	子どもの栄養と食生活の意義（間食実習）	現在の子どもの食生活の問題についてレポート	
第2回	幼児期の栄養	間食実習 レポート	
第3回	乳汁期栄養・離乳期栄養	離乳食の初期実習 レポート	
第4回	離乳期栄養	離乳食の中期実習 レポート	
第5回	離乳期栄養	離乳食の後期実習 レポート	
第6回	離乳期栄養	離乳食の完了期実習 レポート	
第7回	発育、発達の基本的理解①	幼児期の実習、献立の組合せ レポート	
第8回	栄養と食事の基本的知識②	学童期の実習、献立の組合せ レポート	
第9回	栄養と食事の基本的知識③	思春期の実習、献立の組合せ レポート	
第10回	栄養と食事の基本的知識④	成人期の献立実習 レポート	
第11回	妊娠・授乳期における栄養と食生活	妊娠中の献立実習 レポート	
第12回	学童期・思春期の栄養と食生活	栄養上の問題と健康の対応 レポート	
第13回	病気のとときの栄養と食生活	子どもの疾病における食事療法 レポート	
第14回	まとめ	特になし	
第15回	復習	特になし	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	70％ 定期試験		
レポート	10％		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20％ 授業の出席状況		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	実習のためのエプロン・三角巾の持参。		
教科書	堤ちはる『子どもの食と栄養』萌文書林		
指定図書	なし		
参考図書	武藤 静子監修『小児栄養理論と実習』		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス	

授業科目	子どもの保健A	開講時期	前期
担当教員	原田 博子	単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義では子どもの身体・発達の特徴についての基本的知識を身につけ、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について学ぶことを目的とする。</p> <p>小児期によく遭遇する疾病や障害を解説し、その予防法や対応の仕方について講義するとともに、保育における環境や衛生管理ならびに安全管理についての学習を促す。さらに、保育所だけでなく施設における子どもの心身の健康および安全対策についても授業する。</p> <p>授業形態は講義を中心とする。</p>		
到達目標	<p>生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動について説明することができる。</p> <p>子どもの疾病の予防と適切な対応について説明することができる。</p> <p>保育現場にほける事故防止や安全対策について具体的に述べるることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に、幼児保育コースのDP3「子どものよさや課題を理解し、適切に支援するための理論について概要を説明することができる。」に関わる科目です。</p> <p>この科目は子どもの疾患について学ぶ科目で2年生次の「子どもの保健演習」「乳児保育」と関連しています。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	小児保健とは何か（学ぶ意義・法律・制度・施策）	課題「海外の小児医療水準」について調べる	
第2回	身体の成長について	第2回講義にて習った用語の定義と意味を復習する	
第3回	母乳栄養について	課題「母乳」について現代の母親の持つ悩みを調べる	
第4回	体温調節について	第4回講義にて習った用語の定義と意味を復習する	
第5回	遺伝について	第5回講義にて習った用語の定義と意味を復習する	
第6回	子どもの症候（発熱、食欲、きげん、嘔吐、下痢、脱水）について	第5回講義にて習った用語の定義と意味を復習する	
第7回	感染症について（感染症とはどのようなものか）	主な感染経路について復習する	
第8回	感染症について（学校感染症 第一種/第二種/第三種）	学校感染症に指定されている病名と学校停止の期間を復習する	
第9回	感染症について（さまざまな感染症：溶連菌/麻疹/風疹/水痘など）	各感染症の特徴的な症状、潜伏期間、感染経路などを復習する	
第10回	予防接種（任意接種）	任意接種のワクチン名と対応している病名を復習する	
第11回	予防接種（勧奨接種）	勧奨接種のワクチン名と対応している病名を復習する	
第12回	免疫とアレルギーについて（喘息・アトピー・鼻炎）	アレルギー反応が起こったときの子ども様子を復習する	
第13回	免疫とアレルギーについて（食物・アナフィラキシー）	アレルギー反応が起こったときの子どもへの対応を復習する	
第14回	犯罪防止	課題「子どもが被害者となる犯罪」について詳しく調べる	
第15回	まとめ	各回で使用した確かめプリントを復習する	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	70％ 筆記試験		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	30％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度が評価の対象になっています。事情がある場合はお知らせください。		
教科書	渡辺博『子どもの保健 改訂第2版新装版』中山書店		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	月曜日4限目	メールアドレス	

授業科目	子どもの保健B	開講時期	後期
担当教員	S. Kumar	単位	2
授業の目的と概要	<p>こころの理論に照らして、乳幼児や障がいを持つ子どもの精神状態を理解する。精神的に健康な状態とはどんな意味かを学ぶ。不安やストレス解消の援助の理解。</p> <p>乳幼児期のこころの理解、精神的不安状態、脳機能の働き、ストレスの状態とストレス・マネージメントの方法や援助法を学ぶ。障がいを持つ子どもの理解と精神状態を理解する。</p>		
到達目標	<p>保育士として、乳幼児の精神保健やメンタル・ヘルスを理解することが必要であって、その概念や内容を学ぶ。心の発達や健康状態を理解し、社会的自立のため日常生活の中必要とするストレス・マネージメントの援助法を解説する。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は保育士資格や幼稚園教諭の科目であり、子どもの精神的な健康の状態や子どものよさや課題を理解し、精神的な健康を保つための指導や概要の説明などを具体的に学びます。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	精神保健の理解	精神保健の定義理	
第2回	精神保健の理念	健康な精神状態の理解課題	
第3回	こころの理論・理解	不安と安心感についての復習	
第4回	感覚・情緒・思考の障がい	不安の状況などの復習	
第5回	こころの理解とこころの持ち方	抑うつ状態の理解課題	
第6回	精神保健として脳機能の理解	脳機能の課題	
第7回	ストレスの理解	躁うつ状態の理解課題	
第8回	ストレス・コーピング	適応と不適応の予習	
第9回	ストレス・マネージメント	ストレス解消法と考え方についての予習	
第10回	乳幼児期のこころの発達理解	こころの発達の理解課	
第11回	精神保健のため地域の支援	乳幼児期の理解課題	
第12回	発達障がいの分類の理解	発達障がいの復習	
第13回	コミュニケーションの援助	対人関係のためこころの援助の予習	
第14回	精神保健を保つ基本ポイント	精神的健康状態の内容理解課題	
第15回	日常生活の中ストレスの理解 と まとめ	様々なストレスの理解復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	90% 筆記試験		
レポート	—		
小テスト等	—		
成果発表	—		
受講態度他	10% (私語5%、遅刻3%、授業中携帯電話の使用など2%)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	—		
教科書	資料配布など		
指定図書	なし		
参考図書	佐藤『子どもの保健I』ななみ書房 小林 芳郎『精神保健総論』保育出版社		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	子どもの保健演習	開講時期	前期
担当教員	原田 博子・森 里佳・大坪 美由紀	単位	1
授業の目的と概要	乳幼児に対する養護・看護、救急処置等の技術を習得する。 子どもの疾病とその予防および適切な対応、救急時の対応や事故防止、安全管理について理解する。 新生児モデル人形や2歳児モデル人形などの使用し、テーマ別に技術の手順とそれに伴う配慮を理解する。 現代における地域保健活動を理解する。		
到達目標	①乳幼児の養護・看護の実際を適切に行うことができる。 ②子どもの疾病についての予防および適切な対応について具体的に説明できる。 ③子どもに対する救急処置および救急蘇生法について適切に行うことができる。 ④現代社会における地域の保健活動について考察することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に、幼児保育コースのDP2「子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況に関する知識を身に付けることができる。」に関わる科目である。 この科目は保育現場で必要な養護、看護の知識を身に付ける科目で「子どもの保健」と関連しています。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
森担当 第1回	子どもの健康状態の把握 ー生理機能の発達ー	教科書P.40～46を読む 第3章おさらいテストを解く	
森担当 第2回	子どもの保育施設環境 ー屋内外の衛生管理、健康管理ー	教科書P.74～76を読む 第5章おさらいテストを解く	
森担当 第3回	子どもの応急処置 ー傷害時の対応ー	教科書P.126～129を読む 第8章おさらいテスト問1、問2を解く	
森担当 第4回	子どもの応急処置 ー心肺蘇生法の習得ー	教科書P.122～125を読む 第8章おさらいテスト問3、問4を解く	
森担当 第5回	慢性疾患をもつ子どもの保育 ーアレルギー性疾患ー	教科書P.129～130、P.139～144を読む @総復習	
大坪担当 第1回	子どもの保健活動計画及び評価 身体測定方法、記録について	予習：・予防接種の種類 時期について @・健康診査の情報収集	
大坪担当 第2回	子どもの保健と環境 健康診査と地域との連携	予習：（教科書に書かれている疾病を参考に）て）症状についての情報収集	
大坪担当 第3回	子どもの疾病と適切な対応① 症状別援助及び与薬について	チャイルドビジョンの作成	
大坪担当 第4回	事故防止及び健康安全管理 危険予知シート作成と安全対策	予習：（子どもに多い）慢性疾患についての情報収集	
大坪担当 第5回	子どもの疾病と適切な対応② 健康障害をもつ子どもの保育	復習：疾病ともつ子どもへの対応の要点をまとめる	
原田担当 第1回	赤ちゃんの抱き方（モデル人形を使った実技）	振り返りレポート 赤ちゃんを抱くときの配慮事項について	
原田担当 第2回	人工乳の作り方（実際に粉ミルクで調乳する）	振り返りレポート 調乳の際の注意点について	
原田担当 第3回	おむつ替え（モデル人形を使った実技）	振り返りレポート おむつ替えの注意点について	
原田担当 第4回	沐浴（モデル人形を使った実技）	振り返りレポート 沐浴時の注意点について	
原田担当 第5回	体調不良時の対応（救急車の呼び方）	振り返りレポート 救急車を呼ぶときの注意点について	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	なし		
小テスト等	森（25％）		
成果発表	提出物による評価 大坪（25％）原田（25％）		
受講態度他	25％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度だけではなく、グループ活動における参加態度も評価の対象としています。		
教科書	小林美由紀執筆「これならわかる！子どもの保健演習ノート 改定第2版」 診断と治療社		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワー	月曜日4限	メールアドレス	

授業科目	子どもの保健演習	開講時期	後期
担当教員	原田 博子・森 里佳	単位	1
授業の目的と概要	乳幼児に対する養護・看護、救急処置等の技術を習得する。 子どもの疾病とその予防および適切な対応、救急時の対応や事故防止、安全管理について理解する。 新生児モデル人形や2歳児モデル人形などの使用し、テーマ別に技術の手順とそれに伴う配慮を理解する。 現代における地域保健活動を理解する。		
到達目標	①乳幼児の養護・看護の実際を適切に行うことができる。 ②子どもの疾病についての予防および適切な対応について具体的に説明できる。 ③子どもに対する救急処置および救急蘇生法について適切に行うことができる。 ④現代社会における地域の保健活動について考察することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に、幼児保育コースのDP2「子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況に関する知識を身に付けることができる。」に関わる科目です。 この科目は保育現場に必要な養護、看護の知識を身に付ける科目で「子どもの保健」と関連しています。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
森・原田 共通	授業概要、授業進行、グループ分けなどオリエンテーション	森担当：教科書P.40～46を読む 原田担当：教科書P.2～17を読む	
森担当 第1回	子どもの健康状態の把握 ー生理機能の発達ー	第3章おさらいテストを解く	
森担当 第2回	子どもの保育施設環境 ー屋内外の衛生管理、健康管理ー	教科書P.74～76を読む 第5章おさらいテストを解く	
森担当 第3回	子どもの応急処置 ー傷害時の対応ー	教科書P.126～129を読む 第8章おさらいテスト問1、問2を解く	
森担当 第4回	慢性疾患をもつ子どもの保育 ーアレルギー性疾患ー	教科書P.129～130、P.139～144を読む	
森担当 第5回	子どもの応急処置 ー心肺蘇生法の習得ー	教科書P.122～125を読む 第8章おさらいテスト問3、問4を解く	
森担当 第6回	子どもによく起こる事故	教科書P.106～111を読む 第7章おさらいテスト問1、問2を解く	
森担当 第7回	子どもがよくかかる病気と予防接種 小テスト	教科書P.82～99を読む 第6章おさらいテストを解く 総復習	
原田担当 第1回	身体発育の測定 発育評価の仕方	振り返りレポート 教科書P.20 課題5と課題6の1)を解いてくる	
原田担当 第2回	赤ちゃんの抱き方 (モデル人形を使った実技)	振り返りレポート 赤ちゃんを抱くときの配慮について	
原田担当 第3回	人工乳の作り方 (実際に粉ミルクで調乳する)	振り返りレポート 調乳の注意点について	
原田担当 第4回	授乳	振り返りレポート 授乳の注意点、配慮について	
原田担当 第5回	体調不良時の対応 (救急車の呼び方)	振り返りレポート 救急車を呼ぶときの注意点について	
原田担当 第6回	おむつ替え (モデル人形を使った実技)	振り返りレポート おむつ替えの注意点、配慮について	
原田担当 第7回	沐浴 (モデル人形を使った実技)	振り返りレポート 沐浴時の注意点、配慮について	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	原田：各回振り返りレポート(7%×5)		
小テスト等	森：35%		
成果発表	なし		
受講態度他	森：15%(授業中の態度) 原田：15%(授業中の態度・チェックリスト)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度(授業中の態度)はグループ活動における参加態度も含んでいます。		
教科書	小林美由紀執筆「これならわかる!子どもの保健演習ノート 改定第2版」 診断と治療社		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワー	月曜日4限	メールアドレス	

授業科目	古文読解	開講時期	前期
担当教員	大内 英範	単位	2
授業の目的と概要	<p>目的： 古典作品読解のために必要な文法的、文学史的知識と、読解力を身につけます。</p> <p>概要： 教員採用試験レベルの古文問題を正しく読解するための知識と方法を習得するために、問題演習を通して古文問題への対応力を実践的に養っていきます。その際、受講生を15のグループ（予定）にわけて、各問題の解説を担当していただきます。</p>		
到達目標	<p>1) 教員採用試験レベルの古文問題を正しく読解・解答できる。</p> <p>2) 正答の根拠を説明できる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 (5.14、1限)	ガイダンス、担当エントリー・決定	教科書を確認し、シラバスを読んでおく	
第2回 (5.14、3限)	物語・説話 (1 大和物語 2 落窪物語)	教科書の該当ページ	
第3回 (5.14、4限)	古典文法1 (用言)、古文単語1	内容をよく復習する	
第4回 (6.25、1限)	確認テスト1、古文単語2、グループ発表1、物語・説話 (3 大鏡)	前回の復習	
第5回 (6.25、2限)	グループ発表2、物語・説話 (4 今鏡 5 平家物語)	教科書の該当ページ	
第6回 (6.25、3限)	グループ発表3、物語・説話 (6 堤中納言物語 7 源氏物語)	教科書の該当ページ	
第7回 (6.25、4限)	古典文法2 (付属語)	内容をよく復習する	
第8回 (8.8、1限)	古文単語3、グループ発表4、物語・説話 (8 伊勢物語)	前回の復習	
第9回 (8.8、2限)	グループ発表5、日記・紀行文 (1 蜻蛉日記 2 和泉式部日記)	教科書の該当ページ	
第10回 (8.8、3限)	グループ発表6、日記・紀行文 (3 奥の細道 随筆 (1 枕草子))	教科書の該当ページ	
第11回 (8.8、4限)	確認テスト2 (=最終試験)	内容をよく復習する	
第12回 (8.9、1限)	古典文法3、グループ発表7、随筆 (2 徒然草)	前回の復習	
第13回 (8.9、2限)	グループ発表8、随筆 (4 玉勝間) 確認テスト2 (最終試験) 返却	教科書の該当ページ	
第14回 (8.9、3限)	グループ発表9、評論 (1 無名草子) 確認テスト3	教科書の該当ページ	
(8.9、4限)	古文単語4、確認テスト3の返却	この授業で学んだことの総括	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0% なし		
レポート	10% 発表に対する感想レポートなどがあります。		
小テスト等	50% 随時小テストをおこないます。8/8の4限に文法・読解の総合的な最終試験があります。		
成果発表	20% 担当問題をグループで発表します。(資料作成含む)		
受講態度他	20% 講義への積極的な参加を評価します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>教職課程履修者は必ず受講してください。</p> <p>グループ別の発表が中心になります。</p> <p>毎回予習復習して授業に臨みましょう。</p> <p>何らかの古語辞典を持参することを推奨します。</p> <p>筑女ネット内のこの講義のページを随時参照のこと。</p>		
教科書	『2017年度版 教員採用試験Basic定着シリーズ2 よくわかる中高国語』(時事通信出版局)		
指定図書	なし		
参考図書	古語辞典		
オフィスアワー	開講日の休み時間など	メールアドレス	

授業科目	コミュニティ心理学	開講時期	後期
担当教員	北島 茂樹	単位	2
授業の目的と概要	地域や学校、職場等の生活共同体のなかでは、いろいろな心理-社会的問題が生じる。そうした問題の改善・解決あるいは予防のために、人-社会（環境）の適合の観点に立ち、人や人々を包む社会ないし生活環境側へ介入する「社会臨床」としてのコミュニティ心理学について学ぶ。コミュニティ心理学の成立過程、これまで発展してきた主要概念や理論、および地域や学校、職場等で生起する具体的問題への取り組み事例などを順次学んでいく。		
到達目標	①コミュニティ心理学の成立の経緯を知り、こうした学問・実践領域の必要性について説明することができる。 ②地域や学校、職場等の生活共同体において生じる様々な心理-社会的諸問題について例示することができ、こうした問題への感受性を高める。 ③問題を抱える生活共同体への介入計画を立て、実践に移す際に役立つコミュニティ心理学における概念・原理・理論について理解し、活用できる。 ④介入計画の進捗や介入の効果についての評価方法を理解し、活用できる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	はじめに① 一学校でのいじめ問題を通して	テキスト予習（まえがき・目次部分）	
第2回	はじめに② ドリーさんの事例を通して	配布資料事前検討	
第3回	コミュニティ心理学の誕生	テキスト予習（P P. 1-6）	
第4回	コミュニティ心理学の定義・理念・目標、コミュニティとは	テキスト予習（P P. 7-16）	
第5回	コミュニティ心理学の主要概念① パラダイムとして、生活者の視点	テキスト予習（P P. 23-30）	
第6回	コミュニティ心理学の主要概念① 適合にかかる3つの視点	テキスト予習（P P. 39-45）	
第7回	コミュニティ心理学の主要概念① 生態学・システム論の視点	テキスト予習（P P. 30-39）	
第8回	コミュニティ心理学の主要概念② 一次予防、二次予防、三次予防	テキスト予習（P P. 47-54）	
第9回	コミュニティ心理学の主要概念② 選択的予防、マイルストーン型予防	テキスト予習（P P. 54-69）	
第10回	コミュニティ心理学の主要概念③ ソーシャルサポート	テキスト予習（PP. 119-133）、配布資料事前検討	
第11回	コミュニティ心理学の主要概念④ 強さとコンピテンスの強調	テキスト予習（P P. 11-12）	
第12回	コミュニティ心理学の主要概念⑤ エンパワメント	テキスト予習（PP. 141-159、133-140）、配布資料事前検討	
第13回	コミュニティ心理学の主要概念⑥ 社会的資源の活用、協働	テキスト予習（PP. 161-182）、配布資料事前検討	
第14回	コミュニティ心理学の研究法-プログラム評価など	テキスト予習（PP. 17-20）、配布資料事前検討	
第15回	まとめ	テキスト予習（PP. 183-205）	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	80% 定期試験		
レポート	—		
小テスト等	—		
成果発表	—		
受講態度他	20% 質問に対する積極的応答（+）、自発的な意見陳述や報告（+）、私語・居眠り（-）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的な授業参加を期待します。私語・長時間の居眠りは厳しく注意します。		
教科書	植村勝彦編 『コミュニティ心理学入門』 ナカニシヤ出版 2007年		
指定図書	なし		
参考図書	J. Orford著（山本和郎監訳）『コミュニティ心理学-理論と実践』 ミネルヴァ書房 1997年 K. G. Duffy&F. Y. Wong著 『コミュニティ心理学-社会問題の理解と援助』 ナカニシヤ出版 1999年		
オフィスワー	授業の前後に相談ください	メールアドレス	



授業科目	雇用政策論		開講時期	前期
担当教員	新家 めぐみ・高木 佳世子		単位	2
授業の目的と概要	<p>「自立支援」を基調とする相談援助実践が展開される状況の中、生活保護制度および障害者福祉施策における就労支援制度の概要について理解する。</p> <p>さらに、就労支援施策の実際と、それを担う組織・団体、専門職の役割と連携のあり方について検討し、雇用政策全体の中で就労支援施策がもつ意義と課題を発見することを目的とする。</p> <p>そのため、具体的な事例を検討しながら、生活保護制度および障害者福祉施策における就労支援制度が、雇用政策全体の中でもつ位置づけを明確にし、そこにどのような政策課題があるのかを学ぶ。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 雇用政策（労働法を含む）の概要と動向について理解できる。</li> <li>2. 生活保護制度運営における就労支援（自立支援プログラムを含む）の課題について説明できる。</li> <li>3. 福祉事務所とハローワークの連携について、現状と課題を指摘できる。</li> <li>4. 障害者福祉施策における就労支援の課題を指摘することができる。</li> <li>5. 障害者福祉施策における機関連携のあり方について理解し、その課題を指摘することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	就労支援と雇用政策、労働市場の動向	序章、第一章第一節		
第2回	労働法(1)労働法の体系・分類、市場法、労働基準法	第一章第二節		
第3回	労働法(2)賃金、労働時間、休日、労働安全衛生法、懲戒、解雇、労働組合、労働審判	第一章第二節		
第4回	雇用保険	資料配布		
第5回	労災保険	資料配布		
第6回	低所得者への就労支援	第三章		
第7回	生活困窮者自立支援法	資料配布		
第8回	母子家庭、ホームレス者、高齢者への就労支援	第三章		
第9回	障害者就労支援の実際と課題	視聴覚教材→課題①		
第10回	障害者雇用施策の概要① 障害者雇用促進法	配付資料復習		
第11回	障害者雇用施策の概要② 組織とその役割	配付資料復習		
第12回	障害者雇用施策の概要③ 専門職の役割	配付資料復習		
第13回	福祉的就労；サービス事業所、障害者支援施設の役割と実際	配付資料復習		
第14回	福祉的就労における専門職の役割と課題	視聴覚教材→課題②		
第15回	福祉的就労における機関連携のあり方と課題	配付資料復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	100%（詳細は講義時に指示する）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義時に資料を配付するので、やむを得ず欠席したときなどは、後日研究室に資料を受け取りに来ること			
教科書	『就労支援サービス』中央法規			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する			
オフィスワー	高木-水2 新家-水3	メールアドレス		

授業科目	勤式作法【本願寺派教師】		開講時期	通年
担当教員	和田 法明		単位	4
授業の目的と概要	<p>浄土真宗本願寺派の「宗法」に、「寺院の目的は教義の宣布と法要儀式の執行である」と明記してありますとおり、み教えをひろめることとおつとめ（勤行）をすることは、寺院という車の両輪であります。また、「信は莊嚴より」という言葉があるように、浄土真宗において仏徳讃嘆である勤式作法は、信の表出の一つに他ならない。おつとめ（勤行）は、聞き置く、知り置くことではなく、文字通り勤めて行うことです。</p> <p>本講義では浄土真宗本願寺派の正しい勤式作法ができるようになることを目的とする。</p> <p>本講義では、浄土真宗本願寺派における儀礼の意義の考察をはじめとし、仏具（莊嚴：お飾り）や作法の歴史と意味、読誦する経典の解説および、おつとめ（勤行）の実唱・仏前での作法などを学んでいく。</p>			
到達目標	<p>浄土真宗本願寺派の</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正しいおつとめ（勤行：お経の唱え方）ができる。</li> <li>・正しい莊嚴（お飾り）や仏具の説明ができる。</li> <li>・正しい仏前での作法ができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	勤式作法について。重誓偈・讃仏偈の解説および実唱。	範囲内の復習		
第2～6回	正信偈の解説および実唱。仏前での作法。	範囲内の復習		
第7～8回	浄土三部経の解説および実唱。仏具の説明①	範囲内の復習		
第9回	十二礼・意識勤行の解説および実唱。仏具の説明②	範囲内の復習		
第10～12回	御文章の解説および実唱。装束（衣体）の説明。	範囲内の復習		
第13～15回	葬場勤行の解説および実唱。葬儀の莊嚴（お飾り）について。	範囲内の復習		
第16回	声明の基礎について（十二律・五音七声）。	範囲内の復習		
第17回	勤式集の解説および実唱①（三奉請・先請伽陀）。声明譜の解説①。	範囲内の復習		
第18～19回	勤式集の解説および実唱②（無量寿経作法）。声明譜の解説②。	範囲内の復習		
第20～21回	勤式集の解説および実唱③（大師影供作法）。声明譜の解説③。	範囲内の復習		
第22～23回	勤式集の解説および実唱④（往生礼讃）。声明譜の解説④。	範囲内の復習		
第24～25回	宗祖讃仰作法の解説および実唱。法要儀式の解説①。	範囲内の復習		
第26回	音楽法要の解説および実唱。法要儀式の解説②。	範囲内の復習		
第27～29回	御伝鈔の解説および実唱。寺院の解説	範囲内の復習		
第30回	勤式作法の総括	範囲内の復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 定期試験で評価する。（前期・後期それぞれ実施） 定期試験の内訳は、おつとめ（勤行）の実唱（30％）、仏前での作法（20％）、筆記試験（20％）となる。			
レポート	0％			
小テスト等	—			
成果発表	0％			
受講態度他	30％ 授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義には必ず聖典（筑紫女学園発行）・念珠（腕輪念珠でも可）を持参してください。			
教科書	① 聖典（学校法人筑紫女学園発行） ② 浄土真宗本願寺派 一勤式集一（本願寺出版社発行）			
指定図書	ありません			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	産業社会学	開講時期	前期
担当教員	徳永 勇	単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義では、まず、産業社会の成立と変容過程、およびグローバリゼーションについて説明する。次に、キャリア形成と社会階層、および近代官僚制、労働法のポイントについて解説する。最後に、勤労者間格差の拡大、雇用におけるジェンダー間格差、働くことの意味と社会保障について説明する。</p> <p>受講者が、これらの社会事象について、的確に理解し、自分なりの見解をもつことができるようになることをめざす。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 産業社会の成立と変容過程について説明できるようになる。</li> <li>2. グローバリゼーションの問題点について説明できるようになる。</li> <li>3. キャリア形成と社会階層について説明できるようになる。</li> <li>4. 近代官僚制のしくみについて説明できるようになる。</li> <li>5. 労働法規で定められた勤労者の権利について説明できるようになる。</li> <li>6. 勤労者間格差の拡大について説明できるようになる。</li> <li>7. 雇用におけるジェンダー間格差について説明できるようになる。</li> <li>8. 働くことの意味と社会保障、とくに生存権保障について説明できるようになる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本講義には、次の 現代社会学部DP②に準拠する。  「現代社会を理解するために、社会学の基礎的な知識と技能を身につけている。」  価値観と生活様式の個人主義化、私生活中心主義化が進んでいくなか、社会的なるものへの無関心、鈍感、想像力の欠如が著しくなっている。わたしたちが直面する私的問題は、そのほとんどが社会的な問題に通じていること、このことについての理解を深めていくことも、本講義の目的の一つである。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回 産業の意味と分類		予習 講義ノートp.1	
第 2回 近代化と工業化		予習 講義ノートpp.1-2	
第 3回 工業社会の展開		予習 講義ノートp.2	
第 4回 工業社会の展開と都市化		予習 講義ノートpp.2-3	
第 5回 ポスト工業社会の展開		予習 講義ノートpp.3-4	
第 6回 グローバリゼーションの展開と問題点		予習 講義ノートp.4	
第 7回 キャリアと社会階層		予習 講義ノートp.5	
第 8回 近代官僚制のしくみ		予習 講義ノートp.6	
第 9回 組織経営の変容		予習 講義ノートpp.6-7	
第10回 労働者の権利と労働法		予習 講義ノートpp.7-8	
第11回 勤労者間格差の現状		予習 講義ノートpp.8-10	
第12回 雇用におけるジェンダー間格差の現状		予習 講義ノートpp.10-11	
第13回 働くことの意味と社会権		予習 講義ノートp.11	
第14回 生活保護法と生存権保障の現状		予習 講義ノートpp.12-13	
第15回 社会保障の現状と課題（まとめ）		予習 講義ノートp.13	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	100%：テーマ選択、論述式の筆記試験で評価する。持ち込みは配布プリント、自筆ノートのみ可。		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本講義では数多くの参考文献を紹介する。それらをできる限り多く読みこなし、自主的な学修をはかっていただきたい。		
教科書	使用しない。		
指定図書	上林千恵子編著,2012,『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房、石水喜夫,2013,『日本型雇用の真実』筑摩書房、濱口桂一郎,2009,『新しい労働社会——雇用システムの再構築へ』岩波書店		
参考図書	講義中に、適宜紹介する。		
オフィスワー	月曜日3限・火曜日3限	メールアドレス	

授業科目	社会意識論	開講時期	後期
担当教員	園田 浩之	単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、社会意識論の領域で探査されてきたテーマのうち、現代社会を生きる若者の（そして若者をめぐる）意識のありようを描き出し、それを社会的に考察することを目的とする。私たちの生きている現代社会は、刻々とその複雑さと不透明さを増し、ますますその全貌は捉え難いものになりつつある（ような「何か」としてイメージされている）。授業では、社会意識論の問題意識や考え方（その問い方の射程・性能）を学び、現代社会の捉え難さの理由も視野に入れながら、日々その中で生きている私たち自身の意識の構造を複眼的に読み解いてゆく。		
到達目標	(1) 社会学や社会意識論が探求してきたテーマを素材に、多様な情報を読み解くのに必要なリテラシーやクリティカル・シンキングの姿勢と方法（問い方や説明の仕方）を身につける。(2) 受講者がそれぞれの日常と現代社会との多様な結びつきに気づき、それをできる限りクリアに（そして複眼的に）イメージし、授業で学ぶ概念や分析・説明方法を活かしながら言語化することができる。たやすくは表現できない事柄にていねいに言葉をあてていく学びを通じて、思考と表現の柔軟性を高めることができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は現代社会学部の基礎科目のひとつに位置づけられており、現代社会学部のDP②「現代社会を理解するために、社会学の基礎的な知識と技能を身につけている」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	日常から考える/日常を考える（社会学へのイントロダクション あたりまえをみるために）	復習	
第2回	クリティカル・シンキングと（しての）社会学① 思考停止を超えて/疑いの使いみち	1・2回目の講義に関連して小レポートを課す	
第3回	クリティカル・シンキングと（としての）社会学② 意識の「外」にふれる方法	配布資料とノートをていねいに読み返す	
第4回	「事実」をみるためのリテラシー（たやすくみえることの難しさをめぐって/社会は細部に宿る）	配布資料とノートをていねいに読み返す	
第5回	若者（論）から考える社会意識の現在① モンダイな若者という問題/「わかりやすさ」の一步前へ	配布資料とノートをていねいに読み返す	
第6回	若者（論）から考える社会意識の現在② 「若者」は変わった?/「わからなさ」の一步先へ/絶望・不安・幸福をめぐる考察	配布資料とノートをていねいに読み返す	
第7回	変容する社会と若者の意識・価値観① 変化の中に現在をみる/社会意識（論）の座標軸	配布資料とノートをていねいに読み返す	
第8回	変容する社会と若者の意識・価値観② 変化の中に現在をみる/近代のゆらぎと社会意識（論）の変容	配布資料とノートをていねいに読み返す	
第9回	液状化する社会を生きる「私」たち① 流動化する社会意識とアイデンティティの不安	配布資料とノートをていねいに読み返す	
第10回	液状化する社会を生きる「私」たち② 社会意識論と存在証明の社会学/「私」へのこだわりととらわれ	配布資料とノートをていねいに読み返す	
第11回	液状化する社会を生きる「私」たち③ 自由と不安の現在/生きづらさをめぐる社会意識	配布資料とノートをていねいに読み返す	
第12回	方向感覚の喪失（disorientation）と社会意識	配布資料とノートをていねいに読み返す	
第13回	見えないものを読み解く想像力のために① 社会意識（論）と隣接領域（文化社会学・知識社会学etc.）	配布資料とノートをていねいに読み返す	
第14回	見えないものを読み解く想像力のために② 社会意識（論）と関連領域（メディア論・現代思想 etc.）	配布資料とノートをていねいに読み返す	
第15回	社会意識（論）という謎 「社会」が困難な時代を生きる	配布資料とノートをていねいに読み返す	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	70% 講義中に示した重要な概念や視点、事柄の説明を正しく理解し、それを適切・説得的な言葉で表現できること		
レポート	15% 学期中に講義内容とリンクした小レポートを課す。必要な資料や参考文献等を読んで理解を深めること		
小テスト等	なし。ただし、理解度の適切さを確かめる意味で、講義内容に関する問いかけを行うことはある（受講態度の項目を参照）。		
成果発表	なし。		
受講態度他	15% 講義中のコミュニケーション（質疑・やりとり）を含む、講義への実質的な参加を重んじる		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修を希望する人たちは、必ず「初回の講義」から出席して下さい。受講上のルールや留意点の詳細は、教室で説明します。		
教科書	教科書は使用しません。スライド（パワーポイント）とそのつど配布するプリントを（ときには映像も）用いて講義を進めます。		
指定図書	なし。		
参考図書	講義の進行に応じて、さらに知りたくなった人・より深く考えたくなった人たちに、思考の糧・補助線になりうるものを紹介していけたら思っています（できたら「いかにも」本以外のものも）。		
オフィスアワー	質問や連絡等は、講義の前後に教室でうかがいます。	メールアドレス	

授業科目	社会科・公民科教育法Ⅰ【中等教職】		開講時期	前期
担当教員	栗山 俊之		単 位	2
授業の目的と概要	現在の社会科・公民科教育の位置づけについて理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、社会科・公民科の教材開発につなげる。学習指導要領を分析・検討し、生徒が学ぶべき内容の把握と、具体的学習指導案づくりを行うことで、最終的には、学習指導要領と教科書を用いて、分かりやすく面白い授業が展開できるような技能の習得を目指し、実際に数人のグループで模擬授業を行う。 社会科授業の目的・意義・方法を歴史的な流れから理解し、教育方法や内容を社会との関連を含めて考えを深める。実際に学習指導要領に則り、教室での実践を前提に授業を作成し発表・評価する。			
到達目標	中学社会科・公民科科目が現代社会の特質や課題をトータルに認識する力を育てる教科であると理解する。 現代社会における諸課題を理論的に表現、説明できる能力を育成する。 学習指導要領と教育基本法の重要性を受けとめて授業案を作成できる。 数人のグループで模擬授業を行うことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	教育の目的と社会科・公民科	レポート		
第2回	現代社会の諸問題と社会科・公民科	レポート		
第3回	公民科科目の取り扱いと内容 政治経済	レポート		
第4回	公民科科目の取り扱いと内容 倫理	レポート		
第5回	公民科科目の取り扱いと内容 現代社会	レポート		
第6回	指導案について	指導案の作成		
第7回	指導案検討	指導案の再検討		
第8回	指導案検討	指導案の再検討		
第9回	教材研究について	教材研究の実際		
第10回	教材検討	模擬授業準備・反省・講評		
第11回	模擬授業と討議（チームラーニング）	模擬授業準備・反省・講評		
第12回	模擬授業と討議（チームラーニング）	模擬授業準備・反省・講評		
第13回	模擬授業と討議（チームラーニング）	模擬授業準備・反省・講評		
第14回	模擬授業と討議（チームラーニング）	模擬授業準備・反省・講評		
第15回	まとめ	チームラーニングの準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％ 後期用指導案作成			
レポート	なし			
小テスト等	20％ 講義終了時に提出			
成果発表	30％ 指導案、模擬授業			
受講態度他	20％ 講義に向き合う姿勢			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的な授業参加が求められるとともに、授業時間外の活動にも取り組む必要があります。			
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	社会科・公民科教育法Ⅱ【中等教職】		開講時期	後期
担当教員	栗山 俊之		単 位	2
授業の目的と概要	<p>社会科・公民科教育法Ⅰを踏まえて、教材研究、教材作り、指導案作り、模擬授業を行い、討論を経てより良い授業作りを行う方法を学ぶ。</p> <p>社会科・公民科教育法Ⅰで学んだ、教科教育の枠組みと方法をもとに、実際に授業をおこなう訓練を、繰り返し行う。そのことを通して公民科の学習指導案を書く知識と能力を身に付け、模擬授業を実施して、教育実習のための準備を整える。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校公民科教科書の単元に基づいて、教材研究を行い、指導案が作成できる。</li> <li>・高校における公民科教育実習に向けて、実際に教壇に立って模擬授業を行うことができる。</li> <li>・討議によって、より良い授業作りに参画することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 講義の進め方			レポート	
第2回 指導案検討			レポート	
第3回 模擬授業と討議（チームラーニング）			模擬授業準備、反省、講評	
第4回 模擬授業と討議（チームラーニング）			模擬授業準備、反省、講評	
第5回 模擬授業と討議（チームラーニング）			模擬授業準備、反省、講評	
第6回 模擬授業と討議（チームラーニング）			模擬授業準備、反省、講評	
第7回 指導案検討			指導案作成	
第8回 模擬授業と討議			模擬授業準備、反省、講評	
第9回 模擬授業と討議			模擬授業準備、反省、講評	
第10回 模擬授業と討議			模擬授業準備、反省、講評	
第11回 模擬授業と討議			模擬授業準備、反省、講評	
第12回 模擬授業と討議			模擬授業準備、反省、講評	
第13回 模擬授業と討議			模擬授業準備、反省、講評	
第14回 模擬授業と討議			模擬授業準備、反省、講評	
第15回 模擬授業と討議			反省、講評	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	60％ 模擬授業			
受講態度他	40％ グループラーニング、討議に関わる姿勢			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各自が主体的に授業に取り組むことが求められます。			
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	社会科・地歴科教育演習		開講時期	前期
担当教員	秦 惟人		単位	2
授業の目的と概要	<p>この演習は、中学校社会科および高等学校地歴科の教員採用試験の対策のために、学習指導要領と教科に関する問題の演習を行う。学習指導要領に関する問題と、「地理」「世界史」「日本史」「公民」の過去の大学入試問題をもとにした、各科目の問題に関する演習を行い、教員採用試験で十分な成績を獲得して合格することを目的とする。</p> <p>授業の概要としては、中学社会の学習指導要領（平成20年）および高校地歴の学習指導要領（平成22年）に関する演習を行う。また、教科に関しては、中学社会でも高校地歴でも、大学入学試験程度の学力を十分身につけておく必要がある。この演習では、毎回演習問題を配布し、次回にその演習を行う。こうして、教員採用試験の教科に関する問題に対応する実力を養成し、7月の試験に備える。</p>			
到達目標	<p>到達目標          中学校社会科学学習指導要領（平成20年）と、高等学校地歴科学習指導要領（平成22年）に精通し、その内容に関する質問に的確に答えることができる。          中学校社会科の授業内容についての質問に答えることができる。          高等学校の「地理」「世界史」「日本史」の学習内容に精通し、大学入学試験程度の問題に的確に回答することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業のDPは規定されておいませんが、DP③に該当し、3年生科目の「社会科地歴科教育法」ⅠⅡが関連科目です。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	中学校学習指導要領（社会科）に関する問題		予習：高等学校学習指導要領（地歴科）	
第2回	高等学校学習指導要領（地歴科）に関する問題		予習：高校地理Bの復習	
第3回	地理的分野1 地図など		予習：高校地理Bの復習	
第4回	地理的分野2 自然環境		予習：高校地理Bの復習	
第5回	地理的分野3 世界地理		予習：高校地理Bの復習	
第6回	地理的分野4 日本地理		予習：高校日本史Bの復習	
第7回	歴史的分野1 日本史1 古代史		予習：高校日本史Bの復習	
第8回	歴史的分野2 日本史2 中世史		予習：高校日本史Bの復習	
第9回	歴史的分野3 日本史3 近世史		予習：高校日本史Bの復習	
第10回	歴史的分野4 日本史4 近代史		予習：高校日本史Bの復習	
第11回	歴史的分野5 日本史5 現代史		予習：高校世界史Bの復習	
第12回	世界史1 古代史		予習：高校世界史Bの復習	
第13回	世界史2 中世史		予習：高校世界史Bの復習	
第14回	世界史3 近代史		予習：高校世界史Bの復習	
第15回	世界史4 現代史		予習；受験県・市の過去問題復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	100%			
成果発表	なし			
受講態度他	毎回の演習問題は予習して解答すること			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席6回以上は「無資格」とするが、教育実習等は公欠とする			
教科書	毎回自作演習問題配布			
指定図書	なし			
参考図書	地歴科各科目Bの教科書・参考書			
オフィスアワー	火曜日昼休み以降		メールアドレス	

授業科目	社会科・地歴科教育法Ⅰ【中等教職】		開講時期	前期
担当教員	秦 惟人		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、教免法施行規則に定める「教科課程及び指導法に関する科目」に該当する。</p> <p>社会科・地歴科の教員となるためには、世界や日本の諸事象について知るだけでなく、それらについて、中学・高校の生徒とともに考え、体験する方法を身につける必要がある。そのためには、学校教育とは何かについて理解を深め、教師となるための資質を磨かなければならない。これらの学習と研鑽を通じて、生徒たちが主体的に生きるために必要な自覚と資格を持てるように指導する能力を養うことが、この科目の目的である。</p> <p>授業の概要は、日本の社会科系科目の歴史と「学習指導要領」の変遷を明らかにし、諸外国の社会科系科目の概要を理解する。また地図の読図法を訓練し、大宰府・博多の郷土史を調査する。さらに社会科・地歴科の各分野や科目について、その内容をひとつひとつ理解し、確認する。</p>			
到達目標	<p>日本の社会科系科目の歴史の変遷と、戦後の学習指導要領の移り変わりについて説明ができる。</p> <p>諸外国の社会科系科目の概要と、日本との比較について説明することができる。</p> <p>大宰府地域の地理的特徴と歴史的位置について、系統的に紹介することができる。</p> <p>地形図を読み取り、基本的に使いこなすことができる。</p> <p>中学社会科の各分野の学習目的について述べるができる。</p> <p>高校地歴科の各科目の目的についてそれぞれ説明することができる。</p>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の指導法</li> <li>● 実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等を組み入れ、実践的な指導力を身につけさせるような具体的な事項を授業計画に示す</li> <li>● 学習指導要領に掲げる事項に即して包括的な内容を含む</li> <li>● 国語および英語については中学及び高校の内容をバランスよく取り扱う</li> <li>● 教科書、参考図書などに、学習指導要領の利用を記載すること</li> <li>・教育課程の意義及び編成の方法</li> </ul>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	はじめに 近代日本の教育		予習：講義ノートⅠ	
第2回	Ⅰ 社会科から地歴科へー戦後社会科教育の歴史① 社会科の新設		予習：講義ノートⅠ	
第3回	Ⅰ 社会科から地歴科へー戦後社会科教育の歴史② 60・70年代の社会科		予習：講義ノートⅠ	
第4回	Ⅰ 社会科から地歴科へー戦後社会科教育の歴史③ 社会科から地歴科へ		予習：講義ノートⅠ	
第5回	Ⅱ 欧米の社会科系教科① アメリカの社会科		予習：講義ノートⅡ	
第6回	Ⅱ 欧米の社会科系教科② ドイツの社会科		予習：講義ノートⅡ	
第7回	Ⅲ 地理教育について① 中学地理の位置づけ		予習：講義ノートⅢ	
第8回	Ⅲ 地理教育について② 地図		予習：講義ノートⅢ	
第9回	Ⅲ 地理教育について③ 大宰府・博多の地理・歴史		土曜日巡検	
第10回	Ⅳ 歴史教育について① 戦後歴史教育の転換と中学歴史		予習：講義ノートⅣ	
第11回	Ⅳ 歴史教育について② 世界史		予習：講義ノートⅣ	
第12回	Ⅳ 歴史教育について③ 日本史		予習：講義ノートⅣ	
第13回	Ⅴ 公民教育について① 戦前日本の中等公民教育		予習：講義ノートⅤ	
第14回	Ⅴ 公民教育について② 総合社会科の公民		予習：講義ノートⅤ	
第15回	Ⅴ 公民教育について③ 分野別社会科の公民的分野		予習：講義ノートⅤ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100% 地理課題30% 地図課題30% 読書レポート40%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	6回以上欠席した場合は「無資格」とします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的な授業参加が求められるとともに、授業以外の活動にも取り組む必要があります。毎回出席を取ります。			
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 地理歴史編』			
指定図書	なし			
参考図書	白井嘉一・柴田義松編『社会・地歴・公民科教育法』学文社			
オフィスアワー	火曜日昼休み以降		メールアドレス	



授業科目	社会科・地歴科教育法Ⅱ【中等教職】		開講時期	後期
担当教員	秦 惟人		単位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、教免法施行規則の「教育課程および指導法に関する科目」に該当する。</p> <p>この科目は、社会科地歴科教育法Ⅰで学んだ、教科教育の枠組みと方法をもとに、実際に授業を行う訓練を、段取りをつけて行うことを目的とする。本格的なIT時代をむかえ、従来の方法による情報検索と教材作成のための教材研究法を身につけるだけでなく、インターネットを使った教材作成の方法も身につける。さらに、教科教育に必要な専門知識を実際の授業で活用するためのプログラムである指導案を各自作成し、実際に模擬授業をおこなう。</p> <p>授業の概要は、中学校社会科と高校地歴科の学習指導要領の内容を、実際現行の中学高校の教科書にてらして確認し、各教科の教材研究についての方法を身につけるとともに、インターネットを使った教材作成にも慣れる。そして実際に授業の指導要領を作り、模擬授業を実施する。</p>			
到達目標	<p>中学社会科・高校地歴科の各分野・科目の学習指導要領について習熟し、身につける。</p> <p>インターネットを使った教材の情報検索に熟練する。</p> <p>各分野・科目ごとに、教材研究の方法を身につける。</p> <p>実際に授業の指導案を作り、模擬授業が実施できる。</p>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科の指導法</li> <li>● 実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等を組み入れ、実践的な指導力を身につけさせるような具体的な事項を授業計画に示す</li> <li>● 学習指導要領に掲げる事項に即して包括的な内容を含む</li> <li>● 国語および英語については中学及び高校の内容をバランスよく取り扱う</li> <li>● 教科書、参考図書などに、学習指導要領の利用を記載すること</li> <li>・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む）</li> </ul>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	初めに 変わる教科書		予習：講義ノートⅠ	
第2回	教科書と指導要領① 中学地理的分野		予習：講義ノートⅡ	
第3回	教科書と指導要領② 中学地理的分野・歴史的分野		予習：講義ノートⅡ	
第4回	教科書と指導要領③ 中学地理的分野		予習：講義ノートⅡ	
第5回	教科書と指導要領④ 地歴科世界史・日本史		予習：講義ノートⅡ	
第6回	地理の教材研究① 教科書と現実の地理		予習：講義ノートⅢ	
第7回	地理の教材研究② インターネットを使った教材研究		予習：講義ノートⅢ	
第8回	歴史の教材研究① 日本の歴史教科書と外国の歴史教科書		予習：講義ノートⅢ	
第9回	歴史の教材研究② 世界史・日本史の教材研究		予習：講義ノートⅢ	
第10回	歴史の教材研究③ 東アジア地域史の試み		予習：講義ノートⅢ	
第11回	公民の教材研究		予習：講義ノートⅣ	
第12回	指導案の実際① 中学社会		予習：講義ノートⅤ	
第13回	指導案の実際② 高校地歴		予習：講義ノートⅤ	
第14回	模擬授業① 中学社会		予習：模擬授業準備	
第15回	模擬授業② 高校地歴		予習：模擬授業準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30%			
レポート	30% 教科の指導案 授業の指導案 その他			
小テスト等	なし			
成果発表	40% 模擬授業			
受講態度他	欠席6回以上は「無資格」とします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回出席をとります。実習・演習を含みますので、積極的な授業参加が求められます。			
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 社会編』 文部科学省『高等学校学習指導要領 地理歴史編』			
指定図書	なし			
参考図書	文部科学省検定済の中学社会科・高校地歴科の教科書			
オフィスアワー	水曜④ 木曜③	メールアドレス		

授業科目	社会科教育法Ⅰ【中等教職】		開講時期	前期
担当教員	松本 和寿		単位	2
授業の目的と概要	<p>社会科の成立過程について検討することを通して、社会科の意義や目標を理解するとともに、現行学習指導要領に記された目標と内容を踏まえ、中学校社会科の望ましい指導の在り方について考察することを目的とする。</p> <p>この授業では、現行学習指導要領の趣旨について理解を図ることができるよう『中学校学習指導要領解説社会科編』の記述を読み込むとともに、具体的な指導内容について確認し理解を図る。</p>			
到達目標	<p>社会科教育の歴史的展開を説明できる。</p> <p>学習指導要領に掲げられた事項について説明できる。</p> <p>歴史・地理・公民の各分野の内容を把握・理解する。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に掲げられた事項及び社会科の内容</li> </ul>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 社会科の成立史① 戦後教育改革と社会科の誕生		2年次科目「日本教育史」における戦後教育改革の授業を復習しておく。		
第2回 社会科の成立史② 学習指導要領の変遷と改定の主眼		2年次科目「日本教育史」における戦後教育改革の授業を復習しておく。		
第3回 社会科のカリキュラム① 地理・歴史・公民の3分野構成について		2年次科目「日本教育史」における戦後教育改革の授業を復習しておく。		
第4回 社会科のカリキュラム② 現行学習指導要領の目標及び内容		第1回～第4回（成立史及びカリキュラム）についてまとめる。（レポート）		
第5回 社会科の内容（地理的分野①）（レポート提出） 日本の気候・風土		中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。		
第6回 社会科の内容（地理的分野②）（前時内容の小テスト） 日本の産業		中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。		
第7回 社会科の内容（地理的分野③）（前時内容の小テスト）		中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。		
第8回 社会科の内容（地理的分野④）（前時内容の小テスト） 世界の国々（欧米）		中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。		
第9回 社会科の内容（歴史的分野①）（前時内容の小テスト） 日本の古代・中世		中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。		
第10回 社会科の内容（歴史的分野②）（前時内容の小テスト） 日本の近世		中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。		
第11回 社会科の内容（歴史的分野③）（前時内容の小テスト） 日本の近代		中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。		
第12回 社会科の内容（歴史的分野④）（前時内容の小テスト） 日本の現代		中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。		
第13回 社会科の内容（公民的分野①）（前時内容の小テスト） 政治		中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。		
第14回 社会科の内容（公民的分野②）（前時内容の小テスト） 経済		中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。		
第15回 社会科の内容（公民的分野③）（前時内容の小テスト） 国際社会		中学校社会科で学んだ内容を確認しておく。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	30％			
小テスト等	50％			
成果発表	なし。			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教職を目指すという自覚をもち、真剣かつ積極的な受講態度で授業に臨むこと。			
教科書	『中学校学習指導要領解説 社会編』			
指定図書	授業中に指示する。			
参考図書	授業中に指示する。			
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み（他の時間帯でも可能な場合あり）	メールアドレス		

授業科目	社会科教育法Ⅱ【中等教職】		開講時期	後期
担当教員	松本 和寿		単 位	2
授業の目的と概要	<p>「社会科教育法Ⅰ」での学びを踏まえて、中学校社会科の単元構成や1単位時間の展開、具体的な指導法について理解するとともに、模擬授業に取り組むことを通して実践的技能の基礎を身に付けることを目的とする。</p> <p>単元構成や1単位時間の展開などについての講義の後、模擬授業に取り組む。その指導案作成にはグループ単位で取り組み、全員もしくは代表者が授業をする。また、授業の最後には各自作成した指導案を提出することとする。</p>			
到達目標	<p>具体的な教材分析、授業案作りの基礎的知識を身に付ける。 社会科の指導案を作成し、模擬授業をすることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等</li> </ul>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	問題解決的単元構成について	経験主義教育と系統主義教育の長所短所を整理しておく。		
第2回	1単位時間の指導について 展開、発問、板書及び「内容の取扱い」の留意点など	『中学校学習指導要領解説社会科編』の関係部分を熟読する。		
第3回	指導案の書き方 目標、展開、評価など	『中学校学習指導要領解説社会科編』の関係部分を熟読する。		
第4回	模擬授業の計画 授業分野・単元・時間決定、指導案作成	模擬授業単元の教材研究と資料収集をする。		
第5回	模擬授業の計画 第4回の継続、資料作成	模擬授業単元の教材研究と資料収集をする。		
第6回	模擬授業の計画 第5回の継続、資料作成	模擬授業単元の教材研究と資料収集をする。		
第7回	模擬授業の計画 第6回の継続、資料作成	模擬授業単元の教材研究と資料収集をする。 (模擬授業の指導案提出)		
第8回	模擬授業の実施	模擬授業単元の教材研究と資料収集をする。		
第9回	模擬授業の実施	模擬授業後の振り返り(参観)を記述する。		
第10回	模擬授業の実施	模擬授業後の振り返り(参観)を記述する。		
第11回	模擬授業の実施	模擬授業後の振り返り(参観)を記述する。		
第12回	模擬授業の実施	模擬授業後の振り返り(参観)を記述する。		
第13回	模擬授業の実施	各自、分野・内容を決定し指導案を作成する。		
第14回	社会科の課題	各自、分野・内容を決定し指導案を作成する。		
第15回	望ましい授業の在り方	各自、分野・内容を決定し指導案を作成する。(各自指導案提出)		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	50%(指導案作成)			
小テスト等	なし。			
成果発表	30%(模擬授業)			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教職を目指すという自覚をもち、真剣かつ積極的な受講態度で授業に臨むこと。			
教科書	『中学校学習指導要領解説 社会編』			
指定図書	授業中に指示する。			
参考図書	授業中に指示する。			
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み (他の時間帯でも可能な場合あり)	メールアドレス		

授業科目	社会学		開講時期	後期
担当教員	花野 裕康		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は社会学の入門的な性格を持つものとして設けられたものである。しかし「入門」だからこそ興味を持って受講してもらわなければならない。従ってこの授業では、今まさに社会で問題となっている具体的な社会現象を取り上げ、これを社会学的視点で見ると何が得られるか、その見解の獲得を目的とする。ここで言う「獲得」とは、受講者の言語能力にも関わる事柄である。具体的には、毎回の授業で論理と社会学的知識とに則った議論を行い（「分かりません」は厳禁）、かつ毎回小レポートを書く事で自身の日本語作文能力を磨く。「単位が必要だから」「楽そうだから」「この時間帯が空いているから」等という消極的態度ではなく、積極的主体的な態度で毎回の授業に臨んでほしい。			
到達目標	①社会学とはどのような学問であるか、社会学を知らない人に分かるように1分程度で要領よく口頭解説する事ができる。 ②現在問題となっている社会現象について、その概要・問題点・解決策を社会学的視点から口頭解説する事ができる。 ③現在問題となっている社会現象について、受け売りの知識でない自前の社会学的議論を他者と交わす事ができる。 ④現在問題となっている社会現象について、受け売りの知識でない自前の社会学的見解を小論文として記述する事ができる。			
この授業が目的としてDPや関連する科目など	この授業は、文学部共通科目のDP3である「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。達成目標の内容通り、その達成がそのままDP3の達成となります。社会を理解するためのもっとも基礎的な科目であり、同時に開講されている一般教養科目「哲学」「環境学」「政治学」「倫理学」「宗教学」「心理学」等の隣接学問科目として、これらの科目と併せて受講することで、現代社会を多角的に観察・分析することができるようになります。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 社会学とは何か		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第2回 社会学的な問いとその答え		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第3回 社会学の理論と方法論		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第4回 貧困・社会的排除・福祉		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第5回 世界規模の不平等		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第6回 ジェンダーとセクシャリティー		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第7回 人種・民族・移民		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第8回 宗教		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第9回 メディア		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第10回 組織とネットワーク		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第11回 教育		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第12回 犯罪と逸脱		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第13回 政治・政府・社会運動		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第14回 国民・戦争・テロ		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第15回 授業全体の総括と討論		「総括の小論」を作成し提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	100%（毎回の授業にて実施するものと、授業後に自宅で解答してもらうものがある。その積み重ねで評価する）			
成果発表	なし			
受講態度他	欠席や授業に積極的に参加しない等、受講態度が芳しくない受講者に関しては、小テストを受け取らない。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること（病欠や忌引きであってもその回の小テストが受けられない事に変わりはないので要注意）。これまでの自らの経験と知識を総動員しながら考えつつ受講すること。講義者（花野）とのやり取りに積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。特に（許可された場合以外での）スマホ操作、居眠り、他の受講者に迷惑がかかる行為は厳禁とする。見つけ次第退席もしくはこれに代わる措置を取る。その代わり授業中に5分休憩を取る。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前後（長引く場合はその際に面会日時を打ち合わせしましょう）	メールアドレス		

授業科目	社会学概論		開講時期	前期
担当教員	花野 裕康		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は①社会学の「概論」で、かつ②教職課程のための科目である。①に関して、概論と言っても一般的抽象的な議論はしない。今まさに社会で問題となっている具体的な社会現象を取り上げ、これを社会的視点で見る事で何が得られるかを目的とする。②に関しては、教職を得るために必須な「自ら考え答えを出す力」を得る事を目的とする。具体的には、毎回の授業で論理と社会的知識とに則った議論を行い（「分かりません」は厳禁）、かつ毎回小レポートを書く事で自身の日本語作文能力を磨く。「教職のために取る必要があるから」という消極的態度ではなく、積極的主体的な態度で毎回の授業に臨んでほしい。			
到達目標	①社会学とはどのような学問であるか、社会学を知らない人に分かるように1分程度で要領よく口頭解説する事ができる。 ②現在問題となっている社会現象について、その概要・問題点・解決策を社会的視点から口頭解説する事ができる。 ③現在問題となっている社会現象について、受け売りの知識でない自前の社会的議論を他者と交わす事ができる。 ④現在問題となっている社会現象について、受け売りの知識でない自前の社会的見解を小論文として記述する事ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、文学部アジア文化学科の学科DP2である「東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの各地域の社会事情について、具体的な事例を通して説明できる」の達成に関わる科目です。アジアの社会事情について、問題となっている社会現象を社会的視点で切り込むことで、本DP2の一角（社会的視点からのもの）が達成されます。また、この科目は社会を理解するためのものとも基礎的な科目であり、同DP内で開講されている「政治学概論」「経済学概論」「法学」等の隣接学問科目として、これらの科目と併せて受講することで、現代社会を多角的に観察・分析することができるようになります。なお、この科目は教職課程授業科目のうち「公民」の教職必修科目および「社会」の教職必修選択科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 社会学とは何か		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第2回 社会的な問いとその答え		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第3回 社会学の理論と方法論		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第4回 1-3回のまとめと討論		1-3回のまとめノートを作成し次週提出		
第5回 グローバリゼーションと社会変動		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第6回 環境		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第7回 都市と生活		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第8回 労働と経済		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第9回 5-8回のまとめと討論		5-8回のまとめノートを作成し次週提出		
第10回 社会的相互作用と日常生活		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第11回 ライフコース		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第12回 家族と親密な関係		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第13回 健康・疾病・障碍		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第14回 階層と階級		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出		
第15回 10-14回のまとめと討論		10-14回のまとめノートを作成し提出		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	100%（毎回の授業にて実施するものと、授業後に自宅で解答してもらうものがある。その積み重ねで評価する）			
成果発表	なし			
受講態度他	欠席や授業に積極的に参加しない等、受講態度が芳しくない受講者に関しては、小テストを受け取らない。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること（病欠や忌引きであってもその回の小テストが受けられない事には変わりはないので要注意）。これまでの自らの経験と知識を総動員しながら考えつつ受講すること。講義者（花野）とのやり取りに積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。特に（許可された場合以外での）スマホ操作、居眠り、他の受講者に迷惑がかかる行為は厳禁とする。見つけ次第退出もしくはこれに代わる措置を取る。その代わり授業中に5分休憩を取る。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前後（長引く場合はその際に面会日時を打ち合わせしましょう）	メールアドレス		

授業科目	社会学概論 I		開講時期	前期
担当教員	徳永 勇		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義では、まず、個人と社会システムとの関係を分析するために考案されてきた、社会学の基礎的な概念と理論について、具体的には、行為論、社会システム論、集団・組織論、社会階層論等について、十分な理解をはかる。次に、それら社会学の基礎をふまえたうえで、近代化、工業化、脱工業化という大きな社会変動の流れについて把握する。さらに、情報化やグローバル化、貧困と社会的排除といった現代社会の動向と諸問題について理解し、自らが生きる社会への問題意識を深化させ、あわせて社会的なもののみかたを習得する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会学の基礎的な概念と理論（行為論、社会システム論、集団・組織論、社会階層論等）について説明できる。</li> <li>2. 現代社会の特徴を、近代化、工業化、脱工業化という社会変動の帰結として説明できる。</li> <li>3. 情報化、グローバル化、貧困と社会的排除、以上の現代社会の動向と問題について説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本講義は、人間関係専攻DP②「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」、初等教育コースDP②「初等教育に関する専門的知識や子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況についての知識を身に付けることができる。」、幼児保育コースDP②「子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況に関する知識を身に付けることができる。」に準拠する。</p> <p>価値観と生活様式の個人主義化、私生活中心主義化が進んでいくなか、社会的なるものへの無関心、鈍感、想像力の欠如が著しくなっている。わたしたちが直面する私的問題は、そのほとんどが社会的な問題に通じていること、このことについての理解を深めていくことも、本講義の目的の一つである。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	社会化と社会的行為		予習 講義ノートp. 1	
第 2回	社会システムのはたらき		予習 講義ノートp. 2	
第 3回	社会集団と組織		予習 講義ノートpp. 2-3	
第 4回	キャリアと社会階層		予習 講義ノートp. 3	
第 5回	達成意欲とキャリア形成		予習 講義ノートp. 4	
第 6回	近代官僚制		予習 講義ノートp. 4	
第 7回	組織経営の変容		予習 講義ノートpp. 4-5	
第 8回	近代化の意味		予習 講義ノートp. 5	
第 9回	工業社会の展開		予習 講義ノートp. 6	
第10回	工業化と都市化・市民社会		予習 講義ノートpp. 6-7	
第11回	工業社会の限界		予習 講義ノートp. 7	
第12回	ポスト工業社会の展開		予習 講義ノートpp7-. 8	
第13回	情報化社会		予習 講義ノートpp. 8-9	
第14回	グローバル化		予習 講義ノートpp. 9-10	
第15回	社会的排除の克服		予習 講義ノートp. 10	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100%：テーマ選択、論述式の筆記試験で評価する。持ち込みは配布プリント、自筆ノートのみ可。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本講義では数多くの参考文献を紹介する。それらをできる限り多く読みこなし、自主的な学修をはかっていただきたい。			
教科書	使用しない。			
指定図書	見田宗介, 2006, 『社会学入門』岩波書店、宇都宮京子編, 2009, 『よくわかる社会学』ミネルヴァ書房、社会福祉士養成講座編集委員会編, 2014, 『社会学理論と社会システム——社会学』中央法規			
参考図書	講義中に、適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜日3限・火曜日3限		メールアドレス	

授業科目	社会学概論Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	徳永 勇		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義では、まず、人間社会においてもっとも基礎的なユニットである家族と地域社会について、各々の変容過程と現状について説明する。次に、少子高齢化の経緯と現状、およびその原因と問題点の解決策について解説する。最後に、勤労者間格差、雇用のジェンダー間格差の問題、生存権および労働法について説明する。</p> <p>受講者が、これらの社会事象について、的確に理解し、自分なりの見解をもつことができるようになることをめざす。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における家族と地域社会の現状と問題点について説明できる。</li> <li>2. 少子高齢化とそれともなう問題状況を適切に理解し、問題解決に有効な社会政策を構想できる。</li> <li>3. 雇用をめぐる不平等と貧困問題、生存権とそれを守るための社会保障、労働法規について説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本講義には、次の社会福祉コースDP②が充当される。</p> <p>「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」</p> <p>価値観と生活様式の個人主義化、私生活中心主義化が進んでいくなか、社会的なるものへの無関心、鈍感、想像力の欠如が著しくなっている。わたしたちが直面する私的問題は、そのほとんどが社会的な問題に通じていること、このことについての理解を深めていくことも、本講義の目的の一つである。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	家族とはなにか	予習 講義ノートp. 1		
第 2回	家族と世帯	予習 講義ノートp. 2		
第 3回	子どもの社会化と家族	予習 講義ノートp. 2		
第 4回	近代家族の形成と現代家族の動向	予習 講義ノートpp. 2-3		
第 5回	子ども虐待と高齢者虐待およびドメスティックバイオレンス	予習 講義ノートpp. 3-4		
第 6回	コミュニティと近隣住区	予習 講義ノートpp4-5		
第 7回	都市化と地域社会の変容	予習 講義ノートpp. 5-6		
第 8回	少子高齢化の推移と現状	予習 講義ノートpp. 6-7		
第 9回	少子高齢化の原因と問題点	予習 講義ノートp. 7		
第10回	少子高齢化対策の諸相と課題	予習 講義ノートpp. 7-8		
第11回	勤労者間格差の現状	予習 講義ノートpp. 8-9		
第12回	雇用のジェンダー間格差	予習 講義ノートpp. 9-10		
第13回	働くことの意味と社会保障	予習 講義ノートpp. 10-11		
第14回	生活保護とその問題点	予習 講義ノートpp. 11-12		
第15回	労働法を理解する	予習 講義ノートpp. 12-14		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	100%：テーマ選択、論述式の筆記試験で評価する。持ち込みは配布プリント、自筆ノートのみ可。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本講義では数多くの参考文献を紹介する。それらをできる限り多く読みこなし、自主的な学修をはかっていただきたい。			
教科書	使用しない。			
指定図書	友枝敏雄ほか、2007、『社会学のエッセンス 新版』有斐閣、長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志、2007、『社会学』有斐閣、社会福祉士養成講座編集委員会編、2014、『社会理論と社会システム——社会学』中央法規			
参考図書	講義中に、適宜紹介する。			
オフィスワー	月曜日3限・火曜日3限	メールアドレス		

授業科目	社会学史	開講時期	後期
担当教員	野中 亮	単 位	2
授業の目的と概要	社会学の基礎概念の理解を通じて、社会学的な考え方の流れ（歴史）を習得することを目的とします。社会学者を年代順に並べて各個に学習していくのではなく、社会学の基礎概念を単位として系統だて、各系統毎に3回程度の講義を割り当てて学習を進めます。また、授業では諸概念を具体的に理解するための例として映画を活用します。各概念の学習の際、その概念に関連する映画の一部を教室で鑑賞し、その後講義となります。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会学的な課題設定の多様性を網羅的・通史的に説明できる。</li> <li>・社会学の基礎概念について概説的に説明できる。</li> <li>・社会学諸理論の特徴と問題点を理解した上で、自らの研究の指針として活用する力を身につける。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現代社会学部DP②「現代社会を理解するために、社会学の基礎的な知識と技能を身につけている」に該当します。1年生向けの社会学入門科目です。「社会学入門」とともに、現代社会学部各コースの学びの土台として、社会学の基礎を学修します。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーションおよび社会学の基本的な課題に関する概説	参考図書の確認	
第2回	社会的行為1：「身体技法」 keywords: 「ハビトゥス」モース、ブルデュー	テキスト第5章	
第3回	社会的行為2：「動機の語彙」 keywords: 「動機の社会性」ミルズ	テキスト第1章	
第4回	社会的行為3：「行為と演技」 keywords: 「パフォーマンス」ゴフマン	テキスト第2章	
第5回	社会的行為4：「感情労働」 keywords: 「感情操作」「表層/深層演技」ホックシールド	テキスト第9章 小課題の提出	
第6回	社会と集団1：「官僚制」 keywords: 「順/逆機能」「ホーソン実験」マートン、メイヨー	テキスト第7章	
第7回	社会と集団2：「社会関係資本」 keywords: 「資本」パトナム、ブルデュー	テキスト第8章	
第8回	共同体の構築1：「集合的記憶」 keywords: 「記憶」アルヴァクス	テキスト第12章	
第9回	共同体の構築2：「伝統の創造」 keywords: 「近代」「アイデンティティ」ホブズボウム&レンジャー	テキスト第19章	
第10回	共同体の構築3：「想像の共同体」 keywords: 「国民国家」アンダーソン	テキスト第18章 小課題の提出	
第11回	現代の社会1：「消費社会」 keywords: 「記号(論)」ボードリヤール	テキスト第13章	
第12回	現代の社会2：「観光のまなざし」 keywords: 「近代化」「移動」アーリ	テキスト第16章	
第13回	現代の社会3：「リスク社会」 keywords: 「ハイ・モダニティ」ベック、ギデンズ	テキスト第20章	
第14回	現代の社会4：「監視社会」 keywords: 「主体」「相互監視」ライアン	テキスト第15章	
第15回	まとめ	最終レポートの作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	学期途中で小課題を2回、最後に最終レポートを課します。小レポート1本30点×2回+最終レポート40点=100点で計算し、成績評価を行います。書式等は授業中に指示しますが、必ず参考文献を用いることを義務づけます。		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業外学修の時間は180分程度を想定しています。</li> <li>・板書やスライドが読みにくい、話が聞き取りにくい場合はすぐに指摘してください。</li> <li>・私語には厳格に対応します。快適な学びの場の維持に協力してください。</li> </ul>		
教科書	西村大志・松浦雄介(編), 2016, 『映画は社会学する』法律文化社		
指定図書	なし		
参考図書	井上俊・作田啓一(編), 1986, 『命題コレクション 社会学』筑摩書房 その他、授業中に指示します。		
オフィスアワー	月曜4限	メールアドレス	



授業科目	社会学入門		開講時期	前期
担当教員	赤枝 香奈子		単 位	2
授業の目的と概要	「社会学」とはどのような学問か？この授業では、社会学という学問が登場してきた時代背景から話を始め、社会学の歴史と展開、鍵となる社会学者、基本的な概念や理論について説明します。また、「家族」や「エスニシティ」、「グローバリゼーション」など、現代社会を理解する上で重要なトピックを取り上げて解説することで、わたしたち自身が生きる社会について、社会学のものの見方や考え方をを用いて分析し、考察できるようになることを目指します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会学のおおまかな歴史と基本的な概念や理論について自分の言葉で説明できる。</li> <li>2. 社会学に特徴的なものの見方や考え方について理解できる。</li> <li>3. 現代社会を理解する上で重要なトピックについて、社会学的な視座から分析、考察できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、現代社会学部DPの②「現代社会を理解するために、社会学の基礎的な知識と技能を身につけている」の達成にかかわる科目です。ビジネス社会、メディア社会、環境共生社会の各コースにおける学びの土台となる社会学について、「社会学史」の授業とともに、社会学の基礎を理解するための授業です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション	教科書 第1章：教科書を読んでくる。		
第2回	社会学のあゆみ	教科書 第1章、指定図書：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。		
第3回	家族	教科書 第3章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。		
第4回	教育	教科書 第4章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。		
第5回	政治・社会運動	教科書 第5章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。		
第6回	メディア	教科書 第6章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。		
第7回	地域社会とコミュニティ	教科書 第7章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。		
第8回	労働	教科書 第8章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。		
第9回	社会階層	教科書 第9章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。		
第10回	福祉と社会保障	教科書 第10章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。		
第11回	グローバリゼーション	教科書 第11章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。		
第12回	少子高齢社会	教科書 第12章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。		
第13回	地域社会とソーシャル・キャピタル	教科書 第13章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。		
第14回	ジェンダー・セクシュアリティ	教科書 第14章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。		
第15回	災害とコミュニティ	教科書 第15章：教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%			
小テスト等	40%（授業内での小テストおよび小課題）			
成果発表	なし			
受講態度他	10%（小課題への取り組み具合や受講態度も成績評価に含める）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回、次回の授業用のレジュメを事前に配布するので、各自、教科書を読み、空欄に用語を入れるなどの必要な作業をして授業に臨んでください。毎回、授業中の最後の時間を使って、簡単なコメントシートに記入の上、提出してもらいます。復習として、教科書の【発展学習】に取り組んでみましょう。学期中に2回程度、小テストを行います。			
教科書	櫻井義秀・飯田俊郎・西浦功編著『アンビシャス 社会学』北海道大学出版会			
指定図書	井上俊・大村英昭『改訂版 社会学入門』放送大学教育振興会			
参考図書	栗田宣義『図解雑学 社会学』ナツメ社 森下伸也『社会学がわかる事典』日本実業出版社			
オフィスアワー	木曜日2限	メールアドレス		

授業科目	社会言語演習		開講時期	前期
担当教員	崔 淑芬		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本授業では、東アジア、とくに中国に関する東アジア世界の文化・社会・互いの交流史など諸相を総合的に学ぶことによって、アジアの社会、風俗、文化異同点諸方面についての知識と理解を深め、交流の歴史を把握することによって、国際化時代に対応できる柔軟な思考力を身につけるようになることを目的とする。</p> <p>本授業では、アジアとくに中国に関する東アジア世界の文化・社会・互いの交流史など事例を通し、東アジア世界の文化・社会・イメジ・歴史の基礎を学ぶほか、日本と東アジアの文化を比較しながら、東アジア地域文化・社会・互いの交流史などに対する視野の広い見方、考え方を学んで、“自ら調べ、自ら考え”興味ある分野の探究を深めていく。日・中現地で調査した資料、取材した映像を使用し、レジュメの作成などにより講義を展開していく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、中国を中心とするアジア世界の文化・社会・歴史に対する理解を深めることができる。</li> <li>2、近年あらためて注目されているアジア世界の形成について考えることができる。</li> <li>3、物事を幅広い視点から理解する能力を身につけることができる。</li> <li>4、専門の講義や演習で自分がかもとも興味・関心をもつ専門領域を深く掘り下げることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	アジア地域文化・社会・互いの交流史などに対する視野の広い見方、考え方を学んで、“自ら調べ、自ら考え”興味ある分野の探究を深めていく。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回ガイダンス：講義内容の説明およびスケジュール 茶文化			食文化の調べ	
第2回 中国の食文化特徴			数字や色に関する文化と社会の調べ	
第3回 数字や色からみる中・日の文化、考え方			中国の改革開放とは	
第4回 改革開放と中国社会の変化			一人っ子政策とは	
第5回 一人っ子政策の実施と今日の中国社会			若者の価値観	
第6回 若者の恋愛観と結婚観の変化			女性の社会地位	
第7回 纏足から見る中国女性の社会地位			日・中交流の事例	
第8回 歴史からみる日・中の交流①			日・中交流の事例	
第9回 歴史からみる日・中の交流②			漢字の特徴	
第10回 漢字からみる現代中国社会の変化			日・中服装の特徴	
第11回 服装の変遷からみる社会・文化の特徴			若者の価値観	
第12回 今日の恋愛観と結婚観			中国世界遺産の事例	
第13回 中国の世界遺産の分布と特徴			中国の少数民族とは	
第14回 中国少数民族の食・住の特徴			レポートの作成準備	
第15回 総括：質疑応答・レポートの作成			レポートの作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	%			
レポート	50%			
小テスト等	%			
成果発表	%			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的に討論に参加すること。 出欠を重視する。課題準備は厳守のこと。			
教科書	プリントを配布する。			
指定図書	岸本美緒『中国社会の歴史的展開』放送大学教育振興会(2007)			
参考図書	随時紹介する。			
オフィスワー	火・金	メールアドレス		

授業科目	社会心理学		開講時期	後期
担当教員	三上 聡美		単位	2
授業の目的と概要	社会心理学は、私たち人間の心と他者や社会との間の相互影響メカニズムを科学的に明らかにしようとする学問である。この授業では、社会心理学の基礎的な理論を理解することを目的とする。さらに、社会心理学の基礎的な理論の理解を通じて、社会やまわりの人との関係について興味を持ち、社会的な存在としての自分自身について考える力をつけることを目指す。人間は自分自身についてどのように捉えるのか、人間が他者に対してとる行動にはどのような特徴や機能があるのか、集団（職場、学校など）の中で人間はどのような行動をとっているのか、そして社会全体を動かすような人間の動きにはどのようなメカニズムが働いているのかについての基礎的な社会心理学の理論を解説する。また、授業内容をふまえながら、他者との相互学習を通して、コミュニケーションスキルおよび問題解決力を養う演習も行う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会心理学の基本的な理論を説明することができる。</li> <li>2. 社会心理学の科学的な検証方法について説明することができる。</li> <li>3. 社会心理学の理論を自分自身の体験に関係づけることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	社会心理学とは：社会心理学の歴史、研究方法と研究分野	予習・復習		
第2回	自己（1）：自己認知	予習・復習		
第3回	自己（2）：自己評価と動機づけ	予習・復習		
第4回	社会的認知（1）：対人認知	予習・復習		
第5回	社会的認知（2）：社会的推論	予習・復習		
第6回	社会的認知（3）態度	予習・復習		
第7回	社会的認知（4）：感情	予習・復習		
第8回	対人関係（1）：対人行動	予習・復習		
第9回	対人関係（2）：人間関係の成立・発展・維持と崩壊	予習・復習		
第10回	対人関係（3）：人間関係の諸相	予習・復習		
第11回	集団と個人（1）：他者存在の影響と集団ダイナミクス	予習・復習		
第12回	集団と個人（2）：社会的ジレンマ	予習・復習		
第13回	健康と幸福：ストレスと対処	予習・復習		
第14回	文化と人間：社会文化的文脈の中の自己	予習・復習		
第15回	総括	復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	100% 定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	適宜、講義中に課題や発表を求めることがある。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講の参加態度や課題の進捗状況、発言等の取り組みにより、試験の難易度を決定する。詳細は適宜、講義中に申し伝える。また、受講計画は変更することがある。その際は、講義中に申し伝える。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	池上知子・遠藤由美共著『グラフィック 社会心理学 第2版』サイエンス社			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	社会的養護	開講時期	後期
担当教員	山之内 輝美	単位	2
授業の目的と概要	核家族化が進み、家族形態は多様化する中で、家族の養育機能は低下してきている。現代社会の子ども達やその家族を取り巻く環境の変化の中で、社会的な養護を必要とする子どもがいる。社会的養護を必要とする子ども達についての理解を深め、養護や支援のあり方を検討することを目的としている。 授業では講義が中心となるが、配付資料、視聴覚教材やPCを活用し、児童福祉施設等を利用している子どもの生活や実情、社会的養護についての理解を深め、知識を習得してほしい。		
到達目標	①社会的養護が必要となる背景や現状について説明することができる。 ②社会的養護の体系や児童福祉施設の目的や役割を説明することができる。 ③社会的養護に関連する里親や児童福祉施設についてのHPを調べたり、統計資料を読み取り、発表することができる。 ④児童福祉施設での専門職の役割を理解し、施設養護の実際や支援のあり方を検討する。 ⑤児童福祉施設での支援の理念、専門援助技術や倫理について説明することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	「社会的養護」は人間科学部専攻科目で、DP③「子どものよさや課題を理解し、適切に支援するための理論について概要を説明することができる。」ことも目的にした科目です。2年生前期開講の「児童家庭福祉論」を基礎としながら、特に家庭環境上の支援を必要とする子どもやその家族について学びます。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション：授業内容、スケジュール、児童養護の体系	児童養護の体系を確認する	
第2回	家庭的養護と施設養護	課題①	
第3回	社会的養護の概要Ⅰ：施設の概要	テキスト p56-77	
第4回	施設養護の実際Ⅰ：日課と専門職の役割	課題②	
第5回	児童養護の基本原則：権利の尊重、施設での個別化と集団の活用	課題③ テキスト p88-97	
第6回	社会的養護の概要Ⅱ：社会的養護を必要とする子どもと社会的背景	課題④ テキスト p16-29	
第7回	施設養護の実際Ⅲ：利用する子どもの理解	課題⑤	
第8回	施設養護の実際Ⅳ： 基本的日常生活上の支援、心身の成長を育み	テキスト p98-110	
第9回	施設養護の実際Ⅴ 自立や自己実現に向けての支援	課題⑥ テキスト p121-133	
第10回	施設養護の実際Ⅵ 親子関係、学校や地域との関係、運営管理と地域福祉	課題⑦ テキストp145-159	
第11回	施設における児童養護についてⅠ：被虐待児への対応と虐待防止	被虐待児への対応と虐待防止について検討する	
第12回	施設における児童養護についてⅡ：コミュニケーション	コミュニケーションのあり方を検討する	
第13回	専門援助技術（ケースワークやグループワーク等）	テキスト p134-144	
第14回	施設養護の理念と倫理	理念と倫理について資料を見直す	
第15回	授業全体のまとめ	授業全体を振り返る	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	-		
レポート	70% 視聴覚教材視聴の感想やレポート提出課題		
小テスト等	-		
成果発表	-		
受講態度他	30%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的に授業に参加するように。		
教科書	『社会的養護』小池由佳・山縣文治編著、ミネルヴァ書房。		
指定図書	-		
参考図書	『児童の社会的養護原理』神戸賢次・喜多一憲編、みらい。『児童養護施設入所児童等調査結果の要点』厚生労働省。『続 泣くものかー子どもたちからの人権の訴え』全社協養護施設協議会編、亜紀書房。		
オフィスアワー	後期 火曜日（12:30-13:00）	メールアドレス	

授業科目	社会的養護内容		開講時期	前期
担当教員	井上 由紀子		単位	2
授業の目的と概要	<p>虐待など保護者によって行われる不適切な養育は児童の発達に深刻な影響を及ぼし、さまざまな問題行動の原因になっている。この不適切な養育によって社会的養護を必要としている児童の日常生活は、損われた発達からの回復過程であり、専門的な援助の過程として構成されなければならない。</p> <p>授業では、社会的養護の事例を通して不適切な養育が児童の発達に及ぼす影響を理解し、個別支援の重要性とその展開、日常生活支援の治療的意味や社会的養護の課題についても学び、社会的養護における子どもと家族にかかわる姿勢、援助の立て方・進め方、援助において活用する資源など、保育士のかかわりについて考察する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会的養護における児童の権利擁護や保育士の倫理について説明することができる。</li> <li>2 施設養護および他の社会的養護について説明することができる。</li> <li>3 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活支援、治療的支援、自立支援の内容について説明することができる。</li> <li>4 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について説明することができる。</li> <li>5 社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解を深める。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	社会的養護における児童の権利擁護と保育士等の倫理および責務	子ども・家庭を取り巻く生活環境と社会的養護		
第2回	社会的養護の特性および実際	施設養護		
第3回	里親制度の特性および実際	里親制度		
第4回	社会的養護を必要とする子どもの理解とその支援 1	育ちなおしと個別支援計画		
第5回	社会的養護を必要とする子どもの理解とその支援 2	衣生活・食生活・住環境と発達		
第6回	社会的養護を必要とする子どもの理解とその支援 3	経験の定位		
第7回	社会的養護を必要とする子どもの理解とその支援 4	母性的養育の喪失		
第8回	社会的養護を必要とする子どもの理解とその支援 5	問題行動の心理臨床		
第9回	社会的養護を必要とする子どもの理解とその支援 6	心理治療と他職種との連携		
第10回	社会的養護を必要とする子どもの理解とその支援 7	子どもの自立と自立支援計画		
第11回	社会的養護を必要とする子どもの理解とその支援 8	適応と環境調整		
第12回	社会的養護を必要とする子どもの理解とその支援 9	就労支援とアフターケア		
第13回	家族関係調整と保護者への支援	家族との協同		
第14回	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用	ソーシャルワーク		
第15回	今後の課題と展望	施設の小規模化、援助者の専門性		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40% 事例をもとにグループ討議を行います。積極的参加を評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の中で次回の学習課題を提示します。			
教科書	小木曾宏・宮本秀樹・鈴木崇之編『よくわかる社会的養護内容』ミネルヴァ書房(2012年)			
指定図書	森田喜治著『児童養護施設と被虐待児』創元社(2006年)			
参考図書	橋本和明著『虐待と非行臨床』創元社(2006年)			
オフィスワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	社会福祉運営管理論		開講時期	後期
担当教員	川崎 孝明		単 位	2
授業の目的と概要	<p>福祉サービスの多くは「人」によって提供されるヒューマン・サービスである。この「人」は組織や団体の職員であるため、その属する組織や団体のあり様如何によってサービスの質は大きく左右されることとなる。福祉サービス提供組織が今日的な社会的役割を果たすためには、企業において重視されるガバナンスやコンプライアンスなどの経営課題を、自らの組織のマネジメントの問題として取り組んでいく必要がある。</p> <p>本授業では、措置から契約へと転換された後の社会福祉の基礎構造の下で、福祉サービスと福祉経営の考え方、利用者のニーズ把握とサービス管理の方法、業務運営のあり方に関する知識や技能を培うことを目的とする。</p> <p>平成12年の「社会福祉基礎構造改革」で求められるようになった福祉サービスの特質と理念を考察する。そして、福祉サービス提供組織の経営・運営のあり方、利用者ニーズを大切に組織体制づくりやチームアプローチのあり方を検討する</p>			
到達目標	<p>①福祉サービスが措置から契約へと転換した意義と、その提供のあり方を述べることができる。</p> <p>②福祉サービスに係る様々な組織や団体の現状や仕組みを説明できる。</p> <p>③措置から契約へと転換された後の社会福祉の基礎構造の下での福祉サービス提供組織の運営理念や使命を述べるができる。</p> <p>④福祉サービス提供組織の経営の実際を、具体的な実践に踏み込んで解釈できるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業のねらいと進め方、福祉サービスの特質	予習：P108-115		
第2回	福祉サービスの特質	予習：P108-115		
第3回	福祉サービスの理念	予習：P116-120		
第4回	社会福祉法人	予習：P124-131		
第5回	特定非営利活動法人、医療法人、その他の法人（公益法人、学校法人、協同組合、株式会社など）	予習：P132-143		
第6回	社会福祉法人の組織形態、社会福祉法人の経営とは何か、社会福祉法人の運営管理に求められる	予習：P146-153		
第7回	社会福祉法人の経営と集団の力学、社会福祉法人の経営とリーダーシップ	予習：P154-159		
第8回	福祉サービス提供組織の組織体制と管理	予習：P162-171		
第9回	福祉サービス提供組織における人材の養成と確保	予習：P172-189		
第10回	福祉サービス提供組織における人材の養成と確保	予習：P172-189		
第11回	福祉サービス提供組織の会計・財務管理	予習：P190-199		
第12回	適切なサービス提供体制の確保	予習：P202-220		
第13回	働きやすい労働環境の整備	予習：P221-234		
第14回	福祉サービスの管理運営の視点	予習：P236-244		
第15回	授業のふり返り	—		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	なし			
小テスト等	20% 2回実施する。詳細は第1回目の授業で説明する。			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 質問等の積極的な授業参加を考慮する。原則として、単位認定には15回の授業の3分の2以上の出席を必要とする（実習、部活、就活、病気等のやむえない欠席の場合は出席要件から除外するので、所定の方法で届け出ること）。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講者が不快な思いをしないよう講義中の私語は厳禁とする。ルールを守ることができない者は途中退席を命じる場合があるが、その場合は欠席扱いとする。			
教科書	社会福祉学習双書2016《第2巻》『社会福祉概論Ⅱ』全国社会福祉協議会（2016年）			
指定図書	なし			
参考図書	社会福祉小六法 最新版			
オフィスワー	授業の前後で相談してください。	メールアドレス		

授業科目	社会福祉学特論		開講時期	前期
担当教員	高石 史人		単 位	2
授業の目的と概要	<p>人の生活困難に関わる歴史的・社会的な営みとして形づくられてきた社会福祉のあり方には、その時代や国の社会・経済状況や政治体制、また宗教や思想・文化の特質が反映されていく。そこで、本講義では、社会福祉の制度や思想に関わる主要な論点（対象課題や援助の主体など）に着目して、わが国近現代の福祉のあゆみをいくつかの時期に区分して学び、それらの内味の検討を通して日本の社会福祉の思想的・文化的特質について理解を深める。さらに、今日のわが国の社会福祉が直面する問題や課題をそのような歴史的な観点から考察してみる。</p> <p>本講で扱う課題は、わが国の社会福祉の歴史や思想を理解することにあるが、そのために、最小限何点かの歴史的史・資料の講読を行うとともに、社会福祉の生成・発展の先駆けをなし、わが国の福祉のあり方にも影響を及ぼした欧米先進国の福祉の展開や考え方を合わせ鏡として、比較福祉思想的な見方も織り込みながら授業を進めていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本近現代の福祉をめぐる主要な論点に関して、その制度や考え方の変遷について理解し、説明することができる。</li> <li>2. 日本近現代の福祉の思想的・文化的特質について説明することができる。</li> <li>3. 現代日本の社会福祉の直面する問題や課題について、歴史的な観点から説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	序：日本近現代国家・社会と社会福祉-主要な論点	予・復習		
第 2回	前近代の慈善救済と近代の救貧制度	予・復習		
第 3回	天皇制国家と感化救済の思想	予・復習		
第 4回	大正デモクラシーと日本社会事業の成立	予・復習		
第 5回	昭和恐慌と救護法	予・復習		
第 6回	第二次世界大戦下の戦時厚生事業	予・復習		
第 7回	敗戦；歴史の連続と非連続-西欧化と伝統の問題、質疑応答	予・復習		
第 8回	被占領期 1) 戦後の混乱と公的扶助の思想	予・復習		
第 9回	〃 2) 福祉三法と戦後社会福祉の骨組みの形成	予・復習		
第10回	高度成長期 1) 国民生活の激変と日本社会福祉の成立	予・復習		
第11回	〃 2) 国民皆保険・皆年金体制と日本型福祉国家への道	予・復習		
第12回	転換期 I：「日本型福祉社会」への転回	予・復習		
第13回	転換期 II 1) 高齢社会化と福祉改革	予・復習		
第14回	〃 2) グローバリゼーションと社会福祉基礎構造改革	予・復習		
第15回	総括；日本社会福祉の特質と現代福祉の課題、質疑応答	復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％ 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 質疑や意見など授業への積極的な参加を考慮する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の中で史資料等を配布し、また参考文献の紹介を行うので、関係箇所の予・復習をして授業に臨むこと。			
教科書	なし、必要に応じ史資料・プリントを配布			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	火曜日講義前後の時間	メールアドレス		

授業科目	社会福祉行財政論		開講時期	前期
担当教員	川崎 孝明		単位	2
授業の目的と概要	<p>福祉専門職がソーシャルワークを実践するには、社会福祉の制度やシステムの構造を理解して利用者へ橋渡しすることが必要であり、制度やシステムを利用者のニーズに応じたものにしていくことが求められる。その際に重要な関わりをもってくるのが、国や地方自治体の福祉行政組織の関与や仕組み、連携である。この授業では、社会福祉関係法の構造と相互の関係や社会福祉行政の実施体制の現状と課題を理解し、ソーシャルワーク実践に活用できる知識として身につけることを目的とする。</p> <p>戦後からの社会福祉の発展と社会福祉関係法の歩みを概観し、2000年の「社会福祉基礎構造改革」以降の社会福祉制度及びその理念や仕組み、国と地方自治体の役割などの変化を学ぶ。身近な地方自治体の福祉行政組織の権限や仕組み、活用と連携を、福祉現場や地域社会のあり様に即して考えていく。そして、福祉行政を推進する上での福祉計画の役割や策定方法の基礎的な知識を学ぶ。</p>			
到達目標	<p>① 戦後から現在に至るまでの社会福祉関係法の歩みと制度の変遷、及び社会福祉の理念や仕組みの変化を比較できる。</p> <p>② 福祉の行財政の実施体制（国と地方自治体、組織や団体、財源、専門職の役割と機能）を説明できる。</p> <p>③ 社会福祉財政の動向及び国・地方自治体の負担関係、民間社会福祉事業の財政について述べるができる。</p> <p>④ 国と地方自治体の政策に位置づけられる福祉計画の種類や内容を説明することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業のねらいと進め方、社会福祉関係法の発展段階	予習：P2-13		
第2回	社会福祉関係法の発展段階	予習：P2-13		
第3回	社会福祉関係法の基礎構造を学ぶ	予習：P14-23		
第4回	福祉行政の実施体制	予習：P26-33		
第5回	国及び地方自治体の福祉行政体制とその約割	予習：P34-42		
第6回	市町村における福祉行政体制	プリント配布予定		
第7回	福祉の財政	予習：P43-53		
第8回	福祉行政の組織および専門職の役割	予習：P54-63		
第9回	福祉に関する公私の関係	予習：P64-67		
第10回	福祉計画の意義と目的、福祉計画における住民参加の意義	予習：70-79		
第11回	福祉行財政と福祉計画の関係、福祉計画の主体と方法	予習：P80-85		
第12回	福祉計画の種類とその関係	予習：P86-93		
第13回	福祉計画の策定過程、福祉計画の策定方法と留意点	予習：P94-99		
第14回	福祉計画の評価方法、福祉計画の実際	予習：P100-106		
第15回	授業のまとめとふり返り	-		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	なし			
小テスト等	20% 2回実施する。詳細は第1回目の授業で説明する。			
成果発表	なし			
受講態度他	質問等の積極的な授業参加を考慮する。原則として、単位認定には15回の授業の3分の2以上の出席を必要とする（実習、部活、就活、病気等のやむえない欠席の場合は出席要件から除外するので、所定の方法で届け出ること）。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講者が不快な思いをしないよう講義中の私語は厳禁とする。ルールを守ることができない者は途中退席を命じる場合があるが、その場合は欠席扱いとする。			
教科書	社会福祉学習双書2016《第2巻》『社会福祉概論Ⅱ』全国社会福祉協議会（2016）			
指定図書	なし			
参考図書	社会福祉小六法 最新版			
オフィスワー	授業の前後で相談してください。	メールアドレス		



授業科目	社会福祉原論 I		開講時期	前期
担当教員	池田 和彦		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、現代社会を維持・再生産していくうえで必要不可欠な社会福祉（ソーシャルワーク）という営みについて、社会科学的研究方法にもとづき、その本質的な理解を獲得することを目的とする。</p> <p>そのため、まず、社会福祉（ソーシャルワーク）の対象課題である生活問題について、視聴覚教材も使用して具体的に学んだうえで、社会福祉の主体、目的と理念、方法について確認していく。</p> <p>講義の終盤には、こうして獲得した知識を前提とし、社会福祉コースの学生が取得を目指す社会福祉（ソーシャルワーク）の資格や卒業後の進路ともなる社会福祉の職種や職場（ソーシャルワーカーの仕事）について確認するとともに、ソーシャルワークの価値と倫理についても学ぶこととする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉（ソーシャルワーク）とは何か、自分なりに説明できる。</li> <li>2. 社会福祉の対象について具体的に理解できる。</li> <li>3. 社会福祉の主体、目的と理念、方法について理解できる。</li> <li>4. 社会福祉士など社会福祉の資格制度について理解できる。</li> <li>5. ソーシャルワーカーの仕事や価値および倫理について理解し、卒業後の進路について目標を設定できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	社会福祉コースのDP③「援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる。」に対応する科目である。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	社会福祉（ソーシャルワーク）とは何か — 講義開始時のイメージ	社会福祉（ソーシャルワーク）に対する自分のイメージを確認		
第2回	社会福祉（ソーシャルワーク）とは何か — 『100万回生きたねこ』を通して	『100万回生きたねこ』を通して社会福祉（ソーシャルワーク）について検討		
第3回	社会福祉研究の方法 — 社会科学と社会福祉	社会福祉研究の立場、視点と方法についてノート整理		
第4回	社会福祉を認識する枠組み	社会福祉の対象、主体、目的・理念、方法についてノート整理		
第5回	社会福祉の対象(1) — 生活問題を規定する社会的条件	生活問題を規定する3つの社会的条件についてノート整理		
第6回	社会福祉の対象(2) — 生活問題の内容	くらしの単位、くらしの場、くらしの中身、健康状態についてノート整理		
第7回	社会福祉の対象(3) — 貧困問題	生活問題の具体例について検討		
第8回	社会福祉の対象(4) — 高齢者問題	生活問題の具体例について検討		
第9回	社会福祉の対象(5) — 障害者問題	生活問題の具体例について検討		
第10回	社会福祉の対象(6) — 児童問題	生活問題の具体例について検討		
第11回	社会福祉の主体、社会福祉の目的と理念	社会福祉の主体、社会福祉の目的と理念についてノート整理		
第12回	社会福祉の方法	社会福祉の3つの方法についてノート整理		
第13回	社会福祉（ソーシャルワーク）の資格制度 — 資格取得オリエンテーション	社会福祉（ソーシャルワーク）の資格制度についてノート整理		
第14回	社会福祉の職種と職場（ソーシャルワーカーの仕事）	社会福祉の職種と職場（ソーシャルワーカーの仕事）についてノート整理		
第15回	ソーシャルワークの価値および倫理 — 社会福祉実践とは何か	ソーシャルワークの価値および倫理（倫理綱領）についてノート整理		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	100% 筆記試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	○講義時に資料を配布するので、やむを得ず欠席したときなどは、後日研究室に資料を受け取りに来ること。			
教科書	講義時に資料を配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスワー	火-5	メールアドレス		

授業科目	社会福祉原論Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	池田 和彦		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、社会福祉原論Ⅰで学んだ社会福祉についての基本的な知識を前提とし、社会福祉制度の仕組みとその形成過程（歴史）について理解することを目的とする。</p> <p>まず、社会福祉の制度体系（医療、住宅などの関連領域を含む）について学んだうえで、社会福祉の各分野（高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、生活保護など）ごとに、基本的な制度の仕組みを理解する。</p> <p>次に、それらの社会福祉制度がどのようにして形成されてきたのか、その歴史について、欧米諸国、日本について検証し、特に日本の特徴を分析する。</p> <p>最後に、日本における代表的な社会福祉理論について学ぶとともに、諸外国の社会福祉制度と代表的理論についても知識を得る。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の制度体系（関連領域を含む）について説明できる。</li> <li>2. 社会福祉の各分野ごとに、基本的な制度の仕組みを理解し、説明できる。</li> <li>3. 欧米の社会福祉事業史について理解できる。</li> <li>4. 日本の社会福祉事業史について理解し、特に近年の特徴について分析できる。</li> <li>5. 日本における代表的な社会福祉理論の概要を理解できる。</li> <li>6. 諸外国の社会福祉制度および代表的理論について理解できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	社会福祉コースのDP③「援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる。」に対応する科目である。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	社会福祉制度の体系（社会福祉の関連領域を含む）	社会福祉制度を体系的に理解するためのノート整理		
第2回	高齢者福祉制度の概要(1) — 老人福祉法、高齢者虐待防止法など	老人福祉法、高齢者虐待防止法などについてノート整理		
第3回	高齢者福祉制度の概要(2) — 介護保険法	介護保険法についてノート整理		
第4回	障害者福祉制度の概要(1) — 各障害者福祉法、障害者虐待防止法など	各障害者福祉法、障害者虐待防止法などについてノート整理		
第5回	障害者福祉制度の概要(2) — 障害者総合支援法	障害者総合支援法についてノート整理		
第6回	児童福祉制度の概要 — 児童福祉法、児童虐待防止法、子ども・子育て関連法など	児童福祉法、児童虐待防止法、子ども・子育て関連法などについてノート整理		
第7回	生活保護制度の概要 — 生活保護法など	生活保護法などについてノート整理		
第8回	欧米における社会福祉の歴史(1) — イギリス	イギリスにおける社会福祉の歴史についてノート整理		
第9回	欧米における社会福祉の歴史(2) — ドイツ、アメリカ	ドイツ、アメリカにおける社会福祉の歴史についてノート整理		
第10回	日本における社会福祉の歴史(1) — 戦前期	戦前の慈善事業、感化救済事業、社会事業についてノート整理		
第11回	日本における社会福祉の歴史(2) — 敗戦～高度経済成長期	敗戦～高度経済成長期についてノート整理		
第12回	日本における社会福祉の歴史(3) — オイルショック～介護保険法制定期	オイルショック～介護保険法制定期についてノート整理		
第13回	日本における社会福祉の歴史(4) — 介護保険法施行以降	介護保険法施行以降についてノート整理		
第14回	日本における代表的な社会福祉理論 — 孝橋理論、岡村理論、三浦ニーズ論など	日本における代表的な社会福祉理論についてノート整理		
第15回	諸外国における社会福祉と代表的理論 — スウェーデン、イギリス、アメリカなど	諸外国における社会福祉と代表的理論についてノート整理		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	100% 筆記試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	○講義時に資料を配布するので、やむを得ず欠席したときなどは、後日研究室に資料を受け取りに来ること。			
教科書	講義時に資料を配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスアワー	火-5	メールアドレス		

授業科目	社会福祉相談援助演習		開講時期	後期
担当教員	益満 孝一		単位	2
授業の目的と概要	社会福祉相談に関する問題に対して、受講生のニーズに合わせて①調査研究能力、②臨床能力を高めることを目的とする。受講生のニーズと能力に応じて、次の中から段階的に獲得できる能力を設定して演習を行う。調査研究能力は、(1)アンケート調査などによる調査研究と分析について、統計分析から因子分析、多変量分析などの獲得を目指す。(2)グラウンデッド・セオリーなどによる質的研究がある。臨床能力は事例研究法、家族療法、解決志向ソーシャルワークなどのアプローチによる。なお、アンケート調査など量的調査分析には、SPSSおよび表計算ソフトEXCELなどについて習熟が必須である。また、事例研究法など質的研究は臨床経験など基礎的臨床経験が必須である。受講生から社会福祉相談に関する問題の提示が難しい場合、本年度は、社会福祉相談に関する問題として、日韓の高齢者に関する比較研究、乳幼児の保健福祉に関するプログラムなどを準備している。			
到達目標	受講生は演習テーマを一つ絞り①アンケート調査など調査研究ができる、または②事例研究方法などで臨床能力が高まることを目標とする。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	社会福祉相談演習の目的と方法についてのオリエンテーション	演習で取り上げるテーマ、方法について自己学習		
第2回	社会福祉相談に関する問題についての調査研究について	演習で取り上げるテーマ、方法について自己学習		
第3回	社会福祉相談に関する問題についての臨床研究について	演習で取り上げるテーマ、方法について自己学習		
第4回	社会福祉相談に関する問題についての研究協議	紹介された論文、文献についての事前学習		
第5回	社会福祉相談に関する問題についての研究協議	紹介された論文、文献についての事前学習		
第6回	社会福祉相談に関する問題についての研究協議	紹介された論文、文献についての事前学習		
第7回	社会福祉相談に関する問題についての研究協議	紹介された論文、文献についての事前学習		
第8回	社会福祉相談に関する問題についての分析方法についての協議	紹介された論文、文献についての事前学習		
第9回	社会福祉相談に関する問題についての分析方法についての協議	紹介された論文、文献についての事前学習		
第10回	社会福祉相談に関する問題についての分析方法についての協議	紹介された論文、文献についての事前学習		
第11回	社会福祉相談に関する問題についての結果についての協議	紹介された論文、文献についての事前学習		
第12回	社会福祉相談に関する問題についての結果についての協議	紹介された論文、文献についての事前学習		
第13回	社会福祉相談に関する問題についての考察についての協議	紹介された論文、文献についての事前学習		
第14回	社会福祉相談に関する問題についての考察についての協議	紹介された論文、文献についての事前学習		
第15回	演習の成果の口頭発表	口頭発表のための準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%			
小テスト等	0%			
成果発表	50%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	演習で取り上げるテーマ、方法について自己学習が求められます。受講生のニーズに合わせてますが、積極的な取り組みが必要です。			
教科書	使用しない。			
指定図書	なし			
参考図書	講義時間内に紹介する。			
オフィスアワー	水曜日 2時限目	メールアドレス		

授業科目	社会福祉調査法		開講時期	後期
担当教員	徳永 勇		単 位	2
授業の目的と概要	<p>現場での社会福祉援助から地域福祉計画、福祉施策の策定に至るまで、人々が、少なくとも最低限度の人間らしい生活を、望むべくはより良い生活の質を保障されるようにするための実践と計画づくりには、間接援助としての社会福祉調査による問題当事者のニーズ把握が不可欠である。数量データと質的な記録とを十全に収集、分析する作業が、人々の福祉ニーズを的確に把握するためにはまず何よりも必要となる。本講義では、主として、社会福祉調査の方法について、問題当事者のニーズをくみ取るための技術的な知見を解説する。</p> <p>テキストは、講義内容を理解するための予習・復習に活用していただくものとし、授業で使用する「講義ノート」はテキストより詳細な内容となる。また、近年の調査研究の事例を織り交ぜながら解説を進め、受講生諸氏の調査リテラシー向上を期したい。なお、社会福祉調査は、直接援助ではないが、その妥当性を担保する間接援助である。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉調査の意義、とくに問題当事者の福祉ニーズを把握することの必要性について理解・説明できるようになる。</li> <li>2. 実証研究の手続きについて説明できるようになる。</li> <li>3. 調査研究上遵守すべき倫理について説明できるようになる。</li> <li>4. 標本抽出の方法について説明できるようになる。</li> <li>5. 量的調査の基本的な手法について理解・活用できるようになる。</li> <li>6. 質的調査の基本的な手法について理解・活用できるようになる。</li> <li>7. 社会福祉調査の技法を活用し、社会福祉の現場におけるサービスや社会福祉制度・政策の改善に生かせるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本講義は、次の人間関係専攻DP④に準拠する。  「人間が直面する心理・社会的諸問題や諸課題に対処し、改善・解決を図るために有効な援助法や社会資源・制度について説明することができる。」</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1 回	社会福祉間接援助としての社会福祉調査	教科書を通読		
第 2 回	社会福祉調査の主要概念と研究方法	予習：教科書pp. 2-63		
第 3 回	調査研究のための問いの設定と概念の操作化	教科書予習： pp. 2-63		
第 4 回	社会福祉調査と倫理	教科書予習： pp. 158-220		
第 5 回	標本抽出の方法	教科書予習： pp. 2-63		
第 6 回	質問紙の作成方法	教科書予習： pp. pp. 66-75		
第 7 回	測定と尺度	教科書予習： pp. pp. 76-84		
第 8 回	質問紙調査の実際	教科書予習： pp. 85-104		
第 9 回	記述統計	教科書予習： 105-110		
第10回	推測統計	教科書予習： pp. 111-121		
第11回	統計分析の実際	教科書予習： pp. 111-121		
第12回	実験計画法	教科書予習： pp. 122-127		
第13回	質的調査の方法	教科書予習： pp. 130-149		
第14回	質的データの分析	教科書予習： pp. 150-156		
第15回	授業のまとめ	教科書を再読		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100%：論述式の筆記試験で評価する。持ち込みはテキスト、配布プリント、自筆ノート、参考文献もしくはその写しが可。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	下記教科書と、授業中に紹介する調査研究論文に準拠しつつ講義を進めるので、あらかじめ該当部分を読んだうえで授業にのぞむこと。			
教科書	斎藤嘉孝『ワードマップ 社会福祉調査——企画・実施の基礎知識とコツ』新曜社（2010）			
指定図書	平山尚ほか『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房(2003)、轟亮・杉野勇編著『入門・社会調査法〔第2版〕』法律文化社(2013)、社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎』中央法規出版(2013)			
参考図書	講義中に、適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜日3限・火曜日3限	メールアドレス		

授業科目	社会福祉論		開講時期	後期
担当教員	金 圓景		単 位	2
授業の目的と概要	社会福祉は、生まれてから死ぬまで生涯にわたって、我々の生活に密接に関わっている。本講義では、現代社会における様々な社会問題（少子高齢化、貧困の格差、孤独死など）について社会福祉に関する制度や政策の現状と課題について検討することを目的とする。また、社会福祉学を学ぶことによって、子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況に関する理解と知識を深めることを目標とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉の機能について現代社会における様々な社会問題と関連させて理解できる。</li> <li>2. 子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況について理解できる。</li> <li>3. 様々な社会問題に対応する社会福祉関連制度や政策の現状について理解し、その課題と解決策を考えることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、発達臨床心理コース・社会福祉コースのDP2「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」、初等教育コースのDP2「初等教育に関する専門的知識や子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況についての知識を身に付けることができる。」、幼児保育コースのDP2「子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況に関する知識を身に付けることができる。」を達成するための科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	社会福祉の概念的理解	社会福祉とはなにか、概念整理		
第2回	現代の社会問題と社会福祉 ー少子高齢化社会及び人口減少社会における福祉課題ー	少子高齢社会と人口減少社会の現状と課題について調べる		
第3回	低所得者と社会福祉（1） ー生活困窮者自立支援制度・生活保護制度ー	低所得者をめぐる現状を調べ、関連制度を理解する		
第4回	低所得者と社会福祉（2） ー若者の貧困問題ー	若者の貧困の現状と課題を調べる		
第5回	高齢者と社会福祉（1） ー高齢者をめぐる現状と介護保険制度ー	介護保険制度の概要整理		
第6回	高齢者と社会福祉（2） ー認知症サポーター養成研修ー	認知症について調べ、認知症者をめぐる現状と支援内容を整理する		
第7回	高齢者と社会福祉（3） ー認知症高齢者と家族介護者の現状と課題を検討ー	家族介護者の現状と課題整理		
第8回	児童福祉と子育て支援 ー児童虐待の現状と課題を検討ー	児童虐待問題のまとめ		
第9回	障がい者と社会福祉（1） ー障がい者をめぐる現状と関連福祉制度ー	障がい者の現状のまとめ		
第10回	障がい者と社会福祉（2） ー地域で暮らす障がい者を中心にー	地域で暮らす障害者支援内容を調べる		
第11回	地域福祉（1） ー中山間地域の特徴を踏まえた上で、福祉の現状と課題を検討ー	中山間地域福祉課題のまとめ		
第12回	地域福祉（2） ー都心部における地域包括ケアシステムー	各地域の地域包括ケアシステムについて調べる		
第13回	マイノリティをめぐる現状と課題	マイノリティの概念と現状整理		
第14回	諸外国の社会福祉（1） ー東アジアー	東アジアの社会福祉の現状を調べる		
第15回	諸外国の社会福祉（2） ー北欧及びアメリカー	北欧やアメリカの社会福祉の現状を調べる		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% レポート（1回）			
小テスト等	70% 感想文を提出（7回）			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回プリントを配布するので、やむを得ず欠席したときなどは、後日研究室にプリントを受け取りに来ること。 また、講義中の私語は厳禁とする。			
教科書	プリントを配布			
指定図書	なし			
参考図書	・『社会福祉入門』有斐閣、 ・『社会福祉キーワード』有斐閣			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	社会文化演習		開講時期	後期
担当教員	石 其琳		単 位	2
授業の目的と概要	アジア特に中国関連地域について、その歴史、文化、社会に関する知識を深めると共に、異なる分野の内容を研究テーマに、論文の書き方を実践的に学習することを目的とする。 授業に映画、文学作品、民間芸術、新聞、インターネット資料などさまざまな材料をもとに行なった研究テーマの論文を実践的に分析し、毎回各研究論文の内容などに関する課題の発表を行う。実践的学習を通じて、自分自身より、アジア現代社会における多様な問題点を洞察し、検討する力を身につける。			
到達目標	1. 自分で意見を持ってディスカッションに参加することができる。 2. 自分でアジア関係の研究テーマを決め、プレゼンテーション及び研究作業を実習することができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	⑤アジアの言語・社会・文化についての学修をもとに自己の関心を深め、多角的な視点から自らの考えを示すことができる。 東アジア入門・中国現代文学・中国の少数民族文化・現代中国と教育・中国語関連科目などすべて関連する。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1 回	オリエンテーション (授業の進め方について説明する)	次週発表資料配布+課題		
第 2 回	研究論文について分析討論・発表 (1)	次週発表資料配布+課題		
第 3 回	研究論文について分析討論・発表 (2)	次週発表資料配布+課題		
第 4 回	研究論文について分析討論・発表 (3)	次週発表資料配布+課題		
第 5 回	研究論文について分析討論・発表 (4)	次週発表資料配布+課題		
第 6 回	研究論文について分析討論・発表 (5)	次週発表資料配布+課題		
第 7 回	研究論文について分析討論・発表 (6)	次週発表資料配布+課題		
第 8 回	研究論文について分析討論・発表 (7)	次週発表課題を決める		
第 9 回	共通の研究分野において、各自のテーマで構想発表を行なう (1)	各自の発表課題資料収集		
第10回	前回の構想発表について討論する	次回発表課題を決める		
第11回	共通の研究分野において、各自のテーマで構想発表を行なう (2)	各自の発表課題資料収集		
第12回	前回の構想発表について討論する	次回発表課題を決める		
第13回	共通の研究分野において、各自のテーマで構想発表を行なう (3)	各自の発表課題資料収集		
第14回	前回の構想発表について討論する	各自発表内容をまとめる		
第15回	授業に関する総まとめ及び各自の総合発表	レポートを書く		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% (毎授業提出する課題 及び発表)			
小テスト等	なし			
成果発表	20% (集大成としての総合発表とレポート)			
受講態度他	0% (出席状況を授業態度として参考にする)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①授業に欠席しないこと。 ②毎回決められた課題は必ず提出し、更に積極的に発表、討論すること。			
教科書	プリント資料配布及び毎授業で提示する。			
指定図書	①『中国を読む「新語」：21世紀の大国』 ②『土地と靈魂』 ③『台北道道地地道北京：兩岸生活小詞典』			
参考図書	授業中に提示する			
オフィスアワー	火、水、木、金	メールアドレス		

授業科目	社会保障論Ⅰ		開講時期	前期
担当教員	池田 和彦		単位	2
授業の目的と概要	本講義は、労働者階級の貧困化（現象的には少子・高齢化、労働環境の変化、貧困・格差の拡がり、精神的・身体的健康状態の悪化などとなって現われる労働・生活問題の拡大・深化）が進行する日本社会において、社会保障制度が果たすべき役割と課題について検討することを目的とする。 まず、社会保障の対象課題を検討したうえで、社会保障の概念と歴史、範囲について理解し、社会保障の行財政と財源確保のあり方など今後の課題についても考察を深める。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障の対象課題である生活問題の発生原因と実情について理解できる。</li> <li>2. 社会保障の概念と範囲について説明できる。</li> <li>3. 社会保障の現状を認識し、その課題について自分なりの意見をもつことができる。</li> <li>4. 社会保障の行財政について理解できる。</li> <li>5. 社会保障の財源をめぐる問題を理解し、その解決策について自分なりの意見をもつことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	社会福祉コースのDP④「人間が直面する心理・社会的諸問題や諸課題に対処し、改善・解決を図るために有効な援助法や社会資源・制度について説明することができる。」に対応する科目である。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	社会保障の対象課題は生活問題	生活問題を認識する枠組みについてノート整理		
第2回	生活問題を規定する社会的条件(1) — 生計中心者の仕事	生活問題と生計中心者の仕事についてノート整理		
第3回	生活問題を規定する社会的条件(2) — ヨコのつながりと社会サービス	生活問題とヨコのつながり、社会サービスについてノート整理		
第4回	生活問題の内容(1) — 暮らしの単位、暮らしの場	生活問題の内容としての、暮らしの単位、暮らしの場についてノート整理		
第5回	生活問題の内容(2) — 暮らしの中身、健康状態	生活問題の内容としての、暮らしの中身、健康状態についてノート整理		
第6回	社会保障の歴史と概念（社会保障の権利論を含む）	社会保障の概念と歴史についてノート整理		
第7回	社会保障の範囲 — 社会保障の制度体系	社会保の範囲についてノート整理		
第8回	社会保障制度の概要(1) — 社会保険と社会手当制度	社会保険と社会手当制度についてノート整理		
第9回	社会保障制度の概要(2) — 公的扶助と社会福祉施設・サービス制度	公的扶助と社会福祉施設・サービス制度についてノート整理		
第10回	社会保障行財政(1) — 社会保障行政	社会保障行政についてノート整理		
第11回	社会保障行財政(2) — 社会保障財政	社会保障財政についてノート整理		
第12回	社会保障の課題(1) — 社会保障制度改革の背景	社会保障制度改革の背景についてノート整理		
第13回	社会保障の課題(2) — 社会保障制度改革の経緯と内容	社会保障制度改革の経緯と内容についてノート整理		
第14回	社会保障の課題(3) — 社会保障制度改革推進法とプログラム法	社会保障制度改革推進法とプログラム法についてノート整理		
第15回	課題解決に向けて — 社会保障の制度設計と財源確保	社会保障の制度設計と財源確保についてノート整理		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	100% 筆記試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	○講義時に資料を配布するので、やむを得ず欠席したときなどは、後日研究室に資料を受け取りに来ること。			
教科書	講義時に資料を配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスワー	金-5	メールアドレス		

授業科目	社会保障論Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	池田 和彦		単位	2
授業の目的と概要	本講義は、社会保障論Ⅰで学んだ社会保障についての基本的な知識を前提とし、社会保障制度（とくにその中心である社会保険制度）それぞれの仕組みと課題について理解することを目的とする。 具体的には、医療保険、年金保険、雇用保険、労働者災害補償保険、介護保険という5つの社会保険制度を中心に、関連する社会手当制度、公的扶助制度、社会福祉施設・サービス制度について考察する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療保険の基本的な仕組みと課題が理解できる。</li> <li>2. 年金保険の基本的な仕組みと課題が理解できる。</li> <li>3. 雇用保険、労働者災害補償保険の基本的な仕組みと課題が理解できる。</li> <li>4. 介護保険の基本的な仕組みと課題が理解できる。</li> <li>5. 社会保険制度全体に共通する問題とその解決策について自分なりの意見をもつことができる。</li> <li>6. 社会保障制度体系における社会福祉の位置と役割が理解できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	社会福祉コースのDP④「人間が直面する心理・社会的諸問題や諸課題に対処し、改善・解決を図るために有効な援助法や社会資源・制度について説明することができる。」に対応する科目である。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 社会保険の仕組み		社会保険の全体像についてノート整理		
第2回 医療保険制度の基本的な仕組み(1) — 健康保険の保険者、被保険者（被扶養者）、保険料		健康保険の仕組みについてノート整理		
第3回 医療保険制度の基本的な仕組み(2) — 健康保険の保険給付		健康保険の保険給付についてノート整理		
第4回 医療保険制度の基本的な仕組み(3) — 船員保険と共済組合		船員保険と共済組合についてノート整理		
第5回 医療保険制度の基本的な仕組み(4) — 国民健康保険		国民健康保険についてノート整理		
第6回 医療保険制度の基本的な仕組み(5) — 高齢者医療		高齢者医療についてノート整理		
第7回 医療保険制度の課題		医療保険制度についてのまとめと課題についてノート整理		
第8回 年金保険制度の基本的な仕組み(1) — 国民年金の保険者、被保険者、保険料		国民年金の仕組みについてノート整理		
第9回 年金保険制度の基本的な仕組み(2) — 国民年金の保険給付		国民年金の保険給付についてノート整理		
第10回 年金保険制度の基本的な仕組み(3) — 厚生年金の保険者、被保険者、保険料		厚生年金の仕組みについてノート整理		
第11回 年金保険制度の基本的な仕組み(4) — 厚生年金の保険給付		厚生年金の保険給付についてノート整理		
第12回 年金保険制度の課題		年金保険制度についてのまとめと課題についてノート整理		
第13回 労働保険制度 — 雇用保険と労働者災害補償保険		雇用保険と労働者災害補償保険についてノート整理		
第14回 介護保険制度		介護保険制度についてノート整理		
第15回 社会手当、公的扶助、社会福祉施設・サービス制度		社会手当、公的扶助、社会福祉施設・サービス制度についてノート整理		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100% 筆記試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	○講義時に資料を配布するので、やむを得ず欠席したときなどは、後日研究室に資料を受け取りに来ること。			
教科書	講義時に資料を配布する。			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。			
オフィスアワー	金-5	メールアドレス		



授業科目	宗教学		開講時期	前期
担当教員	宇野 智行		単位	2
授業の目的と概要	宗教の発生要因とその変遷についての知識を得る。さらに、各宗教の救済概念について学び、宗教そのものが持つ働き（機能）について学ぶ。宗教に対する総合的理解により、世界における複眼的な倫理観・人間観を身につける。様々な宗教がどのように発生し、どのように変遷したか、それぞれの宗教の歴史を概観する。特に、ユダヤ教、キリスト教、バラモン教、ヒンドゥー教、仏教を取り上げ、その思想的変遷を講義する。また、それぞれの「救済」という概念を比較することにより、宗教「働き（機能）」、宗教の「目的」を明らかにする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 道徳（倫理）と宗教の違いを説明することができる。</li> <li>2. 政治経済の働きと宗教による救済の違いを説明することができる。</li> <li>3. キリスト教および大乘仏教において、どのように悪人が救済されるかを説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける。」の達成に関わる科目です。「哲学」「倫理学」などと関連する科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	宗教の発生：自然宗教と創唱宗教	復習・課題レポート「ユダヤ教とキリスト教」		
第2回	ユダヤ教（1）：ユダヤ民族の歴史	復習・課題レポート「ユダヤ教とキリスト教」		
第3回	ユダヤ教（2）：裁きと律法	復習・課題レポート「ユダヤ教とキリスト教」		
第4回	キリスト教（1）：エッセネ派とイエス	復習・課題レポート「ユダヤ教とキリスト教」		
第5回	キリスト教（2）：イエスの贖罪と悪人救済	復習・課題レポート「ユダヤ教とキリスト教」		
第6回	バラモン教：祭式におけるギヴァンドテイク	復習・課題レポート「ユダヤ教とキリスト教」		
第7回	ヒンドゥー教：神への信愛による悪人救済	復習・課題レポート「ユダヤ教とキリスト教」		
第8回	初期仏教：ブッダと救済	復習・課題レポート「ユダヤ教とキリスト教」		
第9回	大乘仏教（1）：アジャセ王の救済	復習・課題レポート「ユダヤ教とキリスト教」		
第10回	大乘仏教（2）：菩薩の回向による悪人救済	復習・課題レポート「ユダヤ教とキリスト教」		
第11回	日本仏教：悪人正機説	ノートまとめ・全講義の復習		
第12回	悪とは何か：法律上の悪と宗教上の悪	ノートまとめ・全講義の復習		
第13回	宗教と道徳：カント、ニーチェによる宗教批判とその答え	ノートまとめ・全講義の復習		
第14回	宗教と政治経済：自由競争と救済	ノートまとめ・全講義の復習・テスト準備		
第15回	宗教の働き（まとめ）：救済を必要とするのは誰か	ノートまとめ・全講義の復習・テスト準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	60% 学期末テスト			
レポート	25% レポート			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	15% 毎回の受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語など他の履修者に迷惑のかかる行為、居眠りなどは減点対象とする。レポート未提出の場合は、単位を認定しない。			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	授業時に指示します。			
オフィスアワー	火曜日 15:00-16:20	メールアドレス		

授業科目	宗教学	開講時期	前期
担当教員	小林 久泰	単 位	2
授業の目的と概要	<p>「宗教」という概念の定義とその変遷についての知識を得る。さらに、各宗教における「聖なるもの」についての考え方を学び、各宗教の基本的性格を理解する。宗教に対する総合的理解により、日常感覚とは異なる視点から物事を考える姿勢を身につける。</p> <p>本講義では、宗教を定義するキーワードのひとつ、「聖と俗」という概念に焦点を当て、世界の様々な宗教を概観していく。そのうえで、「聖と俗」を分離することで人間は何を目指してきたのか、人間の宗教的営みにはどのような意味があるのかということについて考察を深める。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「宗教」の定義の変遷を自分の言葉で説明することができる。</li> <li>2. 各宗教における「聖なるもの」についての考え方の特徴を説明することができる。</li> <li>3. 「聖なるもの」という普段とは異なる視点から、自分自身の日常を捉え直すことができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目の DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成にかかわる科目です。「哲学」「倫理学」などと関連する科目です。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	現代社会と聖なるもの：日常的「宗教」概念	復習・課題①レポート「宗教の定義」	
第2回	宗教とは：「聖と俗」による宗教定義	復習・課題①レポート「宗教の定義」	
第3回	ユダヤ教と聖なるもの	復習・課題①レポート「宗教の定義」	
第4回	キリスト教と聖なるもの	復習・課題①レポート「宗教の定義」	
第5回	イスラームと聖なるもの	復習・課題①レポート「宗教の定義」	
第6回	ヒンドゥー教と聖なるもの	復習・課題②レポート「様々な宗教における聖なるもの」	
第7回	ジャイナ教と聖なるもの	復習・課題②レポート「様々な宗教における聖なるもの」	
第8回	仏教と聖なるもの	復習・課題②レポート「様々な宗教における聖なるもの」	
第9回	大乘仏教と聖なるもの	復習・課題②レポート「様々な宗教における聖なるもの」	
第10回	「象徴」と宗教	復習・課題②レポート「様々な宗教における聖なるもの」	
第11回	身体と聖なるもの：儀礼	全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート	
第12回	言葉と聖なるもの：聖典	全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート	
第13回	世俗化論と再聖化論	全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート	
第14回	日本人と聖なるもの	全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート	
第15回	まとめ	全講義の復習・ノートまとめ・学期末レポート	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	70% 課題レポート2回（20%×2回）・学期末レポート（30%）		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	30% 質問等、講義への積極的参加を考慮します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語など、他の受講者に迷惑のかかる行為は慎んでください。		
教科書	プリント配布		
指定図書	なし		
参考図書	適宜紹介します。		
オフィスアワー	水曜 3 講時	メールアドレス	

授業科目	宗教学概論Ⅰ【本願寺派教師】		開講時期	前期
担当教員	小林 久泰・川尻 洋平		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、仏教東漸の過程を学び、「仏教の土着」をキーワードとして、宗教のはたらきを理解することを目的とする。仏教はインドから日本に至るまで様々な地域に伝播するが、その各所において大きな変容を遂げつつ土着する。その地域の特性と文化に寄り添いつつ仏教が変容する要因、仏教が確保する普遍性を学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宗教が果たす機能について説明することができる。</li> <li>2. 宗教が土着する理由について説明することができる。</li> <li>3. 仏教の変容した点を整理した上で、仏教教義の普遍性を説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回：イントロダクション：宗教のはたらき		復習・ディスカッション準備		
第2回：世界宗教と民族宗教		復習・ディスカッション準備		
第3回：釈尊の説法と仏典結集		復習・ディスカッション準備		
第4回：大乘仏教の興起		復習・ディスカッション準備		
第5回：密教		復習・ディスカッション準備		
第6回：インド仏教の滅亡（1）イスラムの侵入		復習・ディスカッション準備		
第7回：インド仏教の滅亡（2）カースト		復習・ディスカッション準備		
第8回：ネパール仏教		復習・ディスカッション準備		
第9回：チベット仏教		復習・ディスカッション準備		
第10回：中国における仏教伝来		復習・ディスカッション準備		
第11回：儒教との融合		復習・ディスカッション準備		
第12回：日本における仏教受容		復習・ディスカッション準備・期末レポート		
第13回：仏教の日本化（1）本地垂迹		復習・ディスカッション準備・期末レポート		
第14回：仏教の日本化（2）十王思想と年忌		復習・ディスカッション準備・期末レポート		
第15回：仏教の変容と普遍性		復習・ディスカッション準備・期末レポート		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	50%（質疑とディスカッション）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎授業の終了前10分間を「ディスカッションタイム」とする。「ディスカッションタイム」での積極的な質疑、意見交換を期待する。			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜 3 講時	メールアドレス		

授業科目	宗教学概論Ⅱ【本願寺派教師】		開講時期	後期
担当教員	川尻 洋平		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この授業では、インドに普及した仏教を除く宗教の基本的教義を学び、特に「救済論」に着目して、各宗教の特徴を理解する。そして、様々な宗教についての理解を深めることによって、多面的な思考方法を身につけることを目的とする。</p> <p>インド亜大陸では、古代から現代に至るまで、仏教以外にも様々な宗教が発生し、また多くの宗教が受容されてきた。それらの宗教の「救済論」を取り上げ、それぞれの宗教の持つ普遍性と特殊性を明らかにする。そしてインドの宗教事情を概観することによって、仏教を生み出したインドの精神文化の土壌について理解を深めることができる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. インドの宗教事情について、様々な宗教がどの地域で盛んに信仰されているのかについて説明することができる。</li> <li>2. 代表的な宗教における救済論の特徴を説明することができる。</li> <li>3. 様々な宗教における救済論を通して、宗教の持つ普遍的な原理を説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション：宗教とは何か	復習・課題レポート「インドの宗教事情」		
第2回	インドの宗教地図	復習・課題レポート「インドの宗教事情」		
第3回	インドのユダヤ教	復習・課題レポート「インドの宗教事情」		
第4回	インドのキリスト教	復習・課題レポート「インドの宗教事情」		
第5回	イスラーム：スーフィズム	復習・課題レポート「インドの宗教事情」		
第6回	シク教	復習・課題レポート「インドの宗教事情」		
第7回	ゾロアスター教	復習・課題レポート「インドの宗教事情」		
第8回	バラモン教：祭式主義	復習・課題レポート「インドの宗教事情」		
第9回	ジャイナ教：不殺生	復習・課題レポート「インドの宗教事情」		
第10回	ヒンドゥー教(1)：シヴァ教	復習・課題レポート「インドの宗教事情」		
第11回	ヒンドゥー教(2)：ヴィシュヌ教	復習・学期末レポート		
第12回	ヒンドゥー教(3)：バクティ運動	復習・学期末レポート		
第13回	現代インドの様々な宗教者(1)	復習・学期末レポート		
第14回	現代インドの様々な宗教者(2)	ノートまとめ・全講義の復習・学期末レポート		
第15回	まとめ	ノートまとめ・全講義の復習・学期末レポート		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	課題レポート1回(40%)・学期末レポート(40%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 質疑応答など、講義への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語など他者に迷惑のかかる行為は慎んでください。			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	水曜3講時	メールアドレス		

授業科目	宗門法規【本願寺派教師】		開講時期	後期
担当教員	小山田 真哉		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的 本講義は、浄土真宗本願寺派の僧侶、教師資格取得のために開設されています。しかし、僧侶、資格取得のための内容にこだわらず、様々な法（規則）の目的や役割を具体的な条文や寺務を通して学び、現代社会における教団（宗派）・本願寺・寺院の役割が、私たち1人ひとりの課題になることを目的とします。</p> <p>概要 お念仏（普遍的真実）を拠り所とする浄土真宗本願寺派という宗教団体が、近代国家による法の支配のもと、自らも様々な規則を整備したうえで組織を構築し、宗教活動（運動）を展開しています。教団（宗派）の現状をどのように受け止め、同時に様々な問題を内包する社会の現実に向き合っていくかともに学びます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本国憲法における宗教に対する基本姿勢並びに、宗教法人法が理解できる。</li> <li>2. 宗門の基本法規を通して、浄土真宗本願寺派並びに、本願寺の機構・組織・活動（運動）が理解できる</li> <li>3. 寺院の規則、役割が理解できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、「仏教専修課程並びに、浄土真宗本願寺派教師資格取得課程に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宗門の基本法規の目的と役割</li> </ul>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	宗門基本法規について : 本講義のねらい（得度・教師資格）		別途指示	
第2回	法の目的と役割① : 日本国憲法における宗教		別途指示	
第3回	法の目的と役割② : 宗教法人法		別途指示	
第4回	宗門の組織 : 浄土真宗本願寺派の機構・組織		別途指示	
第5回	宗門の活動 : 御同朋の社会をめざす運動（実践運動）		別途指示	
第6回	宗門の基本法規① : 浄土真宗本願寺派宗制		別途指示	
第7回	宗門の基本法規② : 浄土真宗本願寺派宗法 1		別途指示	
第8回	宗門の基本法規③ : 浄土真宗本願寺派宗法 2		別途指示	
第9回	宗教法人「浄土真宗本願寺派」宗規 : 宗教法人法による宗派規程		別途指示	
第10回	本山典令 : 本山本願寺の宗教団体としての自治法		別途指示	
第11回	「本願寺」寺法 : 宗教法人による「本願寺」規則		別途指示	
第12回	寺院規程 : 一般寺院及び宗教法人たる教会宗則		別途指示	
第13回	宗教法人「〇〇寺」寺院準則 : 宗教法人による「寺院」規則		別途指示	
第14回	宗教法の意義と実際の運用① : 宗教法人の備え付け書類・帳簿等		別途指示	
第15回	宗教法の意義と実際の運用② : 宗教法人の財務・税務等		別途指示	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	20％ 受講態度10％ 出席状況10％（出席日数にて算出）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>講義中専門用語を多用するため、不明の点があれば講義中であっても気兼ねなく質問してください。講義毎に参考資料となるプリントを配布いたしますので、必ずファイリングをして講義に持参してください。</p>			
教科書	浄土真宗本願寺派 宗門基本法規集（本願寺出版社発行）			
指定図書	適宜紹介			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	講義終了後	メールアドレス		

授業科目	小学校英語教育研究		開講時期	後期
担当教員	金森 強		単位	2
授業の目的と概要	小学校における外国語活動の在り方、よりよい授業実践のための教材開発、教具の利用、評価の方法と意義、指導における留意点について考察する。また、中学校・高等学校までの英語教育を含めた外国語・英語教育における小学校英語教育の意義を考える。			
到達目標	小学校の「外国語活動」にふさわしい指導法、教材開発、評価に関する専門的な知識と技能を身につけるとともに英語教育改革の方向性を知ること、児童期における望ましい英語教育の指導ができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は学科DP4「英語を活かすための職業上の知識や技能の基礎を身につけている。」に相当します。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	小学校外国語活動の意義と目標	中学校、高等学校の英語科との違いについて考える		
第2回	小学校外国語活動を国際理解教育の一環として捉える	総合的な学習の時間における国際理解教育との連携を考える		
第3回	小学校外国語活動と関連領域の研究成果	脳科学における研究成果について調べる		
第4回	小学校外国語活動にふさわしい指導方法	外国語教授法について調べる		
第5回	小学校外国語活動における音声指導の在り方について	国際補助言語としての英語について考える		
第6回	歌・チャンツを使った指導の在り方	英語の歌を使った活動を考える		
第7回	ピクチャーカード、写真等、教具の活用について	ピクチャーカード等の教具を使った活動を考える		
第8回	ゲームを利用した活動	目的に合ったゲームを考える		
第9回	カリキュラム開発	小学校の年間カリキュラムを分析する		
第10回	一単元の指導計画の在り方	指導案を作る		
第11回	クラスルームイングリッシュ	クラスルームイングリッシュ練習		
第12回	評価規準と評価の方法	ふりかえり表を作成する		
第13回	海外における小学校段階の英語教育	東アジアの小学校段階の英語教育をまとめる		
第14回	I C T利用による指導方法	アナログ教材の長所について考える		
第15回	小中連携の在り方	英語教育の方向性について考える		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	30% 毎回の提出物 (各時間に学んだ内容をまとめたものを提出)			
小テスト等	-			
成果発表	10%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	なし			
教科書	小学校外国語活動の進め方(岡秀夫・金森強編著、成美堂)			
指定図書	小学校外国語活動成功させる55の秘訣			
参考図書	なし			
オフィスワー	講義の前夜	メールアドレス		

授業科目	生涯学習概論【博物館学芸員】		開講時期	前期
担当教員	森 千鶴子		単 位	2
授業の目的と概要	①生涯学習及び社会教育の本質と意義を理解し、生涯学習に関する制度や、行政施策、社会教育専門職員の役割や、学習における支援などについて、の基礎を学びます。②生涯学習、社会教育と学校教育との関連についても学習します。③自らが生涯学習の主役となるべく、学ぶとは何かという問いに対して、主体的に考え、自らの暮らしや社会と結びつけて、判断できる能力を身につけることを目的とします。			
到達目標	①生涯学習社会の基本的構造、学び、教育に関する基礎的な知識、考え方を身につけ、その説明ができる。 ②授業で学んだことを、日常生活の改善や、社会への関わり方の中で活かすことができる力を身につける。 ③人々とともに学び合い、学びを支援し合うことのできるコミュニケーション能力を身につける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーションとグループワーク。生涯学習の意義と特性	ワークシートを記入してくる		
第2回	「学ぶ」ってなんだろう(1)自分の学びを振り返り、大学で何を学ぶかを考える。	ワークシートの記入		
第3回	「学ぶ」ってなんだろう(2)学習権、学ぶ権利について考えてみよう。	事後レポートの記入		
第4回	「学ぶ」ってなんだろう(3)生涯学習の方法と指導者、夜間中学校の教育実践を例に	事後レポートの記入		
第5回	「学ぶ」ってなんだろう(4) 日常生活の中の学び。食生活を例に	ワークシートの記入		
第6回	「学ぶ」ってなんだろう(5) 日常生活の中の学び。メディアと学びの関係をさぐる。	ワークシートの記入		
第7回	生涯学習・社会教育の歴史・理念、生涯学習、社会教育行政の展開	事後レポートの記入		
第8回	生涯学習・社会教育の施設・職員(1) 学習の支援者について。	事後レポートの記入		
第9回	生涯学習・社会教育の施設・職員(2)講座、事業と学びの場づくり	事後レポートの記入		
第10回	現代的課題と生涯学習・社会教育(1)貧困について	事後レポートの記入		
第11回	現代的課題と生涯学習・社会教育(2)若者をめぐる状況	事後レポートの記入		
第12回	現代的課題と生涯学習・社会教育(3)地域をめぐる状況	事後レポートの記入		
第13回	地域における生涯学習・我が地元を見つめ直す地元学の視点(1)	事後レポートの記入		
第14回	地域における生涯学習・我が地元を見つめ直す地元学の視点(2)	事後レポートの記入		
第15回	まとめ、ふりかえり	レポート試験の準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% (期末レポート30% 毎週授業の終わりに振り返りのミニレポートを作成30%)			
小テスト等	なし			
成果発表	10% 演習の成果を個人やグループで発表してもらうことがあります。			
受講態度他	30% ワークシート等の作成、授業への積極的な参加(グループワーク、発言など)を加味します。遅刻、私語など授業を妨げる行為はマイナス評価とします。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業そのものが、生涯学習における「学びあい」であることを認識し、教え、教えられるという関係だけではなく、受講者同士のグループワークや演習も、多く取り入れていきます。また、絶えず授業の内容と、自身の生活を結びつけて考えるよう心がけて下さい。受講者には、毎回提出していただく出席カード(A3版)を準備します。授業に出席し、出席カードに、コメントなどを記入して提出して、出席したとみなします。また、このカードで講師への質問なども行うことができます。			
教科書	なし。随時プリントを配布するので整理し、テキストとして用いて下さい。また、予習プリントを配布することもあります。			
指定図書	なし			
参考図書	末本誠・松田武雄編『新版生涯学習と地域社会教育』春風社(2010年) 佐藤一子編『地域学習の創造：地域再生への学びを拓く』東京大学出版会(2015年)			
オフィスワー	授業開始前もしくは、もしくは授業後。できれば、メール等で事前に連絡をした上で相談下さい。	メールアドレス		

授業科目	障害者福祉論 I	開講時期	前期
担当教員	新家 めぐみ	単位	2
授業の目的と概要	雇用不安や失業者の増大をはじめ深刻な社会状況において、障害とはいかなる問題であるのかを理解し、それに対応する福祉制度（障害者総合支援法）の仕組みを理解するとともに、その意義と課題を発見することを目的とする。 本講では、雇用不安や失業者の増大をはじめ深刻な社会状況において、障害とはいかなる問題であるのかを理解し、それに対応する福祉制度（障害者総合支援法）の仕組みを理解するとともに、その意義と課題を発見することを目的とする。それゆえ、視聴覚機器を用いて具体的な事例を検討しながら、現代社会における障害問題を理解し、それに対応する福祉政策・制度の基本的枠組や考え方について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会状況について理解できる。</li> <li>2. 障害者総合支援法の枠組が理解できる。</li> <li>3. 障害者総合支援法における専門家の役割や多職種連携のあり方について理解を深め、その課題を指摘することができる。</li> <li>4. 障害者総合支援法の課題が指摘できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	これは、人間関係専攻社会福祉コースのDP④「人間が直面する心理・社会的諸問題や諸課題に対処し、改善・解決を図るために有効な援助法や社会資源・制度について説明することができる」の達成にかかわる科目です。 関連する科目：社会福祉原論 I II、ソーシャルワーク総論 I II、ソーシャルワーク演習 I II、ソーシャルワーク実習指導 I など		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	障害者福祉を捉える視点	配布プリント復習→課題①	
第2回	障害を取り巻く社会状況①貧困と障害	配布プリント復習→課題②	
第3回	障害を取り巻く社会状況②累犯と障害	配布プリント復習→課題③	
第4回	障害の概念①法的規定	配布プリント復習	
第5回	障害の概念②ICIDH	配布プリント復習	
第6回	障害の概念③ICF	配布プリント復習	
第7回	障害者総合支援法の枠組み①目的と理念	配布プリント復習	
第8回	障害者総合支援法の枠組み②障害支援区分の認定	配布プリント復習	
第9回	障害者総合支援法の枠組み③支給決定の仕組みとプロセス	配布プリント復習	
第10回	障害者総合支援法の枠組み④サービス体系	配布プリント復習	
第11回	障害者総合支援法の枠組み⑤相談支援事業	配布プリント復習	
第12回	障害者総合支援法の枠組み⑥苦情解決・審査請求	配布プリント復習	
第13回	障害者総合支援法における専門家の役割と実際	配布プリント復習	
第14回	障害者総合支援法における専門家の役割と他職種連携	配布プリント復習	
第15回	障害者総合支援法の意義と課題	配布プリント復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	70%		
レポート	0%		
小テスト等	課題30%		
成果発表	0%		
受講態度他	0%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本講は社会福祉士・精神保健福祉士受験資格にかかわる指定科目です。		
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規出版		
指定図書	なし		
参考図書	『社会福祉小六法』、京極高宣『障害者自立支援法の解説』全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会『障害者総合支援法とは』		
オフィスアワー	水3	メールアドレス	



授業科目	障害者福祉論Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	新家 めぐみ		単位	2
授業の目的と概要	<p>障害者福祉論Ⅰで習得した障害者総合支援法に規定された制度の意義や課題がどのような歴史的展開を経て現代に至ったのか、その過程や考え方を理解することを目的とする。それを踏まえた上で、障害にかかわる様々な施策の体系・連携を理解し、その課題について考察することを目指している。</p> <p>本講では、障害者福祉論Ⅰで習得した障害者自立支援法に規定された制度の意義や課題がどのような歴史的展開を経て現代に至ったのか、その過程や考え方を理解することを目的とする。それを踏まえた上で、障害にかかわる様々な施策の体系・連携を理解し、その課題について考察することを目指している。それゆえ、障害観の変遷に視点をあてて、障害者福祉制度の歴史的展開を概説する。さらに、障害者の福祉や介護にかかる他の障害者施策の概要について学び、その諸課題について考察を深めたい。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者福祉制度の歴史的発展過程について理解できる。</li> <li>2. 障害者の福祉や介護にかかる他の障害者施策について理解できる。</li> <li>3. 障害者福祉の現代的課題を指摘できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>これは、人間関係専攻社会福祉コースのDP④「人間が直面する心理・社会的諸問題や諸課題に対処し、改善・解決を図るために有効な援助法や社会資源・制度について説明することができる」の達成にかかわる科目です。</p> <p>関連する科目：社会福祉原論ⅠⅡ、ソーシャルワーク総論ⅠⅡ、ソーシャルワーク演習ⅠⅡ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰなど</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	歴史を学ぶ意味		配付プリント復習	
第2回	障害者福祉制度の歴史的展開①傷兵保護事業前史		配付プリント復習	
第3回	障害者福祉制度の歴史的展開②戦前傷兵保護事業		配付プリント復習	
第4回	障害者福祉制度の歴史的展開③戦後処理期（ポジティブな側面）		配付プリント復習→課題①	
第5回	障害者福祉制度の歴史的展開④戦後処理期（ネガティブな側面）		配付プリント復習→課題②	
第6回	障害者福祉制度の歴史的展開⑤高度経済成長期		配付プリント復習→課題③	
第7回	障害者福祉制度の歴史的展開⑥「福祉見直し」以降		配付プリント復習	
第8回	障害者福祉制度の歴史的展開⑦国際障害者年の影響		配付プリント復習	
第9回	障害者福祉制度の歴史的展開⑧90年代福祉改革期～障害者自立支援法の成立		配付プリント復習	
第10回	他の障害者施策①身体障害者福祉法		配付プリント復習	
第11回	他の障害者施策②知的障害者福祉法		配付プリント復習	
第12回	他の障害者施策③精神保健福祉法		配付プリント復習	
第13回	他の障害者施策④障害者基本法		配付プリント復習	
第14回	他の障害者施策⑤虐待防止法、差別解消法		配付プリント復習	
第15回	障害をめぐる今日的課題（総括）		配付プリント復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	70%			
小テスト等	課題30%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本講は社会福祉士・精神保健福祉士受験資格取得に関する指定科目です。			
教科書	講義時にレジュメ配布			
指定図書	なし			
参考図書	社会福祉士養成講座編集委員会『障害者に対する支援と障害者自立支援制度』中央法規出版等			
オフィスワー	水3		メールアドレス	

授業科目	障害児発達心理演習		開講時期	後期
担当教員	S. Kumar		単 位	2
授業の目的と概要	障がいを持つ子どもの発達のプロセスや発達の遅れを理解し、現在使われている適切な支援法を学術論文の事例を通して学ぶ。障がいを持つ子どもの自立支援を客観的に考える。 子どもの特別な発達ニーズと国際レベルの学術論文による支援指導の観点から理解する。様々な発達検査や成績検査による発達支援を個人研究的に学ぶ。			
到達目標	自閉症、知的障がい、脳性まひ障がいを持つ子どもの特徴や診断基準の理解。社会的や職業的自立のため臨床心理学による指導援助と日常生活援助を事例研究と個人研究によって理解する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	障がいを持つ子どもの様々な障がいの理解と自立を支援する知識を身に着ける。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1 回 発達心理の理解			精神保健の定義理解課題	
第 2 回 発達障がいの分類と事例			健康な精神状態の理解課題	
第 3 回 知的障害の理解			不安と安心感についての復習	
第 4 回 知能検査・行動観察によるアセスメント			不安の状況などの復習	
第 5 回 学習への気づき質問紙			抑うつ状態の理解課題	
第 6 回 RAVEN' S Achievement Test			脳機能の課題	
第 7 回 Anagram Task			躁うつ状態の理解課題	
第 8 回 自閉症の行動に関する事例論文			適応と不適応の予習	
第 9 回 自閉症の行動コントロール支援			ストレス解消法と考え方についての予習	
第10回 質問紙データの結果まとめ課題			こころの発達の理解課題	
第11回 研究論文の分析			乳幼児期の理解課題	
第12回 研究のため質問紙の選び方			発達障がいの復習	
第13回 質問紙課題による研究事例			対人関係のためこころの援助の予習	
第14回 研究データの収集事例			精神的健康状態の内容理解課題	
第15回 授業全体を通して障がい児の援助			様々なストレスの理解復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	100% 論文レポート試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	減点(私語5%、遅刻3%、授業中携帯電話の使用など2%)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特になし			
教科書	資料配布など			
指定図書	指定しない			
参考図書	Burack, Hodapp, Zigler 『Handbook of Mental Retardation and Development』 Cambridge Uni. Kazuo Shigemasa 『Japanese Psychological Research』 Wiley-Blackwell			
オフィスワー	授業の前	メール	アドレス	

授業科目	【閉講】障害児発達心理特論		開講時期	前期
担当教員	酒井 均		単 位	2
授業の目的と概要	<p>障害児（特に乳幼児）の発達心理的・生理的特徴を知り、それを援助する方法についての理解を深める。</p> <p>まず、発達に障害があるとはどのようなことか学習した後、人間としての基礎が形成されていく乳幼児期と児童期の発達について学んでいく。</p> <p>さらに、発達を援助する方法を学習した後、アセスメントについて実際的な学習を行う。</p> <p>最後に障害を抱えた子どもの家族を支援する方法について学んでいく。</p>			
到達目標	<p>各障害（特に発達障がいを中心に）の心理的、生理的特徴を説明できる。</p> <p>発達を援助する方法を説明できる。</p> <p>家族に対し発達心理的な視点を提供でき、支援ができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション			予習	
第2回 発達障害について			予習	
第3回 生育史について（1）反射			予習	
第4回 生育史について（2）ことば			予習	
第5回 生育史について（3）社会性			予習	
第6回 生育史について（4）その他			予習	
第7回 発達支援について（1）	ABAとBAA		予習	
第8回 発達支援について（2）	感覚統合		予習	
第9回 アセスメントについて			予習	
第10回 田中ビネー			予習	
第11回 WISCとK-ABC			予習	
第12回 ITPAとDTVP			予習	
第13回 見学学習			感想等	
第14回 見学学習			感想等	
第15回 障害受容と家族支援			発表準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 90% 講義は質問応答形式で進めます。受け答えを評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回授業の最後に次回のテーマの課題を出します。かならず予習すること。 「わかりません」は厳禁です。			
教科書	使用しません			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日12：30～13：00 生息地8号館 4F	メールアドレス		

授業科目	障がい児保育		開講時期	前期
担当教員	S. Kumar		単位	2
授業の目的と概要	<p>障害児（特に幼児）の心理的・生理的特徴を知り、それにあつた対応ができるようになる。  乳幼児期の障害は理解しにくい場合が多く、保護者の受け入れも困難な場合が多い。ここでは障害の心理的・生理的な特徴を学習し、それにあつた対応がどのようなものであるかを学習していく。また、乳幼児期は保護者の影響が大きい時期でもある。障害を持った子どもの保護者の心理的サポートも重要である。そのサポートをどのように行なったら良いかについても学習していく。</p>			
到達目標	<p>各障害の心理的・生理的特徴を説明できる。  障害に応じた適切な対応法を提案できる。  保護者に対するカウンセリングを含めた対応の方法を提案できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	保育士資格に関しても科目であり、障がい幼児の発達過程の理解と保育・教育指導法について学びます。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション・障がいとは	レポート作成		
第2回	ノーマライゼーションの考え方	レポート作成		
第3回	自閉症について	レポート作成		
第4回	ADHDについて	レポート作成		
第5回	知的障害について	レポート作成		
第6回	感覚統合について	レポート作成		
第7回	発達障がいの理解	レポート作成		
第8回	発達障がいの理解と事例	レポート作成		
第9回	ことばの障がいについて	レポート作成		
第10回	ダウン症について	レポート作成		
第11回	運動障がいについて	レポート作成		
第12回	聴覚障がいについて	レポート作成		
第13回	視覚障害について	レポート作成		
第14回	家族支援について	レポート作成		
第15回	まとめ	レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	90％筆記試験			
レポート	なし			
小テスト等	-			
成果発表	なし			
受講態度他	10％：私語（5％）、携帯使用（3％）、遅刻（2％）。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業で紹介した内容をノートに記入しておくこと。			
教科書	使用しません、プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	平山 諭・清水 良三・枋尾 勲『障害児保育コンセンサス』福村出版、深津 時吉・岸 勝利『障害児の心理的理解』ブレーン出版、若井淳二・水野薫・酒井幸子『障害児保育テキスト』			
オフィスワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	生涯発達心理学 I	開講時期	前期
担当教員	大轟 香	単位	2
授業の目的と概要	人は受精から死ぬまで生涯発達していくが、乳幼児期から児童期までは特に著しく変化をとげる時期である。本授業では胎児期、乳幼児期、児童期までの発達について心理学的な視点から学ぶことを目的とする。また、子どもを理解するための視点や子どもが健やかに成長していくための援助の在り方についても理解を深める。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胎児期から児童期の各時期の発達の特徴を説明することが出来る。</li> <li>・認知・人間関係・情緒など諸側面の発達について概観を述べる事が出来る。</li> <li>・子どもの発達と周囲の大人からの働きかけについて述べる事が出来る。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、人間科学部人間関係専攻の発達臨床心理コース、社会福祉コースではDP②の「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸課題について説明することが出来る」の達成に関する科目である。また、人間科学部人間形成専攻初等教育コース、幼児保育コースではDP③「子どものよさや課題を理解し、適切に支援するための理論について概要を説明することが出来る」の達成に関する科目である。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 生涯発達心理学とは		教科書はしがき、0章の復習 ミニレポート	
第2回 各時期における発達の特徴		教科書0章の復習	
第3回 発達の理論		教科書1章の復習 復習プリントへの準備	
第4回 胎児期の発達		教科書2章の復習	
第5回 乳幼児期の認知の発達		教科書3章の復習 復習プリントへの準備	
第6回 コミュニケーションと人間関係の発達(1)		教科書第4章の復習	
第7回 コミュニケーションと人間関係の発達(2)		教科書第4章の復習 復習プリントへの準備	
第8回 言語の発達		教科書5章の復習	
第9回 遊びの発達		教科書5章の復習 復習プリントの準備	
第10回 自己の発達		教科書6章の復習	
第11回 情緒の発達(1)		教科書7章の復習	
第12回 情緒の発達(2)		教科書7章の復習 復習プリントの準備	
第13回 仲間関係の発達		教科書7章の復習	
第14回 児童期の思考の発達(1)		教科書8章の復習	
第15回 児童期の思考の発達(2) まとめ		授業全体の復習・期末試験への準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	期末試験 70%		
レポート	授業ごとの復習プリント・ミニレポート 30%		
小テスト等	-		
成果発表	-		
受講態度他	- 受講態度が著しく悪い場合は減点する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は禁止する。 積極的に質問すること。		
教科書	坂上裕子他著 『問いからはじめる発達心理学 生涯にわたる育ちの科学』 有斐閣		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に紹介する		
オフィスアワー	火曜日 昼休み・3講目	メールアドレス	

授業科目	生涯発達心理学Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	板井 修一		単 位	2
授業の目的と概要	<p>思春期と青年期は、人の一生のなかでも、身体的・精神的に大きな成長、変化を体験する時期でもある。青年期は疾風怒濤の時代と表現されることもあるように、精神的に不安定になる危険性を孕んでいるが、アイデンティティの獲得が発達課題ともなる重要な時期でもある。その後の成人期は、仕事や子育てに没頭する時期でもあるが、中年期には心の揺らぎが生ずる危機を孕んだ時期でもある。老年期は人生の完結期とも言われるが、さまざまな心の拠り所としていたものを失う、「喪失を体験する危機の時」でもあります。授業は、各発達段階の特徴について、理解し説明できるようになることを目的とします。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各発達段階の特性を理解し、説明することができる。</li> <li>2. 各発達段階における発達課題について、的確に説明することができる。</li> <li>3. 各発達段階における適応上のつまずきと病気について、説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>この授業は、人間関係専攻の2コースについてはDP②「人間が人生を送るなかで出会う心理的・社会的諸問題や諸課題について説明することができる」ようになることを目標とした科目です。人間形成専攻の2コースについてはDP③「子どものよさや課題を理解し、適切に支援するための理論について概要を説明することができる」ようになることを目的とした科目です。この授業と関連して「生涯発達心理学Ⅰ」を受講する子ことによって、人間の一生を見通した発達が理解ができるようになる。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	思春期の特性、第二次性徴と身体的発達	自分の思春期体験について振り返りまとめる		
第2回	思春期の心理と危機	自分の思春期を振り返り、親や大人との関係について分析・整理		
第3回	青年期の特色	「アイデンティティ」とは何かについて調べる		
第4回	青年期の心理特性（1）青年中期	アイデンティティ獲得をテーマとした映画を視聴		
第5回	青年期の心理特性（2）青年後期	視聴した映画について内容を分析・整理		
第6回	青年期の発達課題	自分のアイデンティティ確立のプロセスと現状について点検しまとめる		
第7回	成人期の特色	成人期に関係した配布資料を読む		
第8回	成人期の心理と中年の危機	中年世代の心理的危機について、さまざまな情報源から実例を探す		
第9回	成人期の発達課題	親の生き方から、成人期の発達課題を点検・整理する		
第10回	老年期の特色	老年期に関連する配布資料を読む		
第11回	老化に伴う身体的変化	廊下に伴う身体的変化とエイジズムについて調べる		
第12回	老年期の心理	高齢者の自殺について調べる		
第13回	老年期の発達課題	高齢者の生き甲斐について調べる		
第14回	ターミナル期の心理的課題	ターミナルケアについて調べる		
第15回	総括	総括で話した、授業内容のポイントについて復習する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験			
レポート	0%			
小テスト等	40% [ (期日内提出5点+内容5点)×4回=40点 ]			
成果発表	0%			
受講態度他	授業の進行を妨げるような私語については、厳しく注意します。1回の注意につき、5点の減点をする。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義をよく聴き、ノートにきちんとまとめること。4つの発達段階ごとに、まとめの小テストを実施する。授業外学習として出された課題は、各自ファイルを作成し整理をする。提出を求め、点検をすることがある。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて随時紹介をする。			
オフィスアワー	水曜日の3時間目	メールアドレス		

授業科目	消費社会論	開講時期	後期
担当教員	花野 裕康	単位	2
授業の目的と概要	何かを消費しない社会などないのにあえて「消費社会」と呼ぶからには、現代社会における消費に関して何か特別な性質や要因があるに違いない。この授業では、現代を特に「消費社会」と呼ぶ「性質」や「要因」を具体的に探っていく。そこでは、一見「消費」と無関係な「記号」や「誇示」などが重要な役割を果たすことになるだろう。自分が今何をどのように「消費したい」のか、常に胸に手を当てて考えながら受講し、そういう身近なところから現代の「消費社会」性を知ることがこの授業の目的となる。たとえば、授業のテキスト代が3000円だと「高すぎる!」となるのに、ダウンジャケットが同じ価格だと「安い!」となり、また毎月のスマホ代が10000円を超えても「仕方ないかな」となるのはなぜか。なお授業では講義者(花野)が受講者と対話をしながら考察を進めて行くので、主体的積極的に受講してほしい。		
到達目標	①現代社会が消費社会と呼ばれるゆえんを簡潔に口頭で説明できる ②消費社会の性質について、「記号」「広告」「物語」等のキーワードを用いながら説明できる ③消費社会のこれからについて、社会学的な視点から持論を展開できる		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は現代社会学部ビジネス社会コースのコースDP4である「現状分析、要因分析の方法に沿って問題を解明していく方法と実践力を身に付けている」の達成に関わる科目です。到達目標の実現によって、「消費」という実践的な切り口から現代社会の現状と要因とを分析する事が可能になり、その結果本DP4の達成が実現します。同DP内の「経営情報論」や「マーケティング・リサーチ」はもとより、現代社会学にて開講の社会学系科目(現代社会学概論I, II、社会学入門、社会学史、理論社会学、産業社会学、社会意識論)とも関わりが深い科目となります。また、コース違いにはなりますが、メディア社会コース開講科目である「広告論」「メディア産業論」や「文化産業論」「表象文化論」「サブ・カルチャー論」などとも関連のある科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 「あなたは今何を消費しているか?」		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第2回 消費社会の以前と以後		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第3回 商品価値の3類型		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第4回 フォードVS. GM		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第5回 記号としての消費		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第6回 「大きな物語」と消費		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第7回 広告と消費		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第8回 物語の分散と消費の物語化		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第9回 情報化と消費化		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第10回 データベース的消費		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第11回 文化と消費		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第12回 差異化と卓越化		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第13回 空間の消費		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第14回 消費のフェス化		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第15回 消費社会の総括と展望		「総括の小論」を作成し提出	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	なし		
小テスト等	100%(毎回の授業にて実施するものと、授業後に自宅で解答してもらうものがある。その積み重ねで評価する)		
成果発表	なし		
受講態度他	欠席や授業に積極的に参加しない等、受講態度が芳しくない受講者に関しては、小テストを受け取らない。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること(病欠や忌引きであってもその回の小テストが受けられない事には変わりはないので要注意)。これまでの自らの経験と知識とを総動員しながら考えつつ受講すること。講義者(花野)とのやり取りに積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。特に(許可された場合以外での)スマホ操作、居眠り、他の受講者に迷惑がかかる行為は厳禁とする。見つけ次第退席もしくはこれに代わる措置を取る。その代わり授業中に5分休憩を取る。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワー	授業の前後(長引く場合はその際に面会日時を打ち合わせしましょう)	メールアドレス	

授業科目	書誌学	開講時期	後期
担当教員	安永 美恵	単位	2
授業の目的と概要	日本の古典籍を対象として、現代の一般的な書籍とは異なる形態を持つ古典籍についての基礎的な知識を身に付けます。本講義では、日本の古典籍の、歴史、特性、具体的な構成要素について、最も多数の現存本が残る江戸時代の版本を中心に、学び、日本の古典籍を正しく理解できるようになることを目的とします。一点一点の資料には、それぞれ個性があり、それに適った扱いが必要であることを、参考に扱う資料によって理解していきます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本の古典籍の形態を説明することができる。</li> <li>2 日本の古典籍の特性を説明することができる。</li> <li>3 日本の古典籍に関する主な書誌学用語を理解し、用いることができる。</li> <li>4 版本を対象として、簡単な書誌調査を行うことができる。</li> <li>5 現存する日本の古典籍について、基礎的な範囲での情報収集を行うことができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 ガイダンス：授業の目的、書誌学について		テキストの予習と復習	
第2回 文字を読む：変体仮名とくずし字		配布資料による読む練習	
第3回 書物の歴史と形態（1）：紙の出現以前と以後		配布資料による読む練習	
第4回 書物の歴史と形態（2）：書物の装訂		テキスト・配布プリントの予習と復習	
第5回 書物の歴史と形態（3）：袋とじ		袋綴じ作業の復習	
第6回 書物の種類：写本と刊本		博物館、資料館等の展示古典籍の装訂を調べる	
第7回 書物の種類：刊本（整版）		国立国会図書館のHPで種々の装丁を学ぶ	
第8回 書物の種類：刊本（活字版）		テキスト・配布プリントの予習と復習	
第9回 製版本のできるまで		テキスト・配布プリントの予習と復習	
第10回 書物の種類：刊本の検討方法		テキスト・配布プリントの予習と復習	
第11回 書物の各部位の名称		書物の各部位の名称を覚える	
第12回 江戸時代の書物の分類		書物の各部位の名称を覚える	
第13回 書誌調査入門		課題：図書館での書誌調査	
第14回 参考情報の利用		課題：図書館での書誌調査	
第15回 補足、まとめ。レポート作成上の注意事項。		レポート準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし。（但し、受講者数が多数の場合には、試験に変更する場合がある。）		
レポート	70％。（但し、上記の場合、なし）		
小テスト等	なし。		
成果発表	なし。		
受講態度他	30％作業を含む授業態度。授業内容に関する記述課題。調査課題。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義の冒頭や終了前に、課題の確認や講義内容に関する質問を、口頭またはカードで行う場合があります。資料に触れる前の手洗い励行。資料を扱い、調査方法を説明するので、B以上の柔らかい鉛筆と、物差またはメジャーを準備してください。袋綴じ演習には、太めの針と糸、はさみを持参してください。		
教科書	廣庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』世界思想社、プリント配布。		
指定図書	なし		
参考図書	『日本古典籍書誌学辞典』岩波書店、中野三敏『江戸の板本 書誌学談義』岩波書店、堀川貴司『書誌学入門 古典籍を見る・知る・読む』勉誠出版、その他は授業時に紹介する。		
オフィスアワー	木曜昼休み、金曜4限	メールアドレス	



授業科目	初等家庭科概論	開講時期	前期
担当教員	金井 千尋	単位	2
授業の目的と概要	<p>小学校の家庭科は、児童が知識や技能を身に付けるとともに生活の営みを大切にしようとする意欲や態度を育むことを目標にした教科であり、その内容は生涯にわたる家庭生活を支える基盤となる。具体的な内容は「家庭生活と家族」「日常の食事と調理の基礎」「快適な衣服と住まい」「身近な消費生活と環境」の4つである。</p> <p>この授業は、将来児童を指導することを踏まえて、小学校における家庭科教育の役割や目標を知り、これら4つの内容を深く理解することを目的としている。講義を通じて基礎的知識を身に付けるとともに、調べ学習やグループ活動を行い、配布資料・課題プリントを利用して自分自身の生活を振り返ることにより課題点を見つけ、生活における問題解決方法を考察していく。簡単な製作実習によって教科目標の理解を深め、手縫いの基礎的技能を習得する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭科の教科としての特徴を説明することができる。</li> <li>2. 小学校学習指導要領家庭科の教科目標や内容について述べるができる。</li> <li>3. 4つの内容の基礎的知識について理解し、説明することができる。</li> <li>4. 身近な素材を利用した簡単な作品を製作することができる。</li> <li>5. 手縫いの基礎的技能を身に付ける。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は初等教育コースにおけるDP④「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的技能を身に付け、活用することができる。」の達成に関する科目である。この科目において小学校家庭科の基礎的な知識や技能を身に付け、2年時の「教科教育法（家庭）」へと発展させていく。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション 家庭科教育の特徴	このシラバスを読んでおく。今まで学んだ家庭科の内容を確認する。	
第2回	小学校学習指導要領家庭科の目標と内容	学習指導要領解説 pp.8～16を熟読する。	
第3回	家族とは何か 家庭の仕事と生活時間	学習指導要領解説 pp.17～24を熟読する。 生活時間を記録し考察する。	
第4回	食事の役割	学習指導要領解説 pp.25～27を熟読する。 食事のマナーを調べる。	
第5回	栄養素の働きと食品の栄養的特徴（1） —炭水化物・脂質・たんぱく質—	学習指導要領解説 pp.27～30を熟読する。	
第6回	栄養素の働きと食品の栄養的特徴（2） —無機質・ビタミン—	食品の特徴を調べる。食事記録をつけ次の講義の資料とする。	
第7回	献立と調理	厚労省のHPにアクセスし、食事バランスガイドを確認する。	
第8回	調理の基礎（1） —調理計画・調理法—	学習指導要領解説 pp.30～34を熟読する。	
第9回	調理の基礎（2） —米飯及びみそ汁・用具や食器の取り扱いと管理—	学習指導要領解説 pp.34～36を熟読する。	
第10回	衣服の働きと快適な着方	学習指導要領解説 pp.37～39を熟読する。	
第11回	衣服の素材の種類と性質	衣服の組成を調べ、まとめる。	
第12回	被服製作の基礎 —製作計画・手縫いの実習—	学習指導要領解説 pp.44～48を熟読する。 製作用具の準備をする。	
第13回	被服製作の基礎 —手縫いの実習・用具の安全な取り扱い—	作品を仕上げ、製作記録を完成させる。	
第14回	日常の手入れと洗濯 快適な住まい方	学習指導要領解説 pp.39～43を熟読する。 洗剤の種類を調べる。	
第15回	消費生活と環境 まとめ	学習指導要領解説 pp.49～53を熟読する。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	60% 定期試験期間中に60分間の筆記試験を行う。詳細は授業内で指示する。		
レポート	20% 課題プリント 詳細は授業内で適宜指示する。		
小テスト等	なし		
成果発表	10% 製作作品 提出日は授業内で指示する。		
受講態度他	10% 授業への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>将来、教職に就く者として真摯な態度と積極的な授業参加を期待します。</p> <p>実習に関しては各自用意するものがあります。詳細は授業時にお知らせします。</p> <p>必要な材料や用具は確実に準備してください。</p> <p>配布プリントは資料として取りまとめ、授業時に持参してください。</p> <p>グループ活動では互いに協力し合い、実習では常に安全面に留意するようにしてください。</p>		
教科書	<p>文部科学省 『小学校学習指導要領解説 家庭編』 東洋館</p> <p>内野紀子 鳴海多恵子 石井克枝他 『小学校わたしたちの家庭科 5・6』 開隆堂</p>		
指定図書	特に指定しない		
参考図書	授業の中で適宜お知らせします。		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	初等教育研究		開講時期	後期
担当教員	稲田 八徳		単位	1
授業の目的と概要	<p>大学で学修した基本的知識・技能を基盤にし、小学校における見学実習を通して教師の授業力や子どもの理解、子どもとの関わり方を学ぶ。子どもの成長に関わる「体験」とその「体験」を通じた「省察」から、小学校教師のという仕事の理解を深め、教師としての使命感をさらに高める。実習前の事後指導、実習後の振り返りを通して学習を一層効果的なものとする。</p>			
到達目標	<p>○小学校教師の一日を観察することにより、職務内容を理解することができる。  ○担当教師の子どもとの関わりから、一人一人の子ども理解と適切な対応について学ぶことができる。  ○教科指導の観察を通して子ども理解に立った学習指導の在り方を学ぶことができる。  ○体験後の省察を通して、小学校教育に対する課題を発見し、解決の道筋を討議することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は主に人間形成専攻のDP⑤「教育に関する諸課題にアプローチする思考力・判断力、表現力、コミュニケーション能力を身に付け、客観的研究方法により探求し、得られた結果を研究成果としてまとめることができる。」の達成に関わる科目です。次年度の「初等教育実習指導」「初等教育実習Ⅰ」「初等教育実習指導Ⅱ」「初等教育実践演習」など、教育実習に関わる科目を履修するための基本的事項を身に付けることができます。また、学修外のインターンシップへの思いを高めることにもつながります。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	〔7月7日(木・5限)〕 オリエンテーション、小学校見学実習の意義について	予習： 小学校見学実習に対する自分の思いをまとめておく。		
第2回	〔7月14日(木・5限)〕 小学校の一日と子どもの生活 観察実習の進め方について	復習： 小学校の一日を子どもという視点でまとめる。		
第3回	〔7月22日(金・5限)〕 授業観察の仕方(授業の流れ、発問、板書など)について	復習： 教師の授業づくりという視点でまとめる		
第4回	〔7月28日(木・4限)〕 学校生活における安全指導について・実習直前ガイダンス	予習： 実習校について事前学習しておく。		
第5回	〔9月21日(水・4限)〕 見学実習で見つけた課題をグループ討議で明らかにする。	予習、復習： 見学実習での学び、課題を整理しておく。		
第6回	〔9月28日(水・4限)〕 実習事後指導	予習： 見学実習における課題をまとめておく。		
第7回	〔10月 5日(水・4)〕 小学校教師の仕事	予習： 実習日誌から見える小学校教師の使命をまとめておく。		
第8回	〔10月12日(水・4)〕 小学校教育における実践課題と本実習への自身の課題	復習： 教育実習に向けて自身の課題をまとめる。		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
—	—	—		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50% 見学実習記録(実習日誌、事前学習、振り返り)			
小テスト等	—			
成果発表	30% 実習校における振り返りの発表をグループごとにまとめる			
受講態度他	20% グループ討議における積極的な参加、意見発表			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教師を目指すという自覚をもって臨み、小学校における本実習の受講を前提とする。			
教科書	「小学校学習指導要領 総則編」文部科学省			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業の際に紹介する			
オフィスワー	火曜日午前、木曜日午後	メールアドレス		

授業科目	初等教育実習 I		開講時期	通年
担当教員	松本 和寿		単位	2
授業の目的と概要	<p>小学校での実習を通して、大学で学修した教科の知識と技術を基盤とし、子ども理解や子どものかかわり方を把握しながら学校での実習を行い、小学校教諭という仕事への理解を深めるとともに、指導力の基礎を培うことを目的とする。</p> <p>3年次の後期、5月中旬～5月下旬まで、2週間、小学校における実習を行う。希望する小学校に依頼し実習校を決定する。実習前と実習後に、それぞれ事前と事後の指導を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 一人一人の子どもに対する理解を深める。</li> <li>2 小学校教諭の職務内容を理解する。</li> <li>3 教科の指導や子どものかかわり方、学級経営など、指導力の基礎をつける。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	実習校による指導（校長講話、担当者からの連絡等、配属学級での実習）	3年次科目「初等教育実習指導」の内容を整理しておく。		
第2回	実習校による指導（配当学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第3回	実習校による指導（配当学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第4回	実習校による指導（配当学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第5回	実習校による指導（配当学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第6回	実習校による指導（配当学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第7回	実習校による指導（配当学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第8回	実習校による指導（配当学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第9回	実習校による指導（配当学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第10回	実習校による指導（配当学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第11回	実習校による指導（配当学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第12回	実習校による指導（配当学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第13回	実習校による指導（配当学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第14回	実習校による指導（配当学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第15回	実習校による指導（配当学級での実習、実習の総括的指導）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない。			
レポート	20％（日誌、指導案等の必要文書）			
小テスト等	実施しない。			
成果発表	40％（実習授業等）			
受講態度他	40％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教師を目指すという自覚をもって臨むこと。			
教科書	特に指定しない。			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	特に指定しない。			
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み（他の時間帯でも可能な場合あり）	メールアドレス		

授業科目	初等教育実習Ⅱ		開講時期	通年
担当教員	松本 和寿		単位	4
授業の目的と概要	<p>小学校での実習を通して、大学で学修した教科の知識と技術を基盤とし、子ども理解や子どものかかわり方を把握しながら学校での実習を行い、小学校教諭という仕事への理解を深めるとともに、指導力の基礎を培うことを目的とする。</p> <p>3年次の後期、5月中旬～6月上旬まで、4週間、小学校における実習を行う。希望する小学校に依頼し実習校を決定する。実習前と実習後に、それぞれ事前と事後の指導を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 一人一人の子どもに対する理解を深める。</li> <li>2 小学校教諭の職務内容を理解する。</li> <li>3 教科の指導や子どものかかわり方、学級経営など、指導力の基礎をつける。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	実習校による指導（校長講話、担当者からの連絡等、配属学級での実習）	3年次科目「初等教育実習指導」の内容を整理しておく。		
第2回	実習校による指導（配属学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第3回	実習校による指導（配属学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第4回	実習校による指導（配属学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第5回	実習校による指導（配属学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第6回	実習校による指導（配属学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第7回	実習校による指導（配属学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第8回	実習校による指導（配属学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第9回	実習校による指導（配属学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第10回	実習校による指導（配属学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第11回	実習校による指導（配属学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第12回	実習校による指導（配属学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第13回	実習校による指導（配属学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第14回	実習校による指導（配属学級での実習）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
第15回	実習校による指導（配属学級での実習、実習の総括的指導）	大学での関連科目の内容を整理しておく。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない。			
レポート	20％（日誌、指導案等の必要文書）			
小テスト等	実施しない。			
成果発表	40％（実習授業等）			
受講態度他	40％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教師を目指すという自覚をもって臨むこと。			
教科書	特に指定しない。			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	特に指定しない。			
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み（他の時間帯でも可能な場合あり）	メールアドレス		

授業科目	初等教育実習指導		開講時期	前期
担当教員	稲田 八徳・一木 信治・松本 和寿・石原 努		単位	1
授業の目的と概要	<p>実習前の学習としては学内オリエンテーションや講義、小学校教師や校長の講話等を通じて、教育実習の意義、子どもの理解、教師と子どもの関わり方などについて理解する。また、実習終了後は、実習の反省・評価を行い、実習体験を振り返りながら新たな課題の設定を行うなどを目的としている。</p> <p>教育実習に向けての心がまえや実習の意義・目的を理解し、実習記録の書き方など実習に向けて、事前準備ができるようにする。また、実習終了後は、実習体験をふまえて、感想等の交流やテーマを設定した意見交換を行い教職に向けての基本的な認識を確かなものにする。</p>			
到達目標	小学校教育実習の意義や目的内容を説明することができるとともに、実習記録の書き方、実習の心構えなどについて説明することができる。また、自己の実習課題を明確に説明することができることを目標とする。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	幼稚園実習の際の成果と課題を明らかにしておく。		
第2回	学校経営（小学校の意義）	1年次科目「教職入門」の関係部分を整理しておく。		
第3回	学校経営（学校の組織、関係法規）	1年次科目「教職入門」の関係部分を整理しておく。		
第4回	学校経営（危機管理、安全指導、研修）	1年次科目「教職入門」の関係部分を整理しておく。		
第5回	学級経営（学級集団づくり）	目指す学級の姿をまとめておく。		
第6回	学級経営（人権教育）	2年次科目「人権教育」の内容について整理しておく。		
第7回	学級経営（特別支援教育）	特別支援学校での成果と課題を整理しておく。		
第8回	教科指導（基本的な展開）	「初等教科教育法」（各教科）の内容を整理しておく。		
第9回	教科指導（指導案、板書、評価）	「初等教科教育法」（各教科）の内容を整理しておく。		
第10回	教科指導（模擬授業）	第8回で提示するテーマに関する展開を考えておく。		
第11回	教育実習に向けて（日誌の書き方他）	幼稚園実習の際の日誌の内容を整理しておく。		
第12回	教育実習に向けて（講話）	目指す教師像についてまとめておく。		
第13回	教育実習に向けて（実習生調書他の書き方）	実習校の情報、期間等をまとめておく。		
第14回	教育実習に向けて（心構え、注意事項、詳細確認等）	実習に臨む目的や課題を整理しておく。		
第15回	教育実習を迫えて ※後期に実施	実習の成果と課題w明らかにしておく。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない。			
レポート	60%			
小テスト等	実施しない。			
成果発表	30%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教師を目指すという自覚をもって臨むこと。			
教科書	特に指定しない。			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	授業の際に適宜指示する。			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	初等教科教育法（音楽）		開講時期	後期
担当教員	北原 幸子		単位	2
授業の目的と概要	音楽科における表現及び鑑賞の活動を通して音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるための内容を学習指導要領に基づいて理解することができるようにする。また、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うことができるような授業を構成するために、指導目標を立て、指導内容を構成し、楽しく学べるような指導方法を設定し、子ども自身が学習で身につけた内容を評価できるような学習指導案を作成し、模擬授業などができるようにする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽科の教育目標を理解して題材の指導計画案を作成することができる。</li> <li>・音楽科指導に関わる指導内容を理解して学習指導案を作成することができる。</li> <li>・音楽科指導に関わる指導方法を理解して学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。</li> <li>・音楽科指導における評価の方法を理解して評価表を作成したり、模擬授業の中に評価活動を取り入れたりすることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本授業は、主に初等教育コースDP4「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎技能を身に付け、活用することができる。」の達成に関わる科目です。</p> <p>小学校学習指導要領解説（音楽編）をしっかりと理解し、年間指計画、学習指導案の作成、評価の在り方、模擬授業等を通して、教科の指導力の基礎を身に付けることを目指します。これは、前年度の「音楽概論」に関連します。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	学習指導要領における音楽科の概観と音楽教育の目標について	学習指導要領（音楽）についてまとめる。		
第2回	小学校学習指導要領（音楽）について、教科目標、各学年の目標を理解する	教科目標、学年目標についてまとめる。		
第3回	年間指導計画、学習指導案のたて方、評価の意義	随時復習する。		
第4回	教材研究のあり方、学習指導案の作成	別途指示する。		
第5回	第1学年表現の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	第1学年の学習指導についてまとめる。		
第6回	第2学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	第2学年表現の学習指導についてまとめる。		
第7回	第1・2学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	低学年鑑賞の学習指導についてまとめる。		
第8回	第3学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	第3学年表現の学習指導についてまとめる。		
第9回	第4学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	第4学年表現の学習指導についてまとめる。		
第10回	第3・4学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	中学年鑑賞の学習指導についてまとめる。		
第11回	第5学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	第5学年の表現の学習指導についてまとめる。		
第12回	第5学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	第5学年鑑賞の学習指導についてまとめる。		
第13回	第6学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	第6学年表現の学習指導についてまとめる。		
第14回	第6学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	第6学年鑑賞の学習指導についてまとめる。		
第15回	授業評価による授業改善の工夫と講義のまとめ	全体を振り返りまとめる。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50% 学習指導案細案提出			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50% 模擬授業、協議会参加態度等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自ら積極的に授業に関わってください。			
教科書	初等科音楽教育研究会編『改訂新版 初等科音楽教育法』音楽之友社2008 文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社2008			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業の際に指示する			
オフィスアワー	月曜日の午後、水曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	初等教科教育法（音楽）		開講時期	前期
担当教員	北原 幸子		単 位	2
授業の目的と概要	音楽科における表現及び鑑賞の活動を通して音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるための内容を学習指導要領に基づいて理解することができるようにする。また、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うことができるような授業を構成するために、指導目標を立て、指導内容を構成し、楽しく学べるような指導方法を設定し、子ども自身が学習で身につけた内容を評価できるような学習指導案を作成し、模擬授業などができるようにする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽科の教育目標を理解して題材の指導計画案を作成することができる。</li> <li>・音楽科指導に関わる指導内容を理解して学習指導案を作成することができる。</li> <li>・音楽科指導に関わる指導方法を理解して学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。</li> <li>・音楽科指導における評価の方法を理解して評価表を作成したり、模擬授業の中に評価活動を取り入れたりすることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本授業は、人間科学部初等教育コースDP4「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的技能を身に付け、活用することができる。」の達成に関わる科目です。 小学校学習指導要領解説（音楽編）をしっかりと理解し、年間指導計画、学習指導案の作成、評価の在り方、模擬授業等を通して教科の指導力の基礎を身に付けることを目指します。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	学習指導要領における音楽科の概観と音楽教育の目標について	小学校学習指導要領（音楽）についてまとめる。		
第2回	小学校学習指導要領（音楽）について、教科目標、各学年の目標を理解する	教科目標、学年目標についてまとめる		
第3回	年間指導計画、学習指導案のたて方、評価の意義	随時復習する。		
第4回	教材研究のあり方、学習指導案の作成	別途指示する		
第5回	第1学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	第1学年表現の学習指導をまとめる。		
第6回	第2学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	第2学年表現の学習指導をまとめる。		
第7回	第1・2学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	低学年鑑賞の学習指導をまとめる。		
第8回	第3学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	第3学年表現の学習指導をまとめる。		
第9回	第4学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	第4学年表現の学習指導をまとめる。		
第10回	第3・4学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	中学年鑑賞の学習指導をまとめる。		
第11回	第5学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	第5学年表現の学習指導をまとめる。		
第12回	第5学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	第5学年鑑賞の学習指導をまとめる。		
第13回	第6学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	第6学年表現の学習指導をまとめる。		
第14回	第6学年の内容を取り入れた学習指導案の作成と授業の工夫	第6学年鑑賞の学習指導をまとめる。		
第15回	授業評価による授業改善の工夫と講義のまとめ	全体を振り返りまとめる。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50% 学習指導案細案提出			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50% 模擬授業、協議会参加態度等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自ら積極的に授業に関わってください。			
教科書	初等科音楽教育研究会編『改訂新版 初等科音楽教育法』音楽之友社2008 文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社2008			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	授業の際に指示する			
オフィスアワー	月曜日の午後、水曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	初等教科教育法（家庭）	開講時期	後期
担当教員	金井 千尋	単位	2
授業の目的と概要	この授業は、小学校家庭科の意義や学習内容を理解したうえで、将来指導者となるための視点から具体的な教材研究を通して実習や模擬授業を行い、学習指導に関する実践力をつけることを目的としている。 家庭科の歴史と意義を理解し、児童用教科書を活用しながら、小学校家庭科の学習内容に沿って教材研究を実施する。調理実習・被服実習を通して、基礎的技術の習得とともに安全・衛生管理、実習の準備、用具の管理、効果的な指導方法を学び、学習者と指導者の両方の立場から内容を理解し実践する。模擬授業においては、グループ活動にて授業づくりを行い、発表・相互評価によって実践力をつける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭科の歴史からその今日的意義を説明することができる。</li> <li>2. 小学校5、6年の2年間にわたる学習の題材構成を知り、題材の指導計画を示すことができる。</li> <li>3. 調理実習や被服実習の指導に必要な知識や技能を理解し、実践できるようになる。</li> <li>4. 家庭科の授業づくりを実施し、模擬授業を評価することができる。</li> <li>5. グループ活動において互いに協力し、積極的に参加することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は初等教育コースにおけるDP④「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的技術を身に付け、活用することができる。」の達成に関する科目である。この科目において調理実習・被服製作実習、教材研究や模擬授業を行い、1年時の「初等家庭科概論」の内容を実践的に発展させていく。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション 家庭科の歴史と意義、指導計画		このシラバスを読んでおく 学習指導要領で目標と内容を確認しておく	
第2回 衣生活に関する指導に必要な基礎知識 被服製作実習指導の実践（1） 製作計画 型紙作成		安全対策に関する内容をまとめておく 用具の準備、デザインを決めておく	
第3回 被服製作実習指導の実践（2） 基礎的技術の習得・布を用いた製作①		製作に適する用布や材料を準備する ミシンの使い方を確認しておく	
第4回 被服製作実習指導の実践（3） 布を用いた製作②		基礎的技術の復習をする ポケット以外の縫製を終わらせておく	
第5回 被服製作実習指導の実践（4） 布を用いた製作③		作品を完成させ、実習記録をまとめる	
第6回 食生活に関する指導に必要な基礎知識		調理実習の安全対策に関する内容をまとめておく	
第7回 調理実習指導の実践（1） 用具や器具の取り扱いと管理・基礎的技術の習得		エプロン・三角巾・材料を準備する 調理実習の記録をまとめる	
第8回 学習指導と学習指導案		模擬授業で担当する内容を児童用教科書で確認する	
第9回 調理実習指導の実践（2） 献立と調理①		エプロン・三角巾を準備する 米飯とみそ汁の作り方を確認しておく	
第10回 調理実習指導の実践（3） 献立と調理②		調理実習の記録をまとめる	
第11回 学習指導案の作成と教材研究		学習指導案を模擬授業の前までに作成し、受講者全員に配布する	
第12回 模擬授業による授業研究（1） 家庭生活と家族・日常の食事と調理の基礎		模擬授業の準備をする 学習指導案をよく読んでおく	
第13回 模擬授業による授業研究（2） 日常の食事と調理の基礎 相互評価		模擬授業の準備をする 学習指導案をよく読んでおく	
第14回 模擬授業による授業研究（3） 快適な衣服と住まい		模擬授業の準備をする 学習指導案をよく読んでおく	
第15回 模擬授業による授業研究（4） 身近な消費生活と環境 相互評価とまとめ		模擬授業の準備をする 学習指導案をよく読んでおく	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	40％ 詳細は授業にてお知らせします。		
レポート	25％ 調理実習、被服実習、授業プリント等		
小テスト等	なし		
成果発表	25％ 製作作品、模擬授業等		
受講態度他	10％ 授業への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	将来、教職に就く者として真摯な態度と積極的な授業参加を期待します。 実習に関しては各自準備するもの（エプロン・裁縫用具・製作材料など）があります。詳細については授業にてお知らせします。 必要な材料や用具は確実に準備してください。 授業毎に配布するプリントは取りまとめ、資料として授業時に持参してください。		
教科書	文部科学省 『小学校学習指導要領解説 家庭編』 東洋館 内野紀子 鳴海多恵子 石井克枝他 『小学校 わたしたちの家庭科5・6』 開隆堂		
指定図書	特に指定しない		
参考図書	授業の中で適宜お知らせします。		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス	



授業科目	初等教科教育法（国語）	開講時期	前期
担当教員	稲田 八徳	単位	2
授業の目的と概要	<p>国語を適切に表現し理解する能力を育成するための内容を、小学校学習指導要領に基づいて整理し、系統的な能力形成について理解し、実践的な力をつけることを目的とする。伝え合う力を高め、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てるような授業作りについて理解する。</p> <p>○小学校国語科の授業を計画、実践するために、各領域の授業のあり方について学ぶ。</p> <p>○国語科授業を構成するための理論、指導方法、教材や言語活動についての研究方法を理解し、学習指導案を作成する。</p> <p>○アクティブラーニングを取り入れた模擬授業を行う。</p>		
到達目標	<p>○学習者である児童理解に基づき、教材研究を行うことができる。</p> <p>○国語科の目標や児童理解の上で、単元の指導計画案を作成する能力をつける。</p> <p>○国語科指導に関わる指導内容を理解して、アクティブラーニングを取り入れた学習指導案を作成することができる。</p> <p>○国語科指導に関わる指導方法を理解して、学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。</p> <p>○国語科指導における評価の方法を理解して、評価表を作成したり、模擬授業の中に評価活動を取り入れたりすることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は主に人間形成専攻のDP④「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的技能を身に付け、活用することができる。」の達成に関わる科目です。1年次履修科目の「初等国語科概論」で学んだ力を生かし、教育実習に向けて実践的な力を育成します。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション、国語科の目標と授業、国語科教育の構造	予習：教科書P14～P29	
第2回	国語科授業の計画	予習：教科書P30～P42	
第3回	教材研究と教材開発	予習：教科書P43～P49 準備：教材研究発表の準備	
第4回	「話すこと・聞くこと」の授業づくり、「書くこと」の授業づくり	予習：P55～P89 準備：教材研究発表準備	
第5回	「読むこと」の授業づくり	予習：教科書P90～P114 準備：教材研究発表準備	
第6回	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する」授業づくり、評価の観点と方法	予習：教科書P115～P145 準備：教材研究発表準備	
第7回	教材研究の発表（前半）	予習：教材研究の発表準備 復習：教材研究の振り返り	
第8回	教材研究の発表（後半）	予習：教材研究の発表準備 復習：教材研究の振り返り	
第9回	模擬授業の学習指導案作り	予習、復習 模擬授業の学習指導案作り（グループ活動）	
第10回	模擬授業構想発表	予習：模擬授業構想発表縦鼻 復習：模擬授業指導案作りの振り返り	
第11回	模擬授業1回	予習：模擬授業の準備 復習：授業の評価	
第12回	模擬授業2回	予習：模擬授業の準備 復習：授業の評価	
第13回	模擬授業3回	予習：模擬授業の準備 復習：授業の評価	
第14回	模擬授業4回	予習：模擬授業の準備 復習：授業の評価	
第15回	模擬授業第5回 授業のまとめ	予習：模擬授業の準備 復習：授業の評価、学習のまとめ	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40％ 教材研究、模擬授業の学習指導案作成		
小テスト等	なし		
成果発表	40％ 模擬授業		
受講態度他	20％ 質問、意見発表など積極的な授業参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習の課題を出します。予習、復習はノートにまとめてください。		
教科書	なし		
指定図書	特に指定しない		
参考図書	授業の際に適宜指示する。		
オフィスアワー	火曜日午前、木曜日午後	メールアドレス	

授業科目	初等教科教育法（算数）		開講時期	前期
担当教員	石原 努		単位	2
授業の目的と概要	<p>小学校学習指導要領解説「算数編」をもとに、「児童が、数量や図形の基礎的・基本的な知識及び技能の内容を理解するとともに、日常的な事象を数理的に処理する力を楽しく身に付けそれを表現する」という算数科の授業の在り方について理解を深めることを目的とする。</p> <p>また、実際に、算数科の学習目標や内容・指導方法・評価項目等を吟味した学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して、授業実践力を高めることを目的とする。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数科の目標を踏まえ、単元の指導計画を作成することができる。</li> <li>算数科の内容を踏まえ、学習指導案を作成することができる。</li> <li>算数科の指導方法を踏まえ、模擬授業をすることができる。</li> <li>模擬授業を通して、算数科の具体的な評価方法や子どもとの関わり方等を工夫することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、初等教育コースのDP4「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的スキルを身に付け、活用することができる。」の達成に関わる科目です。他教科等の教科教育法も受講することで、教科の特性を理解することにつながります。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
1	本講義の概要説明と算数科教育の目標・内容	講義内容の復習と、学習指導要領解説の目標部分の熟読		
2	算数的活動の位置づけ方	各領域における算数的活動の位置づけについてまとめる。		
3	算数科における問題解決的な学習の展開の仕方	講義内容を復習し、問題解決的な学習の展開についてまとめる。		
4	各領域における指導法と教師の関わり	具体的な指導法についてまとめる。		
5	算数科の学習指導案の書き方①（全体的な流れ）	参考資料（指導案）を熟読し、指導案の書き方の流れを理解する。		
6	算数科の学習指導案の書き方②（単元観・児童観・指導観）	各自で既習内容とのつながりを考え、指導案の形式にまとめる。		
7	算数科の学習指導案の書き方③（指導計画）	各自で評価の視点等を考え、指導案の形式にまとめる。		
8	算数科の学習指導案の書き方④（学習展開等）	各自で学習展開を考え、指導案の形式にまとめる。		
9	模擬授業の準備（教材作成）	各グループの指導案に応じた教材作りを行う。		
10	模擬授業の準備（授業練習）	各グループの指導案に応じた学習展開についてまとめる。		
11	グループ1における模擬授業と授業研究会	模擬授業の考察、及び、授業記録の作成		
12	グループ2における模擬授業と授業研究会	模擬授業の考察、及び、授業記録の作成		
13	グループ3における模擬授業と授業研究会	模擬授業の考察、及び、授業記録の作成		
14	各自の学習指導案の構想に関する授業研究会	学習構想に関する考察・まとめ		
15	算数科教育・授業作りのまとめ	指導案の作成・提出準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 学習指導案、レポート等の提出			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 模擬授業等の内容			
受講態度他	20% 指導案検討や模擬授業へ向けた取組の参加態度等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材研究・指導案作成・模擬授業準備等、グループで協同して作業を進める。</li> <li>指示された内容以外においても、必要に応じて事前準備を行うこと。</li> </ul>			
教科書	文部科学省『小学校指導要領解説算数編』東洋館出版社			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスワー	火曜日4限、水曜日2限	メールアドレス		

授業科目	初等教科教育法（社会）	開講時期	前期
担当教員	松本 和寿	単 位	2
授業の目的と概要	『小学校学習指導要領解説（社会編）』に基づき、指導目標や内容、指導方法などを吟味した学習指導案を作成し、模擬授業をすることを通して、社会科指導の基礎的実践力を身に付ける。  目的が達成できるよう、実践事例の紹介や解説に学んだ上で、グループごとに学習指導案を作成し模擬授業を行う。なお、この授業は1年次「初等社会科概論」の学習内容を基礎として行う。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科の目標を理解して単元の指導計画を作成することができる。</li> <li>・社会科の内容を理解して学習指導案を作成することができる。</li> <li>・社会科の指導方法を理解して学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に初等コースのDP④「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的技能を身に付け、活用することができる。」の達成に関わる科目です。  1年次「初等社会科概論」、3年次「初等教育実習Ⅰ・Ⅱ」に関連します。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション・社会科の目標と内容の確認	1年次科目「初等社会科概論」を復習しておく。	
第2回	小学校社会科の学年の目標と内容	『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第3回	模擬授業の計画（グループ構成、単元・時間決定）	『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第4回	模擬授業の準備①	教材研究、指導案作成、資料作成	
第5回	模擬授業の準備②	教材研究、指導案作成、資料作成	
第6回	模擬授業の準備③	教材研究、指導案作成、資料作成（模擬授業指導案提出）	
第7回	模擬授業①	模擬授業（参観）の振り返り	
第8回	模擬授業②	模擬授業（参観）の振り返り	
第9回	模擬授業③	模擬授業（参観）の振り返り	
第10回	模擬授業④	模擬授業（参観）の振り返り	
第11回	模擬授業⑤	模擬授業（参観）の振り返り	
第12回	模擬授業⑥	個人指導案作成	
第13回	模擬授業⑦	個人指導案作成	
第14回	模擬授業⑧	個人指導案作成	
第15回	模擬授業⑨（個人指導案提出）	模擬授業（参観）の振り返り	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50％（個人で記述した指導案）		
小テスト等	なし		
成果発表	50％（模擬授業）		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと。		
教科書	『小学校学習指導要領解説社会編』（東洋館出版）		
指定図書	指定しない。		
参考図書	授業の際に指示する。		
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み（他の時間帯でも可能な場合あり）	メールアドレス	

授業科目	初等教科教育法（図画工作）		開講時期	後期
担当教員	一木 信治		単 位	2
授業の目的と概要	<p>図画工作科における表現及び鑑賞の活動を通して感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうことができるようにするための内容を学習指導要領に基づいて理解することができるようにする。また、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養うことができるような授業を構成するために、学習目標を立て、学習内容を構成し、楽しく学べるような指導方法を設定し、一人ひとりの子どもが学習で身につけた内容を評価ができるような指導計画案を作成し、模擬授業などができるようにする。また、模擬授業の内容についてディスカッションし、より良い授業のあり方について検討するとともに、それを受けて改善計画</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>図画工作科の教育目標を理解して、題材全体の指導計画案を作成することができる。</li> <li>図画工作科指導に関わる指導内容を理解して、学習指導案を作成することができる。</li> <li>図画工作科指導に関わる指導方法を理解して、学習指導案を作成し模擬授業をすることができる。</li> <li>図画工作科指導における評価方法を理解して評価表を作成したり、模擬授業の中に評価活動取り入れたりすることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は初等教育コースDP④「教科指導の専門知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的な技能を身に付け、活用することができる」の達成に関わる科目です。1年生の「図画工作Ⅰ」で身に付けた知識や技能を基盤として、2年生の「図画工作Ⅱ」で身に付けた発想力や構想力及び自分らしさを基盤として、模擬授業を通じた実践的な指導法研究へとつなげてください。これは更に、小学校教育実習での教育実践を通して実践力のある教員としての資質を高めていくことにつながります。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	小学校学習指導要領(図画工作科)の目標と内容構成	予習：学習指導要領の目標及び内容構成の振り返り		
第2回	A表現領域及びB鑑賞領域の内容と教科書との関連	予習：教科書題材の分野別分類と教材研究のポイント調査		
第3回	図画工作科学習指導の実際と学習指導案作成の重点	予習：模擬授業題材の絞り込み		
第4回	模擬授業のグループ編成と学習指導案の作成	指導案作成、教材製作		
第5回	模擬授業①「低学年絵に表す」	指導案作成、教材製作		
第6回	模擬授業②「中学年絵に表す」	指導案作成、教材製作		
第7回	模擬授業③「高学年絵に表す」	指導案作成、教材製作		
第8回	模擬授業④「低学年立体に表す」	指導案作成、教材製作		
第9回	模擬授業⑤「中学年立体に表す」	指導案作成、教材製作		
第10回	模擬授業⑥「高学年立体に表す」	指導案作成、教材製作		
第11回	模擬授業⑦「低学年工作に表す」	指導案作成、教材製作		
第12回	模擬授業⑧「中学年工作に表す」	指導案作成、教材製作		
第13回	模擬授業⑨「高学年工作に表す」	指導案作成、教材製作		
第14回	模擬授業⑩「低学年造形遊び」	指導案作成、教材製作		
第15回	評価活動を取り入れた授業改善の工夫と講義のまとめ	指導細案、板書計画、ワークシートの作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 題材全体を通じた学習指導案（細案）の作成			
小テスト等	10％ 模擬授業の評価			
成果発表	30％ 模擬授業の内容			
受講態度他	10％ グループ活動への参画度、ディスカッションへの参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>模擬授業においては、グループで役割を分担して積極的に学習指導案の作成や資料づくりに参画すること。</li> </ul>			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説（図画工作編）』日本文教出版			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	阿部 宏行『いっしょに考えよう 図工のABC』日本文教出版			
オフィスワーカー	木曜日午前中	メールアドレス		

授業科目	初等教科教育法（生活）		開講時期	後期
担当教員	石原 努		単位	2
授業の目的と概要	<p>小学校学習指導要領解説「生活編」をもとに、生活科の授業内容や生活科特有の授業の在り方について理解を深めることを目的とする。</p> <p>また、実際に、生活科の学習目標や内容・指導方法・評価項目等を吟味した学習指導案を作成し、模擬授業を実施することを通して、授業実践力を高めることを目的とする。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活科の目標を踏まえ、単元の指導計画（授業構想）を作成することができる。</li> <li>生活科の内容を踏まえ、学習指導案を作成することができる。</li> <li>生活科の指導方法を踏まえ、模擬授業をすることができる。</li> <li>模擬授業を通して、具体的な生活科の評価方法や子どもとの関わり方等を工夫することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、初等教育コースのDP4「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的技能を身に付け、活用することができる。」の達成に関わる科目です。他教科等の教科教育法も受講することで、教科の特性を理解することにつながります。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
1	講義の概要説明と生活科の目標・内容	学習指導要領生活編（目標・内容）の熟読		
2	生活科の授業構想の流れと留意点	学習指導要領生活編（内容1～9）の熟読		
3	生活科の特色を踏まえた教師の関わり	教師の関わりポイントを簡潔にまとめる。		
4	生活科における教材研究①（教材研究の方法）	講義内容を復習し、簡潔にまとめる。		
5	生活科における教材研究②（教科書に沿った内容）	教科書を熟読し、大まかな授業構想を立てる。		
6	生活科の指導案の書き方①（単元計画）	参考資料（指導案）を熟読し、指導案の書き方の流れを理解する。		
7	生活科の指導案の書き方②（本時の流れ）	参考資料をもとに、指導案の教材観・指導計画等を考え作成する。		
8	生活科の指導案の書き方③（指導案全体）	参考資料をもとに、指導案の指導観・学習展開等を考え作成する。		
9	模擬授業準備・教材作成①（教材作成を中心に）	作成した指導案に応じた教材研究を行う。		
10	模擬授業準備・教材作成②（教師と子どもの対話を中心に）	実際に行う授業場面に応じた子どもとの対話を記録する。		
11	グループ1における模擬授業	模擬授業について振り返り、授業の考察を行いまとめる。		
12	グループ2における模擬授業	模擬授業について振り返り、授業の考察を行いまとめる。		
13	グループ3における模擬授業	模擬授業について振り返り、授業の考察を行いまとめる。		
14	生活科の授業研究（模擬授業全体の振り返り）	模擬授業の考察と、授業記録の作成		
15	生活科教育のまとめ	内容を選択し指導案を作成する（提出）。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 学習指導案、レポート等の提出			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 模擬授業や授業観察記録の内容			
受講態度他	20% 指導案検討や模擬授業へ向けた取組の参加態度等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材研究・指導案作成・模擬授業準備等、グループで協同して作業を進める。</li> <li>指示された内容以外においても、必要に応じて事前準備を行うこと。</li> </ul>			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説（生活編）』日本文教出版社			
指定図書	指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスアワー	月曜日3限、水曜日2限	メールアドレス		

授業科目	初等教科教育法（体育）	開講時期	後期
担当教員	宮平 喬	単 位	2
授業の目的と概要	学習指導要領に基づいて体育科の内容を理解することができるようになることを目的とする。また、学習目標を立て、学習内容を構成し、楽しく規範性を学べるような指導方法を設定し、一人ひとりの子どもが学習で身につけた内容を評価ができるような指導計画案を作成し、模擬授業などできるようにする。 学校教育における体育の変遷を理解し、身体の発育・発達や運動能力にかかわる子どもたちの実態を把握しながら、体育科の役割を理解することを目的としている。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育科の教育目標を理解して単元の指導計画案やワークシートを作成することができる。</li> <li>・体育科指導に関わる指導内容を理解して学習指導案を作成することができる。</li> <li>・体育科指導に関わる指導方法を理解して模擬授業をすることができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、初等教育コースDPの「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的技能を身に付け活用することができる」に関する科目です。この授業に関連する科目は、2年次の、「体育Ⅰ」及び「体育Ⅱ」の実技科目です。加えて、同DPコースの「教育の諸課題にアプローチする思考力・判断力・表現力、コミュニケーション能力を身に付け、客観的研究方法により探求し、得られた結果を研究成果としてまとめることができる」に関する初等教育実習Ⅰ・Ⅱに関する科目です。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション（授業の目的、到達目標、班分け等）		学習指導要領における「体育科の目標」を調べる（予習）	
第2回 小学校体育教育の歴史と体育科の意義及び学習指導要領における体育科の目標		体育教育の歴史の変遷、体育科ができた背景をまとめる（復習）	
第3回 子どもの健康・体力の現状と課題及び体育の指導体系、指導法		子どもの健康・体力に対するデータ収集する（予習）	
第4回 第1学年及び第2学年の目標・内容についての理解		低学年における体育の目標を調べる（予習）	
第5回 学習指導案に基づいた模擬授業（第1学年及び第2学年）		体育指導書等を参考に担当する模擬授業の計画を進める（予習）	
第6回 学習指導案に基づいた模擬授業（第1学年及び第2学年）		体育指導書等を参考に担当する模擬授業の計画を進める（予習）	
第7回 第3学年及び第4学年の目標・内容についての理解及び模擬授業の反省と課題の抽出		中学年における体育の目標を調べる（予習）	
第8回 学習指導案に基づいた模擬授業（第3学年及び第4学年）		体育指導書等を参考に担当する模擬授業の計画を進める（予習）	
第9回 学習指導案に基づいた模擬授業（第3学年及び第4学年）		体育指導書等を参考に担当する模擬授業の計画を進める（予習）	
第10回 第5学年及び第6学年の目標・内容についての理解及び模擬授業の反省と課題の抽出		高学年における体育の目標を調べる（予習）	
第11回 学習指導案に基づいた模擬授業（第5学年及び第6学年）		体育指導書等を参考に担当する模擬授業の計画を進める（予習）	
第12回 学習指導案に基づいた模擬授業（第5学年及び第6学年）		体育指導書等を参考に担当する模擬授業の計画を進める（予習）	
第13回 保健領域の目標と内容についての理解及び模擬授業の反省と課題の抽出		子どもの保健授業に関する目標を調べる（予習）	
第14回 学習指導案に基づいた模擬授業（保健）		保健の模擬授業から得た知見を整理する（予習）	
第15回 模擬授業の反省と課題の抽出、授業総括、授業評価		体育科教育の意義について再検証する（復習）	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	% なし		
レポート	20% 学習指導案の提出（実技用10% 講義用10%）		
小テスト等	% なし		
成果発表	30% 模擬授業の実践、模擬授業実施後の自己評価票の提出		
受講態度他	50% 授業態度の悪い学生は10%～50%減点する		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業外学習に積極的に取り組み、授業に臨むこと。 模擬授業の際は、ジャージ、シューズを持参し、体育館や2B04で実施する。 2連続の遅刻は反省文を課します。 質問等があれば、事前にメールで知らせてもらおうと対応がしやすいです。		
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 体育編』 東洋館出版社		
指定図書	特になし		
参考図書	戸田芳雄 『新しい保健』 東京書籍		
オフィスワー	月曜日の昼休み	メールアドレス	

授業科目	初等教科教育法（理科）		開講時期	後期
担当教員	平山 静男		単 位	2
授業の目的と概要	<p>小学校の理科授業を実施することができるようになるために、基礎的基本的な指導力を身につける。授業は、理科の授業の考え方、学習指導案の作成、模擬授業とその授業研究から成る。この学修を通して、学習指導要領の理解深化、教科書の理解深化を図り、指導方法、評価方法、教材研究、指導計画の編成、安全管理等について理解を深める。</p>			
到達目標	<p>1, 理科の学習指導案を作成することができる。  2, 理科授業をつくるための教材研究を行うことができる。  3, 児童を想定した理科の模擬授業を行うことができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、初等教育コースのDP「教科指導の専門的知識や技術指導、基礎的技能を身に付け、活用することができる。」の達成に関わる科目です。「初等教育の専門的知識や技能を身につけ、実践力を高める学修」で、他教科の初等教科教育法と比較することで理解が深まります。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業の目的と概要、求められている理科教育、理科授業	復習、レポート作成		
第2回	求められている理科教育、理科授業の検討	復習、グループ協議（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）		
第3回	理科授業を行なうことの意味、理科の授業づくり	復習、グループ協議（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）		
第4回	学習指導案の考え方と作成方法	グループ協議（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）		
第5回	第3学年・A領域の模擬授業と授業研究	グループ協議（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）		
第6回	第3学年・B領域の模擬授業と授業研究	グループ協議（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）		
第7回	第4学年・A領域の模擬授業と授業研究	グループ協議（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）		
第8回	第4学年・B領域の模擬授業と授業研究	グループ協議（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）		
第9回	第5学年・A領域の模擬授業	グループ協議（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）		
第10回	第5学年・B領域の模擬授業と授業研究	グループ協議（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）		
第11回	第5学年の模擬授業と授業研究	グループ協議（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）		
第12回	第6学年・A領域の模擬授業と授業研究	グループ協議（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）		
第13回	第6学年・B領域の模擬授業と授業研究	グループ協議（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）		
第14回	第6学年の模擬授業と授業研究	グループ協議（指導案作成、教材研究、模擬授業準備）		
第15回	学習指導案、模擬授業の総括	復習、レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％。学習指導案、教材研究、授業構成、授業研究の内容や考え方について問う。			
レポート	30％。学習指導案、教材研究、模擬授業、授業研究に関する課題についてレポートにまとめる。2回。			
小テスト等	なし。			
成果発表	30％。学習指導案及び模擬授業の内容について評価する。			
受講態度他	10％。授業に臨む意欲など積極的な受講態度について、主として意見発表や質問などにより評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。			
教科書	文部科学省『学習指導要領解説理科編』大日本図書			
指定図書	なし。			
参考図書	日本理科教育学会編著『今こそ理科の学力を問う』東洋館出版社			
オフィスアワー	授業の前後。	メールアドレス		

授業科目	初等国語科概論	開講時期	前期
担当教員	稲田 八徳	単位	2
授業の目的と概要	<p>幼児期における言葉についての感覚や表現力、小学校国語科教育における目標、内容について理解する。「幼稚園教育要領」および「小学校学習指導要領 国語編」に基づき、教科内容を系統的に理解し、説明できるようになることを目的とする。さらに、自分たちの分担課題について主体的に調べ、グループで協働的に発表することを通して、初等国語科の教育内容にかかわる知識のさらなる習得、教員としての能力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 幼児期から児童期の言葉の発達を理解し、言葉に対する感覚や表現について概要を説明することができる。</li> <li>○ 小学校国語科の内容について基礎的な知識を身に付け、系統的な指導法の必要性を説明することができる。</li> <li>○ 日本文学史の概要および代表的な作品について説明することができる。</li> <li>○ 毛筆と硬筆による「書写」指導の内容について理解し、自身の書写の基礎的な技能を高めることができる。</li> <li>○ 言語を用いた種々の表現活動をグループで協働的に創造することができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に人間形成専攻のDP④「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的な技能を身に付け、活用することができる。」(初等コース)「幼児教育・保育の専門的知識や保育技術、音楽や図画工作、体育などの基礎的な技能を身に付け、活用することができる」(幼保コース)の達成に関わる科目です。2年次履修科目の「初等教科教育法(国語)」を履修するために必要な基本的事項を身に付けることができます。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション、人間と言葉	復習：言葉の機能やはたらきについてまとめる。	
第2回	言葉と生活(方言、外来語、流行語)	予習：自分の地域の方言で詩を書き換える。	
第3回	国語辞典と漢和辞典	復習：時代と言葉について考えをまとめる。	
第4回	言語活動①(読み聞かせ)	予習：読み聞かせの思い出を書く。 復習：思い出の絵本を再読する。	
第5回	言語活動②(音読・朗読)	予習：課題の音読練習をする。 復習：音読、朗読についてまとめる。	
第6回	言語活動③(詩、短歌、俳句)	予習：詩、短歌、俳句を創作する。 復習：それぞれの良さをまとめる。	
第7回	日本の文学①(上代～中世) ブックトークをする。	予習：提示された時代の文学作品を探す。	
第8回	日本の文学②(近世～現代) ブックトークをする。	予習：提示された時代の文学作品を探す。	
第9回	「話すこと・聞くこと」の指導について	予習：「小学校学習指導要領解説国語編」を読む。	
第10回	「書くこと」の指導について	予習：「小学校学習指導要領解説 国語編」を読む	
第11回	「読むこと」の指導について	予習：「小学校学習指導要領解説 国語編」を読む	
第12回	「伝統的な国語文化と国語の特質に関する事項」の指導について	予習：「小学校学習指導要領解説 国語編」を読む	
第13回	書体の種類：書写①(毛筆による楷書)	予習：「小学校学習指導要領解説 国語編」を読む	
第14回	書体の種類：書写②(硬筆)	予習：「小学校学習指導要領解説 国語編」を読む	
第15回	言語活動における交流活動について、まとめ	復習：交流活動の意義について 授業個人評価	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	40% 講義内容や配付資料に沿って基本的なことを問題とする。		
レポート	20% 課題として出されたことを提出する。		
小テスト等	10% 漢字の小テスト		
成果発表	20% グループで予習したことを発表する。		
受講態度他	10% 質問、意見発表など積極的な授業参加を求める。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回、読み聞かせと講義内容についての予習発表を実施します。(全員で順番に実施) 自分の分担の時には絵本を選んで、読み聞かせの練習をしておいてください。 第4回は国語辞典と漢和辞典を用意してください。</p>		
教科書	小学校学習指導要領解説(国語編)、幼稚園教育要領		
指定図書	なし		
参考図書	授業の際に適時指示します。		
オフィスアワー	火曜日午前、木曜日午後	メールアドレス	



授業科目	初等算数科概論 I		開講時期	前期
担当教員	石原 努		単 位	2
授業の目的と概要	<p>幼稚園教育要領、及び、小学校学習指導要領解説「算数編」の目標・内容（A数と計算、B量と測定、C図形、D数量関係）・算数的活動等を踏まえ、幼児期から児童期における、数量や図形に対する関心や数学的なものの見方や考え方等の特徴を理解することを目的とする。</p> <p>また、各学年における内容（A～Dの4領域）の系統性や算数的活動の意義を理解し、それに関する基礎的な理論や知識を習得することを目的とする。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児期から児童期における数に対する関心や数学的なものの見方・考え方等の特徴について説明することができる。</li> <li>・4領域（A数と計算、B量と測定、C図形、D数量関係）の内容、及び、系統性に関する基礎的な理論を説明することができる。</li> <li>・各領域における算数的活動について列挙することができる。</li> <li>・算数科に関する基本的な概念や用語等を踏まえ、的確に用いることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、初等教育コースのDP4「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的技能を身に付け、活用することができる。」と幼児保育コースのDP4「幼児教育・保育の専門的知識や保育技術、音楽や図画工作、体育などの基礎的技能を身に付け、活用することができる。」の達成に関わる科目です。他教科等の概論も受講することで、教科の特性を理解することにつながります。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
1	本講義の概要、及び、幼児期における数量や図形に対する関心	講義内容を復習し、幼児期の数に対する関心・見方等の特徴をまとめる。		
2	小学校算数科の目標・内容・算数的活動	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（P14～17）を熟読する。		
3	A数と計算①（整数・小数・分数の概念・表記）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（数と計算領域）を熟読する。		
4	A数と計算②（整数とその計算）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（数と計算領域）を熟読する。		
5	A数と計算③（小数と分数とその計算）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（数と計算領域）を熟読する。		
6	A数と計算④（見積り・概算）	第3～6回の講義内容を復習し、数と計算領域の系統性を把握する。		
7	B量と測定①（長さ・重さ）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（量と測定領域）を熟読する。		
8	B量と測定②（面積・体積）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（量と測定領域）を熟読する。		
9	B量と測定③（単位量当たりの大きさ・速さ）	第7～9回の講義内容を復習し、量と測定量域の系統性を把握する。		
10	C図形①（図形の概念形成・作図）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（図形領域）を熟読する。		
11	C図形②（平面図形）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（図形領域）を熟読する。		
12	C図形③（立体図形）	第10～12回の講義内容を復習し、図形領域の系統性を把握する。		
13	D数量関係①（関数）	講義内容を復習し、学習指導要領解説算数編（数量関係領域）を熟読する。		
14	D数量関係②（資料の整理・表とグラフ・平均）	第13～14回の講義内容を復習し、数量関係領域の系統性を把握する。		
15	算数科概論のまとめ	第1回講義内容～第14回講義内容についてまとめる。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	70% 定期試験期間中に60分間のテストを行う。内容の詳細は、授業内に指示する。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 授業への真摯な取り組みや積極的な授業参加を考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちのよい履修態度で臨むこと。</li> <li>・指示された内容がある場合は、必ず、予習・復習をすること。</li> </ul>			
教科書	文部科学省 『小学校指導要領解説（算数編）』 東洋館出版社 文部科学省 『幼稚園教育要領』 教育出版			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスアワー	火曜日4限、水曜日2限	メールアドレス		

授業科目	初等算数科概論Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	石原 努		単 位	2
授業の目的と概要	小学校学習指導要領解説「算数編」の目標・内容（A数と計算、B量と測定、C図形、D数量関係）・算数的活動等を踏まえ、各学年における主な指導内容、及び、その内容の系統性や位置付けを理解することを目的とする。また、それに基づいた具体的な指導法を習得することを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各領域における特徴的な算数的活動を踏まえた指導法について説明することができる。</li> <li>子どもの数学的な考え方や問題解決の流れを踏まえた指導法について理解し説明することができる。</li> <li>学習指導要領の目標や内容を踏まえた指導方法の理論を応用することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、初等教育コースのDP4「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的技能を身に付け、活用することができる。」の達成に関わる科目です。他教科等の概論も受講することで、教科の特性を理解することにつながります。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
1	本講義の概要説明・学習指導要領解説（算数編）の変遷について	現行の学習指導要領の特色を整理しまとめる。		
2	算数的活動の位置付け・算数科における言語活動の充実について	算数的活動の意味・言語活動の充実についてまとめる。		
3	授業展開（授業形態・指導方法・問題解決学習）について	講義内容を復習し、基本的な授業展開について理解を深める		
4	第1・2学年の主な指導内容・指導方法について①（数と計算）	講義内容を復習し、第1・2学年における特徴的な指導方法をまとめる。		
5	第1・2学年の主な指導内容・指導方法について②（数と計算・量と測定）	講義内容を復習し、第1・2学年における特徴的な指導方法をまとめる。		
6	第1・2学年の主な指導内容・指導方法について③（図形・数量関係）	講義内容を復習し、第1・2学年における特徴的な指導方法をまとめる。		
7	第3学年の主な指導内容・指導方法について①（数と計算・量と測定）	講義内容を復習し、第3学年における特徴的な指導方法をまとめる。		
8	第3学年の主な指導内容・指導方法について②（図形・数量関係）	講義内容を復習し、第1～3学年の指導についてレポートにまとめる。		
9	第4学年の主な指導内容・指導方法について①（数と計算・量と測定）	講義内容を復習し、第4学年における特徴的な指導方法をまとめる。		
10	第4学年の主な指導内容・指導方法について②（図形・数量関係）	講義内容を復習し、第4学年における特徴的な指導方法をまとめる。		
11	第5学年の主な指導内容・指導方法について①（数と計算・量と測定）	講義内容を復習し、第5学年における特徴的な指導方法をまとめる。		
12	第5学年の主な指導内容・指導方法について②（図形・数量関係）	講義内容を復習し、第5学年における特徴的な指導方法をまとめる。		
13	第6学年の主な指導内容・指導方法について①（数と計算・量と測定）	講義内容を復習し、第6学年における特徴的な指導方法をまとめる。		
14	第6学年の主な指導内容・指導方法について②（図形・数量関係）	講義内容を復習し、第4～6学年の指導についてレポートにまとめる。		
15	指導内容・指導方法・授業形態等に関するまとめ	第1回講義内容～第14回講義内容をまとめる。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50% 定期試験期間中に60分間のテストを行う。内容の詳細は、授業内に指示する。			
レポート	30% 授業内で課題を指定したレポートを提出する。内容の詳細は、授業内に指示する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 授業への真摯な取り組みや積極的な授業参加を考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちのよい履修態度で臨むこと。</li> <li>指示された内容がある場合は、必ず、予習・復習をすること。</li> </ul>			
教科書	文部科学省『小学校指導要領解説（算数編）』東洋館出版社			
指定図書	指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスワー	月曜日3限、水曜日2限	メールアドレス		

授業科目	初等社会科概論	開講時期	前期
担当教員	松本 和寿	単位	2
授業の目的と概要	<p>小学校社会科について、その性格と歴史、学習指導要領に基づく目標と内容の取り扱いを理解するとともに、小学校社会科の内容について基礎的な理論および知識を習得することを目的とする。</p> <p>『小学校学習指導要領解説社会編』に基づき社会科の目標や内容、指導計画作成上の留意点などに関する講義を行う。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校社会科の成立過程、変遷、目標、内容について述べることができる。</li> <li>・ 小学校社会科の学習内容について基礎的理論および知識について説明することができる。</li> <li>・ 社会を取り巻く諸問題について国土および国際的視点から興味・関心を持ち、述べるすることができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に初等コースのDP④「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的技能を身に付け、活用することができる。」の達成に関わる科目です。</p> <p>2年次「初等教科教育法（社会科）」に関連します。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	教育課程編成の必要性（教育基本法、学校教育法等を踏まえて）	『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第2回	社会科の目標と学年の目標	『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第3回	3・4年生の目標と内容①（身近な地域、地域の生産や販売等）	『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第4回	3・4年生の目標と内容②（地域の安全を守る諸活動、地域の発展に尽くした人々等）	『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第5回	5年生の目標と内容①（我が国の国土の様子と国民生活との関連）	『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第6回	5年生の目標と内容②（我が国の農業や水産業の様子と国民生活との関連）	『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第7回	5年生の目標と内容③（我が国の工業の様子と国民生活との関連）	『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第8回	5年生の目標と内容④（我が国情報産業などの様子と国民生活との関連）	『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第9回	6年生の目標と内容①（我が国の歴史上の主な事象①縄文～奈良・平安）	『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第10回	6年生の目標と内容②（我が国の歴史上の主な事象②鎌倉・室町・江戸）	『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第11回	6年生の目標と内容③（我が国の歴史上の主な事象③明治・昭和）	『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第12回	6年生の目標と内容④（我が国の政治の働き、日本国憲法の考え方）	『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第13回	6年生の目標と内容?（我が国とつながりの深い国の人々の生活、国際社会における我が国の役割）	『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第14回	社会科で身に付ける学力とは（評価の観点）	『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
第15回	まとめ（社会科の指導計画作成上の留意点）	『小学校学習指導要領解説社会編』の該当部分を読み込む。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	80％		
レポート	なし。		
小テスト等	なし。		
成果発表	なし。		
受講態度他	20％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと。		
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説（社会編）』東洋館出版社		
指定図書	指定しない。		
参考図書	授業の際に指示する。		
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み（他の時間帯でも可能な場合あり）	メールアドレス	

授業科目	初等生活科概論		開講時期	後期
担当教員	石原 努		単位	2
授業の目的と概要	幼稚園教育要領、及び、小学校学習指導要領解説「生活編」をもとに、「児童が、具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えることができる」という生活科の授業の在り方やその位置づけについて理解することを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児期と児童期のよりよい接続の在り方について説明することができる。</li> <li>・ 幼児期、児童期における子どもと身近な人々、自然、社会との関わり的重要性について述べるることができる。</li> <li>・ 生活科の目標や特色、学習内容の概要を述べるることができる。</li> <li>・ 生活科の授業を仕組む際の留意点やその際の教師の関わりについて考えを深めることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、初等教育コースのDP4「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的技術を身に付け、活用することができる。」と幼児保育コースのDP4「幼児教育・保育の専門的知識や保育技術、音楽や図画工作、体育などの基礎的技術を身に付け、活用することができる。」の達成に関わる科目です。他教科等の概論も受講することで、教科の特性を理解することにつながります。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
1	本講義の概要、及び、幼児教育と小学校教育の概要について	幼児期から児童期へのよりよい接続の在り方を簡潔にまとめる。		
2	生活科新設の経緯とスタートカリキュラム	スタートカリキュラムについて簡潔にまとめる。		
3	学習指導要領「生活編」の基本方針	学習指導要領解説「生活編」（講義内容に関連する部分）を熟読する。		
4	生活科の目標と内容	学習指導要領の生活科の教科目標・学年目標・内容の階層性部分を熟読		
5	生活科の特色と協同学習	講義内容を復習し、生活科の指導の特色等をまとめる。		
6	児童の生活圏としての環境に関する内容①（学校施設）	講義内容の復習と、学習指導要領解説生活編「内容（1）」の熟読		
7	児童の生活圏としての環境に関する内容②（家庭生活）	講義内容の復習と、学習指導要領解説生活編「内容（2）」の熟読		
8	児童の生活圏としての環境に関する内容③（地域社会）	講義内容の復習と、学習指導要領解説生活編「内容（3）」の熟読		
9	低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容①（公共施設）	講義内容の復習と、学習指導要領解説生活編「内容（4）」の熟読		
10	低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容②（自然環境）	講義内容の復習と、学習指導要領解説生活編「内容（5）」の熟読		
11	低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容③（造形活動）	講義内容の復習と、学習指導要領解説生活編「内容（6）」の熟読		
12	低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容④（動植物と生命）	講義内容の復習と、学習指導要領解説生活編「内容（7）」の熟読		
13	低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容⑤（人との関わり）	講義内容の復習と、学習指導要領解説生活編「内容（8）」の熟読		
14	自分自身の生活や成長に関する内容	講義内容の復習と、学習指導要領解説生活編「内容（9）」の熟読		
15	生活科概論のまとめ	第1～14回の講義内容についてまとめる。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	70% 定期試験期間中に60分間のテストを行う。内容の詳細は、授業内に指示する。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 授業への真摯な取り組みや積極的な授業参加を考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気持ちのよい履修態度で臨むこと。</li> <li>・ 指示された内容がある場合は、必ず、予習・復習をすること。</li> </ul>			
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説（生活編）』日本文教出版 文部科学省『幼稚園教育要領』教育出版			
指定図書	指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスアワー	月曜日3限、火曜日2限	メールアドレス		

授業科目	初等理科概論	開講時期	前期
担当教員	平山 静男	単 位	2
授業の目的と概要	小学校における理科教育、理科授業の理解を深めるために、学習指導要領解説を中心に学修する。授業は、わが国の理科教育の課題、求められている理科授業、学習指導要領改定の経緯・趣旨、理科の目標及び内容、指導計画の作成及び内容の取扱いに当たっての配慮事項から成る。		
到達目標	1, わが国の理科教育の課題、求められている理科教育について説明することができる。 2, 小学校学習指導要領解説理科編に示されている内容について説明することができる。 3, 指導計画の作成と内容の取扱いについて、具体的な指導をもとに説明することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、初等教育コースのDP「教科指導の専門的知識や技術指導、基礎的技能を身に付け、活用することができる。」の達成に関わる科目です。「初等教育の専門的な知識や技能を身につけ、実践へと発展する学修」で、他教科の初等教科概論と比較することで理解が深まります。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の目的と概要、わが国の理科教育の課題	レポート作成	
第2回	求められている理科授業	復習	
第3回	改訂の経緯、理科改訂の趣旨	復習	
第4回	理科の目標、理科の内容区分	復習	
第5回	学年目標と学年内容の構成の考え方	復習	
第6回	第3学年の目標及び内容	復習	
第7回	第4学年の目標及び内容	復習	
第8回	第5学年の目標及び内容	復習	
第9回	第6学年の目標及び内容	復習	
第10回	指導計画の作成に当たっての配慮事項（自然体験、科学的な体験、学習活動の充実）	復習	
第11回	指導計画の作成に当たっての配慮事項（博物館や科学学習センターの活用）	復習	
第12回	指導計画の作成に当たっての配慮事項（コンピュータ、視聴覚機器などの活用）	復習	
第13回	内容の取扱いに当たっての配慮事項（事故の防止）	復習	
第14回	内容の取扱いに当たっての配慮事項（地域の自然に親しむ活動、体験的な活動、環境保全）	復習	
第15回	内容の取扱いに当たっての配慮事項（実感を伴った理解）	復習、レポート作成	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし。		
レポート	60%。学習指導要領解説の理解を深める課題についてレポートにまとめる。2回。		
小テスト等	なし。		
成果発表	20%。課題についての発表。		
受講態度他	20%。授業に臨む意欲や受講態度について、主として意見発表や質問などにより評価する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。		
教科書	文部科学省『小学校学習指導要領解説 理科編』大日本図書		
指定図書	なし。		
参考図書	日本理科教育学会編著『今こそ理科の学力を問う』東洋館出版社		
オフィスアワー	授業の前後。	メールアドレス	

授業科目	書道・書道史 I		開講時期	前期
担当教員	高丘 裕美		単 位	2
授業の目的と概要	現代はコンピュータの発達で手書きすることが少なくなった。しかし 人類が長い年月をかけて意思伝達のために作り上げ、人間にしか書けない文字をおろそかにしては、真の交流、文化の継承が正しく行われない。個性を大切にす今 「速く 正しく @美しく」 書けるようになり、日常使用する行書の基本的な能力を伸ばし、書を感じ取る基礎的な能力を身につけることを目的とする。			
到達目標	①漢字の基礎を学び、行書の代表作品の特徴について考察する。基本的運筆・用筆、行書の書風と特徴が理解できるようになる。 ②書くことにより、こころが落ち着いて精神統一ができるようになる。 ③蘭亭序を臨書して、自分の進歩の理解ができるように綴じて提出する。 ④色紙 条幅に書いて作品に仕上げる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 書道史 漢字の発生と変遷	書体についての説明	講義 プリント 甲骨文 篆書 隸書 @楷書 行書 草書とはどんな書体か		
第2回 用具用材についての説明	臨書 模書 倣書・創作とはどんなものか	講義 プリント		
第3回 楷書の基本点画と用筆・運筆法	唐の四大家について 隸書「平和」	実技 プリント		
第4回 孔子廟堂碑 「宇宙」 臨書		実技 プリント 直で書くと字形は向勢となることを理解して書く		
第5回 九成宮醴泉銘 半紙に「四海」 臨書		実技 プリント 側筆で書くと字形は背勢になることを理解して書く		
第6回 雁塔聖教序 半紙に「玄奘法師」 臨書		実技 プリント 用筆法は俯仰法とよばれ行書に近い楷書		
第7回 行書の書き方 王羲之蘭亭序について説明 半紙臨書		実技 P 1 P 2 楷書とは異なる抑揚・緩急・線の太細などに留意		
第8回 蘭亭序を半紙に臨書		実技 P 3 P 4		
第9回 蘭亭序を半紙に臨書		実技 P 5 P 6		
第10回 蘭亭序 色紙に四文字臨書		実技 P 1 ~ P 5		
第11回 蘭亭序 条幅臨書		実技 P 6 ~ P 1 1		
第12回蘭亭序 条幅臨書		実技 P 1 2 ~ P 1 7		
第13回 蘭亭序 条幅臨書		実技 P 1 8 ~ P 2 1		
第14回 蘭亭序 条幅臨書		実技 P 4 5 ~ 5 4		
第15回 作品をまとめ提出 氏名の練習		復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 作品をすべてまとめて提出、色紙・条幅・半紙による作品で判定する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 意欲的に授業に参加しているか。毎時間の提出物			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の最初に説明をするので遅刻しないこと。30分以上の遅刻2回は欠課1とします。 授業中の飲食・携帯電話の使用は禁止			
教科書	『手本蘭亭序』教育図書株式会社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後に相談ください	メールアドレス		

授業科目	書道・書道史Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	高丘 裕美		単 位	2
授業の目的と概要	漢字をもとに日本で作られた仮名 その成立と発達の概要を学び、日本の美の特徴を考察することにより、より深く仮名を理解できるようにする。古筆を読めるようになるだけでなく 王朝芸術からの始まりであるため 漢字を書く紙と異なり、装飾された紙(料紙) 和歌にも興味をもち 技法の特徴である優美・流麗・繊細な世界を感じとる。			
到達目標	①仮名の成立について基本的な理解をもち、その変遷の概要を知る ②用筆と字形の関連を学び、基本用筆 および連綿の美しさを習熟する ③古筆が読めるように、また仮名の発達と美しさの表現方法を学ぶ ④日本独特の紙 色紙 短冊 懐紙に書いて作品にする			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	仮名の成立と変遷 用具用材の説明 紙の説明	プリント 西本願寺本三十六人集料紙		
第2回	仮名の種類 平がなの単体 変体かな 万葉仮名	プリント 鉛筆でいろは仮名を書く 仮名の筆使いの練習		
第3回	基本用筆 連綿 古筆についての説明	プリント 実技 大筆で連綿の練習		
第4回	高野切第一種・第二種・第三種について説明	実技 P 2 一首模書練習 清書		
第5回	高野切第三種を模書 直筆を主体に張りのある細い線で書く 字間 行間 墨つぎに注意する	実技 P 4 2首模書 清書		
第6回	高野切三種 模書臨書	実技 P 5 一首詞書作者和歌 料紙に清書		
第7回	高野切三種 模書臨書	実技 P 1 0 P 1 1 詞書和歌一首および返し歌		
第8回	高野切三種 臨書 短冊に書く 短冊の書式 三つ折り半かかりの説明	実技 P 1 2 P 1 3		
第9回	半懐紙に散らし書き	P 5		
第10回	色紙に高野切を臨書	P 1 0 P 1 1		
第11回	高野切三種 色紙に散らし書き 歌を拡大コピーし半紙に切り貼りして自分で手本を作って書く	P 2 5		
第12回	高野切三種 草仮名で書かれた旋頭歌の臨書	P 1 9		
第13回	高野切三種 料紙に清書	P 3 4		
第14回	今までの作品をまとめる 中学生に指導するためのかなの説明	プリント		
第15回	実用書道 のし書き 名前と住所の練習	プリント		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 実技作品で判定			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 意欲的に授業に参加しているか 毎時間の提出物 忘れ物			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の最初に説明をするので 遅刻しないこと 用具用材は必ず持参すること 30分以上の遅刻2回は欠課1とする 事業中の飲食・携帯電話の使用は禁止			
教科書	伝紀貫之『高野切第三種』二玄社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	視覚障がい者の心理と教育	開講時期	前期
担当教員	神野 國男	単位	2
授業の目的と概要	<p>○「盲目は不自由なれど不幸にあらずとしみじみ思う」と京都ライトハウス創設者、故鳥居篤次郎は述べている。障害者には健常者の想像を超えた不自由と苦しみがある。しかし、多くの障害者が並々ならない努力を重ねて、人間としての権利を獲得・行使し、社会的責任を果たし、人生の充実を達成してきた歴史と現実を深く理解する。○視覚障害児（者）の自立や社会参加に向け、主体的な取り組みを改善・支援するという「特別支援教育」の理念を深く理解し、実践力を養う。○視覚障害者に対する社会保障の実態を理解し、より良い「共生社会」のあり方を考える。</p> <p>○視覚障害児（者）の学校生活や日常生活について、ビデオやテープなどの視聴・点字の基礎学習・疑似体験を通して理解を深める。○この教科書は盲学校教育の実態を踏まえて、充実した研究を進めている6名の先生方の共同執筆です。しっかり予習・復習し、質問や意見発表が活発になされることを期待します。</p>		
到達目標	<p>①さまざまな視機能障害・疾病・心理・見え方の実際を理解し、適切な配慮をもって指導することができる。</p> <p>②視覚障害の実際に応じた適切な教材・教具・補装具（点字・文字拡大・IT機器等）などを工夫・活用するための基礎知識を習得する。</p> <p>③点字のしくみと基本的な規則を理解し、簡単な点字文が読み書きできるようになる。</p> <p>④視覚障害者教育の歴史とこれからの社会保障の在り方や「共に生きる社会」について理解を深める。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション（見えない、見えにくい生活とは）	視覚障害児・者と教育の場の実際について考える	
第2回	視機能とその障害に関する知識、眼疾患等	主な眼疾患と見え方の特徴について、テキスト以外の文献等も参照し理解する	
第3回	視覚障害教育の歴史	明治以降の日本の視覚障害教育と社会の変遷について考える	
第4回	点字読み書きの基本1（点字の歴史・しくみ・かな遣い・数字・アルファベットの書き方）	点字の50音のしくみを理解し、短い単語や語句の点字を読み書きする	
第5回	点字読み書きの基本2（分かち書き、複合語・固有名詞・記号類等）	分かち書きの基本を理解し、短い点字文を読み書きできるようになる	
第6回	点字読み書きの基本3（点字文の読み方・書き方）	点字文を墨字訳する	
第7回	盲児の指導（触察指導、点字など）	視覚以外の感覚を使った「体験」・触察の指導ポイント等について	
第8回	弱視児の指導（見やすい環境の整備・教材の工夫）	弱視児の教材作成における配慮点について考える	
第9回	教育課程、教科の指導	「準ずる教育」、指導内容の精選、指導法の工夫	
第10回	視覚障害児童生徒のための教科書	点字の教科書・拡大教科書の作成・利用法の工夫を考える	
第11回	自立活動の指導（自立活動の目的・内容と指導計画）	参考：「見えなくても歩いていく～京都ライトハウス鳥居寮の日々」（NHK）	
第12回	歩行指導（白杖歩行、ランドマーク等）と移動介助など	「ガイドブック～視覚障害者とともに～」(福岡市民生局)を読み考える	
第13回	ノーマライゼーションの理念と課題、バリアフリー社会について	「ノーマライゼーションとバリアフリー」(横浜市立盲学校HP)を読み考える	
第14回	キャリア教育・進路指導	盲学校高等部普通科の進路指導の実態と課題について資料をもとに考える	
第15回	まとめ、「視覚障害児(者)と共に生きること」とは。小テスト。	全盲ろうの主婦と点訳サークルとの9年間の交流活動事例	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40% 眼疾患・視機能評価について調査、授業の感想、点字文の墨字訳など		
小テスト等	40% 視覚障害教育（障害の特徴・教科指導・自立活動など）、支援の在り方、点字について		
成果発表	なし		
受講態度他	20% 出席状況および質問・意見発表など積極的な授業参加を評価します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	障害者と関わる人に求められる最も大切な心は「障害者の不自由や苦しみに真摯に寄り添い、理解しようとする態度」から育ちます。積極的な授業参加を求めます。		
教科書	青柳まゆみ・鳥山由子編著『視覚障害教育入門』ジアース教育新社		
指定図書	なし		
参考図書	香川邦生編著『改訂版 視覚障害者教育に携わる方のために』慶應義塾大学出版株式会社・石田由香里・西村幹子著「くできること」の見つけ方」・光成沢美著『指先で紡ぐ愛～グチもケンカもトキメキも』講談社、その他授業中に適宜紹介します		
オフィスアワー	木曜昼休み、非常勤講師室などで。	メールアドレス	



授業科目	【閉講】資源とエネルギー		開講時期	前期
担当教員	速水 良晃		単位	2
授業の目的と概要	現代文明を支えるために、地質時代の動植物性プランクトンや植物資源が元になっている化石エネルギーが消費され、地球温暖化を生み出している。今までのように、地球全土にわたる物質循環のバランスが壊れ、大きな環境破壊が起こることを無視しながら、生産活動だけを優先するわけにはいかないことを人類は学びつつある。人類が利用可能なエネルギー資源は増えてきているが、社会的な必要量を安く安定的に供給できるかどうかという点において、地球環境保全と両立できるエネルギーの選択は大きな政治課題となっている。この科目ではこのような地球環境問題の最大の課題である資源とエネルギーについて学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 人類の利用できるエネルギー資源を、具体的に説明することができる。</li> <li>② これまでに発生した、エネルギー資源を主な原因とする環境問題について、具体的に説明することができる。</li> <li>③ 自分の生活とエネルギー資源の関係を、具体的に説明することができる。</li> <li>④ 自分の身の回りのエネルギー資源の利用状況について問題点を分析し、幾つかの改善策を提案できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に環境共生社会コースのDP1「環境共生社会実現のための個人や企業の活動のあり方や社会全体の仕組みを説明することができる」の達成に関わる科目である。同じ分類である「循環型社会論」や「環境と経済」などを受講すると相互の理解が深まります。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	ガイダンス：講義のねらい、直面するエネルギー資源（1）		復習	
第2回	直面するエネルギー資源（2）		予習・復習	
第3回	直面するエネルギー資源（3）		予習・復習	
第4回	エネルギー資源と環境保全（1）		予習・復習	
第5回	エネルギー資源と環境保全（2）		予習・復習	
第6回	化石エネルギー（1）		予習・復習	
第7回	化石エネルギー（2）		予習・復習	
第8回	化石エネルギー（3）		予習・復習	
第9回	化石エネルギー（4）		予習・復習	
第10回	電気エネルギー		予習・復習	
第11回	新エネルギー（1）		予習・復習	
第12回	新エネルギー（2）		予習・復習	
第13回	新エネルギー（3）		予習・復習	
第14回	新エネルギー（4）		予習・復習	
第15回	総合的な質問、まとめ、授業評価		予習・復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	90% 定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 授業内容の理解を深める質問（内容と回数）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	分からない所を質問すれば、その内容に応じて加点していきますが、教科書に回答がそのまま書いてあるような質問は対象としません。授業内容の理解を深めて、他の受講者の理解度も高まるような質問を歓迎します。			
教科書	西山・別所 著、「統計データからみる 地球環境・資源エネルギー論」、丸善出版			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	研究会（金曜）・講義・会議時間を除き、いつでも可	メールアドレス		

授業科目	自然科学	開講時期	前期
担当教員	速水 良晃	単位	2
授業の目的と概要	最新の科学に基づいた技術が非常に便利で使いやすい製品の形で普及しているため、私達はそれらの中身の科学や技術の仕組みを知らないでも生活できるが、常にそうではないということを、あちこちで発生する災害時のニュースで知ることが出来る。この授業は現代社会を豊かにそして安全に過ごすために、科学の基本的考え方や新しい技術の仕組みを正しく理解できるようにすることを目的とする。そのためには、中学・高校レベルの科学の基礎知識を使いこなせることが必要である。それらの目的と同時に小学校教員採用試験の受験対策を兼ねて、教員採用試験の理科の問題集（物理と化学の分野）を教科書として使用する。		
到達目標	①授業で採り上げた各トピックについて、科学的説明ができる。 ②科学的説明の論理性を身の回りの事象にも応用できる。 ③授業で採り上げた理科や化学の分野の問題について、正しく解答できる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に人間科学部共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。同じ学部共通科目である「数学基礎」や「数学応用」などを受講することも、この科目の理解に役立つ。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	ガイダンス：講義のねらい、おもしろい題材：シャボン玉の科学	復習	
第2回	身の回りの物質のすがたと性質	予習・復習	
第3回	物質の三態と粒子モデルの導入、物質の性質と分離	予習・復習	
第4回	物質の成り立ち（粒子の構造）	予習・復習	
第5回	物質の溶け方と水溶液の性質、身の回りの物質の溶解度	予習・復習	
第6回	酸とアルカリ、中和反応、酸化と還元、燃焼の仕組み	予習・復習	
第7回	様々な化学変化	予習・復習	
第8回	電流と電気抵抗の基礎、電圧の概念と電流・電圧・抵抗の関係	予習・復習	
第9回	電流の働きとしての電磁誘導・電磁石、電気とエネルギー、発電と蓄電	予習・復習	
第10回	電磁波、複雑な電気回路を解く	予習・復習	
第11回	振り子の動きから探れるもの、てこのつり合い	予習・復習	
第12回	力の働き方（運動の第3法則）	予習・復習	
第13回	運動を記述する要素（運動の基礎）、運動の法則（運動の第1法則と第2法則）	予習・復習	
第14回	仕事と力学的エネルギー	予習・復習	
第15回	総合的な質問、まとめ、授業評価	予習・復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	15% 予習を兼ねて、解答や解説などの教科書の記述についての疑問を、毎回5つ以上、疑問の場所（ページ数、行数）と疑問の内容を箇条書きでまとめる。		
小テスト等	75% 毎回終了時に授業範囲について的小テスト		
成果発表	なし		
受講態度他	10% 授業内容の理解を深める質問（内容と回数）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	分からない所を質問すれば、その内容に応じて加点するが、教科書に解答がそのまま書いてあるような質問は対象としない。授業内容の理解を深めて、他の受講者の理解度も高まるような質問を歓迎する。自然現象も含めて、身の周りの全ての物がどういう仕組みで動いているのか、変化しているのか、日頃から考えておくことが大事である		
教科書	山下 芳樹 山崎 友紀 池田 幸夫 共著『教採受験者から現職教員まで 教採問題から読みとく理科 粒子・エネルギー 編』オーム社		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワー	金曜日（研究会）以外の講義の前後	メールアドレス	

授業科目	自然環境演習		開講時期	前期
担当教員	佐々木 浩		単 位	2
授業の目的と概要	本演習は、人間とその他の自然との距離が大きくなりつつある現在において、実際に自然の中に入り、感じ、調べ、考えることにより、自然への感性を磨き、自然の一部としての人間を理解した上で、身近な環境の生態系の仕組みを理解できるようにすることが目的である。学内にある高雄山や大学近郊において、動植物の知識を学び、その関連性を考え、さらに山から海までの連続した自然の繋がりを考え、高雄山、太宰府市、福岡県の自然環境の問題点を検討し、あるべき自然との関係を考える。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然を感性で感じることができるようになる。</li> <li>・自然の仕組みを理解できるようになる。</li> <li>・身近な自然の問題点を見つめることができるようになる。</li> <li>・身近な自然の問題点を解決する方法を考えることができるようになる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この講義は、環境共生社会コースのDPの一つである「人間と自然環境との調和のための基礎知識を持っている」ようになるための授業である。環境問題を考えるにあたり、地域地域での生態系の構造を理解することは重要である。現在の自然を生態学的に理解し、現状での問題とその解決策を模索することをを行う。これは、「専門ゼミナール」、「卒業ゼミナール」を履修し、そのDPである「現代社会の諸事象の中から問題を発見し、収集した情報を主体的に分析し、協働作業の中で議論し、その成果を発信できる」ようになるための準備になる授業である。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 講義概説			復習をして下さい。	
第2回 生態系の仕組み			復習をして下さい。	
第3回 筑女の森調査（集中1）			復習をして下さい。	
第4回 筑女の森調査（集中2）			復習をして下さい。	
第5回 筑女の森調査（集中3）			復習をして下さい。	
第6回 筑女の森調査（集中4）			復習をして下さい。	
第7回 筑女の森の生態系（まとめ）			レポートの準備をして下さい。	
第8回 提言作成			提言作成の準備をして下さい。	
第9回 太宰府市の生態系調査（文献）			時間外にも文献調査をして下さい。	
第10回 太宰府市の生態系調査（現地）			事前事後の調査をして下さい。	
第11回 太宰府市の生態系（まとめ）			レポートの準備をして下さい。	
第12回 福岡県の生態系調査（文献）			時間外にも文献調査をして下さい。	
第13回 福岡県の生態系調査（現地）			事前事後の調査をして下さい。	
第14回 福岡県の生態系（まとめ）			レポートの準備をして下さい。	
第15回 問題点検討と提言			レポートの準備をして下さい。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	84％ レポート3回提出			
小テスト等	なし			
成果発表	8％			
受講態度他	8％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	個人的事情による欠席はすべて欠席扱いとなります。第3回から第6回の4回は、大学にテントで宿泊して行います。土曜日の午後2コマ、夜に2コマ講義を行います。5月14日（土）の午後から、15日（日）の朝まで実施しますので、受講する人は必ず開けておいてください。雨天で延期になった場合は、梅雨明けに実施する日程を相談したいと思います。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜日 昼休み と 3講時		メールアドレス	

授業科目	自然地理学		開講時期	後期
担当教員	黒田 圭介		単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義では、中学校社会科、高校地理における自然地理のテーマを一通り学ぶことで、社会科教員として持っていてしかるべき知識、技術を修得することを目標とする。自然地理は理系の内容を含むことが多いので、文系の学生諸君には敬遠されがちであるが、地理学を学ぶ上で地球上の諸自然現象を理解しておくことは必須であろう。そこで、難しい内容でも平易かつ理解しやすいように講義を進める。</p> <p>特に本講義では高校地理Bの教科書における自然地理学的内容のうち、地形とケッペンの気候区分を中心に取り上げる。また、教育現場、特に教材研究活動に求められる地理学的解析の技術養成を目指して、簡単な解析作業を何度か行う。何度かプロジェクトを用い、視覚的に分かりやすい授業をこころがける。</p>			
到達目標	<p>*様々な地図(地形図等)を正しく読めるようになり、さらに目的に沿った地図を自ら描けるようになる。</p> <p>*地球表面の形成を総合的に解釈できる(マントル対流→プレートテクトニクス→大地の形成など)。</p> <p>*人為的・自然的な環境変化について理解できる(地球温暖化、都市の形成、自然災害など)。</p> <p>*ある事象について地理学的な視点を持って調査・解析・考察し、報告できるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 自然地理学とは		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。		
第2回 気候1～気候の基礎		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。		
第3回 気候2～海流		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。		
第4回 気候3～ケッペンの気候区分		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。		
第5回 気候4～熱帯、温帯		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。		
第6回 気候5～乾燥帯、亜寒帯、寒帯		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。		
第7回 気候6～日本の四季		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。		
第8回 地図の読み方：等高線について理解を深める		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。		
第9回 マス・ムーブメント：斜面崩壊について学ぶ		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。		
第10回 小地形1～V字谷と扇状地		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。		
第11回 小地形2～沖積平野		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。		
第12回 小地形3～河岸段丘		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。		
第13回 プレートテクトニクスと新期造山帯		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。		
第14回 地震災害～プレート型地震と活断層		*予習・復習のポイントは講義終了後に通知する。		
第15回 大地形～安定大陸、古期造山帯		質問の準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 試験の他に、数回講義中に簡単なレポートを課す。			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	50% 本講義では、出席状況を重視する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*内容は変更になることがある。</p> <p>*正当な理由のある欠席は部分点を与えるので必ず届けること。</p> <p>*予備知識は特に必要ないので、高校地理を受講していなくても履修できる。</p> <p>*特別な事情を除いて、授業開始10分後以降の入室は認めない。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて適宜紹介する。			
オフィスアワー	本講義終了後	メールアドレス		

授業科目	肢体不自由教育		開講時期	後期
担当教員	大霧 香		単 位	2
授業の目的と概要	<p>肢体不自由児・者の教育について知ることを目的とする。また、肢体不自由児・者の心理的・医学的特徴を理解するとともに教育課程、指導や支援の概要について理解を深めていく。授業では肢体不自由児・者の教育の歴史と現状、肢体不自由児・者の基本的理解、教育課程、指導の概説を学び、指導と支援の概要を理解することを目標とする。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肢体不自由児・者の心理的・医学的特徴について説明できる。</li> <li>・肢体不自由児・者の教育について説明することができる。</li> <li>・肢体不自由児・者への指導や支援のあり方について述べる事が出来る。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は人間科学部人間関係専攻発達臨床心理コースDP④「人間が直面する心理・社会的諸問題に対処し、改善・解決を図るために有効な援助方法や社会的資源・制度について説明することができる」に該当する科目である。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	肢体不自由教育の現状に対する基本的理解	資料の通読		
第2回	肢体不自由に対する基本的理解（医学的理解）	ミニレポート		
第3回	肢体不自由に対する基本的理解（心理学的理解）	資料の通読		
第4回	肢体不自由教育の歴史	資料の通読、特別支援学校のホームページ検索		
第5回	肢体不自由児における教育課程・指導法（乳幼児期）	資料の通読		
第6回	肢体不自由児における教育課程・指導法（小学校）	ミニレポート		
第7回	肢体不自由児における教育課程・指導法（中学校）	資料の通読		
第8回	肢体不自由児における教育課程・指導法（高等学校）	資料の通読		
第9回	教科指導（1）肢体不自由の学習における困難	資料の通読		
第10回	教科指導（2）障がい特性に対する工夫	障がい特性の工夫について調べる		
第11回	教科指導（3）自立活動との関連から	ミニレポート		
第12回	動作法について（1） からだとこころ	資料の通読		
第13回	動作法について（2） 身体の動きを通じた指導	資料の通読		
第14回	家族への支援	資料の通読		
第15回	まとめ	期末テストへの準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 定期試験			
レポート	25％ ミニレポート3回			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	5％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	資料を配布しますので、ファイルを準備してください。			
教科書	使用しない			
指定図書	特になし			
参考図書	日本肢体不自由教育研究会監修『肢体不自由教育の基本とその展開』 慶応義塾出版会 （文部科学省）『特別支援学校教育要領・学習指導要領』 海文堂出版			
オフィスワー	月曜日 2講時・昼休み	メールアドレス		

授業科目	肢体不自由者の心理・生理・病理		開講時期	前期
担当教員	森田 理香		単位	2
授業の目的と概要	本授業では、肢体不自由の特徴や肢体不自由児者特有の心理、生理、病理を多様な観点から理解することを目的とする。具体的には、肢体不自由の概念を明らかにし、その上で肢体不自由の状態像について理解する。さらに、障がいの状態や状況に応じた支援の在り方を認識することを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 肢体不自由の概念について説明できる</li> <li>2. 肢体不自由者の状態像について説明できる</li> <li>3. 肢体不自由者の支援について説明できる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は人間関係専攻発達臨床心理コースのDP3「援助や支援の根底に求められる価値観や論理観について説明することができる」に関わる科目です。また、この授業は特別支援における肢体不自由領域の基礎になる授業です。この授業で得た知識は「肢体不自由教育」で肢体不自由者の教育について学ぶ上での基盤になります。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	肢体不自由者総論 障がいとは	障がいの概念についての復習		
第2回	肢体不自由者総論 身体障害の種類	身体障害の種類に関する復習		
第3回	肢体不自由者の発達 障がいの捉え方、2次障害	障がいの捉え方の変遷について復習		
第4回	肢体不自由者の心理 障がいを持つ本人、家族における障がいの受容	「障がい」を受け止めることとはどうか、自分の考えをまとめる		
第5回	肢体不自由者の特徴（心理・生理・病理）の理解① 脳性麻痺とは（定義、原因、障害型、特徴）	脳性麻痺の定義について復習		
第6回	肢体不自由者の特徴（心理・生理・病理）の理解② 脳性麻痺の幼児期	幼児期の脳性麻痺について復習		
第7回	肢体不自由者の特徴（心理・生理・病理）の理解③ 脳性麻痺の児童期・思春期	児童期、思春期の脳性麻痺について復習		
第8回	肢体不自由者の特徴（心理・生理・病理）の理解④ 脳性麻痺の青年期・成人期	青年期、成人期の脳性麻痺について復習		
第9回	肢体不自由者の特徴（心理・生理・病理）の理解⑤ 二分脊椎 ダウン症	二分脊椎、ダウン症について復習		
第10回	肢体不自由者の特徴（心理・生理・病理）の理解⑥ 筋ジストロフィー	筋ジストロフィーについて復習		
第11回	肢体不自由者の支援① 障がい者の社会参加 当事者の話（ゲストスピーカー）	「障がい」とともに生きることについて、自分の考えをまとめる		
第12回	肢体不自由者への支援① 肢体不自由者へのリハビリテーション	肢体不自由者へのリハビリテーションについて復習		
第13回	肢体不自由者への支援③ 療育上留意すべき事項、ポジショニング	生活場面における具体的な支援について復習		
第14回	肢体不自由者への支援④ 障がい者の社会参加	障がい者の社会参加について復習		
第15回	最後のまとめ	講義全体についての復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	100% 学期末の試験 持ち込み不可			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度が不良の場合は学期末の試験の得点から減点します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻、私語は他の受講者の迷惑になりますので慎んで下さい。			
教科書	プリント配布			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に配布			
オフィスワー	火曜日 10:00～12:00	メールアドレス		

授業科目	シネマ英語		開講時期	後期
担当教員	一木 順		単 位	2
授業の目的と概要	さまざまな映画を題材として語彙の習得およびリスニングの練習を行いながら、世界中で数十億人によって公用言語として使用されている英語の多様性を理解する。ハリウッド映画を題材として使いながら、語彙習得やリスニング練習といった言語習得のトレーニングを行い、同時に言語と文化の関係などについても概観する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アメリカ、イギリス、オセアニアなど世界各地で用いられる英語の語法上の違いについて説明できる</li> <li>2. 映画の中で使われるさまざまな英語表現を聞きとることができる</li> <li>3. 映画を教材としながら英語を発話するリズムを身につけることができる</li> <li>4. 言語と文化、社会の関係について説明できる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 授業についての説明			なし	
第 2回 映画と言葉、映画のレーティングと言葉 使用映画『アナと雪の女王』			筑女ネット上の自習ファイルを使用 ポキャブラリークイズ①の準備	
第 3回 映画と言葉、映画のレーティングと言葉② 使用映画『アナと雪の女王』『魔法にかけられて』			筑女ネット上の自習ファイルを使用	
第 4回 映画と言葉、映画のレーティングと言葉 ③ 使用映画『エクスペンダブルズ2』			筑女ネット上の自習ファイルを使用 ポキャブラリークイズ②の準備	
第 5回 アメリカ英語 ① 使用映画『バック・トゥ・ザ・フューチャー』			筑女ネット上の自習ファイルを使用 ポキャブラリークイズ③の準備	
第 6回 アメリカ英語② 使用映画『バック・トゥ・ザ・フューチャー』『ニューイヤーズイブ』			筑女ネット上の自習ファイルを使用	
第 7回 黒人の英語 (Ebonics) 使用映画『ニュージャックシティ』			筑女ネット上の自習ファイルを使用 ポキャブラリークイズ④の準備	
第 8回 黒人の英語 (Ebonics) ② 使用映画『ニュージャックシティ』			筑女ネット上の自習ファイルを使用	
第 9回 イギリス英語とアメリカ英語① 使用映画『ブリジットジョーンズの日記』			筑女ネット上の自習ファイルを使用 ポキャブラリークイズ⑤の準備	
第10回 イギリス英語とアメリカ英語② 使用映画『ブリジットジョーンズの日記』			筑女ネット上の自習ファイルを使用	
第11回 オセアニア地域の英語① 使用映画『クロコダイルダンディ』			筑女ネット上の自習ファイルを使用 ポキャブラリークイズ⑥の準備	
第12回 オセアニア地域の英語② 使用映画『クロコダイルダンディ』			筑女ネット上の自習ファイルを使用	
第13回 アジア地域の英語① 使用映画 未定			筑女ネット上の自習ファイルを使用 ポキャブラリークイズ⑦の準備	
第14回 アジア地域の英語②			筑女ネット上の自習ファイルを使用	
第15回 総合演習とまとめ			なし	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50% (授業の理解度を測るテスト (60分、100点満点))			
レポート	0%			
小テスト等	30% (授業前課題10%を含む)			
成果発表	0%			
受講態度他	20% 授業中の受講態度を勘案する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業内外で筑女ネットを利用する。また使用する映画は変更することがありうる。別途レポートを課すことがある。			
教科書	筑女ネット上のファイルを各自使用すること。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	司法福祉論		開講時期	後期
担当教員	高木 佳世子		単位	2
授業の目的と概要	<p>1. 更生保護の意義（犯罪を犯した人や非行少年をなぜ援助しなければならないのか）を考え、近年の犯罪現象をデータで冷静に把握し、更生保護制度改革の課題についても検討する。</p> <p>2. 成人の刑事司法手続、少年司法手続を概観し、更生保護の位置づけを確認した上で、保護観察と更生緊急保護の制度について詳細に学ぶ。</p> <p>3. 医療観察法の概要と問題点を学ぶ。</p>			
到達目標	<p>1. 更生保護の意義を理解し、福祉の担い手としてのあるべき関わりについて自分なりの考え方ができること。</p> <p>2. 保護観察・更生緊急保護について正確な知識を身に付けること。</p> <p>3. 医療観察法の概要と問題点について理解すること。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>1. この科目は、社会福祉コースのDP「④人間が直面する心理・社会的諸問題や諸課題に対処し、改善・解決を図るために有効な援助法や社会資源・制度について説明することができる。」の達成に関わる科目です。</p> <p>2. 社会福祉士養成科目です。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 更生保護の意義と歴史			はじめに	
第2回 データで見る犯罪現象			資料配付	
第3回 成人の刑事司法手続			第1章第1節	
第4回 少年司法手続			第1章第1節	
第5回 仮釈放・仮退院			第1章第2節	
第6回 保護観察			第1章第3節	
第7回 更生緊急保護			第1章第5節	
第8回 生活環境調整と就労支援			第1章第4節	
第9回 更生保護の担い手（1）保護観察官／保護司			第2章第1節、第2節	
第10回 更生保護の担い手（2）更生保護施設／民間協力者			第2章第3節、第4節	
第11回 関係機関との連携			第3章	
第12回 犯罪被害者等の支援／恩赦			第1章第6節、第7節	
第13回 医療観察法（1）医療観察法の概要、手続きの流れ			第4章第1節	
第14回 医療観察法（2）医療観察法対象者の支援			第4章第2節～第5節	
第15回 更生保護の最近の動向			第5章、資料配付	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1. 日頃馴染みがないと思われる犯罪・非行という事象について、できるだけ具体的な事例を挙げて話したいと思いますので、想像力を働かせて受講してください。</p> <p>2. やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。</p>			
教科書	〔編集〕社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座20 更生保護制度（第3版）』中央法規			
指定図書	法務省法務総合研究所編『平成27年版 犯罪白書』			
参考図書	松本勝編著『更生保護入門』成文堂			
オフィスアワー	水曜2,3限	メールアドレス		



授業科目	シルクロード文化交流史(再)		開講時期	後期
担当教員	大津 忠彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：「シルクロード」を行き交った物・人・情報（思想）の具体例をまなび、古代以来の東西交渉の歴史的役割を理解します。とくに我が国が古代以来、中国・朝鮮半島を経由して、「シルクロード」に由来の文化をいかに多く受容してきたかについて理解する事を目的とします。それらは、普段に私達が日常接する具体的事物、ならわし（慣習）であったりする事を再認識することにもなります。</p> <p>概要：シルクロード（陸路）の地勢を、地図・衛星写真で確認します。そしてそこを行き交った物・人・情報（思想）について、具体的資料をパワーポイント画像やビデオソフトを活用して学びます。また、シルクロードの歴史研究において、探検家の活躍、仏教への関心が重要な役割を果たしたことを再確認します。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「シルクロード」を経由して日本へ伝わったものを列挙することができる。</li> <li>・「シルクロード」を行き交った歴史上の人物とその事績について具体的に述べるができる。</li> <li>・『大唐西域記』や『東方見聞録』を「シルクロード」に関係づけることができる。</li> <li>・「シルクロード」の探検家とその事績について具体的に述べるができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、アジア文化学科のDP④「アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる」という目的の達成に関わる科目です。この科目と共に、「西アジア入門」、「海域文化交流史」を受講すると相互の理解が深まります。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	「シルクロード」：だれが、なにを、どのように定義したのか？	課題①：「シルクロード」関連地図の作成と文物レポート		
第2回	「シルクロード文化」の受容形態－その（1）：「西域」と中国	第4回までに課題①を提出		
第3回	求法僧玄奘とシルクロード－その（1）：インドへの路	第4回までに課題①を提出		
第4回	求法僧玄奘とシルクロード－その（2）：「大唐西域記」	第4回までに課題①を提出		
第5回	「シルクロード文化」の受容形態－その（2）：東大寺と正倉院御物	課題②：「正倉院御物」の1点レポート		
第6回	「シルクロード文化」の受容形態－その（3）：東大寺正倉院御物とその故地	第8回までに課題②を提出		
第7回	遣唐使留学生：井真成とその墓誌資料	第8回までに課題②を提出		
第8回	遣唐使留学僧：玄昉とその周辺	第8回までに課題②を提出		
第9回	シルクロードを西から東へ：プラノ・カルピニとマルコ・ポーロ	課題③：『東方見聞録』より、「ジバング」の項要約		
第10回	『東方見聞録』とジバング	第10回までに課題③を提出		
第11回	シルクロード探検－その（1）：スヴェン・ヘディンと楼蘭遺跡	課題④：シルクロード探検家・探検隊レポート		
第12回	シルクロード探検－その（2）：「大谷探検隊」	第13回までに課題④を提出		
第13回	シルクロード探検－その（3）：オーレル・スタインと敦煌、ダンダン・ウイリク遺跡	第13回までに課題④を提出		
第14回	シルクロードと絹：『大唐西域記』の「蚕繭移入伝説」ほか	課題⑤：『大唐西域記』より、「麻射屠伽藍」の項要約		
第15回	「シルクロード文化交流史」総括	第15回までに課題⑤を提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50% ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50% ②受講態度（含、時々的小テスト成果や提出課題成果）を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・上記「成績評価に関する情報」欄の、①と②の判定組合せが「秀&amp;秀」・「秀&amp;優」を秀、「秀&amp;良」・「優&amp;優」を優、「秀&amp;可」・「優&amp;良」・「優&amp;可」・「良&amp;良」を良、「良&amp;可」・「可&amp;可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。受講態度の良否は成績評価に大きく影響します。講義の進行に集中し自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日の5時間目	メールアドレス		

授業科目	真宗学講読 I 【本願寺派教師】		開講時期	前期
担当教員	宇野 智行		単位	2
授業の目的と概要	浄土真宗の聖典である「浄土三部経」について、成立の歴史、内容に関する知識を得る。特に、浄土真宗の教えの根幹となる用語が、どの箇所にもどのように説かれているのかを知る。さらに、浄土三部経の教えを、現代社会を生きる人々にどう伝えるべきかを考える。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浄土三部経の内容を説明することができる。</li> <li>2. 「阿弥陀仏」「本願」「極楽」「往生」「念仏」などの浄土教のキーワードを解説することができる。</li> <li>3. 浄土三部経に説かれる教えを通して、現代社会がかかえる問題について再考することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程の科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 インTRODクシヨン		配布資料を読む		
第2回 経典の成り立ちと言語		配布資料を読む		
第3回 大乘経典の成立		配布資料を読む		
第4回 浄土三部経：三経の関係		学んだ箇所を音読し、経典の内容や語句の意味をまとめる。		
第5回 「無量寿経」講読（1）：讃仏偈		学んだ箇所を音読し、経典の内容や語句の意味をまとめる。		
第6回 「無量寿経」講読（2）：法蔵菩薩の四十八願		学んだ箇所を音読し、経典の内容や語句の意味をまとめる。		
第7回 「無量寿経」講読（3）：第十八願の内容		学んだ箇所を音読し、経典の内容や語句の意味をまとめる。		
第8回 「無量寿経」講読（4）：第十九願・第二十願の内容		学んだ箇所を音読し、経典の内容や語句の意味をまとめる。		
第9回 「観無量寿経」講読（1）：王舎城の悲劇		学んだ箇所を音読し、経典の内容や語句の意味をまとめる。		
第10回 「観無量寿経」講読（2）：韋提希の願い		学んだ箇所を音読し、経典の内容や語句の意味をまとめる。		
第11回 「観無量寿経」講読（3）：九品往生		学んだ箇所を音読し、経典の内容や語句の意味をまとめる。		
第12回 「阿弥陀経」講読（1）：極楽の莊嚴		学んだ箇所を音読し、経典の内容や語句の意味をまとめる。		
第13回 「阿弥陀経」講読（2）：阿弥陀仏とは		レポート作成		
第14回 現代における浄土三部経の意義		レポート作成		
第15回 まとめ		レポート作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 主に講読に対する態度を評価。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	漢訳原典は必要に応じて配布する。			
教科書	『浄土真宗聖典 註釈版第2版』 本願寺出版社 / 『浄土三部経（現代語訳）』 本願寺出版社			
指定図書	なし			
参考図書	『浄土三部経』上・下 中村元等訳 岩波文庫			
オフィスアワー	火曜日 15:00-16:20	メールアドレス		

授業科目	真宗学講読Ⅱ【本願寺派教師】		開講時期	後期
担当教員	宇治 和貴		単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は、本願寺派の教師資格取得課程、および仏教専修課程履修者のための科目として、浄土真宗の教義を構造的に理解することを目的とする。</p> <p>親鸞聖人の教えを体系的に傾解するために、主著『教行証文類』をはじめとする様々な著述を読み、聖人によって示された浄土真宗の教えを明らかにしたい。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親鸞の代表的な文章を読むことができる。</li> <li>2. 親鸞の教えとはどういうものであるかを説明できる。</li> <li>3. 親鸞聖人の教えと、仏教の普遍的な教えとの関係を説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、本願寺派の教師資格取得課程、および仏教専修課程履修者のための科目として、浄土真宗の教義を構造的に理解することを目的としています。他の本願寺派教師資格取得課程科目と一緒に受講されることをお勧めします。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 導入：仏教の根本教義			課題：真宗学講読Ⅰの復習	
第2回 『顕浄土真実教行証文類』			課題：プリントを読んで講義に臨む	
第3回 『顕浄土真実教行証文類』			課題：プリントを読んで講義に臨む	
第4回 『顕浄土真実教行証文類』			課題：プリントを読んで講義に臨む	
第5回 『正信偈』七高僧部分			課題：プリントを読んで講義に臨む	
第6回 『正信偈』七高僧部分			課題：プリントを読んで講義に臨む	
第7回 『三帖和讃』			課題：プリントを読んで講義に臨む	
第8回 『三帖和讃』			課題：プリントを読んで講義に臨む	
第9回 『愚禿鈔』			課題：プリントを読んで講義に臨む	
第10回 『唯信鈔文意』・『一念多念文意』			課題：プリントを読んで講義に臨む	
第11回 『親鸞聖人御消息』			課題：プリントを読んで講義に臨む	
第12回 『親鸞聖人御消息』			課題：プリントを読んで講義に臨む	
第13回 『恵信尼文書』			課題：プリントを読んで講義に臨む	
第14回 他の著述			課題：プリントを読んで講義に臨む	
第15回 まとめ			期末レポート作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	60％ 提出課題20％、期末レポート40％として評価する。			
小テスト等	—			
成果発表	10％			
受講態度他	30％ 授業参加への意欲、受講態度を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業には、下記の教科書を必ず持参して下さい。			
教科書	『浄土真宗聖典（註釈版第二版）』本願寺出版社			
指定図書	なし。			
参考図書	適宜紹介			
オフィスワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	真宗史Ⅰ【本願寺派教師】		開講時期	前期
担当教員	栗山 俊之		単位	2
授業の目的と概要	<p>親鸞とその後の教団の歴史について、本願寺教団を中心として学ぶ。そのことを通して、浄土真宗の教えが具体的な人間とその社会に何をもたらしたのかについて考察することを目的とする。</p> <p>親鸞の切り開いた宗教的地平は、人びとにどのように理解されたのか。また、のちの教団は如何なる制度と組織を作り上げ、歴史社会の中で、どのような存在意義を発揮したのかということについて学んでいきます。</p>			
到達目標	<p>1、親鸞の生涯について具体的に述べるができる。</p> <p>2、本願寺の成立とその後の歴史的展開について、説明することができる。</p> <p>3、浄土真宗の教えと、その教えに基づいて生きようとした人びととの関係をとおして、自分自身の生き方と現代の社会のありようを見つめ直すことができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程です。「真宗史Ⅱ」に関連する科目です。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション		教科書の目次に目を通す	
第2回	1	親鸞聖人の誕生と出家	「教科書」1～3頁	
第3回	2	法然門下への帰入	「教科書」4～7頁	
第4回	3	専修念仏弾圧と流罪	「教科書」8～12頁	
第5回	4	東国伝道と信者たち	「教科書」13～17頁	
第6回	5	『教行信証』の撰述	「教科書」18～22頁	
第7回	6	善鸞の異義事件	「教科書」23～28頁	
第8回	7	晩年の親鸞聖人	「教科書」29～33頁	
第9回	質疑応答		各自質問を準備する	
第10回	8	大谷廟堂と本願寺（1）	「教科書」34～39頁	
第11回	8	大谷廟堂と本願寺（2）	「教科書」39～43頁	
第12回	8	大谷廟堂と本願寺（3）	「教科書」43～46頁	
第13回	9	蓮如と本願寺教団の発展（1）	「教科書」47～51頁	
第14回	9	蓮如と本願寺教団の発展（2）	「教科書」51～55頁	
第15回	まとめ		講義全体を振り返る	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ レポート試験を行う。			
小テスト等	30％ 講義終了前にB6用紙を配布し、課題に対する解答や講義の感想、質問等を書かせ、それを評価する。			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 講義時の資料講読、講義に向き合う姿勢などを評価。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>講義の対象領域が広いので、進度が速くなります。それを補うため、質疑応答の時間を設けます。積極的に発言してください。</p> <p>また、全学礼拝・礼拝アワーに参加して下さい。感想文の提出により、加点します。</p>			
教科書	『真宗史』本願寺出版社。 加えて、プリントを配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	講義時に紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	真宗史Ⅱ【本願寺派教師】		開講時期	後期
担当教員	金見 倫吾		単 位	2
授業の目的と概要	<p>親鸞とその後の教団の歴史について、本願寺教団を中心として学ぶ。そのことを通して、浄土真宗の教えが具体的な人間とその社会に何をもたらしたのかについて考察することを目的とする。</p> <p>親鸞の切り開いた宗教的地平は、その後の教団にどのように理解されたのか。また、のちの教団は如何なる制度と組織を作り上げ、歴史社会の中で、どのような存在意義を発揮したのかということについて学んでいきます。</p>			
到達目標	<p>1、親鸞の生涯について具体的に述べることができる。</p> <p>2、本願寺教団の歴史的展開について、説明することができる。</p> <p>3、浄土真宗の教えと、その教えに基づいて生きようとした人びととの関係をとおして、自分自身の生き方と現代の社会のありようを見つめ直すことができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	親鸞の生涯とその教え		真宗史Ⅰの復習	
第2回	本願寺の成立から蓮如まで		真宗史Ⅰの復習（「教科書」35～56頁）	
第3回	10	一向一揆のたたかい（1）	「教科書」56～60頁	
第4回	10	一向一揆のたたかい（2）	「教科書」60～65頁	
第5回	11	近世本願寺教団の形成（1）	「教科書」66～70頁	
第6回	11	近世本願寺教団の形成（2）	「教科書」70～76頁	
第7回	12	近世の教学と信仰（1）	「教科書」77～80頁	
第8回	12	近世の教学と信仰（2）	「教科書」80～83頁	
第9回	13	維新政治と真宗（1）	「教科書」84～86頁	
第10回	13	維新政治と真宗（2）	「教科書」86～88頁	
第11回	14	教団の近代化	「教科書」89～94頁	
第12回	15	近代教団の発展（1）	「教科書」95～98頁	
第13回	15	近代教団の発展（2）	「教科書」99～102頁	
第14回	16	近・現代社会と真宗	「教科書」103～107頁	
第15回	まとめ		真宗教団の課題を明確化する	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	40％ レポート試験を行う。			
小テスト等	30％ 2回の課題を行う。			
成果発表	なし。			
受講態度他	30％ 講義に対して積極的に参加し、自分なりの思考・表現ができているかどうかを評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>講義の対象領域が広いので、進度が速くなります。それを補うため、質疑応答の時間を設けます。積極的に発言してください。</p> <p>また、全学礼拝・礼拝アワーに参加して下さい。感想文の提出により、加点します。</p>			
教科書	『真宗史』本願寺出版社 加えて、プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	講義時に紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。		メールアドレス	

授業科目	親鸞・人と思想 I	開講時期	前期
担当教員	栗山 俊之	単 位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>1年次に学んだ仏教の基本を振り返り、親鸞に至るまでの仏教の変遷を確認する。その上で親鸞の生涯を概観し、彼がどのような人生を歩む中で、浄土真宗の教えを築き上げていったのかを学ぶ。そしてその教えが、現代に生きる私たちにどのような指針を与えているのかを考えていく。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浄土教に至るまでの仏教の変遷を説明することができる。</li> <li>2. 親鸞の生涯のうち、転機となった主要な出来事について説明することができる。</li> <li>3. 親鸞の生涯に照らして、自分自身の生き方を振り返ることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、共通科目の DP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成にかかわる科目です。「仏教学Ⅰ」「仏教学Ⅱ」および「親鸞・人と思想Ⅱ」と関連する科目です。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	仏教学の復習	復習・課題レポート	
第2回	仏教の根本思想：苦の自覚	復習・課題レポート	
第3回	大乘仏教の成立：菩薩と慈悲	復習・課題レポート	
第4回	浄土教の展開：阿弥陀仏と極楽浄土	復習・課題レポート	
第5回	仏教の伝来：日本人の仏教受容	復習・課題レポート	
第6回	末法思想と幼少期の親鸞	復習・課題レポート	
第7回	比叡山時代の親鸞	復習・課題レポート	
第8回	法然との出会い	復習・課題レポート	
第9回	越後への流罪	復習・課題レポート	
第10回	恵心尼との結婚	復習・学期末レポート	
第11回	関東での伝道	復習・学期末レポート	
第12回	京都での執筆生活	復習・学期末レポート	
第13回	晩年の親鸞	復習・学期末レポート	
第14回	親鸞の門弟たち	ノートまとめ・全授業の復習・学期末レポート	
第15回	まとめ	ノートまとめ・全授業の復習・学期末レポート	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	全学礼拝・礼拝アワーレポート（20%）・学期末レポート（30%）		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	50% 毎回の「講義の感想／意見」および受講態度により評価する		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席は指定制とする。毎回授業終了時（10分間）に、「講義の感想／意見」を書いて提出すること。		
教科書	配布プリントおよび『聖典』（筑紫女学園大学聖典改訂委員会編）		
指定図書	なし		
参考図書	適宜、授業中に指示する。		
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス	

授業科目	親鸞・人と思想 I	開講時期	前期
担当教員	楠本 信道	単位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>浄土真宗の教えの主な特色について概観した上で、親鸞以前の日本仏教の歴史と親鸞の生涯について学んでいく。そして、その学びを通じて、現代に生きる我々が社会をどう捉え、また社会の中でどう生きていくべきなのかを考えていく。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浄土真宗の教えの主な特色について説明することができる。</li> <li>2. 親鸞の生涯における主な出来事について説明することができる。</li> <li>3. 浄土真宗の教えと親鸞の生涯を学ぶことを通じて、社会と自己の関わりを捉え直すことができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	釈尊から親鸞へ(1)---生と老病死(1)---	予習 聖典 p. 194, 課題(1)レポート	
第2回	釈尊から親鸞へ(2)---生と老病死(2)---	予習 聖典 pp. 195-196, 課題(1)レポート	
第3回	釈尊から親鸞へ(3)---浄土と智慧---	予習 聖典 pp. 108-109, 課題(1)レポート	
第4回	釈尊から親鸞へ(4)---阿弥陀仏---	予習 聖典 pp. 112-113, 課題(1)レポート	
第5回	釈尊から親鸞へ(5)---慈悲---	予習 聖典 pp. 109-111, 課題(1)レポート	
第6回	親鸞以前の日本仏教(1)	予習 聖典 pp. 201-204, 課題(2)レポート	
第7回	親鸞以前の日本仏教(2)	予習 聖典 pp. 201-204, 課題(2)レポート	
第8回	親鸞の生涯(1)---得度---	予習 聖典 pp. 201-204, 課題(2)レポート	
第9回	親鸞の生涯(2)---法然との出会い---	予習 聖典 pp. 201-204, 課題(2)レポート	
第10回	親鸞の生涯(3)---流罪---	予習 聖典 pp. 201-204, 課題(2)レポート	
第11回	親鸞の生涯(4)---伝道・帰洛後	予習 聖典 pp. 201-204, 課題(3)期末レポート	
第12回	親鸞に出会った人(1)	予習 聖典 pp. 201-204, 課題(3)期末レポート	
第13回	親鸞に出会った人(2)	予習 聖典 pp. 201-204, 課題(3)期末レポート	
第14回	宗教を学ぶ意義(1)	ノートまとめ、全講義の復習、課題(3)期末レポート	
第15回	宗教を学ぶ意義(2)	ノートまとめ、全講義の復習、課題(3)期末レポート	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	---		
レポート	40%課題(1)レポート10%, 課題(2)レポート10%, 課題(3)期末レポート20%.		
小テスト等	---		
成果発表	---		
受講態度他	60%毎回の「小レポート」および受講態度により評価する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	『聖典』を予習し、授業で配付したプリントはすべて読んだ上で次回の授業に臨んでください。座席は指定制とします。遅刻、早退、私語、居眠り、携帯電話の使用など、授業態度に問題のある方は、減点の対象とします。レポートの提出期限は厳守すること。		
教科書	教科書：筑紫女学園聖典改定委員編『聖典』及び配布プリント		
指定図書	なし		
参考図書	講義の中で適宜紹介します		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス	

授業科目	親鸞・人と思想 I	開講時期	前期
担当教員	宇治 和貴	単 位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>親鸞は日本の思想史上でも優れて、社会を相対化し、自らがどのように生きることが人間として最も大切かを仏教にもとづいて考えた人物です。その親鸞の宗教が、日本の宗教状況においてどのような意味を持つかを確認します。さらに、その生き方が現代社会に生きる私たちにとってどのような意味を持つかを考えます。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民族宗教と普遍宗教の基本的性格の違いが説明できる。</li> <li>2. 日本に仏教が伝来してから、親鸞に至るまでの流れが説明できる。</li> <li>3. 現代社会の問題について、浄土真宗の視点とはどのようなものかを発言することができるようになる。</li> </ol>		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>本学の建学の精神である「仏教・親鸞精神」を具体的に、自らの人生を考えるにあたっての一つの座標軸として理解することを目指しています。「仏教学 I・II」と関連して理解することを望みます。</p> <p>特にこの授業は、共通科目のDP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成に関わる授業です。「生命」など「いのち」に関する授業を受けるとさらに理解が深まります。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要）	「私語について」課題カード提出	
第2回	日本における宗教状況認識について	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部の課題カード提出	
第3回	仏教の伝来	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部-1の課題カード提出	
第4回	古代日本における宗教	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部-2の課題カード提出	
第5回	聖徳太子の仏教理解と実践	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部-3の課題カード提出	
第6回	行基の仏教理解と実践	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部-5の課題カード提出	
第7回	最澄の仏教理解と実践	「最長の仏教理解」の課題カード提出	
第8回	末法思想と浄土教の関係について	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部-6の課題カード提出	
第9回	法然の仏教理解と実践	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部-8の課題カード提出	
第10回	親鸞の生涯（出生から出家まで）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-1の課題カード提出	
第11回	親鸞の生涯（比叡山での修行）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-2の課題カード提出	
第12回	親鸞の生涯（吉水時代と夢告）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-2の課題カード提出	
第13回	親鸞の生涯（念仏弾圧と流罪）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-3の課題カード提出	
第14回	親鸞をとりまく宗教状況について	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-3の課題カード提出	
第15回	現代社会と浄土真宗	「自分自身の生き方と親鸞の信仰」について課題レポート提出	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	—		
レポート	50%		
小テスト等	—		
成果発表	—		
受講態度他	50%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話・メールなどは厳禁です。学内で開催される全学礼拝などに参加すること。		
教科書	二葉憲香・福嶋寛隆『新編 歴史のなかの親鸞』		
指定図書	特に指定しない		
参考図書	特になし		
オフィスアワー	火～木の3講目	メールアドレス	



授業科目	親鸞・人と思想 I	開講時期	前期
担当教員	小林 久泰	単 位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>1年次に学んだ仏教の基本を振り返り、親鸞に至るまでの仏教の変遷を確認する。その上で親鸞の生涯を概観し、彼がどのような人生を歩む中で、浄土真宗の教えを築き上げていったのかを学ぶ。そしてその教えが、現代に生きる私たちにどのような指針を与えているのかを考えていく。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浄土教に至るまでの仏教の変遷を説明することができる。</li> <li>2. 親鸞の生涯のうち、転機となった主要な出来事について説明することができる。</li> <li>3. 親鸞の生涯に照らして、自分自身の生き方を振り返ることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、共通科目の DP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成にかかわる科目です。「仏教学I」「仏教学II」および「親鸞・人と思想II」と関連する科目です。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	仏教学の復習	復習・課題レポート	
第2回	仏教の根本思想：苦の自覚	復習・課題レポート	
第3回	大乘仏教の成立：菩薩と慈悲	復習・課題レポート	
第4回	浄土教の展開：阿弥陀仏と極楽浄土	復習・課題レポート	
第5回	仏教の伝来：日本人の仏教受容	復習・課題レポート	
第6回	末法思想と幼少期の親鸞	復習・課題レポート	
第7回	比叡山時代の親鸞	復習・課題レポート	
第8回	法然との出会い	復習・課題レポート	
第9回	越後への流罪	復習・課題レポート	
第10回	恵心尼との結婚	復習・学期末レポート	
第11回	関東での伝道	復習・学期末レポート	
第12回	京都での執筆生活	復習・学期末レポート	
第13回	晩年の親鸞	復習・学期末レポート	
第14回	親鸞の門弟たち	ノートまとめ・全授業の復習・学期末レポート	
第15回	まとめ	ノートまとめ・全授業の復習・学期末レポート	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	法話レポート（10%）・課題レポート（10%）・学期末レポート（20%）		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	60% 毎回の「感想ラベル」の記述内容および受講態度により評価する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席は指定制とし、遅刻・私語・居眠りなどは減点します。毎回授業終了時に「感想ラベル」を書いて提出すること。		
教科書	配布プリントおよび『聖典』（筑紫女学園大学聖典改訂委員会編）		
指定図書	なし		
参考図書	適宜、授業中に指示する。		
オフィスワー	水曜 3 講時	メールアドレス	

授業科目	親鸞・人と思想 I		開講時期	前期
担当教員	真名子 晃征		単位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>1年次に学んだ仏教学を復習しながら、親鸞に至るまでの仏教の変遷を確認する。そのうえで、親鸞の生涯を概観し、どのような人生の中でその思想が構築されたのかを学ぶ。また、その生き方が現代に生きる私たちにとって、どのような意味を持つのかを考えていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浄土教に至るまでの仏教の変遷を説明することができる。</li> <li>2. 親鸞の生涯における主要な出来事について説明することができる。</li> <li>3. 親鸞の生涯に照らして、自身の生き方を振り返ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、人間科学部共通科目のDP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成に関わる科目です。1年次の「仏教学Ⅰ」「仏教学Ⅱ」および、2年次の「親鸞・人と思想Ⅱ」と関連する内容です。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 仏教学の復習			復習・課題レポート	
第2回 釈尊の仏教			復習・課題レポート	
第3回 大乘仏教の成立			復習・課題レポート	
第4回 浄土教の展開			復習・課題レポート	
第5回 仏教の伝来			復習・課題レポート	
第6回 末法思想と浄土教			復習・課題レポート	
第7回 親鸞の生涯（幼少期とその時代）			復習・課題レポート	
第8回 親鸞の生涯（比叡山での修行）			復習・課題レポート	
第9回 親鸞の生涯（法然との出会い）			復習・課題レポート	
第10回 親鸞の生涯（越後への流罪）			復習・課題レポート	
第11回 親鸞の生涯（関東での伝道）			復習・学期末レポート	
第12回 親鸞の生涯（京都での執筆）			復習・学期末レポート	
第13回 親鸞の生涯（親鸞の晩年）			復習・学期末レポート	
第14回 親鸞の門弟			復習・学期末レポート	
第15回 まとめ			復習・学期末レポート	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40%（課題レポート20%・学期末レポート20%）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60% 毎回提出する感想・質問、および受講態度によって評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語、携帯電話の使用などは厳禁です。			
教科書	龍谷ミュージアム編『釈尊と親鸞』法蔵館			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、授業中に指示します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	親鸞・人と思想 I		開講時期	前期
担当教員	毛利 俊英		単位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親鸞の生き方を貫いた浄土の教え、特に阿弥陀仏の本願が説明できるようになる。</li> <li>2. 親鸞の生涯を説明できるようになる。</li> <li>3. 親鸞の思想を学ぶことによって、現在の自分のあり方について考えてみる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	親鸞の生きた時代		配布プリントの復習	
第2回	誕生と出家		配布プリントの復習	
第3回	比叡山		配布プリントの復習 課題レポート①	
第4回	比叡山の修行と挫折		配布プリントの復習	
第5回	和国の教主聖徳太子と夢告		配布プリントの復習 課題レポート②	
第6回	法然との出会い		配布プリントの復習	
第7回	法難		配布プリントの復習 課題レポート③	
第8回	越後流罪		配布プリントの復習	
第9回	関東教化（1）		配布プリントの復習	
第10回	関東教化（2）		配布プリントの復習 課題レポート④	
第11回	帰洛		配布プリントの復習	
第12回	善鸞事件		配布プリントの復習	
第13回	往生		配布プリントの復習	
第14回	親鸞とその家族		配布プリントの復習	
第15回	まとめ		配布プリントのまとめ	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 4回の課題レポートと期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60% 毎回の授業で配布するラベルの記述を重視する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>「聖典」を必ず持参すること。講義は授業中に配布するプリントを用います。講義中に与えられた課題レポートは必ず提出すること。なお、聖典忘れ、私語、居眠り、遅刻は減点、許可無き早退は欠席とみなします。学内で開催される全学礼拝、礼拝アワーに積極的に参加すること。</p>			
教科書	『聖典』（筑紫女学園聖典改訂委員会）			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に相談して下さい。		メールアドレス	

授業科目	親鸞・人と思想 I	開講時期	前期
担当教員	金見 倫吾	単位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である浄土真宗とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、浄土真宗の宗祖である親鸞の生涯について知る。さらに、浄土真宗の学びを通じて、社会の中に生きる「自己」を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>親鸞がどのように仏教を理解し、歴史社会のなかで実践していったのかを確認してゆきます。その前提として、「宗教・仏教とはなにか」・「仏教が親鸞の時代までにどのように展開したか」ということを学びます。単に知識を増やすだけにとどまらず、自己の生き方や社会のあり方にとって仏教・親鸞の教えがどのような意味をもつのかといった実践的関心に基づく学習態度を求めます。</p>		
到達目標	<p>1、宗教の二つの型（民族宗教と普遍宗教）について、それぞれの基本的な性格を説明することができる。</p> <p>2、親鸞以前の日本において、仏教がどのように理解され、どのような実践が行われたかを具体的に述べることができる。</p> <p>3、自分自身と現代社会の抱える諸問題について、大乘仏教の視点から発言することができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目の DP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成にかかわる科目です。「仏教学I」「仏教学II」および「親鸞・人と思想II」と関連する科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 日本人の宗教観		予習：教科書1～10頁	
第2回 仏教の成立—その根本的立場—		予習：教科書7～10頁	
第3回 日本における仏教受容		予習：教科書11～15頁	
第4回 聖徳太子の思想と行動		予習：教科書16～26頁	
第5回 行基の思想と行動		予習：教科書27～43頁	
第6回 最澄の思想と行動		予習：教科書44～49頁	
第7回 日本浄土教の展開		予習：教科書50～58頁	
第8回 法然の生涯と教えその1（万人平等の人間観）		予習：教科書59～63頁	
第9回 法然の生涯と教えその2（民族宗教への対応）		予習：教科書59～63頁	
第10回 親鸞の生涯前半その1（出生から出家まで）		予習：教科書67～72頁	
第11回 親鸞の生涯前半その2（比叡山での修行と下山）		予習：教科書73～86頁	
第12回 親鸞の生涯前半その3（専修念仏集団への帰入）		予習：教科書87～107頁	
第13回 親鸞の生涯前半その4（念仏弾圧と流罪）		予習：教科書108～119頁	
第14回 親鸞の生涯前半その5（非僧非俗の立場）		予習：教科書108～125頁	
第15回 前期のまとめ		予習：聖典2～7頁	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30% 期末レポートを実施する。詳細は授業内で指示する。		
小テスト等	20% 2回実施する。詳細は授業内で指示する。		
成果発表	なし		
受講態度他	50% 毎回の講義への感想などから判断する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>私語・携帯電話の使用などは厳禁です。</p> <p>毎回教科書を持参して出席のこと。</p> <p>全学礼拝・礼拝アワー、また講義で紹介した講演会等に積極的に参加して下さい。</p>		
教科書	二葉憲香・福嶋寛隆ら『新編 歴史のなかの親鸞』永田文昌堂 筑紫女学園聖典改定委員会編『聖典』		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に適宜紹介します。		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	親鸞・人と思想Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	栗山 俊之		単位	2
授業の目的と概要	浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深める。前期で学習した親鸞の生涯を踏まえ、後期では親鸞の言葉を記録した『歎異抄』などを通じて、浄土真宗の基本的な教えについてさらに理解を深める。日常生活とは異なる視点から、自分自身の生き方と向き合う時間としたい。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浄土真宗の教えに関する基本的な言葉の意味を説明することができる。</li> <li>2. 『歎異抄』に示された親鸞の言葉について、その趣旨を説明することができる。</li> <li>3. 親鸞の視点に立ち、自分自身の生き方を見つめ直すことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目のDP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成にかかわる科目です。「仏教学Ⅰ」「仏教学Ⅱ」および「親鸞・人と思想Ⅰ」と関連する科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	親鸞の生涯の復習	復習・課題レポート		
第2回	『歎異抄』①	復習・課題レポート		
第3回	『歎異抄』②	復習・課題レポート		
第4回	『歎異抄』③	復習・課題レポート		
第5回	仏教・浄土真宗の教えに生きた人たち	復習・課題レポート		
第6回	仏教・浄土真宗の教えに生きた人たち	復習・課題レポート		
第7回	現代社会の諸問題と仏教・浄土真宗	復習・課題レポート		
第8回	現代社会の諸問題と仏教・浄土真宗	復習・課題レポート		
第9回	現代社会の諸問題と仏教・浄土真宗	復習・課題レポート		
第10回	現代社会の諸問題と仏教・浄土真宗	復習・学期末レポート		
第11回	現代社会の諸問題と仏教・浄土真宗	復習・学期末レポート		
第12回	現代社会の諸問題と仏教・浄土真宗	復習・学期末レポート		
第13回	現代社会の諸問題と仏教・浄土真宗	復習・学期末レポート		
第14回	現代社会の諸問題と仏教・浄土真宗	ノートまとめ・全授業の復習・学期末レポート		
第15回	まとめ	ノートまとめ・全授業の復習・学期末レポート		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	全学礼拝・礼拝アワーレポート(20%)・学期末レポート(30%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 毎回の「講義の感想/意見」および受講態度により評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席は指定制とする。毎回授業終了時(10分間)に、「講義の感想/意見」を書いて提出すること。			
教科書	配布プリントおよび『聖典』(筑紫女学園聖典改訂委員会編)			
指定図書	なし			
参考図書	適宜、授業中に指示する。			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	親鸞・人と思想Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	宇治 和貴		単位	2
授業の目的と概要	<p>浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに、限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深める。</p> <p>親鸞の生涯の後半を学ぶ。併せて、親鸞の思想の特色である他力本願理解などを多角的に学び、自己と人間、社会に対する認識を深めていきます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 親鸞の説いた生き方がどのようなものであったかを説明することができる。</li> <li>2. 親鸞が求めた社会の在り方を説明できる。</li> <li>3. 親鸞思想と私たちの生活の関係性を説明できる。</li> <li>4. 親鸞精神と本学の建学の精神との関係性を説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本学の建学の精神である「仏教・親鸞精神」を具体的に、自らの人生を考えるにあたっての一つの座標軸として理解することを目指します。</p> <p>「仏教学Ⅰ・Ⅱ」「親鸞・人と思想」と関連して理解することを望みます。</p> <p>特にこの授業は、共通科目のDP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成に関わる授業です。「生命」など「いのち」に関する授業を受けるとさらに理解が深まります。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要）	テキスト『歴史のなかの親鸞』に関する課題カード提出		
第2回	親鸞の生涯（復習）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第1部に関する課題カード提出		
第3回	親鸞の生涯（恵信尼との結婚）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-4に関する課題カード提出		
第4回	親鸞の生涯（関東時代の伝道）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-5に関する課題カード提出		
第5回	親鸞の生涯（帰洛と執筆活動）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-6に関する課題カード提出		
第6回	親鸞の生涯（親鸞の求めた社会の在り方について）	テキスト『歴史のなかの親鸞』第2部-8に関する課題カード提出		
第7回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～信心とは～	テキスト『歴史のなかの親鸞』 付録：消息の部に関する課題カード提出		
第8回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～世をいとふしるしとは①～	テキスト『歴史のなかの親鸞』 付録：消息の部に関する課題カード提出		
第9回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～世をいとふしるしとは②～	テキスト『歴史のなかの親鸞』 付録：消息の部に関する課題カード提出		
第10回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～善人と悪人①～	テキスト『歴史のなかの親鸞』 付録：消息の部に関する課題カード提出		
第11回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～善人と悪人②～	テキスト『歴史のなかの親鸞』 付録：消息の部に関する課題カード提出		
第12回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～他力本願とは①～	「他力本願」に関して課題カード提出		
第13回	親鸞の思想『親鸞聖人御消息』から学ぶ ～他力本願とは②～	「他力本願」に関して課題カード提出		
第14回	浄土真宗と社会的課題	「浄土真宗と社会」に関する課題カード提出		
第15回	浄土真宗の目指す生き方と社会	「浄土真宗の目指す生き方」に関して課題カード提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50%			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話・メールなどは厳禁です。学内で開催される全学礼拝などに参加すること			
教科書	二葉憲香・福嶋寛隆『新編 歴史のなかの親鸞』			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	火～木の3講目	メールアドレス		

授業科目	親鸞・人と思想Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	楠本 信道	単位	2
授業の目的と概要	<p>浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに、限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深める。</p> <p>『歎異抄』の講読を通じて、人間の抱える心の問題について学び、親鸞がその問題をどのように捉え、受け入れていったかを学ぶ。さらに、親鸞の気づいた限らない「いのち」という視点から、現代社会の問題や人間存在の意味について考えていく。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>『歎異抄』の成立背景と概要について説明することができる。</li> <li>聖道門・浄土門・凡夫・悪人などの基本的な言葉の意味について説明することができる。</li> <li>親鸞の思想を学ぶことを通じて、現代社会の問題や人間存在の意味を捉え直すことができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	『歎異抄』序---ひそかに愚案を回らして---	予習 聖典 pp.115-116, 課題(1)レポート	
第2回	『歎異抄』第二条---とても地獄は一定すみかぞかし---	予習 聖典 pp.118-120, 課題(1)レポート	
第3回	『歎異抄』第一条---弥陀の誓願不思議にたすけられまゐらせて---	予習 聖典 pp.117-118, 課題(1)レポート	
第4回	『歎異抄』第三条---善人なほもつて往生をとぐ---	予習 聖典 pp.121-122, 課題(1)レポート	
第5回	『歎異抄』第四条---慈悲に聖道・浄土のかはりめあり---	予習 聖典 pp.122-123, 課題(1)レポート	
第6回	『歎異抄』第五条---みなもつて世々生々の父母・兄弟なり---	予習 聖典 pp.123-124, 課題(2)レポート	
第7回	『歎異抄』第六条---如来よりたまはりたる信心---	予習 聖典 pp.124-126, 課題(2)レポート	
第8回	『歎異抄』第七条---念仏者は無碍の一道なり---	予習 聖典 p.126, 課題(2)レポート	
第9回	『歎異抄』第八条---念仏は行者のために非行・非善なり---	予習 聖典 pp.126-127, 課題(2)レポート	
第10回	『歎異抄』第九条---念仏申し候へども---	予習 聖典 pp.127-129, 課題(2)レポート	
第11回	『歎異抄』第十条---念仏には無義をもつて義とす---	予習 聖典 pp.130-131, 課題(3)期末レポート	
第12回	『歎異抄』と現代(1)---生(1)	ノートまとめ, 全講義の復習, 課題(3)期末レポート	
第13回	『歎異抄』と現代(2)---生(2)	ノートまとめ, 全講義の復習, 課題(3)期末レポート	
第14回	『歎異抄』と現代(3)---生(3)	ノートまとめ, 全講義の復習, 課題(3)期末レポート	
第15回	『歎異抄』と現代(4)---老病死	ノートまとめ, 全講義の復習, 課題(3)期末レポート	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	---		
レポート	40%課題(1)レポート10%, 課題(2)レポート10%, 課題(3)期末レポート20%.		
小テスト等	---		
成果発表	---		
受講態度他	60%毎回の「小レポート」および受講態度により評価する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	『聖典』を予習し、授業で配付したプリントはすべて読んだ上で次回の授業に臨んでください。座席は指定制とします。遅刻、早退、私語、居眠り、携帯電話の使用など、授業態度に問題のある方は、減点の対象とします。レポートの提出期限は厳守すること。		
教科書	筑紫女学園聖典改定委員編『聖典』及び配布プリント		
指定図書	なし		
参考図書	講義の中で適宜紹介します		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス	

授業科目	親鸞・人と思想Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	小林 久泰	単位	2
授業の目的と概要	浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深める。前期で学習した親鸞の生涯を踏まえ、後期では親鸞の言葉を記録した『歎異抄』などを通じて、浄土真宗の基本的な教えについてさらに理解を深める。日常生活とは異なる視点から、自分自身の生き方と向き合う時間としたい。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浄土真宗の教えに関する基本的な言葉の意味を説明することができる。</li> <li>2. 『歎異抄』に示された親鸞の言葉について、その趣旨を説明することができる。</li> <li>3. 親鸞の視点に立ち、自分自身の生き方を見つめ直すことができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目のDP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成にかかわる科目です。「仏教学I」「仏教学II」および「親鸞・人と思想I」と関連する科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	親鸞の生涯の復習	復習・課題レポート	
第2回	親鸞の著作と『歎異抄』	復習・課題レポート	
第3回	『歎異抄』成立の背景	復習・課題レポート	
第4回	『歎異抄』第2条：ひたすら信じる道	復習・課題レポート	
第5回	『歎異抄』第1条：もれなく救われる私たち	復習・課題レポート	
第6回	『歎異抄』第3条：言うまでもなく悪人は救われる	復習・課題レポート	
第7回	『歎異抄』第4条：自力で何かを救うことはできるのか	復習・課題レポート	
第8回	『歎異抄』第5条：念仏を唱えるのは供養のためではない	復習・課題レポート	
第9回	『歎異抄』第6条：弟子はとりません	復習・課題レポート	
第10回	『歎異抄』第7条：なにものにも妨げられない道	復習・学期末レポート	
第11回	『歎異抄』第8条：念仏は行でも善でもない	復習・学期末レポート	
第12回	『歎異抄』第9条：救われている実感が湧かない私たち	復習・学期末レポート	
第13回	『歎異抄』第10条：念仏とは何か	復習・学期末レポート	
第14回	『歎異抄』後序：もうひとつの物差し	ノートまとめ・全授業の復習・学期末レポート	
第15回	まとめ	ノートまとめ・全授業の復習・学期末レポート	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	法話レポート(10%)・課題レポート(10%)・学期末レポート(20%)		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	60% 毎回の「感想ラベル」の記述内容および受講態度により評価する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席は指定制とし、遅刻・私語・居眠りなどは減点します。毎回授業終了時に「感想ラベル」を書いて提出すること。		
教科書	配布プリントおよび『聖典』（筑紫女学園聖典改訂委員会編）		
指定図書	なし		
参考図書	適宜、授業中に指示する。		
オフィスワー	水曜3講時	メールアドレス	



授業科目	親鸞・人と思想Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	真名子 晃征	単 位	2
授業の目的と概要	<p>浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに、限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深める。</p> <p>前期で学習した親鸞の生涯を踏まえ、後期では親鸞の著作などから、浄土真宗の基本的な教えについて理解を深める。なかでも「正信念仏偈」を通して、その内容と背景となる思想について学ぶ。そのうえで、親鸞の思想から、現代に生きる私たちの指針となるものを考えていく。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 浄土真宗の教えに関する基本的な用語を説明することができる。</li> <li>2. 「正信念仏偈」に示された内容と、その背景となる思想について説明することができる。</li> <li>3. 現代において、親鸞の思想がどのような意味をもつのかを発言することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、人間科学部共通科目のDP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成に関わる科目です。1年次の「仏教学Ⅰ」「仏教学Ⅱ」および、2年次の「親鸞・人と思想Ⅰ」と関連する内容です。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	親鸞の生涯の復習	復習・課題レポート	
第2回	親鸞の著作とその思想	復習・課題レポート	
第3回	「正信念仏偈」の概要	復習・課題レポート	
第4回	「正信念仏偈」から学ぶ（阿弥陀仏の願い）	復習・課題レポート	
第5回	「正信念仏偈」から学ぶ（どんな者であっても）	復習・課題レポート	
第6回	「正信念仏偈」から学ぶ（南無阿弥陀仏とは）	復習・課題レポート	
第7回	「正信念仏偈」から学ぶ（二つの道）	復習・課題レポート	
第8回	「正信念仏偈」から学ぶ（ただ一心に）	復習・課題レポート	
第9回	「正信念仏偈」から学ぶ（他力とは）	復習・課題レポート	
第10回	「正信念仏偈」から学ぶ（末法のなかで）	復習・課題レポート	
第11回	「正信念仏偈」から学ぶ（名を称える）	復習・学期末レポート	
第12回	「正信念仏偈」から学ぶ（信じる心と疑う心）	復習・学期末レポート	
第13回	「正信念仏偈」から学ぶ（念仏の教え）	復習・学期末レポート	
第14回	「正信念仏偈」から学ぶ（信心と念仏）	復習・学期末レポート	
第15回	まとめ	復習・学期末レポート	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40%（課題レポート20%・学期末レポート20%）		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	60% 毎回提出する感想・質問、および受講態度によって評価します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語、携帯電話の使用などは厳禁です。		
教科書	龍谷ミュージアム編『釈尊と親鸞』法蔵館		
指定図書	なし		
参考図書	適宜、授業中に指示します。		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	親鸞・人と思想Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	毛利 俊英		単位	2
授業の目的と概要	浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに、限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深める。前期の講義を受けて、親鸞の生き方や思想をさらに深く理解する。特に、後期は『歎異抄』の言葉から、親鸞の後半生に深められた思想の中核を学んでみたい。『歎異抄』は、親鸞の面授の弟子である唯円が著し、親鸞の生きた言葉が多く収められている。そこに伝えられる親鸞の言葉は、現代社会に生きる私たちに、あらためて様々な課題を見つける視点を与えてくれるだろう。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 本願、慈悲、悪人、浄土、往生など、主要な教義について説明できるようになる。</li> <li>2. 授業で取り上げた『歎異抄』の言葉について、その趣旨を説明できるようになる。</li> <li>3. 現代社会の課題を、親鸞の思想の観点から、考えることができるようになる。</li> <li>4. 自らの死生観について考えてみる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	『歎異抄』序・後序 ～唯円の嘆き～		予習 聖典p.115-116、p.168	
第2回	第2回 『歎異抄』第一条 ～弥陀の誓願～		予習 聖典p.117-118	
第3回	『歎異抄』第一条 ～往生～		予習 聖典p.117-118 課題レポート①	
第4回	『歎異抄』第一条 ～摂取不捨～		予習 聖典p.117-118	
第5回	『歎異抄』第二条 ～善鸞義絶と関東異義～		予習 聖典p.118-120 課題レポート②	
第6回	『歎異抄』第二条 ～往生極楽の道①～		予習 聖典p.118-120	
第7回	『歎異抄』第二条 ～往生極楽の道②～		予習 聖典p.118-120 課題レポート③	
第8回	『歎異抄』第三条 ～悪人～		予習 聖典p.121-122	
第9回	『歎異抄』第三条 ～悪人正機～		予習 聖典p.121-122	
第10回	『歎異抄』第四条 ～聖道の慈悲～		予習 聖典p.122-123	
第11回	『歎異抄』第四条 ～浄土の慈悲～		予習 聖典p.122-123 4	
第12回	『歎異抄』第五条 ～念仏～		予習 聖典p.123-124	
第13回	『歎異抄』第五条 ～有縁を度す～		予習 聖典p.123-124	
第14回	『歎異抄』第九条 ～浄土～		予習 聖典p.127-129	
第15回	『歎異抄』第十三条 ～業縁～		予習 聖典p.135-145	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 4回の課題レポート及び期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60% 毎回の授業で配布するラベルの記述を重視する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	「聖典」を必ず持参すること。講義は授業中に配布するプリント、および『聖典』を用います。講義中に与えられた課題レポートは必ず提出すること。なお、聖典忘れ、私語、居眠り、遅刻は減点、許可無き早退は欠席と見なします。学内で開催される全学礼拝、礼拝アワーには積極的に参加すること。			
教科書	『聖典』（筑紫女学園聖典改訂委員会）			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に相談して下さい。		メールアドレス	

授業科目	親鸞・人と思想Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	金見 倫吾	単位	2
授業の目的と概要	<p>・浄土真宗の基本的な教えについての知識を得る。また、親鸞の著作や言葉から、それが仏教の根本的立場を伝えようとするものであることを理解する。さらに、限らない「いのち」への目覚めを通じて、人間・社会に対する見方を深める。</p> <p>親鸞の後半生における状況のなかで語られた教えの基本的な意味を、著述を講読することを通して理解する。そこに示された思想（人間観や社会観など）と、その根底にある信仰を踏まえ、自分の生き方と社会のあり方を問い直す視座を獲得してゆく。</p>		
到達目標	<p>1、親鸞の教えについての基本的な語句の意味を説明することができる。</p> <p>2、「消息」や『歎異抄』に示された親鸞の人間像・社会像がどのようなものか説明することができる。</p> <p>3、自己と社会のあり方にとって、親鸞の教えがどのような意味を持つか述べるすることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目の DP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成にかかわる科目です。「仏教学I」「仏教学II」および「親鸞・人と思想I」と関連する科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	親鸞の生涯後半その1（恵心尼との結婚）	予習：教科書126～136頁	
第2回	親鸞の生涯後半その2（関東時代の伝道）	予習：教科書137～159頁	
第3回	親鸞の生涯後半その3（帰洛後の執筆活動）	予習：教科書160～171頁	
第4回	「消息」を読むその1（『末灯鈔』第20通、第19通 一往生ねがうしるし、世をいとうしるし一）	予習：教科書172～185、276～291頁	
第5回	「消息」を読むその2（『御消息集』第4通、『末灯鈔』第2通 一かなしみ、あわれみの心を一）	予習：教科書186～199、296～301、308～315頁	
第6回	『歎異抄』を読むその1（著述の背景、第1条 一弥陀の誓願一）	予習：聖典115～118頁、教科書200～213頁	
第7回	『歎異抄』を読むその2（第3条 一善人とは、悪人とは一）	予習：聖典121～122頁、教科書214～222頁	
第8回	『歎異抄』を読むその3（第4条 一慈悲について一）	予習：聖典122～123頁、教科書223～244頁	
第9回	『歎異抄』を読むその4（第5条 一供養とは一）	予習：聖典123～124頁	
第10回	『歎異抄』を読むその5（第6条 一弟子一人ももたず一）	予習：聖典124～126頁	
第11回	『歎異抄』を読むその6（第7条 一無碍の道一）	予習：聖典126～127頁	
第12回	『歎異抄』を読むその7（第9条 一煩惱具足の凡夫一）	予習：聖典127～129頁	
第13回	『歎異抄』を読むその8（第10条 一無義をもって義とす一）	予習：聖典130～131頁	
第14回	浄土真宗と社会問題	予習：聖典201～204頁	
第15回	まとめ	これまでの内容全体をふりかえり、自己・社会のあり方と関連づける	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30% 期末レポートを実施する。詳細は授業内で指示する。		
小テスト等	20% 2回実施する。詳細は授業内で指示する。		
成果発表	なし		
受講態度他	50% 毎回の講義への感想などから判断する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話の使用などは厳禁です。毎回教科書を持参して出席のこと。全学礼拝・礼拝アワーに積極的に参加して下さい。		
教科書	二葉憲香・福嶋寛隆『新編 歴史のなかの親鸞』永田文昌堂 筑紫女学園聖典改定委員会編『聖典』		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に適宜紹介します。		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	心理アセスメントⅠ	開講時期	前期
担当教員	森田 理香	単 位	2
授業の目的と概要	心理臨床においては、こころに悩みや課題を抱えた人に対する援助の方針を決定するために、対象となった人を客観的に理解することが求められる。対象者を理解するために行う一連の作業をアセスメントという。本講義ではアセスメントに必要な基本的な姿勢、そして、人を理解するための技法について理解を深める。さらに、子どもの特徴によってどのアセスメント技法が有効であるかについて判断できるようにする。乳幼児・児童を対象とした発達検査や知能検査の実技を通して、これらの技術を身につける。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人を理解する上で必要な基本姿勢について説明することが出来る。</li> <li>2. アセスメントの方法（観察法、面接法、テスト法）について、簡潔な文章で説明することが出来る。</li> <li>3. 発達検査、知能検査の種類、特徴について説明することが出来る。</li> <li>4. 対象者の特徴やアセスメントの目的に応じて、適切な検査を判断することが出来る。</li> <li>5. いくつかの発達検査、知能検査をマニュアルを見ながら実施することが出来る。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は人間関係専攻発達臨床心理コースのDP5「援助や支援の基礎的な技術を身につけ、活用することができる」に関する科目です。 「生涯発達心理学Ⅰ」で、乳幼児、児童の発達について理解することで、子どものアセスメントに関する理解が深まります。さらに、大人のアセスメントと、パーソナリティについては「心理アセスメントⅡ」で取り扱います。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	心理アセスメントとは：授業のねらい、課題の提示	配付プリントを熟読し、共感した点、疑問に思った点をあげる	
第2回	人が人を「理解」すること：他者理解の基本姿勢	ミニレポート：人が人を理解することについてまとめる	
第3回	心理アセスメントの目的・方法：心理士によるアセスメントの適用	配付プリント「心理アセスメントとは何か」を熟読する	
第4回	心理検査の種類：各種心理検査の特徴・対象	心理検査の種類について復習	
第5回	観察法：プロトコル体験	ミニレポート：プロトコル体験についてまとめる	
第6回	面接法：ロールプレイ体験（面接の構造化）	ミニレポート：ロールプレイ体験についてまとめる	
第7回	発達検査：遠城寺式乳幼児分析的発達検査法	乳幼児の発達と臨床的視点について復習	
第8回	発達検査：乳児の発達の実際、乳幼児健診における心理士の役割	乳幼児の発達支援について復習	
第9回	発達検査・知能検査：新版K式発達検査	ミニレポート：乳幼児の行動観察の視点についてまとめる	
第10回	知能検査：ウェクスラー式知能検査	ウェクスラー式知能検査について復習	
第11回	知能検査：田中ビネー知能検査	田中ビネー知能検査について復習	
第12回	田中ビネー知能検査V①：実施方法の確認	田中ビネーVのマニュアルを熟読する	
第13回	田中ビネー知能検査V②：知能検査の実施	田中ビネー知能検査Vの検査用紙の整理	
第14回	田中ビネー知能検査V③：知能検査の実施	田中ビネー知能検査Vの検査用紙の整理	
第15回	田中ビネー知能検査V④：知能検査の実施	提出課題：知能検査の採点、行動観察記録を記述する	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	100％ 5～6回、レポート課題を提示します		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	積極的な態度で受講すること 遅刻、欠席はマイナスポイントを与えます。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	グループでの学習を行いますので、遅刻、欠席に関しては厳しく対応します。主体的、協力的に授業に参加することを求めます。		
教科書	プリント配布		
指定図書	特になし		
参考図書	松原達哉・楡木満生 共編『臨床心理アセスメント演習』培風館		
オフィスアワー	火曜日 10：00～12：00	メールアドレス	

授業科目	心理アセスメントⅡ	開講時期	後期
担当教員	石井 洋平	単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業では、人格理解の1つの方法としてのパーソナリティ・テストを、実際に被験者として体験し、自分自身を客観的に分析することを試みます。</p> <p>また、心理テストを実際に体験するなかで、心理アセスメントの意義や限界を理解し、危険性についての認識を深める。</p> <p>8人程度の小グループを作り、グループ学習の形態をとります。各グループごとに、4種類の心理テストのうちのどれか一つを担当者となって、詳しく事前学習し、各グループでの指導者となって、テストの整理分析方法や解釈の仕方について説明を行う。教員からは、必要に応じて補足説明を行う。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. パーソナリティ・テストの仕組みについて説明できるようになる。</li> <li>2. パーソナリティ・テストの実施方法、結果の整理・分析の仕方が分かる。</li> <li>3. テスト結果に基づき、自分のパーソナリティについて客観的理解を深める。</li> <li>4. 得られた結果から、パーソナリティ・アセスメントを報告書の形にまとめることができるようになる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に発達臨床心理コースのDP⑤「援助や支援の基礎的な技術を身につけ、活用することができる。」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション：演習の進め方と諸注意、心理テストの倫理について	参考書・参考資料を読書	
第2回	心理アセスメントの目的と方法 ー臨床心理学の中での心理アセスメントの役割	参考書・参考資料を読書	
第3回	パーソナリティーについてーその考え方と把握の仕方ー	参考書・参考資料を読書	
第4回	質問紙法1：Y-G性格検査の体験と結果の整理・分析	レジュメ作成 報告書①	
第5回	質問紙法2：Y-G性格検査の結果の整理・分析	レジュメ作成 報告書①	
第6回	質問紙法3：新型TEGⅡの体験と理論的説明	レジュメ作成 報告書②	
第7回	質問紙法4：新型TEGⅡの結果の整理・分析	レジュメ作成 報告書②	
第8回	質問紙法5：新型TEGⅡの結果の解釈と解説	レジュメ作成 報告書②	
第9回	作業検査法1：クレペリン検査の体験	レジュメ作成 報告書③	
第10回	作業検査法2：結果の整理と分析	レジュメ作成 報告書③	
第11回	投影法1：投影法の紹介と解説、SCTの施行方法と実施	レジュメ作成 報告書③	
第12回	投影法2：SCTの結果分析と解釈	レジュメ作成 報告書④	
第13回	投影法3：バウムテストの体験	レジュメ作成 報告書④	
第14回	投影法4：バウムテストの結果の分析と解釈	レジュメ作成 報告書④	
第15回	まとめ：テストバッテリーの考え方	報告書⑤	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60% 各検査についてのレポートを提出すること。		
小テスト等	なし		
成果発表	20% グループ内での担当部分の資料(レジュメ)作成と解説の内容。		
受講態度他	20% 履修規定10条(2)に従う。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自ら被験者となって、実際に心理テストを体験します。心理テストは、こころの内側を覗き見ることになりますから、テストの実施については、真剣な取り組み、得られた結果についての慎重な取り扱いを求めます。		
教科書	使用しない		
指定図書	なし		
参考図書	赤塚大樹ほか著『心理アセスメント』培風館 ほか(必要に応じ授業中に適宜紹介)		
オフィスアワー	講義の前後に相談ください。	メールアドレス	

授業科目	心理学	開講時期	後期
担当教員	S. Kumar	単 位	2
授業の目的と概要	人間形成の原理と社会に生きていく上で、心理学の考え方やそれに関する様々な方法を学びます。心理学的な専門知識の視点から子どもの成長として、発達、教授や学習の過程、学習への動機、人格の形成を学びます。人間は生まれてからどのような発達段階を経て、成長していくことへの理解。それに関して、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期の理解。それぞれの発達段階で知能の発達、情緒の発達、社会性の発達などを理解しながら学ぶ。様々な心理テストなどを通して、人間の考え、知能、行動、学習過程、記憶、性格をもっと理解することを学ぶ。		
到達目標	社会の中生きることとして生まれてから成長していく発達の段階、様々な学習と記憶のプロセスと理論、考え方、人格の形成や人間の行動について様々な心理テストを通して理解する。社会的自立の知識として日常生活の中、上記のものを取り入れて、心理学の適切な理解や判断力を身につけることができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は全学共通科目であり、社会生活スキルとして様々な心理的理解として、発達、学習過程や人間とのかかわり方を具体的に学び、日常生活の中心理の知識についても学びます。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	心理学とは何か	心理の定義の理解課題	
第 2回	心理学の歴史	心理学者についての復習	
第 3回	乳幼児期の運動と知能の発達	発達についての復習	
第 4回	ピアジェの発達段階論の理解	ピアジェ理論の課題の復習	
第 5回	幼児期の知識、運動、言語と情緒の発達について	言語発達についての復習	
第 6回	仲間関係と社会性の形成	集団遊びの予習	
第 7回	学習の成立 (S-R説)	日常生活の中学習の復習	
第 8回	学習過程の知識論	パヴロフ論についての課題	
第 9回	内発的動機付けと外発的動機づけ	動機はなぜ必要かの課題の復習	
第10回	記憶	短期記憶と長期記憶の理解課題	
第11回	人格の理解	人格についての復習	
第12回	人格の理解の投影法検査	ロールシャハールについての課題	
第13回	発達と人格に関する心理テストの理解	心理テストはなぜ必要かの予習	
第14回	発達・学習・人格に関する心理テスト	心理テストの理解課題	
第15回	授業全体の理解と総まとめ	人間と心理の関係理解復習	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	90% 筆記試験		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% (私語5%、遅刻3%、授業中携帯電話の使用など2%)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義の際に指示します		
教科書	指定しない (資料配布)		
指定図書	勝地 三郎 監修『新教育心理』ナカニシヤ出版		
参考図書	岩田純一・佐々木正人・石田勢津子・落石幸子『児童の心理学』		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	心理学概論Ⅰ	開講時期	前期
担当教員	榊 祐子	単位	2
授業の目的と概要	<p>人間の多面的理解に貢献してきた心理学の諸領域について概観し、特に、人間の発達や性格、社会的行動に関する基礎的知識の習得を目指す。</p> <p>それぞれの領域における重要な事項を選択し、日常的なテーマなども取り入れながら、心理学概論Ⅱとあわせて、心理学全般にわたる基本概念を学ぶ。単なる知識の獲得にとどまらず、自分自身の性格や行動、日常生活における対人関係などと関連付けながら理解を深めていく。</p>		
到達目標	<p>①人間の発達段階や理論について比較し、それぞれの特徴を具体的に述べる事が出来る</p> <p>②性格の特性や分類を説明し、自らの性格と関連づけて述べる事が出来る。</p> <p>③集団における行動の特徴について説明する事が出来る</p> <p>④日常生活での経験やこれまでの体験を発達、社会、人格などの視点から解釈し説明する事が出来る</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、人間関係専攻のDP2「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」、人間形成専攻のDP3「子どものよさや課題を理解し、適切に支援するための理論について概要を説明することができる。」に関わる科目である。</p> <p>関連科目には、心理学概論Ⅱ、生涯発達心理学Ⅰ、Ⅱなどがある。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	心理学とは①：心理学の起源、歴史	心理学の歴史についての復習	
第2回	心理学とは②：心理学の諸領域と関連領域	心理学の領域と成果についての復習	
第3回	発達①：人間の発達段階とは	発達段階の特徴についての復習	
第4回	発達①：発達段階の理論	発達理論の整理と復習	
第5回	発達③：言語の発達	言語の発達についての復習	
第6回	発達④：社会性の発達	家族や友人関係の発達についての復習	
第7回	まとめ①：心理学の歴史、発達についてのまとめ	心理学の歴史と発達心理学の整理	
第8回	性格①：人格の特性について	人格のとらえ方の復習	
第9回	性格②：性格の分類	人格理論の復習	
第10回	性格③：性格の形成	性格形成の要因についての復習	
第11回	性格④：集団と性格	集団が正確に与える影響についての復習	
第12回	社会①：集団における個人の行動	集団における性格と行動についての復習	
第13回	社会②：個人と対人関係	個人と社会的知覚についての復習	
第14回	社会③：同調行動について	同調行動の経験についての振り返り	
第15回	まとめ②	人格と社会心理学の振り返り	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	70% まとめの復習テスト		
レポート	20% 授業中のショートレポート		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% 講義に対する積極的態度、理解度をレポートにて確認		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退出は慎むこと。		
教科書	指定なし		
指定図書	指定なし		
参考図書	適宜紹介		
オフィスアワー	火曜日 5限	メールアドレス	

授業科目	心理学概論Ⅱ	開講時期	前期
担当教員	洪田 登美子	単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、主に基礎心理学の領域の基礎知識を身につけることを目的とする。人がどのように周りの世界を認識し（知覚・認知）、どのように記憶したり忘却しているか（記憶）、どのように新しい行動を習得しているか（学習）、さらに情動や動機づけ、言語と思考、心と脳について学ぶことにより、人の心と行動を多面的に理解する。合わせて、日常的な事象や体験を心理学的な視点から客観的に理解しようとする態度を身につけることを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎領域における心理学の基本的な概念について、簡潔に説明することができる。</li> <li>2. 人が自分を取り巻く生活環境をどのように認識しているのか具体的な例をあげて説明することができる。</li> <li>3. 新しい行動を学習していく主要なメカニズムについて、具体的な例をあげて説明することができる。</li> <li>4. 記憶の仕組みについて説明することができる。</li> <li>5. 動機づけの階層性について述べるることができる。</li> <li>6. 言語の役割について述べるることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、人間関係専攻のDP2「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」、人間形成専攻のDP3「子どものよさや課題を理解し、適切に支援するための理論について概要を説明することができる。」に関わる科目である。この科目は、心理学の学びの導入科目であり、心理学概論Ⅰと合わせて学ぶことにより、心理学を全般の理解を深めることができる。 中等教職課程高等学校一種・公民の教科に関する専門科目、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格に関わる「心理学理論と心理的支援」、保育士資格取得に関わる「保育の本質・目的に関する科目」、認定心理士資格取得申請に関わる科目、社会福祉主事任用資格に関わる科目である。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション： 授業の目的と進行について 心理学とは、心理学の領域	心理学についての自分のイメージを確認する	
第2回	知覚・認知① 私たちは生活環境のどのようにとらえているのか	生活の中で知覚体験と実際が異なっていた経験をまとめる	
第3回	知覚・認知② 知覚・認知に影響を与える要因	期待などの心理的な要因が知覚・認知に影響した体験をまとめる	
第4回	記憶① 記憶の過程	記憶障害の事例について調べる	
第5回	記憶② 記憶の種類	記憶の種類ごとに具体的な例を考える	
第6回	記憶③ 覚えるということ・思い出すということ	何かを覚えておこうとしたとき、どのような方略を用いているかをまとめる	
第7回	言語・思考① 言語の役割	社会的隔離児の事例を調べる	
第8回	言語・思考② 問題解決	筑女ネットで推論課題に解答する	
第9回	学習① 古典的条件付けと道具的条件付け	2つの条件付けの例を生活の中に見つける	
第10回	学習② 運動技能学習と社会的学習	ミラーニューロンについて調べる	
第11回	動機づけ： なぜそのような行動をしたのか	自分が現在最も力を入れている活動の動機について考察する	
第12回	情動： 悲しいからなくのか、泣くから悲しいのか	笑いの効果について調べる	
第13回	心を測る生理的指標 睡眠	質のよい眠りのためにできることをリストアップする	
第14回	脳とこころ	大脳の構造について調べる	
第15回	全体のまとめ	復習し、理解できていない箇所をリストアップする	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	定期試験 70％		
レポート	—		
小テスト等	—		
成果発表	—		
受講態度他	30％ 出席状況と、授業内容にどのくらいコミットメントしていたかを確認するショート・ライティングを評価の対象に含む。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業で扱っているテーマを自分の経験に関連づけながら、受講すること。 ショート・ライティングに書かれている質問は、次週、または関連するテーマの時に説明する。		
教科書	毎回資料を配布		
指定図書	—		
参考図書	講義中に適宜紹介		
オフィスアワー	月曜日4限	メールアドレス	



授業科目	心理学基礎実験	開講時期	後期
担当教員	榊 祐子・内山 朋美	単位	2
授業の目的と概要	人間の行動特性を客観的に理解することを目標として、学習、知覚、認知、記憶といった心理学の各分野における基礎的な実験を体験し、心理学における実験レポートの書き方を学ぶ。実験の目的、手続きなどについての講義の後5, 6名程度の小グループにわかれ、コンピュータや質問紙等を用いて実験を行なう。結果の処理や実験技法を習得した後、実験レポートを提出することが課題となる。また、最新の心理学の分野でどのような実験が行なわれているか、参加者として体験する機会も設ける予定である。本授業では、心理学研究法の一つである実験という手法を用いて、心理・社会的諸問題における行動特性などを客観的データを収集することで説明することを目的とする。		
到達目標	①心理学における基本的な実験の流れ（目的、方法、結果、考察）を説明することができる ②心理学実験を実験者としてデータを測定する、また被験者として課題を実施することができる ③測定したデータを結果としてまとめ、考察を行い、レポートを作成することができる		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に発達臨床心理コースのDP2「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」の達成に関わる科目である。関連科目には、心理学概論Ⅱ、心理学研究法などがある。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 心理学実験とは①：心理学実験の概要		心理学実験のイントロダクションについての復習	
第2回 心理学実験とは②心理学研究法について		様々な心理学研究法の整理	
第3回 心理学実験とは③心理統計法の基礎		心理統計法の基礎についての復習	
第4回 知覚実験1-1 ミュラー・リヤー錯視（実験の説明と実施）		課題（レポート）	
第5回 知覚実験1-2 ミュラー・リヤー錯視（データ分析、実験概要の説明）		課題（レポート）	
第6回 知覚実験2-1 触2点閾（実験の説明と実施）		課題（レポート）	
第7回 知覚実験2-2 触2点閾（データ分析、実験概要の説明）		課題（レポート）	
第8回 認知実験1 ストループ課題（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）		課題（レポート）	
第9回 認知実験2 自由再生法（実験の説明と実施）		課題（レポート）	
第10回 実験のまとめ①		レポート作成の復習	
第11回 学習実験1 分散・集中学習（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）		課題（レポート）	
第12回 学習実験2 鏡映描写（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）		課題（レポート）	
第13回 行動実験 一対比較法（実験の説明と実施、データ分析、実験概要の説明）		課題（レポート）	
第14回 最新の心理学実験の動向 様々な分野における最新の心理学実験を体験		課題（レポート）	
第15回 実験のまとめ②		レポート作成と実験方法についての振り返り	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	80% 毎回の実験後にレポートを作成		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20% 授業に関するショートレポートを提出		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	小グループに分かれて実験を実施、データ測定、レポート作成を行う。実験に参加しなければ、レポートを作成、提出できないため、毎回の出席が非常に重要である。クラスごとの開講になるため、実験の実施順序は前後することがある。授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退出は慎むこと。		
教科書	使用しない。資料はプリントにて配布する。		
指定図書	特になし		
参考図書	心理学実験指導研究会 『実験とテスト＝心理学の基礎 実習編』 培風館 心理学実験ノート編集委員会 『心理学実験ノート』 二瓶社		
オフィスアワー	火曜日5限	メールアドレス	

授業科目	心理学研究法	開講時期	後期
担当教員	榊 祐子・中村 知靖	単位	2
授業の目的と概要	目に見えない「こころ」を扱うために心理学では様々な研究法が利用され、研究で得られた成果や知見を理解するためには、用いられた研究法そのものを理解する必要がある。この授業では、心理学で利用される実験法・調査法・観察法・面接法を取り上げ、各方法の基本的な考え方や技法ならびにそこで利用される統計的な方法について理解を深めることを目的とする。実験法では、実験の論理や実験計画、分析方法を中心に解説する。調査法では、心理尺度による心理テスト開発に関する調査の計画・実施・分析方法について解説する。観察法では、組織的観察法を中心にサンプリング・記録方法・分析方法について解説する。面接法では非構造化面接ならびに半構造化面接を取り上げ、面接法実施における留意点を解説する。さらに、心理学における研究計画から発表・論文執筆までに必要な技法を紹介し、この授業を通じて卒業研究を行うために必要な能力を身につけることを目標とする。		
到達目標	①実験法における目的の見つけ方、計画の立て方や分析方法を説明し、実験計画を作成することができる ②心理尺度を用いた調査の実施、分析方法を計画し作成することができる ③面接法の分類や特徴を説明し、留意点を把握した上で、目的にあった面接法を計画することができる ④観察法におけるサンプリングや記録方法について具体的に説明することができる ⑤研究法の様々なアプローチを用いて、人間の行動特性を客観的手続きから予測し一般化することができる		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に発達臨床心理コースのDP③「援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる。」の達成に関わる科目です。関連科目には心理学基礎実験などがあります。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	心理学の研究とは	心理学の研究法についての復習	
第2回	実験法1：実験の計画や分析方法について	実験計画についての復習	
第3回	実験法2：実験法の概要と変数の操作・測定・統制の問題	実験の変数の統制についての復習	
第4回	実験法3：様々な実験研究例の紹介（実施における留意点を含む）	実験手続きについての復習	
第5回	実験法4：統計的分析方法ならびに結果の解釈法	実験の分析についての復習	
第6回	面接法1：面接法の概要と留意点	面接法についての復習	
第7回	面接法2：面接法による研究事例の紹介	面接の研究事例についての復習	
第8回	調査法1：調査法の概要と調査研究（質問紙研究）例の紹介	質問紙法についての復習	
第9回	調査法2：心理尺度の作成手順と質問項目の作成法	心理尺度、質問項目についての復習	
第10回	調査法3：調査の実施方法とデータ解析法ならびに結果の解釈法	調査の実施、結果の解釈についての復習	
第11回	調査法4：調査法における留意点	調査法の留意点についての復習	
第12回	観察法1：観察法の概要と観察方法ならびに記録方法	観察方法、記録方法についての復習	
第13回	観察法2：観察研究例の紹介と分析方法	観察法の分析方法についての復習	
第14回	研究の進め方：研究計画から発表・論文の執筆、研究倫理	研究計画についての復習	
第15回	全体のまとめ：実験・調査レポート執筆について	研究法についての総合的な振り返りの復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	70% 実験法、調査法を利用したグループによる研究の計画のレポート		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	30% 授業中に与えられた課題へのグループでのディスカッションや参加態度		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中に与えられた課題についてレポートを作成するので、授業に毎回出席することが重要である。小グループごとに課題の検討を行うので積極的に参加すること。クラスごとの開講になるため、実験の実施順序は前後することがある。		
教科書	村井 潤一郎 『Progress & Application 心理学研究法』 サイエンス社		
指定図書	なし		
参考図書	南風原朝和・市川伸一・下山晴彦 『心理学研究法』 放送大学教育振興会 高野陽太郎・岡隆 『心理学研究法』 有斐閣		
オフィスアワー	火曜日5限	メールアドレス	

授業科目	心理学統計法 I	開講時期	後期
担当教員	赤須 大典	単位	2
授業の目的と概要	人間の行動を正しく理解するためには、観察者の主観的かつ直感的な判断のみに頼ることは適切ではない。観察や調査によって人間の行動を測定し、それに関するデータを採取し分析することで客観的に捉えることが必要である。そうすることによって誤った信念や思い込みを排除し、より適切な行動への対処が可能になるからである。本授業では、統計学に関して最低必要限な知識を学びつつ、より実践・応用的な“道具”としての統計学を学習する。		
到達目標	1 統計学に関する基礎的な知識を習得することができる。 2 科学的なデータの分析方法を実践することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 統計についてのいろいろな知識		授業中に指定	
第2回 平均値 統計解析に関するEXCEL操作		授業中に指定	
第3回 分散と標準偏差		授業中に指定	
第4回 データの種類とサンプリング		授業中に指定	
第5回 第4回までのまとめ 統計ソフトウェアの紹介		授業中に指定	
第6回 標準化された正規分布		授業中に指定	
第7回 相関 -理論-		授業中に指定	
第8回 相関 -実践-		授業中に指定	
第9回 $\chi^2$ 乗検定		授業中に指定	
第10回 t検定		授業中に指定	
第11回 第6回から第10回までのまとめ		授業中に指定	
第12回 分散分析 -理論-		授業中に指定	
第13回 分散分析 - 1 要因分散分析 -		授業中に指定	
第14回 分散分析 - 2 要因分散分析 -		授業中に指定	
第15回 全体のまとめ		授業中に指定	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	%		
レポート	70%		
小テスト等	%		
成果発表	%		
受講態度他	30% 全講義の2/3以上出席していない者は無資格。欠席に関してやむを得ぬ事情がある場合は考慮する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	表計算ソフト (EXCEL) を使ったデータ整理について解説する。その基本操作法についても解説するが、ある程度はEXCEL (特に関数式) を使いこなせるようになっておくこと。		
教科書	特に指定しない		
指定図書	特に指定しない		
参考図書	特に指定しない		
オフィスワーカー	授業終了後にご相談ください	メールアドレス	

授業科目	心理学統計法Ⅱ		開講時期	前期
担当教員	岡村 尚昌		単位	2
授業の目的と概要	心理学研究を進めるために必要なデータの扱い方や実践的な統計解析を身につけることを目的とします。それによって、人間の行動や感情の変化を客観的に評価する方法や技術を習得してもらいます。			
到達目標	1 統計学に関する基礎的な知識を学習する 2 研究を実施するために必要な基本的能力・技能を身につける			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 ガイダンス			復習：プリント	
第2回 復習①：ヒストグラムと度数分布など			復習：プリント	
第3回 復習②：分散，標準偏差など			復習：プリント	
第4回 $\chi^2$ 検定			復習：プリント	
第5回 t検定			復習：プリント	
第6回 分散分析（1要因被験者内分散分析）			復習：プリント	
第7回 分散分析（1要因被験者間分散分析）			復習：プリント	
第8回 分散分析（2要因被験者内分散分析）			復習：プリント	
第9回 分散分析（2要因被験者間分散分析）			復習：プリント	
第10回 相関			復習：プリント	
第11回 因子分析			復習：プリント	
第12回 重回帰分析			復習：プリント	
第13回 ロジスティック回帰分析			復習：プリント	
第14回 判別分析とクラスター分析			復習：プリント	
第15回 まとめ			復習：プリント	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 学んだことの復習として行います。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 講義への参加態度や出席状況も考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	配布プリントは毎回持参してください。 心理学統計法Ⅰを受講しておいてください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業終了後に相談ください。	メールアドレス		

授業科目	心理面接演習	開講時期	後期
担当教員	大霧 香	単位	2
授業の目的と概要	心理面接とは何か。心理学的支援の方法の一つである心理面接の基礎を学ぶ。まず、心理面接におけるセラピストの基本的な姿勢や態度について学ぶ。さらに心理的諸問題に対するアセスメントやどのような心理的援助が出来るのか、事例を通して考えていく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セラピストの基本的な姿勢や態度について述べる事が出来る。</li> <li>・クライアントに接するときの初歩的な姿勢を身につける。</li> <li>・心理的な諸問題に対し、何が問題かを整理することが出来る。</li> <li>・クライアントを支援するための手段を考察することが出来る。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション		ミニレポート	
第2回 心理面接とは何か		資料の通読・授業内容の復習	
第3回 セラピストの基本姿勢・態度		資料の通読・授業内容の復習	
第4回 心理的援助の流れ		資料の通読・授業内容の復習	
第5回 言語的援助の技法① 話を聴くということ		ミニレポート	
第6回 言語的援助の技法② ロールプレイ		ミニレポート	
第7回 言語的援助の技法③ 傾聴・受容・共感について		ミニレポート	
第8回 インテーク面接		資料の通読・授業内容の復習	
第9回 アセスメントと見立て		資料の通読・授業内容の復習	
第10回 乳幼児期の問題に対する事例検討①		資料の通読・事例について考える	
第11回 乳幼児期の問題に対する事例検討②		ミニレポート	
第12回 教育領域での事例検討①		資料の通読・事例について考える	
第13回 教育領域での事例検討②		ミニレポート	
第14回 医療領域での事例検討①		資料の通読・授業内容の復習	
第15回 医療領域での事例検討②		期末レポートへの準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	ミニレポート40% 期末レポート50%		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% (積極的な姿勢を考慮します)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業ではロールプレイやグループディスカッションを行います。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に適宜指示します。		
オフィスアワー	月曜日 2講目・昼休み	メールアドレス	

授業科目	ジャーナリズム論		開講時期	前期
担当教員	吉野 嘉高		単位	2
授業の目的と概要	<p>報道機関は人々に情報を伝達するだけでなく、価値規範やイデオロギーも提示し大きな社会的影響力をもっているが、普段あまり意識されることはない。報道機関のそのような作用を資料に基づいて具体的に可視化し、改めて民主主義社会におけるジャーナリズムのあり方について問題提起をする。</p> <p>また、満州事変以降、新聞や放送メディアが日本社会でどのように機能してきたかを振り返ることで、報道機関の「現在」を「過去」と関連づけて論理的に考察する。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャーナリズムの公共性、公益性について説明できる。</li> <li>・日本の報道機関の特徴と歴史について説明できる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	予習・復習		
第2回	ジャーナリズムの現在（最近のニュースを考察）	予習・復習		
第3回	ジャーナリズムの現在（最近のニュースを考察）	予習・復習		
第4回	ジャーナリズムとは	予習・復習		
第5回	客観報道とは① ～エコナクッキングオイル問題・報道内容の差異～	予習・復習		
第6回	客観報道② ～エコナクッキングオイル問題・各社の立ち位置の違い～	予習・復習		
第7回	報道機関の立ち位置の違い ～反原発報道～	予習・復習		
第8回	記者クラブの構造① ～メリットとは～	予習・復習		
第9回	記者クラブの構造② ～デメリットとは～	予習・復習		
第10回	日本の報道機関の歴史① ～明治政府と新聞～	予習・復習		
第11回	日本の報道機関の歴史② ～中立・客観報道が誕生するまでの経緯～	予習・復習		
第12回	日本の報道機関の歴史③ ～戦争と報道（満州事変）～	予習・復習		
第13回	日本の報道機関の歴史④ ～戦争と報道（太平洋戦争）～	予習・復習		
第14回	最新ニュースからジャーナリズムを考察	予習・復習		
第15回	まとめ	復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	30%（期末レポート）			
小テスト等	50%（授業の最後に毎回実施）			
成果発表	-			
受講態度他	20% 積極的な受講態度を重視			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>パワーポイントで作成した資料や、映像資料を使います。</p> <p>毎回授業の最後に小テストを実施します。</p> <p>小テストの配点が大いことに注意してください。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	住環境デザイン演習		開講時期	後期
担当教員	安恒 万記		単 位	2
授業の目的と概要	本演習は、住環境に関わるフィールドワークの基礎を学び、住環境デザインの基本的な考え方、手法、技術を習得することを目的としています。環境負荷の少ない住環境形成、子どもの成長発達を支える住まい、身近な自然とのふれあい、ノーマライゼーションの配慮、などをテーマに対象フィールドを具体的に設定して課題を分析し、整備計画を考えます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フィールドサーヴェイを通して住環境を読み取ることができる。</li> <li>2. 生活のニーズと住環境の課題を見出すことができる。</li> <li>3. 住要求に合わせた住環境デザインを創造することができる。</li> <li>4. 効果的なプレゼンテーションができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>「住環境デザイン演習」は環境共生社会コースのDP2「環境共生社会実現のための住まいやまちのデザインのための知識と技能を獲得」するための科目です。この授業で習得した知識や技能は環境共生社会を構成する住まいと環境を考える基礎知識となります。</p> <p>関連する科目として「住まいと環境」や「エコハウス論」や地域環境に視野を広げた「地域環境論」を履修することでより深い学びへとつながります。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション			テーマを考える	
第2回 課題A：住宅のデザイン			住要求を整理する	
第3回 敷地を読む			復習とまとめ	
第4回 機能を考える			情報収集と整理	
第5回 細部を考える			情報収集と整理	
第6回 CAD演習①			課題の自習	
第7回 CAD演習②			課題の自習	
第8回 プレゼンテーション			発表準備	
第9回 課題B：自由テーマ			情報収集	
第10回 フィールドサーヴェイ			現況調査	
第11回 現況の整理			情報収集	
第12回 課題の分析			課題の自習	
第13回 基本計画			課題の自習	
第14回 プレゼンテーション			発表準備	
第15回 まとめ			振り返りと修正案を考える	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	50%			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻・欠席をしないよう心がけてください。自発的な学習と自習が必要です。各自が責任を持って授業に参加してください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 11：00～16：30	メールアドレス		

授業科目	循環型社会論	開講時期	後期
担当教員	村上 佳世	単位	2
授業の目的と概要	この授業は、人間の消費活動を循環可能なものに変え、資源を再生しながら利用する仕組みを如何に生み出すかを学ぶことを目的とする。企業の環境報告書に記載された数値を読み解きながら、市場をグリーン化するための取り組みについて学び、循環型社会を作り出すために私たち自身が生活者として何ができるのかを検討する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 環境問題に関わる企業の取り組みについて具体例を用いて説明することができる。</li> <li>2. 企業の環境報告書の数値を理解し、説明することができる。</li> <li>3. 企業の取り組みを通して私たち個人ができるアクションについて自分なりに意見を持ち、ディスカッションに参加することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	主に環境共生社会コースのDP3「環境共生社会実現のための個人や企業の活動のあり方や社会全体の仕組みを説明することができる」の達成に関わる科目。1年次配当の「環境と商品」、2年次配当の「環境と経済」を既に履修していることが望ましい。(なお、1年次配当の学部共通科目「現代経済論」もあわせて受講しておくことを強く進める)		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 ガイダンス		授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第2回 環境報告書とは何だろう①		授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第3回 環境報告書とは何だろう②		授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第4回 環境会計ガイドラインを理解しよう①外部環境会計		授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第5回 環境会計ガイドラインを理解しよう②環境保全コストと環境保全効果		授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第6回 環境会計ガイドラインを理解しよう③環境保全対策に伴う経済効果と統合指標		授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第7回 環境報告書を読み解こう①情報の整理と発表準備		授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第8回 環境報告書を読み解こう②発表とディスカッション		授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第9回 社会的責任投資を知ろう①財務会計と環境負債		授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第10回 社会的責任投資を知ろう②排出量取引の会計		授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第11回 社会的責任投資を知ろう③環境配慮型投資の流れ		授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第12回 社会的責任投資を知ろう④社会的責任投資の可能性		授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第13回 レポートを書こう①情報の整理とレポート作成		授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第14回 レポートを書こう②レポートをもとに発表資料を作ろう		授業内容をまとめ、授業時に課題した課題に取り組む	
第15回 成果を発表して「持続可能な社会を促進する経営」について議論しよう		発表時に得た意見などを参考に資料を見直し、レポートを修正して完成させる	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	60%		
小テスト等	0%		
成果発表	30%		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>①毎授業後に簡単な復習レポートを課す。</li> <li>②授業で学んだ知識を活かして実際の企業の環境報告書を読み込み、説明資料を作成する。</li> <li>③作成した資料を、第15回授業で成果として発表する。</li> </ol>		
教科書	毎回の授業時に資料を配布する。		
指定図書	特になし		
参考図書	國部克彦・伊坪徳宏・水口剛(2012)「環境経営・会計(第2版)」有斐閣アルマ		
オフィスアワー	月曜昼休み(12:20-13:10)、火曜昼休み(12:20-13:10)	メールアドレス	



授業科目	情報科学概論	開講時期	前期
担当教員	持尾 弘司	単位	2
授業の目的と概要	<p>コンピュータを利用した情報処理の基本的仕組みを理解し、現代社会における「情報」のありかたについて考察することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「情報」という言葉の意味を説明できるようになる。</li> <li>コンピュータによる情報処理の基本的仕組みを理解し説明することができるようになる。</li> <li>社会発展の歴史において、情報処理技術がいかなる役割を果たしたかを認識できるようになる。</li> </ol> <p>「情報」とは何かという考察から始めて順次情報科学のトピックを取り上げて行く。適宜簡単な小テストを行う。また、最終回にはまとまった確認テストを行う。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>コンピュータの基本原則を説明できる。</li> <li>ハードウェアとソフトウェアについて説明できる。</li> <li>ネットワーク社会の仕組みと諸問題について説明できる。</li> <li>情報科学の基礎理論について説明できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」に関わるものである。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション：情報とは何か、情報量の概念、デジタルデータ、計算	復習	講義内容
第2回	情報処理装置1：コンピュータとは、ハードウェアとソフトウェア、入出力装置	復習	講義内容
第3回	情報処理装置2：処理速度、データ記憶	復習	講義内容
第4回	情報の表現1：2進数、2進数演算、論理演算	復習	講義内容
第5回	情報の表現2：文字、数値、画像、音声	復習	講義内容
第6回	情報の伝送と情報量：誤り検出と訂正、二分決定木	復習	講義内容
第7回	情報の処理1：アルゴリズム（その1）	復習	講義内容
第8回	情報の処理2：アルゴリズム（その2）	復習	講義内容
第9回	情報の組織化：永続化、関係データベース、データベース管理システム	復習	講義内容
第10回	情報の共有1：ネットワークの基本、インターネットとは、自律分散	復習	講義内容
第11回	情報の共有2：インターネットプロトコル、名前解決、経路制御	復習	講義内容
第12回	情報セキュリティ：誰から何を守るか、暗号化、公開鍵暗号系	復習	講義内容
第13回	問題演習1：解答と解説	復習	演習内容
第14回	問題演習2：解答と解説	復習	演習内容
第15回	総まとめの確認テスト	-	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	なし		
小テスト等	30%：数回実施の小テスト 50%：最終回の確認テスト		
成果発表	なし		
受講態度他	20%（欠席1回につき5%減、遅刻は1回につき2%減）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に適宜紹介		
オフィスアワー	水曜昼休み	メールアドレス	

授業科目	情報科学概論	開講時期	後期
担当教員	持尾 弘司	単位	2
授業の目的と概要	<p>コンピュータを利用した情報処理の基本的仕組みを理解し、現代社会における「情報」のありかたについて考察することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「情報」という言葉の意味を説明できるようになる。</li> <li>2. コンピュータによる情報処理の基本的仕組みを理解し説明することができるようになる。</li> <li>3. 社会発展の歴史において、情報処理技術がいかなる役割を果たしたかを認識できるようになる。</li> </ol> <p>「情報」とは何かという考察から始めて順次情報科学のトピックを取り上げて行く。適宜簡単な小テストを行う。また、最終回にはまとまった確認テストを行う。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータの基本原則を説明できる。</li> <li>2. ハードウェアとソフトウェアについて説明できる。</li> <li>3. ネットワーク社会の仕組みと諸問題について説明できる。</li> <li>4. 情報科学の基礎理論について説明できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」に関わるものである。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション：情報とは何か、情報量の概念、デジタルデータ、計算	復習	講義内容
第2回	情報処理装置1：コンピュータとは、ハードウェアとソフトウェア、入出力装置	復習	講義内容
第3回	情報処理装置2：処理速度、データ記憶	復習	講義内容
第4回	情報の表現1：2進数、2進数演算、論理演算	復習	講義内容
第5回	情報の表現2：文字、数値、画像、音声	復習	講義内容
第6回	情報の伝送と情報量：誤り検出と訂正、二分決定木	復習	講義内容
第7回	情報の処理1：アルゴリズム（その1）	復習	講義内容
第8回	情報の処理2：アルゴリズム（その2）	復習	講義内容
第9回	情報の組織化：永続化、関係データベース、データベース管理システム	復習	講義内容
第10回	情報の共有1：ネットワークの基本、インターネットとは、自律分散	復習	講義内容
第11回	情報の共有2：インターネットプロトコル、名前解決、経路制御	復習	講義内容
第12回	情報セキュリティ：誰から何を守るか、暗号化、公開鍵暗号系	復習	講義内容
第13回	問題演習1：解答と解説	復習	演習内容
第14回	問題演習2：解答と解説	復習	演習内容
第15回	総まとめの確認テスト	-	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	なし		
小テスト等	30%：数回実施の小テスト 50%：最終回の確認テスト		
成果発表	なし		
受講態度他	20%（欠席1回につき5%減、遅刻は1回につき2%減）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に適宜紹介		
オフィスアワー	水曜昼休み	メールアドレス	

授業科目	【閉講】情報科学概論	開講時期	前期
担当教員	一ノ瀬 元史	単位	2
授業の目的と概要	コンピュータを利用した情報処理の基本的仕組みを理解し、現代社会における「情報」のありかたについて考察することを目的とする。「情報」という言葉の意味とコンピュータによる情報処理の基本的仕組みを理解しながら、社会発展の歴史において、情報処理技術がいかなる役割を果たしたかを理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コンピュータの基本原則を説明できる。</li> <li>2. ハードウェアとソフトウェアについて説明できる。</li> <li>3. ネットワーク社会の仕組みと諸問題について説明できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本授業は現代社会学部の共通科目のDP③として「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成にかかわる科目です。実際の技術を身につけるコンピュータを使つての演習は下記の科目になります。 情報処理基礎演習Ⅰ 情報処理基礎演習Ⅱ		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション		予習：デジタル情報とは	
第2回 情報のデジタル化 数値、文字、画像、音声		復習：デジタルとは 予習：CPUについて	
第3回 ハードウェア1 論理演算、論理回路、CPU		復習：論理回路 予習：動作原理とソフトウェア	
第4回 ハードウェア2 動作原理 ソフトウェア1		復習：コンピュータの特徴 予習：プログラムについて	
第5回 ソフトウェア2 プログラミングとプログラム言語		復習：プログラミング 予習：ネットワーク	
第6回 情報ネットワーク1：情報ネットワークの階層構造		復習：ネットワークについて	
第7回 情報ネットワーク2：インターネット上のアプリケーション		復習：インターネットについて 予習：データ構造とは レポート	
第8回 データ構造		復習：データ構造とは 予習：アルゴリズムとは	
第9回 アルゴリズム		復習：アルゴリズムについて講義内容 予習：データベースについて	
第10回 情報管理（データベース）		復習：データベースについて 予習：情報システムの例を	
第11回 情報システム		復習：情報システムについて 予習：情報収集と解析	
第12回 情報収集（統計的手法）		復習：情報収集 予習：マルウェアについて	
第13回 情報セキュリティ		復習：情報セキュリティについて またその対策 レポート	
第14回 ICTに関する最近の話題		復習 演習内容	
第15回 まとめ		復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	持ち込みなし：50%		
レポート	10%		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	毎回の感想・コメント 25%、ノートの確認 15%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。 適宜ノートの提出を求め、確認をする。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に適宜紹介		
オフィスアワー	月曜日15:00-18:00 ほかの時間帯でも可、いずれにしても電子メールで確認すること	メールアドレス	

授業科目	情報処理応用演習A	開講時期	前期
担当教員	持尾 弘司	単位	1
授業の目的と概要	<p>MS Wordはワードプロセッサのデファクトスタンダードである。本演習では、MS Wordを自在に活用することができる知識と技術を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実社会で遭遇する様々な局面で的確に文書を作成することができるようになる。</li> <li>2. 決められた様式にしたがって文書を正確に作成できるようになる。</li> <li>3. 類似文書やテンプレートの利用ができるようになる。</li> </ol> <p>毎回数題の問題演習を行い、作成した文書を提出する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実社会で要求される文書の概要を把握している。</li> <li>2. 文字列、グラフィック、図表とグラフの挿入配置ができる。</li> <li>3. 文字、段落、ページ書式の設定ができる。箇条書きと段落番号の設定ができる。</li> <li>4. ハイパーリンクを設定できる。</li> <li>5. テンプレートの利用ができる。</li> <li>6. 文書の保存管理ができる。</li> <li>7. コメントと変更履歴の管理ができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション 【基礎編】社内通知1	予習 p.2～p.3	
第2回	【基礎編】社内通知2、社内通知3、通知状1、通知状2	予習 p.4～p.11	
第3回	【基礎編】案内状1、案内状2、FAX送付状、転勤挨拶はがき	予習 p.11～p.19	
第4回	【基礎編】社員旅行のご案内、見積書、納品書、エントリーシート	予習 p.20～p.27	
第5回	【基礎編】出張旅費精算書、始末書、企画書、会議報告書	予習 p.28～p.35	
第6回	【基礎編】詫び状、会議議事録、稟議書、指示書	予習 p.36～p.43	
第7回	【基礎編】社内通知4、パソコンスクール・パンフレット、社内報、依頼状	予習 p.44～p.51	
第8回	【応用編】案内状1、案内状2、案内状3、通知状1	予習 p.54～p.57	
第9回	【応用編】案内状4、通知状2、案内状5、案内状6	予習 p.58～p.61	
第10回	【応用編】あいさつ状、請求書、見積書、業務日報	予習 p.62～p.65	
第11回	【応用編】出張報告書、表彰状、調査報告書、企画書1	予習 p.66～p.70	
第12回	【応用編】企画書2、案内状7、宛名ラベル、詫び状	予習 p.71～p.74	
第13回	【応用編】礼状、通達文、通知文、伺書、マニュアル	予習 p.75～p.79	
第14回	総合問題演習：第1回から第13回までの内容を反映した課題（教科書参照可）	復習 p.2～p.79	
第15回	到達度確認演習：第1回から第14回までの内容を反映した課題（教科書参照不可）	復習 p.2～p.79	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50%：第1回から第13回までの課題 10%：総合問題演習 30%：到達度確認演習		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10%（欠席1回につき5%減、遅刻は1回につき2%減）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。		
教科書	『Wordビジネス問題集』日経BP社		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に適宜紹介		
オフィスワーク	水曜日昼休み（持尾）	メールアドレス	

授業科目	情報処理応用演習A	開講時期	後期
担当教員	小川 暢祐	単位	1
授業の目的と概要	<p>MS Wordはワードプロセッサのデファクトスタンダードである。本演習では、MS Wordを自在に活用することができる知識と技術を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実社会で遭遇する様々な局面で的確に文書を作成することができるようになる。</li> <li>2. 決められた様式にしたがって文書を正確に作成できるようになる。</li> <li>3. 類似文書やテンプレートの利用ができるようになる。</li> </ol> <p>毎回数題の問題演習を行い、作成した文書を提出する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実社会で要求される文書の概要を把握している。</li> <li>2. 文字列、グラフィック、図表とグラフの挿入配置ができる。</li> <li>3. 文字、段落、ページ書式の設定ができる。箇条書きと段落番号の設定ができる。</li> <li>4. ハイパーリンクを設定できる。</li> <li>5. テンプレートの利用ができる。</li> <li>6. 文書の保存管理ができる。</li> <li>7. コメントと変更履歴の管理ができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション 【基礎編】社内通知1	予習 p.2～p.3	
第2回	【基礎編】社内通知2、社内通知3、通知状1、通知状2	予習 p.4～p.11	
第3回	【基礎編】案内状1、案内状2、FAX送付状、転勤挨拶はがき	予習 p.11～p.19	
第4回	【基礎編】社員旅行のご案内、見積書、納品書、エントリーシート	予習 p.20～p.27	
第5回	【基礎編】出張旅費精算書、始末書、企画書、会議報告書	予習 p.28～p.35	
第6回	【基礎編】詫び状、会議議事録、稟議書、指示書	予習 p.36～p.43	
第7回	【基礎編】社内通知4、パソコンスクール・パンフレット、社内報、依頼状	予習 p.44～p.51	
第8回	【応用編】案内状1、案内状2、案内状3、通知状1	予習 p.54～p.57	
第9回	【応用編】案内状4、通知状2、案内状5、案内状6	予習 p.58～p.61	
第10回	【応用編】あいさつ状、請求書、見積書、業務日報	予習 p.62～p.65	
第11回	【応用編】出張報告書、表彰状、調査報告書、企画書1	予習 p.66～p.70	
第12回	【応用編】企画書2、案内状7、宛名ラベル、詫び状	予習 p.71～p.74	
第13回	【応用編】礼状、通達文、通知文、伺書、マニュアル	予習 p.75～p.79	
第14回	総合問題演習：第1回から第13回までの内容を反映した課題（教科書参照可）	復習 p.2～p.79	
第15回	到達度確認演習：第1回から第14回までの内容を反映した課題（教科書参照不可）	復習 p.2～p.79	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50%：第1回から第13回までの課題 10%：総合問題演習 30%：到達度確認演習		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10%（欠席1回につき5%減、遅刻は1回につき2%減）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。		
教科書	『Wordビジネス問題集』日経BP社		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に適宜紹介		
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	情報処理応用演習B		開講時期	前期
担当教員	小川 暢祐・隅田 康明		単位	1
授業の目的と概要	MS Excelはスプレッドシートのデファクトスタンダードである。本演習では、MS Excelを自在に活用する知識と技術を身に付ける。 1. データを的確に記録、整理できるようになる。 2. 記録されたデータを必要に応じて処理できるようになる。 3. 処理結果を要求された形式で適切に表示、出力することができるようになる。 毎回教科書にしたがって順次課題の作成に取り組む。			
到達目標	1. 実社会で遭遇する表計算の概要を把握している。 2. セルへの数値、文字列、画像データ入力や編集ができる。 3. セルの書式設定ができる。 4. ワークシートの整理、ページ設定と印刷等ブック管理ができる。 5. オートフィルタによる抽出や並べ替えができる。 6. 関数を用いたデータ処理ができる。 7. 図表とグラフの作成ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 【基礎編】 売上日報、営業月報、売上実績表、月間勤務表	予習 p. 2～p. 9		
第2回	【基礎編】 交通費精算書、時間帯別客単価、見積書、納品書	予習 p. 10～p. 17		
第3回	【基礎編】 請求書、受注一覧1、受注一覧2、売上台帳	予習 p. 18～p. 25		
第4回	【基礎編】 部門別売上比較、売上集計表、販売店別・機種別売上表、売上比較表	予習 p. 26～p. 33		
第5回	【基礎編】 得意先別売上集計表、来期予想、全店経費集計表、研修会申込記録	予習 p. 34～p. 41		
第6回	【基礎編】 商品別売上実績、社員名簿、宿泊施設一覧、アンケート集計、会議室予約表	予習 p. 42～p. 51		
第7回	【応用編】 出荷伝票（自動入力）、売上集計（シート統合）、売上一覧（分析）	予習 p. 54～p. 56		
第8回	【応用編】 営業所別売上比較、売上一覧（データベース）、部門別売上集計表	予習 p. 57～p. 58		
第9回	【応用編】 売上一覧（集計）、売上表（データベース、マクロ）、商品売上（クロス集計）	予習 p. 60～p. 62		
第10回	【応用編】 商品売上（グラフ）、売上数推移、仕入予定表、売上予算管理	予習 p. 63～p. 66		
第11回	【応用編】 予算実績比較、請求書明細、請求書明細（データベース、マクロ）、支払予定一覧表	予習 p. 67～p. 70		
第12回	【応用編】 売価算定表、季節指数、在庫管理表、現地調達率	予習 p. 71～p. 74		
第13回	【応用編】 買上率、損益分岐点、品質管理表（歩留）、ABC分析	予習 p. 75～p. 78		
第14回	総合問題演習：第1回から第13回までの内容を反映した課題（教科書参照可）	復習 p. 2～p. 78		
第15回	到達度確認演習：第1回から第14回までの内容を反映した課題（教科書参照不可）	復習 p. 2～p. 78		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%：第1回から第13回までの課題 10%：総合問題演習 30%：到達度確認演習			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10%（欠席1回につき5%減、遅刻1回につき2%減）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。			
教科書	『Excel ビジネス問題集』日経BP社			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	情報処理応用演習B	開講時期	後期
担当教員	小川 暢祐	単位	1
授業の目的と概要	MS Excelはスプレッドシートのデファクトスタンダードである。本演習では、MS Excelを自在に活用する知識と技術を身に付ける。 1. データを的確に記録、整理できるようになる。 2. 記録されたデータを必要に応じて処理できるようになる。 3. 処理結果を要求された形式で適切に表示、出力することができるようになる。 毎回教科書にしたがって順次課題の作成に取り組む。		
到達目標	1. 実社会で遭遇する表計算の概要を把握している。 2. セルへの数値、文字列、画像データ入力や編集ができる。 3. セルの書式設定ができる。 4. ワークシートの整理、ページ設定と印刷等ブック管理ができる。 5. オートフィルタによる抽出や並べ替えができる。 6. 関数を用いたデータ処理ができる。 7. 図表とグラフの作成ができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション 【基礎編】 売上日報、営業月報、売上実績表、月間勤務表	予習 p. 2～p. 9	
第2回	【基礎編】 交通費精算書、時間帯別客単価、見積書、納品書	予習 p. 10～p. 17	
第3回	【基礎編】 請求書、受注一覧1、受注一覧2、売上台帳	予習 p. 18～p. 25	
第4回	【基礎編】 部門別売上比較、売上集計表、販売店別・機種別売上表、売上比較表	予習 p. 26～p. 33	
第5回	【基礎編】 得意先別売上集計表、来期予想、全店経費集計表、研修会申込記録	予習 p. 34～p. 41	
第6回	【基礎編】 商品別売上実績、社員名簿、宿泊施設一覧、アンケート集計、会議室予約表	予習 p. 42～p. 51	
第7回	【応用編】 出荷伝票（自動入力）、売上集計（シート統合）、売上一覧（分析）	予習 p. 54～p. 56	
第8回	【応用編】 営業所別売上比較、売上一覧（データベース）、部門別売上集計表	予習 p. 57～p. 58	
第9回	【応用編】 売上一覧（集計）、売上表（データベース、マクロ）、商品売上（クロス集計）	予習 p. 60～p. 62	
第10回	【応用編】 商品売上（グラフ）、売上数推移、仕入予定表、売上予算管理	予習 p. 63～p. 66	
第11回	【応用編】 予算実績比較、請求書明細、請求書明細（データベース、マクロ）、支払予定一覧表	予習 p. 67～p. 70	
第12回	【応用編】 売価算定表、季節指数、在庫管理表、現地調達率	予習 p. 71～p. 74	
第13回	【応用編】 買上率、損益分岐点、品質管理表（歩留）、ABC分析	予習 p. 75～p. 78	
第14回	総合問題演習：第1回から第13回までの内容を反映した課題（教科書参照可）	復習 p. 2～p. 78	
第15回	到達度確認演習：第1回から第14回までの内容を反映した課題（教科書参照不可）	復習 p. 2～p. 78	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50%：第1回から第13回までの課題 10%：総合問題演習 30%：到達度確認演習		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10%（欠席1回につき5%減、遅刻1回につき2%減）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。		
教科書	『Excel ビジネス問題集』日経BP社		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に適宜紹介		
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	情報処理応用演習C	開講時期	前期
担当教員	持尾 弘司	単位	1
授業の目的と概要	<p>MS PowerPointはプレゼンテーションソフトのデファクトスタンダードである。本演習では、MS PowerPointを自在に活用できる知識と技術を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要な説明内容をプレゼンテーションの標準形式にまとめることができるようになる。</li> <li>2. PowerPointの多機能を利用して効果的な説明と説得ができるようになる。</li> <li>3. プレゼンテーションに付随する各種資料を適切に準備することができるようになる。</li> </ol> <p>教科書にしたがって順次課題の作成を行う。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実社会で要求されるプレゼンテーションの概要を把握している。</li> <li>2. 文字列、表、グラフ、図表、図形、グラフィックを挿入配置してスライドを作成できる。</li> <li>3. スライドの書式設定ができる。</li> <li>4. スライドマスタを利用できる。</li> <li>5. 画面切り替えとアニメーションの設定ができる。</li> <li>6. プレゼンテーションの発行ができる。</li> <li>7. 配布資料や発表者ノートの準備ができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技法を身につける」の達成に関わる科目である。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション	【基礎編】企画（ユーザー会の企画）、社内資格制度合格発表、案内（研修案内）	予習 p.2～p.8	
第2回	【基礎編】案内（新卒採用案内）、掲示（本年度経営方針）、掲示（CS行動指針）	予習 p.9～p.13	
第3回	【基礎編】企画（創立十周年記念式典）、説明（事業企画部組織図）、報告（Mbrale Survey Report）	予習 p.14～p.18	
第4回	【基礎編】報告（活動報告書）、告知（社内英会話スクール）、計画（新店舗出店計画）	予習 p.19～p.24	
第5回	【基礎編】提案（社員報奨旅行）、掲示（観光旅行案内）、説明（会社概要とビジョン）、プレゼン（プレゼンテーション研修の提案）	予習 p.25～p.32	
第6回	【基礎編】印刷（セミナー教材）、提案（シュレッターの提案）、説明（下期営業目標説明会）、説明（情報機器社外持出し）	予習 p.33～p.40	
第7回	【応用編】会議メモ（新製品販売促進会議）、テンプレート（月度報告書）、説明（昇格試験制度）	予習 p.42～p.44	
第8回	【応用編】企画（環境マネジメント対策）、説明（営業支援システム説明会）、説明（海外派遣対象者選定）	予習 p.45～p.48	
第9回	【応用編】掲示（上半期売上高一覧）、告知（セミナー案内）、説明（新入社員教育補足資料）	予習 p.49～p.51	
第10回	【応用編】パンフレット（Consulting Salon）、説明（PC推奨設定操作説明書）、ポスター（海外業務研修生募集）	予習 p.52～p.54	
第11回	【応用編】掲示（病院待合室ディスプレイ）、提案（運営体制改善提案）、説明（リゾートマンション紹介）	予習 p.55～p.58	
第12回	【応用編】説明（新商品説明会）、説明（入居手続き案内会）、案内（店舗フロア案内）	予習 p.59～p.61	
第13回	【応用編】相談（新年度方針説明会）、セミナー資料（インフルエンザ予防）	予習 p.62～p.63	
第14回	総合問題演習：第1回から第13回までの内容を反映した課題（教科書参照可）	復習 p.2～p.63	
第15回	到達度確認演習：第1回から第14回までの内容を反映した課題（教科書参照不可）	復習 p.2～p.63	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50%：第1回から第13回までの課題 10%：総合問題演習 30%：到達度確認演習		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10%（欠席1回につき5%減、遅刻1回につき2%減）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。		
教科書	『PowerPointビジネス問題集』日経BP社		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に適宜紹介		
オフィスワーク	水曜日昼休み	メールアドレス	



授業科目	情報処理応用演習C		開講時期	後期
担当教員	隅田 康明		単位	1
授業の目的と概要	<p>MS PowerPointはプレゼンテーションソフトのデファクトスタンダードである。本演習では、MS PowerPointを自在に活用できる知識と技術を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要な説明内容をプレゼンテーションの標準形式にまとめることができるようになる。</li> <li>2. PowerPointの多機能を利用して効果的な説明と説得ができるようになる。</li> <li>3. プレゼンテーションに付随する各種資料を適切に準備することができるようになる。</li> </ol> <p>教科書にしたがって順次課題の作成を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実社会で要求されるプレゼンテーションの概要を把握している。</li> <li>2. 文字列、表、グラフ、図表、図形、グラフィックを挿入配置してスライドを作成できる。</li> <li>3. スライドの書式設定ができる。</li> <li>4. スライドマスタを利用できる。</li> <li>5. 画面切り替えとアニメーションの設定ができる。</li> <li>6. プレゼンテーションの発行ができる。</li> <li>7. 配布資料や発表者ノートの準備ができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技法を身につける」の達成に関わる科目である。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 【基礎編】企画（ユーザー会の企画）、社内資格制度合格発表、案内（研修案内）	予習 p.2～p.8		
第2回	【基礎編】案内（新卒採用案内）、掲示（本年度経営方針）、掲示（CS行動指針）	予習 p.9～p.13		
第3回	【基礎編】企画（創立十周年記念式典）、説明（事業企画部組織図）、報告（Mbrale Survey Report）	予習 p.14～p.18		
第4回	【基礎編】報告（活動報告書）、告知（社内英会話スクール）、計画（新店舗出店計画）	予習 p.19～p.24		
第5回	【基礎編】提案（社員報奨旅行）、掲示（観光旅行案内）、説明（会社概要とビジョン）、プレゼン（プレゼンテーション研修の提案）	予習 p.25～p.32		
第6回	【基礎編】印刷（セミナー教材）、提案（シュレッターの提案）、説明（下期営業目標説明会）、説明（情報機器社外持出し）	予習 p.33～p.40		
第7回	【応用編】会議メモ（新製品販売促進会議）、テンプレート（月度報告書）、説明（昇格試験制度）	予習 p.42～p.44		
第8回	【応用編】企画（環境マネジメント対策）、説明（営業支援システム説明会）、説明（海外派遣対象者選定）	予習 p.45～p.48		
第9回	【応用編】掲示（上半期売上高一覧）、告知（セミナー案内）、説明（新入社員教育補足資料）	予習 p.49～p.51		
第10回	【応用編】パンフレット（Consulting Salon）、説明（PC推奨設定操作説明書）、ポスター（海外業務研修生募集）	予習 p.52～p.54		
第11回	【応用編】掲示（病院待合室ディスプレイ）、提案（運営体制改善提案）、説明（リゾートマンション紹介）	予習 p.55～p.58		
第12回	【応用編】説明（新商品説明会）、説明（入居手続き案内会）、案内（店舗フロア案内）	予習 p.59～p.61		
第13回	【応用編】相談（新年度方針説明会）、セミナー資料（インフルエンザ予防）	予習 p.62～p.63		
第14回	総合問題演習：第1回から第13回までの内容を反映した課題（教科書参照可）	復習 p.2～p.63		
第15回	到達度確認演習：第1回から第14回までの内容を反映した課題（教科書参照不可）	復習 p.2～p.63		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%：第1回から第13回までの課題 10%：総合問題演習 30%：到達度確認演習			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10%（欠席1回につき5%減、遅刻1回につき2%減）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。			
教科書	『PowerPointビジネス問題集』日経BP社			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	情報処理応用演習D	開講時期	前期
担当教員	持尾 弘司	単位	1
授業の目的と概要	MS Accessは小規模関係データベースのデファクトスタンダードである。本演習では、MS Accessを自在に活用できる知識と技術を身に付ける。 1. 要求に従って関係データベースを全体設計できるようになる。 2. データを記録し永続化することができるようになる。 3. 記録データを必要に応じて加工・抽出できるようになる。 4. インターフェイスや出力フォーマットを独自設定できるようになる。 教科書にしたがって順次データベースを構築しデータ処理を行う。最後に2回の総合演習を行う。		
到達目標	1. 実社会で利用される関係データベースの概要を把握している。 2. 関係データベースの構築ができる。 3. 関係データベース要素の作成と書式設定ができる。 4. データ入力と編集ができる。 5. クエリによるデータ抽出・加工ができる。 6. フォームデザイン、レポートデザインができる。 7. 関係データベースの維持管理ができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	リレーショナルデータベースとははじめ	予習 p.12～p.26	
第2回	データベース新規作成、テーブル設計、フィールドのデータ型、データシートビューとデザインビュー	予習 p.28～p.52	
第3回	主キー、フィールドプロパティ、テーブルデータ入力	予習 p.53～p.80	
第4回	クエリとは、選択クエリの基本、選択クエリを用いた検索	予習 p.82～p.103	
第5回	あいまいな条件による検索、比較演算子、複数条件による検索	予習 p.104～p.127	
第6回	演算フィールド、関数を利用した検索、条件分岐	予習 p.128～p.149	
第7回	更新クエリ、削除クエリ、複数テーブルの連携	予習 p.150～p.172	
第8回	リレーショナルデータベース、リレーションシップ設定	予習 p.173～p.191	
第9回	参照整合性、リレーションシップの種類、関連付けしたテーブルへの入力	予習 p.192～p.212	
第10回	関連付けしたテーブルでの検索、フォームの基本	予習 p.213～p.233	
第11回	単一テーブル対象のフォーム、複数テーブル対象のフォーム	予習 p.234～p.255	
第12回	サブフォーム、フォームデザイン、レポートの基本、テーブル対象レポート	予習 p.256～p.273	
第13回	選択クエリ対象レポート	予習 p.274～p.287	
第14回	総合問題演習：第1回から第13回までの内容を反映した課題（教科書参照可）	復習 p.12～p.287	
第15回	到達度確認演習：第1回から第14回までの内容を反映した課題（教科書参照不可）	復習 p.12～p.287	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50%：第1回から第13回までの課題 10%：総合問題演習 30%：到達度確認演習		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10%（欠席1回につき5%減、遅刻1回につき2%減）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。尚、PC演習室を利用するので定員60名である。希望者多数の場合は抽選を行う。		
教科書	『Accessデータベースのツボとコツがゼッタイにわかる本』 秀和システム		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に適宜紹介		
オフィスワーク	水曜日昼休み	メールアドレス	

授業科目	情報処理基礎演習 I		開講時期	前期
担当教員	持尾 弘司・一ノ瀬 元史・小山 昌宏・富永 信一・坂根 美津子・藤野 友和・隅田 康明		単位	1
授業の目的と概要	<p>現代社会生活で必須とされるオフィス・ソフトウェアのうち、ワードプロセッサ、表計算ソフトの使い方を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文字データや画像データを記録し、整理することができるようになる。</li> <li>2. データを利用した文書作成ができるようになる。</li> <li>3. データを表形式で整理することができる。</li> <li>4. 表形式データの分析ができるようになる。</li> </ol> <p>毎回、テーマに沿って具体的に文書作成や表計算処理を行う。教科書には細かな手順が記載されているので指示通りに作業を行い、完成したものを提出する。さらに、Word、Excelについてのまとまった課題作成を各1回ずつ行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Wordを用いて、文字だけでなくオブジェクトを取り入れた多彩なレイアウトの文書を作成できる。</li> <li>2. Wordの校正機能によって文書を誤りのないものにし、レビュー機能で変更履歴を管理できる。</li> <li>3. Excelを使ってデータ入力を行い、関数による表計算処理でデータ集計・分析・抽出ができる。</li> <li>4. Excelのスプレッドシート上で書式付けおよびグラフ作成ができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、共通科目におけるDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」に関わるものである。なお、文学部および人間科学部の学部共通科目である「情報処理応用演習A (Word)」、「情報処理応用演習B (Excel)」、並びに現代社会学部の基礎科目 (現代社会実務) である「ソフトウェア演習A (Word)」、「ソフトウェア演習B (Excel)」は関連する発展科目である。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 メール、Web： ネット環境		予習	『情報リテラシー教科書』 p. 25～p. 54	
第2回 基本的な文書の作成： タッチタイピング、文字変換、ページ設定、文字書式、段落書式		予習	『情報リテラシー教科書』 p. 55～p. 78	
第3回 オブジェクトの取り扱い： 脚注、ヘッダーとフッター、表、図・写真、ワードアート		予習	『情報リテラシー教科書』 p. 79～p. 100	
第4回 Word課題作成1		復習	第2回～第3回	
第5回 一般的なビジネス文書の作成： 基本ルール、インデント、均等割り付け、タブによる位置揃え、ルビ		予習	『情報活用ワープロ』 p. 15～p. 27	
第6回 シンプルなレポートや報告書の作成： 基本ルール、段落書式、罫線、箇条書き、行送り		予習	『情報活用ワープロ』 p. 28～p. 43	
第7回 複数宛先への送付文書： 差し込み印刷、メイン文書、データファイル、差し込みフィールド、宛名ラベル		予習	『情報活用ワープロ』 p. 44～p. 56	
第8回 表で項目や数値を整理した文書： 表の挿入、表のレイアウト、表の書式、表の配置		予習	『情報活用ワープロ』 p. 57～p. 70	
第9回 イラストや図形を使ったビジュアルな文書： ワードアート、クリップアート、図形の作成と編集		予習	『情報活用ワープロ』 p. 71～p. 88	
第10回 図やグラフで情報を伝える文書： SmartArtの作成と編集、グラフの作成、テキストボックス		予習	『情報活用ワープロ』 p. 89～p. 101	
第11回 Excelの基本と関数の利用： データ入力、計算式と関数、相対参照と絶対参照、基本的な関数		予習	『情報リテラシー教科書』 p. 101～p. 121	
第12回 書式の設定、グラフ： 行、列、セルの書式、グラフの種類と構成、グラフの作成		予習	『情報リテラシー教科書』 p. 122～p. 140	
第13回 高度な関数： 高度な関数、IF関数の入れ子、LOOKUP関数、INDEX/MATCH関数		予習	『情報リテラシー教科書』 p. 141～p. 151	
第14回 データベース、その他機能： リストデータベース、並べ替え、抽出、ピボットテーブル、便利な機能		予習	『情報リテラシー教科書』 p. 152～p. 164	
第15回 Excel 課題作成		復習	第11回～第14回	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20%：通常提出 30%：Word課題 30%：Excel課題			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% (欠席1回につき5%減、遅刻1回につき2%減)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	作業中、互いに教え合うことは可。ただし、周りの迷惑にならないように十分注意すること。それ以外の私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。			
教科書	矢野文彦 『情報リテラシー教科書』 オーム社、 ZUGA 『情報活用ワープロ』 日経BP社			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワーク	担当教員の他科目のシラバス参照、または授業の前後	メールアドレス		

授業科目	情報処理基礎演習Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	持尾 弘司・一ノ瀬 元史・小山 昌宏・富永 信一・坂根 美津子・藤野 友和・隅田 康明		単位	1
授業の目的と概要	<p>プレゼンテーションソフト、データベースソフトの使い方を身に付ける。加えて、Wordによる統合的な文書の作成を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発表事項をスライド形式にまとめることができるようになる。</li> <li>2. 説明のための資料を作成できるようになる。</li> <li>3. データを系統的に記録し、相互に関連付けて整理することができる。</li> <li>4. 条件にしたがってデータ抽出をすることができる。</li> <li>5. 各種コンテンツを含んだ統合的な文書を作成することができる。</li> </ol> <p>毎回、教科書の手順に従って作業を行い、完成したものを提出する。さらに、PowerPoint、Accessそれぞれについて各1回まとめた課題の作成を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. PowerPointを用いて文字だけでなくオブジェクトを取り入れたプレゼンテーションを作成できる。</li> <li>2. PowerPointを使って配布資料や発表ノートを作成し、プレゼンテーションを実行できる。</li> <li>3. Accessを用いてリレーショナルデータベースを構築することができる。</li> <li>4. Accessのリレーショナルデータベース上で、データ入力、更新、抽出を行い、レポートを作成できる。</li> <li>5. Wordによる統合的な文書の作成ができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、共通科目におけるDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」に関わるものである。なお、文学部および人間科学部の学部共通科目である「情報処理応用演習C (PowerPoint)」、「情報処理応用演習D (Access)」、並びに現代社会学部の基礎科目(現代社会実務)である「ソフトウェア演習C (PowerPoint)」、「ソフトウェア演習D (Access)」は関連する発展科目である。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	プレゼンテーションの作成：プレゼンテーションの基礎、スライド管理、文字入力、レイアウト、図	予習 『情報リテラシー教科書』 p.165～p.182		
第2回	構成と書式：発表の組み立て、書式、画面切替効果、アニメーション、スライドショー、印刷	予習 『情報リテラシー教科書』 p.183～p.204		
第3回	PowerPoint課題作成	復習 第1回～第2回		
第4回	データベースの基本：オブジェクト、テーブル、主キー、フィールド定義、並べ替え、抽出	予習 『情報リテラシー教科書』 p.205～p.228		
第5回	リレーションシップとクエリ、入出力：リレーションシップ、選択クエリ、フォーム、レポート	予習 『情報リテラシー教科書』 p.229～p.249		
第6回	Access課題作成	復習 第4回～第5回		
第7回	既存のデータを利用した文書の作成：文書の組合せ、Excelデータの貼り付け、写真の挿入、テーマ	予習 『情報活用ワープロ』 p.102～p.114		
第8回	読みやすいレイアウトの長文の作成：スタイルによる書式統一、段組、ドロップキャップ、ページ罫線	予習 『情報活用ワープロ』 p.115～p.125		
第9回	効率のよい長文の作成：アウトライン、文書構造の変更、検索と置換、移動、ウィンドウ分割と参照	予習 『情報活用ワープロ』 p.126～p.138		
第10回	長文の編集と加工：表紙、目次、脚注、セクション、ヘッダーとフッター、ページ番号	予習 『情報活用ワープロ』 p.139～p.150		
第11回	共同作業と文書の保護：コメント、変更履歴の記録と反映、異なる文書の比較、文書の保護	予習 『情報活用ワープロ』 p.151～p.162		
第12回	統合文書課題作成1	復習 『情報活用ワープロ』 p.1～p.43		
第13回	統合文書課題作成2	復習 『情報活用ワープロ』 p.44～p.88		
第14回	統合文書課題作成3	復習 『情報活用ワープロ』 p.89～p.125		
第15回	統合文書課題作成4	復習 『情報活用ワープロ』 p.126～p.163		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20%：通常提出 20%：PowerPoint課題 20%：Access課題 20%：統合文書課題1～4			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 欠席1回につき5%減、遅刻1回につき2%減			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	作業中、互いに教え合うことは可。ただし、周りの迷惑にならないように十分注意すること。それ以外の私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。			
教科書	矢野文彦『情報リテラシー教科書』オーム社 ZUGA『情報活用ワープロ』日経BP社			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスワーク	担当教員の他科目のシラバス参照、または授業の前後	メールアドレス		

授業科目	情報メディア研究		開講時期	後期
担当教員	合志 和晃		単位	2
授業の目的と概要	メディアアート、グラフィックスデザイン、スマートフォン用アプリの開発に使われるProcessingを用いて、情報メディアに関わるプログラムの開発方法を習得することを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Processingについて概要を説明できる。</li> <li>・ プログラミングの基礎的な事項を説明できる。</li> <li>・ グラフィックスやサウンドを扱うプログラムを作成できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、情報メディアに関わるプログラムをどのようにプログラミングする（作る）かを学ぶ。関連する科目である「プログラミング演習」は、プログラミングそのもの（基本的な概念）を演習を通して学ぶ。プログラミング言語が科目で異なるのでしっかりとその違いに気を付ける必要はあるが、両方受講すると理解が深まる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 ガイダンス		作業内容の復習（パソコンの環境）		
第2回 開発環境のインストール		作業内容の復習（実行の仕方）		
第3回 命令（メソッド）、色と図形		作業内容の復習（色と図形）		
第4回 動きのあるプログラム(setupとdraw)		作業内容の復習（setupとdraw）		
第5回 変数、移動するボール		作業内容の復習(変数)		
第6回 条件分岐(if)、跳ね返るボール		作業内容の復習(if)		
第7回 ゲーム		作業内容の復習(ゲームプログラミング)		
第8回 繰り返し(for)、図形を並べる		作業内容の復習(for)		
第9回 画像の表示、画像処理		作業内容の復習(画像)		
第10回 効果音の再生、音楽の再生		作業内容の復習(音)		
第11回 座標変換、3Dグラフィックス		作業内容の復習(座標変換)		
第12回 文字、入力、クラス/Android用アプリ		作業内容の復習(文字)		
第13回 応用		作業内容の復習(応用)		
第14回 まとめ		作業内容の復習(まとめ)		
第15回 発展		作業内容の復習(発展)		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100%（毎回メールで提出する）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講の際にはノートPCを携行すること。原則としてノートPCを携行していない場合出席とは認めない。			
教科書	なし（資料を配布する）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	質問等は授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	情報メディアの活用【司書教諭】	開講時期	後期
担当教員	持尾 弘司	単 位	2
授業の目的と概要	<p>司書教諭に求められる情報メディアの活用能力を身に付ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要に応じ適切な情報メディアを選ぶことができるようになる。</li> <li>2. 個々の情報メディアを使いこなすことができるようになる。</li> <li>3. 情報メディアを学校教育に役立てることができるようになる。</li> <li>4. 情報メディアの利用を促進することができるようになる。</li> </ol> <p>高度情報社会、情報メディアの特性と選択、視聴覚メディアの活用について講義した後、プレゼンテーション、映像、データベース、Webページについて順次課題作成の演習を行う。最後に著作権とその保護について学ぶ。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 司書教諭に求められる情報リテラシーについて理解している。</li> <li>2. 情報メディアの概要を把握している。</li> <li>3. プレゼンテーションツールを幅広く活用することができる。</li> <li>4. 映像メディアを利用してプロモーションを行うことができる。</li> <li>5. Webを使って情報発信ができる。</li> <li>6. ネットワークを通じたコミュニケーションを促すことができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は学校図書館司書教諭課程の講習科目であり、学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図るねらいがある。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	高度情報社会、学校図書館	復習 講義内容	
第 2回	情報メディアの特性と選択	復習 講義内容	
第 3回	視聴覚メディアの活用	復習 講義内容	
第 4回	プレゼンテーション課題作成 1： データ取り込み、トリミング、スライド作成	予習 オンラインPowerPoint チュートリアルを順次実行	
第 5回	プレゼンテーション課題作成 2： テキスト挿入、場面切替効果、アニメーション	予習 オンラインPowerPoint チュートリアルを順次実行	
第 6回	プレゼンテーション課題作成 3： ナレーション、効果音、BGM	予習 オンラインPowerPointチュートリアルを順次実行	
第 7回	プレゼンテーション課題作成 4： 全体構成、タイミング設定、自動実行設定	予習 オンラインPowerPointチュートリアルを順次実行	
第 8回	映像編集課題作成 1： データ取り込み、タイムライン配置、トリミング	予習 オンラインMvi eMaker チュートリアルを順次実行	
第 9回	映像編集課題作成 2： 場面切替効果、特殊効果、タイトル、エンドロール	予習 オンラインMvi eMaker チュートリアルを順次実行	
第10回	映像編集課題作成 3： ナレーション、効果音、BGM	予習 オンラインMvi eMakerチュートリアルを順次実行	
第11回	映像編集課題作成 4： 全体構成、ビルド、フォーラムへの投稿	予習 オンラインMvi eMakerチュートリアルを順次実行	
第12回	データベースと情報検索： データベースの仕組み、クエリとビュー、検索結果の表示	予習 オンラインAccessチュートリアルを順次実行	
第13回	Web課題作成 1： トップページの作成、レイアウト、書式、HTML書出し	予習 オンラインWordチュートリアルを順次実行	
第14回	Web課題作成 2： 情報検索ページの作成、レイアウト、書式、リンク設定、HTML書出し	予習 オンラインWordチュートリアルを順次実行	
第15回	学校図書館メディアと著作権	復習 講義内容	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50%：プレゼンテーション課題および映像編集課題（各25%） 20%：データベース課題およびWeb課題（各10%） 10%：講義内容確認課題		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20%（欠席1回につき5%減、遅刻1回につき2%減）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	演習の作業中、互いに教え合うことは可。ただし、周りの迷惑にならないように十分注意すること。それ以外の私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に適宜紹介		
オフィスアワー	水曜日昼休み	メールアドレス	

授業科目	女性・ジェンダー論②		開講時期	前期
担当教員	喜多村 百合・赤枝 香奈子・武藤 桐子		単位	2
授業の目的と概要	みなさんにとって明快な区分である男女の別は、普遍的・固定的ではなく、社会により異なり歴史的に変化してきたことが明らかとなっています。それをジェンダー(社会的文化的性差)と呼びます。この講義では、まず性差概念を整理したうえで、歴史や現代社会における性差をめぐる事象と諸課題を担当講師三人の専門領域を中心に検討します。導入を赤枝が行い、前半では歴史におけるジェンダーについて、女性解放運動とのかかわりや、問題の変化や広がり理解します。中盤を武藤が担当し、日本におけるジェンダーについて、家族、労働、性などの身近な問題を中心に、歴史的視点を取り入れながら理解します。後半を喜多村が担当し、異文化におけるジェンダーを多面的に知ることをテーマに、インドを中心にその特徴と諸課題を理解します。			
到達目標	①性差概念を理解し、差異化や制度化の歴史的な過程、およびその背景を理解し説明できる。 ②インドにおけるジェンダーのあり方や課題、可能性を理解し説明できる。 ③歴史に見られるジェンダーをめぐる問題やその変化を理解し説明できる。 ④日本社会におけるジェンダー問題や諸課題を理解し説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目のDP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成に関わる科目です。 ①現代社会を分析・理解する上で、同時に女性として生きる上で重要な概念かつ視座である「ジェンダー」を理解するための導入科目である。 ②筑女コア科目を構成する「女性と言語文化」(1年後学期)「女性と政治」(2年前学期)「女性と経済(ワークライフバランスを含む)」(2年後学期)を選択履修し、さらに「女性の生き方を考える副専攻」を構成する各学科開講の専攻科目を横断履修することで、重層的かつ発展的の学びができる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 導入I：講義のねらいと性差概念のオリエンテーション		教科書第1、2章		
第2回 導入II：性差概念のオリエンテーション		教科書第5、7章		
第3回 歴史におけるジェンダー：日本における女性解放運動		教科書第4章、指定図書① unit 5, unit 16, unit 23		
第4回 外部講師による特別講義		レポート作成		
第5回 歴史におけるジェンダー：売買春と戦時下・戦後の性暴力		教科書第6章、指定図書① unit 17, unit 20, unit 21 参考図書③		
第6回 歴史におけるジェンダー：セクシュアリティとジェンダー		教科書第13章、参考図書①		
第7回 歴史におけるジェンダー：多様な性/生のあり方		教科書第15章、参考図書②、レポート作成		
第8回 日本におけるジェンダー：性別役割分業と男女の働き方		教科書第4、9章、指定図書①第5章(武藤分)		
第9回 日本におけるジェンダー：家族をめぐる制度とジェンダー		教科書第10章		
第10回 日本におけるジェンダー：産む・産まないをめぐる問題		指定図書①第7章(武藤分)		
第11回 日本におけるジェンダー：暴力とジェンダー～DVを中心に		教科書第6章、レポート作成		
第12回 異文化に見るジェンダー：インドの社会・文化とジェンダーI		教科書第3、6、14章、指定図書①、③(喜多村分)		
第13回 異文化に見るジェンダー：インドの社会・文化とジェンダーII		教科書第4章、指定図書①、③(喜多村分)		
第14回 異文化に見るジェンダー：インドの女性の地位向上のあゆみ		教科書14章、指定図書②(喜多村分)		
第15回 異文化に見るジェンダー：インドの女性の政治経済参加と課題		指定図書②(喜多村分)、レポート作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	中間および期末レポート(各講師ごとのテーマで作成)計3回 各30%(計90%)、特別講義5%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	5%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日頃から女性・ジェンダーにかかわる新聞・雑誌記事、テレビニュースや番組などに関心を持って準備してほしい。			
教科書	伊藤公雄『ジェンダーの社会学』放送大学出版会			
指定図書	①千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣 (喜多村分は女性・ジェンダー論①を、武藤分は女性・ジェンダー論③を参照)			
参考図書	①加藤秀一他『図解雑学 ジェンダー』ナツメ社 ②河口和也『クイア・スタディーズ』岩波書店 ③大越愛子・倉橋耕平編『ジェンダーとセクシュアリティ』昭和堂 (喜多村分は女性・ジェンダー論①を、武藤分は女性・ジェンダー論③を参照)			
オフィスアワー	喜多村(火5、木午後) 赤枝(木2) 武藤(授業後、あるいはメールで)	メールアドレス		

授業科目	女性・ジェンダー論③		開講時期	前期
担当教員	喜多村 百合・赤枝 香奈子・武藤 桐子		単位	2
授業の目的と概要	みなさんにとって明快な区分である男女の別は、普遍的・固定的ではなく、社会により異なり歴史的に変化してきたことが明らかとなっています。それをジェンダー（社会的文化的性差）と呼びます。この講義では、まず性差概念を整理したうえで、歴史や現代社会における性差をめぐる事象と諸課題を担当講師三人の専門領域を中心に検討します。はじめに導入を武藤が行い、日本におけるジェンダーについて、家族、労働、性などの身近な問題を中心に、歴史的視点を取り入れながら理解します。次に喜多村が担当し、異文化におけるジェンダーを多面的に知ることをテーマに、インドを中心にその特徴と諸課題を理解します。最後に赤枝が担当し、歴史におけるジェンダーについて、女性解放運動とのかかわりや、問題の変化や広がりを理解します。			
到達目標	①性差概念を理解し、その差異化と制度化の過程、およびその背景を理解し説明できる。 ②日本社会におけるジェンダー問題や諸課題を理解し説明できる。 ③インドにおけるジェンダーのあり方や課題、可能性を理解し説明できる。 ④歴史に見られるジェンダーをめぐる問題やその変化を理解し説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目のDP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成に関わる科目です。 ①現代社会を分析・理解する上で、同時に女性として生きる上で重要な概念かつ視座である「ジェンダー」を理解するための導入科目である。 ②筑女コア科目を構成する「女性と言語文化」（1年後学期）「女性と政治」（2年前学期）「女性と経済（ワークライフバランスを含む）」（2年後学期）を選択履修し、さらに「女性の生き方を考える副専攻」を構成する各学科開講の専攻科目を横断履修することで、重層的かつ発展的学びができる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	導入Ⅰ：講義のねらいと性差概念のオリエンテーション	教科書第1、2章		
第2回	導入Ⅱ：性差概念のオリエンテーション	教科書第1、2章		
第3回	日本におけるジェンダー：性別役割分業と男女の働き方	教科書第4、9章、指定図書①第5章		
第4回	外部講師による特別講義	レポート作成		
第5回	日本におけるジェンダー：家族をめぐる制度とジェンダー	教科書第10章		
第6回	日本におけるジェンダー：産む・産まないをめぐる問題	指定図書①第7章（武藤分）		
第7回	日本におけるジェンダー：暴力とジェンダー ～DVを中心に	教科書第6章、レポート作成		
第8回	異文化に見るジェンダー：インドの社会・文化とジェンダーⅠ	教科書第3、6、14章、指定図書①、③（喜多村分）		
第9回	異文化に見るジェンダー：インドの社会・文化とジェンダーⅡ	教科書第4章、指定図書①、③（喜多村分）		
第10回	異文化に見るジェンダー：インドの女性問題と地位向上のあゆみ	教科書第14章、指定図書②（喜多村分）		
第11回	異文化に見るジェンダー：インドの女性の政治経済参加と課題	指定図書②（喜多村分）、レポート作成		
第12回	歴史におけるジェンダー：日本における女性解放運動	教科書第4章、指定図書① unit 5, unit 16, unit 23（赤枝分）		
第13回	歴史におけるジェンダー：売買春と戦時下・戦後の性暴力	教科書第6章、指定図書① unit 17, unit 20, unit 21 参考図書③（赤枝分）		
第14回	歴史におけるジェンダー：セクシュアリティとジェンダー	教科書第13章、参考図書①（赤枝分）		
第15回	歴史におけるジェンダー：多様な性／生のあり方	教科書第15章、参考図書②（赤枝分）、レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	中間および期末レポート（各講師ごとのテーマで作成）計3回 各30%（計90%）、特別講義5%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	5%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日頃から女性・ジェンダーにかかわる新聞・雑誌記事、テレビニュースや番組などに関心を持って準備してほしい。			
教科書	伊藤公雄 『ジェンダーの社会学』 放送大学出版会			
指定図書	①江原由美子、山田昌弘『ジェンダーの社会学入門』 ②高橋準『ジェンダー学への道案内』（喜多村分、赤枝分は女性・ジェンダー論①②を参照）			
参考図書	①加藤秀一他『図解雑学 ジェンダー』 ②落合恵美子『21世紀家族へ』（喜多村分、赤枝分は女性・ジェンダー論①②を参照）			
オフィスアワー	武藤（授業後、あるいはメールで） 喜多村（火5、木午後） 赤枝（火5）	メールアドレス		



授業科目	女性・ジェンダー論①	開講時期	前期
担当教員	喜多村 百合・赤枝 香奈子・武藤 桐子	単位	2
授業の目的と概要	みなさんにとって明快な区分である男女の別は、普遍的・固定的ではなく、社会により異なり歴史的に変化してきたことが明らかとなっています。それをジェンダー(社会的文化的性差)と呼びます。この講義では、まず性差概念を整理したうえで、歴史や現代社会における性差をめぐる事象と諸課題を担当講師三人の専門領域を中心に検討します。 導入を喜多村が行い、前半では異文化におけるジェンダーを多面的に知ることをテーマに、インドを中心にその特徴と諸課題を理解します。中盤を赤枝が担当し、歴史におけるジェンダーについて、女性解放運動とのかかわりや、問題の変化や広がり理解します。後半を武藤が担当し、日本におけるジェンダーについて、家族、労働、性などの身近な問題を中心に、歴史的視点を取り入れながら理解します。		
到達目標	①性差概念を理解し、差異化や制度化の歴史的な過程、およびその背景を理解し説明できる。 ②インドにおけるジェンダーのあり方や課題、可能性を理解し説明できる。 ③歴史に見られるジェンダーをめぐる問題やその変化を理解し説明できる。 ④日本社会におけるジェンダー問題や諸課題を理解し説明できる。		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	この授業は、共通科目のDP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成に関わる科目です。 ①現代社会を分析・理解する上で、同時に女性として生きる上で重要な概念かつ視座である「ジェンダー」を理解するための導入科目である。 ②筑女コア科目を構成する「女性と言語文化」(1年後学期)「女性と政治」(2年前学期)「女性と経済(ワークライフバランスを含む)」(2年後学期)を選択履修し、さらに「女性の生き方を考える副専攻」を構成する各学科開講の専攻科目を横断履修することで、重層的かつ発展的の学びができる。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 導入Ⅰ：講義のねらいと性差概念のオリエンテーションⅠ		教科書第1、2章	
第2回 導入Ⅱ：性差概念のオリエンテーションⅡ		教科書第1、2章	
第3回 異文化に見るジェンダー：インドの社会・文化とジェンダーⅠ		教科書第3、6、14章、指定図書①、③	
第4回 外部講師による特別講義		レポート作成	
第5回 異文化に見るジェンダー：インドの社会・文化とジェンダーⅡ		教科書第4章、指定図書①、③	
第6回 異文化に見るジェンダー：インドの女性の地位向上のあゆみ		教科書14章、指定図書②	
第7回 異文化に見るジェンダー：インドの女性の政治経済参加と課題		指定図書②、レポート作成	
第8回 歴史におけるジェンダー：日本における女性解放運動		教科書第4章、指定図書①unit5, unit6, @unit23 (赤枝分)	
第9回 歴史におけるジェンダー：売買春と戦時下・戦後の性暴力		教科書第6章、指定図書①unit 17, unit 20, unit 21 (赤枝分)	
第10回 歴史におけるジェンダー：セクシュアリティとジェンダー		教科書第13章、参考図書① (赤枝分)	
第11回 歴史におけるジェンダー：多様な性/生のあり方		教科書第15章、参考書② (赤枝分)、レポート作成	
第12回 日本におけるジェンダー：性別役割分業と男女の働き方		教科書第4、9章、指定図書①第5章 (武藤分)	
第13回 日本におけるジェンダー：家族をめぐる制度とジェンダー		教科書第10章	
第14回 日本におけるジェンダー：産む産まないをめぐる問題		指定図書①第7章 (武藤分)	
第15回 日本におけるジェンダー：暴力とジェンダー～DVを中心に		教科書第6章、レポート作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	中間および期末レポート(各講師ごとのテーマで作成)計3回 各30% (計90%)、特別講義5%		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	5%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日頃から女性・ジェンダーにかかわる新聞・雑誌記事、テレビニュースや番組などに関心を持って準備してほしい。		
教科書	伊藤公雄 『ジェンダーの社会学』 放送大学出版社		
指定図書	①田中雅一他『南アジア社会を学ぶ人のために』 ②水島司編『叢書激動のインド第一巻変動のゆくえ』 ③山下博司『インドを知る事典』(赤枝、武藤分については、女性・ジェンダー論②③をそれぞれ参照)		
参考図書	①鈴木正崇編『南アジアの文化と社会を読み解く』 ②木村涼子編『よくわかるジェンダー・スタディーズ』③国立女性教育会館『男女共同参画統計データブック』、(赤枝、武藤分は、女性・ジェンダー論②③をそれぞれ参照)		
オフィスアワー	喜多村(火5、木午後) 赤枝(火5) 武藤(授業後、あるいはメールで)	メールアドレス	

授業科目	女性心理学	開講時期	前期
担当教員	洪田 登美子	単位	2
授業の目的と概要	<p>人生80余年という長寿命化と少子化が急速に進む現代において、女性の性役割観や価値観が変容し、女性の生き方は多様化しています。女性が生き方を選択できるようになったとすることができますが、どのようなライフコースを選んでも、女性は男性以上に何度も人生の岐路に立たされ、選択を迫られることになります。</p> <p>この授業は、現代女性の生き方に影響を与えている生物学的要因、文化・社会的要因、心理的要因について考察します。その中で自分自身に向き合い、現代社会に生きる女性として自分らしい将来設計をすることを目的とします。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性特有の心理臨床的問題とその問題に関わる文化・社会的要因について説明することができる。</li> <li>2. 女性の多様なライフコースとそれぞれのコースに想定される心理的な危機について具体的に述べることができる。</li> <li>3. ワーク・ライフ・バランスについて自分の考えを述べることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション： 女性の発達とライフサイクル		女性やジェンダーに関連する新聞記事等を調べる	
第2回 女性と男性の分かれ道		女性やジェンダーに関する新聞記事等を調べる	
第3回 思春期における心理臨床： 女性と食行動		女性やジェンダーに関する新聞記事等を調べる	
第4回 女性のライフコースとキャリア発達		厚生労働省HP「女子大学生就活ガイド」を読む	
第5回 女性のキャリア発達とその関連要因		自分の経験をもとに考察するレポートを作成する	
第6回 現代の結婚事情		レポートを作成する	
第7回 親となるプロセス①： 妊娠・出産に関わる意思決定		身近な女性から妊娠・出産にまつわる話を聞く	
第8回 親となるプロセス②： 現代の子育て事情		身近な女性から子育ての話聞く	
第9回 ライフコースの調整とケア役割		どのような働き方をしたいか自分の考えをまとめる	
第10回 ケア・テイカーとしての女性		家庭を維持していくために誰がどのような役割を果たしているのか考える	
第11回 中年期女性の選択		アイデンティティの発達について復習しておく	
第12回 支え、支えられる中高年期		コンボイについて調べる	
第13回 うつと女性： なぜ性差があるのか		講義内容の復習	
第14回 ジェンダーの問題としてDVを考える		居住地域の男女共同参画センターについて調べる	
第15回 国際比較から日本の女性を考える		ジェンダーギャップ指数について調べる	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	50% 定期試験		
レポート	30% レポート：授業の内容に関連した新聞・雑誌の記事を用いた レポート 2500字程度		
小テスト等	-		
成果発表	-		
受講態度他	20% 出席状況と受講態度を勘案する		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>漠然と聞くのではなく、自己関与しながら受講してください。</p> <p>授業中の携帯操作は厳禁です。</p>		
教科書	毎回資料を配布		
指定図書	使用しない		
参考図書	<p>肥田幸子・太田和佐・堀篤実・清水紀子・大見サキエ(著) 『女性心理学 一現代を女性として生きるために』 唯学書房</p> <p>園田雅代・平木典子・下山晴彦(著) 『女性の発達臨床心理学』 金剛出版</p>		
オフィスアワー	月曜日4限	メールアドレス	

授業科目	女性と経済（ワークライフバランスを含む）		開講時期	後期
担当教員	妻 海善		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、日本の女性労働の実態と特徴、女性労働者の雇用促進政策、税・社会保障、他の先進国の取組など、今後女性が社会進出し、経済活動を行う上で知っておくべき労働関連基礎知識を身につけると共に、女性雇用が経済の成長にどのように繋がるかを理解することを目的とする。</p> <p>女性労働問題を経済理論に基づいて説明し、女性労働における特徴と女性労働とかわる諸問題、女性労働者の保護法案と雇用促進法案および税・社会保障問題などを学ぶ。</p>			
到達目標	<p>①女性の就業決定要因に影響を与える要因を経済理論に基づいて理解することができる。</p> <p>②女性の経済活動は社会的・制度的・経済的要因により影響し合っていることが理解できる。</p> <p>③女性の働き方は、少子高齢化、経済成長、社会保険などと関わることが確認できる。</p> <p>④今後、女性雇用者として働く上で知っておくべき雇用関連法律、社会保険制度の仕組みなどが理解できる。</p> <p>⑤今後女性の社会・経済的地位を高めるために必要な課題と改善策は何かを模索することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本授業は、</p> <p>①人間科学部の「保育士課程」の申請科目</p> <p>②全学部対象の「女性の生き方を考える副専攻」</p> <p>③全学部の共通科目DP1「自己と向きあい、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」を充足するための授業科目です。</p> <p>関連科目は、「経済学概論ⅠとⅡ」「アジア女性労働論」である。」</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	授業概要紹介、女性雇用が社会や経済に及ぼす影響		B5サイズのノートを準備する	
第2回	女性労働の経済理論①		経済学の予算線、無差別曲線理論を調べる	
第3回	女性労働の経済理論②		女性が短時間雇用を選ぶ理由を調べる	
第4回	日本の女性雇用の特徴；M字型の原因		男性と女性の働き方の違いを考える	
第5回	M字型をなくすために必要な政策		産休、育児休暇制度を調べる	
第6回	女性の非正規雇用の実態と増加背景		正規と非正規雇用の処遇格差を調べる	
第7回	ワークライフバランス実態と課題・女性雇用政策の流れ、男女共同参画社会		ワークライフバランス実現が必要な理由を考える	
第8回	海外事例；西アジア女性の結婚と仕事（大宰府市いきいき情報センター） （火曜日受講者11/12 ・ 水曜日受講者11/19）		レポート提出：A4用紙800字程度（当日提出）	
第9回	女性の経歴断絶と男女賃金格差		男女賃金格差の原因を考える	
第10回	日本企業の雇用調整の内容と特徴		雇い止め、早期退職、整理解雇の用語を調べる	
第11回	経歴断絶女性の再雇用政策と期待効果		女性が働き続けるために何が必要であるかを調べる	
第12回	社会保険と女性雇用者の加入実態		第3号被保険者問題を調べる	
第13回	雇用保護と雇用促進政策；女性雇用、高齢者雇用、非正規雇用を中心に		政策、法律をまとめる	
第14回	女性雇用率が高い先進国の事例		オランダモデルを調べる	
第15回	授業内容のまとめ。		なし	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	100%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>①テストは手書きノートのみ認めます。</p> <p>②B5サイズのノートを準備し、毎回の授業内容のポイントをまとめてください。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし。毎回、プリントを配布します。			
オフィスアワー	火～水曜日の4限目		メールアドレス	

授業科目	女性と言語文化②		開講時期	後期
担当教員	高山 百合子・大城 房美		単位	2
授業の目的と概要	この科目では、言語および言語による文化事象の中に社会的性差（ジェンダー）がどのように反映しているかを分析・考察していく。主に日本語と英語を対象として、文学作品の他、映画、マンガなどサブカルチャーを含め幅広い文化領域を取り上げる。言語文化においても男女の力関係の不均衡が、強く影響を与えている現実を明らかにしていくことで、女性の置かれている状況により自覚的になることも重要な目的となる。			
到達目標	女性と言語文化に関連するテーマを設定し、自分自身の視点から問題提起ができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	◇この授業では、共通科目DP1：自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てることを大きな目標とする。 ◇女性の生き方を考える副専攻授業科目（副専攻課程の修了証書取得）の一つ。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回：オリエンテーション、ベアテ・シロタ・ゴードンに関する映像の視聴…女性と言語文化2クラスの合同授業(8302)		関連する事象の紹介発表準備など		
第2回：ヴァーチャルなことば「役割語」という視点		関連する事象の紹介発表準備など		
第3回：「女学生」の出現と〈てよだわ〉ことば（1）		関連する事象の紹介発表準備など		
第4回：「女学生」の出現と〈てよだわ〉ことば（2）		関連する事象の紹介発表準備など		
第5回：マスメディアとしての少女雑誌		関連する事象の紹介発表準備など		
第6回：フィクションの中の女性、翻訳の中の女性		関連する事象の紹介発表準備など		
第7回：女性の人称「おれ」「ぼく」をめぐって		関連する事象の紹介発表準備など		
第8回 少女文化（1）少女とは何か 少女雑誌の世界		関連する事象の紹介発表準備など		
第9回 少女文化（2）少女マンガ かわいいと自己表現		関連する事象の紹介発表準備など		
第10回 少女文化（3）欧米の場合 Wonder Woman		関連する事象の紹介発表準備など		
第11回：少女文化（4）世界に広がるHello Kitty		関連する事象の紹介発表準備など		
第12回：女性文化（1）女性を描く		関連する事象の紹介発表準備など		
第13回：女性文化（2）女性が描く		関連する事象の紹介発表準備など		
第14回：女性と言語文化 合同授業（8302）講義		講義の時に指示します。		
第15回：まとめ（合同授業（8302）講義）		これまでのノートの整理		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	20％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席する場合は担当教員に理由を伝えること。 特定のテキストは使用しないので、ノートはしっかりとること。			
教科書	『女性マンガ研究』（青弓社 2015） プリント、画像、映像なども使用。			
指定図書	『『少女の友』創刊100周年記念号 明治・大正・昭和ベストセレクション』、『中原淳一の「女学生服装帖」』『「少女小説」の生成：ジェンダー・ポリティクスの世紀』			
参考図書	『美少女の美術史』『イメージとしての女性』『乙女の日本史』『乙女の世界史』			
オフィスアワー	大城：金曜3講時（要メール連絡） 4・5講時、金曜5講時	高山：水曜	メールアドレス	

授業科目	女性と言語文化①		開講時期	後期
担当教員	高山 百合子・大城 房美		単位	2
授業の目的と概要	この科目では、言語および言語による文化事象の中に社会的性差（ジェンダー）がどのように反映しているかを分析・考察していく。主に日本語と英語を対象として、文学作品の他、映画、マンガなどサブカルチャーを含め幅広い文化領域を取り上げる。言語文化においても男女の力関係の不均衡が、強く影響を与えている現実を明らかにしていくことで、女性の置かれている状況により自覚的になることも重要な目的となる。			
到達目標	女性と言語文化に関連するテーマを設定し、自分自身の視点から問題提起ができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	◇この授業では、共通科目DP1：自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てることを大きな目標とする。 ◇女性の生き方を考える副専攻授業科目（副専攻課程の修了証書取得）の一つ。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回：オリエンテーション、ベアテ・シロタ・ゴードンに関する映像の視聴…女性と言語文化2クラスの合同授業(8302)		関連する事象の紹介発表準備など		
第2回：少女文化（1）少女とは何か 少女雑誌の世界		関連する事象の紹介発表準備など		
第3回：少女文化（2）少女マンガ かわいいと自己表現		関連する事象の紹介発表準備など		
第4回：少女文化（3）欧米の場合 Wonder Woman		関連する事象の紹介発表準備など		
第5回：少女文化（4）世界に広がるHello Kitty		関連する事象の紹介発表準備など		
第6回：女性文化（1）女性を描く		関連する事象の紹介発表準備など		
第7回：女性文化（2）女性が描く		関連する事象の紹介発表準備など		
第8回：ヴァーチャルなことば「役割語」という視点		関連する事象の紹介発表準備など		
第9回：「女学生」の出現と〈てよだわ〉ことば（1）		関連する事象の紹介発表準備など		
第10回：「女学生」の出現と〈てよだわ〉ことば（2）		関連する事象の紹介発表準備など		
第11回：マスメディアとしての少女雑誌		関連する事象の紹介発表準備など		
第12回：フィクションの中の女性、翻訳の中の女性		関連する事象の紹介発表準備など		
第13回：女性の人称「おれ」「ぼく」をめぐる		関連する事象の紹介発表準備など		
第14回：女性と言語文化 合同授業（8302）		講義の時に指示します。		
第15回：まとめ		これまでのノートの整理		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	20％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席する場合は担当教員に理由を伝えること。 特定のテキストは使用しないので、ノートはしっかりとること。			
教科書	『女性マンガ研究』（青弓社 2015） プリント、画像、映像なども使用。			
指定図書	『女性マンガ研究』（青弓社2015）『文学批評女性と表現女性作家と語る（水田宗子対談・鼎談・シンポジウム集）』（城西大学出版会2014）The Only Woman in the Room A Memoir of Japan, Human Rights, and the Arts			
参考図書	『美少女の美術史』『イメージとしての女性』『乙女の日本史』『乙女の世界史』など			
オフィスワー	大城：金曜3講時（要メール連絡） 4・5講時、金曜5講時	高山：水曜	メールアドレス	

授業科目	女性と政治	開講時期	前期
担当教員	浅田 淳一	単 位	2
授業の目的と概要	<p>女性と政治の関係について学ぶ。          そもそも「政治」とは何かという原理論から出発し、先ず、政治学の歴史的発展を追う。          その上で、女性がどれほど、政治から遠ざけられ、抑圧されてきたかを確認し、18世紀以来の女性の政治参加への苦難の道のりを、多様な女性解放運動の潮流を紹介しながら辿っていく。          さらに、「女性による政治学」が、近代政治学の前提そのものを揺るがせる重要な批判的視点を提供していることを確認し、21世紀の政治が、女性の政治参加と「女性による政治学」を如何に強く要請しているかを考察する。</p>		
到達目標	<p>①政治とは何かを原理的に理解できる。          ②政治学の歴史の概要を理解できる。          ③女性が、如何に政治から遠ざけられ、抑圧されてきたかを理解することができる。          ④女性解放運動の歴史を構造的に把握することができる。          ⑤女性解放運動の諸潮流の主張を理解することができる。          ⑥「女性による政治学」が、政治学のパラダイムシフトを促している理由を理解することができる。          ⑦21世紀の政治が、女性の参加とその政治学を要求していることを理解することができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に文学部と人間科学部の共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。          関連する科目は、「政治学」「倫理学」「総合講座（ジェンダー）」「人間学」「哲学」です。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回：政治とは何か？ ボリスの学としての政治学の位置づけ		国家と地方自治体は、何が違うか？ 各自で考えてみる。	
第2回：古代の国家観 プラトンの「国家」とアリストテレスの「政治学」		民主主義って、本当に最善の政治制度なのか？ 各自で考えてみる。	
第3回：近代政治学の誕生 ホブズの『リヴァイアサン』 ロックの『市民政府に論』		主権とはなにか？ 各自、具体的に考えてみる。	
第4回：ルソーの『社会契約論』		ルソー以外の社会契約説についても各自調べてみる。	
第5回：フランス革命と女性の政治参加		フランス革命やマリーアントワネットについて、これまでの学習を振り返る	
第6回：オランブ・ド・グージュ『女性と女性市民の権利の宣言』		現在の女性の権利と当時を比べてみる。	
第7回：女性解放運動の諸潮流Ⅰ（リベラル・フェミニズム）		男性の権利と女性の権利の異同について考えてみる。	
第8回：女性解放運動の諸潮流Ⅱ（社会主義フェミニズム）		資本主義体制の中での女性の立場について反省してみる。	
第9回：女性解放運動の諸潮流Ⅲ（第二波フェミニズム）		第一波フェミニズムと第二波フェミニズムを対比してみる。	
第10回：女性解放運動の諸潮流Ⅳ（ラディカル・フェミニズム）		自分自身の中に外から刷り込まれている「女性性」がないか反省してみる。	
第11回：女性解放運動の諸潮流（マルクス主義フェミニズム）		女性が被っている三重の差別について振り返ってみる。	
第12回：新しい流れⅠ（エコロジカル・フェミニズム）		女性と自然との関係について反省してみる。	
第13回：新しい流れⅡ（ケアの倫理に基づくフェミニズム）		男性中心の「正義の倫理」と「ケアの倫理」を対比してみる。	
第14回：近代政治のパラダイム批判としての「女性による政治学」		自由独立でない存在に対する「ケアの政治学」の必要性を考えてみる。	
第15回：21世紀の政治と女性		21世紀の政治が直面する問題に女性がどう関われるか考えてみる。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	100%ただし、例外あり、ルールに関わる情報を見よ。		
レポート	0%各講義の最後に簡単な問題に答えてもらうが、特に成績には反映させない。		
小テスト等	%		
成果発表	%		
受講態度他	目に余る場合には、退出を要求し出席を取り消す場合がある。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語は厳禁。講義開始後30分以上遅刻した場合には入室は認めるが、出席としては認めない(欠席扱い)。テストの成績が合否のボーダーライン上にある場合には、受講態度を考慮する場合がある。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	『女の人権宣言ーフランス革命とオランブ・ドゥ・グージュの生涯』 オリヴィエ・ブラン著 岩波書店 1995年		
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み	メールアドレス	

授業科目	女性とビジネス	開講時期	後期
担当教員	武藤 桐子	単位	2
授業の目的と概要	「女性の社会進出」がいわゆるようになって久しく、男女雇用機会均等法、育児・介護休業法など法制度の整備や、女性の就業・再就業支援、起業支援等の施策も進められてきました。しかし、性別による差別や育児や介護等との両立の問題など、様々な課題がいまだに存在しています。この授業では、女性労働の現状や、労働に関する法制度、多様な働き方についての知識を身につけ、長期的な視点で自身のキャリアを考えることができるようになることを目指します。なお、グループでのディスカッションやゲストスピーカーによる講話を予定しています。		
到達目標	①女性労働の現状や多様な働き方について説明することができる。 ②労働に関する法制度について基本的な知識を身につけ、具体的に理解することができる。 ③将来の自身のキャリアプランをイメージするにあたり、上記の知識を応用することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目はビジネス社会コースのDP①「現代社会を構成する機能の中で、ビジネスが果たさなければならない役割を説明することができる。」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	イントロダクション	なし	
第2回	女性のライフコースを考える	配布資料を読み疑問点について調べる	
第3回	ジェンダーからみた働き方の現状	配布資料を読み疑問点について調べる	
第4回	働くことを選択肢 ～雇用労働	配布資料を読み疑問点について調べる	
第5回	働くことを選択肢 ～起業・NPOで働く	配布資料を読み疑問点について調べる	
第6回	ゲストスピーカーを招いて①	ゲストスピーカーへの質問を考える	
第7回	ゲストスピーカーを招いて②	11/16 (水) 5時限目の「マイノリティを生きる」を聴講	
第8回	ゲストスピーカーを招いて③	ゲストスピーカーへの質問を考える	
第9回	働くことと法律 ～労働基準法①	配布資料を読み疑問点について調べる	
第10回	働くことと法律 ～労働基準法②・男女雇用機会均等法①	配布資料を読み疑問点について調べる	
第11回	働くことと法律 ～男女雇用機会均等法②	配布資料を読み疑問点について調べる	
第12回	育児介護休業法とマタニティ・ハラスメント	配布資料を読み疑問点について調べる	
第13回	セクシュアル・ハラスメント	配布資料を読み疑問点について調べる	
第14回	ワーク・ライフ・バランス	配布資料を読み疑問点について調べる	
第15回	これからのキャリアを考える	事前に将来のキャリアについて考える	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	期末レポート50%、授業中の小レポート20%		
小テスト等	20%		
成果発表	なし		
受講態度他	授業への参加意欲・ディスカッション等への参加度10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	グループでのディスカッションには積極的に参加すること。		
教科書	プリントを配布する。		
指定図書	なし		
参考図書	金谷千慧子『働くこと』とジェンダー ―ビジネスの変容とキャリアの創造』明石書店 乙部由子『ライフコースからみた女性学・男性学 ―働くことから考える』ミネルヴァ書房		
オフィスワー	授業後	メールアドレス	

授業科目	女性と文学	開講時期	後期
担当教員	出雲 俊江・西 莊保	単位	2
授業の目的と概要	<p>女性学の視点を踏まえつつ文学作品に描かれる世界に触れることによって、既存の思考の枠から自由になり、自身の視点で自己の周囲を見直す手がかりをつかむことを目指す。</p> <p>提示したテーマに沿って取り上げられた文学作品を読み、女性学の提示する視点を踏まえつつ考察し、その交流を行う。</p>		
到達目標	<p>文学作品を、女性学の成果を踏まえつつ自らの視点で読むことができる。</p> <p>作品を読んで感じたことや自分の論を文章で説明することができる。</p> <p>伝えたいことを整理して口頭発表や討論をすることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本講義は、以下のDPに対応しています。</p> <p>文学部DP「人間が築いてきた文化への多角的なアプローチを通して、その多様性を認め、「異なるもの」との共感を図ることができる。」</p> <p>日本語日本文学科DPのうち「各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる。」</p> <p>「近・現代文学演習Ⅰ」（出雲）と関連しています。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	本講義の概要。女性学の視点からの文学。（出雲）	レポート1「私の読書履歴」	
第2回	テーマ「恋愛・結婚」1（出雲） ①すでに提示されている問題点を知る。②テーマに関わる作品の紹介	俵万智『サラダ記念日』読む私の考える理想の恋愛と結婚	
第3回	テーマ「恋愛・結婚」2 交流（出雲）	レポート2 俵万智『サラダ記念日』 @「私がとりあげる一首」	
第4回	テーマ「恋愛・結婚」3 同性愛の表象から考える現在の恋愛と結婚（出雲）	小レポート 自由感想	
第5回	テーマ「家・家族」1（出雲） ①すでに提示されている問題点を知る。②テーマに関わる作品の紹介 ③交流	レポート3 私にとっての家族	
第6回	テーマ「労働」1 交流 私にとっての働くこと（出雲）	レポー4 「私と私の仕事のこと になりたい私」	
第7回	テーマ「労働」2（出雲） ①すでに提示されている問題点を知る。②テーマに関わる作品の紹介	小レポート 労働について など	
第8回	「読んでみよう」 ①これまでに紹介した本について ②わいわい読書 山代巴『荷車の歌』（出雲）	山代巴『荷車の歌』続きを読む	
第9回	テーマ「女性の方法」 困難な状況に向きあう ①これまでのまとめ ②わいわい読書 山代巴『荷車の歌』（出雲）	レポート5 「読みたい本とその理由」	
第10回	これからの授業の概要（西） 樋口一葉 ①樋口一葉について ②「闇桜」の紹介	小レポート	
第11回	樋口一葉「雪の日」を読む。人生と文学の転機について。（西）	小レポート	
第12回	樋口一葉「にぎりえ」を読む。当時のヒロインの心中について。（西）	「外科室」を読む	
第13回	樋口一葉「われから」「裏紫」を読む。一葉が目指したものは。（西）	最終レポートにむけて	
第14回	「新しい女」、その当時のこと。（西） 世界的に変化する女たちと、それをとりまく男性社会について。	山崎ナオコーラ『私の中の男の子』を読む	
第15回	「新しい女」と現代。『私の中の男の子』を読む。（西） まとめに代えて	最終レポートへの取り組み	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	行いません		
レポート	小レポート40% 最終レポート50%		
小テスト等	行いません		
成果発表	行いません		
受講態度他	発言、交流・討議への参加10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>文学作品を中心とした開かれた自由な交流の機会になることを目指したいと思えます。</p> <p>楽しく充実した授業づくりのために、参加者は取り上げた作品を読んでくる必要があります。</p> <p>できれば夏休みなどを使って読んでおくことをおすすめいたします。</p>		
教科書	上記に取り上げた文学作品		
指定図書	ありません		
参考図書	斉藤美奈子『L文学完全読本』（マガジンハウス 2002）。他に授業で紹介いたします。		
オフィスアワー	（出雲） 水曜4限 （西） 授業の前後	メールアドレス	



授業科目	時事アジア	開講時期	後期
担当教員	横山 豪志	単 位	2
授業の目的と概要	<p>これまで大学で勉強してきたことを踏まえ、今日のアジア各地で起こっている政治、経済、社会などに関する時事問題を理解することが講義の目的です。地域ごとに話題のトピックをとりあげ、理解を深めていきます。同時に、時事問題に関するデータ収集方法を身につけます。</p> <p>各回の講義は4つの部分からなります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事前に指名された学生が、特定地域の時事問題をとりあげ話題提供をします。</li> <li>2. その日にとりあげるトピックを決め、担当教員がトピックに関する基礎情報を提供します。</li> <li>3. 当該トピックについて各自がwebデータを収集し、分析、整理します。</li> <li>4. 指名された学生を中心に、各自が調べたことを報告し、それを担当教員が補足解説をして理解を深めます。</li> </ol>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最近のアジア各地の政治、経済、社会の現状が説明できる。</li> <li>2. 最近、アジア各地が抱えている問題点、課題が説明できる。</li> <li>3. 時事問題について、自らデータを調べ分析していくことができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション 時事問題を学ぶ意義	第2回に備え情報収集	
第 2回	時事問題の情報収集方法	第3回に備え情報収集	
第 3回	東アジアの時事問題 1 中国	第4回に備え情報収集、レポート1 準備	
第 4回	東アジアの時事問題 2 韓国	第5回に備え情報収集、レポート1 準備	
第 5回	東アジアの時事問題 3 国際問題	第6回に備え情報収集、レポート1 準備	
第 6回	東南アジアの時事問題 1 インドネシア、マレーシア、シンガポール	第7回に備え情報収集、レポート2 準備	
第 7回	東南アジアの時事問題 2 ヴェトナム、ラオス、カンボジア	第8回に備え情報収集、レポート2 準備	
第 8回	東南アジアの時事問題 3 フィリピン、タイ、ビルマ	第9回に備え情報収集、レポート2 準備	
第 9回	南アジアの時事問題 1 インド	第10回に備え情報収集、レポート3 準備	
第10回	南アジアの時事問題 2 パキスタン周辺	第11回に備え情報収集、レポート3 準備	
第11回	南アジアの時事問題 3 ネパール、ブータンなど	第12回に備え情報収集、レポート3 準備	
第12回	西アジアの時事問題 1 イラン	第13回に備え情報収集、レポート4 準備	
第13回	西アジアの時事問題 2 アラブ諸国	第14回に備え情報収集、レポート4 準備	
第14回	西アジアの時事問題 3 トルコ	第15回に備え情報収集、レポート4 準備	
第15回	時事問題の総括	レポート4 準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60% 4回のミニ・レポート提出 15%×4		
小テスト等	なし		
成果発表	30% 話題提供、各回報告		
受講態度他	10% 課題に基づき、きちんと資料収集		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>私語は厳禁です。ひどい場合は退出してもらいます。</p> <p>資料収集、報告などには積極的に参加してください。</p> <p>第2回の時に、話題提供の順番を決めますので必ず出席してください。</p> <p>その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。</p>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	講義内で適宜、指示します。		
オフィスワー	火14:50~16:20、水12:00~13:00、16:30~17:30	メールアドレス	

授業科目	実務英語 I		開講時期	前期
担当教員	高森 暁子		単位	1
授業の目的と概要	大学入学時点で是非とも身につけておきたい、英検準2級合格レベルの英語運用能力を養成することを目的とします。同時に実際の英検の問題を想定した模擬問題に取り組むことで、英検合格のための実践的な訓練も行います。英検の概要説明から始め、試験のパートごとに問題演習を行い、スコア・アップのためのポイントも学んでいきます。あわせて二次試験の面接練習も行います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英検準2級合格程度の英語運用能力を身に付けることができる。</li> <li>2. 英検準2級の出題レベルと問題形式を理解することができる。</li> <li>3. 過去問や模擬試験に取り組むことで、現在の自分のレベルを知り、弱点を分析することができる。</li> <li>4. 英検準2級合格のために有効な学習方法を見出すことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現代社会学部DP4：現代社会に必要なコミュニケーションならびに情報リテラシー能力を身につけ、活用することができる。 関連科目：実務英語Ⅱ、英語Ⅰ・Ⅱ、実用英語Ⅰ・Ⅱ、ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 オリエンテーション			英検のホームページを見て過去問を確認しておく	
第2回 文法問題(1) (動詞・時制・態、助動詞)			動詞・時制・態、助動詞に関する復習および課題	
第3回 文法問題(2) (仮定法、不定詞・動名詞・分詞)			仮定法、不定詞・動名詞・分詞に関する復習および課題	
第4回 文法問題(3) (関係詞、比較、名詞・代名詞・冠詞)			関係詞、比較、名詞・代名詞・冠詞に関する復習および課題	
第5回 文法問題(4) (形容詞・副詞、前置詞・接続詞、特殊な構文)			形容詞・副詞、前置詞・接続詞、特殊な構文に関する復習および課題	
第6回 単語・熟語問題			単語・熟語に関する復習、課題	
第7回 会話問題			会話問題に関する復習および課題	
第8回 作文問題			作文問題に関する復習および課題	
第9回 読解問題(1) (空欄補充)			読解問題(空欄補充)に関する復習および課題	
第10回 読解問題(2) (内容理解)			読解問題(内容理解)に関する復習および課題	
第11回 リスニング問題(会話文)			会話文のリスニングに関する復習および課題	
第12回 リスニング(一般文)			一般文のリスニングに関する復習および課題	
第13回 英検一次試験模擬試験			英検ホームページで「バーチャル二次試験」を体験しておく	
第14回 二次試験面接練習			二次試験対策に関する課題	
第15回 まとめ			全体の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	小テスト 30% まとめテスト 60%			
成果発表	なし			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席が6回に達した時点で「無資格」とします。遅刻・早退は2回で1回の欠席とみなします。できるだけ欠席のないように願います。 英検準2級以上合格者には、この科目の単位が認定されます。学生便覧の「資格認定」のページを確認のうえ、教務課で手続きを行ってください。			
教科書	なし。毎回プリント教材を配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	旺文社編 『英検準2級 総合対策 教本』 旺文社			
オフィスアワー	水曜日 5時間目	メールアドレス		

授業科目	実務英語Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	高森 暁子		単位	1
授業の目的と概要	大学在学中に是非とも身につけておきたい、英検2級合格レベルの英語運用能力を養成することを目的とします。同時に実際の英検の問題を想定した模擬問題に取り組むことで、英検合格のための実践的な訓練も行います。試験のパートごとに問題演習を行い、スコア・アップのためのポイントも学びます。また、過去問を使った模擬試験や二次試験の模擬面接も行います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英検2級合格程度の英語運用能力を身につけることができる。</li> <li>2. 英検2級の出題レベルと問題形式を理解することができる。</li> <li>3. 過去問や模擬試験に取り組むことで、現在の自分のレベルを知り、弱点を分析することができる。</li> <li>4. 英検2級合格のために有効な学習方法を見出すことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現代社会学部DP4：現代社会に必要なコミュニケーションならびに情報リテラシー能力を身につけ、活用することができる。 関連科目：実務英語Ⅰ、英語Ⅰ・Ⅱ、実用英語Ⅰ・Ⅱ、ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	英検のホームページを見て過去問を確認しておく		
第2回	文法問題(1) (動詞・時制・態、助動詞)	動詞・時制・態、助動詞に関する復習および課題		
第3回	文法問題(2) (仮定法、不定詞・動名詞・分詞)	仮定法、不定詞・動名詞・分詞に関する復習および課題		
第4回	文法問題(3) (関係詞、比較)	関係詞、比較に関する復習および課題		
第5回	文法問題(4) (名詞・代名詞・冠詞、形容詞・副詞)	名詞・代名詞・冠詞、形容詞・副詞に関する復習および課題		
第6回	文法問題(5) (前置詞・接続詞、特殊な構文)	前置詞・接続詞、特殊な構文に関する復習および課題		
第7回	単語・熟語問題	単語・熟語問題に関する復習および課題		
第8回	作文問題(1) (自由作文のポイント)	作文問題(自由作文のポイント)に関する復習および課題		
第9回	作文問題(2) (内容の組み立て)	作文問題(内容の組み立て)に関する復習および課題		
第10回	読解問題(1) (空欄補充)	読解問題(空欄補充)に関する復習および課題		
第11回	読解問題(2) (内容理解)	読解問題(内容理解)に関する復習および課題		
第12回	リスニング問題(1) (会話文)	リスニング問題(会話文)に関する復習および課題		
第13回	リスニング問題(2) (一般文)	リスニング問題(一般文)に関する復習および課題		
第14回	二次試験面接練習	二次試験対策に関する課題		
	まとめテスト	全体の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	小テスト 20% まとめテスト 70%			
成果発表	なし			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席が6回に達した場合は「無資格」とします。遅刻・早退は2回で1回の欠席とみなします。毎回、練習問題・模擬試験を行いますので、できるだけ欠席のないように願います。 ※英検2級以上合格者には、この科目の単位が認定されます。学生便覧の「資格認定」のページを確認のうえ、教務課で手続きを行ってください。			
教科書	なし。毎回プリント教材を配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	旺文社編 『英検2級 総合対策 教本』 旺文社			
オフィスアワー	金曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	実用英語 I	開講時期	前期
担当教員	高森 暁子・J.Stewart	単位	1
授業の目的と概要	この科目は実用的な英語の運用能力の基礎を学び、英語を用いたコミュニケーションの多様な場面に対応できる能力を身につけることを目的とします。基本的な英語の聞き取りトレーニングと語彙の修得、文法事項の確認をまず行います。そのうえで日常生活の実際的な場面を想定したTOEIC形式の問題に取り組みます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の基本的な文法を理解して、日常生活の現実的な場面を想定した運用ができるようになる。</li> <li>2. ナチュラル・スピードの英語を聞き取り、要点を把握することができる。</li> <li>3. 実用的なコミュニケーションの場面にふさわしい基本的な語彙や表現を用いることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」に関わっています。1年次開講科目の「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」で培った基礎力をもとに、より実践的な英語運用能力の向上を目指します。後期に開講される「実用英語Ⅱ」はこの科目の上級編です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 授業の概要説明、Pre-Test		テキスト予習 (p. 20-27)	
第2回 オフィスで (自動詞と他動詞)		テキスト予習 (p. 28-35)	
第3回 買い物 (形容詞、副詞、前置詞)		テキスト予習 (p. 36-43)	
第4回 食事 (名詞と冠詞)		テキスト予習 (p. 44-51)	
第5回 観光 (進行形)		テキスト予習 (p. 52-59)	
第6回 宣伝・広告 (完了形)		テキスト復習 (p. 20-59)	
第7回 中間テスト		テキスト予習 (p. 60-67)	
第8回 数字 (不定詞)		テキスト予習 (p. 68-75)	
第9回 日常生活 (動名詞)		テキスト予習 (p. 76-83)	
第10回 エンターテインメント (関係代名詞と関係副詞)		テキスト予習 (p. 84-91)	
第11回 交通 (複文)		テキスト予習 (p. 92-99)	
第12回 職業 (受動態)		テキスト予習 (p. 100-107)	
第13回 色々な国の英語1 (分詞)		テキスト予習 (p. 108-117)	
第14回 色々な国の英語2 (比較表現)		テキスト復習 (p. 60-117)	
第15回 Post Test (模擬問題)		テキスト復習 (p. 20-117)	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	60%		
レポート	0%		
小テスト等	中間テスト 20%		
成果発表	0%		
受講態度他	20%		
受講上の留意点・ルールに関する情報	欠席回数が5回を超えると単位修得の資格を失います。毎回必ず辞書を携帯してください。TOEIC (TOEIC IPを含む) 400点以上、またはTOEIC BRIDGE162点以上を取得している場合は、この科目の単位が認定されます。学生便覧の「資格認定」のページを確認のうえ、教務課で手続きを行ってください。		
教科書	田辺、湯本、Tozer、Pifer 著 『The TOEIC Test Trainer Target 350』 センテージ ラーニング		
指定図書	なし		
参考図書	<a href="https://www.coursesites.com/webapps/portal/frameset.jsp">https://www.coursesites.com/webapps/portal/frameset.jsp</a>		
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバス参照	メールアドレス	

授業科目	実用英語Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	高森 暁子・J.Stewart		単位	1
授業の目的と概要	この科目は「実用英語Ⅰ」に引き続き、実用的な英語の運用能力を高め、英語を用いたコミュニケーションの多様な場面に対応できる能力を身につけることを目的とします。実際の日常会話で遭遇する英語のリズムとスピードに慣れる練習や、まとまった量の文章を効率よく読む練習を行います。そのうえで日常生活やビジネスの実際的な場面を想定したTOEIC形式の問題に取り組みます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実用的なコミュニケーションの場面にふさわしい語彙や表現を用いることができる。</li> <li>2. ビジネスを含めた日常生活の場面における多様な英語話者の発話を聞き取ることができる。</li> <li>3. フレーズ・リーディング、スキミング、スキミングを用いて、まとまった量の文章を効率的に読むことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」に関わっています。1年次開講科目の「英語Ⅰ」「英語Ⅱ」で培った基礎力をもとに、より実践的な英語運用能力の向上を目指します。前期に開講される「実用英語Ⅰ」はこの科目の初級編です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業の概要説明、Pre-Test		テキスト予習 (p. 20-27)		
第2回 予定 (動詞・5文型)		テキスト予習 (p. 28-35)		
第3回 数量を尋ねる (名詞)		テキスト予習 (p. 36-43)		
第4回 命令・依頼 (形容詞・副詞)		テキスト予習 (p. 44-53)		
第5回 広告・宣伝 (フレーズリーディング)		テキスト予習 (p. 54-61)		
第6回 時間を尋ねる (動名詞)		テキスト復習 (p. 20-61)		
第7回 中間テスト		テキスト予習 (p. 62-69)		
第8回 場所を尋ねる (to不定詞)		テキスト予習 (p. 70-77)		
第9回 確認 (分詞)		テキスト予習 (p. 78-85)		
第10回 留守電 (スキミング)		テキスト予習 (p. 86-93)		
第11回 アドバイス (受動態)		テキスト予習 (p. 94-101)		
第12回 誘い (比較)		テキスト予習 (p. 102-109)		
第13回 申し出 (関係詞)		テキスト予習 (p. 110-117)		
第14回 講演者紹介 (スキミング)		テキスト復習 (p. 62-117)		
第15回 Post-Test (模擬問題)		テキスト復習 (p. 20-117)		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%			
レポート	0%			
小テスト等	中間テスト 20%			
成果発表	0%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席回数が5回を超えると単位修得の資格を失います。毎回必ず辞書を携帯してください。TOEIC (TOEIC IPを含む) 500点以上を取得している場合は、この科目の単位が認定されます。学生便覧の「資格認定」のページを確認のうえ、教務課で手続きを行ってください。			
教科書	山口、Pifer 著 『The TOEIC Test Trainer Target 470』 センテージ ラーニング			
指定図書	なし			
参考図書	<a href="https://www.coursesites.com/webapps/portal/frameset.jsp">https://www.coursesites.com/webapps/portal/frameset.jsp</a>			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバス参照	メールアドレス		

授業科目	実用韓国語	開講時期	後期
担当教員	慎 順花	単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講座では、日常生活に関連する表現をステップアップし、実践的な会話能力を着実に身につけていく。語彙や文型を実際に会話で活かし、いつでも使える実用的な韓国語を身につけていくことを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビュー、ロールプレイ、ゲームなどの多彩な学習活動を通じて、</li> <li>・成果発表の場を設けて、授業の内容、またはグループで独自の内容を発表し、さらに実用韓国語を身につけていく。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国の生活文化などを理解し、会話の土台とする。</li> <li>・多彩な会話のストラテジーを身につけることができる。</li> <li>・様々な場面で、自信をもって表現できる実践力をつける。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジア地域で使用されている諸言語の一つを用いて基礎的な会話ができる。</li> </ul>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス：授業の概要紹介 / 自己紹介（名刺交換・質疑応答） / 丸暗記一言 1・12課活用	家族紹介	
第2回	位置の表現の活用（ペア活動） / 丸暗記一言 3・5課活用	プリント(10p参考)	
第3回	適切な接続語尾を使ってインタビュー / 丸暗記一言 @ 6・21課活用	まとめ(57～58p)	
第4回	数字の使い分け / 丸暗記一言 @ 8・10課を活用	数字を使って表現(29p)	
第5回	お買物のロールプレイ / 丸暗記一言 @ 26課を活用	ロールカード練習(72p)	
第6回	希望・許可を求めてみましょう(質疑応答) / 丸暗記一言 @ 15・17課活用	質疑応答練習(46～47p)	
第7回	色々な理由の表現(文作りゲーム) / 丸暗記一言 @ 16・25課活用	プリント(44p参考)	
第8回	第1次成果発表：場面を設定しグループでの発表	成果発表の感想	
第9回	旅行の打合せ(ロールプレイ) / 丸暗記一言 @ 18課活用	まとめ(50p)	
第10回	比較して意見交換 / 丸暗記一言 14・33課活用	文作り(39p)	
第11回	広告文づくり(連体形の活用) / 丸暗記一言 23・24課活用	広告文作成	
第12回	経歴や特徴を連体形で表現(インタビュー) / 丸暗記一言 31・32課活用	まとめ(86p)	
第13回	助け合う(ロールプレイ) / 丸暗記一言 19・35課活用	52pスピーチ練習	
第14回	状況を推測してみましょう / 丸暗記一言 30・34課活用	84p作成	
第15回	伝言してみましょう(間接話法で) / 丸暗記一言 38・39課活用	成果発表練習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	※第2次成果発表		
レポート	なし		
小テスト等	30%		
成果発表	50%(第1次+第2次) ※第2次成果発表は定期試験として実施		
受講態度他	20%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハングルの書き、読みが出来る人が対象</li> <li>・積極的に会話に取り組む姿勢などが評価に多く反映される。</li> </ul>		
教科書	『できる韓国語 会話トレーニング』 李志暎・金鎮姫・李美榮 著 / DEKIRU 出版		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワー	授業前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	児童・家庭福祉論 I		開講時期	前期
担当教員	稲富 憲朗		単位	2
授業の目的と概要	現代社会における家族とそこで生活する子どもたちの福祉（ウェルビーイング）を促進していくため、子どもと家庭のニーズを明らかにし、そのニーズに対応するためのミクロ・メゾ・マクロ的支援のあり方を包括的に理解できるようになることを目的としている。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の子どもと家族の課題を質問されたときに具体的かつ幅広い視点から答えることができるようになる</li> <li>・子どもに関する相談を受けたときに基本的な受け答えができるようになる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は社会福祉コースのDP④「人間が直面する心理・社会的諸問題や諸課題に対処し、改善・解決を図るために有効な援助法や社会資源・制度について説明することができる。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 子ども家庭福祉の概要			第1章を読んでくる	
第2回 多様化する家族と子ども家庭福祉			授業で指示した課題を調べてくる	
第3回 子どもの権利と子ども家庭福祉			教科書の第2章を読んでくる	
第4回 家族ライフサイクルと子ども家庭福祉			授業で指示した課題を調べてくる	
第5回 子ども家庭福祉の課題（1）：子ども虐待・ネグレクトの現状			教科書の第4章第9節を読んでくる	
第6回 子ども家庭福祉の課題（2）：子ども虐待・ネグレクトへの対応			教科書の第4章第9節を読んでくる	
第7回 子ども家庭福祉の課題（3）：障がい児をもった家族の理解			教科書の第4章第2節を読んでくる	
第8回 子ども家庭福祉の課題（4）：障がい児のための施策・制度			教科書の第4章第2節を読んでくる	
第9回 子ども家庭福祉の課題（5）：不登校への理解と対応			授業中に指示した課題を調べてくる	
第10回 子ども家庭福祉の課題（6）：子どもの貧困			授業中に指示した課題を調べてくる	
第11回 子ども家庭福祉の課題（7）：貧困と不登校（養護型不登校）			授業中に指示した課題を調べてくる	
第12回 子ども家庭福祉の課題（8）：非行問題への理解と対応			教科書の第4章第8節を読んでくる	
第13回 子ども家庭福祉の課題（9）：ひとり親家庭の理解と支援			教科書の第4章第6節を読んでくる	
第14回 子ども家庭福祉の課題（10）：ドメスティックバイオレンスの現状と課題			教科書の第4章第10節を読んでくる	
第15回 まとめ			1回～14回までの授業内容を復習してくる	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2/3（10回）以上の出席でテスト受験資格</li> <li>2. 毎回出席カードに「質問・感想」を記入する</li> <li>3. 授業態度は出席カードに適切な質問・感想記入があった場合毎回2点を与える</li> </ol>			
教科書	『新・社会福祉士養成講座 第15巻 児童や家庭に対する支援と児童家庭福祉制度 第6版』中央法規			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中随時紹介			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	児童・家庭福祉論Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	稲富 憲朗		単 位	2
授業の目的と概要	現代社会における家族とそこで生活する子どもたちの福祉（ウェルビーイング）を促進していくため、子どもと家庭のニーズを明らかにし、そのニーズに対応するためのミクロ・メゾ・マクロ的支援のあり方を包括的に理解できるようになることを目的としている。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代の子どもと家族の課題を質問されたときに具体的かつ幅広い視点から答えることができるようになる</li> <li>・子どもに関する相談を受けたときに基本的な受け答えができるようになる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は社会福祉コースのDP④「人間が直面する心理・社会的諸問題や諸課題に対処し、改善・解決を図るために有効な援助法や社会資源・制度について説明することができる。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	子ども家庭福祉における支援体制の概要		教科書の第2章を読んでくる	
第2回	わが国における子ども家庭福祉の方向性		授業中に指示した課題を調べてくる	
第3回	子ども家庭福祉の法体系（1）：児童福祉六法		教科書の第3章第1節を読んでくる	
第4回	子ども家庭福祉の法体系（2）：児童福祉の関連法		教科書の第3章第1節を読んでくる	
第5回	子ども家庭福祉の実施体制（1）：実施機関と財源		教科書の第3章第2・3節を読んでくる	
第6回	子ども家庭福祉の実施体制（2）：専門職の種類と役割		教科書の第3章第4・5節を読んでくる	
第7回	子どもの社会的養護（1）：わが国における社会的養護の現状		教科書の第4章第7節を読んでくる	
第8回	子どもの社会的養護（2）：家庭的養護の現状と課題		授業中に指示した課題を調べてくる	
第9回	子どもの社会的養護（3）：施設養護の現状と課題		授業中に指示した課題を調べてくる	
第10回	児童相談機関におけるソーシャルワーク		教科書の第5章第1節を読んでくる	
第11回	児童施設におけるソーシャルワーク		教科書の第5章第2節を読んでくる	
第12回	地域におけるソーシャルワーク		教科書の第5章第3節を読んでくる	
第13回	スクールソーシャルワークの概要		授業中に指示した課題を調べてくる	
第14回	スクールソーシャルワークの実際		授業中に指示した課題を調べてくる	
第15回	まとめ		1回～14回までの授業内容を復習してくる	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2/3（10回）以上の出席でテスト受験資格</li> <li>2. 毎回出席カードに「質問・感想」を記入する</li> <li>3. 授業態度は出席カードに適切な質問・感想記入があった場合毎回2点を与える</li> </ol>			
教科書	『新・社会福祉士養成講座 第15巻 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第6版』中央法規			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中随時紹介			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		



授業科目	児童英語教育研究 I	開講時期	前期
担当教員	西島 裕里	単位	2
授業の目的と概要	<p>児童期における英語教育について、民間の子ども英語教室と公立小学校での現状について比較する。現在、公立小学校の高学年で外国語活動（英語）の授業が必修化されていることに鑑み、小学校での英語教育を具体的に知る。教える側に立ち、今日の児童の実態に触れながら教材研究を行い、どのように指導したらよいか理解する。総じて、児童英語教育という分野での専門的知識を身に付け、児童に英語を教えるために必要な知識を実践に向けて習得する。</p>		
到達目標	<p>1、児童期のことばとこころの発達について説明できる。 2、児童英語教育及び公立小学校外国語活動における指導教材（英語のうた・英語のゲーム・英語の絵本など）と、その活用法を理解し、適用できる。 3、児童対象の英語の授業について、その進め方や方法を考察し、実践に向けて調べたり準備ができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	講義の概要説明・スケジュール	文部科学省HP閲覧（小学校外国語活動について）	
第2回	児童英語教育の現状 / 民間子ども英語教室と公立小学校外国語活動	大手子ども英会話教室HP閲覧	
第3回	教科書 / 教材研究①「英語のうた」	過去の英語の授業で歌った英語のうたリスト作成	
第4回	教科書 / 教材研究②「英語のチャンツ」	「チャンツ」という言葉の意味調べ	
第5回	教科書 / 教材研究③「英語のゲーム」	過去の授業で行った英語のゲームのリスト作成	
第6回	教科書 / 教材研究④「英語の絵本」	過去に読んだ英語絵本のリスト作成	
第7回	教科書 / 教材研究⑤「他教科連携授業」	これまでの授業研究のまとめ	
第8回	教科書 / 教材研究⑥「Hi, friends! 1」（電子黒板を使って）	指定図書に目を通しておくこと	
第9回	教科書 / 教材研究⑦「Hi, friends! 2」（電子黒板を使って）	指定図書に目を通しておくこと	
第10回	教科書 / 発達心理①「教室にいる不思議な子との関わり方～LD（学習障害）」	LD（学習障害）の英語正式名称調べ	
第11回	教科書 / 発達心理②「教室にいる不思議な子との関わり方～ADHD（注意欠陥/多動性障害）」	ADHD（注意欠陥/多動性障害）の英語正式名称調べ	
第12回	教科書 / 発達心理③「教室にいる不思議な子との関わり方～アスペルガー症候群」	LDとADHDのまとめ	
第13回	教科書 / 発達心理④「教室にいる不思議な子との関わり方～自閉症」	自閉症の英語名称調べ	
第14回	教科書 / これまでの発達心理のまとめ	発達心理についての復習	
第15回	これまでの復習と定期試験について	これまでの復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	20％ 定期試験期間中に60分間、100点満点の試験を行う。詳細は授業内で指示する。		
レポート	50％ 授業内で指示されたタイトルでレポートを完成させ提出すること。詳細は授業中に指示する。		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	30％ 授業内での発表・発言及び質問などの状況を勘案する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出欠については各自で記録すること。 遅刻は10分までとする。 プリント教材を配布するので、紛失しないようファイルなどに保管すること。		
教科書	小泉清裕『[小学校]英語活動ネタのタネ』アルク		
指定図書	文部科学省『Hi, friends! 1& 2』文部科学省		
参考図書	小泉清裕『[小学校]英語活動ネタのタネ』アルク		
オフィスワー	授業の前夜	メールアドレス	

授業科目	児童英語教育研究Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	西島 裕里		単位	2
授業の目的と概要	前期「児童英語教育研究Ⅰ」に引き続き、公立小学校の高学年で外国語活動（英語）の授業がすでに必修化されていることに鑑み、民間の子ども英語教室と公立小学校における英語教育はどのようなものかを踏まえた上で、専門的な知識と実践力を身に付ける。児童対象の英語指導法については、実際の授業映像を見て、授業研究を行い学ぶ。最後は、個人またはグループに分かれ模擬授業発表を行うことで、これまで学んだ知識を実践する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民間の子ども英語教室と公立小学校における外国語活動（英語）の違いについて説明することができる。</li> <li>2. 児童英語教育及び公立小学校外国語活動（英語）における指導教材（英語のうた、英語のゲーム、英語の絵本など）と、その活用法を理解し適用できる。</li> <li>3. 児童対象の英語の授業について、その進め方や方法など考察し、実践できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	講義の概要説明、「児童英語教育研究Ⅰ」（前期）の復習、クラスルーム・イングリッシュ	文部科学省HP閲覧（小学校外国語活動について）		
第2回	教科書 / 授業研究①「実際の授業映像視聴」（小学校高学年）	小学校英語活動授業風景を検索して見てみる		
第3回	教科書 / 授業研究②「実際の授業映像視聴」（小学校低学年）	小学校英語活動授業風景を検索して見てみる		
第4回	教科書 / 授業研究③「実際の授業映像視聴」（小学校中学年）	小学校英語活動授業風景を検索して見てみる		
第5回	教科書 / 授業研究④「実際の授業映像視聴」（小学校高学年）	小学校英語活動授業風景を検索して見てみる		
第6回	教科書 / 指導案（レッスンプラン）の組み立て方①	「指導案」と「レッスンプラン」の違いについて調べてみる		
第7回	教科書 / 指導案（レッスンプラン）の組み立て方②	模擬授業発表に向けて、自分の指導案用紙を作ってみよう		
第8回	教科書 / 指導案（レッスンプラン）の組み立て方③	模擬授業発表に向けて、自分の指導案用紙を作ってみよう		
第9回	プラン①「カテゴリーの選択とテーマ決定」	模擬授業発表を行うグループを作っておく		
第10回	プラン②「指導英語表現の決定」	選択したテーマに沿った英語表現や英単語のリスト作成		
第11回	プラン③「指導案作成・教材製作」	指導案作成の際に必要な情報や英語うたの準備		
第12回	プラン④「役割分担・リハーサル」	教材製作の完了		
第13回	個人またはグループ別模擬授業発表①	模擬授業発表の準備		
第14回	個人またはグループ別模擬授業発表②	模擬授業発表の準備		
第15回	模擬授業発表の総評 / 定期試験について	これまでの総復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	20% 定期試験期間中に60分間、100点満点の試験を行う。詳細は授業内で指示する。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50% グループ別模擬授業発表の評価。詳細は授業内で指示する。			
受講態度他	30% 授業内での発表・発言、及び質問などの状況を勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出欠については各自で記録すること。 遅刻は10分までとする。 プリント教材を配布するので、紛失しないようファイルに保管すること。			
教科書	小泉清裕『[小学校]英語活動ネタのタネ』アルク			
指定図書	文部科学省『Hi, friends! 1 & 2』文部科学省			
参考図書	小泉清裕『[小学校]英語活動ネタのタネ』アルク			
オフィスワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	児童家庭福祉論	開講時期	前期
担当教員	山之内 輝美	単位	2
授業の目的と概要	社会経済状況の変化に伴い、子ども達の生活環境も大きく変化している。子どもに関わる専門職として、子どもや家族のおかれて いる現況を理解し、児童家庭福祉に関する理念や制度・施策、支援方法や内容等の知識を深め、課題を考察し、子どもの育ちや家 族へ支援のあり方を検討することを目的としている。 授業では講義が中心となるが、テキストや配付資料、視聴覚教材やPCを活用し、子どもや家族の実情や制度等についての理解 を深め、問題意識を持って考え、知識を得てほしい。		
到達目標	① 現代の子どもを取り巻く環境を考える。 ② 児童家庭福祉の意義、理念、歴史について説明することができる。 ③ 児童福祉法等関係法制度や子ども・子育てビジョンについて説明することができる。 ④ 児童相談所などの関係機関、保育所等の児童福祉施設について説明することができる。 ⑤ 障がいがあったり、虐待をうけたり家庭環境上等の支援を必要とする子どもとその家族についての実態や実情について理解し 、調べ、発表することができる。 ⑥ 児童福祉の専門職の役割や相談援助活動、ネットワークについて説明することができる。		
この授業が 目的として いるDPや関 連する科目 など	「児童家庭福祉論」は人間科学部専攻科目で、DP③「子どものよさや課題を理解し、適切に支援するための理論について概要を説 明することができる。」ことを目的にした科目です。1年生後期開講の「社会福祉論」から特に児童家庭福祉について学びます。 、また、2年生後期開講の「社会的養護」は児童家庭福祉の中でも、家庭環境上の支援を必要とする子どもやその家族について学 びます。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：授業内容	テキストp4-8	
第2回	支援を必要とする児童とその家族への理解Ⅰ：子育て・子育て支援と保育	テキストp55-60	
第3回	現代における児童福祉Ⅰ：児童福祉の理念、概念、歴史	テキストp2-13	
第4回	支援を必要とする子どもとその家族への理解Ⅲ：障がいのある子どもとその家族	テキストp146-157	
第5回	児童福祉に関する関係機関：児童相談所などの関係機関の役割と機能	テキストp29-34	
第6回	支援を必要とする子どもとその家族への理解Ⅱ：家庭環境上の支援を必要とする子どもとその 家族	課題 p96-104	
第7回	現代における児童福祉Ⅱ：子どもを取り巻く環境とその変化	テキストp44-49	
第8回	児童福祉に関する施設：保育所等児童福祉施設の役割と機能	児童福祉施設について確認	
第9回	児童福祉の現状と課題Ⅰ：少子化、子育て支援	テキストp50-55	
第10回	児童福祉に関する法体系と新ビジョン：児童福祉法等の関係法規、子ども・子育て関連3法、 子ども・子育てビジョン	テキストp25-29 p50-53	
第11回	児童福祉の現状と課題Ⅱ：障がいのある子ども	テキストp118-142	
第12回	児童福祉の現状と課題Ⅲ：子どもの貧困	配付資料の復習	
第13回	小テスト（今までの配付資料から用語の確認）	今までの配付資料の復習	
第14回	児童福祉の現状と課題Ⅳ：健全育成、子育て支援 児童福祉施設や専門職と相談援助活動：専 門職と専門技術、ネットワーク	テキストp190-201	
第15回	授業全体のまとめ	これまで学んだ授業全体を振り返る	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	—		
レポート	50％ レポートや視聴覚教材視聴の感想等提出課題		
小テスト等	30％		
成果発表	—		
受講態度他	20％		
受講上の留 意点・ルー ルに関わる 情報	積極的に授業に参加するように。		
教科書	川池智子編『児童家庭福祉論－基本と事例－』学文社		
指定図書	—		
参考図書	日本子ども家庭総合研究所編『日本子ども資料年鑑2016』KTC中央出版 『国民の福祉と介護の動向2016』厚生統計協会		
オフィスアワー	前期 火曜日（12:30-13:30）	メールアドレス	

授業科目	児童福祉特論	開講時期	前期
担当教員	西原 尚之	単 位	2
授業の目的と概要	「子ども虐待」や「子どもの貧困」など我々が長年目を背けてきた子どもに関する問題が近年あらわになってきた。また不登校や非行といった以前からある問題も解消の方向に向かっているとは言いがたい状況である。これらの問題を理解するには人とそれを取り巻く家族そして社会環境を複眼的に見つめる視点が必要になる。そこでこの授業では虐待ネグレクトや不登校など子どもと家庭に関する課題を幅広くとりあげ、問題を理解する枠組み（アセスメント）を学ぶ。そのうえで課題を抱えるケースに対してどのように支援していくかという援助方法論について学習していく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども家庭福祉に関する問題を人と環境の視点から理解できるようになる</li> <li>2. 子どもと家庭に関する問題に関してある程度的確にアセスメントできるようになる</li> <li>3. 子どもと家庭に関する問題に対して有効な援助方法を選択できるようになる</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	前半は子ども家庭福祉問題を理解する枠組みを講義する。後半は受講者がそれぞれ関心を持つテーマを提供しそれをもとに授業を進める。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション		これまで行ってきた実践・研究を整理しておく	
第 2回 子どもにとっての家族		事前配布資料を熟読しておく	
第 3回 現代社会と子ども家庭福祉		事前配布資料を熟読しておく	
第 4回 子ども家庭福祉の具体的課題（1）：虐待ネグレクト		事前配布資料を熟読しておく	
第 5回 子ども家庭福祉の具体的課題（2）：子どもの貧困		事前配布資料を熟読しておく	
第 6回 子ども家庭福祉の具体的課題（3）：養護型不登校		事前配布資料を熟読しておく	
第 7回 子ども家庭福祉の具体的課題（4）：障がい		事前配布資料を熟読しておく	
第 8回 家族アセスメントの方法（1）：ジェノグラム		事前配布資料を熟読しておく	
第 9回 家族アセスメントの方法（2）：家族システム論		事前配布資料を熟読しておく	
第10回 関心テーマの発表とディスカッション		発表者は資料を人数分コピーしておく	
第11回 関心テーマの発表とディスカッション		発表者は資料を人数分コピーしておく	
第12回 関心テーマの発表とディスカッション		発表者は資料を人数分コピーしておく	
第13回 関心テーマの発表とディスカッション		発表者は資料を人数分コピーしておく	
第14回 関心テーマの発表とディスカッション		発表者は資料を人数分コピーしておく	
第15回 まとめ		1回から14回までの授業の復習をしておく	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0％		
レポート	30％		
小テスト等	—		
成果発表	30％		
受講態度他	40％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	子ども家庭福祉に関してあまり知識がない受講生は児童虐待や子ども家庭福祉に関する書籍を2、3冊読んでおくこと		
教科書	特になし		
指定図書	特になし		
参考図書	授業中随時紹介		
オフィスワーカー	火曜 4 講	メールアドレス	

授業科目	人格心理学	開講時期	後期
担当教員	森田 理香	単位	2
授業の目的と概要	人格とは人の行動を決定する感情や意志の個人差のことである。本授業では、日常生活において話題として取り上げられることが多い、「性格」や「人格」についての心理学的知見や、研究成果に関する理解を深めることを目的とする。さらに、人格に関する理論、人格の発達、人格の異常と正常、人格理解の方法について理解することを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 主要な人格理論について説明できる</li> <li>2 人の人格形成に影響を与える複数の要因について説明できる</li> <li>3 人格を測定する方法について説明できる</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は主に人間関係専攻発達臨床心理コースのDP2「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」にかかわる科目です。本授業では人のパーソナリティに関わる基本的な理論の習得を目指しますが、さらに人のパーソナリティを理解する具体的な技術については「心理アセスメントⅠ」および「心理アセスメントⅡ」で身につけることができます。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション、性格の諸理論	配付プリントの復習	
第2回	心の深層へのアプローチ	配付プリントの復習	
第3回	人の人格形成に関わる要因	配付プリントの復習	
第4回	愛着の発達	配付プリントの復習	
第5回	愛着と家族	配付プリントの復習	
第6回	人格の類型論・特性論①	配付プリントの復習	
第7回	人格の類型論・特性論②	配付プリントの復習	
第8回	パーソナリティの正常と異常①	配付プリントの復習	
第9回	パーソナリティの正常と異常②	配付プリントの復習	
第10回	ストレスとパーソナリティ変容①	配付プリントの復習	
第11回	ストレスとパーソナリティ変容②	配付プリントの復習	
第12回	人格の理解・心理検査①	配付プリントの復習	
第13回	人格の理解・心理検査②	配付プリントの復習	
第14回	全体のまとめ①	配付プリントの復習	
第15回	全体のまとめ②	テストの準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	100% 持ち込み不可		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	受講態度が不良の場合は、減点します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	人の迷惑にならないように、授業中は私語を慎んでください。		
教科書	特になし 毎回資料を配布します		
指定図書	特になし		
参考図書	授業中に紹介します。		
オフィスアワー	火曜日 2限	メールアドレス	

授業科目	人権教育	開講時期	後期
担当教員	峰 司郎	単位	2
授業の目的と概要	本講義は、これまで受けてきた人権教育を振り返り、人権教育に関する法規や人権問題の現状を理解する。様々な人権課題について主体的に考え、解決しようとする意欲や態度を育てる。子どもたちの発達段階に応じた人権尊重の精神を育てるための多様な授業の在り方を紹介し実践意欲を育てる。社会にある人権問題に気づき、解決しようとする人権感覚を育てる。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権についての法規や歴史について学び、人権とは何かを理解することができる。</li> <li>・人権教育が世界的な課題であることを理解することができる。</li> <li>・社会にある多様な人権課題に気づく人権感覚を保つことができる。</li> <li>・「体験・参加・協力」をキーワードにした人権教育の学習活動を紹介し、人権教育への実践意欲をもつことができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回：イントロダクション～人権・同和教育についての振り返り		自己紹介ゲーム、授業体験やイメージの交流	
第2回：人権とは何か～「人権教育の指導方法等のあり方について【第三次とりまとめ】」を中心に		法規や【第三次とりまとめ「個別の人権課題」】の配布	
第3回：世界の人権教育～多様性と持続可能な社会のための教育		国連の人権教育に関する提言などを配布	
第4回：「当事者として考える人権」～多様な性・ジェンダーフリー		当事者（女性）としての人権問題について考える	
第5回：「差別と区別」1～グループ演習		「ちがいのちがいがい」をとおして「個別の人権課題」についての理解を深める	
第6回：人権教育の実際①～小学校の教科書に見る人権		現在の小学校の教科書を見て、その記述の変遷と深まりを知る。	
第7回：人権教育の実際②～中学校の教科書に見る人権		中学校の社会科教科書を見て、その記述の変遷と深まりを知る	
第8回：「差別と区別」2～部落差別とは		6回7回の資料をもとに自分なりの考えをもち交流する	
第9回：多様化する差別～インターネット上の差別など差別の現状		インターネット上の書き込み、結婚差別について自分の考えをもつ	
第10回：子どもの人権について～貧困、格差、いじめ、不登校などについて		子どもを取り巻く現状を知る	
第11回：「個別の人権課題より」～「ハンセン病・ユニバーサルデザイン」など		DVD「あおぞら」を資料に差別の問題について自分なりの考えをもつ	
第12回：福岡県同和教育副読本「かがやき」と「福岡県人権教材DVD「あおぞら」		「かがやき」「あおぞら」など人権・同和教育教材の紹介	
第13回：人権教育の課題としての自尊感情		自尊感情について知り、自尊感情を高める声かけの演習	
第14回：人権教育の授業の実際 1		体験的参加型、アクティブラーニングの実践例の紹介	
第15回：人権教育の授業の実際 2～これからの人権教育		協同学習や幼児教育の実践例の紹介	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	40％ 記述型の試験を行う。		
レポート	なし		
小テスト等	40％ 講義ごとに感想を提出し、成績評価に加える。		
成果発表	なし		
受講態度他	20％ 出席日数、演習での発表や参加の様子も成績評価に加える。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 毎回配布する資料は、整理保存しておくこと。定期試験時、配布資料のみ持ち込み可とする。</li> <li>2 実践に使えるアイスブレーキングを授業前10分ぐらい取り入れる。</li> <li>3 幼児教育の内容にも触れる。</li> <li>4 プレゼンを使って講義を行うので、見えにくい色などが合ったら事前に教えてください。</li> </ol>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	福岡県同和教育副読本「かがやき」 DVD版「あおぞら」 小学校6年社会科上下 中学校社会科歴史・公民分野		
オフィスアワー	授業の前後で相談に応じる	メールアドレス	

授業科目	人権教育		開講時期	後期
担当教員	栗山 俊之		単位	2
授業の目的と概要	<p>人権の大切さを理解し、人権に関わる具体的な問題について、論理的に、様々な教材を用いながら授業することができるようになることを目指します。また、そのためのよりよい授業の組み立て方や、教材収集の方法を身に付けてください。なお、部落差別、水俣病、ハンセン病など、よく扱うテーマはありますが、実際にどのような人権問題を取り扱うかは時事により異なります。</p> <p>ボランティアや現地研修を自ら行い、現代社会が抱える諸問題について理解し、その解決方法を模索することができるようになる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自らが受けた人権教育を整理し、検証できる。</li> <li>2. 人権に関する現代的問題に関心をもつ。</li> <li>3. 人権に関する授業を組み立てることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 講義の進め方		高校までに学習した人権に関する事柄を復習しておく		
第2回 人権とは何か		事前の配布プリントを読む		
第3回 人権についての講義（人権を損なうもの）		事前の配布プリントを読む		
第4回 人権にかかわる基本的学習		事前の配布プリントを読む		
第5回 人権にかかわる基本的学習		事前の配布プリントを読む		
第6回 人権にかかわる基本的学習		事前の配布プリントを読む		
第7回 人権にかかわる諸問題（以下1-4回まで、学生の希望を聞きながら具体的問題を取り上げます）		事前の配布プリントを読む		
第8回 人権にかかわる諸問題		事前の配布プリントを読む		
第9回 人権にかかわる諸問題		事前の配布プリントを読む		
第10回 人権にかかわる諸問題		事前の配布プリントを読む		
第11回 人権にかかわる諸問題		事前の配布プリントを読む		
第12回 人権にかかわる諸問題		事前の配布プリントを読む		
第13回 人権にかかわる諸問題		事前の配布プリントを読む		
第14回 人権にかかわる諸問題		事前の配布プリントを読む		
第15回 まとめ		もう一度、人権教育の意義について考察する		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％ レポート試験			
レポート	40％ 講義終了前10分前に小レポートを課します			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	20％ 講義に向き合う姿勢			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自らが教える場合はどうかということを常に意識して講義に向き合ってください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	人文地理学		開講時期	後期
担当教員	黒田 圭介		単 位	2
授業の目的と概要	<p>地理学は、多分野間に渡る広い知識の理解と、それを俯瞰し総合して考える力が必要とされる学問である。このような地理学の考え方は、人間社会でよりよく生きていく上でも有効な力となる。本講義では地理学の学問体系の中で、特に人間活動に焦点をあてた「人文地理学」の基礎的な概念を多岐に渡る具体例を通して学習し、自身を取り巻く様々な事象を客観的に考察できる力を養うことを目標とする。</p> <p>*人文地理学的な知識を得るとともに、解析技術の修得を目指して何度か簡単な課題に取り組む。 *本講義では、プロジェクターを用いて、視覚的に分かりやすい講義に努める。</p>			
到達目標	<p>*様々な地図(地形図等)を正しく読めるようになり、さらに目的に沿った地図を自ら描けるようになる。 *人間の活動による社会構造を地理学的に解釈できる(自然環境→人間活動→特徴的な文化や産業構造など)。 *日本の諸地域における自然、歴史、文化、人間活動について理解を深めることができる。 *ある事象について地理学的な視点を持って調査・解析・考察し、報告できるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回 人文地理学とは？		地理の世界に思いをはせる		
第 2回 地図を読み書きする：一般図と主題図の違い		インターネットでいろんな地図を見してみる (google mapなど)		
第 3回 地理学的研究方法の基礎 1：地図の数値化		地図記号に親しむ(国土地理院のHPにある)		
第 4回 地理学的研究方法の基礎 2：オーバーレイ解析		コンビにはどんなところにあるか考えてみる		
第 5回 人間の空間認識1：心の中にある地図とは		街角になにげなく掲示してある案内地図を眺めてみる		
第 6回 農業と食文化1：アメリカの適地適作		アメリカの自然地形を眺めておく		
第 7回 農業と食文化2：ヨーロッパの農業		地中海式農業について調べてみる		
第 8回 農業と食文化3：中国の農業と中華料理		長江の南部と北部の農業の違いを調べる		
第 9回 人間の空間認識2：デイリーパスとライフパス		ライフパスについて調べる		
第10回 工業へアメリカを例に		フロストベルトとサンベルトを調べる		
第11回 新しい町、ニュータウン		ニュータウンとはどういう場所に造成するのか調べる		
第12回 日本の地誌 1：山形、北国の生活		フェーン現象とは一体何か知っておく		
第13回 日本の地誌 2：函館、観光都市		トンボロについて調べておく		
第14回 日本の地誌 3：京都、陰陽師		陰陽師とは何か調べてみる		
第15回 全体のまとめと質疑応答		質問の準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 試験の他に、数回講義中に簡単なレポートを課す。			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	50% 本講義では、出席状況を重視する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*講義内容は変更することがある。 *正当な理由のある欠席は部分点を与えるので必ず届けること。 *予備知識は特に必要ないので、高校地理を受講していなくても履修できる。 *特別な事情を除いて、授業開始10分後以降の入室は認めない。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じて適宜紹介する。			
オフィスアワー	本講義終了後	メールアドレス		



授業科目	数学応用	開講時期	後期
担当教員	飯塚 勝・藤野 友和	単位	2
授業の目的と概要	この科目はこれまでに学んだ数学の基礎知識を確認しながら、数的推理、判断推理、空間把握といった数学的な思考法を様々な分野に応用する方法を学ぶことを目的としています。「図形」「場合の数」「確率」「データの整理」「統計」などについての簡単な演習問題を解きながら、日常生活の事象を数理的に捉え処理するための考え方の基礎を身につけます。受講生の状況を見ながら、担当者の判断で内容を変更することがあります（その場合は授業で説明します）。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「図形」「場合の数」「確率」「データの整理」「統計」といった分野における基本的な問題の解き方について説明することができる</li> <li>日常生活の諸問題について、数学的思考に基づいて論理的に思考し、解決することができる</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	「数学応用」は人間科学部、現代社会学部の共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」に到達するための科目です。また関連する科目としては「数学基礎」があります。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
直線と図形		今回の講義の復習	
三角形と円の性質		今回の講義の復習	
面積		今回の講義の復習	
順列		今回の講義の復習	
組合せ		今回の講義の復習	
事象と確率		今回の講義の復習	
確率分布		今回の講義の復習	
平均と分散		今回の講義の復習	
度数分布表と代表値		今回の講義の復習	
散布図と相関係数		今回の講義の復習	
統計学の考え方		今回の講義の復習	
推定と検定		今回の講義の復習	
数列		今回の講義の復習	
級数		今回の講義の復習	
まとめ		今回の講義の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	55% 定期試験期間中に、55点満点の試験（教科書、ノート、資料の持ち込み可）を行う。		
レポート	30% 毎回、授業内容に即した演習問題を提出する。		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	15% 授業の受講態度の適切性についても成績評価に加える。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話等の操作、他の科目の学習は禁止する。		
教科書	木村富美子、水上象吾『文系学生のための基礎数学』昭和堂		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワー	授業の前後に相談に応じる	メールアドレス	

授業科目	数学基礎		開講時期	前期
担当教員	飯塚 勝・手嶋 俊明・安武 久洋・徳野 光昭・藤野 友和		単位	2
授業の目的と概要	この科目は中学校までに学んだ数学の基礎知識を確認しつつ、数的推理、判断推理、空間把握といった数学的な思考法の基礎を身につけることを目的としています。「数の計算」「式の計算」「方程式」「関数とグラフ」などについての簡単な演習問題を解きながら、日常生活の事象を数理的に捉え処理するための考え方の基礎を身につけます。受講生の状況を見ながら、担当者の判断で内容を変更することがあります（その場合は授業で説明します）。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「数の計算」「式の計算」「方程式」「関数とグラフ」といった分野における基本的な問題の解き方について説明することができる</li> <li>2. 日常生活の諸問題について、数学的思考に基づいて論理的に思考し、解決することができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	「数学基礎」は共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」に到達するための科目です。また関連する科目としては「数学応用」があります。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
数の種類			今回の講義の復習	
数の演算			今回の講義の復習	
約数と倍数			今回の講義の復習	
素数と素因数分解			今回の講義の復習	
式の四則演算			今回の講義の復習	
式の展開			今回の講義の復習	
因数分解			今回の講義の復習	
不等式			今回の講義の復習	
比例関係			今回の講義の復習	
一次方程式と連立方程式			今回の講義の復習	
二次方程式			今回の講義の復習	
一次関数			今回の講義の復習	
二次関数の性質			今回の講義の復習	
二次関数の応用			今回の講義の復習	
まとめ			今回の講義の復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	55% 定期試験期間中に、55点満点の試験（教科書、ノート、資料の持ち込み可）を行う。			
レポート	30% 毎回、授業内容に即した演習問題を提出する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 授業の受講態度の適切性についても成績評価に加える。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話等の操作、他の科目の学習は禁止する。			
教科書	木村富美子、水上象吾『文系学生のための基礎数学』昭和堂			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後に相談に応じる	メールアドレス		

授業科目	住まいと環境		開講時期	後期
担当教員	安恒 万記		単位	2
授業の目的と概要	<p>住まいはその国・地域の自然・文化・歴史とともに展開してきました。本講義は人間が健康で快適に生活するための住まいと環境に関する基礎知識を習得し、住まいを中心とする生活環境上の問題に関心を持ち、その課題の解決に向けて自ら考える力を養うことを目的としています。</p> <p>さまざまな国の住まいとその環境についての歴史の変遷を概観し、住まいと自然環境、社会環境との繋がりを考えます。さらに、住まいに関する技術と人間居住の価値観等から住まいと環境のあり方を展望します。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な住宅の形態や都市空間の多様性を理解できる。</li> <li>2. 様々な環境における「住まい」を類型化することができる。</li> <li>3. 住要求と住まいの形を説明できる。</li> <li>4. イメージした「住まい」の形をデザインとして工夫し、創造することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>「住まいと環境」は環境共生社会コースのDP2「環境共生社会実現のための住まいやまちのデザインのための知識と技能を獲得」するための科目です。この授業で習得した知識や技能は環境共生社会を構成する住まいと環境を考える基礎知識となります。また2年次に開講される「住環境デザイン演習」はこの授業で学んだものを具体的に形に落とし込んでいく演習です。</p> <p>その他、関連する科目として環境共生住宅に焦点化した「エコハウス論」や地域環境に視野を広げた「地域環境論」が2年次に開講されます。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	生命の安全と健康を守る住まいと環境	住まいの観察		
第2回	自然と住まい～気候風土を理解する	気候風土について調べる		
第3回	自然と住まい～気候風土と住まいの形	住まいの形を調べる		
第4回	図面を読む	図面を探す		
第5回	社会と住まい①～日本の住宅の歴史	日本の歴史を復習する		
第6回	社会と住まい②～世界の住宅	世界に目を向ける		
第7回	家族と住まい～家族形態と住まいの変化	家族を考える		
第8回	住要求とプラン①～間取りを考えよう	住みたい家		
第9回	住要求とプラン②～図面を描こう	住みたい家		
第10回	集住と都市環境～集まって住むとどうなる？	集合住宅について調べる		
第11回	地域で暮らす～人とつながる環境	地域を見つめる		
第12回	住宅政策と居住福祉～人にやさしい住まい	視野を広げる		
第13回	ランドスケープ～景観をどうつくる？	景観条例を調べる		
第14回	住まいのいろいろ～コンセプト型住宅	視野を広げる		
第15回	絵本にみる住まい	絵本を探す		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	25%			
受講態度他	15% 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。			
教科書	プリントを配布します			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します			
オフィスアワー	火曜日 9:10～16:30	メールアドレス		

授業科目	図画工作 I		開講時期	後期
担当教員	一木 信治・吉川 暢子		単 位	1
授業の目的と概要	<p>保育園、幼稚園、小学校の教育現場において、楽しい造形遊びや造形活動が実現できるように、保育所保育指針や幼稚園教育要領及び小学校学習指導要領に基づいて、乳幼児の造形表現、小学校図画工作科の概要を把握し、必要な基礎的理論と知識、技能などについて修得を図ることを目的とする。</p> <p>特に作品製作を中心にものをくりだす喜びを味わいながら修得し、保育士・幼稚園教諭及び小学校教諭として必要な知識・技能の習得をめざす。また、美術作品鑑賞の考え方についてふれながら、自ら制作した作品を中心とした評価・鑑賞活動を行う。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 造形教育及び図画工作科の教育目標について説明することができる。</li> <li>・ 材料・用具の特性を理解し、その使用方法を説明することができる。</li> <li>・ 色彩を学び、表現の基礎について説明することができる。</li> <li>・ 作品の鑑賞について、そのあり方を説明することができる。</li> <li>・ 「表現」領域、小学校図画工作科の学習目標を理解し、その目標達成のための基本的内容を説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、幼児保育コースDP④「幼児教育・保育の専門的知識や保育技術、音楽や図画工作、体育などの基礎的技術を身に付け、活用することができる」の達成に関わる教科です。2年生の「図画工作Ⅱ」で、より専門性の高い基礎技能を習得します。</p> <p>この授業は、初等教育コースDP④「教科指導の専門知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的技術を身に付け、活用することができる」の達成に関わる科目です。2年生の「図画工作Ⅱ」で、より専門性の高い基礎的技術を習得し、3年生の「初等教科教育法（図工）」で、実際の指導方法について模擬授業を通して学びます。更に小学校での教育実習を通して指導実</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション（造形表現とは何か、子どもの造形表現の発達）	復習：別紙プリント「子どもの絵の発達段階」		
第2回	保育所保育指針および幼稚園教育要領における「表現」及び小学校図画工作の目標と内容	復習：別紙プリント「目標と内容穴あき問題」		
第3回	色彩についての基礎学習	復習：別紙プリント「12色相環」		
第4回	線描や彩色についての基礎学習	復習：作品製作		
第5回	造形表現活動①（混色による表現）	復習：作品製作		
第6回	造形表現活動②（混色による表現）	復習：作品製作		
第7回	造形表現活動③（木版画による表現）	復習：作品製作		
第8回	造形表現活動④（木版画による表現）	復習：作品製作		
第9回	造形表現活動⑤（木版画による表現）	復習：作品製作		
第10回	造形表現活動⑥（工作的表現）	復習：作品製作		
第11回	造形表現活動⑦（工作的表現）	復習：作品製作		
第12回	造形表現活動⑧（粘土による表現）	復習：作品製作		
第13回	造形表現活動⑨（粘土による表現）	復習：作品製作		
第14回	幼児・児童作品の鑑賞のあり方、造形・美術作品の鑑賞活動	復習：別紙プリント「先生のコメント」		
第15回	まとめ	なし		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	20％ 定期試験			
レポート	60％ 提出作品の完成度			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 授業への積極的参加度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職をめざす者として積極的な発言や授業への参加を期待する。</li> <li>・ 材料・用具等の忘れ物がないように気をつけること。</li> </ul>			
教科書	小学校学習指導要領解説（図画工作編）、幼稚園教育要領（保育所保育指針）			
指定図書	特に指定しない。			
参考図書	高橋 淑子『色彩ナビ』 財団法人日本色彩研究所監修			
オフィスアワー	木曜日午前中	メールアドレス		

授業科目	図画工作Ⅱ		開講時期	前期
担当教員	一木 信治		単 位	1
授業の目的と概要	<p>保育園、幼稚園、小学校の教育現場において、楽しい造形遊びや活動が実現できるように、保育所保育指針や幼稚園教育要領および小学校学習指導要領に基づいて、乳幼児の造形表現、小学校図画工作科の概要を把握し、必要な基礎的な理論と知識、技能などについて修得を図ることを目的とする。</p> <p>また、実際に作品を製作する活動を通して、つくりだす喜びを味わいながら修得し、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭として必要な知識・技能の修得を目指す。特に美術養育に対する考えを深めながら、絵画的表現や版画・木工の実技及び鑑賞活動を行う。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>造形教育、美術教育の意義について説明することができる。</li> <li>幼児造形教育や小学校図画工作科の理論と知識・技能を身につけると共に表現活動に効果的に応用することができる。</li> <li>鑑賞活動を通じて、そのあり方を説明できる。</li> <li>製作プロセス、用具材料の特性を理解した上で、計画的に製作することができる。</li> </ul>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目など	<p>この授業は初等教育コースDP④「教科指導の専門知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的な技能を身に付け、活用することができる」の達成に関わる科目です。1年生の「図画工作Ⅰ」で身に付けた知識や技能を基盤として、自分のオリジナリティを発揮することを期待しています。技能だけではなく、発想力や構想力の向上に磨きをかけてください。</p> <p>これは3年生の「初等教科教育法（図画工作）」で、模擬授業を通じた実際の指導法研究へとつながると共に、更には、小学校教育実習での教育実践を通して実践力のある教員としての資質を高めていくことにつながります。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション（授業計画、グループ編成）	復習：美術資料の通読		
第2回	造形教育、美術教育の歴史（鑑賞、表現）	復習：年表の完成		
第3回	造形表現活動①（パス・コンテの表現）	予習：美術資料p 2～5		
第4回	造形表現活動②（水彩絵の具の表現）	予習：美術資料p 6、7		
第5回	造形表現活動③（コラージュ・フロタージュ）	予習：美術資料p 64、65		
第6回	造形表現活動④（伝統玩具）	予習：美術資料p 72、73		
第7回	いろいろな材料体験①（自然素材）	予習：美術資料p 42		
第8回	いろいろな材料体験②（廃品利用）	予習：美術資料p 42		
第9回	造形・図画工作の内容①（はさみ、カッターの扱い方）	予習：別途配布資料「はさみやカッターナイフの使い方」		
第10回	造形・図画工作の内容②（版画の基本、用具の取り扱い）	予習：美術資料p 26～35		
第11回	造形・図画工作の内容③（版画の製作）	予習：美術資料p 26～35		
第12回	造形・図画工作の内容④（木工の基本、用具の取り扱い）	予習：美術資料p 66～70		
第13回	造形・図画工作の内容⑤（木工製作）	予習：美術資料p 66～70		
第14回	造形表現と詩・物語	予習：美術資料p 62、63		
第15回	まとめ	なし		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	20％ 定期試験			
レポート	60％ 提出作品の完成度			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 授業への積極的参加度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職をめざす者として、授業への積極的な参加を期待する。</li> <li>授業において必要な材料・用具などを忘れないように注意すること。</li> </ul>			
教科書	美術資料（元気な福岡の美術資料付） 秀学社 京都市立芸術大学美術教育研究会編			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	阿部 宏行『いっしょに考えよう 図工のABC』 日本文教出版			
オフィスアワー	木曜日午前中	メールアドレス		

授業科目	セールスマネジメント		開講時期	後期
担当教員	大橋 健治		単位	2
授業の目的と概要	<p>セールス（営業）は、創って（開発）、造って（製造）、売る（販売）という企業活動の最終段階（計画通りに販売する）を担っている。加えて、お客様の声（市場のニーズ）を開発に反映する役割も期待されている。我が国の企業の営業スタイルは、およそ、行動重視型、奉仕型、提案型、ワークショップ型の4類型に分けられるが、それぞれの類型によってマネジメントのあり方も変わってくる。本授業では、それぞれのタイプの営業の実例を題材にその効果的なマネジメントのあり方を考察することを目的とする。</p> <p>授業の目的を効果的に達成するために、TBL（Team-Based Learning）を導入する。TBLを成立させるためには、個々の学生が責任を持って授業外学修に取り組み→授業において真摯にチームで討議を行い→クラス全体で討議を行うとともに→教員からのメッセージを受け取り、気づきを内省するというプロセスが不可欠である。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業の中で営業が果たすべき役割が理解できる。</li> <li>2. 営業の4類型とそのマネジメントのあり方が説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的とするDPや関連する科目など	<p>現代社会学部ビジネス社会コースのDP③ビジネス組織の目標を達成していくための効果的なコミュニケーションのあり方を説明することができる、を達成することを目的に設置された授業である。2年次の「ビジネス実務演習Ⅰ」、3年次の「ビジネス実務演習Ⅱ」、「国際ボランティア」、「ソーシャルビジネス論」と関連立てて受講することにより、DP③の達成を支援していく。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業）	シラバスの内容の吟味と履修の意思決定		
第2回	企業の中での営業の役割	受講ノートの指示に沿った配付プリントの事前学修・事後学修		
第3回	営業という仕事の魅力	受講ノートの指示に沿った配付プリントの事前学修・事後学修		
第4回	チームビルディング演習	継続して受講予定の学生は必ずチームビルディング演習に参加すること		
第5回	行動重視型営業のマネジメント①（教員によるケーススタディ）	受講ノートの指示に沿った配付プリントの事前学修・事後学修		
第6回	行動重視型営業のマネジメント②（学生によるケーススタディ）	受講ノートの指示に沿った学生個人による事例の探索		
第7回	奉仕型営業のマネジメント①（教員によるケーススタディ）	受講ノートの指示に沿った配付プリントの事前学修・事後学修		
第8回	奉仕型営業のマネジメント②（学生によるケーススタディ）	受講ノートの指示に沿った学生個人による事例の探索		
第9回	提案型営業のマネジメント①（教員によるケーススタディ）	受講ノートの指示に沿った配付プリントの事前学修・事後学修		
第10回	提案型営業のマネジメント②（学生によるケーススタディ）	受講ノートの指示に沿った学生個人による事例の探索		
第11回	ワークショップ型営業のマネジメント①（教員によるケーススタディ）	受講ノートの指示に沿った配付プリントの事前学修・事後学修		
第12回	ワークショップ型営業のマネジメント②（学生によるケーススタディ）	受講ノートの指示に沿った学生個人による事例の探索		
第13回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション）と質疑応答	成果発表の準備と授業内容の振り返り		
第14回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション）と質疑応答 受講ノートの提出	成果発表の準備と授業内容の振り返り		
第15回	授業のまとめと振り返り 受講ノートの返却	過去14回の授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 受講ノートの提出（最終ページに授業全体の振り返りを必ず記述のこと）			
小テスト等	なし			
成果発表	20% オーラル・プレゼンテーション			
受講態度他	50% TBLへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の目的と概要で述べたように、本授業ではTBL（Team-Based Learning）を導入する。TBLを成立させる大前提は、個々の学生による自らとチームの仲間の学修への責任をもった授業外学修である。これを怠る学生は授業の場に入ることを拒否する。初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し、受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。</p>			
教科書	プリントを配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	生活学	開講時期	前期
担当教員	岡本 文子	単位	2
授業の目的と概要	この講義では、生活学の中でもとりわけ衣生活について学んでいきます。私たちは、日常当たり前のように衣生活に関わっていますが、それは先人の英知と技術によって支えられているものです。それは、さまざまな快適性やファッション性を生みだしてきました。現代のファッションデザインを学びながら、衣生活を快適に送る術を学んでいきましょう。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活の中で、身近な環境としての衣服の位置づけを理解し、自分自身の問題として取り組むことができる。</li> <li>・ファッションアイテムの名称とかたちを覚え、生活の中の状況に応じて使用することができる。</li> <li>・ファッションアイテムの服飾の歴史を踏まえた役割を理解し、生活に生かすことができる。</li> <li>・現在および将来に、日常生活においてファッションに関する知識に基づいた適切な判断ができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に文学部、人間科学部の共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション、今後の授業の進め方、生活学で何を学ぶか		復習プリント等	
第2回 ファッションアイテム（1）襟		復習プリント等	
第3回 ファッションアイテム（2）袖		復習プリント等	
第4回 ファッションアイテム（3）ボトム1（スカート）		復習プリント等	
第5回 ファッションアイテム（4）ボトム2（パンツ）		復習プリント等	
第6回 ファッションアイテム（5）シルエット		復習プリント等	
第7回 ファッションアイテム（6）トリム		復習プリント等	
第8回 ファッションアイテム（7）ジャケット・コート		復習プリント等	
第9回 流行について		復習プリント等	
第10回 デコレーション		復習プリント等	
第11回 プロポーション		復習プリント等	
第12回 バランス		復習プリント等	
第13回 カラーコーディネート（1）似合うということ		復習プリント等	
第14回 カラーコーディネート（2）似合うということ		復習プリント等	
第15回 まとめ		復習プリント等	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	—		
レポート	—		
小テスト等	90%（授業中に行う定着確認プリント）		
成果発表	10%（授業中に行う基礎デザイン実習）		
受講態度他	—		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書は使用しません。毎回授業内容を確認する復習プリントを配布します。		
教科書	—		
指定図書	—		
参考図書	—		
オフィスアワー	火曜日 12:00～13:00	メールアドレス	

授業科目	生活学	開講時期	前期
担当教員	安恒 万記	単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は、生活の器である「住まい」や「まち」の成り立ちや構造について学び、自分の「住まい」や「まち」の特徴を理解することを目的としています。</p> <p>様々な住まいの形を学ぶことで、自分の家を理解し、自分の生活を見つめます。また、子どもの成長に応じた住まいのプランを概観することで、家族の形態や生活のスタイル、ライフステージ等による住要求の違いや、住要求をデザインとして表す手法を学びます。自分の生活を見つめ、安全で快適な、そして創意に満ちた魅力ある住まいを創造するための基礎的知識と技術を身につけましょう。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活の主体者として、生活の中から見出される住要求を類別できる。</li> <li>2. 様々な住宅の形態や都市空間の多様性を理解できる。</li> <li>3. 住要求を満たす「住まい」の形をイメージすることができる。</li> <li>4. イメージした「住まい」の形をデザインとして工夫し、創造することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>「生活学」は共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」ための科目です。この授業で習得した知識や視座は現代社会を生きる上での基礎的な力となります。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	住まいのいろいろ-----世界のいろいろな家	家の観察	
第2回	自分の家を知ろう (1) -----構造、形式 「三匹のこぶた」 (副教材)	家の観察	
第3回	自分の家を知ろう (2) -----窓やドア 「となりのトトロ」 (副教材)	家の観察	
第4回	自分の家を知ろう (3) -----屋根や外観 「ハウルの動く城」 (副教材)	家の観察	
第5回	自分の家を知ろう (4) -----間取り (だんらん) 「サザエさん」 「ちびまるこ」 (副教材)	生活を考える	
第6回	自分の家を知ろう (5) -----間取り (家事)	生活を考える	
第7回	自分の家を知ろう (6) -----間取り (プライバシー) 「魔女の宅急便」 (副教材)	生活を考える	
第8回	住要求とプラン・図面を読む～子どものいる住まい (乳児期)	成長を考える	
第9回	住要求とプラン・図面を読む～子どものいる住まい (幼児期)	成長を考える	
第10回	住要求とプラン・図面を読む～子どものいる住まい (学齢期)	成長を考える	
第11回	住要求とプラン・図面を読む～子どものいる住まい (青年期)	成長を考える	
第12回	住要求とプラン・図面を読む～おひとりさま	ライフプランを考える	
第13回	人にやさしい住まい-----バリアフリーって何?介護保険による住宅改修	家とまちの観察	
第14回	人にやさしいまち-----福祉のまちづくり	(家とまちの観察)	
第15回	絵本にみる住まい 「バーバパパのいえさがし」 「ぐりとぐらのおおそうじ」 「ちいさないえ」 (副教材)	絵本を探す	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	85%		
レポート	0%		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	15% 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎講義の冒頭に、前回の講義内容に関する質問を口頭で行うので、前回の講義内容を復習しておくこと。</p> <p>図面プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。</p>		
教科書	プリントを配布します		
指定図書	特になし		
参考図書	授業の中で適宜紹介します		
オフィスアワー	火曜日 9:10~16:30	メールアドレス	



授業科目	生活の科学		開講時期	後期
担当教員	速水 良晃		単位	2
授業の目的と概要	<p>物質的には豊かになっているが、効果が科学的に証明されていない栄養補助食品やダイエット食品、或いは家電製品等の過大広告、およびグルメやブランドや高価な品物を紹介する画一的なテレビ番組が氾濫している。このような一見科学的な言葉を使ったウソの情報を見破り、豊かにそして安全に過ごすために、科学の基本的考え方や新しい技術の仕組みを正しく理解できるようになることを目的とする。</p> <p>教科書として選んだ本は、科学の分野毎の系統に沿って、生活の中の身近な現象を採り上げ、科学の基礎原理を分かりやすく説明してある。これらの多数のトピックの解説を通じて、「理科」の基礎的知識を学び、それを基に自らの生活を安全に快適に、そして持続可能な生活スタイルに変えていくことを工夫する。</p>			
到達目標	<p>① 授業で採り上げた各トピックについて、科学的説明ができる。</p> <p>② 科学的説明の論理性を身の回りの事象にも応用できる。</p> <p>③ 現代社会に氾濫している過大広告などのウソの情報を見破ることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に現代社会学部共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。同じ学部共通科目である「数学基礎」や「数学応用」や「生物のしくみ」なども一緒に受講すると理解が深まる。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	ガイダンス：講義のねらい、トピック概説、第1章 水 最も身近な環境		予習・復習	
第2回	第2章 大気 きれいな空気を求めて		予習・復習	
第3回	第3章 大地 いのちと暮らしの基盤		予習・復習	
第4回	第4章 環境化学物質 環境を蝕む		予習・復習	
第5回	第5章 エネルギー 現状と将来		予習・復習	
第6回	第6章 不思議な水の性質		予習・復習	
第7回	第7章 ものが燃えるとは		予習・復習	
第8回	第8章 溶ける・洗う		予習・復習	
第9回	第9章 くっつくとは		予習・復習	
第10回	第10章 色をつける(1)		予習・復習	
第11回	第10章 色をつける(2)		予習・復習	
第12回	第11章 暮らしの中の金属		予習・復習	
第13回	第12章 進化し続けるプラスチック		予習・復習	
第14回	第13章 生体内で働いている分子たち		予習・復習	
第15回	第14章 栄養と代謝、総合的な質問、まとめ、授業評価		予習・復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 毎回の学習記録(その中から有用な質問を毎回1つ以上すること、終了時提出、翌週返却)			
小テスト等	60% 5, 10, 15回めの開始時に、それまでの授業範囲についての小テスト(学習記録のみ持込可、各20点)			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 授業内容の理解を深める質問(内容と回数)、適当なタイミングで教科書を読ませた時に漢字が読めなければ、1つにつき2点減点			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>分からない所を質問すれば、その内容に応じて加点するが、教科書に回答がそのまま書いてあるような質問は対象としない。授業内容の理解を深めて、他の受講者の理解度も高まるような質問を歓迎する。</p> <p>予習したかどうかの確認のためにも適当なタイミングで教科書を読ませたり、こちらから質問したりする。</p> <p>身の周りのいろいろな製品や、よく見かける広告など、その科学的内容を考えておくこと。</p>			
教科書	伊藤明夫 『環境・暮らし・いのちのための化学の心』 裳華房			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	研究会(金曜)・講義・会議時間を除き、いつでも可	メールアドレス		

授業科目	精神医学	開講時期	通年
担当教員	西浦 研志	単位	4
授業の目的と概要	精神保健福祉士の業務に必要な精神医学の基礎知識を体系的に学ぶ。 最終学年時には精神保健福祉士国家試験に合格する。 この資格を取得する予定のない受講生でも、授業の事例提示により、人間理解を深めうる。 受講を通して、精神障がいを抱える人に接するときの、適切な態度、留意点をも身につける。 座学にとどまらず、後期授業では小グループの集団討論による学習も体験できる。 授業の一環として近隣の精神科病院の見学もできる。 担当教員の国内外におよぶ現場経験に基づく知識と情報を介して、受講生は精神医療の歴史と現在の問題点について理解できる。		
到達目標	1. 精神医学・精神医療の歴史および概念を説明できる 2. 精神医学的診断、治療の概要を説明できる 3. 代表的精神疾患について概要を説明できる 4. 精神保健福祉士国家試験において精神医学問題の60%以上を正答できる		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に社会福祉コースのDP④「人間が直面する心理・社会的諸問題や諸課題に対処し、改善・解決を図るために有効な援助法や社会資源・制度について説明することができる。」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 精神医療の歴史		教科書予習 p. 1-7	
第2-3回 精神医学の概念		教科書予習 p. 19-25	
第4-5回 代表的な精神疾患、II. 精神作用物質使用による精神および行動の障害		教科書予習 p. 67-80	
第6-7回 III. 統合失調症		教科書予習 p. 81-93	
第8-9回 IV. 気分障害		教科書予習 p. 93-102	
第10-11回 V. 神経症性障害		教科書予習 p. 102-118	
第12-13回 VI. 生理的障害、VII. パーソナリティ障害		教科書予習 p. 118-140	
第14-15回 VIII. 知的障害、IX. 心理的発達障害、X. 情緒障害		教科書予習 p. 140-167	
第16-17回 代表的な精神疾患、I. 症状性を含む器質性精神障害、XI. 神経疾患		教科書予習 p. 55-67、167-180	
第18-20回 学外見学と事前学習、病院精神科医療と地域精神科医療		独自資料、予習 教科書予習 p. 225-279	
第20-21回 神経の生理・解剖、精神疾患の治療、I. 身体療法		教科書予習 p. 9-18、181-196	
第22-23回 精神疾患の治療、II. 精神療法		教科書予習 p. 196-203	
第24-25回 III. 環境・社会療法		教科書予習 p. 204-211	
第26-27回 IV. 精神科リハビリテーション		教科書予習 p. 212-214	
第28回 精神疾患の診断		教科書予習 p. 27-54	
第29回 司法精神医学		教科書予習 p. 297-306	
第30回 精神科医療における人権擁護		教科書予習 p. 279-294	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60% 学期末にレポート提出を求め、理解度、説明能力の程度を評価する		
小テスト等	20% 授業中、ミニレポート形式のテストを数回おこなう		
成果発表	成績評価の対象にはしないが、第22-30回の講義では、小グループによる討論を通して、自分の理解の妥当性を見直す。		
受講態度他	20% 授業への集中、質問などによる積極性を評価する		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目は精神保健福祉士国家試験受験のための指定科目である。同試験を受験する者は必修。		
教科書	『改訂 新版・精神保健福祉士養成セミナー 第1巻』 『精神医学—精神疾患とその治療』へるす出版(2013)		
指定図書	①笠原嘉『精神病』岩波新書 ②野村総一郎『うつ病をなおす』講談社現代新書 ③池田学『認知症』中公新書 ※図書室にあるので個人で買わなくてよい		
参考図書	随時、資料等を配布する		
オフィスアワー	木の講義時間後	メールアドレス	

授業科目	精神医学特論		開講時期	後期
担当教員	西浦 研志		単 位	2
授業の目的と概要	精神医学の基礎知識、方法論を学び、人間理解を深める。こうして、福祉、心理系だけでなく、言語、文科系分野の大学院生にとっても、自分の研究課題を適切に設定できる。			
到達目標	現代の精神医学、精神保健の話題のなかで、専門分野の学生として知っておくべき重要項目は欠かさず学ぶ。精神医学の歴史的広がりを俯瞰し、心理学、社会学、言語学、法学との境界領域にわたる、常識 common senseを身に着ける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	精神医学の歴史、医学・科学との位置付け、特殊性と普遍性	復習		
第2回	身体と精神、睡眠、不眠と過眠	担当学生は文献まとめの発表準備 その他の学生は予習・復習		
第3回	身体と精神、食べる、過食・肥満、やせ症	担当学生は文献まとめの発表準備 その他の学生は予習・復習		
第4回	嗜好と依存、アルコール、薬物、タバコ	担当学生は文献まとめの発表準備 その他の学生は予習・復習		
第5回	知能の問題、精神遅滞と認知症	担当学生は文献まとめの発表準備 その他の学生は予習・復習		
第6回	発達の問題、こどもとおとな、ひきこもり	担当学生は文献まとめの発表準備 その他の学生は予習・復習		
第7回	労働、長時間労働と過労死	担当学生は文献まとめの発表準備 その他の学生は予習・復習		
第8回	職場のうつ病、現代型うつ病とは	担当学生は文献まとめの発表準備 その他の学生は予習・復習		
第9回	精神病、犯罪と精神障害、医療観察法	担当学生は文献まとめの発表準備 その他の学生は予習・復習		
第10回	地域で生活する、福祉制度、精神保健福祉法	担当学生は文献まとめの発表準備 その他の学生は予習・復習		
第11回	治療の歴史、魔術と精神療法、精神分析、行動療法、生活療法	担当学生は文献まとめの発表準備 その他の学生は予習・復習		
第12回	脳科学と精神医学	担当学生は文献まとめの発表準備 その他の学生は予習・復習		
第13回	災害精神医学、自殺	担当学生は文献まとめの発表準備 その他の学生は予習・復習		
第14回	精神障害、性同一性障害	担当学生は文献まとめの発表準備 その他の学生は予習・復習		
第15回	差別と偏見	授業と研究課題のつながりを発表		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 第2回から第14回までの文献のまとめを講義のときに発表			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 第15回：それまでの授業と自分のこれからの研究課題をどうつなげるか、計画発表			
受講態度他	20% 積極性があれば良い			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義日程の数週間前までに、参考図書を通知する。 実際の講義の前に読了しておくのが大切。 単行本、雑誌については、必要な部分のコピーを配布する。			
教科書	なし			
指定図書	①清水徹男『不眠とうつ病』岩波新書 ②水島広子『「やせ願望」の精神病理』PHP新書 ③青木省三『ぼくらの中の発達障害』ちくまプリマー新書 ※図書室にあるので個人で買わなくてよい			
参考図書	その都度、提示する。			
オフィスワー	質問と相談は授業中、その後にいつでも良い	メールアドレス		

授業科目	精神科ソーシャルワーク論Ⅰ【精神課程】		開講時期	前期
担当教員	益満 孝一		単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業では精神保健福祉の理論と相談援助の展開について精神科リハビリテーションを中心に学び、精神保健福祉士としての役割と機能を理解することが目的である。</p> <p>精神医療の特性と、精神障害者に対する支援の基本的考え方、精神科リハビリテーションの概念、知識、技術、そのプロセスについて学ぶことで、チーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割と機能について理解する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神医療の特性（精神医療の歴史・動向や精神科病院の特性の理解を含む）と、精神障害者に対する支援の基本的考え方について説明できる。</li> <li>2. 精神科リハビリテーションの概念と構成及びチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割について説明できる。</li> <li>3. 精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む）の知識と技術及び活用の方法を実践できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は精神保健福祉士課程の指定科目「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
1. 精神保健医療福祉の歴史と動向①諸外国の制度の変遷		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
2. 精神保健医療福祉の歴史と動向②我が国歴史と動向		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
3. 精神障害者支援の基本的考え方と必要な知識③我が国の精神保健福祉士の活動の歴史（社会防衛、Y問題、権利擁護、自立生活支援）		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
4. 精神障害者支援の基本的考え方と必要な知識④精神障害者支援の理念（ノーマライゼーション、ストレングス、リカバリー、レジリエンス）		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
5. 精神障害者支援の基本的考え方と必要な知識⑤精神障害者の人権擁護の思想（国連原則、欠格条項、インフォームド・チョイス、権利擁護システム）		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
6. 精神障害者支援の基本的考え方と必要な知識⑥精神障の概念、精神障害者の定義と特性		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
7. 精神障害者支援の基本的考え方と必要な知識⑦労働、司法、教育領域における支援対象者		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
8. 精神障害者支援の基本的考え方と必要な知識⑧自殺対策基本法、発達障害者支援法などの支援者		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
9. 精神科リハビリテーションの概念と構成①リハビリテーションの歴史と概念		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
10. 精神科リハビリテーションの概念と構成②リハビリテーションの理念		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
11. 精神科リハビリテーションの概念と構成③精神科リハビリテーションの基本原則		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
12. 精神科リハビリテーションの概念と構成④精神科リハビリテーションの実践原則		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
13. 精神科リハビリテーションの概念と構成⑤精神科リハビリテーションの意義		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
14. 精神科リハビリテーションの概念と構成⑥構成・対象・体系・実施期間		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
15. まとめと振り返り（理解度の把握）		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％。レポート試験（グループワークでのふりかえりのレポート、学期末のレポート）。			
小テスト等	30％。学習習熟度をみるために小テストを実施します。配付された過去問題をしっかり学習し専門的用語や知識を確実なものにしましょう。			
成果発表	なし			
受講態度他	30％。講義中に、適時質問などしますので、積極的に参加してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。講義中に小集団での話し合いの場面を設定しますので、積極的に参加して対人関係能力を高めましょう。対人関係が苦手な方や人見知りなどの方はご相談いただければ配慮します。			
教科書	福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉士シリーズ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』弘文堂 精神保健福祉士シリーズ『精神保健福祉士国家試験受験ワークブック 2017 専門科目編』中央法規出版			
指定図書	講義の際に紹介します			
参考図書	講義の際に紹介します			
オフィスワー	水曜日 2時限目	メールアドレス		

授業科目	精神科ソーシャルワーク論Ⅱ【精神課程】		開講時期	後期
担当教員	益満 孝一		単位	2
授業の目的と概要	精神保健福祉の理論と相談援助の展開について学び、精神保健福祉士としての役割と機能を理解する。精神科リハビリテーションのプロセス、集団精神療法など医療機関における精神科リハビリテーションを学ぶことで、精神保健福祉士としての役割と機能を理解する。			
到達目標	精神科リハビリテーションのプロセスと精神保健福祉士が行うリハビリテーション（精神科専門療法を含む）の知識と技術及び活用する方法について説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は精神保健福祉士課程の指定科目「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回精神科リハビリテーションのプロセス①受理（インテーク）と動機付け		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第2回精神科リハビリテーションのプロセス②リハビリテーション診断（評価）		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第3回精神科リハビリテーションのプロセス③リハビリテーション計画		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第4回精神科リハビリテーションのプロセス④アプローチの方法と評価（技術開発、資源調整と修正）		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第5回精神科リハビリテーションのプロセス⑤リハビリテーション評価		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第6回医療機関における精神科リハビリテーションの展開①精神科専門療法（精神科作業療法とレクリエーション）		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第7回医療機関における精神科リハビリテーションの展開②精神科専門療法（集団精神療法）		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第8回医療機関における精神科リハビリテーションの展開③精神科専門療法（SST（生活技能訓練））		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第9回医療機関における精神科リハビリテーションの展開⑤精神科デイケア・ナイトケア		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第10回医療機関における精神科リハビリテーションの展開⑥アウトリーチサービス（精神科退院前訪問指導、精神科訪問看護・指導）		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第11回医療機関における精神科リハビリテーションの展開⑦家族教育プログラム（心理教育）		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第12回医療機関における精神科リハビリテーションの展開④精神科専門療法（行動療法、認知行動療法）		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第13回医療機関における精神科リハビリテーションの展開⑧精神科チーム医療の概要と精神保健福祉士の役割		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第14回医療機関における精神科リハビリテーションの展開⑨多職種との協働・連携と精神保健福祉士の役割		教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第15回まとめと振り返り（理解度の把握）		講義の際に指示します。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％。レポート試験（グループワークでのふりかえりのレポート、学期末のレポート）。			
小テスト等	30％。習熟度テストをします。国家試験の問題に慣れることは、資格取得の最善の道です。配付された過去問題をしっかり学習し専門的用語や知識を確実なものにしましょう。			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 講義中に、適時質問や話し合いの時間をとりますので、積極的に受講してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。講義中に小集団での話し合いの場面を設定しますので、積極的に参加して対人関係能力を高めましょう。			
教科書	福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉士シリーズ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ』弘文堂			
指定図書	講義の際に紹介します。			
参考図書	講義の際に紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 2時限目	メールアドレス		

授業科目	精神科ソーシャルワーク論Ⅲ【精神課程】		開講時期	後期
担当教員	益満 孝一		単位	2
授業の目的と概要	本授業では精神保健福祉の理論と相談援助の展開について学ぶ。			
到達目標	精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助に係る関連援助や精神障害者と家族の調整及び家族支援を含む）の展開について理解する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は精神保健福祉士課程の指定科目「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	精神障害者の支援モデル 治療モデル・生活モデル・ストレングスモデル	教科書 1～10ページを予習・復習しましょう。		
第2回	相談援助の過程と援助関係1 インテーク・契約・アセスメント	教科書 27～40ページを予習・復習しましょう。		
第3回	相談援助の過程と援助関係2 プランニング・インターベンション・モニタリング	教科書 27～40ページを予習・復習しましょう。		
第4回	相談援助の過程と援助関係3 効果測定と支援の評価、終結とアフターケア	教科書 27～40ページを予習・復習しましょう。		
第5回	相談援助のための面接技術 カウンセリング技法	教科書 41～49ページを予習・復習しましょう。		
第6回	個人を対象とした相談援助活動の実際1 医療施設の事例分析	教科書 51～62ページを予習・復習しましょう。		
第7回	個人を対象とした相談援助活動の実際2 地域移行支援施設の事例分析	配布事例について復習しましょう。		
第8回	個人を対象とした相談援助活動の実際3 地域社会の事例分析	配布事例について復習しましょう。		
第9回	集団を活用した相談援助活動の実際1 デイケアとグループワークの事例分析	教科書 63～70ページを予習・復習しましょう。		
第10回	集団を活用した相談援助活動の実際2 SSTの事例分析	配布事例について復習しましょう。		
第11回	集団を活用した相談援助活動の実際3 セルフヘルプグループの事例分析	配布事例について復習しましょう。		
第12回	家族調整・支援の実際と事例分析	教科書 71～84ページを予習・復習しましょう。		
第13回	家族療法的アプローチの理論と実際	配付資料を復習しましょう。		
第14回	スーパービジョンの意義、方法、展開	教科書 85～95ページを予習・復習しましょう。		
第15回	コンサルテーションの意義、方法、展開	教科書 85～95ページを予習・復習しましょう。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％。レポート試験（グループワークでのふりかえりのレポート、学期末のレポート）。			
小テスト等	30％。学習習熟度をみるために小テストを実施します。配付された過去問題をしっかり学習し専門的用語や知識を確実なものにしましょう。			
成果発表	なし			
受講態度他	30％。講義中に、適時質問などしますので、積極的に参加してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。講義中に小集団での話し合いの場面を設定しますので、積極的に参加して対人関係能力を高めましょう。対人関係が苦手な方や人見知りなどの方はご相談いただければ配慮します。			
教科書	福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉士シリーズ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』弘文堂			
指定図書	講義の際に紹介します			
参考図書	講義の際に紹介します			
オフィスワー	水曜日 4時限目	メールアドレス		

授業科目	精神科ソーシャルワーク論Ⅳ【精神課程】		開講時期	後期
担当教員	益満 孝一		単位	2
授業の目的と概要	精神保健福祉の理論と相談援助の展開について学び、精神保健福祉士としての役割と機能を理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。</li> <li>2. 精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方について理解する。</li> <li>3. 地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的な支援（地域精神保健福祉活動）の意義と展開について理解する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は精神保健福祉士課程の指定科目「精神保健福祉の理論と相談援助の展開」です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	地域移行の対象及び支援体制とは	教科書の97～112の予習・復習をしましょう。		
第2回	地域移行における精神保健福祉士の役割	教科書の97～112の予習・復習をしましょう。		
第3回	地域移行における精神保健福祉士と多職種連携 ACT、PACTの事例検討	配布事例の復習をしましょう。		
第4回	地域移行を推進する制度、施策と自立支援協議会	教科書の97～112の予習・復習をしましょう。		
第5回	地域移行の対象及び支援体制の事例検討	配布事例の復習をしましょう。		
第6回	地域を基盤にした相談援助の主体と対象	教科書の113～130の予習・復習をしましょう。		
第7回	地域を基盤にした相談援助の事例検討	配布事例の復習をしましょう。		
第8回	地域に根ざしたリハビリテーション 地域ネットワーク	教科書の113～130の予習・復習をしましょう。		
第9回	精神障害者のケアマネジメント	教科書の131～164の予習・復習をしましょう。		
第10回	精神障害者のケアマネジメントの具体的事例	配布事例の復習をしましょう。		
第11回	地域における資源の動員とネットワークキングの実際	教科書の165～184の予習・復習をしましょう。		
第12回	地域における資源の動員とネットワークキングの具体的事例	配布事例の復習をしましょう。		
第13回	地域に根ざした包括的な支援活動の必要性と今後の課題	教科書の185～197の予習・復習をしましょう。		
第14回	地域に根ざした包括的な支援活動の諸外国の実践例	教科書の185～197の予習・復習をしましょう。		
第15回	我が国の包括的な地域精神保健福祉活動の事例	教科書の185～197の予習・復習をしましょう。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％。レポート試験（グループワークでのふりかえりのレポート、学期末のレポート）。			
小テスト等	30％。習熟度テストをします。国家試験の問題に慣れることは、資格取得の最善の道です。配付された過去問題をしっかり学習し専門的用語や知識を確実なものにしましょう。			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 講義中に、適時質問や話し合いの時間をとりますので、積極的に受講してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。講義中に小集団での話し合いの場面を設定しますので、積極的に参加して対人関係能力を高めましょう。			
教科書	福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉士シリーズ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』弘文堂			
指定図書	講義の際に紹介します。			
参考図書	講義の際に紹介します。			
オフィスワー	水曜日 2時限目	メールアドレス		

授業科目	精神保健学		開講時期	通年
担当教員	小山 宏子		単位	4
授業の目的と概要	<p>精神保健とは単に精神疾患の予防や治療にとどまらず、心の健康の保持、向上をめざした実践を行うことである。本講義では、専門職として学ぶのみでなく、ストレス社会といわれる現代社会において、周囲の人や自分自身の心の健康について考察することにより、適切なアプローチができるようになることを目的とする。</p> <p>精神保健は非常に広い範囲・領域をもつため、時間的なわけ方（ライフサイクルとの関連）と空間的なわけ方（家庭・学校・職場・地域等場所との関連）の両方の立場から学習を進める。特に専門職としての知識にとどまらず、自分自身や家族、周囲の人たちの心の問題として身近なところから考察することができるように、随時関連テーマの映画等も教材とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 ライフサイクルにおける精神保健の課題についての的確に説明することができる。</li> <li>2 家族、学校教育、職場、地域の精神保健の視点からみた課題を身近な事例を通して理解し、簡潔に説明したり文章化することができる。</li> <li>3 精神保健福祉の視点からみた現代社会の課題を説明し、専門職としての役割を説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は社会福祉コースのDP④「人間が直面する心理・社会的諸問題や諸課題に対処し、改善・解決を図るために有効な援助法や社会資源・制度について説明することができる。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回～2回	・精神保健福祉学は何を学ぶか ・第1章 精神保健の概要と課題	予習 p1～18		
第3回～6回	第2章 精神の健康とその要因：ライフサイクルと精神の健康	課題①生活史を振り返り最も印象に残っている出来事を記録		
第7回～第8回	第3章 精神の健康への関与と支援：予防の機概念、行政機関の役割	予習 p 55～77		
第9回～12回	第4章 精神保健の視点から見た家族の課題とアプローチ：現代日本の家族の特徴、結婚と育児、病気療養と介護、高齢者	課題②自分の家族と、家族の課題について考えてみる		
第13回～15回	第5章 精神保健の視点からみた学校教育の課題とアプローチ：現代日本の学校教育と生徒児童の特徴、教員の精神保健、精神保健福祉士の役割	予習 p 126～167		
第16回	まとめ、前期定期試験	予習		
第17回～第18回	第6章 精神の視点からみた勤労者の課題とアプローチ：現代社会の労働環境、うつと過労自殺、飲酒、ギャンブル、精神保健福祉士の役割	予習 p 169～201		
第19回～第22回	第7章 精神保健対策と精神保健福祉士の役割：発達障害、アルコール、薬物依存、うつと自殺防止、認知症、社会的ひきこもり、災害	予習 p 204～250課題③関心あるテーマを選択し調べレポート		
第23回～26回	第8章 精神保健福祉の視点から見た現代社会の課題とアプローチ：災害被災者、犯罪被害者、ニート、ホームレス、多文化、ターミナルケア	課題④関心のあるテーマを選択し新聞記事、本を探す		
第27回～第28回	第9章 地域精神保健福祉に関する諸活動：調査、資源開発、関係法規、専門職（人材）について	予習 p 287～310		
第29回	第10章 諸外国の精神保健活動の現状と対策	予習 p 311～323		
第30回～31回	1年のまとめ（精神保健関連のビデオによる学習）	課題⑤精神保健に関連する映画や本を探しレポート提出		
第32回	後期定期試験	予習 p 281～296		
予習		—		
—		—		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 定期試験			
レポート	10％（小テストを含む）			
小テスト等	10％（レポートを含む）			
成果発表	10％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 本科目は精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目であることを認識して下さい。</li> <li>② 欠席が事前に分かっている場合は（実習・研修等）、前もって届け下さい。</li> </ol>			
教科書	『精神保健の課題と支援』（新・精神保健福祉士講座 中央法規）			
指定図書	吉川武彦『これからの精神保健』南山堂			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		



授業科目	精神保健特論	開講時期	後期
担当教員	板井 修一	単 位	2
授業の目的と概要	人間の悩み苦しきは、こころの健康を阻害すると考えられてきました。しかし、むしろ苦悩を通して、精神的に成熟していく人を見ることも少なくありません。ストレスは必ずしも健康的健康の阻害要因ではないとする考えは、精神保健のパラダイム転換として注目されるようになってきました。この「健康生成論」の考え方を学ぶとともに、その視点から、こころの健康の維持・増進について考えることができるようになることを、授業の目的としています。		
到達目標	1 ストレスと疾病との関係について説明できるようになる。 2 健康生成論(salutogenesis)の考え方について説明できるようになる。 3 SOCの意味について説明できるようになる。 4 健康生成論(salutogenesis)の立場から、こころの健康についての援助計画が立てられるようになる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、自らの専門的な知識を深めるとともに、複数の学問的課題の中心に関連性を求め、研究の視点を広げることをねらいとした、専門教育科目の位置づけられるものである。 したがって、従来の精神保健の考え方とは違う、新しい考え方について学びます。テキストを精読する形で授業を進めていきますが、理解を深めるために、関連する論文や資料をあわせて読んでいきます。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション・導入：問題提起		参考資料を読んでおく	
第 2回 健康の定義：WHOの健康の定義		参考資料を読んでおく	
第 3回 健康・病気の新しい見方：健康生成志向と疾病生成志向		テキスト p3-10 を読んでおく	
第 4回 健康・病気の新しい見方：ストレスは疾病生成的か		テキスト p10-18 を読んでおく	
第 5回 SOCとは何か：健康生成論とSOC(sense of coherence)		テキスト p10-18 を読んでおく	
第 6回 SOCとは何か：SOCの構成要素 把握可能感・処理可能感・有意味感		テキスト p19-39 を読んでおく	
第 7回 SOC概念と他の健康観：健康生成論の始まりとその後の広がり		テキスト p40-75 を読んでおく	
第 8回 SOC概念の測定：SOC質問票作成過程、質問票の有効性と活用		テキスト p76-102 を読んでおく	
第 9回 SOCの発達：SOCの発達と人生経験 SOCを育てる		テキスト p103-148 を読んでおく	
第10回 対処の成功と健康への道：ストレスの健康への影響と強いSOC		テキスト p149-187 を読んでおく	
第11回 今後の課題：混沌からの秩序 集団特性としてのSOC		テキスト p188-218 を読んでおく	
第12回 SOCの視点から考える：障害をもつ人のこころの健康		テキスト p188-218 を読んでおく	
第13回 SOCの視点から考える：高齢者介護とこころの健康		テキスト p188-218 を読んでおく	
第14回 SOCの視点から考える：援助者の心の健康		テキスト p188-218 を読んでおく	
第15回 まとめ：今後のこころの健康づくりのあり方について考える		レポート作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	60% 講義と関連したテーマでレポートを求める。内容の完成度に応じて評価。		
小テスト等	0%		
成果発表	40% 講義中での質疑応答、発言内容に応じて評価。		
受講態度他	0% 履修規定10条(2)に従います。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	少人数の授業になります。授業は、テキストや関係する資料・文献を読み込みながら、議論を深めることで進めていきます。したがって、積極的に発言する姿勢を求めます。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	A. アントノフスキー著(山崎喜比古・吉井清子監訳)「健康の謎を解く」有信堂 その他、必要に応じて、随時参考資料を配布する。		
オフィスアワー	水曜日の3時間目	メールアドレス	

授業科目	精神保健福祉援助演習【精神課程】		開講時期	前期
担当教員	益満 孝一	単位	4	
授業の目的と概要	精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。			
到達目標	<p>1. 総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談援助事例について理解ができる。</p> <p>②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）により、態度や技術ができる。</p>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目など	この科目は精神保健福祉士課程の指定科目「精神保健福祉援助演習（専門）」です。本科目は、 ①精神保健福祉士養成科目「精神保健福祉援助実習（基礎）」（社会福祉士資格取得の指定科目「相談援助演習」）、 ②精神保健福祉士養成科目の講義科目、実習指導科目とともに、「精神保健福祉援助実習」を充実したものにするために、精神保健福祉士としての実践力を涵養な科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得①退院支援、地域移行、地域生活継続に関する事例の理解		「ふりかえりシート」に記録すること		
第2回 精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得②退院支援、地域移行、地域生活継続に関する相談援助の過程の実技指導①（インテーク～プランニング）		「ふりかえりシート」に記録すること		
第3回 精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得③退院支援、地域移行、地域生活継続に関する相談援助の過程の実技指導②（支援の実施～終結とアフターケア）		「ふりかえりシート」に記録すること		
第4回 精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得④社会的排除、貧困、低所得、ホームレスに関する事例の理解		「ふりかえりシート」に記録すること		
第5回 精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得⑤社会的排除、貧困、低所得、ホームレスに関する相談援助の過程の実技指導①（インテーク～プランニング）		「ふりかえりシート」に記録すること		
第6回 精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得⑥社会的排除、貧困、低所得、ホームレスに関する相談援助の過程の実技指導②（支援の実施～終結とアフターケア）		「ふりかえりシート」に記録すること		
第7回 精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得⑦自殺、ひきこもり、児童虐待、薬物・アルコール依存等、ピアサポートに関する事例の理解		「ふりかえりシート」に記録すること		
第8回 精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得⑧自殺、ひきこもりなどに関する相談援助の過程の実技指導①（インテーク～プランニング）		「ふりかえりシート」に記録すること		
第9回 精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得⑨自殺、ひきこもりなどに関する相談援助の過程の実技指導②（支援の実施～終結とアフターケア）		「ふりかえりシート」に記録すること		
第10回 精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得⑩教育、就労（雇用）に関する事例の理解		「ふりかえりシート」に記録すること		
第11回 精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得⑪教育、就労（雇用）に関する相談援助の過程の実技指導①（インテーク～プランニング）		「ふりかえりシート」に記録すること		
第12回 精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得⑫教育、就労（雇用）に関する相談援助の過程の実技指導②（支援の実施～終結とアフターケア）		「ふりかえりシート」に記録すること		
第13回 精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得⑬精神科リハビリテーション・その他の危機状態にある精神保健福祉に関する事例の理解		「ふりかえりシート」に記録すること		
第14回 精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得⑭精神科リハビリテーション・その他の危機状態にある精神保健福祉に関する相談援助の過程の実技指導①（インテーク～プランニング）		「ふりかえりシート」に記録すること		
第15回 精神保健福祉援助事例の理解と包括的援助の実践的習得⑮精神科リハビリテーションなどに関する相談援助の過程の実技指導②（支援の実施～終結とアフターケア）		「ふりかえりシート」に記録すること		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%。レポート試験（「ふりかえりシート」、学期末のレポート）。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 講義中に、適時質問や話し合いの時間をとりますので、積極的に受講してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。講義中に小集団での話し合いの場面を設定しますので、積極的に参加して対人関係能力を高めましょう。実習では、生きづらさ、対人関係の苦手な方との出会いです。まず、実習生としてのあなたが対人関係能力が問われます。 「ふりかえりシート」を配布しますので記録し提出すること。「ふりかえりシート」に記録することで、記録力と、グループワークやロールプレイングの明確化・言語化の力を高めましょう。			
教科書	福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉シリーズ 精神保健福祉援助演習（専門）』弘文堂			
指定図書	講義の際に必要なに応じて紹介します。			
参考図書	講義の際に必要なに応じて紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 2時限目	メールアドレス		

<b>授業科目</b>	精神保健福祉援助実習【精神課程】		<b>開講時期</b>	通年
<b>担当教員</b>	益満 孝一		<b>単位</b>	4
<b>授業の目的と概要</b>	実習先における精神科ソーシャルワーク実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得するとともに、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目的とする。また、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できることを目指している。			
<b>到達目標</b>	1.学習した知識や理論を、具体的実習現場で応用し、理論と実践を統合させることができる。またその過程で自分の実習課題を振り返り、指導者と意見交換することができる。 2.精神保健福祉現場を把握することにより、精神保健福祉士として必要な知識、技術、関連知識の理解を深め、関連分野とのあり方について、自分の考えを述べることができる。 3.利用者と援助関係の形成ができる。 4.利用者への権利擁護及び支援（エンパワーメントを含む）とその評価ができる。 5.多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際を体得できる。 6.当該実習先が地域社会の中の医療機関、施設等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解ができる。			
<b>この授業が目的としているDPや関連する科目など</b>	この科目は精神保健福祉士課程の指定科目「精神保健福祉援助実習」です。 本科目は精神保健福祉士養成科目の講義科目、演習科目、「精神保健福祉援助実習指導」とともに、精神科病院・障害者施設・機関などへの配属実習による「精神保健福祉士」として重要な実習体験をする科目です。			
<b>授業計画</b>	<b>授業内容</b>		<b>授業外学修など</b>	
	原則として24日間（実習時間180時間）以上の配属実習を行うものとする。実習期間中、実習指導担当教員による巡回指導を行う。			
<b>成績評価</b>	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	①実習指導者の評価、②巡回指導教員の評価、③参加態度および実習記録の評価の三者を平均して評価する。			
レポート	-			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	-			
<b>受講上の留意点・ルールに関する情報</b>	1. 実習に対する課題や問題意識を持ち積極的に取り組むこと。 2. 遅刻や欠勤がないよう日頃から心身の健康管理を徹底すること。 3. 実習支援センターとの連携を深め、主体的・意欲的に取り組むこと。 実習において、実習生は実習指導者による指導（実習スーパービジョン）を受け、実習指導担当教員は巡回指導等を通して、実習生及び実習指導者との連携を密に行い、実習生の実習状況について把握し、実習教育スーパービジョンを活かした個別指導を十分			
<b>教科書</b>	実習支援センター編『精神保健福祉援助実習の手引き』 『精神保健福祉援助実習指導・実習』（精神保健福祉士養成講座9 中央法規出版）			
<b>指定図書</b>	なし			
<b>参考図書</b>	なし			
<b>オフィスワーカー</b>	質問等は常に実習支援センターを活用のこと	<b>メールアドレス</b>		

授業科目	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ【精神課程】		開講時期	後期
担当教員	益満 孝一・窪井 かおり		単位	1
授業の目的と概要	本講では、3年次後期1単位の講義・演習科目とし、実習分野の中から実習指導者及び精神障害者当事者・家族を学外講師として招き実践現場の理解を深め、個別指導及び集団指導等により実習に係る基礎的な指導を行う。実習先における支援の実態や実習に際しての基本的態度や福祉専門職に求められる価値・倫理・知識・技術及び記録法について理解を深める。			
到達目標	①実習の目標や意義など実習全体の展開方法について理解する。 ②精神障害者や家族の現状と課題を理解する。 ③実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術について理解する。 ④実習における個人のプライバシーの保護と秘密保持について理解する。 ⑤「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法について理解する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション		実習目的について考察	
第2回	現場に学ぶ①（当事者による講話）		事前学習	
第3回	現場に学ぶ②（家族による講話）		事前学習	
第4回	現場に学ぶ③（精神保健福祉士による講話）		事前学習	
第5回	現場に学ぶ④（他職種による講話）		事前学習	
第6回	精神科病院の概要 ①沿革・歴史、根拠法と制度		事前学習	
第7回	社会復帰施設の概要 ①沿革・歴史、根拠法と制度		事前学習	
第8回	社会復帰施設の概要 ②対象者とニーズ		事前学習	
第9回	行政機関の概要 関連職種・業務とサービス内容		事前学習	
第10回	対人援助技術 ①人権の尊重と共感的態度		事前学習	
第11回	対人援助技術 ②対人関係の構築に関する技術		事前学習	
第12回	秘密保持とプライバシー 個人情報保護法		事前学習	
第13回	倫理綱領と守秘義務 精神保健福祉士法		事前学習	
第14回	記録 ①実習記録ノートの意義と書き方		事前学習	
第15回	記録 ②記録（メモ等）の取り方		事前学習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	50％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この科目は精神保健福祉士課程の指定科目「精神保健福祉援助実習指導」です。 ※ 実習指導の規定で、欠席が3回以上になった場合は科目の履修は難しいので、遅刻も合わせて十分注意すること。 本科目は精神保健福祉士養成科目の講義科目、演習科目とともに、「精神保健福祉援助実習」を充実したものにすることも重要な科目です。実習支援センターを活用しましょう。特に、本、各種資料だけでなく、実習に関する貴重な資料があります。また、「精神保健福祉士」担当の職員もいますので、気軽に相談しましょう。			
教科書	実習支援センター編『精神保健福祉援助実習の手引き』 「精神保健福祉援助実習指導・実習」（精神保健福祉士養成講座9 中央法規出版）			
指定図書	講義の際に紹介します。			
参考図書	講義の際に紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 4時限目		メールアドレス	

授業科目	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ【精神課程】		開講時期	前期
担当教員	益満 孝一		単位	1
授業の目的と概要	本講では、4年次前期1単位の講義・演習科目とし、精神保健福祉援助実習の事前指導を目的とする。実習教育における実習の意義、位置づけ及び実習諸領域の特徴と関連業務の理解を深め、実習に際しての倫理・知識・技術及び記録法について具体的に学ぶとともに実習における実習目標および課題を設定した実習計画の作成方法を習得する。			
到達目標	①実習先の根拠法、サービス内容、対象者について理解できる。 ②実習先に当てはめて倫理・知識・技術及び記録の実際について説明できる。 ③実習場面を想定した守秘義務やプライバシーの保護ができる。 ④実習中における「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法について習得できる。 ⑤実習先における実習目標と課題を設定し実習計画書を作成できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は精神保健福祉士課程の指定科目「精神保健福祉援助実習指導」です。本科目は精神保健福祉士養成科目の講義科目、演習科目とともに、「精神保健福祉援助実習」を充実したものにするために重要な科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 精神保健福祉援助実習の意義と目的	履修した教科書や配布資料など該当するところを学習しましょう。		
第2回	実習先の理解 ①沿革、根拠法と制度的位置	履修した教科書や配布資料など該当するところを学習しましょう。		
第3回	実習先の理解 ②利用者理解、サービス内容	履修した教科書や配布資料など該当するところを学習しましょう。		
第4回	実習先の理解 ③関連職種（医療・看護等）と連携	履修した教科書や配布資料など該当するところを学習しましょう。		
第5回	実習先の理解 ④実習先機関・施設で必要とされる知識と技術	履修した教科書や配布資料など該当するところを学習しましょう。		
第6回	実習計画書の作成 ①実習計画書の意義と内容	履修した教科書や配布資料など該当するところを学習しましょう。		
第7回	実習計画書の作成 ②実習計画書の様式と書き方	履修した教科書や配布資料など該当するところを学習しましょう。		
第8回	実習計画書の作成 ③実習計画の目標と課題の設定①	履修した教科書や配布資料など該当するところを学習しましょう。		
第9回	実習計画書の作成 ④実習計画の目標と課題の設定②	履修した教科書や配布資料など該当するところを学習しましょう。		
第10回	実習計画書の作成 ⑤実習計画の目標と課題の設定③	履修した教科書や配布資料など該当するところを学習しましょう。		
第11回	実習記録ノートの書き方 ①実習記録ノートの意義と内容	履修した教科書や配布資料など該当するところを学習しましょう。		
第12回	実習記録ノートの書き方 ②実習中の記録（メモ等）の取り方	履修した教科書や配布資料など該当するところを学習しましょう。		
第13回	倫理綱領と守秘義務 ①精神保健福祉士法と守秘義務	履修した教科書や配布資料など該当するところを学習しましょう。		
第14回	倫理綱領と守秘義務 ②個人情報保護法とプライバシー	履修した教科書や配布資料など該当するところを学習しましょう。		
第15回	実習の心得 実習教育スーパービジョンと巡回指導の意義	履修した教科書や配布資料など該当するところを学習しましょう。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％。レポート課題の提出。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％。参加態度など。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この科目は精神保健福祉士課程の指定科目「精神保健福祉援助実習指導」です。本科目は精神保健福祉士養成科目の講義科目、演習科目とともに、「精神保健福祉援助実習」を充実したものにするために重要な科目です。 ※ 実習指導の規定で、欠席が3回以上になった場合は科目の履修は難しいので、遅刻も合わせて十分注意すること。 実習支援センターを活用しましょう。特に、本、各種資料だけでなく、実習に関する貴重な資料があります。また、「精神保健福祉士」担当の職員もいますので、気軽に相談しましょう。			
教科書	実習支援センター編『精神保健福祉援助実習の手引き』 「精神保健福祉援助実習指導・実習」（精神保健福祉士養成講座9 中央法規出版）			
指定図書	講義の際に紹介します。			
参考図書	講義の際に紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 4時限目	メールアドレス		

授業科目	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ【精神課程】		開講時期	後期
担当教員	益満 孝一		単位	2
授業の目的と概要	<p>本科目は現場実習の事後学習を目的とする。事後学習は、実習前に学んだ精神医療、精神保健福祉についての知識が実践の場どのように展開されているのかを、現場の体験を基に整理することを目的とする。また実習全体を振り返ることにより、自分自身の実習目的、実習課題の達成度の自己評価を行い、専門職として実践できる技術を身につけることを目的とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現場実習後のグループ及び個人スーパービジョンにより、自己覚知ができ、他者に説明することができる。</li> <li>2. 実習目的、課題の達成度について、適切な自己評価ができ、専門職として実践に生かすことができる。</li> <li>3. 精神保健福祉士の視点をふまえた実習報告書を作成することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は精神保健福祉士課程の指定科目「精神保健福祉援助実習指導」です。          本科目は精神保健福祉士養成科目の講義科目、演習科目とともに、「精神保健福祉援助実習」を充実したものにするためにも重要な科目です。          実習支援センターを活用しましょう。特に、本、各種資料だけでなく、実習に関する貴重な資料があります。また、「精神保健福祉士」担当の職員もいますので、気軽に相談しましょう。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	実習事後指導の意義について		課題①	
第2回	実習報告会：実習内容、実習体験等各自の報告を基に学生同士のスーパービジョン（1）		課題②	
第3回	実習報告会：実習内容、実習体験等各自の報告を基に学生同士のスーパービジョン（2）		課題②	
第4回	実習報告会：実習内容、実習体験等各自の報告を基に学生同士のスーパービジョン（3）		課題②	
第5回	実習報告会：実習内容、実習体験等各自の報告を基に学生同士のスーパービジョン（4）		課題②	
第6回	実習報告会：実習内容、実習体験等各自の報告を基に学生同士のスーパービジョン（5）		課題②	
第7回	実習課題の達成評価：教員を含めたグループスーパービジョン（1）		課題③	
第8回	実習課題の達成評価：教員を含めたグループスーパービジョン（2）		課題③	
第9回	実習課題の達成評価：教員を含めたグループスーパービジョン（3）		課題③	
第10回	実習報告書の作成：教員による個人スーパービジョン（1）		講義の際に必要なに応じて紹介します。	
第11回	実習報告書の作成：教員による個人スーパービジョン（2）		講義の際に必要なに応じて紹介します。	
第12回	実習報告書の作成：教員による個人スーパービジョン（3）		講義の際に必要なに応じて紹介します。	
第13回	実習報告書の作成：教員による個人スーパービジョン（4）		講義の際に必要なに応じて紹介します。	
第14回	実習報告会（精神養成課程3年生合同）		講義の際に必要なに応じて紹介します。	
第15回	現場実習の総括：実習報告書の提出、倫理・価値・技術についての自己覚知		課題④（実習報告書の作成・提出）	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	25%			
小テスト等	-			
成果発表	25% 実習報告書			
受講態度他	50% 対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>実習報告を基に、グループ及び個人スーパービジョンを行い、最終的に実習報告書を作成するが、実習報告書作成よりも、それまでの過程が重要な事後学習である。特に3年生を交えた実習報告会の質疑応答により、不足の知識に気づくことで、国家試験に向けての体勢作りも意図する。          ※ 実習指導の規定で、欠席が3回以上になった場合は科目の履修は難しいので、遅刻も合わせて十分注意すること。          実習報告会で実習成果の発表を行うことが望ましい。</p>			
教科書	実習支援センター編『精神保健福祉援助実習の手引き』 「精神保健福祉援助実習指導・実習」（新・精神保健福祉士養成講座9、中央法規出版）			
指定図書	特になし			
参考図書	『実習生のためのPSW実習ハンドブック』へるす出版			
オフィスアワー	水曜日 3時限目	メールアドレス		

授業科目	精神保健福祉相談援助の基盤 I 【精神課程】		開講時期	前期
担当教員	益満 孝一		単位	2
授業の目的と概要	精神保健福祉士の役割と意義について理解する。精神保健福祉士の専門性、社会福祉士との協働などについて理解する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健福祉士の役割と意義について理解する</li> <li>2. 社会福祉士の役割と意義について理解する</li> <li>3. 相談援助の概念と範囲を理解し、精神保健福祉士の価値（基盤）を習得する</li> <li>4. 精神保健福祉士の相談援助の理念を習得する</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	精神保健福祉士の役割（総合的包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発を含む）と意義、社会福祉士の役割と意義について理解する。また、相談援助の概念と範囲や相談援助の理念について学ぶ。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	現代社会における精神保健福祉士の役割と意義について	講義時に教示する		
第2回	精神保健福祉士制度化の歩み	講義時に教示する		
第3回	精神保健福祉士の専門性	講義時に教示する		
第4回	社会福祉士及び介護福祉士法における位置づけ	講義時に教示する		
第5回	社会福祉士の専門性	講義時に教示する		
第6回	社会福祉士の役割と精神保健福祉士との協働	講義時に教示する		
第7回	相談援助の定義	講義時に教示する		
第8回	相談援助活動の定義と概念	講義時に教示する		
第9回	相談援助の理念と価値	講義時に教示する		
第10回	相談援助における権利擁護の概念と範囲	講義時に教示する		
第11回	精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割	講義時に教示する		
第12回	専門職倫理と倫理的ジレンマ	講義時に教示する		
第13回	ソーシャルワークの源流と形成過程	講義時に教示する		
第14回	日本におけるソーシャルワークの形成過程	講義時に教示する		
第15回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワーク	講義時に教示する		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	講義時に教示する			
レポート	講義時に教示する			
小テスト等	講義時に教示する			
成果発表	なし			
受講態度他	講義時に教示する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>受講態度は重視する。質問などに積極的に回答すること。</p> <p>課題図書：中井久夫・山口直彦著、看護のための精神医学 第2版、医学書院、2004</p> <p>本書の「統合失調症」「気分障害（うつ病、躁うつ病）」などを読み、精神障害者の生きづらさについて知り、支援者としての精神保健福祉士について理解を深めましょう。</p>			
教科書	福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉シリーズ 精神保健福祉相談援助の基盤（専門）』弘文堂			
指定図書	講義時に教示する			
参考図書	講義時に教示する			
オフィスワーク	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	精神保健福祉相談援助の基盤Ⅱ【精神課程】		開講時期	後期
担当教員	益満 孝一・稲富 和弘・金和 史岐子・平田 ルリ子		単位	2
授業の目的と概要	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助、精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲、権利擁護、他職種連携などについて理解する。 本授業は非常勤講師によるオムニバス講義で、各領域の事例などをもとに、ソーシャルワークの実践について学ぶ。最新の社会福祉・精神保健福祉領域における相談援助活動について学ぶ。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要について理解し説明できる</li> <li>2. 精神障害者の相談援助に係る専門職の概念と範囲について理解し説明できる</li> <li>3. 精神障害者の相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解し説明できる</li> <li>4. 精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチを含む）の意義と内容について理解し説明できる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は精神保健福祉士課程の指定科目「精神保健福祉相談援助の基盤」です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	精神保健福祉分野における相談援助活動について	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第2回	精神保健福祉分野における相談援助活動の対象	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第3回	精神保健福祉分野における相談援助活動の目的と意義	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第4回	精神保健福祉分野における援助活動の現状と今後の展開	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第5回	精神保健福祉士 の概念	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第6回	精神保健福祉分野にかかわる専門職の概念とその業務	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第7回	医療機関（精神科病院、精神科診療所を含める）における専門職	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第8回	行政における福祉専門職	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第9回	保健所および精神保健福祉センターにおける専門職	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第10回	保護観察所における社会復帰調整官、労働行政機関等の専門職	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第11回	民間の施設・組織における専門職	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第12回	総合的・包括的な援助を支える理論	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第13回	総合的・包括的な援助の機能と概要	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第14回	多職種連携（チームアプローチ）の意義と概要	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第15回	多職種連携における精神保健福祉士の役割	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％。レポート試験（非常勤講師からの課題レポート、学期末のレポートなど）。			
小テスト等	30％。習熟度テストをします。国家試験の問題に慣れることは、資格取得の最善の道です。配付された過去問題をしっかり学習し専門的用語や知識を確実なものにしましょう。			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 講義中に、適時質問や話し合いの時間をとりますので、積極的に受講してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。講義中に小集団での話し合いの場面を設定しますので、積極的に参加して対人関係能力を高めましょう。			
教科書	福祉臨床シリーズ編集委員会編『精神保健福祉シリーズ 精神保健福祉相談援助の基盤（専門）』弘文堂			
指定図書	講義の際に紹介します。			
参考図書	講義の際に紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 2時限目	メールアドレス		



授業科目	精神保健福祉論Ⅰ【精神課程】		開講時期	前期
担当教員	小山 宏子		単位	2
授業の目的と概要	<p>「精神保健福祉論」は「精神保健福祉士」国家試験受験資格に係る指定科目において中心的位置づけの科目である。精神障害者の「相談援助活動」と「制度とサービスの総合作用」をふまえて精神障害者に関する法律の歴史を理解する。又、精神保健福祉士法における精神保健福祉士の役割について学び課題について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害者に関する法律については100年の歴史の概要を理解するために視聴覚教材を活用する。</li> <li>・精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割について現状を整理し、さらに課題についても考えていく。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害者に関する法律の歴史（精神障害者監護法から障害者総合支援法）と各法律の改正点について概要を説明することができる。</li> <li>・精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割について主要な関連業務を例に挙げ説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は「精神保健福祉士」国家試験受験資格に係る科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：精神保健福祉論では何を学ぶか、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに位置づけ	授業の流れについてⅠ・Ⅱ・Ⅲのシラバスに目を通しておく		
第2回	第1章 精神障害者の相談援助活動と精神保健福祉法－相談援助活動と精神保健福祉に関する制度とサービスの相互関係の理解	予習 教科書P2～11		
第3回	第2章 精神保健福祉法成立までの経緯と意義、その後の変化 第1節 精神障害者監護法から精神保健福祉法成立までの経緯	予習 教科書P14～18		
第4回	第2節 精神保健法から精神保健福祉法成立までの経緯	予習 教科書P21～24		
第5回	第3節 精神保健福祉法成立の意義とその後の変化	障害者自立支援法～総合支援法への改正の課題と内容について教科書を読む		
第6回	第4節 障害者自立支援法成立による変化とその後の展開①	予習 教科書P29～34		
第7回	障害者総合支援法の現状と課題②	予習 教科書P33～34		
第8回	第3章 精神保健福祉法の概要 第1節 精神保健福祉法の構成	予習 教科書P36～51		
第9回	第2節 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割①	予習 教科書P52～60		
第10回	第2節 精神保健福祉法における精神保健福祉士の役割②	予習 教科書P52～60		
第11回	第3節 最近の動向③	予習 教科書P61～75		
第12回	第4章 精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス 第1節 障害者基本法と精神障害者施策とのかかわり	予習 教科書P78～84		
第13回	第2節 障害者総合支援法における精神障害者の福祉サービスの実際	予習 教科書P85～93		
第14回	第3節 精神障害者を対象とした福祉施策・事業	予習 教科書P94～132		
第15回	前期の授業のまとめ	復習 教科書P2～132		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	20％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目は精神保健福祉士受験資格取得のための必須科目であるが、障害者自立支援法以後、社会福祉の援助対象者に精神障害者が明確に位置づけられたことから、社会福祉士養成課程の学生の受講も勧める。			
教科書	『精神保健福祉に関する制度とサービス』新・精神保健福祉士養成校講座6 中央法規			
指定図書	-			
参考図書	『心を病むってどういうこと』ぶどう社、『わが家の母はピョーキです』サンマーク出版、『シブナスの笑い』ラグーナ出版			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	精神保健福祉論Ⅱ【精神課程】		開講時期	後期
担当教員	小山 宏子		単位	2
授業の目的と概要	精神障害者に深く関連する制度について理解を深め、現場で精神保健福祉士として業務に関わる際に活用できるよう現状と課題について考察する。 精神保健福祉論Ⅱの学習内容の中で「社会福祉関連科目ですすでに学習した内容については復習をし、再確認をしていく。 医療観察法は近年精神保健福祉士が関わる新しい分野であるため、事例を中心に業務の理解をしていく。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神障害者に関連する社会保障制度（医療保険制度・介護保険制度）について概要を説明することができる。</li> <li>更生保護制度、医療観察法における精神保健福祉士の業務と役割について簡潔に説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は「精神保健福祉士」国家試験受験資格に係わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 第5章 精神障害者に関連社会保障制度の概要 ①精神障害者と社会保障制度		予習 教科書P134～		
第2回 精神障害者に関連社会保障制度の概要 ②医療保険制度、介護保険制度		予習 教科書P137～158		
第3回 精神障害者に関連社会保障制度の概要 ③経済的支援に関する制度		予習 教科書P159～175		
第4回 第6章 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 ①行政組織と民間組織		予習 教科書P178～181		
第5回 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 ②インフォーマルな社会資源の役割		予習 教科書P182～200		
第6回 相談援助にかかわる組織、団体、関係機関および専門職や地域の支援者 ③専門職や地域住民の役割と実際		予習 教科書P201～209		
第7回 第7章 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 ①刑事司法と更生保護		予習 教科書P212～225		
第8回 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 ②保護観察所と更生保護の担い手		予習 教科書P226～234		
第9回 更生保護制度の概要と精神保健福祉との関係 ③司法・医療・福祉の連携の必要性和実際		予習 教科書P235～244		
第10回 第8章 医療観察法の概要と実際 ①医療観察法の意義と内容		予習 教科書P246～250		
第11回 医療観察法の概要と実際 ②医療観察法の審判と精神保健参与員の役割		予習 教科書P251～256		
第12回 医療観察法の概要と実際 ③入院医療、地域処遇、社会復帰調整官の役割と実際		予習 教科書P257～277		
第13回 第9章 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査 ①調査の意義、目的、対象、倫理		予習 教科書P280～293 復習「社会福祉調査法」		
第14回 社会資源の調整・開発にかかわる社会調査 ②量的調査と質的調査		予習 教科書P294～325 復習「社会福祉調査法」		
第15回 精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱの総括		事前に講義で作成したレポートなど再度読み返しておく		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 教科書や板書（ノートをとる）、参考文献等（授業中に示した過去問含む）を中心に出题します。			
レポート	15％（小テスト含む） 授業中に3～4回ミニレポートを作成し提出してください。			
小テスト等	15％（レポート含む）			
成果発表	—			
受講態度他	—			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目は精神保健福祉士受験資格取得のための必須科目である。			
教科書	『精神保健福祉に関する制度とサービス』新・精神保健福祉士養成校講座6 中央法規			
指定図書	—			
参考図書	『心を病むってどういうこと』ぶどう社、『わが家の母はピョーキです』サンマーク出版、『シブナスの笑い』ラグーナ出版			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	精神保健福祉論Ⅲ【精神課程】		開講時期	前期
担当教員	小山 宏子		単位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・精神障害の概念を理解したうえで精神障がい者の生活の実態を把握し人権について考察を深める。</li> <li>・精神障がい者の居住支援、雇用・就業支援の現状と課題について学び、精神保健福祉士の役割について理解する。</li> </ul>			
到達目標	障がい者の中での精神障がい者の概念を説明することができる 精神障がい者の生活の実態を自分の言葉で説明することができる。 精神障がい者の人権について自分の考えを述べるができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は「精神保健福祉士」国家試験受験資格に係わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	第1章精神障がい者の概念 第1節障がいの概念①	該当箇所を予習		
第2回	第1章精神障がい者の概念 第2, 3, 4節障がい者基本法・精神保健福祉法における精神障がい者	該当箇所を予習		
第3回	第2章精神障がい者の生活の実際 第1節精神障がい者の現状	該当箇所を予習		
第4回	第2章精神障がい者の生活の実際 第2節精神障がい者と家族の現状	該当箇所を予習		
第5回	第2章精神障がい者の生活の実際 第3節精神障がい者と地域社会	該当箇所を予習		
第6回	第3章精神障がい者と人権	精神障がい者の人権について現状を調べ考察する		
第7回	第4章精神障がい者の地域支援システム①	該当箇所を予習		
第8回	第4章精神障がい者の地域支援システム?	該当箇所を予習		
第9回	第4章精神障がい者の地域支援システム?	該当箇所を予習		
第10回	第5章精神障がい者の居住支援①	精神障がい者の地域生活の課題について現状を調べる		
第11回	第5章精神障がい者の居住支援?	該当箇所を予習		
第12回	第6章精神障がい者の雇用・就業支援①	精神障がい者の雇用の現状についての課題を調べる		
第13回	第6章精神障がい者の雇用・就業支援?	該当箇所を予習		
第14回	第7章行政機関における相談援助	該当箇所を予習		
第15回	精神保健福祉論Ⅰ～Ⅲの復習とまとめ	該当箇所を予習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	15%			
小テスト等	15%			
成果発表	—			
受講態度他	—			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	精神保健福祉論ⅠからⅡについては国家試験の問題を踏まえて復習をしながら精神保健福祉論を学んでいく			
教科書	『精神障がい者の生活支援システム』新・精神保健福祉士養成講座7 中央法規			
指定図書	無し			
参考図書	無し			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	政治学	開講時期	前期
担当教員	山中 亜紀	単位	2
授業の目的と概要	<p>私たちは、たくさんの人々とおなじ空間のなかでともに生活しています。しかし、「こんな生活がしたい!」という目標や欲求は、ひとりひとり異なりますし、「どうやって理想の生活を実現するか」という考え方も、様々です。そうした「違い」は、時として、深刻な争いを招くこととなります。このような現実のなか、対立する意見を調整しながら、秩序や安定を生み出そうとするのが、「政治」の重要な営みです。そうした「政治」の営みと、私たちの暮らしとは、具体的にはどのようにかかわっているのでしょうか。</p> <p>本講義では、「政治」を考えるうえで、まずは理解しておかねばならない政治学の基礎知識を習得したいと思います。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 政治学において用いられる基礎用語を理解する。</li> <li>2. 《政治とは何か?》という問いにたいして、概括的なイメージを抱くことができるようになる。</li> <li>3. そうしたイメージを言葉で説明することができるようになる。</li> <li>4. 日々報じられている政治ニュースと、わたしたちの日常生活とのつながりを意識する習慣を身につける。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、文学部共通科目および現代社会学部共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。</p> <p>文学部の学生は「日本国憲法」や「総合講座（人権・平和）」と、現代社会学部の学生は「国際社会と日本」や「法学」、あるいは「総合講座（人権・平和）」とあわせて受講すると、より深い見識を得ることができるでしょう。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	イントロダクション：政治学を学ぶ意義	日ごろから時事ニュースにアクセスすることを心掛けてください	
第2回	政治とはなにか1：権力	予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第3回	政治とはなにか2：支配と正統性	予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第4回	政治の目標：自由民主主義	予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第5回	政治のしくみ1：立憲主義、三権分立	予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第6回	政治のしくみ2：議院内閣制、大統領制	予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第7回	政治のしくみ3：政党	予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第8回	政治とのかかわり1：選挙	予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第9回	政治とのかかわり2：利益集団	予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第10回	政治とのかかわり3：世論、マスメディア	予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第11回	政治の課題1：地方自治、住民参加	予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第12回	政治の課題2：社会福祉	予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第13回	グローバル化と政治1：主権国家体制	予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第14回	グローバル化と政治2：グローバル・イシュー	予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
第15回	まとめ	予習課題は指定された期日までに必ず提出してください	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	論述中心の試験を行います(70%)。論述問題では、「箇条書き、字句の羅列、図式化、ノートの転載」等は評価対象となりません		
レポート	なし		
小テスト等	授業状況を見て、中間テストを行う場合があります(実施する場合は事前に告知します)		
成果発表	なし		
受講態度他	コメント・シートへの記述内容および提出状況(30%)。コメント・シートの詳細は「受講上の留意点」を参照のこと。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>コメント・シートとは、「受講姿勢の真摯さ」および「授業内容の理解度」を確認する一助として、授業中に適宜配布し、授業内容への質問や感想、設問・課題への回答などを記入するものです。コメント・シートは、知識や情報の正誤を問うものではありませんし、提出の事実それ自体に高い価値をおくものでもありません。自分なりの意見や、素朴な疑問や感想など、率直かつ誠実な姿勢で書かれた内容を高く評価します。換言すれば、なおざりな記述であれば、たとえ提出してはいても、評価は低いと</p>		
教科書	使用しません(プリントを適宜配布します)		
指定図書	なし		
参考図書	川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会(2012年)		
オフィスアワー	質問は授業時間の前後にお願いします	メールアドレス	

授業科目	政治学概論（国際政治学を含む）	開講時期	前期
担当教員	横山 豪志	単位	2
授業の目的と概要	<p>政治は、私たちの社会に大きな影響を及ぼしています。これから現代社会について勉強していくにあたり、社会の基礎をなしている政治を理解することは重要です。この講義は政治を理解するための分析視角である「政治学」の主要分野の基礎的な知識を習得することを目的としています。</p> <p>現実の政治の中からトピックをとりあげ、それを手がかりに「政治学」の主要分野の基礎知識を身につけます。講義は「覚えること」を網羅的に列挙するのではなく、焦点を絞りながら「理解する」ための考え方を提示していきます。ただし現実の政治状況によって講義内容を一部変更することがありますので、ご了承ください。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の政治制度の概要と特徴について、説明できる。</li> <li>2. 与党の政権運営方法について、政治学的に説明できる。</li> <li>3. 政策決定過程における「鉄の三角同盟」の仕組みが説明できる。</li> <li>4. 政治学や現実の政治に関する基礎的文献を、自ら集めて分析していくことができる。</li> </ol>		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>この講義は、発達臨床心理コースのDP2「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」、社会福祉コースのDP2「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」、初等教育コースのDP1「教育者としての豊かな人間性や社会人として必要な知識・技能を身に付けることができる。」、および用事保育コースのDP1「保育者としての豊かな人間性や社会人として必要な知識・技能を身に付けることができる。」の達成に関わる科目です。</p> <p>この講義で政治学、および日本の政治の基礎を学んだうえで、「経済学概論(国際経済学を含む)」や「法学(国際法を含む)」と併せて履修すると、それぞれのDPを学んでいくのに必要な、社会科学の基礎を身に付けることができます。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション	政治学を学ぶとは	第2回用レジュメ、資料に基づき予習	
第2回 投票行動(1)	棄権する理由とは	第3回用レジュメ、資料に基づき予習	
第3回 投票行動(2)	候補を選ぶ基準とは	第4回用レジュメ、資料に基づき予習	
第4回 選挙制度(1)	選挙制度の基礎	第5回用レジュメ、資料に基づき予習	
第5回 選挙制度(2)	日本の選挙制度とその特徴	第6回用レジュメ、資料に基づき予習	
第6回 政策決定過程	「鉄の三角同盟」とは	第7回用レジュメ、資料に基づき予習	
第7回 国会(1)	政策決定における与党の役割	第8回用レジュメ、資料に基づき予習	
第8回 国会(2)	政策決定における野党の役割	第9回用レジュメ、資料に基づき予習	
第9回 国会(3)	最近の動向	第10回用レジュメ、資料に基づき予習	
第10回 官僚制(1)	日本の官僚制度	第11回用レジュメ、資料に基づき予習	
第11回 官僚制(2)	日本の行政改革	第12回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備	
第12回 利益集団	「業界」の意向は反映されやすいのか	第13回用レジュメ、使用に基づき予習、期末レポート準備	
第13回 政治思想	民主主義と国家の役割	第14回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備	
第14回 政治体制	議院内閣制と大統領制	第15回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備	
第15回 国際政治	国際政治体制	期末レポート準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	90% 期末レポート40% 毎回提出の「講義の概要」(各回5段階評価)50%		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。</p> <p>その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。</p>		
教科書	北山俊哉、真淵勝、久米郁夫(編)『はじめて出会う政治学 第3版』有斐閣2009年		
指定図書	久米郁夫ほか(編)『政治学 補訂版』有斐閣2011年		
参考図書	講義内で適宜、指示します。		
オフィスアワー	水13:00～14:40、木12:20～13:30	メールアドレス	

授業科目	政治学概論Ⅰ	開講時期	前期
担当教員	横山 豪志	単位	2
授業の目的と概要	政治は、私たちの社会に大きな影響を及ぼしています。これから現代社会について勉強していくにあたり、社会の基礎をなしている政治を理解することは重要です。この講義は「政治学概論Ⅱ」と共に、政治を理解するための分析視角である「政治学」の主要分野の基礎的な知識を習得することを目的にしています。現実の政治の中からトピックをとりあげ、それを手がかりに「政治学」の主要分野の基礎知識を身につけます。講義は「覚えること」を網羅的に列挙するのではなく、焦点を絞りながら「理解する」ための考え方を提示していきます。ただし現実の政治状況によって講義内容を一部変更することがありますので、ご了承ください。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の政治制度の概要と特徴について、説明できる。</li> <li>2. 与党の政権運営方法について、政治学的に説明できる。</li> <li>3. 政策決定過程における「鉄の三角同盟」の仕組みが説明できる。</li> <li>4. 政治学や現実の政治に関する基礎的文献を、自ら集めて分析していくことができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この講義は、アジア文化学科のDP2「②東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの各地域の社会事情について、具体的な事例を通して説明できる。」の達成に関わる科目です。各地域の政治を理解するためには、日本の政治の仕組みや、政治学という「ものの見方」＝学問の基礎を身につけておく必要があります。「政治学概論Ⅱ」や「アジア政治論」を履修することで、より理解を深めることができます。また「経済学概論Ⅰ」や「経済学概論Ⅱ」、「アジア経済論」を履修することで、政治と密接に関係する経済(学)に関する理解を深めることができます。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション 政治学を学ぶとは		第2回用レジュメ、資料に基づき予習	
第2回 投票行動(1) 棄権する理由とは		第3回用レジュメ、資料に基づき予習	
第3回 投票行動(2) 候補を選ぶ基準とは		第4回用レジュメ、資料に基づき予習	
第4回 選挙制度(1) 選挙制度の基礎		第5回用レジュメ、資料に基づき予習	
第5回 選挙制度(2) 日本の選挙制度とその特徴		第6回用レジュメ、資料に基づき予習	
第6回 政策決定過程 「鉄の三角同盟」とは		第7回用レジュメ、資料に基づき予習	
第7回 国会(1) 政策決定における与党の役割		第8回用レジュメ、資料に基づき予習	
第8回 国会(2) 政策決定における野党の役割		第9回用レジュメ、資料に基づき予習	
第9回 国会(3) 最近の動向		第10回用レジュメ、資料に基づき予習	
第10回 官僚制(1) 日本の官僚制度		第11回用レジュメ、資料に基づき予習	
第11回 官僚制(2) 日本の行政改革		第12回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備	
第12回 利益集団 「業界」の意向は反映されやすいのか		第13回用レジュメ、使用に基づき予習、期末レポート準備	
第13回 政治思想 民主主義と国家の役割		第14回レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備	
第14回 政治体制 議院内閣制と大統領制		第15回レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備	
第15回 国際政治 国際政治体制		期末レポート準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	90% 期末レポート40% 毎回提出の「講義の概要」(各回5段階評価)50%		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。「政治学概論Ⅱ」と併せて受講することが望ましいですが、どちらか一方だけを受講することも可能です。		
教科書	北山俊哉、真淵勝、久米郁夫(編)『はじめて出会う政治学 第3版』有斐閣2009年		
指定図書	久米郁夫ほか(編)『政治学 補訂版』有斐閣2011年		
参考図書	講義内で適宜、指示します。		
オフィスアワー	水13:00～14:40、木12:20～13:30	メールアドレス	

授業科目	政治学概論Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	横山 豪志	単位	2
授業の目的と概要	政治は、私たちの社会に大きな影響を及ぼしています。これから現代社会について勉強していくにあたり、社会の基礎をなしている政治を理解することは重要です。この講義は「政治学概論Ⅰ」と共に、政治を理解するための分析視角である「政治学」の主要分野の基礎的な知識を習得することを目的にしています。現実の政治の中からトピックをとりあげ、それを手がかりに「政治学」の主要分野の基礎知識を身につけます。講義は「覚えること」を網羅的に列挙するのではなく、焦点を絞りながら「理解する」ための考え方を提示していきます。ただし現実の政治状況によって講義内容を一部変更することがありますので、ご了承ください。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本政府が行っている経済政策の背景が、政治学的に説明できる。</li> <li>2. 日本の社会保障制度の課題が、政治学的に説明できる。</li> <li>3. 日本の地方自治体が抱えている課題が、政治学的に説明できる。</li> <li>4. 政治学や現実の政治に関する基礎的文献を、自ら集めて分析していくことができる。</li> </ol>		
この授業が目的としてDPや関連する科目など	この講義は、アジア文化学科のDP2「②東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの各地域の社会事情について、具体的な事例を通して説明できる。」の達成に関わる科目です。各地域の政治を理解するためには、日本の政治の課題や、政治学という「ものの見方」＝学問の基礎を身につけておく必要があります。「政治学概論Ⅰ」や「アジア政治論」を履修することで、より理解を深めることができます。また「経済学概論Ⅰ」や「経済学概論Ⅱ」、「アジア経済論」を履修することで、政治と密接に関係する経済(学)に関する理解を深めることができます。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション 政治学を学ぶとは		第2回用レジュメ、資料に基づき予習	
第2回 市場の失敗、政府の失敗(1) 「小さな政府」の限界		第3回用レジュメ、資料に基づき予習	
第3回 市場の失敗、政府の失敗(2) 「大きな政府」の落とし穴		第4回用レジュメ、資料に基づき予習	
第4回 市場の失敗、政府の失敗(3) 日本の行財政改革		第5回用レジュメ、資料に基づき予習	
第5回 市場の失敗、政府の失敗(4) 最近の動向		第6回用レジュメ、資料に基づき予習	
第6回 福祉国家とそのゆくえ(1) 福祉国家の分類		第7回用レジュメ、資料に基づき予習	
第7回 福祉国家とそのゆくえ(2) 日本の社会保障制度		第8回用レジュメ、資料に基づき予習	
第8回 福祉国家とそのゆくえ(3) 最近の動向		第9回用レジュメ、資料に基づき予習	
第9回 地方自治(1) 日本の地方行政制度		第10回用レジュメ、資料に基づき予習	
第10回 地方自治(2) 市町村合併		第11回用レジュメ、資料に基づき予習	
第11回 地方自治(3) 三位一体の改革		第12回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備	
第12回 地方自治(4) 地方政治の現状		第13回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備	
第13回 地球規模の課題(1) 地球環境問題		第14回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備	
第14回 地球規模の課題(2) 人権問題		第15回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備	
第15回 世論とメディア		期末レポート準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	90% 期末レポート40% 毎回提出の「講義の概要」(各回5段階評価)50%		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。「政治学概論Ⅰ」と併せて受講することが望ましいですが、どちらか一方だけを受講することも可能です。		
教科書	北山俊哉、真淵勝、久米郁夫(編)『はじめて出会う政治学 第3版』有斐閣2009年		
指定図書	久米郁夫ほか(編)『政治学 補訂版』有斐閣2011年		
参考図書	講義内で適宜、指示します。		
オフィスアワー	火14:50~16:20、水12:00~13:00、16:30~17:30	メールアドレス	

授業科目	政治社会演習	開講時期	前期
担当教員	横山 豪志	単位	2
授業の目的と概要	<p>この演習の目的は2つあります。  1つは、これまでアジアについて勉強してきたことを踏まえて、アジアの政治、社会に対する理解を深めていくことです。  もう1つは、自分自身でテーマを設定し、資料を収集・分析し、議論を組み立てて発表できるようになることです。  もっとも本格的な演習はこれが初めてですので、発表のための基礎的な技術を身につけることが、より具体的な目的になります。</p> <p>受講者の人数や意向を踏まえ、発表に共通テーマを設けるか否かを決めます。  また、初めての本格的な演習なので、各自2つのテーマを設定し、それぞれについて小規模な発表を行ってもらいます。  1回目は、準備も含めて発表の形式に慣れること、2回目は発表内容の理解を深めることを主眼とします。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アジアの政治、社会に関する特定のテーマに関して、資料を収集・分析できるようになる。</li> <li>2. 調べたことに基づき、問題設定を立てて発表できるようになる。</li> <li>3. 他の人の発表について、そのポイントを理解し、適切な質問ができるようになる。</li> <li>4. 発表を踏まえ、問題設定を立て結論を導くようなレポートを作成できるようになる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション	演習の目的と進め方	各人の問題関心にあわせて、その都度課題を指示する。	
第2回	発表へ向けての準備 資料の調べ方、議論の組み立て方	各人の問題関心に合わせて、その都度課題を指示する。	
第3回	発表と質疑応答1	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第4回	発表と質疑応答2	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第5回	発表と質疑応答3	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第6回	発表と質疑応答4	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第7回	発表と質疑応答5	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第8回	2回目の発表に向けての確認	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第9回	発表と質疑応答1	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第10回	発表と質疑応答2	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第11回	発表と質疑応答3	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第12回	発表と質疑応答4	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第13回	発表と質疑応答5	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。	
第14回	レポート作成について	期末レポート準備	
第15回	全体の総括	期末レポート準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40% 期末レポート		
小テスト等	なし		
成果発表	30% 2回の発表 (内容、プレゼンテーション)		
受講態度他	30% 他の受講生の発表に対するコメント		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。  第2回の際に、発表の順番を決めますので必ず出席してください。  その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。</p>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	講義内で適宜、指示します。		
オフィスアワー	水13:00~14:40、木12:20~13:30	メールアドレス	



授業科目	生徒・進路指導	開講時期	前期
担当教員	川野 司	単位	2
授業の目的と概要	<p>①教職を目指す人のために実践的指導力を修得する。          ②学校における生徒指導及び進路指導の課題を考え、その解決方法について学修する。          ③自らの意見や考えを相手に伝えることができるとともに、相手の意見や考えが傾聴できるようになる。          以上の3項目を修得するために、授業では小中学校のケースを取り上げ、討論型授業を行います。そのために、学生の皆さんは授業前に個別学習（予習）が必要です。予習ではテキストの「設問」と「考えてみよう」の回答をレポートにまとめることが大切になります。</p>		
到達目標	<p>授業では、考える習慣（思考力）、コミュニケーション力、判断力と表現力など教職に必要な実践的指導力を修得するとともに、人間としての生き方などを修得します。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	授業についての説明とレポート課題の書き方の説明。教科書は2～31頁。	教科書2～31頁を読んでおく。	
第2回	Case21 生徒指導について考える。教科書175～180頁。	Case21の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第3回	Case1 学級担任になったA先生の不安を考える 教科書34～38頁	Case1の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第4回	Case3 基本的な生活習慣について考える。教科書49～57頁	Case3の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第5回	Case4 学級崩壊の噂が出始めた担任と児童との関係を考える。教科書58～68頁	Case4の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第6回	Case6 家庭や地域との連携について考える 教科書77～85頁	Case6の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第7回	Case7 昼休みの怪我について考える。教科書86～90頁	Case7の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第8回	Case22 保護者からの相談について考える。教科書181～186頁	Case22の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第9回	Case23 学級崩壊について考える。教科書187～192頁	Case23の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第10回	Case24 体罰について考える。教科書193～197頁	Case24の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第11回	Case26 不登校について考える（その2）。教科書203～207頁	Case26の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第12回	Case27 学校給食について考える。教科書208～211頁	Case27の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第13回	Case28 いじめについて考える。教科書212～216頁	Case28の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第14回	Case29 授業の中での規律づくりについて考える。教科書217～221頁	Case29の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
第15回	Case30 学校における危機管理について考える。教科書222～226頁	Case30の「設問」と「考えてみよう」の回答をまとめる。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	40%		
レポート	10% 課題のレポートは毎時間提出が必要です。全員が13回分の提出になります。		
小テスト等	なし		
成果発表	10% 発表グループは与えられたCaseのプレゼンテーションを行います。プレゼンテーションをする班はレポート提出は必要ありません。		
受講態度他	40%（30% 成績評価は、出席、レポート提出状況、プレゼンテーション発表、グループ討論での積極的参加などを総合的に評価します。10% 授業の終わりに行う「授業の振り返りシート」（授業評価）は全項目に記載します。）		
受講上の留意点・ルールに関する情報	<p>①グループ発表はプレゼン原稿を授業前日までに川野宛にメールで送付する。発表班はレポート提出はありません。          ②授業は協同学習の場です。自らの学習に責任を持つとともに、班の仲間の学習にも班員は責任があります。携帯電話はバッグに入れておき、授業中は見えてはいけません。</p>		
教科書	川野司著『教師のためのケースメソッドで学ぶ実践力』昭和堂		
指定図書	川野司著『実践！学校教育入門－小中学校を考える』昭和堂		
参考図書	文部科学省『生徒指導必携』教育図書		
オフィスワーク	授業前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	生徒・進路指導【中等教職】		開講時期	前期
担当教員	松尾 公孝		単位	2
授業の目的と概要	学校現場の日常は、様々な人間関係により、様々な現象が生じている。一方では、喧嘩、いじめ、不登校、怠学、非行。また一方では、学力の向上、人格の成長、規律ある集団生活。生徒指導は前者への対応と見られがちではあるが、後者も含め、生徒の健全な成長・発達を助けるためのものである。この授業では、教師としての資質を培うために、次の三点を主要な目的とする。学校現場の実態を理解すること。生徒を捉える客観的な視点を身につけること。生徒支援についての考えを深めること。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校現場での生徒指導、進路指導の現状と課題を述べることができる。</li> <li>・子どもを取り巻く環境との関連から児童・生徒を理解することができる。</li> <li>・生徒支援の実践について考察できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本授業は、教育職員免許法施行規則に定める「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」に該当し、以下の内容について学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導の理論及び方法</li> <li>・進路指導の理論及び方法</li> </ul>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		事前に、本授業のシラバスを読む。		
第2回 生徒指導の基本		予習復習として、教科書P8～30を読む。		
第3回 生徒指導体制		予習復習として、教科書P31～43を読む。		
第4回 生徒指導と教師の姿		予習復習として、教科書P44～53を読む。		
第5回 生徒指導と法制度		予習復習として、教科書P54～68を読む。		
第6回 不登校の実態		予習復習として、教科書P73～81及び配布資料を読む。		
第7回 生徒指導と学級経営		予習復習として、教科書P82～89を読む。		
第8回 発達障害の実態		復習として、授業で配布した資料を読む。		
第9回 子どもの貧困の実態		復習として、授業で配布した資料を読む。		
第10回 生徒指導と授業		予習復習として、教科書P95～98を読む。		
第11回 子どもの問題行動		予習復習として、教科書P99～107を読む。		
第12回 いじめの実態		予習復習として、教科書P108～126及び配布資料を読む。		
第13回 少年非行		予習復習として、教科書P127～145及び配布資料を読む。		
第14回 キャリア教育		予習復習として、教科書P156～163を読む。		
第15回 危機管理		予習復習として、教科書P164～169を読む。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験			
レポート	20% 適宜授業中に課します。			
小テスト等	20% 授業ごとの振り返り			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級を経営する教師として、生徒をどのようにとらえ、どのように接すれば、生徒の成長に寄与できるのか、実践することを想定して積極的に授業に参加してほしい。</li> <li>・飲食、私語、携帯電話等の使用は厳禁。</li> </ul>			
教科書	片山紀子『入門生徒指導』学事出版 2014			
指定図書	なし			
参考図書	諸富祥彦『新しい生徒指導の手引き』図書文化 2013 『生徒指導提要』文部科学省 2010			
オフィスワーカー	授業後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	生物的環境論	開講時期	後期
担当教員	佐々木 浩	単 位	2
授業の目的と概要	生物は、単細胞から多細胞へと進化し、様々な環境に適応し、また環境に影響を与えることによって、多様な自然を作り上げている。講義では、形態、行動、生活史、社会構造などの多様性、遺伝子、個体、群集としての多様性とはどのようなものかを学び、自然を生物の面から理解することを目的としている。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の進化について科学的に説明できるようになる。</li> <li>・生物とその環境との関係を説明できるようになる。</li> <li>・人間の進化を説明できるようになる。</li> <li>・人間と自然環境の関係について、自分の考えを述べられるようになる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	「人間と自然環境との調和のための基礎知識を持っている」という環境共生社会コースのDP1のための科目である。自然を生物から理解し、自然と人間との関係を学ぶ基礎となる科目である。自然の物理化学的環境については「エコシステム論」で学ぶことができるため、両科目を学ぶことが望ましい。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 講義概説: 自然って何?		講義の復習をして下さい。	
第2回 生物の進化 1		講義の復習をして下さい。	
第3回 身近な自然観察 筑女の森での観察		観察した植物を図鑑で確認する。	
第4回 生物の進化 2		講義の復習をして下さい。	
第5回 秋の植物観察 (観世音寺周辺)		自然マップの作成	
第6回 遺伝子・性・生殖1		講義の復習をして下さい。	
第7回 遺伝子・性・生殖 2		講義の復習をして下さい。	
第8回 種間関係 1		講義の復習をして下さい。	
第9回 炭焼きと再生可能な資源		講義の復習をして下さい。	
第10回 種間関係 2		講義の復習をして下さい。	
第11回 生態系 1		講義の復習をして下さい。	
第12回 炭焼き		講義の復習をして下さい。	
第13回 生態系 2		自分の住んでいる場所の生態系についてレポート提出。	
第14回 動物の社会		講義の復習をして下さい。	
第15回 まとめ		講義の復習をして下さい。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	83% 班毎の自然マップ作成と各自のレポート1回提出。		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	17%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	個人的事情による欠席はすべて欠席扱いとなります。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	水曜日 昼休み 及び 3講時	メールアドレス	

授業科目	生物のしくみ	開講時期	後期
担当教員	佐々木 浩	単 位	2
授業の目的と概要	人間は生物の一種なのですが、生活が自然とだんだん離れていくにつれて、それを意識しないようになってきています。また、自然の一部である人間社会の急激な発展、変化は、他の生物との関係を変化させ、鳥インフルエンザ等の様々な問題を引き起こし、そして多くの生物を絶滅に追い込むなどの変化をもたらしています。この授業では、生物のしくみや、人間はどのような生物なのかを理解することにより、これからの人間のあり方を考えて、自己管理能力を高めることができるようになることを目的としています。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の特徴を説明できるようになる。</li> <li>・自分の体のしくみについて説明できるようになる。</li> <li>・これからの人間のあり方や自分の生活について考えを述べられるようになる。</li> <li>・人間の生物としての面から自己管理が出来るようになる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」という、現代社会学部の共通科目のDP3の科目です。生物の面から人間社会の問題を考えるためには、生物としての自分の体の仕組みを知ることが重要です。自分の体を知るだけでは体の管理はできません。自分の体の置かれた環境を考えて対応を考えなければなりません。健康管理から環境を考えていくことができるのです。人間以外の生物や人間が自然との関係で作り出す文化については「九州の自然」、「九州の歴史と文化」を受講して深めることができます。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 講義概説		教科書の該当ページを読んで復習して下さい。	
第2回 体の構造 1 : 減るだけの細胞、補充される細胞		教科書の該当ページを読んで復習して下さい。	
第3回 自然解説：筑女の森を歩き、身近な自然を理解する		復習として、名前を知った植物を、身近な所で探して下さい。	
第4回 体の構造 2 : 神経細胞は減るが、シナプスは変化する		教科書の該当ページを読んで復習して下さい。	
第5回 第一回小テスト。NHK 人体1を視聴		教科書の該当ページを読んで復習して下さい。	
第6回 細胞細胞の進化：共生説		教科書の該当ページを読んで復習して下さい。	
第7回 物質代謝：3ヶ月で体は別人		教科書の該当ページを読んで復習して下さい。	
第8回 情報伝達：神経系と内分泌系		教科書の該当ページを読んで復習して下さい。	
第9回 免疫：花粉症にならないためには		教科書の該当ページを読んで復習して下さい。	
第10回 第二回小テスト。生殖：オスとメスはなぜあるのか		教科書の該当ページを読んで復習して下さい。	
第11回 発生:iPS細胞とは		教科書の該当ページを読んで復習して下さい。	
第12回 遺伝：遺伝子		教科書の該当ページを読んで復習して下さい。	
第13回 植物		教科書の該当ページを読んで復習して下さい。	
第14回 生態系と生物多様性 第三回小テスト		教科書の該当ページを読んで復習して下さい。	
第15回 まとめ		教科書の該当ページを読んで復習して下さい。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	20% 宿題レポートを講義中に出します。		
小テスト等	70% 小テストの成績3回を平均します。		
成果発表	なし		
受講態度他	10% 確認テストを何度か実施します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	個人的事情による欠席はすべて欠席扱いとなります。		
教科書	吉田邦久. 2012. 『好きになる生物学 第二版』 講談社 2100円		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	水曜日 昼休み 及び 3講時	メールアドレス	

授業科目	生命科学	開講時期	前期
担当教員	関口 猛	単 位	2
授業の目的と概要	植物や動物（人間を含む）がどのようにして生きているかについていろいろな知識を得ることを目標とする。授業中に命に関するDVDを見て知識を深める。高等学校で学んだ生物の知識をもとにいくつかの単元に焦点を当てて理解する。さらに、生命の尊さを学ぶことを目的とする。		
到達目標	1. 植物や動物がどのようにして生きているか説明できる。2. 生物の持つ物質とそれらの働きについて理解できる。3. 遺伝について理解できる。4. 体を作る仕組みや守る仕組みを理解する。5. 生物に関する新聞等のニュースを理解できる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回いのちの不思議一睡眠、冬眠について		指定図書などを読む。	
第2回コーヒーに含まれるカフェインの働き		指定図書などを読む。	
第3回植物の生き方		指定図書などを読む。	
第4回植物と環境との関わり		指定図書などを読む。	
第5回植物と動物との関わり		指定図書などを読む。	
第6回植物と人間との関わり		指定図書などを読む。	
第7回生物の生きている仕組み		指定図書などを読む。	
第8回生活に役立つ人の遺伝ー基礎		指定図書などを読む。	
第9回生活に役立つ人の遺伝ーその2		指定図書などを読む。	
第10回癌はどういうものか。		指定図書などを読む。	
第11回遺伝と病気		指定図書などを読む。	
第12回遺伝子組み換え生物（GMO）について		指定図書などを読む。	
第13回健康を保つ仕組みー基礎		指定図書などを読む。	
第14回健康を保つ仕組みー免疫		指定図書などを読む。	
第15回健康を保つ仕組みの異常ーアレルギー		指定図書などを読む。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	%50		
レポート	%10		
小テスト等	%30		
成果発表	%0		
受講態度他	%10		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	試験は、教科書、ノート、配布資料を持ち込んでも良い。		
教科書	たたかう植物：仁義なき生存戦略， 免疫力をアップする科学		
指定図書	好きになる生物学（吉田邦久）講談社サイエンティフィック		
参考図書	大学生物学の教科書第2巻（D. サダヴァ他）講談社ブルーバックス		
オフィスワー	講義の前後	メールアドレス	

授業科目	生命倫理	開講時期	後期
担当教員	波多江 忠彦	単位	2
授業の目的と概要	20・21世紀における科学技術の進歩は、私たちに様々な可能性を与えてきた。それによって従来なしえなかったことが可能となり、行為の選択の幅が拡大されたのである。それは、豊かな生活をもたらした反面、その一方で新たな哲学的・倫理的問題に私たちが直面させている。例えば医療の現場における安楽死や尊厳死の是非、脳死と臓器移植の問題、遺伝子操作やサイボーグ技術のあり方等が倫理的問題として問われ、人間の生と死についての再考を私たちに迫っている。この授業では、このような医療現場における個々の具体的問題を考えること通して、人間の生と死についての考察を深めたい。人間の生命とは何か、それは私たち一人一人が考えるべき問題である。哲学的・思想的レベルでこの問題を考察し、各自の考えを深めることを目標とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命倫理の諸問題について、基礎的な知識について正しく説明することができるようになる。</li> <li>2. 生命倫理の諸問題について、その賛否両論を公平に踏まえた上で思考することができる。</li> <li>3. 人間の生と死という根源的な問題について、自分の考えをもつことができるようになる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。「倫理学」などを受講することにより、さらに思想的な理解を相互に深めることができます。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 講師の自己紹介、生命倫理(学)と他の関連科目との関係ー哲学ー倫理学ー様々な応用倫理学ー法律学		p. p画像／配布資料による学修	
第2回 インフォームド・コンセント と インフォームド・アセント 患者の自己決定権とは？		p. p画像／配布資料による学修	
第3回 子供や高齢者のIC・認知症患者・乳幼児の場合・患者の宗教や思想を尊重するとは？		p. p画像／配布資料による学修	
第4回 事前の意思表示文書		映像／資料に基づく学修	
第5回 いのちの始まりの倫理学 生殖補助医療・出生前診断		映像資料に基づく学修	
第6回 選択的人工妊娠中絶・卵活・精子／卵子の売買(バンク)		p. p画像／配布資料による学修	
第7回 卵子／精子の凍結保存 デザイナーベビー(プログラムドベビー)		p. p画像／配布資料による学修	
第8回 遺伝子組み換え／操作 クローン		p. p画像／配布資料による学修	
第9回 いのちの維持の倫理学 臓器移植・再生医療・自殺未遂者へのケア		p. p画像／配布資料による学修	
第10回 生命維持装置／胃瘻などの延命治療の設置と解除		p. p画像／配布資料による学修	
第11回 エンハンスメント 性のマイノリティ		p. p画像／配布資料による学修	
第12回 命の終わりの倫理学 ホスピス・緩和ケア・在宅死と看取り・高齢化問題・地域包括ケアシステム		p. p画像／配布資料による学修	
第13回 尊厳死 安楽死		p. p画像による学修	
第14回 グリーフケア・グリーフワーク		p. p画像／配布資料による学修	
第15回 全体のまとめと質疑応答、試験の準備		全体の振り返りと意見発表による学修	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	80%		
レポート	授業の終わりに提出する感想・意見・質問／10%		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	グループでの討議への貢献度／10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	随時グループでの討議の時間を設定します。また、授業の終わりに毎回その回の講義についての感想や意見を書いてもらいます。		
教科書	なし(必要な資料は配布する(各自ファイルすること))		
指定図書	『考えよう! 生と死のこと ～基礎から学ぶ生命倫理と死生学～』波多江伸子・寺田篤史・脇崇晴、木星舎、2016年、1,400円＋税		
参考図書	『いのちを学ぶ ～倫理として、福祉として、論理として～』波多江忠彦編著、木星舎、2012年、2,200円＋税		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	世界英語概説	開講時期	後期
担当教員	蒲原 順子	単 位	2
授業の目的と概要	この授業では、世界の多くの国や地域で使われている多様な英語、「世界英語 World Englishes」を扱います。これらの英語が、どのようにして、かつては英国のみで話される言語から世界で使われる英語に変化して行ったのか、その背景を知り、また、現在、それぞれの国や地域においてどのような特徴を持つ英語になっているのかを学びます。世界英語について学ぶことは、現代社会について知ること、世界について知ることにつながります。本講義の前半では、英語母語話者の英語を英語の歴史と共に学びます。後半は、英語を母語としない国や地域での英語、国際語/共通語としての英語を取り上げます。授業は、パワーポイント、インターネットのyoutube、映画、などのメディアも使用しながら展開する予定です。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界英語とは何かを理解する。</li> <li>2. なぜ英語が世界に広がっているのかを理解する。</li> <li>3. それぞれの国で使われている英語の特徴を理解する。</li> <li>4. 英語の未来の姿を予測できる。</li> <li>5. 1-4の理解したことを自分のことばで説明できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（授業の流れ、評価など）。導入：世界英語とは？	教科書 pp. i - vii	
第2回	イギリス英語とその方言 （1）－イギリスにおける主要な言語接触（英語の歴史）	教科書 pp. 3-9	
第3回	イギリス英語とその方言 （2）－容認発音、イングランドの方言	教科書 pp. 10-17	
第4回	ケルト語地域の英語	教科書 pp. 28-45	
第5回	アメリカ英語 （1）－アメリカ英語の歴史	教科書 pp. 51-56	
第6回	アメリカ英語 （2）－地域方言	教科書 pp. 56-63	
第7回	カナダ英語	教科書 pp. 63-66	
第8回	オーストラリア英語	教科書 pp. 67-78	
第9回	ニュージーランド英語	教科書 pp. 79-84	
第10回	インドの英語	教科書 pp. 93-109	
第11回	東南アジアの英語	教科書 pp. 120-136	
第12回	アフリカの英語	教科書 pp. 137-153	
第13回	カリブ海の英語	教科書 pp. 154-165	
第14回	ヨーロッパの英語	教科書 pp. 179-183	
第15回	東アジアの英語－日本、韓国、中国、台湾	教科書 pp. 187-201	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	80％ 定期試験		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20％ 授業への積極的な参加を考慮します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特になし		
教科書	田中春美・田中幸子編『World Englishes－世界の英語への招待』昭和堂		
指定図書	なし		
参考図書	授業の中で紹介します。		
オフィスアワー	講座開設中の水曜日14:00～14:30	メールアドレス	

授業科目	世界史	開講時期	後期
担当教員	松隈 達也	単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義の目的は3つあります。(1) 歴史の面白さを感じる。暗記重視の授業はしません。過去の社会や人々の生活・文化を聞いて、そこから自分で考えたり、調べたりしてください。授業では主にイギリス近世・近代・現代を取り上げます。そこから広くヨーロッパ社会や世界史を考えます。</p> <p>(2) 多様な視点で考えます。本講義に限らず、物事を多面的に見ることの重要性はいたるところで指摘されます。専門科目でも、大学卒業後も多様な視点は重要な能力・態度でしょう。本講義では歴史を題材に、いろいろな見方を提示します。ときに高校世界史の理解とは異なる側面が浮かび上がるかもしれません。</p> <p>(3) 想像力を鍛えてください。歴史を学ぶことは、現代社会と大きくかけ離れた過去や社会や人々について考えることです。私たちの常識と異なる内容も出てきます。そのとき不可欠なのが想像力です。また現代の日本と比較しながら学んでください。</p>		
到達目標	<p>高校世界史を相対化できる。</p> <p>世界史(近世から現代)の大きな流れを説明できる。</p> <p>日本史や現代日本と比較できる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に発達臨床心理コースのDP①および社会福祉コースのDP①「人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる」の達成に関わる科目です。また初等教育コースのDP①「教育者としての豊かな人間性や社会人として必要な知識・技能を身につけることができる」、幼児保育コースのDP①「保育者としての豊かな人間性や社会人として必要な知識・技能を身につけることができる」の達成に関わる科目です。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	ガイダンス、女性・子ども・民衆目線の世界史について、	星乃治彦『男たちの帝国』(2006年)を読むこと。	
第2回	イングランド宗教改革(1):なぜ宗教で争うのか?	指昭博『イギリス宗教改革の光と影』(2010年)を読むこと。	
第3回	イングランド宗教改革(2):離婚したくない王妃、結婚したい姉妹	指昭博『イギリス宗教改革の光と影』(2010年)を読むこと。	
第4回	イングランド宗教改革(3):ジェンダーに苦悩する女王メアリ	指昭博『イギリス宗教改革の光と影』(2010年)を読むこと。	
第5回	イングランド宗教改革(4):大混乱のエリザベス統一法	指昭博『イギリス宗教改革の光と影』(2010年)を読むこと。	
第6回	ブリテン複合国家のなかのピューリタン革命:紋章分析から考える	岩井淳『ピューリタン革命と複合国家』(2010年)を読むこと。	
第7回	プロテスタント国際主義と名誉革命:オランダ総督の視点から考える	近藤和彦編『長い18世紀のイギリス』(2002年)を読むこと。	
第8回	「長い18世紀」イギリスの民衆たち:暴動の意味、「悪い」のは誰か?	近藤和彦編『長い18世紀のイギリス』(2002年)を読むこと。	
第9回	「長い18世紀」イギリスの都市化:なぜロンドンに集まるのか?	川北稔『イギリス近代史講義』(2010年)を読むこと。	
第10回	ファッション文化史(1):美容室とかつら	井野瀬久美恵編『イギリス文化史』(2010年)を読むこと。	
第11回	ファッション文化史(2):コルセットと紳士服	井野瀬久美恵編『イギリス文化史』(2010年)を読むこと。	
第12回	ファッション文化史(3):ジェントルマンは雨に濡れる?	井野瀬久美恵編『イギリス文化史』(2010年)を読むこと。	
第13回	イギリス近現代の女性史(1):「家庭の天使」になるために	河村貞枝編『イギリス近現代女性史研究入門』(2006年)を読むこと。	
第14回	イギリス近現代の女性史(2):植民地の同性愛、白人妻	河村貞枝編『イギリス近現代女性史研究入門』(2006年)を読むこと。	
第15回	イギリス近現代の女性史(3):レディのみた帝国主義、まとめ、到達度の確認	河村貞枝編『イギリス近現代女性史研究入門』(2006年)を読むこと。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	70%		
レポート	0%		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	30%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>高校世界史を選択していなかった人でも、ヨーロッパやイギリスに興味がある人。歴史や文化に関心がある人は歓迎します。歴史を題材に、宗教、性・ジェンダー、貧困、福祉、教育、階級制など(今日的な)問題を考えます。</p> <p>適当な理由のない欠席、遅刻、途中退室は厳禁です。理由がある人は事前申告をお願いします。</p> <p>他人の受講を妨げるような迷惑行為、私語、あるいは携帯電話やスマートフォンの使用は厳禁です。座席指定をします。</p>		
教科書	なし(毎回レジュメを配布)		
指定図書	なし		
参考図書	指昭博『イギリス宗教改革の光と影』(ミネルヴァ書房、2010年) 近藤和彦編『長い18世紀のイギリス』(山川出版社、2002年)		
オフィスアワー	質問等は講義の前後に受け付けます。あるいはメールでも受け付けます。	メールアドレス	



授業科目	世界史 I	開講時期	前期
担当教員	松隈 達也	単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義の目的は3つあります。(1) 歴史の面白さを感じる。暗記重視の授業はしません。過去の社会や人々の生活・文化を聞いて、そこから自分で考えたり、調べたりしてください。授業では主にイギリスを取り上げます。そこから広くヨーロッパ社会やアジア史を比較考察します。</p> <p>(2) 多様な視点で考えます。本講義に限らず、物事を多面的に見ることの重要性はいたるところで指摘されます。専門科目でも、大学卒業後も多様な視点は重要な能力・態度でしょう。本講義では歴史を題材に、いろいろな見方を提示します。ときに高校世界史の理解とは異なる側面が浮かび上がるかもしれません。</p> <p>(3) 想像力を鍛えてください。歴史を学ぶことは、現代社会と大きくかけ離れた過去や社会や人々について考えることです。私たちの常識と異なる内容も出てきます。そのとき不可欠なのが想像力です。また現代の日本と比較しながら学んでください。</p>		
到達目標	<p>高校世界史を相対化できる。</p> <p>世界史の大きな流れを説明できる。</p> <p>現代の日本や日本史と比較できる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主にアジア文化学科コースのDP③「アジアの地理・歴史についての基礎的・専門的知識を身につけている。」の達成に関わる科目です。「アジア文化概論」「アジア芸術思想概論」「アジアジェンダー論」など、文化、芸術、ジェンダーについて西洋・東洋を比較しながら学ぶと、より理解が深まるでしょう。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス、世界史について新しい視点で学ぶ	高校世界史の復習「古代文明」の箇所。	
第2回	ローマ時代のブリテン島(1):「ケルト」の社会	高校世界史の復習「古代ギリシア」の箇所。	
第3回	ローマ時代のブリテン島(2):女族長の大反乱	高校世界史の復習「古代ローマ」の箇所。	
第4回	ローマ時代のブリテン島(3):『アーサー王物語』	高校世界史の復習「古代ローマ」の箇所。	
第5回	民族大移動(1):アングロ・サクソン移民とシャルルマーニュ	高校世界史の復習「ゲルマン人の大移動」の箇所。	
第6回	民族大移動(2):ヴァイキングとノルマン征服	高校世界史の復習「ノルマン人の大移動」の箇所。	
第7回	十字軍遠征とシチリア島:宗教戦争か、宗教共存か	高校世界史の復習「十字軍遠征」の箇所。	
第8回	アンジュー帝国と英仏百年戦争(1):ジャンヌ・ダルク	高校世界史の復習「英仏百年戦争」の箇所。	
第9回	アンジュー帝国と英仏百年戦争(2):ヘンリ5世の「大勝利」	高校世界史の復習「英仏百年戦争」の箇所。	
第10回	イングランド宗教改革(1):宗教改革とは	高校世界史の復習「宗教改革(ルター、カルヴァン)」の箇所。	
第11回	イングランド宗教改革(2):ヘンリ8世とブーリン家の姉妹	高校世界史の復習「宗教改革(イングランド国教会)」の箇所。	
第12回	イングランド宗教改革(3):メアリ1世の苦悩	高校世界史の復習「宗教改革(イングランド国教会)」の箇所。	
第13回	イングランド宗教改革(4):大混乱のエリザベス統一法	高校世界史の復習「宗教改革(イングランド国教会)」の箇所。	
第14回	啓蒙時代の魔女狩り:魔女とは?なぜ女性が犠牲者に?	高校世界史の復習「啓蒙主義」の箇所。	
第15回	まとめ、到達度の確認	高校世界史の復習。前期の講義レジュメの見直し。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	70%		
レポート	0%		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	30%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>高校世界史を選択していなかった人でも、ヨーロッパやイギリスに興味がある人。歴史や文化に関心がある人は歓迎します。歴史をとおして、宗教、性・ジェンダー、貧困、差別など(今日的な)問題も考えます。適当な理由のない欠席、遅刻、途中退室は厳禁です。理由がある人は事前申告をお願いします。他人の受講を妨げるような迷惑行為、私語、あるいは携帯電話やスマートフォンの使用は厳禁です。座席指定をします。</p>		
教科書	なし(毎回レジュメを配布)		
指定図書	なし		
参考図書	<p>南川高志『海のかなたのローマ帝国』(岩波書店、2003年)</p> <p>鶴島博和『バイユーの綴れ織を読む』(山川出版社、2015年)</p>		
オフィスアワー	質問等は講義の前後に受け付けます。メールでも受け付けます。	メールアドレス	

授業科目	世界史Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	松隈 達也	単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は前期「世界史Ⅰ」の継続です。          本講義の目的は3つあります。(1) 歴史の面白さを感じる。暗記重視の授業はしません。過去の社会や人々の生活・文化を聞いて、そこから自分で考えたり、調べたりしてください。授業では主にイギリスを取り上げます。そこから広くヨーロッパ社会やアジア史を比較考察します。          (2) 多様な視点で考えます。本講義に限らず、物事を多面的に見ることの重要性はいたるところで指摘されます。専門科目でも、大学卒業後も多様な視点は重要な能力・態度でしょう。本講義では歴史を題材に、いろいろな見方を提示します。ときに高校世界史の理解とは異なる側面が浮かび上がるかもしれません。          (3) 想像力を鍛えてください。歴史を学ぶことは、現代社会と大きくかけ離れた過去や社会や人々について考えることです。</p>		
到達目標	<p>高校世界史を相対化できる。          世界史の大きな流れを説明できる。          現代の日本や日本史と比較できる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主にアジア文化学科コースのDP③「アジアの地理・歴史についての基礎的・専門的知識を身につけている。」の達成に関わる科目です。「アジア文化概論」「アジア芸術思想概論」「アジアジェンダー論」など、文化、芸術、ジェンダーについて西洋・東洋を比較しながら学ぶと、より理解が深まるでしょう。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス、イングランド宗教改革の復習	高校世界史の復習「宗教改革」の箇所。	
第2回	ブリテン複合国家のなかのピューリタン革命(1)：紋章から革命を考える	高校世界史の復習「絶対王政」の箇所。	
第3回	ブリテン複合国家のなかのピューリタン革命(2)：コインから革命を考える	高校世界史の復習「ピューリタン革命」の箇所。	
第4回	プロテスタント国際主義と名誉革命(1)：ヨーロッパ規模の宗教戦争	高校世界史の復習「絶対王政」「17世紀主権国家」の箇所。	
第5回	プロテスタント国際主義と名誉革命(2)：オランダ総督の視点から考える	高校世界史の復習「名誉革命」の箇所。	
第6回	「長い18世紀イギリス」(1)：民衆世界、暴動の意味、「悪い」のは誰？	近藤和彦『長い18世紀のイギリス』を読むこと。	
第7回	「長い18世紀イギリス」(2)：なぜロンドンに集まるのか？	川北稔『イギリス近代史講義』を読むこと。	
第8回	イギリス近代とファッション産業(1)：美容室とかつら	川北稔『イギリス近代史講義』を読むこと。	
第9回	イギリス近代とファッション産業(2)：コルセットと紳士服	高校世界史の復習「産業革命」の箇所。	
第10回	イギリス近代とファッション産業(3)：ジェントルマンは雨に濡れる？	井野瀬久美恵編『イギリス文化史』(昭和堂、2010年)を読むこと。	
第11回	イギリス近代の女性史(1)：「家庭の天使」になるために	河村貞枝『イギリス近現代女性史研究入門』(青木書店、2006年)	
第12回	イギリス近代の女性史(2)：植民地の同性愛、白人妻	河村貞枝『イギリス近現代女性史研究入門』(青木書店、2006年)	
第13回	イギリス近代の女性史(3)：レディのアフリカー人旅	河村貞枝『イギリス近現代女性史研究入門』(青木書店、2006年)	
第14回	イギリス近代の女性史(4)：レディの見た帝国主義	河村貞枝『イギリス近現代女性史研究入門』(青木書店、2006年)	
第15回	まとめ、到達度の確認	高校世界史の復習。後期の講義レジュメの見直し。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	70%		
レポート	0%		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	30%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>高校世界史を選択していなかった人でも、ヨーロッパやイギリスに興味がある人。歴史や文化に関心がある人は歓迎します。歴史をとおして、宗教、性・ジェンダー、貧困、差別、階級制、福祉など、(今日的な)問題を考えます。適当な理由のない欠席、遅刻、途中退室は厳禁です。理由がある人は事前申告をお願いします。他人の受講を妨げるような迷惑行為、私語、あるいは携帯電話やスマートフォンの使用は厳禁です。座席指定をします。</p>		
教科書	なし(毎回レジュメを配布)		
指定図書	なし		
参考図書	<p>岩井淳『ピューリタン革命と複合国家』(山川出版社、2010年)          近藤和彦編『長い18世紀のイギリス』(山川出版社、2002年)</p>		
オフィスアワー	質問等は講義の前後に受け付けます。メールでも受け付けます。	メールアドレス	

授業科目	世代文化論	開講時期	前期
担当教員	清水 陽子	単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業では主に乳幼児期を中心にして、子どもがどのように周囲との関係のなかで文化を獲得し、さらにどのように変容するの かについて理解することを目的とする。なかでも子どもの文化における「生活」、「言葉」、「遊び」の重要性について考えてい く。また、自らも文化の担い手として子どもたちへの伝え方や、創造的に発想する力を身につける。</p> <p>乳・幼児期の文化獲得は日常生活、あそびなどを土台としていることを具体的な資料や教材を通して理解する。特に乳・幼児 期の子どもたちを中心に、信頼関係の育み方や、社会環境の変化が文化の獲得にも影響を及ぼすことを認識する。</p>		
到達目標	<p>①乳・幼児期の子どもたちの生活変化を説明できる。</p> <p>②現代の児童や青年の文化の課題を説明できる。</p> <p>③言葉を獲得するために人との関わりが必要不可欠であることを具体的に説明できる。</p> <p>④遊びを作りだしたり応用したりすることができる。</p>		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
	オリエンテーションー文化ってなんだろうー	文化の具体的な内容について調べる。	
	子どもの生活の文化1 乳児・幼児の生活は変わったのか	テキスト第1章から、子ども観や文化につ いて整理する。	
	子どもの生活と文化2 児童期・青年期の文化	保育所保育指針と幼稚園教育要領から、保 育観について確認する。	
	言葉とところ1 0・1・2歳児のわらべうたと絵本	自身が子どもの頃好きだった絵本について レポートする。	
	言葉とところ2 3・4・5歳児の絵本とお話	自身が子どもの頃好きだった遊びについて 資料を集める。	
	言葉とところ3 乳・幼児期の総合な考察	現代の子どもの遊び文化について調べる。	
	あそびの意義1 子どもの成長とあそび	テキスト第2章を読み、「現代の子どもの 遊びと生活」について知る。	
	あそびの意義2 子どもの教育と玩具	自身の子ども時代と現代の子どもの玩具を 比較し、特徴をまとめておく。	
	子どもの文化研究1 ①保育実践におけるあそびについて	テキスト4章の「子どもの文化財の解説と 実践」を読んでおく。	
	子どもの文化研究1 ②おもちゃ道具の製作発表	子どもの言葉やイメージを育てる玩具につ いての資料を集める。	
	子どもの文化研究1 ③おもちゃ道具の製作発表	子どもの言葉やイメージを育てる玩具を製 作する。	
	子どもの文化研究2 ①保育実践における物語文化について	グループ別に課題を設定し、作品づくりを する。	
	子どもの文化研究2 ②道具を使った演じ方、製作発表	グループ別に作品発表の準備をする。	
	子どもの文化研究2 ③道具を使った演じ方、製作発表	グループ別に作品発表の準備をする。	
	まとめと課題レポート発表	課題にそってレポートを作成する。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40% (テキストを基にレポートを作成する)		
小テスト等	なし		
成果発表	40% グループ発表及び作品発表		
受講態度他	20% (毎回、感想シートをかく)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席状況や授業の参加態度を重視します。		
教科書	松本峰雄編著『保育における子ども文化』2014年 わかば社		
指定図書	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」		
参考図書	講義中に適宜紹介		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	ソーシャルワーク演習 I		開講時期	前期
担当教員	山崎 安則・新家 めぐみ・田中 茂實		単位	2
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク演習 I～Vでは、相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができるようになることを目的とする。そこで、本演習 I では、相談援助に欠かすことのできない価値観や心構え、援助関係を形成するための基本概念の習得を目指している。</p> <p>ソーシャルワーク総論との関連性を視野に入れながら、社会福祉士に求められる理念、価値観、哲学的基礎、つまり専門職としての人間観を形成するための基本的な概念（キーワード）を、相談援助事例を通して理解する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門的な援助関係形成の重要な基盤である自己覚知ができる。</li> <li>2. 専門的な援助関係形成の重要な基盤である基本的なコミュニケーション技術が習得できる。</li> <li>3. 専門的な援助関係形成の重要な基盤である基本的な面接技術が習得できる。</li> <li>4. 1～3を通して相談援助の基礎的素養が習得できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は社会福祉士資格取得の指定科目「相談援助演習」です。</p> <p>また、精神保健福祉士の資格取得希望の学生は、精神保健福祉士資格取得の指定科目「精神保健福祉援助演習（基礎）」になり、この要件を満たすクラスに配属してあります。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第 1回 相談援助実践と「価値」観		課題①		
第 2回 相談援助実践と「価値」観		課題①		
第 3回 自己覚知		課題②		
第 4回 自己覚知		課題②		
第 5回 自己覚知		課題②		
第 6回 基本的なコミュニケーション技術の習得		課題③		
第 7回 基本的なコミュニケーション技術の習得		課題③		
第 8回 基本的なコミュニケーション技術の習得		課題③		
第 9回 基本的な面接技術の習得		課題④		
第10回 基本的な面接技術の習得		課題④		
第11回 基本的な面接技術の習得		課題④		
第12回 ソーシャルワーカーの行動指針		課題⑤		
第13回 ソーシャルワーカーの行動指針		課題⑤		
第14回 相談援助の実践目標としての価値		課題⑥		
第15回 相談援助の実践目標としての価値		課題⑥		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 課題①～⑥の詳細は、各教員から指示する			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 出席状況 + 発表内容と水準、討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関する情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのことレポート等の提出物及び提出期限は必ず守ること。</li> <li>2. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻2回＝欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる）</li> <li>3. 演習による授業のため、当然のこととして学生の積極的な取り組みが求められる。</li> </ol>			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	黒木保博他編『社会福祉援助技術演習』ミネルヴァ書房 川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規			
オフィスワーク	授業の前後、または、各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク演習Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	山崎 安則・新家 めぐみ・田中 茂實		単位	2
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅱでは、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、具体的な相談援助事例をとりあげながら、社会生活上の諸問題について理解し、問題の発生や解決課題を洞察し、その援助について総合的・包括的・実践的に習得することを目的とする。</p> <p>社会生活・社会問題への視点から、具体的な課題別の相談援助事例等（集団に対する相談援助事例を含む）を活用するとともに、視覚教材の使用や現場訪問を含めて、総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまな生活上の苦難をかかえる人とその問題を理解することができる。</li> <li>2. 個人、家族、地域の人々のつながりや地域に存在する機関や施設、公的・私的な社会資源を理解できる。</li> <li>3. 生活問題発生の際、社会経済的問題や国家施策との関連について考え、その課題を指摘できる。</li> <li>4. コミュニケーションスキルや援助関係の形成スキルが向上する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は社会福祉士資格取得の指定科目「相談援助演習」です。</p> <p>また、精神保健福祉士の資格取得希望の学生は、精神保健福祉士資格取得の指定科目「精神保健福祉援助演習（基礎）」になり、この要件を満たすクラスに配属してあります。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	社会生活・社会問題への視点	課題①		
第2回	社会的排除① アルコール依存等の社会的ストレス	課題①		
第3回	社会的排除② 路上死、孤独死、自殺などの社会的孤立	課題①		
第4回	社会的排除③ 外国人などへの社会的排除	課題①		
第5回	虐待① 家庭における児童や高齢者の虐待	課題②		
第6回	虐待② 施設における利用者への虐待	課題②		
第7回	家庭内暴力① 福祉事務所、司法関係者による把握	課題②		
第8回	家庭内暴力② 母子生活支援施設、その他のシェルターにおける事例	課題②		
第9回	低所得者① ワーキングプア	課題③		
第10回	低所得者② 生活保護受給者、救護施設等への入所者	課題③		
第11回	ホームレス① ホームレスの原因とその実態	課題③		
第12回	ホームレス② ホームレスの新たな形態（ネットカフェ難民など）	課題③		
第13回	その他の危機状態にある相談援助事例① 日常生活自立支援事業	課題④		
第14回	その他の危機状態にある相談援助事例② 成年後見制度	課題④		
第15回	その他の危機状態にある相談援助事例③ 自然災害・公害・薬害等	課題④		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 課題①～④の詳細は、各教員から指示する			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 出席状況 + 発表内容と水準、討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関する情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのことレポート等の提出物及び提出期限は必ず守ること。</li> <li>2. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻2回＝欠席1回とみなす）。</li> <li>3. 演習による授業のため、当然のこととして学生の積極的な取り組みが求められる。</li> </ol>			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	黒木保博他編『社会福祉援助技術演習』ミネルヴァ書房 川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規 など			
オフィスワーク	授業の前後、または、各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク演習Ⅲ		開講時期	前期
担当教員	山崎 安則・金 圓景・福崎 千鶴・稲富 憲朗		単位	2
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅲでは、ソーシャルワークの方法および地域福祉論の学修を踏まえ、演習Ⅱでとりあげた事例等を題材として、具体的な相談援助技術の習得を目的とする。あわせて地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、地域福祉活動推進の実際について習得することを目指している。</p> <p>ソーシャルワーク実習を控えた時期であり、集団指導並びに個別指導により、実習現場でも想定される相談援助場面の事例や地域福祉の推進に係る事例をとりあげ、援助関係の形成や援助過程について理解をうながすとともに、その関連する地域における総合的・包括的支援を視野に入れた実技指導を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ロールプレイングやグループワークを活用した演習により、コミュニケーション力、援助関係形成・面接技術の習得を図り、実習先において想定される相談援助の実際をより良く理解できる。</li> <li>2. フォーマル、インフォーマルな社会資源を生活問題の実際に合わせて有効活用するため、個人と環境の両側面からのアプローチについて理解を深めると共に、チームアプローチやネットワークの必要性が理解できる。</li> <li>3. 地域福祉活動におけるソーシャルワーカーの役割を学び社会資源の調整・開発の必要性について理解できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は社会福祉士資格取得の指定科目「相談援助演習」です。</p> <p>また、精神保健福祉士の資格取得希望の学生は、精神保健福祉士資格取得の指定科目「精神保健福祉援助演習（基礎）」になり、この要件を満たすクラスに配属してあります。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	相談援助場面及び相談援助の過程① アウトリーチとニーズ把握	「ソーシャルワークの方法Ⅱ」の復習		
第 2回	相談援助場面及び相談援助の過程② インテーク	「ソーシャルワークの方法Ⅱ」の復習		
第 3回	相談援助場面及び相談援助の過程③ アセスメントとプランニング	「ソーシャルワークの方法Ⅱ」の復習		
第 4回	相談援助場面及び相談援助の過程④ 社会資源の活用・調整・開発	「ソーシャルワークの方法Ⅱ」の復習		
第 5回	相談援助場面及び相談援助の過程⑤ 支援の実施とチームアプローチ	「ソーシャルワークの方法Ⅱ」の復習		
第 6回	相談援助場面及び相談援助の過程⑥ ネットワーキング	「ソーシャルワークの方法Ⅱ」の復習		
第 7回	相談援助場面及び相談援助の過程⑦ モニタリングと効果測定	「ソーシャルワークの方法Ⅱ」の復習		
第 8回	相談援助場面及び相談援助の過程⑧ 終結とアフターケア	「ソーシャルワークの方法Ⅱ」の復習		
第 9回	地域福祉活動推進の実際① その意義	指定した文献を事前に読む 与えられた課題で発表の準備		
第10回	地域福祉活動推進の実際② アウトリーチとニーズ把握	指定した文献を事前に読む 与えられた課題で発表の準備		
第11回	地域福祉活動推進の実際③ 地域福祉の計画(1)	指定した文献を事前に読む 与えられた課題で発表の準備		
第12回	地域福祉活動推進の実際④ 地域福祉の計画(2)	指定した文献を事前に読む 与えられた課題で発表の準備		
第13回	地域福祉活動推進の実際⑤ ネットワーキング	指定した文献を事前に読む 与えられた課題で発表の準備		
第14回	地域福祉活動推進の実際⑥ 社会資源の活用・調整・開発	指定した文献を事前に読む 与えられた課題で発表の準備		
第15回	地域福祉活動推進の実際⑦ サービスの評価	指定した文献を事前に読む 与えられた課題で発表の準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 「授業外学習」欄を参照（詳細は講義時に指示する）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 出席状況 + 発表内容と水準、討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのことレポート等の提出物及び提出期限は必ず守ること。</li> <li>2. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻2回＝欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる）。</li> <li>3. 演習による授業のため、当然のこととして学生の積極的な取り組みが求められる。</li> </ol>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	黒木保博他編『社会福祉援助技術演習』ミネルヴァ書房 川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規			
オフィスワー	授業の前後、または、各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク演習Ⅳ		開講時期	後期
担当教員	山崎 安則・金 圓景・福崎 千鶴・稲富 憲朗		単 位	2
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅳでは、ソーシャルワーク実習を経験した後の演習であることから、相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行うことを目的とする。</p> <p>ソーシャルワーク実習指導Ⅲとの関連性も視野に入れながら、演習クラスのそれぞれに異なる実習先の学生が個別体験を開示・共有し、ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅲで学修してきた相談援助や地域福祉の推進に係る知識や技術について再確認し、実践的な知識や技術として一般化し体得できるようロールプレイングやグループワークを活用した実技指導を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. さまざまな福祉問題に直面する人々への、在宅や施設及び地域の福祉専門機関等の中で展開される相談援助や地域福祉活動の実際について、学生各自の実習での体験を一般化することができる。</li> <li>2. 1について、専門的援助技術の知識や技術として概念化・理論化し、体系立てて理解することができる。</li> <li>3. コミュニケーションスキルや援助関係の形成スキルが向上する。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>この科目は社会福祉士資格取得の指定科目「相談援助演習」です。</p> <p>また、精神保健福祉士の資格取得希望の学生は、精神保健福祉士資格取得の指定科目「精神保健福祉援助演習（基礎）」になり、この要件を満たすクラスに配属してあります。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	実習での個別体験の開示・共有	実習記録の整理と実習体験の発表準備		
第 2回	実習での個別体験の開示・共有	実習記録の整理と実習体験の発表準備		
第 3回	実習での個別体験の開示・共有	実習記録の整理と実習体験の発表準備		
第 4回	実習での個別体験の開示・共有	実習記録の整理と実習体験の発表準備		
第 5回	実習での個別体験の開示・共有	実習記録の整理と実習体験の発表準備		
第 6回	実習での個別体験の開示・共有	実習記録の整理と実習体験の発表準備		
第 7回	反省点や課題の検証（体験の相対化・一般化）	実習課題に関連した文献の講読		
第 8回	反省点や課題の検証（体験の相対化・一般化）	実習課題に関連した文献の講読		
第 9回	反省点や課題の検証（体験の相対化・一般化）	実習課題に関連した文献の講読		
第10回	反省点や課題の検証（体験の相対化・一般化）	実習課題に関連した文献の講読		
第11回	各種の援助場面での相談援助実践（知識や技術）の概念化・体系化	与えられた課題で発表の準備		
第12回	各種の援助場面での相談援助実践（知識や技術）の概念化・体系化	与えられた課題で発表の準備		
第13回	各種の援助場面での相談援助実践（知識や技術）の概念化・体系化	与えられた課題で発表の準備		
第14回	各種の援助場面での相談援助実践（知識や技術）の概念化・体系化	与えられた課題で発表の準備		
第15回	各種の援助場面での相談援助実践（知識や技術）の概念化・体系化	与えられた課題で発表の準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 「授業外学習」欄を参照（詳細は講義時に指示する）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 出席状況 + 発表内容と水準、討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関する情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのことレポート等の提出物及び提出期限は必ず守ること。</li> <li>2. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻2回＝欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる。）。</li> <li>3. 演習による授業のため、当然のこととして学生の積極的な取り組みが求められる。</li> </ol>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	黒木保博他編『社会福祉援助技術演習』ミネルヴァ書房 川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規			
オフィスワー	授業の前後、または、各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク演習Ⅴ		開講時期	前期
担当教員	山崎 安則・新家 めぐみ・金 圓景		単位	2
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク演習Ⅴでは、各学生が専門職者として将来的に希望する道に見合った演習内容を主体的に選択する。特化したコースでは、ソーシャルワークのジェネリックな要素、即ち各分野や援助形態に共通する概念、知識、方法、社会資源の体系を、総合的・包括的にとらえながら、それらの要素をさまざまな場面に応じてスペシフィックに適用できる実践力を身につけることができることを目的とする。</p> <p>ソーシャルワークに関する講義、演習、現場実習（後指導も含む）をすべて終了し、総括する科目として位置づけられる。学習してきた相談援助に関するさまざまな知識や技術が、現実場面の中で生かされるように、事例検討を主体とした演習とし、これまでに学んできたことを生きた知恵や技術に高めていく（7つの分野・領域より各自A及びBコース2分野を選定し、各専門分野の教員により個別、集団指導を行う）。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事例の個別性や複合性に目を向ける視点を養うことができる。</li> <li>2. 利用者の自己決定権を尊重し自立を促進させようとする姿勢や人権擁護・権利擁護の立場が理解できる。</li> <li>3. コミュニケーションスキルや援助関係の形成スキルが向上する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は社会福祉士資格取得の指定科目「相談援助演習」です。</p> <p>また、精神保健福祉士の資格取得希望の学生は、精神保健福祉士資格取得の指定科目「精神保健福祉援助演習（基礎）」になり、この要件を満たすクラスに配属してあります。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション	— ソーシャルワークの適用分野・領域・事例	—		
第2回 児童問題		課題①		
第3回 高齢者問題		課題①		
第4回 身体障害者問題		課題①		
第5回 知的障害者問題		課題①		
第6回 公的扶助分野		課題①		
第7回 保健・医療分野		課題①		
第8回 司法福祉分野		課題①		
第9回 児童問題		課題②		
第10回 高齢者問題		課題②		
第11回 身体障害者問題		課題②		
第12回 知的障害者問題		課題②		
第13回 公的扶助分野		課題②		
第14回 保健・医療分野		課題②		
第15回 司法福祉分野		総括		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 課題①②の詳細は、各教員から指示する			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 出席状況 + 発表内容と水準、討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の具体的な進め方について、掲示および第1回めのオリエンテーションで説明するので、指示に十分注意すること。</li> <li>2. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのことレポート等の提出物及び提出期限は必ず守ること。</li> <li>3. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻2回＝欠席1回とみなす。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる）。</li> </ol>			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	黒木保博他編『社会福祉援助技術演習』ミネルヴァ書房 川村隆彦『価値と倫理を根底に置いたソーシャルワーク演習』中央法規			
オフィスワーク	授業の前後、または、各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		



授業科目	ソーシャルワーク実習		開講時期	通年
担当教員	西原 尚之・山崎 安則・池田 和彦・新家 めぐみ・金 圓景		単位	4
授業の目的と概要	<p>実習先施設・機関におけるソーシャルワーク実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得することを目的とする。また、関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解できることを目指している。</p> <p>実習において、実習生は実習指導者による指導（実習スーパービジョン）を受け、ソーシャルワーク実習指導担当教員は巡回指導等を通して、実習生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、実習生の実習状況について把握し、実習教育スーパービジョンを活かした個別指導を十分に行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 利用者やその関係者、施設・機関等の職員等とのコミュニケーションをはかり、円滑な人間関係の形成ができる。</li> <li>2. 利用者理解とそのニーズ把握及び支援計画の作成ができる。</li> <li>3. 利用者やその関係者と援助関係の形成ができる。</li> <li>4. 利用者やその関係者に対する権利擁護及び支援とその評価ができる。</li> <li>5. 支援におけるチームアプローチの実践を体得できる。</li> <li>6. 社会福祉士としての職業倫理、施設・機関等の職員としての役割と責任について理解できる。</li> <li>7. 施設・機関等の経営やサービスの管理運営の実践を理解でき、地域社会への働きかけができる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>この科目は社会福祉士資格取得の指定科目「相談援助実習」です。</p> <p>本科目は社会福祉士養成科目の講義科目、演習科目、ソーシャルワーク実習指導をもとに、社会福祉施設・機関などへの配属実習による「社会福祉士」として重要な実習体験をする科目です。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
年間を通じ24日間（実習時間180時間）以上の配属実習を行うものとする。実習期間中、実習指導担当教員による巡回指導を行う。		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	実習先指導者の評価および実習記録の評価を平均し、実習指導担当教員が評価する。			
受講上の留意点・ルールに関する情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習に対する課題や問題意識を持ち積極的に取り組むこと。</li> <li>2. 遅刻や欠勤がないよう日頃から心身の健康管理を徹底すること。</li> <li>3. 実習支援センターとの連携を深め、主体的・意欲的に取り組むこと。</li> </ol>			
教科書	『ソーシャルワーク実習の手引き』（筑紫女学園大学） ← 大学から配布			
指定図書	なし			
参考図書	『ソーシャルワーク実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスワー	質問等は常に実習支援センターを活用のこと	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク実習指導 I		開講時期	後期
担当教員	山崎 安則・池田 和彦・新家 めぐみ・金 圓景		単位	1
授業の目的と概要	<p>相談援助実習（ソーシャルワーク実習）の意義やその実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解するとともに、社会福祉士として求められる資質、コミュニケーション・スキル等の技能、倫理、自己に求められる課題把握等、基礎的な能力を習得する。</p> <p>実際に実習を行う実習分野の中から実習指導者を学外講師として迎え、専門職に求められる知識や技術、資質や倫理、介護等の関連業務の内容やチームアプローチ等について実践現場に対する理解を深め、さらに個別指導・集団指導を通して、実習分野の概要や相談援助の知識や技術、専門職に求められる人間観・倫理観や自己覚知、人権への配慮さらに記録の意義等についての基本的な理解を深める。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習の意義と目的及び実習全体の展開方法について理解できる。</li> <li>2. 利用者理解と施設・事業者・機関・団体・地域社会等について理解できる。</li> <li>3. 実習先で必要とされる相談援助の知識やコミュニケーション・スキル等の技術及び関連業務や各種サービスについて理解できる。</li> <li>4. 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務の重要性を理解できる。</li> <li>5. 実習記録の記録内容及び記録方法について理解できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は社会福祉士資格取得の指定科目「相談援助実習指導」です。本科目は社会福祉士養成科目の講義科目、演習科目とともに、「ソーシャルワーク実習」を充実したものにするために重要な科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第 1回	ソーシャルワーク実習・実習指導における個別及び集団指導の目的と意義	課題①		
第 2回	現場に学ぶ① 児童・障害児	課題②		
第 3回	現場に学ぶ② 知的・身体障害者	課題③		
第 4回	現場に学ぶ③ 児童相談所・福祉事務所	課題④		
第 5回	現場に学ぶ④ 特別養護老人ホーム・介護老人保健施設	課題⑤		
第 6回	現場に学ぶ⑤ 社会福祉協議会・病院	課題⑥		
第 7回	社会福祉施設論（総論）	課題⑦		
第 8回	社会福祉施設論（各論）	課題⑦		
第 9回	対人援助技術の方法①	課題⑧		
第10回	対人援助技術の方法②	課題⑧		
第11回	プレゼンテーションの方法①	課題⑨		
第12回	プレゼンテーションの方法②	課題⑨		
第13回	記録① ソーシャルワークにおける記録の意義	課題⑩		
第14回	記録② 実習記録の記入方法	課題⑩		
第15回	ソーシャルワーク実習に向けて ― 基本的知識・技術の確認 ―	課題⑪		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 課題①～⑪は、各回のまとめだが、詳細は演習時に指示する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 出席状況（「受講上の留意点・ルールに関わる情報」欄を参照）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業の具体的な進め方について、第1回めの授業で説明するので、指示に十分注意すること。</li> <li>2. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのことレポート等の提出物及び提出期限は必ず守ること。</li> <li>3. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻2回＝欠席1回とみなします）。</li> <li>4. つねに実習支援センターとの連携を深め、主体的・意欲的に取り組むこと。</li> </ol>			
教科書	『ソーシャルワーク実習の手引き』（筑紫女学園大学） ← 大学から配布			
指定図書	なし			
参考図書	『ソーシャルワーク実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスワー	質問等は常に実習支援センターを活用のこと	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		開講時期	前期
担当教員	西原 尚之・山崎 安則・池田 和彦・新家 めぐみ・金 圓景		単位	1
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク実習の事前指導を目的とし、相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識とコミュニケーション・スキル等の技術について具体的なかつ实际的に理解し実践的な技術等を体得するとともに、社会福祉士として求められる資質、技能、人間観や倫理観、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>実習前教育として、各自の配属実習先施設・機関等についての理解を深め、実習先に向いて事前の現場体験学習及び見学実習を行い、それらを踏まえ個別指導・集団指導を通して、実習先で必要とされる相談援助の知識とコミュニケーション・スキル等の技術の理解のうえに、学生各自の実習目標および課題を設定した「実習計画書」を作成する。あわせて実習に臨むに当たって個人のプライバシーの保護と守秘義務等の再認識や実習記録の意義・内容・方法などを習得する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習先施設・機関等の利用者、サービス内容などの概要を理解できる。</li> <li>2. 相談援助の知識と技術並びに関連業務の内容及びチームアプローチの実際について体験的に理解する。</li> <li>3. 実習での個人のプライバシーの保護や守秘義務の重要性を理解できる。</li> <li>4. 実習中の実習記録への記入内容及び方法について習得できる。</li> <li>5. 実習に臨んでの目標や課題を設定し、実習指導者・担当教員の指導のもと実習計画書を作成できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は社会福祉士資格取得の指定科目「相談援助実習指導」です。本科目は社会福祉士養成科目の講義科目、演習科目とともに、「ソーシャルワーク実習」を充実したものにすることも重要な科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ソーシャルワーク実習の目的と意義	課題①		
第2回	実習先機関・施設の理解① 沿革、根拠法と制度的位置	課題②		
第3回	実習先機関・施設の理解② 利用者理解、サービス内容	課題②		
第4回	実習先機関・施設の理解③ 関連職種（介護や保育等）と連携	課題②		
第5回	実習先機関・施設の理解④ 利用者支援の知識と方法	課題②		
第6回	実習に関する認識と課題設定①	課題③		
第7回	実習に関する認識と課題設定②	課題③		
第8回	実習計画書の作成①	課題④（実習計画書の作成・提出）		
第9回	実習計画書の作成②	課題④（実習計画書の作成・提出）		
第10回	実習計画書の作成③	課題④（実習計画書の作成・提出）		
第11回	実習計画書の作成④	課題④（実習計画書の作成・提出）		
第12回	日誌と記録の書き方①	課題⑤		
第13回	日誌と記録の書き方②	課題⑤		
第14回	福祉倫理について	課題⑥		
第15回	実習の心得について	課題⑥		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 課題①～⑥の詳細は、担当教員から指示する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 出席状況（「受講上の留意点・ルールに関わる情報」欄を参照）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのことレポート等の提出物及び提出期限は必ず守ること。</li> <li>2. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻2回＝欠席1回とみなします。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる）。</li> <li>3. つねに実習支援センターとの連携を深め、主体的・意欲的に取り組むこと。</li> </ol>			
教科書	社会福祉小六法（ミネルヴァ書房） ← テキスト販売時に各自購入 『ソーシャルワーク実習の手引き』（筑紫女学園大学） ← 大学から配布			
指定図書	なし			
参考図書	『ソーシャルワーク実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスワー	質問等は常に実習支援センターを活用のこと	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		開講時期	後期
担当教員	西原 尚之・山崎 安則・池田 和彦・新家 めぐみ・金 圓景		単位	1
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク実習の事後指導として、個別指導並びに集団指導を通して、相談援助実習での具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を修得する。</p> <p>実習後の教育として、各自が事前に設定した実習計画書を中心として、各自の実習記録や実習体験を踏まえた振り返りを行い、演習クラス単位及び全体報告会や個別指導・集団指導を通して、具体的な体験や援助実践を総括・一般化し、専門職がもつべき人間観や倫理観、現場で求められるコミュニケーション・スキル等の実践的・専門的援助技術の課題を踏まえた実習報告書を作成する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習クラス及び全体での報告会を通して、各自の実習記録や体験を整理するレポートを作成できる。</li> <li>2. 個別・グループによる実習教育スーパービジョンを通して、実習（実習中の行動、内容、意味づけ、ディレンマの解消等）の振り返りができる。</li> <li>3. 実習記録や体験を客観化し、実習総括レポートと実習報告書を作成できる。</li> <li>4. 実習先の評価表と自己評価を踏まえて、各自の今後の学習課題を明らかにできる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は社会福祉士資格取得の指定科目「相談援助実習指導」です。</p> <p>本科目は社会福祉士養成科目の講義科目、演習科目とともに、「ソーシャルワーク実習」を充実したものにすることも重要な科目です。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 実習全体報告会		課題①		
第2回 実習の振り返りと報告①		課題①		
第3回 実習の振り返りと報告②		課題①		
第4回 実習の振り返りと報告③		課題①		
第5回 実習の振り返りと報告④		課題①		
第6回 実習評価と課題整理①		課題②		
第7回 実習評価と課題整理②		課題②		
第8回 実習評価と課題整理③		課題②		
第9回 実習報告書の作成①		課題③（実習報告書の作成・提出）		
第10回 実習報告書の作成②		課題③（実習報告書の作成・提出）		
第11回 実習報告書の作成③		課題③（実習報告書の作成・提出）		
第12回 実習報告書の作成④		課題③（実習報告書の作成・提出）		
第13回 実習報告書の作成⑤		課題③（実習報告書の作成・提出）		
第14回 実習総括①		課題④		
第15回 実習総括②		課題④		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 課題①～④の詳細は、担当教員から指示する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 出席状況（「受講上の留意点・ルールに関わる情報」欄を参照）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. この授業は積み重ねによる理解が必要となるので、出席はもちろんのことレポート等の提出物及び提出期限は必ず守ること。</li> <li>2. 4回以上の欠席では原則単位取得が認められない（遅刻2回＝欠席1回とみなします。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる）。</li> <li>3. つねに実習支援センターとの連携を深め、主体的・意欲的に取り組むこと。</li> </ol>			
教科書	『ソーシャルワーク実習の手引き』（筑紫女学園大学） ← 大学から配布			
指定図書	なし			
参考図書	『ソーシャルワーク実習の手引き』に記載されている「参考文献」を参照すること			
オフィスワー	質問等は常に実習支援センターを活用のこと	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク総論 I		開講時期	前期
担当教員	益満 孝一		単位	2
授業の目的と概要	<p>現代社会における社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義を理解し、専門職として知見を深める。社会的に困難を抱えた人への相談援助の理念を学びその相談援助の方法について理解し、相談援助の専門職としての自覚と専門性について考えることを目的とする。</p> <p>現代社会における社会福祉士・精神保健福祉士の役割と意義を概観し、ソーシャルワーク（相談援助）について学ぶ。相談援助の理念について、現代社会の理解で重要な社会的包摂と社会的排除などについて学ぶ。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉士の役割と意義を理解する。</li> <li>2. 現代社会と地域生活の認識を深める。</li> <li>3. ソーシャルワークの概念・構成要素・形成過程を理解する。</li> <li>4. 相談援助の理念を説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本授業は社会福祉コースのDP「③援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる」の達成に関わる科目ですこの科目は社会福祉士資格取得の指定科目「相談援助の基盤と専門職」です。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	社会福祉士の役割と意義①：社会福祉士及び介護福祉士法	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第2回	社会福祉士の役割と意義②：社会福祉士・精神保健福祉士の役割と協働	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第3回	社会福祉士の役割と意義③：社会福祉士の専門性	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第4回	ソーシャルワークの概念と範囲①：国際ソーシャルワーカー連盟の定義	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第5回	ソーシャルワークの概念と範囲②：社会福祉士の業務としての「相談援助」	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第6回	ソーシャルワークの概念と範囲③：精神保健福祉士の業務としての「相談援助」	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第7回	ソーシャルワークの構成要素：クライアント、ニーズ、ソーシャルワーカー、社会資源	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第8回	ソーシャルワークの形成過程①：慈善組織協会、セトルメント運動	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第9回	ソーシャルワークの形成過程②：アメリカと日本における発展	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第10回	相談援助の理念 I ①：ソーシャルワーク実践と価値、人権尊重、社会正義	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第11回	相談援助の理念 I ②：ソーシャルワーク実践と権利擁護	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第12回	相談援助の理念 II ①：クライアントの尊厳と自己決定、自立支援	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第13回	相談援助の理念 II ②：エンパワメントとストレングス視点	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第14回	相談援助の理念 II ③：ノーマライゼーション	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第15回	相談援助の理念 II ④：社会的包摂と社会的排除	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70%。学期末にレポート課題を出しますので、学んだことをもとに期限内に提出してください。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 講義中に、適時質問などをしますので、積極的に受講してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。講義中に小集団での話し合いの場面を設定しますので積極的に参加してください。			
教科書	福祉臨床シリーズ編集委員会編「精神保健福祉シリーズ4 精神保健福祉総論 ソーシャルワークの理論・実践 精神保健福祉相談援助の基盤（専門）」 弘文堂			
指定図書	講義の際に紹介します			
参考図書	講義の際に紹介します			
オフィスワー	水曜日 4時限目	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワーク総論Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	図師 由里子・稲富 和弘・益満 孝一・平田 ルリ子		単位	2
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク総論Ⅰで学んだソーシャルワークの概念、相談援助の価値や理念を基礎として、相談援助に関わる専門職について理解する。相談援助専門職の概念、専門職倫理と倫理的ジレンマなど相談援助の実際について理解することを目的とする。相談援助にかかる専門職と相談援助専門職について学び、専門職倫理と倫理的ジレンマについて理解を深める。ジェネラリスト・ソーシャルワークによる相談援助について学ぶ。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談援助にかかる専門職の概念と範囲を理解する。</li> <li>2. 相談援助専門職の概念を理解する。</li> <li>3. 専門職倫理と倫理的ジレンマについて理解を深める。</li> <li>4. 総合的かつ包括的な相談援助の全体像について認識できる。</li> <li>5. 総合的かつ包括的な相談援助を支える理論を説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本授業は社会福祉コースのDP「③援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる」の達成に関わる科目です。この科目は社会福祉士資格取得の指定科目「相談援助の基盤と専門職」です。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲：社会福祉行政における専門職	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第2回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲：民間の施設、組織における相談援助専門職	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第3回	相談援助にかかる専門職の概念と範囲：社会福祉関連領域・国際的な場ではたらく専門職	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第4回	相談援助専門職の概念：専門職の成立条件	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第5回	相談援助専門職の概念：生活支援の専門職としてのソーシャルワーカー	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第6回	相談援助専門職の概念：ソーシャルワークの職能団体の役割	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第7回	専門職倫理と倫理的ジレンマ：専門職倫理の概念	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第8回	専門職倫理と倫理的ジレンマ：倫理綱領の意義と内容、日本社会福祉士会倫理綱領	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第9回	専門職倫理と倫理的ジレンマ：ソーシャルワーク実践における倫理綱領の活用	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第10回	専門職倫理と倫理的ジレンマ：ソーシャルワーク実践における倫理的ジレンマ	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第11回	総合的かつ包括的な相談援助の全体像：「総合的かつ包括的な相談援助」をめぐる動向	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第12回	総合的かつ包括的な相談援助の全体像：「総合的かつ包括的な相談援助」の背景	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第13回	総合的かつ包括的な相談援助の全体像：地域を基盤としたソーシャルワークの基本的視座	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第14回	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論：ジェネラリスト・ソーシャルワークの意義と基本的視座	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
第15回	総合的かつ包括的な相談援助を支える理論：ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質	教科書の該当するところを学習しましょう。講義の際に指示します。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% レポート試験			
小テスト等	30%。習熟度テストを国家試験をもとにします。国家試験の問題に慣れることは、資格取得の最善の道です。配付された過去問題をしっかり学習し専門的用語や知識を確実なものにしましょう。			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 講義中に、適時質問や話し合いの時間をとりますので、積極的に受講してください。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。講義中に小集団での話し合いの場面を設定します。非常勤講師による社会福祉の実際の話も聞けます。積極的に質問をしてください。			
教科書	福祉臨床シリーズ編集委員会編「精神保健福祉シリーズ4 精神保健福祉相談援助の基盤(専門)」 弘文堂(ソーシャルワーク総論Ⅰと同じ教科書)			
指定図書	講義の際に紹介します。			
参考図書	講義の際に紹介します。			
オフィスワー	水曜日 4時限目	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワークの方法 I		開講時期	前期
担当教員	西原 尚之		単位	2
授業の目的と概要	ソーシャルワーク（相談援助）の視点をシステム理論の枠組みから理解すること、および多様な実践アプローチを学ぶことによってソーシャルワーカー（社会福祉士）が行う対人援助方法の深さと多様性が理解できるようになることを目的としている			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分がソーシャルワークを実践するときどのようなアプローチを好むかを意識化できるようになる</li> <li>・事例を読んで（聞いて）その事例で用いたアプローチの方法がどのような理論に基づいているかを説明できるようになる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は支援の基礎的な技術の概要を理解することを目的としている。この授業を学ぶうえでは、1年次配当の「ソーシャルワーク総論Ⅰ・Ⅱ」が基礎科目として重要になる。また本科目は「ソーシャルワークの方法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」のベースになる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ソーシャルワークの概要と授業全体のオリエンテーション	教科書の第1章を読んでくる		
第2回	ソーシャルワークの対象：人と環境へのシステム論的理解	教科書の第1章を読んでくる		
第3回	ソーシャルワークのモデル：治療モデル・生活モデル・ストレングスマodel	教科書の第6章を読んでくる		
第4回	ソーシャルワークにおけるアプローチの変遷	教科書の第6章を読んでくる		
第5回	ソーシャルワーク実践アプローチ（1）：心理社会的APと機能的AP	教科書の第7章第1・2節を読んでくる		
第6回	ソーシャルワーク実践アプローチ（2）：問題解決AP	教科書の第7章第3節を読んでくる		
第7回	ソーシャルワーク実践アプローチ（3）：クライアント中心AP	授業で指示した文献を読んでくる		
第8回	ソーシャルワーク実践アプローチ（4）：行動変容AP	教科書の第7章第6節を読んでくる		
第9回	ソーシャルワーク実践アプローチ（5）：危機介入AP	教科書の第7章第5節を読んでくる		
第10回	ソーシャルワーク実践アプローチ（6）：家族療法的AP	授業で指示した文献を読んでくる		
第11回	ソーシャルワーク実践アプローチ（7）：課題中心AP	教科書の第7章第4節を読んでくる		
第12回	ソーシャルワーク実践アプローチ（8）：エコロジカルAP	授業で指示した文献を読んでくる		
第13回	ソーシャルワーク実践アプローチ（9）：エンパワメントAP	教科書の第8章第1節を読んでくる		
第14回	ソーシャルワーク実践アプローチ（10）：ナラティブAP	教科書の第8章第2節を読んでくる		
第15回	まとめ	教科書の題6章から第8章までを再読しておく		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	0％			
受講態度他	30％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2/3（10回）以上の出席で定期試験の受験資格</li> <li>2. 毎回出席カードに「質問・感想」を記入する</li> <li>3. 授業態度は出席カードに適切な質問・感想記入があった場合毎回2点を与える</li> </ol>			
教科書	『新・社会福祉士養成講座 第8巻相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規			
指定図書	特になし			
参考図書	『ソーシャルワーカーの力量を高める理論・アプローチ』中央法規。その他授業中随時紹介			
オフィスワー	火曜4講	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワークの方法Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	西原 尚之		単位	2
授業の目的と概要	ソーシャルワーク（相談援助）実践の基本である展開過程を学習することでソーシャルワーカー（社会福祉士）としてクライアントを支援する具体的なイメージを想起できるようになること、また将来専門職として働きだしてからは相談援助の進展具合を明確に意識化できることを目的としている。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ソーシャルワーカーってどんな仕事をするの?」といった質問に対し自分なりに答えることができるようになる</li> <li>・友達や周囲の人からの相談に今より少しだけ上手に対応できるようになる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は支援の基礎的な技術の概要を理解することを目的としている。この授業を学ぶうえでは、1年次配当の「ソーシャルワーク総論Ⅰ・Ⅱ」と「ソーシャルワークの方法Ⅰ」が基礎科目として重要になる。また本科目は「ソーシャルワークの方法Ⅲ・Ⅳ」のベースになる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	相談援助（ソーシャルワーク）展開の概要	教科書第1章を読んでくる		
第2回	相談援助における援助関係（1）：援助関係を構築するための原則	教科書第4章の第1・2節を読んでくる		
第3回	相談援助における援助関係（2）：バ이스テックの7原則	教科書第4章の第3・4節を読んでくる		
第4回	相談援助における援助関係（3）：ソーシャルワークにおける援助関係の特徴	教科書第4章の第5節を読んでくる		
第5回	相談援助の展開過程（1）：ケースの発見	教科書第5章の第1・2節、第7章を読んでくる		
第6回	相談援助の展開過程（2）：インテーク①基本的原則	教科書第5章の第3節、第8章を読んでくる		
第7回	相談援助の展開過程（3）：インテーク②面接の方法	教科書第5章の第3節、第8章、第12章を読んでくる		
第8回	相談援助の展開過程（4）：アセスメント①アセスメントの方法	教科書第5章の第4・5節、第9章の第1節を読んでくる		
第9回	相談援助の展開過程（5）：アセスメント②アセスメントツール	教科書第5章の第4～6節、第9章の第2・3節を読んでくる		
第10回	相談援助の展開過程（6）：プランニングと支援（介入）	教科書第5章の第7・8節、第10章を読んでくる		
第11回	相談援助の展開過程（7）：モニタリングと再アセスメント	教科書第6章の第1・2節、第11章の第1・2節を読んでくる		
第12回	相談援助の展開過程（8）：終結・フォローアップ・事後評価・効果測定	教科書第6章の第3・4節、第11章の第3・4節を読んでくる		
第13回	相談援助の実際（1）：居宅介護支援事業所SWの支援事例	授業で指定した文献を読んでくる		
第14回	相談援助の実際（2）：一般病院の医療SWの支援事例	授業で指定した文献を読んでくる		
第15回		教科書の第4章～12章までを再読しておく		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 2/3（10回）以上の出席でテスト受験資格</li> <li>2. 毎回出席カードに「質問・感想」を記入する</li> <li>3. 授業態度は出席カードに適切な質問・感想記入があった場合毎回2点を与える</li> </ol>			
教科書	『新・社会福祉士養成講座 第7巻相談援助の理論と方法Ⅰ』中央法規			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中随時紹介			
オフィスワー	火曜4講	メールアドレス		



授業科目	ソーシャルワークの方法Ⅲ		開講時期	前期
担当教員	益満 孝一		単位	2
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワーク（相談援助）について、ケースマネジメント、グループワーク（集団による援助）、コーディネーションとネットワークングを理解する。さらに、ソーシャルワーカー（社会福祉士）として、対人援助の多様性と深さについて知見を深めることを目的とする。</p> <p>ジェネラリストソーシャルワークによる対象者支援を学び、ケースマネジメント、グループワーク（集団による援助）、コーディネーションとネットワークングについて理解する。これらがソーシャルワークの臨床現場でどのように活用されているかについて学ぶ。ソーシャルワーク実習では個別支援計画、カンファレンスなど個別面接能力だけでなく、ケースマネジメント、グループワークを始め、小集団での対人関係能力が求められます。グループを活用した相談援助ぬつて体験型学習を通して学びを深めます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談援助における対象を理解する。</li> <li>2. ケースマネジメントを理解する。</li> <li>3. グループを活用した相談援助の理解を深める。</li> <li>4. コーディネーションとネットワークングの認識ができる。</li> <li>5. 相談援助における社会資源の活用・調整・開発について検討する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は社会福祉士資格取得の指定科目「相談援助の理論と方法」です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	相談援助における対象の理解—ジェネラリストソーシャルワーク	教科書の該当するところを学習しましょう。		
第2回	ケースマネジメント（ケアマネジメント）①	教科書の該当するところを学習しましょう。		
第3回	ケースマネジメント（ケアマネジメント）②	教科書の該当するところを学習しましょう。		
第4回	グループを活用した相談援助①	教科書の該当するところを学習しましょう。		
第5回	グループを活用した相談援助②	教科書の該当するところを学習しましょう。		
第6回	グループを活用した相談援助③	教科書の該当するところを学習しましょう。		
第7回	グループを活用した相談援助④	教科書の該当するところを学習しましょう。		
第8回	グループを活用した相談援助⑤	教科書の該当するところを学習しましょう。		
第9回	グループを活用した相談援助⑥	教科書の該当するところを学習しましょう。		
第10回	グループを活用した相談援助⑦	教科書の該当するところを学習しましょう。		
第11回	コーディネーションとネットワークング①	教科書の該当するところを学習しましょう。		
第12回	コーディネーションとネットワークング②	教科書の該当するところを学習しましょう。		
第13回	コーディネーションとネットワークング③	教科書の該当するところを学習しましょう。		
第14回	相談援助における社会資源の活用・調整・開発①	教科書の該当するところを学習しましょう。		
第15回	相談援助における社会資源の活用・調整・開発②	教科書の該当するところを学習しましょう。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％。レポート試験（グループワークでのふりかえりのレポート、学期末のレポート）。			
小テスト等	30％。習熟度テストを国家試験をもとにします。国家試験の問題に慣れることは、資格取得の最善の道です。学習習熟度をみるために小テストを実施します。配付された過去問題をしっかりと学習し専門的用語や知識を確実なものにしましょう。			
成果発表	なし			
受講態度他	30％。対人援助の専門職として、積極的受講を求めます。ソーシャルワーク実習が目前ですので、実習で役に立つが専門性の高い講義になります。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>講義資料をもとに講義を行います。予習復習では、教科書の該当するところを学習してください。</p> <p>講義の際に、説明しますが、身近な市町などの「介護保険」に関するパンフレット（高齢者支援など）を使用します。</p> <p>座席は指定席で行うことがあります。授業形態は受講生が積極的に参加できるアクティブ・ラーニングで行います。構成的グループエンカウンター方式による体験学習をします。講義を聴く場面と話し合いの場面のメリハリができるようにしましょう。人見知りなどで対人関係の苦手な方は配慮しますので、相談してください。</p>			
教科書	『新・社会福祉士養成講座 第8巻 相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規			
指定図書	講義の際に紹介します			
参考図書	講義の際に紹介します			
オフィスアワー	水曜日 4時限目	メールアドレス		

授業科目	ソーシャルワークの方法Ⅳ		開講時期	後期
担当教員	福崎 千鶴		単位	2
授業の目的と概要	<p>ソーシャルワークの方法Ⅰ～Ⅲをふまえて関連講義と結びつけながら相談援助の方法を修得する。相談援助場面における専門職としての価値・倫理および知識、技術を修得する。相談援助場面における記録の意義、目的、様式について習熟し、個人情報保護の重要性を理解し、記録物の管理ができる。スーパービジョンの意義、方法を理解し、自己評価により課題を明確化し改善点を確認できる。事例を通して援助の実際を理解することを目的とする。</p> <p>1. 相談援助における記録や情報管理について学ぶ。  2. 相談援助における個人情報保護の意義と重要性について理解する。  3. スーパービジョンの意義、重要性について学び、相談援助実践でスーパービジョンを活かすことができる。</p>			
到達目標	<p>1. 記録の意義を理解し、目的に応じた記録の書き方を習得する。  2. 記録におけるIT活用の実際を把握し、個人情報保護の重要性について理解する。  3. 事例分析の意義・方法を習得し、実際の事例に応用することができる。  4. 相談援助の実際を事例を通して考察し、支援に役立てることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>関連する科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャルワークの方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</li> <li>・ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ</li> <li>・ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ</li> <li>・ソーシャルワーク実習</li> </ul>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 記録の意義と目的		課題:教科書を熟読し、記録の意義や目的について考察する		
第2回 記録の方法および留意点		課題:社会福祉実習で用いた記録物の取り扱い方法等について振り返る		
第3回 記録の様式と書き方 および目的に応じた記録の活用法		教科書を熟読し、目的に応じた記録の活用を理解する		
第4回 相談援助における情報通信技術（IT）活用の意義		課題:社会福祉現場におけるIT活用の現状を調べる		
第5回 相談援助におけるIT活用の現状		課題:通常活用しているIT機器の現状と課題について考察する		
第6回 相談援助におけるIT活用の留意点		課題:IT機器の有効活用とIT活用の可能性について考察する		
第7回 権利擁護活動における個人情報保護の重要性について		課題:社会福祉実習現場での個人情報保護について考える		
第8回 相談援助における個人情報保護の意義と目的		課題:個人情報保護法やマイナンバー制度について調べる		
第9回 相談援助における個人情報保護の留意点		課題:相談援助における個人情報保護の取り扱いについて考察する		
第10回 スーパービジョンの意義、方法、留意点		課題:教科書を熟読し、スーパービジョンの意義、方法、留意点を理解する		
第11回 スーパービジョンの留意点と実際		課題:社会福祉実習体験を通してスーパービジョンを振り返る		
第12回 事例分析の意義、目的、方法、留意点		課題:社会福祉実習現場での事例について考察する		
第13回 相談援助の実際 事例分析—虐待		虐待事例について新聞記事等を読み、生活課題や支援を考察する		
第14回 相談援助の実際 事例分析—DV		課題:DV事例についての新聞記事等を読み、生活課題や支援を考察する		
第15回 相談援助の実際 事例分析—ホームレス支援		課題:ホームレスに関する新聞記事等を読み、生活課題や支援を考察する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%			
レポート	10%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>1. 教員の一方的な講義形式のみではなく、随時学生より意見を求めたり質問を交えながら実施するため、予習復習を行い講義に臨むこと。なお、随時レポートなどの課題を課すため、提出物および提出期限は必ず守ること。  2. 2/3(10回)以上の出席でテスト受験資格を得ることができる。なお、20分以上の遅刻は欠席扱いとなる。  3. 毎回、レスポンスシートに「質問・感想」を記入する。なお、適切な質問や感想が記入されていた場合、授業態度の評価として加算する。</p>			
教科書	<p>社会福祉士養成講座編集委員会編集『相談援助の理論と方法Ⅰ 第3版』中央法規  社会福祉士養成講座編集委員会編集『相談援助の理論と方法Ⅱ 第2版』中央法規</p>			
指定図書	なし			
参考図書	授業の際に適宜指示する			
オフィスアワー	金曜日 16:30～18:00	メールアドレス		

授業科目	総合講座（人権・平和）①		開講時期	後期
担当教員	松下 博文・浅田 淳一・小川 直樹・栗山 俊之・一木 順		単 位	2
授業の目的と概要	<p>人権・平和について、様々な視角から学ぶことによって、人権・平和を尊重しながら生きることができるようになる。ともすればそのことに無自覚になりがちですが、人権・平和は常に私たちを支えています。</p> <p>例えば日本国憲法は、人権について「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であつて」、「過去幾多の試練に堪へ、現在及び将来の国民に対し、侵すことのできない永久の権利として信託されたもの」であり、「国民の不断の努力によってこれを保持しなければならぬ」と規定しています。では、「多年にわたる」「努力」によって「獲得」した「侵すことのできない永久の権利」を「保持」するために、どのような「不断の努力」が必要なのでしょう。</p> <p>そもそも人権・平和とは、それを損なう差別や戦争とは何なのでしょう。そして私たちは、様々な人権・平和の問題とどのように向き合っていけばいいのでしょうか。ともに考えたいと思います。</p>			
到達目標	<p>1、人権・平和について具体的に述べることができる。</p> <p>2、人権・平和を損なうものとしての差別や戦争について説明することができる。</p> <p>3、現代社会における多種多様な人権・平和問題に関して、それぞれの問題性を明らかにすることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>全学の共通科目であり、「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」講義です。学びを深めたい場合は、ご担当の先生方に関連科目についてお尋ねください。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 オリエンテーション（栗山担当）		この講義を履修した動機について考えてみてください		
第2回 平和とは何か（栗山担当）		平和とはどのようなものなのでしょう		
第3回 アウシュヴィッツ（栗山担当）		人間になぜ		
第4回 日本国憲法と人権・平和（小川担当）		日本国憲法における人権・平和		
第5回 日本国憲法と人権・平和（小川担当）		日本国憲法における人権・平和		
第6回 日本国憲法と人権・平和（小川担当）		日本国憲法における人権・平和		
第7回 沖縄（松下担当）		山之口猷の作品に触れておいてください		
第8回 沖縄（松下担当）		山之口猷を通して		
第9回 沖縄（松下担当）		山之口猷を通して		
第10回 人権の成立（浅田担当）		フランス人権宣言と自然法		
第11回 人権の成立（浅田担当）		フランス人権宣言と自然法		
第12回 人権の成立（浅田担当）		フランス人権宣言と自然法		
第13回 人種差別（一木担当）		人種差別		
第14回 人種差別（一木担当）		人種差別		
第15回 人種差別（一木担当）		人種差別		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	50％ レポート試験を行う。			
小テスト等	20％ 担当教員によっては、講義終了時の10～15分間に小レポートを課す。			
成果発表	なし。			
受講態度他	30％ 講義に向き合う姿勢を評価。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>栗山がコーディネーターを担当しています。質問等あれば尋ねてください。また、12月の人権講演会に参加して、レポート試験時のレポートボックスに、レポートとともに提出してください。感想文の提出により、加点します。</p>			
教科書	プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	講義時に紹介します。			
オフィスアワー	授業前後に相談してください。他は、各先生担当科目のシラバス参照。	メールアドレス		

授業科目	総合講座（人権・平和）②		開講時期	後期
担当教員	浅田 淳一・一木 順・松下 博文・栗山 俊之・小川 直樹		単 位	2
授業の目的と概要	<p>人権・平和について、様々な視角から学ぶことによって、人権・平和を尊重しながら生きることができるようになる。ともすればそのことに無自覚になりがちですが、人権・平和は常に私たちを支えています。</p> <p>例えば日本国憲法は、人権について「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であつて」、「過去幾多の試練に堪へ、現在及び将来の国民に対し、侵すことのできない永久の権利として信託されたもの」であり、「国民の不断の努力によってこれを保持しなければならない」と規定しています。では、「多年にわたる」「努力」によって「獲得」した「侵すことのできない永久の権利」を「保持」するために、どのような「不断の努力」が必要なのでしょう。</p> <p>そもそも人権・平和とは、それを損なう差別や戦争とは何なのでしょう。そして私たちは、様々な人権・平和の問題とどのように向き合っていけばいいのでしょうか。ともに考えたいと思います。</p>			
到達目標	<p>1、人権・平和について具体的に述べることができる。</p> <p>2、人権・平和を損なうものとしての差別や戦争について説明することができる。</p> <p>3、現代社会における多種多様な人権・平和問題に関して、それぞれの問題性を明らかにすることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	全学の共通科目であり、「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」講義です。学びを深めたい場合は、ご担当の先生方に関連科目についてお尋ねください。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 オリエンテーション（一木担当）		学んできた人権・平和について振り返ってください		
第2回 人種差別（一木担当）		人種差別		
第3回 人種差別（一木担当）		人種差別		
第4回 沖縄（松下担当）		山之口猷の作品に触れてください		
第5回 沖縄（松下担当）		山之口猷を通して		
第6回 沖縄（松下担当）		山之口猷を通して		
第7回 人権の成立（浅田担当）		フランス人権宣言と自然法		
第8回 人権の成立（浅田担当）		フランス人権宣言と自然法		
第9回 人権の成立（浅田担当）		フランス人権宣言と自然法		
第10回 日本国憲法と人権・平和（小川担当）		日本国憲法における人権・平和		
第11回 日本国憲法と人権・平和（小川担当）		日本国憲法における人権・平和		
第12回 日本国憲法と人権・平和（小川担当）		日本国憲法における人権・平和		
第13回 平和とは何か（栗山担当）		平和とはどのようなものなのでしょう		
第14回 アウシュヴィッツ（栗山担当）		人間に何故		
第15回 まとめ（栗山担当）		人権・平和の問題にあなたはどのように向き合いますか		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	50％ レポート試験を行う。			
小テスト等	20％ 担当教員によっては、講義終了時の10～15分間に小レポートを課す。			
成果発表	なし。			
受講態度他	30％ 講義に向き合う姿勢を評価。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	栗山がコーディネーターを担当しています。質問等あれば尋ねてください。また、12月の人権講演会に参加して、レポート試験時のレポートボックスに、レポートとともに提出してください。感想文の提出により、加点します。			
教科書	プリントを配布します。			
指定図書	なし。			
参考図書	講義時に紹介します。			
オフィスワー	授業前後に相談してください。他は、各先生担当科目のシラバス参照。	メールアドレス		

授業科目	総合講座（生命）①		開講時期	前期
担当教員	宇治 和貴・速水 良晃・佐々木 浩・浅田 淳一・田尻 雅美		単位	2
授業の目的と概要	<p>「生命」は38億年前に誕生し、私たちが他の生き物とともにそれを引き継いでいます。また、人間は科学技術を発展させ、遺伝子操作や臓器移植、さらには、生殖医療や出生前診断などの医療の場において、「生命」をどう考えるかということが、突きつけられています。この授業では、「生命」について様々な立場からの考え方を学ぶことによって、自分自身の倫理観・人間観にも深く関わる「生命とは何か？」という問いを、自分自身の問題として考えることができるようになることを目的としています。また、授業で自ら自分の意見を発表することにより、自分自身のコミュニケーション・スキルの向上にも務めてください。</p> <p>この授業では、各教員がそれぞれの専門分野の知識を通して「生命」について講義をします。生命の発生から現代社会がかかえる生命に関する課題まで、多くのテーマが様々な視点から語られますので、大いに興味をもって受講しましょう。なお、下記の内容は予定です</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命を生み出した宇宙と地球の歴史について、生命と関連して説明ができる。</li> <li>2. 生物の進化や人間の進化について説明できる。</li> <li>3. 現代社会・医療がかかえる問題について、課題を明らかにしつつ自分の見解を述べるができる。</li> <li>4. 仏教などの宗教における生命観をとおして、「私のいのちの受け止め」を問い直すことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>全学の共通科目であり、「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」講義です。「仏教学I, II」や、文学部の「環境学」「社会学」、人間科学部の「生命科学」「生命倫理」、現代社会学部の「生物のしくみ」などの関連科目で学びを深めて下さい。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	宇宙の歴史と生命（担当：速水）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第2回	地球の歴史と生命（担当：速水）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第3回	物質とエネルギーと生命のつながり（担当：速水）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第4回	生物の進化から見た命（担当：佐々木）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第5回	生物のつながりから見た命（担当：佐々木）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第6回	私たちの生活と生物の命（担当：佐々木）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第7回	生命と倫理の関係（担当：浅田）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第8回	「生命功利主義」の問題性（担当：浅田）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第9回	「授かりもの」としての生について（担当：浅田）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第10回	水俣病の歴史と現在（担当：田尻）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第11回	障害者の視点から見る胎児性水俣病（担当：田尻）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第12回	水俣学の国際的発展～原田正純の足跡をたどって（担当：田尻）	授業で配布された資料をもとに、予習復習を行う。		
第13回	仏教の死生観（担当：宇治）	新聞などにより、現代社会の医療状況について調べる。		
第14回	死とどう向き合うのか：ターミナル・ケア（担当：宇治）	新聞などにより、現代社会の医療状況について調べる。		
第15回	生きる意味について考える（担当：宇治）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	50% 定期試験（授業で扱ったテーマを選んで問いに答える）			
レポート	0%			
小テスト等	—			
成果発表	0%			
受講態度他	50% 課題レポート等による			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業外学習や課題については、各担当教員からの指示に従って下さい。</p> <p>図書館で「生命」に関する図書・DVDなどを閲覧し、それぞれの授業で得た知識を確認することも必要です。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	担当者が授業において紹介します。			
オフィスアワー	授業前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	総合講座（生命）②		開講時期	前期
担当教員	宇治 和貴・速水 良晃・佐々木 浩・田尻 雅美・浅田 淳一		単位	2
授業の目的と概要	<p>「生命」は38億年前に誕生し、私たちが他の生き物とともにそれを引き継いでいます。また、人間は科学技術を発展させ、遺伝子操作や臓器移植、さらには、生殖医療や出生前診断などの医療の場において、「生命」をどう考えるかということが、突きつけられています。この授業では、「生命」について様々な立場からの考え方を学ぶことによって、自分自身の倫理観・人間観にも深く関わる「生命とは何か？」という問いを、自分自身の問題として考えることができるようになることを目的としています。また、授業で自ら自分の意見を発表することにより、自分自身のコミュニケーション・スキルの向上にも務めてください。</p> <p>この授業では、各教員がそれぞれの専門分野の知識を通して「生命」について講義をします。生命の発生から現代社会がかかえる生命に関する課題まで、多くのテーマが様々な視点から語られますので、大いに興味をもって受講しましょう。なお、下記の内容は予定です</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命を生み出した宇宙と地球の歴史について、生命と関連して説明ができる。</li> <li>2. 生物の進化や人間の進化について説明できる。</li> <li>3. 現代社会・医療がかかえる問題について、課題を明らかにしつつ自分の見解を述べるができる。</li> <li>4. 仏教などの宗教における生命観をとおして、「私のいのちの受け止め」を問い直すことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>全学の共通科目であり、「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」講義です。「仏教学I, II」や、文学部の「環境学」「社会学」、人間科学部の「生命科学」「生命倫理」、現代社会学部の「生物のしくみ」などの関連科目で学びを深めて下さい。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	生物の進化から見た命（担当：佐々木）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第2回	生物のつながりから見た命 II（担当：佐々木）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第3回	私たちの生活と生物の命（担当：佐々木）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第4回	宇宙の歴史と生命（担当：速水）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第5回	地球の歴史と生命（担当：速水）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第6回	物質とエネルギーと生命のつながり（担当：速水）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第7回	仏教の生死観（担当：宇治）	日常の中で自分自身が「生きている」と実感したことを振り返る		
第8回	仏教での生命観一つながりあういのち（担当：宇治）	日常の中で「生かされている」と感じたことをまとめる		
第9回	生きる意味を考える（担当：宇治）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第10回	生命と倫理の関係（担当：浅田）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第11回	生命功利主義の問題性（担当：浅田）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第12回	「授かりもの」としての生について（担当：浅田）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第13回	水俣病の歴史と現在（担当：田尻）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第14回	障害者の視点から見る胎児性水俣病（担当：田尻）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
第15回	水俣学の国際的発展～原田正純の足跡をたどって（担当：田尻）	授業で配布された資料をもとに、予習・復習を行う。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50% 定期試験（授業で扱ったテーマを選んで問いに答える）			
レポート	0%			
小テスト等	—			
成果発表	0%			
受講態度他	50% 課題レポート等による			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業外学習や課題については、各担当教員からの指示に従って下さい。</p> <p>図書館で「生命」に関する図書・DVDなどを閲覧し、それぞれの授業で得た知識を確認することも必要です。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	担当者が授業において紹介します。			
オフィスワー	授業前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	総合表現演習		開講時期	後期
担当教員	大元 千種		単位	1
授業の目的と概要	<p>子どもの視点に立って、遊びや活動を豊かに展開するため、保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園等における保育・教育の内容を理解することを目標とする。そして、身体表現、音楽表現、造形表現とともに言語表現等の表現活動に関する知識や技術を育成する。さらに保育、教育現場においてそれらを総合して具体的に展開するために、表現活動に係る教材等の活用および作成と、保育の環境構成および技術の習得をすることを目的とする。</p> <p>授業では、グループに分かれて、ビデオや実践記録についての分析や考察、実技を行う。その他に表現について創意工夫した表現の発表を行い、それに対するコメントをグループ相互に行う。その際「子どもの視点に立つ」「子どもの発達や要求に配慮する」ことを前提とする。また、毎回授業での気づきや考察を「学びの軌跡」にまとめ、自らの学びを確認する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子どもの発達に応じて適切に言語表現に関する児童文化（絵本、紙芝居、人形劇、ストーリーテリング等）を選択し、実技することができる。</li> <li>2. 言語表現と身体表現、音楽表現、造形表現を関係づけて教材を制作し、演じることができる。</li> <li>3. 保育、教育現場を想定し、子どもの経験と様々な表現活動を結びつけて環境構成を行い、遊びや活動を展開することができる。</li> <li>4. 身体表現、音楽表現、造形表現、言語表現を総合的に結びつける劇や人形劇等を協力して集団で仕上げることができる。</li> <li>5. 子どもの視点に立ち、子どもの主体性や要求にもとづいた活動を実施することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	子どもの遊びや活動における表現活動（乳児期）、発表グループ分けと担当決め	課題：乳児の表現、遊びミニレポート、テーマ構想		
第2回	子どもの遊びや活動における表現活動（幼児期）	課題：幼児の表現、遊びミニレポート、テーマ構想		
第3回	子どもの遊びや活動における表現活動（ビデオ：あげは物語）、発表テーマ検討	課題：遊びミニレポート、発表内容構想		
第4回	子どもの遊びや活動における表現活動の実際、発表内容（構成）検討	課題：担当グループによる発表と課題、ミニレポート		
第5回	子どもの発達と児童文化（絵本、人形劇、紙芝居、ストーリーテリング等）（3歳未満）、発表構成検討	課題：担当グループによる発表と課題、ミニレポート		
第6回	子どもの発達と児童文化（絵本、人形劇、紙芝居、ストーリーテリング等）（3歳以上）、発表構成検討	課題：担当グループによる発表と課題、ミニレポート		
第7回	音楽表現（音づくり）、発表構成検討	課題：担当グループによる発表と課題、ミニレポート		
第8回	音楽表現（ウー・ルーチン先生の京胡から）	課題：2015年度ウー・ルーチン先生の特別授業に参加、ミニレポート		
第9回	身体表現（見立てあそび）、発表構成検討	課題：担当グループによる発表と課題、ミニレポート		
第10回	身体表現（運動あそびリズム）、発表構成検討	課題：造形表現の教材製作、発表構成検討		
第11回	造形表現（教材製作）、発表構成検討	課題：担当グループによる発表と課題、ミニレポート		
第12回	総合表現の発表（構成、検討）	課題：担当グループによる発表と課題、ミニレポート		
第13回	総合表現の発表①（仕上げ）	課題：発表準備		
第14回	総合表現の発表②（仕上げ）	課題：発表準備		
第15回	総合表現の発表③（仕上げ）	発表：レポート		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50% ミニレポート（30%）、教材制作・準備（20%）			
小テスト等	0%			
成果発表	30% 総合表現の発表の完成度および態度等			
受講態度他	20% 授業集中度、意見、発表、練習参加、実務態度等			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽演習、体育Ⅰ・体育Ⅱ、図画工作Ⅰ、図画工作Ⅱ、保育内容演習（表現）等で学習した表現技術を基礎とする。</li> <li>・必要に応じてゲストティーチャーによる指導もある。</li> <li>・授業に対して積極的参加はもとより、最後は集団での表現活動の発表になるので、役割分担し協力して取り組むこと。</li> <li>・毎回授業での気づきや考察を「学びの軌跡」にまとめ、自らの学びを確認することとする。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	今井和子 『遊びこそ豊かな学び—乳幼児期に育つ感動する心と、考え・表現する力』 ひとなる書房 2013年			
参考図書	授業で適宜指示			
オフィスワー	月曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	組織行動論		開講時期	後期
担当教員	藤原 隆信		単位	2
授業の目的と概要	一般的に、企業経営にはヒト、モノ、カネ、情報といった経営資源が必要であると言われています。本科目では、このような経営資源の中の「ヒト（人的資源）」に焦点を当て、それを「個人」、「集団」、「組織」といった多様なレベルで学んで行くことにします。受講生の皆さんが、企業に就職して働きたすと必ず出会うであろう「やりがい」や「働きがい」に関する疑問、その背後にある「個人の欲求」や「動機づけ」の問題、さらには企業の業績を左右する「組織学習」や「リーダーシップ」の問題などを正確に理解するための理論を学んでいきます。これらの知識を身に付けることで、「組織で働くこと」の意味や「自分にあった働き方」を自ら考えられるようになることを目指します。			
到達目標	①働く人々の「欲求」や「動機」を、自分自身の行動を例にして説明できる。 ②働く人々の「動機づけ（モチベーションアップ）」の方法を、自分自身の所属する組織を例にして説明できる。 ③組織を存続・発展させるための知識と能力を身につけ、自分の所属する組織で実践することができる。 ④上記①～③を踏まえ、どのように人材を活用すれば組織の業績が向上するのかを自分の言葉で説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に現代社会学部ビジネス社会コースDP2「ビジネス組織の目標を達成していくための、効果的なマネジメントのあり方を説明することができる。」の達成に関わる科目です。「ホスピタリティと経営戦略」や「経営管理論」、「リスクマネジメント」をあわせて受講することで、基幹科目から発展科目へと学びの幅を広げ、ビジネス社会の多様性を理解できるようになります。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 企業における個人の動機づけ（1）	——組織に存在する三つの欲求	あなたが働く際に重視するもの（働く理由）は何かを考えてきて下さい。		
第2回 企業における個人の動機づけ（2）	——個人の目標設定と組織業績	あなたはどのような「目標」があれば頑張れるのかを考えてきて下さい		
第3回 企業における個人の動機づけ（3）	——VTRで考える組織行動（「目標設定」の重要性）	講義前課題（「やる気の引き出し方」を考える内容）をやってきて下さい。		
第4回 企業における個人の動機づけ（4）	——成果発表&討論（「目標設定」の重要性）	チームメンバーで議論し、発表の準備をしてきて下さい。		
第5回 組織におけるモチベーション管理（1）	——組織内の公平性と個人のモチベーション	あなたは友人と無意識に比較しているものはありますか？考えてきて下さい。		
第6回 組織におけるモチベーション管理（2）	——業績に対する期待と個人のモチベーション	あなたが仕事に対して抱いている期待は何ですか？考えてきて下さい。		
第7回 組織におけるモチベーション管理（3）	——VTRで考える組織行動（モチベーションの源泉は何か？）	講義前課題（「モチベーションの源泉」を考える内容）をやってきて下さい。		
第8回 組織におけるモチベーション管理（4）	——成果発表&討論（モチベーションの源泉は何か？）	チームメンバーで議論し、発表の準備をしてきて下さい。		
第9回 企業の成否を見極める（1）	——組織の学習理論①	成功を続けている組織の特徴（その要因）は何？ 考えてきて下さい。		
第10回 企業の成否を見極める（2）	——組織の学習理論②	失敗を繰り返している組織特徴（その要因）は何？ 考えてきて下さい。		
第11回 企業の存続と発展を考える（1）	——組織のリーダーシップ理論①	あなたの身近にいる「リーダー」の特徴について考えてきて下さい。		
第12回 企業の存続と発展を考える（2）	——組織のリーダーシップ理論②	あなたが素晴らしいと感じる「リーダー」の特徴について考えてきて下さい。		
第13回 企業の存続と発展を考える（3）	——成果発表&討論（求められるリーダーとは？）	チームメンバーで議論し、発表の準備をしてきて下さい。		
第14回 企業の存続と発展を考える（4）	——VTRで考える組織行動（求められるリーダーとは？）	講義前課題（「リーダーに必要な要素」を考える内容）をやってきて下さい。		
第15回 授業のまとめ	——組織行動論での学びと現代社会	全ての授業をふり振り返り、印象に残っている概念や理論を復習してきて下さい。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	期末レポート（40%）、講義前課題レポート（10%）、講義内課題レポート（10%）			
小テスト等	なし。			
成果発表	30% 授業の進行に合わせて適宜、チームでの発表をしてもらいます。その内容で判断します。			
受講態度他	10% 授業への出席状況や受講態度などを勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	本科目では、授業の中で課題レポートの作成やチーム討議、チーム発表に取り組んでもらう予定にしています。「受け身」の姿勢ではなく、「主体的・積極的」な姿勢で授業に挑んで下さい。			
教科書	担当教員が作成した資料を使用する（授業の際に配布する）。			
指定図書	なし。			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日の昼休み（12：20～13：10） ※事前に予約を取って下さい。	メールアドレス		



授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	三日月 雅子		単位	2
授業の目的と概要	このゼミの重要な課題は、今後のさらなる多文化主義の社会で、必要とされる専門知識を背景にした実践的な英語力を身につけることです。この基本的な認識を基に、受講生がAirline関連の英語を学び、基礎知識を養い、理解力を高めることを目的にします。受講生は各テーマに関する英語文献を学び調べることで、Airline分野の理解を深め、様々な視点で英語をとらえることもできるようになります。さらに、その過程で論理的思考力、問題解決力、特定分野の知識・技能も身につくことができます。このゼミでは受講者の発表が中心となります。調べた内容を全員の前で効果的に発表できるよう技術的な側面も指導していきたいと思ひます。Airline関連の英語そのものもつ規則性や特徴も同時に考察していきます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Airline分野の英語に関するテーマを一つ選び、英文を正確に読み理解する。</li> <li>2. 調べたことを、的確かつ正確な言葉で口頭発表をする。</li> <li>3. 講義で学んだAirline分野の知識に関して知識を深める。</li> <li>4. 講義中の質疑応答やディスカッションなどでコミュニケーションスキルを向上する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーションと発表テーマ決め		発表資料の作成準備方法		
第2回 模擬発表		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第3回 発表第1回		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第4回 発表第1回		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第5回 発表第2回		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第6回 発表第2回		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第7回 発表第3回		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第8回 発表第3回		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第9回 発表第4回		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第10回 発表第4回		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第11回 発表第5回		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第12回 発表第5回		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第13回 発表第6回		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第14回 発表第6回		発表担当者は発表資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第15回 学習内容の質疑応答		学習内容の全体的復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 毎回の授業における課題。			
小テスト等	なし			
成果発表	60% 口頭発表。			
受講態度他	20% 積極的な参加(発表・質問等)。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学習態度(授業参加度・プレゼン発表)や課題を重視する。発表は十分な時間をかけ準備をして臨むこと。			
教科書	プリントを配布する。			
指定図書	特になし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日：昼休みと3限目以降 水曜日：昼休み	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	D. J. Wood		単位	2
授業の目的と概要	Students will: develop their command of verbal linguistic patterns analyze common conceptual features like experience processing and assimilation learn how to grasp structure and logical development of spoken interaction; and identify elements common to all communication and the themes which it includes. use their own photos to ask and answer questions for communication			
到達目標	To present the nature of visual and aural communication for close study in relation to the overall meaning of such universal topics as the nature of teaching and learning, students: deepen their ability to comprehend all the levels at which conversations operate to present the same orally. develop the necessary analytical tools and skills to make insightful conclusions; and learn and demonstrate the ability to write their questions, impressions and interpretation			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	Students master real communication in writing and speaking to become able to communicate and function in an all-English environment at work and in society in general			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Seminar orientation and interpersonal communication method introduction		To be announced	
第2回	Exchange of personal information, about recent activities for listening and expression and preparation of photos for communicative interaction		To be announced	
第3回	Exchange of personal information, about recent activities for listening and expression		To be announced	
第4回	Class report writing		To be announced	
第5回	Photo background studies introduction		To be announced	
第6回	Initial photo interpretation		To be announced	
第7回	Analysis of the detailed content of students' photos		To be announced	
第8回	Photo interpretation and interpretation		To be announced	
第9回	Analysis of the detailed content of the photos		To be announced	
第10回	Photo interpretation of individual photos in groups		To be announced	
第11回	Advanced interpretation of students' photos		To be announced	
第12回	Analysis of the overall content to identify its themes and expressive forms		To be announced	
第13回	Review of the photo's content and meaning		To be announced	
第14回	Report orientation		To be announced	
第15回	First draft of photoreport		To be announced	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	50%			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	50% Class participation and contribution			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	Materials will be distributed			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays.	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	小林 久泰		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、卒業論文を書くことを前提として、テーマの設定、先行研究の調査、資料や参考文献の探索と整理の方法を身につけることを目的とする。 論文を書くとはどういうことかということについて、最初の数回はガイダンスとして講義をする。その後、各自のテーマに沿って文献の探索、資料調査などを実際に行い、その結果をまとめる作業を進めていくこととなる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の関心を論文のテーマとして設定できる。</li> <li>2. テーマに関する先行研究を調査し、その内容をまとめることができる。</li> <li>3. 論文を書くために必要な資料、参考文献を自分で探すことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	イントロダクション：学術論文とは	資料収集、発表準備		
第 2回	テーマの設定	資料収集、発表準備		
第 3回	テーマに関する情報収集	資料収集、発表準備		
第 4回	アウトラインの作成	資料収集、発表準備		
第 5回	口頭発表とディスカッション：テーマ発表	資料収集、発表準備		
第 6回	論文の書式	資料収集、原稿執筆、発表準備		
第 7回	論述の方法：文章作法	資料収集、原稿執筆、発表準備		
第 8回	口頭発表とディスカッション：中間構想（1）	資料収集、原稿執筆、発表準備		
第 9回	口頭発表とディスカッション：中間構想（2）	資料収集、原稿執筆、発表準備		
第10回	参考文献リストの作り方	資料収集、原稿執筆、発表準備		
第11回	注・引用の形式	資料収集、原稿執筆、発表準備		
第12回	先行研究の評価	資料収集、原稿執筆、発表準備		
第13回	口頭発表とディスカッション：本論 1（1）	資料収集、原稿執筆、発表準備		
第14回	口頭発表とディスカッション：本論 1（2）	資料収集、原稿執筆、発表準備		
第15回	アウトラインの見直し	資料収集、原稿執筆、発表準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% テーマに沿って調査した結果の報告内容を評価する。			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 研究発表の内容を評価する。			
受講態度他	30% 授業への参加意欲、受講態度を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	意欲を持って積極的に取り組む姿勢のない者は指導できない。 週に1度は状況を報告すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜指示する。			
オフィスワー	月曜 2 講時	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	石井 康仁		単 位	2
授業の目的と概要	このゼミでは、現代生活の中でメディアがいかに大きな位置を占めているか、いかに我々の物の見方を形作っているか、またメディア自体は何に影響されているのか、などのことをテキストを読みながら考える。また、随時英語ニュースを見てリスニングをしたり、英文雑誌の興味深い記事を読んだりして、より世界情勢の理解を深める。全体としては、4年間のまとめとして、口頭発表やレポート作成を通して、社会に出て役立つように、各自のコミュニケーション・スキルおよび論理的思考力に磨きをかけることを目指す。 授業では、毎時間テキストを読み進めていながら、メディアの仕組み、現代社会におけるメディアの位置、などの問題を考え、深めていく。また、随時ABC、BBCなどのニュースを聴いて、リスニングの練習をする。全体として、現代社会とメディアの両方の理解を深めていく。			
到達目標	1. メディアとはいかなるものか、理解できる。 2. メディアがいかに運営されているのかを理解できる。 3. 雑誌TIMEの記事や BBC放送、ABC放送のニュースをある程度深く理解できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	卒業ゼミナールは、4年間の大学での学びの仕上げとなるもので、さまざまな科目が関わっている。特に、学科のDP（ディプロマポリシー）4. 英語を活かすための職業上の知識や技能の基礎を身につけることに関わるMedia English A, Bや、DP3. 英語を媒介とする言語・文化・文学について概要を説明できることを目指す科目の現代ポップカルチャー、映画学概論、Visual Literature、Intercultural Communication、Film Communication等に関わりがあり、これらの科目で学んだことを更に深めることになる。要は、現代社会に浸透しているメディアとはいかなるものか、その力、影響、背景等を理解し、現代社会への理解を深めることである。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	Fish in Water—Learning to see the media	予習：Chap. 1		
第2回	Whose Media?—Media around the world	予習：Chap. 2		
第3回	The Parallel Universe—Losing our minds to illusion	予習：Chap. 3		
第4回	Visual Stories—Bringing the screen to life	予習：Chap. 4		
第5回	Chap. 1-4の復習、ABC、BBCのニュースを聴く	4章までの復習		
第6回	The Bottom Line—The business of entertainment	予習：Chap. 5		
第7回	Tricks of the Advertising Trade—Getting what you see	予習：Chap. 6		
第8回	Gathering News—Standards of truth	予習：Chap. 7		
第9回	News and the News Makers—Influencing the news	予習：Chap. 8		
第10回	Chap. 5-8の復習、ABC、BBCのニュースを聴く	8章までの復習		
第11回	Their Media—Japan from the outside	予習：Chap. 9		
第12回	Gender in the Media—The lesser half	予習：Chap. 10		
第13回	Chap. 9-10の復習、ABC、BBCのニュースを聴く	10章までの復習		
第14回	ABC、BBCのニュースを聴く	リスニング練習		
第15回	まとめ	全体の復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	60% 学期末のレポートの評価による			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	40% 授業中の発表、出欠・遅刻の評価はここで行う			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	テキストは英語で書かれているので、予習を怠らずに参加することが大事。一般的規定により、出席は講義回数3分の2以上が必須			
教科書	J. Schaules, Fish in Water. (Macmillan Language House)			
指定図書	石坂春秋『レポート・論文・プレゼンスキルズ』くろしお出版 苔米地英人『現代版 魔女の鉄槌』フォレスト出版			
参考図書	随時紹介			
オフィスアワー	火曜日 5 限目、水曜日 4 限目	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	C. B. Painter		単 位	2
授業の目的と概要	文化とコミュニケーション 第一部 (ゼミナールでは英語を使用します。) コミュニケーションの概念と学説はほとんどが欧米と欧米文化からのものです。それゆえにコミュニケーションとは「独自の・他者に依存しない形」がモデルとなり広がっています。その反面、「相互依存」のモデルは一般的に無視される傾向にあります。受講生は、これら二つの視点を比較し、よりバランスのとれた視野を得ることができます。そして、自己と向きあうことと社会的責任を得ることができる。本ゼミナールでは、以下(授業計画)の様ないくつかの学説をもとにディスカッションを展開してゆきます。これらの理論や見解を考察・比較し、ディスカッションを進めることで、受講生の文化理解を深め、コミュニケーションへの洞察力を高めます。そしてより充実した異文化経験を増やすことに役立ちます。この講義に参加し協力しあうことで、英会話とディスカッション能力が向上する。			
到達目標	受講生は、どのように文化がコミュニケーション行動に影響し、どのように文化が研究者により次のように二つに分類されるかを説明することができる： (a)「集団主義」において、個人は「相互依存」つまり、自分自身を他と接続・関連した存在であるととらえています(通常欧米では見受けられない)。一方 (b)「個人主義」において、個人は「自己依存」と「他から独立した存在」であり、自分自身をそれぞれが個別で独自性のある存在であるととらえています(通常欧米で見られる)。 内容の理解が自己の自覚を促進させ、それによって社会的責任を増幅させる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	1. コミュニケーションへの不安は障害なのか、それとも丁寧さの元なのか	第1 課題		
第 2回	1. コミュニケーションへの不安は障害なのか、それとも丁寧さの元なのか	第1 課題		
第 3回	2. 口頭でコミュニケーションを行う動機、それは常に健全なのか	第2 課題		
第 4回	2. 口頭でコミュニケーションを行う動機、それは常に健全なのか	第2 課題		
第 5回	3. 論争解決方法についてとその場合の回避の使用は妥当か	第3 課題		
第 6回	3. 論争解決方法についてとその場合の回避の使用は妥当か	第3 課題		
第 7回	3. 論争解決方法についてとその場合の回避の使用は妥当か	第3 課題		
第 8回	4. 認知的調和理論: 認知されうる言動の調和は文化的性質を帯びているのか	第4 課題		
第 9回	4. 認知的調和理論: 認知されうる言動の調和は文化的性質を帯びているのか	第4 課題		
第10回	5. 態度や振る舞いの調和は個人主義社会の文化的理想像なのか	第5 課題		
第11回	5. 態度や振る舞いの調和は個人主義社会の文化的理想像なのか	第5 課題		
第12回	6. 社会風潮への従属性は服従かそれとも如才無いか	第6 課題		
第13回	6. 社会風潮への従属性は服従かそれとも如才無いか	第6 課題		
第14回	6. 社会風潮への従属性は服従かそれとも如才無いか	第6 課題		
第15回	復習	復習ポイント		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	33.3% 定期試験			
レポート	33.3% 6つの課題 (5.55% x 6 = 33.3%)			
小テスト等	なし			
成果発表	33.3% 6つの課題の口頭発表と質疑応答 (5.55% x 6 = 33.3%)			
受講態度他	評価には含まないが、出席については履修規程第10条(2)に従う(5度を超えると無資格)。注:遅く二度=欠席一度。他の仕事をすする、携帯電話を使う、しゃべるのは成績評価を一つのレベルによって減少する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業を受けた後は、必ずテキストを再読し、復習すること。			
教科書	必要に応じてテキストとレジユメを配布します。必要に応じてテキストを使用し、ビデオ鑑賞を交えます。			
指定図書	なし			
参考図書	英和辞書、和英辞書、英英辞書(The Oxford Advanced Learners' Dictionary of English等)。			
オフィスアワー	金曜日 14:50-15:50	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	T. R. Honkomp		単位	2
授業の目的と概要	<p>The Cultural Contrasts seminar will focus primarily on the differences between American and Japanese cultures. Current media use cultural stereotypes of both Japanese and Western cultures to influence and send messages to their audiences. How do these messages reflect the work ethic, values, reputations, and national images that are prevalent in aspects of both societies? How have the images changed over the years and what direction will they go in the future?</p> <p>In addition to the cultural themes explored, an effort will be made in the seminar to increase fluency and student output in English. Videotape assignments will be used as a tool for production, correction and feedback analysis. Improved speaking abilities are expected to enhance participation in this seminar.</p>			
到達目標	<p>The seminar will consider situations presented by TV programs, movies &amp; video, popular music and other forms of mass communication in both American and Japanese societies. The resulting contrasts will be analyzed and discussed. The seminar will look at the situations of people who have lived in both countries and analyze some of the cultural encounters they have experienced.</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Seminar Introduction - Goals & Expectations Introduction to Stereotypes		講義の際に指示します		
第2回 American & Japanese Cultural Norms and Stereotypes		Handouts		
第3回 American & Japanese Cultural Norms and Stereotypes Continued Introduction to video clips		講義の際に指示します		
第4回 Presentation of Stereotypes in Media - American & Japanese		Assignment #1		
第5回 Student Presentations of Stereotypes begin		Paper #1 due		
第6回 Selected Scenes from Media - Analysis & Discussion Student Presentations of Stereotypes Continued		講義の際に指示します		
第7回 Selected Scenes from Media - Analysis & Discussion Finish Student Presentations of Stereotypes		講義の際に指示します		
第8回 Begin in-class Video #1		Handout		
第9回 In-class Video #1 Continued		講義の際に指示します		
第10回 Finish In-class Video #1 Begin Essay Analysis Assignment		Assignment #2		
第11回 Student Presentations of Essay Analysis		Paper #2 due		
第12回 Student Presentations of Essay Analysis Continued Begin In-class Video #2		講義の際に指示します		
第13回 Finish Student Presentations of Essay Analysis Continue In-class Video #2		Assignment Review		
第14回 Finish In-class Video #2 Comments and Discussion		講義の際に指示します		
第15回 Semester Consolidation and Exam Review		Exam review sheet		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40% Final Exam			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	35% Class participation and presentations ( Papers ) 25% Written assignments			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Evaluation in the Seminar is based on class participation, completion of assignments, attendance and exams. Students are encouraged to make a positive effort and have open communication.			
教科書	—			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	宮原 牧子		単位	2
授業の目的と概要	<p>ヴィクトリア朝時代のイギリスのパラッド詩を精読、鑑賞、翻訳します。翻訳とは、単なる訳ではありません。詩人の他の作品や伝記、時代背景など、さまざまな知識が必要です。真に作品を理解した上で、詩を翻訳しましょう。翻訳は、とても時間のかかる作業です。根気よく頑張ってください。</p> <p>なお、完成した翻訳作品は、『英国パラッド詩アーカイブ』 (<a href="http://literaryballadarchive.com/">http://literaryballadarchive.com/</a>) に掲載されます。担当作品は、責任をもって仕上げてください。</p> <p>①詩人と作品を選定します。(担当者・担当作品については第2回にリストを作成します)  ②時代背景や伝記について調べます。また、詩人の他の作品も読みます。  ③作品を精読します。 ④試訳を全員で検討します。 ⑤翻訳作品を完成させます。</p>			
到達目標	1. 英詩を正確に読み、理解できるようになること 2. 文学用語、詩人、作品、時代背景に関する知識を深めること 3. 作品にふさわしい日本語で詩を訳すこと			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション 「翻訳とは何か」	第2回の準備 (作品の選定)		
第2回	ヴィクトリア朝時代について (1) 論文の紹介	担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読		
第3回	ヴィクトリア朝時代について (2) 論文の紹介	担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読		
第4回	ヴィクトリア朝時代について (3) 研究書の紹介	担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読		
第5回	ヴィクトリア朝時代について (4) 研究書の紹介	担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読		
第6回	ヴィクトリア朝時代について (5) 研究書の紹介	担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読		
第7回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション (1)	担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読		
第8回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション (2)	担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読		
第9回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション (3)	担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読		
第10回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション (4)	担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読		
第11回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション (5)	担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読		
第12回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション (6)	担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読		
第13回	詩の精読と翻訳、およびディスカッション (7)	担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読		
第14回	翻訳作品の校正 (1)	担当者はレジュメを作成・担当者以外も作品を精読		
第15回	翻訳作品の校正 (2)	翻訳作品を完成させる		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	70% 翻訳作品の完成度により評価します。			
受講態度他	30% 講義への参加度・受講態度などで評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして講義にのぞんでください。 やむを得ず発表の担当の回に欠席する場合は、当日の朝8時までに連絡すること。 欠席が全講義回数の3分の1を超えた場合は、受講資格を認めません。			
教科書	プリント			
指定図書	—			
参考図書	必要に応じて講義中にご紹介します。			
オフィスアワー	火曜日 4限目	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	中村 テーマ		単位	2
授業の目的と概要	Students will be able to understand how language is affected by social factors in everyday life. They will be able to recognize, identify, and generate speech elements in communication in varied social settings such as cross-cultural settings, non-verbal communication and gender communication. Students practice with initial discourse completion exercises based on a specific speech act, followed by readings and analysis for comprehension. Practice in creating their own discourse is offered through the choice of a variety of situations based on the specific speech act set.			
到達目標	Students will paraphrase readings on each communicative mode, complete speech acts in open-ended discourse format, and generate their own discourse on suggested speech act situations. They will present the speech act discourse supported by analysis from the readings.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Communication and Communicative Competence		Unit 1	
第2回	Speech acts: student-generated		予習	
第3回	Presentations		予習	
第4回	Communication Strategies		Unit 2	
第5回	Speech acts: student-generated		予習	
第6回	Presentations		予習	
第7回	Linguistic Pragmatics and Pragmatic Competence		Unit 3	
第8回	Speech acts: student-generated		予習	
第9回	Presentations		予習	
第10回	Compliments		Unit 4	
第11回	Speech acts: student-generated		予習	
第12回	Presentations		予習	
第13回	Gratitude		Unit 5	
第14回	Speech acts: student-generated		予習	
第15回	Presentations		予習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	None			
レポート	None			
小テスト等	-			
成果発表	100% (5 presentations at 20% each)			
受講態度他	None			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Attendance and active participation in the class is required.			
教科書	Gordenker 『Working in Japan』 Cengage Learning			
指定図書	None			
参考図書	Appropriate library references to be announced in class			
オフィスアワー	月曜日の昼休み	メールアドレス		



授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	大城 房美		単位	2
授業の目的と概要	<p>研究課題：ポップカルチャーとアイデンティティ</p> <p>英語は、国際共通語として、グローバルに文化をつないでいる。マンガ、アニメ、映画、小説、音楽、ゲーム、など、私たちが身近に触れている様々なコンテンツは、どのように消費されながら、私たちが想像／創造へとつなぐのか。ゼミでは、英語による表現でグローバルな視座から描かれた作品を扱いながら、多様な文化のあり方と私たちのアイデンティティのつながりを考察する。講義は、各ゼミ生が興味のあるポップカルチャーについて自由に紹介する <b>small presentation</b> と、各講義で考察する作品や論文のレジュメ作成担当者による問題提起からの議論の2部構成で進行する。また社会的実践例を学ぶため、公的施設の視察も行う。各回のテーマを自身の視点から考えると同時に、自分の意見をどう伝えればよりよく伝わるか、他のゼミ生たちはどう考えるのか、など、常に問題提起しながら、それぞれのテーマを共有する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「ジェンダー」論についての基本的な知識を習得し、分析・問題提起ができるようになる。</li> <li>グローバルな視点から、文化受容について考察しその重要性を理解する。（ゼミでは、積極的に英語テキストを取り上げ、比較文化的視点から分析すること）</li> <li>「主体性表現」として文化表現を考察し、ジェンダーをはじめとしたアイデンティティと、現代社会に関する問題を自分の視点から考え、それに対する意見を述べるができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>関連科目： 各学生が受講した担当教員の科目（英語文学、現代ポップカルチャー、アメリカ文学史、英語圏女性作家研究）</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Introduction		講義の際に指示します。		
第2回 北九州市漫画ミュージアム 訪問・視察（ミュージアムの予定により変更可能性有り）		リスポンス投稿。		
第3回 Film Showing: Snow White (Disney)		リスポンス投稿。		
第4回 「白雪姫」『お姫様とジェンダー』 ジェンダー論の基礎		予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第5回 Nightmare and Fairy Tale より "Cinderella"		予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第6回 『女性マンガ研究』第1章		予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第7回 Skim Chapter 1 Chapter 2		予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第8回 Skim Chapter 3 Chapter 4		予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第9回 Skim Chapter 5 Chapter 6		予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第10回 『女性マンガ研究』より		予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第11回 Dolltopia に 表現されるアイデンティティ "Self-Esteem" Ch1		予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第12回 Dolltopia に 表現されるアイデンティティ "Self-Esteem" Ch2		予習。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第13回 Dolltopia に 表現されるアイデンティティ "Self-Esteem" Ch3		リスポンス投稿。		
第14回 Dolltopia に 表現されるアイデンティティ "Self-Esteem" Ch4		論文を読む。担当者はハンドアウト作成。リスポンス投稿。		
第15回 まとめ グローバルに広がる女性とComics/MANGA 文化		講義の際に指示します。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 4000字以上。参考文献5点以上。引用処理を的確に行っていないものは不可。			
小テスト等	なし			
成果発表	レポートに含む			
受講態度他	20% 講義での活動(出席状況・発表・宿題など)を含む。 リスポンス20% 各講義について、質問やコメントなどを筑女ネットのフォーラムに投稿する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*発表のレジュメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価しない。</p> <p>Presentationの準備 &lt;レジュメの作成&gt;</p> <p>Small presentationsの準備 (10分程度の発表)</p> <p>・「ジェンダー」 ・「少女・女性MANGA」 (英語圏で出版されている作品報告)</p> <p>*補講（時間割外講義）や学外講義の連絡に注意すること</p>			
教科書	<p>・『女性マンガ研究—欧米・アジア・日本を繋ぐMANGA』（青弓社）・『新版大学生のためのレポート・論文術』（講談社） ・ Skim (Groundwood Books ・ Girl (Skim邦訳) ・ DOLLTOPIA</p>			
指定図書	Kawaii!: Japan's Culture of Cute, Cartoon Cultures: The Globalization of Japanese Popular Media, 『メディア文化を社会学する』			
参考図書	『女性学事典』『文学批評用語辞典』『マンガは越境する!』Graphic Women, Media, Gender and Identity (Routledge 2008)、The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture、英語版MANGA、マンガ関係の図書は請求番号726.1で検索			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	緒方 隆文		単位	2
授業の目的と概要	<p>目標1：卒業ゼミナールを通して、言語・文化に関する専門知識を身につけ、深い人間理解ができるようになる。目標2：英語理論を学び、言葉としての英語に関心を持つとともに、自ら探求する方法を身につける。目標3：英語圏文化を、学んだり調べたりすることで、英語に対する理解を深め、様々な視点で英語をとらえることができるようになる。その過程で、論理的思考力、問題解決力、特定分野の知識・技能を身につける。</p> <p>授業は基本、二部構成で進める。前半は受講者の発表を行う。自ら調べ、効果的に発表できるよう技術的な側面も指導していきたい。後半はプリントを用いて、言語理論(認知言語学)や英語学全般の内容を取り上げ学習していく。英語そのものがもつ規理性・特徴を、言語理論に偏ることなく、幅広く見ていきたい。そうすることで、英語に対する理解を深め、英語そのものをことばとして楽しむことを期待している。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語に関するテーマを一つ選び、期末レポートを書くことができる。</li> <li>2. 調べたことを、口頭発表(2回)することができる。</li> <li>3. 講義で学んだ特定分野の知識・技能に関して、自らの言葉で説明することができる。</li> <li>4. 口頭発表など講義中に、質疑応答やディスカッションなど積極的に参加することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション, テーマ仮決め/情報検索と収集	情報検索と収集の復習、発表/レポート作成準備		
第2回	マインドマップの作り方, ハンドアウトの作り方	マインドマップの作り方の復習, 発表/レポート作成準備		
第3回	プレゼンテーションについて, 期末レポートの書き方	レポートの書き方の復習, 発表/レポート作成準備		
第4回	発表A(第1回); 認知言語学/英語学全般(オリエンテーション)	認知言語学の復習, 発表/レポート作成準備		
第5回	発表A(第2回); 認知言語学/英語学全般(Overの意味拡張<1>: 多義性について)	Overの意味拡張(1)の復習, 発表/レポート作成準備		
第6回	発表A(第3回); 認知言語学/英語学全般(Overの意味拡張<2>: 事例研究)	Overの意味拡張(2)の復習, 発表/レポート作成準備		
第7回	発表A(第4回); 認知言語学/英語学全般(メタファー<1>: 理論的背景)	メタファー(1)の復習, 発表/レポート作成準備		
第8回	発表A(第5回); 認知言語学/英語学全般(メタファー<2>: 方向付けのメタファー)	メタファー(2)の復習, 発表/レポート作成準備		
第9回	発表B(第1回); 認知言語学/英語学全般(メタファー<3>: 容器のメタファー)	メタファー(3)の復習, 発表/レポート作成準備		
第10回	発表B(第2回); 認知言語学/英語学全般(訳にあたって<1>: 翻訳原理)	訳にあたって(1)の復習, 発表/レポート作成準備		
第11回	発表B(第3回); 認知言語学/英語学全般(訳にあたって<2>: 日英の視点の違い)	訳にあたって(2)の復習, 発表/レポート作成準備		
第12回	発表B(第4回); 認知言語学/英語学全般(訳にあたって<3>: 事例研究)	訳にあたって(3)の復習, 発表/レポート作成準備		
第13回	発表B(第5回); 認知言語学/英語学全般(ポライトネスストラテジー<1>: 理論)	ポライトネスストラテジー(1)の復習, 発表/レポート作成準備		
第14回	発表B(第6回); 認知言語学/英語学全般(ポライトネスストラテジー<2>: 応用研究)	ポライトネスストラテジー(2)の復習, 発表/レポート作成準備		
第15回	総括: レポート最終指導, 学習内容の全体的復習	レポート仕上げ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 期末レポートの他に、毎回の授業において課題が課せられる。			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 口頭発表が2回ある。			
受講態度他	20% 積極的な参加(発表・質問等)を考慮する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学習態度(授業参加度・プレゼン発表)や課題/レポートを重視する。 発表やレポートはしっかりと時間をかけ準備をし、自分でも十分に満足のものにすること。 細かい授業のルールについては、第1回の授業で配布する。			
教科書	プリントを配布する。			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中、必要に応じて紹介する。			
オフィスワー	月曜日と火曜日と水曜日の昼休み(予約が望ましい)	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	松崎 徹		単 位	2
授業の目的と概要	本ゼミナールでは、講師が幅広く集めた、英語に見られる興味深い言語現象を受講生と一緒に分析しながら、英語の持つ不思議な魅力を体感していきます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語には興味深い言語現象が数多く存在していることを理解できる。</li> <li>2. そうした言語現象の多くにはきちんとした由来が存在していることが理解できる。</li> <li>3. 上で学んだ言語現象の由来を類似した他の言語現象の説明にも応用できるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	導入問題の解答と解説	導入問題の復習		
第2回	英語の発音と綴りの不思議 (1)	プリント予習および復習		
第3回	英語の発音と綴りの不思議 (2)	プリント予習および復習		
第4回	英語の発音と綴りの不思議 (3)	プリント予習および復習		
第5回	アルファベットの不思議 (1)	プリント予習および復習		
第6回	アルファベットの不思議 (2)	プリント予習および復習		
第7回	アルファベットの不思議 (3)	プリント予習および復習		
第8回	英語の数の不思議 (1)	プリント予習および復習		
第9回	英語の数の不思議 (2)	プリント予習および復習		
第10回	英語の数の不思議 (3)	プリント予習および復習		
第11回	英語の性別の不思議 (1)	プリント予習および復習		
第12回	英語の性別の不思議 (2)	プリント予習および復習		
第13回	英語の性別の不思議 (3)	プリント予習および復習		
第14回	グループ発表 (1)	発表準備		
第15回	グループ発表 (2)	発表準備		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	30% 小テスト			
成果発表	50% グループ発表			
受講態度他	20% 授業への積極的な参加を考慮します			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ配布された予習プリントは次回の授業時までにはかならず予習をしておいてください。</li> <li>・授業は講義形式が主とはなりますが、本ゼミの受講生には授業がより活気あるものとなるよう、各自の積極的な参加と活発な意見の交換を期待します。</li> <li>・理解度の確認という目的で各単元の終了ごとに小テストを実施しますので、テストに備えて日ごろから講義内容の復習を心がけてください。</li> </ul>			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	適宜指示します。			
オフィスワー	水：3講目、金：4講目	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	一ノ瀬 元史		単位	2
授業の目的と概要	ネットワーク社会においては、ICTが暮らしを支え、コミュニケーションのあり方を変化させ、またビジネスのあり方も変化させています。そこには、たくさんの情報システムの働きがあります。それを支えているのはいうまでもなくコンピュータです。ここではコンピュータの働きを知り、コンピュータを動かすプログラムを作成し、情報システムの仕組みを概観できるようになることです。			
到達目標	a) コンピュータの仕組みが理解できる。 b) コンピュータプログラムを理解できる。 c) 簡単なプログラムが作成できる。 d) 情報システムの仕組みを概観できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	社会の多様な問題に取り組む実践力を身につけ、現代社会を生きる自己実現をしましょう。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業の概要 ガイダンス	はじめに、データの扱い	C言語のデータの扱いを復習、演算子について予習		
第2回 基本的な演算子、型変換		演算子、型変換を復習、入出力関数について予習		
第3回 標準入出力関数（1）、制御構造		復習 制御構造 予習 ライブラリ関数		
第4回 標準ライブラリ関数		復習 ライブラリ関数 予習 入出力関数		
第5回 標準入出力関数（2）		復習 入出力関数 予習 2次元配列		
第6回 2次元配列		復習 2次元配列 予習 インフラについて		
第7回 情報システムのインフラについて（NTTの見学実習）		予習 ポインタ、関数		
第8回 ポインタ、関数		復習 ポインタ、関数 予習 記憶クラス、データ型		
第9回 記憶クラス、データ型の修飾		復習 記憶クラス、データ型の修飾 予習 複雑な演算子、構造体		
第10回 複雑な演算子、構造体		復習 演算子、構造体 予習 ファイル入出力		
第11回 その他の型、ファイル入出力		プログラム作成		
第12回 プログラム作成		プログラム作成		
第13回 プログラム作成		プログラム作成		
第14回 プログラム作成		プログラム作成		
第15回 プログラム作成		プログラム作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	プログラム作成40%			
小テスト等	なし			
成果発表	成果発表 質疑応答 30%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑紫女学園大学の電子メールアドレス宛に送信された電子メールを少なくとも毎日1回は閲覧すること。			
教科書	速習C言語入門[第2版] 菅原朋子著、株式会社マイナビ出版			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後もしくは電子メールで確認すること	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	一木 順		単位	2
授業の目的と概要	ポピュラー文化を通して現代社会の諸相について考えるということを主な目的とする。それによって、さまざまな政治的、経済的、社会的関係の中にとりこまれた自分自身が、社会とどのような関係を結んでいるのかを理解する。			
到達目標	a) 自分が普段親しんでいるポピュラーメディア（映画、まんが、音楽、テレビなど）の中から自分で問題を発見することができる。 b) その問題について、先行研究、参考文献の検索、フィールドワーク、インタビュー、アンケートの実施などの調査を行うことができる。 c) 調査結果を文章にまとめて、その問題について自分の言葉で語ることができる。 d) 問題提起・研究経過・分析解釈を短時間で要約し、口頭発表し、質疑応答に答えて対話することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 授業の概要の説明			なし	
第2回 研究テーマの発表および質疑応答			それぞれの研究題材について、一人約10分の発表準備	
第3回 研究テーマの発表および質疑応答			それぞれの研究題材について、一人約10分の発表準備	
第4回 映画を「読む」行為について			America on Film (配布資料) を読んでくこと	
第5回 映画を「読む」行為について			America on Film (配布資料) を読んでくこと	
第6回 「地球最後の男」から①-映画内の検討			『地球最後の男』映画鑑賞レポートを各自完成させること	
第7回 「地球最後の男」から②-映画内の検討			『地球最後の男』キーワードリストの完成	
第8回 文献収集の実際			文献収集リストの作成	
第9回 「地球最後の男」から③-映画外の検討			50年代のアメリカの家族について調べる	
第10回 3つの「地球最後の男」から④-映画外の検討			映画外の要素についてのキーワードリストの完成	
第11回 グループ研究—それぞれの「地球最後の男」			映画鑑賞レポートおよびキーワードリストを完成させること	
第12回 グループ研究—それぞれの「地球最後の男」②			キーワードマップを完成させること	
第13回 グループ研究—それぞれの「地球最後の男」③			映画の時代背景、社会背景について調べる	
第14回 グループ研究—それぞれの「地球最後の男」③			キーワードマップの完成	
第15回 まとめ			なし	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% 授業内の小レポート20%、自分の発表についてのテーマ、アウトライン、文献一覧20%			
小テスト等	—			
成果発表	40% グループ発表20% 個人発表20%			
受講態度他	20% 授業内での取り組みを勘案する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席は必須である。授業に際しては、自分の担当部分、発表に関して責任を持って行うこと。やむを得ず自分の発表回に欠席せざるを得ないときは、自分の責任で他の人と発表を代ってもらうこと。			
教科書	適宜プリントを配布する			
指定図書	『America on Film』、 『映画分析入門』（ライアン）			
参考図書	授業内で指示する			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	荒巻 龍也		単位	2
授業の目的と概要	1. 映像メディアならびにメディア産業（放送メディア含む）について理解を深める。 2. 映像メディアコンテンツについて理解を深め、分析をする。 3. 企画から、撮影、編集、完成までの映像コンテンツの作成方法を身につける。 映像メディアならびに映像メディアコンテンツに関する調査・研究（映像分析含む）と映像コンテンツの制作（方法）を中心に行っていきます。また映像コンテンツを利用するメディア産業（放送メディア含む）に関する調査・研究も併せて行っていきます。			
到達目標	1. 映像メディアコンテンツの現状について説明ができるようになる。 2. 企画から完成まで映像コンテンツを作成することができるようになる。 3. 映像メディアやメディア産業などについて調査・研究を行い、ポイントを整理できるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連する科目：基礎ゼミナール、研究ゼミナール、卒業論文・制作、メディア論、テレビ論、メディア文化論、メディア研究 など			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業概要、(デジタル)メディアとは何か、(デジタル)メディアの現状	資料の復習		
第2回	映像制作の流れ、映像制作の企画(書)	映像制作企画書の作成		
第3回	映像制作の絵コンテ、撮影の基礎(1)	映像制作絵コンテの作成		
第4回	撮影の基礎(2)、撮影実習	映像制作撮影日程の作成、役割分担表の作成		
第5回	ポストプロダクションとは、映像編集の手順	映像制作編集準備		
第6回	映像編集	映像制作編集		
第7回	映像リテラシー(1)テレビCM1 私たちとテレビコマーシャル	映像リテラシー課題1		
第8回	映像リテラシー(1)テレビCM2 CMで学ぶ映像言語	映像リテラシー課題2		
第9回	映像リテラシー(1)テレビCM3 ターゲット・オーディエンス	映像リテラシー課題3		
第10回	映像リテラシー(1)テレビCM4 CMが提示する価値観	映像リテラシー課題4		
第11回	メディアの現状研究と課題、メディアを取り巻く環境について	資料熟読、資料検索		
第12回	映像コンテンツビジネスの現状と課題、映像コンテンツビジネスを取り巻く環境	資料熟読、資料整理		
第13回	CM映像の分析方法と実践、CM映像制作の企画	CM(映像)制作の企画書作成		
第14回	CM映像制作の企画コンテ	CM(映像)制作の企画コンテ作成、ACC学生CMコンクール		
第15回	CM映像制作の絵コンテ	CM(映像)映像制作の絵コンテ作成、CM映像制作のロケハン		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	90% 映像制作課題(10%)、映像リテラシー課題(20%)、映像メディア関連課題(20%)、CM映像制作(企画コンテ、絵コンテ作成)(20%)、テキスト(『映像メディアの作り方』)練習課題(20%)			
小テスト等	0% なし			
成果発表	0% なし			
受講態度他	10% 出席状況・受講態度ならびに授業中やフォーラムでの発言など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業では予習・復習が効果的にできるように、LMS(e-Learningシステム)である「筑女ネット」を利用しますので、少なくとも授業でわからなかったところの確認や授業に出席できなかった場合のフォローアップをしておいてください。授業はネットワークに接続したノートPCを利用しながら行うこともあります。 適宜テキスト『映像メディアの作り方』を参照しながら、その練習課題も行っていきます。 授業ではグループで行う作業も多くなります。			
教科書	なし(プリントならびに「筑女ネット」のオンライン教材)			
指定図書	なし			
参考図書	授業でその都度紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 10:00 - 12:00、金曜日 10:00 - 12:00	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期												
担当教員	J. Stewart		単位	2												
授業の目的と概要	Graduation. The Senior Seminar will serve as a summary of the store of information and skills that students have accumulated during three years of university studies. These include listening, speaking, reading and writing, which are considered aspects of communication.															
到達目標	The seminar will be conducted in English at an advanced level. Only students who are serious about studying English should enroll in this section. Class time will be spent 1) reading a novel; 2) discussing students' research, and 3) preparing individual homepage presentations.															
この授業が目的としているDPや関連する科目など	This course satisfies the requirements for graduation according to the English-Media Department's Curriculum, 2013 年.															
授業計画	授業内容	授業外学修など														
第1回	Course overview, syllabus, explanation of reports, etc.	.														
第2回	The Acorn Kingdom	Pages 1-6														
第3回	The New Ambassador	Pages 7-15														
第4回	Nel's Lullaby	Pages 16-24														
第5回	What the Magpie Saw in the Mirror	Pages 25-35														
第6回	Fancy Titles	Pages 36-45														
第7回	The Swan Dive	Pages 46-55														
第8回	Midnight Skulkers	Pages 56-64														
第9回	The Battle of Ash Lea	Pages 65-72														
第10回	Scullery Skulduggery	Pages 73-82														
第11回	The Battle of Leaves	Pages 83-95														
第12回	The Flight of the Bumble Bears	Pages 96-104														
第13回	A Parliament of Squirrels	Pages 105-113														
第14回	A Picnic at Primwicket	Pages 114-123														
第15回	The Order of the Lark	Pages 124-131														
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など															
定期試験	0 %															
レポート	100 % (出席 - 9) x (レポート) = 成績 See examples below based on a report graded at 75%.															
小テスト等	-															
成果発表	0 %															
受講態度他	0 %															
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<table> <tr> <td>出席 = 16</td> <td>16 - 9 = 7</td> <td>7 x 75% = 525%</td> <td>Final Grade = 100%</td> </tr> <tr> <td>出席 = 10</td> <td>10 - 9 = 1</td> <td>1 x 75% = 75%</td> <td>Final Grade = 75%</td> </tr> <tr> <td>出席 = 9</td> <td>9 - 9 = 0</td> <td>0 x 75% = 0%</td> <td>Final Grade = 0%</td> </tr> </table> (Excuses for job interviews will be entertained but will not affect this already-generous grading system.)				出席 = 16	16 - 9 = 7	7 x 75% = 525%	Final Grade = 100%	出席 = 10	10 - 9 = 1	1 x 75% = 75%	Final Grade = 75%	出席 = 9	9 - 9 = 0	0 x 75% = 0%	Final Grade = 0%
出席 = 16	16 - 9 = 7	7 x 75% = 525%	Final Grade = 100%													
出席 = 10	10 - 9 = 1	1 x 75% = 75%	Final Grade = 75%													
出席 = 9	9 - 9 = 0	0 x 75% = 0%	Final Grade = 0%													
教科書	The War of Mirrors, by E.J. Stewart ISBN 978-0-978-6-870-5															
指定図書	URL: <a href="http://www.warofmirrors.com">http://www.warofmirrors.com</a>															
参考図書	HS SiteBuilder (a one-time fee of \200 will be charged each student for site maintenance).															
オフィスアワー	Monday Period 1; Wednesday Period 3	メールアドレス														

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	吉野 嘉高		単位	2
授業の目的と概要	取材を前提としたオリジナル映像コンテンツを制作する過程で、地域社会に生きる人やその営みに向き合いながら、多様な問題を考えアプローチする能力を身につける。具体的には、コミュニケーション・スキル、情報編集力、プレゼンテーション能力、問題解決力などを向上させる。			
到達目標	取材に基づく映像コンテンツを創造することができる。 相手とコミュニケーションを取りながら、取材上の諸問題を解決することができる。 プレゼンテーションの工夫をすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		様々なメディアを使ってリサーチをする。		
第2回 企画立案とは		予習・課題		
第3回 企画についてプレゼンテーション		プレゼンの反省点をまとめる。		
第4回 企画についてディスカッション		予習・課題		
第5回 取材とは		取材のポイントをまとめる。		
第6回 撮影とは		予習・課題		
第7回 取材・撮影（1）基礎		撮影の基礎についてまとめる。		
第8回 取材・撮影（2）応用		撮影のテクニックについてまとめる。		
第9回 編集とは		予習・課題		
第10回 編集構成とは		編集構成のポイントについてまとめる。		
第11回 編集構成についてディスカッション		構成表第一案を作成する。		
第12回 編集（1）基礎		予習・課題		
第13回 編集（2）応用		編集のテクニックをまとめる。		
第14回 再編集・仕上げ		予習・課題		
第15回 作品の発表		授業の感想をまとめる。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	30%			
小テスト等	—			
成果発表	30%			
受講態度他	40%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	情報伝達、共有を重視すること。教科書は必ず入手するようにしてください。			
教科書	吉野嘉高著『テレビ番組制作実践講座 企画・取材・編集のメソッド』権歌書房（とうかしょぼう）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		



授業科目	卒業ゼミナールⅠ		開講時期	前期
担当教員	高森 暁子		単位	2
授業の目的と概要	<p>英語文学とその様々なメディア作品（映画、演劇、ウェブサイト、絵画、マンガ、音楽、ゲーム等）を検証することによって、原作がどのように解釈され、どのような形で受容されているのかについて考察します。その際、まず様々なメディアにおいて広く受容されているシェイクスピアの『ロミオとジュリエット』を例として取り上げます。最初に原作を精読し、作品のテーマやモチーフ、それぞれの登場人物と互いの関係を十分理解します。その後、複数のメディア作品と原作との比較を行います。同じテーマが各作品でどのように表現されているか、その特徴や違いについて議論します。その際に学んだ比較検討の手法や着眼点をもとに、後期「卒業ゼミナールⅡ」での研究計画を作成します。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原作のストーリーや登場人物について細部まで正確に理解することができる。</li> <li>2. 原作に描かれたテーマやモチーフを理解することができる。</li> <li>3. 原作とその様々なメディア作品について、両者の違いを認識することができる。</li> <li>4. それぞれのメディア作品の特徴や、どのような視点から制作されたものかを具体的に説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	指定なし		
第2回	春休みの課題に関するクラス・ディスカッション	ディスカッション内容について自分の意見をまとめる		
第3回	春休みの課題に関する総評	『ロミオとジュリエット』（プロローグ、第1幕）に関する予習・課題		
第4回	『ロミオとジュリエット』（プロローグ、第1幕）精読・研究	『ロミオとジュリエット』（第2幕）に関する予習・課題		
第5回	『ロミオとジュリエット』（第2幕）精読・研究	『ロミオとジュリエット』（第3幕）に関する予習・課題		
第6回	『ロミオとジュリエット』（第3幕）精読・研究	『ロミオとジュリエット』（第4幕）に関する予習・課題		
第7回	『ロミオとジュリエット』（第4幕）精読・研究	『ロミオとジュリエット』（第5幕）に関する予習・課題		
第8回	『ロミオとジュリエット』（第5幕）精読・研究	『ロミオとジュリエット』の映画版（ゼフィレリ作品）について調べる		
第9回	映画版（ゼフィレリ監督作品）研究	『ロミオとジュリエット』の映画版（ラーマン監督作品）について調べる		
第10回	映画版（ラーマン監督作品）研究	『ロミオとジュリエット』のバレエ版について調べる		
第11回	バレエ版（マクミラン振り付け作品）研究	『ロミオとジュリエット』の日本での舞台版について調べる		
第12回	舞台版研究（蜷川監督作品）研究	『ロミオとジュリエット』のミュージカル版について調べる		
第13回	ミュージカル版（『ウェストサイド物語』）研究	『ロミオとジュリエット』のマンガ・アニメ版について調べる		
第14回	英語マンガ版（Selfmade Hero制作作品）研究	後期「卒業ゼミナールⅡ」の研究発表でとりあげる作品を考える		
第15回	後期研究計画に関する説明、前期レポートに関する指示	前期レポート作成の準備をすること		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 期末レポート			
小テスト等	20% 『ロミオとジュリエット』に関する予習用課題			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 受講態度、議論への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>欠席回数6回に達すると単位修得の資格を失います。  欠席が4回以上の者は、特別な事情がない限り、「受講態度」の項目を大きく減点します。  遅刻・早退は欠席0.5回にカウントします。</p>			
教科書	ウィリアム・シェイクスピア 『ロミオとジュリエット』 ちくま書房			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜 5 時間目	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	間瀬 玲子		単位	2
授業の目的と概要	フランス文化に関する資料を参考にしながら他のゼミ生と積極的に議論を行う。その議論を糧として独自の研究テーマを考える。前もって筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとにプレゼンテーションを行う。そして問題解決力と論理的思考力を駆使して、研究成果をレポートの形にまとめることを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 フランス文化（映画・音楽・料理・ファッション等）に関する研究テーマを自分で考えることができる。</li> <li>2 配布資料の内容に関して議論を行うことができる。</li> <li>3 筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとにプレゼンテーションをすることができる。</li> <li>4 研究の成果をレポートにまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業の概要		予習 シラバスを前もって読む		
第2回 歴史と文化の街パリ（オースマンの都市大改革）、テーマの立て方		予習 配布資料（第2回）		
第3回 歴史と文化の街パリ（デパート） 研究テーマ、研究概要、参考文献を提出する		予習 配布資料（第3回）		
第4回 パリの暮らし（パリの市場）		予習 配布資料（第4回）		
第5回 パリの暮らし（ワイン）、参考文献の書き方		予習 配布資料（第5回）		
第6回 パリの暮らし（のみの市）		予習 配布資料（第6回）		
第7回 芸術と文化の首都（パリの三大美術館）		予習 配布資料（第7回）		
第8回 各自の研究概要を発表する、研究概要を書いて提出する		予習 研究概要を考える		
第9回 芸術と文化の首都（グランプロジェ）		予習 配布資料（第9回）		
第10回 芸術と文化の首都（バンド・デシネ）		予習 配布資料（第10回）		
第11回 芸術と文化の首都（映画）		予習 配布資料（第11回）		
第12回 発表資料の作り方、筑女ネットへのアップの仕方を学ぶ		準備 基礎ゼミナールの教科書の該当箇所を読み直す		
第13回 プレゼンテーションの仕方を勉強する、ボルドーワイン		準備 基礎ゼミナールの教科書の該当箇所を読み直す		
第14回 レポートの書き方、卒業まえに見てほしい映像作品		基礎ゼミナールの教科書の該当箇所を読み直す、映像作品を図書館などで見る		
第15回 中間発表		発表要旨を作成し、筑女ネットに前もってアップしておく		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50% 中間レポート（A4判 2枚以上）			
小テスト等	0%			
成果発表	20% 中間発表を他のゼミ生の前で行う			
受講態度他	30% 質問等による授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑女ネットに授業の進捗、最新情報を掲載しますので、頻りにチェックしてください。			
教科書	教科書はありません。授業資料（冊子体）を配布します。授業資料は前もって読んでおいてください。			
指定図書	安達正勝『マリー・アントワネット』中央公論新社、中公新書、稲葉由紀子『おいしいフランス おいしいパリ』阪急コミュニケーションズ、レジーヌ・ベルヌー『奇跡の少女ジャンヌ・ダルク』創元社			
参考図書	田村毅『フランス文化読本』丸善出版			
オフィスアワー	木曜日 2 講時	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	橋本 嘉代		単位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ（「現代社会におけるアイコン」）にもとづいて、文献調査や取材をおこない、コンテンツとしてまとめる。</li> <li>・情報発信能力を磨く。</li> <li>・制作プロセスで発生する他者との共同作業、取材交渉などを通じてコミュニケーション能力も磨く。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマについて、文献やデータベースで調べたり、社会現象に注目するなど、さまざまな角度から考えを深めることができる。</li> <li>・文献を読んで適切にまとめたり、論点を見つけてディスカッションすることができる。</li> <li>・ソーシャルメディアを使って、オリジナルコンテンツの情報発信をすることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション、太宰府FB編集会議、写真の撮り方、データベースの使い方	太宰府に関するFBの新方針を考える（以下、継続）		
第2回	文献輪読・ディスカッション①（2人発表）	発表準備。発表者以外は文献を読んで論点を考える		
第3回	文献輪読・ディスカッション②（2人発表）	発表準備。発表者以外は文献を読んで論点を考える		
第4回	文献輪読・ディスカッション③（2人発表）	発表準備。発表者以外は文献を読んで論点を考える		
第5回	文献輪読・ディスカッション④（2人発表）	発表準備。発表者以外は文献を読んで論点を考える		
第6回	文献輪読・ディスカッション⑤（2人発表）	発表準備。発表者以外は文献を読んで論点を考える		
第7回	文献輪読・ディスカッション⑥（2人発表）	発表準備。発表者以外は文献を読んで論点を考える		
第8回	雑誌事例研究（構成、作り方を知る）	参考にしたい事例を探し、持参。太宰府FBの取材、原稿執筆（以下継続）		
第9回	編集会議：卒業制作の案（2ページ分）を考えて、プレゼン（6人発表）	企画案プレゼン資料の作成		
第10回	編集会議：卒業制作の案（2ページ分）を考えて、プレゼン（6人発表）	企画案プレゼン資料の作成		
第11回	編集会議：前回の案をもとに、全体像（24ページ）を決める	個々のプランをまとめた全体の構成案の作成。参考事例を集めて持参。		
第12回	編集会議：全体の方針決定。担当割り。	個々のプランをまとめた構成のブラッシュアップ。		
第13回	編集会議：自分の担当ページのレイアウト作成開始。	原稿や写真など、必要な要素を考え、準備。取材が必要なら手配も		
第14回	自分の担当ページのレイアウト（写真、文字はダミーで可）提出	自分の担当ページのレイアウト（＝課題）制作。文字数も決める。		
第15回	原稿の文字数を確定。執筆できる状態にする。	取材、原稿執筆。夏休み中に提出（後期初回到に添削したものを戻します）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	25%（ラブレイアウト）			
小テスト等	0%			
成果発表	50%（文献発表、企画案プレゼン）			
受講態度他	25%（文献コメント、ディスカッション）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノートを用意し、毎回の記録や、やるべきことをメモする習慣をつけましょう。</li> <li>・就職活動などでやむを得ず欠席となる場合は、所定の届を提出のこと（他の授業と同様に、6回以上の欠席は不可です）。</li> <li>・文献報告の発表者以外は、文献を読み、それに対するコメントをゼミ前日までにメーリングリストに送る。</li> <li>・欠席した場合には、その月のリーダーから授業の内容と次回までの提出物などを聞き、遅れないように。</li> </ul>			
教科書	柳田寛之『印刷DTPデザインの基本』玄光社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日 14:50-16:20	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	田口 純		単 位	2
授業の目的と概要	2016年度の卒業ゼミナール（田口担当：略称「あたぐちゼミ」）のテーマは「DVD を活用した現代英語研究 -sitcomからみる現代英語とその文化-」です。「あたぐちゼミ」では、sitcomのDVDを活用しながら、それぞれの作品に出てくる現代英語の特徴やその文化について研究していきます。前期はsitcom作品のうち「フレンズ」を取り上げます。後期は引き続き「フレンズ」を取り上げるほか、別の作品も扱っていききたいと思います。前期・後期とも、それぞれの作品に出てくる現代英語の特徴やその文化について、各自に発表してもらいます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代アメリカのシットコム作品についての理解を深めることができる。</li> <li>・シットコム作品を題材にして、現代アメリカの言語や文化の理解を深めることができる。</li> <li>・シットコム作品を題材にして、効果的な英語学習法を探ることができる。</li> <li>・効果的なプレゼンの仕方を会得することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 オリエンテーション(授業の進め方など)		次回の自己紹介プレゼンの準備		
第2回 PowerPointを使った自己紹介プレゼンテーション		次回担当者のプレゼン準備		
第3回 フレンズ(1)		次回担当者のプレゼン準備		
第4回 フレンズ(2)		次回担当者のプレゼン準備		
第5回 フレンズ(3)		次回担当者のプレゼン準備		
第6回 フレンズ(4)		次回担当者のプレゼン準備		
第7回 フレンズ(5)		次回担当者のプレゼン準備		
第8回 フレンズ(6)		次回担当者のプレゼン準備		
第9回 フレンズ(7)		次回担当者のプレゼン準備		
第10回 フレンズ(8)		次回担当者のプレゼン準備		
第11回 フレンズ(9)		次回担当者のプレゼン準備		
第12回 フレンズ(10)		次回担当者のプレゼン準備		
第13回 フレンズ(11)		次回担当者のプレゼン準備		
第14回 フレンズ(12)		次回担当者のプレゼン準備		
第15回 授業のまとめ		前期授業の総まとめプレゼンの準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	30%：前期の総まとめプレゼンテーション			
レポート	20%：評価・感想10%、学期末レポート10%			
小テスト等	なし			
成果発表	30%：パワーポイントによるプレゼンテーション3回			
受講態度他	20%：積極的な授業参加を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業ゼミナールIは4年生必修科目です。単位を修得できないと、卒業することができないので注意。 4年生は、就職活動(就活)などで欠席することもあるので、就活に行った時には必ず「就職活動による欠席届」に企業から証明をもらって、提出してください。			
教科書	とくになし。			
指定図書	南谷三世著『シットコムで笑え！ 楽しくきわめる英語学習法』エヌティティ出版 キャズカワゾエ著『TVドラマでアメリカ・ウォッチング!』スクリーンプレイ			
参考図書	授業中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜・火曜の昼休み、またはメールで相談	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	小林 知美		単位	2
授業の目的と概要	卒業論文執筆のために、テーマを決定し、資料・参考文献をあつめ、テーマに接近する方法を考える。 受講者全員で行う。研究テーマ決定の助けとするため美術・博物館への見学をおこない、図書館で資料収集方法について学ぶ。その後、各自の仮テーマについて資料を収集し、それぞれ資料検討の時間をもうけ、テーマ決定へむけて接近する。テーマ決定の後、レジュメをつくり口頭発表する。学期中に地域文化財の実地見学をおこなう。夏休み中に中間報告会を実施する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文のテーマを決定する。</li> <li>資料集めの方法を習得する。</li> <li>参考文献を把握する。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	学科DP⑤の「アジアの言語・社会・文化についての学修をもとに自己の関心を深め、多角的な視点から自らの考えを示すことができる。」を目標とする。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション：ゼミの進め方について	卒論テーマ選択		
第2回	見学①：九州国立博物館常設展見学	見学レポート執筆		
第3回	見学レポート&研究テーマ（仮）の口頭発表	資料収集と研究テーマ選択		
第4回	図書館での資料収集方法紹介	資料収集と研究テーマ決定		
第5回	報告会①：研究テーマ（仮）と収集資料の報告	資料収集と研究テーマ選択		
第6回	報告会②：研究テーマ（仮）と収集資料の報告	資料収集と研究テーマ選択		
第7回	収集した資料の検討と意見交換①	資料収集と検討		
第8回	収集した資料の検討と意見交換②	資料収集と検討		
第9回	口頭発表準備（レジュメの作り方と画像スキャンの仕方）	口頭発表準備		
第10回	口頭発表準備（内容の検討）	口頭発表準備		
第11回	決定テーマの発表会①	口頭発表のためのレジュメと画像準備		
第12回	決定テーマの発表会②	口頭発表のためのレジュメと画像準備		
第13回	見学②：地域の文化財見学（行き先、日程は未定）	見学の予習		
第14回	見学②：地域の文化財見学（行き先、日程は未定）	見学の予習		
第15回	見学②：地域の文化財見学（行き先、日程は未定）	見学の予習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	—			
成果発表	50％			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	就職活動に関係なく、毎回の参加を義務とします。 授業時間中に、九州国立博物館常設展見学（見学①）を、時間外に地域の文化財見学（見学②）を予定している。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスワー	水曜日の昼休み～3限（他は事前に連絡してください）	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ		開講時期	前期
担当教員	横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	<p>卒業論文の製作に取り組むためのゼミナールです。  具体的には、A. 東南アジアに関する事柄、またはB. 日本を含むアジアの政治や社会などに関する事柄、のいずれかについて自分自身でテーマを設定し、資料を収集、分析し、議論を組み立てて卒業論文を製作することが、卒業ゼミナールⅡと併せて、このゼミナールの目的となります。</p> <p>方法論としては、1. 適切な研究テーマを設定する、2. テーマに沿った資料の収集分析し理解を深める、3. 卒論に向けて議論を組み立てる技術を身につけること、を目指します。個別指導が中心になりますが、お互いに刺激しあうために報告の時間を重ねることがあります。中間発表での質疑応答も同様の趣旨から重視します。自分の欠点は解りにくいものですが、他人の欠点はすぐ解ります。いい意味でお互いに切磋琢磨してください。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 調べるに足る十分な資料がある事柄を、研究テーマに設定できる。</li> <li>2. 研究テーマに従って、資料を収集分析できる。</li> <li>3. 調べたことに基づき、議論を組み立て中間発表ができる。</li> <li>4. 中間発表を踏まえ、問題設定を立て結論を導くようなレポートが作成できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション 演習の目的と進め方	各人の問題関心にあわせて、その都度課題を指示する。		
第2回	研究テーマを決定するための文献調査とその過程の報告1	各人の問題関心にあわせて、その都度課題を指示する。		
第3回	研究テーマを決定するための文献調査とその過程の報告2	各人の問題関心にあわせて、その都度課題を指示する。		
第4回	研究テーマの概要報告	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第5回	研究テーマに沿った資料収集分析と進捗状況の報告1	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第6回	研究テーマに沿った資料収集分析と進捗状況の報告2	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第7回	研究テーマに沿った資料収集分析と進捗状況の報告3	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第8回	研究テーマに沿った資料収集分析と進捗状況の報告4	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第9回	中間発表に向けて議論の立て方、発表方法の確認	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第10回	中間発表のためのレジユメの草案作成、個別指導1	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第11回	中間発表のためのレジユメの草案作成、個別指導2	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第12回	中間発表 発表と質疑応答1	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第13回	中間発表 発表と質疑応答2	各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第14回	レポート作成について	期末レポート準備		
第15回	今後の課題の確認	期末レポート準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 中間発表 (内容、プレゼンテーション)			
受講態度他	30% 各回の報告、他の受講生の発表に対するコメント			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>基本的に結果を求めます。期末レポートが十分なレベルに達するよう努めてください。  その他の事柄についてはオリエンテーション時にお伝えします。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水13:00～13:40、木12:20～13:30	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	田村 史子		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：アジアの表現芸術に関する研究を指導します。対象として、音楽・舞踊・演劇・儀礼、などが含まれ、伝統的なものからポップなものまで、可能です。それを通して、人と社会、人と文化との関係をしっかりと捉え直すことを目的とします。</p> <p>概要：演習を通じて、自分のテーマを選んでいきます。</p>			
到達目標	<p>1. 3年間、アジアの文化について学んだことを、自分なりに整理することができる。</p> <p>2. アジアの文化についてじっくり考える機会を持てる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回第 1回～2回 オリエンテーション	第 1回 オリエンテーション	テーマ探し・資料集め		
第 2回 オリエンテーション		テーマ探し・資料集め		
第3回テーマの検討		テーマ探し・資料集め		
第4回テーマの検討		テーマ探し・資料集め		
第5回テーマの検討		テーマ探し・資料集め		
第6回資料・材料の収集、実技研修、調査等の可能性を探る		テーマ探し・資料集め		
第7回資料・材料の収集、実技研修、調査等の可能性を探る		テーマ探し・資料集め		
第8回資料・材料の収集、実技研修、調査等の可能性を探る		テーマ探し・資料集め		
第9回テーマの絞込み		テーマ探し・資料集め		
第10回テーマの絞込み		テーマ探し・資料集め		
第11回テーマの絞込み		テーマ探し・資料集め		
第12回レジュメの作成		テーマ探し・資料集め		
第13回レジュメの作成		テーマ探し・資料集め		
第14回レジュメの作成		テーマ探し・資料集め		
第15回レジュメの作成		テーマ探し・資料集め		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	40％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>興味を持てるテーマを見つけ出し、積極的に取り組むように努力してください。</p> <p>回数は便宜的なもので、それぞれの進度によって変わってきます。</p>			
教科書	随時プリントを用意。			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	妻 海善		単位	2
授業の目的と概要	<p>興味があるテーマを選択し、卒業論文としてスムーズに作成し、仕上げで提出できるようになることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論文の書き方を教える。</li> <li>2. 韓国の社会、文化、歴史、政治、経済、他に北朝鮮を対象にテーマを選び、目次作成、資料収集を指導する。</li> <li>3. 毎回の発表会で、まとめた内容に関してコメントし、次の報告日まで調べて書くように指導する。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 興味があるテーマを設定し、目次を立てて文章としてまとめるスキルを身に付けることができる。</li> <li>2. 論文の作成方法で学んだスキルを、今後職場での報告書作成に生かすことができる。</li> <li>3. 文献検索方法と能力、発表資料を作る方法、プレゼンテーションやコミュニケーションスキルをアップすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本科目は、アジア文化学科DP5「アジアの言語・社会・文化についての学修をもとに自己の関心を深め、多角的な視点から自らの考えを示すことができる」を充足させる授業です。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	総括指導、自己紹介、A, B, C組分け、図書長期貸し出し件、毎回提出物の説明、図書購入方法を説明する。	連絡先を教員に伝送する		
第2回	パソコン室集合 (USB持参、卒論の書き方説明)	課題①テーマと目次提出		
第3回	A組；参考図書のリスト提出 (図書5冊、その他10点) 及び内容調べ (A4用紙3枚以上)	課題②準備		
第4回	B組；参考図書のリスト提出 (図書5冊、その他10点) 及び内容調べ (A4用紙3枚以上)	課題②準備		
第5回	C組；参考図書のリスト提出 (図書5冊、その他10点) 及び内容調べ (A4用紙3枚以上)	課題②準備		
第6回	A組；中間報告 (A4用紙5枚以上)	課題③準備		
第7回	B組；中間報告 (A4用紙5枚以上)	課題③準備		
第8回	C組；中間報告 (A4用紙5枚以上)	課題③準備		
第9回	A組；中間報告 (A4用紙8枚以上)	課題④準備		
第10回	B組；中間報告 (A4用紙8枚以上)	課題④準備		
第11回	C組；中間報告 (A4用紙8枚以上)	課題④準備		
第12回	A組；最終報告 (A4用紙10枚以上)	課題⑤準備		
第13回	B組；最終報告 (A4用紙10枚以上)	課題⑤準備		
第14回	C組；最終報告 (A4用紙10枚以上)	課題⑤準備		
第15回	前期のまとめ	前期までの内容や資料を整理する		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	課題50% (10点×5回)			
小テスト等	0%			
成果発表	50% (10点×5回)；出席率やプレゼンテーション及びコミュニケーションスキルで評価する。			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>①提出物はすべてパソコン入力し、参加人数分準備する。</li> <li>②報告日は必ず守ること、締切日を過ぎた課題は評価しない。</li> <li>③就職活動、病気、その他の理由による欠席は証明書提出要。</li> <li>④報告日に欠席が予想されるときは、ほかの曜日の報告者とお互いに交渉し、教員に知らせる。</li> </ol>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスワー	火～水曜日の昼休み、	メールアドレス		



授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	崔 淑芬		単位	2
授業の目的と概要	<p>卒業論文は大学における4年間の学習の集大成である。前期の卒業演習 I では、各自、これまで学んできたこと、関心のあること、自践してきたことに基づいて研究テーマの焦点を絞り、それを設定する。論文のテーマに沿って、論文の構想、方向性、方針を設定し、関係資料や文献を調査し、推敲を重ね、研究を進めていく。学術論文としての構成・文章表現・図表の描き方・文献の検索と引用の方法などの指導を行うとともに、関心の研究課題の把握がなされ、自らの研究がその中に位置付けられ、将来展望ができる能力の開発を重視した指導を行う。</p> <p>卒業論文に取り組み目的、意義及び研究テーマの設定を説明し、資料の調べ、まとめ、執筆の方法を丹念に指導します。</p> <p>各自の課題研究（卒業論文）に関わる構想について質疑応答を行いつつ、論文完成に向けての指導を行う。</p> <p>卒業論文に関連する文献を日頃から収集して、熟読するようにする。</p>			
到達目標	<p>1、前期の卒業演習 I では、論文作成のため、テーマを見つけ、そのテーマに沿った資料の調査、まとめ方法を実践することができる。</p> <p>2、論文の構想、方向性、方針を設定し、卒業論文の作成を通して、問題意識の向上、研究手法、論理的な思考力、問題解決能力などを身につけることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	研究課題の把握がなされ、自らの研究がその中に位置付けられ、将来展望ができる能力の開発を重視した指導を行う。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション 演習と卒業論文		研究課題の検討、先行研究文献の調べ		
第2回 文献・資料の調べ方、各自の年間スケジュールを立てる		研究課題の検討、先行研究文献の調べ		
第3回 文献調査結果の報告、研究テーマの設定		先行研究文献・資料のまとめ		
第4回 テーマに関する先行研究の検索、資料のまとめ方、分析方法		先行研究文献・資料のまとめ		
第5回 文献調査のデータ・資料の分析と結果の報告		先行研究文献・資料のまとめ		
第6回 中間発表、研究テーマに関する報告 研究目的、論文構想の執筆計画		先行研究文献・資料の調査、まとめ		
第7回 確定した卒業論文に関する先行研究のサーベイを行い、分析方針の報告		論文の構想		
第8回 論文としての構成・文章表現・図表の描き方・文献の検索と引用の方法などを指導する		論文構想の再検討		
第9回 指導教員との論文構想の研究打ち合わせ・論文を作成		論文の作成		
第10回 卒業論文作成の個別指導		文献・資料の調査・分析、論文を作成		
第11回 論文作成の個別指導		論文の作成		
第12回 論文作成の個別指導		論文の作成		
第13回 論文作成の個別指導		論文の作成		
第14回 論文作成の個別指導		作成した論文の点検、資料・文献の充実		
第15回 研究の進捗状況と課題の確認と夏休みの課題		論文の進行、分析の方針		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	%			
レポート	30% 中間発表レポート			
小テスト等	%			
成果発表	30% 報告と研究の進捗状況			
受講態度他	40% 研究目的やテーマの明解さ、卒業論文作成に取り組む姿勢等により、総合的に評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	研究の熱意を持って、積極的に演習参加、研究及び編集作業に取り組むこと。指導教員との連絡を怠らないこと。就職活動等でやむをえず欠席する場合も、必ず事前に連絡をしてください。			
教科書	研究テーマにより個別指導			
指定図書	研究課題により個別指導			
参考図書	研究の進捗状況と課題により個別指導			
オフィスワー	火・金 授業以外、随時可、できるだけ事前にメールを下さい。	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	喜多村 百合		単位	2
授業の目的と概要	本演習は、本学科の学びの集大成である卒業論文制作に向けての自主的な研究の計画と遂行、という位置づけを持つ。各自の関心に沿ってテーマを設定し、資料を収集する中から争点を絞りこみ中間報告を行う。それを踏まえた小論文を制作する中で、後期の作業課題を明らかにすることがねらいである。			
到達目標	①テーマ設定に際し、先行研究やその他の資料を収集・検討し、争点把握と論述方針を固める。 ②①の作業をまとめ、中間報告で報告。小論文を制作し、演習Ⅱにおける検討課題を設定する。 ③他のメンバーの研究に対し、積極的に批評ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 導入①：卒業研究のねらいと進め方		課題設定		
第2回 導入②：問題設定ほか作業内容の確認。報告スケジュールの決定		資料収集		
第3回 報告とディスカッション		レジュメ制作		
第4回 報告とディスカッション・課題指示		追加資料の検討		
第5回 報告とディスカッション		レジュメ制作		
第6回 報告とディスカッション：課題指示		追加資料の検討		
第7回 報告とディスカッション・課題指示		レジュメ制作		
第8回 報告とディスカッション：j課題指示		テーマ発展の検討		
第9回 報告とディスカッション・課題指示		テーマ発展の検討		
第10回 報告とディスカッション		テーマ発展の検討		
第11回 報告とディスカッション・課題指示		卒論執筆と章建て		
第12回 報告とディスカッション		卒論執筆と章建て		
第13回 報告とディスカッション・課題指導		卒論執筆と章建て		
第14回 中間報告とディスカッション		中間レポート作成方法		
第15回 中間報告とディスカッション・課題指示		中間レポート作成方法		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 期末レポート			
小テスト等	-			
成果発表	50%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	テーマ設定にあたり、資料収集と検討作業において自発的かつタブに行うこと。			
教科書	適宜プリントを配布			
指定図書	個別に指示			
参考図書	個別に指示			
オフィスアワー	月火木の午後	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	大津 忠彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：「論文」による研究成果発表法を学びます。論理性と独創性が求められます。研究対象分野は考古学とその隣接する範囲、という限定があるだけです。したがって、まずは奔放にテーマを探索しましょう。構想段階での問題意識（テーマ）を明確・具体化にすることに、先ずは力点を置きます。同時にまた、ゼミ生同士が助言・質問し合うことの有効性・必要性を具体的に認識します。</p> <p>概要：取り組む主題への着眼点を明確化にすることに、先ずは力点を置きます。したがって、受講生各自の「研究発表（プレゼン）」が中心です。授業中の、お互いの質疑応答・助言を重視します。これを活性化させるために、資料検討成果発表が具体的に聴き手に伝わる工夫（たとえばデータや考察成果の図表化）を考えます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒論テーマに関わる（考古）資料を、パワーポイントを使って説明することができる。</li> <li>・ 卒論テーマに関わる（考古）資料の類例を挙げて説明することができる。</li> <li>・ 研究発表時に、有用な説明用資料（レジュメ）を配布し、聴き手の理解を助けることができる。</li> <li>・ 研究発表の質疑応答に、積極的に、参加することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		課題①：卒論の「目次」および「はじめに」の試作		
第2回 「卒論」構想（素案）の発表と質疑応答		第4回までに課題①を提出		
第3回 発表の資料化：レジュメ、パワーポイント作成法		第4回までに課題①を提出		
第4回 「卒論」執筆要綱：頁設定法、図版作成法		第4回までに課題①を提出		
第5回 「卒論章立て」（案）の発表と質疑応答		課題②：関連資料レポート		
第6回 論文執筆上の文章作法		第8回までに課題②を提出		
第7回 「卒論」資料検討（発表と質疑応答）－その（1）：テーマと資料紹介		第8回までに課題②を提出		
第8回 考古資料の集成と操作		第8回までに課題②を提出		
第9回 「卒論」資料検討（発表と質疑応答）－その（2）：資料と参考文献		課題③：新出課題の検討		
第10回 「卒論」資料検討（発表と質疑応答）－その（3）：資料と論の構成		第12回までに課題③を提出		
第11回 先行研究へのアプローチ：「習う」ことと独自性		第12回までに課題③を提出		
第12回 「卒論」構想の発表と質疑応答－その（1）：テーマの再確認		第12回までに課題③を提出		
第13回 「卒論」構想の発表と質疑応答－その（2）：資料と資料操作の再確認		課題④：草稿の完成		
第14回 「卒論」構想の発表と質疑応答－その（3）：論の構成と展開の再確認		第15回までに課題④を提出		
第15回 「卒業ゼミナール I」総括		第15回までに課題④を提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50% ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50% ②受講態度（含、発表成果や提出課題成果）を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・上記「成績評価に関する情報」欄の、①と②の判定組合せが「秀&amp;秀」・「秀&amp;優」を秀、「秀&amp;良」・「優&amp;優」を優、「秀&amp;可」・「優&amp;良」・「優&amp;可」・「良&amp;良」を良、「良&amp;可」・「可&amp;可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。受講態度の良否は成績評価に大きく影響します。講義の進行に集中し自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナール I		開講時期	前期
担当教員	石 其琳		単 位	2
授業の目的と概要	<p>自分で研究テーマを決め、自主性を持って研究資料の収集整理が出来ることを目的とする。          本授業は、ゼミ生全員に対して個別指導を行う。前期は主にテーマを決め、その研究テーマについて、資料を収集し整理しながら、数回の間隔発表を通して、研究基盤のもとになる内容をまとめる。</p>			
到達目標	<p>自分の研究対象に対して積極的に資料の収集整理を行い、自分自身の思考表現によって、この研究成果を論文に作成することを目標とする。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>⑤アジアの言語・社会・文化についての学修をもとに自己の関心を深め、多角的な視点から自らの考えを示すことができる。          中国及びアジア関係の科目すべて関連する。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	オリエンテーション（論文作成の注意点について説明する）	研究テーマを選定		
第 2回	各自で研究計画を発表し、質疑問答を行う	レジュメを提出		
第 3回	個別に研究内容を再検討し、最終的研究テーマを選定する。	各自研究資料収集整理		
第 4回	各自で研究テーマの構想発表を行う	レジュメを提出		
第 5回	各自の研究作業を始めて、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第 6回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第 7回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第 8回	全員による中間発表及び討論。	レジュメを提出		
第 9回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第10回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第11回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第12回	全員による中間発表及び討論	レジュメを提出		
第13回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第14回	各自の研究作業を進め、随時に指導を行う。	各自研究資料収集整理		
第15回	各自前期の総まとめとして発表を行う。	各自の研究資料まとめ		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%（レジュメによる発表）			
小テスト等	なし			
成果発表	50%（前期の総まとめレポート）			
受講態度他	0%（受講態度として、質問や発表による授業への積極性を参考にする。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に指導する際、決められた課題に対して必ず積極的に取り込むこと。</li> <li>・個別指導のため、研究作業の進行状況などについてこまめに報告すること。</li> </ul>			
教科書	個別指導のため、個別に指示をする。			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスワーカー	火、水、木、金	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ（発達臨床心理コース）		開講時期	前期
担当教員	渋田 登美子・浅田 淳一・酒井 均・浦田 英範・榊 祐子・森田 理香・宇治 和貴		単位	2
授業の目的と概要	<p>これまでの講義や演習の総括として、各学生がテーマを選択し、研究計画を立て、実施に向けた準備を進めていくことを目的とする。これらの過程を通して、心理学に関して自らが選択した問題について知識を深め、解決に導くための論理的思考力を身につける。</p> <p>自らが設定した心理学に関するテーマに対して、心理学における様々な研究方法から適切なアプローチを決定し、研究計画の具体化を目指す。また、発表資料の作成、発表方法、議論の方法についても理解を深め、実践する。</p>			
到達目標	<p>①心理学に関するテーマを自ら見つけ、批判的視点を持ちながら、研究目標を設定することが出来る</p> <p>②上記の目的について適切な研究方法を決定し、具体的な研究計画を組み立てることが出来る</p> <p>③発表資料の作成や発表方法を具体的に選択し、実践することができる</p> <p>④③の作業を通して、問題解決に必要な情報を集め、系統立てて説明することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	論文の形式について①：論文の形式について	各自の文献を読み進める		
第2回	論文の形式について②授業計画の作成：執筆にあたっての注意	文献を読み進める		
第3回	授業計画の作成：テーマに基づいて、卒業ゼミナールⅠ・Ⅱを通じた年間計画作成	年間計画の作成		
第4回	テーマの設定：研究テーマの選択、決定	文献収集し、読み進める		
第5回	文献収集①：先行研究の検索	文献収集し、読み進める		
第6回	文献収集②：先行研究における問題点の検討	研究の問いを立てる		
第7回	文献収集③：各自の研究目標の具体化	研究の問いを立てる		
第8回	発表・討論①：途中経過の発表、検討	発表資料の作成		
第9回	発表・討論②：途中経過の発表、検討	発表資料の作成		
第10回	発表・討論③：途中経過の発表、検討	発表資料の作成		
第11回	発表・討論④：途中経過の発表、検討	発表資料の作成		
第12回	発表・討論⑤：途中経過の発表、検討	発表資料の作成		
第13回	研究計画の作成：研究の目的や意義の明確化、研究方法の検討	プレゼンテーションの準備		
第14回	卒研中間発表会：卒研についての研究計画、概要を発表	プレゼンテーションの準備		
第15回	全体のまとめと総括：各研究テーマの達成度や課題について検討	今後の課題を明確にする		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 研究計画、先行研究についてのレポート			
小テスト等	-			
成果発表	40％ 研究計画、先行研究についての発表、中間発表含む			
受講態度他	20％ 発表に対する質疑応答			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業論文希望の人は詳細な研究計画の作成（目的、方法、質問紙の作成、実験計画など）が求められる。成果発表は研究計画についての発表と中間発表の2回のを課題とする。			
教科書	指定なし			
指定図書	指定なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	浅田：火を除く昼休、酒井：水昼休、浦田：火2限、渋田：月4限、榊：火5限、森田：火10-12、宇治：火水5限	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ（社会福祉コース）		開講時期	前期
担当教員	西原(尚)・山崎(安)・益満(孝)・池田(和)・徳永(勇)・新家(め)・金(圓)・高木(佳)		単 位	2
授業の目的と概要	<p>社会福祉を学ぶ過程で、学生自らが明確化したテーマを自覚的に追求し、テーマについての論理的思考力、さらには問題解決力を身につけることを目的とする。ソーシャルワーカーとしてはいうまでもなく、将来ひとりの職業人となるにあたって、ある状況に対する自分の考え方や態度を確立することは非常に重要だからである。</p> <p>卒業ゼミナールは、社会福祉を学ぶ過程で、学生自らが明確化したテーマを自覚的に追求し、論理的思考力や問題解決力を身につけることを支援する科目で、大学生活を通じた集大成としての意味を持つ。具体的には、各専任教員がそれぞれの専門性を背景とした少人数ゼミを分担し、学生は自らのテーマに応じていずれかのゼミに所属する。学生各自が自らのテーマを設定でき、それにそった資料や文献の収集、報告・討論といったことが主たる内容となる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自ら取り組む研究テーマが設定できる。</li> <li>2. 研究の視点を理解し、研究方法を身につけることができる。</li> <li>3. 1・2の成果として「卒業研究」が作成できる。</li> <li>4. 「卒業研究」を発表したり、それについて討議する能力が習得できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 卒業研究のテーマ設定			資料収集・検討	
第2回 卒業研究のテーマ設定			資料収集・検討	
第3回 卒業研究のテーマ設定			資料収集・検討	
第4回 資料収集等研究方法の学習			発表資料（レジュメ）作成	
第5回 資料収集等研究方法の学習			発表資料（レジュメ）作成	
第6回 資料収集等研究方法の学習			発表資料（レジュメ）作成	
第7回 資料収集等研究方法の学習			発表資料（レジュメ）作成	
第8回 資料収集等研究方法の学習			発表資料（レジュメ）作成	
第9回 資料収集等研究方法の学習			発表資料（レジュメ）作成	
第10回 資料収集等研究方法の学習			発表資料（レジュメ）作成	
第11回 中間報告			発表と討議	
第12回 中間報告			発表と討議	
第13回 中間報告			発表と討議	
第14回 中間報告			発表と討議	
第15回 中間報告			発表と討議	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 発表資料（レジュメ）を中心に評価する			
小テスト等	なし			
成果発表	25％ 研究発表の内容・水準			
受講態度他	25％ 出席状況 + 討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 4年次のオリエンテーション時に、卒業研究・卒業論文についての説明を行うので必ず参加すること。</li> <li>2. 毎回の授業の出席及び積極的な発言と参加態度が重要となる。</li> </ol>			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	各教員による			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照してください。	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅠ（人間形成専攻）		開講時期	前期
担当教員	人間形成専攻 専任教員		単 位	2
授業の目的と概要	<p>3年次科目「人間形成総合演習Ⅰ」「人間形成総合演習Ⅱ」を通して得た、幼児教育及び小学校教育などに関する研究課題について、自らの問題意識に即して調査・研究を行い、その発表と討論を行うことにより教育について深く考察することを目指す。</p> <p>研究課題に関連する文献、資料に幅広く触れ、目的にあったデータ収集の方法、適切な分析・吟味、問題を発見する力や論理的思考能力、プレゼンテーション能力等を獲得することを目的とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題の設定、調査方法の選択及び実施、結論やその吟味、研究成果の発表など、問題解決的な手法で研究することができる。</li> <li>2 課題設定の理由（必要性・研究する価値）を明確にもち説明することができる。</li> <li>3 課題について、客観的な事実を踏まえながら立論することができる。</li> <li>4 他の学生の研究内容への質問や助言、意見交換などを積極的に行うことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション（研究課題、今後の研究の進め方の確認）	3年次科目「人間形成総合演習ⅠⅡ」の進捗状況を整理する。		
第2回	研究報告の要件、様式、提出期日等について 研究状況報告・討議①（順を決め2名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第3回	研究状況報告・討議①（順を決め2名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第4回	研究状況報告・討議①（順を決め2名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第5回	研究状況報告・討議①（順を決め2名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第6回	研究状況報告・討議①（順を決め2名程度） ※ 研究題目の決定	課題についての調査及び報告の準備		
第7回	研究状況報告・討議②（順を決め2名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第8回	研究状況報告・討議②（順を決め2名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第9回	研究状況報告・討議②（順を決め3名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第10回	研究状況報告・討議②（順を決め3名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第11回	中間発表に向けた検討	中間発表の準備		
第12回	研究状況の中間発表（複数ゼミ合同で実施も可）	中間発表の準備		
第13回	研究状況の中間発表（複数ゼミ合同で実施も可）	中間発表の準備		
第14回	研究状況の中間発表（複数ゼミ合同で実施も可）	中間発表の準備		
第15回	進捗状況及び「卒業ゼミナールⅡ」の進め方の確認	中間発表の成果と課題の振り返り		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない。			
レポート	20％（各回の研究状況報告の内容）			
小テスト等	実施しない。			
成果発表	60％（卒業研究）			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各回の研究状況の発表の際にはレポート（卒業研究の原稿）を用いて報告すること。 他の学生の報告にも、積極的に質問や意見を述べること。			
教科書	特に定めない。			
指定図書	特に定めない。			
参考図書	『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房（購入済：1年次「基礎ゼミナール」で使用した教科書）			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照すること。	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	T.R. Honkomp		単位	2
授業の目的と概要	The second semester of this seminar is a continuation of the first semester. The seminar will focus primarily on the differences between American and Japanese cultures. Current media use cultural stereotypes of both Japanese and Western cultures to influence and send messages to their audiences. How do these messages reflect the work ethic, values, reputations, and national images that are prevalent in aspects of both societies? How have the images changed over the years and what direction will they go in the future?			
到達目標	The seminar will consider situations presented by TV programs, movies & video, popular music and other forms of mass communication in both American and Japanese societies. The resulting contrasts will be analyzed and discussed. The seminar will look at the situations of people who have lived in both countries and analyze some of the cultural encounters they have experienced.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Semester Introduction Second Semester Goals & Expectations Begin Real-Life Cross-Cultural Experience Assignment	講義の際に指示します		
第2回	Begin In-class Video #1- Culture Characteristics in Business Practices Students begin Real-Life Cross-Cultural Presentations	Handout		
第3回	Student Presentations Continued In-class Video #1 Continued	Reading handout continued		
第4回	Student Presentations Continued Finish In-class video #1	Paper #1 due		
第5回	野球 vs. Baseball Begin selected readings on baseball and Japanese Sports Culture	講義の際に指示します		
第6回	野球 vs. Baseball Continued Students present findings from article	講義の際に指示します		
第7回	Finish 野球 vs. Baseball Wrap up In-class Video #2 and discussion questions	講義の際に指示します		
第8回	Introduction to Cultural Adjustment Assignment	Handout		
第9回	Begin Student Presentations on Cultural Adjustment Assignment	Reading handout continued		
第10回	Student Presentations on Cultural Adjustment Continued	Assignment #2		
第11回	Begin In-class Video #3	Paper #2 due		
第12回	In-class Video #3 Continued Begin Culture Shock Discussion	Handout		
第13回	Finish In-class Video #3 Culture Shock Discussion and Analysis	講義の際に指示します		
第14回	Student Video Presentations & Discussion	講義の際に指示します		
第15回	Semester Wrap-up and Exam Review	Exam review sheet		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40% Final Exam			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	35% Class participation and presentations 25% Written assignments and papers			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Evaluation in the Seminar is based on class participation, completion of assignments, attendance and exams. Students are encouraged to make a positive effort and have open communication.			
教科書	—			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Before and after class.	メールアドレス		



授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	松崎 徹		単 位	2
授業の目的と概要	前期に引き続き本ゼミナールでは、講師が幅広く集めた、英語に見られる興味深い言語現象を受講生と一緒に分析しながら、英語の持つ不思議な魅力を体感していきます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語には興味深い言語現象が数多く存在していることを理解できる。</li> <li>2. そうした言語現象の多くにはきちんとした由来が存在していることが理解できる。</li> <li>3. 上で学んだ言語現象の由来を類似した他の言語現象の説明にも応用できるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	導入問題の解答と解説		導入問題の復習	
第2回	英語の主語の不思議 (1)		プリント予習および復習	
第3回	英語の主語の不思議 (2)		プリント予習および復習	
第4回	英語の助動詞の不思議 (1)		プリント予習および復習	
第5回	英語の助動詞の不思議 (2)		プリント予習および復習	
第6回	英語の時制の不思議 (1)		プリント予習および復習	
第7回	英語の時制の不思議 (2)		プリント予習および復習	
第8回	学期末レポート面談 (1)		レポートプロポーザル作成	
第9回	学期末レポート面談 (2)		レポートプロポーザル作成	
第10回	英語の「不規則」の不思議 (1)		プリント予習および復習	
第11回	英語の「不規則」の不思議 (2)		プリント予習および復習	
第12回	英語の「不規則」の不思議 (3)		プリント予習および復習	
第13回	学期末レポート中間発表 (1)		発表準備	
第14回	学期末レポート中間発表 (2)		発表準備	
第15回	学期末レポート中間発表 (3)		発表準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	30% 小テスト			
成果発表	50% 学期末レポート			
受講態度他	20% 授業への積極的な参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ配布された予習プリントは次回の授業時までにはかならず予習をしておいてください。</li> <li>・授業は講義形式が主とはなりますが、本ゼミの受講生には授業がより活気あるものとなるよう、各自の積極的な参加と活発な意見の交換を期待します。</li> <li>・理解度の確認という目的で各単元の終了ごとに小テストを実施しますので、テストに備えて日ごろから講義内容の復習を心がけてください。</li> </ul>			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	適宜指示します。			
オフィスアワー	火：2講目、水：4講目		メールアドレス	

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	D. J. Wood		単位	2
授業の目的と概要	Students will continue to: develop their command of conversational linguistic patterns analyze interactions for common conceptual features like experience processing and assimilation learn how to dissect communication structure development; and identify elements common to all interactions and the themes which they convey. use their own photos to ask and answer questions for communication			
到達目標	To present the nature of visual and aural interaction for close study in relation to the overall meaning of such universal topics as the nature of teaching and learning, students continue to: deepen their ability to comprehend all the levels at which speech and communication operate to present the same orally. develop the necessary linguistic analysis skills to make insightful conclusions; and learn and demonstrate the ability to write their impressions and interpretation.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	In accordance with department diploma policy aims, students learn real communication by avoiding the artificial and non-interactive substitute of textbooks			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Second semester orientation and interpersonal communication method review		To be announced	
第2回	Exchange of personal information, about recent activities for listening and expression		To be announced	
第3回	Exchange of personal information, about recent activities for listening and expression		To be announced	
第4回	Class report writing		To be announced	
第5回	All students bring photos to present and interact via		To be announced	
第6回	Students continue the weekly photo communication exchange up to ten times		To be announced	
第7回	Students continue the weekly photo communication exchange up to ten times		To be announced	
第8回	Students continue the weekly photo communication exchange up to ten times		To be announced	
第9回	Students continue the weekly photo communication exchange up to ten times		To be announced	
第10回	Students continue the weekly photo communication exchange up to ten times		To be announced	
第11回	Students continue the weekly photo communication exchange up to ten times		To be announced	
第12回	Students continue the weekly photo communication exchange up to ten times		To be announced	
第13回	Students continue the weekly photo communication exchange up to ten times		To be announced	
第14回	Students continue the weekly photo communication exchange up to ten times		To be announced	
第15回	Students prepare their final overview of all 10 corrected presentations for their final assessment		To be announced	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	50%			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	50% class participation and contribution			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	Study materials will be provided			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays.	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	大城 房美		単位	2
授業の目的と概要	このゼミは、ポップカルチャーが私たちのアイデンティティについて提起する問題について考え、現代に生きる私たちの女性観やジェンダー観を問いなおし、私たちと社会の関わりを考えてゆくことを目的とする。各ゼミ生が準備する発表を通して、アイデンティティに関する自分自身の価値観を分析し、問い直す。そして、公的機関を実際に訪問し視察することで、社会とそれぞれの問題のつながりを含めて考えてゆく。各ゼミ生は、それぞれ研究発表テーマと扱う作品を決め、発表前にアウトラインを他のゼミ生に配布できるように、準備すること。OHCやPOWERPOINT、DVDなどのビジュアルな機器と配布資料を活用し、よりよく伝わる発表をめざすこと。各発表は15分から20分程度。各発表者は筑女ネットのフォーラムから、ディスカッションリストを立ち上げ、そこに発表前の準備に関する記事を投稿する。発表後、他の学生は、そこからリスポンスを投稿すること。			
到達目標	1. 大学に入ってつちかかってきた英語力をフルに活用する。(ゼミでは、積極的に英語テキストを取り上げ、比較文化的視点から分析すること) 2. グローバルな視点から、様々な文化のフォームに現れるジェンダーに関する問題を提起し、分析する。 3. 性と現代社会に関する問題を自分の視点から考え、それに対する意見を述べるができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連科目： 各学生が受講した担当教員の科目（英語文学、現代ポップカルチャー、アメリカ文学史、英語圏女性作家研究）			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Introduction		講義の際に指示します。		
第2回 各学生による自由研究発表計画についての報告 *海外、特に英語/英語圏文化との関連から、自由研究のテーマをたてること*		発表の概要、アウトラインを考えること。		
第3回 福岡市男女共同参画センター「アミカス」、または北九州市漫画ミュージアム視察・施設見学（施設の予定により変更可能性有り）		リスポンス投稿。訪問施設について下調べをしておくこと。		
第4回 福岡市男女共同参画センター「アミカス」、または北九州市漫画ミュージアム視察・話し合い・図書室でのリサーチ（施設の予定により変更可能性有り）		リスポンス投稿。訪問施設についての質問を考えておくこと。		
第5回 九州マンガ交流部会参加（研究発表会）、ディスカッション		リスポンス投稿。発表テーマについて、下調べをしておくこと。		
第6回 各学生による自由研究発表、ディスカッション		リスポンス投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。		
第7回 各学生による自由研究発表、ディスカッション。		リスポンス投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。		
第8回 各学生による自由研究発表、ディスカッション		リスポンス投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。		
第9回 各学生による自由研究発表、ディスカッション		リスポンス投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。		
第10回 各学生による自由研究発表、ディスカッション		リスポンス投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。		
第11回 各学生による自由研究発表、ディスカッション		リスポンス投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。		
第12回 各学生による自由研究発表、ディスカッション。		リスポンス投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。		
第13回 各学生による自由研究発表、ディスカッション。		リスポンス投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。		
第14回 各学生による自由研究発表、ディスカッション。		リスポンス投稿。担当者はアウトライン投稿、レジュメ作成。		
第15回 最終レポートのテーマ発表とディスカッション。		リスポンス投稿。レポートのアウトライン作成。最終レポート作成準備。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% レポートは4000字以上。参考文献5点以上。引用処理が的確でないものは不可。			
小テスト等	リスポンス20% 各講義について、質問やコメントなどを筑女ネットのフォーラムに投稿する			
成果発表	レポートに含む			
受講態度他	20% 講義での活動(受講状況・発表・宿題など)を含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	*レジュメ・宿題などにネット情報などからのコピペが無断で挿入されている場合は、評価しない 発表担当については、次の2点の準備をすること。 発表前：アウトラインの準備（筑女ネットでディスカッションリストをつくる）、発表当日：レジュメ配布。 *学外講義は、訪問施設の予定によりスケジュールを調整。現地集合。集合時間などはゼミで確認する。			
教科書	前期に購入したテキストと指定図書、他。各発表担当者がレジュメを準備。発表前に、筑女ネットを通して、発表テーマ、アウトライン等を告知する。発表後各学生は筑女ネットにリスポンスを投稿する。			
指定図書	Anime explosion! 『学生・研究者のための使える!PowerPointスライドデザイン』 Manga and the representation of Japanese history			
参考図書	『Critical Approaches to Comics』、A Comics Studies Reader (UP of Mississippi)、The Manga Guide to the Universe, Manga Shakespeare Series (Romeo and Juliet 他)、その他英語版MANGA、マンガ関係の図書は請求番号726.1で検索			
オフィスアワー	講義の前夜	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	緒方 隆文		単 位	2
授業の目的と概要	<p>目標1：卒業ゼミナールを通して、言語・文化に関する専門知識を身につけ、深い人間理解ができるようになる。目標2：英語理論を学び、言葉としての英語に関心を持つとともに、自ら探求する方法を身につける。目標3：英語圏文化を、学んだり調べたりすることで、英語に対する理解を深め、様々な視点で英語をとらえることができるようになる。その過程で、論理的思考力、問題解決力、特定分野の知識・技能を身につける。</p> <p>授業は基本、二部構成で進める。前半は受講者の発表を行う。自ら調べ、効果的に発表できるよう技術的な側面も指導していきたい。後半はプリントを用いて、言語理論(認知言語学)や英語学全般の内容を取り上げ学習していく。英語そのものがもつ規則性・特徴を、言語理論に偏ることなく、幅広く見ていきたい。そうすることで、英語に対する理解を深め、英語そのものをことばとして楽しむことを期待している。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語に関するテーマを一つ選び、期末レポートを書くことができる。</li> <li>2. 調べたことを、口頭発表(2回)することができる。</li> <li>3. 講義で学んだ特定分野の知識・技能に関して、自らの言葉で説明することができる。</li> <li>4. 口頭発表など講義中に、質疑応答やディスカッションなど積極的に参加することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション；認知言語学/英語学全般(語用論<1>：会話の格率)	語用論(1)の復習，発表/レポートの作成準備		
第2回	ディスカッション・質疑応答の仕方；認知言語学/英語学全般(語用論<2>：遂行動詞)	語用論(2)の復習，発表/レポートの作成準備		
第3回	発表C(第1回)；認知言語学/英語学全般(語用論<3>：比喩表現)	語用論(3)の復習，発表/レポートの作成準備		
第4回	発表C(第2回)；認知言語学/英語学全般(語形成<1>：派生と複合)	語形成(1)の復習，発表/レポートの作成準備		
第5回	発表C(第3回)；認知言語学/英語学全般(語形成<2>：逆成・省略・頭文字語他)	語形成(2)の復習，発表/レポートの作成準備		
第6回	発表C(第4回)；認知言語学/英語学全般(語形成<3>：音象徴・混成・異分析他)	語形成(3)の復習，発表/レポートの作成準備		
第7回	発表C(第5回)；認知言語学/英語学全般(アイロニー<1>：アイロニーの公式)	アイロニー(1)の復習，発表/レポートの作成準備		
第8回	発表C(第6回)；認知言語学/英語学全般(アイロニー<2>：アイロニーの対象)	アイロニー(2)の復習，発表/レポートの作成準備		
第9回	発表D(第1回)；認知言語学/英語学全般(アイロニー<3>：類似表現との比較)	アイロニー(3)の復習，発表/レポートの作成準備		
第10回	発表D(第2回)；認知言語学/英語学全般(描写の立場<1>：表現における視点)	描写の立場(1)の復習，発表/レポートの作成準備		
第11回	発表D(第3回)；認知言語学/英語学全般(描写の立場<2>：実証研究)	描写の立場(2)の復習，発表/レポートの作成準備		
第12回	発表D(第4回)；認知言語学/英語学全般(描写の立場<3>：日英比較)	描写の立場(3)の復習，発表/レポートの作成準備		
第13回	発表D(第5回)；認知言語学/英語学全般(オノマトペ<1>：具体例とその対応関係)	オノマトペ(1)の復習，発表/レポートの作成準備		
第14回	発表D(第6回)；認知言語学/英語学全般(オノマトペ<2>：日英比較)	オノマトペ(2)の復習，発表/レポートの作成準備		
第15回	総括：レポート最終指導，学習内容の全体的復習	レポート仕上げ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 期末レポートの他に、毎回の授業において課題が課せられる。			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 口頭発表が2回ある。			
受講態度他	20% 積極的な参加(発表・質問等)を考慮する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学習態度(授業参加度・プレゼン発表)や課題/レポートを重視する。 発表やレポートはしっかりと時間をかけ準備をし、自分でも十分に満足のものにすること。 細かい授業のルールについては、第1回の授業で配布する。			
教科書	プリントを配布する。			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中、必要に応じて紹介する。			
オフィスアワー	月曜日と火曜日と水曜日の昼休み(予約が望ましい)	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	宮原 牧子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>前期に引き続き、ヴィクトリア朝時代のイギリスのバラッド詩を精読、鑑賞、翻訳します。より深い理解を基に、より完成度の高い翻訳を目指しましょう。</p> <p>なお、完成した翻訳作品は、『英国バラッド詩アーカイブ』 (<a href="http://literaryballadarchive.com/">http://literaryballadarchive.com/</a>) に掲載されます。担当作品は、責任をもって仕上げてください。</p> <p>①詩人と作品を選定します。(担当者・担当作品については第2回にリストを作成します)  ②時代背景や伝記について調べます。また、詩人の他の作品も読みます。  ③作品を精読します。 ④試訳を全員で検討します。 ⑤翻訳作品を完成させます。</p>			
到達目標	1. 英詩を正確に読み、理解できるようになること 2. 文学用語、詩人、作品、時代背景に関する知識を深めること 3. 作品にふさわしい日本語で詩を訳すこと			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 前期の講評			第2回の準備 (作品の選定)	
第2回 インTRODAGクション 「翻訳とは一その2」			担当者はレジメを作成・担当者以外も作品を精読	
第3回 詩の精読と翻訳、およびディスカッション (1)			担当者はレジメを作成・担当者以外も作品を精読	
第4回 詩の精読と翻訳、およびディスカッション (2)			担当者はレジメを作成・担当者以外も作品を精読	
第5回 詩の精読と翻訳、およびディスカッション (3)			担当者はレジメを作成・担当者以外も作品を精読	
第6回 詩の精読と翻訳、およびディスカッション (4)			担当者はレジメを作成・担当者以外も作品を精読	
第7回 詩の精読と翻訳、およびディスカッション (5)			担当者はレジメを作成・担当者以外も作品を精読	
第8回 詩の精読と翻訳、およびディスカッション (6)			担当者はレジメを作成・担当者以外も作品を精読	
第9回 翻訳作品の校正 (1)			担当者はレジメを作成・担当者以外も作品を精読	
第10回 翻訳作品の校正 (2)			担当者はレジメを作成・担当者以外も作品を精読	
第11回 詩の精読と翻訳、およびディスカッション (9)			担当者はレジメを作成・担当者以外も作品を精読	
第12回 翻訳作品の校正 (3)			担当者はレジメを作成・担当者以外も作品を精読	
第13回 翻訳作品の校正 (4)			担当者はレジメを作成・担当者以外も作品を精読	
第14回 翻訳作品の校正 (5)			担当者はレジメを作成・担当者以外も作品を精読	
第15回 翻訳作品の完成			完成させた原稿を提出	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	70% 翻訳作品の完成度により評価します。			
受講態度他	30% 講義への参加度・受講態度などで評価します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	必ず予習をして講義にのぞんでください。 やむを得ず発表の担当の回に欠席する場合は、当日の朝8時までに連絡すること。 欠席が全講義回数の3分の1を超えた場合は、受講資格を認めません。			
教科書	プリント			
指定図書	—			
参考図書	必要に応じて講義中にご紹介します。			
オフィスアワー	水曜日 3限目	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	石井 康仁		単 位	2
授業の目的と概要	<p>このゼミでは、現代生活の中でメディアがいかに大きな位置を占めているか、いかに我々の物の見方を形作っているか、またメディア自体は何に影響されているのか、などのことをテキストを読みながら考える。また、随時英語ニュースを見て、リスニングをしたり、英文雑誌の興味深い記事を読んだりして、より世界情勢の理解を深める。全体としては、4年間のまとめとして、口頭発表やレポート作成を通して、社会に出て役立つように、各自のコミュニケーション・スキルおよび論理的思考力に磨きをかけることを目指す。</p> <p>授業では、毎時間テキストを読み進めていながら、メディアの仕組み、現代社会におけるメディアの位置、などの問題を考え、より国際的な視点から世界を理解する。全体として、現代社会とメディアの両方の理解を深めていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. メディアとはいかなるものか、理解できる。</li> <li>2. メディアがいかに運営されているのかを理解できる。</li> <li>3. 雑誌TIMEの記事や BBC放送、ABC放送のニュースをある程度深く理解できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>卒業ゼミナールは、4年間の大学での学びの仕上げとなるもので、さまざまな科目が関わっている。特に、学科のDP（ディプロマポリシー）4. 英語を活かすための職業上の知識や技能の基礎を身につけることに関わるMedia English A, Bや、DP3. 英語を媒介とする言語・文化・文学について概要を説明できることを目指す科目の現代ポップカルチャー、映画学概論、Visual Literature、Intercultural Communication、Film Communication等に関わりがあり、これらの科目で学んだことを更に深めることになる。要は、現代社会に浸透しているメディアとはいかなるものか、その力、影響、背景等を理解し、現代社会への理解を深めることである。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	Minorities in the Media—The invisible ones	予習：Chap. 11		
第2回	Violence in the Media—The battle for children	予習：Chap. 12		
第3回	Stereotypes in the Media—Convenient images	予習：Chap. 13		
第4回	Where Are Our Role Models?—The lessons from the media	予習：Chap. 14		
第5回	Chap. 11-14の復習、ABC, BBCのニュースを聴く	14章までの復習		
第6回	Television—The little picture box	予習：Chap. 15		
第7回	Manga—The social mirror	予習：Chap. 16		
第8回	The New Media—The history of a revolution	予習：Chap. 17		
第9回	The Internet—New media and new problems	予習：Chap. 18		
第10回	Chap. 15-18の復習、ABC, BBCのニュースを聴く	18章までの復習		
第11回	雑誌TIMEを読む1	資料予習		
第12回	雑誌TIMEを読む2	同上		
第13回	映画というメディアの理解	同上		
第14回	映画というメディアの分析	同上		
第15回	まとめ	全体の復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	50％ 学期末のレポートの評価による			
小テスト等	-			
成果発表	30％ 研究成果発表（プレゼンテーション）を実施する			
受講態度他	20％ 授業中の発表、出欠・遅刻の評価はここで行う			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	テキストは英語で書かれているので、予習を怠らずに参加することが大事。一般的規定により、出席は講義回数の3分の2以上が必須。			
教科書	J. Schauls, Fish in Water. (Macmillan Language House)			
指定図書	石坂春秋『レポート・論文・プレゼンスキルズ』くろしお出版 苔米地英人『現代版 魔女の鉄槌』フォレスト出版			
参考図書	随時紹介			
オフィスアワー	月曜日 13:30～15:00、火曜日 13:30～14:40	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ	開講時期	後期
担当教員	C. B. Painter	単位	2
授業の目的と概要	文化とコミュニケーション 第二部 (ゼミナールでは英語を使用します。) コミュニケーションの概念と学説はほとんどが欧米と欧米文化からのものです。それゆえにコミュニケーションとは「独自の・他者に依存しない形」がモデルとなり広がっています。その反面、「相互依存」のモデルは一般的に無視される傾向にあります。受講生は、これら二つの視点を比較し、よりバランスのとれた視野を得ることができます。そして、自己と向きあうことと社会的責任を得ることができる。本ゼミナールでは、以下(授業計画)の様ないくつかの学説をもとにディスカッションを展開してゆきます。これらの理論や見解を考察・比較し、ディスカッションを進めることで、受講生の文化理解を深め、コミュニケーションへの洞察力を高めます。そしてより充実した異文化経験を増やすことに役立ちます。この講義に参加し協力しあうことで、英会話とディスカッション能力が向上する。		
到達目標	受講生は、どのように文化がコミュニケーション行動に影響し、どのように文化が研究者により次のように二つに分類されるかを説明することができる： (a)「集団主義」において、個人は「相互依存」つまり、自分自身を他と接続・関連した存在であるととらえています(通常欧米では見受けられない)。一方 (b)「個人主義」において、個人は「自己依存」と「他から独立した存在」であり、自分自身をそれぞれが個別で独自性のある存在であるととらえています(通常欧米で見られる)。 内容の理解が自己の自覚を促進させ、それによって社会的責任を増幅させる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	1. 個人の行動が他の出来事にどれほど影響(コントロール)しているか？本人は感じるか？ 統制(影響力、コントロールする力)の所在、自分を強化するものが自身の内にあるか、外にあるか	第1課題	
第2回	1. 個人の行動が他の出来事にどれほど影響(コントロール)しているか？本人は感じるか？ 統制(影響力、コントロールする力)の所在、自分を強化するものが自身の内にあるか、外にあるか	第1課題	
第3回	1. 個人の行動が他の出来事にどれほど影響(コントロール)しているか？本人は感じるか？ 統制(影響力、コントロールする力)の所在、自分を強化するものが自身の内にあるか、外にあるか	第1課題	
第4回	2. 欺瞞コミュニケーション：道徳上の選択か、それとも社会的必然性か	第2課題	
第5回	2. 欺瞞コミュニケーション：道徳上の選択か、それとも社会的必然性か	第2課題	
第6回	3. 自己開示(自分のことについて明かす)：自慢話対自己批判	第3課題	
第7回	3. 自己開示(自分のことについて明かす)：自慢話対自己批判	第3課題	
第8回	3. 自己開示(自分のことについて明かす)：自慢話対自己批判	第3課題	
第9回	4. 沈黙：沈黙はコミュニケーション不全から生じるのか、もしくは無視された構成部分なのか	第4課題	
第10回	4. 沈黙：沈黙はコミュニケーション不全から生じるのか、もしくは無視された構成部分なのか	第4課題	
第11回	5. 異文化接触で文化変容を起こす変容能力のモデル：新しい文化への一方的同化又は二文化間のコミュニケーション能力	第5課題	
第12回	5. 異文化接触で文化変容を起こす変容能力のモデル：新しい文化への一方的同化又は二文化間のコミュニケーション能力	第5課題	
第13回	5. 異文化接触で文化変容を起こす変容能力のモデル：新しい文化への一方的同化又は二文化間のコミュニケーション能力	第5課題	
第14回	5. 異文化接触で文化変容を起こす変容能力のモデル：新しい文化への一方的同化又は二文化間のコミュニケーション能力	第5課題	
第15回	復習	復習ポイント	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	33.3% 定期試験		
レポート	33.3% 5つの課題 (6.66% x 5 = 33.3%)		
小テスト等	なし		
成果発表	33.3% 5つの課題の口頭発表と質疑応答 (6.66% x 5 = 33.3%)		
受講態度他	評価には含めないが、出席については履修規程第10条(2)に従う(5度を超えると無資格)。注：遅く二度=欠席一度。他の仕事をすする、携帯電話を使う、しゃべるのは成績評価を一つのレベルによって減少する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業を受けた後は、必ずテキストを再読し、復習すること。		
教科書	必要に応じてテキストとレジユメを配布します。必要に応じてテキストを使用し、ビデオ鑑賞を交えます。		
指定図書	なし		
参考図書	英和辞書、和英辞書、英英辞書(The Oxford Advanced Learners' Dictionary of English等)。		
オフィスアワー	金曜日 14:50-15:50	メールアドレス	

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	小林 久泰		単位	2
授業の目的と概要	この授業は、卒業論文の完成に向けて、前期に引き続き資料、参考文献の収集と読解に取り組み、論文としてまとめる方法を身につけることを目的とする。 前期の成果を基に問題点を整理し、さらに不足した資料などを補いながら、実際に自分の見解をまとめていく作業をしていく。最終的に卒業論文を完成させるために、具体的に指導していく演習となる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要な資料を正確に読解し、批判的に分析することができる。</li> <li>2. 資料を基に自分の見解を論理的な文章で書くことができる。</li> <li>3. 研究の結果を正しい書式に則って論文にまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	最終アウトラインの作成	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第2回	口頭発表とディスカッション：本論2（1）	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第3回	口頭発表とディスカッション：本論2（2）	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第4回	進行状況の確認と指導	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第5回	口頭発表とディスカッション：本論3（1）	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第6回	口頭発表とディスカッション：本論3（2）	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第7回	口頭発表とディスカッション：本論4（1）	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第8回	口頭発表とディスカッション：本論4（2）	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第9回	進行状況の確認と指導	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第10回	進行状況の確認と指導	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第11回	進行状況の確認と指導	資料収集、資料分析、原稿執筆、参考文献表作成		
第12回	卒業論文の原案完成	発表準備		
第13回	口頭発表とディスカッション：最終発表（1）	発表準備		
第14回	口頭発表とディスカッション：最終発表（2）	発表準備		
第15回	編集作業	編集作業		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	70% 提出された論文の内容を評価する。卒論として完成できなくても、演習の成果をレポートにまとめなければならない。			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30% 演習への参加意欲、準備の完成度を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	意欲を持って積極的に取り組む姿勢のない者は指導できない。 週に1度は状況を報告すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜指示する。			
オフィスワー	月曜2講時	メールアドレス		



授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	三日月 雅子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>このゼミの重要な課題は、多文化主義の社会で必要とされる専門知識を背景にした実践的な英語力を身につけることです。この基本的な認識を基に、受講生がAirline関連の英語を学び、基礎知識を養い、理解力を高めることを目的にします。受講生は各テーマに関する英語文献を学び調べることで、その分野の理解を深め、様々な視点で英語をとらえることもできるようになります。さらに、その過程で論理的思考力、問題解決力、特定分野の知識・技能も身につくことと期待しています。</p> <p>後期は、Airline関連の英語そのものもつ規則性や特徴を、文法および意味論の立場から、時に語用論の見解を交えながら考察していきます。ゼミは受講者の発表を軸に進めます。調べた内容を全員の前で効果的に発表できるよう技術的な側面も指導していきたいと思ひます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Airline分野の英語に関するテーマの一つを選び、英文を正確に読み理解する。</li> <li>2. 調べたことを、的確かつ正確な言葉で口頭発表をする。</li> <li>3. 講義で学んだAirline分野の知識に関して知識を深める。</li> <li>4. 講義中の質疑応答やディスカッションなどでコミュニケーションスキルを向上する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回 前期の講評と発表テーマ決め		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第 2回 発表第1回 ディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第 3回 発表第1回 ディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第 4回 発表第2回 ディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第 5回 発表第2回 ディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第 6回 発表第3回 ディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第 7回 発表第3回 ディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第8回 発表第4回 ディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第 9回 発表第4回 ディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第10回 発表第5回 ディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第11回 発表第5回 ディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第12回 発表第6回 ディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第13回 発表第6回 ディスカッション・質疑応答		発表担当者は資料を作成・担当者以外も資料を精読		
第14回 学習内容の復習とディスカッション・質疑応答		学習内容の復習		
第15回 総括		学習内容の全体的復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 毎回の授業の課題			
小テスト等	なし			
成果発表	60% 口頭発表。			
受講態度他	20% 積極的な参加(発表・質問等)。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>学習態度(授業参加度・プレゼン発表)や課題を重視する。 発表は十分な時間をかけ準備をして臨むこと。</p>			
教科書	プリントを配布する。			
指定図書	特になし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日：昼休みと4限以降 金曜日：昼休み	メールアドレス		

授業科目	【閉講】卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	中村 テーマ		単位	2
授業の目的と概要	Students will be able to understand how language is affected by social factors in everyday life. They will be able to recognize, identify, and generate speech elements in communication in varied social settings such as cross-cultural settings, non-verbal communication and gender communication. Students practice with initial discourse completion exercises based on a specific speech act, followed by readings and analysis for comprehension. Practice in creating their own discourse is offered through the choice of a variety of situations based on the specific speech act set.			
到達目標	Students will paraphrase readings on each communicative mode, complete speech acts in open-ended discourse format, and generate their own discourse on suggested speech act situations. They will present the speech act discourse supported by analysis from the readings.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Requests			Unit 6	
第2回 Speech acts: student-generated			予習	
第3回 Presentations			予習	
第4回 Apologies			Unit 7	
第5回 Speech acts: student-generated			予習	
第6回 Presentations			予習	
第7回 Refusals			Unit 8	
第8回 Speech acts: student-generated			予習	
第9回 Presentations			予習	
第10回 Opening and closing conversations			Unit 9	
第11回 Speech acts: student-generated			予習	
第12回 Presentations			予習	
第13回 Discourse completion survey			Unit 10	
第14回 Summarize surveys			予習	
第15回 Presentations			予習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	None			
レポート	None			
小テスト等	-			
成果発表	100% (5 presentations at 20% each)			
受講態度他	None			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Attendance and active participation in the class is required.			
教科書	初回の授業で指示します。			
指定図書	None			
参考図書	Appropriate library references to be announced in class			
オフィスアワー	月曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	荒巻 龍也		単位	2
授業の目的と概要	1. 映像メディアならびにメディア産業（放送メディア含む）について理解を深める。 2. 映像メディアコンテンツについて理解を深め、分析をもとに評価をする。 3. 企画から、撮影、編集、完成までの映像コンテンツの作成方法を身につける。 4. レポート作成方法を理解し、身につける。 「卒業ゼミナールⅠ」に引き続き、映像メディア、映像メディアコンテンツならびにメディア産業（放送メディア含む）に関する調査・研究（映像評価含む）と映像コンテンツの制作（方法）を中心に行っていきます。			
到達目標	1. 映像メディアやメディア産業などについて調査・研究を行いレポートにまとめることができるようになる。 2. 企画から完成まで映像コンテンツを作成することができるようになる。 3. 映像メディアコンテンツの現状について説明ができるようになる。 4. 資料等を参考にして、自分の考えをまとめ、報告することができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連する科目：基礎ゼミナール、研究ゼミナール、卒業論文・制作、メディア論、テレビ論、メディア文化論、メディア研究 など			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	CM映像制作の企画、絵コンテ確認		絵コンテの作成、ロケハン	
第2回	撮影の方法、CM映像制作の撮影準備		CM映像制作のロケハン、撮影日程等作成	
第3回	CM映像制作の撮影		撮影素材のテープおこし、素材の確認	
第4回	CM映像制作の編集手順、CM映像制作の編集		CM映像制作の編集準備・編集	
第5回	映像リテラシー(2)テレビドラマ1 テレビドラマの映像言語		映像リテラシー課題1	
第6回	映像リテラシー(2)テレビドラマ2 テレビドラマのなかの家族		映像リテラシー課題2	
第7回	映像リテラシー(2)テレビドラマ3 テレビドラマが売っている「商品」		映像リテラシー課題3	
第8回	映像リテラシー(2)テレビドラマ4 テレビドラマと社会の動き		映像リテラシー課題4	
第9回	後期映像制作（企画、絵コンテ）		後期映像制作の企画書作成、後期映像制作の絵コンテ作成	
第10回	後期映像制作（絵コンテ、撮影準備）		後期映像制作撮影日程作成とロケハン	
第11回	後期映像制作（撮影）		撮影素材のテープおこし、素材の確認	
第12回	後期映像制作（編集）		後期映像制作編集用カット表作成と映像編集	
第13回	映像配信の現状と課題（調査と分析）、映像配信とビジネス		映像（配信）関連の情報検索、調査	
第14回	映像配信を取り巻く環境（調査と分析）、映像配信と社会		映像（配信）関連の情報、調査結果の整理	
第15回	映像（配信）関連のまとめ＋発表		レポート課題・プレゼンテーション課題作成、発表準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	90% 映像制作課題（作品）（30%）、映像メディア関連課題（20%）、映像リテラシー課題（20%）、テキスト（『映像メディアのつくり方』）練習課題（20%）			
小テスト等	0% なし			
成果発表	0% なし			
受講態度他	10% 出席状況・受講態度ならびに授業中やフォーラムでの発言			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業では予習・復習が効果的にできるように、LMS（e-Learningシステム）である「筑女ネット」を利用しますので、少なくとも授業でわからなかったところの確認や授業に出席できなかった場合のフォローアップをしておいてください。授業はネットワークに接続したノートPCを利用して行うこともあります。 適宜テキスト『映像メディアのつくり方』を参照しながら、その練習課題も行っていきます。 授業ではグループで行う作業も多くなります。			
教科書	なし（「筑女ネット」のオンライン教材ならびにプリント）			
指定図書	なし			
参考図書	授業でその都度紹介します。			
オフィスアワー	火曜日 11:00 - 12:00、金曜日 10:00 - 12:00	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	橋本 嘉代		単位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出版メディアを主な対象とし、コンテンツ制作を行うPBL (Project Based Learning) 型授業。</li> <li>・全員で一つの雑誌またはデジタルコンテンツの制作に取り組み、コンテンツ制作能力を身につける。</li> <li>・制作プロセスで発生する他者との共同作業、取材交渉などを通じてコミュニケーション能力、プロジェクト管理能力も磨く。</li> <li>・著作権、肖像権、出版活動に必要な基本的な知識を学ぶ。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取材・調査した内容を文章や画像を用いて整理し、コンテンツにまとめる力を身につける。</li> <li>・取材協力者や他の受講生と適切なコミュニケーションをとることができる。</li> <li>・プロジェクトのスケジュール管理ができる。</li> <li>・著作権、肖像権、校正など、出版活動に必要な基本的な知識を身につける。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	進捗状況・問題点の共有。レイアウトフォーマットの確認。発表順決定。	原稿執筆・提出。報告準備。取材準備(取材ページは9月中にアポ取り開始)		
第2回	経過報告(前半) →全体の方向性確認。個人の課題明確化(以下同)	原稿修正、ほか(自分でスケジュールを立て、課題に取り組む。以下同)		
第3回	経過報告(後半) →修正案の提出&ピアレビュー(随時)	原稿修正、ピアレビュー(学生同士で講評を重ね、練る)		
第4回	担当ページのレイアウト制作(=10月31日締切)	デザイン制作、ピアレビュー。※アポ取り終了		
第5回	レイアウト修正、完成度を高める。原稿(Word)	デザイン制作・修正、ピアレビュー、取材(11月前半に終了)		
第6回	初稿流し込み、印刷イメージの確認	デザイン制作(取材ページの原稿は11月中に完成→12月第1週に本人確認)		
第7回	文字校正(回覧し、相互に赤入れ)	校正記号を学ぶ、他の人の原稿を読む		
第8回	文字校正(回覧し、相互に赤入れ)	他の人の原稿を読む。		
第9回	原稿再修正→デザインへの流し込み	原稿修正、エラーの修正		
第10回	デザインの最終調整	取材対象者への原稿確認、12月要修正箇所の反映		
第11回	PDF化①	画像のファイルへのリンクづけや色補正など、ファイルの手直し		
第12回	PDF化②	画像のファイルへのリンクづけや色補正など、ファイルの手直し		
第13回	卒業制作、完成	最終調整		
第14回	成果発表会	工夫したところ、反省点などを整理しておく		
第15回	全体の総括	全体を振り返っての感想や今後の課題などを整理しておく		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	90%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・締切から逆算し、スケジュール管理をしましょう。</li> <li>・自分で調べ、学ぶ習慣をつけましょう(教科書やInDesign動画など、学ぶ材料は豊富にあります)。</li> <li>・共同作業における貢献度、制作物のクオリティを評価の対象とします。</li> </ul>			
教科書	①柳田寛之『DTP印刷デザインの基本』玄光社、②編集の学校/文章の学校(監修)、『エディターズ・ハンドブック 編集者・ライターのための必修基礎知識(Edi tor's Handbook)』雷鳥社			
指定図書	なし			
参考図書	ARENSKI『InDesignをフルに使う Girls Magazine DTP』技術評論社			
オフィスアワー	各授業の前後 または 火曜日 14:50-16:20	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	高森 暁子		単位	2
授業の目的と概要	前期「卒業ゼミナールⅠ」で学んだ研究手法をもとに、後期は各自が選んだ文学作品を対象に、それぞれの特徴や改作の意味を考えていきます。原作がどのように解釈され、どのように各メディアにおいて表現され、どう受容されてきたのかについて考察します。その内容を原稿にまとめ、プレゼンテーションを行います。プレゼンテーション後に、そこで取り上げられたテーマや、浮かび上がってきた問題点について、全員で議論を行います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 原作の内容を正しく理解し、そのテーマやモチーフについて説明することができる。</li> <li>2. 原作とさまざまなメディア作品について、互いの違いを認識し、批評的に分析することができる。</li> <li>3. それぞれのメディア作品の特徴や、どのような視点から制作されたものかを具体的に説明することができる。</li> <li>4. それぞれのメディア作品が、どのような人々によって、どう受容されているのかを調べることができる。</li> <li>5. 自らの研究成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		プレゼンテーションで取り上げる作品を最終決定する		
第2回 プレゼンテーションの方法について		様々なプレゼンテーションを動画サイトで閲覧し、ヒントを得る		
第3回 教師による模擬プレゼンテーション		次回授業で扱う文学作品について調べる。		
第4回 学生によるプレゼンテーション(1)と、それに関する全員による議論		次回授業で扱う文学作品について調べる。		
第5回 学生によるプレゼンテーション(2)と、それに関する全員による議論		次回授業で扱う文学作品について調べる。		
第6回 学生によるプレゼンテーション(3)と、それに関する全員による議論		次回授業で扱う文学作品について調べる。		
第7回 学生によるプレゼンテーション(4)と、それに関する全員による議論		次回授業で扱う文学作品について調べる。		
第8回 学生によるプレゼンテーション(5)と、それに関する全員による議論		次回授業で扱う文学作品について調べる。		
第9回 学生によるプレゼンテーション(6)と、それに関する全員による議論		次回授業で扱う文学作品について調べる。		
第10回 学生によるプレゼンテーション(7)と、それに関する全員による議論		次回授業で扱う文学作品について調べる。		
第11回 学生によるプレゼンテーション(8)と、それに関する全員による議論		次回授業で扱う文学作品について調べる。		
第12回 学生によるプレゼンテーション(9)と、それに関する全員による議論		次回授業で扱う文学作品について調べる。		
第13回 学生によるプレゼンテーション(10)と、それに関する全員による議論		次回授業で扱う文学作品について調べる。		
第14回 学生によるプレゼンテーション(11)と、それに関する全員による議論		次回授業で扱う文学作品について調べる。		
第15回 学生によるプレゼンテーション(12)と、それに関する全員による議論。後期レポートに関する説明。		後期レポートの作成準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% (期末レポート)			
小テスト等	なし			
成果発表	40% (プレゼンテーション)			
受講態度他	20% (議論への積極的な参加を求めます)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席回数6回に達すると単位修得の資格を失います。欠席が4回以上の者は、特別な事情がない限り、「受講態度」の項目を大きく減点します。遅刻・早退は欠席0.5回にカウントします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	金曜の昼休み	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	間瀬 玲子		単 位	2
授業の目的と概要	卒業ゼミナールⅠに続き、フランス文化に関する配布資料を参考にしながら他のゼミ生と積極的に議論を行う。その議論の過程で前期に考えた研究テーマに検討を加え、決定する。前もって筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとにプレゼンテーションを行う。そして問題解決能力と論理的思考力を駆使して、研究成果を最終レポートにまとめることを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分で考えたフランス文化に関する研究テーマを再検討し、探究することができる。</li> <li>2 配布資料の内容に関して議論を行うことができる。</li> <li>3 筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとにプレゼンテーションをすることができる。</li> <li>4 研究の成果をレポートにまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 授業の概要		予習 シラバスを前もって読む		
第2回 生活という名の文化 (グルメ)		予習 配布資料 (第2回)		
第3回 生活という名の文化 (ワイン)		予習 配布資料 (第3回)		
第4回 生活という名の文化 (ファッション、ブランド)		予習 配布資料 (第4回)		
第5回 さまざまな芸術のかたち (城と庭園)		予習 配布資料 (第5回)		
第6回 さまざまな芸術のかたち (オペラ、バレエ)		予習 配布資料 (第6回)		
第7回 さまざまな芸術のかたち (印象派)		予習 配布資料 (第7回)		
第8回 研究テーマの決定について議論を行う		準備 研究概要を考える		
第9回 世界の都パリ (地下鉄)		予習 配布資料 (第9回)		
第10回 世界の都パリ (ルーヴル美術館、オルセー美術館)		予習 配布資料 (第10回)		
第11回 世界の都パリ (パリを見下ろすモニュメント)		予習 配布資料 (第11回)		
第12回 発表資料の作成の仕方		準備 基礎ゼミナールの教科書の該当箇所を読み直す		
第13回 プレゼンテーションをきわめる		準備 基礎ゼミナールの教科書の該当箇所を読み直す		
第14回 レポートの書き方		準備 基礎ゼミナールの教科書の該当箇所を読み直す		
第15回 研究発表会		発表要旨を作成し、筑女ネットにアップする		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 最終レポート(A4版8枚、参考文献・図版を含む)			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 研究発表			
受講態度他	30% 質問等による授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑女ネットに授業の進捗、最新情報を掲載しますので、頻りにチェックしてください。			
教科書	教科書はありません。授業資料(冊子体)を配布します。			
指定図書	舟田詠子『パンの文化史』講談社、講談社学術文庫、田村毅『フランス文化読本 フランスを知るための16の窓』丸善出版、マイケル・ブース『英国一家、フランスを食べる』飛鳥新社			
参考図書	三浦信孝 『現代フランス社会を知るための62章』明石書店			
オフィスワー	水曜日4講時	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	一ノ瀬 元史		単 位	2
授業の目的と概要	ネットワーク社会においては、ICTが暮らしを支え、コミュニケーションのあり方を変化させ、またビジネスのあり方も変化させています。そこには、情報社会の様々な問題が生じています。それら諸問題を理解し、研究し考察します。			
到達目標	a) 情報社会の問題が理解できる。 b) 探索した情報社会の問題について口頭発表し、質疑応答ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	社会の多様な問題に取り組み課題解決力を身につけましょう。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 授業の概要 ガイダンス			情報社会に関するニュースについて発表準備	
第2回 情報社会に関する記事について 概要と意見発表			新聞やインターネットで情報社会に関する記事について発表準備	
第3回 暮らしに役立つICTについて 意見交換			新聞やインターネットで情報社会に関する記事について発表準備	
第4回 情報社会に関する記事について 概要と意見発表			新聞やインターネットで情報社会に関する記事について発表準備	
第5回 情報社会に関する記事について 概要と意見発表			新聞やインターネットで情報社会に関する記事について発表準備	
第6回 情報社会の諸問題について意見交換			新聞やインターネットで情報社会に関する記事について発表準備	
第7回 情報社会に関する記事について 概要と意見発表			参考資料の熟読・発表準備	
第8回 情報社会に関する記事について 概要と意見発表			新聞やインターネットで情報社会に関する記事について発表準備	
第9回 情報社会に関する記事について 概要と意見発表			新聞やインターネットで情報社会に関する記事について発表準備	
第10回 参考資料について 概要と意見発表			新聞やインターネットで情報社会に関する記事について発表準備	
第11回 情報社会の諸問題について			情報社会の問題の探索	
第12回 情報社会の諸問題について			口頭発表準備	
第13回 情報社会の諸問題について			口頭発表準備	
第14回 情報社会の諸問題について			口頭発表準備	
第15回 まとめ			なし	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	%			
レポート	40%			
小テスト等	%			
成果発表	発表と質疑応答 30%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑紫女学園大学の電子メールアドレス宛に送信された電子メールを少なくとも毎日1回は閲覧すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワ-	授業の前後もしくは電子メールで確認すること	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	田口 純		単 位	2
授業の目的と概要	2016年度の卒業ゼミナール（田口担当：略称「あたぐちゼミ」）のテーマは「DVD を活用した現代英語研究 -sitcomからみる現代英語とその文化-」です。「あたぐちゼミ」では、sitcomのDVDを活用しながら、それぞれの作品に出てくる現代英語の特徴やその文化について研究していきます。前期はsitcom作品のうち「フレンズ」を取り上げます。後期は引き続き「フレンズ」を取り上げるほか、別の作品も扱っていききたいと思います。前期・後期とも、それぞれの作品に出てくる現代英語の特徴やその文化について、各自に発表してもらいます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代アメリカのシットコム作品についての理解を深めることができる。</li> <li>・シットコム作品を題材にして、現代アメリカの言語や文化の理解を深めることができる。</li> <li>・シットコム作品を題材にして、効果的な英語学習法を探ることができる。</li> <li>・効果的なプレゼンの仕方を会得することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 オリエンテーション(授業の進め方など)		次回の自己紹介プレゼンの準備		
第2回 フレンズ(13)		次回担当者のプレゼン準備		
第3回 フレンズ(14)		次回担当者のプレゼン準備		
第4回 フレンズ(15)		次回担当者のプレゼン準備		
第5回 フレンズ(16)		次回担当者のプレゼン準備		
第6回 フレンズ(17)		次回担当者のプレゼン準備		
第7回 フレンズ(18)		次回担当者のプレゼン準備		
第8回 フレンズ(19)		次回担当者のプレゼン準備		
第9回 フレンズ(20)		次回担当者のプレゼン準備		
第10回 その他のsitcom(1)		次回担当者のプレゼン準備		
第11回 その他のsitcom(2)		次回担当者のプレゼン準備		
第12回 その他のsitcom(3)		次回担当者のプレゼン準備		
第13回 その他のsitcom(4)		次回担当者のプレゼン準備		
第14回 その他のsitcom(5)		次回担当者のプレゼン準備		
第15回 授業のまとめ		後期授業の総まとめプレゼンの準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	30%：後期の総まとめプレゼンテーション			
レポート	20%：評価・感想10%、学期末レポート10%			
小テスト等	なし			
成果発表	30%：パワーポイントによるプレゼンテーション3回			
受講態度他	20%：積極的な授業参加を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業ゼミナールⅠは4年生必修科目です。単位を修得できないと、卒業することができないので注意。4年生は、就職活動(就活)などで欠席することもあるので、就活に行った時には必ず「就職活動による欠席届」に企業から証明をもらって、提出してください。			
教科書	とくになし。			
指定図書	南谷三世著『シットコムで笑え！ 楽しくきわめる英語学習法』エヌティティ出版 キャズカワゾエ著『TVドラマでアメリカ・ウォッチング!』スクリーンプレイ			
参考図書	授業中に適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜・水曜の昼休み、またはメールで相談	メールアドレス		



授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期												
担当教員	J. Stewart		単位	2												
授業の目的と概要	Begin thinking about graduation. The Senior Seminar will serve as a summary of all the skills that students have learned during their three years of university studies. These include listening, speaking, reading and writing, which are all considered aspects of real-life communication.															
到達目標	The seminar will be conducted in English at an advanced level. Only students who are serious about studying English should enroll in this section. Class time will be spent 1) reading a novel, 2) discussing students' research, and 3) preparing individual homepage presentations.															
この授業が目的としているDPや関連する科目など	This course partially satisfies the requirements for graduation according to the English Media Department's 2013年度 Curriculum.															
授業計画	授業内容	授業外学修など														
第1回	Course overview, syllabus; discussion of individual assignments / reports. Chapter 1 - The Wire Tap; Chapter 2 - Stragglers	Pages 1 - 13														
第2回	Flying Fish; Shipwrecked	Pages 14 - 27														
第3回	The Wayfaring Dolphin; Paradise Lost	Pages 28 - 42														
第4回	The Shires; The Waterfall	Pages 43 - 56														
第5回	A Little Nut Music; A Better Mousetrap	Pages 57 - 69														
第6回	The Barb'd Wire; Turtledove Farm	Pages 70 - 83														
第7回	The Barn Swallows; The Queen's Flight	Pages 84 - 96														
第8回	The Strolling Bones; The Beagles	Pages 97 - 110														
第9回	The Lyre Birds; The Faerie Queene	Pages 111 - 125														
第10回	The Greening of Larkwood; The Lamb and Ewe	Pages 126 - 137														
第11回	The Bitter Pill; Hickory Smoked Cheeses	Pages 138 - 152														
第12回	A Band of Angels; A Taste of Honey	Pages 153 - 166														
第13回	The Recaps; The Peacock	Pages 167 - 179														
第14回	The Reform of Mary Contrary; The Mighty Knights of Larkwood	Pages 180 - 191														
第15回	The Wedding of the Mice; The Three Anchors	Pages 192 - 202														
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など															
定期試験	0%															
レポート	50% (出席 - 9) x (レポート) = 成績 See examples below based on a report graded at 75%. Note: Students who use a computer program to translate their report from an Internet site will FAIL !!!!															
小テスト等	50% (Based on in-class studies.)															
成果発表	0%															
受講態度他	0%															
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<table border="0"> <tr> <td>出席 = 16</td> <td>16 - 9 = 7</td> <td>7 x 75% = 525%</td> <td>Final Grade = 100%</td> </tr> <tr> <td>出席 = 10</td> <td>10 - 9 = 1</td> <td>1 x 75% = 75%</td> <td>Final Grade = 75%</td> </tr> <tr> <td>出席 = 9</td> <td>9 - 9 = 0</td> <td>0 x 75% = 0%</td> <td>Final Grade = 0%</td> </tr> </table> <p>(Excuses for job interviews will be entertained but will not affect this already-generous grading system.)</p>				出席 = 16	16 - 9 = 7	7 x 75% = 525%	Final Grade = 100%	出席 = 10	10 - 9 = 1	1 x 75% = 75%	Final Grade = 75%	出席 = 9	9 - 9 = 0	0 x 75% = 0%	Final Grade = 0%
出席 = 16	16 - 9 = 7	7 x 75% = 525%	Final Grade = 100%													
出席 = 10	10 - 9 = 1	1 x 75% = 75%	Final Grade = 75%													
出席 = 9	9 - 9 = 0	0 x 75% = 0%	Final Grade = 0%													
教科書	The Lyre Birds, by E.J. Stewart ISBN 978-0-6151-8762-4															
指定図書	Keys to Understanding will be passed out each week. Students must turn this in at the end of the class period. Required. URL: <a href="http://www.lyre-birds.com">http://www.lyre-birds.com</a>															
参考図書	HS Site Builder (continually used for home page construction).															
オフィスアワー	月曜日1講目; Tuesday Period 3	メールアドレス														

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	吉野 嘉高		単 位	2
授業の目的と概要	卒業ゼミナールⅠで学んだことを基に、発展的にオリジナルの映像コンテンツを制作することで、情報発信能力としてのメディアリテラシーを向上させる。不特定多数のオーディエンスに向かって情報発信することを想定して映像コンテンツを制作する。			
到達目標	編集に工夫を加えることで、より質の高い映像コンテンツをつくることことができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション			取材スケジュールを作成する。	
第2回 企画について			企画案を作成する。	
第3回 個々の学生による企画プレゼンテーション			予習・課題	
第4回 企画プレゼンテーションに基づいたディスカッション			プレゼンのポイントをまとめる。	
第5回 取材構成について			取材構成表をまとめる。	
第6回 取材・撮影（1）基礎			予習・課題	
第7回 取材・撮影（2）応用			予習・課題	
第8回 取材・撮影（3）実践			撮影上の問題点をまとめる。	
第9回 キャプションの作成			キャプションを作成する。	
第10回 編集構成			予習・課題	
第11回 仮編集			編集構成の改善案を作成する。	
第12回 本編集			予習・課題	
第13回 テロップ入れ			テロップ原稿を作成する。	
第14回 完成した作品の発表			予習・課題	
第15回 まとめ			小レポートを作成する。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	30%			
小テスト等	—			
成果発表	30%（完成させたコンテンツを評価）			
受講態度他	40%（ディスカッションやコンテンツ制作への貢献度（例えば取材や編集への参加の度合いなど）で評価。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	情報伝達、共有を重視すること。			
教科書	吉野嘉高著『テレビ番組制作実践講座 企画・取材・編集のメソッド』権歌書房（とうかしょぼう）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	一木 順		単 位	2
授業の目的と概要	ポピュラー文化を通して現代社会の諸相について考えるということを主な目的とする。それによって、さまざまな政治的、経済的、社会的関係の中にとりこまれた自分自身が、社会とどのような関係を結んでいるのかを理解する。			
到達目標	a) 自分が普段親しんでいるポピュラーメディア（映画、まんが、音楽、テレビなど）の中から自分で問題を発見することができる。 b) その問題について、先行研究、参考文献の検索、フィールドワーク、インタビュー、アンケートの実施などの調査を行うことができる。 c) 調査結果を文章にまとめて、その問題について自分の言葉で語るすることができる。 d) 問題提起・研究経過・分析解釈を短時間で要約し、口頭発表し、質疑応答に答えて対話することができる。 e) 自分がまとめた議論を電子書籍で出版できる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回 授業の概要の説明		なし		
第 2回 ディスカッションの実際：ディベート準備		グループでのディベート準備		
第 3回 ディスカッションの実際：ディベート		ディベート準備		
第 4回 研究テーマについての発表		研究レポートの概要の提出（A4用紙1～2枚）		
第 5回 研究発表		ミニ発表		
第 6回 研究発表		ミニ発表		
第 7回 研究発表		レポートサマリーの提出		
第 8回 研究発表		レポートサマリーの提出		
第 9回 研究発表		レポートサマリーの提出		
第10回 研究発表		レポートサマリーの提出		
第11回 研究発表		レポートサマリーの提出		
第12回 研究発表		レポートサマリーの提出		
第13回 研究発表		レポートサマリーの提出		
第14回 まとめ		電子書籍の作成		
第15回 まとめ		電子書籍の作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	60％ 授業内の小レポート30%、自分の発表をまとめた電子書籍ファイル30%			
小テスト等	—			
成果発表	30% 自分のテーマについての発表			
受講態度他	10% 受講態度を勘案する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出席は必須である。 授業に際しては、自分の担当部分、発表に関して責任を持って行うこと。やむを得ず自分の発表回に欠席せざるを得ないときは、自分の責任で他の人と発表を代ってもらうこと。			
教科書	特に指定しない			
指定図書	『America on Film』、 『映画分析入門』（ライオン）			
参考図書	授業内で指示			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	妻 海善		単位	2
授業の目的と概要	<p>興味があるテーマを選択し、卒業論文としてスムーズに作成し、仕上げ提出できるようになることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期の続きで、文献を読み、内容を深化させるよう指導する。</li> <li>2. 完成度を高めて卒論として提出できるよう指導する。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 興味があるテーマを設定し、目次を立てて文章としてまとめるスキルを身に付けることができる。</li> <li>2. 論文の作成方法で学んだスキルを、今後職場での報告書作成に生かすことができる。</li> <li>3. 文献検索方法と能力、発表資料を作る方法、プレゼンテーションやコミュニケーションスキルをアップすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本科目は、アジア文化学科DP5「アジアの言語・社会・文化についての学修をもとに自己の関心を深め、多角的な視点から自らの考えを示すことができる」を充足させる授業です。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 A組報告 (A4用紙15枚程度)			課題①準備	
第2回 B組報告 (A4用紙15枚程度)			課題①準備	
第3回 C組報告 (A4用紙15枚程度)			課題①準備	
第4回 A組編集 (A4用紙15枚程度)			課題②準備	
第5回 B組編集 (A4用紙15枚程度)			課題②準備	
第6回 C組編集 (A4用紙15枚程度)			課題②準備	
第7回 A組論文仕上げる (A4用紙15枚程度)			課題③準備	
第8回 B組論文仕上げる (A4用紙15枚程度)			課題③準備	
第9回 C組論文仕上げる (A4用紙15枚程度)			課題③準備	
第10回 論文報告 (PPでプレゼンテーション)			課題④ プレゼンテーション準備	
第11回 論文報告 (PPでプレゼンテーション)			課題④ プレゼンテーション準備	
第12回 ①全員論文提出、②両面コピー提出			課題⑤ 卒論提出	
第13回 最終編集-1			卒論を仕上げる	
第14回 最終編集-2			卒論を仕上げる	
第15回 後期のまとめ			卒論の両面コピー提出	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	課題50% (10点×5回)			
小テスト等	0%			
成果発表	出席率やコミュニケーションスキル20%、プレゼンテーションスキル20%、論文の完成度10%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>①提出物はすべてパソコン入力し、参加人数分準備する。</li> <li>②報告日は必ず守ること、締切日を過ぎた課題は評価しない。</li> <li>③欠席が5回を超えると評価しない(就職活動、病気、その他の理由による欠席は証明書提出要)。</li> <li>④報告日に欠席が予想されるときは、ほかの曜日の報告者とお互いに交渉し、教員に知らせる。</li> </ol>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスワー	火～水曜日の昼休み、	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	石 其琳		単 位	2
授業の目的と概要	自分で研究テーマを決め、自主性を持って研究資料の収集整理が出来ることを目的とする。 本授業は、ゼミ生全員に対して個別指導を行う。後期は前期において行った研究作業の成果を更に具体的にまとめ、文章化を行い論文として仕上げていく作業を進める。			
到達目標	自分の研究対象に対して積極的に資料の収集整理を行い、自分自身の思考表現によって、この研究成果を論文に作成することを目標とする。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	⑤アジアの言語・社会・文化についての学修をもとに自己の関心を深め、多角的な視点から自らの考えを示すことができる。 中国及びアジア関係の科目すべて関連する。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	前期の成果を論文にまとめるため、今後の作業過程について発表する。	レジュメを提出		
第 2回	論文を仕立てる構成を考え、質疑問答を行う。	レジュメを提出		
第 3回	前期の研究成果をもとに論文の目次を立て検討する。	レジュメを提出		
第 4回	各自で論文の文章化を始め、随時に個別指導を行う。	進行状況に関するレジュメを提出		
第 5回	各自で論文の文章化を始め、随時に個別指導を行う。	進行状況に関するレジュメを提出		
第 6回	各自で論文の文章化を始め、随時に個別指導を行う。	進行状況に関するレジュメを提出		
第 7回	全員による中間発表及び討論。	進行状況に関するレジュメを提出		
第 8回	各自で論文の文章化を始め、随時に個別指導を行う。	進行状況に関するレジュメを提出		
第 9回	各自で論文の文章化を始め、随時に個別指導を行う。	進行状況に関するレジュメを提出		
第10回	各自で論文の文章化を始め、随時に個別指導を行う。	進行状況に関するレジュメを提出		
第11回	全員による中間発表及び討論。	進行状況に関するレジュメを提出		
第12回	各自で論文の文章化を始め、随時に個別指導を行う。	進行状況に関するレジュメを提出		
第13回	各自で論文の文章化を始め、随時に個別指導を行う。	進行状況に関するレジュメを提出		
第14回	各自で論文の文章化を始め、随時に個別指導を行う。	進行状況に関するレジュメを提出		
第15回	各自後期の総まとめとして発表を行う。	論文の提出		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% (レジュメなどによる発表)			
小テスト等	なし			
成果発表	50% (後期の総まとめレポートまたは論文)			
受講態度他	0% (受講態度として、質問や発表による授業への積極性を参考にする。)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に指導する際、決められた課題に対して必ず積極的に取り込むこと。</li> <li>・個別指導のため、研究作業の進行状況などについてこまめに報告すること。</li> </ul>			
教科書	個別指導のため、個別に指示をする。			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスワーカー	火、水、木、金	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	横山 豪志		単 位	2
授業の目的と概要	<p>卒業論文の製作に取り組むためのゼミナールです。  具体的には、A. 東南アジアに関する事、またはB. 日本を含むアジアの政治や社会などに関する事、のいずれかについて自分自身でテーマを設定し、資料を収集、分析し、議論を組み立てて卒業論文を製作することが、卒業ゼミナールⅠと併せて、このゼミナールの目的になります。卒業論文を提出しない場合は、それに代わるものとして、卒業レポートを作成することになります。</p> <p>いずれにせよ、議論を組み立てて文章にまとめていきます。  個別指導が中心になりますが、お互いに刺激しあうために報告の時間を重ねることがあります。  最終発表での質疑応答も同様の趣旨から重視します。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前期の成果を発展させ、資料の収集分析を行い、テーマに関する理解を深めることができる。</li> <li>2. 調べたことに基づき、議論を組み立て最終発表ができる。</li> <li>3. 最終発表を踏まえ、卒業論文を書き上げることができる。</li> <li>4. 卒業論文を提出しない場合は、卒業レポートを書き上げることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回 オリエンテーション 演習の目的と進め方		各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第 2回 進捗状況の報告1		各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第 3回 最終発表に向けての確認、進捗状況の報告		各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第 4回 最終発表のためのレジユメの草案作成、個別指導1		各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第 5回 最終発表のためのレジユメの草案作成、個別指導2		各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第 6回 最終発表のためのレジユメの草案作成、個別指導3		各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第 7回 最終発表、発表と質疑応答1		各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第 8回 最終発表、発表と質疑応答2		各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第 9回 論文の書き方に関する最終確認		各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第10回 論文の文章化作業、個別指導1		各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第11回 論文の文章化作業、個別指導2		各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第12回 論文の文章化作業、個別指導3		各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第13回 論文の文章化作業、個別指導4		各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第14回 論文未提出者のレポート作成作業1		各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
第15回 論文未提出者のレポート作成作業2		各人の進捗状況にあわせて、その都度課題を指示する。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 卒業論文または期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 最終発表 (内容、プレゼンテーション)			
受講態度他	30% 各回の報告、他の受講生の発表に対するコメント			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	基本的に結果を求めます。 卒業論文あるいは期末レポートが十分なレベルに達するよう努めてください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	火14:50～16:20、水12:00～13:00、16:30～17:30	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	田村 史子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>目的：卒業演習Ⅰに引き続き演習を行います。卒業演習Ⅱは、グループごと、もしくは個人で行い、夏休み間の研究や調査や実技研修の成果に鑑み、選択したテーマの妥当性を再検討、卒業論文レベルの成果の発表に向けてまとめに入ります。</p> <p>概要：個人単位で、論文にまとめていきます。</p>			
到達目標	<p>1. 3年間、アジアの文化について学んだことを、自分なりに整理することができる。</p> <p>2. アジアの文化についてじっくり考える機会を持てる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回テーマの決定 論文作成		資料集め・執筆		
第2回テーマの決定 論文作成		資料集め・執筆		
第3回テーマの決定 論文作成		資料集め・執筆		
第4回テーマの決定 論文作成		資料集め・執筆		
第5回テーマの決定 論文作成		資料集め・執筆		
第6回テーマの決定 論文作成		資料集め・執筆		
第7回テーマの決定 論文作成		資料集め・執筆		
第8回テーマの決定 論文作成		資料集め・執筆		
第9回テーマの決定 論文作成		資料集め・執筆		
第10回テーマの決定 論文作成		資料集め・執筆		
第11回テーマの決定 論文作成		資料集め・執筆		
第12回テーマの決定 論文作成		資料集め・執筆		
第13回テーマの決定 論文作成		資料集め・執筆		
第14回テーマの決定 論文作成		資料集め・執筆		
第15回テーマの決定 論文作成		資料集め・執筆		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	％			
レポート	60％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	40％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	興味を持てるテーマを見つけ出し、積極的に取り組むように努力してください。			
教科書	随時プリントを用意。			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	小林 知美		単 位	2
授業の目的と概要	卒業論文の執筆をすすめる、完成にいたる。また、完成した論文の内容を口頭発表によつて的確に人に伝える。 研究テーマに応じて分けたグループごとに行う。テーマ決定後、受講者は毎回研究の進行状況を報告する。グループ内での意見交換を経て、研究テーマや方法を改善し、最終的な論文完成へと進む。学期中に後期中間報告会を、論文提出後、公開の口頭発表会を行う。最後に、ゼミ全員の論文を印刷し冊子を作成する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 決定したテーマにそつて、論文形式にのつて執筆し、卒業論文を完成させる。</li> <li>・ 口頭発表会で、卒業論文の内容を、AV機材やレジュメを用いて的確に人に伝える。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	学科DP⑤の「アジアの言語・社会・文化についての学修をもとに自己の関心を深め、多角的な視点から自らの考えを示すことができる。」を目標とする。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	グループ分け		決定テーマについて資料を検討する	
第 2回	グループ指導①：資料の検討・進行状況の報告など		資料検討と論文執筆	
第 3回	グループ指導②：資料の検討・進行状況の報告など		資料検討と論文執筆	
第 4回	グループ指導③：資料の検討・進行状況の報告など		資料検討と論文執筆	
第 5回	グループ指導④：資料の検討・進行状況の報告など		後期報告会の準備	
第 6回	後期報告会		資料検討と論文執筆	
第 7回	グループ指導⑤：内容の検討をへて卒論完成に至る		資料検討と論文執筆	
第 8回	グループ指導⑥：内容の検討をへて卒論完成に至る		資料検討と論文執筆	
第 9回	グループ指導⑦：内容の検討をへて卒論完成に至る		資料検討と論文執筆	
第10回	グループ指導⑧：内容の検討をへて卒論完成に至る		資料検討と論文執筆	
第11回	グループ指導⑨：内容の検討をへて卒論完成に至る		資料検討と論文執筆	
第12回	論文提出		口頭発表会の準備	
第13回	卒論発表会①		冊子編集の準備	
第14回	卒論発表会①		冊子編集の準備	
第15回	冊子編集		冊子編集の準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	0％			
小テスト等	—			
成果発表	50％			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒論完成だけでなく、口頭発表会への参加も義務とする。口頭発表会後の冊子編集にもなるべく参加してください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日の昼休み～3限（他は事前に連絡してください）		メールアドレス	



授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	崔 淑芬		単位	2
授業の目的と概要	<p>卒業論文は大学における4年間の学習の集大成である。前期の卒業演習Ⅰでは、各自、これまで学んできたこと、関心のあること、自践してきたことに基づいて研究テーマの焦点を絞り、それを設定する。論文のテーマに沿って、論文の構想、方向性、方針を設定し、関係資料や文献を調査し、推敲を重ね、研究を進めていく。学術論文としての構成・文章表現・図表の描き方・文献の検索と引用の方法などの指導を行うとともに、関心の研究課題の把握がなされ、自らの研究がその中に位置付けられ、将来展望ができる能力の開発を重視した指導を行う。</p> <p>卒業論文に取り組み目的、意義及び研究テーマの設定を説明し、資料の調べ、まとめ、執筆の方法を丹念に指導します。</p> <p>各自の課題研究（卒業論文）に関わる構想について質疑応答を行いつつ、論文完成に向けての指導を行う。</p> <p>卒業論文に関連する文献を日頃から収集して、熟読するようにする。</p>			
到達目標	<p>1、前期の卒業演習Ⅰでは、論文作成のため、テーマを見つけ、そのテーマに沿った資料の調査、まとめ方法を実践することができる。</p> <p>2、論文の構想、方向性、方針を設定し、卒業論文の作成を通して、問題意識の向上、研究手法、論理的な思考力、問題解決能力などを身につけることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	論文のテーマに沿って、論文の構想、方向性、方針を設定し、関係資料や文献を調査し、推敲を重ね、研究を進めていく。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション 演習と卒業論文		研究課題の検討、先行研究文献の調べ		
第2回 文献・資料の調べ方、各自の年間スケジュールを立てる		研究課題の検討、先行研究文献の調べ		
第3回 文献調査結果の報告、研究テーマの設定		先行研究文献・資料のまとめ		
第4回 テーマに関する先行研究の検索、資料のまとめ方、分析方法		先行研究文献・資料のまとめ		
第5回 文献調査のデータ・資料の分析と結果の報告		先行研究文献・資料のまとめ		
第6回 中間発表、研究テーマに関する報告 研究目的、論文構想の執筆計画		先行研究文献・資料の調査、まとめ		
第7回 確定した卒業論文に関する先行研究のサーベイを行い、分析方針の報告		論文の構想		
第8回 論文としての構成・文章表現・図表の描き方・文献の検索と引用の方法などを指導する		論文構想の再検討		
第9回 指導教員との論文構想の研究打ち合わせ・論文を作成		論文の作成		
第10回 卒業論文作成の個別指導		文献・資料の調査・分析、論文を作成		
第11回 論文作成の個別指導		論文の作成		
第12回 論文作成の個別指導		論文の作成		
第13回 論文作成の個別指導		論文の作成		
第14回 論文作成の個別指導		作成した論文の点検、資料・文献の充実		
第15回 研究の進捗状況と課題の確認と夏休みの課題		論文の進行、分析の方針		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	％			
レポート	30％ 中間発表レポート			
小テスト等	％			
成果発表	30％ 報告と研究の進捗状況			
受講態度他	40％ 研究目的やテーマの明解さ、卒業論文作成に取り組む姿勢等により、総合的に評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	研究の熱意を持って、積極的に演習参加、研究及び編集作業に取り組むこと。 指導教員との連絡を怠らないこと。就職活動等でやむをえず欠席する場合も、必ず事前に連絡をしてください。			
教科書	研究テーマにより個別指導			
指定図書	研究課題により個別指導			
参考図書	研究の進捗状況と課題により個別指導			
オフィスアワー	火・金、授業以外、随時可、できるだけ事前にメールを下さい。	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	喜多村 百合		単位	2
授業の目的と概要	<p>本演習は、前期に引き続き、学科の学びの集大成である卒業論文を制作するための研究的位置づけを持つ。演習Ⅱでは、前期で収集検討した議論をさらに精緻化し、最終報告を経て論文として完成させるのが目的である。</p> <p>すべて個人指導。前半は論述を総合化する作業を、後半では執筆作業を指導する。11月中旬に最終報告を行い、卒論完成につなげる。</p>			
到達目標	<p>①資料収集・検討作業を通し、前期の議論をさらに深化・精緻化させ、最終報告にまとめる。  ②上を踏まえて論述の修正をし、卒論を完成させる。  ③他のメンバーの研究に対し、積極的に批評ができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 導入：卒論制作の作業確認		文献・資料の検討		
第2回 個別指導		文献・資料の検討		
第3回 個別指導		文献・資料の検討		
第4回 個別指導		論文制作		
第5回 個別指導		論文制作		
第6回 個別指導		レジュメ作成		
第7回 経過報告		論文制作		
第8回 個別指導		論文制作		
第9回 個別指導		論文制作		
第10回 個別指導		論文制作		
第11回 個別指導		論文制作		
第12回 個別指導		論文制作		
第13回 個別指導		レジュメ作成		
第14回 最終報告		レジュメ作成		
第15回 最終報告・ディスカッション・課題指示		卒論完成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	卒業論文/卒業レポート			
小テスト等	-			
成果発表	70%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	前期に引き続き、テーマをめぐる議論をさらに発展、深化させ、卒業論文として結実させることに最善を尽くしてください。			
教科書	適宜プリントを配布			
指定図書	個別に指示			
参考図書	個別に指示			
オフィスアワー	月～水の午後	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ		開講時期	後期
担当教員	大津 忠彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：自らの取り組むテーマについての研究を、より深化させる目的のために、とくに論理性と独創性の観点よりこれまで作り上げてきた研究論文を再検討することからまず始めます。そのために、ゼミ生同士が忌憚なく意見をぶつけ合い、そして評価し合う事が肝要です。そして論文の完成をめざしますが、ていねいな構成になっているか否か、表現の「わかりやすさ」、「具体性」について発表を通じて判断し合います。</p> <p>概要：受講生各自の「研究発表（プレゼン）」形式で進みます。聴き手に発表主旨が的確に伝わるための工夫を、論の展開法や発表法について互いに検討し合います。このために、聴き手は、聞き取り得た発表内容、疑問点を各自その都度まとめ、短文化し、これらを質問・コメントとし発表者に提供します。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究対象資料の集成・分類の具体案を提示することができる。</li> <li>・ 論文の工夫箇所を具体的に示す事ができる。</li> <li>・ 聴き手として、発表の要点を短文化することができる。</li> <li>・ 聴き手として、発表内容の良かった点を具体的に指摘することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 「卒論」構想（発表と質疑応答）－その（1）：章立ての再検討		課題①：要旨（500字）作成		
第2回 「卒論」構想（発表と質疑応答）－その（2）：章立と過不足の見極め		第3回までに課題①を提出		
第3回 「卒論」構想（発表と質疑応答）－その（3）：章立ての再構築		第3回までに課題①を提出		
第4回 検討対象資料集成の再検討（発表と質疑応答）－その（1）：集成の内実		課題②：先行研究（1件）のまとめ		
第5回 検討対象資料集成の再検討（発表と質疑応答）－その（2）：集成の再構成		第6回までに課題②を提出		
第6回 検討対象資料集成の再検討（発表と質疑応答）－その（3）集成から見えてくる要素		第6回までに課題②を提出		
第7回 「わかりやすさ」、「具体性」への工夫（発表と質疑応答）－その（1）：文章表現の工夫		課題③：資料図版（案）作成		
第8回 「わかりやすさ」、「具体性」への工夫（発表と質疑応答）－その（2）：図版の工夫		第9回までに課題③を提出		
第9回 「わかりやすさ」、「具体性」への工夫（発表と質疑応答）－その（3）：レイアウトの工夫		第9回までに課題③を提出		
第10回 「卒論」草稿の発表と質疑応答		課題④：参考文献、出典をまとめる		
第11回 「卒論」草稿の仕上げ		第11回までに課題④を提出		
第12回 「卒論」制作の反省点検討		課題⑤：質問票記入と回答－その（1）		
第13回 「卒論」発表－その（1）：主題と展開を中心に		第13回までに課題⑤を提出		
第14回 「卒論」発表－その（2）：独創性を中心に		課題⑥：質問票記入と回答－その（2）		
第15回 「卒業ゼミナールⅡ」総括		第15回までに課題⑥を提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	－			
レポート	50％ ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
小テスト等	－			
成果発表	－			
受講態度他	50％ ②受講態度（含、発表成果や提出課題成果）を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・上記「成績評価に関する情報」欄の、①と②の判定組合せが「秀&amp;秀」・「秀&amp;優」を秀、「秀&amp;良」・「優&amp;優」を優、「秀&amp;可」・「優&amp;良」・「優&amp;可」・「良&amp;良」を良、「良&amp;可」・「可&amp;可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。</p> <p>・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。受講態度の良否は成績評価に大きく影響します。講義の進行に集中し自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日5時間目	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ（発達臨床心理コース）		開講時期	後期
担当教員	渋田 登美子・浅田 淳一・酒井 均・浦田 英範・榊 祐子・森田 理香・宇治 和貴		単位	2
授業の目的と概要	卒業ゼミナールⅠにおいて設定した研究テーマに基づいた計画の具体化を行なう。目的や問題に対する結果を分析し、考察としてまとめ、卒業研究として執筆を目指す。  研究計画に沿って、先行研究の講読、問題点の整理、データ収集、結果の分析や考察を進める。心理学論文の読み方や執筆のルールなどについても十分理解し、引用の仕方、論理的文章作成を実践できるようにする。			
到達目標	①研究計画に基づいて、先行研究やデータの収集、分析を行なうことが出来る ②先行研究を検索、収集し、問題点や課題を明確化できる ③先行研究を踏まえた上で、研究計画にそって目的、方法、結果、考察を文章で表現することが出来る ④③の実践を通して、心理学において特化した問題を、客観的視点から分析し、論理的に解決することが出来る			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	論文の形式について：論文の形式や執筆の再確認	論文の形式と書き方について復習		
第2回	研究計画の再検討：前期に作成した計画の見直しと修正	宿題		
第3回	文献収集：先行研究における問題点の検討	宿題		
第4回	卒業研究の構成 発表①：研究テーマに沿った卒業論文・研究の目次（構成）を作成	課題：目次（構成）を作成、文献を読み進める		
第5回	卒業研究の構成 発表②：研究テーマに沿った卒業論文・研究の目次（構成）を作成	課題：目次（構成）を作成、文献を読み進める		
第6回	卒業研究の構成 発表③：研究テーマに沿った卒業論文・研究の目次（構成）を作成	課題：目次（構成）を作成、文献を読み進める		
第7回	データ収集①：計画に基づいたデータの収集、分析方法	課題：データの収集と分析		
第8回	データ収集②：データ分析、考察の方向性決定	課題：データの収集と分析		
第9回	発表・討論1-1：執筆要項に沿っているか形式等確認作業	課題：執筆		
第10回	発表・討論1-2：執筆要項に沿っているか形式等確認作業	課題：執筆		
第11回	発表・討論2-1：研究計画と執筆内容の整合性確認作業	課題：発表資料の作成、執筆		
第12回	発表・討論2-2：研究計画と執筆内容の整合性確認作業	課題：発表資料の作成、執筆		
第13回	発表・討論2-3：研究計画と執筆内容の整合性確認作業	課題：発表資料の作成、執筆		
第14回	卒研発表会	課題：発表会の資料の準備、抄録原稿の準備		
第15回	全体のまとめと総括	抄録の最終確認		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 研究計画、先行研究についての論文、あるいはレポート			
小テスト等	-			
成果発表	40％ 研究計画、先行研究についての中間発表、最終発表を含む			
受講態度他	20％ 発表に対する質疑応答			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特になし			
教科書	指定なし			
指定図書	指定なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	浅田：火を除く昼休、酒井：火昼休、浦田：月2限、渋田：水4限、榊：火5限、森田：火2、宇治：火水昼休	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ（社会福祉コース）		開講時期	後期
担当教員	西原(尚)・山崎(安)・益満(孝)・池田(和)・徳永(勇)・新家(め)・金(圓)・高木(佳)		単 位	2
授業の目的と概要	社会福祉を学ぶ過程で、学生自らが明確化したテーマを自覚的に追求し、論理的思考力、さらには問題解決力を身につけることを目的とする。ソーシャルワーカーとしてはいうまでもなく、将来ひとりの職業人となるにあたって、ある状況に対する自分の考え方や態度を確立することは非常に重要だからである。卒業ゼミナールは、社会福祉を学ぶ過程で、学生自らが明確化したテーマを自覚的に追求し、論理的思考力や問題解決力を身につけることを支援する科目で、大学生活を通じた集大成としての意味を持つ。具体的には、各専任教員がそれぞれの専門性を背景とした少人数ゼミを分担し、学生は自らのテーマに応じていずれかのゼミに所属する。学生各自が自らのテーマを設定でき、それにそった資料や文献の収集、報告・討論といったことが主たる内容となる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自ら取り組む研究テーマが設定できる。</li> <li>2. 研究の視点を理解し、研究方法を身につけることができる。</li> <li>3. 1・2の成果として「卒業研究」が作成できる。</li> <li>4. 「卒業研究」を発表したり、それについて討議する能力が習得できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	卒業研究の発表及び集団討議	発表資料（レジュメ）作成		
第 2回	卒業研究の発表及び集団討議	発表資料（レジュメ）作成		
第 3回	卒業研究の発表及び集団討議	発表資料（レジュメ）作成		
第 4回	卒業研究の発表及び集団討議	発表資料（レジュメ）作成		
第 5回	卒業研究の発表及び集団討議	発表資料（レジュメ）作成		
第 6回	卒業研究の発表及び集団討議	発表資料（レジュメ）作成		
第 7回	卒業研究の発表及び集団討議	発表資料（レジュメ）作成		
第 8回	卒業研究の発表及び集団討議	発表資料（レジュメ）作成		
第 9回	卒業研究の発表及び集団討議	発表資料（レジュメ）作成		
第10回	卒業研究の発表及び集団討議	発表資料（レジュメ）作成		
第11回	卒業研究または卒業論文の執筆（文章）指導	卒業研究または卒業論文の執筆		
第12回	卒業研究または卒業論文の執筆（文章）指導	卒業研究または卒業論文の執筆		
第13回	卒業研究または卒業論文の執筆（文章）指導	卒業研究または卒業論文の執筆		
第14回	卒業研究または卒業論文の執筆（文章）指導	卒業研究または卒業論文の執筆		
第15回	卒業研究または卒業論文の執筆（文章）指導	卒業研究または卒業論文の提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％ 発表資料（レジュメ）、卒業研究・卒業論文を中心に評価する			
小テスト等	なし			
成果発表	25％ 研究発表の内容・水準			
受講態度他	25％ 出席状況 + 討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 4年次のオリエンテーション時に、卒業研究・卒業論文についての説明を行うので必ず参加すること。</li> <li>2. 毎回の授業の出席及び積極的な発言と参加態度が重要となる。</li> </ol>			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	各教員による			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照してください。	メールアドレス		

授業科目	卒業ゼミナールⅡ（人間形成専攻）		開講時期	後期
担当教員	人間形成専攻 専任教員		単 位	2
授業の目的と概要	<p>4年次科目「卒業ゼミナールⅠ」を通して取り組んできた各自の研究課題を追究し、成果物としてまとめること及びその概要を説明するとともに質疑応答ができることを目的とする。</p> <p>研究課題に関連する文献、資料に幅広く触れ、目的にあったデータ収集の方法、適切な分析・吟味、問題を発見する力や論理的思考能力、プレゼンテーション能力等を獲得することを目的とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題の設定、調査方法の選択及び実施、結論やその吟味、研究成果の発表など、問題解決的な手法で研究に臨むことができる。</li> <li>2 課題設定の理由（必要性・研究する価値）を明確にもち説明することができる。</li> <li>3 課題について、客観的な事実を踏まえながら立論することができる。</li> <li>4 研究の成果を論文としてまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	研究状況の報告・討議①（順を決め2名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第2回	研究状況の報告・討議①（順を決め2名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第3回	研究状況の報告・討議①（順を決め2名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第4回	研究状況の報告・討議①（順を決め2名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第5回	研究状況の報告・討議①（順を決め2名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第6回	個別指導	研究上の課題の整理と修正事項の確認		
第7回	個別指導	研究上の課題の整理と修正事項の確認		
第8回	研究状況の報告・討議②（順を決め2名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第9回	研究状況の報告・討議②（順を決め2名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第10回	研究状況の報告・討議②（順を決め3名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第11回	研究状況の報告・討議②（順を決め3名程度）	課題についての調査及び報告の準備		
第12回	卒業研究発表会の準備	卒業研究の浄書		
第13回	卒業研究発表会（複数ゼミ合同で実施可）	発表の準備と発表後の振り返り		
第14回	卒業研究発表会（複数ゼミ合同で実施可）	発表の準備と発表後の振り返り		
第15回	卒論研究発表会（複数ゼミ合同で実施可）	発表の準備と発表後の振り返り		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない。			
レポート	20％（各回の研究状況報告等の内容）			
小テスト等	実施しない。			
成果発表	60％（卒業研究）			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各回の研究状況の発表の際にはレポート（卒業研究の原稿）を用いて報告すること。 卒業研究の様式や提出期限を遵守できるよう研究を進めること。			
教科書	特に定めない。			
指定図書	特に定めない。			
参考図書	『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房（購入済：1年次「基礎ゼミナール」で使用した教科書）			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照すること。	メールアドレス		

授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	鷹野 恵		単 位	4
授業の目的と概要	卒業論文は、4年間の学びの集大成である。その集大成を見える形に作り上げることが本授業の目的とする。そのために、提出までのスケジュール管理、文献の収集と読み込み、論文執筆、教員とゼミ生同士のコミュニケーションなど多岐に亘る技能が求められる。これらは社会人としての生活に必要な技能であり、卒業論文はその一つの事前訓練であると位置づけられる。各自、自己管理と問題意識を持ち、豊かな創造力を身につけることが期待される。			
到達目標	(1) 日本語教育学に関わる領域の一般的な知識を身につける。 (2) 先行研究をまとめ、独自性のある研究課題を設定することができる。 (3) 研究課題に沿った研究方法、考察を行い、明快かつ首尾一貫した論文を書くことができる。 (4) 授業内でディスカッションに参加し、相互に研究内容を深め合うことができる。 (5) まとめた論文を複数の人の前で口頭発表し、質疑応答に対応することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	卒業論文は文学部日本語・日本文学科のDP5「大学での学修をもとに各自の知的興味・関心を深め、卒業論文において自らの考えを明確に伝えることができる」を充足するための科目である。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1～2回	ガイダンス	課題(1) 文献講読		
第3～4回	全体講義(卒業論文執筆方法の全般、発表準備)	課題(2) 文献講読		
第5～6回	発表準備(テーマの第一案を持ち寄り討議)	個人発表準備		
第7～8回	第1回個人発表	課題(3) 全体構想		
第9～10回	第1回個人発表	課題(4) 目次		
第11～12回	第1回個人発表	課題(5) 先行研究概観		
第13～14回	第1回個人発表	課題(6) 先行研究の整理と研究課題再設定		
第15回	第1回個人発表	論文執筆		
第16～17回	全体講義(進捗報告)	論文執筆		
第18～19回	第2回個人発表	論文執筆		
第20～21回	第2回個人発表	論文執筆		
第22～23回	第2回個人発表	論文執筆		
第24～25回	第2回個人発表	論文執筆		
第26～28回	第2回個人発表	論文執筆		
第29～30回	口頭試問、総括	要旨作成、論文の全体修正		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 前期・後期各1回の発表と質疑応答			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	●スケジュール管理を入念にし、早めに取り組むこと。 ●発表会では積極的にディスカッションに参加すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	個別に指示する			
オフィスアワー	火曜2限 ※事前にメールで連絡のこと	メールアドレス		

授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	大内 英範		単位	4
授業の目的と概要	日本古代文学について、自らテーマを設定し、先行研究に目を配りながら独自の視点で調査・考察し、客観的、論理的な論文にまとめます。 発表と討議、個別指導によって論を深め、卒業論文を完成させます。			
到達目標	1) 自ら論文のテーマを見つけることができる。 2) 設定したテーマについて、現段階での研究状況を把握し、まとめることができる。 3) 論述に必要な情報を文献などから収集し、整理・分析できる。 4) 独自の視点で論を構成し、発表できる。 5) 正しい書式によって論文をまとめることができる。 6) 自分の論文について問われたことに答えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 ガイダンス (卒業論文とは スケジュール確認など) ※スケジュールは受講生と相談しつつ随時柔軟に変更します。		講義の復習		
第2回 各自のテーマについて概要を報告 ディスカッション		発表準備		
第3～5回 学術論文の読解 論文の書式・構成		発表準備		
第6～8回 テーマ・作品に関する研究状況についての調査・発表		発表準備		
第9～11回 目次案(第1次)の発表 ディスカッション		発表準備		
第12～14回 中間発表		発表準備		
第15回 前期の総括 夏休みの課題確認		講義の復習		
第16回 後期の計画について確認		講義の復習		
第17～19回 目次案(第2次)・全体構成の発表 ディスカッション		発表準備 論文執筆		
第20～22回 個別指導		論文執筆		
第23～24回 直前発表		発表準備		
第25～26回 個別指導 提出 (12/20 17:00)		論文執筆		
第27～28回 口頭試問		準備		
第29回 卒論発表会		発表準備		
第30回 卒論発表会		発表準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70% 卒業論文(口頭試問ふくむ)			
小テスト等	なし			
成果発表	15% 中間発表・直前発表と質疑応答、卒論発表会			
受講態度他	15% 作成過程・研究姿勢を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席・遅刻は事前に連絡すること。 成果物としての卒論は大事ですが、そこに至る過程も重視します。全力で論文作成に取り組み、積極的に教員に相談してください。 討議には積極的に参加しましょう。論文作成は孤独な営みです。教員・受講者みんなで支えあってよい論文を完成させましょう。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	随時紹介します。			
オフィスアワー	火4、水3ほか随時	メールアドレス		



授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	松下 博文		単 位	4
授業の目的と概要	4年間の集大成として、近現代文学に関わる領域から、各自課題を自由に選択し、論文を制作することを目指す。大学での学修をもとに各自の知的興味・関心を深め、卒業論文において自らの考えを明確に伝える。			
到達目標	①自らの課題について深く考察することができる。 ②文章を論理的に組み立てることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日本語・日本文学科のDP（1）の「⑥ 大学での学修をもとに各自の知的興味・関心を深め、卒業論文において自らの考えを明確に伝えることができる。」に関連する科目であり、「近・現代文学概論」「近・現代文学基礎演習」「近・現代文学講読」「近・現代文学演習」等で培った知識と方法を、更に発展的に追究することができる。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	卒業論文入門		資料作成 基礎資料	
第 2回	テーマの再確認		資料作成 テーマ資料	
第 3回	資料収集法（1）		資料作成 テーマ資料	
第 4回	資料収集法（2）		資料作成 テーマ資料	
第 5回	発表		資料作成 発表資料	
第 6回	発表		資料作成 発表資料	
第 7回	発表		資料作成 発表資料	
第 8回	発表		資料作成 発表資料	
第 9回	発表		資料作成 発表資料	
第10回	中間レポート提出		中間レポート資料作成	
第11回	レポート再考		資料作成 再考レポート作成	
第12回	構想発表		資料作成 構想資料	
第13回	卒業論文提出		論文の最終チェック	
第14回	卒業論文検証		論文の最終チェック	
第15回	口頭試問		試問の為の資料作成	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60%			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 資料をしっかりとって発表すること。			
受講態度他	10% 自覚を持って取り組むこと。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	提出物は必ず期限までに提出すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日12時30分～13時	メールアドレス		

授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	小野 望		単 位	4
授業の目的と概要	<p>卒業論文は、日本語・日本文学科での学修の集大成として取り組む必修科目である。日本語の様々な課題の中から自らのテーマを見出し、独自の視点から考察を加えて論文を作成する。この過程全体を通して、課題の発見、問題点や資料の整理・分析、論理的な思考により解を導き、明確に論述して成果を発信するという、一連の作業が求められる。テーマそのものは大学での学修内容（に過ぎない？）かもしれないが、これらの作業は、今後社会人・職業人として求められる思考・行動のシミュレーションとなるはずである。</p> <p>集合日と面談を交えながら作業を進めていく。発表、報告等の集合日のレジュメはもとより、面談の際にも作業経過と相談内容の分かる文書を必ず作成し、提示すること。初めての論文を執筆する期間として、4～12月の9ヶ月間は短い。4年間の勉学の成果を一つのテーマに集約するつもりで、真剣に取り組むことを期待する。</p>			
到達目標	<p>(1) 日本語に関し、適切な課題を選んで立論することができる。</p> <p>(2) 先行研究を整理し、必要なデータを収集することができる。</p> <p>(3) データを分析し、論証を進めることができる。</p> <p>(4) 結論を論理的に導き、明快に論述することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 論文とは	：文体、形式、構成など		自らのテーマについて考察を進めておこう	
第2回 テーマ発表会			レジュメを作成しておこう	
第3回 日本語学研究法	：分野、資料、研究法		テーマと研究法について考察しよう	
第4回 SNSによるゼミ運営			情報交換を実践しよう	
第5～7回 個別面談			テーマを絞り、研究動向を整理しよう	
第8回 経過報告会			レジュメを作成することで研究段階を確認しよう	
第9～12回 個別面談	：研究計画作成		資料・研究方法を選び、計画を作成しよう	
第13～15回 個別面談	：研究計画報告		研究計画に従い、データ収集を開始しよう	
第16回 中間報告会			レジュメ及び中間報告書提出	
第17～19回 個別面談	：資料分析、理論構築		論文作成	
第20～22回 個別面談	：題目・構成計画		論文作成	
第23回 構想発表会			題目・論文構成計画（目次）提出	
第24～26回 個別面談	：論文提出		論文提出	
第27～29回 個別面談	：口頭試問		研究成果発表原稿作成	
第30回 論文報告会			研究成果発表原稿提出	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	10% ： 中間報告レポート			
小テスト等	0%			
成果発表	80% ： 論文及び論文発表会等			
受講態度他	10% ： 情報交換における積極性などを評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個別面談は、空き時間を利用して適宜行う。</li> <li>・ 研究を進める過程で、ゼミメンバーによる情報・意見交換を行う。異なるテーマであっても、研究法その他参考になることは多い。積極的に活用されることを期待する。</li> <li>・ このゼミでは、研究成果を広く公開することを想定するところまでを課題としてとらえている。もちろん、論文が最大の表現手段であるが、これに加えて卒論概要を作成し、成果報告書として次年度ゼミへのアドバイスとする予定である。論文提出後卒業</li> </ul>			
教科書	使用しない。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	個別に指示する。			
オフィスワー	木曜：2 講時～昼休み		メールアドレス	

授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	安永 美恵		単位	4
授業の目的と概要	4年間の学びの集大成として、卒業論文を完成させることを目的とする科目です。各自研究テーマを設定し、研究方法を的確に定め、提出期日までに完成させます。選択した研究対象を読み抜き、読み解き、日本語・日本文学分野の知識や技能を活用して、個性を生かした論文を作成します。自ら構想を立て、論述することにより、論理的な思考力を身につけます。また、問題解決力や自己管理能力を高めることができます。授業では、中間報告や構想発表を通して、ゼミ生相互に意見交換や情報交換を行い、互いの研究内容に関心を持つことにより、近世文学に関する情報を共有しながら、理解を深めていきます。後期は特に個別面談に重点を置き、各自の個性を生かした論文執筆が行えるように助言します。なお「基礎ゼミナールⅠ」特別講義「道成寺物の世界」は、奇談や怪異小説、近世文学の基盤をなす芸能の実演という貴重な機会であることから、合流して、ゼミの一時間とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分の興味・関心から、卒業論文の研究テーマを見出すことができる。</li> <li>2. 適切な研究方法を見出すことができる。</li> <li>3. 現在の研究状況を把握し、自分の視点を持つことができる。</li> <li>4. 資料を適切に使用し、論理的に構想をたてることができる。</li> <li>5. 客観性を維持しつつ、一貫性のある、オリジナルな論文を書くことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション	卒論とは 年間スケジュール確認	課題：研究テーマを決める		
第2回 テーマ設定		課題：研究テーマを決める		
第3回 文献資料の調査と収集		課題：資料収集		
第4～6回 作品理解のための近世文学史の確認		課題：資料収集		
第7～9回 テーマと研究方法		課題：研究方法を考え、調査する		
第10～14回 中間発表と質疑応答		課題：研究方法を考え、調査する		
第15回 前期研究のまとめと、夏季休暇期間の研究計画		課題：研究計画 レポート(9月20日締切り)		
第16～18回 後期の計画と論文構想の具体例		課題：論文の構想をたてる		
第19～24回 構想発表		課題：論文の構想を立て、執筆する		
第25回 下書き完成		課題：この時間までに下書き提出		
第26回 問題解決から完成へ		課題：論文執筆		
第27回 推敲と提出時の注意点		課題：論文執筆		
第28回 卒業論文の完成と提出		課題：卒業論文を完成させ、提出する		
第29回 ゼミのまとめと卒論発表会準備		課題：発表会の準備		
第30回 卒論発表会		課題：発表会の準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 卒業論文、レポートを対象とする。			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 中間発表会、構想発表会、卒論発表会。			
受講態度他	20% 演習、授業での積極性を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業論文は自分自身の研究であることを認識し、各自で計画的、積極的に研究を進めること。面談に来る際は、関係資料を持参すること。面談希望者は、できるだけ事前に連絡してください。			
教科書	なし。各自が、テーマに沿って作品の本文や注釈書を準備する。配布プリント。			
指定図書	なし。			
参考図書	『新版近世文学研究事典』(おうふう)、『日本古典文学大辞典』(岩波書店)。その他、授業時、または個別に指示する。			
オフィスアワー	前期：・木曜昼休み、火曜5限 後期：木曜昼休み、金曜4限	メールアドレス		

授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	中村 万里		単 位	4
授業の目的と概要	<p>卒業論文は、日本語・日本文学科での学修の集大成として取り組む必修科目である。日本語の様々な課題の中から自らのテーマを見出し、独自の視点から考察を加えて論文を作成する。この過程全体を通して、課題の発見、問題点や資料の整理・分析、論理的な思考により解を導き、明確に論述して成果を発信するという、一連の作業が求められる。テーマそのものは大学での学習内容（に過ぎない？）かもしれないが、これらの作業は、今後社会人・職業人として求められる思考・行動のシミュレーションとなるはずである。</p> <p>集合日と面談を交えながら作業を進めていく。発表、報告等の集合日のレジュメはもとより、面談の際にも作業経過と相談内容の分かる文書を必ず作成し、提示すること。初めての論文を執筆する期間として、4～12月の9ヶ月間は短い。4年間の勉学の成果を一つのテーマに集約するつもりで、真剣に取り組むことを期待する。</p>			
到達目標	<p>(1) 日本語に関し、適切な課題を選んで立論することができる。</p> <p>(2) 先行研究を整理し、必要なデータを収集することができる。</p> <p>(3) データを分析し、論証を進めることができる。</p> <p>(4) 結論を論理的に導き、明快に論述することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 論文とは	：文体、形式、構成など		自らのテーマについて考察を進めておこう	
第2回 テーマ発表会			レジュメを作成しておこう	
第3回 日本語学研究法	：分野、資料、研究法		テーマと研究法について考察しよう	
第4回 SNSによるゼミ運営			情報交換を実践しよう	
第5～7回 個別面談			テーマを絞り、研究動向を整理しよう	
第8回 経過報告会			レジュメを作成することで研究段階を確認しよう	
第9～12回 個別面談	：研究計画作成		資料・研究方法を選び、計画を作成しよう	
第13～15回 個別面談	：研究計画報告		研究計画に従い、データ収集を開始しよう	
第16回 中間報告会			レジュメ及び中間報告書提出	
第17～19回 個別面談	：資料分析、理論構築		論文作成	
第20～22回 個別面談	：題目・構成計画		論文作成	
第23回 構想発表会			題目・論文構成計画（目次）提出	
第24～26回 個別面談	：論文提出		論文提出	
第27～29回 個別面談	：口頭試問		研究成果発表原稿作成	
第30回 論文報告会			研究成果発表原稿提出	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	70% ：論文及び成果発表原稿			
受講態度他	30% ：各種提出物及び情報交換における積極性などを評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・個別面談は、空き時間を利用して適宜行う。 ・研究を進める過程で、ゼミメンバーによるSNSを構築し、情報交換を行うことを計画している。異なるテーマであっても、研究法その他参考になることは多い。積極的に活用されることを期待する。</p> <p>・このゼミでは、研究成果を広く公開することを想定するところまでを課題としてとらえている。もちろん、論文が最大の表現手段であるが、これに加えて何らかの（冊子形式またはホームページなど）成果発表媒体を作成し、次年度ゼミへのアドバイスとする予定である。論文提出後卒業までの間に、この作業が加わるので注意しておいていただきたい。</p>			
教科書	使用しない。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	個別に指示する。			
オフィスワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	出雲 俊江		単 位	4
授業の目的と概要	<p>自分にとっての本質的な問いにつながる問題を研究テーマとして設定し、自ら研究をすすめることを学びます。研究の成果を論理的に文章にして発表する力をつけることを目指します。</p> <p>それぞれの設定したテーマについての発表・討議を通じて、研究を深めてゆきます。担当者のレジメを中心とした発表と質疑応答を基本的な形式とします。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の問題としての、研究テーマを設定する。</li> <li>・設定したテーマと同じ問題や近い問題について、これまで考えられてきたことについて知る。（参考文献の検索・文献を読む）</li> <li>・自分の考えを論文の形で論理的に述べる。（論文の構成・引用・論述について学ぶ）</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			講義の際に指示します	
第2回 テーマの設定			発表担当者は発表の準備	
第3回 テーマの設定			発表担当者は発表の準備	
第4回 テーマの設定			発表担当者は発表の準備	
第5回 資料検索・文献講読の仕方			発表準備	
第6回 研究発表			発表担当者は発表の準備	
第7回 研究発表			発表担当者は発表の準備	
第8回 構想発表会			発表準備（全員）	
第9回 研究発表			発表担当者は発表の準備	
第10回 中間発表			発表準備（全員）	
第11回 個別相談または少人数での研究発表			研究内容資料の準備	
第12回 個別相談または少人数での研究発表			研究内容資料の準備	
第13回 個別相談または少人数での研究発表			研究内容資料の準備	
第14回 論文提出			講義の際に指示します	
第15回 総括			講義の際に指示します	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	行わない			
レポート	80％ 卒業論文			
小テスト等	行わない			
成果発表	卒論発表会を行う。 卒業論文集作成。			
受講態度他	20％ 討議への参加状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒論演習は、自分の問題を立て、自分で考えるという卒業論文制作の孤独な営みを、互いに支えあう場です。自分の問題にも、他の人の問題にも、真摯に向き合うことを求めます。			
教科書	講義の際に指示します			
指定図書	使用しない			
参考図書	使用しない			
オフィスアワー	水曜日 4限・金曜日 昼休み	メールアドレス		

授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	時里 奉明		単位	4
授業の目的と概要	<p>卒論のテーマは、①日本の歴史と文化（主に近代）、②博物館、のどちらかで設定する。論文という形式で、いかにして相手を納得させるかという論述について学ぶ。大学時代の集大成として、自分の作品を完成させること。前期、夏休み、後期でそれぞれ研究の成果を報告し、全員でより良いものになるように協力する。</p> <p>前期は卒論指導と同時に、1冊の本を読む。夏休み中に中間報告、後期は授業中に最終報告を行う。卒論提出後に全員で完成版を報告する。その間、枚数を設けて数回提出させ、個別指導を行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 興味のあるテーマを設定し、論理的な思考を文章にまとめることができる。</li> <li>2 テーマに関する資料を図書館やインターネットを使って調査、収集できる。</li> <li>3 数度にわたり報告や文章を提出することによって、論文完成までの段取りと労力を理解できる。</li> <li>4 先人たちの研究のなかで自分の卒論を確認できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 ガイダンス：卒論のねらい	スケジュールと履修方針の確認	課題（スケジュールを知る）		
第2回～6回	テーマの概要を報告 テキスト（山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』）を使用しながらテーマの設定、先行研究の整理、資料の調査と収集、執筆の仕方について指導する	課題（論文作成の手順を理解する）		
第7回～12回	読書会：テキスト（山本博文『歴史をつかむ技法』）を読む。毎回数人、担当の箇所をレジュメを使って報告する。	課題（論文を整理する、報告の準備）		
第13回～14回	テキストを使用しながら、卒論作成の諸問題について指導する。	課題（論文の形式を理解する）		
第15回	今後のスケジュールの確認	課題（期末レポートを提出する）		
第16回	夏休みゼミ合宿：卒論報告	課題（論文の作成を進め、報告を準備する）		
第17～27回	卒論最終報告	課題（論文の作成を進める、11月前後に中間論文を提出する）		
第28回	卒論提出の確認	課題（卒論の形式を確認する）		
第29回	卒論提出後の指導	課題（発表の準備）		
第30回	卒論発表会	課題（発表の準備）		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
—		—		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 卒業論文（途中の提出を含む）			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 卒論報告とテキスト報告（口頭発表と質疑応答）			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	評価は卒業論文の内容によるが、完成にいたるまでのプロセスを重視したい。日ごろの取り組みが大切で、授業時の欠席や遅刻は厳しく指導する。夏休み中のゼミ合宿、卒論発表会は全員参加すること。			
教科書	山内志朗『ぎりぎり合格への論文マニュアル』平凡社新書（2001年） 山本博文『歴史をつかむ技法』新潮新書（2013年）			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に紹介する。			
オフィスワー	金曜日の昼休み。研究室にいる時はいつでも。	メールアドレス		

授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	森田 真也		単位	4
授業の目的と概要	この講義は、日本、及び沖縄等の文化や社会についての研究を進め、卒業論文を執筆することを目的としたものである。そして、資料収集と分析、論文執筆を通して、総合的な学習経験から創造的な思考力を獲得する。そのため講義には、履修者（ゼミ生）が、各自の問題意識、研究テーマを持って出席してもらう。講義は、教室で行なうものと研究室での個別指導となる。具体的な進め方としては、前期は論文作成の方法等の解説、レジュメを作成しての各自の研究テーマ、論文構成に関する口頭発表、全体でのディスカッション、あわせて適時、個別指導を行なっていく。後期は、個別指導が中心となる。中間レポートの提出、最終的な論文の提出だけではなく、論文の執筆プロセスにあわせた文章添削、論文の構成等の指導を行なう。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本・沖縄・東アジアの諸地域の文化や社会に関わる研究の見識を深め、研究論文を作成する。</li> <li>・資料収集と整理、分析、論文作成といった総合的な学習経験から、創造的な思考力を獲得し、社会の多様な問題を考えアプローチする力を獲得する。</li> </ul> <p>なお、卒業論文は、各自の問題意識や興味を活かして、自分自身で資料を収集して分析しながら書き進んでもらうが、研究論文である以上、オリジナルな論文としての体裁、分量、ある程度のレベルが要求される。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日本語・日本文学科において修得をめざす能力・技能（学科DP）の全てに関わる、集大成にあたるものです。これまでの学修のもとに各自の知的興味・関心を深め、卒業論文において自らの考えを明確に伝えることを行ないます。卒業論文制作は、言語・文学・文化の学びを発展させる学修です。「読む力」「書く力」、そして「考える力」「創造する力」を修得します。「文化人類学」「日本文化研究入門」「民俗学Ⅰ」「民俗学Ⅱ」「日本文化演習Ⅰ」「日本文化演習Ⅱ」「日本事情」等、特に日本文化の構造や特徴を考える科目と関係します。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1～3回：	研究論文とは何か－研究テーマの設定と資料収集、整理・分析について－	卒業論文の執筆手順について理解する		
第4～7回：	口頭発表とディスカッション（1）－研究テーマについて－	研究テーマの設定と発表準備		
第8回：	論文の構成について	論文の構成と目次案作成について理解する		
第9～12回：	口頭発表とディスカッション（2）－論文の構成と目次案について－	目次案作成と発表準備		
第13回：	個人面談	目次案、論文の構成の修正を行なう		
第14～15回：	中間報告会	内容整理と発表準備		
第16回：	卒論の執筆について	卒論執筆の手順と指導方法について理解する		
第17～20回：	個別指導（1）－論文の構成と添削指導－	卒論執筆、添削指導、修正		
第21回：	卒論の提出について	卒論の提出方法について理解する		
第22～25回：	個別指導（2）－論文の添削指導－	卒論執筆、添削指導、修正		
第26回：	卒論提出（12月20日火曜日17時）	卒論執筆、最終調整		
第27回：	卒論発表会について	卒論発表の方法について理解する		
第28～30回：	卒論発表会（2月上旬）	卒論発表会の準備		
－		－		
－		－		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	無し。			
レポート	60％ 「中間レポート」、「卒業論文」の内容を評価する。			
小テスト等	無し。			
成果発表	20％ 口頭での研究発表を数回行ない評価する。			
受講態度他	20％ 論文作成過程、研究姿勢、取り組みを評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席・遅刻の場合は必ず連絡すること。論文の進行状況に従い、積極的に研究室に相談に来ること。20000字以上、12月20日（火）の締め切りを厳守すること。2月上旬に卒論発表会をする。（次年度ゼミ希望者は、3年時に「日本文化演習Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい）			
教科書	無し。			
指定図書	無し。			
参考図書	各自の研究テーマに従い指導する。			
オフィスアワー	前期：月曜日の昼休み 後期：火曜日の昼休み（その他随時相談を受け付ける）	メールアドレス		

授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	宇野 智行		単 位	4
授業の目的と概要	<p>宗教学・仏教学に関わる研究をすすめ、研究論文を作成する。自己の選択したテーマについて統合的な学習をすすめた上で、創造的思考力を養う。その研究成果を「卒業論文」という作品として表現することを目的とする。</p> <p>本授業では、四年間の集大成として「卒業論文」を作成を目指す。前期は主に卒論作成のための具体的なテクニックについて講義を行う。後期は、中間発表を複数回行い、読者を意識した論文の完成を目標とする。各自の卒業論文は『卒業論文集』として製本し、卒業式時に学びの証しとして配布する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要な資料を収集した上で、それを正確に読解し、批判的に分析することができる。</li> <li>2. 資料を適切に使用して、論理的な文章を作成することができる。</li> <li>3. 正しい書式に則って、研究成果を学術論文に纏めることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、学科DP5「大学での学習をもとに各自の知的興味・関心を深め、卒業論文において自らの考えを明確に伝えることができる。」の達成に関わる科目です。「日本文化演習II」と関連する科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1- 2回	学術論文とは何か・資料論・資料収集法	発表準備		
第 3- 4回	口頭発表とディスカッション：テーマとアプローチ	発表準備		
第 5- 6回	論文の構成	発表準備		
第 7- 8回	論文の書式・論述の方法	発表準備		
第 9-10回	口頭発表とディスカッション：構想中間発表	原稿執筆・発表準備		
第11-12回	参考文献表・脚注の作り方	原稿執筆・発表準備		
第13回	学術論文の読解と評価	原稿執筆・発表準備		
第14-15回	口頭発表とディスカッション：本論（1）	卒論作成・資料収集・資料分析・原稿執筆・文献表作成		
第16-17回	口頭発表とディスカッション：本論（2）	卒論作成・資料収集・資料分析・原稿執筆・文献表作成		
第18-20回	個別指導（1）	卒論作成・資料収集・資料分析・原稿執筆・文献表作成		
第21-22回	口頭発表とディスカッション：本論（3）	卒論作成・資料収集・資料分析・原稿執筆・文献表作成		
第23-25回	個別指導（2）	卒論作成・資料収集・資料分析・原稿執筆・文献表作成		
第26-27回	口頭発表とディスカッション：本論（4）	卒論作成・資料収集・資料分析・原稿執筆・文献表作成		
第28-29回	口頭試問	発表準備		
第30回	口頭発表とディスカッション：最終発表	発表準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	30%：研究発表（全6回）			
受講態度他	（受講態度）10%：発表への取り組み（卒業論文）40%：論文の内容により評価 10%：体裁・表記・表現力により評価 （口頭試問）10%：論文内容把握能力、推敲能力により評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	全力を尽くして、主体的に論文作成に取り組むことが求められる。論文作成にあたり、最大限教員を利用すること。9月に合宿を開催し、中間発表を行う。20000字以上、締め切りを厳守すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	各自のテーマに従い、指示する。			
オフィスワー	前期：火曜日15：00-16：20 後期：連絡の上、随時受け付ける。	メールアドレス		



授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	桐島 薫子		単 位	4
授業の目的と概要	<p>中国文学（日本との比較を含む）・漢字文化の諸問題・その他関連する内容について興味あるテーマを設定し、先行研究を把握することができる。オリジナル部分を有する発表を分かり易く行うことができる。発表を踏まえ、的確な資料で論証し、論旨明快な論文にまとめることができる。</p> <p>また、発表・質疑応答・執筆を通じて、実社会で不可欠なプレゼンテーション能力・問題解決力を高めることができる。前・後期に各1回発表し、それらの質疑応答を踏まえて論文をまとめることができる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 興味を持った事柄についてディスカッションし、研究テーマを決めることができる。</li> <li>2 設定したテーマについて、現段階での研究状況を把握することができる。</li> <li>3 新しい発見・違った角度からの見方など（オリジナル部分）を的確な資料で論証することができる。</li> <li>4 上記1～3を分かり易く20～30分程度で発表した後、質疑応答することができる。</li> <li>5 上記4を踏まえ、適切な文献資料を示しながら論旨明快な論文を書くことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1～2回	ガイダンス、全体での交流・意見交換	配布プリントの講読、テーマについて考えておく		
第3～4回	全体講義（昨年の事例・資料の収集と検討・発表準備の方法）	配布プリントの講読、テーマについて考えておく		
第5～6回	発表準備（テーマについてのディスカッション・個人面談を含む）	発表準備、資料の収集・検討・まとめ		
第7～8回	第一回発表（各自20～30分）と質疑応答	発表準備、資料の収集・検討・まとめ		
第9～10回	第一回発表（各自20～30分）と質疑応答	発表準備、資料の収集・検討・まとめ		
第11～12回	第一回発表（各自20～30分）と質疑応答	発表準備、資料の収集・検討・まとめ		
第13～14回	第一回発表（各自20～30分）と質疑応答	発表準備・論文執筆		
第15回	第一回発表（各自20～30分）と質疑応答・前期の総括・夏休みの課題〔以上、前期〕	発表内容や質疑応答についての復習		
第16～17回	全体講義（発表から論文へ）・ディスカッション	夏休みに取り組んだ成果のまとめ		
第18～19回	発表準備（テーマの確認・個人面談を含む）	発表準備、前期発表と合わせたまとめ、文章化		
第20～21回	第二回発表（各自20～30分）と質疑応答	発表準備、前期発表と合わせたまとめ、文章化		
第22～23回	第二回発表（各自20～30分）と質疑応答	発表準備、前期発表と合わせたまとめ、文章化		
第24～25回	第二回発表（各自20～30分）と質疑応答	発表準備、前期発表と合わせたまとめ、文章化		
第26～28回	第二回発表（各自20～30分）と質疑応答、論文の仕上げ	論文の修正、概要の作成、口頭試問の準備		
第29～30回	論文の修正、論文集用の概要作成、口頭試問、報告会	論文の修正、概要の作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 発表資料と質疑応答をもとにした論文（修正作業を含む）			
小テスト等	なし			
成果発表	40％ 前・後期各1回の発表と質疑応答、報告会（後期）			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>○自身の発表においては段取りを考え周到に準備して臨み、他の人の発表においては積極的に質問や感想を述べること。</p> <p>○具体的なスケジュールは、授業中に配布する。</p>			
教科書	配布プリント			
指定図書	なし			
参考図書	各自の発表内容に応じて適宜紹介			
オフィスアワー	前期：火曜昼休み、金曜4限 後期：火曜4限、木曜昼休み	メールアドレス		

授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	T.R. Honkomp		単位	4
授業の目的と概要	The embarkation and subsequent completion of a graduation thesis is a highly individualistic experience and its process and success are largely dependent on the effort of the student who authors the paper. The Graduation Thesis is subject to the rules, requirements and procedures that are indicated in the student handbook and all students writing a thesis should be aware of them			
到達目標	From the advisor's perspective it is important that students adhere to a year-long timetable in order to ensure a timely finish. That timetable includes completion of the following steps sequentially, although some flexibility is possible depending on individual circumstances: thesis statement, general outline, detailed outline, research ideas and suggestions, incremental pages of production, rough draft, final rough draft and final paper.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Thesis statement; define and narrow thesis statement	講義の際に指示します		
第2回	General outline; edit general outline and indicate research directions	Begin Research		
第4回	General outline; edit general outline and indicate research directions	Continued		
第8回	Detailed outline; refine outline and confirm research directions	Research		
第10回	Detailed outline; refine outline and confirm research directions	Research		
第12回	Pages of production; edit & correct page production continue feedback	Research		
第14回	Pages of production; edit & correct page production continue feedback	Research		
第16回	Pages of production; edit & correct page production continue feedback	Research		
第18回	Pages of production; edit & correct page production continue feedback	Research		
第20回	Pages of production; edit & correct page production continue feedback	Research		
第22回	Pages of production; edit & correct page production continue feedback	Research		
第24回	First rough draft Editing and correction continued	Research		
第26回	First rough draft All references and research properly noted	Final editing		
第28回	Final rough draft All references and research properly noted	Processes		
第30回	Final paper Final check and confirmation for university requirements	講義の際に指示します		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	20% Adherence to time schedule ( Paper ) 80% Completion of Graduation Thesis			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Graduation Thesis papers must be written in English. It is asked that only students who are serious about doing research and about completing the paper take this course. Students should be aware that the graduation thesis paper is due near the end of December. Effort should be made to adhere to this deadline.			
教科書	—			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	C. B. Painter		単位	4
授業の目的と概要	The purpose of this course is for participants to gain competency in academic research and presentation in thesis form. Authors write the thesis in English in an area related to Culture & Communication. They put forward a proposal in the particular area in conjunction with the supervisor. Academic research skills are developed with guidance provided as required on: innovating, questioning & hypothesizing within the proposed area, literature reviewing & creating a bibliography, formatting & editing, discussing & presenting results, & making conclusions.			
到達目標	Upon successful completion of a thesis the author will have improved in the following abilities: Innovative thinking, logical thinking, ethics, hypothesizing, inquiry, criticism, literature reviewing, citation, consistent thesis development, editing, research formatting, and results presentation. The process will promote self-realization and an increased sense of social responsibility.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Thesis Title (provisional) & abstract		Research and writing	
第2回～3回	1st draft		Research and writing	
第4回～5回	1st draft		Research and writing	
第6回～7回	1st draft		Research and writing	
第8回～9回	2nd draft		Research and writing	
第10回～11回	2nd draft		Research and writing	
第12回～13回	2nd draft		Research and writing	
第14回～15回	3rd draft		Research and writing	
第16回	3rd draft		Research and writing	
第17回～19回	Final draft		Research and writing	
第20回～21回	Final draft		Research and writing	
第22回～23回	Final submission (about one month before the official date of 20th Dec.)		Research and writing	
第24回～25回	Final submission		Research and writing	
第26回	Final submission		Research and writing	
第27回～30回	Review & Reflection		Review and reflection	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	None			
レポート	100% A thesis is evaluated on consistent development in: research questions & hypothesis, review of published research, format, discussion of results, conclusion & overall content. The basis for evaluation is the drafts			
小テスト等	None			
成果発表	None			
受講態度他	Not evaluated but thesis authors are expected to meet the supervisor as required. Absence without notification or certification as well as lateness would result in grade level reduction.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Thesis authors submit a thesis title & 200 word abstract at the beginning of the first semester. The title may be provisional but the proposal agreed upon between the author and supervisor should not change. A chronological plan should be followed & deadlines for presentation of drafts should be met. The thesis is a year course and credit is awarded on the basis of consistent development throughout two semesters.			
教科書	None			
指定図書	None			
参考図書	Directions given as required			
オフィスアワー	前期金曜日 14:50-15:50	メールアドレス		

授業科目	卒業論文	開講時期	通年
担当教員	松崎 徹	単 位	4
授業の目的と概要	卒業論文を書くことで、言語・文化に関する専門知識を身につけ、深い人間理解ができるようになる、言語としての英語または英語圏文化を学んだり調べたりすることで、英語に対する理解を深め、様々な視点で英語をとらえることができるようになる、自ら設定したテーマを探求する方法(調査・分類・執筆)を身につけることができる、などがこの授業の目的である。具体的な指導のスケジュールとしては、前期は卒業ゼミナールと別に時間をとり、全体指導を数回行っていく。研究の方法・手順を学ぶとともに、テーマを絞り込み研究の下準備を行っていく。後期は個別指導が中心となるので、各自アポイントメントを取り、指導教員から助言・指示を受けながら論文の作成作業を進めていく。なお、教員からの指導が円滑に進むように、誤字・脱字等がないか指導前に確認しておくことが望まれる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語に関するテーマを一つ設定し、卒業論文を書くことができる。</li> <li>2. テーマに関することを、図書やインターネットを使い、情報を収集することができる。</li> <li>3. 収集した資料や情報を、適確に分類し、活用することができる。</li> <li>4. 資料や情報をもとに、オリジナルな論考または視点をに入れて、文章にまとめることができる。</li> <li>5. 卒業論文の内容に関して、適切に説明することができる。</li> <li>6. 特定分野の知識・技能を説明することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1- 2 回	テーマ決定までの手順/ テーマ仮提出	テーマを決めるための情報収集およびテーマ決定	
第 3- 4 回	文献調査	図書館およびWeb上で関連文献を調査	
第 5- 6回	プロポーザル作成	資料等をもとに、プロポーザルを作成する	
第 7- 8回	文献収集および文献リスト# 1の作成	収集済み、および未収集文献のリストを作成する	
第 9-10回	修正プロポーザルの作成および提出	収集した資料を基に修正プロポーザルを作成する	
第11-12回	文献リスト# 2作成および提出	文献を継続収集しながら、同時に文献を精読していく	
第13-14回	ドラフトの書き方	ドラフトを書き始める。夏休みの計画をたてる	
第15回	夏休み計画の作成/ 文献リスト# 3 提出	夏休み: ドラフトは半分程度まで書く	
第16-17回	ドラフト(2分の1)提出および面談	研究の方向性と全体像の確認を行う	
第18-19回	内容指導	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う	
第20-21回	ドラフト(3分の2)提出および面談	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う	
第22-23回	内容指導	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う	
第24-25回	ドラフト(全部)提出および面談	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う	
第26-27回	最終分量に到達したドラフトの提出・面談	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う	
第28-30回	最終確認 / 卒業論文提出	指導を踏まえ、ドラフトの最終確認を行い提出する	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	20% 途中定期的に、卒論のドラフト提出が課せられる		
小テスト等	なし		
成果発表	50% 卒業論文(学生便覧の規定に従うこと)		
受講態度他	30% 卒論指導の受講状況、経過報告、口頭発表、ハンドアウト、卒論取組み度等を考慮し判断する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒論提出の期日を厳守すること。期限を守れなかった場合は、不合格とする。卒論は提出すればよいというものではなく、その作成過程も重視する。そのため、授業計画に明記されたことを実行できない場合は評価に大きく影響する。詳細については、初回授業においてプリントを配布する。		
教科書	必要に応じてプリントを配布する。		
指定図書	特になし。		
参考図書	適宜紹介する。		
オフィスアワー	前期:水3・金4、後期:火2・水4	メールアドレス	

授業科目	卒業論文	開講時期	通年
担当教員	緒方 隆文	単 位	4
授業の目的と概要	<p>目的1：卒業論文を書くことで、言語・文化に関する専門知識を身につけ、深い人間理解ができるようになる。目的2：言語としての英語または英語圏文化を、学んだり調べたりすることで、英語に対する理解を深め、様々な視点で英語をとらえることができるようになる。目的3：自ら設定したテーマを、探求する方法を身につける(調査・分類・執筆)。その過程で、論理思考力、問題解決力を培うとともに、特定分野の知識・技能を身につけ、自己管理能力をも養う。</p> <p>前期は卒業ゼミナールと別に時間をとり、全体指導を数回行なう。研究の方法・手順を学ぶとともに、テーマを絞り込み研究の下準備を行っていく。後期は個別指導になる。各自アポイントメントを取り、途中経過を指導教員から助言・指示を得て、作成作業を進めていく。内容への指導に集中できるように、スタイル・スペリング等、指導前にきちんと確認し適切なものしておくことが望まれる</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語に関するテーマを一つ設定し、卒業論文を書くことができる。</li> <li>2. テーマに関することを、図書やインターネットを使い、情報を収集することができる。</li> <li>3. 収集した資料や情報を、適確に分類し、活用することができる。</li> <li>4. 資料や情報をもとに、オリジナルな論考または視点を入れて、文章にまとめることができる。</li> <li>5. 卒業論文の内容に関して、適切に説明することができる。</li> <li>6. 特定分野の知識・技能を説明することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1- 2回	テーマの決め方(プリント配布) /テーマ仮提出	テーマを決めるための情報収集およびテーマ決定	
第 3- 4回	MindMappingの書き方/ Mindmapの仮作成	テーマに関するMindMappingの作成	
第 5- 6回	プロポーザル/ プロポーザル(Map)作成	全体像および資料等をもとに、プロポーザルの作成	
第 7- 8回	文献リストとフォーム/ 文献リストの作成	収集したあるいはこれからする文献のリストを作成する	
第 9-10回	資料の収集方法/ プロポーザル(Map) 提出	資料の収集法の確認と計画、プロポーザルの作成	
第11-12回	文献リスト1 提出 / 文献収集	文献を収集する。それと同時に文献を読破していく。	
第13-14回	原稿の書き方	原稿を書き始める。夏休みの計画をたてる	
第15回	夏休み計画の作成/ 文献リスト2	夏休み: Mappingを修正、原稿は半分程度まで書く	
第16-17回	原稿(2分の1)と全体図(Map) 提出・相談	研究の方向と、全体像の確認を行い。原稿の加筆・修正を行う	
第18-19回	内容指導	指導を踏まえ、原稿の加筆・修正を行う	
第20-21回	原稿(3分の2)と全体図(Map) 提出・相談	指導を踏まえ、原稿の加筆・修正を行う	
第22-23回	内容指導	指導を踏まえ、原稿の加筆・修正を行う	
第24-25回	原稿(全部)と全体図(Map) 提出・相談	指導を踏まえ、原稿の加筆・修正を行う	
第26-27回	原稿の最終分量に達成 提出・相談	指導を踏まえ、原稿の加筆・修正を行う	
第28-30回	最終チェック期間 提出・相談 / 卒業論文提出	指導を踏まえ、原稿の最終確認を行い提出	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	20% 途中定期的に、卒論内容の提出が課せられる。		
小テスト等	なし		
成果発表	50% 卒業論文(学生便覧の規定に従うこと)。		
受講態度他	30% 卒論指導の受講状況、経過報告、口頭発表、ハンドアウト、卒論取組み度等を考慮し判断する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒論提出の期日を厳守すること。遅れて提出した場合は、不合格とする。 卒論は提出すればよいというものではなく、その途中経過も重視する。そのため途中経過において決められたことを実行しない場合、評価に大きく影響する。細かいルールは、初回授業において配布する。		
教科書	プリントを配布する。		
指定図書	特になし		
参考図書	適宜紹介する。		
オフィスアワー	月と火と水の昼休み(予約が望ましい)	メールアドレス	

授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	大城 房美		単位	4
授業の目的と概要	現代文化論／女性学・ジェンダー学／英語文学・文化に関するテーマを設定し、自分の視点から問題提起しながら、資料収集・作品分析を行い、自分の主張を論文にまとめることができる。 前期は論文の構成やテーマ設定を含むスタイルに関する部分を、後期は論文の執筆をし、適宜面談を行いながら指導する。			
到達目標	(1) 現代文化論／女性学・ジェンダー学／英語文学・文化に関するテーマを設定する。 (2) 資料収集・作品分析を行い、先行研究を把握する。 (3) 自分の主張を論文にまとめる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連科目： 卒業ゼミナール 各学生が受講した担当教員の科目（英語文学、現代ポップカルチャー、アメリカ文学史、英語圏女性作家研究）			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1-2回	Introduction 文献収集の基礎を確認する	資料収集『大学生のためのレポート論文術』の文献収集を読む		
第3-4回	卒業論文の構成やスケジュールを確認する	『大学生のためのレポート論文術』の卒業論文の箇所を読む		
第5-6回	卒業論文のスタイルを確認する	『大学生のためのレポート論文術』の書き方の約束を読む		
第7-8回	テーマ設定と資料リストの提出と確認	資料収集とテーマ構想		
第9-10回	アウトラインの提出	資料収集とアウトライン構想		
第11-12回	各章についてのアウトライン	資料収集とアウトライン構想		
第13-14回	「はじめに」	資料収集 論文執筆		
第15回	前期の成果を提出（テーマ、アウトライン、「はじめに」、資料リスト）	前期の成果をまとめる		
第16-17回	全体の構想を確認 各章のアウトライン構想	論文執筆		
第18-29回	各章ごとに提出、その都度確認・修正	論文執筆		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
-		-		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	80%提出された卒業論文による評価。			
受講態度他	20%前期の成果提出を含む。卒業論文完成に至るまでの受講態度。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	前期中に、前期の成果（テーマ、アウトライン、はじめに、資料リスト）を提出すること。			
教科書	『新版 大学生のためのレポート・論文術』（小笠原喜康）			
指定図書	『A Manual for Writers of Research Papers, Theses, and Dissertations』『A Pocket Style Manual 7th ed』『これから論文を書く若者のために 大改訂増補版』（酒井聡樹）			
参考図書	論文の内容により指導			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	中村 テーマ		単位	4
授業の目的と概要	The student of the thesis writing course will complete an individual research project based on her interest in connection with the faculty advisor's research area. Topics may vary: culture and communication; society and communication; gender and communication. The student will meet and consult with the faculty advisor on a weekly basis to meet the step by step goals of the research project described above.			
到達目標	The student will be able to formulate a research proposal (state a research question, the purpose of the research, identify and choose methodology) and carry out literature review.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	What is a research project		print	
第2回	Writing a research proposal		print	
第3回	What is a research question		print	
第4回	Stating a research question		print	
第5回	Purpose of research (topic/research question)		print	
第6回	Describe purpose of research		予習	
第7回	Overview of methodologies		print	
第8回	Identify methodology for project		予習	
第9回	What is a literature review		print	
第10回	Approaches to lit review - library; online database		print	
第11回	Reference search on specific topic		予習	
第12回	Reference search on specific topic		予習	
第13回	Proposal written draft		予習	
第14回	Final consultation on written draft		予習	
第15回	Submit final written research proposal		予習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	None			
レポート	None			
小テスト等	-			
成果発表	None			
受講態度他	None 後期最終評価 (Written Research Proposal Completed)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Evaluation and credit will be awarded according to consistent development of the research and writing process above.			
教科書	Supplementary materials provided by teacher			
指定図書	None			
参考図書	Appropriate library references to be announced, or available on request to teacher			
オフィスアワー	月曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	D. J. Wood		単位	4
授業の目的と概要	Students choose a topic of interest to research and deepen their understanding of by presenting their findings in the form of a thesis			
到達目標	Students acquire knowledge of a subject of interest to them and apply the necessary analytical and expressive skills to take their grasp further			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	DP2の社会生活に必要な英語の基本的文書や資料を読み書くことができる。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 proposal submission			To be announced	
第2回 detailed chapter by chapter description			To be announced	
第3回 chapter description feedback for rewriting			To be announced	
第4回 rewritten chapter description check			To be announced	
第5回 final version of chapter description			To be announced	
第6回 first draft of thesis in accordance with the revised proposal			To be announced	
第7回 initial feedback on the first draft of the thesis			To be announced	
第8回 follow-up comments and rewriting of the first draft			To be announced	
第9回 review of the reworked first draft			To be announced	
第10回 final outline thesis draft proposal presentation			To be announced	
第11回 extension of the thesis parameters to include all relevant background perspective			To be announced	
第12回 first rewrite including the additional perspectives			To be announced	
第13回 confirmation of the rewritten version			To be announced	
第14回 oral presentation of the rewrite for feedback			To be announced	
第15回 tentative final version submission			To be announced	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	All study materials will be arranged in class			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	Lunchtime on Tuesdays.	メールアドレス		



授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	小林 久泰		単位	4
授業の目的と概要	<p>宗教・文化に関する研究をすすめ、研究論文を作成する。自分で選択したテーマについて統合的な学習をすすめ、創造的思维能力を養う。その研究成果を「卒業論文」という作品として表現することを目的とする。</p> <p>4年間の大学生活の集大成として「卒業論文」を作成していく。前期は主に卒論作成のための具体的なテクニックについて講義をする。後期は、中間発表を複数回行い、読者を意識した論文の完成を目標とする。各自の卒業論文は『卒業論文集』として製本する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 必要な資料を収集した上で、それを正確に読解し、批判的に分析することができる。</li> <li>2. 資料を適切に使用して、論理的な文章を作成することができる。</li> <li>3. 正しい書式に則って、研究成果を学術論文に纏めることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	学術論文とは何か	発表準備		
第2-4回	テーマの選定とアウトラインの作成	資料収集、発表準備		
第5回	口頭発表とディスカッション：テーマ発表	資料収集、発表準備		
第6-7回	論文の書式・論述の方法	資料収集、発表準備		
第8-9回	口頭発表とディスカッション：構想中間	資料収集、発表準備		
第10-12回	論文作法：参考文献リスト・注記・引用の作り方、先行研究の評価	原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成		
第13-14回	口頭発表とディスカッション：本論1	原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成		
第15-16回	アウトラインの見直しと最終アウトライン作成	原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成		
第17-18回	口頭発表とディスカッション：本論2	原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成		
第19回	進行状況の確認と指導	原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成		
第20-21回	口頭発表とディスカッション：本論3	原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成		
第22-23回	口頭発表とディスカッション：本論4	卒論作成・資料収集・資料分析・原稿執筆・文献表作成		
第24-27回	進行状況の確認と指導	原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成		
第28-29回	口頭発表とディスカッション：最終発表	原稿執筆、資料収集、資料分析、発表準備、文献リスト作成		
第30回	編集作業	編集作業		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	30%：研究発表(全6回)			
受講態度他	(受講態度)10%：発表への取り組み(口頭試問)10%：論文内容把握能力、推敲能力により評価 (卒業論文)40%：論文の内容により評価 10%：体裁・表記・表現力により評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>全力を尽くして、主体的に論文作成に取り組むことが求められる。</p> <p>9月に合宿を開催し、中間発表を行う。</p> <p>字数、締め切りを厳守すること。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	各自のテーマに従い、適宜指示する。			
オフィスアワー	月曜2講時	メールアドレス		

授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	三日月 雅子		単 位	4
授業の目的と概要	卒業論文では、卒業ゼミナールⅠ・Ⅱで行う研究を更に深め、その研究成果を論文にまとめます。前期は卒業ゼミナールと別に時間をとり、全体指導を数回行います。研究の方法・手順を学ぶとともに、テーマを絞り込み研究の下準備を行います。後期は個別指導です。各自アポイントメントを取り、途中経過に関して指導教員から助言・指示を得て、作成作業を進めていきます。内容への指導を受ける前に、卒論のスタイル・スペリング等を確認し適切なものしておくことが望まれます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 航空関連の英語に関するテーマの一つを設定し、卒業論文を書くことができるようになること。</li> <li>2. テーマに関することを、図書やインターネットを使い情報を収集すること。</li> <li>3. 収集した資料や情報を適確に分類し、活用すること。</li> <li>4. 資料や情報をもとに、オリジナルな論考または視点を入れて論文としてまとめること。</li> <li>5. 卒業論文の内容に関して、適切に説明することができるようになること。</li> <li>6. 特定分野の知識・技能を説明することができるようになること。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1-2回	テーマ決定までのスケジュールと手順	テーマを決めるための情報収集		
第 3-4回	テーマの設定	図書館およびWeb上で関連文献を収集		
第 5-6回	アウトラインの作成	資料等をもとにアウトラインを作成する		
第7-8回	文献収集および文献リスト# 1の作成	収集済み、および未収集文献のリストを作成する		
第 9-10回	修正プロポーザルの作成および提出	収集した資料を基に修正プロポーザルを作成する		
第11-12回	文献リスト# 2作成および提出	文献を継続収集しながら、同時に文献を精読していく		
第13-14回	ドラフトの書き方	ドラフトを書き始める。夏休みの計画をたてる		
第15回	夏休み計画の作成/ 文献リスト# 3 提出	夏休み: ドラフトは半分程度まで書く		
第16-17回	ドラフト(2分の1)提出および面談	研究の方向性と全体像の確認を行う		
第18-19回	内容指導	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う		
第20-21回	ドラフト(3分の2)提出および面談	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う		
第22-23回	内容指導	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う		
第24-25回	ドラフト(全部)提出および面談	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う		
第26-27回	最終分量に到達したドラフトの提出・面談	指導を踏まえ、ドラフトの加筆・修正を行う		
第28-30回	最終確認 / 卒業論文提出	指導を踏まえ、ドラフトの最終確認を行い提出する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 途中定期的に、卒論のドラフト提出が課せられる			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 卒業論文(学生便覧の規定に従うこと)			
受講態度他	30% 卒論指導の受講状況、経過報告、口頭発表、ハンドアウト、卒論取組み度等を考慮し判断する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒論提出の期日を厳守すること。期限を守れなかった場合は不合格とする。卒論はその作成過程も重視される。そのため、授業計画に明記されたことを実行できない場合は評価に大きく影響する。			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	前期 火曜日: 昼休みと3限目以降 金曜日: 昼休みと4限目以降	メールアドレス		

授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	宮原 牧子		単位	4
授業の目的と概要	卒業論文では、卒業ゼミナールⅠ・Ⅱで行う研究を更に深め、その研究成果を論文にまとめます。 和文で論文を執筆する場合は20,000字以上、英文の場合は8,000語以上とします。 論文提出後に口頭試問を行います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英詩を正確に読み、理解できるようになること</li> <li>2. 文学用語、詩人、作品、時代背景に関する知識を深めること</li> <li>3. 先行研究について十分に調査すること</li> <li>4. 作品を「分析・批評」する独自の視点を持つこと</li> <li>5. 「テーマ」定め、論文の構成を考えること</li> <li>6. 参考資料や文献を正しく参照・引用すること</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
卒論スケジュールについて			詩人・作品の選定	
第2・3・4回 作品読解			文献収集	
第5・6回 文献収集結果報告			アウトライン作成	
第7回 アウトラインの作成 (A4用紙1~2枚)・質疑応答			論文作成	
第8・9回 論文作成指導			論文作成	
第10・11・12・13・14回 第1稿の執筆 (毎週、途中経過を報告)			論文作成	
第15回 中間発表(1)			論文作成	
第16回 論文作成指導			論文作成	
第17・18・19回 第2稿の執筆 (毎週、途中経過を報告)			論文作成	
第20回 中間発表(2)			論文作成	
第20・21・22回 最終稿作成指導 (毎週、途中経過を報告)			論文校正・発表会準備	
第23回 卒業ゼミナール内発表会			論文作成	
第24・25回 最終稿作成指導			論文校正	
第26・27回 最終チェック			論文校正・提出	
第30回 口頭試問			—	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	80% 提出された論文で評価します。			
小テスト等	—			
成果発表	20% 口頭試問で評価します。			
受講態度他	—			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1・2年次で履修すべき全ての必修科目の単位を修得した人(編入生を除く)だけが、この科目を履修できます。 卒論提出の期日を厳守すること。遅れて提出した場合は、不合格とします。			
教科書	—			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	火曜日 4限目	メールアドレス		

授業科目	卒業論文（アジア文化学科）		開講時期	通年
担当教員	アジア文化学科 専任教員		単 位	4
授業の目的と概要	担当の各専任教員の個別指導のもとで卒業論文の作成、またはこれにかわる卒業制作を仕上げることを目的とする。授業は、すべて自身の「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」担当の教員の指導にしたがう。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業ゼミナールを通じて、自己の卒業論文のテーマを設定できる。</li> <li>自己のテーマについて、様々な方法で資料や情報を収集することができる。</li> <li>独自に集めた資料や情報を整理し、考察を加えることによって、卒業論文を作成することができる。</li> <li>または、資料や情報に基づいて、卒業制作を仕上げるすることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	⑤アジアの言語・社会・文化についての学修をもとに自己の関心を深め、多角的な視点から自らの考えを示すことができる。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。		個人別課題の学習		
第2回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。		個人別課題の学習		
第3回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。		個人別課題の学習		
第4回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。		個人別課題の学習		
第5回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。		個人別課題の学習		
第6回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。		個人別課題の学習		
第7回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。		個人別課題の学習		
第8回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。		個人別課題の学習		
第9回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。		個人別課題の学習		
第10回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。		個人別課題の学習		
第11回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。		個人別課題の学習		
第12回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。		個人別課題の学習		
第13回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。		個人別課題の学習		
第14回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。		個人別課題の学習		
第15回 前期・後期を通じて、平常の授業時は行わない。		個人別課題の学習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100% 卒業論文または制作			
小テスト等	-			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業論文の提出期限（平成28年度は12月20日）を厳守すること。学生便覧に示される規定を確認すること。			
教科書	各教員の指示に従うこと			
指定図書	各教員の指示に従うこと			
参考図書	各教員の指示に従うこと			
オフィスワーカー	各教員の他科目のシラバス参照	メールアドレス		

授業科目	卒業論文（発達臨床心理コース）		開講時期	通年
担当教員	渋田 登美子・浅田 淳一・酒井 均・浦田 英範・榊 祐子・森田 理香・宇治 和貴		単 位	2
授業の目的と概要	自らが設定した課題に対して、研究計画に基づいたデータ分析や文献研究を行い、卒業論文という形式にまとめる。研究成果を心理学研究法に則してまとめることで、論理的な思考や客観的に問題を解決する力を身につける			
到達目標	①創造的思考力を用いて、心理学に関わる問題を設定し、心理学の研究方法に即した研究計画が立てられる ②研究計画に基づいて、データを測定するために必要なアプローチを選択することが出来る ③客観的指標に基づいたデータ収集、あるいは文献研究を行なうことが出来る ④得られた結果を論理的にまとめ、客観的視点から考察を導き出すことが出来る ⑤問題や研究計画などを論文にまとめ、その成果を論理的に説明し、発表できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	基本的な事柄については卒業家研究と同時並行で行う。各ゼミの卒業研究Ⅰ、Ⅱを参照。 設定するテーマの範囲は、人間の発達・臨床心理にかかわるもの、およびこれに関するものとする。卒業論文には卒業研究より高いレベルの内容が求められる。なお、本学、他大学を問わず大学院進学希望者は必ず履修する必要がある。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1・2回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照	テーマの設定、情報の収集		
第3・4回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照	テーマの設定、情報の収集		
第5・6回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照	テーマの設定、情報の収集		
第7・8回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照	テーマの設定、情報の収集		
第9・10回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照	テーマの設定、情報の収集		
第11・12回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照	テーマの設定、情報の収集		
第13・14・15回	各ゼミの卒業研究Ⅰのスケジュールを参照	プレゼンの準備（中間発表）		
第16回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照	データの整理、論文執筆及び推敲		
第17・18回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照	データの整理、論文執筆及び推敲		
第19・20回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照	論文執筆及び推敲		
第21・22回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照	論文執筆及び推敲		
第23・24回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照	論文執筆及び推敲		
第25・26・27回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照	論文執筆及び推敲		
第28・29回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照	プレゼンの準備（最終発表）		
第30回	各ゼミの卒業研究Ⅱのスケジュールを参照	プレゼンの準備（最終発表）		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	50% 卒業論文、抄録の提出			
小テスト等	-			
成果発表	30% 卒論発表会にて、プレゼンテーションを行う。			
受講態度他	- 20% 口答試問			
受講上の留意点・ルールに関する情報	口答試問では、主査（担当ゼミ教員）、副査（学科の他の専任教員1名）の2名の先生をまじえ、論文について質疑を行う。該当学生は、指定された時間で卒業論文の概要を説明することが求められる。卒論発表会では、心理学科専任教員と在学生に対して発表を行う。			
教科書	-			
指定図書	-			
参考図書	各ゼミによる			
オフィスアワー	担当教員の他科目のシラバスを参照してください。	メールアドレス		

授業科目	卒業論文（社会福祉コース）		開講時期	通年
担当教員	西原(尚)・山崎(安)・益満(孝)・池田(和)・徳永(勇)・新家(め)・金(圓)・高木(佳)		単 位	4
授業の目的と概要	卒業ゼミナールでの取り組みをさらに深化・発展させ、各専任教員による個別指導のもとで、「卒業論文」を作成することを目的とする。 卒業研究での取り組みをさらに深化・発展させ、各専任教員による個別指導のもとで、「卒業論文」を作成する。「卒業論文」のテーマ範囲は、社会福祉、人権・社会問題及び人間の福祉に関する諸課題とする。 卒業論文の履修は、学生各自の大学での個別の研究の総括として、「卒業研究」での課題を超えて、それぞれの研究テーマをより深く追求・発展させたいとする学生及び上級学校（大学院等）への進学を考えている学生を対象とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自ら取り組む研究テーマが設定できる。</li> <li>2. 研究の視点を理解し、研究方法を身につけることができる。</li> <li>3. 1・2の成果として「卒業論文」が作成できる。</li> <li>4. 「卒業論文」を発表したり、それについて討議する能力が習得できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1～ 3回	卒業論文のテーマ設定		—	
第 4～11回	資料収集等研究方法の学習		課題①	
第12～13回	中間報告		発表レジュメ	
第14～22回	卒業論文の発表及び集団討議		課題②	
第23～27回	個人指導		課題②	
第28～30回	口頭試問		卒業論文提出	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
—	—		—	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80％ 卒業論文の審査を主とする			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 口頭試問での受け答えなど			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	4年次のオリエンテーション時に、卒業論文についての説明を行うので必ず参加すること。			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	各教員による			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照してください。	メールアドレス		

授業科目	卒業論文（人間形成専攻）		開講時期	通年
担当教員	人間形成専攻 専任教員		単位	4
授業の目的と概要	4年次科目「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」を通して取り組む各自の研究課題について、卒業論文としてまとめること及びその概要を口頭で述べ、質疑応答ができることを目的とする。 各自が設定したテーマについて、担当教員の指導のもと卒業論文の作成を行う。 論文制作やその発表を通して、目的にあったデータ収集方法、適切な分析・吟味、問題を発見する力や論理的思考能力、文章構成能力等を獲得することを目的とする。なお、研究の成果物をまとめる「卒業論文」の要件は、内容の程度や基準となる文字数等で「卒業研究」の要件を超えたものとして別途定める。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 課題の設定、調査方法の選択及び実施、結論やその吟味、研究成果の発表など、問題解決的な手法で研究に臨むことができる。</li> <li>2 課題設定の理由（必要性・研究する価値）を明確にもち説明することができる。</li> <li>3 課題について、客観的な事実を踏まえながら立論することができる。</li> <li>4 研究の成果を卒業論文としてまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第2回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第3回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第4回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第5回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第6回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第7回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第8回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第9回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第10回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第11回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第12回	「卒業ゼミナールⅠ」「卒業ゼミナールⅡ」の進捗状況に応じ個別指導を行う。	課題についての調査及び報告の準備		
第13回	卒業論文発表会（複数ゼミ合同で実施可）	発表及び口述試問の準備と発表後の振り返り		
第14回	卒業論文発表会（複数ゼミ合同で実施可）	発表及び口述試問の準備と発表後の振り返り		
第15回	卒業論文発表会（複数ゼミ合同で実施可）	発表及び口述試問の準備と発表後の振り返り		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	実施しない。			
レポート	課さない。			
小テスト等	実施しない。			
成果発表	80％（卒業論文の内容及び口述試問）			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業論文の様式や提出期限を遵守できるよう研究を進めること。			
教科書	特に指示しない。			
指定図書	特に指示しない。			
参考図書	『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房（購入済：1年次「基礎ゼミナール」で使用した教科書）			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照すること。	メールアドレス		

授業科目	卒業論文		開講時期	通年
担当教員	高山 百合子		単 位	4
授業の目的と概要	<p>卒業論文は、日本語・日本文学科での学修の集大成として取り組む必修科目である。日本語の様々な課題の中から自らのテーマを見出し、独自の視点から考察を加えて論文を作成する。この過程全体を通して、課題の発見、問題点や資料の整理・分析、論理的な思考により解を導き、明確に論述して成果を発信する。この一連の取り組みは、今後社会人・職業人として求められる問題発見・問題解決行動のシミュレーションである。</p> <p>年間のスケジュールを睨みながら、論文作成を進めていく。小学校以来の学びの最終段階であることを自覚し、一つ一つの過程を確実に進めて、自らの集大成としてほしい。</p>			
到達目標	<p>(1) 日本語に関し、適切な課題を選んで立論することができる。</p> <p>(2) 先行研究を整理し、必要なデータを収集することができる。</p> <p>(3) データを分析し、論証を進めることができる。</p> <p>(4) 結論を論理的に導き、明快に論述することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	◇大学での学修をもとに各自の知的興味・関心を深め、卒業論文において自らの考えを明確に伝えることができる。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション；論文とはどのようなものか		小調査の発表準備；発表資料を作成しておく	
第2回	小調査発表会（1）		小調査の発表準備；発表資料を作成しておく	
第3回	小調査発表会（2）		テーマと研究方法について考える	
第4回	日本語学研究法：分野、資料、研究方法		テーマと研究方法について考える	
第5～7回	テーマ決定（個別面談を含む）		テーマを絞り、研究動向を整理する	
第8回	経過報告会		研究計画原案作成	
第9～12回	研究計画作成（個別面談を含む）		資料・研究方法を選び、計画を作成する	
第13～15回	個別面談：研究計画報告		研究計画に従い、データ収集を行う	
第16回	中間報告会		発表資料及び中間報告レポート提出	
第17～19回	個別面談：資料分析、理論構築		論文作成	
第20～22回	個別面談：題目・構成計画（章立て）		論文作成	
第23回	構想発表会		題目・論文構成計画（目次）提出	
第24～26回	個別面談：論文提出		論文提出	
第27～29回	個別面談：口頭試問		研究成果発表原稿作成	
第30回	論文報告会		研究成果発表原稿提出	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	特になし			
レポート	特になし			
小テスト等	特になし			
成果発表	90％：論文及び成果発表原稿			
受講態度他	10％：各種発表、報告における積極性などを評価に加味する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	◇課題提出などの締め切りを守って、論文の完成を目指し、段階を踏んで進めていってもらいたい。			
教科書	岩崎美紀子「知」の方法論『』（岩波書店）			
指定図書	特になし			
参考図書	個別に指示する			
オフィスワー	水曜4・5講時	メールアドレス		



授業科目	卒業論文・制作		開講時期	通年
担当教員	吉野 嘉高		単位	4
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアに関連するひとつのテーマを設定し、そのテーマに沿ってリサーチをして論文にまとめる。</li> <li>・あるいは、身近な事象についてひとつのテーマを設定し、そのテーマに沿って取材を行い映像コンテンツの形にまとめる。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文・制作に相応しいテーマの設定ができる。</li> <li>・テーマに沿ったリサーチ・取材をすることができる。</li> <li>・他者にもわかりやすい論文、映像コンテンツの構成を考えることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 オリエンテーション			スケジュールを作成する。	
第2回～第3回 テーマ設定			テーマ案を作成する。	
第4回 リサーチについて			リサーチのスケジュールを作成する。	
第5回～第10回 リサーチ結果の分析			リサーチの反省点をまとめる。	
第11回～第18回 [論文]第1稿の執筆 [制作] 取材、撮影			コンテンツの流れを整理する。	
第19回 中間発表			発表の良かった点、悪かった点をまとめる。	
第20回～第29回 [論文]最終稿の執筆 [制作] 編集と追加取材、撮影			コンテンツ全体を見て問題点をまとめる。	
第30回 発表			授業の総括をする。	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	90% 期限内に指定された方法で提出			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	10% 積極的な授業態度を重視			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	[論文] 20000字以上 [映像制作] 取材を前提としたコンテンツ			
教科書	[映像制作] 吉野嘉高著『テレビ番組制作実践講座 企画・取材・編集のメソッド』権歌書房(とうかしょぼう) [論文] なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	卒業論文・制作		開講時期	通年
担当教員	J. Stewart		単位	4
授業の目的と概要	<p>Completion of a graduation thesis. Students will research areas of their own interest. Students lacking direction will be offered a list of possible research topics by the supervisor. In the first semester, students will meet with the supervisor regularly to discuss progress on their rough drafts. In the second semester, students will rewrite their papers based on the supervisor's recommendations. Further research may be necessary. The final draft must be submitted well in advance of the official deadline, about December 20th (a timeline will be provided). Note: The Senior Thesis is a two-semester undertaking.</p>			
到達目標	By the end of this course, students will have completed a graduation thesis, in English, having a length of over 8,000 words (20 pages). This thesis will be published on the class home page.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	This course is optional. Students should not attempt such a project unless they are absolutely confident in their ability to complete it. The teacher will serve as an advisor in this endeavor; he will not rewrite the entire thing.			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
Course overview, syllabus, counseling			DEADLINE: December 20.	
Topic Selection			Second Week	
General Outline			Third Week	
Detailed Outline			Fourth Week	
Introduction, Conclusion			-	
-			-	
-			-	
Rough Draft (1)			End of First Semester	
(This single-page syllabus covers 2 semesters.)			Beginning of 2nd Semester	
Rough Draft (2)			Halloween	
-			-	
-			-	
-			-	
-			-	
Final Draft			About December 20th.	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	100% Final evaluation is based on the quality and quantity of research, and on the student's demonstrated potential for making a serious contribution. No credit will be given for papers written with a translation program			
小テスト等	-			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>Do your own work. Copy-paste will not be tolerated. Material taken from the Internet must be sufficiently paraphrased that it becomes the student's own, original, plagiarism-free writing. (It is better to write your paper by hand than to attempt to clean up a machine translation.) Remember: machines cannot write English; only human beings can write English.</p>			
教科書	None.			
指定図書	None.			
参考図書	Principles of Writing Research Papers, by J.D. Lester Sr. & J.D. Lester Jr. (Penguin)			
オフィスワー	月曜日1講目	メールアドレス		

授業科目	卒業論文・制作		開講時期	通年
担当教員	一ノ瀬 元史		単位	4
授業の目的と概要	自ら設定したテーマに沿って、リサーチ、論文執筆を行い、規定の期日までに完成させる			
到達目標	4年間の集大成として卒業論文を完成させることができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	授業は「卒業ゼミナール」の延長で、個別指導とします			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 卒論スケジュールの概略についての説明(オリエンテーション)		なし		
第2回 卒論テーマについてのディスカッション		卒論テーマの探求そしてテーマの提出に向けて準備		
第3回 文献収集		参考文献リストの作成		
第4回 アウトラインの作成		論文構成準備		
第5回 アウトラインの作成		論文構成準備		
第6回 第一回中間発表と質疑応答		口頭発表と質疑応答の準備		
第7回 第1稿の執筆		論文作成		
第8回 第1稿の執筆		第1稿提出期限9月30日		
第9回 第二回中間発表と質疑応答		口頭発表と質疑応答の準備		
第10回 最終稿完成に向けて執筆指導		論文作成		
第11回 最終稿完成に向けて執筆指導		論文作成		
第12回 最終稿完成に向けて執筆指導		論文作成		
第13回 最終稿完成に向けて執筆指導		論文作成		
第14回 最終稿完成に向けて執筆指導		論文作成		
第15回 最終稿完成に向けて執筆指導		口頭試問		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	%			
レポート	70%			
小テスト等	%			
成果発表	30%			
受講態度他	%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業論文は以下の要項に従って執筆すること 1. 内容は情報社会の諸問題に限る 2. 分量としては、和文で20,000字程度 3. 提出締切は12月19日17:00			
教科書	特になし			
指定図書	適宜指示する			
参考図書	テーマに沿って適宜指示する			
オフィスワー	授業の前後もしくは電子メールで確認すること	メールアドレス		

授業科目	卒業論文・制作		開講時期	通年
担当教員	橋本 嘉代		単 位	4
授業の目的と概要	<p>【卒業論文】  雑誌・新聞などの活字メディアやコンテンツ、ソーシャルメディアなどについて調査・研究し、それらをより深く理解する。  論文の書き方を理解し、調査・研究した内容を論文の形にまとめる。  個人指導を基本とします。研究方法は、雑誌研究であれば、複数の雑誌の比較分析or特定の雑誌に絞った分析など、問いを明らかにするための適切な対象と方法を選びます。そして、内容分析（頻出単語の回数を測るといった量的分析）、言説分析（ある社会的背景の中でどのような言説＜特定のテーマに関する語られ方＞が現れてきたかを分析する質的分析）などの手法の中から、適切な分析手法を用いて分析を行います。なお、ソーシャルメディアにおけるコミュニケーションの分析など、文字や言葉を分析の対象としたい研究であれば、雑誌以外でも対象にすることができます。</p>			
到達目標	<p>【卒業論文】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文の書き方を理解する</li> <li>卒業論文のテーマや構成を考え、執筆し、論文としてまとめることができる</li> <li>メディアを分析するリテラシーを身につける</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回～第2回	卒業論文の書き方		テーマ、タイトルを考える	
第3回～第5回	テーマ設定についてディスカッション、取材・調査方法の研究		テーマ設定のための調査 取材・研究方法の調査	
第6回～第15回	調査・分析・研究の方法、参考文献や資料の収集		予習、復習	
第16回	経過と修正点の確認		経過報告の準備	
第17回～第20回	論文の構成、執筆		執筆、制作作業	
第21回	経過と修正点の確認		経過報告の準備	
第22回～第28回	執筆		執筆	
第29回～第30回	最終仕上げ、完成、発表		発表の準備	
-			-	
-			-	
-			-	
-			-	
-			-	
-			-	
-			-	
-			-	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	90%（卒業論文または制作物の提出）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業論文：新聞・雑誌などの活字メディアやソーシャルメディアに関する内容のもの。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『メディアの卒論—テーマ・方法・実際』ミネルヴァ書房(3000円+税)			
オフィスアワー	火曜14時50分～16時20分	メールアドレス		

授業科目	卒業論文・制作		開講時期	通年
担当教員	一木 順		単 位	4
授業の目的と概要	自ら設定したテーマに向けて、リサーチ、立論および論文執筆を行い、規定の期日までに完成させる 授業は基本的に個別指導として行う。 中間報告は「卒業ゼミナールI、II」の時間を利用して行うこととする。			
到達目標	4年間の集大成として卒業論文を完成させることができる			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 卒論スケジュールの概略についての説明			なし	
第 2回 卒論テーマについてのディスカッション			卒論テーマ (A4用紙1~2枚) 提出 提出期限 5/31/2015	
第 3回 文献収集および検討			参考文献リスト (所定の用紙で10枚) 提出 8/30/2015	
第 4回 アウトラインの作成			なし	
第 5回 アウトラインの作成 (A4用紙1~2枚)			アウトライン提出期限7月31日	
第 6回 第一回中間発表と質疑応答 (卒業ゼミナールの時間内に行う)			論文作成	
第 7回 第1稿の執筆			論文作成	
第 8回 第1稿の執筆			第一稿期限9月30日	
第 9回 第二回中間発表と質疑応答 (卒業ゼミナールの時間内に行う)			30分程度の口頭発表および20分の質疑応答に備えること	
第10回 最終稿の完成に向けて			最終稿執筆	
第11回 最終稿の完成に向けて			最終稿執筆	
第12回 最終稿の完成に向けて			最終稿執筆	
第13回 最終稿の完成に向けて			最終稿執筆	
第14回 最終稿の完成に向けて			最終稿執筆	
第15回 口頭試問			提出期限 12/21/2015	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	20%			
小テスト等	-			
成果発表	80%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	卒業論文は以下の要項にしたがって執筆すること 1. 内容としてはアメリカ文化、アメリカ社会、メディア文化などに限る。 2. 分量としては、和文であれば20,000字程度、英文であれば8,000語程度 3. 提出締め切りは12月20日(火)午後5時 中間での提出期限に遅れた場合は、卒論提出を認めないことがある			
教科書	なし			
指定図書	適宜指示する			
参考図書	卒論テーマに応じて、適宜指導する			
オフィスワー	授業の前後。研究室は3305 (3号館3階)	メールアドレス		

授業科目	卒業論文・制作		開講時期	通年
担当教員	荒巻 龍也		単 位	4
授業の目的と概要	<p>【論文】映像メディアならびに映像メディアコンテンツについて調査・研究し、より深く理解する。論文の書き方を書式も含めて理解し、調査・研究した内容についてまとめ、論文にする。</p> <p>【シナリオ】シナリオの書き方を理解し、実際にシナリオを書いてみる。</p> <p>【制作】映像コンテンツ作成の一連の流れ（企画から編集、完成まで）を理解する。理解した一連の流れを実践し、映像作品を完成させる。</p>			
到達目標	<p>【論文】1. 卒業論文の書き方を理解し、研究論文を書くことができるようになる。 2. テーマを設定し、調査・研究した内容をまとめ、卒業論文として書き上げることができるようになる。</p> <p>【シナリオ】1. シナリオが何であるかを理解する。 2. シナリオを書くことができるようになる。</p> <p>【制作】1. 企画に基づいて構成・シナリオ、絵コンテなどを作成し撮影することができるようになる。 2. 撮影した素材をもとに編集し、映像作品を作り上げることができるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	基本的には「卒業ゼミナール」の延長で、個人指導を中心に行います。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1～2回	卒業論文・制作指導（1）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第3～4回	卒業論文・制作指導（2）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第5～6回	卒業論文・制作指導（3）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第7～8回	卒業論文・制作指導（4）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第9～10回	卒業論文・制作指導（5）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第11～12回	卒業論文・制作指導（6）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第13～14回	卒業論文・制作指導（7）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第15～16回	卒業論文・制作指導（8）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第17～18回	卒業論文・制作指導（9）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第19～20回	卒業論文・制作指導（10）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第21～22回	卒業論文・制作指導（11）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第23～24回	卒業論文・制作指導（12）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第25～26回	卒業論文・制作指導（13）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第27～28回	卒業論文・制作指導（14）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
第29～30回	卒業論文・制作指導（15）		論文執筆、シナリオ執筆、映像作品制作	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0% なし			
レポート	90% 卒業論文、卒業制作（シナリオもしくは映像作品）の提出			
小テスト等	0% なし			
成果発表	10% 卒業論文、卒業制作の発表（会）			
受講態度他	0% なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>【卒業論文】映像メディアならびに映像コンテンツに関する内容のものとします。（放送メディアに関するものでも可）和文で制作し、原則として20000字以上とする。A4版に印字する。詳細は後日指示します。</p> <p>【シナリオ】200字詰め原稿用紙換算で60枚程度とします。詳細は後日指示します。</p> <p>【卒業制作】アニメーションは5分以上、ドラマは10分以上、ドキュメンタリーは15分以上とします。その他の映像作品の場合は指示に従ってください。作品以外にも企画書、シナリオ、絵コンテなども提出します。</p>			
教科書	なし（「筑女ネット」のオンライン教材ならびにプリント）			
指定図書	なし			
参考図書	授業でその都度紹介します。			
オフィスアワー	前期一水曜日10：00-12：00、金曜日10：00-12：00 後期一火曜日11：00-12：00、金曜日10：00-12：00	メールアドレス		

授業科目	卒業論文・制作		開講時期	通年
担当教員	田口 純		単 位	4
授業の目的と概要	卒業ゼミナールI・II（田口担当）の受講者の中で希望する人を対象に、「英語学・英語教育・e-Learningやメディアを活用した教育」の分野に関するテーマを各自で設定し、そのテーマに従って、4年間の集大成として、1年間かけて卒業論文に仕上げていく。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の興味関心に従って、テーマ設定ができる。</li> <li>・自己管理能力として、タイムマネジメントとスケジューリングができる。</li> <li>・4年間の集大成として卒業論文や制作物を完成させることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 オリエンテーション(授業の進め方など)		論文準備		
第2・3回 研究計画と時間管理		論文準備		
第4・5・6回 テーマ設定		論文準備		
第7・8回 情報検索と情報管理		論文準備		
第9・10・11回 クリティカル・リーディング		論文準備		
第12回 中間発表(1)		論文準備		
第13・14・15回 調査と分析		論文準備		
第16・17回 情報整理と参考文献		論文準備		
第18・19・20回 文体と書式		論文準備		
第21回 中間発表(2)		論文準備		
第22・23・24回 論文執筆		論文執筆		
第25・26回 引用と剽窃と		論文執筆		
第27・28回 最終校正		論文執筆		
第29回 卒業論文提出		論文執筆		
第30回 口述試験		発表準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％：卒業論文・制作			
小テスト等	なし			
成果発表	40％：中間発表(1)10％＋中間発表(2)10％＋口述試験20％			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自ら積極的に行動を起こさないと何もできないので、1年間のスケジューリングをきちんと行うこと。教授者との連絡を緊密に行うこと。不明な点や不安なことがらは遠慮なく相談すること。最後まであきらめず、完成させるという初心を貫くこと。			
教科書	なし			
指定図書	とくになし。			
参考図書	授業中に適宜紹介する。			
オフィスワー	月曜の昼休み、またはメールで相談	メールアドレス		

授業科目	卒業論文・制作		開講時期	通年
担当教員	高森 暁子		単 位	4
授業の目的と概要	英語圏文学、文化、言語、メディアに関するテーマについて、卒業論文を作成することを目的とします。和文で論文を執筆する場合は、20,000字以上、英文の場合は8,000語以上とします。論文提出後には口頭試問が行われます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 論文にふさわしい適切な言語表現ができる。</li> <li>2. 自ら設定したテーマについて、独自の視点をもって発展的に思考することができる。</li> <li>3. 自分の考えを論理的かつ説得力のある文章で論じることができる。</li> <li>4. 参考資料や文献を正しく参照・引用することができる。</li> <li>5. 議論の流れを考えて、論文の構成を考えることができる。</li> <li>6. 研究と論文の執筆を、1年間計画的に継続することができる。</li> <li>7. 論文作法を身につけて、書式や体裁を整えることができる。</li> <li>8. 自分の論文の内容を明確かつ論理的に説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション			作品およびテーマの絞込み	
第 2- 3回 テーマの設定			研究計画作成に向けた準備	
第 4- 5回 研究計画の作成			資料の収集の方法について調べる	
第 6- 8回 資料・文献の収集と整理			先行研究に関する情報を収集する	
第 9-10回 先行研究調査			論文の構成を検討する	
第11-13回 論文構成の決定			論文作法について調べる	
第14回 論文書式と体裁の確認			中間報告をまとめる	
第15回 中間報告			論文作成	
第16-24回 論文作成			論文を通読して点検する	
第25回 論文点検			指摘を受けた箇所を修正する	
第26回 論文校正			指示に従って論文を構成しなおす	
第27回 論文校正			指示に従って内容を修正する	
第28回 論文校正			指示に従って文言を修正する	
第29回 口頭試問準備			口頭試問に向けた想定練習	
第30回 口頭試問			口頭試問の振り返り	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% 提出された論文			
小テスト等	なし			
成果発表	10% 口頭試問			
受講態度他	10% 自発的にアイデアを出し、継続的に執筆に取り組む姿勢を評価する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1・2年次で履修すべき全ての必修科目の単位を修得した人(編入生を除く)だけが、この科目を履修できます。決まった授業時間はないので、相談のうえ指導のスケジュールを決めます。			
教科書	なし			
指定図書	小野俊太郎 『英米小説でレポート・卒論ライティング術』 (松柏社)			
参考図書	なし			
オフィスワー	前期は水曜の5時間目、後期は金曜の昼休み	メールアドレス		



授業科目	卒業論文・制作		開講時期	通年
担当教員	間瀬 玲子		単位	4
授業の目的と概要	フランス文化の中から卒業論文のテーマを自分で考えて選ぶ。選んだテーマに基づいて学術的な観点から文献を収集する。前期は他の学生の前で中間発表を行う。その後中間レポートを提出する。後期は担当教員の指導のもとで卒業論文を完成し、口頭発表会または口述試験において複数の教員の前で卒業論文に関する質問に答えることができることを目的とする。			
到達目標	1 フランス文化の中から自分で卒業論文のテーマを見つけることができる。2 自分で選んだテーマに基づいて研究資料を収集することができる。3 筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとに他の学生の前で中間発表を行うことができる。4 研究の成果の一部を中間レポートにまとめることができる。5 中間レポートを再検討し、研究を更に進めることができる。6 筑女ネットにアップした発表要旨と準備した発表原稿をもとに他の学生の前でプレゼンテーションを行うことができる。7 論理的思考力や問題解決力を駆使して、研究の成果を卒業論文にまとめることができる。8 口頭発表会または口述試験において複数の教員の前で卒業論文に関する質問に答えることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回～第2回	卒業論文のテーマを考える。	課題（テーマの概略）		
第3回～第4回	卒業論文のテーマを決定する。	課題（テーマ決定）		
第5回～第6回	卒業論文の章・節を考える。	課題（章・節の案）		
第7回～第8回	卒業論文の章・節を決定する。	課題（章・節決定）		
第9回～第10回	参考文献を収集する。	課題（参考文献一覧表）		
第11回～第12回	参考文献の分析	課題（参考文献分析）		
第13回～第14回	筑女ネットに発表要旨をアップし、中間発表の準備を行う。	課題（発表要旨準備）		
第15回～第16回	中間発表会で発表を行い、中間レポートを作成する。	課題（中間レポート）		
第17回～第18回	中間レポートを見直す	課題（中間レポート見直し）		
第19回～第20回	文献収集を行う。	課題（文献収集）		
第21回～第22回	卒業論文の下書きを提出する。	課題（卒業論文の下書き）		
第23回～第24回	卒業論文の問題箇所を訂正する。	課題（卒業論文の下書き）		
第25回～第26回	卒業論文を提出する。	課題（卒業論文の見直し）		
第27回～第28回	研究発表要旨、発表原稿を作成する。	課題（研究発表要旨、発表原稿）		
第29回～第30回	口頭発表または口述試験において発表を行う。	課題（口述試験の準備）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	80% 卒業論文			
小テスト等	0%			
成果発表	20% 口頭発表会または口述試験			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	英語メディア学科の申し合わせにより、和文で卒業論文を制作する場合は、原則として20000字以上とします。A4版で印字してください。卒業論文提出後に、必要に応じて口頭発表会もしくは口述試験を行います。			
教科書	教科書はありません。			
指定図書	眞島俊道『人文・社会科学のための研究倫理ガイドブック』慶應義塾大学出版会、酒井聡樹『これから論文を書く若者のために@究極の大改定版』共立出版、佐渡島沙織 レポート・論文をさらによくする「書き直し」ガイド 大修館書店			
参考図書	三浦信孝 『現代フランス社会を知るための62章』明石書店			
オフィスアワー	前期は木曜日2講時、後期は水曜日4講時（個別指導が必要です。メールで前もって相談してください。	メールアドレス		

授業科目	ソフトウェア演習ⅡA		開講時期	前期
担当教員	橋本 嘉代		単 位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>雑誌や書籍、パンフレットなどの出版物をデザインするページレイアウトソフト「InDesign」を使って、誌面デザインを学ぶ授業です。</li> <li>コンテンツ制作の基本的な知識・技能の習得を目指します。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>印刷物制作の基本的なルールを身につける。</li> <li>ページレイアウトソフト「InDesign」の基本設定、文字組み、フォント設定、画像やテキストデータの流し込みなどができる。</li> <li>情報を整理し、印刷物の形にしてわかりやすく人に伝えることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ul style="list-style-type: none"> <li>この授業の履修後、「ソフトウェア演習ⅡB」で、オリジナルコンテンツの制作を経験することにより、さらに知識と技能が深まります。</li> </ul>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	印刷とDTPの基本① (Section1前半)	教科書の範囲の予習・復習		
第2回	印刷とDTPの基本② (Section1後半)	教科書の範囲の予習・復習		
第3回	グラフィックデータの基本① (Section 2 前半)	教科書の範囲の予習・復習		
第4回	グラフィックデータの基本② (Section 2 後半)	教科書の範囲の予習・復習		
第5回	文字組みの基本① (Section3前半)	教科書の範囲の予習・復習		
第6回	文字組みの基本② (Section3後半)	教科書の範囲の予習・復習		
第7回	デザインの基本① (Section4)	教科書の範囲の予習・復習		
第8回	レイアウトをしよう① (Section5前半)	教科書の範囲の予習・復習		
第9回	レイアウトをしよう② (Section5後半)	教科書の範囲の予習・復習		
第10回	中間課題作成・提出	授業中にしななかった場合は、授業外に課題制作		
第11回	データ作成と入稿のしかた① (Section6前半)	教科書の範囲の予習・復習		
第12回	データ作成と入稿のしかた② (Section 6 後半)	教科書の範囲の予習・復習		
第13回	色校正のみかた (Section 7)	教科書の範囲の予習・復習		
第14回	発注とスケジュール、より深く印刷デザインを知るために (Section 8)	教科書の範囲の予習・復習		
第15回	最終課題作成・提出	授業中にしななかった場合は、授業外に課題制作		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50% (中間課題、最終課題)			
小テスト等	20% (授業中に随時、小さい課題を出します)			
成果発表	0%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業時間中の入隊室は原則として禁止です。遅刻3回で欠席1回に換算します。欠席が6回以上の場合は単位を認定できません。</li> <li>コンピュータ演習室1に入っているソフトウェア「InDesign」を使用します。コンピュータ演習室1 (AかB) に他の授業が入っていない時間帯や昼休みなどに自習することができます。</li> <li>ファイル紛失や作業内容の消失を防ぐため、自分が決めた場所に「名前をつけて保存」をしてから作り始め、5分に一度は上書</li> </ul>			
教科書	柳田寛之『DTP印刷デザインの基本』玄光社			
指定図書	なし			
参考図書	なし (筑女ネット上に教材を掲載)			
オフィスワー	火曜14:50-16:20	メールアドレス		

授業科目	ソフトウェア演習ⅡB		開講時期	後期
担当教員	橋本 嘉代		単位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>雑誌や書籍、パンフレットなどの出版物をデザインするページレイアウトソフト「InDesign」を使って、美しいデザインでオリジナルのコンテンツを作ることを目指します。</li> <li>授業外に取材・撮影・原稿執筆などの作業が発生します。</li> <li>「ソフトウェア演習ⅡA」で、InDesignの基本的な操作方法は習得済みという前提で進めます。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>InDesignのさまざまな機能を活用したページデザインができる。</li> <li>オリジナルコンテンツを企画し、取材・撮影などをして自分で制作することができる。</li> <li>コンテンツの目的に合った文章を書き、校正することができる。</li> <li>コンテンツで使用する写真の撮影、加工、取り込みができる。</li> <li>著作権や肖像権などに配慮したコンテンツ制作ができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ソフトウェア演習ⅡA」で基本的な知識・技能の修得をしたうえで、この授業を履修するのが望ましい。</li> <li>「メディアコンテンツ研究B」を履修すると、雑誌を中心としたメディアについての理解が深まり、コンテンツ制作に役立ちます。</li> </ul>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス（スケジュールとルールの説明、質疑応答）	参考にしたい雑誌のデザインを集める（第2-5回の授業に紙で持参）		
第2回	雑誌制作のプロセス、写真取材・撮影の注意事項（取材前のToDoList）、質疑応答	ノートの整理、質問の用意		
第3回	魅力的な誌面デザインとは？（事例紹介の講義）＋参考にしたい雑誌のデザインのよいと思う部分を分析し、提出（課題①）	参考にしたい雑誌のページを探して持参する（紙で提出）		
第4回	雑誌のデザインパターンをまねてみる①（＋前回の課題の振り返り）	雑誌のデザインの表現方法を調べる。前期に学んだInDesignの使い方を復習		
第5回	雑誌のデザインパターンをまねてみる②（前回の続き→課題②として提出）	終わらなければ、教室（コンピュータ演習室1）が空いている時間に自習		
第6回	オリジナルコンテンツ（ヒト、モノ、場所の3系統から選ぶ）の企画を練る。コンテの書き方（説明）。コンテの書き方を実践	教科書や雑誌を参考に、コンテンツの構成のパターン、ルールを研究		
第7回	取材・撮影が可能なオリジナルコンテンツのコンテを仕上げ、提出（→課題③として提出）	教科書や雑誌を参考に、誌面構成（写真の構図、点数、文章量）を考える		
第8回	コンテ修正。レイアウトのルール説明。取材・撮影のスケジュールと手順を確認。	教員の指示や教科書を参考に、コンテ修正。取材、撮影開始		
第9回	レイアウト（段組、写真の位置、文字数など）を決め、提出（→課題④）	出版物のレイアウトの形式を調べる。取材、撮影も継続		
第10回	写真選び、写真の加工・修正、取り込み（レイアウト上に配置）。デザイン調整。	取材、撮影完了。撮った写真に優先順位をつけて整理。原稿執筆も開始		
第11回	Wordで原稿執筆。印刷して提出（→課題⑤）＋校正とは何か？校正記号の使い方	設定した文字数で、原稿（タイトル、本文、キャプション）を執筆		
第12回	原稿の校正。必要に応じて再提出（課題⑤の続き）	雑誌等の文章の書き方、校正記号の使い方を確認		
第13回	文章の流し込み、レイアウト調整。	原稿修正（冬休み中に取り組み）、レイアウト修正		
第14回	課題の最終調整、提出（→課題⑥）	進行が遅れている場合は、授業外に制作しておく（提出遅延は認めません）		
第15回	課題発表（制作物を見せ合い、質疑応答→全体でシェア）	課題で工夫したところ、反省点などを整理しておく		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	課題（計6回）60%			
小テスト等	0%			
成果発表	15%（第15回の授業で成果発表）			
受講態度他	25%（欠席、遅刻、提出物の遅延は減点。制作物に著作権侵害があれば「不可」）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>各回の課題を少しずつ仕上げていきますので、欠席・遅刻をせず、提出物の期限を守ること。</li> <li>6回以上欠席だと不可（就活や病欠も欠席扱いです）。30分以上の遅刻・早退は欠席扱い。遅刻3回で欠席1回分とみなします。</li> <li>授業終了時にログオフできるよう時間配分を。</li> <li>授業外に制作したい場合は、コンピュータ演習室1に授業が入っていない時間帯や昼休み（※情報メディアセンターに相談）</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日 14:50-16:20	メールアドレス		

授業科目	ソフトウェア演習A		開講時期	前期
担当教員	神屋 郁子		単位	1
授業の目的と概要	Microsoft Wordは、ビジネスで活用されているワープロソフトである。本講義では、Microsoft Wordの基本操作をマスターし、文字入力、ビジネス文書の作成、表を使った項目の整理、編集機能やグラフィック機能を利用した文章の作成を行う。			
到達目標	社会人としてビジネスの場で必要なビジネス文書、装飾的なチラシなどを、Wordの機能を存分に使い、自分の力で効率良く作成できるようにすることを目標とする。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回：オリエンテーション・Wordの基礎知識（講義）		復習		
第2回：文字の入力（講義）		復習・練習問題		
第3回：Wordの基礎知識・文字の入力（演習）		復習・練習問題		
第4回：文章の作成（講義）		復習・練習問題		
第5回：文章の作成（演習）		復習・練習問題		
第6回：表の作成（講義）		復習・練習問題		
第7回：表の作成（演習）		復習・練習問題		
第8回：文章の編集（講義）		復習・練習問題		
第9回：文章の編集（演習）		復習・練習問題		
第10回：表現力をアップする機能（講義）		復習・練習問題		
第11回：表現力をアップする機能（演習）		復習・練習問題		
第12回：実践演習1（演習）		復習		
第13回：実践演習2（演習）		復習		
第14回：実践演習3（演習）		復習		
第15回：まとめ（演習）		復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70%（授業ごとに提出＋最終レポート）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は必ず買うこと&amp;毎回持ってくること。</li> <li>・欠席しても、教科書や講義資料などを参考にレポートに取り組み、欠席した分をフォローすること。</li> </ul>			
教科書	「学生に役立つMicrosoft Word2010 基礎」（FOM出版）\2,000（税別） 「よくわかるMicrosoft Word2010 ドリル」（FOM出版）\1,000（税別）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	ソフトウェア演習B		開講時期	後期
担当教員	神屋 郁子		単位	1
授業の目的と概要	Microsoft Excelは、ビジネスで活用されている表計算ソフトである。本講義では、Microsoft Excelの基本操作をマスターし、データ入力、表のセリアップ、数式の使用、印刷方法の習得、複数の表の操作、グラフの作成、データベースの使用など、Excelの基本機能を一通り習得する。			
到達目標	ビジネスの場で必要な表を作成したり、表を活用できたりするようになることを目標とする。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回：ガイダンス・Excelの基礎知識（講義）		復習		
第2回：データの入力（講義）		復習、練習問題		
第3回：Excelの基礎知識・データの入力（演習）		復習、練習問題		
第4回：表の作成（講義）		復習、練習問題		
第5回：表の作成（演習）		復習、練習問題		
第6回：数式の入力（講義）		復習、練習問題		
第7回：数式の入力（演習）		復習、練習問題		
第8回：表の印刷・複数シートの操作（講義）		復習、練習問題		
第9回：表の印刷・複数シートの操作（演習）		復習、練習問題		
第10回：グラフの作成（講義）		復習、練習問題		
第11回：グラフの作成（演習）		復習、練習問題		
第12回：データベースの利用（講義）		復習、練習問題		
第13回：データベースの利用（演習）		復習、練習問題		
第14回：実践演習1		復習		
第15回：実践演習2		復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	40%			
レポート	30%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書は必ず買うこと&amp;毎回持ってくること。</li> <li>・欠席しても、教科書や講義資料などを参考にレポートに取り組み、欠席した分をフォローすること。</li> </ul>			
教科書	「学生に役立つMicrosoft Excel 2010 基礎」（FOM出版）\2,000（税別） 「よくわかるMicrosoft Excel 2010 ドリル」（FOM出版）\1,000（税別）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーカー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	体育 I	開講時期	前期
担当教員	宮平 喬・古田 瑞穂	単位	1
授業の目的と概要	本授業では、遊びを通じて子どもの基本的な運動機能の発達に必要な体の使い方を学ぶ。それを踏まえ、指導に必要な創造的な思考力を身に付けることを目的としている。また、適切な運動遊びを安全に指導・援助ができる能力を身に付け、子どものモデルになる保育・教育者として優れた所作や運動の模範ができることを目的としている。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊具を用いた基本的な遊びを実践することができる。</li> <li>・遊びを通じた運動を子どもに指導することができる。</li> <li>・音楽と人の動きをうまくコーディネートし、表現することが可能となる。</li> <li>・運動あそびの楽しさを知り、安全に指導・援助することができる</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、初等教育コース・幼保コースDP4の「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的技能を身に付け活用することができる」に関する科目です。この授業は、体育指導の基盤をつくる内容で、後期に学ぶ「体育Ⅱ」の授業へつながる科目であり、かつ、3年次に開講される初等教科教育法（体育）に活用されます。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション（授業の目的、計画、課題等）、体ならし		子どもの遊び、運動に関する知識を得ておく（予習）	
第2回 ダンス・ステップ		基本的なダンス・ステップを調べる（予習）	
第3回 子どもの体操・ダンス		子ども向けの体操について調べる（予習）	
第4回 小型遊具を用いた遊び ①フープ フープを用いた表現運動		ナワトビの基本技術を習得しておく（予習）	
第5回 小型遊具を用いた遊び ②縄跳び 縄跳びを用いた表現運動		授業で学んだナワトビの技の完成度を上げる（復習）	
第6回 小型遊具を用いた遊び ③ボール ボールを用いた表現運動		実技テストの練習（復習）	
第7回 複数の小型遊具を組み合わせた運動（フープ、縄跳び、ボール） 3種の遊具を用いた表現運動		実技テストの練習（復習）	
第8回 大型遊具を用いた遊び ①マット運動、②跳び箱の基本運動		実技テストの練習（復習） 運動創作発表の準備（予習）	
第9回 大型遊具を用いた遊び ①マット運動、②跳び箱、③鉄棒の基本運動		実技テストの練習（復習） 運動創作発表の準備（予習）	
第10回 大型遊具を用いた遊び ①マット運動、②跳び箱、③鉄棒、④平均台の基本運動		実技テストの練習（復習） 運動創作発表の準備（予習）	
第11回 大型遊具と小型遊具を融合させた遊び		実技テストの練習（復習） 運動創作の発表準備（予習）	
第12回 運動創作の発表		実技テストの練習（復習） 運動創作発表の準備（予習）	
第13回 運動創作の発表		実技テストの練習（復習） 運動創作発表の準備（予習）	
第14回 運動創作の発表		実技テストの練習（復習） 運動創作発表の準備（予習）	
第15回 授業総括及び授業評価		授業で実施した運動遊びについて整理・分類し知見とする（復習）	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	5% 成果発表に対する学習指導案		
小テスト等	20% 実技テストは、小型遊具と大型遊具を用いて行う。原則として課題達成まで行う。		
成果発表	25% 音楽を用いた運動遊びをグループで考案し発表を行う。原則として必須の課題である。		
受講態度他	50% 受講態度が悪い学生は10～50%減点する		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	安全のため髪をまとめ、爪を伸ばさないこと。 子どもの気持ちに戻って実技を行うことが望ましい。 身体運動を通じて常に保育者の立場になって運動あそびを考えるよう心がける。 授業進行を妨げたり、他の受講者の妨げとなるような行為はしないこと。		
教科書	河田隆「幼児体育教本」 同文書院		
指定図書	特になし		
参考図書	柳沢秋孝『柳沢運動プログラム－基礎編－』オフィスエム 細江文利 「新版 体育の学習」 光文書院		
オフィスワー	月曜日のお昼休み（宮平） 月・水のお昼休み（古田）	メールアドレス	

授業科目	体育Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	宮平 喬・古田 瑞穂	単 位	1
授業の目的と概要	<p>幼少期から児童期までの身体運動の重要性を認識し、状況に応じたプログラムを作成し実践する能力を身に付ける。養育者や指導者にとって神経系の発達が著しいゴールデンエイジ期の遊びの重要性は認識済みである。その理論をどう展開し、実践していくかが授業の核になる。</p> <p>人間が作り出した多様な遊びを体現しながら、創造的思考力を養うことを目的とする。</p> <p>また、模擬指導実習、模擬授業を通じて、運動（あそび）の展開・指導方法・安全管理について学び、教育者としての資質を高めることを目的とする。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題となる運動を模倣し再現できる。</li> <li>・遊びを通じた運動の指導ができる。</li> <li>・幼小学校教育指導要領（体育）に準じた授業計画と体育の実技指導ができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、初等教育コース・幼保コースDP4の「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的技能を身に付け活用することができる」に関する科目です。この授業は、体育指導の基盤をつくる内容で、前期で学ぶ「体育Ⅰ」の授業を発展させた科目であり、かつ、3年次に開講される初等教科教育法（体育）に活用されます。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（授業の目的、計画、課題等）	指定の参考書、参考図書に目を通す。（予習）	
第2回	表現遊びの展開と指導方法	テキストA、Bの「表現」に関する箇所を理解しておく。	
第3回	伝承あそびの展開と指導方法	伝承遊びに関する情報を収集しておく。（予習）	
第4回	歩・走の運動（動きの理解と気づき）及び学生による模擬授業（単元毎）	テキストA「走運動」、B「健康」に関する箇所を理解しておく。（予習）	
第5回	走・跳運動（動きの理解と気づき）及び学生による模擬授業（単元毎）	テキストA「跳運動」、B「健康」に関する箇所を理解しておく。（予習）	
第6回	ゲーム、ボール運動遊び及び学生による模擬授業（単元毎）	テキストA「ゲーム型」、B「健康」に関する箇所を理解しておく。（予習）	
第7回	ボールを使ったゲームの展開及び学生による模擬授業（単元毎）	テキストA「ゲーム」、B「健康」に関する箇所を理解しておく。（予習）	
第8回	器械運動（マット、跳び箱、平均台）及び学生による模擬授業（単元毎）	テキストA「マット」、B「健康」に関する箇所を理解しておく。（予習）	
第9回	器械運動（跳び箱）及び学生による模擬授業（単元毎）	テキストA「跳び箱」、B「健康」に関する箇所を理解しておく。（予習）	
第10回	器械運動（マット、跳び箱の組み合わせ）及び学生による模擬授業（単元毎）	テキストA「マット、トビバコ」、B「健康」に関する箇所を理解しておく。	
第11回	器械運動（鉄棒の支持・回転）及び学生による模擬授業（単元毎）	テキストA「鉄棒」、B「健康」に関する箇所を理解しておく。（予習）	
第12回	器械運動（鉄棒の組み合わせ技）及び学生による模擬授業（単元毎）	テキストA「鉄棒」、B「健康」に関する箇所を理解しておく。（復習）	
第13回	小テストの実施及び学生による模擬授業（単元毎）	課題となる小テストの練習	
第14回	小テストの実施及び学生による模擬授業（単元毎）	課題となる小テストの練習	
第15回	実技テスト、授業総括及び授業評価	運動の必要性和実際を結びつけ、知見を整理する。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0% なし		
レポート	10% 体づくり運動（5%）・簡易な模擬授業の指導案（5%）		
小テスト等	20% 伝承遊び（10%）→コマ、竹馬、けん玉 組み体操（10%）→一人と二人バージョン		
成果発表	20% 体づくり運動の実施（5%）・簡易な模擬授業の実施（15%）		
受講態度他	50% 受講態度が悪い学生は10%～50%減点する		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の現場に立つことを常に頭に置いて授業に参加する。</li> <li>・安全性の保持のため、髪をまとめ、爪をのばさない。</li> <li>・運動に適した服装・シューズを準備する。</li> <li>・体づくり運動、模擬授業担当者は、備品、時間、内容等をしっかり準備すること。</li> <li>・用事のある方は、事前にメールをください。 ・条件が整えば、水泳も行います。</li> </ul>		
教科書	河田隆「幼児体育教本」同文書院		
指定図書	特になし		
参考図書	細江文利『新版 体育の学習（福岡版）』光文書院（1-6）、文部科学省『小学校学習指導要領解説（体育編）』東洋館出版社<テキストA>、文部科学省『幼稚園教育要領』教育出版<テキストB>		
オフィスワー	月曜日 昼休み（宮平） 月・水曜日の昼休み（古田）	メールアドレス	

授業科目	体験－アジア音楽		開講時期	前期
担当教員	田村 史子		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：アジアには、多様なパフォーマンス・アーツ（音楽・舞踊・演劇などの上演芸術）があります。このような芸術の多くは、何世代にもわって口承で伝えられてきたもので、人々の感性や考え方を知る上で、とても重要な手がかりを与えてくれます。この実習では、インドネシアの伝統的な合奏音楽である“ガムラン”の演奏を実際に学び、それを通してアジア文化の実践的な理解を目指します。また、自らが学んだ異文化を他の人々に伝達する方法を学びます。</p> <p>概要：ガムランは日本の雅楽や西洋のオーケストラにも匹敵するアジアを代表する合奏音楽です。日本の伝統音楽とも西洋の音楽とも全く 異なった独自の構造を持っています。この実習ではその原理を実践的に学びます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガムランの楽器の構造を理解し、その響きにあった演奏法を習得する。</li> <li>2. 基礎的な楽曲を理解し、或る程度実際に合奏できるようになる。</li> <li>3. 他の人々に自分の学んだことを伝達することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連科目：アジアの儀礼と祭り、アジアの染と織			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ジャワ・ガムランの実技（1）楽器の構造の理解 音の出し方 ①	復習・予習		
第2回	ジャワ・ガムランの実技（1）楽器の構造の理解 音の出し方 ②	復習・予習		
第3回	ジャワ・ガムランの実技（2）合奏の基礎 ①	復習・予習		
第4回	ジャワ・ガムランの実技（2）合奏の基礎 ②	復習・予習		
第5回	ジャワ・ガムランの実技（2）合奏の基礎 ③	復習・予習		
第6回	「ジャワ・ガムランを通して知る人々の生活と考え方・感じ方」 ①	復習・予習		
第7回	ジャワ・ガムランの実技（3）楽曲の合奏 ①	復習・予習		
第8回	ジャワ・ガムランの実技（3）楽曲の合奏 ②	復習・予習		
第9回	ジャワ・ガムランの実技（3）楽曲の合奏 ③	復習・予習		
第10回	「ジャワ・ガムランを通して知る人々の生活と考え方・感じ方」②	復習・予習		
第11回	ガムランの実技の伝達 （1）どのようにして理解してもらうか	復習・予習		
第12回	ガムランの実技の伝達 （2）どのようにして合奏を成立させるか	復習・予習		
第13回	ガムランの実技の伝達 （2）どのようにして合奏を成立させるか	復習・予習		
第14回	総括 九州国立博物館でのガムラン・ワークショップ指導体験（授業時間外に実施します）	復習・予習		
第15回	総括 九州国立博物館でのガムラン・ワークショップ指導体験（授業時間外に実施します）	復習・予習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	0%			
小テスト等	50% 2～3回、実技の小テストを行う。			
成果発表	25% ガムランワークショップで、学外の人に合奏のやり方を伝達する。			
受講態度他	25% 積極的な参加が求められる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「体験－アジア音楽実習」と「体験－アジア舞踊実習」の両方を受講してください。片方 だけの受講は認めません。</li> <li>2. 実技用の教材が必要です（参考テープ等）。授業の中で指示します。</li> <li>3. 授業の進行によって回数等の変更があります。</li> <li>4. 九州国立博物館でワークショップ指導体験をします。授業時間外（土曜日か日曜日）に実施します。</li> </ol>			
教科書	随時プリントを用意。			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください	メールアドレス		



授業科目	体験－アジア舞踊		開講時期	後期
担当教員	田村 史子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>目的：「体験－アジア音楽実習」にひきつづき、インドネシアの伝統舞踊である“ジャワ舞踊”を学びます。この実習では、舞踊の基礎を学び、アジアの身体感への理解を試みます。ガムランの演奏も継続して学び、音楽と舞踊の関係の理解に進みます。音楽の構造や身体の動きに現れたとアジアの宇宙観を、実技を通じて体感することができれば、アジアの文化のより深い理解を得ることができると期待します。また、人前で演奏し指導するために、合奏することのより深い意味を学びます。</p> <p>概要：独自の構造と価値観を持つガムランとジャワ舞踊を、さらに深く学んでいきます。実践が中心ですが、その背景となる文化理解も深めていきます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ジャワ舞踊の基礎を学ぶ。</li> <li>2. 合奏における楽器と楽器の演奏上の関係をより詳しく学ぶ</li> <li>3. ジャワ舞踊の小品を学び、音楽と舞踊の関係を把握する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連科目：アジアの儀礼と祭り、アジアの染と織			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	ジャワ舞踊の実技 (1) 体の動かし方・呼吸法 ①	復習・予習		
第 2回	ジャワ舞踊の実技 (2) 体の動かし方・呼吸法 ②	復習・予習		
第 3回	講義 「ジャワ舞踊の特徴」	復習・予習		
第 4回	ジャワ舞踊の実技 (3) 基礎的な振りの練習 ①	復習・予習		
第 5回	ジャワ舞踊の実技 (4) 基礎的な振りの練習 ②	復習・予習		
第 6回	講義 「ジャワ舞踊を通して知る人々の生活と考え方・感じ方」	復習・予習		
第 7回	ジャワ・ガムラン実技 (1) より高度な楽曲の合奏を学ぶ ①	復習・予習		
第 8回	ジャワ・ガムラン実技 (2) より高度な楽曲の合奏を学ぶ ②	復習・予習		
第 9回	ジャワ舞踊の実技 (5) 基礎的な振りの練習 ③	復習・予習		
第10回	ジャワ舞踊の実技 (3) 舞踊小品の練習 ①	復習・予習		
第11回	ジャワ舞踊の実技 (4) 舞踊小品の練習 ②	復習・予習		
第12回	ジャワ・ガムランと舞踊の実技 (1)	復習・予習		
第13回	ジャワ・ガムランと舞踊の実技 (2)	復習・予習		
第14回	総括 九州国立博物館でのガムランと舞踊・ワークショップ指導体験 (授業時間外に実施します) ①	復習・予習		
第15回	総括 九州国立博物館でのガムランと舞踊・ワークショップ指導体験 (授業時間外に実施します) ②	復習・予習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	50% 2～3回、実技の小テストを行う。			
成果発表	0%			
受講態度他	50% 積極的な参加が求められる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「体験－アジア音楽実習」と「体験－アジア舞踊実習」の両方を受講してください。片方 だけの受講は認めません。</li> <li>2. 実技用の教材が必要です(舞踊の練習用の布、参考テープ等)。授業の中で指示します。</li> <li>3. 授業の進行によって回数等の変更があります。</li> <li>4. 九州国立博物館でワークショップ指導体験をします。授業時間外(土曜日・日曜日)に実施します。</li> </ol>			
教科書	随時プリントを用意。			
指定図書	特になし			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください	メールアドレス		

授業科目	体験－伝統文化		開講時期	前期
担当教員	小林 知美		単 位	2
授業の目的と概要	<p>テーマ：伝統美術</p> <p>日本の伝統的絵画である日本画や、近代以前の彫刻の主流をなしていた仏像などの美術作品は、現代の日本人にとってあまりなじみのない存在といえよう。この授業では、調査を通して美術作品に接近しそれを歴史的に考察するという美術史学の方法論を身につけ、それによって伝統文化の歴史に接近することを目的とする。</p> <p>概要：伝統的美術作品を鑑賞する方法について、まずは教室で基礎的な知識を学び、その上で、教室外・学外での実地調査により作品と実際に向き合う。調査対象によっては、専門学芸員の指導のもと、文化財調査の基礎を学ぶ。実地調査は、学内の場合は授業時間内に行うが、学外の場合は土曜日に行い、太宰府の近隣の寺院や美術館などに現地集合して実施する。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統的美術作品を鑑賞し、その作品について美術史的解説をすることができる。</li> <li>・美術作品の実地調査の方法について具体的に説明し、実践することができる。</li> <li>・実地調査の成果を調書としてまとめることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科DP④の「アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる。」を目標とする。</li> <li>・関連する主な科目は下記の通り。 「アジア芸術思想概論」「アジアの世界遺産」「アジアと仏教」「考古学Ⅰ」「考古学Ⅱ」（1年次開講） 「体験－ミュージアムで学ぶアジア」「比較文化論」「仏教美術史」（2年次開講） 「日本美術史」（4年次開講）</li> </ul>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：授業の目的と方法		地域の伝統的美術作品の情報収集	
第2回	絵画Ⅰ：分類		ミニレポート	
第3回	絵画Ⅱ：歴史		ミニレポート	
第4回	絵画Ⅲ：調査方法		ミニレポート	
第5回	絵画Ⅳ：実地調査 学内の場合は授業時間内に、学外の場合は土曜日に、数回分をまとめて実施する。		調書作成のための調べもの	
第6回	絵画Ⅳ：実地調査 学内の場合は授業時間内に、学外の場合は土曜日に、数回分をまとめて実施する。		調書作成のための調べもの	
第7回	絵画Ⅴ：調書作成		完成調書の提出と意見交換	
第8回	彫刻Ⅰ：分類		ミニレポート	
第9回	彫刻Ⅱ：歴史		ミニレポート	
第10回	彫刻Ⅲ：調査方法		ミニレポート	
第11回	彫刻Ⅳ：実地調査の予習		ミニレポート	
第12回	彫刻Ⅴ：実地調査 学内の場合は授業時間内に、学外の場合は土曜日に、数回分をまとめて実施する。		作品解説のための調べもの	
第13回	彫刻Ⅵ：実地調査 学内の場合は授業時間内に、学外の場合は土曜日に、数回分をまとめて実施する。		作品解説のための調べもの	
第14回	彫刻Ⅶ：作品解説（400字程度）の執筆		作品解説の執筆	
第15回	まとめ：「伝統的美術作品（自由テーマ）」の口頭発表と意見交換		授業全体の振り返り	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 第7回で提出する作品調書（30%）と第14回で書く作品解説（30%）			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 第15回での「伝統的美術作品（自由テーマ）」の口頭発表と意見交換における参加姿勢			
受講態度他	20% 実地調査での参加姿勢、調査成果としての調書や解説の執筆内容			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>実地調査の際の交通費、見学費は各自で負担する（観世音寺の場合、拝観料は学生300円）。</p> <p>調書の書式や素材は筑女ネットにUPしているものを使用。</p> <p>この実習では、現在も信仰の対象となっている仏像や、社寺や個人が代々守り伝えてきた作品を対象とするため、作品の調査時には十分配慮して行動すること。</p>			
教科書	なし。適宜資料を配付して、それを参照しつつ進める。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日の昼休み～3限（他は事前に連絡してください）	メールアドレス		

授業科目	体験－ミュージック・セラピー実習		開講時期	後期
担当教員	田村 史子		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：音楽は不思議な力を持つ。言葉には表すことのできない深い思いを伝えたり、人と自然や神との交流を可能にする。また、心や体に障がいを持つ人たちが、音楽によって自由に動けるようになる瞬間さえある。この授業では、ミュージック・セラピー（音楽療法）について基本的なことを学んだ後、実際に、障がいを持つ人たちのグループとともにガムランを用いて体験プログラムを行う。体験のための音楽としてガムランを用いるので、体験－アジア音楽実習・アジア舞踊実習を履修していることが望ましい。</p> <p>概要：アジアの音楽は、その構造の中に、さまざまな立場の人々が、ともに輝き、精神的に豊かに生きていくための知恵と力が組み込まれている。その力を感じ取るために、理論的・実践的に学び、実際に、地域の知的障がいを持つ人たちと交流会を持って、学んだことを実践する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミュージック・セラピー（音楽療法）について基本的なことを理解する。</li> <li>2. 音楽（“ガムラン”）を用いて、障がいを持つ人たちと交流することを理解する。</li> <li>3. さまざまな人たちとの“ともいき”の可能性について考える支点を得る。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連科目：体験－アジア音楽実習、体験－アジア舞踊実習			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 導入：	ミュージック・セラピー（音楽療法）について	復習と予習		
第2回 導入：	ガムランの持つ力について	復習と予習		
第3回 実技：	ガムランの実技の研修①	復習と予習		
第4回 実技：	ガムランの実技の研修②	復習と予習		
第5回 実技：	ガムランの実技の研修③	復習と予習		
第6回 実技：	ガムランの実技の研修④ 障がいを持つ人たちの交流会（11月中の日曜日）	復習と予習		
第7回 実技：	ガムランの実技の研修⑤ 障がいを持つ人たちの交流会（11月中の日曜日）	復習と予習		
第8回音楽の力：	交流会の分析から学ぶ	復習と予習		
第9回音楽の力：	よりよい演奏を目指す	復習と予習		
第10回音楽の力：	よりよい演奏を目指す	復習と予習		
第11回音楽の力：	音楽と人と社会のかかわりについて	復習と予習		
第12回音楽の力：	音楽と人と社会のかかわりについて	復習と予習		
第13回実技：	ガムランの実技の研修⑥ 障がいを持つ人たちの交流会（12月中の日曜日）	復習と予習		
第14回実技：	ガムランの実技の研修⑥ 障がいを持つ人たちの交流会（12月中の日曜日）	復習と予習		
第15回	交流会の結果を検討し問題点・青果などについてまとめる	復習と予習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	％			
レポート	50％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	50％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自ら体験することがすべてです。積極的な関与を求めます。</li> <li>2. 交流会は2回、授業外の日曜日に本学で行われます。必ず参加してください</li> </ol>			
教科書	随時プリントを用意			
指定図書	生野里花『音楽療法士のしごと』			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください	メールアドレス		

授業科目	体験－ミュージアムで学ぶアジア		開講時期	前期
担当教員	田村 史子・小林 知美		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：太宰府は、「まるごと博物館」と呼ばれるように、歴史文化の豊かな地域です。この地域性を活かし、学外の博物館・遺跡見学や文化活動の体験を通して、現在の我々の生活が、アジアとの文化交流の上に成り立っていることを学びます。</p> <p>概要：授業内容は二部構成。一部（第1回～第9回）ではアジアの歴史について、二部（第10回～第15回）では現代アジアについて学びます。一部では、太宰府という屋根のないミュージアム（博物館や史跡など）に足を運び、実地体験を通して歴史を学びます。二部では、福岡市アジア文化賞受賞者の様々な活動を知ること、現代国際社会におけるアジアの現状と課題を考えます。担当教員や学外講師による講義と実地体験を組み合わせ、実際の知見を身につけます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミュージアムに親しみ、自ら訪れ、楽しみながら学ぶ姿勢を身につける。</li> <li>・五感を通じた体験のなかで見出した印象や疑問を、言葉として表現することができる。</li> <li>・太宰府の歴史文化について、そのアジアにおける位置づけを、具体的に説明することができる。</li> <li>・現代の国際社会におけるアジアの現状と課題について、具体的な例をあげて説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科DP④の「アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる。」を目標とする。</li> <li>・関連する主な科目は下記のとおり。 「アジア生活文化概論」「アジア芸能史」「アジア芸術思想概論」「アジアの世界遺産」（1年次開講） 「体験－伝統文化」「体験－アジア音楽」「体験－アジア舞踊」「比較文化論」「仏教美術史」（2年次開講） 「アジア民族音楽学」「アジア文化人類学」「中国の少数民族文化」「中国現代文学」（3年次開講） 「日本美術史」（4年次開講）</li> </ul>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		各自の授業スケジュール確認をする。		
第2回 合同授業「アジアの中の日本美術～九州国立博物館文化交流展示室見学にむけて～」(小林)		見学に備えて講義内容を復習する。		
第3回 特別授業「博物館の多様性～九州国立博物館バックヤードツアーにむけて～」(外部講師)		見学に備えて講義内容を復習する。		
第4回 特別授業「古代の太宰府～太宰府史跡見学にむけて～」(外部講師)		レポート①「太宰府の歴史～講義と体験を通して～」の準備。		
第5回 太宰府史跡見学(田村、小林) 5月14日(土)実施予定 ※雨天の場合5月21日(土)実施。第5～7回をまとめて行う。		レポート②「ミュージアム体験記(九博文化交流展示室とバックヤード)」		
第6回 太宰府史跡見学(田村、小林) 5月14日(土)実施予定 ※雨天の場合5月21日(土)実施。第5～7回をまとめて行う。		レポート②「ミュージアム体験記(九博文化交流展示室とバックヤード)」		
第7回 太宰府史跡見学(田村、小林) 5月14日(土)実施予定 ※雨天の場合5月21日(土)実施。第5～7回をまとめて行う。		レポート①「太宰府の歴史～講義と体験を通して～」準備		
第8回 Aクラス：九州国立博物館バックヤードツアー(田村)／Bクラス：九州国立博物館文化交流展示室見学(小林)		レポート②「ミュージアム体験記(九博展示室とバックヤード)」準備		
第9回 Aクラス：九州国立博物館文化交流展示室見学(小林)／Bクラス：九州国立博物館バックヤードツアー(田村)		レポート②「ミュージアム体験記(九博展示室とバックヤード)」準備		
第10回 合同授業「私のアジア学～音を通して知るアジアの人々の生活と考え方～」(田村)		レポート③「私のアジア学(ミュージアム、アジア文化賞に関して)」準備		
第11回 合同授業「私のアジア学(ミュージアム、アジア文化賞に関して)」(学科講師)		レポート③「私のアジア学」準備		
第12回 合同授業「私のアジア学～仏教説話画の展開～」(小林)		レポート③「私のアジア学(ミュージアム、アジア文化賞に関して)」準備		
第13回 合同授業「アジア文化の多様性～福岡市アジア文化賞の受賞者から～」(田村)		「福岡市アジア文化賞」関連資料探索		
第14回 「福岡市アジア文化賞～誕生と軌跡～」(外部講師)		「福岡市アジア文化賞」関連資料探索		
第15回 総括		これまでの振り返り		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%			
小テスト等	-			
成果発表	0%			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>ここでいうミュージアムとは、施設とは限りません。主に近隣の九州国立博物館を授業での見学先としますが、ほかの施設・遺跡も対象とします。毎回、集合場所や時間などを必ず確認してください。見学に際しては、安全やマナーを各自でじゅうぶんに心がけること。</p> <p>レポート3本の期限は下記の通り。 ①「太宰府の歴史～講義と体験を通して～」(5/27)、②「ミュージアム体験記(九博展示室とバックヤード)」(6/10)、③</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	太宰府市・太宰府市教育委員会・太宰府市文化スポーツ振興財団『まるごと太宰府歴史展』(平成24年)ほか、適宜紹介します。			
オフィスワー	授業の前後もしくは事前にメール等で連絡してください	メールアドレス		

授業科目	大衆文化史		開講時期	後期
担当教員	小山 昌宏		単 位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、大衆文化史、とりわけマンガメディア、マンガ文化が時代、社会与えた影響について学ぶ。</li> <li>・マンガメディアの生成、マンガ文化の歴史、その概要に関する基礎知識を身につけることを目的とする。</li> <li>・具体的には、毎回の講義を受けたリアクションペーパーによる復習（振り返り）、グループ編成による最終報告回に備えたミーティングを通じた自発的参加による学びの深まり（思考力の獲得）が期待される。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慣れ親しんでいるマンガメディア、マンガ文化の概要について、説明することができる。</li> <li>・マンガ文化が有する諸問題点を発見し、それについて掘り下げ、考えることができ、その内容について報告ができる。</li> <li>・最終報告会にいたる学習過程で、講義内容、他者の意見を取り入れ、自分の知識を再形成することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は現代社会学部メディアコースのDP③「現代メディア社会においてポピュラー文化の意味や役割について分析・説明することができる」に該当する科目です。大衆文化そのものの基礎理論についてはDP①「ポピュラー文化論」、大衆文化の問題史的視点の知識獲得にはDP③「サブカルチャー論」、マンガ、アニメに関する画像分析、映像解析に関してはDP①「文化表象演習」で身につけることができます。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	マンガとは何か？ ～西欧コミックの源流からコミック雑誌の誕生まで	グループ（班）編成・開始		
第2回	物語マンガの系譜 ～W・ホガース、テプフェールからディズニー、アメコミまで	グループ名決定		
第3回	「江戸漫画」史から「明治漫画」史へ ～近代日本漫画の成立と西欧諷刺精神について	グループ編成・確定		
第4回	戦後サブカルチャーのマンガ史 ～「貸本マンガ」「ガロ」「COM」からSFの時代へ	授業外グループミーティング（任意）		
第5回	手塚治虫マンガ論 ～現代マンガに与えた手塚治虫の影響とは？	授業外グループミーティング（任意）		
第6回	マンガ雑誌・栄枯盛衰史 ～マンガ雑誌の市場占有率にみる消えたマンガ雑誌の推移	授業外グループミーティング（任意）		
第7回	少年ジャンプ論 ～ライバル誌を見据えた成功の仕組み（コンセプト・専属契約・打ち切り）	授業外グループミーティング（任意）		
第8回	マンガ・ジェンダー論 ～「リボンの騎士」「ベルサイユのばら」「風と木の詩」を読む	授業外グループミーティング（任意）		
第9回	原発マンガ史 ～偽・手塚治虫「よみがえるジャングルの歌声」から、ももち麗子「デイジー」まで	授業外グループミーティング（任意）		
第10回	マンガ論争論 ～表現規制の歴史、性表現の基準、マンガ表現の自由について	テーマ選定開始		
第11回	マンガ図書館・ミュージアム論 ～その歴史、機能、役割について	テーマ選定終了		
第12回	マンガ著作権論 ～人格権と複製権：「トレース」「同人誌」「マンガ家と原作者」を視軸に	報告会・準備開始		
第13回	マンガ・メディアミックス論 ～ドラマ化の課題と電子コミックの未来	報告会・準備中		
第14回	マンガ産業論 ～コミックマネージメントの課題（佐藤秀峰「漫画貧乏」を読む）	報告会・準備終了		
第15回	まとめ グループ報告 全体討論	報告会まとめ		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	60％（期末レポート1回）、20％（授業毎のリアクションペーパー〈感想・質問：出席表〉）の内容を加味いたします			
小テスト等	なし			
成果発表	20％（第15回授業時に、事前に選定したテーマに基づき、グループ毎に討論、報告の上、全体討論をおこないます）			
受講態度他	第1回目の授業時に受講の心得についてお話しします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業では、毎回、リアクションペーパー内容をまとめ、要点整理の上、次回授業のはじめに振り返り紹介いたします（復習）</li> <li>・第15回の討論授業に備え、第3回目までにグループをつくりチーム名を決め、テーマ選定の上、最終報告会にのぞみます</li> <li>・最終報告会にいたる学習成果が、期末レポート作成に活かされます。</li> </ul>			
教科書	適宜プリントを配布する			
指定図書	なし			
参考図書	夏目房之介・竹内オサム編『マンガ学入門』（ミネルヴァ書房）、小山昌宏『戦後「日本マンガ」論争史』（現代書館）			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	対照言語学	開講時期	前期
担当教員	田口 純	単 位	2
授業の目的と概要	本授業は、日本語と英語を対照することにより、日本語を客観的な立場から捉え、日本語の特性についての理解を深めることを目的とします。具体的には、日本語の音声面、語彙面、文構造などの文法面を取り上げ、これまで国語教育の中で学んできた事項を整理して、英語との対照によって、外国人が日本語を学習するときに問題となる内容を身につけられるようになります。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教育における対照言語学について理解を深めることができる。</li> <li>・日本語の音声について理解を深めることができる。</li> <li>・日本語の語彙について理解を深めることができる。</li> <li>・日本語の文法について理解を深めることができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に日本語・日本文学科のDP1「日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を用いて、適切なコミュニケーションができる。」と、英語学科のDP4「英語を生かす為の職業上の知識や技能の基礎を身につけている。」の達成に関わる科目です。「言語学」、「日本語学概論」、「英語学概説」ほか、日本語と英語の主に語学に関わる科目を履修することにより、各言語の特性の理解をさらに深めることができますようになります。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション（授業の進め方など）	指定された資料をよく読んでおく	
第2回	対照言語学とは	指定された資料をよく読んでおく	
第3回	日本語の音声について	指定された資料をよく読み、課題について準備しておく	
第4回	日本語の語彙について（1）	指定された資料をよく読み、課題について準備しておく	
第5回	日本語の語彙について（2）	指定された資料をよく読み、課題について準備しておく	
第6回	日本語の文構造について（1）	指定された資料をよく読み、課題について準備しておく	
第7回	日本語の文構造について（2）	指定された資料をよく読み、課題について準備しておく	
第8回	日本語の助詞について（1）	指定された資料をよく読み、課題について準備しておく	
第9回	日本語の助詞について（2）	指定された資料をよく読み、課題について準備しておく	
第10回	日本語の受身について	指定された資料をよく読み、課題について準備しておく	
第11回	日本語の時制について（1）	指定された資料をよく読み、課題について準備しておく	
第12回	日本語の時制について（2）	指定された資料をよく読み、課題について準備しておく	
第13回	日本語の接続について（1）	指定された資料をよく読み、課題について準備しておく	
第14回	日本語の接続について（2）	指定された資料をよく読み、課題について準備しておく	
第15回	授業のまとめ	指定された課題をよく準備しておく	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	50％ 定期試験		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	30％ グループによる課題発表。		
受講態度他	20％ 積極的な授業参加を評価する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	配布されたプリントにはタスク課題がありますので、授業外学修時間に各グループ内でよく研究しておいてください。発表できない場合は減点対象となるので注意してください。		
教科書	プリントを配布します。		
指定図書	なし		
参考図書	近藤達夫編『講座日本語と日本語教育 第12巻 言語学要説（下）』明治書院 小泉保著『現代日本語文典』大学書林		
オフィスアワー	月曜・火曜の昼休み、またはメールで相談	メールアドレス	

授業科目	対人コミュニケーション論 I		開講時期	前期
担当教員	中村 万里		単位	2
授業の目的と概要	<p>対人コミュニケーションにはバーバルコミュニケーション（言葉によるもの）とノンバーバルコミュニケーション（言葉によらないもの）がある。日本における対人コミュニケーションをマナーを通して学ぶことを目的とする。</p> <p>教科書を用いて、対人コミュニケーションの具体的なことを学ぶ。また、江戸しぐさについても触れる。講義においては、就職のための実践的な指導も行う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニケーションを理解・説明できる。</li> <li>2. 対人コミュニケーションを理解・説明できる。</li> <li>3. マナーを学び、説明できる。</li> <li>4. 相互承認を学ぶことができる。</li> <li>5. 就職対策ができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション		授業の復習	
第2回	コミュニケーションとは		授業の復習	
第3回	対人コミュニケーションとは		授業の復習	
第4回	コミュニケーションと江戸しぐさ		授業の復習	
第5回	マナーと江戸しぐさ		授業の復習	
第6回	ことば遣いのマナー		授業の復習、テキスト熟読	
第7回	敬語の使い方		授業の復習、テキスト熟読	
第8回	立ち居振る舞いのマナー		授業の復習	
第9回	話し方のマナー		授業の復習、テキスト熟読	
第10回	聞き方のマナー		授業の復習、テキスト熟読	
第11回	気くばりのマナー		授業の復習、テキスト熟読	
第12回	席次のマナー		授業の復習、テキスト熟読	
第13回	食事のマナー		授業の復習	
第14回	ビジネスのマナー		授業の復習	
第15回	まとめ		授業の復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	70% 期末試験			
レポート	20% 小レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 出席状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に積極的に参加してください。			
教科書	中村万里『使える！マナーの鉄則100』双文社出版（予定）			
指定図書	中村万里他『実践 日本語表現ワークブック』暁印書館 中村万里他『入門 日本語学ワークブック』双文社出版			
参考図書	中村万里『人とうまく話せますか』双文社出版			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	対人コミュニケーション論Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	中村 万里		単 位	2
授業の目的と概要	対人コミュニケーションⅠで学んだことを踏まえて、日本における対人コミュニケーション（バーバル、ノンバーバル）について知ることを目的とする。  教科書を用いて、対人コミュニケーションを具体的に学ぶ。また講義においては就職のための実践的な指導も行う。			
到達目標	1. 対人コミュニケーションを説明できる。 2. マナーとコミュニケーションを説明できる。 3. マナーを通して、就職対策をすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション	授業の復習		
第2回	マナーとコミュニケーション（1）	授業の復習		
第3回	マナーとコミュニケーション（2）	授業の復習		
第4回	訪問のマナー（1）	授業の復習、テキスト熟読		
第5回	訪問のマナー（2）	授業の復習、テキスト熟読		
第6回	来客対応のマナー（1）	授業の復習、テキスト熟読		
第7回	来客対応のマナー（2）	授業の復習、テキスト熟読		
第8回	電話のマナー（1）	授業の復習、テキスト熟読		
第9回	電話のマナー（2）	授業の復習、テキスト熟読		
第10回	手紙のマナー	授業の復習、テキスト熟読		
第11回	手紙の書き方	授業の復習、テキスト熟読		
第12回	はがき・封筒の書き方	授業の復習、テキスト熟読		
第13回	FAX・Eメールの書き方	授業の復習、テキスト熟読		
第14回	履歴書・エントリーシートの書き方	授業の復習、テキスト熟読		
第15回	まとめと就職対策	授業の復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 期末試験			
レポート	20％ 小レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ 出席状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に積極的に参加してください。			
教科書	中村万里『使える！マナーの鉄則100』双文社出版（未定）			
指定図書	中村万里他『実践 日本語表現ワークブック』暁印書館 中村万里他『入門 日本語学ワークブック』双文社出版			
参考図書	中村万里『人とうまく話せますか』双文社出版			
オフィスワー	授業の前夜	メールアドレス		



授業科目	太宰府学		開講時期	前期
担当教員	井上 理香		単位	2
授業の目的と概要	<p>皆さんが学生生活を送る太宰府は、いにしへの昔からさまざまな歴史事象の舞台となってきました。教科書をひもとくと、そこに登場する地名や人物の足跡・伝説などが、街の至る所に残っています。市の面積の15%にも及ぶ広大な史跡地は、福岡都市圏の中でも貴重な自然環境を遺して多くの人々に親しまれ、太宰府天満宮への参拝客を含めて年間800万人もの観光客が訪れる街として、その名は全国に知られています。</p> <p>この授業を通して、歴史・文化と共に歩んできた太宰府という地域の特徴と、その風土を守り伝えてきた人々の取り組みを学び、若い皆さんがバトンリレーの一走者となって、さらに次の世代へ太宰府の魅力を伝えていただく契機とします。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学の所在地である「太宰府」の主要な史跡や文化財について、自分の言葉で説明することができる。</li> <li>2. 生活の中で太宰府の歴史や文化が感じられる場所・空間を発見し、現代社会と歴史的遺産とを関係づけて認識することができる。</li> <li>3. 伝統文化が守り伝えられてきた背景を知り、分かり易く冊子に表現することで、理論的思考とコミュニケーションスキルを磨く。</li> <li>4. 太宰府の魅力を身近な人々に伝える行為を通じて、広く文化財の保存・広報普及に寄与する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。</p> <p>関連科目としては「九州の自然」「九州の歴史と文化」「国際社会と日本」「ボランティア論」「観光産業論」「地域デザイン」「文化政策論」などがあります。過去だけでなく、現代社会の課題と関連させながら複眼的に学習することで、太宰府という地域についての理解が深まります。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 4/11 (月)	オリエンテーション、「歴史とみどり豊かな文化のまち」の背景 (授業の目標、課題・成果物、進め方と評価)、基礎知識の確認	教科書を通覧しておく。授業後、ミニレポート①を提出。		
第2回 4/18 (月)	太宰府の成立と役割 (当時の国際情勢とともに太宰府を理解)	教科書「遠の朝廷1300年」「大宰府政庁跡」を読んでおく。		
第3回 4/25 (月)	「学外授業①」展覧会見学 (太宰府天満宮宝物館「受け継がれる宝物と夢ー太宰府博覧会から140年」)	同「観世音寺と戒壇院」を読んでおく。		
第4回 5/ 9 (月)	菅原道真と太宰府天満宮 (菅原道真の生涯と天神信仰)	同「太宰府天満宮と光明寺」「覆社へ般若寺」を読んでおく。		
第5回	「学外授業②」太宰府の史跡と成り立ち(史跡めぐり) (フィールドワーク：大宰府政庁跡～大宰府展示館～観世音寺・戒壇院)	同「水城～国分寺」を読んでおく。終了後ミニレポート②提出。		
第6回	第5・6回をまとめて行う。	-		
第7回 5/30 (月)	宝満山と四王寺山 (現在ハイキング客で賑わう二つの山の歴史的背景と変遷)	教科書「四王寺山」「宝満山」を読んでおく。		
第8回 6/ 6 (月)	「文化のまち太宰府」の誕生 (太宰府研究のおこりと「さいふまいり」)	別途、資料を指定する。		
第9回 6/13 (月)	明治維新150年と幕末の太宰府 (五卿滞在期の人物交流とその遺産)	授業前に天満宮参道を歩き、幕末に関連する事象を探しておく。		
第10回 6/20 (月)	博覧会から博物館へ (九州国立博物館誘致建設の背景)	別途、資料を指定する。		
第11回 6/27 (月)	石碑でたどる史跡保存のあゆみ (太宰府の歴史を伝えようとした人々の活動)	授業前に市内を歩き、自分のイチオシの石碑の一つ探しておく。		
第12回 7/ 4 (月)	太宰府観光と現代のまちづくり (コミュニティの変容と、太宰府の地域資源、歴史・文化遺産)	太宰府観光の特徴とその理由を考えておく。		
第13回	第13・14回をまとめて行う。	-		
第14回	「学外授業③」九州国立博物館見学	第15回までに「太宰府案内パンフレット」を制作し発表準備。		
第15回 7/25 (月)	全体総括。各人成果のプレゼンテーション (最終回までに「太宰府案内パンフレット(仮)」を各自で作成し、当日合評会を行う)	全授業終了後、制作パンフレットとレポート③を期日迄に提出。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40% レポート提出(ミニレポート：①授業の最初 ②史跡めぐり後、10点/回×2回)(レポート：③全授業終了後、20点/回)			
小テスト等	0%			
成果発表	40% 成果物(パンフレット)制作と、最終回でのプレゼンテーション(人に伝える)			
受講態度他	20% 積極的な授業への参加を求めます。第1・5・14回以外は、授業の最後にミニツカードを提出(2点/回×10回)			
受講上の留意点・ルールに関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学外授業では交通手段・集合・解散場所に留意し、節度ある行動をお願いします。雨天延期の場合があります。入館料自己負担</li> <li>・最終回では「初めて太宰府を訪れる人」を対象に「太宰府案内パンフレット(仮)」を各自作成し、プレゼン後に提出して下さい</li> <li>・学習成果を「太宰府検定」で試してみることをお勧めします(任意)。太宰府で学んだことを履歴書でPRする機会になるでしょ</li> </ul>			
教科書	(財)古都大宰府保存協会編『太宰府紀行』海鳥社 2011(¥1,944)			
指定図書	(財)古都大宰府保存協会『目でみる太宰府』H19(¥1,000)			
参考図書	授業の中で適宜紹介します。			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	中・近世文学演習 I	開講時期	前期
担当教員	安永 美恵	単位	2
授業の目的と概要	近世文学作品の演習を通して、当該分野の基礎的な知識・技能を身につけることを目的とする科目です。これまで得た知識を活用しつつ、主体的に作品を読み疑問点を解決します。具体的には、本文を読み、解釈するための参考書籍を知り、使用して、正確な本文解釈ができるようになることです。また、発表や質疑応答を通して、資料の意味や自分の考えを説明伝達し、意見交換することも学びます。ここでは、井原西鶴の浮世草子作品を取り上げ、古典利用と、世の「人ごころ」を描くとされる作品の世界を理解します。また、浮世草子の特長でもある当代性を反映した表現や、人情の描写を味わい、鑑賞します。演習は、話の長短により、一話を3～4回で進める予定。担当者は担当範囲の演習発表を行い、他は、質問・意見を述べ、互いに意見交換を行う予定です。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1  版本影印による本文を翻字し、読むことができる。</li> <li>2  根拠となる適切な用例・資料を用いて、正確な解釈をすることができる。</li> <li>3  適切な資料・参考文献を使用して、発表資料を作ることができる。</li> <li>4  発表に際しては、発表内容を準備し、理解できるように伝えることができる。</li> <li>5  興味のあるテーマを設定し、文章構成を考え、レポートにまとめることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 ガイダンス： 授業のねらい、作品紹介、発表資料について		課題：作品理解（参考資料、テキスト解説）	
第2回 担当割当て決定： 担当希望日調整、発表資料について		課題：担当箇所の関係資料調査	
第3回 作者： 西鶴略年譜		課題：文献調査	
第4回 作品： 西鶴の浮世草子について		課題：文献調査	
第5回 調査手順： 用例調査、工具書（道具としての書籍）の利用		課題：発表資料作成	
第6回 発表準備： 翻字方法、発表に関する質疑応答		課題：発表資料作成	
第7回 発表と質疑応答		課題：発表準備 予習：演習予定範囲	
第8回 発表と質疑応答		課題：発表準備 予習：演習予定範囲	
第9回 発表と質疑応答		課題：発表準備 予習：演習予定範囲	
第10回 発表と質疑応答		課題：発表準備 予習：演習予定範囲	
第11回 発表と質疑応答		課題：発表準備 予習：演習予定範囲	
第12回 発表と質疑応答		課題：発表準備 予習：演習予定範囲	
第13回 発表と質疑応答		課題：発表準備・レポート準備 予習：演習予定範囲	
第14回 発表と質疑応答		課題：発表準備・レポート準備 予習：演習予定範囲	
第15回 まとめ		課題：レポート作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30％ 期末レポート		
小テスト等	なし		
成果発表	50％ 口頭発表と質疑応答		
受講態度他	20％ 質問・意見等討議への参加状況など		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	原則として、三分の二以上の出席がなければ無資格になりますので注意してください。受講生は、演習範囲の予習で、疑問点を整理しておくことが望ましい。受講生は責任を持って担当箇所の発表を行うこと（一話を数人で分担するので、途中で抜けることのないように）。尚、担当は個人単位または二人組を予定しているが、受講生数により、担当形式やスケジュールを変更する。卒業論文で近世文学を取り扱う可能性のある場合は、受講しておくこと。		
教科書	雲英末雄他編『影印版頭注付 西鶴の世界Ⅱ』新典社。プリント配布。伊地知鐵男編『仮名変体集』新典社。（但し、他の授業ですでに『字典 かな』笠間書院 を購入している場合はそれで代用してよい）。		
指定図書	なし。		
参考図書	授業時に一覧を配布するほか、適宜紹介する。		
オフィスアワー	木曜昼休み、火曜5限	メールアドレス	

授業科目	中・近世文学演習Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	安永 美恵	単位	2
授業の目的と概要	この授業は、近世文学作品を主体的に読む力をつけることを目的としています。本文を解釈するだけでなく、作品に対して自分なりの問題意識を持つことができるようになることがねらいです。また、演習担当時には、プリント資料作成や、発表内容を伝える力も鍛えられます。同時に、他の参加者との意見交換によって理解を深めることができます。調査・検討結果をレポートにまとめることにより、論理的思考力を高めることも望まれます。作品は、井原西鶴の『西鶴諸国はなし』（奇談集）を取り上げます。各話ごとに異なる世界を扱っている奇談集の様々な資料に触れることにより、知識の幅を広げます。多様な読みの可能性があるので、積極的に謎解きに関わっていきます。原則的に、1回一人から二人担当予定。なお、受講生数により、授業計画を一部変更することがあります。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発表資料（レジュメ）を作成して、内容を分かりやすく説明できる。</li> <li>2 参考文献を、目的に応じて適切に使用できるようになる。</li> <li>3 出典や他作品との比較を行うことができる。</li> <li>4 担当した話に対しての自分なりの見解を述べることができる。</li> <li>5 興味のあるテーマを設定し、文章構成を考え、的確にまとめることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 ガイダンス	講義のねらい、作品紹介、発表資料について	課題：作品理解	
第2回 作品と創作	『西鶴諸国はなし』の世界。	課題：作品理解	
第3回 担当スケジュール、担当箇所決め	実習などの予定があればこの日に調整	課題：文献・資料の調査・収集	
第4回 作品と資料	一話（原則的に演習外の作品）を読む。	課題：文献・資料の調査・収集	
第5回 PCスポット授業	国文学研究資料館データベース利用方法他	課題：発表資料作成	
第6回 発表準備	出典探索、参考文献の利用	課題：発表資料作成	
第7回 発表と質疑応答		課題：発表準備 予習：授業予定作品を読む	
第8回 発表と質疑応答		課題：発表準備 予習：授業予定作品を読む	
第9回 発表と質疑応答		課題：発表準備 予習：授業予定作品を読む	
第10回 発表と質疑応答		課題：発表準備 予習：授業予定作品を読む	
第11回 発表と質疑応答		課題：発表準備・レポート準備 予習：授業予定作品を読む	
第12回 発表と質疑応答		課題：発表準備・レポート準備 予習：授業予定作品を読む	
第13回 発表と質疑応答		課題：発表準備・レポート準備 予習：授業予定作品を読む	
第14回 演習で取り上げなかった章を読む		課題：レポート準備 予習：授業予定作品を読む	
第15回 まとめ、レポート作成のための意見交換		課題：レポート作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30% 期末レポート		
小テスト等	なし		
成果発表	50% 口頭発表と質疑応答		
受講態度他	20% 質問・意見		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	原則として、三分の二以上の出席がなければ無資格になりますので注意してください。受講生は、毎回の作品を事前に読んでから出席すること。また、担当したら責任を持って発表すること。なお、受講生数により、担当形式やスケジュールを変更することがある。卒業論文で近世文学を選択する可能性のある場合は、必ず受講してほしい。		
教科書	配布プリント。伊地知鐵男編『仮名変体集』新典社。（但し、他の授業ですでに『字典 かな』笠間書院を購入している場合はそれで代用してよい）。		
指定図書	なし。		
参考図書	『新日本古典文学大系』岩波書店、『新編日本古典文学全集』小学館、『対訳西鶴全集』明治書院。西鶴作品他については授業時に一覧を配布する。		
オフィスアワー	木曜昼休み、金曜4限	メールアドレス	

授業科目	中・近世文学概論（日本文学史を含む）		開講時期	後期
担当教員	安永 美恵		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、本学科での専門分野の基礎的な知識を身につけることを目的としています。中世文学・近世文学を取り上げ、部分的ではありますが、いくつかの作品本文に触れながら、文学の史的変遷、代表的な作品・作者、文芸思潮や表現に対する考え方等、文学史的な視点について理解できるようになることがねらいです。特に、歴史的背景と文学との関係や、表現の時代的な変遷を、作品を通して実感できるよう、いくつかの作品の一部を読んでいきます。尚、この時代全体では、分野も作品数も多く、すべてを扱うことはできないため、以後の発展的な講義の理解につながるものを優先して、作品を選択しています。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本の中世文学、近世文学について、歴史的背景と文学の変遷について、概略を説明できるようになる。</li> <li>2 各時代の代表的な作品について、内容的な特徴や作者、前後の影響関係について説明できるようになる。</li> <li>3 代表的な作品について、自分で読み、内容を理解することができる。</li> <li>4 授業で取り上げた作品について、具体的な本文から、それぞれの表現の特徴を理解し、説明できるようになる。</li> <li>5 過去の、文学に対する考え方を知り、他の時代や現代とも合わせて、自ら文学について考えることができるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に日本語・日本文学科のDP③「各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる。」の達成に関わる科目です。「古代文学概論」や「近・現代文学概論」と合わせて、日本文学史全体を概観できるようになります。また、近世小説については、「江戸の小説を読む」で、具体的な作品に触れることができます。上位学年で「中・近世文学講読」や「中・近世文学演習」などの科目を受講することで、日本の中世文学や近世文学への理解を深めることができます。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業概要説明・中世文学概観	課題：復習。文学史を整理し、各自で作品を読む。		
第2回	和歌 新古今集の成立	課題：復習。文学史を整理し、各自で作品を読む。		
第3回	和歌 歌人	課題：復習。文学史を整理し、各自で作品を読む。		
第4回	連歌の展開	課題：復習。文学史を整理し、各自で作品を読む。		
第5回	軍記物語（保元物語・平治物語）	課題：復習。文学史を整理し、各自で作品を読む。		
第6回	軍記物語（平家物語・太平記）	課題：復習。文学史を整理し、各自で作品を読む。		
第7回	近世文学概観	課題：復習。文学史を整理し、各自で作品を読む。		
第8回	雅と俗	課題：復習。文学史を整理し、各自で作品を読む。		
第9回	古典教養の浸透と近世文学	課題：復習。文学史を整理し、各自で作品を読む。		
第10回	和歌	課題：復習。文学史を整理し、各自で作品を読む。		
第11回	漢詩文	課題：復習。文学史を整理し、各自で作品を読む。		
第12回	狂詩・狂歌等	課題：復習。文学史を整理し、各自で作品を読む。		
第13回	俳諧	課題：復習。文学史を整理し、各自で作品を読む。		
第14回	近世小説	課題：復習。文学史を整理し、各自で作品を読む。		
第15回	まとめ	試験準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	70% 期末定期試験。			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	30%（課題提出を含む）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、三分の二以上の出席がなければ無資格になりますので注意してください。</li> <li>・授業中は、読み・考えることに集中する。これを中断するような行為（私語、授業中の入退室など）は慎もう。</li> <li>・授業中の指示に従って、課題を提出すること。</li> </ul>			
教科書	久保田淳編『日本文学史』おうふう、配布プリント			
指定図書	なし。			
参考図書	『新編日本古典文学全集』小学館 『新日本古典文学大系』岩波書店 他			
オフィスアワー	木曜昼休み、金曜4限	メールアドレス		

授業科目	中・近世文学講読Ⅰ		開講時期	前期
担当教員	安永 美恵		単位	2
授業の目的と概要	中・近世の文学作品を取り上げ、作品を読む講義を通して、日本語・日本文学分野の文学作品を読むための基礎知識を身につけることを目的とします。具体的には、本講義では『おくのほそ道』をとりあげ、芭蕉の俳諧の世界を知ると同時に、中世の連歌から江戸時代の俳諧までの文学史的な流れを復習します。それを踏まえて、背景となる、近世の俳諧に対する理解を深めます。また、他の紀行文を参考に、芭蕉の紀行文の特徴を知り、『おくのほそ道』執筆の意図について考察します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 連歌から俳諧までの文学史的な流れを説明できる。</li> <li>2 紀行文としての『おくのほそ道』の特徴をあげることができる。</li> <li>3 作者の執筆意図を考察することができる。</li> <li>4 授業で取り上げた作品について、文学史的な背景や作者の意図を把握し、正しく解釈できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に日本語・日本文学科のDP③「各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる。」の達成に関わる科目です。「中・近世文学概論」で概念的に把握した事柄を、具体的な作品を通して理解を深めることができるものです。「中・近世文学講読Ⅱ」と合わせて、より広い分野の知識を得ることができます。また「中・近世文学演習」で、ここで得た知識や読解力を実践的に鍛えることができます。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス 授業の目的と概要説明	配布プリントの予習と復習		
第2回	連歌から俳諧まで	配布プリントの予習と復習		
第3回	江戸時代の俳諧	配布プリントの予習と復習		
第4回	芭蕉と俳諧	配布プリントの予習と復習		
第5回	紀行文	配布プリントの予習と復習		
第6回	『おくのほそ道』 序章	テキストと配布プリントの予習		
第7回	『おくのほそ道』 旅立	課題：「旅立」に関する課題		
第8回	『おくのほそ道』 室の八嶋まで	テキストと配布プリントの予習		
第9回	『おくのほそ道』 日光	テキストと配布プリントの予習		
第10回	『おくのほそ道』 那須野	課題：「那須野」に関わる課題		
第11回	『おくのほそ道』 白川の関	テキストと配布プリントの予習		
第12回	『おくのほそ道』 松島	テキストと配布プリントの予習		
第13回	『おくのほそ道』 象潟	テキストと配布プリントの予習		
第14回	『おくのほそ道』 全体の構成	テキストと配布プリントの予習・復習		
第15回	まとめ	試験準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	なし。			
小テスト等	なし。			
成果発表	なし。			
受講態度他	30% 課題及び、授業時に、鑑賞文あるいは授業内容に関する記述を課すものを含める。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、三分の二以上の出席がなければ無資格になるので注意してください。授業中は、読み・考えることに集中する。これを妨害する行為(私語、授業中の入退室、携帯電話利用(電源切り忘れ)、など)は慎むこと。</li> <li>・授業中の指示に従って、課題を提出すること。</li> <li>・授業では、一部分のみを読んでいきますが、受講生は全文を読んでおいてください。</li> </ul>			
教科書	額原退蔵『新版 おくのほそ道 現代語訳/曾良随行日記付き』角川学芸出版			
指定図書	なし。			
参考図書	・授業時に指示する。			
オフィスアワー	木曜昼休み、火曜5限	メールアドレス		

授業科目	中・近世文学講読Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	安永 美恵	単 位	2
授業の目的と概要	上田秋成の読本『雨月物語』を読むことを通して、次の2点を目的とします。1  まず、近世小説（読本）についての文学史的な知識や表現の特性を、具体的に理解できるようになること。次に、特に、その緻密で巧みな表現を学ぶことによって、日本文学の専門分野の知識や読解に関わる能力を高めることです。また、登場人物を通して、作者の人間把握と表現について学びます。『雨月物語』は、奇談的な興味の枠を越えて、人間の深層を描く作品として、さらに、その世界を支える独特の文体が、高い評価を得ています。現代語訳によるストーリー把握だけでは十分な理解は得られません。先行文芸や、背景となる時代設定と密接に関わる部分もあるので、合わせて読む資料を理解することも重要です。これらを参考に、丁寧に読み解くことによって、洞察力を鍛えます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1  授業で取り上げた作品を理解し、内容について説明することができる。</li> <li>2  典拠とその利用の意図を指摘し、説明することができる。</li> <li>3  注目すべき表現や挿絵等について、表現の意図を考察し、述べることができる。</li> <li>4  授業内容を踏まえて、作品の主題について考察し、論述することができる。</li> <li>5  作者と作品について、文学史上の位置と意義を述べることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に日本語・日本文学科のDP③「各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる。」の達成に関わる科目です。「中・近世文学概論」で概念的に把握した事柄を、具体的な作品を通して理解を深めることができるものです。「中・近世文学講読Ⅰ」と合わせて、より広い分野の知識を得ることができます。また「中・近世文学演習」で、ここで得た知識や読解力を実践的に鍛えることができます。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 『雨月物語』について		授業で読む「序」「菊花の約」「蛇性の淫」以外を読む。	
第2回 作者・上田秋成について（青年期まで）		授業で読む「序」「菊花の約」「蛇性の淫」以外を読む。	
第3回 作者・上田秋成について（文学活動・晩年まで）		授業で読む「序」「菊花の約」「蛇性の淫」以外を読む。	
第4回 「序」を読む		課題：「浅茅が宿」の登場人物について	
第5回 「菊花の約」を読む1 話の設定 人物・土地を中心に		テキスト・配布プリントの予習と復習	
第6回 「菊花の約」を読む2 話の背景		テキスト・配布プリントの予習と復習	
第7回 「菊花の約」を読む3 出典		テキスト・配布プリントの予習と復習	
第8回 「菊花の約」を読む4 創作		テキスト・配布プリントの予習と復習	
第9回 古典教養の浸透と近世文学：小説の創作		テキスト・配布プリントの予習と復習	
第10回 「菊花の約」を読む 5 怪異 と 主題		課題：「蛇性の淫」の登場人物について	
第11回 「蛇性の淫」を読む 1 発端		テキスト・配布プリントの予習と復習	
第12回 「蛇性の淫」を読む 2 怪異		課題：「吉備津の釜」の登場人物について	
第13回 「蛇性の淫」を読む 3 結婚		テキスト・配布プリントの予習と復習	
第14回 「蛇性の淫」を読む 4 性（浅茅が宿・吉備津の釜を参照する）		テキスト・配布プリントの予習と復習	
第15回 「蛇性の淫」を読む 5 講義のまとめと試験について		試験準備	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	70% 期末テスト		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	30%（課題提出を含む）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、三分の二以上の出席がなければ無資格になりますので注意してください。</li> <li>・授業中は、読み・考えることに集中する。これを妨害する行為（私語、授業中の入退室、携帯電話利用（電源切り忘れ）、など）は慎むこと。</li> <li>・授業中の指示に従って、課題を提出すること。</li> </ul>		
教科書	上田秋成著 鷗月洋『改定版 雨月物語 現代語訳付』角川ソフィア文庫		
指定図書	無し。		
参考図書	新編日本古典文学全集78『英草紙・西山物語・雨月物語・春雨物語』小学館、井上泰至『春雨物語』角川ソフィア文庫 その他は、授業時に指示する。		
オフィスアワー	木曜昼休み、金曜4限	メールアドレス	

授業科目	中国語 I		開講時期	前期
担当教員	秋山 久枝		単位	1
授業の目的と概要	この授業では大学で初めて中国語を学ぶ人を対象とし、中国語の基礎的な文法を学んで初級の簡単なコミュニケーション能力を身につける。また、発音記号（「ピンイン」と称する中国式のローマ字つづり）の読み方と書き方をマスターする。学ぶ教科書の範囲は、第6課までで、第7課以降は、「中国語II」で学習する。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2 教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、簡単な会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、文学部共通科目のDP3.「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。後期に開講される「中国語II」は、この科目で学んだ内容を基礎として、より高度な表現を学んでいく。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	中国語について ピンイン、声調、単母音	CDを聞いて実際に発音してみましょう。		
第2回	重母音、子音	何度も声に出して練習しましょう。		
第3回	発音篇総復習及び小テスト	何度も声に出して練習しましょう。		
第4回	第一課 自己紹介 文法ポイント(人称代名詞、動詞述語文、名前の尋ね方、答え方)	CDを聞く。単語を覚える。		
第5回	第一課 本文とドリル	文法、ドリルの復習		
第6回	第二課 妹が二人います。 文法ポイント(数字の言い方、年齢の言い方、副詞“也”と“都”)	CDを聞く。単語を覚える。		
第7回	第二課 本文とドリル	文法、ドリルの復習		
第8回	第三課 道を見つける 文法ポイント(方位詞、年月日・曜日・時刻の言い方)	CDを聞く。単語を覚える。		
第9回	第三課 本文とドリル	文法、ドリルの復習		
第10回	第四課 買物 文法ポイント(指示代名詞、助数詞、形容詞述語文、助動詞“想”と“要”、金額の言い方)	CDを聞く。単語を覚える。		
第11回	第四課 本文とドリル	文法、ドリルの復習		
第12回	第五課 アルバイト 文法ポイント(“有点儿”と“一点儿”、程度補語)	CDを聞く。単語を覚える。		
第13回	第五課 本文とドリル	文法、ドリルの復習		
第14回	第六課 車の運転を習う 文法ポイント(二つの“了”、助動詞“会”と“能”、“打算”)	CDを聞く。単語を覚える。		
第15回	第六課 本文とドリル	期末試験の準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%(第1-6課分)			
レポート	-			
小テスト等	30%(ピンインの書き取りテスト、第1-3課分小テスト、第4-6課分小テスト)			
成果発表	-			
受講態度他	10%(遅刻、飲食厳禁。携帯電話使用不可。)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	小テストの日程は進度に応じてその都度予告します。私語、飲食、遅刻厳禁。目的意識をきちんと持って授業に臨むこと。			
教科書	児野道子・鄭高咏『ちからになる中国語』金星堂			
指定図書	授業中に随時紹介する。			
参考図書	授業中に随時紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	中国語 I	開講時期	前期
担当教員	桐島 薫子	単位	1
授業の目的と概要	<p>この授業では大学で初めて中国語を学ぶ人を対象とし、中国語の基礎的な文法を学んで初級の簡単なコミュニケーション能力を身につける。また、発音記号（「ピンイン」と称する中国式のローマ字つづり）の読み方と書き方をマスターする。</p> <p>学ぶ教科書の範囲は、第6課までで、第7課以降は、「中国語Ⅱ」で学習する。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。</p>		
到達目標	<p>1、発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し、発音することができる。</p> <p>2、教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。</p> <p>3、教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</p> <p>4、授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、文学部共通科目のDP3.「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。後期に開講される「中国語Ⅱ」は、この科目で学んだ内容を基礎として、より高度な表現を学んでいく。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	ガイダンス・発音のポイント①（音調・単母音）	配付プリントの講読	
第2回	発音のポイント②（重母音と子音）	教科書「発音のポイント」、配付プリントの復習	
第3回	発音のポイント③（子音・音調符号の位置・音調の変化）、単語の発音練習	教科書「発音のポイント」、配布プリントの復習	
第4回	第1課 自己紹介：本文とポイント（人称代名詞・名前の問い方と答え方・動詞・疑問詞）	教科書第1課の予習	
第5回	第1課 自己紹介：本文の復習と練習問題	教科書第1課の復習、学習シート	
第6回	第2課 妹が2人います：本文とポイント（数字と年齢の言い方・副詞・「有」・動詞）	教科書の第2課の予習	
第7回	第2課 妹が2人います：本文の復習と練習問題	教科書第2課の復習、学習シート	
第8回	第3課 道をたずねる：本文とポイント（方位詞・年月日曜日の言い方・「在」・語気助詞など）	教科書第3課の予習	
第9回	第3課 道をたずねる：本文の復習と練習問題	教科書第3課の復習、学習シート	
第10回	第4課 買い物：本文とポイント（指示代名詞・助数詞・形容詞・助動詞・疑問詞など）	教科書第4課の予習	
第11回	第4課 買い物：本文の復習と練習問題	教科書第4課の復習、学習シート	
第12回	第5課 アルバイト：本文とポイント（有点儿と一点儿・程度補語など）	教科書第5課の予習	
第13回	第5課 アルバイト：本文の復習と練習問題	教科書第5課の復習、学習シート	
第14回	第6課 車の運転を習う：本文とポイント（二つの了・助動詞）	教科書第6課の予習	
第15回	第6課 車の運転を習う：本文の復習と練習問題、定期試験について	第6課の復習、学習シート、定期試験の準備	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	60%		
レポート	なし		
小テスト等	20%		
成果発表	なし		
受講態度他	20%（課題提出を含む）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な参加態度で臨むこと。</li> <li>・予習、復習を行うこと。</li> <li>・授業では、適宜、視聴覚教材を用いて理解を深めていく。</li> </ul>		
教科書	児野道子・鄭高咏著 『ちからになる中国語』 金星堂		
指定図書	・相原 茂・石田 友子・戸沼 市子著 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』 同学社		
参考図書	『中日辞典』 『日中辞典』 小学館、 『標準中国語辞典』 白帝社、その他は授業中に指示する。		
オフィスワー	火曜昼休み、金曜4限	メールアドレス	



授業科目	中国語 I		開講時期	前期
担当教員	大塚 佐織		単位	1
授業の目的と概要	この授業では大学で初めて中国語を学ぶ人を対象とし、中国語の基礎的な文法を学んで初級の簡単なコミュニケーション能力を身につける。また、発音記号（「ピンイン」と称する中国式のローマ字つづり）の読み方と書き方をマスターする。学ぶ教科書の範囲は、第6課までで、第7課以降は、「中国語II」で学習する。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2 教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、簡単な会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、文学部共通科目のDP3.「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。後期に開講される「中国語II」は、この科目で学んだ内容を基礎として、より高度な表現を学んでいく。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス・発音のポイント（声調・単母音）	教科書・配布プリントの復習・CDを聞く		
第2回	発音のポイント（重母音・子音）	教科書・配布プリントの復習・CDを聞く		
第3回	発音のポイント（子音の復習・声調符号の位置・声調の変化）	教科書・配布プリントの復習・CDを聞く		
第4回	第1課 自己紹介 文法ポイント（人称代名詞・名前の問い方と答え方・動詞・疑問詞）	教科書の復習・CDを聞き単語を覚える		
第5回	第1課 自己紹介 本文・ドリル	文法・ドリルの復習・CDを聞く		
第6回	第2課 妹が2人います 文法ポイント（数字と年齢の言い方・副詞・動詞「有」）	教科書の復習・CDを聞き単語を覚える		
第7回	第2課 妹が2人います 本文・ドリル	文法・ドリルの復習・CDを聞く		
第8回	第3課 道をたずねる 文法ポイント（方位詞・年月日曜日の言い方・動詞「在」）	教科書の復習・CDを聞き単語を覚える		
第9回	第3課 道をたずねる 本文・ドリル	文法・ドリルの復習・CDを聞く		
第10回	第4課 買い物 文法ポイント（指示代名詞・助数詞・形容詞・助動詞・疑問詞・金額の言い方）	教科書の復習・CDを聞き単語を覚える		
第11回	第4課 買い物 本文・ドリル	文法・ドリルの復習・CDを聞く		
第12回	第5課 アルバイト 文法ポイント（有点儿・一点儿・程度補語など）	教科書の復習・CDを聞き単語を覚える		
第13回	第5課 アルバイト 本文・ドリル	文法・ドリルの復習・CDを聞く		
第14回	第6課 車の運転を習う 文法ポイント（二つの了、助動詞「会」と「能」、打算）	教科書の復習・CDを聞き単語を覚える		
第15回	第14回 第6課 車の運転を習う 本文・ドリル・定期試験について	期末試験の準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	%			
小テスト等	20%（各課で行う）			
成果発表	%			
受講態度他	10%（遅刻・私語厳禁）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻・私語厳禁。 各課で行われた小テストのやり直しの提出。 予習・復習を行うこと。 積極的な授業への参加。			
教科書	児野道子・鄭高咏著『ちからになる中国語』金星堂			
指定図書	授業中に紹介する。			
参考図書	『日中辞典』『中日辞典』小学館、その他、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	中国語 I	開講時期	前期
担当教員	関 久美子	単位	1
授業の目的と概要	この授業では大学で初めて中国語を学ぶ人を対象とし、中国語の基礎的な文法を学んで初級の簡単なコミュニケーション能力を身につける。また、発音記号（「ピンイン」と称する中国式のローマ字つづり）の読み方と書き方をマスターする。学ぶ教科書の範囲は、第6課までで、第7課以降は、「中国語Ⅱ」で学習する。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2 教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、簡単な会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、文学部共通科目のDP3.「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。後期に開講される「中国語Ⅱ」は、この科目で学んだ内容を基礎として、より高度な表現を学んでいく。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 発音学習1…ピンイン・声調・単母音・複合母音		発音プリント1を解いてピンイン・声調について理解する。	
第2回 発音学習2…nとng・子音・有気音と無気音・そり舌音		発音プリント2を解いて子音・そり舌音について理解する。	
第3回 発音学習3…声調変化・アル化音・発音の総復習		発音プリント3を解いて中国語の発音について復習する。	
第4回 第1課 自己紹介…文法ポイント学習（人称代名詞・断定の動詞“是”・動詞述語文・名前の尋ね方）		プリント第1課を解きながら新出文法を理解する。	
第5回 第1課 自己紹介…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を聞いて音読練習をし、本文を書写する。	
第6回 第2課 二人の妹…文法ポイント学習（数字の表現・年齢の表現・副詞“也”と“都”）		プリント第2課を解きながら新出文法を理解する。	
第7回 第2課 二人の妹…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を聞いて音読練習をし、本文を書写する。	
第8回 文化理解 中国文化を紹介するDVD		DVDの感想文を提出する。	
第9回 第3課 道を探ねる…文法ポイント学習・本文・練習問題		新出文法を理解する。本文発音を聞いて音読練習をし、本文を書写する。	
第10回 第4課 買い物…文法ポイント学習（指示代名詞・形容詞述語文・助動詞“想”“要”）		プリント第4課を解きながら新出文法を理解する。	
第11回 第4課 買い物…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を聞いて音読練習をし、本文を書写する。	
第12回 第5課 アルバイト…文法ポイント学習（「少し」の表現・程度補語・「しっかりと～する」の表現）		プリント第5課を解きながら新出文法を理解する。	
第13回 第5課 アルバイト…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を聞いて音読練習をし、本文を書写する。	
第14回 第6課 運転の練習…文法ポイント学習（二つの“了”・助動詞“会”“能”“打算”）		プリント第6課を解きながら新出文法を理解する。	
第15回 第6課 運転の練習…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を聞いて音読練習をし、本文を書写する。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	定期試験…60%		
レポート	ノート提出…10%		
小テスト等	プリント提出…10%		
成果発表	%		
受講態度他	受講態度20%（質問や発表など、授業の積極的参加を考慮する）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ノートに教科書の本文を写し、予習をすること。毎課ごとに宿題のプリントを提出すること。		
教科書	児野道子・鄭高咏『ちからになる中国語』金聖堂		
指定図書	特になし		
参考図書	授業中に随時紹介		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	中国語 I	開講時期	前期
担当教員	王 震緒	単 位	1
授業の目的と概要	この授業では大学で初めて中国語を学ぶ人を対象とし、履修者が中国語の基礎的な文法を学んで初級の簡単なコミュニケーション能力を身につけること、発音記号（「ピンイン」と称する中国式のローマ字つづり）の読み方と書き方を身につけることを目標とする。 学ぶ教科書の範囲は、第6課までで、第7課以降は、「中国語Ⅱ」で学習する。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2 教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第6課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、簡単な会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目のDP3、「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション	自習用ダウンロード音声を聞く	
第2回	「発音のポイント」：中国語の基礎	自習用ダウンロード音声を聞く	
第3回	「発音のポイント」：中国語の基礎	自習用ダウンロード音声を聞く	
第4回	「自己紹介」：AはBです、人称代名詞、疑問詞など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第5回	「自己紹介」：AはBです、人称代名詞、疑問詞など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第6回	「妹がふたりいます」数字の言い方、年齢の言い方、副詞など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第7回	「妹がふたりいます」数字の言い方、年齢の言い方、副詞など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第8回	「道をたずねる」：方位詞、年月日・曜日・時刻など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第9回	「道をたずねる」：方位詞、年月日・曜日・時刻など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第10回	「買物」：指示代名詞、形容詞など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第11回	「買物」：指示代名詞、形容詞など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第12回	「アルバイト」：程度補語など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第13回	「アルバイト」：程度補語など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第14回	「車の運転を習う」：完了形、助動詞など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第15回	「車の運転を習う」：完了形、助動詞など	自習用ダウンロード音声を聞く	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	90％		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中は静寂を守る。携帯電話の使用は禁止。		
教科書	児野道子他『ちかからになる中国語』金星堂		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	中国語Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	王 震緒	単 位	1
授業の目的と概要	この授業では「中国語Ⅰ」を学び終えた人を対象とし、履修者が基礎段階のやや複雑な文法を学んで初級のコミュニケーション能力を身につけること、発音をマスターすることを目標とする。学ぶ教科書の範囲は、第7課から13課までである。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）に習熟し、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して中国語を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、「中国語Ⅰ」に続き、共通科目のDP3、「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	「電話をかける」：進行形、前置詞など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第2回	「電話をかける」：進行形、前置詞など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第3回	「ディズニーランド」：経験文、連動文など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第4回	「ディズニーランド」：経験文、連動文など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第5回	「進歩した!」：比較表現、方向補語など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第6回	「進歩した!」：比較表現、方向補語など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第7回	「スマートフォン」：使役形、禁止表現など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第8回	「スマートフォン」：使役形、禁止表現など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第9回	「スキー」：結果補語、動作状態の持続、選択疑問文など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第10回	「スキー」：結果補語、動作状態の持続、選択疑問文など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第11回	「財布」：可能補語、強調文など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第12回	「財布」：可能補語、強調文など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第13回	「試験」受身形、理由の言い方など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第14回	「試験」受身形、理由の言い方など	自習用ダウンロード音声を聞く	
第15回	後期のまとめ	自習用ダウンロード音声を聞く	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	90％		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中は静寂を守る。携帯電話の使用は禁止する。		
教科書	児野道子『ちからになる中国語』金星堂		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	中国語Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	王 曉芳	単位	1
授業の目的と概要	この授業では「中国語Ⅰ」を学び終えた人を対象とし、基礎段階のやや複雑な文法を学んで初級のコミュニケーション能力を身につける。 また、発音をマスターする。 学ぶ教科書の範囲は、第7課から13課までである。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）に習熟し、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して中国語を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、「中国語Ⅰ」に続き、文学部共通科目のDP3、「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に係わる科目である。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 中国語Ⅰの復習		第1～6課の復習	
第2回 第7課 電話をかける 文法ポイント（動作の進行を表す「在」、前置詞の「在」、「快～了」、電話番号の言い方など）		教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第3回 第7課 電話をかける 本文・ドリル		文法・ドリルの復習・CDを聞く	
第4回 第8課 デイズニerland 文法ポイント（経験の表現・時間と回数・動詞の重ね型・連動文）		教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第5回 第8課 デイズニerland 本文・ドリル		文法・ドリルの復習・CDを聞く	
第6回 第9課 進歩した！ 文法ポイント（比較表現・前置詞・動詞＋下・方向補語）		教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第7回 第9課 進歩した！ 本文・ドリル		文法・ドリルの復習・CDを聞く	
第8回 第10課 スマートフォン 文法ポイント（使役形・助動詞・禁止表現・太～了）		教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第9回 第10課 スマートフォン 本文・ドリル		文法・ドリルの復習・CDを聞く	
第10回 第11課 スキー 文法ポイント（結果補語・持続の表現・選択疑問文・動詞＋起来）		教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第11回 第11課 スキー 本文・ドリル		文法・ドリルの復習・CDを聞く	
第12回 第12課 財布 文法ポイント（「把」・可能補語・「是～的」・前置詞「从～到」）		教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第13回 第12課 財布 本文・ドリル		文法・ドリルの復習・CDを聞く	
第14回 第13課 試験 文法ポイント（受身・理由の言い方など）		教科書の復習・CDを聞き単語を覚える	
第15回 第13課 試験 本文・ドリル・まとめ		期末試験の準備	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	70%		
レポート	%		
小テスト等	20%（各課で行う）		
成果発表	%		
受講態度他	10%（遅刻・私語厳禁）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻・私語厳禁。 各課で行われた小テストのやり直しの提出。 予習・復習を行うこと。 積極的な授業への参加。		
教科書	児野道子・鄭高味著『ちからになる中国語』金星堂		
指定図書	授業中に紹介する。		
参考図書	『日中辞典』『中日辞典』小学館、その他、授業中に紹介する。		
オフィスワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	中国語Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	関 久美子	単 位	1
授業の目的と概要	この授業では「中国語Ⅰ」を学び終えた人を対象とし、基礎段階のやや複雑な文法を学んで初級のコミュニケーション能力を身につける。また、発音をマスターする。 学ぶ教科書の範囲は、第7課から13課までである。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）に習熟し、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して中国語を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、「中国語Ⅰ」に続き、文芸部共通科目のDP3、「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 第7課 電話…文法ポイント学習（進行形の“在”・前置詞の“在”・“快～了”・電話番号の表現）		プリント第7課を解いて新出文法について理解する。	
第2回 第7課 電話…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を音読練習し、本文を書写する。	
第3回 第8課 ディズニーランド…文法ポイント学習（経験の表現・回数・動詞の重ね型・連動文）		プリント第8課を解いて新出文法について理解する。	
第4回 第8課 ディズニーランド…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を音読練習し、本文を書写する。	
第5回 第9課 進歩した…文法ポイント学習（比較・前置詞“給”・動詞+“一下”・方向補語）		プリント第9課を解いて新出文法について理解する。	
第6回 第9課 進歩した…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を音読練習し、本文を書写する。	
第7回 第10課 スマートフォン…文法ポイント学習（使役・助動詞“可以”・禁止・“太～了”）		プリント第10課を解いて新出文法について理解する。	
第8回 第10課 スマートフォン…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を音読練習し、本文を書写する。	
第9回 第11課 スキー…文法ポイント学習（結果補語・持続の“着”・選択疑問文）		プリント第11課を解いて新出文法について理解する。	
第10回 第11課 スキー…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を音読練習し、本文を書写する。	
第11回 第12課 財布…文法ポイント学習（“把”構文・可能補語・“是～的”）		プリント第12課を解いて新出文法について理解する。	
第12回 第12課 財布…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を音読練習し、本文を書写する。	
第13回 第13課 試験…文法ポイント学習（受身表現・理由の言い方）		プリント第13課を解いて新出文法について理解する。	
第14回 第13課 試験…文法ポイントの復習・本文・練習問題		本文発音を音読練習し、本文を書写する。	
第15回 後期の復習		後期の学習を復習する。身近な環境で使われている中国語をさがす。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	定期試験…60%		
レポート	ノート提出…10%		
小テスト等	プリント提出…10%		
成果発表	0%		
受講態度他	受講態度…20%（質問や発表など、授業への積極的参加を考慮する）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ノートに教科書の本文を写し、予習をすること。毎課ごとに宿題のプリントを提出すること。		
教科書	児野道子・鄭高咏『ちからになる中国語』金聖堂		
指定図書	特になし		
参考図書	授業中に適宜紹介		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	中国語Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	秋山 久枝	単 位	1
授業の目的と概要	この授業では「中国語Ⅰ」を学び終えた人を対象とし、基礎段階のやや複雑な文法を学んで初級のコミュニケーション能力を身につける。また、発音をマスターする。学ぶ教科書の範囲は、第7課から13課までである。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）に習熟し、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して中国語を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、「中国語Ⅰ」に続き、文学部共通科目のDP3、「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に係わる科目である。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 中国語Ⅰの復習		第一～六課の復習	
第2回 第七課 電話をかける 文法ポイント（動作の進行を表す“在”、前置詞の“在”、“快～了”、電話番号の言い方）		CDを聞く、単語を覚える	
第3回 第七課 本文とドリル		文法、ドリルの復習	
第4回 第八課 デイズニerland 文法ポイント（動詞の重ね型、連動文、時間量・回数の言い方）		CDを聞く、単語を覚える	
第5回 第八課 本文とドリル		文法、ドリルの復習	
第6回 第九課 進歩した！ 文法ポイント（比較表現、動詞+“一下”、簡単な方向補語）		CDを聞く、単語を覚える	
第7回 第九課 本文とドリル		文法、ドリルの復習	
第8回 第十課 スマートフォン 文法ポイント（使役形、助動詞“可以”、禁止表現、“太～了”）		CDを聞く、単語を覚える	
第9回 第十課 本文とドリル		文法、ドリルの復習	
第10回 第十一課 スキー 文法ポイント（結果補語、選択疑問文、動詞+“起来”）		CDを聞く、単語を覚える	
第11回 第十一課 本文とドリル		文法、ドリルの復習	
第12回 第十二課 財布 文法ポイント（“把”構文、可能補語“得”、“是～的”構文）		CDを聞く、単語を覚える	
第13回 第十二課 本文とドリル		文法、ドリルの復習	
第14回 第十三課 試験 文法ポイント（受身形、理由の言い方）		CDを聞く、単語を覚える	
第15回 第十三課 本文とドリル		文法、ドリルの復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	60%（第7-13課）		
レポート	-		
小テスト等	30%（第7-9課分、第10、11課分、第12、13課分）		
成果発表	-		
受講態度他	10% 私語、飲食、遅刻厳禁。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語、飲食、遅刻厳禁。目的意識をきちんともって授業に臨むこと。小テストの日程は進度に応じて予告する。		
教科書	児野道子・鄭高咏『ちからになる中国語』金星堂		
指定図書	授業中に随時紹介する。		
参考図書	授業中に随時紹介する。		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	中国語Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	桐島 薫子	単位	1
授業の目的と概要	<p>この授業では「中国語Ⅰ」を学び終えた人を対象とし、基礎段階のやや複雑な文法を学んで初級のコミュニケーション能力を身につける。また、発音をマスターする。</p> <p>学ぶ教科書の範囲は、第7課から13課までである。一年を通じ、週1回の授業で一冊の教科書を学び終える。適宜、視聴覚教材などを取り入れ、中国の言語文化に関する理解を深めていく。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）に習熟し、正しく表記し、さらに発音することができる。</li> <li>2 教科書（第7～13課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して中国語を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第7～13課）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、「中国語Ⅰ」に続き、文学部共通科目のDP3、「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に係わる科目である。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 第7課	電話をかける：本文とポイント（動作の進行・前置詞・快～了など）	教科書第7課の予習	
第2回 第7課	電話をかける：本文とポイント（動作の進行・前置詞・快～了など）	教科書第7課の復習、学習シート	
第3回 第8課	ディズニーランド：本文とポイント（経験の表現・時間と回数・動詞重ね型・連動文）	教科書第8課の予習	
第4回 第8課	ディズニーランド：本文の復習と練習問題	教科書第8課の復習、学習シート	
第5回 第9課	進歩した！：本文とポイント（比較表現・前置詞・動詞+-下・方向補語）	教科書第9課の予習	
第6回 第9課	進歩した！：本文の復習と練習問題、	教科書第9課の復習、学習シート	
第7回 第10課	スマートフォン：本文とポイント（使役形・助動詞・禁止表現・太～了）	教科書第10課の予習	
第8回 第10課	スマートフォン：本文の復習と練習問題	教科書第10課の復習、学習シート	
第9回 第11課	スキー：本文とポイント（結果補語・持続の表現・選択疑問文・動詞+起来）	教科書第11課の予習	
第10回 第11課	スキー：本文の復習と練習問題	教科書第11課の復習、学習シート	
第11回 第12課	財布：本文とポイント（「把」・可能補語・是～的・前置詞）	教科書第12課の予習	
第12回 第12課	財布：本文の復習と練習問題	教科書第12課の復習、学習シート	
第13回 第13課	試験：本文とポイント（受身形・理由の言い方など）	教科書第13課の予習	
第14回 第13課	本文復習と練習問題	教科書第13課の復習、学習シート	
第15回	総復習、まとめ（検定試験の練習を含む）	定期試験の準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	60％		
レポート	なし		
小テスト等	20％		
成果発表	なし		
受講態度他	20％（課題を含む）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的な参加態度で臨むこと。</li> <li>・予習、復習を行うこと。</li> <li>・授業では適宜、視聴覚教材を用いて理解を深めていく。</li> </ul>		
教科書	児野道子・鄭高咏 『ちからになる中国語』 金星堂		
指定図書	・相原 茂・石田 知子・戸沼 市子著 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』 同学社		
参考図書	『中日辞典』 『日中辞典』 小学館、 『標準中国語辞典』 白帝社、その他は授業中に指示する。		
オフィスワー	火曜4限、木曜昼休み	メールアドレス	



授業科目	中国語Ⅲ(再)		開講時期	前期
担当教員	李 俊華		単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は、主に中国語をⅠ、Ⅱとして学んだ人たちを対象に、進んだ内容を更に続けて学習しながら中国語の美しい発音、基礎文法、わかりやすい会話の知識を身につけるということを目的とする。</p> <p>授業の概要は、各課は主に以下の内容から構成されている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. その課の学習重点を事前に学習者に知らせる。</li> <li>2. 美しい発音の基本的な概念を説明ながら中国語音声の主な特徴を解説する。</li> <li>3. その課の単語と文型を利用して、コミュニケーションタスクを完成する。</li> <li>4. 楽しく中国語を学んでもらえることと、映像、音楽などを例文や練習問題に積極的に取り入れる。</li> </ol>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習した知識を理解できる。</li> <li>2. 会話文を暗記して、活用することができる。</li> <li>3. 音読み練習を通して、中国語の自然な発音になることができる。</li> <li>4. 中国文化に対して理解する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
中国の朝食	(本文) 単語、文法、読解		予習P8 課題P9	
中国の朝食	(会話) 注釈、文法、会話		予習P8～P7 関連単語 課題P13	
タクシーに乗る	(本文) 単語、文法、読解		予習P12 課題P13	
タクシーに乗る	(会話) 注釈、文法、会話		予習P10～P11 関連単語 課題P13	
総合復習①			復習P8～P13	
贅沢な映画	(本文) 単語、文法、読解		予習P16 課題P17	
贅沢な映画	(会話) 注釈、文法、会話		予習P14～P15 関連単語 課題P17	
AA制とAB制	(本文) 単語、文法、読解		予習P20 課題P21	
AA制とAB制	(会話) 注釈、文法、会話		予習P18～P19 関連単語 課題P21	
総合復習②			復習P14～P21	
お腹をこわす	(本文) 単語、文法、読解		予習P24 課題P25	
お腹をこわす	(会話) 注釈、文法、会話		予習P22～P23 関連単語 課題P25	
ネットショッピング	(本文) 単語、文法、読解		予習P28 課題P29	
ネットショッピング	(会話) 注釈、文法、会話		予習P26～P27 関連単語 課題P29	
総合復習③			復習P22～P29	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	35%			
レポート	なし			
小テスト等	30%			
成果発表	なし			
受講態度他	35% 学習に対して一貫して積極的である。(質問や発表など)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①授業の重点をノートすること。②毎課を習得した小テストを実施する。			
教科書	著者 内田慶市、奥村佳代子、塩山正純、張軼欧『「中国語への道」準中級編 ～浅きより深きへ～(改訂版)』金星堂			
指定図書	中日辞書			
参考図書	プリント資料を配布する			
オフィスワー	火、金	メールアドレス		

授業科目	中国語Ⅲ	開講時期	前期
担当教員	王 曉芳	単 位	1
授業の目的と概要	中国語学習を通して、現代中国の社会、文化に対する理解を深める。コミュニケーションの能力を養成するための練習を行う。テキスト以外に、プリント、視聴覚的な教材も併用して、中国語で「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」ことができることを目的とする。中国語の勉強によって、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力を向上させる。国際的視点から思考する力を育てる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 基本的な文法や語彙の使い方について、理解することができる。</li> <li>2 教科書の文書から必要な情報を読み取り、理解することができる。</li> <li>3 中国語検定試験4級程度の表現力を身につけ、3級を目指すための基礎能力を修得する。</li> <li>4 中国語と中国社会についての知識・技能を身につけることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1 回	中国の朝食 単語・会話・文法	予習	
第 2 回	中国の朝食 短文・練習	予習と復習	
第 3 回	タクシーに乗る 単語・会話・文法	予習と復習	
第 4 回	タクシーに乗る 短文・練習	予習と復習	
第 5 回	「高価」な映画 単語・会話・文法	予習と復習	
第 6 回	「高価」な映画 短文・練習	予習と復習	
第 7 回	第1課～第3課の復習	予習と復習	
第 8 回	割り勘と傾斜割り勘 単語・会話・文法	予習と復習	
第 9 回	割り勘と傾斜割り勘 短文・練習	予習と復習	
第10回	お腹をくだす 単語・会話・文法	予習と復習	
第11回	お腹をくだす 短文・練習	予習と復習	
第12回	ネットショッピング 単語・会話・文法	予習と復習	
第13回	ネットショッピング 短文・練習	予習と復習	
第14回	復習第4課～第6課	復習	
第15回	授業のまとめ	範囲の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	80% (定期試験50%、暗誦と小テスト30%)		
レポート	—		
小テスト等	—		
成果発表	—		
受講態度他	20% 質問や発表などによる授業への積極的参加を考慮します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業は少しずつ進めるので、できるだけ毎回出席をすること。</p> <p>予習、復習をよくすること。</p> <p>授業中に無駄話をしないこと。</p>		
教科書	「中国語への道—浅きより深きへ 改訂版」 内田慶市 など 著 金星堂		
指定図書	特になし		
参考図書	特になし		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス	

授業科目	中国語Ⅲ	開講時期	前期
担当教員	荀 暁崢	単位	1
授業の目的と概要	<p>中国語の基礎を習得した学生を対象に、初歩的な文法を復習しながら、さらに語彙の量を増やし、長めの文を読解できることで、中国語の読解力とコミュニケーション能力を養い、自分の身近な話題を中国語で話すことができることをめざす。</p> <p>授業では初級よりさらなる読解力および表現力のレベルアップを図って準中級のテキストを使う。従って、ピンインローマ字を見て正しく発音できることと基礎文法をマスターしていることが望ましい。1 2 課構成のテキストを、2 週間で1 課ずつ読み進む予定である。1 週目は文法を説明しながら作文の練習をする。2 週目は本文の日本語訳をしながら音読とドリルなどをする。日本語訳を予習してしてください。そのうえ、コミュニケーションを取るために語彙数を増やしていく心がけましょう。また、中国の現在の状況にも注意を払い、中国に対する理解を深めることをもめざしたい。</p>		
到達目標	<p>1、初中級の学習事項を理解できること。</p> <p>2、「聞く・書く・話す」能力をバランスよく伸長できること。</p> <p>3、教科書に即した会話を話すことができること。</p> <p>4、少々長めの作文ができること。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 初級の復習（プリントを配布する予定）		P10第1課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第2回 第1課 「中国に行こう」 学習事項：助動詞“可以”と“要”の用法・主述述語文・目的語が主述句		P10本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第3回 第1課 「中国に行こう」 復習および練習		P14第2課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第4回 第2課 「ウーロン茶を飲もう」 学習事項：原因理由を表す“因為”・逆接を表す“可是”・語気助詞		P14本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第5回 第2課 「ウーロン茶を飲もう」 復習および練習		P18第3課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第6回 第3課 「友だちをつくろう」 学習事項：連動文・“是…的”の文・疑問詞		P18本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第7回 第3課 「友だちをつくろう」 復習および練習		P22第4課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第8回 第4課 「長城に登ろう」 学習事項：“了”の3つの用法・副詞“就”		P22本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第9回 第4課 「長城に登ろう」 復習および練習		P26第5課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第10回 第5課 「漢字を覚えよう」 学習事項：結果補語・副詞“有点儿”・仮定を表す“要是”		P26本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第11回 第5課 「漢字を覚えよう」 復習および練習		P30第6課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第12回 第6課 「街を歩こう」 学習事項：存現文・接続詞“又～又～”		P30本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第13回 第6課 「街を歩こう」 復習および練習		P 3 0 引き続き音読練習と単語の暗唱	
第14回 中国映画を鑑賞する予定		配布された鑑賞シートを完成してください	
第15回 前期まとめ 総合練習を実施および解答解説		前期の学習内容をよく確認した上、繰り返し復習してください。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	期末試験70%		
レポート	なし		
小テスト等	小テスト30%		
成果発表	なし		
受講態度他	日頃学習への取り組みおよび受講態度も加味する。中検や暗唱大会の参加者は、成績に加点する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できれば辞書を用意すること。</li> <li>・予習・復習を怠らないこと。</li> <li>・欠席は三分の一を超えないこと。</li> </ul>		
教科書	『新版 中国語さらなる一歩』 尹 景春・竹島 毅 著 白水社		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	火曜日昼休み（12：30-13：00）なるべく授業前後にご相談ください。	メールアドレス	

授業科目	中国語IV(再)		開講時期	後期
担当教員	李 俊華		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は、主に中国語をⅠ、Ⅱ、Ⅲとして学んだ人達を対象に、進んだ内容を更に続けて学習しながら中国語の美しい発音、基礎文法、わかりやすい会話の知識を身につけるということを目的とする。</p> <p>授業の概要は、各課は主に以下の内容から構成されている。</p> <p>1. その課の学習重点を事前に学習者に知らせる。 2. 美しい発音の基本的な概念を説明ながら中国語音声の主な特徴を解説する。 3. その課の単語と文型を利用して、コミュニケーションタスクを完成する。 4. 楽しく中国語を学んでもらえることと思って、映像、音楽などを例文や練習問題に積極的に取り入れる。 5. 中国文化に対して深く理解するために文学の名作を鑑賞する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習した知識を理解できる。</li> <li>2. 会話文を暗記して、活用することができる。</li> <li>3. 音読み練習を通して、中国語の自然な発音になることができる。</li> <li>4. 中国文化に対して理解する。</li> <li>5. 学内の中国語を暗唱大会に立ち向かうことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
30歳前後の未婚者 (本文) 単語、文法、読解			予習P32 課題P33	
30歳前後の未婚者 (会話) 注釈、文法、会話			予習P30～P31 関連語句 課題P33	
大学生はバイトより勉強 (本文) 単語、文法、読解			予習P36 課題P37	
大学生はバイトより勉強 (会話) 注釈、文法、会話			予習P34～P35 関連語句 課題P37	
総合復習①と文学名作を鑑賞する			復習P30～P37	
感謝の表現 (本文) 単語、文法、読解			予習P40 課題P41	
感謝の表現 (会話) 注釈、文法、会話			予習P38～P39 関連語句 課題P41	
若者の職業観 (本文) 単語、文法、読解			予習P44 課題P45	
若者の職業観 (会話) 注釈、文法、会話			予習P42～P43 関連語句 課題P45	
総合復習②と文学名作を鑑賞する			復習P38～P45	
月光族 (本文) 単語、文法、読解			予習P48 課題P49	
月光族 (会話) 注釈、文法、会話			予習P46～P47 関連単語 課題P49	
中国語のおかげで (本文) 単語、文法、読解			予習P52 課題P53	
中国語のおかげで (会話) 注釈、文法、会話			予習P50～P51 関連単語 課題P53	
総合復習③と文学名作を鑑賞する			復習P46～P53	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	35%			
レポート	なし			
小テスト等	30%			
成果発表	なし			
受講態度他	35% 学習に対して一貫して積極的である。(質問や発表など)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	①授業の重点をノートすること。②毎課を習得した小テストを実施する。			
教科書	著者 内田慶市、奥村佳代子、塩山正純、張軼欧『「中国語への道」準中級編 ～浅きより深きへ～(改訂版)』金星堂			
指定図書	中日辞書			
参考図書	プリント資料を配布する			
オフィスワー	火、金	メールアドレス		

授業科目	中国語IV	開講時期	後期
担当教員	王 曉芳	単 位	1
授業の目的と概要	<p>前期の学習内容を踏まえて学習を進める。後期は中国語の実用会話や文章の理解力と読解実力を向上することができる。</p> <p>①前期学んだ知識の復習しながら、更に充実した文章力と会話力を身につけることができる。</p> <p>②練習問題を一つひとつ自力で解かせて、中国語文法、現代中国語文章に関する理解度と運用能力を高めることができる。</p> <p>③中級の実践的なコミュニケーション能力を身につけることができる。</p>		
到達目標	<p>①基礎的な知識を踏まえ、文章の単語・読解・文法など多様な練習を通じて、総合的な知識を身につけることができる。</p> <p>②練習問題を自分の力で解かせて、理解度と運用能力を確認することを主眼とする。</p> <p>③中国語コミュニケーションの更なるステップアップすることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 第7課 「余り男」「余り女」	単語・会話・文法	予習と復習	
第2回 第7課	短文・練習	予習と復習	
第3回 第8課	大学生は、アルバイトは控え、たくさん勉強すべきです 単語・会話・文法	予習と復習	
第4回 第8課	短文・練習	予習と復習	
第5回 第9課	感謝を表す習慣 単語・会話・文法	予習と復習	
第6回 第9課	短文・練習問題	予習と復習	
第7回 第7～第9課	復習	予習と復習	
第8回 第10課	若者の就職観 単語・会話・文法	予習と復習	
第9回 第10課	短文・練習	予習と復習	
第10回 第11課	月光族 単語・会話・文法	予習と復習	
第11回 第11課	短文・練習	予習と復習	
第12回 第12課	海外での中国語との意外な出会い 単語・会話・文法	予習と復習	
第13回 第12課	短文・練習	予習と復習	
第14回 第10～第12課	復習	復習	
第15回	授業のまとめ	第7課～第12課の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	80% (定期試験50%、小テスト30%)		
レポート	—		
小テスト等	—		
成果発表	—		
受講態度他	20% 質問や発表などによる授業への積極的参加を考慮します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業は少しずつ進めるので、できるだけ毎回出席をすること。授業中に無駄話をしないこと。		
教科書	内田 慶市・奥村 加代子・張 軼欧著 「中国への道」 準中級編 浅きより深きへ 改訂版 金星堂		
指定図書	特になし		
参考図書	特になし		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス	

授業科目	中国語IV	開講時期	後期
担当教員	荀 暁崢	単位	1
授業の目的と概要	<p>中国語の基礎を習得した学生を対象に、初歩的な文法を復習しながら、さらに語彙の量を増やし、長めの文を読解できることで、中国語の読解力とコミュニケーション能力を養い、自分の身近な話題を中国語で話すことができることをめざす。</p> <p>授業では初級よりさらなる読解力および表現力のレベルアップを図って準中級のテキストを使う。従って、ピンインローマ字を見て正しく発音できることと基礎文法をマスターしていることが望ましい。1 2 課構成のテキストを、2 週間で1 課ずつ読み進む予定である。1 週目は文法を説明しながら作文の練習をする。2 週目は本文の日本語訳をしながら音読とドリルなどをする。日本語訳を予習してしてください。そのうえ、コミュニケーションを取るために語彙数を増やしていく心がけましょう。また、中国の現在の状況にも注意を払い、中国に対する理解を深めることをもめざしたい。</p>		
到達目標	<p>1、初中級の学習事項を理解できること。  2、「聞く・書く・話す」能力をバランスよく伸長できること。  3、教科書に即した会話を話すことができること。  4、少々長めの作文ができること。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	前期の復習（プリントを配布する予定）	P34第7課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第2回	第7課 「中国映画を見よう」 学習事項：状態の持続を表す“着”・副詞“再”・部分否定	P34本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第3回	第7課 「中国映画を見よう」 復習および練習	P38第8課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第4回	第8課 「シルクを買おう」 学習事項：方向補語・使役文・疑問詞の不定用法	P38本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第5回	第8課 「シルクを買おう」 復習および練習	P42第9課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第6回	第9課 「中華を食べよう」 学習事項：可能補語・強調表現	P42本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第7回	第9課 「中華を食べよう」 復習および練習	P46第10課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第8回	第10課 「太極拳を習おう」 学習事項：目的を表す“为了”・推測を表す“会”・“～了”の用法	P46本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第9回	第10課 「太極拳を習おう」 復習および練習	P50第11課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第10回	第11課 「水滸伝を楽しもう」 学習事項：結果補語・受身文	P50本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第11回	第11課 「水滸伝を楽しもう」 復習および練習	P54第12課の予習 本文の発声練習と単語の読み書きをしておいてください。	
第12回	第12課 「春節を過ごそう」 学習事項：“快～了”の用法・介詞“把”	P54本文の音読練習と和訳を予習しておく、単語の暗唱	
第13回	第12課 「春節を過ごそう」 復習および練習	P58の予習 音読の練習と和訳を予習しておく。	
第14回	「手紙を書こう」 学習事項：手紙文の日本語訳およびポイント確認	課題のプリントを配布する予定。	
第15回	後期まとめ 総合練習を実施および解答解説	後期の学習内容をよく確認した上、繰り返し復習してください。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	期末試験70%		
レポート	なし		
小テスト等	小テスト30%		
成果発表	なし		
受講態度他	日頃学習への取り組みおよび受講態度も加味する。中検や暗唱大会の参加者は、成績に加点する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・できれば辞書を用意すること。</li> <li>・予習・復習を怠らないこと。</li> <li>・欠席は三分の一を超えないこと。</li> </ul>		
教科書	『新版 中国語さらなる一歩』 尹 景春・竹島 毅 著 白水社		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	火曜日昼休み（12：30-13：00）なるべく授業前後にご相談ください。	メールアドレス	

授業科目	中国語Ⅴ	開講時期	前期
担当教員	荀 暁崢	単 位	1
授業の目的と概要	<p>中国は著しいスピードで日々変貌しています。経済発展と共に人々の生活や社会には大きな変化が起き、インフラ、環境、街の様子などに限らず、中国人の生活習慣、考え方、価値観にも及んでいる。授業ではさまざまな時事記事の読解を通じて、リアルな中国現状を紹介しながら、中国に対する理解を深めると同時に中上級レベルの中国語を習得することを目的とします。</p> <p>具体的には記事風のテキストを使い、2015年に中国で起きたいろいろな出来事を記事で読解しながら、初中級から中上級までの一歩進んだ表現・修辞法・文法を学習します。翻訳発表を織り交ぜながら、確実に読解力を身につけます。</p>		
到達目標	<p>1、長めの文を正確に音読ができる。  2、基礎文法を活用してやや長めの文を作ることができる。  3、より高度な表現を用いて、多少複雑な文の読み書きができる。  4、長文の読解および日本語訳ができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	初中級の復習（プリントを用意する）	第1課の予習	
第2回	第1課 中国観光客、日本爆買い（1） 読解および文法学習	予習P1～P6（音読の練習、語彙や内容を確認する）	
第3回	第1課 中国観光客、日本爆買い（2） 読解および文法学習	第1課についての復習課題を配布する。	
第4回	第2課 「子供はもういない」が増加（1） 読解および文法学習	予習P7～P12（音読の練習、語彙や内容を確認する）	
第5回	第2課 「子供はもういない」が増加（2） 読解および文法学習	第2課についての復習課題を配布する。	
第6回	第3課 「習モ時代」、竜と象の共演（1） 読解および文法学習	予習P13～P18（音読の練習、語彙や内容を確認する）	
第7回	第3課 「習モ時代」、竜と象の共演（2） 読解および文法学習	第3課についての復習課題を配布する。	
第8回	第4課 ゲーム大国、中国（1） 読解および文法学習	予習P19～P24（音読の練習、語彙や内容を確認する）	
第9回	第4課 ゲーム大国、中国（2） 読解および文法学習	第4課についての復習課題を配布する。	
第10回	第5課 有史以来のトイレ革命（1） 読解および文法学習	予習P25～P30（音読の練習、語彙や内容を確認する）	
第11回	第5課 有史以来のトイレ革命（2） 読解および文法学習	第5課についての復習課題を配布する。	
第12回	第6課 雲南に契丹ゆかりの小都市（1） 読解および文法学習	予習P31～P36（音読の練習、語彙や内容を確認する）	
第13回	第6課 雲南に契丹ゆかりの小都市（2） 読解および文法学習	第6課についての復習課題を配布する。	
第14回	第7課 「90年代生まれ」こぼれ話（1） 読解および文法学習	予習P37～P42（音読の練習、語彙や内容を確認する）	
第15回	第7課 「90年代生まれ」こぼれ話（2） 読解および文法学習	第7課についての復習課題を配布する。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	70％ 筆記試験		
レポート	20％ 翻訳発表		
小テスト等	10％ 課題の提出、もしくは小テスト		
成果発表	ーなし		
受講態度他	日頃学習への取組および受講態度も加味する。中検と暗唱大会参加者は成績に参加点を加える。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前に予習をしておくこと。</li> <li>・毎講義に辞書(電子辞書でもよい)を必ず持参すること。</li> <li>・欠席は三分之一を超えないこと。</li> </ul>		
教科書	『2016年度版 時事中国語の教科書』 三瀨正道・陳祖倍 著 2016年 朝日出版社		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	火曜日昼休み（12：30-13：00）なるべく授業前後にご相談ください。	メールアドレス	

授業科目	中国語VI	開講時期	後期
担当教員	荀 暁暉	単 位	1
授業の目的と概要	<p>中国は著しいスピードで日々変貌しています。経済発展と共に人々の生活や社会には大きな変化が起き、インフラ、環境、街の様子などに限らず、中国人の生活習慣、考え方、価値観にも及んでいる。授業ではさまざまな時事記事の読解を通じて、リアルな中国現状を紹介しながら、中国に対する理解を深めると同時に中上級レベルの中国語を習得することを目的とします。</p> <p>後期は前期引き続き、同じ記事風のテキストを使い、2015年に中国で起きたいろんな出来事を記事で読解しながら、初中級から中上級までの一歩進んだ表現・修辞法・文法を学習します。翻訳発表を織り交ぜながら、確実に読解力を身につけます。</p>		
到達目標	<p>1、長めの文を正確に音読ができる。</p> <p>2、基礎文法を活用してやや長めの文を作ることができる。</p> <p>3、より高度な表現を用いて、多少複雑な文の読み書きができる。</p> <p>4、長文の読解および日本語訳ができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	前期の復習（プリントを用意する）	第8課の予習	
第 2回	第8課 廢墟の落書きが人気に（1） 読解および文法学習	予習P43～P48（音読の練習、語彙や内容を確認する）	
第 3回	第8課 廢墟の落書きが人気に（2） 読解および文法学習	第8課についての復習課題を配布する。	
第 4回	第9課 スターバックス、国が変われば…（1） 読解および文法学習	予習P49～P54（音読の練習、語彙や内容を確認する）	
第 5回	第9課 スターバックス、国が変われば…（2） 読解および文法学習	第9課についての復習課題を配布する。	
第 6回	第10課 オフィスで昼寝はOK？（1） 読解および文法学習	予習P55～P60（音読の練習、語彙や内容を確認する）	
第 7回	第10課 オフィスで昼寝はOK？（2） 読解および文法学習	第10課についての復習課題を配布する。	
第 8回	第11課 4億人が標準語を話せない（1） 読解および文法学習	予習P61～P66（音読の練習、語彙や内容を確認する）	
第 9回	第11課 4億人が標準語を話せない（2） 読解および文法学習	第11課についての復習課題を配布する。	
第10回	第12課 暖房供給境界線で議論（1） 読解および文法学習	予習P67～P72（音読の練習、語彙や内容を確認する）	
第11回	第12課 暖房供給境界線で議論（2） 読解および文法学習	第12課についての復習課題を配布する。	
第12回	第13課 国民食の人気に陰りが出た？（1） 読解および文法学習	予習P73～P78（音読の練習、語彙や内容を確認する）	
第13回	第13課 国民食の人気に陰りが出た？（2） 読解および文法学習	第13課についての復習課題を配布する。	
第14回	第14課 これからの老後をどうする？（1） 読解および文法学習	予習P79～P84（音読の練習、語彙や内容を確認する）	
第15回	第14課 これからの老後をどうする？（2） 読解および文法学習	第14課についての復習課題を配布する。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	70% 筆記試験		
レポート	20% 翻訳発表		
小テスト等	10% 課題の提出、もしくは小テスト		
成果発表	なし		
受講態度他	日頃学習への取り組みおよび受講態度も加味する。中検と暗唱大会参加者は、成績に参加点を加える。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義前に予習をしておくこと。</li> <li>・毎講義に辞書(電子辞書でもよい)を必ず持参すること。</li> <li>・欠席は三分の一を超えないこと。</li> </ul>		
教科書	『2016年度版 時事中国語の教科書』 三瀧正道・陳祖倍 著 2016年 朝日出版社		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	火曜日昼休み（12:30-13:00）なるべく授業前後にご相談ください。	メールアドレス	



授業科目	中国語ガイド試験対策		開講時期	後期
担当教員	陳 青鳳		単 位	1
授業の目的と概要	<p>本授業は、中国語のガイド試験に対応する総合的な実力を向上するものである。</p> <p>①短期間の訓練で、受験に必要な文法・読解・中国語翻訳実力などを習得することができる。</p> <p>②ガイドに関わる中国語の会話・リスニングなどの練習を通して、中国語のレベルを高めることができる。</p> <p>③現代中国語の学習を通じて、中国の社会や文化を理解することができる。</p> <p>④語学以外に、日本地理・歴史・経済などの知識を身につけることができる。</p> <p>本講義では、過去の中国語のガイド試験問題に取り組み、併せて模擬試験を行い、授業内では中国語を聞き・話すことに重点を置く。豊富な試験問題の練習、ヒアリングの繰り返し訓練を通じて受験能力を向上させる。また、配布した資料をもとにして自分で要点をまとめる能力を養うことができるように訓練する。</p>			
到達目標	<p>通訳案内士試験の第1次試験は、邦文の日本地理・歴史・経済・一般常識の4科目で、第2次試験は中国語であるので、以下を到達目標とする。</p> <p>①これまでに学習した知識をふまえ、更に中国語観光通訳士の資格を取得し、中国の言語や文化に対する関心と理解を深めるとともに、観光や教育などの仕事に従事する人材を育成することができる。</p> <p>②過去の試験問題を分析しながら、日本地理・歴史・経済などの科目に的をしぼって効率的に勉強することができる。</p> <p>③過去問題、模擬問題を繰り返し練習し、問題の解答力や読む力を向上させることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	中国語ガイド試験とは：資格の意義と授業計画の説明	予習		
第2回	前半：日本地理①・後半：中国語自己紹介	復習・予習 会話の暗唱		
第3回	前半：日本地理②・後半：中国語ガイド会話①	復習・予習 会話の暗唱		
第4回	前半：日本地理③・後半：中国語ガイド会話②	復習・予習 会話の暗唱		
第5回	前半：日本歴史①・後半：中国語ガイド会話③	復習・予習 会話の暗唱		
第6回	前半：日本歴史②・後半：中国語ガイド会話④	復習・予習 会話の暗唱		
第7回	前半：日本歴史③・後半：中国語ガイド会話⑤	復習・予習 会話の暗唱		
第8回	前半：日本経済①・後半：中国語ガイド会話⑥	復習・予習 会話の暗唱		
第9回	前半：日本経済②・後半：中国語ガイド会話⑦	復習・予習 会話の暗唱		
第10回	前半：日本経済③・後半：中国語短文訳の訓練①	復習・予習 会話の暗唱		
第11回	前半：日本経済④・後半：中国語短文訳の訓練②	復習・予習 会話の暗唱		
第12回	前半：日本産業①・後半：中国語短文訳の訓練③	復習・予習 会話の暗唱		
第13回	前半：日本産業①・中国語短文訳の訓練④	復習・予習 会話の暗唱		
第14回	前半：日本産業①・中国語短文訳の訓練⑤	復習・予習 会話の暗唱		
第15回	総合復習	試験の準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40%			
レポート	30% 毎回配布する資料をまとめること 指定した課題の提出			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 指定したテーマを中国語で発表する			
受講態度他	10% 授業中、他人の迷惑になるような行為は厳しく処置します 携帯の使用、遅刻、無断退室などは禁止します			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>①積極的に授業へ参加し、授業中の私語は慎むこと。</p> <p>②毎回の課題を期限内に提出すること。</p> <p>③配布した資料は必ずまとめて製本すること。</p>			
教科書	なし。講義時にプリントを配布する。			
指定図書	なし。			
参考図書	<p>①『国家試験・通訳ガイド』一ツ橋書店</p> <p>②『中国語短文会話800』スリーエーネットワーク</p>			
オフィスアワー	木曜日（授業の前後）	メールアドレス		

授業科目	中国語検定 A		開講時期	前期
担当教員	崔 淑芬		単 位	1
授業の目的と概要	<p>本講義は、中国語の検定試験（日本中国語検定協会実行）3級から1級まで、それに対応する総合的な実力を養成する授業である。中国の経済発展、国際社会での役割などを考慮すると将来性抜群の資格である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験の出題ポイントを押さえ短期での訓練を受け、試験に対応実力を身につけることができる。</li> <li>・中国語検定の受験に必要な能力、文法・読解・中国語翻訳実力などを修得することができる。</li> <li>・中国語検定を受験することにより、自分の目指す目標を身近に設定し、無理なく確実に実力を延ばしていくことができる。</li> </ul>			
到達目標	それぞれ学年の語学レベルに合わせながら、出題率の高い問題や重点的な問題, 間違いやすい部分をふまえ、読解力・リスニングレベルを高める効果をあげることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連する科目：中国語初級Ⅰ・Ⅱ、中国語中級Ⅰ・Ⅱ、中国語上級Ⅰ・Ⅱ、中国語作文、中国語通訳、中国語通訳ガイド対策 など			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 中国語検定試験等についてのガイダンス			到達目標を設定する	
第2回 リスニング試験問題①の分析・模擬試験			リスニング試験問題の復習・予習	
第3回 リスニング試験問題②の模擬試験			リスニング試験問題の復習・予習	
第4回 リスニング試験問題①の分析・模擬試験			リスニング試験問題の復習・予習	
第5回 リスニング試験問題②の模擬試験			リスニング試験問題の復習・予習	
第6回 リスニング試験問題①の分析・模擬試験			リスニング試験問題の復習・予習	
第7回 筆記試験問題の分析・模擬試験			宿題・復習・予習	
第8回 筆記試験問題の分析・模擬試験			宿題・復習・予習	
第9回 筆記試験問題の分析・模擬試験			宿題・復習・予習	
第10回 筆記試験問題の分析・模擬試験			宿題・復習・予習	
第11回 筆記試験問題の分析・模擬試験			宿題・復習・予習	
第12回 筆記試験問題の分析・模擬試験			宿題・復習・予習	
第13回 筆記試験問題の分析・模擬試験			宿題・復習・予習	
第14回 筆記試験問題の分析・模擬試験			宿題・復習・予習	
第15回 試験問題の総括復習			宿題・復習・予習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	35%			
レポート	なし			
小テスト等	30%			
成果発表	なし			
受講態度他	35% 出席状況、授業態度関わる姿勢などをふまえ総合的な判定する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的に授業へ参加、授業中の私語は慎むこと。 理解できない内容を後回しにせず、その時に質問し、問題をその時できちんと解消する。 教科書の練習問題やまとめのプリントで復習を大切にしながら、学習した内容の再確認をする。			
教科書	日本中国語検定協会編『中検問題集』光生館出版			
指定図書	日本中国語検定協会編『中検練習帳』光生館出版			
参考図書	『資格にチャレンジ中級中国語』白帝社 ほか、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	火・金	メールアドレス		

授業科目	中国語検定 B		開講時期	前期
担当教員	崔 淑芬		単 位	1
授業の目的と概要	<p>本講義は、中国語の検定試験（日本中国語検定協会実行）準4級から4級まで、それに対応する総合的な実力を養成する授業である。中国の経済発展、国際社会での役割などを考慮すると将来性抜群の資格である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験の出題ポイントを押さえ短期での訓練を受け、試験に対応実力を身につけることができる。</li> <li>・中国語検定の受験に必要な能力、文法・読解・中国語翻訳実力などを修得することができる。</li> <li>・中国語検定を受験することにより、自分の目指す目標を身近に設定し、無理なく確実に実力を延ばしていくことができる。</li> </ul>			
到達目標	それぞれ学年の語学レベルに合わせながら、出題率の高い問題や重点的な問題, 間違いやすい部分をふまえ、読解力・リスニングレベルを高める効果をあげることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連する科目： 中国語初級Ⅰ・Ⅱ、中国語中級Ⅰ・Ⅱ、中国語上級Ⅰ・Ⅱ、中国語作文、中国語通訳、中国語通訳ガイド対策など			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 中国語検定試験等についてのガイダンス			到達目標を設定する	
第2回 リスニング試験問題①の分析・模擬試験			リスニング試験問題の復習・予習	
第3回 リスニング試験問題②の模擬試験			リスニング試験問題の復習・予習	
第4回 リスニング試験問題①の分析・模擬試験			リスニング試験問題の復習・予習	
第5回 リスニング試験問題②の模擬試験			リスニング試験問題の復習・予習	
第6回 リスニング試験問題①の分析・模擬試験			リスニング試験問題の復習・予習	
第7回 筆記試験問題の分析・模擬試験			宿題・復習・予習	
第8回 筆記試験問題の分析・模擬試験			宿題・復習・予習	
第9回 筆記試験問題の分析・模擬試験			宿題・復習・予習	
第10回 筆記試験問題の分析・模擬試験			宿題・復習・予習	
第11回 筆記試験問題の分析・模擬試験			宿題・復習・予習	
第12回 筆記試験問題の分析・模擬試験			宿題・復習・予習	
第13回 筆記試験問題の分析・模擬試験			宿題・復習・予習	
第14回 筆記試験問題の分析・模擬試験			宿題・復習・予習	
第15回 試験問題の総括復習			宿題・復習・予習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	35%			
レポート	なし			
小テスト等	30%			
成果発表	なし			
受講態度他	35% 出席状況、授業態度関わる姿勢などをふまえ総合的な判定する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	積極的に授業へ参加、授業中の私語は慎むこと。 理解できない内容を後回しにせず、その時に質問し、問題をその時できちんと解消する。 教科書の練習問題やまとめのプリントで復習を大切にしながら、学習した内容の再確認をする。			
教科書	日本中国語検定協会編『中検問題集』光生館出版			
指定図書	日本中国語検定協会編『中検練習帳』光生館出版			
参考図書	『資格にチャレンジ中級中国語』白帝社      ほか、授業中に紹介する。			
オフィスワーカー	火・金	メールアドレス		

授業科目	中国語作文		開講時期	前期
担当教員	陳 青鳳		単位	1
授業の目的と概要	<p>本講座は、中国語の学習において、「読む・書く・聞く・話す」の四能力のうち、特に「書く」に重点を置く。中国語の作文の基本的仕組みを理解しながら、学んだ知識を使って応用的な練習を行い、中国語の正確かつ効率的な運用能力を養成し、中国語で作文する力を身につけ、自分のことや日常生活に必要なことを、中国語で書いて表現できることを目的とする。</p> <p>初・中級段階に学んだ基本文型を活かし、実用性のある文章を作ることができるように指導する。基礎文法を確実に定着し、より高度な文章の解説を行う。 基本的に、二回で一課のペースで進める。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、よく使われる単語を簡体字で表記することができる。</li> <li>2、基本的な文法事項を身につけることができる。</li> <li>3、単文と複文の練習を通して、中国語で自分の伝えたいことを中国語で表現できるようになる。</li> <li>4、実用出来る中国語の会話や通信文を習得することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 カイダンス：講義のねらい・内容・注意事項・作文の作り方		文章の作成・予習		
第2回 中国語文章の記号と原稿用紙の使い方、第1課の説明		モデル文熟読・予習		
第3回 文章の読解・文法・練習問題、第1課の復習、第2課の説明		文章の作成・予習		
第4回 文章の読解・文法・練習問題、第2課の練習、第3課の説明		文章の作成・予習		
第5回 文章の読解・文法・練習問題、第3課の練習、第4課の説明		文章の作成・予習		
第6回 文章の読解・文法・練習問題、第4課の練習		文章の作成・予習		
第7回 文章の読解・文法・練習問題、総合復習		文章の作成・予習		
第8回 文章の読解・文法・練習問題、第5課の説明		文章の作成・予習		
第9回 文章の読解・文法・練習問題、第5課の練習、第6課の説明		文章の作成・予習		
第10回 文章の読解・文法・練習問題、第6課の練習、第7課の説明		文章の作成・予習		
第11回 文章の読解・文法・練習問題、第7課の練習、第8課の説明		文章の作成・予習		
第12回 文章の読解・文法・練習問題、第8課の練習、第9課の説明		文章の作成・予習		
第13回 文章の読解・文法・練習問題、第9課の練習、第10課の説明		文章の作成・予習		
第14回 文章の読解・文法・練習問題、第10課の練習		文章の作成・予習		
第15回 総合復習・自習編の練習問題		まとめの復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40%			
レポート	30% 毎回の中国語自作文 課題の提出			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 課題の発表。			
受講態度他	10% 出席状況、受講態度に関わる姿勢などをふまえ総合的な判定をする 授業中、他人の迷惑になるような行為は厳しく処置します			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>①積極的に授業へ参加し、十分に復習と予習をすること。授業中の私語は慎むこと。</li> <li>②自習的な学習態度で、作文課題を忘れないで提出すること。</li> <li>③電子辞書或いは中日辞書を持参すること。</li> </ol>			
教科書	系統的に学ぼう 中国語Ⅱ[中級読解コース] 白帝社			
指定図書	なし			
参考図書	参考文献は随時、紹介する。			
オフィスアワー	木曜日(授業の前後)	メールアドレス		

授業科目	中国語初級 I		開講時期	前期
担当教員	石 其琳		単 位	2
授業の目的と概要	<p>大学で初めて中国語を学ぶ人を対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業で学ぶ現代の中国語と古代の中国語（高校国語で取り扱う「漢文」）との違いを理解することができる。</li> <li>・ 現代中国語の基礎的な文法を学び、初級の簡単なコミュニケーション能力を身につけることができる。</li> <li>・ 発音記号（「ピンイン」と称する中国式のローマ字つづり）の読み方と書き方を身につけることができる。</li> </ul> <p>この授業で学ぶ教科書の範囲は、第5課まで。第6課以降は、「中国語初級Ⅱ」で学習する。一年を通じ、週二回の授業で一冊の教科書を学び終える。他に中国の映画、歌などを教材として、言葉に関わる中国社会の日常生活習慣についても学習する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）を学び、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2 教科書（第5課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第5課まで）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、簡単な会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>アジア文化学科DP1：アジア地域で使用される言語の一つを用いて、基礎的な会話ができる。</p> <p>中国語中級Ⅰ・Ⅱ、中国語上級Ⅰ・Ⅱ、中国語作文、中国語通訳、ビジネス中国語、中国語通訳ガイド対策・中国現代文学・東アジア入門・社会文化演習などの科目に関連する。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	中国語概論	指定図書「日中同形異義語」を読む。		
第2・3回	発音（音とピンイン、四声と軽声）・トレーニング	小テストと発表のため発音の課題がある。		
第4・5回	発音（単母音、複母音）・トレーニング	小テストと発表のため発音の課題がある。		
第6・7回	発音（子音、声調記号の位置）・トレーニング	小テストと発表のため発音の課題がある。		
第8・9回	発音（ピンイン表記、声調の変化）・トレーニング	小テストと発表のため発音の課題がある。		
第10・11回	第1課（語順、副詞「也」「都」、人称代名詞）	小テストと発表の課題がある。		
第12・13回	第1課（指示代名詞、～的、家族の言い方）・トレーニング	小テストと発表の課題がある。		
第14・15回	第2課（在、有、方位詞、所有）	小テストと発表の課題がある。		
第16・17回	第2課（所有、地名・国と首都）・トレーニング	小テストと発表の課題がある。		
第18・19回	第3課（物や人の数え方、時間の言い方、几と多少）	小テストと発表の課題がある。		
第20・21回	第3課（時間を表わす語の位置）・トレーニング	小テストと発表の課題がある。		
第22・23回	第4課（動詞述語文、連動文、二つ目的語を持つ動詞）	小テストと発表の課題がある。		
第24・25回	第4課（介詞）・トレーニング	小テストと発表の課題がある。		
第26・27回	第5課（形容詞述語文、程度副詞）	小テストと発表の課題がある。		
第28・29回	第5課（選択疑問文）・トレーニング	前期まとめの総合発表の課題がある。		
第30回	前期まとめの総合発表			
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	10%（期末テスト）			
レポート	10%（関連学習課題&レポート）			
小テスト等	75%（各課学習後の発表&小テスト）			
成果発表	5%（総合課題発表）			
受講態度他	0%（出席状況を学習態度として参考にする）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	語学の学習は、積み重ねが大切である。この授業は特に小テストを頻繁に行うため、日常復習することが必要である。			
教科書	『中国語初級トレーニング』三修社			
指定図書	①『おぼえておきたい日中同形異義語300』 ②『中国大陸、台湾で役に立つ中国語図解辞典』 ③『漢語量詞図解詞典 漢英版』			
参考図書	『実用日中・中日辞典』隆美出版			
オフィスアワー	火、水、木、金	メールアドレス		

授業科目	中国語初級Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	石 其琳	単 位	2
授業の目的と概要	<p>「中国語初級Ⅰ」を学び終えた人を対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代中国語の基礎段階のやや複雑な文法を学び、初級のコミュニケーション能力を身につけることができる。</li> <li>・現代中国語の発音をマスターすることができる。</li> </ul> <p>この授業で学ぶ教科書の範囲は、第6課から12課まで。一年を通じ、週2回の授業で一冊の教科書を学び終える。他に中国の映画、歌などを教材として、言葉に関わる中国社会の日常生活習慣について学習する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発音記号（ピンイン）に習熟し、正しく表記し、発音することができる。</li> <li>2 教科書（第6～12課）で学んだ文法を理解し、それを活用して文章を書くことができる。</li> <li>3 教科書（第6～12課）で学んだ文法を理解し、それを活用して日本語訳をすることができる。</li> <li>4 授業で学んだ内容に関し、会話・ヒアリングをすることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>アジア文化学科DP1：アジア地域で使用される言語の一つを用いて、基礎的な会話ができる。</p> <p>中国語中級Ⅰ・Ⅱ、中国語上級Ⅰ・Ⅱ、中国語作文、中国語通訳、ビジネス中国語、中国語通訳ガイド対策・中国現代文学・東アジア入門・社会文化演習などの科目に関連する。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1・2回 第6課（比較の表現）		小テスト発表の課題がある。	
第3・4回 第6課（状態方法の指示代名詞）・トレーニング		小テストと発表の課題がある。	
第5・6回 第7課（程度補語）		小テストと発表の課題がある。	
第7・8回 第7課（能願助動詞）・トレーニング		小テストと発表の課題がある。	
第9・10回 第8課（完了態「了」、否定副詞「没有」）		小テストと発表の課題がある。	
第11・12回 第8課（変化を表示「了」）・トレーニング		小テストと発表の課題がある。	
第13・14回 第9課（時間の長さ回数、経験態）		小テストと発表の課題がある。	
第15・16回 第9課（進行式、持続態）・トレーニング		小テストと発表の課題がある。	
第17・18回 第10課（結果補語、介詞「从」「到」）		小テストと発表の課題がある。	
第19・20回 第10課（方向補語）・トレーニング		小テストと発表の課題がある。	
第21・22回 第11課（可能補語、動詞重ね型、是～的の文）		小テストと発表の課題がある。	
第23・24回 第11課（存現文）・トレーニング		小テストと発表の課題がある。	
第25・26回 第12課（使役文、受身文）		小テストと発表の課題がある。	
第27・28回 第12課（処置文）・トレーニング		小テストと発表の課題がある。	
第29回 後期範囲の総合発表 第30回 総まとめと復習		範囲の復習課題がある。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	10%（期末テスト）		
レポート	10%（関連学習課題&レポート）		
小テスト等	75%（各課学習後の発表&小テスト）		
成果発表	5%（総合課題発表）		
受講態度他	0%（出席状況を学習態度として参考にする）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	語学の学習は、積み重ねが大切である。この授業は特に小テストを頻繁に行うため、日常復習することが必要である。		
教科書	『中国語初級トレーニング』三修社		
指定図書	①『おぼえておきたい中国語生活会話300』 ②『ネイティブが話す中国語「単語、熟語、決まり文句」』 ③『図説中国文化』漢日対照		
参考図書	『日中・中日辞典』隆美出版 『中日辞典』小学館 『日中辞典』小学館		
オフィスワーカー	火、水、木、金	メールアドレス	

授業科目	中国語上級 I		開講時期	前期
担当教員	石 其琳		単 位	2
授業の目的と概要	<p>・この授業は、初級、中級の学習を終えた人を対象とする。</p> <p>・週2回の授業を通して、聞く、読む、話す、書くことを総合的に訓練し、中国語上級レベルの語学力を身につけることを目的とする。</p> <p>授業概要：①テキストをもとに、自分で翻訳し、会話練習をプレゼンテーション方式で行なう。</p> <p>②作文練習をした内容について、一対一の口頭試問を行なう。</p> <p>他に中国のテレビ番組、映画、インターネット上各分野の資料を補助教材として、実践的に使う。更に現在コミュニケーションの手段として欠かせないメールの中国語で送受信と入力法などについても学習する。</p>			
到達目標	<p>1 現在中国に関する新聞、インターネットなどさまざまな情報源を自力で収集し、応用することができる。</p> <p>2 さまざまな場において、授業で身につけた語学力を効率よく使いこなせることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>①アジア地域で使用されている諸言語の一つを用いて、基礎的な会話ができる。</p> <p>中国語初級 I・II、中国語中級 I・II・中国語作文・ビジネス中国語・中国語通訳・中国現代文学・中国語通訳ガイド対策・東アジア入門などの科目と関連する。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1・3回	①新環境 新朋友 (トレーニング) ②哥爾還是大学生 (トレーニング)		各回会話発表宿題あり	
第 2・4回	プリント資料 1・2 の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第 5・7回	③誕生日おめでとう! (トレーニング) ④サッカーできる? (トレーニング)		各回会話発表宿題あり	
第 6・8回	プリント資料 3・4 の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第 9・11回	⑤味道好極了! (トレーニング) ⑥我不買、隨便看看 (トレーニング)		各回会話発表宿題あり	
第10・12回	プリント資料 5・6 の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第13・15回	ウェブ中国語サイト情報資料の検索、翻訳の練習		各回テスト形式課題あり	
第14・16回	プリント資料 7・8 の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第17・19回	ウェブ中国語サイト情報資料の検索、翻訳の練習		各回テスト形式課題あり	
第18・20回	プリント資料 9・10 の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第21・23回	映像材料の翻訳などの練習 (TV番組内容)		各回テスト形式課題あり	
第22・24回	プリント資料 11・12 の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第25・27回	映像材料の翻訳などの練習 (TV番組内容)		各回テスト形式課題あり	
第26・28回	プリント資料 13・14 の内容についての作文練習と一対一の口頭試問		各回宿題あり	
第29回	総合発表		各回宿題あり	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	25% (宿題10% 補助課題の提出物15%)			
小テスト等	70% (①毎授業の発表35% ②毎授業の口頭試問35%)			
成果発表	5% (期末総合発表)			
受講態度他	0%出席状況を学習態度として参考にする。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・毎回の授業は、さまざまな形式で発表することが要求されるため、予習することが絶対に欠かせない。</p> <p>・毎回ヒアリングの宿題も別に提示するが、必ず提出すること。</p> <p>・授業中辞典を持参する必要もあるので、各自で用意すること。</p>			
教科書	『トーク・トピックス』白帝社			
指定図書	①『誤用から学ぶ中国語』白帝社 ②『最新兩岸用詞差異対照手冊』靈活文化社 ③『ことばの文化背景』			
参考図書	『中日辞典』小学館 『日中辞典』小学館			
オフィスワー	火、水、木、金	メールアドレス		

授業科目	中国語上級Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	石 其琳	単位	2
授業の目的と概要	<p>・この授業は、初級、中級の学習を終えた人を対象とする。</p> <p>・週2回の授業を通して、聞く、読む、話す、書くことを総合的に訓練し、中国語上級レベルの語学力を身につけることを目的とする。</p> <p>概要①テキストをもとに、自分で翻訳し、会話練習をプレゼンテーション方式で行なう。②作文練習をした内容について、一对一の口頭試問を行なう。映像材料の中国のテレビ番組、映画、インターネット上各分野の資料を補助教材として、実践的に使う。更に現在コミュニケーションの手段として欠かせないメールの中国語で送受信と入力法などについても学習する。</p>		
到達目標	<p>1 現在中国に関する新聞、中国語ウェブサイトなどさまざまな情報源を自力で収集し、応用することができる。</p> <p>2 さまざまな場において、授業で身につけた語学力を効率よく使いこなせることができる。</p>		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>①アジア地域で使用されている諸言語の一つを用いて、基礎的な会話ができる。</p> <p>中国語初級Ⅰ・Ⅱ、中国語中級Ⅰ・Ⅱ・中国語作文・ビジネス中国語・中国語通訳・中国現代文学・中国語通訳ガイド対策東アジア入門などの科目と関連する。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1・3回	⑦マクドナルドどこにある？ ⑧小心拉肚子。	各回会話発表宿題あり	
第2・4回	プリント資料1・2の内容についての作文練習と一对一の口頭試問	各回宿題あり	
第5・7回	⑨午后有小雨。 ⑩旗袍真漂亮。	各回会話発表宿題あり	
第6・8回	プリント資料3・4の内容についての作文練習と一对一の口頭試問	各回宿題あり	
第9・11回	PCの中国語入力練習（中国語の設定からピンイン入力）	各回テスト形式課題あり	
第10・12回	プリント資料5・6の内容についての作文練習と一对一の口頭試問	各回宿題あり	
第13・15回	PCの中国語入力練習（文章の作成）	各回テスト形式課題あり	
第14・16回	プリント資料7・8の内容についての作文練習と一对一の口頭試問	各回宿題あり	
第17・19回	PCの中国語入力練習（メールの作成と送受信）	各回テスト形式課題あり	
第18・20回	プリント資料9・10の内容についての作文練習と一对一の口頭試問	各回宿題あり	
第21・23回	映像材料の翻訳などの演習（TV番組内容、ウェブ中国語サイト資料など）	各回テスト形式課題あり	
第22・24回	プリント資料11・12の内容についての作文練習と一对一の口頭試問	各回宿題あり	
第25・27回	映像材料の翻訳などの演習（TV番組内容、ウェブ中国語サイト資料など）	各回テスト形式課題あり	
第26・28回	プリント資料13・14の内容についての作文練習と一对一の口頭試問	各回宿題あり	
第29回	総合発表	宿題・補助課題提出	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	25%（①宿題10% ②補助課題の提出物15%）		
小テスト等	70%（①毎授業の発表35% ②毎授業の口頭試問35%）		
成果発表	5%（総合発表）		
受講態度他	0%（出席状況を学習態度として参考にする）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・毎回の授業は、さまざまな形式で発表することが要求されるため、予習することが絶対に欠かせない。</p> <p>・毎回ヒアリングの宿題も別に提示するが、必ず提出すること。</p> <p>・授業中辞典を持参する必要もあるので、各自で用意すること。</p>		
教科書	『トーク・トピックス』白帝社		
指定図書	①『ことばの周辺』 ②『漢語新詞語』（2011） ③『中国語考えるヒント』		
参考図書	『中日辞典』小学館 『日中辞典』小学館		
オフィスアワー	火、木、金	メールアドレス	



授業科目	中国語中級 I		開講時期	前期
担当教員	崔 淑芬		単 位	2
授業の目的と概要	<p>初級で学んだ文法知識をさらに広げ、会話や読解力と文章表現力の向上を目指す。</p> <p>① 1年次で学習した基礎中国語発音・文法をふまえ、更にコミュニケーション能力を習得することができる。</p> <p>② 中国語の実用会話、短文文章を読解することができる。</p> <p>③ 中国語文章の学習によって、現代中国の社会や文化を理解することができる。</p> <p>標準語の発音・漢字の書き方・文法など3点に焦点を当て、聞き・話す・書くことに重点を置き、中級中国語の知識、やや複雑な会話文と平易な文章を分析することを通じて、中級程度の中国語の総合的な実力の向上を図る。出来るだけ中国語で授業を進めていく。</p> <p>教科書の内容にあわせて、中国の文化・社会事情なども紹介する。</p>			
到達目標	<p>① 聞き・話すことに重点を置き、単語を覚え、正しく発音し、実践的な日常会話をすることができる。</p> <p>② 文法を徹底的に学習理解し、漢字を正しく書け、中国語の文章を流暢に読むことができる。</p> <p>③ 中国の文化・社会・生活習慣などを理解し、中国語で簡単に説明することができる。</p>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>関連する科目： 中国語初級 I・II、中国語上級 I・II、中国語検定対策、中国語作文、中国語通訳、中国語通訳ガイド対策 など</p> <p>文学部共通科目のDP3 「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身に付ける」の達成に関わる科目である。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス・教室用語の学習・第1課 単語・読解	予習・復習		
第2回	教室用語の学習・第1課 読解・文法	宿題・復習		
第3回	教室用語の復習・第1課 会話・小テスト	予習・復習		
第4回	教室用語の学習・第2課 単語・文章の読解	宿題・復習		
第5回	教室用語の学習・第2課 読解・文法	宿題・予習・復習		
第6回	教室用語の復習・第2課 会話・小テスト	宿題・予習・復習		
第7回	教室用語の学習・第3課 単語・文章の読解	宿題・予習・復習		
第8回	教室用語の学習・第3課 読解・文法	宿題・予習・復習		
第9回	教室用語の復習・第3課 会話・小テスト	予習・復習		
第10回	教室用語の学習・第4課 単語・文章の読解	宿題・予習・復習		
第11回	教室用語の学習・第4課 読解・文法	宿題・予習・復習		
第12回	教室用語の復習・第4課 会話・小テスト	宿題・予習・復習		
第13回	教室用語の学習・第5課 単語・文章の読解	宿題・予習・復習		
第14回	教室用語の学習・第5課 読解・文法	宿題・予習・復習		
第15回	総括復習	教室用語・第1～5課の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	35%			
レポート	なし			
小テスト等	30%			
成果発表	なし			
受講態度他	35% 出席状況、授業態度関わる姿勢などをふまえ総合的な判定する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>中国語の習得には、まず発音が大切である。最初は、間違えたり、恥ずかしかったりするが、楽しく発音練習をおこなっていきたい。</p> <p>積極的に授業へ参加、十分に復習と予習することが望ましい。授業中の私語は慎むこと。</p>			
教科書	内田 慶市・奥村 加代子・張 軼欧著『中国への道』金星堂			
指定図書	孟広学・本間史『変化する中国』・『中国は今』 白水社			
参考図書	『中国語辞典』 白水社、『中日辞典』 三省堂 ほか、授業中に紹介する。			
オフィスワー	月・木	メールアドレス		

授業科目	中国語中級Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	崔 淑芬	単 位	2
授業の目的と概要	<p>前期の学習内容を踏まえて学習を進める。後期は中国語の実用会話や文章の理解力と読解実力を向上することができる。</p> <p>①前期学んだ知識の地固めをしつつ、更に充実した文章力と会話力を身につけることができる。</p> <p>②練習問題を一つひとつ自力で解かせて、中国語文法、現代中国語文章に関する理解度と運用能力を高めることができる。</p> <p>③中級の実践的なコミュニケーション能力を身につけることができる。</p> <p>前期に引き続き、学習したことに積み上げる形で、更に単語を覚え、会話や文章を流暢に読む・話す・読解することができる。</p> <p>これまでに学んだ文法事項を復習して定着させると共に、読む・聞く・話す・書く力を総合的に高めてゆく。出来るだけ中国語で授業を進めていく。また、教科書の内容にあわせて、中国の文化・社会事情なども紹介する。</p>		
到達目標	<p>①基礎的な知識を踏まえ、文章の単語・読解・文法など多様な練習を通じて、総合的な知識を身につけることができる。</p> <p>②練習問題を一つひとつ自力で解かせて、理解度と運用能力を点検することを主眼とする。</p> <p>③中国語コミュニケーションの更なるステップアップすることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>関連する科目： 中国語初級Ⅰ・Ⅱ、中国語上級Ⅰ・Ⅱ、中国語検定対策、中国語作文、中国語通訳、中国語通訳ガイド対策 など</p> <p>文学部共通科目のDP3 「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身に付ける」の達成に関わる科目である。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 第6課 単語・読解		宿題・復習・予習	
第2回 第6課 読解・文法・会話		宿題・復習・予習	
第3回 第6課 会話・小テスト		宿題・復習・予習	
第4回 第7課 単語・読解		宿題・復習・予習	
第5回 第7課 読解・文法・会話		宿題・復習・予習	
第6回 第7課 会話・小テスト		宿題・復習・予習	
第7回 第8課 単語・読解		宿題・復習・予習	
第8回 第8課 読解・文法・会話		宿題・復習・予習	
第9回 第8課 会話・小テスト		宿題・復習・予習	
第10回 第9課 単語・読解		宿題・復習・予習	
第11回 第9課 読解・文法・会話		宿題・復習・予習	
第12回 第9課 会話・小テスト		宿題・復習・予習	
第13回 第10課 単語・読解		宿題・復習・予習	
第14回 第10課 読解・文法・会話		宿題・復習・予習	
第15回 総括復習		復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	35%		
レポート	なし		
小テスト等	30%		
成果発表	なし		
受講態度他	35% 出席状況、授業態度関わる姿勢などをふまえた総合的な判定する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>中国語の習得には、まず発音が大切である。最初は、間違えたり、恥ずかしかったりするが、楽しく発音練習をおこなっていきたい。</p> <p>積極的に授業へ参加、十分に復習と予習することが望ましい。授業中の私語は慎むこと。</p>		
教科書	内田 慶市・奥村 加代子・張 軼欧著『中国への道』金星堂		
指定図書	孟広学・本間史『変化する中国』・『中国は今』 白水社		
参考図書	『中国語辞典』 白水社、『中日辞典』 三省堂 ほか、授業中に紹介する。		
オフィスワー	月・金	メールアドレス	

授業科目	中国語通訳	開講時期	後期
担当教員	秋山 久枝	単 位	2
授業の目的と概要	<p>中国語初級・中級を学び終えた人を対象とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで学習してきた中国語の文法、語彙を使って簡単な会話及び通訳ができるようになる。</li> <li>・日本語・中国語に関わらず、誰にでも聞き取りやすい話し方でその場に求められている対応が出来るようコミュニケーション能力の向上を目指す。</li> <li>・通訳の種類、心得、マナーなどについて知る。</li> </ul> <p>通訳の訓練、というと難しそうですが、まずは簡単な会話を通訳養成の現場で使われている練習方法を使って、トレーニングしていきます。講義は、実践的なトレーニング以外に、通訳のマナーや現状など実体験をまじえながらすすめていきます。就活に有利になるよう資格取得を目標にしている人も多いため、リスニングおよび作文の練習も兼ねて中国語検定2-4級レベルの練習問題、文法の復習も行います。</p>		
到達目標	<p>1、簡単な会話のやりとりが通訳できるようになる。</p> <p>2、逐次通訳のやり方に慣れる。</p> <p>3、日本語、中国語ともに明瞭な話し方、その場にふさわしい声のトーンで相手に伝えることが出来る。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回 通訳とは	練習方法について	配布する資料をよく読んでおくこと。	
第 2回 通訳する上でのマナー、通訳の種類		配布する資料をよく読んでおくこと。	
第 3回 シャドーイング(短文会話) 1		読めない単語のピンイン、訳を事前に調べておくこと。	
第 4回 シャドーイング(短文会話) 2		読めない単語のピンイン、訳を事前に調べておくこと。	
第 5回 シャドーイング(短文会話) 3		読めない単語のピンイン、訳を事前に調べておくこと。	
第 6回 ビジネス会話		読めない単語のピンイン、訳を事前に調べておくこと。	
第 7回 ビジネス会話		読めない単語のピンイン、訳を事前に調べておくこと。	
第 8回 映画鑑賞		別途指示	
第 9回 逐次通訳のシミュレーション練習 1		教材の予習	
第10回 逐次通訳のシミュレーション練習 2		最終回のビジネス会話の暗記を始めよう。	
第11回 ビジネス通訳、ビジネスマナー		最終回のビジネス会話の暗記を始めよう。	
第12回 ビジネス通訳、成果発表の練習		教材の予習	
第13回 通訳案内士について、成果発表の練習		通訳案内士について調べてみよう。	
第14回 中国語で語る日本、成果発表の練習		通訳案内士について調べてみよう。	
第15回 成果発表(ビジネス中国語会話の暗唱)		暗記できたか最終チェックしよう。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	50% 日文中訳、中文日訳		
レポート	-		
小テスト等	-		
成果発表	40% ペアを組んで中国語でのビジネス会話の暗唱		
受講態度他	10% 遅刻、飲食厳禁。携帯電話使用不可。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻、飲食厳禁。携帯電話使用不可。授業で使う教材は事前に配布するが、ピンインがない資料が多いので、読めない単語はピンインを書き込んだり、何度も音読して予習しておくこと。		
教科書	使用しない		
指定図書	なし		
参考図書	塚本慶一著『中国語通訳への道』大修館書店、長谷川正時著『中国語短文会話800』スリーエーネットワーク、古川典代『中国語シャドーイング入門』DHC ほかに、授業中に随時紹介していく。		
オフィスワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	中国の少数民族文化		開講時期	前期
担当教員	石 其琳		単 位	2
授業の目的と概要	<p>中国の人口は9割以上の漢民族と55の少数民族で構成されている。少数民族は中国全ての異気候と地形（平地、高山、砂漠、草原、島など）の地域に分布し居住しているため、自然と人文の地理環境に大きな影響を受け、文化伝統の発展と生活習慣に相違性が見られる。授業で身につけた上述の知識を通して、長年各少数民族が漢民族や他の少数民族との地理的背景及び歴史文化の関わり、そして現代化による生活変化の実態を理解し、その問題点を考察することが目的とする。</p> <p>少数民族の地理的生活環境と風俗習慣（結婚、家族、服飾、住居、食、禁忌、宗教など）の基本知識を学習する。そして近年継続してきた少数民族に関する私個人の研究調査結果を随時に加え、映像資料などを使用して、中国社会に存在するもう一つの顔としての少数民族の実体理解を深め、同時に彼らが今日現代化を進める過程で直面するさまざまな問題を啓発学習する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国は多民族国家であることを認識し、説明できる。</li> <li>2. 各少数民族の生活形態と文化伝統習慣がその居住する自然と人文的地理の要素と深くかかわることを理解し、説明できる。</li> <li>3. 中国文化における少数民族の歴史文化的重要性を述べることができる。</li> <li>4. 現在中国少数民族が抱えるさまざまな問題点を具体的に説明することが出来る。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>④アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる。  東アジア入門・南アジア入門・西アジア入門・東南アジア入門・現代中国語と教育・現代中国文学・アジア生活文化概論・比較文化論・アジア文化人類学・シルクロード文化交流史・人文地理学・自然地理学・地誌学・などの科目に関連する。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回 概論 1 (映像資料による中国少数民族の简单介绍)		ミニレポートを提出		
第 2回 概論 2 (人口、行政区画など)		各回講義内容についてミニレポートを提出		
第 3回 概論 3 (少数民族分布の概要－各民族の居住地の地形と生活様式)		各回講義内容についてミニレポート提出		
第 4回 概論 4 (少数民族の認定)		各回講義内容についてミニレポートを提出		
第 5回 概論 5 (50年代民族の状態と問題点)		各回講義内容についてミニレポートを提出		
第 6回 概論 6 (少数民族の識別と問題点)		各回講義内容についてミニレポートを提出		
第 7回 概論 7 (少数民族の政策と問題点)		各回講義内容についてミニレポートを提出		
第 8回 概論 8 (中国民族問題の特徴)		各回講義内容についてミニレポートを提出		
第 9回 少数民族の伝統と現代の諸問題 1 (モンゴル族、チベット族を中心に)		各回講義内容についてミニレポートを提出		
第10回 少数民族の伝統と現代の諸問題 2 (回族を中心に)		各回講義内容についてミニレポートを提出		
第11回 少数民族の伝統と現代の諸問題 3 (新疆自治区のウェグル族など)		各回講義内容についてミニレポートを提出		
第12回 少数民族の伝統と現代の諸問題 4 (納西族－母系社会のモソ人を中心に)		各回講義内容についてミニレポートを提出		
第13回 都会の中の少数民族の諸問題		各回講義内容についてミニレポートを提出		
第14回 少数民族の現代化問題まとめ 1 (※経済発展と地理環境問題)		各回講義内容についてミニレポートを提出		
第15回 少数民族の現代化問題まとめ 2 (※経済発展、歴史文化伝統の問題)		総まとめのレポートを提出		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% (毎授業中提出するミニレポート)			
小テスト等	なし			
成果発表	20% (総まとめのレポート)			
受講態度他	0% (出席状況を学習態度として参考にする)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎講義後、当日の講義内容に関する小課題（ミニレポート）をその場で書き、提出することをしなければならないので、欠席をしないよう注意すること。授業に対しての質疑も小課題に記入することが出来る。質疑に対し、必要に応じて次回の授業で返答する。</p>			
教科書	プリント資料配布			
指定図書	<p>①『概説 中国の少数民族』 ②『中国少数民族の自治と慣習法』  ③『中国少数民族服飾北方編・南方編』（DVD）</p>			
参考図書	『中国少数民族事典』			
オフィスアワー	火、水、木、金	メールアドレス		

授業科目	【閉講】中国文化特論		開講時期	前期
担当教員	桐島 薫子		単位	2
授業の目的と概要	<p>授業では、日本の文化に多大な影響を与えた中国の文化（歴史・思想・文学など）を概観し、その特徴を把握していきます。また、日本がどのように中国の文化を学び受容してきたのかを具体例を通して理解し、現代に古典を学ぶ意義についても考えます。</p> <p>具体的な題材としては、さまざまな人物のエピソードを四字熟語（標題）で表した『蒙求（もうぎゅう）』とその説明文（注釈）を取り上げます。「螢の光、窓の雪」の歌詞や夏目漱石の名前の原話も『蒙求』にあります。また、日本では、『蒙求』の手法を応用した、『本朝蒙求』や『西洋蒙求』も作られましたので、こうした広がりについても説明します。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中国文化を概観し、その特徴を述べるができる。</li> <li>2 日本がどのように中国文化を学び受容したのかについて、具体例を挙げて説明することができる。</li> <li>3 現代に古典を学ぶ意義について、見解を述べるができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	①ガイダンス、②中国に関する基礎知識・古典文献の読解に関する習熟度の調査	復習：配布プリント、文献の講読		
第2回	①習熟度の調査の結果と今後の進め方	予習：文献の講読や調査		
第3回	①中国文化概説（先秦1）	予習：文献の講読や調査		
第4回	①中国文化概説（先秦2）	予習：文献の講読や調査		
第5回	①中国文化概説（前漢）	予習：文献の講読や調査		
第6回	①中国文化概説（後漢）	予習：文献の講読や調査		
第7回	①中国文化概説（三国）	予習：文献の講読や調査		
第8回	①中国文化概説（南北朝）	予習：文献の講読や調査		
第9回	①中国文化概説（隋・唐1）	予習：文献の講読や調査		
第10回	①中国文化概説（唐2）	予習：文献の講読や調査		
第11回	①中国文化概説（宋以降）	予習：文献の講読や調査		
第12回	①日本における中国文化受容1（主に、奈良～平安時代）	予習：文献の講読や調査		
第13回	①日本における中国文化受容2（主に、幕末～明治）	予習：文献の講読や調査		
第14回	①日本における中国文化受容3（主に、幕末～明治）	予習：文献の講読や調査		
第15回	まとめ、レポートについて	レポート準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50%（授業中の発表・ディスカッション）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・毎年、学部での専門の違いにより中国古典に関する習熟度が異なる受講生が履修しているため、最初に基礎知識や読解に関する調査を行います。講義は、その結果を反映して進めていく予定です。			
教科書	・配布プリント			
指定図書	無し			
参考図書	・授業中に指示する。			
オフィスワー	火曜昼休み、金曜5限	メールアドレス		

授業科目	中国文学演習 I		開講時期	前期
担当教員	桐島 薫子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>日本の文学や言語に大きな影響を与えた唐代の詩歌（漢詩）を学んでいきます。具体的には、魏晉南北朝から唐代までの詩歌の歴史を概観した後、代表的詩人である李白・杜甫の作品（主に近体詩）を読み解いていきます。彼らは苦難の生涯の中で、何に価値を見出し、何を生きる糧として不朽の名作を残していったのかを考察し、表現の特徴を理解していきます。その過程で、近体詩のきまりについても把握していきます。</p> <p>また、唐代の伝奇小説についても学んでいきます。具体的には、「人虎伝」（中島敦「山月記」の原作）・「枕中記」といった不思議な出来事を描いた小説を取り上げます。これらの作品を通じて、当時の社会制度や風潮、詩人たちの生き方について理解を深めていきます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 担当する作品の資料を収集・検討し、発表資料（レジュメ）を作ることができる。</li> <li>2 レジュメをもとに、自らの考えを口頭で分かり易く伝えることができる。</li> <li>3 作品を読み解き、ディスカッションを通じて理解を深めることができる。</li> <li>4 興味のあるテーマを設定し、自らの考えを文章によつて的確に表現することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1 回	①ガイダンス、②漢詩と故事成語・日本文学への影響、③唐代と李白・杜甫の人生	配布プリント・教科書p41-43を読む		
第 2 回	①李白・杜甫の詩風、②詩歌概論（魏・晋・南北朝）	配布プリント・教科書p7-8・35を読む		
第 3 回	①詩歌概論（唐）、②担当作品の希望調査・決定	配布プリントの講読、教科書p20-22・p210-217を読む		
第 4 回	①近体詩のきまり、②発表スケジュール表の配布、③発表の仕方（レジュメ作成方法他）	配布プリント・教科書p20-22・p210-217を読む、資料調査		
第 5 回	①PC演習室でスポット授業（漢籍データベース検索・ワードで訓点入力・レジュメ作成）	PC実習の復習、資料調査・収集		
第 6 回	①発表について（資料の検討）、②発表に関するディスカッション	資料の調査・収集・検討		
第 7 回	①発表について（資料の検討・課題の発見）、②課題解決のための質疑応答・ディスカッション	資料の検討・まとめ		
第 8 回	発表：杜甫の律詩1、質疑応答	発表準備、関連資料の講読		
第 9 回	発表：杜甫の律詩2、質疑応答、補足説明（民を思う古詩）	発表準備、関連資料の講読		
第10回	発表：杜甫の律詩3、質疑応答	発表準備、関連資料の講読		
第11回	発表：杜甫の律詩4、質疑応答	発表準備、関連資料の講読		
第12回	発表：発表：李白の絶句1、質疑応答	発表準備、関連資料の講読		
第13回	発表：李白の絶句2、質疑応答、補足説明（友情）	発表準備、関連資料の講読		
第14回	李白の絶句3、質疑応答、補足説明（西洋への影響）、唐代伝奇小説（「人虎伝」）、レポートについて	配布プリントの講読、レポートの準備		
第15回	唐代の小説「人虎伝」・「枕中記」（読書会形式のディスカッション）、まとめ	レポートの見直し、仕上げ		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 期末レポート（詳細は、授業中に指示する）			
小テスト等	なし			
成果発表	40% レジュメの作成と口頭発表・質疑応答			
受講態度他	30% ディスカッションへの積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 詩については担当者による発表、小説については読書会形式のディスカッションを予定しています。</li> <li>② PC演習室でのスポット授業を取り入れ、インターネットを活用した漢籍検索や漢字情報処理の実践的スキルを身につけます。</li> <li>③ 発表は個人を基本としたいが、状況に応じグループで行ったり授業計画を一部変更したりする場合があります。</li> <li>④ 受講者数によりスケジュールに変更が生じた場合は、授業中に配布する「発表スケジュール表」で伝えます。</li> </ol>			
教科書	<ol style="list-style-type: none"> <li>①プリント配布</li> <li>②森野繁夫・佐藤利行著『漢文まとめと要点』（白帝社）</li> </ol>			
指定図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>①村上哲見著『唐詩』（講談社学術文庫）、②漢詩・漢文教材研究会『漢詩・漢文解釈講座 第2巻漢詩Ⅱ唐詩上』（昌平社）、③漢詩・漢文教材研究会『漢詩・漢文解釈講座 第3巻漢詩Ⅲ唐詩下』（昌平社）、</li> </ol>			
参考図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>①『大漢和辞典』第1～12巻 諸橋轅次著（大修館書店）、②『漢語大詞典』第1～12冊漢語大詞典編集委員会編纂（同出版社）、その他、授業中に適宜紹介。</li> </ol>			
オフィスアワー	火曜 昼休み、金曜 4 限	メールアドレス		

授業科目	中国文学演習Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	桐島 薫子	単位	2
授業の目的と概要	<p>中国の恋の歌をテーマとして取り上げます。具体的には、前漢の武帝と李夫人・唐の玄宗皇帝と楊貴妃に関する歴史物語から生まれた恋愛の詩（古詩）を読み解き、その表現の特徴を把握していきます。また、中国文学に描かれる女性像についても考察を加えていきます。</p> <p>作品としては、特に「長恨歌」について詳しく学びます。具体的には、作者である白居易（白楽天）、小説「長恨歌伝」、日本への影響（『源氏物語』・『枕草子』・歴史小説・演劇・民間伝承など）についても理解を深めていきます。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 担当する作品の資料を収集・検討し、発表資料（レジュメ）を作ることができる。</li> <li>2 レジュメをもとに、自らの考えを口頭で伝えることができる。</li> <li>3 作品を読み解き、ディスカッションを通じて理解を深めることができる。</li> <li>4 質疑応答やディスカッションを通じて、自らの考えを的確に伝えることができる。</li> <li>5 学んだことから興味のあるテーマを設定し、自らの考えを文章によつて的確に表現することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	①ガイダンス、②中国の恋の歌、③白居易の人生と詩風（日本への影響を含む）	配布プリントの講読、教科書p44を読む	
第2回	①「長恨歌」について、②「長恨歌」に引用された女性、③発表方法・参考文献	配布プリントの講読、発表担当希望箇所の選定（複数）	
第3回	①武帝と李夫人、②「長恨歌」担当部分の希望調査・決定	配布プリントの講読、資料の収集	
第4回	①武帝と李夫人	配布プリントの講読、資料の収集と検討	
第5回	①玄宗と楊貴妃、②専門的辞書・漢籍データベースの活用方法	発表準備、資料の収集と検討	
第6回	発表について①（参考文献の収集と分析・漢字ソフトの使い方・課題の発見）	発表準備、資料のまとめ	
第7回	発表について②（参考文献資料の検討・課題の解決・プレゼンテーション方法の検討）	発表準備、授業予定作品・関連資料の講読	
第8回	発表：「長恨歌」の第1段	発表準備、授業予定作品・関連資料の講読	
第9回	発表：「長恨歌」の第1段、関連作品	発表準備、授業予定作品・関連資料の講読	
第10回	発表：「長恨歌」の第2段	発表準備、授業予定作品・関連資料の講読	
第11回	発表：「長恨歌」の第3段	発表準備、授業予定作品・関連資料の講読	
第12回	発表：「長恨歌」の第4段前半	発表準備、授業予定作品・関連資料の講読	
第13回	発表：「長恨歌」の第4段後半、レポートについて	配布プリントの講読	
第14回	関連作品（「長恨歌伝」他）について、日本への影響	配布プリントの講読、レポートの準備	
第15回	まとめ、視聴覚教材	レポートの見直し・仕上げ	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30% 期末レポート（詳細は、授業中に指示する）		
小テスト等	なし		
成果発表	40% レジュメの作成と口頭発表・質疑応答		
受講態度他	30% 質疑応答やディスカッションへの積極的な参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 詩については担当者による発表、小説については読書会形式のディスカッションを予定。</li> <li>② 発表は個人を基本としたいが、状況に応じグループで行ったり授業計画を一部変更したりする場合がある。</li> <li>③ 受講者数によってスケジュールに変更が生じた場合は、授業中に配布する「発表スケジュール表」にて知らせる。</li> </ol>		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布プリント</li> <li>・森野繁夫・佐藤利行著『漢文まとめと要点』（白帝社）</li> </ul>		
指定図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>①近藤春雄著『白氏文集と国文学 新楽府・秦中吟の研究』（明治書院）、②下定雅弘著『長恨歌—楊貴妃の魅力と魔力—』（勉誠出版）、③竹村則行著『楊貴妃文学史研究』（研文出版）</li> </ol>		
参考図書	<ol style="list-style-type: none"> <li>①『大漢和辞典』第1～12巻 諸橋轅次著（大修館書店）、②『漢語大詞典』第1～12冊 漢語大詞典編集委員会編纂（同出版社）、その他、授業中に適宜紹介。</li> </ol>		
オフィスアワー	火曜4限、木曜昼休み	メールアドレス	

授業科目	中国文学概論		開講時期	後期
担当教員	桐島 薫子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>日本の文学や言葉に多大な影響を与えた中国古典文学を学びます。具体的には、詩歌（漢詩）と文章（史伝文学）について、先秦から三国時代にかけての代表的な作品を学びます。また、同時に、作者・時代背景・地理・表現形式・特徴・後世（晋～唐）・日本への影響を理解していきます。さらに、作品を読んだり、比較したりすることで、表現形式や特徴に対する理解を深め、鑑賞能力も身につけていきます。</p> <p>このように、授業において中国の言語文化の特質を把握し、日本の言語文化への認識を深めることで、現代社会と中国古典とのつながりについても考察することができるようになります。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業で学んだ作品に関する事項（作者・時代背景・地理・表現形式や特徴・後世への影響）について説明することができる。</li> <li>2 授業で学んだ作品を理解し、鑑賞することができる。</li> <li>3 授業で学んだ作品が日本に与えた影響について、具体的に説明することができる。</li> <li>4 授業で学んだ作品を通して、現代に古典を学ぶ意義について、自らの見解をまとめ文章で的確に伝えることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に日本語・日本文学科のDP③「各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる」の達成に関わる科目です。</p> <p>1年後期の「漢字と故事成語」で学ぶ漢字の字体の変遷や故事成語の時代背景を理解したり、2年の「中国文学講読ⅠⅡ」、3年の「中国文学演習ⅠⅡ」で取り上げる作品を理解したりするための基礎的な内容を学んでいきます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス（授業の目的・内容・進め方・評価方法等）、身近な中国文学、中国の歴代王朝	配布プリントの講読		
第2回	『詩経』①（日本への影響・時代背景）	教科書（板書の目次で示した頁）や配布プリントの講読		
第3回	『詩経』②（内容の特徴・成立事情）	教科書（板書の目次で示した頁）や配布プリントの講読		
第4回	『詩経』③（作品）、孔子について（『詩経』・『春秋』との関連）	教科書（板書の目次で示した頁）や配布プリントの講読、学習シート1		
第5回	孔子の生涯と文学作品への影響など	教科書（板書の目次で示した頁）や配布プリントの講読、学習シート1		
第6回	『楚辞』①（『詩経』との比較・日本への影響・時代背景）	教科書（板書の目次で示した頁）や配布プリントの講読・学習シート1		
第7回	『楚辞』②（屈原・作品）	学習シート1の仕上げ		
第8回	『春秋』と『春秋左氏伝』	教科書（板書の目次で示した頁）や配布プリントの講読		
第9回	『戦国策』と『国語』	教科書（板書の目次で示した頁）や配布プリントの講読、学習シート2		
第10回	『史記』①（日本への影響・時代背景）	教科書（板書の目次で示した頁）や配布プリントの講読、学習シート2		
第11回	『史記』②（司馬遷と武帝）	教科書（板書の目次で示した頁）や配布プリントの講読、学習シート2		
第12回	『史記』③（作品、後世への影響）	学習シート2の仕上げ		
第13回	四言詩（『詩経』）・五言詩・七言詩、六朝～唐の詩歌の特徴、漢代の詩歌①（武帝と楽府）	教科書（板書の目次で示した頁）や配布プリントの講読		
第14回	漢代の詩歌②（楽府詩について）、後漢時代と五言詩（古詩十九首）	教科書（板書の目次で示した頁）や配布プリントの講読、定期試験の準備		
第15回	三国時代と五言詩・文芸評論、定期試験について	定期試験の準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	80%			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%（課題学習シートへの取り組みを含む。詳細は、授業中に指示する。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業にはしっかり出席し、必要事項は指示に従って確実に記録すること。</li> <li>②配布プリントは、きちんと整理しておくこと。</li> <li>③各作品とも、最初に「授業の目次」（学習項目と対応する教科書のページ・配付資料）を板書する。</li> <li>④上記③を参照し、予習・復習・課題学習シートに取り組むこと。</li> </ol>			
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森野繁夫・佐藤利行著『漢文まとめと要点』白帝社</li> <li>・配布プリント</li> </ul>			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	火曜4限、木曜昼休み	メールアドレス		



授業科目	中国文学講読 I		開講時期	前期
担当教員	桐島 薫子		単位	2
授業の目的と概要	<p>初心者向けの読み物として、中国だけでなく日本でも愛読された『蒙求』（もうぎゅう）を取り上げます。この作品は、有名な人物とそのエピソードを四字熟語（標題）で表し、原話をもとにした注文（漢文）を付けたものです。「螢の光、窓の雪」の歌詞や夏目漱石の名前の原話も『蒙求』にあります。</p> <p>授業では、標題（四字熟語）や注文・注釈を通じ、物語り世界を理解しながら、漢文の語法を学んでいきます。同時に、漢字能力・読解力を身につけていきます。また、『蒙求』が日本に与えた影響・類書・創作の意義についても学んでいきます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>『蒙求』の概略を理解し、説明することができる。</li> <li>授業で学んだ「標題」（四字熟語）を理解し、説明することができる。</li> <li>2の注文（漢文）について、書き下し文に従って訓点を付けることができる。</li> <li>2の注文（漢文）について、語法や語釈を理解しながら、現代語訳することができる。</li> <li>2の注文（漢文）について、重要な語法を含む文章は白文で理解することができる。（「学習シート」で指導）</li> <li>『蒙求』が日本に与えた影響について説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に日本語・日本文学科のDP③「各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる」の達成に関わる科目です。</p> <p>1年後期の「中国文学概論」の内容を発展させ、日本に影響を与えた中国の歴史や文学に関する作品を読み、読解力を養成していきます。また、1年後期の「漢字と故事成語」と関連させながら、実践的な漢字能力も向上させていきます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス、『蒙求』について（四字熟語が伝える中国の歴史・文学）、漢文の語法	配布プリント・教科書p94-100を読む		
第2回	『蒙求』の標題（四字熟語）と注釈（自注、徐注、江戸時代の注釈）	配布プリントの講読・教科書p101-112を読む		
第3回	『蒙求』を学んだ人々（平安貴族、吉田松陰、福沢諭吉他）、漢文語法の復習	配布プリント・教科書 p 114-143の学習		
第4回	三国志（劉備・関羽・張飛・諸葛孔明）①：時代背景・標題と徐注の訓読み	配布プリント・教科書 p 114-143の学習		
第5回	三国志（劉備・関羽・張飛・諸葛孔明）②：語釈・現代語訳	配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート1		
第6回	三国志（劉備・関羽・張飛・諸葛孔明）③：補足説明、視聴覚教材	配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート1		
第7回	三国志（曹沖）①：標題と徐注の訓読み・現代語訳	配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート2		
第8回	三国志（曹沖）②：補足説明	配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート2		
第9回	三国志（曹丕・曹植）①：標題と徐注の訓読み・現代語訳・補足説明	配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート3		
第10回	三国志（曹丕・曹植）②：現代語訳・補足説明、『蒙求』に出てくる女性	配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート3		
第11回	貴族社会で活躍した才女の話①：時代背景	配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート4		
第12回	貴族社会で活躍した才女の話②：時代背景・標題と徐注の訓読	配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート4		
第13回	貴族社会で活躍した才女の話③：語釈・現代語訳、課題（語法）提出	配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート4		
第14回	貴族社会で活躍した才女の話④：補足説明	配布プリント・教科書 p 114-143の学習、学習シート4		
第15回	『蒙求』創作の意義、まとめ、定期試験について	学習シート1～4の総復習、定期試験の準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％（課題提出を含む。詳細は、授業で指示する。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢和辞典を準備して予習し、「学習シート」を活用して復習すること。課題にも積極的に取り組むこと。</li> <li>毎年、漢字や漢文の習熟度が異なる学生が履修するため「到達目標」を分かり易く示している。参照し受講を決定して欲しい。「到達目標」1～4は「基礎」レベル、5～6は「応用」レベル。各自の受講目的に合わせ目指すレベルに取り組み、意欲が出て来たらより高いレベルにチャレンジして欲しい。詳細は授業中にも説明する。</li> </ul>			
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>森野繁夫・佐藤利行著『漢文 まとめと要点』（白帝社）</li> <li>配布プリント</li> </ul>			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に指示する。			
オフィスアワー	火曜 昼休み、金曜 4限	メールアドレス		

授業科目	中国文学講読Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	柴田 篤		単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業の目的は以下の3つである。中国思想の特質とその展開とに関する知識を広める。日本の文化にも深い影響を与えた中国伝統文化に対する理解を豊かにする。漢文訓読の技術を高める。</p> <p>授業は、先ず漢籍分類法や中国思想史の流れと基礎知識などについて、基本的内容を講義形式で説明する。さらに、それらの思想の原典について、講読形式を用いながら読解を進める。取り上げる作品としては『論語』を中心とする。『論語』は、中国の古典中の古典であるが、日本人にも好まれ、日本の古典とも言える。幾つかの章を選んで読解することによって、『論語』の世界を味わいながら、漢文訓読法を修得していく。</p>			
到達目標	<p>①中国思想の内容とその特色に関する正しい知識を有するようになること。</p> <p>②漢文訓読法によって中国古典作品の原典資料を精確に読むことができるようになること。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に日本語・日本文学科のDP③「各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる」の達成に関わる科目です。「中国文学概論」で学んだ内容をさらに詳しく学ぶとともに、日本に影響を与えた中国の思想に関する作品を読み、読解力を養成していきます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	中国思想史に関する基礎知識(1)(漢籍分類法と漢文訓読法)	授業内容の復習		
第2回	中国思想史に関する基礎知識(2)(中国思想史と『論語』)	授業内容の復習		
第3回	『論語』の世界(1)一学而篇(前半)読解	授業内容の復習		
第4回	『論語』の世界(2)一学而篇(後半)読解	授業内容の復習		
第5回	『論語』の世界(3)一為政篇(前半)読解	授業内容の復習		
第6回	『論語』の世界(4)一為政篇(後半)読解	授業内容の復習		
第7回	『論語』の世界(5)一八いつ篇読解	授業内容の復習		
第8回	『論語』の世界(6)一里仁篇読解	授業内容の復習		
第9回	『論語』の世界(7)一公治長篇読解	授業内容の復習		
第10回	『論語』の世界(8)一雍也篇読解	授業内容の復習		
第11回	『論語』の世界(9)一子罕篇読解	授業内容の復習		
第12回	『論語』の世界(10)一先進篇読解	授業内容の復習		
第13回	『論語』の世界(11)一顔淵篇読解	授業内容の復習		
第14回	『論語』の世界(12)一憲問篇読解	授業内容の復習		
第15回	授業内容のまとめ	授業内容の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	80% 授業内容全般にわたる記述問題、持ち込み不可			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	漢文読解に対する意欲を持つこと。授業中に私語をしないこと。			
教科書	金谷治訳注『論語』(岩波文庫)			
指定図書	なし。			
参考図書	『角川 新字源』(角川書店)あるいは他の漢字辞典。その他、授業中に紹介。			
オフィスアワー	講義の後の時間帯。	メールアドレス		

授業科目	中等教育実習指導【中等教職】		開講時期	前期
担当教員	竹熊 真波・出雲 俊江		単位	1
授業の目的と概要	<p>本授業は、教育実習を有意義なものとするために、その心構えを確かなものとし、実習の概要と目的について確認し、実習中の過ごし方などの実際的な準備を目指すものである。</p> <p>具体的には、教育実習の事前指導として、まず教育実習日誌や担当授業の準備の確認を行う。また現職教員による特別講義、近隣校への参観などを通じ、教育実習のイメージ化を図り、心構えを確かなものにする。</p> <p>実習後の事後指導としては、教育実習報告会を開催し、教育実習の成果と反省を学生間で相互評価するとともに、総括レポートの作成を通じて教育実習全体を再考する。</p>			
到達目標	<p>①自らの実習への心構えを深める。</p> <p>②地元の学校への参観や現職教員による講話を通じ、学校の実情を把握し、教育活動における自らの課題を見出す。</p> <p>③教育実習に向けて、社会人としての基本的なマナーや責任能力を身につける。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本授業は、当年度「教育実習Ⅰ」または「教育実習Ⅱ」として教育実習を行う者が受講する。</p> <p>また、後期開講の「教職実践演習（中・高）」と連動している。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション（事前打ち合わせ持参書類の作成・実習の意義と法令に関して確認する）	『実習日誌』の確認		
第2回	実習中の過ごし方（実習の具体的概要と実習計画の立て方）	実習日誌作成練習		
第3回	学校参観	感想レポートの作成・提出		
第4回	現職教員による特別講義	感想レポートの作成		
第5回	学習指導案の作成	実習での担当内容の確認。学習指導案の作成・提出		
第6回	先輩による特別講義	感想・レポートの作成		
第7回	板書について（筆順等の確認）	準備不足の部分を確認し、補う。		
第8回	実習報告・反省会	礼状、実習総括レポートの作成		
第9回	—	—		
第10回	—	—		
第11回	—	—		
第12回	—	—		
第13回	—	—		
第14回	—	—		
第15回	—	—		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％ 感想レポート、教育実習日誌ならびに実習総括レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ 模擬授業や実習報告会等			
受講態度他	40％ 授業への取り組み、実際の教育実習の状況等により総合的に判断する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>本講義中から、一社会人としての行動をこころがける。</p> <p>欠席の際には必ず事前に連絡を入れること。</p>			
教科書	江守賢治『正しくきれいな字を書くための漢字筆順ハンドブック 第三版』（三省堂 2012）			
指定図書	なし			
参考図書	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、特別支援学校教育要領・学習指導要領			
オフィスワー	水曜 4限（出雲）水曜 2限（竹熊）	メールアドレス		

授業科目	中等教育原理【中等教職】	開講時期	前期
担当教員	竹熊 真波	単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、教職課程の理論的学習の導入として、教育の理念や思想、教育の法体系、教育制度の概要、家庭教育や学校教育の課題など、「教育」の諸側面を様々な角度から検討し、また議論することを通じ、教育のあり方について自ら考える力を向上させることを目的とする。</p> <p>具体的には、教育の理念や思想といった理論的事項や教育制度や改革の動向について講義するとともに、日本の教育の課題に関する調べ学習やディベートを通じて、能動的な理解を図るものとする。</p>		
到達目標	<p>①教育の意義や理念、法体系について、具体的かつ批判的に考察できる。</p> <p>②教育の思想について時系列的に概要を説明できる。</p> <p>③家庭教育・学校教育の現状や諸問題について多様な視点からアプローチし、議論を構成できる。</p> <p>④教育制度や改革の状況について理解し、教育の在り方について自分なりの考えを持つことができる。</p> <p>⑤受講者と適宜グループを組み、意見交換を行い、一定の結論を得ることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、1年後期開講の「教職入門」に引き続き開講されるもので、教育職員免許法施行規則に定める「教育の基礎理論に関する科目」に該当し、以下の内容について学ぶ。</p> <p>・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p> <p>とりわけ、2年後期開講の「教育史」と深く関連している。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	イントロダクション：現代教育の課題／ディベート解説	問題点の整理	
第2回	教育の意義／ディベートグループ、テーマの確定	ディベート・リサーチ開始	
第3回	教育の基本理念の変遷	戦前と戦後の理念の相違について整理しておく	
第4回	教育の法体系（小テスト）	教育基本法前文と第1条を暗記しておく	
第5回	ディベート・リサーチ結果の発表／ディベートの肯定・否定の決定	各人A4・2枚（2000字）以上のレポートの作成・提出	
第6回	教育の思想（小テスト）	思想家の名前とその著作等を整理しておく	
第7回	公教育と学校（小テスト）	学習指導要領の熟読	
第8回	ディベートの方法（練習）	ディベートに向けてグループごとの準備	
第9回	学校教育史外観	西洋や日本の近代学校成立史を整理しておく	
第10回	教育行財政制度	文部科学省HPにアクセスし、今年度予算を確認する	
第11回	教育改革の動向①	文部科学省のHPにアクセスし、中教審答申など確認する	
第12回	教育改革の動向②	教育再生実行会議等、教育改革の最新動向を確認する	
第13回	ディベート大会①	ディベートの準備と反省	
第14回	ディベート大会②学生発表	ディベートの準備と反省	
第15回	まとめ・ディベート結果発表	定期試験の準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	30％		
レポート	15％ 授業後に提出する小レポート		
小テスト等	15％ 小テストの結果		
成果発表	30％ 調べ学習やディベートへの取り組み状況		
受講態度他	10％ 他の受講生の学びを妨げる行為は認めない		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教職履修生には、将来的に教職に就くことを前提に、それにふさわしい履修態度を求める。		
教科書	『高等学校学習指導要領』、拙著『教員を目指す学生のための教育原理』中川書店		
指定図書	なし		
参考図書	第一回目の授業の際、参考文献一覧を配布する。		
オフィスアワー	月曜11時～15時	メールアドレス	

授業科目	聴覚障がい者の心理と教育		開講時期	前期
担当教員	熊本 五年		単位	2
授業の目的と概要	聴覚障がいの定義や分類、生理・病理をふまえた上で、聴覚障がい児の言語的・認知的・社会的・心理的側面について基本的知識を理解する。また、聴覚特別支援学校の教育課程や教育内容と指導方法について理解し、実践力の基礎を身につける。引いては教師の道への動機付けを図る。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝音難聴と感音難聴の特徴を説明することができる。</li> <li>・聴覚障がい児の認知的、言語的特長について説明することができる。</li> <li>・聴覚障がい児の多様なコミュニケーション方法について具体的に説明できる。</li> <li>・聴覚特別支援学校の概要について説明できる。</li> <li>・指文字を習得し、語いや短文の表現ができる。</li> <li>・特別なニーズを持つ子の教育の世界的動向について説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 オリエンテーション	聴覚障がい教育の歴史 指文字①		ヘレンケラー著・わたしの生涯の熟読	
第2回 聴覚障がいの歴史—教育方法の変遷	指文字②		指文字の復習 教科書P11～予習	
第3回 聴覚障害の生理・病理	指文字③小テスト		指文字の復習 別紙配布プリント予習	
第4回 聴覚障がい児の認知・知的・言語発達			別紙配布プリント予習	
第5回 聴覚障がい児の言語とコミュニケーション			教科書P27～予習	
第6回 手話と日本語			教科書P34～予習	
第7回 聴覚障害教育の目的と制度—特別支援教育への移行			教科書P43～予習	
第8回 「聴覚」特別支援学校における教育①幼稚部、小学部			教科書P73～予習	
第9回 「聴覚」特別支援学校における教育②中学部、高等部			教科書P103～予習	
第10回 障害の早期発見・診断と両親支援			教科書P59～予習	
第11回 通常の小・中・高等学校における教育と支援			教科書P131～予習	
第12回 高等教育段階の教育			教科書P161～予習	
第13回 他の障害を併せ有する聴覚障がい児の教育			教科書P177～予習	
第14回 聴覚障害者の社会生活と生涯教育			教科書P189～予習	
第15回 21世紀における特別なニーズを持つ子の教育動向			教科書P203～予習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	%定期考査 75%			
レポート	% レポート提出 10%			
小テスト等	%小テスト・フィールドワーク参加 15%			
成果発表	%特になし			
受講態度他	%欠席は大学の出席規定による			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書以外に、随時プリントによる説明もあるので、きちんと整理しておくこと。</li> <li>・特別支援教育では、日頃、慣れ親しまない独特の難語が多いので正確に理解すること。</li> <li>・Question Cardを配布するので、その都度、課題等について質問すること。</li> <li>・教員を目指す者は、特に法令に関する事項について留意すること。</li> </ul>			
教科書	改定版聴覚障害教育の基本と実際 中野善達・根本匡文編著 田研出版2010年			
指定図書	わたしの生涯 ヘレンケラー 角川文庫 平成11年出版以降			
参考図書	聴覚障害児の教育 中野善達・斎藤佐和編 福村出版 1996年 難聴児の補聴・訓練 大和田健次郎著 岩崎学術出版社			
オフィスワー	・授業2限終了後昼休み		メールアドレス	

授業科目	調査データの扱い方	開講時期	後期
担当教員	野中 亮	単 位	2
授業の目的と概要	社会調査に必要な統計学の基礎を修得することを目的とします。社会調査の読解と実施において必要な統計の基礎知識と計算の方法を修得します。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>記述統計を理解し、使いこなすことができる。</li> <li>多変量解析の基本を理解し、表計算ソフト等で実際に演算できる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現代社会学部DP③「現代社会をより深く知るための調査方法やデータ分析方法を身につけている」に該当します。社会調査士資格取得のための必修科目（D科目に該当）です。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	統計学と社会調査（なぜ社会調査で統計が必要なのか）	教科書4-1を参照して宿題を、4-2で次回の予習をしておくこと。	
第2回	データの種類（尺度と変数）	教科書4-2を参照して宿題を、4-3で次回の予習をしておくこと。	
第3回	分布とはなにか（度数、度数分布、グラフと表）	教科書4-3を参照して宿題を、4-4で次回の予習をしておくこと。	
第4回	データの傾向：代表値とはなにか（最頻値、中央値、平均値、はずれ値）	教科書4-4を参照して宿題を、4-5で次回の予習をしておくこと。	
第5回	データの散らばり：分散とはなにか（散布度、レンジ、四分位範囲、分散、標準偏差、変動係数、不偏分散と普遍標準偏差）	教科書4-5を参照して宿題を、4-6で次回の予習をしておくこと。	
第6回	分布のゆがみとはなにか（歪度と尖度、正規分布、正規分布と標準偏差）	教科書4-6を参照して宿題を、4-7で次回の予習をしておくこと。	
第7回	検定、推定とはなにか（確率論、検定と推定、有意水準、自由度）	教科書4-7を参照して宿題を、4-8で次回の予習をしておくこと。	
第8回	推定の確かさ：データからどこまでいえるのか（母集団と標本、標本誤差、標準誤差と区間推定、標本数の決め方）	教科書4-8を参照して宿題を、4-9で次回の予習をしておくこと。	
第9回	量的変数の関連性（相関、相関係数、偏相関係数）	教科書4-9を参照して宿題を、4-10で次回の予習をしておくこと。	
第10回	質的変数の関連性（属性相関係数とクロス集計、独立性の検定（カイ二乗検定））	教科書4-10を参照して宿題を、4-11で次回の予習をしておくこと。	
第11回	質的変数と量的変数の関連性（平均値の差の検定、t検定、分散分析）	教科書4-11を参照して宿題を、4-12で次回の予習をしておくこと。	
第12回	変数の関連性への他の変数の影響（変数のコントロール、エラボレーション、ログリニア分析）	教科書4-12を参照して宿題を、4-13で次回の予習をしておくこと。	
第13回	データからの予測（回帰分析の基礎と重回帰分析）	教科書4-13を参照して宿題をしておくこと。	
第14回	最終レポートの課題説明とこれまでの授業の整理	予習不要。次回までの宿題は最終レポートの構成案。	
第15回	最終レポートのまとめ	最終レポートの構成案の提出。	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30% 学期末にレポートを課します。30点		
小テスト等	70% 毎回小課題を課します。5点×14回＝70点		
成果発表	なし		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>コンピュータ演習室で演習形式で授業を行います。</li> <li>授業外学修の時間は180分程度を想定しています。</li> <li>毎回予習と復習を兼ねた簡単な宿題を課します。2回目以降の授業では、最初に宿題の確認を行います。</li> </ul>		
教科書	篠原清夫 他『社会調査の基礎 社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂		
指定図書	なし		
参考図書	D・ロウントリー『新・涙なしの統計学』新世社 ボンシュテッド&ノーキ『社会統計学』ハーベスト社		
オフィスアワー	月曜4限	メールアドレス	

授業科目	調査データの集め方	開講時期	後期
担当教員	赤枝 香奈子	単位	2
授業の目的と概要	社会調査の種類や調査方法の決め方、調査のプロセスを理解した上で、調査票やインタビューなどによるデータの収集の仕方やデータの整理方法を学びます。		
到達目標	<p>1. 社会調査の企画・設計から、データの収集、さらに収集したデータを整理するまでのプロセスを理解し、調査に必要な具体的なスキルを身につけることができる。</p> <p>2. 1. で修得した知識やスキルを応用しながら、実際に調査テーマを設定し、調査票を作ることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、現代社会学部DPの③「現代社会をより深く知るための調査方法やデータ分析方法を身につけている」の達成にかかわる科目です。ビジネス社会、メディア社会、環境共生社会の各コースにおける学びの土台となる社会学について、「データからみる社会」の授業とともに、社会調査の基礎を身につけるための授業です。</p> <p>なお、本授業は社会調査士資格取得に必要な履修科目です（「【B】調査設計と実施方法に関する科目」に相当）。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 社会調査の目的		教科書 2-1（教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。）	
第2回 調査方法と調査方法の決め方		教科書 2-2（教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。）	
第3回 社会調査のプロセスと先行研究の検討		教科書 2-3（教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。）	
第4回 社会調査のデザイン		教科書 2-4（教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。）	
第5回 テーマの決定と仮説の構成		教科書 2-4（教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。）	
第6回 サンプリング（1）全数調査と標本調査、無作為抽出		教科書 2-5、2-6（教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。）	
第7回 サンプリング（2）標本数と誤差		教科書 2-7（教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。）	
第8回 サンプリング（3）サンプリングの諸方法		教科書 2-8（教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。）	
第9回 調査票の作成（1）		教科書 2-9（教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。）	
第10回 調査票の作成（2）		教科書 2-9（教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。）	
第11回 調査の実施方法（1）調査票の配布・回収		教科書 2-10（教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。）	
第12回 調査データの整理（1）エディティング、コーディング、データクリーニング		教科書 2-11（教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。）	
第13回 調査の実施方法（2）インタビューの仕方		教科書 2-12（教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。）	
第14回 調査データの整理（2）フィールドノートの作成		教科書 2-13（教科書を読み、配布資料で事前学習をしてくる。）	
第15回 データの分析に向けて		教科書（復習） 調査票の提出、レポート作成のための作業	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	20%		
小テスト等	75%（授業内での小テストおよび調査票作成などの課題）		
成果発表	なし		
受講態度他	5%（課題への取り組み具合や受講態度についても成績評価に含める）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業では、学んだ知識をもとに実際に調査票を作成するなど、社会調査のプロセスの一部を体験してもらいます。そのためにはまず、身の回りや社会で起こっている出来事について日ごろから関心をもち、注意深く観察し、自分が調査によって何を知りたいか、考えてみるようにしましょう。また、実際に行ってもらう調査体験では、授業外での作業（宿題等）にかなりの時間が必要になります。積極的な受講態度で授業に臨んでください。		
教科書	篠原清夫、清水強志、榎本環、大矢根淳編『社会調査の基礎：社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂		
指定図書	なし		
参考図書	轟亮・杉野勇編『入門・社会調査法』法律文化社 大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編著『新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房		
オフィスアワー	水曜4限	メールアドレス	

授業科目	調査データの読み方	開講時期	前期
担当教員	橋本 嘉代	単位	2
授業の目的と概要	<p>・公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文を読み、意味を理解することができるようになるための科目です。</p> <p>・単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み取り方や、グラフの見方、グラフ作成のしかたといった情報リテラシーを身につけることをめざします。</p> <p>社会調査士資格取得に必要な「C科目」（基本的な資料とデータの分析）に対応しています。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 単純集計、度数分布、代表値、散布度などの、数で示された記述統計データを読み、理解することができる</li> <li>2. グラフを見て、その意味を理解したり、データをもとに自分でグラフを作り、わかりやすい資料にまとめることができる</li> <li>3. クロス集計など、複数の変数の関連をみることができる</li> <li>4. 因果関係と相関関係の違いを説明することができる</li> <li>5. 質的データの読み方と基本的なまとめ方を理解している</li> <li>6. 統計分析ソフト「SPSS」の基本的な操作を習得する</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は現代社会学部DP②「現代社会をより深く知るための調査方法やデータ分析方法を身につけている。」を充足するための科目です。現代社会学部の2年次必修科目で、かつ、社会調査協会が認定する「社会調査士」資格をとるために必要な科目でもあります。</p> <p>1年次の「データからみる社会」「データの集め方」で学んだことを、この授業で発展させ、さらに「調査データの扱い方」「量的調査法」「質的調査法」「社会調査実習演習」を履修することで、社会調査にかんする能力や技能をより深めることができます。</p> <p>SPSSは「調査データの扱い方」「量的調査法」「社会調査実習演習」でも使いますので、操作に慣れておきましょう。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	社会調査とデータ分析（社会調査の特徴・意義・分類、既存統計資料の収集と読み方）	教科書の範囲の予習・復習。指示があれば課題	
第2回	社会調査データの基礎知識（データ形式、コード化、尺度）	教科書の範囲の予習・復習。指示があれば課題	
第3回	Excelによる社会調査データの加工（Excelの基本操作、数式の入力、セルの参照）	教科書の範囲の予習・復習。指示があれば課題	
第4回	1つの質的変数を記述する：単純集計（集団の特性と分布、ExcelとSPSSを使った度数分布表の作成）	教科書の範囲の予習・復習。指示があれば課題	
第5回	1つの量的変数を記述する：データの中心・平均・散らばり（代表値、散布度）	教科書の範囲の予習・復習。指示があれば課題	
第6回	異なる尺度上の値を比較する：標準化（標準偏差の解釈・計算方法）	教科書の範囲の予習・復習。指示があれば課題	
第7回	データを視覚化する：グラフの読み方・作り方（円・帯・折れ線グラフ、散布図、レーダーチャートの特徴と作成法）	教科書の範囲の予習・復習。指示があれば課題	
第8回	中間テスト	これまでの範囲の復習	
第9回	2つの量的変数の関連をみる1：相関係数（因果関係とは？ 相関とは？ 相関係数の求め方、相関関係と因果関係の区別、擬似相関）	教科書の範囲の予習・復習。指示があれば課題	
第10回	2つの量的変数の関連をみる2：回帰分析（変数xとyの関係、Excelの「データ分析」を使った回帰分析）	教科書の範囲の予習・復習。指示があれば課題	
第11回	3つの量的変数の関連をみる：相関係数（変数間の相関、みせかけの相関関係、偏相関係数の注意点）	教科書の範囲の予習・復習。指示があれば課題	
第12回	2つの質的変数の関連をみる1：クロス集計（クロス集計の考え方、ExcelとSPSSを使ったクロス集計）	教科書の範囲の予習・復習。指示があれば課題	
第13回	2つの質的変数の関連をみる2：関連係数（変数間の関連の強さを数値化する指標）	教科書の範囲の予習・復習。指示があれば課題	
第14回	3つの質的変数の関連をみる：エラボレイション（3重クロス集計、媒介関係・擬似関係を見抜く）	教科書の範囲の予習・復習。指示があれば課題	
第15回	データを提示する：論文・レポートとプレゼンテーション（Word、PowerPointを使った分析結果のまとめ方）	プレゼン資料の作成、定期試験に向けての復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	50%（中間テスト20%、期末試験30%）		
レポート	0%		
小テスト等	25%（課題、小テスト）		
成果発表	0%		
受講態度他	25%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計分析ソフトSPSSを使用します。コンピュータ演習室1Bのほか、自習室2でも使えます。</li> <li>・理解度の確認のために、随時、課題を出します。</li> <li>・遅刻3回で欠席1回に換算します。6回以上欠席すると単位を認定できません。</li> </ul>		
教科書	廣瀬毅士・寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社		
指定図書	なし		
参考図書	篠原清夫ほか編『社会調査の基礎—社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂（A, B科目の教科書）		
オフィスアワー	火曜14:50-16:20	メールアドレス	



授業科目	地域環境論		開講時期	前期
担当教員	上村 真仁		単位	2
授業の目的と概要	<p>私たちの暮らしは生物多様性を基盤とする生態系サービスに支えられている。大量生産、大量消費、大量廃棄を特徴とする経済優先の社会は、資源やエネルギーの過剰な利用により、自然環境の破壊や自然資源の枯渇、生物多様性の減少を引き起こしている。こうした生態系サービスの劣化は、私たちの暮らしの豊かさを損なう一因ともいえる。本講義では、環境の世紀といわれる21世紀において、私たちの暮らしの課題を解決するとともに、未来の世代にとっても暮らしやすい持続可能な地域を創造するための基本的な考え方を学ぶとともに、多様な取り組み事例よりその知見を習得することを目的とする。</p>			
到達目標	<p>都市・地域を取り巻く環境問題について理解し、その要因について説明することが出来るようになる。 身近な環境問題に関心を持ち、情報収集が出来るようになる。 都市・地域の環境問題を改善するための様々な手法・技術について理解し、持続可能な社会の将来像を構想することが出来る。 環境と地域をテーマに、グループディスカッションにおいて、自分の考えを表明することが出来る。 他の人の意見等を踏まえて、自分の意見を見直し、レポートに取りまとめることが出来る。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に環境共生社会コースのDP2「環境共生社会実現のための住まいやまちのデザインのための知識と技術を獲得している。」の達成に関わる科目です。「地域デザイン」や「地域デザイン演習」と併せて受講することで、環境共生型まちづくりを進めるための基本的な知識と技術を修得することが出来ます。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	地域環境論について 授業の進め方、環境問題の認識チェック	地球的規模での環境問題について1つ調べて来ててください。		
第2回	地球環境問題とは 私たちの暮らしと地球環境問題	エコロジカルフットプリントについて調べて来ててください。		
第3回	持続可能な社会とは 環境、文化、経済の持続性	環境への負荷軽減のために出来ることを考えて来ててください。		
第4回	地域における環境問題 都市・地域の地球環境問題	自身の身近で起こっている環境問題について調べて来ててください。		
第5回	生物多様性と地域 私たちの暮らしと生態系サービス	暮らしの中の生物多様性からの恩恵について考えて来ててください。		
第6回	エネルギーと地域 地域資源としての自然エネルギー	身近な自然エネルギーについて調べて来ててください。		
第7回	環境と共生した都市づくり エコシティ、コンパクトシティ	都市の環境悪化を引き起こす原因について考えて来ててください。		
第8回	身近な自然と調和した社会の実現 里山、里海の創生	里山、里海の事例をいずれか1つ調べて来ててください。		
第9回	環境調和型のライフスタイル エコビレッジ	自分で取り組むエコライフについて考えて来ててください。		
第10回	地域と環境の再生 グラウンドワークトラスト	グラウンドワークトラストについて調べて来ててください。		
第11回	地域環境と調和した社会の実現に向けて 地域環境学の考え方	事前配布の資料を読んで来ててください。		
第12回	環境保全と地域 順応的なガバナンスの必要性	事前配布の資料を読んで来ててください。		
第13回	グループディスカッション 11回、12回のテーマいずれかを選びディスカッションを行なう	地域環境保全のために必要なことを考えて来ててください。		
第14回	地域環境学ネットワークとレジデント型研究者	レポートの作成		
第15回	まとめ 持続可能な地域を考える	復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 地域に根差した環境保全の重要性とその方法について授業外学習としてレポートを作成する。			
小テスト等	30% 各授業の終了時にテーマの習得を確認する小テストを実施する。			
成果発表	30% 作成したレポートについて、最終回の授業で発表を行ない、それを評価する。			
受講態度他	10% 授業でのディスカッションの態度等を勘案する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>本科目では、授業の中で小テストを実施しますので、出席するようにしてください。 遅刻は、授業開始後15分まで(それ以降は、入出不可 欠席扱い) 遅刻3回で欠席1回とみなします。</p>			
教科書	担当教員が作成した資料を使用する(授業の際に配布する)。			
指定図書	宮内泰介編「なぜ環境保全はうまくいかないのか」新泉社、環境政策研究会編「地域環境政策」ミネルヴァ書房			
参考図書	佐藤哲「フィールドサイエンティスト」東京大学出版会、服部圭朗「サステナブルな未来をデザインする知恵」鹿島出版会			
オフィスワー	水曜日の授業前後	メールアドレス		

授業科目	地域社会学		開講時期	後期
担当教員	徳永 勇		単 位	2
授業の目的と概要	<p>地域社会は、私たちにとって家族に次ぎ最も基礎的な社会集団であるが、都市化の進展とともに、濃密なコミュニケーションと相互扶助のネットワークは、地域社会から失われてきた。しかし、災害発生時に明らかとなるコミュニティの潜在能力の重要性はいうまでもなく、急速に少子高齢化が進んでいる現在、地域社会の福祉機能の重要性も看過すべきではない。本講では、農村・都市社会学の研究実績をふまえ、地域社会の変容過程と現状、問題点とその解決策について理解を深め、説明、構想できるようになることを目的とし、あわせて地域福祉の計画と実践に不可欠の知見を呈示し、実現可能な良きコミュニティ像の模索を行う。</p> <p>人間が直面する心理・社会的諸問題や諸課題は、地域社会という舞台の上で生起する。それら問題・課題を解決していくには、地域社会の人・インフラ・情報等の資源を有効に活用していく必要がある。地域の社会資源の現状と課題についての考察が必要だ。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域社会を分類する概念について説明できる。</li> <li>2. 近隣住区論の考え方を説明できる。</li> <li>3. 自治体と国家のあるべき関係について説明できる。</li> <li>4. 都市化の社会学理論について説明できる。</li> <li>5. 都市型社会の特徴について説明できる。</li> <li>6. 福祉機能を備えた地域社会のあり方を構想できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本講義は、人間関係専攻DP②「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」、初等教育コースDP②「初等教育に関する専門的知識や子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況についての知識を身に付けることができる。」、幼児保育コースDP②「子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況に関する知識を身に付けることができる。」に準拠する。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	地域社会と集団類型	予習 講義ノートpp. 1-2		
第 2回	家族と近隣住区	予習 講義ノートp. 2		
第 3回	自治体と国家	予習 講義ノートpp. 2-3		
第 4回	農村―都市の乖離説と連続説	予習 講義ノートpp. 3-4		
第 5回	日本社会の農村的特質	予習 講義ノートp. 4		
第 6回	都市社会の構成	予習 講義ノートpp. 4-5		
第 7回	アーバニズムの特質	予習 講義ノートp. 5		
第 8回	都市問題の展開	予習 講義ノートp. 5		
第 9回	都市化の過程	予習 講義ノートpp. 5-6		
第10回	都市型社会の特徴	予習 講義ノートp. 6		
第11回	ボランティア・アソシエーションと地域社会	予習 講義ノートpp. 6-7		
第12回	パーソナル・ネットワークと地域社会	予習 講義ノートpp. 7-8		
第13回	防災福祉空間としての地域社会	予習 講義ノートpp. 8-9		
第14回	少子高齢化と地域社会	予習 講義ノートpp. 9-10		
第15回	コミュニティと福祉計画	予習 講義ノートp. 10		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	100%：テーマ選択、論述式の筆記試験で評価する。持ち込みは配布プリント、自筆ノートのみ可。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義で紹介する参考文献をできる限り多く読みこなし、自主的な学修をはかっていたきたい。			
教科書	使用しない。			
指定図書	<p>広井良典・小林正弥編著『コミュニティ』勁草書房（2010）</p> <p>森岡清志編『地域の社会学』有斐閣（2008）</p>			
参考図書	講義中に、適宜紹介する。			
オフィスアワー	月曜日3限・火曜日3限	メールアドレス		

授業科目	地域社会学	開講時期	後期
担当教員	野中 亮	単 位	2
授業の目的と概要	地域社会学の基礎的な視点と方法を学び、地域社会のアクチュアルな問題を理解することを目的とします。都市祭礼の事例研究を素材に、日本の都市祭礼の一般的な構造、祭礼構造と地域構造の関係性およびその変化の原因について理解し、合わせて祭礼を通じた日本の地域社会の変化に関する総合的な知見を得る事をめざします。		
到達目標	日本の地域社会における伝統文化の機能について説明できる。 日本の地域社会の変容を祭礼という文化現象を通じて説明でき、実際の地域社会においてその知識を活用する方法を身につける。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現代社会学部DP②「現代社会を理解するために、社会学の基礎的な知識と技能を身につけている」に該当します。 「家族社会学」や「現代社会と地域」等とあわせて履修することで、より深い理解が得られます。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	地域社会学／宗教社会学とは	社会学の研究対象としての「地域」と「宗教」を説明できるようにしておく事	
第2回	地域社会学の基礎理論：論点の整理と研究例	region と community の違いを説明できるようにしておく事	
第3回	宗教社会学の基礎理論：儀礼論	デュルケームの儀礼論の概略を説明できるようにしておく事	
第4回	日本の祭論：柳田国男と折口信夫	「神事」と「催事」の関係性を説明できるようにしておく事	
第5回	伝統的祭礼と地域1：京都府京都市の祇園祭	自治組織の近代化と祭礼組織の弱体化について説明できるようにしておく事	
第6回	伝統的祭礼と地域2：福岡県福岡市の博多祇園山笠	文化の伝播と祭礼による都市制御機能について説明できるようにしておく事	
第7回	あたらしい祭1：高知県高知市のよさこい祭	イベント型祭礼の特徴と祭礼の移植について説明できるようにしておく事	
第8回	あたらしい祭2：北海道札幌市のYOSAKOIソーラン祭	イベント型祭礼の組織化について説明できるようにしておく事	
第9回	地方都市と祭1：熊本県熊本市の火の国祭	祭の「失敗例」のポイントがどこにあるのか説明できるようにしておく事	
第10回	地方都市と祭2：熊本県熊本市の藤崎宮秋季例大祭	伝統的祭礼と近代的価値観との軋轢を具体的に説明できるようにしておく事	
第11回	伝統的祭礼の変容1：大阪府岸和田市のだんじり祭	伝統的祭礼の巨大化と観光資源化について説明できるようにしておく事	
第12回	伝統的祭礼の変容2：大阪府岸和田市のだんじり祭	祭礼の文化的ネットワークについて説明できるようにしておく事	
第13回	伝統的祭礼の変容3：大阪府堺市のだんじり祭	ピアグループによる祭礼組織の変質について説明できるようにしておく事	
第14回	伝統的祭礼の変容4：大阪府堺市のだんじり祭	祭礼（組織）の変化と地域社会の変化について説明できるようにしておく事	
第15回	まとめ：地域構造と祭礼	祭礼組織と地域構造の関係性について説明できるようにしておく事	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	100％ 学期末レポート		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業外学修」の欄は、主に復習を念頭に設定しています。時間は180分程度を想定しています。</li> <li>・教科書を使用しないので、毎回のノートが大事です。板書が読みにくい、話が聞き取りにくい場合はすぐに指摘してください。</li> <li>・私語には厳格に対処します。快適な学びの場の維持に協力してください。</li> </ul>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	芦田徹郎『祭りと宗教の現代社会学』世界思想社 松平誠『都市祝祭の社会学』有斐閣		
オフィスアワー	月曜4限	メールアドレス	

授業科目	地域デザイン	開講時期	後期
担当教員	上村 真仁	単位	2
授業の目的と概要	<p>環境問題の深刻化や価値観の多様化、人口減少社会の到来など都市や地域を取り巻く環境変化が著しい現代社会において、豊かな地域社会を実現するためには、生活環境（空間）のデザインに加えて、社会関係（コミュニティ）のデザインが重要な意義を持つようになっている。</p> <p>本講義では、豊かな暮らしを実現するために取り組まれてきた都市、地域デザインの考え方とともに、地域住民を主体としたまちづくりの理念や実践事例を学ぶことで、望ましい地域像を構想するための価値観を醸成することを目的とする。</p> <p>また、地域デザイン演習に向けて、地域主体のまちづくりを進めるために重要となる地域調査、分析評価、多様な関係者の合意形成、地域の将来像を具体化するための手法に関する基礎的知識の習得を目指す。</p>		
到達目標	<p>都市や地域の活性化に関する事例を通じて、現状での課題や基礎的な用語や手法などに関する知識を習得する。</p> <p>各地で実施されている地域デザイン事例を調べ、何が地域の課題で、その解決のためにどのようなプロセスで、どのように対策を講じ、その結果、地域がどう変わったかを分析・評価できるようにする。</p> <p>全国の地域活性化事例において活用されている地域資源を体系的に把握し、その利活用の手法について理解する。</p> <p>利害関係者の合意形成を構築する必要性について理解を深めるとともに、合意を促すための手法を習得する。</p> <p>地域特性に応じた地域づくりを進めるためのプロセスを構想できるようになる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に環境共生社会コースのDP2「環境共生社会実現のための住まいやまちのデザインのための知識と技術を獲得している。」の達成に関わる科目です。「地域環境論」と併せて受講すると、問題点や社会の動向が良くわかり、理解が深まります。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	授業のイメージの共有 石垣島白保地区の例より	課題図書の中から1冊を選び読んでください。	
第2回	地域デザインが何故必要となってきたか？地域づくりの変遷	課題図書の中から1冊を選び読んだ内容をまとめてください。	
第3回	都市計画制度を用いた地域のデザイン	課題図書の中から1冊を選び読んだ内容をもとに発表資料を作成する	
第4回	まちづくり条例などによる地域デザイン	発表の準備（PP作成、ハンドアウト）	
第5回	地域に学ぶ地元学	発表の準備（PP作成、ハンドアウト）	
第6回	ソフトの仕組みをデザインするコミュニティデザイン	発表の準備（PP作成、ハンドアウト）	
第7回	農のある暮らしをデザインするパーマカルチャー	自分が関心のある地域、テーマの具体的な実施事例を1つ選んでください。	
第8回	地域デザインに関わる様々な事例	事例調査	
第9回	地域を調べる手法を学ぶ	事例調査発表の準備	
第10回	地域での合意を形成する手法を学ぶ	事例調査発表の準備	
第11回	現地調査の計画を立てる	フィールドワークの準備	
第12回	まちづくりの現場を見る（太宰府フィールドワーク）	フィールドワークのまとめ	
第13回	グループディスカッションと発表資料の作成	まち歩きで気付いたことをまとめ、提案を考えて来てください。	
第14回	フィールドワーク成果発表会	各自でプレゼン資料を作成しておいてください。	
第15回	まとめ 地域デザインの可能性	期末レポートの作成と提出をしてください。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	40% 期末レポート 地域デザイン		
小テスト等	40% 課題図書20%、事例調査と発表20%		
成果発表	0%（上記、課題図書、事例調査では発表を含めて評価する）		
受講態度他	20% 授業、フィールドワークの貢献度等で評価する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>本科目では、授業の中でグループワークを行ない、発表会を行ないません。グループのメンバーに迷惑をかけないよう、積極的に参加するようにしてください。また、実際の都市・地域を見て、都市計画制度やまちづくりの成果について体感してもらうため学外でのフィールド実習を予定していますので、積極的に参加してください。</p>		
教科書	担当教員が作成した資料を使用する（授業の際に配布する）。		
指定図書	<p>課題図書1. 調査されるという迷惑「フィールドに出る前に読んでおく本」宮本常一、安溪遊地 みずのわ出版</p> <p>課題図書2. コミュニティデザイン 人がつながるしくみをつくる 山崎亮 学芸出版社</p>		
参考図書	<p>課題図書3. ブラジルの環境都市を創った日本人—中村ひとし物語 服部圭郎 未来社</p> <p>課題図書4. 若者のためのまちづくり 服部 圭郎 岩波ジュニア新書</p>		
オフィスアワー	水曜日の授業前後	メールアドレス	

授業科目	地域と文化	開講時期	後期
担当教員	松本 常彦	単 位	2
授業の目的と概要	九州という地域と深い関わりがある文化表象について学習することを通じて、地域と文化の双方に関わる人間観についての理解を深める。地域と文化が背負っている歴史性や風土性について理解を深めることで、社会を多様な価値観から考える複眼的で人間的な思考力を養う。自分たちが暮らしている地域とその文化表象の関係についての理解を創造的思考力によって発展させ、文化的に発信していくような情報発信能力の土台を築く。 時期的には、19世紀から現在まで、地域としては九州とくに福岡を中心に、地域と文化との多様な関係性について考える。一つには、問題の多様性自体に目覚めることが必要となる。言説ジャンルとしては芸能や芸芸が中心で、素材としては新聞や雑誌や書籍など活字メディアが検討対象になる。ただし、テキストの解釈というより、それを通して、地域と文化表象との関係を考察することが中心となる。		
到達目標	地域と文化との関係について、既成の一般的な把握とは異なる、歴史的で人間的な理解の届いた観察ができる視座を学習する。地域と文化は、ともに人間認識や社会的規範と深く関係することを理解し、そのことを通じて人間観や社会観の更新を図る。上記の成果として、具体的な資料に基づきながら、地域と文化との関係について紹介するパンフレットを作成する。また、地域からの発信という視点を持つことで、社会と自己との関係性やメディアリテラシーの重要性についても認識する。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	地方創生が叫ばれる時代にあって、その課題に応じるための感覚や問題意識を育成する。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回 後期全体についての授業概要の説明		配布資料を読む	
第 2回 地域と文化を考えるための問題点 1		配布資料を読む	
第 3回 地域と文化を考えるための問題点 2		配布資料を読む	
第 4回 地域と文化を考えるための問題点 3		地域と文化の概要について自分を事例とした報告書の作成	
第 5回 博多の芸能 1		配布資料を読む	
第 6回 博多の芸能 2		配布資料を読む	
第 7回 博多の芸能 3		配布資料を読む	
第 8回 博多の芸能 4		博多の芸能について、二六字川柳や博多なぞなぞなどの自作品を提出	
第 9回 雑誌が映し出す明治・大正の福岡 1		配布資料を読む	
第10回 雑誌が映し出す明治 j・大正の福岡 2		配布資料を読む	
第11回 雑誌が映し出す明治・大正の福岡 3		「筑紫史談」の報告書を作成する	
第12回 雑誌が映し出す昭和の博多 1		配布資料を読む	
第13回 雑誌が映し出す昭和の博多 2		配布資料を読む	
第14回 雑誌が映し出す昭和の博多 3		地域情報誌についての報告書作成	
第15回 地域と文化という問題についてのまとめ		試験の準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	40%		
レポート	30%		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	30%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中に無断で教室を出た場合は、受講を認めない		
教科書	使用しない。資料は複写を授業時に配布する。		
指定図書	配布資料に記載		
参考図書	『福岡県史』、『福岡市史』、『福岡県百科事典』		
オフィスワー	金曜日午前中の授業の前後	メールアドレス	

授業科目	地域福祉論 I		開講時期	前期
担当教員	山崎 安則		単位	2
授業の目的と概要	<p>地域福祉の歴史的発展過程を通して地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解していきます。また、地域福祉の主体と対象について理解を深めるとともに、地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について学ぶことを目的とします。</p> <p>地域福祉の理念や内容について、歴史的発展過程や現代社会における今日の役割を明らかにしたうえで、わが国の地域福祉施策と住民主体の原則を理解し、新しい社会福祉システムとしての地域福祉の意義と役割について考察していきます。</p>			
到達目標	<p>①地域福祉の基本的な考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解できる。</p> <p>②地域福祉の主体と対象について理解できる。</p> <p>③地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は社会福祉士資格取得の指定科目です。</p> <p>本科目は社会福祉士養成科目の講義科目として重要な科目です。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	地域福祉の概念と範囲	予習		
第2回	地域福祉の理念と地域自立生活支援	予習		
第3回	福祉コミュニティの形成と社会的包摂	予習		
第4回	地域の捉え方と福祉圏域	予習		
第5回	地域福祉におけるアウトリーチの意義	予習		
第6回	地域福祉の主体形成と福祉教育	予習		
第7回	地域福祉の対象と普遍化	予習		
第8回	社会福祉法と地域福祉の推進	予習		
第9回	社会福祉協議会の役割と実際	課題		
第10回	地方自治体の役割と地域福祉計画	課題		
第11回	社会福祉法人とNPO法人の役割とボランティア活動	課題		
第12回	自治会における民生委員・児童委員の役割と実際	課題		
第13回	コミュニティソーシャルワークの展開と手法	予習		
第14回	地域住民の役割と専門職との連携の実際	予習		
第15回	地域福祉推進における住民参加の意義と実際	予習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 定期試験（持ち込みはありません）			
レポート	10％ 中間レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	20％フィールドワーク（地域貢献活動）			
受講態度他	20％ 履修規定・受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義では、視聴覚機器を使用します。また、講義に併せて最新のデータや資料等をプリントとして配布していきますので、しっかりと記録やノートに整理しておいてください。			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『地域福祉の理論と方法』一地域福祉論 第3版 中央法規 2015年			
指定図書	『地域福祉時代の社会福祉協議会』山本主税他編著 中央法規 2003年			
参考図書	『社協の底力』伊賀市社会福祉協議会編 中央法規 2008年			
オフィスワー	火曜日を除く昼休み時間（12:20～13:10）	メールアドレス		

授業科目	地域福祉論Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	山崎 安則		単 位	2
授業の目的と概要	<p>地域福祉の推進方法について、地域援助技術としてのコミュニティワークの理論学習に加え、具体的にネットワーキング、社会資源の開発・活用・調整、福祉ニーズの発見と把握、地域トータルケアシステムの構築方法、福祉サービスの評価方法など、コミュニティワーカーに必要とされる知識と技術の習得をめざします。</p> <p>地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法及びその実際について学ぶとともに、地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）における技術と実践力を身につけていきます。</p>			
到達目標	<p>①地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法及びその実際が理解し実践できる。</p> <p>②地域福祉の推進方法について理解し実践できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は社会福祉士資格取得の指定科目です。</p> <p>本科目は社会福祉士養成科目の講義科目として重要な科目です。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	ソーシャルサポートネットワークの意義と役割	予習		
第 2回	ソーシャルサポートネットワークの展開と手法	予習		
第 3回	ソーシャルサポートネットワークづくりと実際	予習		
第 4回	社会資源の概念	課題		
第 5回	社会資源の活用法とコーディネート	課題		
第 6回	社会資源の開発と公的サービス	課題		
第 7回	福祉のまちづくりとソーシャルアクション	課題		
第 8回	質的な福祉ニーズの把握方法と実際	予習		
第 9回	量的な福祉ニーズの把握方法と実際	予習		
第10回	地域トータルケアシステムの意義と役割	予習		
第11回	地域トータルケアシステムの展開方法	予習		
第12回	地域トータルケアシステムの組織化と実際	予習		
第13回	福祉サービスの評価の目的とシステム	予習		
第14回	福祉サービスのプロセス評価の方法と実際	予習		
第15回	第三者評価事業と運営適正化委員会の実例	予習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％ 定期試験（持ち込みはありません）			
レポート	10％ 中間レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	20％フィールドワーク（地域貢献活動）			
受講態度他	20％ 履修規定・受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義では、視聴覚機器を使用します。また、最新のデータや資料等をプリントとして配布していきますので、しっかりと記録やノートに整理しておいてください。			
教科書	社会福祉士養成講座編集委員会編『地域福祉の理論と方法』一地域福祉論第3版 中央法規 2015年			
指定図書	『地域福祉概説』明石書籍			
参考図書	『国民生活白書』内閣府2014年			
オフィスワー	火曜日を除く昼休み時間（12:20～13:10）	メールアドレス		

授業科目	地球惑星科学		開講時期	後期
担当教員	藤本 晶子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>私たちが生活する地球は、広大な宇宙を構成する天体の1つであるとともに、太陽、個体としての地球、地球上の大気現象が相互に結びつき合う複雑な体系を有します。地球惑星科学とは、地層や化石に刻まれた地球の歴史を紐解くことにより地球の過去を明らかにし、宇宙・地上における多様な観測を複合することにより地球の現在・未来を探求する学問です。この授業では、地球惑星科学のさまざまな諸現象に触れながら、地球の成り立ちやその特徴を理解します。そして確かな知識を体得することにより、身近な地球惑星科学現象について考察でき、自分の言葉で説明できることを目的とします。</p>			
到達目標	<p>1：地球惑星科学における諸現象を具体的に列挙・分類することができる。  2：地球惑星科学における諸現象について基本原理・法則に基づいて説明できる。  3：身の回りの地球惑星科学現象に興味を持ち、それらを適切な基本法則と結びつけることができる。  4：地球惑星科学に関する独自の世界観を構築する。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は人間科学部のDP③「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。  天文学（藤本・前期開講）と一部関連する。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業のイントロダクション：地球惑星科学における諸現象の空間・時間スケール	地球惑星科学に関連する諸現象を挙げる		
第2回	宇宙の構造：誕生から進化	ビックバン理論について調べる		
第3回	太陽系：誕生から進化、構成する惑星・天体	太陽系惑星の大きさとスケールを身近なものに置き換えて体感する		
第4回	太陽：太陽の活動と地球への影響	オーロラを観測できる地域・条件を調べる		
第5回	地球の気象：大気大循環	地球を取り巻く大気の役割を考察する		
第6回	地球の海：海洋大循環	大気－海洋相互作用について考える		
第7回	日本の天気	天気図を見て、数日後の天気を推察する		
第8回	地球大地の動き：地球内部の構造とプレート運動	大陸移動による未来の地球大陸について考える		
第9回	地震：メカニズムと地震による災害・防災	過去の日本付近で起きた主な地震について調べる		
第10回	火山：活動とその分布	日本列島の火山分布について調べる		
第11回	生命の変遷：先カンブリア期－古生代－中生代－新生代	古生物を挙げる		
第12回	地層と古環境	地表を変化させる過程を考察する		
第13回	地球環境の変化：異常気象と大気汚染	福岡の大気汚染状況を考える		
第14回	日本の自然環境と自然災害	具体的な自然災害を挙げる		
第15回	地球惑星科学の視点から見る、これからの地球環境問題	今後取り組むべき環境問題について考える		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％（定期試験：授業にて取り扱う地球惑星科学諸現象について、基本原理・法則に基づいて説明できる）			
レポート	30％（毎講義内に小レポートを実施）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％（受講態度、質疑等による授業への貢献度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席、遅刻、途中退出、授業中の私語は慎むこと。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		



授業科目	地誌学		開講時期	後期
担当教員	黒田 圭介		単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義では、地誌学的な解析作業で最も重要な机上作業、すなわち、国土地理院発行地形図の読解技術の修得をテーマとする。地形図に散りばめられた地図記号は地域の様相を的確に表現している。これを正確に読み解き、地図を用いて地域の土台（自然環境）と人々の営み（歴史、文化、産業）を考察できる人材の輩出を目標とする。中学校社会科教員、高校地歴の教員、塾・予備校の地歴科講師等を目指しているものは、地図(地形図)について本格的に学ぶチャンスはそうそうないので、是非履修のこと。</p> <p>毎回地形図を用いて地域の自然環境と土地利用、歴史、文化、産業の関係などを考察する。毎回課題作業を行い、課題の提出をもって出席とする。具体的な内容は各回ごとの授業内容を参照のこと。</p>			
到達目標	<p>*様々な地図(地形図等)を正しく読めるようになり、さらに目的に沿った地図を自ら描けるようになる。</p> <p>*地域の構造を文理両面から総合的に解釈できるようになる。</p> <p>*日本の諸地域における自然、歴史、文化、人間活動について理解を深めることができる。</p> <p>*ある事象について地理学的な視点を持って調査・解析・考察し、報告できるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 地誌学とは？			講義中に指示する	
第2回 地図を読むための基礎知識			地図記号に親しむ	
第3回 地形図の説明、縮尺と方位			東西南北をきちんと理解する	
第4回 山地の生活			等高線について復習する	
第5回 扇状地と土地利用			扇状地の地形について復習する	
第6回 台地と沖積平野の土地利用			沖積平野の形成について復習する	
第7回 自然堤防の土地利用			畑の水田の分布の違いを復習する	
第8回 河岸段丘の土地利用			河岸段丘の形成について復習する	
第9回 離水海岸の土地利用			海岸平野の地名について復習する	
第10回 沈水海岸の土地利用			リアス海岸にまつわる地形について復習する	
第11回 砂州・砂嘴・陸繋島の土地利用			砂州の形成について復習する	
第12回 さんご礁の土地利用			さんご礁でできた島の土地利用について復習する	
第13回 条里村・塊村・名田百姓村・散村			人為的影響のつよい村落形態について復習する	
第14回 新田集落・路村・屯田兵村			路村の特徴について復習する	
第15回 城下町			城下町の道路の特徴について復習する	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 試験の他に、講義中に小レポートを課す。			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	40% 本講義では、出席状況を重視する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>*正当な理由がある欠席は、必ず欠席届を提出すること。</p> <p>*テキスト（新編コンターワーク地形図学習の基礎 最新版）を必ず持参すること。このテキストに書き込みつつ講義を進めるため、忘れた場合は出席点を与えられないので注意すること。</p> <p>*毎回色鉛筆が必要。</p> <p>*特別な事情を除いて、授業開始10分後以降の入室は認めない。</p>			
教科書	新編コンターワーク地形図学習の基礎 最新版（帝国書院、帝国書院編集部編）			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスアワー	講義終了後	メールアドレス		

授業科目	知的障がい(コミュニケーション障がい)者の心理	開講時期	前期
担当教員	今村 亜子	単位	2
授業の目的と概要	コミュニケーションとはなにか?またその障がいとは?コミュニケーションの重要な手段である「ことば」に着目し、さまざまな障がいについて学んでいきましょう。ことばの障がいとコミュニケーション障がいは、同じではありません。この点は、教科書を通じて理解を深めていきます。知的な障がいとコミュニケーションとの関係を考えながら、コミュニケーション障がいの多様な領域があることを知しましょう。当事者の声に耳を傾けることで、それぞれの心理面について考えていきます。もっとも重要なことは、コミュニケーションがうまくいかない原因は、どちらか一方にだけあるのではなく、関係性の中にあるという視点です。コミュニケーションの諸相と障がいについての基礎知識を、講義形式で伝えます。「事例の紹介」では、「エピソードの重要性」を解説します。毎回の授業開始時に前回の復習を、対話を交えながら要約していきます。授業時間内にミニレポートを作成します。		
到達目標	①各論の基礎知識を理解する。②実際に、どのような生活上の困り感が生じるかについて推論する。③相互理解のプロセスを図式化する。④具体的な事例を通じて自分ならどう接するか具体的にのべられるようになる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	乳幼児の発達 理解・表出・対人コミュニケーションの各側面から理解する	教科書p7～p18。自分の言語発達過程のエピソードを報告する。	
第2回	「子どもの言語獲得の主要な段階」 表情、身振り、遊び、指さし、初語、不在の表象という各段階のおおまかなイメージをもち、その意義について考察する。「	教科書p18～p34。	
第3回	「子どもの言語獲得の主要な段階」 語彙爆発、2歳2語文という各段階のおおまかなイメージをもち、その意義について考察する。	教科書p35～p40。ことばの伝達の流れを図式化する。	
第4回	「障害の分類」	教科書p41～p56。ことばの伝達の流れを図式化する。	
第5回	語用論の着眼点や研究法右方など事例をもとに理解する	教科書p56～p72 自分が好きだった絵本	
第6回	きこえの障害とことばの発達。ヘレン・ケラーの自伝から、「ものには名前がある」ことについて考える。	聴覚障害に関する書籍、ドラマ、映画などをリストアップする。	
第7回	脳性麻痺 左足の画家、クリスティの自伝をもとに、表出に制約の多い障害と周囲との関係について考察する。	脳性麻痺に関する書籍、ドラマ、映画などをリストアップする。	
第8回	重度心身障がいのある子どもたちと寄り添って歩む記録をもとに、間主観性について検討する。	ことば以外のコミュニケーション手段について具体的に検討する。	
第9回	知的障がい(乳幼児～幼児期)の発達の諸相を学ぶ。	ことばの遅れがある子どもとの接し方についてイメージをもつ	
第10回	知的障がい(学童期)の発達の諸相を学ぶ。	ICFの視点から障がいがあるこどもたちの学校生活を考える	
第11回	知的障がい(成人期)の社会参加について学ぶ	ICFの視点から障がいがある人たちの就労、社会参加について考える	
第12回	読み書き障害第 発達性ディスレキシア、発達の遅れに伴う文字習得の遅れなど、文字に関わる事象を考察する。	読み書きの困難さをもつ子どもにも個別対応する時の配慮を考察する。	
第13回	吃音についてのエビデンスを知り、理解を深める。	吃音に関する書籍、ドラマ、映画などをリストアップする	
第14回	治療・教育の実際	教科書 p108～p140より、臨床でのプランニングを学び教育へ応用する。	
第15回	コミュニケーション障がい者の心理(関係性からの理解)について授業で知ったことを元にまとめる	授業全体のまとめ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	60% 筆記試験		
レポート	15% 毎回提出		
小テスト等	20% ○×問題(4回実施) 授業開始時に配布します。		
成果発表	0%		
受講態度他	5%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回要約とレポートの提出を求めます。最終講まで、持ち帰らないでください。必要に応じて座席指定を行います。スマホ等の使用は授業評価の時以外にはしないでください。コミュニケーション障がいを緩和する糸口をみつけないための情報を集め、検証、修正する練習をしていきましょう。欠席、遅刻、途中退出に関しては、理由を必ず、レポートに書いてください。試験をうけるためには、規定通り10回以上の出席が必要です。		
教科書	ロラン・ダノン=ボワロー著加藤義信、井川真由美訳『子どものコミュニケーション障害』白水社 (ISBN978-4-560-50914-2)		
指定図書	中川信子『ことばの遅れのすべてがわかる本』講談社		
参考図書	秦野悦子編『ことばの発達入門』大修館書店 (ISBN978-4-11062-3-C3047)		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス	

授業科目	知的障がい者の教育		開講時期	後期
担当教員	酒井 均		単 位	2
授業の目的と概要	<p>知的障がいを中心とした発達障がい教育の歴史と現状、基本的理解、教育課程、指導の方法がわかる。各々の幼児・児童・生徒のニーズを正確に把握し、適切に対応できる教育課程のありかた、支援教育のありかたについての理解を深める。</p> <p>知的障がいを中心とした発達障がい教育の歴史と現状、基本的理解、教育課程、指導の方法の概説を学んでいく。各々の幼児・児童・生徒のニーズを正確に把握し、適切に対応できる教育課程のありかた、支援教育のありかたについての理解と深化を目指していく。</p>			
到達目標	<p>知的障がい教育の歴史と現状、基本的理解、教育課程、指導の方法について説明できる。</p> <p>各々の幼児・児童・生徒のニーズを正確に把握し、適切に対応できる教育課程のありかた、支援教育のありかたについて説明できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目はコースDP4「人間が直面する心理・社会的諸問題や諸課題に対処し、改善・解決を図るために有効な援助法や社会資源・制度について説明することができる」を充足するための科目です。</p> <p>また、特別支援学校教諭免許取得のための必修科目です。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		ショートレポート	
第2回	知的障がいの基本的理解 1 障がいとは		ショートレポート	
第3回	知的障がいの基本的理解 2 障害児教育とは		ショートレポート	
第4回	知的障がいの基本的理解 3 特殊教育から特別支援教育へ		ショートレポート	
第5回	知的障がいの歴史と教育 1 知的障がいに伴う障がい教育（盲教育）の歴史と現状		ショートレポート	
第6回	知的障がいの歴史と教育 2 知的障がいに伴う障がい教育（聾教育）の歴史と現状		ショートレポート	
第7回	知的障がいの歴史と教育 3 知的障がい教育の歴史と現状		ショートレポート	
第8回	知的障がいの歴史と教育 4 知的障がいに伴う障がい教育（肢体不自由）の歴史と現状		ショートレポート	
第9回	知的障がいの歴史と教育 5 知的障がいに伴う障がい教育（病弱・虚弱）の歴史と現状		ショートレポート	
第10回	知的障がいの歴史と教育 6 知的障がいに伴う障がい教育（言語障害）の歴史と現状		ショートレポート	
第11回	知的障がいの歴史と教育 7 知的障がいに伴う障がい教育（情緒障害）の歴史と現状		ショートレポート	
第12回	知的障がいの歴史と教育 8 知的障がいに伴う障がい教育（重度・重複障害）の歴史と現状		ショートレポート	
第13回	知的障がいの歴史と教育 9 知的障がいに伴う障がい教育（発達障害）の歴史と現状		ショートレポート	
第14回	特別支援教育における教育課程		ショートレポート	
第15回	自立活動		最終レポート	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ショートレポート30％ 最終レポート70％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の最後にショートレポートをだします。</p> <p>遅刻・早退は3回で1回の欠席とみなします。</p>			
教科書	『特別支援学校教育指導要領』文部科学省			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日お昼休み		メールアドレス	

授業科目	知的障がい者の心理・生理・病理	開講時期	後期
担当教員	渋田 登美子	単 位	2
授業の目的と概要	知的障がい児・者は、一次障がいとしての知的障がいだけでなく、他の障がいを併存していることがある。また、周囲との関わりの中で二次障がいとしての抑うつや心身症を生じやすいことや、虐待を受けやすいことも指摘されている。 この授業は、生理・病理といった器質的要因をふまえながら、知的障がい児・者の発達や行動特徴、障がい特性とライフステージに応じた支援について学ぶことを目的とする。さらに、知的障がいの併存が多い自閉症スペクトラム障害、肢体不自由、感覚障害について学んでいく。最後に、環境との関わりの中で生じる問題として二次障がいについて学び、その予防について考察する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発達段階ごとに知的障がい者の心理・行動特性について述べるができる。</li> <li>2. 自閉症スペクトラム障がいを併存している知的障がい者の行動特性とその支援について述べるができる。</li> <li>3. 一次性併存障がいと二次障がいについて簡潔な文章で説明することができる。</li> <li>4. ライフステージに応じた支援について述べるができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、発達臨床心理コースのDP3「援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる」の達成に関わる科目である。また教職課程「特別支援教育に関する科目」であり、人間支援副専攻に関わる人間関係専攻科目である。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回 授業の概要 ・ DVD視聴		復習、中間レポートのための図書を探す	
第 2回 知的障がいとは		中間レポートのための図書を探す	
第 3回 乳幼児期の発達過程とアセスメント		中間レポートのための図書を読む	
第 4回 児童期の発達過程と支援		中間レポートのための図書を読む	
第 5回 ダウン症候群の発達の特徴		中間レポートのための図書を読む	
第 6回 ウィリアムズ症候群の発達の特徴		中間レポートのための図書を読む	
第 7回 自閉症スペクトラム障がい(1) : 乳幼児期の行動特徴		中間レポートを作成する	
第 8回 自閉症スペクトラム障がい(2) : 学童期の行動特徴と支援		中間レポートを作成する	
第 9回 自閉症スペクトラム障がい(3) : こだわり行動とパニックへの対応		中間レポートを作成する	
第10回 : 職場で見られる問題と就労支援、DVD視聴		障がい者の就労の現状について情報収集する	
第11回 青年以降の発達過程と支援		映画や小説に登場する障がい児・者がどのように描かれているかを調べる	
第12回 肢体不自由者の心理・生理・病理、DVD視聴		映画や小説に登場する障がい児・者がどのように描かれているかを調べる	
第13回 聴覚障がい者と視覚障がい者の心理・生理・病理		これまでの授業内容を振り返り、復習する	
第14回 併存障がいと 2次障がい		これまでの授業内容を振り返り、復習する	
第15回 親ときょうだいにとっての障がい		知的障がい者の家族支援について調べる	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	60% 定期試験		
レポート	30% 中間レポート : 障がい者または、障がい者の家族によって書かれた本を読み、レポートを作成する。 A4 2枚程度 図書リストは授業中に配布、筑女ネットにも掲示する。 提出期限12月7日(水)		
小テスト等	-		
成果発表	-		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	中間レポートは、障がい当事者の視点から障がいを理解するために課しています。図書リストの本はどれも読みやすい本なので、早めに選び読むことを勧めます。授業内容の理解が深くなると思います。		
教科書	毎回資料を配布する。		
指定図書	使用しない。		
参考図書	梅谷忠男・生川善雄・堅田明義(編著) 『特別支援児の心理学』 北大路書房 図書リストは授業で配布し、筑女ネットにも掲載する		
オフィスアワー	水曜日の昼休みと4限	メールアドレス	

授業科目	知的障がい・発達援助の技法		開講時期	前期
担当教員	森田 理香		単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業では心身に障がい、主に知的障がい・発達障がいをもつ幼児、児童、または生徒に対する援助について学ぶ。まずは、心身に障がいをもつ者へ援助を行うためには、対象となる児童、生徒の特徴を正確に理解することが必要であるため、子どもに関するアセスメントについて学ぶ。また、障がい児者の特性に応じた様々な援助技法について、それぞれの特徴や有効性、対応方法について理解する。</p> <p>さらに、実際の現場で行われている援助について学び、実際に適用することができるようになることが目的である。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心身に障がいがある幼児、児童又は生徒へのアセスメントについて説明することができる。</li> <li>2. さまざまな発達援助の技法について、その特徴や有効性について説明することができる。</li> <li>3. 障がい児者に対して、発達援助の技法を実施することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 障がいの種類と特徴	障がいを持ちながら生活をするとはどのようなことか考えをまとめる		
第2回	障がい児者のアセスメントの理論と実際	心理アセスメントについての復習		
第3回	応用行動分析 理論① 行動のとらえ方	“気になる行動”を行動レベルで書き起こす		
第4回	応用行動分析 理論② 指導法	“気になる行動”について機能的に行動を理解し、書き出す		
第5回	応用行動分析 実際①	“気になる行動”の強化子について考察する		
第6回	応用行動分析 実際②	応用行動分析を使って、指導案を作成する		
第7回	応用行動分析に関するミニテスト、ペアレントトレーニング	テストの準備、ペアレントトレーニングについて復習する		
第8回	臨床動作法① 理論	配布資料を読む		
第9回	臨床動作法② 実際	動作法体験について記述する。さらに、その考察を行う。		
第10回	TEACCHプログラム	TEACCHプログラムについて復習する		
第11回	構造化① 理論	構造化の種類、具体的な方法について復習する		
第12回	構造化② 実際	日常の中にある構造化をいくつか見つけて、レポートを作成する		
第13回	ソーシャルストーリーズ 理論	ソーシャルストーリーズの理論について復習		
第14回	ソーシャルストーリーズ	各自、ソーシャルストーリーズを作成する		
第15回	まとめ	最終レポートの作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 授業中に指示します			
小テスト等	40% 学期途中の試験 持ち込み不可			
成果発表	なし			
受講態度他	積極的な態度で学ぶことを求めます			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>実技を含む授業なので、遅刻厳禁。 臨床動作法の回は動きやすい服装で参加してください。</p>			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	火曜日 10:00~12:00	メールアドレス		

授業科目	地理学		開講時期	前期
担当教員	遠城 明雄		単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業は、地理学、特に都市地理学の基本的な考え方について学び、グローバル化の進む現代社会の多様な諸問題を、自らの視点から説明できるようになることを目的としています。</p> <p>19世紀以降、世界は「都市化の時代」を迎え、現在世界の人口のほぼ半数が「都市」に居住するようになりました。先進国のみならず発展途上国においても、都市は経済、政治、文化、社会などさまざまな活動の拠点となっており、価値観の多様化する現代社会を深く理解するためにも、都市の歴史的な成り立ちやその特徴、問題点などを考えることは有効なアプローチであるといえます。</p> <p>この授業を通して地理学的な考え方を理解すると同時に、近現代都市の歴史と現状について基礎的素養を身に付けることができるようになります。</p>			
到達目標	<p>①近現代都市の歴史的形成と都市社会・空間の特質について、具体的に説明することができる。</p> <p>②現代都市が抱える諸問題について、グローバル化や人口減少・高齢化といった諸問題と関係づけて、具体的に説明することができる。</p> <p>③都市地理学の基本的な理論について、説明することができる。</p> <p>④都市問題への理解を深めることによって、論理的思考力や問題解決力を培うことができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、人間科学部共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
	イントロダクション 地理学・都市地理学の特徴について	地理学の入門書を手に取ってみる。		
	近代都市空間の形成① 19世紀以降のパリや日本の都市化と工業化について	古地図などを参考にしながら福岡の都心部を歩いてみる。		
	近代都市空間の形成② 公共サービス・交通・都市計画という側面からみた都市形成の特徴について	古地図などを参考にしながら福岡市の都心部を歩いてみる。		
	人口という視点から都市を考える① 人口の集中と都市化について	新聞などで世界の都市人口の推移を調べてみる。		
	人口という視点から都市を考える② 少子化と高齢化に伴う都市空間の変容について	新聞などで1970年代以降に開発された住宅団地について調べてみる。		
	経済活動から見た都市① 中枢管理機能とオフィス立地について	福岡の都心部を観察してみる。		
	経済活動から見た都市② 商業機能と観光・イベントについて	福岡の都心部を観察してみる。		
	都市問題の諸相① 都市の抱える社会問題について	都市問題に関する文献を調べてみる。		
	都市問題の諸相② 都市再開発をめぐる諸問題について	ロンドンやニューヨークの都市再開発について調べてみる。		
	発展途上国における都市問題① 過剰な都市化について	インターネットなども活用してインドや中国の都市を調べてみる。		
	発展途上国における都市問題② インフォーマル性について	インターネットなども活用してインドや中国の都市を調べてみる。		
	都市地理学の基礎理論① 経済的基盤について	テキストの関係する項目について復習する。		
	都市地理学の基礎理論② 認知と行動について	テキストの関係する項目について復習する。		
	都市と自然的条件について	テキストの関係する項目について復習する。		
	まとめ	全体の復習。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	75% 400字程度のレポートを合計3~4回提出してもらいます。課題は授業中に指示します。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	25% 受講態度や授業への参加度。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語はしないこと。 できるだけ欠席、遅刻、途中退出はしないこと。			
教科書	藤井正・神谷浩夫編著『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房 このほか随時プリントも配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	竹中克行編『人文地理学への招待』ミネルヴァ書房。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	通訳検定演習		開講時期	後期
担当教員	那須 省一		単位	1
授業の目的と概要	英語を話すうえで難しい単語を熟知していなくても道はある。平易な単語を上手に活用するだけで伝えられる世界はぐんと広がる。かぎを握るのは句動詞 (phrasal verb)。やさしい動詞を使った句動詞の表現を把握する。英字新聞の四コマ漫画も活用して、「普段着」の英語表現を会得する。読売新聞の人気投書欄「人生案内」の英訳を参考に、一見難解あるいは英文に仕立てにくそうな表現を英訳するポイントをつかむ。			
到達目標	状況に即し、goとかtakeとかgiveといった基本的な動詞を活用した句動詞でさまざまな表現ができるようになる。英語の基本的言い回しを身に付ける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション (授業の進め方などの説明)		プリントアウト精読	
第2回	take, talk, think, turn を使った句動詞 「人生案内」の英訳挑戦①		プリントアウト精読	
第3回	come, cut, close を使った句動詞 「人生案内」の英訳挑戦②		プリントアウト精読	
第4回	do, die, eat, finish, feel を使った句動詞 「人生案内」の英訳挑戦③		プリントアウト精読	
第5回	give, go を使った句動詞 「人生案内」の英訳挑戦④		プリントアウト精読	
第6回	hold, have を使った句動詞 「人生案内」の英訳挑戦⑤ 小テスト		プリントアウト精読	
第7回	knock, lay, lie を使った句動詞 「人生案内」の英訳挑戦⑥		プリントアウト精読	
第8回	make, move を使った句動詞 「人生案内」の英訳挑戦⑦		プリントアウト精読	
第9回	open, pay, put を使った句動詞 「人生案内」の英訳挑戦⑧		プリントアウト精読	
第10回	pull, push を使った句動詞 「人生案内」の英訳挑戦⑨		プリントアウト精読	
第11回	roll, run を使った句動詞 「人生案内」の英訳挑戦⑩ 小テスト		プリントアウト精読	
第12回	sit, start, stand を使った句動詞 「人生案内」の英訳挑戦⑪		プリントアウト精読	
第13回	break, bring を使った句動詞 「人生案内」の英訳挑戦⑫		プリントアウト精読	
第14回	write, work を使った句動詞 「人生案内」の英訳挑戦⑬		プリントアウト精読	
第15回	授業のまとめ		プリントアウト精読	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	なし			
小テスト等	20%			
成果発表	なし			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業でカバーするのは代表的句動詞 (phrasal verb) のほんの代表的な一部です。配布されたプリントを授業の後に熟読するようにしてください。筑女ネットの時間割欄に毎回、授業後にアップする授業のまとめも熟読してください。			
教科書	プリントアウト			
指定図書	なし			
参考図書	授業で適宜紹介する			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	哲学	開講時期	前期
担当教員	中本 幹生	単位	2
授業の目的と概要	この講義では、現代社会における具体的な諸問題を例にとり、哲学や倫理学における様々な基礎的な概念装置を用いてそれについて考察を行います。その諸問題とは例えば、障がい者差別や女性差別の問題、働く意義とは何か、家族のあり方、死刑制度の是非、富める国と貧しい国の格差の問題、環境問題、民主主義のあり方、感情と理性との関わり、宗教と国家の関係、等です。これらはあくまでも例にすぎず、このような問題に取り組むことによって目的とするのは、哲学・倫理学における基本的な思考法を身につけること、つまり、みずから主体的に思考する力を養うことです。、さらに、現代社会の諸問題について、一つのものの見方ではなく、多様な見方ができるようになることです。できるだけ多様な考え方、ものの見方に触れることで、受講者は自分で考える機会を得ることができます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 事実と価値の問題、理性と感情の関係、平等とは何か、責任とは何か、多文化主義、個人主義と共同体主義など、哲学的な基本概念を正しく説明することができる。</li> <li>2. 働く意義とは何か、差別の問題、死刑制度の是非、経済的格差の問題、環境問題、民主主義のあり方、感情と理性の関係、家族のあり方、宗教と国家の関係などの現代社会の諸問題について、自分の考え方を明示することができる。</li> <li>3. ある問題やテーマについて、一つのものの見方ではなく、多角的な見方ができるようになる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。「倫理学」などを受講することにより、さらに思想的な理解を相互に深めることができます。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	どこから差別になるの？(1)―障がい者差別の問題―	教科書第1章の予習・復習	
第2回	どこから差別になるの？(2)―女性差別の問題―	教科書第1章の予習・復習	
第3回	悲しみをどう乗り越える？(1)―グリーフ・ケアを例に―	教科書第4章の予習・復習	
第4回	悲しみをどう乗り越える？(2)―被害者遺族の感情の問題を例に―	教科書第4章の予習・復習	
第5回	どうして働くんだらう？(1)	教科書第5章の予習・復習	
第6回	どうして働くんだらう？(2)	教科書第5章の予習・復習	
第7回	正義の暴力なんてある？(1)―死刑制度の是非を例に―	教科書第7章の予習・復習	
第8回	正義の暴力なんてある？(2)―人道的介入の是非の問題―	教科書第7章の予習・復習	
第9回	これって僕らの責任？(1)―貧困国への援助の問題―	教科書第8章の予習・復習	
第10回	これって僕らの責任？(2)―戦争責任の問題―	教科書第8章の予習・復習	
第11回	これって僕らの責任？(3)―環境問題―	教科書第8章の予習・復習	
第12回	宗教ってこわい？―多様な価値観の共生へ向けて―	教科書第9章の予習・復習	
第13回	民主主義でどこまでいける？(1)―地方分権化を例に―	教科書第6章の予習・復習	
第14回	民主主義でどこまでいける？(2)―裁判員制度や外国人参政権の問題を例に―	教科書第6章の予習・復習	
第15回	家族の問題に口出ししちゃだめなの？―家族と国家の関係の問題―	教科書第3章の予習・復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	100% (授業内容を理解した上で、どれだけ自分で考えようとしているかを評価基準とします。)		
レポート	0%		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	0%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ビデオ教材も適宜使用する予定。なお、各回ごとの授業内容は、授業の進行に応じて一部変更することがある。		
教科書	新名隆志・林大悟[編]『エシックス・センス』ナカニシヤ出版(2013年4月)		
指定図書	なし		
参考図書	授業中にその都度指示する。		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	



授業科目	哲学	開講時期	前期
担当教員	浅田 淳一	単位	2
授業の目的と概要	ギリシャに始まる西洋哲学の歴史を知り、それが理性中心主義という主旋律を奏でてきたことを確認する。西洋哲学の伝統を継承しつつ、その限界を超えていこうとするルソーの哲学について知る。さらに学んできた知識を用いて「哲学が如何にして現代の諸課題に答えるか」を自ら考察する。 この講義では、「生きるための知恵」の探求から始まった西洋哲学の歴史をたどりつつ、いつのまにか忘れ去られたこの哲学の最初の問いに立ち返って現代にも通じる課題に挑戦したルソーの哲学について学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 西洋の哲学が、「生きるための知恵」の探求から存在論へ向かっていく道筋をたどることができる。</li> <li>2. 西洋の哲学の特徴として理性が重視されるに至った道筋をたどることができる。</li> <li>3. 人間が理性を持つことの利点と欠点を整理して述べるができる。</li> <li>4. ルソーの人間観について体系的に説明することができる。</li> <li>5. 学んできた哲学の知識を、現代の我々の課題に応用することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。 関連する科目は、「倫理学」「仏教学Ⅰ・Ⅱ」「人間学」です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 哲学とは： phi lo-sophosが初めて登場した文脈		課題（何のために大学に来たのか？自分なりに考えてみる）	
第2回 哲学するとは？： あなたは幸福の島に住みますか？		課題（幸福の島について、自分なりに具体的に考えてみる）	
第3回 ギリシャ自然哲学：存在への問いの始まり		課題（「はかなくないもの」について、自分なりに考えてみる）	
第4回 ピタゴラスとエレア学派：理性中心主義の確立		課題（「感覚的に経験できないが考えることができるもの」を挙げてみよう）	
第5回 ソフィストの哲学：存在論への最初の批判		課題（ソフィストの哲学の現代性を考慮に入れて、自分の哲学とする考える）	
第6回 理性の肯定的側面と否定的側面：屁理屈の問題点		課題（人間は理性を持つことで本当に幸福になったのか考えてみる）	
第7回 中世の哲学（普遍論争）：神は存在するのか？		課題（神は存在するかどうか、自分なりに真剣に考えてみる）	
第8回 近代哲学の夜明け：デカルトの合理論		課題（絶対に疑い得ない真理について、自分はどう考えるか）	
第9回 西洋哲学の批判的継承者ルソー：ルソーの生涯		課題（ルソーの生き方について、自分の考えをまとめてみる）	
第10回 ルソーの人間観：理性に対する感情の優位		教科書（『人間不平等起源論』の当該箇所を読んでくる）	
第11回 ルソー哲学の体系：市民と人間について		教科書（『人間不平等起源論』の当該箇所を読んでくる）	
第12回 『人間不平等起源論』読解：現代社会の批判的検討		教科書（『人間不平等起源論』の当該箇所を読んでくる）	
第13回 ルソーに於ける疎外の克服①『エミール』		課題（ルソーの名著『エミール』について調べてくる）	
第14回 ルソーに於ける疎外の克服②『社会契約論』		課題（ルソーのもう一つの名著『社会契約論』について調べてくる）	
第15回 講義全体のまとめ		課題（講義全体を自分のノートを見ながら振り返り講義全体の主張を確認）	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	100% ただし、例外あり、ルールに関わる情報を見よ。		
レポート	各講義の最後に簡単な問題に答えてもらうが、特に成績には反映させない		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	目に余る場合には、退出を要求し出席を取り消す場合がある。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語は厳禁。講義開始後30分以上遅刻した場合には入室は認めるが、出席としては認めない(欠席扱い)。テストの成績が合否のボーダーライン上にある場合には、受講態度を考慮する場合がある。		
教科書	『人間不平等起源論』（ルソー）岩波文庫		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み	メールアドレス	

授業科目	テレビ英語	開講時期	前期
担当教員	沖 洋子	単位	2
授業の目的と概要	<p>DVDを見ながら、素晴らしい世界遺産（文化遺産と自然遺産）のもつ環境、開発等の問題、文化、歴史等の知識を理解し、視野を広げることができる。そして世界遺産の抱える問題を通して、市民としての社会的責任について考えることができる。また世界の様々な英語の音声に触れ、基礎的かつ実用的な英語の聴解能力そして語彙力、文法能力、読解能力を向上させることができる。</p> <p>授業ではDVDを視聴し世界の様々な国、世界遺産について学習する。英語の表現、語彙、文法、長文を解説し、定期的に単語の小テスト、TOEICの問題を実施する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産を通して異文化の事情を説明することができる。</li> <li>・DVDの英語の音声聞き取り、正しく解釈することができる。</li> <li>・中上級レベルの英語の長文を解釈することができる。</li> <li>・中上級レベルの頻出単語、熟語を理解できる。</li> <li>・多様な問題を話し合い、倫理観・人間観について考え、コミュニケーションすることができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	なし		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 講義内容説明等		なし	
第2回 Unit 1 Carving the History of the Earth		予習 (Mini-quizzes, Previewing)の学習、Scriptの和訳・内容理解) 復習	
第3回 Unit 1 Carving the History of the Earth		予習 (Scriptの和訳・内容理解、DVD Viewing, Writing)の学習)・復習	
第4回 Unit 2 The Lying Dragon		予習 (Mini-quizzes, Previewing)の学習、Scriptの和訳・内容理解) 復習	
第5回 Unit 2 The Lying Dragon		予習 (Scriptの和訳・内容理解、DVD Viewing, Writing)の学習)・復習	
第6回 Unit 3 Monument to the Beloved		予習 (Mini-quizzes, Previewing)の学習、Scriptの和訳・内容理解) 復習	
第7回 Unit 3 Monument to the Beloved		予習 (Scriptの和訳・内容理解、DVD Viewing, Writing)の学習)・復習	
第8回 テキスト復習		Scriptの和訳をまとめる・DVDを視聴し意見感想を考える	
第9回 Unit 4 Where Ancient Spirits Live		予習 (Mini-quizzes, Previewing)の学習、Scriptの和訳・内容理解) 復習	
第10回 Unit 4 Where Ancient Spirits Live		予習 (Scriptの和訳・内容理解、DVD Viewing, Writing)の学習)・復習	
第11回 Unit 5 Beautiful Paris, Forever		予習 (Mini-quizzes, Previewing)の学習、Scriptの和訳・内容理解) 復習	
第12回 Unit 5 Beautiful Paris, Forever		予習 (Scriptの和訳・内容理解、DVD Viewing, Writing)の学習)・復習	
第13回 Unit 6 Hidden City		予習 (Mini-quizzes, Previewing)の学習、Scriptの和訳・内容理解) 復習	
第14回 Unit 6 Hidden City		予習 (Scriptの和訳・内容理解、DVD Viewing, Writing)の学習)・復習	
第15回 テキスト総復習		Scriptの和訳をまとめる・DVDを視聴し意見感想を考える	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	60% 学期末定期試験		
レポート	15% 授業において課題が課せられる。		
小テスト等	10% 単語等の小テスト		
成果発表	-		
受講態度他	15% 授業中の英語活動に参加し、質問、発言等を考慮します。欠席回数が授業回数の3分の1を超えると無資格になります。遅刻2回につき1回の欠席扱いとします。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席について、病院からの診断書付きの欠席、通院、就職活動など会社から証明されたものは考慮します。</li> <li>・授業中は基本的に退席を禁止します。(ただし、体調不良、トイレの使用などで退出する場合は許可を得てください。)</li> <li>・予習、復習を行い、教科書、ノート、辞書を持参して下さい。</li> </ul>		
教科書	塚野 壽一著 『Exploring World Heritage on DVD』成美堂		
指定図書	なし		
参考図書	奥田 隆一著 『Building Skills for the TOEIC Test』朝日出版社		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	テレビ論	開講時期	後期
担当教員	荒巻 龍也	単 位	2
授業の目的と概要	1. 映像メディアならびにテレビの歴史などについての理解を深める。 2. テレビ（放送）のしくみを理解する。 3. テレビのビジネス的側面や技術的側面を理解する。 4. 海外のテレビ事情について理解を深める。 現代社会において最も生活に溶け込み、最も影響力のあるメディアの一つであるテレビについて、様々な角度から考察し、理解していきます。テレビの歴史、番組、社会的側面、経済的側面、技術的側面などを様々な資料を元に考察していきます。あわせて海外におけるテレビの現状やテレビの未来についても考察していきます。		
到達目標	1. テレビの歴史について説明することができるようになる。 2. テレビのしくみ、ビジネス、技術などを説明できるようになる。 3. 海外のテレビ状況について説明できるようになる。 4. これからのテレビについて考察することができるようになる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連する科目：メディア論、メディア文化論 など		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の概要、授業計画、授業の進め方・受け方、テレビとは何か	復習（資料再読）	
第2回	テレビの歴史1（映像メディアの誕生からテレビの誕生まで）	関連資料の熟読→予習課題1、教材等の復習	
第3回	テレビの歴史2（テレビの誕生から発展）	関連資料の熟読→予習課題2、教材等の復習	
第4回	テレビと社会1（法律・規制、行政・政策など）	関連資料の熟読→予習課題3、教材等の復習	
第5回	テレビと社会2（文化、社会生活など）	関連資料の熟読→予習課題4教材等の復習	
第6回	テレビ番組	関連資料の熟読→予習課題5、教材等の復習	
第7回	メディアコンテンツとしてのテレビ番組	関連資料の熟読→予習課題6、教材等の復習	
第8回	前半のまとめ、レポート課題1について、テレビCMとテレビビジネス	これまでの復習・発表準備、関連資料の熟読→予習課題7、教材等の復習	
第9回	視聴率とテレビビジネス	関連資料の熟読→予習課題8、教材等の復習	
第10回	テレビ技術(1)	関連資料の熟読→予習課題9、教材等の復習	
第11回	テレビ技術(2)	関連資料の熟読→予習課題10、教材等の復習	
第12回	海外テレビ事情1（アメリカ、ヨーロッパ）	関連資料の熟読→予習課題11、教材等の復習	
第13回	海外テレビ事情2（アジア、その他）	関連資料の熟読→予習課題12、教材等の復習	
第14回	新しいテレビ、これからのテレビ	関連資料の熟読→予習課題13、教材等の復習	
第15回	全体のまとめと発表、レポート課題2について	これまでの教材等の復習→予習課題14、発表準備、レポート課題2	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	0% なし		
レポート	80% レポート課題1（前半のまとめ）（20%）、レポート課題2（テレビの現状と未来について）（20%）、予習課題・授業中課題（40%）		
小テスト等	0% なし		
成果発表	10% 発表・プレゼンテーション		
受講態度他	10% 出席状況ならびに授業に対する積極性など		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業はプリントならびに筑女ネットのPowePoi nt教材等を利用して進めていきます。授業中に必ずしも筑女ネットを閲覧する必要はありませんが、予習・復習ならびに課題においては筑女ネットの閲覧が必須になります。筑女ネット教材の閲覧・利用が確実にできるようにしておいてください。 授業中にほぼ毎回、各回の予習（関連資料の熟読）、復習（授業内容）に関する小課題に取り組んでもらいます。授業中は私語などもなく、集中して受講してください。		
教科書	なし（プリントならびに「筑女ネット」のオンライン教材）		
指定図書	なし		
参考図書	トリプルウイン著 『徹底図解 放送のしくみ』 新星出版社 藤竹 暁著 『図説 日本のメディア』 NHKブックス（NHK出版）		
オフィスアワー	火曜日 11:00 - 12:00、金曜日 10:00 - 12:00	メールアドレス	

授業科目	天文学		開講時期	前期
担当教員	藤本 晶子		単位	2
授業の目的と概要	私たちの住む地球は宇宙を構成する天体の1つであるとともに、私たち人間も宇宙を構成する要素の1つである。つまり宇宙を知ることが、私たち人間自身の存在意義を考えることでもある。天文学とは、宇宙の誕生・進化・未来を探求する学問である。この授業では、天文学の基礎知識・歴史を体得することで、人間活動・技術の進歩に伴う天文・宇宙に関する学問の発展について、自分の宇宙観に基づき説明できることを目的とする。			
到達目標	1：天文学における諸現象を具体的に列挙・分類することができる。 2：宇宙に関連する諸現象を、天文学の基本原則・法則に基づいて説明できる。 3：日常的に天文に関連する事象に関心を持ち、それらを適切な基本原則と結びつけることができる。 4：宇宙に関する独自の世界観を構築する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は文学部・人間科学部のDP③「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。 地球惑星科学（藤本・後期開講）と一部関連する。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業のイントロダクション：天文学が扱う諸現象の空間・時間スケール		宇宙の領域範囲について自説をまとめる		
第2回 天文学の歴史的所見：暦の成り立ちと歩み		世界標準時について調べる		
第3回 太陽系の構成		太陽系惑星について整理・分類する		
第4回 太陽系の形成と地球の誕生		地球に生命が存在できる条件を挙げる		
第5回 太陽活動と地球への影響		太陽活動と人間生活の関係について考える		
第6回 宇宙天気		宇宙天気関連サイトを調べて閲覧しておく		
第7回 地球と月		月が地球にもたらす影響を考察する		
第8回 恒星の世界：性質とその一生		太陽の終焉について考える		
第9回 星座の成り立ち		古代神話の関係する星座をひとつ調べる		
第10回 地球の自転と公転		地動説について調べる		
第11回 惑星の運動		ケプラーの法則を調べる		
第12回 惑星・衛星以外の天体		日本の惑星探査について調べる		
第13回 銀河と宇宙の構造		宇宙の広がりや日常的な距離で実感する		
第14回 宇宙観の発展		宇宙の始まりについて考える		
第15回 天文学の将来：宇宙の探求		宇宙旅行の可能性を想像してみる		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40％（中間・期末レポート：計2回提出）、30％（毎講義内に小レポートを実施）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％（受講態度、質疑等による授業への貢献度）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席、遅刻、途中退出、授業中の私語は慎むこと。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	データから見る社会	開講時期	前期
担当教員	野中 亮	単 位	2
授業の目的と概要	社会調査の実施に必要な基本的な知識を身につけることを目的とします。実際の統計データや調査報告書等を題材に、社会調査および調査データの収集・利用方法・解釈・分析法についての知見を修得します。		
到達目標	日本における代表的な調査（センサス等）の概略を説明でき、その活用ができる。 量的・質的調査のデータや分析方法の特性について理解し、調査の成果物を読み解くことができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現代社会学部DP③「現代社会をより深く知るための調査方法やデータ分析方法を身につけている」に該当します。 「調査データの集め方」と同じく、社会調査士資格取得のための必修科目（A科目に該当）です。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 社会調査とは		講義のノートを復習し、要点を整理しておくこと。	
第2回 社会調査の歴史		教科書1-2等を使って予復習しておくこと。	
第3回 社会調査の種類(1)		教科書1-5等を使って予復習しておくこと。	
第4回 社会調査の種類(2)		教科書1-5等を使って予復習しておくこと。	
第5回 社会調査の方法		教科書1-6等を使って予復習しておくこと。	
第6回 量的調査		参考図書2のpp. 34-41等を使って予復習しておくこと。	
第7回 質的調査		参考図書1の第8, 9章等を使って予復習しておくこと。	
第8回 調査倫理とは		教科書1-4等を使って予復習しておくこと。	
第9回 資料の検索と利用法		参考図書1の第2章等を使って予復習しておくこと。	
第10回 官庁統計の利用法		教科書1-7等を使って予復習しておくこと。	
第11回 量的データの読み方と利用法		教科書1-7、参考図書1のpp. 50-63等を使って予復習しておくこと。	
第12回 質的データの読み方と利用法		講義資料を使って復習中心に学習しておくこと。	
第13回 調査報告書の読み方(1)		教科書3-1～3-4等を使って復習中心に学習しておくこと。	
第14回 調査報告書の読み方(2)		教科書3-5～3-7等を使って復習中心に学習しておくこと。	
第15回 調査報告書の読み方(3)		これまで配布した資料等を元に、前期全体の学習事項を整理しておくこと。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	学期末にレポートを課します。30点		
小テスト等	毎回小課題を課します。5点×14回＝70点		
成果発表	なし		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を使用しますが、随時別資料も配付するので注意すること。</li> <li>授業外学修の時間は180分程度を想定しています。</li> <li>私語には厳格に対応します。快適な学びの場の維持に協力してください。</li> </ul>		
教科書	篠原清夫 他『社会調査の基礎 社会調査士A・B・C・D科目対応』弘文堂		
指定図書	なし		
参考図書	1 大谷信介 他『新・社会調査へのアプローチ 論理と方法』ミネルヴァ書房 2 轟亮 他『入門・社会調査法[第2版]』法律文化社		
オフィスアワー	月曜4限	メールアドレス	

授業科目	データベース演習		開講時期	前期
担当教員	神屋 郁子		単位	2
授業の目的と概要	「情報処理基礎演習II」を踏まえた上で、データベースの概念を学び、Microsoft Access2013を使って演習をします。本格的なAccess2013の使い方を学び、Access2013の機能を、基本から応用まで身につけることを目的とします。本講義を受講することで、マイクロソフトオフィススペシャリスト(MDS)Access2013の基礎を学習します。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データベースの概念と関係データベース、SQLについて理解する。</li> <li>・Accessの基本的な操作ができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回：ガイダンス、データベース概要		課題		
第2回：関係データベース・データ操作		課題		
第3回：SQL(1)		課題		
第4回：SQL(2)		課題		
第5回：SQL(3)		課題		
第6回：関係データベースまとめ		課題		
第7回：小テスト(1)(関係データベースとSQL)		課題		
第8回：Accessの基礎知識、データベースの設計と作成		課題		
第9回：テーブルによるデータの格納		課題		
第10回：リレーションシップの作成・クエリによるデータの加工		課題		
第11回：フォームによるデータの入力		課題		
第12回：クエリによるデータの抽出と集計		課題		
第13回：レポートによるデータの印刷		課題		
第14回：実践演習		課題		
第15回：小テスト(2)		課題		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	課題(30%)			
小テスト等	小テスト(1)(20%)、小テスト(2)(30%)			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度(20%)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第8回以降はPCを必ず持ってくる。PCの故障の場合は早めに修理に持っていき、PCの故障時にはメディアセンターで保守機を借りるなどし、授業中は必ずPCが使える状態にしておくこと。</li> <li>・Access2013をインストールしておくこと。</li> <li>・教科書は必ず買うこと&amp;毎回持ってくること。</li> <li>・欠席しても、教科書や講義資料などを参考にレポートに取り組み、欠席した分をフォローすること。</li> </ul>			
教科書	よくわかるMicrosoft Access 2013基礎 (FOM出版のみどりの本) ¥2,000 (税別)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーカー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	統計学	開講時期	後期
担当教員	村上 佳世	単 位	2
授業の目的と概要	この授業では、記述統計を学び、さらに推測統計の初歩を学ぶ。自ら集めたデータや与えられたデータを客観的に整理し、統計学的に推測することで「正しい社会のありさま」を提示する方法を学ぶ。統計学の基本的な知識をもとに「社会の誤解」に惑わされずに、現代社会の様々な側面を客観的に捉えることができる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会を理解するためになぜ統計学が必要なのかを自分の言葉で説明できる。</li> <li>2. 記述統計の原理を理解し、与えられたデータから記述統計を作成することができる。</li> <li>3. 推測統計の原理を理解し、与えられたデータから統計学的に分析、推測し、初歩的な情報を読み取ることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、人間科学部共通科目のDP3である「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。社会の諸側面を数値化して具体的かつ客観的に知るための基礎的な科目であり、①同時に開講されている学部共通科目「数学一般」「数学応用」「自然科学」の応用的な性格をもち、②「人間関係論」「マイノリティを生きる」「生命倫理」「人間学」等で扱う題材の基礎データを生み出し理解するための科目としても、併せて受講することで、社会の諸問題に対して理解が深まる。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	統計学とは何か：予備知識のテストと解説	テスト結果を見直して、弱点を把握し補強する。	
第2回	一変数の記述統計①：代表値	与えられたデータの代表値を計算する	
第3回	一変数の記述統計②：分散と標準偏差	与えられたデータの分散と標準偏差を計算する	
第4回	一変数の記述統計③：標準化	与えられたデータを標準化する	
第5回	第2回～第4回のおまとめと発表準備	与えられたデータを標準化して比較する	
第6回	発表	自己グループの発表を整理し、自身の弱点を把握・補強する	
第7回	二変数の記述統計①：共分散	与えられたデータで共分散を計算する	
第8回	二変数の記述統計②：相関係数	与えられたデータで相関係数を計算する	
第9回	二変数の記述統計③：クロス集計	与えられたデータからクロス集計表を作成・分析する	
第10回	第7回～第9回のおまとめと発表	自己グループの発表を整理し、自身の弱点を把握・補強する	
第11回	推測統計①：サンプリング	サンプリングの計画を立て、サンプリングを行う	
第12回	推測統計②：推定	サンプリングしたデータをもとに推定をする	
第13回	推測統計③：仮説検定	サンプリングしたデータをもとに仮説検定を行う	
第14回	推測統計④：平均値の比較	サンプリングしたデータをもとに平均値を比較する	
第15回	第11回～第14回のおまとめと発表	発表資料をまとめてレポートを作成する	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	30%		
小テスト等	30%		
成果発表	30%		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関する情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>①毎回の授業の最後に課題を出す（復習作業）。</li> <li>②欠席が6回以上の場合には評価しない（就職活動、病気、その他の理由による欠席は証明書提出要）。</li> </ol>		
教科書	毎回の授業に配布する		
指定図書	特になし		
参考図書	特になし		
オフィスアワー	月曜昼休み（12:20-13:10）、火曜昼休み（12:20-13:10）	メールアドレス	

授業科目	東南アジア近現代史		開講時期	後期
担当教員	横山 豪志		単位	2
授業の目的と概要	<p>東南アジア近現代史について、現存の東南アジアの国々の成立過程に着目し、そのダイナミズムを理解することがこの講義の目的です。個々の出来事よりも、むしろそれがなぜ起こったのか、また後の時代にどのような影響を及ぼしたのか、を中心に学びます。その中で、日本占領期が東南アジアに及ぼした影響についても理解を深めていきます。東南アジアの近代は、ヨーロッパの到来と植民地の形成に始まります。植民地支配を行った側の支配の論理と実態、そして支配された側が自らの国を作っていた民族主義の論理と運動を、地域ごとに学びます。その過程の中で、日本占領期の意義を確認していきます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 欧米各国による東南アジアの植民地化の経緯と、その違いを説明できる。</li> <li>2. 東南アジアの人びとが民族意識に目覚め、自らの国を作っていた経緯が説明できる。</li> <li>3. 東南アジアにおける日本占領期の意義と影響について説明できる。</li> <li>4. 東南アジアの近現代史に関する文献を、自ら集めて分析することができる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>この講義は、アジア文化学科のDP3「アジアの地理・歴史についての基礎的・専門的知識を身につけている。」の達成に関わる科目です。</p> <p>この講義で東南アジア各地の歴史を学んだうえで、「東アジア近現代史」や「南アジア近現代史」、「西アジア近現代史」といった異なる地域の近現代史を学び、それぞれの地域を比較すると特徴がより理解できます。また東南アジアにおける日本占領期の意義と影響を理解したうえで、「近代日本とアジア」を履修すると、日本の側の論理を理解することができます。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 オリエンテーション	東南アジア近現代史を学ぶことの意義		第2回用レジュメ、資料に基づき予習	
第2回 前近代の東南アジア			第3回用レジュメ、資料に基づき予習	
第3回 交易の時代			第4回用レジュメ、資料に基づき予習	
第4回 スペイン・イギリスの植民地支配			第5回用レジュメ、資料に基づき予習	
第5回 オランダ・フランスの植民地支配			第6回用レジュメ、資料に基づき予習	
第6回 原住民エリート の覚醒			第7回用レジュメ、資料に基づき予習	
第7回 民族主義運動の展開(1) インドネシア			第8回用レジュメ、資料に基づき予習	
第8回 民族主義運動の展開(2) フィリピン、ビルマ			第9回用レジュメ、資料に基づき予習	
第9回 民族主義運動の展開(3) ヴェトナム			第10回用レジュメ、資料に基づき予習	
第10回 日本の南方関与			第11回用レジュメ、資料に基づき予習	
第11回 日本軍政のインパクト			第12回用レジュメ、資料に基づき予習、 期末レポート準備	
第12回 日本軍政の位置づけ(1) インドネシアの事例			第13回用レジュメ、資料に基づき予習、 期末レポート準備	
第13回 日本軍政の位置づけ(2) 今日の視点から			第14回用レジュメ、資料に基づき予習、 期末レポート準備	
第14回 独立国家の誕生			第15回用レジュメ、資料に基づき予習、 期末レポート準備	
第15回 今日の東南アジア			期末レポート準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% 期末レポート40% 毎回提出の「講義の概要」(各回5段階評価)50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ ルールに関わる 情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	火14:50~16:20、水12:00~13:00、16:30~17:30	メールアドレス		



授業科目	東南アジア入門		開講時期	前期
担当教員	横山 豪志		単位	2
授業の目的と概要	<p>アジア、とりわけ東南アジアについてこれから勉強していくためには、まずその地域に対して興味関心を持つことが重要です。そのために、東南アジアに関する基礎知識と、特徴的な事柄について学び、理解していくことがこの講義の目的です。併せて、今日の東南アジアにおいて日本がどのように位置づけられているのかを知り、日本とアジアの関係について理解を深めます。東南アジアと一口に言っても、そこに属する11カ国の歴史、社会、文化などは多様性に富みます。この講義では、その違いよりも東南アジア各国に共通する特徴について理解を深めていきます。とりわけ日本と異なる点、日本であまり紹介されていないけれども重要な点についての認識を高めていきます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東南アジアの基本的な地域的特性、日本との違いを説明できる。</li> <li>2. 東南アジアの社会や文化、人びとの暮らしについて具体的に列挙できる。</li> <li>3. これから東南アジアについていく意欲に繋がる、興味関心を持つことができる。</li> <li>4. 東南アジアに関する基礎的文献を、自ら集めて分析していくことができる。</li> </ol>			
この授業が目的とするDPや関連する科目など	<p>この講義は、アジア文化学科のDP 2「東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの各地域の社会事情について、具体的な事例を通して説明できる。」の達成に関わる科目です。 この講義で東南アジアに関する基礎知識を身に付けてうえで、「東アジア入門」や「南アジア入門」、「西アジア入門」という他地域の入門科目を併せて履修することで、東南アジアの地域的特性をより理解することができます。 また「現代東南アジア事情」や「アジア政治論」などの、より詳しい内容の科目を履修することで、理解を深めることができます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回 オリエンテーション	アジアとは、東南アジアとは	第2回用レジュメ、資料に基づき予習		
第 2回 東南アジアへの誘い	マレーシアの事例	第3回用レジュメ、資料に基づき予習		
第 3回 東南アジアの国ぐに(1)	各国の基礎知識 島嶼部	第4回用レジュメ、資料に基づき予習		
第 4回 東南アジアの国ぐに(2)	各国の基礎知識 大陸部	第5回用レジュメ、資料に基づき予習		
第 5回 東南アジアの遺跡(1)	ボロブドゥールとバガン遺跡群	第6回用レジュメ、資料に基づき予習		
第 6回 東南アジアの遺跡(2)	アンコールワット	第7回用レジュメ、資料に基づき予習		
第 7回 海に生きる人びと(1)	漂海民とは	第8回用レジュメ、資料に基づき予習		
第 8回 海に生きる人びと(2)	漂海民と環境問題	第9回用レジュメ、資料に基づき予習		
第 9回 東南アジアの宗教(1)	概論	第10回用レジュメ、資料に基づき予習		
第10回 東南アジアの宗教(2)	上座仏教	第11回用レジュメ、資料に基づき予習		
第11回 イスラーム概論(1)	イスラームの基礎知識	第12回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備		
第12回 イスラーム概論(2)	ムスリムの日常生活	第13回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備		
第13回 インドネシアン・ポップあれこれ		第14回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備		
第14回 東南アジアの中にもみるニッポン(1)	モノ・ヒト・ソフト	第15回用レジュメ、資料に基づき予習、期末レポート準備		
第15回 東南アジアの中にもみるニッポン(2)	東南アジアから見る日本	期末レポート準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90% 期末レポート40% 毎回提出の「講義の概要」(各回5段階評価)50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% レジュメ、資料を使用しながら、きちんと聴講10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁です。ひどい場合には退出してもらいます。その他の事柄については、オリエンテーション時にお伝えします。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義内で適宜、指示します。			
オフィスアワー	水13:00～14:40、木12:20～13:30	メールアドレス		

授業科目	特別活動指導論	開講時期	前期
担当教員	竹熊 真波	単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業の目的は、第1に特別活動の教育課程上の位置づけや目標、歴史の変遷などを理解することである。第2に、特別活動の具体的内容と目標、指導方法・評価について実践的に理解することである。</p> <p>授業の概要としては、授業外学習としてあらかじめテキストを読み、事前に配布されたワークシートを完成させたうえで、テーマに応じた学びあいの活動を行う。なお、毎回の授業のはじめに週当番による朝の会を想定した模擬授業（SHR活動）を行う。さらに、実践的活動として学級活動や学校行事（合唱）に取り組み、特別活動の実践的理解を図る。</p>		
到達目標	<p>①特別活動の教育課程上の位置づけ、全体目標、歴史の変遷を説明できる。</p> <p>②特別活動の具体的な内容と目標を説明できる。</p> <p>③指導実践を通して、特別活動の目標や意義を体験的に理解できる。</p> <p>④特別活動と他教科、生徒指導等との関連について理解できる。</p> <p>⑤集団活動を通じてチームワークの大切さを知り、お互いを高め合うことができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動の指導法</li> </ul>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 特別活動の位置づけと教育的意義		テキスト19頁他のワークシート（WS）に取り組み	
第2回 特別活動の実践的理解①学級活動（人間関係づくり）		（全員）27頁他のWS （当番）SHRの指導案作成と準備	
第3回 特別活動の目標と内容		（全員）27頁他のWS （当番）SHRの指導案作成と準備	
第4回 特別活動の変遷		（全員）WS （当番）SHRの指導案作成と準備	
第5回 学級会活動		（全員）59頁他のWS （当番）SHRの指導案作成と準備	
第6回 特別活動の実践的理解②学級活動（合唱についての話し合い活動）		（全員）73頁他のWS/合唱曲練習 （当番）SHRの指導案作成と準備	
第7回 生徒会活動・クラブ活動学校行事		（全員）83頁他のWS/合唱曲練習 （当番）SHRの指導案作成と準備	
第8回 学校行事		（全員）合唱の計画案作成/合唱曲練習 （当番）SHRの指導案作成と準備	
第9回 特別活動の指導計画		（全員）99頁他のWS/合唱曲練習 （当番）SHRの指導案作成と準備	
第10回 特別活動と各教科、道徳及び総合的な学習の時間との関連		（全員）33頁他のWS/合唱曲練習 （当番）SHRの指導案作成と準備	
第11回 生徒指導との関連		（全員）39頁他のWS/合唱曲練習 （当番）SHRの指導案作成と準備	
第12回 特別活動と人間関係づくり・社会性の育成		（全員）43・47頁他のWS/合唱曲練習	
第13回 特別活動の実践的理解③合唱のリハーサルと本番		合唱本番に向けての準備	
第14回 特別活動における評価		（全員）105頁他のWS・合唱に関する自己評価	
第15回 授業の総括と評価		これまでの学修の振り返り	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	40％ 授業で得た知見をもとに具体的な事例を説明し、自説を展開できるかを問う		
レポート	なし		
小テスト等	20％ 授業の最後に小テストを行うことがある		
成果発表	20％ 実践的活動(合唱や話し合い等) や週当番としての取り組み		
受講態度他	20％ 課題の提出状況等		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>教職履修生には、将来的に教職に就くことを前提に、それにふさわしい履修態度を求めます。</p> <p>ワークシートの答えは、筑女ネットにアップしますが（時間割→当該科目→当該ファイル）、ただ答えを書き写すのではなく、あらかじめテキストや解説書の指定された箇所を読みながら穴埋めに取り組み、正誤を確認した上で授業に臨んでください。</p>		
教科書	『小学校学習指導要領解説 特別活動編』 渡辺邦雄・緑川哲夫・桑原憲一編著『特別活動指導法』 日本文教出版		
指定図書	なし		
参考図書	伊東毅「未来の教師におくる特別活動論」武蔵野美術大学出版局、北村文夫「指導法 特別活動」玉川大学出版部、渡辺邦雄他編著「特別活動指導法」 日本文教出版等		
オフィスアワー	金曜13時～16時	メールアドレス	

授業科目	特別活動指導論【中等教職】	開講時期	前期
担当教員	竹熊 真波	単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業の目的は、特別活動の教育課程上の位置づけや目標、歴史的変遷などを理解すること、さらに、特別活動の具体的内容と目標、指導方法・評価について実践的に理解することである。</p> <p>授業の概要としては、毎回の授業のはじめに、当番により朝の会（SHR）を想定した模擬授業を班別に行ったあと、授業テーマに沿ってあらかじめ予習（穴埋め）をしておいたプリントの解説をし、ワークシートを基にした話し合い活動等の体験学習へと移行する。</p> <p>また、実践的活動として学級活動や学校行事（合唱）に取り組み、特別活動の実践的理解を図る。</p>		
到達目標	<p>①特別活動の教育課程上の位置づけ、全体目標、歴史的変遷を説明できる。</p> <p>②特別活動の具体的な内容と目標を説明できる。</p> <p>③指導実践を通して、特別活動の目標や意義を体験的に理解できる。</p> <p>④特別活動と他教科、生徒指導等との関連について理解できる。</p> <p>⑤グループ活動を通じてチームワークの大切さを知り、お互いを高め合うことができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育課程及び指導法に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。</p> <p>・特別活動の指導法</p> <p>さらに、後期に開講される「特別活動演習」に連動する科目です。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	特別活動の位置づけと教育的意義	テキスト19頁のワークシート、配布資料の穴埋め（以後毎回）	
第2回	特別活動の実践的理解①学級活動（人間関係づくり）	（全員）27頁のワークシート （当番）次回のSHRの準備	
第3回	特別活動の目標と内容	（全員）27頁のワークシート （当番）次回のSHRの準備	
第4回	特別活動の実践的理解②学級活動（合唱曲についての話し合い活動）	（全員）合唱曲の練習（以後本番まで毎回）	
第5回	特別活動の変遷	（全員）59頁のワークシート （当番）次回のSHRの準備	
第6回	学級会活動・ホームルーム活動	（全員）73頁のワークシート （当番）次回のSHRの準備	
第7回	生徒会活動・部活動	（全員）83頁のワークシート （当番）次回のSHRの準備	
第8回	学校行事	合唱に向けての計画書の作成	
第9回	特別活動の指導計画（学習指導案）	（全員）99頁のワークシート （当番）次回のSHRの準備	
第10回	特別活動と各教科、道徳及び総合的な学習の時間との関連	（全員）33頁のワークシート （当番）次回のSHRの準備	
第11回	生徒指導との関連	（全員）39頁のワークシート （当番）次回のSHRの準備	
第12回	人間関係づくり・社会性の育成と特別活動	（全員）43・47頁のワークシート （当番）次回のSHRの準備	
第13回	特別活動の実践的理解③合唱リハーサル／本番	（全員）105頁のワークシート	
第14回	特別活動における評価	合唱活動に関する自己評価	
第15回	授業の総括	これまでの学修の振り返り	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	40％ 授業で得た知見をもとに具体的な事例を説明し、自説を展開できる。		
レポート	なし		
小テスト等	20％ 授業の最後に小テストを行うことがある		
成果発表	20％ 実践的活動や週番としての取り組み		
受講態度他	20％ 課題の提出状況		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>教職履修生には、将来的に教職に就くことを前提に、それにふさわしい履修態度を求めます。</p> <p>配布資料については、筑女ネットに穴埋めをしたものをアップしていますが、単に答えを書き写すのではなく、まずテキストや解説書を読みながら自身で解き、筑女ネットを通じて答え合わせをしたうえで、授業に臨むようにしてください。</p>		
教科書	『中学校学習指導要領解説 特別活動編』『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』渡辺邦雄・緑川哲夫・桑原憲一編著『特別活動指導法』日本文教出版		
指定図書	なし		
参考図書	伊東毅『未来の教師におくる特別活動論』武蔵野美術大学出版局、北村文夫『指導法 特別活動』玉川大学出版部、渡辺邦雄他編著『特別活動指導法』日本文教出版等		
オフィスアワー	金曜13時～16時	メールアドレス	

授業科目	特別活動実習【中等教職】		開講時期	後期
担当教員	竹熊 真波		単位	1
授業の目的と概要	<p>演劇の発表というアクティブ・ラーニングを通して、特別活動の教育的意義を体験的に学ぶことを目的とする。具体的に身に付けてほしい力は、①現代社会で必要な豊かな人間性、コミュニケーション能力、他者との調整能力。②教師の実践的な資質としてのリーダーシップ、企画力、表現力である。</p> <p>履修者は、前期のうちから、自主的に活動を開始するものとする。まずは、5月末に実施される教職合宿に参加し、テーマや役割分担などを決定し、具体的な方向付けを図る。本格的な練習は後期開始前の9月初旬より開始し、後期開始後はリハーサルを重ねる。あくまで「全員で創る」、「自分たちの力で創る」を原則として、素材決め、脚本作り、役決め、演技練習、音響・照明の構成などを行い、学園祭時にその成果を発表する。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇を創作する上で必要な構成力、表現力を獲得する。</li> <li>・自らの意見を伝え、人の意見を聞き、また意見を聞きだすことができる。</li> <li>・自身の役割を自ら見つけ出し、果たすことができる。</li> <li>・多人数によってひとつのイベントを成し遂げた達成感と、その過程における葛藤を通じて「仲間づくり」を実践的に体験する。</li> <li>・イベントの開催には周囲の理解・協力が不可欠であることを理解し、感謝の心を持つことができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	第1回劇についての合同リハーサル (金4)		各自の役割や課題を再考する	
第2回	合同リハーサルの相互評価 (金5)		活動日誌の作成	
第3回	舞台練習 (補講対応予定)		各自の役割や課題をまとめる	
第4回	舞台練習 (補講対応予定)		活動日誌の作成	
第5回	舞台練習 (補講対応予定)		各自の役割や課題をまとめる	
第6回	舞台練習 (補講対応予定)		活動日誌の作成	
第7回	第2回合同リハーサル (含：合唱) (金4)		各自の役割や課題をまとめる	
第8回	相互評価 (金5)		活動日誌の作成	
第9回	第3回全体リハーサル (金4)		各自の役割や課題をまとめる	
第10回	相互評価 (金5)		活動日誌の作成	
第11回	最終リハーサル (金4)		各自の役割や課題をまとめる	
第12回	先輩からの評価 (金5)		各自の役割や課題をまとめる	
第13回	本番発表		各自の役割や課題をまとめる	
第14回	反省会 (金4) 後日個人面談一人10～15分		課題レポートの作成・提出	
第15回	まとめ (1月最終講義)		授業評価と今後のスケジュールの確認	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 指定された課題について、11月中に提出			
小テスト等	10% 活動日誌など提出物の提出状況			
成果発表	50% 教職劇への取り組み			
受講態度他	20% 面談指導の結果			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>教職生としての自覚を持って取り組むこと。指定図書は5月末に実施される教職合宿までに熟読しておくこと。今回は5月スタートとし、7月中に脚本を作成し、キャストの決定を行う一方、8月の活動は中止、9月より練習を再開することとする。各自スケジュール管理をしっかりとしておくこと。</p> <p>教職劇に主体的に取り組むこと。しかし、あくまでも授業優先であることも念頭に置くこと。</p>			
教科書	なし			
指定図書	平田オリザ『演劇入門』講談社現代新書			
参考図書	菅井建『中学生・高校生のための劇作り9か条』晩成書房、かめおかゆみこ『演劇やろうよ！指導者篇』青弓社			
オフィスアワー	金曜11時～14時	メールアドレス		

授業科目	特別支援学校教育実習【中等教職】	開講時期	通年
担当教員	酒井 均	単 位	3
授業の目的と概要	<p>本講義は、特別支援学校教員免許取得希望者が、教育実習を通じて、教育現場や教師の仕事の実際を理解し、これまでに学んできた「教職に関する科目」ならびに「特別支援教育に関する科目」における理論的な知識を応用する力を身につけ、自己の教師としての適性を再考することを目的とする。</p> <p>教育実習は、大きく分けて「観察実習」、「参加実習」、「実証（教壇・実地）実習」に分けられる。実習の基本的な流れとしては、先生方の授業や生徒達の様子、学校の規則等を「観察」し、ホームルームでの点呼や掃除の指導など徐々に学校や学級での教育活動に「参加」した上で、最終的に指導教員の下で指導案を作成し、実際に授業を行う（実証実習）こととなる。</p> <p>実習に際しては、社会人としてのマナー（服装、言葉遣い、時間厳守など）や健康管理に留意し、指導の先生方や生徒とも自ら積極的にコミュニケーションをとり、常に能動的に行動することが望まれる。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育に対する理解を深め、教職に就くことの適性を判断する</li> <li>教師としての実践的力量を経験的・実践的に形成する</li> <li>教師としての職業倫理を経験的に培う</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 等	
	基本的には9月から12月にかけて2週間特別支援学校での実習となる。実習校の状況によっては6月から7月の受け入れもあり得る。	-	
	第1週目 観察実習・参加実習 1週目中旬から（時には初日から）実証実習が開始される場合が多い	事前の教材研究を十分に行う	
	第2週目 実証実習 指導教員の助言をしっかりと受け止め、授業を改善し、研究授業につなげる	授業準備と反省	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
	-	-	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0％		
レポート	50％（教育実習日誌・教育実習報告書）		
小テスト等	0％		
成果発表	0％		
受講態度他	50％（実習校からの評価）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>実習日誌は、実習校から特に指示がない限り、ボールペンで記入すること。誤字・脱字がないよう留意し、丁寧に書くこと。</li> <li>無断欠勤や遅刻は決して許されない（提出物も期限内に出すこと）。</li> <li>教材研究は必要だが、それだけに終始せず、他の授業や部活動などにも、先生方の許可を得た上で積極的に参加すること。</li> <li>生徒との個人的な交流（携帯番号等を教えるなど）をしてはならない。</li> </ul>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	特別支援学校学習指導要領 文部科学省		
オフィスアワー	火曜日お昼休み	メールアドレス	

授業科目	特別支援教育総論		開講時期	前期
担当教員	酒井 均		単 位	2
授業の目的と概要	<p>障がいについて知り、その特徴についての理解を深める。          個々の障がいに応じた発達を援助する方法についての理解を深める。          個々の障がいに対する教育の理解を深める。</p> <p>発達において大きな課題となる障がいについて学習していきます。最近よく話題にのぼる発達障害についても詳しく学習していきます。          それぞれの障がいの特徴を理解し、その支援（教育・法制度も含む）について学習していきます。</p>			
到達目標	<p>障がいについてその特徴を説明できる。          障がいに応じた発達を援助する方法を説明できる。          障がいに応じた教育を説明できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目はコースDP3「援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる」を充足するための科目です。          また、特別支援学校教諭免許取得において必修科目です。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション	レポート作成		
第2回	障がいについて	レポート作成		
第3回	知的障がいについて 特徴と教育	レポート作成		
第4回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 特徴と教育 その1	レポート作成		
第5回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 特徴と教育 その2	レポート作成		
第6回	ADHDについて 特徴と教育	レポート作成		
第7回	LDについて (1) 特徴と教育	レポート作成		
第8回	LDについて (2) サブタイプの特徴と教育	レポート作成		
第9回	視覚障がいについて 特徴と教育	レポート作成		
第10回	聴覚障がいについて 特徴と教育	レポート作成		
第11回	コミュニケーション障がいについて 特徴と教育	レポート作成		
第12回	運動障がいについて 特徴と教育	レポート作成		
第13回	重度・重複障がいについて 特徴と教育	レポート作成		
第14回	特別支援教育とは	レポート作成		
第15回	家族支援とまとめ	レポート作成		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	ショートレポート30%、最終レポート70%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度も参考にします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回授業の最後に課題を出します。			
教科書	『特別支援学校教育指導要領』文部科学省			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日12:30~13:00 生息地8号館 4F	メールアドレス		

授業科目	ドイツ語 I		開講時期	前期
担当教員	清水 満		単 位	1
授業の目的と概要	ドイツ語の文法、用法を学び、ドイツ語とドイツ文化に対する関心と理解を育む。初級ドイツ語の運用ができるようになる。 ドイツ語の文法、用法をドリルを通して学ぶ。視聴覚教材を利用して、生きたドイツ語やドイツ文化を学ぶ。			
到達目標	ドイツ語の初級文法事項をマスターし、かんたんなドイツ語を読み、挨拶程度ができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に文学部、人間科学部の共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	イントロダクションとアルファベット、発音	事前にCDの発音部分を聞く。		
第 2回	発音の続き。挨拶と季節、曜日を覚える。	事前にCDの発音部分を聞く。		
第 3回	動詞の人称変化の学習 I	教科書のこの章の問題を予習する。		
第 4回	ヨーロッパの町と暮らしを視聴覚教材で学ぶ。	とくになし。		
第 5回	動詞の人称変化の学習 2	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第 6回	名詞の学習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第 7回	冠詞の格変化の学習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第 8回	所有冠詞の学習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第 9回	命令形の学習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第10回	前置詞の学習 1	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第11回	前置詞の学習 2	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第12回	不規則動詞の学習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第13回	助動詞の学習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第14回	未来形の学習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第15回	これまでの復習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	50% 通常の定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	-			
成果発表	30% 問題の解答を積極的にした人は評価されます。			
受講態度他	20% 宿題をしているか、辞書を持参しているかを見る。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	週一回の講義だけで、新しい言葉を習得するのははっきりいって無理です。自習用課題ドリルを配布するので、その課題をすることが受講条件になります。毎回当たりますので、予習をしっかりとして下さい。 積極的に発表などを行えば、評価が有利になります。 私語は厳禁です。 辞書は必携。持参しない人は欠席扱いになります。経済的に購入困難な人は古本屋、ブックオフなどでの購入をお勧めします			
教科書	春日正男、松澤淳『おいしく学ぶドイツ語』郁文堂、『アポロン独和辞典』同学社 辞書は手持ちの電子辞書（ドイツ語）でも可。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の後	メールアドレス		

授業科目	ドイツ語Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	清水 満		単位	1
授業の目的と概要	ドイツ語の文法、用法を学び、ドイツ語とドイツ文化に対する関心と理解を育む。初級ドイツ語の運用ができるようになる。 ドイツ語の文法、用法をドリルを通して学ぶ。視聴覚教材を利用して、生きたドイツ語やドイツ文化を学ぶ。前期からの継続になります。			
到達目標	ドイツ語の初級文法事項をマスターし、かんたんなドイツ語を読み、挨拶程度ができるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に文学部、人間科学部の共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 分離動詞の学習		教科書のこの章の問題の予習をする。		
第2回 再帰動詞の学習		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第3回 形容詞の格変化の学習		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第4回 形容詞の名詞化動詞の三要素の学習		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第5回 動詞の三要素の学習		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第6回 完了形の学習1		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第7回 完了形の学習2		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第8回 視聴覚教材によるドイツ文化の学習		とくになし。		
第9回 比較級の学習		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第10回 不定詞句の学習		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第11回 関係代名詞の学習1		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第12回 関係代名詞の学習2		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第13回 受動形の学習		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第14回 接続法の学習1		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
第15回 接続法の学習2		教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50% 通常の定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	-			
成果発表	30% 問題の解答を積極的にした人は評価されます。			
受講態度他	20% 宿題をしているか、辞書を持参しているかを見る。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	週一回の講義だけで、新しい言葉を習得するのははっきりいって無理です。自習用課題ドリルを配布するので、その課題をすることが受講条件になります。毎回当たりますので、しっかり予習をして下さい。 積極的に発表などを行えば、評価が有利になります。 私語は厳禁です。辞書は必携。持参しない人は原則受講ができません。			
教科書	春日正男、松澤淳『おいしく学ぶドイツ語』郁文堂、『アポロン独和辞典』同学社 辞書は手持ちの電子辞書でも可。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の後	メールアドレス		



授業科目	【閉講】ドイツ語Ⅲ（再）	開講時期	前期
担当教員	清水 満	単 位	1
授業の目的と概要	ドイツ語の文法、用法を学び、ドイツ語とドイツ文化に対する関心と理解を育む。初級ドイツ語の運用ができるようになる。 ドイツ語のかんたんな会話や文章を読み、ドイツ語の文法、用法を学ぶ。 視聴覚教材を利用して、生きたドイツ語やドイツ文化を学ぶこともします。		
到達目標	ドイツ語の文法事項を復習しながら、自分で辞書を引いてある程度のドイツ語の文章を読める。 かんたんな会話ができるようになる。 現在のドイツの事情（若者、環境、教育、政治など）の理解をして、ドイツ人と会ったときに、相互理解ができるようになる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	zu不定詞句と分離動詞を学ぶ	教科書のこの章の問題を予習する。	
第 2回	その練習とドリル	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。DVDを見て復習する。	
第 3回	助動詞類を学ぶ。	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。	
第 4回	その練習とドリル	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。DVDを見て復習する。	
第 5回	過去形と完了形を学ぶ。	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。	
第 6回	その練習とドリル	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。DVDを見て復習する。	
第 7回	形容詞と再帰動詞を学ぶ。	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。	
第 8回	その復習と演習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。DVDを見て復習する。	
第 9回	形容詞の格変化と比較級を学ぶ。	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。	
第10回	その練習とドリル	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。DVDを見て復習する。	
第11回	ドイツ文化論 1（映画や音楽に見るドイツの様子）	とくになし。	
第12回	ドイツ文化論 2（映画や音楽に見るドイツの様子）	とくになし。	
第13回	関係詞を習得する。	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。	
第14回	その練習とドリル。	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。DVDを見て復習する。	
第15回	接続法を学ぶ。	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	50％ 定期試験		
レポート	なし		
小テスト等	—		
成果発表	30％ 問題解答や訳を積極的に行えば評価します。		
受講態度他	20％ 宿題をしているか、辞書持参しているか。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	週一回の講義だけで新しい言葉を習得するのははっきりいって無理があります。自習用ドリルを配布し、自宅での学習が前提になるので、やる気のある人の受講が求められます。毎回当たりますので、予習をして下さい。 会話を積極的にするか、積極的に発表などを行えば、評価が有利になります。 辞書は必携。持参しない人は減点対象になります。		
教科書	『ドイツ語の時間<恋するベルリン>』朝日出版社 辞書 一年時に使用したもの。		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	授業の後	メールアドレス	

授業科目	【閉講】ドイツ語Ⅳ（再）	開講時期	後期
担当教員	清水 満	単 位	1
授業の目的と概要	ドイツ語の文法、用法を学び、ドイツ語とドイツ文化に対する関心と理解を育む。初級ドイツ語の運用ができるようになる。 ドイツ語のかんたんな会話や文章を読み、ドイツ語の文法、用法を学ぶ。 視聴覚教材を利用して、生きたドイツ語やドイツ文化を学ぶこともします。		
到達目標	ドイツ語の文法事項を復習しながら、自分で辞書を引いてある程度のドイツ語の文章を読める。 かんたんな会話ができるようになる。 現在のドイツの事情（若者、環境、教育、政治など）の理解をして、ドイツ人と会ったときに、相互理解ができるようになる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	イントロダクションとアルファパート	事前にCDの発音部分を聞く	
第 2回	動詞の人称変化を学ぶ。	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。	
第 3回	その練習とドリル	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。DVDを見て復習する。	
第 4回	ヨーロッパ文化をスライドで学ぶ。	とくになし。	
第 5回	名詞の性と格変化を学ぶ。	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。	
第 6回	その練習とドリル	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。DVDを見て復習する。	
第 7回	不規則動詞を学ぶ。	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。	
第 8回	その復習と演習	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。DVDを見て復習する。	
第 9回	前置詞を学ぶ。	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。	
第10回	その練習とドリル	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。DVDを見て復習する。	
第11回	人称代名詞を学ぶ。	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。	
第12回	その練習とドリル	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。DVDを見て復習する。	
第13回	冠詞類を学ぶ。	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。	
第14回	その練習とドリル。	教科書のこの章の問題と配布プリントのドリルをする。DVDを見て復習する。	
第15回	これまでの総復習	配布プリントのドリルをする。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	50％ 定期試験		
レポート	なし		
小テスト等	—		
成果発表	30％ 問題解答や訳を積極的に行えば評価します。		
受講態度他	20％ 会話を積極的にするか、宿題をしているか、辞書持参しているか。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	週一回の講義だけで新しい言葉を習得するのははっきりいって無理があります。自習用ドリルを配布し、自宅での学習が前提になるので、やる気のある人の受講が求められます。毎回当たりますので、予習をして下さい。 ドイツ語会話を基本的に行うので、積極的に発言などを行えば、評価が有利になります。 辞書は必携。持参しない人は減点対象になります。		
教科書	『ドイツ語の時間<恋するベルリン>』朝日出版社 辞書 一年時に使用したもの。		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	授業の後	メールアドレス	

授業科目	道徳教育指導論		開講時期	後期
担当教員	薄 千里		単 位	2
授業の目的と概要	<p>道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容、指導の在り方について理解し、学習指導案の作成と模擬授業を通じて、道徳科の授業ができる実践的な指導力を身に付ける。</p> <p>授業においては、講義を通じて道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容、指導の在り方について理解する。個人及びグループワークを通じて、ねらいの設定、教材の分析、指導案と教材・教具の作成、模擬授業、その分析と考察を行い、実践的な指導力を身に付ける。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容、指導の在り方について理解し、説明することができる。</li> <li>2 作成の手順に沿って学習指導案を作成することができる。</li> <li>3 基本的な指導過程に沿って模擬授業を行うことができる。</li> <li>4 模擬授業について、授業の視点に沿って分析し考察することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、専攻科目の基幹科目DP④「教科等の専門知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的技能を身に付け、活用することができる」ための科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 道徳教育の目標、道徳科の目標、心に残っている道徳の授業		「小学校学習指導要領解説 道徳」を読み、ノートにまとめる。		
第2回 道徳科の内容、指導計画の作成		「解説」を読み、ノートにまとめる。教材を精読する。		
第3回 道徳科の指導		「解説」を読み、ノートにまとめる。教材を精読し、選定する。		
第4回 学習指導案の作成1 ねらい、教材分析、学習指導過程		教材を精読し、分析する。		
第5回 学習指導案の作成2 教材提示・発問・話し合い活動・書く活動の工夫		学習指導案を作成する。		
第6回 学習指導案の作成3 板書を生かす工夫、表現活動・説話等の工夫		学習指導案を作成し、提出の準備をする。		
第7回 学習指導案の作成4 教材作成		学習指導案の提出。教材作成。		
第8回 模擬授業と分析・考察1 教材提示の工夫		模擬授業の振り返りを行う。模擬授業の準備を行う。		
第9回 模擬授業と分析・考察2 発問の工夫		模擬授業の振り返りを行う。模擬授業の準備を行う。		
第10回 模擬授業と分析・考察3 話し合い活動の工夫		模擬授業の振り返りを行う。模擬授業の準備を行う。		
第11回 模擬授業と分析・考察4 書く活動の工夫		模擬授業の振り返りを行う。模擬授業の準備を行う。		
第12回 模擬授業と分析・考察5 表現活動の工夫		模擬授業の振り返りを行う。模擬授業の準備を行う。		
第13回 模擬授業と分析・考察6 板書を生かす工夫、説話等の工夫		模擬授業の振り返りを行う。		
第14回 道徳性の理解と評価		「解説」を読み、ノートにまとめる。		
第15回 道徳教育の目標、道徳科の目標から道徳科の指導の在り方について考察し、心に残った道徳の授業の課題を明らかにする。		道徳教育の目標等について整理し、記述できるようにする。定期試験の準備。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	30%			
レポート	30%			
小テスト等	0%			
成果発表	30% (模擬授業)			
受講態度他	10% (グループ・全体討議の参加状況を含む。)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>模擬授業への取組み、討議の状況を重視する。</p> <p>将来教職に就くことを前提に、それにふさわしい態度で受講すること。</p> <p>配布資料をファイルしていくこと。</p>			
教科書	<p>「小学校学習指導要領 解説 特別の教科 道徳編」(平成27年7月一部改正)文部科学省</p> <p>※ 平成28年2月現在市販されていない。市販されるまで授業者が準備する。文部科学省HPからダウンロード可能。</p>			
指定図書	なし			
参考図書	<p>「小学校学習指導要領解説 道徳編」(文部科学省 平成20年)</p> <p>「小学校学習指導要領解説 総則編」(平成27年7月一部改正)文部科学省 ※ 平成27年2月現在市販されていない。</p>			
オフィスワー	火曜日午後	メールアドレス		

授業科目	道徳教育指導論【中等教職】		開講時期	後期
担当教員	薄 千里		単 位	2
授業の目的と概要	<p>道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容、指導の在り方について理解し、学習指導案の作成と模擬授業を通じて、道徳科の授業ができる実践的な指導力を身に付ける。</p> <p>授業においては、講義を通じて道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容、指導の在り方について理解する。個人及びグループワークを通じて、ねらいの設定、教材の分析、指導案と教材・教具の作成、模擬授業、その分析と考察を行い、実践的な指導力を身に付ける。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 道徳教育の目標、道徳科の目標、道徳科の内容、指導の在り方について理解し、説明することができる。</li> <li>2 作成の手順に沿って学習指導案を作成することができる。</li> <li>3 基本的な指導過程に沿って模擬授業を行うことができる。</li> <li>4 模擬授業について、授業の視点に沿って分析し考察することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、中等教職課程授業科目（教職に関する専門科目）、免許法施行規則に定める科目区分等における「教職課程及び指導法に関する科目」の「道徳の指導法」に該当する科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	道徳教育の目標、道徳科の目標、心に残っている道徳の授業	「中学校学習指導要領解説 道徳」を読み、ノートにまとめる。		
第2回	道徳科の内容、指導計画の作成	「解説」を読み、ノートにまとめる。教材を精読する。		
第3回	道徳科の指導	「解説」を読み、ノートにまとめる。教材を精読し、選定する。		
第4回	学習指導案の作成1 ねらい、教材分析、学習指導過程	教材を精読し、分析する。		
第5回	学習指導案の作成2 教材提示・発問・話し合い活動・書く活動の工夫	学習指導案を作成する。		
第6回	学習指導案の作成3 板書を生かす工夫、表現活動・説話等の工夫	学習指導案を作成し、提出の準備をする。		
第7回	学習指導案を作成4 教材作成	学習指導案の提出。教材作成。		
第8回	模擬授業と分析・考察1 教材提示の工夫	模擬授業の振り返りを行う。模擬授業の準備を行う。		
第9回	模擬授業と分析・考察2 発問の工夫	模擬授業の振り返りを行う。模擬授業の準備を行う。		
第10回	模擬授業と分析・考察3 話し合い活動の工夫	模擬授業の振り返りを行う。模擬授業の準備を行う。		
第11回	模擬授業と分析・考察4 書く活動の工夫	模擬授業の振り返りを行う。模擬授業の準備を行う。		
第12回	模擬授業と分析・考察5 表現活動の工夫	模擬授業の振り返りを行う。模擬授業の準備を行う。		
第13回	模擬授業と分析・考察6 板書を生かす工夫、説話等の工夫	模擬授業の振り返りを行う。		
第14回	道徳性の理解と評価	「解説」を読み、ノートにまとめる。		
第15回	道徳教育の目標、道徳科の目標から道徳科の指導の在り方について考察し、心に残った道徳の授業の課題を明らかにする。	道徳教育の目標等について整理し、記述できるようにする。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30％			
レポート	30％			
小テスト等	0％			
成果発表	30％（模擬授業）			
受講態度他	10％（グループ・全体討議の参加状況を含む。）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>模擬授業への取組み、討議の状況を重視する・将来教職に就くことを前提に、それにふさわしい態度で受講すること。</p> <p>配布資料をファイルしていくこと。</p>			
教科書	<p>「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（平成27年7月一部改正）文部科学省</p> <p>※ 平成28年2月現在市販されていない。市販されるまで授業者が準備する。文部科学省HPからダウンロード可能。</p>			
指定図書	なし			
参考図書	<p>「中学校学習指導要領解説 道徳編」（文部科学省 平成20年）</p> <p>「中学校学習指導要領解説 総則編」（平成27年7月一部改正）文部科学省 ※ 平成28年2月現在市販されていない。</p>			
オフィスアワー	火曜日午後	メールアドレス		

授業科目	読書と豊かな人間性【司書教諭】	開講時期	後期
担当教員	稲田 八徳	単位	2
授業の目的と概要	読書の意義と目的に応じて、児童・生徒の発達段階に応じた興味や読書能力を理解する。司書教諭として学校図書館での役割について図書の選択や配置などの管理的な仕事や個に応じた支援、教師のサポートなどについても考えを深める。家庭や地域と連携しながら司書教諭としての責務をどのように果たしていくかについて新たな発想で取り組みを考える。また、自身の読書生活を広げるために、読書タイムでは読書の楽しみを見つける。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読書が楽しいものであり、読書の感動が子どもの心の成長に深く関わっていることを具体的に述べる。</li> <li>○ 子どもの発達段階や興味関心、読書能力を考慮して多様なジャンルの図書を選択することができる。</li> <li>○ 子どもたちにミニシアター・読み聞かせ・ブックトーク・ストーリーテリング・読書会等の読書指導が創造的にできる。</li> <li>○ 学校・地域・家庭が連携した豊かな読書生活ができるようになるための図書館運営計画を立てることができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は「初等教科教育法（国語）」と関連します。児童の読解力や情報活用能力を育成するために、読書は欠かせない活動です。教材研究や模擬授業などで学校図書館の活用することが望まれています。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	「読書と豊かな人間性」についてのオリエンテーション	読書タイムの本の選書	
第2回	現代における読書の意義と特質	配布された資料を基に現代における読書の意義について自分の考えをまとめる	
第3回	学校における読書	課題 自分自身の学校生活における読書について振り返る	
第4回	発達段階と読書①発達課題と幼少年期の読書指導	課題 わたしのすすめる幼少期の図書の選定（グループ討議）	
第5回	発達段階と読書②発達課題と中・高校期読書指導	課題 わたしのすすめる中・高校期の図書の選定（グループ討議）	
第6回	読書指導の実際 小学校	小学校における読書指導についてまとめる	
第7回	読書指導の実際 中学校・高等学校	中学校、高等学校における読書指導についてまとめる	
第8回	リーディングワークショップによる読書指導（グループ活動）	リーディングワークショップの指導法についてまとめる、読書指導の準備	
第9回	読書指導の発表 ①紙芝居、読み聞かせ	紙芝居、読み聞かせの指導法についてまとめる、読書指導の準備	
第10回	読書指導の発表 ②アニメーション	アニメーションの指導法についてまとめる、読書指導の準備	
第11回	読書指導の発表 ③ミニシアター	ミニシアターの指導法についてまとめる、読書指導の準備、報告	
第12回	読書指導の発表 ④ブックトーク、ブックディベート	ブックトーク、ブックディベートの指導法についてまとめる	
第13回	生涯学習への読書、読書材の選択	生涯学習へ向けた司書教諭の働き掛けについてまとめる	
第14回	家庭、地域、公共図書館等との連携	公共図書館と学校図書館の連携についてまとめる	
第15回	読書活動における司書教諭の役割、児童生徒の読書活動の推進	児童生徒の読書指導に果たす司書教諭の役割についてまとめる	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	50% 簡潔に要点をはずさずに述べている。		
小テスト等	なし		
成果発表	30% 読書活動の発表 グループで工夫した発表をしている。発表を聞いて的確なコメントをすることができる。		
受講態度他	20% 真面目に誠実に受講しまとめのメモを提出している。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	課題は翌週に必ず提出する。指定された座席に座る。私語はしない・携帯は電源off・授業中に教室の出入りはしない・欠席届の提出等、常識的なことは守る。継続的に読書をする。（読書タイムの本を必ず持ってくる。）		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	『司書教諭のための学校経営と学校図書館』渡辺重夫著 学文社 読書と豊かな人間性 朝比奈 大作 樹村房		
オフィスアワー	月曜日午前、木曜日の午後	メールアドレス	

授業科目	乳児保育	開講時期	前期
担当教員	原田 博子	単 位	2
授業の目的と概要	<p>乳児保育の理念と役割を知る。          保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。          3歳未満児の生活と遊びについて理解する。          乳児保育の実際を理解する。</p> <p>この授業は乳児保育についての理解を深めるため、教科書を中心に乳児保育の置かれている現状から実際の保育内容まで詳細に学んでいきます。</p>		
到達目標	<p>乳児保育の役割について述べることができる。          月齢に応じた発達を理解とともに生活と遊びについて具体的に述べるができる。          さまざまな保護者への対応の必要性について理解することができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に、幼児保育コースのDP2「子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況に関する知識を身に付けることができる。」に関わる科目です。</p> <p>保育のなかでも乳児期（0歳から2歳児）に絞って大切な関わり方を学びます。          「保育者論」「子どもの保健演習」と関連があります。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	社会背景から考える乳児保育の必要性	課題レポート 「理想のライフスタイル」について	
第2回	乳児保育の成立について（歴史と現状）	グループ課題 「認可外保育所」について	
第3回	乳児院について	課題レポート 「乳児院の現状」を踏まえた乳児保育の必要性について	
第4回	保育所保育指針について	課題レポート 「保育士の資質向上」のために必要なことについて	
第5回	保育所保育指針における乳児保育のポイント（発達過程と保育のつながり/保育における配慮事項）	保育所保育指針における乳児保育のポイントの復習	
第6回	乳児保育における複数担任制	グループ課題 「伝統行事」について	
第7回	保育所で過ごす1日の流れ（年齢別デイリープログラム）	課題レポート 「コラム05」を読んで考えたこと	
第8回	保護者との連携	グループ課題 「さまざまな文化の違い」を調べる	
第9回	保育環境の衛生管理	グループ課題 「コラム07」を読んで考えたこと	
第10回	かみつき・ひっかきへの対応	グループ課題 「乳児保育の保育士に必要な資質」	
第11回	安全管理（SIDS/乳幼児揺さぶられ症候群/薬）	SIDS/乳幼児揺さぶられ症候群とはどんな症状なのか復習する	
第12回	保育園と幼稚園の違い	課題レポート 保育園と幼稚園の違いについて	
第13回	ふれあいあそび（人形を使って）	乳児にふさわしいと思う絵本を選び、読んでくる	
第14回	乳児にふさわしい絵本	乳児への絵本読みで大切と思うことをまとめる	
第15回	医療保育士の現状（ゲストティーチャーの話）	課題レポート 医療現場での保育士の役割などまとめる	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	個人課題レポート提出 5回 35%		
小テスト等	なし		
成果発表	グループ課題レポート提出 5回 35%		
受講態度他	30%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度が評価の対象になっています。事情がある場合はお知らせください。		
教科書	編著者 志村聡子『はじめて学ぶ 乳児保育』同文書院		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワー	月曜日4限	メールアドレス	

授業科目	乳児保育	開講時期	後期
担当教員	原田 博子	単位	2
授業の目的と概要	<p>乳児保育の理念と役割を知る。          保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。          3歳未満児の生活と遊びについて理解する。          乳児保育の実際を理解する。</p> <p>この授業は乳児保育についての理解を深めるため、教科書を中心に乳児保育の置かれている現状から実際の保育内容まで詳細に学んでいきます。</p>		
到達目標	<p>乳児保育の役割について述べるができる。          月齢に応じた発達を理解とともに生活と遊びについて具体的に述べるができる。          さまざまな保護者への対応の必要性について理解することができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に、幼児保育コースのDP2「子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況に関する知識を身に付けることができる。」に関わる科目です。</p> <p>保育のなかでも乳児期（0歳から2歳児）に絞って大切な関わり方を学びます。          「保育者論」「子どもの保健演習」と関連があります。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	社会背景から考える乳児保育の必要性	課題レポート 「理想のライフスタイル」について	
第2回	乳児保育の成立について（歴史と現状）	グループ課題 「認可外保育所」について	
第3回	乳児院について	課題レポート 「乳児院の現状」を踏まえた乳児保育の必要性について	
第4回	保育所保育指針について	課題レポート 「保育士の資質向上」のために必要なことについて	
第5回	保育所保育指針における乳児保育のポイント（発達過程と保育のつながり/保育における配慮事項）	保育所保育指針における乳児保育のポイントの復習	
第6回	乳児保育における複数担任制	グループ課題 「伝統行事」について	
第7回	保育所で過ごす1日の流れ（年齢別デイリープログラム）	課題レポート 「コラム05」を読んで考えたこと	
第8回	保護者との連携	グループ課題 「さまざまな文化の違い」を調べる	
第9回	保育環境の衛生管理	グループ課題 「コラム07」を読んで考えたこと	
第10回	かみつき・ひっかきへの対応	グループ課題 「乳児保育の保育士に必要な資質」	
第11回	安全管理（SIDS/乳幼児揺さぶられ症候群/薬）	SIDS/乳幼児揺さぶられ症候群とはどんな症状なのか復習する	
第12回	保育園と幼稚園の違い	課題レポート 保育園と幼稚園の違いについて	
第13回	ふれあいあそび（人形を使って）	乳児にふさわしいと思う絵本を選び、読んでくる	
第14回	乳児にふさわしい絵本	乳児への絵本読みで大切と思うことをまとめる	
第15回	医療保育士の現状（ゲストティーチャーの話）	課題レポート 医療現場での保育士の役割などまとめる	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	個人課題レポート 5回提出 35%		
小テスト等	なし		
成果発表	グループ課題レポート 5回提出 35%		
受講態度他	30%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度が評価の対象になっています。事情がある場合はお知らせください。		
教科書	編著者 志村聡子『はじめて学ぶ 乳児保育』同文書院		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワー	月曜日4限	メールアドレス	

授業科目	日中交流史(再)		開講時期	後期
担当教員	崔 淑芬		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義では、古代から近現代までの歴史を振り返ることで日中交流についての理解を深め、新たな視点から日中関係の全貌を見つめ直すことが期待される。</p> <p>ここでは日本、中国に関する文化・社会及び互いの交流史などの諸相を総合的に学ぶことで、東アジアの社会、風俗、文化の異同点などの諸方面についての知識と理解を深める。これによって、国際化時代に対応できる柔軟な思考力を身につけることを期待する。</p> <p>講義では、日・中現地で調査した資料、取材した映像を使用し、レジュメの作成などを実施する。</p>			
到達目標	<p>この講義を通じ、日中交流史についての理解が深められ、新たな視点から日中関係を見つめ直すことが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日本と中国を中心とするアジア世界の文化・社会・歴史に対する理解を深めることができる。</li> <li>2) 日中間で懸案となっている事項について、歴史的考察を深めることにより、冷静かつ客観的な隣国観を養うことができる。</li> <li>3) 物事を幅広い視点から理解する能力を身につけることができる。</li> <li>4) 専門の講義により、自分が最も興味や関心をもつ専門領域をより深く掘り下げることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連する科目：近代日本とアジア、東アジア入門、現代社会理解、現代中国社会と教育、東南アジア近現代史、現代東南アジア事情 など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 ガイダンス：講義内容の説明およびスケジュール		金印について		
第2回 朝貢から外交へ（文化・宗教）		朝貢とは		
第3回 遣隋使・遣唐使の時代（遣隋唐使・渡来人）		遣隋使・遣唐使の歴史背景		
第4回 遣隋唐使の時代（多種の文化交流）		代表的な人物		
第5回 鎌倉時代（謝国明と博多）		鎌倉時代の特徴		
第6回 鎖国時代の日中関係		鎖国時代の背景		
第7回 水戸学と朱舜水		水戸学とは		
第8回 留日中国人と日本（ターニングポイントの日清戦争）		日清戦争とは		
第9回 留日中国人と日本（留日後の影響と代表的な人達）		留日のきっかけ		
第10回 辛亥革命と日本（孫文・黄興らと日本の援助者達）		辛亥革命とは		
第11回 中国の近代化教育と日本人教習		近代化教育とは		
第12回 新中国の建設と関与した日本人達		新中国とは		
第13回 日中国交正常化後の新たなうねり		日中国交正常化とは		
第14回 第二期留日とその動向		改革開放について		
第15回 今後の日中関係を展望する		レポートの作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	20%			
受講態度他	60% 出席状況、議論への参加姿勢などを見るときともに、発表などによって行う			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に必ず出席し、積極的な授業参加を望む。授業中の私語は慎むこと。			
教科書	使用しない。各テーマの参考プリントを配布する。			
指定図書	衛藤藩吉著『近代東アジア国際関係史』（東京大学出版会・2004年） 王曉秋著・木田知生訳『中日文化交流史話』（日本エディタースクール出版部、2000年）			
参考図書	竹内実編『日中国交基本文献集』（上・下巻・蒼蒼社・1993年） 崔淑芬著『来日中国著名人の足跡探訪』（中国書店・2004年） ほか、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	月・火	メールアドレス		



授業科目	西アジア近現代史		開講時期	後期
担当教員	大津 忠彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：西アジアのおもに19世紀以降の歴史概略を理解し、それが欧米ばかりではなく、日本の政治・経済・文化と密接に関わっていることを学びます。</p> <p>概要：西アジア（≒中東）をめぐるこんにちの諸問題の要因を、第一次世界大戦前後以降の西アジアにおける民族・宗教・国際関係にたどって考えます。歴史地図や映像史料等をパワーポイントで示しつつ授業進行します。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オスマン帝国の衰退に伴う欧州諸国の西アジア侵入について、具体的事例を挙げて説明することができる。</li> <li>・「パレスチナ問題」を西アジアの民族および国際関係の視点から説明することができる。</li> <li>・西アジアの石油をめぐる歴史について、欧米・「OPEC」・日本との関わりを含めて説明することができる。</li> <li>・ソ連崩壊（1991年）以降の西アジアの変容具合を、実例に即して説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、アジア文化学科のDP③「アジアの地理・歴史についての基礎的・専門的知識を身につけている」という目的の達成に関わる科目です。この科目と共に、「西アジア入門」、「海域文化交流史」、「シルクロード文化交流史」、「アジアの建築」を受講すると相互の理解が深まります。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	はじめに：「西アジア近現代史」の地域・時代設定	課題①：西アジア地図制作（地勢図および第一次世界大戦時国割）		
第2回	西アジアの地勢、自然環境	第3回までに課題①を提出		
第3回	西アジアの民族と宗教	第3回までに課題①を提出		
第4回	紛争・対立の現況とその歴史的基	課題②：西アジアの民族・宗教問題に関する報道記事検索と考察		
第5回	「オスマン帝国」の末期：西アジア混乱の内因	第6回までに課題②を提出		
第6回	第一次世界大戦前後：欧州介入による混乱	第6回までに課題②を提出		
第7回	学外授業：公開講座「アジア塾」	課題③：課題②の近現代史的考察に資する参考文献検索とその紹介		
第8回	アラブとユダヤの対立：「パレスチナ問題」と「中東戦争」	第10回までに課題③を提出		
第9回	ダンマーム油田（サウジアラビア）、ブルガン油田（クウェート）の発見（1938年）と「OPEC」創設（1960年9月）	第10回までに課題③を提出		
第10回	「イラン・イスラーム革命」（1979年）	第10回までに課題③を提出		
第11回	ユネスコ世界遺産登録（1981年）「エルサレムの旧市街とその城壁群」	課題④：西アジアの「石油資本」について（ネット記事検索）		
第12回	イラン・イラク戦争（1980年9月22日～1988年8月20日）	第12回までに課題④を提出		
第13回	「湾岸戦争」（1990年8月2日～1991年2月末日）	課題⑤西アジア近現代史に関わる「ユネスコ世界遺産登録」を探す		
第14回	ソ連崩壊（1991年）と西アジア	第15回までに課題⑤を提出		
第15回	まとめ	第15回までに課題⑤を提出		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	50% ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50% ②時々的小テスト成果や提出課題成果他を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>上記「成績評価に関する情報」欄の、①と②の判定組合せが「秀&amp;秀」・「秀&amp;優」を秀、「秀&amp;良」・「優&amp;優」を優、「秀&amp;可」・「優&amp;良」・「優&amp;可」・「良&amp;良」を良、「良&amp;可」・「可&amp;可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。受講態度の良否は成績評価に大きく影響します。講義の進行に集中し自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日の5時間目	メールアドレス		

授業科目	西アジア入門		開講時期	前期
担当教員	大津 忠彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：西アジアとは、アジアの西寄域をさす呼称です。その多様な地勢・風土に種々の文明が興亡しました。イスラム教、キリスト教、ユダヤ教等の諸宗教が誕生し、民族模様とからまり、様々な問題がこんにちなお困難で未解決のまま推移しているところ。このような西アジアの社会や文化に触れるときの基礎的素養を身につけます。そして、日本から遠隔の地「西アジア」をこれまでより身近な地として認識できるようになる事を目的とします。</p> <p>概要：西アジアの自然と文化諸相をパワーポイントやビデオ画像を使って学びます。西アジアと近代文明との関係を「石油」について、西アジアの民族問題、宗教、「食」については、歴史を古代史にまで遡って考えます。また、日本との関わりを「異文化理解」の視点から、明治期資料の一部を読んで探ります。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西アジアに属する国々を、正しく地図上に列挙することができる。</li> <li>・西アジアの自然と人々の住まい方を関係づけることができる。</li> <li>・西アジアを「農耕・牧畜」発祥の地として、その要因を含めて説明することができる。</li> <li>・「エルサレム」を民族・宗教の視点から説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、アジア文化学科のDP②「東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの各地域の社会事情について、具体的な事例を通して説明できる」という目的の達成に関わる科目です。この科目と共に、「西アジア入門」、「アジアの建築」を受講すると相互の理解が深まります。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 「西アジア」概観 - その(1) : 「西アジア」、「中東」、「オリエント」という呼称		課題①：地図による西アジア理解		
第2回 「西アジア」概観 - その(2) : 国々と地勢・風土の特性		第3回までに課題①を提出		
第3回 西アジアの住まいと住まい方		第3回までに課題①を提出		
第4回 西アジアの砂漠とラクダ		課題②：西アジア報道レポート - その(1)		
第5回 西アジアの「世界遺産」とナツメヤシ		第6回までに課題②を提出		
第6回 西アジアの「石油」と近代文明		第6回までに課題②を提出		
第7回 西アジアと民族 - その(1) : クルド人と「クルド問題」		課題③：日本からの「西アジア・ツアー」レポート		
第8回 西アジアの食 - その(1) : 「農耕・牧畜」の発祥地		第9回までに課題③を提出		
第9回 西アジアの食 - その(2) : パンとビールの発祥地		第9回までに課題③を提出		
第10回 西アジアと民族 - その(2) : ユダヤ人と「パレスティナ問題」		課題④：西アジア報道レポート - その(2)		
第11回 聖地エルサレム：多民族・多宗教の共存		第12回までに課題④を提出		
第12回 西アジアと「イスラーム」 - その(1) : 「イスラーム」という生活規範		第12回までに課題④を提出		
第13回 西アジアと「イスラーム」 - その(2) : 「コーラン」と他の啓示宗教		課題⑤：西アジア報道レポート - その(3)		
第14回 日本人の西アジア発見、異文化実体験のあゆみ		第15回までに課題⑤を提出		
第15回 「西アジア入門」総括		第15回までに課題⑤を提出		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	50% ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	50% ②受講態度(含、時々的小テスト成果や提出課題成果)を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・上記「成績評価に関する情報」欄の、①と②の判定組合せが「秀&amp;秀」・「秀&amp;優」を秀、「秀&amp;良」・「優&amp;優」を優、「秀&amp;可」・「優&amp;良」・「優&amp;可」・「良&amp;良」を良、「良&amp;可」・「可&amp;可」を可と成績評価する(これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可)。</p> <p>・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。受講態度の良否は成績評価に大きく影響します。講義の進行に集中し自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる(ノートを作成する)力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス		

授業科目	日本芸能論	開講時期	後期
担当教員	飯冨 章宏	単 位	2
授業の目的と概要	<p>能楽は日本の伝統芸能のひとつである。中世という時期に日本古来の芸能を融合し、舞台芸術にまで高めた。その後の様々な日本芸能の基幹ともなった。そのことを理解しながら、能楽という伝統芸能の魅力を学んでいく。能楽を題材としながらもその他の古典芸能の豊富な魅力への理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古代から近世までの日本の伝統芸能史の概略。</li> <li>・代表的な能楽の曲の分析。</li> <li>・世阿弥の芸能論の研究。</li> <li>・実際の能楽やその他の芸能の映像学習。</li> <li>・現代の日本文化への影響の研究。</li> </ul>		
到達目標	<p>実技体験や映像を利用して実践的な知識を身につけ、古典芸能が現代に伝承される意味を知って、現代日本文化の歴史的背景を説明できるようになる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	能楽を知ろう。能「猩々乱」を観る。	-	
第 2回	翁猿楽について	レポート：「能舞台」（400字）配布資料を参考にすること。	
第 3回	日本芸能史 能楽以前	レポート：「能の音楽」（400字）配布資料を参考にすること。	
第 4回	観阿弥の能『通小町』	レポート：講義中に指示	
第 5回	初番能『高砂』	レポート：講義中に指示	
第 6回	修羅能『清経』	レポート：講義中に指示	
第 7回	鬘物能『井筒』	レポート：講義中に指示	
第 8回	現在物能『隅田川』	レポート：講義中に指示	
第 9回	切能『船弁慶』	レポート：講義中に指示	
第10回	仏教思想の影響『歌占』『求塚』	レポート：講義中に指示	
第11回	世阿弥の演劇論『風姿花伝』	レポート：講義中に指示	
第12回	世阿弥以降の能『道成寺』	レポート：講義中に指示	
第13回	安土桃山江戸期の能	レポート：講義中に指示	
第14回	近世演劇への影響『改作の功罪』？ドナルドキーン	レポート：講義中に指示	
第15回	近代文学と能『草枕』漱石文学への能楽の影響	レポート：講義中に指示	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	-		
レポート	40%、E-mailによるレポート提出もある。		
小テスト等	-		
成果発表	-		
受講態度他	60%、受講態度が著しく悪いものは別途レポートを課す。授業出席を重視する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>映像を多用する。映像をしっかりと鑑賞しないと受講の意味がない。</p> <p>レポートは簡潔にして、主旨明瞭を心がけること。</p> <p>礼儀・作法も日本文化の特質である。まじめな受講を望む。</p>		
教科書	-		
指定図書	渡辺淳一『秘すれば花』講談社、林望『すらすら読める風姿花伝』講談社 田中健次『図解 日本音楽史』東京堂出版		
参考図書	天野文雄『能に憑かれた権力者』講談社選書メチエ、渡辺睦子・増田正造『マンガ能百番』、新潮日本古典集成（第4回）『世阿弥芸術論集』新潮社		
オフィスワー	開講日12時より講義開始まで	メールアドレス	

授業科目	日本国憲法	開講時期	前期
担当教員	森 俊輔	単位	2
授業の目的と概要	<p>「日本国憲法」の条文の意味をただ学問的な意味で学習するのでは、一過性の知識を得ることしかできません。本講義では、多くの具体的な事件を知ることを通して「日本国憲法」が私たちの生活にどのように関連しているのかを理解します。また、法的思考力を高め、様々な社会事象を考察する能力を身につけることを目的とします。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「日本国憲法」を体系的に理解した上で、現代の諸問題を法的に評価して説明することができる。</li> <li>2. 立憲主義の意味を理解した上で、現在の憲法改正の動きについて自分なりの意見を述べるすることができる。</li> <li>3. これまでの憲法判例の動きを理解したうえで、今後我が国で起こり得る法的な諸問題を具体的に述べるすることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は、文学部共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の考えを人に伝えるための技術を身につける」、人間科学部共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の考えを人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	「法」の意義と解釈	復習	
第2回	憲法と立憲主義 ～憲法改正の議論を踏まえて～	序章第4節	
第3回	日本国憲法の成り立ちと国民主権	序章第1節、同第2節	
第4回	平和主義	序章第3節	
第5回	基本的人権（人権享有主体性、人権の限界等）	第1章総説	
第6回	包括的基本権（新しい人権）	第1章第1節1～4	
第7回	法の下での平等	第1章第1節5～12	
第8回	精神的自由権（思想良心の自由、信教の自由、表現の自由）	第1章第2節 ①	
第9回	人身の自由	第1章第2節 ②	
第10回	経済的自由権（職業選択の自由、営業の自由、財産権）	第1章第2節 ③	
第11回	社会権（生存権、教育を受ける権利、労働三権）	第1章第3節	
第12回	国務請求権、参政権等	第1章第4節	
第13回	立法権と財政	第2章総説、同第1節、同第4節	
第14回	行政権と地方自治	第2章総説、同第2節、同第5節	
第15回	司法権と違憲審査	第2章第3節	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	100%		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	0%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の90分間で学んだことを自分の言葉で表現できるレベルにまで高めることが求められますから、一定程度の復習が必要不可欠だと思われます。</li> <li>・過度な私語が続く場合には、退出してもらうことがあります。</li> </ul>		
教科書	安念潤司ほか『憲法を学ぶための基礎知識 論点・日本国憲法（第2版）』東京法令出版		
指定図書	なし		
参考図書	渋谷秀樹ほか『憲法1 人権（第5版）』『憲法2 統治（第5版）』有斐閣 ※その他は講義中で紹介します。		
オフィスワー	授業の前夜	メールアドレス	

授業科目	日本国憲法		開講時期	前期
担当教員	高木 佳世子		単位	2
授業の目的と概要	1. 中世から近代にかけて立憲主義がどのように確立したのか、また日本国憲法の制定過程について検討する。 2. 人権規定についての概要と代表的な裁判例について学ぶ。 3. 統治機構の役割と三権相互の関係について検討する。 4. 平和主義、憲法改正について現在の議論状況を把握する。			
到達目標	1. 日本国憲法の価値体系を立体的に捉え説明できる。 2. 立憲主義について説明できる。 3. 現実の社会で起きている事象に憲法の観点をあてはめ、問題点と自分なりの考え方が示せるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、文学部共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の考えを人に伝えるための技術を身につける」、人間科学部共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の考えを人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	憲法とは何か／立憲主義		第0章	
第2回	日本の憲法の歴史		第1章	
第3回	日本国憲法の基本原理		第2章	
第4回	平和主義		第3章	
第5回	人権の享有主体／人権の限界(公共の福祉、私人間効力等)		第4章	
第6回	包括的基本権／法の下での平等		第4章4.4、第5章	
第7回	精神的自由権		第6章	
第8回	経済的自由権		第7章	
第9回	社会権		第9章	
第10回	人身の自由／国務請求権と参政権／適正手続		第8章、第10章	
第11回	国会		第11章	
第12回	内閣		第12章	
第13回	裁判所と違憲審査権		第13章	
第14回	財政／地方自治		第14章	
第15回	憲法改正の手続きと限界		第15章	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	100%			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。			
教科書	毛利透『グラフィック憲法入門』(新世社)			
指定図書	中村睦男編『はじめての憲法学(第3版)』(三省堂)			
参考図書	講義の中で紹介します。			
オフィスアワー	水曜2限	メールアドレス		

授業科目	日本語A【留学生・帰国生】		開講時期	前期
担当教員	池澤 明子		単位	2
授業の目的と概要	大学では、日本語で書かれた論文を読む能力が要求される。この授業では、留学生がその能力の基礎を身につける。2時限続けたの開講となる。最初の時限では、前回の内容の確認テストおよび新しい内容の学習と練習を行う。次の時限では、読んで意見を言ったり批評したりする。履修者は、毎週教科書の内容を予習・復習し、回によっては短いレポートを書いて来る。また、自身が履修する科目の課題について調査する。さらに、実際に自分が書いたレポートを見直したり、ほかの学生が書いたものを読んだりすることによって、良いレポート・論文に求められる条件、問題点とその改善方法について学ぶ。議論や発言も行う。この科目は日本語Aと日本語Cの同時開講である。日本語Aの履修者は、論文の読解能力の向上を優先する。			
到達目標	日本語で書かれた論文を読む能力の基礎を身につけること。履修後も自分自身で論文を読んだり、レポート・論文を書いたりしていくための批評能力を身につけること。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	なし			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1・2回	オリエンテーション（目的・現状・課題の把握）、第1課「異文化適応」の学習	自分が履修する科目一覧とその課題の情報（シラバスなど）を持参		
第3・4回	第1課「異文化適応」のテストと応用レポートの執筆・批評、第2課「いじめ」の学習	テスト内容の学習、自分が履修する科目とその課題のリストを作成し持参		
第5・6回	第2課「いじめ」のテストと応用レポートの執筆・批評、第3課「衝動買いを誘導する」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第7・8回	第3課「衝動買いを誘導する」のテストと応用レポートの執筆・批評、第4課「おいしい食感の理由」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第9・10回	第4課「おいしい食感の理由」のテストと応用、第5課「日本人の意識—結婚と家庭に関する40年の変容—」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第11・12回	第5課「日本人の意識—結婚と家庭に関する40年の変容—」のテストと応用レポートの執筆・批評、第6課「フリーター問題」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第13・14回	第6課「フリーター問題」のテストと応用レポートの執筆・批評、第7課「安全でおいしい水を飲むために」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第15・16回	第7課「安全でおいしい水を飲むために」のテストと応用レポートの執筆・批評、第8課「『まじめ』という言葉」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第17・18回	第8課「『まじめ』という言葉」のテストと応用レポートの執筆・批評、第9課「がん告知」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第19・20回	第9課「がん告知」のテストと応用レポートの執筆・批評、第10課「論文を読む①全体構成・序論」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第21・22回	第10課「論文を読む①全体構成・序論」のテストと応用レポートの執筆・批評、第11課「論文を読む②本論その1」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第23・24回	第11課「論文を読む②本論その1」のテストと応用レポートの執筆・批評、第12課「論文を読む③本論その2」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第25・26回	第12課「論文を読む③本論その2」のテストと応用レポートの執筆・批評、第13課「論文を読む④結論」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第27・28回	第13課「論文を読む④結論」のテストと応用レポートの執筆・批評、第14課「論文を読む⑤総合練習」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第29・30回	第14課「論文を読む⑤総合練習」のテストと応用レポートの執筆・批評	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	50%（一本の応用レポートを執筆して持参し、履修者間で相互批評を行う）			
レポート	10%（各課の応用レポート）			
小テスト等	30%			
成果発表	0%			
受講態度他	10%（授業活動への参加度。特に、発言や議論への参加度、応用レポートの執筆態度・批評姿勢を重視する）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書を購入し、毎回持参する。 授業では日本語を使用する。外国語で話さない。 課題（予習・復習・宿題・調査など）をこなす。 クラスメートと協力する。 欠席、遅刻せず、授業活動に集中する。			
教科書	アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アルク			
指定図書	なし			
参考図書	アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語①読解編』アルク			
オフィスアワー	授業の前後（二日前までにメールで予約してください。）	メールアドレス		

授業科目	日本語B【留学生・帰国生】		開講時期	後期
担当教員	井手 玲奈		単位	2
授業の目的と概要	このクラスは論文作成の基礎を身につけている日本語中級後半～上級レベルの学習者を対象とする。上級レベルの書き言葉や文法を確認しながら、いろいろな種類の文を書いていき、大学で求められるレポートや課題の作成を目指す。日本語Bの授業時間は1回につき3時間（2コマ）である。授業前半で文章で使う文法・文字・表記・語彙の確認・練習をし、後半で実際の論文を作成する。毎回のフィードバックを踏まえて、書き直しも行う。			
到達目標	書き言葉・文法・表現の理解。 授業で出されるいろいろな分野のレポートの作成。 見たり読んだりして得た情報から自分の意見をまとめ文を作成。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 表記・文体の復習	履修している科目で出された課題等		
第2回	小論文によく使われる表現	履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策		
第3回	小論文によく使われる表現	履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策		
第4回	段落	履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策		
第5回	段落	履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策		
第6回	要約文を書く	履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策		
第7回	要約文を書く	履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策		
第8回	説明文を書く	履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策		
第9回	説明文を書く	履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策		
第10回	意見文を書く	履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策		
第11回	意見文を書く	履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策		
第12回	事実を示す方法	履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策		
第13回	事実を示す方法	履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策		
第14回	小論文のはじめと終わり	履修している科目で出された課題等 前回の復習とクイズの対策		
第15回	小論文のはじめと終わり	履修している科目で出された課題等		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	30%			
レポート	0%			
小テスト等	30%			
成果発表	20%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中は日本語を話し、クラスのメンバーと協力しながらクラス活動を積極的に行う。 他の科目で出た課題・レポート等があれば、授業に持参する。			
教科書	小論文への12のステップ			
指定図書	留学生のためのここが大切文章表現のルール			
参考図書	大学・大学院 留学生の日本語			
オフィスワー	メールにて要相談	メールアドレス		

授業科目	日本語C【留学生・帰国生】		開講時期	前期
担当教員	池澤 明子		単位	2
授業の目的と概要	<p>大学では、日本語で書かれた論文を読む能力が要求される。この授業では、留学生がその能力の基礎を身につける。2時限続けたの開講となる。最初の時限では、前回の内容の確認テストおよび新しい内容の学習と練習を行う。次の時限では、読んで意見を言ったり批評したりする。履修者は、毎週教科書の内容を予習・復習し、回によっては短いレポートを書いて来る。また、自身が履修する科目の課題について調査する。さらに、実際に自分が書いたレポートを見直したり、ほかの学生が書いたものを読んだりすることによって、良いレポート・論文に求められる条件、問題点とその改善方法について学ぶ。議論や発言も行う。この科目は日本語Aと日本語Cの同時開講である。日本語Cの履修者は、論文の読解能力に加え、批評・執筆能力を身につけることをより意識して受講する。</p>			
到達目標	日本語で書かれた論文を読む能力の基礎を身につけること。履修後も自分自身で論文を読んだり、レポート・論文を書いたりしていくための批評能力を身につけること。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	なし			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1・2回	オリエンテーション（目的・現状・課題の把握）、第1課「異文化適応」の学習	自分が履修する科目一覧とその課題の情報（シラバスなど）を持参		
第3・4回	第1課「異文化適応」のテストと応用レポートの執筆・批評、第2課「いじめ」の学習	テスト内容の学習、自分が履修する科目とその課題のリストを作成し持参		
第5・6回	第2課「いじめ」のテストと応用レポートの執筆・批評、第3課「衝動買いを誘導する」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第7・8回	第3課「衝動買いを誘導する」のテストと応用レポートの執筆・批評、第4課「おいしい食感の理由」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第9・10回	第4課「おいしい食感の理由」のテストと応用、第5課「日本人の意識—結婚と家庭に関する40年の変容—」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第11・12回	第5課「日本人の意識—結婚と家庭に関する40年の変容—」のテストと応用レポートの執筆・批評、第6課「フリーター問題」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第13・14回	第6課「フリーター問題」のテストと応用レポートの執筆・批評、第7課「安全でおいしい水を飲むために」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第15・16回	第7課「安全でおいしい水を飲むために」のテストと応用レポートの執筆・批評、第8課「『まじめ』という言葉」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第17・18回	第8課「『まじめ』という言葉」のテストと応用レポートの執筆・批評、第9課「がん告知」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第19・20回	第9課「がん告知」のテストと応用レポートの執筆・批評、第10課「論文を読む①全体構成・序論」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第21・22回	第10課「論文を読む①全体構成・序論」のテストと応用レポートの執筆・批評、第11課「論文を読む②本論その1」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第23・24回	第11課「論文を読む②本論その1」のテストと応用レポートの執筆・批評、第12課「論文を読む③本論その2」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第25・26回	第12課「論文を読む③本論その2」のテストと応用レポートの執筆・批評、第13課「論文を読む④結論」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第27・28回	第13課「論文を読む④結論」のテストと応用レポートの執筆・批評、第14課「論文を読む⑤総合練習」の学習	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
第29・30回	第14課「論文を読む⑤総合練習」のテストと応用レポートの執筆・批評	テスト内容の学習、応用レポートの執筆・持参		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	50%（一本の応用レポートを執筆して持参し、履修者間で相互批評を行う）			
レポート	10%（各課の応用レポート）			
小テスト等	30%			
成果発表	0%			
受講態度他	10%（授業活動への参加度。特に、発言や議論への参加度、応用レポートの執筆態度・批評姿勢を重視する）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>教科書を購入し、毎回持参する。          授業では日本語を使用する。外国語で話さない。          課題（予習・復習・宿題・調査など）をこなす。          クラスメイトと協力する。          欠席、遅刻せず、授業活動に集中する。</p>			
教科書	アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語③論文読解編』アルク			
指定図書	なし			
参考図書	アカデミック・ジャパニーズ研究会『改訂版 大学・大学院留学生の日本語①読解編』アルク			
オフィスアワー	授業の前後（二日前までにメールで予約してください。）	メールアドレス		



授業科目	日本語意味論	開講時期	後期
担当教員	小野 望	単 位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、日本語学の基幹科目として設置されているものである。</p> <p>意味を伝え、意味を理解することは、言語の主要な機能である。「意味」のあり方について理論的に考察するとともに、実際に語の意味を調べ、意味分析を行う。これらの作業を通して自らの言語感覚を豊かにする。同時に、言語の体系性を認識することを目的とする。</p> <p>本講では、認知論の立場から「意味とは何か」について考える。認知論の特徴の一つは、言語使用者がものごとをどのようにとらえるかという自己分析が重要な位置を占めることにある。普段、何気なく使い分けている語はどのように区別されているのか、自らの語感を精査して探りだしてみよう。そして、その結果がどのように理論化され、体系化されていくのか、その過程を追っていこう。</p>		
到達目標	<p>(1) 言語にとって「意味とは何か」ということが説明できる。</p> <p>(2) 「認知意味論」の特徴である「主体的なとらえ方」について、実例を示して説明できる。</p> <p>(3) 「カテゴリー化とプロトタイプ論」について、実例を示して説明できる。</p> <p>(4) 意味の拡張（変化）のメカニズムについて説明できる。</p> <p>(5) 比喩の種類について、実例を示して説明できる。</p> <p>(6) 「多義語」「類義語」の分析を通して、意味関係を明示できる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は、主に日本語・日本文学科のDP②「日本語の構造や特長について説明することができる。」の達成に関わるものである。「日本語学概論」での学びを基礎として、「日本語文法論」とともに受講することで、日本語のしくみをより深く理解することが可能となる。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	認知意味論とは？：「言語」「意味」の考え方	教科書、第1章・第2章 課題：好きなことば	
第 2回	認知と意味：主体的なとらえ方	P. 42 課題：認知意味論の考え方整理シート	
第 3回	認知とは？：認知の欲求	P. 13、Print：虹は何色？ 課題：知らなかったことば	
第 4回	認知とは？：認知の種類	P. 8、Print（カテゴリー化） 課題：整理シート	
第 5回	カテゴリー化：カテゴリー化とプロトタイプ論	P. 45 課題：カテゴリー化整理シート	
第 6回	成分分析：百科事典の意味と弁別の意味特徴	P. 52 課題：意外な語源	
第 7回	認知領域：成分分析と認知領域	P. 53、Print（意味分析） 課題：意味分析整理シート	
第 8回	合成語：合成語を手がかりに意味のあり方を考える	P. 60 課題：なぜそういう意味になる？	
第 9回	意味の拡張：意味の拡張（変化）のメカニズム	P. 64、Print（比喩） 課題：比喩表現を探そう	
第10回	メタファー：メタファーの認知基盤	P. 69 課題：比喩整理シート	
第11回	シネクドキー・メトニミー：シネクドキー・メトニミーの認知基盤	P. 83、95 課題：なぜそういう意味になる？	
第12回	比喩から多義語へ：三種の比喩の関係、多義語と単義語	P. 100 課題：意味分析の方法整理シート	
第13回	多義語分析の課題：複数の意味の想定、その考え方	P. 102、112 課題：冬休みの課題（第4章整理シート）	
第14回	多義語分析の方法：分析結果（意味関係）の明示	P. 146、Print（類義語） 課題：意味分析演習	
第15回	類義語分析の課題と方法：分析結果（意味関係）の明示	P. 148 課題：論述課題原稿作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	30％：筆記試験を行う。		
レポート	0％		
小テスト等	50％：授業中の課題（重要トピックに関する整理シート、意味分析など） 冬休みの課題（教科書第4章を読み、章末問題に答える）		
成果発表	0％		
受講態度他	20％：観察報告：語の意味に関して、授業時に小報告を求めることがある。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書・参考プリントを読んで講義に参加し、講義内容と合わせて各回のテーマをまとめていきましょう。重要なトピックについては、整理シートを配布し、授業中の課題（または宿題）とします。</li> <li>・教科書に沿った授業の流れとは別に、各自で選んだ語（好きなことば等々）の意味を調べ、報告することを求めます（観察報告）。</li> <li>・スクリーン上にプレゼンテーションを提示する場合、最前列付近の照明を落とすことがあります。</li> </ul>		
教科書	初山洋介著『認知意味論のしくみ』研究社（2002）		
指定図書	使用しない。		
参考図書	佐藤信夫著『レトリック感覚』講談社学術文庫 ほか、授業中に紹介する。		
オフィスアワー	木曜日：2講時～昼休み	メールアドレス	

授業科目	日本語音声論		開講時期	前期
担当教員	高山 百合子		単位	2
授業の目的と概要	<p>国語教育、日本語教育で役立つ日本語音声と、音声言語一般に関する知識、および教授法を身に付けることを目標に、基本的な知識の習得と、発音、朗読、スピーチ、話し合い、敬語運用などの実践的な活動を併せて行う。</p> <p>日本語の音声・音韻・音声言語に関する基礎的な知識を、国語教育、日本語教育の場、および外国語習得の際に活かせるように、コミュニケーションの観点から整理・評価できるようになる。</p> <p>日本語の構造や特徴について説明することができるようになる。</p>			
到達目標	<p>(1) 日本語の音声・音韻、および音声言語のあり方について、その基本的なしくみを知り、正しい知識を身に付ける。</p> <p>(2) 日本語の音声・音韻・音声言語に関する基礎的な知識を、国語教育、日本語教育の場、および外国語習得の際に活かすことができる。(3) 対人コミュニケーションの力を高める。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>◇日本語の4技能(読む・書く・聞く・話す)を用いて、適切なコミュニケーションができる。</p> <p>◇日本語の構造や特徴について説明することができる。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回;オリエンテーション/音声言語教育、音声と音韻(音素)		予習;テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。		
第2回;日本語の音の単位——モーラ(拍)と音節——		予習;テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。		
第3回;日本語の母音と子音(1)——概要——		予習;テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。		
第4回;日本語の母音と子音(2)——各単音、異音——		予習;テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。		
第5回;アクセントとイントネーション、プロミネンスなど		予習;テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。		
第6回;言語音と表記、音声言語と書記言語		予習;テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。		
第7回;コミュニケーション、コミュニケーション力		予習;テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。		
第8回;朗読をする		予習;テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。		
第9回;聴く、話す——メモと要約——		予習;テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。		
第10回;聴く、話す——ブレイン・ストーミングで内容を作る——		予習;テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。		
第11回;スピーチ——型を使って話す——		予習;テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。		
第12回;話し合う、話し合わせる		予習;テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。		
第13回;待遇表現(1)——敬語の分類——		予習;テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。		
第14回;待遇表現(2)——謙譲語を中心に——		予習;テキストの該当箇所を事前に読んでおくこと。		
第15回;まとめ		復習;不明個所などを整理して、質問などできるようにしておくこと。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	10%			
小テスト等	20%			
成果発表	とくに点数化はしないが、評価の際に考慮する。			
受講態度他	とくに点数化はしないが、評価の際に考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>■講義と演習形式とを交えながら授業を行う。グループ活動や発表の機会も多くなるので、柔軟かつ積極的に対応して欲しい。</p> <p>■予習・復習、課題の提出などはきちんと行うこと。シラバスをよく読んで、テキストの該当箇所は事前に読んでおくこと。</p>			
教科書	山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語音声・音声言語 改訂版』くろしお出版、プリント併用			
指定図書	特になし			
参考図書	斎藤 純男(よしお)『日本語音声学入門 改訂版』三省堂ほか、授業中に必要に応じて提示する。			
オフィスアワー	水曜4・5講時	メールアドレス		

授業科目	日本語学演習 I		開講時期	前期
担当教員	小野 望		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は、日本語学の発展科目として設置されているものである。 本講では、現代日本語の種々相を観察し、そこに現れるコミュニケーションの姿から人々のもの見方まで考察を広げる。単なる印象批評ではなく、事例やデータの集め方、その処理方法を演習し、言語学的アプローチの実際を体験することを目的とする。			
到達目標	(1) 現代日本語の種々相を観察し、自ら明らかにすべき課題を設定することができる。 (2) 課題に関する資料・データ等を収集し、活用することができる。 (3) 課題に関する先行研究等を参照し、考察のための視点や方法論を選択することができる。 (4) 具体例に基づき、日本語の特徴について論じることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連する科目：日本語学概論、日本語文法論、日本語意味論、日本語の現在 など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 オリエンテーション		テキストを通読し、演習課題のイメージを掴んでおこう。		
第2回 テキストから (1) 「大学生と言葉」		テキストに取り上げられている事例について整理しておこう。		
第3回 テキストから (2) 「大学生と言葉」		自分たちの身の回りの事例について話し合おう。		
第4回 テキストから (3) 「はやり言葉考」		はやり言葉とは何か。テキストの記述を整理しよう。		
第5回 テキストから (4) 「はやり言葉考」		はやり言葉について自分の考えをまとめ、意見交換しよう。		
第6回 課題報告		発表方法の確認。各自が担当する課題について検討し、決定しよう。		
第7回 発表準備		課題に関する調査をしよう。授業外の準備も含めて作業経過を報告。		
第8回 発表準備		課題発表の準備をしよう。授業外の準備も含めて作業経過を報告。		
第9回 発表準備		課題発表の準備をしよう。授業外の準備も含めて作業経過を報告。		
第10回 課題発表 (1)		課題発表を聞き、意見交換をしよう。各回、その時間のまとめを提出。		
第11回 課題発表 (2)		課題発表を聞き、意見交換をしよう。各回、その時間のまとめを提出。		
第12回 課題発表 (3)		課題発表を聞き、意見交換をしよう。各回、その時間のまとめを提出。		
第13回 課題発表 (4)		課題発表を聞き、意見交換をしよう。各回、その時間のまとめを提出。		
第14回 課題発表 (5)		課題発表を聞き、意見交換をしよう。各回、その時間のまとめを提出。		
第15回 まとめ		最終レポートの準備を始めよう。自らの発表課題を深化させよう。		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 各自が選んだテーマについて、発表に対する質疑等も考慮して最終レポートをまとめる。			
小テスト等	0%			
成果発表	30% 各自が選んだテーマについて報告資料を作成し、口頭発表を行う。			
受講態度他	40% テーマ設定、テーマに関する調査、意見交換等 授業のミニレポートを含め、真摯な考察と積極的な発信を求める。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・受講者数によって、授業の運営法が変わることがあります。(調査報告を発表→報告書の配布、など) ・演習科目ですから、自らテーマを設定し、それについて調査報告することはもちろん、他の報告についての意見をまとめ、発言するなどの行動を求めます。 ・取り組み方によって成果は大きく異なります。考える力を高めるとともに、よりよいコミュニケーションの主体となることを目標に、積極的に参加しましょう。			
教科書	野口恵子著『かなり気がかりな日本語』集英社新書			
指定図書	使用しない。			
参考図書	各自のテーマに従い、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	木曜日：2 講時～昼休み	メールアドレス		

授業科目	日本語学演習 I		開講時期	前期
担当教員	中村 万里		単 位	2
授業の目的と概要	<p>日本語の歴史を知るうえで文献資料の果たす役割は非常に大きい。文献資料（平曲譜本）を用いて中世から現代に至るまでの日本語の変遷を知ることが目的とする。</p> <p>本演習では近世期の平曲譜本（平曲の発音や旋律を示すため、曲節や節博士その他の注記を施した本）を用いて、中世から現代に至るまでの日本語の歴史を学ぶ。平曲は平家物語を琵琶の間奏に合わせて語る音曲の称であるが、演習では録音資料やDVDなどを使用する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古辞書を引くことができる。</li> <li>2. 日本語の音韻史が説明できる。</li> <li>3. 日本語の文法史が説明できる。</li> <li>4. 日本語の語彙史が説明できる。</li> <li>5. 日本語史が理解できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション		授業の復習	
第 2回	古辞書の説明		授業の復習	
第 3回	古辞書の引き方		授業の復習	
第 4回	変体かなの読み方		授業の復習	
第 5回	平曲と平曲譜本の説明		授業の復習	
第 6回	平曲譜本の読みと発表（1）		授業の復習、プリント予習	
第 7回	平曲譜本の読みと発表（2）		授業の復習、プリント予習	
第 8回	平曲譜本の読みと発表（3）		授業の復習、プリント予習	
第 9回	平曲譜本の読みと発表（4）		授業の復習、プリント予習	
第10回	平曲譜本の読みと発表（5）		授業の復習、プリント予習	
第11回	平曲譜本の読みと発表（6）		授業の復習	
第12回	平曲譜本の読みと発表（7）		授業の復習、プリント予習	
第13回	平曲譜本の読みと発表（8）		授業の復習、プリント予習	
第14回	平曲譜本の読みと発表（9）		授業の復習、プリント予習	
第15回	まとめ		授業の復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	70% 期末レポート			
レポート	10% 小レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 発表			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に積極的に参加してください。			
教科書	尾崎家平家正節のプリント配布			
指定図書	奥村三雄『平曲譜本の研究』桜楓社			
参考図書	渥美かをる『平家物語の基礎的研究』大学堂書店			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	日本語学演習 I		開講時期	前期
担当教員	高山 百合子		単位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、日本語学の発展科目として設置されているものである。 九州大学萩野文庫蔵「今昔物語抄」を対象に、中世前期日本語の様相を知ることが目的とする。 文献による日本語史研究の第一歩として、まず資料を詳細に読み解いていくことから始める。いわゆる宣命体の漢字カタカナ交じり文で、表記史の上からも注目されるが、今昔物語集はもちろん、打聞集との関連もあり、さらに宇治拾遺物語など他の説話との影響関係も重要なテーマとなる。この演習 I では、まず影印本の読み慣れ、説話文学の在り方に親しみながら、中世語を観察していく。</p>			
到達目標	<p>(1) 「今昔物語抄」の表記・文体に慣れ、宣命体漢字カタカナ交じり文が、おおよそ読み解けるようになる。 (2) 現代語の表現、ことば遣い、語彙などとの違いに気付くことができる。 (3) 説話文学の在り方を理解し、説話の魅力を楽しむことができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連する科目：日本語学概論 I・II、日本語文法論、中・近世文学購読、古代日本語研究など			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション；中世語概説、演習の仕方について	テキスト「解題」を通読し、「今昔物語抄」のイメージを掴む。		
第2回	テキスト読解（皆なで少しずつ読もう）	テキスト下読み		
第3回	テキスト読解（皆なで少しずつ読もう）	担当箇所の発表準備。それ以外もテキスト下読み		
第4回	テキスト読解（皆なで少しずつ読もう）	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み		
第5回	担当箇所演習発表	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み		
第6回	担当箇所演習発表	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み		
第7回	担当箇所演習発表	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み		
第8回	担当箇所演習発表	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み		
第9回	担当箇所演習発表	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み		
第10回	担当箇所演習発表	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み		
第11回	担当箇所演習発表	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み		
第12回	担当箇所演習発表	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み		
第13回	担当箇所演習発表	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み		
第14回	担当箇所演習発表	担当箇所の発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み		
第15回	まとめ	最終レポートの準備を始めよう。自らの発表課題を深化させよう。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	特になし			
レポート	50% 発表に対する質疑等も考慮して、発表内容をレポートとしてまとめる。			
小テスト等	特になし			
成果発表	50% 演習発表を行う。			
受講態度他	発表準備、発表の積極性を視ると同時に、質問、意見の真摯さも視る。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	演習担当者には、詳細な発表資料の作成、および真摯な発表、受講者には、テキスト演習箇所の下読み、前向きな受容的姿勢、と同時に批判的判断を求めます。その両者が相まって、活発な質疑応答が展開されることを期待しています。			
教科書	迫野虔徳『今昔物語抄』（和泉書院）			
指定図書	特になし			
参考図書	今昔物語集、宇治拾遺物語、打聞集、その他、具体的な工具書については授業中に指示する。			
オフィスアワー	水曜 4・5 講時	メールアドレス		

授業科目	日本語学演習Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	小野 望		単位	2
授業の目的と概要	この科目は、日本語学の発展科目として設置されているものである。 本講では、現代日本語の種々相を観察し、そこに現れるコミュニケーションの姿から人々のものの見方まで考察を広げる。単なる印象批評に終わらせず、事例やデータの集め方、その処理方法を演習し、言語学的アプローチの実験を体験することを目的とする。			
到達目標	(1) 現代日本語の種々相を観察し、自ら明らかにすべき課題を設定することができる。 (2) 課題に関する資料・データ等を収集し、活用することができる。 (3) 課題に関する先行研究等を参照し、考察のための視点や方法論を選択することができる。 (4) 具体例に基づき、日本語の特徴について論じることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連する科目：日本語学概論、日本語文法論、日本語意味論、日本語の現在 など			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		配付資料を通読し、敬語に関する現代人の意識について考察しよう。		
第2回 「失礼な敬語」「ばか丁寧化する敬語」		配付資料を通読し、筆者の論点を整理しよう。		
第3回 日本語検定「敬語」問題		検定の問題に挑戦しよう。解答の解説を読み、確認しよう。		
第4回 「よろしくお願ひします。」		配付資料を読み、筆者の主張を確認しよう。		
第5回 「させていただく」(1)		配付資料を読み、筆者の論点を整理しよう。		
第6回 「させていただく」(2)		追加資料を加え、問題の背景を考察しよう。		
第7回 「させていただく」(3)		現状認識から敬語構造の変化を考察しよう。		
第8回 人文系データベース講習会		紹介されたデータベースを実際を使ってみよう。		
第9回 ポライトネス理論(1)		日本語の敬語構造を整理し、ポライトネスの考え方に広げよう。		
第10回 ポライトネス理論(2)		配付資料を読み、ポライトネス理論について理解しよう。		
第11回 ポライトネス理論(3)		配付資料を読み、ポライトネス理論について理解を深めよう。		
第12回 現代のコミュニケーションと配慮(1)		配付資料を読み、「配慮」に関する論点を整理しよう。		
第13回 現代のコミュニケーションと配慮(2)		配付資料を読み、「配慮」に関する事例を集めよう。		
第14回 現代のコミュニケーションと配慮(3)		身近な例をもとに、コミュニケーションと配慮について意見交換しよう。		
第15回 まとめ		最終レポートの準備を始めよう。自ら考察すべき課題を深化させよう。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% 各自が選んだテーマについて、最終レポートをまとめる。			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	40% テーマ設定、テーマに関する調査、意見交換等 授業中のミニレポートを含め、真摯な考察と積極的な発信を求める。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・受講者数によって、授業の運営法が変わることがあります。(調査報告を公表→報告書の配布、など) ・演習科目ですから、自らテーマを設定し、それについて調査報告することはもちろん、他の報告についての意見をまとめ、発言するなどの行動を求めます。 ・取り組み方によって成果は大きく異なります。考える力を高めるとともに、よりよいコミュニケーションの主体となることを目標に、積極的に参加しましょう。			
教科書	野口恵子著『かなり気がかりな日本語』集英社新書			
指定図書	使用しない。			
参考図書	授業中に紹介する。			
オフィスアワー	木曜日：2 講時～昼休み	メールアドレス		

授業科目	日本語学演習Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	中村 万里		単 位	2
授業の目的と概要	日本語学演習Ⅰを踏まえて、中世から現代に至るまでの日本語の変遷を知ることが目的とする。 本演習は近世期の平曲譜本を用いて、中世から現代までの日本語の歴史を学ぶ。なお録音テープやDVDなども使用する。			
到達目標	1. 平曲譜本を読むことができる。 2. 文献国語史を説明できる。 3. 方言国語史を説明できる。 4. 平曲を語るることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション	授業の復習		
第2回	平曲と平曲譜本	授業の復習		
第3回	文献国語史	授業の復習		
第4回	方言国語史	授業の復習		
第5回	平曲譜本の読解と発表(1)	授業の復習、プリント予習		
第6回	平曲譜本の読解と発表(2)	授業の復習、プリント予習		
第7回	平曲譜本の読解と発表(3)	授業の復習、プリント予習		
第8回	平曲譜本の読解と発表(4)	授業の復習、プリント予習		
第9回	平曲譜本の読解と発表(5)	授業の復習、プリント予習		
第10回	平曲譜本の読解と発表(6)	授業の復習、プリント予習		
第11回	平曲譜本の読解と発表(7)	授業の復習、プリント予習		
第12回	平曲譜本の読解と発表(8)	授業の復習、プリント予習		
第13回	平曲譜本の読解と発表(9)	授業の復習、プリント予習		
第14回	平曲を語る(1)	授業の復習		
第15回	まとめ	授業の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70% 期末レポート			
レポート	10% 小レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 出席状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に積極的に参加してください。			
教科書	尾崎家本平家正節のプリント配布			
指定図書	奥村三雄『平曲譜本の研究』桜楓社			
参考図書	渥美かをる『平家物語の基礎的研究』大学堂書店			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	日本語学演習Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	高山 百合子	単位	2
授業の目的と概要	この科目は、日本語学の発展科目として設置されているものである。 九州大学萩野文庫蔵「今昔物語抄」を対象に、中世前期日本語の様相を知ることが目的とする。 文献による日本語史研究の基礎的作業として、前期演習Ⅰに引き続き、資料を詳細に読み解いていくことを重視する。いわゆる宣命体の漢字カタカナ交じり文で、表記史の上からも注目されるが、今昔物語集はもちろん、打聞集との関連もあり、さらに宇治拾遺物語など他の説話との影響関係も重要なテーマとなる。この演習Ⅱでは、説話文学について理解を深めながら、中世語の観察を本格的に行う。		
到達目標	(1) 「今昔物語抄」の表記・文体に慣れ、宣命体漢字カタカナ交じり文が、相当程度読み解けるようになる。 (2) 現代語の表現、ことば遣い、語彙などとの違いに気付き、用例を集め、ある程度分析することができる。 (3) 説話文学の在り方を理解し、説話の魅力を論じることができる。 (4) 具体例に基づき、中世語の特徴について部分的にでも論じることができる。 (5) 全体として、注釈を付けながら読み進めていく作業となる。そのような読解の方法に慣れ、習得できる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連する科目：日本語学概論、日本語学演習Ⅰ、日本語文法論、中・近世文学講読、古代日本語研究など		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション；中世語概説、演習の仕方について	自分なりのテーマを探す。担当箇所を発表準備（発表資料作成も）。	
第2回	担当箇所演習発表	担当箇所を発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み	
第3回	担当箇所演習発表	担当箇所を発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み	
第4回	担当箇所演習発表	担当箇所を発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み	
第5回	担当箇所演習発表	担当箇所を発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み	
第6回	担当箇所演習発表	担当箇所を発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み	
第7回	担当箇所演習発表	担当箇所を発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み	
第8回	担当箇所演習発表	担当箇所を発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み	
第9回	担当箇所演習発表	担当箇所を発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み	
第10回	担当箇所演習発表	担当箇所を発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み	
第11回	担当箇所演習発表	担当箇所を発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み	
第12回	担当箇所演習発表	担当箇所を発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み	
第13回	担当箇所演習発表	担当箇所を発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み	
第14回	担当箇所演習発表	担当箇所を発表準備（発表資料作成も）。それ以外もテキスト下読み	
第15回	まとめ	最終レポートの準備を始めよう。自らの発表課題を深化させよう。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	特になし		
レポート	50％ 各自が選んだテーマについて、発表に対する質疑等も考慮して最終レポートをまとめる。		
小テスト等	特になし		
成果発表	50％ 演習発表を行う。		
受講態度他	発表準備、発表の積極性を視ると同時に、質問、意見の真摯さも視る。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	演習担当者には、詳細な発表資料の作成、および真摯な発表、受講者には、テキスト演習箇所の下読み、前向きな受容的姿勢、と同時に批判的判断を求めます。その両者が相まって、活発な質疑応答が展開されることを期待しています。		
教科書	迫野虔徳『今昔物語抄』（和泉書院）		
指定図書	特になし		
参考図書	今昔物語集、宇治拾遺物語、打聞集、その他、具体的な工具書については授業中に指示する。		
オフィスアワー	水曜 4・5 講時	メールアドレス	



授業科目	日本語学概論 I		開講時期	前期
担当教員	中村 万里		単位	2
授業の目的と概要	<p>私たちが日常何気なく使っている日本語について、様々な視点から「日本語」とは何か、日本語がどのような要素から全体として成り立っているのかを考えます。また、講義を通して「日本語力」の育成を目指します。講義によって、日本語の様々な面を考えます。前期は、教科書の章段の内、「音声・音韻」「文法」「敬語」「言語生活」「方言」について考えます。また、ワークシートを使って日本語学の基本としての文章表現についても考えます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語学の基本的な用語・定義などの説明ができる。</li> <li>2. 日本語の音声・音韻について説明ができる。</li> <li>3. 日本語の文法・敬語について説明ができる。</li> <li>4. 日本語の言語生活・方言について説明ができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に日本語・日本文学科のDP2「日本語の構造や特徴について説明することができる。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		日本語の復習		
第2回 音声・音韻①(音声・音韻とは何か)		予習：教科書II、復習：教科書付属ワークシート		
第3回 音声・音韻②(プロソディーと音韻史)		予習：教科書II、復習：教科書付属ワークシート		
第4回 文法①(文法と文法論)		予習：教科書III、復習：教科書付属ワークシート		
第5回 文法②(三大文法学説と文法史)		予習：教科書III、復習：教科書付属ワークシート		
第6回 敬語①(敬語とは)		予習：教科書IV、復習：教科書付属ワークシート		
第7回 敬語②(尊敬語・謙譲語・丁寧語・丁寧語・美化語とマニュアル敬語)		予習：教科書IV、復習：教科書付属ワークシート		
第8回 言語生活①(言語生活とは)		予習：教科書VIII、復習：教科書付属ワークシート		
第9回 言語生活②(社会言語学と言語生活史)		予習：教科書VIII、復習：教科書付属ワークシート		
第10回 方言①(方言とは、方言区画論)		予習：教科書IX、復習：教科書付属ワークシート		
第11回 方言②(比較方言学と方言地理学、方言史)		予習：教科書IX、復習：教科書付属ワークシート		
第12回 音声・音韻のまとめ		授業の復習		
第13回 文法・敬語のまとめ		授業の復習		
第14回 言語生活・方言のまとめ		授業の復習		
第15回 日本語学のまとめ		授業の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70% 期末試験			
レポート	20% 小テスト			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10% 出席状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に積極的に参加してください。			
教科書	中村万里ほか『入門 日本語学ワークブック』双文社出版			
指定図書	築島裕『国語学』東京大学出版会			
参考図書	必要に応じ、授業の中で紹介します。			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	日本語学概論Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	中村 萬里		単 位	2
授業の目的と概要	私達が日常何気なく用いている日本語について、改めて様々な視点から見通すことにより、「ことば」とは何か、日本語がどのような要素から全体として成り立っているのかを認識することで、多様な問題にアプローチし、考える力を養います。同時に現代日本語が、文字に残っているだけでも優に1000年を超える歴史の上で存在していることにも講義を通じて理解を深め、社会人としての専門的知識・技能を身につけます。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語学の研究分野・研究法について、基本的な用語・定説などが説明できる。</li> <li>日本語の語彙について、分類・記述の仕方にはどのようなものがあるかが説明できる。</li> <li>日本語の文字・表記の複雑なシステムについて、歴史的な視点を踏まえた上で現在の状況が説明できる。</li> <li>日本語の文章・文体について、和文・変体漢文・和漢混淆文などの様式とそれらの行われた事情が説明できる。</li> <li>日本語の系統について、現在の通説とその意義とが説明できる。</li> <li>日本語学の諸問題について、自ら調べ、考えることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	講義によって、日本語の様々な側面を検討してゆきます（前期は、教科書の章段の内、主に「語彙・意味」「文字・表記」「文章・文体」「言語生活」「系統」について考えます）。毎回の授業末尾に理解確認のための小課題を設定する他、受講の皆さん自身の用いている日本語そのものから「ことば」の有り様を考えてゆくアンケート調査なども予定しています。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション（本授業の全体的な説明）・言語の特質	予習：教科書Ⅰ章、復習：教科書付属ワークシート		
第2回	語彙・意味①語彙とは	予習：教科書Ⅴ章1、復習：教科書付属ワークシート		
第3回	語彙・意味②語義	予習：教科書Ⅴ章2、復習：教科書付属ワークシート		
第4回	語彙・意味③語構成	予習：教科書Ⅴ章3、復習：教科書付属ワークシート		
第5回	語彙・意味④語彙史と辞書	予習：教科書Ⅴ章4、復習：教科書付属ワークシート		
第6回	文字・表記①文字とは	予習：教科書Ⅵ章1、復習：教科書付属ワークシート		
第7回	文字・表記②日本の文字	予習：教科書Ⅵ章2、復習：教科書付属ワークシート		
第8回	文字・表記③仮名遣い	予習：教科書Ⅵ章3、復習：教科書付属ワークシート		
第9回	文字・表記④文字史	予習：教科書Ⅵ章4、復習：教科書付属ワークシート		
第10回	文章・文体①文章とは	予習：教科書Ⅶ章1、復習：教科書付属ワークシート		
第11回	文章・文体②文体とは	予習：教科書Ⅶ章2、復習：教科書付属ワークシート		
第12回	文章・文体③文体史	予習：教科書Ⅶ章3、復習：教科書付属ワークシート		
第13回	言語生活①言語生活とは	予習：教科書Ⅷ章1、復習：教科書付属ワークシート		
第14回	言語生活②言語生活史と社会言語学	予習：教科書Ⅷ章2、復習：教科書付属ワークシート		
第15回	系統	予習：教科書Ⅸ章、復習：教科書付属ワークシート		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％			
レポート	なし			
小テスト等	40％（上記「授業の概要」参照）			
成果発表	なし			
受講態度他	10％（課題の自主設定など、積極的な態度を評価します）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	空気の様に慣れ親しんでいる日本語についての勉強ですが、受講の皆さんにとっては初めて学ぶ事柄を、沢山講義することになります。どうか集中して聴き、ノートをきちんととって下さい。			
教科書	中村萬里ほか『入門 日本語学ワークブック』（双文社出版）			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、授業の中で紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	日本語教育演習 I		開講時期	前期
担当教員	鷹野 恵		単位	2
授業の目的と概要	<p>「外国語としての日本語」を教えるための実践的な技能を身につけることが目的です。効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらよいのかを知り、できるようになることを目指します。国内・国外で日本語を教えるための土台を作ることに重点を置きます。また、即戦力としての人材を育成するため、現場に即した授業の展開のしかたを念頭に、授業を進めます。授業は、原則教科書に沿い、進めます。適宜、ワークショップ形式の演習を行い、体験を通じた学びを目指します。また、都度、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語教師としての実務をひと通り学び、主に、初級レベルの授業をひととおりこなせるようになる。</li> <li>&lt;Plan-Do-See&gt;のステップにより、日本語教師が授業前に行うこと、実際のパフォーマンス、ふりかえりというサイクルを習得する。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は文学部日本語・日本文学科のDP2「日本語の構造や特徴について説明することができる」を充足するための科目です。この科目は「日本語教育法AI・II」、「日本語教育法BI・II」で学んだことを基盤としており、より即戦力の日本語教師に近づくための発展的内容となっています。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	イントロダクション		初級の全体像についてふりかえる	
第2回	初級の授業の全体像		担当箇所の教案の作成	
第3回	授業案作成（1） 全ての素案を立てる		担当箇所の教案の作成	
第4回	授業案作成（2） アイデアを可視化する		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第5回	模擬授業と検討内容（1） 第8・9課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第6回	模擬授業と検討内容（2） 第9・10課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第7回	模擬授業と検討内容（3） 第10・11課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第8回	模擬授業と検討内容（4） 第12課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第9回	模擬授業と検討内容（5） 第13課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第10回	模擬授業と検討内容（6） 第14課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第11回	模擬授業と検討内容（7） 第14・15課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第12回	模擬授業と検討内容（8） 第16・17課		模擬授業の準備 授業のふりかえり	
第13回	模擬授業と検討内容（9） 第18課		テスト作成	
第14回	模擬授業と検討内容（9） 第19課		ふりかえり	
第15回	まとめ		レポート作成	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 詳細は最初の授業で指示します。			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 教案および模擬授業を評価します。			
受講態度他	30% 学習活動への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。 また、ペアとの協働を意識し、どうすればよりよい授業ができるかを考え、積極的なディスカッションを期待します。</p>			
教科書	『みんなの日本語 初級I 本冊 第2版』（スリーエーネットワーク）			
指定図書	なし			
参考図書	<p>『初級を教える人のための文法ハンドブック』白川博之監修（スリーエーネットワーク） 『初級日本語文法と教え方のポイント』市川保子（スリーエーネットワーク）</p>			
オフィスアワー	火曜 5 講時	メールアドレス		

授業科目	日本語教育演習Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	鷹野 恵		単位	2
授業の目的と概要	<p>「外国語としての日本語」を教えるための実践的な技能を身につけることが目的です。効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらよいかを知り、できるようになることを目指します。国内・国外で日本語を教えるための土台を作ることに重点を置きます。また、即戦力としての人材を育成するため、現場に即した授業の展開のしかたを念頭に、授業を進めます。授業は、原則教科書に沿い、進めます。適宜、ワークショップ形式の演習を行い、体験を通じた学びを目指します。都度、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語教師としての実務をひと通り学び、初級から上級までの学習者を対象とした授業ができるようになることを目標とします。本授業では、主に、中級レベルの授業をひととおりこなせるようになることが目標です。</li> <li>・&lt;Plan-Do-See&gt;のステップにより、日本語教師が授業前に行うこと、実際のパフォーマンス、ふりかえりというサイクルを習得します。</li> </ul>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>この授業は文学部日本語・日本文学科のDP2「日本語の構造や特徴について説明することができる」を充足するための科目です。この科目は「日本語教育法AⅠ・Ⅱ」、「日本語教育法BⅠ・Ⅱ」、「日本語教育演習Ⅰ」で学んだことを基盤としており、より即戦力の日本語教師に近づくための発展的内容となっています。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション	日本語教授における種々のシラバスについて整理する		
第2回	中級の授業の全体像（1）『中級で学ぶ日本語』分析	担当箇所の教案の作成		
第3回	中級の授業の全体像（2）『中級で学ぶ日本語』学習者の体験	担当箇所の教案の作成		
第4回	模擬授業と内容検討（1）『みんなの日本語中級Ⅰ』	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第5回	模擬授業と内容検討（2）『J-501』	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第6回	模擬授業と内容検討（3）『日本語上級へのとびら』	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第7回	模擬授業と内容内容（4）『日本語生中継』	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第8回	模擬授業と内容検討（5）『J-Bridge』	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第9回	模擬授業と内容検討（6）『中級へ行こう』	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第10回	模擬授業と内容検討（7）『文化中級日本語Ⅰ』	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第11回	整理とまとめ（1）中上級の授業運営全体についての再検討	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第12回	整理とまとめ（2）教師のパフォーマンスについての再検討	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第13回	模擬授業と内容検討（8）『ニューアプローチ 中級』	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第14回	模擬授業と内容検討（9）『日本語上級話者への道』	模擬授業の準備 授業のふりかえり		
第15回	まとめ	レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 詳細は最初の授業で指示します。			
小テスト等	なし			
成果発表	50% 教案および模擬授業を評価します。			
受講態度他	30% 学習活動への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。また、ペアとの協働を意識し、どうすればよりよい授業ができるかを考え、積極的なディスカッションを期待します。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	『中上級を教える人のための文法ハンドブック』松岡弘監修（スリーエーネットワーク） 『中級日本語文法と教え方のポイント』市川保子（スリーエーネットワーク）			
オフィスアワー	火曜 5講時	メールアドレス		

授業科目	日本語教育法A I		開講時期	前期
担当教員	鷹野 恵		単 位	2
授業の目的と概要	<p>「外国語としての日本語」を教えるための基礎知識と技能を身につけることが目的です。効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらいのかを考えます。国内・国外で日本語を教えるための土台を作ることに重点を置きます。</p> <p>授業は、原則教科書に沿い、進めます。適宜、ワークショップ形式の演習を行い、体験を通じた学びを目指します。また、都度、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語教師としての技能を身につける最初の段階として、基礎的な知識を学び、日本語教育の全体像を知ること。</li> <li>主にはどのような学習者があり、どのように日本語を学んでいるかについての知識を教材分析等を通し、知見を深めます。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は文学部日本語・日本文学科のDP2「日本語の構造や特徴について説明することができる」を充足するための科目です。この科目は非母語話者の視点から日本語教育を考察する「異文化コミュニケーション」を履修すると、さらに日本語の授業について理解を深めることができます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第2回	言語としての日本語	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第3回	日本語の音声	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第4回	日本語の文法（1）品詞	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第5回	日本語の文法（2）動詞・形容詞の活用	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第6回	日本語の文法（3）日本語のレベルと文法の関係他	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第7回	文字・表記（1）ひらがなの教え方	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第8回	文字・表記（2）漢字の教え方	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第9回	語彙	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第10回	社会言語学（1）ことばの使い分けとは	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第11回	社会言語学（2）文法外のコミュニケーション	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第12回	心理学（1）学習（learning）とは？	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第13回	心理学（2）心理学と日本語教育の関わり	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第14回	第二言語習得（1）第二言語を学ぶプロセスとは	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
第15回	第二言語習得（2）第二言語習得を促すものとは	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 詳細は最初の授業で指示します。			
小テスト等	40% 詳細は最初の授業で指示します。			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 学習活動への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。			
教科書	『新・はじめての日本語教育1』高見澤孟他（アスク、2004）			
指定図書	なし			
参考図書	『みんなの日本語 初級Ⅰ 本冊』（スリーエーネットワーク） 『みんなの日本語 初級Ⅱ 本冊』（スリーエーネットワーク）			
オフィスワー	火曜 2 講時	メールアドレス		

授業科目	日本語教育法AⅡ	開講時期	後期
担当教員	鷹野 恵	単 位	2
授業の目的と概要	<p>「外国語としての日本語」を教えるための基礎知識と技能を身につけることが目的です。効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらいのかを考えます。国内・国外で日本語を教えるための土台を作ることに重点を置きます。</p> <p>授業は、原則教科書に沿い、進めます。適宜、ワークショップ形式の演習を行い、体験を通じた学びを目指します。また、都度、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語教師としての技能を身につける最初の段階として、基礎的な知識を学び、日本語教育の全体像を知ること。</li> <li>主には各レベルの学習者にどのように授業を行うのかを知ること。</li> <li>本授業は、学んだことを実際にやってみる「日本語教育演習Ⅰ・Ⅱ」への前段階としての位置づけがあります。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は文学部日本語・日本文学科のDP2「日本語の構造や特徴について説明することができる」を充足するための科目です。この科目は「日本語教育法AⅠ」の内容を発展させ、実践や現場という視点から考えます。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第2回	日本語教師の役割	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第3回	日本語を教えるということ	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第4回	初級の教え方（1）発音	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第5回	初級の教え方（2）会話	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第6回	初級の教え方（3）文字	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第7回	初級の教え方（4）読解	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第8回	中上級の教え方（1）会話	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第9回	中上級の教え方（2）聴解	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第10回	中上級の教え方（3）読解	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第11回	中上級の教え方（4）情報収集	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第12回	中上級の教え方（5）その他のクラス指導	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第13回	評価と試験	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第14回	いろいろな外国語教授法	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第15回	ふりかえり	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30％ 詳細は最初の授業で指示します。		
小テスト等	40％ 詳細は最初の授業で指示します。		
成果発表	なし		
受講態度他	30％ 学習活動への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。		
教科書	『新・はじめての日本語教育2』高見澤孟他（アスク、2004）		
指定図書	なし		
参考図書	『みんなの日本語 初級Ⅰ 本冊』（スリーエーネットワーク） 『みんなの日本語 初級Ⅱ 本冊』（スリーエーネットワーク）		
オフィスアワー	火曜 2 講時	メールアドレス	

授業科目	日本語教育法B I	開講時期	前期
担当教員	鷹野 恵	単 位	2
授業の目的と概要	<p>「外国語としての日本語」を教えるための実践的な技能を身につけることが目的です。効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらいのかを知り、できるようになることを目指します。国内・国外で日本語を教えるための土台を作ることに重点を置きます。</p> <p>授業は、原則教科書に沿い、進めます。適宜、ワークショップ形式の演習を行い、体験を通じた学びを目指します。また、都度、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。</p>		
到達目標	<p>・日本語教師としての実務をひと通り学び、初級から上級までの学習者を対象とした授業ができるようになることを目標とします。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は文学部日本語・日本文学科のDP2「日本語の構造や特徴について説明することができる」を充足するための科目です。この科目は「日本語教育法A I・II」の内容を軸に、実践力を身に付けます。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第2回	いろいろなシラバス	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第3回	第二言語の習得の様相	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第4回	初級の授業の全体像	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第5回	初級の授業 導入(1)学習者に気づきを与える導入とは	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第6回	初級の授業 導入(2)導入のバリエーション	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第7回	初級の授業 基本練習(1)流暢さと自動化を促すパターンプラクティスとは	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第8回	初級の授業 基本練習(2)パターンプラクティスのバリエーション	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第9回	初級の授業 応用練習(1)「自分のことば」で話すための活動とは	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第10回	初級の授業 応用練習(2)応用練習のバリエーション	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第11回	初級の授業 応用練習(3)応用練習の留意点	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第12回	初級の教材分析(1)文型シラバスの教材	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第13回	初級の教材分析(2)文型シラバス以外の教材	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第14回	授業案検討	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第15回	まとめ	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30% 詳細は最初の授業で指示します。		
小テスト等	なし		
成果発表	40% 詳細は最初の授業で指示します。		
受講態度他	30% 学習活動への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。		
教科書	『みんなの日本語 初級I 本冊 ※第2版』(スリーエーネットワーク) ※第1版ではありません		
指定図書	適宜、提示します。		
参考図書	『初級を教える人のための文法ハンドブック』白川博之監修(スリーエーネットワーク) 『初級日本語文法と教え方のポイント』市川保子(スリーエーネットワーク)		
オフィスアワー	月曜 3講時	メールアドレス	

授業科目	日本語教育法B II	開講時期	後期
担当教員	鷹野 恵	単 位	2
授業の目的と概要	<p>「外国語としての日本語」を教えるための実践的な技能を身につけることが目的です。効果的に日本語を教えるには、何が必要なのか、どのように教えたらいのかを知り、できるようになることを目指します。国内・国外で日本語を教えるための土台を作ることに重点を置きます。</p> <p>授業は、原則教科書に沿い、進めます。適宜、ワークショップ形式の演習を行い、体験を通じた学びを目指します。また、都度、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語教師としての実務をひと通り学び、初級から上級までの学習者を対象とした授業ができるようになることを目標とします。</li> <li>教案の書き方や教具の作成ができるようになることを目指します。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は文学部日本語・日本文学科のDP2「日本語の構造や特徴について説明することができる」を充足するための科目です。この科目は「日本語教育法A I・II」、「日本語教育法B I」の内容を基盤とし、実践者としての技能を習得します。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第2回	中級の授業の体験	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第3回	中級の授業の構成	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第4回	教材分析（1）分析の観点の整理	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第5回	教材分析（2）発表	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第6回	効果的な教材の利用	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第7回	教具作成	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第8回	クラスコントロール	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第9回	模擬授業（1）第2課	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第10回	模擬授業（2）第3課	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第11回	模擬授業（3）第4課	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第12回	模擬授業（4）第5課	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第13回	模擬授業（5）第7課	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第14回	模擬授業（6）第8課	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第15回	模擬授業（7）第9課	①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30% 詳細は最初の授業で指示します。		
小テスト等	なし		
成果発表	40% 教案や教具について発表し評価します。		
受講態度他	30% 学習活動への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。		
教科書	『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）		
指定図書	なし		
参考図書	『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』白川博之監修（スリーエーネットワーク） 『中級日本語文法と教え方のポイント』市川保子（スリーエーネットワーク）		
オフィスアワー	月曜 5 講時	メールアドレス	



授業科目	日本語教材研究	開講時期	後期
担当教員	鷹野 恵	単 位	2
授業の目的と概要	<p>「外国語としての日本語」を教えるための基礎知識と技能を身につけることが目的です。教材・教具は教師が授業をするうえでもっとも重要な道具です。その道具を「見る目」を身につけることを目的とします。</p> <p>授業は、プリントによって進めます。適宜、ワークショップ形式の演習を行い、体験を通した学びを目指します。また、都度、まとめのレポートを書き、自己内省（ふりかえり）をすることで、整理をしていきます。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、現場で多く採用されている日本語の教科書を題材に分析を行い、各教材の特徴を理解することができる。</li> <li>・教材の特徴を理解したうえで、ごく簡単な教材作成をすることができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に日本語・日本文学科のDP1「日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を用いて、適切なコミュニケーションができる。」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 教具とは何か		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第2回 日本語教材選択の視点		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第3回 学習者を知る ―レディネス調査・ニーズ調査―		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第4回 教科書の構成		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第5回 教科書の種類（一般成人・留学生、ビジネスパーソン、技術研修生、年少者）		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第6回 教材分析（1）初級：構造シラバス		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第7回 教材分析（2）初級：構造シラバス以外		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第8回 教材分析（3）中級：一般成人・留学生対象		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第9回 教材分析（4）中級：一般成人・留学生対象以外		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第10回 教科書以外の教具―カード類、音声教材―		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第11回 教材作成発表会（1）		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第12回 教材作成発表会（2）		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第13回 教材作成発表会（3）		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第14回 日本語教育の現状―留学生・技術研修生・年少者・海外―		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
第15回 まとめ		①授業内容、②考えたことをまとめて提出する	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	30%		
レポート	20%（全2回）テーマは原則自由。①授業前半の内容から、②授業全体の内容から ※必ず、参考図書2冊以上を読み、引用しながら書くこと		
小テスト等	なし		
成果発表	20%（全2回）①教材分析、②教材作成		
受講態度他	30%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欠席をしないようにし、積極的に授業に取り組んでください。</li> <li>・ペアまたはグループによる活動があります。相手とのコミュニケーションを積極的にとるよう心掛けてください。</li> </ul>		
教科書	『みんなの日本語 初級 I 本冊 ※第2版』（スリーエーネットワーク） ※第1版ではありません		
指定図書	なし		
参考図書	吉岡英幸（2008）『徹底ガイド 日本語教材』凡人社 国際交流基金（2008）『教材開発』ひつじ書房		
オフィスワー	木曜1講：メールで連絡を事前に行うこと	メールアドレス	

授業科目	日本語とジェンダー		開講時期	前期
担当教員	高山 百合子		単位	2
授業の目的と概要	<p>私たちの言語行動は、社会の支配関係からさまざまな影響・制約を受けていると考えられる。この授業では、その影響・制約のうち、ジェンダーという観点から、歴史的な変化・変遷も考慮に入れながら、日本語を観察することを目的とする。「～らしさ」の固定観念に捕われることなく、自由なものの方で取り組んでいきたい。</p> <p>「ジェンダー」とは何だろうか。また、「ことば」と「ジェンダー」の関係を考えるというのはどういうことか。我々のイメージの中にある女ことば・男ことば（女性語・男性語）とはどういうもので、その実態は何なのか。女ことばの歴史や、現代のことばづかいを振り返りながら、その本質を改めて問い直し、日本語とジェンダーとの関わりについて、いちおうの見解を出していきたい。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本語のジェンダー的な側面が観察でき、それについて客観的な評価ができる。</li> <li>2. 日本語のしくみの面白さ、奥深さを認識することで、ことば全体に興味をもてるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>◇多種多様な人々で成り立つ社会の中で人と人、人と社会とがつながるための「コミュニケーション・スキル」</p> <p>◇手に入れた情報や獲得した知識を使って適切に判断するための「論理的思考力」</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回：オリエンテーション／「ジェンダー」の概念について——ベアテ・シロタ・ゴードンの映像作品より		感想レポート作成		
第2回：「位相語」としての女性語・男性語		テキスト予習		
第3回：週刊誌・雑誌に見るジェンダー（1）		授業の復習		
第4回：週刊誌・雑誌に見るジェンダー（2）		感想レポート作成		
第5回：映像作品などによる男女の言語行動の観察		感想レポート作成		
第6回：現代日本語の中の女性語・男性語——「役割語」という考え方（1）		授業の復習		
第7回：現代日本語の中の女性語・男性語		授業の復習		
第8回：日本における女性語の歴史		授業の復習		
第9回：日本における女性語の歴史		授業の復習		
第10回：[ディスカッション]；「現代の女性語」		感想レポート作成		
第11回：江戸語の中の女性語・男性語		授業の復習		
第12回：近現代資料の中の女性語・男性語（1）——ドキュメンタリー映像作品に見るジェンダー		授業の復習		
第13回：近現代資料の中の女性語・男性語（2）		感想レポート作成		
第14回：現代の女性語と男性語（1）		授業の復習		
第15回：現代の女性語と男性語（2）、授業のまとめ		期末レポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	特になし			
レポート	感想レポート（20％）、期末レポート（80％）			
小テスト等	なし			
成果発表	評価の際考慮する。			
受講態度他	遅刻・欠席を含め、ディスカッションへの参加状況など、評価の際考慮する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ことばと「ジェンダー」との関わりを自分自身の問題ととらえ、自らの考えを深めていく積極性を重視したい。グループワーク、ディスカッションなどには前向きに取り組んでほしい。</li> <li>(2) テキストはあらかじめ通読しておくこと。</li> </ol>			
教科書	中村桃子『女ことばと日本語』（岩波新書）			
指定図書	特になし			
参考図書	中村桃子『〈性〉と日本語—ことばが作る女と男』NHKブックス（No. 1096）、寿岳章子『日本語と女』（岩波新書） 金水敏『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店 他 *その他は授業中に提示する。			
オフィスアワー	水曜 4・5 講時	メールアドレス		

授業科目	日本語表記論		開講時期	前期
担当教員	小野 望		単位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、日本語学の基幹科目として設置されているものである。</p> <p>日本語の表記様式成立の経緯をたどることにより、言語学の課題としての文字・表記論について理解する。それとともに、文化的・社会的存在として言語を位置付け、豊かな言語感覚と適切な表現力を身につけることを目的とする。</p> <p>日本語表記の最大の特徴は、複数の文字種（漢字・ひらがな・カタカナ・アルファベット・顔文字（^_^））を交用することにある。このような表記形態は、独自の文字を持たない段階で中国語の文字である漢字を受け容れてから、千年以上に及ぶさまざまな経緯の上に成り立ったものだ。そして、その歴史は、文字・表記の推移にとどまらず、語彙・文章様式と密接に関わってきた。私たちが毎日使っている「文字」とは何なのか、どうしてこう書くのか、将来どうなるだろうか。さまざまな疑問を解く鍵を、日本語の歴史の中から探してみよう。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 言語にとって「文字とは何か」ということが説明できる。</li> <li>(2) 私たちが使っている文字の種類、性質を説明できる。</li> <li>(3) それぞれの文字種の使用の経緯から、表記と文体を関係づけて述べることができる。</li> <li>(4) 現代日本語表記の課題を列挙し、意見を述べることができる。</li> <li>(5) 日本語表記の将来についての予測を、具体的に述べることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は、日本語・日本文学科のDP②「日本語の構造や特長について説明することができる。」の達成に関わるものである。「日本語学概論」の学びを基礎として、「日本語音声論」とともに受講することで、日本語のしくみについてより深く理解することが可能となる。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1 回	文字とは何か : 「文字」の定義、役割、種類	参考プリント（文字の役割） 課題：トイレマークは文字か？		
第 2 回	文字の歴史 : 表意文字から表音文字へ	参考プリント（古代文字の姿、表語文字から表音文字へ）		
第 3 回	漢字の歴史 : 東アジアの文字の歴史	参考プリント（文字と文化） 課題：文字の種類整理シート		
第 4 回	日本語の表記 : 表記－用語－文体に関連がある	参考プリント（表記の実態） 課題：日本語表記の特色		
第 5 回	日本語と漢字 : 上代：漢字を受容するということとは？	参考プリント（漢字の受容）		
第 6 回	日本語と漢字（2） : 上代～中古：日本語を書くということ	参考プリント（上代の表記） 課題：日本語と漢字整理シート		
第 7 回	日本語と漢字 : 漢字の受容～仮名の成立	参考プリント（上代表記の留意点）		
第 8 回	古代表記行動の二面性 : 理解と表現	参考プリント（仮名の成立）		
第 9 回	「場」の違い : ひらがな文と漢字カタカナ交じり文	参考プリント（仮名と文体） 課題：仮名の成立整理シート		
第10回	表記と文体 : 書かれたものは残る	参考プリント（表記と文体）		
第11回	表記のルール : 定家仮名遣いと歴史的仮名遣い	参考プリント（仮名遣い）		
第12回	表記のルール : 現代仮名遣い・常用漢字	参考プリント（表記のルール） 課題：表記ルール整理シート		
第13回	日本語表記の課題 : 日本語に正書法はあるのか？	参考プリント（迷う書き分け）		
第14回	カタカナの勢力拡大 : 漢字・漢語が減るとラクですか？	参考プリント（カタカナ語） 課題：表記の課題整理シート		
第15回	日本語表記の将来 : どうなる？ 日本語（^o^）	参考プリント（未来予測）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 期末レポートを提出（2000字程度）（提示する複数テーマから1課題を選択）			
小テスト等	40% 授業中の課題（整理シート等）を評価の対象とする。			
成果発表	0%			
受講態度他	20% 観察報告 予め指定するトピックについて、表記の実例を観察採集し、授業時に報告を求められることがある。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布プリントを読んで講義に参加し、講義内容と合わせて各回のテーマについてまとめましょう。</li> <li>・スクリーン上にプレゼンテーションを提示する場合、最前列付近の照明を落とすことがあります。</li> <li>・上記プレゼンテーションほか、講義概要・参考プリント・課題用紙等を筑女ネットに提示します。</li> <li>・各種提出物は全て評価に加えます。欠席時の課題についても、筑女ネットを参照して提出しましょう。</li> <li>・筆記試験（16回目）は行いません。必ず期末レポートを提出すること。</li> </ul>			
教科書	使用しない。各テーマの参考プリントを配布する。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	佐竹秀雄・佐竹久仁子著『ことばの表記の教科書』ペレ出版 ほか、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	木曜日：2講時～昼休み	メールアドレス		

授業科目	日本語表現演習 I		開講時期	前期
担当教員	中村 万里		単位	2
授業の目的と概要	コミュニケーションの基本である「話す、聞く、書く、読む」の4つの言語活動について、様々な方法によるトレーニングを通じ、それぞれの技術の向上を目指します。本演習では、主に「話す、聞く」を学びます。併せて、日本語の構造・社会的機能についても認識を深めることにより、現代社会を生きる上で求められる総合的な「日本語力」を身につけます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会人としてふさわしいマナーを身につけることができる。</li> <li>2. コミュニケーションを円滑にする、論理的かつ効果的な話し方を身につけることができる。</li> <li>3. 敬語に習熟し、人間関係を良好に保つことができる。</li> <li>4. 音声情報を注意深く聞き取り、会話での対応・メモやノートなど文字情報化の双方に習熟することにより、問題解決力・論理的思考力を身につけることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	学生が主体となって様々な「話す、聞く、書く、読む」活動を行い、組みあがってゆく授業です。具体的には、下記「授業計画」に示すような種々のテーマに基いた演習を予定しています。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	授業の復習		
第2回	マナーを身につける(1)基礎	予習:教科書p.7、復習:教科書付属ワークシート		
第3回	マナーを身につける(2)応用	予習:教科書p.8、復習:教科書付属ワークシート		
第4回	伝わる話し方をする(1)伝える方法	予習:教科書pp.10-12、復習:授業の復習		
第5回	伝わる話し方をする(2)わかりやすく伝える	予習:教科書pp.13-14、復習:教科書付属CD		
第6回	敬語を学ぶ(1)尊敬語・謙譲語I	予習:教科書pp.15-16、復習:授業の復習		
第7回	敬語を学ぶ(2)謙譲語II・丁寧語・美化語	予習:教科書pp.17-19、復習:教科書付属ワークシート		
第8回	聞き方に注意する(1)聞き上手は話し上手	予習:教科書p.20、復習:授業の復習		
第9回	聞き方に注意する(2)感じのよいあいづちを打つ	予習:教科書p.21、復習:授業の復習		
第10回	聞いたことを書き取る(1)メモの取り方	予習:教科書pp.22-24、復習:教科書付属ワークシート		
第11回	聞いたことを書き取る(2)ノートの取り方	予習:教科書pp.25-29、復習:教科書付属ワークシート		
第12回	朗読を味わう(1)草枕・雨ニモマケズ・春のめざめ	予習:教科書pp.30-32、復習:教科書付属CD		
第13回	朗読を味わう(2)枕草子・方丈記・寿限無	予習:教科書pp.33-35、復習:教科書付属CD		
第14回	朗読を味わう(3)伊豆の踊子・羅生門	予習:教科書pp.36-37、復習:教科書付属CD		
第15回	まとめ	授業の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	55%(期末レポート25%、第2・3、6・7、10・11の各回(上記「授業計画」参照、以下同じ)の提出物30%)			
小テスト等	20%(第4・5、8・9の各回に実施)			
成果発表	15%(第12~14回)			
受講態度他	10%(課題の自主設定など、積極的な態度を評価します)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	様々なテーマを取り扱います。しっかり予習・復習を行ってください。			
教科書	中村万里ほか『実践 日本語表現ワークブック』暁印書館			
指定図書	中村万里『人とうまく話せますか』双文社出版 中村万里ほか『入門 日本語学ワークブック』双文社出版			
参考図書	中村万里『使える!マナーの鉄則100』双文社出版			
オフィスワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	日本語表現演習 I		開講時期	前期
担当教員	高山 百合子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>社会人として自立していくために、日本語コミュニケーション力の基礎、つまり文章を書いたり、人前で発表したりすることが、不安なく一定以上のレベルでできるようにしておきたい。さらに、文章や口頭での自己表現を楽しむことができるようになれば、自分に自信が持てるようになる。この授業でめざすのは、そのような実践的な表現力を身につけることである。</p> <p>■正確でわかりやすい文章を〈書く〉ことに重点を置いて、演習形式で文章作成を実践していく。また、発表やスピーチ等の機会を作り、音声表現も練習する。</p> <p>■〈書く〉ためには、資料等の読解力、発想力、構成力、表現力が必要となる。その一つ一つがどうあればいいのかを授業で明らかにし、各自の現状を認識する。実作を行う中で、長所を伸ばし、弱点が補えるように努めたい。</p>			
到達目標	<p>(1) 起承転結の型を使って、正確でわかりやすい文章が書けるようになる。</p> <p>(2) 発表やスピーチ等の機会を得て、音声表現も起承転結の型を意識できるようになる。</p> <p>(3) 〈書く〉ために必要な、資料等の読解力、発想力、構成力、表現力などの力を向上させる。</p> <p>(4) 実作を行う中で、長所を伸ばし、弱点が補えるようになる。</p> <p>(5) 言語規則や社会的マナーに配慮して、適切な表現を選択することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に日本語・日本文学科のDP①「日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を用いて、適切なコミュニケーションができる」ことの達成に関わる科目である。後期に開講される「日本語表現演習II」とともに実践的な演習を行う。</p> <p>同じDP①の「マス・コミュニケーション論、オフィスコミュニケーション」等のコミュニケーションに関する科目群や、DP②の「日本語音声論、日本語表記論」等の日本語の構造に関する科目群と合わせて学修することで、総合的な日本語力を磨くことができる。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション：授業目標の確認、授業計画の説明、各自の目標設定他	自分自身の到達目標の設定・確認、課題プリント；練習問題		
第2回	文章表現の全体像（正確でわかりやすい文章とは）	課題プリント；練習問題		
第3回	要約を含めた実作と評価・講評他（実作は課題としてあらかじめ提出させておくこともある。以下同じ）	課題作成		
第4回	要約を含めた実作と評価・講評他	課題作成		
第5回	要約を含めた実作と評価・講評他	課題作成		
第6回	要約を含めた実作と評価・講評他	課題作成		
第7回	主題の展開・段落構成のあり方など	課題作成		
第8回	実作と評価・講評他	課題作成		
第9回	実作と評価・講評他	課題作成		
第10回	わかりやすい文章表現	課題作成		
第11回	実作と評価・講評他	課題作成		
第12回	実作と評価・講評他	課題作成		
第13回	音声表現の全体像（わかりやすい発表・スピーチとは）	課題作成		
第14回	発表・スピーチの実践	課題作成		
第15回	まとめ	課題作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	30％（3回程度実作を行なう）			
小テスト等	特になし			
成果発表	評価の際に加味する。			
受講態度他	評価の際には、出席状況を加味する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◇国語辞典を持参してくること。</p> <p>◇課題が成績評価の対象になるので、期限を守って提出すること。</p>			
教科書	岩崎美紀子『「知」の方法論』（岩波書店）、プリント併用			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワー	水4・5講時	メールアドレス		

授業科目	日本語表現演習 I		開講時期	前期
担当教員	小野 望		単位	2
授業の目的と概要	この科目は、日本語学の基幹科目として設置されているものである。自立した社会人として必要なコミュニケーション能力を身につけるため、「読む・書く・聞く・話す」の基礎的スキルを改めて意識的に学修する。具体的には、下記の授業計画に従って基礎知識を確認し、実践的演習と指導を繰り返し行う。			
到達目標	(1) 文章作成の基礎知識を習得し、正確で分かりやすい文章を書くことができる。 (2) 論理的かつ効果的な話し方を身につけて、コミュニケーションを円滑に行うことができる。 (3) 言語規則や社会的マナーに配慮して、適切な表現を選択することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に日本語・日本文学科のDP①「日本語の4技能(読む・書く・聞く・話す)を用いて、適切なコミュニケーションができる」ことの達成に関わる科目である。後期に開講される「日本語表現演習II」とともに実践的な演習を行う。同じDP①の「マス・コミュニケーション論、オフィスコミュニケーション」等のコミュニケーションに関する科目群や、DP②の「日本語音声論、日本語表記論」等の日本語の構造に関する科目群と合わせて学修することで、総合的な日本語力を磨くことができる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 「伝える」ということ：本講が指すもの		課題：自己紹介原稿作成		
第2回 伝わる話し方：観察と内省		課題：周囲の事例を観察し、伝わる条件を考察する		
第3回 伝える方法：構成を考える		課題：3分間自己紹介原稿を完成させる		
第4回 文章表現とは：文章表現演習の意義、文章の種類		課題：文章表現体験の報告		
第5回 文章で自分を語る：用語・文体・リズム		課題：エッセイ(1)執筆		
第6回 何を語るのか：構想を持つ		課題：エッセイ(1)自己評価、ポイントは明確か？		
第7回 構想を練る：執筆メモの役割		課題：エッセイ(2)執筆メモ作成		
第8回 構想に従って文章を書く		課題：エッセイ(2)執筆		
第9回 文章の構成：パターンを考える		課題：文章構成分析、エッセイ(2)自己評価、構成は適切か？		
第10回 表現テクニック：用語、修飾・比喻		課題：例文の表現分析、エッセイ(3)執筆メモ作成		
第11回 テクニックを意識してエッセイを書く		課題：エッセイ(3)執筆		
第12回 文章分析		課題：例文分析		
第13回 推敲とは：推敲の要点		課題：エッセイ(4)執筆メモ作成		
第14回 エッセイ(4)執筆		課題：最終エッセイの完成		
第15回 作品集の作成		課題：最終作品集の批評(最終レポート)		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20%：最終レポート			
小テスト等	0%			
成果発表	40%：エッセイ(4回)			
受講態度他	40%：その他の提出課題			
受講上の留意点・ルールに関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種提出物等は全て評価に加えます。欠席時の課題についてもプリント、筑女ネットなどを参照して提出しましょう。</li> <li>筆記試験(16回目)は行いません。</li> <li>提出された文章は、印刷・配付して互いに批評等を行うことがあります。また、現代日本語の資料として保存し、データとして使用することがあります。いずれの場合も、筆者等の個人情報は削除して使用することとします。</li> <li>各自の取り組み方によって到達度は大きく異なっていきます。よりよいコミュニケーションの主体となることを目標に、積</li> </ul>			
教科書	使用しない。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	樋口裕一著『ホンモノの文章力』(集英社新書)ほか、授業中に紹介する。			
オフィスアワー	木曜日 2 講時～昼休み	メールアドレス		

授業科目	日本語表現演習Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	高山 百合子	単 位	2
授業の目的と概要	<p>社会人として自立していくために、日本語コミュニケーション力の実践、つまり文章を書いたり、人前で発表したりすることが、一定以上のレベルでできるようにする。さらに、文章や口頭での自己表現を楽しむことができるようにする——この授業でめざすのは、そのための豊かな表現力を獲得することである。</p> <p>■論理的で説得力のある文章を〈書く〉ことに重点を置いて、演習形式で文章作成を実践していく。また、発表やスピーチ等の機会を作り、音声表現も自然に行えるように練習する。</p> <p>■〈書く〉ためには、資料等の読解力、発想力、構成力、表現力などが必要となる。その一つ一つがどうあればいいのかを授業で明らかにし、各自の現状を認識する。実作を行う中で、長所を伸ばし、弱点が補えるように努める。</p>		
到達目標	<p>(1) 様々な文章の仕組みを理解し、目的に応じた文書を作成することができる。</p> <p>(2) 豊かな発想と確かな構成力を身につけ、効果的なコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>(3) 事実と意見の違いをわかまえ、論理的で説得力のある文章を作成することができる。</p> <p>(4) 実作を行う中で、長所を伸ばし、弱点が補えるようになる。</p>		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>この授業は、日本語・日本文学科のDP①「日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を用いて、適切なコミュニケーションができる」ことの達成に関わる科目である。前期に開講される「日本語表現演習Ⅰ」に続いて、実践的な演習を行う。</p> <p>同じDP①の「マスメディアの表現、プレゼンテーション演習」等のコミュニケーションに関する科目群や、DP②の「日本語文法論、日本語意味論」等の日本語の構造に関する科目群と合わせて学修することで、総合的な日本語力を磨くことができる</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：授業目標の確認、授業計画の説明、各自の目標設定他	自分自身の到達目標の設定・確認、課題プリント；練習問題	
第2回	文章表現の全体像（正確でわかりやすい文章とは）	課題プリント；練習問題	
第3回	要約を含めた実作と評価・講評他（実作は課題としてあらかじめ提出させておくこともある。以下同じ）	課題作成	
第4回	要約を含めた実作と評価・講評他	課題作成	
第5回	要約を含めた実作と評価・講評他	課題作成	
第6回	要約を含めた実作と評価・講評他	課題作成	
第7回	主題の展開・段落構成のあり方など	課題作成	
第8回	実作と評価・講評他	課題作成	
第9回	実作と評価・講評他	課題作成	
第10回	論理的で説得力のある文章表現	課題作成	
第11回	実作と評価・講評他	課題作成	
第12回	実作と評価・講評他	課題作成	
第13回	音声表現の全体像（論理的で説得力のある発表・スピーチとは）	課題作成	
第14回	発表・スピーチの実践	課題作成	
第15回	まとめ	課題作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	70％		
レポート	30％（3回程度実作を行なう）		
小テスト等	特になし		
成果発表	評価の際に加味する。		
受講態度他	評価の際には、出席状況を加味する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◇国語辞典を持参してくること。</p> <p>◇課題が成績評価の対象になるので、期限を守って提出すること。</p>		
教科書	日本語表現演習Ⅰに引き続き、岩崎美紀子『「知」の方法論』（岩波書店）を使用。プリント併用		
指定図書	特になし		
参考図書	特になし		
オフィスワー	水4・5講時	メールアドレス	

授業科目	日本語表現演習Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	中村 万里		単位	2
授業の目的と概要	コミュニケーションの基本である「話す、聞く、書く、読む」の4つの言語活動について、様々な方法によるトレーニングを通じ、それぞれの技術の向上を目指します。本演習では、主に「書く、読む」を学びます。併せて、日本語の構造・社会的機能についても認識を深めることにより、現代社会を生きる上で求められる総合的な「日本語力」を身につけます。学生が主体となって様々な「話す、聞く、書く、読む」活動を行い、組みあがってゆく授業です。具体的には、下記「授業計画」に示すような種々のテーマに基づいた演習を予定しています。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的と用途に即した文章の理解・作成の仕方を身につけることができる。</li> <li>2. コミュニケーションを効果的に行うための文章発想力・構成力を身につけることができる。</li> <li>3. 事実と意見の違いをわかまえ、説得力の大きい文章を作成する力を身につけることができる。</li> <li>4. 与えられた文章・自らが伝えたい事柄双方を、それぞれ適切に要約する作業に習熟することにより、問題解決力・論理的思考を身につけることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		授業の復習		
第2回 目的と用途を理解する		予習：教科書：pp38-41、復習：教科書付属ワークシート		
第3回 新聞を読む		予習：教科書pp42-46、復習：教科書付属ワークシート		
第4回 発想をまとめる（1）考えをまとめる		予習：教科書pp47-48、復習：教科書付属ワークシート		
第5回 発想をまとめる（2）データをまとめる		予習：教科書pp49-50、復習：教科書付属ワークシート		
第6回 構成を考える（1）論理展開力を鍛える		予習：教科書p51、復習：教科書付属ワークシート		
第7回 構成を考える（2）分析力・企画力を鍛える		予習：教科書p52、復習：教科書付属ワークシート		
第8回 説明文と意見文を書く（1）事実と意見との違い		予習：教科書pp53-55、復習：教科書付属ワークシート		
第9回 説明文と意見文を書く（2）説明文と意見文の書き方		予習：教科書pp56-57、復習：教科書付属ワークシート		
第10回 原稿用紙・レポートの書き方（1）原稿用紙の書き方		予習：教科書pp58-59、復習：教科書付属ワークシート		
第11回 原稿用紙・レポートの書き方（2）レポートの書き方		予習：教科書pp60-61、復習：教科書付属ワークシート		
第12回 手紙・Eメールの書き方（1）手紙の書き方		予習：教科書pp62-64、復習：教科書付属ワークシート		
第13回 手紙・Eメールの書き方（2）Eメールの書き方		予習：教科書pp65-67、復習：教科書付属ワークシート		
第14回 履歴書・エントリーシートの書き方（1）履歴書の書き方（1）		予習：教科書pp68-69、復習：教科書付属ワークシート		
第15回 履歴書・エントリーシートの書き方（1）（2）エントリーシートの書き方（1）		予習：教科書pp70-71、復習：教科書付属ワークシート		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	90%（期末レポート30%、第2～15の各回＜上記「授業計画」参照＞の提出物60%）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10%（課題の自主設定など、積極的な態度を評価します）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	様々なテーマを取り扱います。しっかり予習・復習を行ってください。			
教科書	中村万里ほか『実践 日本語表現ワークブック』暁印書館			
指定図書	なし			
参考図書	必要に応じ、授業の中で紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		



授業科目	日本語表現演習Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	小野 望		単 位	2
授業の目的と概要	この科目は、日本語学の基幹科目として設置されているものである。 自立した社会人として必要なコミュニケーション能力を向上させるため、豊かな表現力の獲得を目指す。 具体的には、下記の授業計画に従ってさまざまな表現方法を確認し、実践的演習と指導を繰り返す。			
到達目標	(1) 様々な文章の仕組みを理解し、目的に応じた文書を作成することができる。 (2) 豊かな発想と確かな構成員を身につけ、効果的なコミュニケーションを図ることができる。 (3) 事実と意見の違いをわきまえ、論理的で説得力のある文章を作成することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、日本語・日本文学科のDP①「日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を用いて、適切なコミュニケーションができる」ことの達成に関わる科目である。前期に開講される「日本語表現演習Ⅰ」に続いて、実践的な演習を行う。 同じDP①の「マスメディアの表現、プレゼンテーション演習」等のコミュニケーションに関する科目群や、DP②の「日本語文法論、日本語意味論」等の日本語の構造に関する科目群と合わせて学修することで、総合的な日本語力を磨くことができる。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	論理的に「伝える」ということ：本講の目的	課題：事例観察・分析		
第2回	論理的な構成とは：観察と内省	課題：「論理的な話し方」の事例を探し、条件を列挙する		
第3回	小論文とは何か；その要件	課題：「小論文」を探し、要件を列挙する		
第4回	問題提起とは？：ポイントの絞り方	課題：語るに足るテーマを探す		
第5回	小論文執筆(1)	課題：小論文(1)の完成		
第6回	構想を考える：どのように述べるのか	課題：小論文(1)自己分析：どのような構成になっているか？		
第7回	構想を考える：準備の方法（執筆メモ）	課題：小論文(2)執筆メモ作成		
第8回	小論文執筆(2)	課題：小論文(2)の完成		
第9回	小論文のパターン：パターン分析の方法	課題：例文分析		
第10回	小論文分析：効果的な構成	課題：例文分析、小論文(3)執筆メモ作成		
第11回	パターンを意識して小論文を書く	課題：小論文(3)の完成		
第12回	計画的に書く：用語、文章構成	課題：文章構成に注目して例文を分析する		
第13回	推敲とは？：推敲の要点	課題：小論文(4)執筆メモ作成		
第14回	小論文執筆(4)	課題：最終小論文の完成		
第15回	作品集の作成：最終小論文を冊子にまとめる	課題：最終作品集の批評（最終レポート）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20%：最終レポート			
小テスト等	0%			
成果発表	40%：小論文（4回）			
受講態度他	40%：その他の提出課題			
受講上の留意点・ルールに関する情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種提出物等は全て評価に加えます。欠席時の課題についてもプリント、筑女ネットなどを参照して提出しましょう。</li> <li>筆記試験(16回目)は行いません。</li> <li>提出された文章は、印刷・配付して互いに批評等を行うことがあります。また、現代日本語の資料として保存し、データとして使用することがあります。いずれの場合も、筆者等の個人情報情報は削除して使用することとします。</li> <li>各自の取り組み方によって到達度は大きく異なっていきます。よりよいコミュニケーションの主体となることを目標に、積</li> </ul>			
教科書	使用しない。			
指定図書	使用しない。			
参考図書	立花隆著『「知」のソフトウェア』（講談社現代新書）ほか、授業中に紹介する。			
オフィスワー	木曜日 2 講時～昼休み	メールアドレス		

授業科目	日本語文書作成	開講時期	後期
担当教員	人間関係専攻担当教員	単位	1
授業の目的と概要	<p>本演習は、日本語による表現を意識的に対象化することで問題点を把握し、文章を上達させることを目的とする。結果として明快で整合性ある文書を作成できるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母語である日本語を意識的な対象として捉え直すことができる。</li> <li>2. 日本語の言語事実を統計的データに基づいて論理的に説明できるようになる。</li> <li>3. 文書の目的に応じて適切な表現・記述ができるようになる。</li> </ol> <p>毎回まず「課題」に取り組み対象とする項目を明確にする。その上で解説にしたがって問題を理解し、最後に「練習」で知識の定着を図る。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読点、語順等基本的な語法を理解している。</li> <li>2. かなと漢字の書き分けが適切にできる。</li> <li>3. 表現選択について明確な基準を確立している。</li> <li>4. 事実と意見の書き分けが正確にできる。</li> <li>5. 接続詞を正しく使うことができる。</li> <li>6. 文脈や状況に合わせて文の長さを的確に設定できる。</li> <li>7. 段落分けの規範を十分に理解している。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション 読点の打ち方 (使用頻度、正書法、基準)	予習 p. 1～p. 21	
第2回	語順の文法 (基本語順、係助詞「は」、要素の長さ、先行文脈)	予習 p. 23～p. 40	
第3回	かなと漢字の書き分け (印象の違い、書き分け基準)	予習 p. 41～p. 58	
第4回	主語の省略と表出 (省略の認定、1文中の省略、1文を超える省略)	予習 p. 59～p. 78	
第5回	表現選択の可能性 (選択の基本、頭のなかの類義語辞典)	予習 p. 79～p. 106	
第6回	話しことばと書きことば (場との整合性、区別)	予習 p. 107～p. 124	
第7回	弱い判断の功罪 (控えめと責任回避、モダリティ形式、使い分け)	予習 p. 125～p. 145	
第8回	事実と意見の書き分け (事実と意見の境目、筆者意見と他者意見)	予習 p. 147～p. 169	
第9回	「のだ」のさじ加減 (「のだ」とは、「のだ」の役割)	予習 p. 171～p. 191	
第10回	接続詞の使い方 (三つの原則：読者の立場、論理、使用箇所)	予習 p. 193～p. 216	
第11回	文の長さを読みやすさ (1文にする利点、複数文にする利点)	予習 p. 217～p. 235	
第12回	段落の考え方 (形式段落と意味段落、段落分けの基準)	予習 p. 237～p. 254	
第13回	文書作成演習1：報告書の作成 (問題提起と要約)	復習 p. 1～p. 254	
第14回	文書作成演習2：取り扱い説明文書の作成 (手際の良い説明)	復習 p. 1～p. 254	
第15回	文書作成演習3：履歴書・自己紹介文書の作成 (魅力的な書き出し)	復習 p. 1～p. 254	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60%：第1回から第12回までの練習課題 30%：文書作成演習1～3		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% (欠席1回につき5%減、遅刻は1回につき2%減)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。		
教科書	石黒圭 『文章表現の技術 I (表現・表記編)』 明治書院		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に適宜紹介		
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバス参照	メールアドレス	

授業科目	日本語文書作成	開講時期	後期
担当教員	人間形成専攻担当教員	単 位	1
授業の目的と概要	<p>本演習は、日本語による表現を意識的に対象化することで問題点を把握し、文章を上達させることを目的とする。結果として明快で整合性ある文書を作成できるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母語である日本語を意識的な対象として捉え直すことができる。</li> <li>2. 日本語の言語事実を統計的データに基づいて論理的に説明できるようになる。</li> <li>3. 文書の目的に応じて適切な表現・記述ができるようになる。</li> </ol> <p>毎回まず「課題」に取り組み対象とする項目を明確にする。その上で解説にしたがって問題を理解し、最後に「練習」で知識の定着を図る。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 読点、語順等基本的な語法を理解している。</li> <li>2. かなと漢字の書き分けが適切にできる。</li> <li>3. 表現選択について明確な基準を確立している。</li> <li>4. 事実と意見の書き分けが正確にできる。</li> <li>5. 接続詞を正しく使うことができる。</li> <li>6. 文脈や状況に合わせて文の長さを的確に設定できる。</li> <li>7. 段落分けの規範を十分に理解している。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目である。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション 読点の打ち方 (使用頻度、正書法、基準)	予習 p. 1～p. 21	
第2回	語順の文法 (基本語順、係助詞「は」、要素の長さ、先行文脈)	予習 p. 23～p. 40	
第3回	かなと漢字の書き分け (印象の違い、書き分け基準)	予習 p. 41～p. 58	
第4回	主語の省略と表出 (省略の認定、1文中の省略、1文を超える省略)	予習 p. 59～p. 78	
第5回	表現選択の可能性 (選択の基本、頭のなかの類義語辞典)	予習 p. 79～p. 106	
第6回	話しことばと書きことば (場との整合性、区別)	予習 p. 107～p. 124	
第7回	弱い判断の功罪 (控えめと責任回避、モダリティ形式、使い分け)	予習 p. 125～p. 145	
第8回	事実と意見の書き分け (事実と意見の境目、筆者意見と他者意見)	予習 p. 147～p. 169	
第9回	「のだ」のさじ加減 (「のだ」とは、「のだ」の役割)	予習 p. 171～p. 191	
第10回	接続詞の使い方 (三つの原則：読者の立場、論理、使用箇所)	予習 p. 193～p. 216	
第11回	文の長さを読みやすさ (1文にする利点、複数文にする利点)	予習 p. 217～p. 235	
第12回	段落の考え方 (形式段落と意味段落、段落分けの基準)	予習 p. 237～p. 254	
第13回	文書作成演習1：報告書の作成 (問題提起と要約)	復習 p. 1～p. 254	
第14回	文書作成演習2：取り扱い説明文書の作成 (手際の良い説明)	復習 p. 1～p. 254	
第15回	文書作成演習3：履歴書・自己紹介文書の作成 (魅力的な書き出し)	復習 p. 1～p. 254	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60%：第1回から第12回までの練習課題 30%：文書作成演習1～3		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% (欠席1回につき5%減、遅刻は1回につき2%減)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は厳禁。警告しても改まらない場合は受講不可とする。		
教科書	石黒圭 『文章表現の技術 I (表現・表記編)』 明治書院		
指定図書	なし		
参考図書	授業中に適宜紹介		
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバス参照	メールアドレス	

授業科目	日本語文法論	開講時期	後期
担当教員	高山 百合子	単 位	2
授業の目的と概要	<p>◇ この授業の大きな目的は、日本語の文の仕組みを知り、現実に行われている文を分析する力を付けることである。文法的に（正しい）か、（正しくない）か、正誤の問題は決して簡単なものではないことを、いくつかの例を通して学ぶことで、日本語を客観的に観察する目も養いたい。それが、ひいては日本語の運用能力を高め、コミュニケーション力を向上させることにつながっていくことを期待する。</p> <p>◇ 学校文法（橋本文法）とは異なる文法論を検討しながら、その長所と短所を理解していくことも重要な目的である。</p> <p>◇ それらの学習を通して、文法的に考えることの楽しさも味わってほしい。「文法」は暗記科目ではなく、用例を集めて分析することで、思考力を高めていく（考える）科目である。</p>		
到達目標	<p>(1) 現代日本語の文の基本的な構造を知り、文の成り立ちのしくみを理解できるようになる。</p> <p>(2) 学校文法の問題点を押さえた上で、各人の言語データを内省し、日本語を分析するための基礎的な力を付ける。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>関連科目としては、日本語学概論Ⅰ・Ⅱがある。</p> <p>以下の点を目的とする。</p> <p>◇日本語の構造や特徴について説明することができる。</p> <p>◇手に入れた情報や獲得した知識を使って適切に判断するための「論理的思考力」を養う。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション／学校文法について	テキスト読解	
第2回	形態論（1）；形態素、語、品詞など、文法論の単位	課題プリント	
第3回	形態論（2）；活用①	課題プリント	
第4回	形態論（3）；活用②・ラ抜き現象など	課題プリント	
第5回	語順と格	課題プリント	
第6回	文の基本構造と文法カテゴリ	課題プリント	
第7回	ヴォイス（1）；自動詞と他動詞	課題プリント	
第8回	ヴォイス（2）／受動と使役	課題プリント	
第9回	中間テスト／時間を表す表現（1）；テンス	課題プリント	
第10回	時間を表す表現（2）；アスペクト	課題プリント	
第11回	時間を表す表現（3）；アスペクトと動詞の分類	課題プリント	
第12回	モダリティ（ムード）	課題プリント	
第13回	主語と主題（ハとガ）	課題プリント	
第14回	とりたて	課題プリント	
第15回	まとめ	総復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	50％		
レポート	なし		
小テスト等	50％；中間テスト		
成果発表	なし		
受講態度他	課題プリントの提出状況など、評価の際に加味する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>◇テキストはあらかじめ通読しておくこと。文法用語を確実に押さえながら理解して行ってほしい。</p> <p>◇ノートをきちんと取ること。</p>		
教科書	山田敏弘『国語教師が知っておきたい日本語文法』（くろしお出版）		
指定図書	特になし		
参考図書	テキスト178、179ページ参照。 文法辞典・事典の類		
オフィスアワー	水曜 4・5 講時	メールアドレス	

授業科目	日本語方言論 I		開講時期	前期
担当教員	中村 万里		単 位	2
授業の目的と概要	<p>方言とは何か、また日本各地の方言を概観した後、九州方言を多角的に学ぶことを目的とする。本講義では日本語学概論（一年生）のテキスト（『入門 日本語学ワークブック』双文社出版）を用いて方言を概説した後、九州方言（主に福岡方言）について学ぶ。福岡方言については『即訳！ふくおか方言集』を用いて進める。講義において、DVDや録音資料などを用いる。</p>			
到達目標	<p>1. 方言について説明できる。 2. 九州方言を説明できる。 3. 福岡方言を説明できる。 4. 各自の方言を説明できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション			授業の復習	
第 2回 方言とは			授業の復習	
第 3回 方言区画・方言史			授業の復習、プリント予習	
第 4回 方言研究法			授業の復習、プリント予習	
第 5回 日本の方言			授業の復習、プリント予習	
第 6回 九州の方言			授業の復習、プリント予習	
第 7回 福岡方言（1）－福岡の方言			授業の復習、プリント予習	
第 8回 福岡方言（2）－筑前の方言			授業の復習、プリント予習	
第 9回 福岡の方言（3）－筑後の方言			授業の復習、プリント予習	
第10回 福岡の方言（4）－豊前の方言			授業の復習、プリント予習	
第11回 方言と民話			授業の復習	
第12回 方言とマスメディア			授業の復習	
第13回 方言と音楽			授業の復習	
第14回 方言教育			授業の復習	
第15回 まとめ			授業の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 期末試験			
レポート	20％ 小レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	10％ 出席状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に積極的に参加してください。			
教科書	プリント配布			
指定図書	中村万里『即訳！ふくおか方言集』西日本新聞社 奥村三雄『九州方言の史的研究』桜楓社			
参考図書	中村万里他『入門 日本語学ワークブック』双文社出版 金田一春彦『日本語方言の研究』東京堂出版			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	日本語方言論Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	中村 万里		単 位	2
授業の目的と概要	日本語方言論Ⅰを踏まえて、日本各地（主に九州地方）の方言を学ぶことを目的とする。日本語方言論Ⅰで学んだことを復習した後、各自がフィールドワークを行い発表する。発表においてはグループ分けする場合があります。尚、受講者が多い場合は講義形式に変更する。			
到達目標	1. 方言を説明できる。 2. 九州方言を説明できる。 3. 福岡方言を説明できる。 4. 各自の方言を説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション			授業の復習	
第2回 方言と共通語			授業の復習、プリント予習	
第3回 方言の機能と形成			授業の復習、プリント予習	
第4回 方言の研究			授業の復習、プリント予習	
第5回 日本の方言			授業の復習、プリント予習	
第6回 九州の方言			授業の復習、プリント予習	
第7回 福岡の方言			授業の復習、プリント予習	
第8回 方言の発表（1）			授業の復習、プリント作成	
第9回 方言の発表（2）			授業の復習、プリント作成	
第10回 方言の発表（3）			授業の復習、プリント作成	
第11回 方言の発表（4）			授業の復習、プリント作成	
第12回 方言の発表（5）			授業の復習、プリント作成	
第13回 方言の発表（6）			授業の復習、プリント作成	
第14回 方言の現在と未来			授業の復習	
第15回 まとめ			授業の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 期末試験			
レポート	10％ 小レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	10％			
受講態度他	10％ 出席状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に積極的に参加してください。			
教科書	プリント配布			
指定図書	中村万里『即訳！ふくおか方言集』西日本新聞社 平山輝男『日本のことばシリーズ』明治書院			
参考図書	中村万里他『入門 日本語学ワークブック』双文社出版 国立国語研究所『日本のふるさとことば集成』国書刊行会			
オフィスワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	日本史		開講時期	前期
担当教員	横山 尊		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は政治・外交史を中心とした日本近現代史の入門的講義である。現代社会の成立ちを知る上で、歴史の素養は不可欠であり、それに無知なままでは大学の様々な講義の理解にも大きな支障を来す可能性が高い。本講義は特に江戸時代後期から現代に至るまでの政治、外交の歴史を学びなおすことで、その状況の克服を図りたい。</p> <p>講義では、幕末における西洋の衝撃から、21世紀の政治にいたる140年余りの日本政治を、外交と権力、すなわち対外問題とそれに対する日本の政治権力の対応を中心に解説する。その際、福岡の地域史のほか、政治思想史や文化史など関連分野にも目配りを行う。</p> <p>本講義は、主に中学、高校で歴史や日本史を学んだが、苦手である、あるいは授業が現代まで終わらなかった、高校で日本史を履修していない、などの学生が受講することを想定している。</p>			
到達目標	<p>①近現代日本の政治・外交史をめぐる問題の基礎的知識を習得し、中学・高校で学習した歴史・日本史の学習内容を定着、発展させること。②現在の政治・外交問題の歴史的形成のあり方を、東アジアを中心としたグローバルな観点から理解すること。③こうした視野の獲得を通して、現代の政治・外交問題のニュースを理解する素養となるだけでなく、本学での関連講義を理解する上での基礎体力も形成する。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に発達臨床心理コース、社会福祉コースのDP1「人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。」、初等教育コースのDP1「教育者としての豊かな人間性や社会人として必要な知識・技能を身に付けることができる。」、幼児保育コースのDP1「保育者としての豊かな人間性や社会人として必要な知識・技能を身に付けることができる。」の達成に関わる科目です。</p> <p>本授業で学ぶ知見は、本授業担当が他に実施する講義（ヴィジュアル日本史、日本文化論Ⅰ・Ⅱ、日本思想史）の他、様々な歴史関係科目の理解にとって、その理解の基礎体力の一部となることが期待される。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	導入―幕藩体制の政治的特質と西洋の衝撃		講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第2回	明治国家の建設		講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第3回	士族反乱と自由民権運動		講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第4回	明治憲法体制の成立		講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第5回	議会政治の定着		講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第6回	日清・日露戦争		講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第7回	韓国併合、満州問題、中国革命への対応		講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第8回	日露戦後から第一次大戦期における政党政治の発展		講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第9回	大正後期における国際協調と政党内閣		講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第10回	軍部の台頭―満州事変から二・二六事件まで		講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第11回	日中戦争と日米戦争		講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第12回	敗戦・占領・講和		講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第13回	自民党政治の発展		講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第14回	国際秩序の変容と冷戦の終焉		講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
第15回	総括―冷戦後の政権交代と21世紀の政治		講義レジュメを復習し、参考図書で理解を深めたい。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％			
レポート	％			
小テスト等	％			
成果発表	％			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義中の私語など迷惑行為を行なった者には退室を命じます。			
教科書	なし。講義レジュメに従って講義を進める。			
指定図書	なし			
参考図書	北岡伸一『日本政治史―外交と権力』有斐閣（2011年） 坂野潤治『日本近代史』筑摩書房（2012年）			
オフィスアワー	講義の休憩時間の前後	メールアドレス		

授業科目	日本史 I		開講時期	前期
担当教員	時里 奉明		単位	2
授業の目的と概要	現代の日本社会はいかにして成立したのか、各時代のトピックを取り上げ、おもにその起源について解説する。その際、日本の内外からどのような影響を受けてきたかを考慮しながら話を進めたい。歴史は暗記ではない。歴史の見方や考え方をちょっと変えれば、今までとは違った歴史像が立ち現れてくることがわかるだろう。それに気づくことが、この授業のねらいである。後期に開講する「日本史II」は、応用編である。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本の歴史の流れを説明することができる。</li> <li>2 時代のトピックを通して、現代日本の成り立ちを確認することができる。</li> <li>3 日本史を世界史のなかに位置づけて理解することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、日本語・日本文学科のDP4「日本文化の構造や特徴について説明することができる。」の達成に関わる科目である。関連する科目は「日本史II」。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 ガイダンス 「日本史」とは何か			「日本史」を学ぶこと-現状と課題	
第2回 時代区分			なぜ歴史を時代区分するのか？	
第3回 「日本人」の成り立ち-旧石器・縄文・弥生時代			旧石器・縄文・弥生時代を整理 レポート① (1500年以前の年表)	
第4回 「日本」の誕生-古墳・奈良時代			古墳・奈良時代の整理	
第5回 「日本」の東と西-平安時代			平安時代を整理	
第6回 鎌倉仏教-鎌倉時代			鎌倉時代の整理	
第7回 室町文化-室町時代			室町時代の整理	
第8回 九州国立博物館見学-戦国・安土桃山時代			戦国・安土桃山時代の整理 (見学課題)	
第9回 北海道と沖縄			北海道と沖縄の整理 レポート② (1500年以後の年表)	
第10回 「鎖国」とは何か?-江戸時代			江戸時代の整理	
第11回 「立国」の明治-明治時代			明治時代の整理	
第12回 「大正デモクラシー」の時代-大正時代			大正時代の整理	
第13回 「帝国」の昭和-昭和戦前期			昭和戦前期の整理	
第14回 世界の中の日本-昭和戦後期・平成時代			昭和戦後期・平成時代の整理	
第15回 まとめ			定期試験の準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60% 定期試験			
レポート	20% レポート2回			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 出席状況や受講態度(見学課題を含む)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回プリントを配布するが、講義の内容を理解しながらメモをとること。授業の内容や場所を変更することがあるので、注意しておくこと。日本史の教科書を持参しておくことよ。			
教科書	なし			
指定図書	佐々木潤之介ほか編『概論日本歴史』吉川弘文館(2000年)			
参考図書	授業中に紹介する。			
オフィスアワー	金の昼休み。研究室にいる時はいつでも。	メールアドレス		



授業科目	日本史Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	時里 奉明	単位	2
授業の目的と概要	<p>「鉄」は歴史を動かしてきた金属である。鉄が人類の歴史で果たしてきた役割は大きい。たとえば現在、私たちの身の回りをとってみても、鉄は鍋やフライパンの日用品から自動車、船、飛行機などに使われている。一方、戦艦や戦闘機は戦争のために開発され、人類が築いてきた文明を破壊している。今後も鉄は人類にその功罪をもたらし続けるだろう。この授業では、日本における鉄の歴史を古代から現代を通し、興味あるトピックをとりあげて解説する。</p> <p>鉄というモノを対象にすると、どのような日本の歴史が描けるのか、前期に開講する「日本史Ⅰ」と対比してみると、面白いだろう。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日ごろあまり気にとめない鉄について関心をもち、知識を得ることができる。</li> <li>2 日本における鉄の歴史の流れを理解できる。</li> <li>3 鉄が人類にもたらした功罪を説明できる。</li> <li>4 レポートを作成して、鉄に関する自分の考えをまとめることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、日本語・日本文学科のDP4「日本文化の構造や特徴について説明することができる。」の達成に関わる科目である。この科目と「日本史Ⅰ」を受講すると、視野が広がる。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 ガイダンス：講義のねらい-スケジュールと履修方針の確認		内容の確認	
第2回 鉄のルーツをさぐる		課題 プリントを配布（次回に持参）	
第3回 鉄の到来：弥生時代の鉄		課題（鉄の到来）	
第4回 鉄と金の比較：プリントをもとにディスカッション		課題 プリントを提出	
第5回 九州国立博物館見学		課題 見学レポート①（弥生・古墳時代の展示品）	
第6回 『風土記』にみる鉄ほか：奈良時代の鉄		課題（鉄の広がり）	
第7回 日本刀：平安・鎌倉時代の鉄		課題（日本の鉄製品）	
第8回 鉄砲と鉄船：戦国時代の鉄		課題（ヨーロッパとの出会い）	
第9回 たたら製鉄とは？：江戸時代の鉄(1)		課題（日本の伝統技術を理解する）	
第10回 九州国立博物館見学		課題見学レポート②（鎌倉・室町時代の展示品）	
第11回 たたら製鉄の完成：江戸時代の鉄(2)		課題（日本の伝統技術を理解する）	
第12回 反射炉と高炉（溶鉱炉）：江戸時代の鉄(3)		課題（反射炉と高炉を理解する）	
第13回 官営八幡製鉄所の誕生：明治・大正時代の鉄		課題（近代製鉄を理解する）	
第14回 世界有数の鉄鋼生産国へ：昭和・平成時代の鉄		課題（鉄の現在）	
第15回 まとめ		課題 期末レポート	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	80% 見学レポート2回と期末レポート		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20% 教室及び見学地の授業態度（プリント提出を含む）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	プリントを配布するので、講義の内容を理解しながらメモをとること。		
教科書	プリントを配布する。		
指定図書	窪田蔵郎『鉄から読む日本の歴史』講談社学術文庫（2003年）		
参考図書	講義中に紹介する。		
オフィスアワー	金の昼休み。研究室にいる時はいつでも。	メールアドレス	

授業科目	日本思想史	開講時期	後期
担当教員	横山 尊	単 位	2
授業の目的と概要	本講義では〈ジェンダー〉と〈セクシュアリティ〉という切り口から、近世、近代の日本の思想・文化を見通すものである。〈ジェンダー〉とは生物学的な性別以上に社会的・文化的に形成される性別、あるいはそれを研究する分野を言う。そこにはどうしても歴史的思考が必要になる。ジェンダーを扱うことは男と女の関係性を社会、文化的に論じることでもある。その関係性とは、例えば、恋愛、結婚、家庭であり、性生活（売買春も含む）であろう。だからジェンダー研究は、〈セクシュアリティ〉の研究にもつながっていく本講義はこれら〈性〉がいかにかに歴史のなかで政治、社会、文化と関係を切り結んだかを論じ、明治期から戦後を通じた長いスパンを扱うことで、高校日本史とは異なるかたちで近世・近代史の全体像を洗いなおすものである。		
到達目標	第一に、ジェンダー、セクシュアリティの歴史の基礎知識を習得し、それを通して歴史を通史とは違った切り口から把握する視点を身につけること。第二に、男性、女性といった性を自明とせず、思想・文化史的に社会文化の関係性の中で根源的に捉えなおす思考を身につけること。いずれも思想史・歴史学に留まらず、政治学、社会学、教育学などの多様な学問を学ぶ基礎となる教養である。		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	この授業は、主に日本語・日本文学科のDP4「日本文化の構造や特徴について説明することができる。」の達成に関わる科目です。前期の日本文化論Ⅰ・ヴィジュアル日本史、後期の日本文化論Ⅱも履修すれば、本授業で得られる理解は深まるだろう。特に日本文化論Ⅱと併せた学習は〈身体〉〈ジェンダー〉〈生—政治〉の知見深化の上で有意義であろう。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 導入—〈ジェンダー〉〈セクシュアリティ〉という観点から日本近代をみる意味		参考図書に目を通すことが好ましい。	
第2回 江戸から明治における離婚の変容		配布したレジュメに基づき授業内容を復習	
第3回 江戸時代に武家の女性は弱かったのか？		配布したレジュメに基づき授業内容を復習	
第4回 国母・美子皇后を創出する		配布したレジュメに基づき授業内容を復習	
第5回 「文明」の課題—男女同権・一夫一婦・売淫婦人		配布したレジュメに基づき授業内容を復習	
第6回 女性参政権問題から教育勅語へ		配布したレジュメに基づき授業内容を復習	
第7回 近代家族とセクシュアリティ		配布したレジュメに基づき授業内容を復習	
第8回 新しい女・モダンガール・良妻賢母		配布したレジュメに基づき授業内容を復習	
第9回 植民地台湾の「モダンガール」現象とファッションの政治化		配布したレジュメに基づき授業内容を復習	
第10回 資生堂という企業—化粧品製造・販売の戦略と文化		配布したレジュメに基づき授業内容を復習	
第11回 婦人雑誌の情報空間と女性大衆読者層の成立		配布したレジュメに基づき授業内容を復習	
第12回 国防婦人会—銃後における婦人動員のシンボルと実態		配布したレジュメに基づき授業内容を復習	
第13回 "戦後における性風俗産業の叢生と売春防止法"		配布したレジュメに基づき授業内容を復習	
第14回 優生学運動から新優生学へ—出生前診断の現在を考えるために		配布したレジュメに基づき授業内容を復習	
第15回 結論		配布したレジュメに基づき授業内容を復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	80%		
レポート	—		
小テスト等	—		
成果発表	—		
受講態度他	20%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義中に私語などの迷惑行為を行なった者には退出を命じる。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	関口すみ子『御一新とジェンダー—获生徂徠から教育勅語まで』東京大学出版会(2005年)、伊藤り、坂本ひろ子、タニ・E・パロウ編『モダンガールと植民地近代—東アジアにおける帝国・資本・ジェンダー』岩波書店(2010年)		
オフィスワー	講義前後の休み時間	メールアドレス	

授業科目	日本事情	開講時期	後期
担当教員	森田 真也	単位	2
授業の目的と概要	講義の目的は、文化表象に潜む政治性・暴力性、アジアや沖縄等の諸地域との歴史的関係から、現在もつづく植民地主義の諸問題について考察していくことにある。また、マイノリティの問題についての事例を提示して、多文化社会としての日本、そこに横たわる課題について考える。なお、日本や世界のマイノリティ問題、近・現代の植民地主義を考察の対象に置くことは、現代社会にあるさまざまな問題をいかに捉えていくかという思考力と実践力、さらには倫理観や人間観を獲得していくことにつながる。具体的には、最初に文化表象と文化の政治性の問題について解説する。ここでは、特に映画、絵画、小説、CM、漫画等に見られる一方的イメージの投影の暴力性を考える。つづいて、現在もつづく沖縄、アジアの植民地主義の問題、国民国家と日本民族論、日本のマイノリティ、日本の中にある多様な文化等について取上げる。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化表象にある政治性や暴力性についての認識を深めることが出来る。</li> <li>・日本とアジア・沖縄の近現代史における植民地主義の諸問題について理解出来る。</li> <li>・マイノリティ問題、日本文化の多様性、日本社会にある差別や偏見の諸問題について理解出来る。</li> <li>・マイノリティ問題、植民地主義の問題を考えることで、社会人としての的確な倫理観・人間観を獲得することが出来る。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に日本語・日本文学科のDP4「日本文化の構造や特徴について説明することができる。」の達成に関わる科目です。主に「文化人類学」と関連します。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回： 社会と文化をとらえるにあたって		授業の目的と内容について理解する	
第2回： 日本の社会と文化を考える上での視点		授業の視点について理解する	
第3回： 文化表象の問題（1）－日本から異文化をみる－		文化表象の問題点について考える（資料の通読）	
第4回： 文化表象の問題（2）－異文化としてみられる日本－		文化表象の問題点について考える（資料の通読）	
第5回： 近代国民国家と日本民族論－「日本人」とは何か－		東アジアの近代と日本認識について考える（資料の通読）	
第6回： 日本とアジアの近代と植民地主義（1）－日本と沖縄の関係－		東アジアの近代と植民地主義について考える（資料の通読）	
第7回： 日本とアジアの近代と植民地主義（2）－日本の中の沖縄－		東アジアの近代と植民地主義について考える（資料の通読）	
第8回： 日本とアジアの近代と植民地主義（3）－日本と東アジアの関係－		東アジアの近代と植民地主義について考える（資料の通読）	
第9回： エスニシティとエスニック・アイデンティティ		エスニック・アイデンティティについて考える（資料の通読）	
第10回： 海外の日本文化－海外で暮らす日系移民社会－		エスニック・アイデンティティについて考える（資料の通読）	
第11回： 多文化社会としての日本（1）－日本の中のマイノリティ（在日韓国・朝鮮人）－		日本の中のマイノリティ問題について考える（資料の通読）	
第12回： 多文化社会としての日本（2）－日本の中のマイノリティ（華人・華僑）－		日本の中のマイノリティ問題について考える（資料の通読）	
第13回： 多文化社会としての日本（3）－日本の中のマイノリティ（アイヌ）－		日本の中のマイノリティ問題について考える（資料の通読）	
第14回： 文化表象とオリエンタリズム－ハリウッド映画を中心として－		文化表象の問題点について具体的な事例から考える	
第15回： まとめ		授業全体の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	80％ 期末テスト（自筆ノート、配布プリント持込可、論述形式）。		
レポート	無し。		
小テスト等	無し。		
成果発表	無し。		
受講態度他	20％ 受講態度。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由の無い遅刻、途中退席をしないこと。 就職活動や病気等で欠席する場合、早急に手続きを行ない、適時、必要な書類を提示すること。		
教科書	適時プリントを配る。教科書等の購入の必要はない。		
指定図書	無し。		
参考図書	サイード、E.W. 今沢紀子訳『オリエンタリズム』（上・下）平凡社（1993年）。 講義中、適時紹介する。		
オフィスアワー	金曜日昼休み（12:30-13:00）	メールアドレス	

授業科目	日本事情A【留学生・帰国生】		開講時期	前期
担当教員	荀 暁暉		単位	2
授業の目的と概要	日本は七～八世紀に中国文化を受け入れ、一九世紀後半以降、欧米文化を受容しましたが、外国の文化を受け入れながら、それを日本的なものに適合させ、古い伝統は捨てることがなかった。最近では、日本の漫画、アニメ、Jポップス、ファッションなどのポップカルチャーが世界各地で広く受け入れられるという現象が進んでいます。本講義では、「和」を大切にする日本の独特の洗練された豊かな文化や芸術、風習について取り上げながら、「アベノミクス」「消費税」「TPP交渉」などといった現在起こっている出来事にも注意を払い、さまざまな角度から日本の事情について考えていく。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の文化や風習について理解できる。</li> <li>・日本に関するさまざまな事象について理解できる。</li> <li>・現代ニッポンの社会と文化のあり様についての認識を深めることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	世界に飛び出すポップカルチャー (1)	課題		
第2回	世界に飛び出すポップカルチャー (2)	課題		
第3回	「サクラ」の花と日本人の美しさ (1)	課題		
第4回	「サクラ」の花と日本人の美しさ (2)	課題		
第5回	日本人とお茶 (1)	課題		
第6回	日本人とお茶 (2)	課題		
第7回	日本人と「間」の関係 (1)	課題		
第8回	日本人と「間」の関係 (2)	課題		
第9回	神々が相談する国と日本の神話について (1)	課題		
第10回	神々が相談する国と日本の神話について (2)	課題		
第11回	アベノミクスは続くのか (1)	課題		
第12回	アベノミクスは続くのか (2)	課題		
第13回	TPP加盟を目指す日本 (1)	課題		
第14回	TPP加盟を目指す日本 (2)	課題		
第15回	まとめ	課題		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	期末試験 50%			
レポート	レポート、課題 50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	日頃学習への取組および受講態度も加味する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・欠席は三分の一を超えないこと。			
教科書	適時講義用のプリントを配布する。(教科書等の購入の必要はない)			
指定図書	なし			
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水谷修・佐々木瑞枝 等編 『日本事情ハンドブック』 大修館書店</li> <li>・宇田川敏夫 著 『日本文化の歳時記』 振学出版</li> </ul>			
オフィスアワー	火曜日昼休み (12:30-13:00)、なるべく授業前後にご相談ください。	メールアドレス		

授業科目	日本事情B【留学生・帰国生】		開講時期	後期
担当教員	荀 暁暉		単位	2
授業の目的と概要	日本は七～八世紀に中国文化を受け入れ、一九世紀後半以降、欧米文化を受容しましたが、外国の文化を受け入れながら、それを日本的なものに適合させ、古い伝統は捨てることがなかった。最近では、日本の漫画、アニメ、Jポップス、ファッションなどのポップカルチャーが世界各地で広く受け入れられるという現象が進んでいます。本講義では、「和」を大切に日本の独特の洗練された豊かな文化や芸術、風習について取り上げながら、「アベノミクス」「消費税」「TPP交渉」などといった現在起こっている出来事にも注意を払い、さまざまな角度から日本の事情について考えていく。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の文化や風習について理解できる。</li> <li>・日本に関するさまざまな事象について理解できる。</li> <li>・現代ニッポンの社会と文化のあり様についての認識を深めることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	お盆の風習 (1)		課題	
第2回	お盆の風習 (2)		課題	
第3回	日本の秋について (1)		課題	
第4回	日本の秋について (2)		課題	
第5回	日本の祭り (1)		課題	
第6回	日本の祭り (2)		課題	
第7回	少子化問題 (1)		課題	
第8回	少子化問題 (2)		課題	
第9回	東洋の美女 (1)		課題	
第10回	東洋の美女 (2)		課題	
第11回	大航海時代の日本 (1)		課題	
第12回	大航海時代の日本 (2)		課題	
第13回	高度経済成長期の公害・環境問題 (1)		課題	
第14回	高度経済成長期の公害・環境問題 (2)		課題	
第15回	まとめ		課題	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	期末試験 50%			
レポート	レポート、課題 50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	日頃学習への取組および受講態度も加味する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・欠席は三分之一を超えないこと。			
教科書	適時講義用のプリントを配布する。(教科書等の購入の必要はない)			
指定図書	なし			
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水谷修・佐々木瑞枝 等編 『日本事情ハンドブック』 大修館書店</li> <li>・宇田川敏 著 『日本文化の歳時記』 振学出版</li> </ul>			
オフィスワー	火曜日昼休み (12:30-13:00)、なるべく授業前後にご相談ください。		メールアドレス	

授業科目	日本伝統文化実習		開講時期	前期
担当教員	野村 万禄・宮永 優子		単位	1
授業の目的と概要	<p>狂言は、650年前に誕生した笑いの芸能です。狂言の特徴としては、道具をほとんど使用せず、現実社会の人々を登場人物として素顔で演じます。役者自身の台詞と動きだけで生きた人間の喜怒哀楽を表現していくという観点から狂言の世界と現代社会の相違点や関連性を探る。実際に能楽堂での研修授業を行うことにより想像力を豊かにし創造的思考力を育成し、学習成果をレポートにまとめることにより、論理的思考力を高めることを目的とする。</p> <p>本講座では、狂言の代表的な小道具の一つである扇を使用し、昔流行した小謡（歌）小舞（踊り）を実践的に学ぶ。また筆記授業では、室町時代から変わらない笑いの普遍性に迫る。さらに、ビデオ鑑賞や能楽堂での研修授業を行い、日本文化の美学や心とは何かを肌で感じて貰う。</p>			
到達目標	<p>①狂言の所作を通して、現代社会に欠けている礼儀作法、忍耐力、様式美を身体で表現できる。</p> <p>②狂言の決められた型を理解し、その中で自由に表現できる。</p> <p>③狂言の舞台を通して、何も無い空間でも想像力を働かせ、考える力や感受性を養うことができる。</p> <p>④狂言の笑いは、なぜ現代でも通じるのかを説明できる。</p> <p>⑤古典と新作の違い、狂言とは何かを説明できる。</p> <p>⑥実技試験を行うことで授業全体の総合的能力を培ち、技能を習得できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション・ビデオ鑑賞		課題		
第2回 狂言と能の違いについて・ビデオ鑑賞		課題		
第3回 狂言の歴史、風景、演技、笑い、人物について・ビデオ鑑賞		課題		
第4回 古典と新作について・ビデオ鑑賞		課題		
第5回 狂言小謡・ビデオ鑑賞		課題		
第6回 狂言小謡・ビデオ鑑賞		課題		
第7回 狂言小謡・狂言小舞		課題		
第8回 能楽堂での研修授業		課題		
第9回 狂言小謡・狂言小舞		課題		
第10回 狂言小謡・狂言小舞		課題		
第11回 狂言小謡・狂言小舞		課題		
第12回 狂言小謡・狂言小舞 狂言のセリフ		課題		
第13回 狂言小謡・狂言小舞 狂言のセリフ		課題		
第14回 狂言小謡・狂言小舞 狂言のセリフ		課題		
第15回 狂言小謡・狂言小舞 実技テスト		課題		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60％ 狂言小謡・狂言小舞			
レポート	20％ 能楽堂での研修授業の感想			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％ 授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特に能楽堂での研修授業において、上演中の私語や携帯電話、写真撮影、飲食は禁止。実践授業で使用する扇の取り扱いには十分注意する。			
教科書	小謡のプリント配布。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	日本の詩歌	開講時期	後期
担当教員	松下 博文	単 位	2
授業の目的と概要	①「万葉集」の世界と沖縄・奄美に伝わる古代歌謡「おもろさうし」の世界を比較しながら、古代人の心性をたどる。 ②日本的詩情と南島の詩情の違いを楽しむ。		
到達目標	①日本人の心性に思いを寄せることができる。 ②南島人の心性に思いを寄せることができる。 ③詩歌の基礎知識を身につける。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日本語・日本文学科DP（2）の「③ 日本語の構造や特徴について説明することができる。」および「④ 各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる。」に関連する科目であり、「近・現代文学概論」「近・現代文学講読」「近・現代文学演習」へと展開・発展して行く科目である。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	「万葉集」について（その1）	予習 「万葉集」について事典で調べる。	
第 2回	「万葉集」について（その2）	予習 「万葉集」について事典で調べる。	
第 3回	「おもろさうし」について（その1）	予習 「おもろさうし」について事典で調べる。	
第 4回	「おもろさうし」について（その2）	予習 「おもろさうし」について事典で調べる。	
第 5回	古代日本国家と古琉球	予習 39～52ページ	
第 6回	古代の世界観と神観念	予習 53～74ページ	
第 7回	太陽信仰について	予習 75～97ページ	
第 8回	古代歌謡の人々たち	予習 98～119ページ	
第 9回	歴史を拓いた英雄たち	予習 119～132ページ	
第10回	地方文化と中央文化	予習 133～151ページ	
第11回	アマミク神話と稲作の道	予習 152～186ページ	
第12回	「をなり神信仰」を追う	予習 187～209ページ	
第13回	古代歌謡の世界を読み解く①	予習 万葉時代と古琉球時代の相違を事典で調べる	
第14回	古代歌謡の世界を読み解く②	予習 万葉時代と古琉球時代の相違を事典で調べる	
第15回	古代歌謡の世界を読み解く③	予習 万葉時代と古琉球時代の相違を事典で調べる	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	100% 授業のテーマに沿ってレポート提出。レポート三回提出。		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席（欠席扱い）させます。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物は出さないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。		
教科書	外間守善『おもろさうし（上）』（岩波文庫）		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	水曜日 12時30分～13時まで	メールアドレス	

授業科目	日本美術史（再）		開講時期	前期
担当教員	小林 知美		単位	2
授業の目的と概要	<p>日本の美術の流れを、縄文時代から江戸時代にいたるまでの各時代を代表する作品を中心にたどる。映像によって作品をよく見、文献史料を読むことで当時の人々の意識や制作の背景などを知り、見ることと知ることの両方面から作品に接近し、日本美術の特徴と変化の過程を把握する。</p> <p>日本美術の優品を、映像によってよく見、文献史料を読むことで、日本美術の特徴と変化の過程を把握していく。また、寺院あるいは美術館・博物館見学をとおして美術作品に対する鑑賞眼を養うとともに、授業で身につけた日本美術に関する知識を、実際に自分の目で作品を見ることによって確実なものとする。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術に親しむための前提条件として、積極的に実地見学の機会をもとうとする姿勢を身につける。</li> <li>・近隣の寺院や美術館・博物館での見学を通して、美術鑑賞の体験を深める。</li> <li>・日本の美術の歴史の流れを、時代ごとの代表的作品の名称をあげて説明できるようになる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科DP④の「アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる。」を目標とする。</li> <li>・関連する代表的科目は下記の通りである。 「アジア生活文化概論」「アジア芸能史」「アジアの建築」「アジア芸術思想概論」「アジアの世界遺産」「アジアと仏教」（1年次開講） 「体験－ミュージアムで学ぶアジア」「体験－伝統文化」「比較文化論」「仏教美術史」「海域文化交流史」「日中交流史」「シルクロード文化交流史」（2年次開講）</li> </ul>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション：「見る」ということ／美術史学の方法	日本美術史についての参考資料探し		
第2回	見学①：九州国立博物館常設展	「日本美術史作品見学レポート」（レポート①）執筆		
第3回	縄文・弥生・古墳時代：	「日本美術史のなかの地元作品」（レポート②）執筆準備		
第4回	飛鳥・奈良時代前期Ⅰ	「日本美術史のなかの地元作品」（レポート②）執筆準備		
第5回	飛鳥・奈良時代前期Ⅱ	「日本美術史のなかの地元作品」（レポート②）執筆準備		
第6回	奈良時代後期Ⅰ	「日本美術史のなかの地元作品」（レポート②）執筆準備		
第7回	奈良時代後期Ⅱ	「日本美術史のなかの地元作品」（レポート②）執筆準備		
第8回	平安時代前期	「日本美術史のなかの地元作品」（レポート②）執筆		
第9回	平安時代後期Ⅰ	「私にとっての日本美術」（レポート③）執筆準備		
第10回	平安時代後期Ⅱ	「私にとっての日本美術」（レポート③）執筆準備		
第11回	平安時代後期Ⅲ	「私にとっての日本美術」（レポート③）執筆準備		
第12回	鎌倉・南北朝時代	「私にとっての日本美術」（レポート③）執筆準備		
第13回	室町時代	「私にとっての日本美術」（レポート③）執筆準備		
第14回	桃山・江戸時代	「私にとっての日本美術」（レポート③）執筆準備		
第15回	見学②：寺院、美術館・博物館での作品見学（日時・見学先は未定）	「私にとっての日本美術」（レポート③）執筆		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	80％			
小テスト等	—			
成果発表	0％			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	見学の時には、集合場所や時間を各自確認すること。見学①は授業時間中に見学します（観覧料は無料）。見学②の見学先は複数のうちから選択とし、見学先によっては拝観料・交通費がかかることがあります（各自負担）。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に伝えます			
オフィスアワー	水曜日の昼休み～3限（他は事前に連絡してください）	メールアドレス		



授業科目	日本文化演習 I	開講時期	前期
担当教員	森田 真也	単位	2
授業の目的と概要	講義の目的は、日本文化の多様性を考えるために主に沖縄を取り上げ、その文化的特性、日本との共通性を考察していくことにある。講義では、さまざまな分野から沖縄の現在を知り、その文化的な特徴や奥の深さを感じてほしいと思う。さらには沖縄の抱えている現代的課題を、同時代にある私たち自身のものでとらえてもらいたい。沖縄の現在を考えるために、主に食の習慣、音楽と芸能、パフォーマンス、言語等の特徴的な事例を示しながら講義を進めていく。また、小説、映画やドラマ等において沖縄がどのように描かれてきたのかについても検証する。さらには、琉球王国から沖縄県へのあゆみ、国内外への移民、沖縄戦、基地問題、近年のアイデンティティ模索の現状をも取上げ、沖縄が直面してきた近現代史を日本やアメリカとの関係から考察していく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沖縄の文化的特性について理解出来る。</li> <li>・ 沖縄と日本との比較から、文化的共通性について理解出来る。</li> <li>・ 日本とアメリカとの歴史的關係から、沖縄社会が抱える課題について考察出来るようになる。</li> <li>・ 沖縄を通して日本文化の多様性について理解することで、自己認識を深め、創造的思考力を獲得することが出来る。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に日本語・日本文学科のDP 4「日本文化の構造や特徴について説明することができる。」の達成に関わる科目です。主に「日本文化演習Ⅱ」と関連します。また、「民俗学Ⅰ」、「民俗学Ⅱ」とも関係します。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回：	沖縄と日本の文化をとらえるにあたって	授業の目的と内容について理解する	
第2回：	沖縄の概要（1）－地理・言語等－	沖縄の概要について理解する（資料の通読）	
第3回：	沖縄の概要（2）－歴史・信仰等－	沖縄の概要について理解する（資料の通読）	
第4回：	沖縄の食文化（1）－伝統的な食文化－	沖縄の食文化の特徴を考える（資料通読）	
第5回：	沖縄の食文化（2）－アメリカ文化の影響－	沖縄の食文化の特徴を考える（資料通読）	
第6回：	沖縄の文学（1）－文学からみる沖縄と日本の関係－	沖縄の文学の特徴を考える（資料通読）	
第7回：	沖縄の文学（2）－金城哲夫とウルトラマン－	沖縄の文学の特徴を考える（資料通読）	
第8回：	沖縄音楽の潮流（1）－島唄から1980年代まで－	沖縄の音楽の特徴を考える（資料通読）	
第9回：	沖縄音楽の潮流（2）－1990年代から現代まで－	沖縄の音楽の特徴を考える（資料通読）	
第10回：	沖縄のパフォーマンス－エイサーの現代的展開－	沖縄の芸能の現代的展開について考える（資料の通読）	
第11回：	沖縄を舞台とした映画・ドラマ	沖縄を描くマスメディアの課題を考える（資料の通読）	
第12回：	沖縄のお笑い（1）－沖縄の笑いと芸能－	沖縄の笑いの特徴を考える（資料の通読）	
第13回：	沖縄のお笑い（2）－沖縄の笑いと社会批判－	沖縄の笑いの特徴を考える（資料の通読）	
第14回：	奄美の音楽文化	奄美の音楽の特徴を考える（資料通読）	
第15回：	まとめ	授業全体の復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	無し。		
レポート	75% 期末レポート。		
小テスト等	無し。		
成果発表	無し。		
受講態度他	25% 受講態度。		
受講上の留意点・ルールに関する情報	<p>正当な理由の無い遅刻、途中退席をしないこと。</p> <p>「日本文化演習Ⅰ」を履修する者は、「日本文化演習Ⅱ」を履修することが望ましい。</p> <p>4年次の「卒業論文」のゼミを希望する者は、「日本文化演習Ⅰ・Ⅱ」を履修することが望ましい。</p> <p>原則、他学科からの受講は認めない。</p>		
教科書	適時プリントを配る。教科書等の購入の必要はない。		
指定図書	無し。		
参考図書	赤嶺政信『沖縄の神と食の文化』青春出版社（2003年）。 外間守善『沖縄の歴史と文化』中公新書（1986年）。		
オフィスアワー	月曜日昼休み（12:30-13:00）	メールアドレス	

授業科目	日本文化演習Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	宇野 智行	単 位	2
授業の目的と概要	日本文化を研究する方法論を身につける。また、研究発表を通じて、情報リテラシー・論理的思考力を養い、相互のディスカッションを通じて、コミュニケーション・スキルを高める。 本授業では、自らが主体的に研究するための具体的な方法論を学び、大学での研究を結実するためのテクニックを涵養する。なお、研究領域は主に、宗教学、哲学、仏教学、インド学であり、文献学的方法に限定することとする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学術論文の内容を正確に読解し、纏めることができる。</li> <li>2. 自分が興味を持つ文化について、資料を収集・分析することができる。</li> <li>3. 自分の研究成果を他者に伝達することを意識して、発表することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、学科DP4「日本文化の構造や特徴について説明することができる。」の達成に関わる科目です。「卒業論文」と関連する科目です。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション	課題①論文要約	
第2回	宗教学／仏教学とは何か	課題②論文要約	
第3回	文献学／古典学とは何か	課題③論文要約	
第4回	学術論文とは何か（論理的思考法）	課題④論文要約	
第5回	文化研究方法論①：資料収集	課題⑤論文要約	
第6回	文化研究方法論②：資料分析	課題⑥論文要約	
第7回	文化研究方法論③：プレゼンテーション	課題⑦論文要約	
第8回	研究発表①：グループA	発表準備・資料収集・資料分析・原稿作成・レジュメ作成	
第9回	研究発表②：グループB	発表準備・資料収集・資料分析・原稿作成・レジュメ作成	
第10回	研究発表③：グループC	発表準備・資料収集・資料分析・原稿作成・レジュメ作成	
第11回	研究発表④：グループD	発表準備・資料収集・資料分析・原稿作成・レジュメ作成	
第12回	研究発表⑤：グループE	発表準備・資料収集・資料分析・原稿作成・レジュメ作成	
第13回	研究発表⑥：グループF	発表準備・資料収集・資料分析・原稿作成・レジュメ作成	
第14回	研究発表⑦：グループG	発表準備・資料収集・資料分析・原稿作成・レジュメ作成	
第15回	まとめ	全講義の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	35% 課題7回		
小テスト等	0%		
成果発表	35% 研究発表（内容、表現、質疑応答）		
受講態度他	30% 受講態度（発表への取り組み、他の学生の発表に対する質問など）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	前半の課題（7回）は、読解力・表現力を養うため、指定された学術論文を800字程度に要約することを課す。後半の演習では、自分のテーマを自分で選択し研究発表を行う。研究発表を行わない場合は単位を認定しない。		
教科書	プリント配布		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	火曜日15:00-16:20	メールアドレス	

授業科目	日本文化演習Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	森田 真也	単位	2
授業の目的と概要	講義の目的は、日本文化の多様性を考えるために主に沖縄を取り上げ、その文化的特性、日本との共通性を考察していくことにある。そのため講義では、特に沖縄の民俗宗教、精神文化の領域にテーマをしばって考えていく。そして、沖縄の現在に生きる伝統的な信仰の在り方と社会構造の特質、日本との違いや共通点について解説していく。 沖縄には、日本本土とは違った独自の伝統的な民俗宗教が生活の中に生きている。そこで中心となるのは女性の存在である。日本本土と共通するもの、違うもの、中国・台湾、朝鮮半島と共通するもの、オセアニアの諸地域と共通するものがある。沖縄の伝統的な宗教生活を考えるために、各地の祭礼、聖地、神話、祖先祭祀と親族組織、霊魂観、他界観、シャーマニズム、宗教者、祭祀組織、民俗芸能等を取り上げながら、主に精神文化の領域と社会構造を中心に解説していく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 沖縄の文化的特性について理解出来る。</li> <li>・ 沖縄と日本との比較から、文化的共通性について理解出来る。</li> <li>・ 沖縄の民俗宗教、沖縄の精神文化について理解を深めることが出来る。</li> <li>・ 沖縄を通して日本文化の多様性について理解することで、自己認識を深め、創造的思考力を獲得することが出来る。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に日本語・日本文学科のDP4「日本文化の構造や特徴について説明することができる。」の達成に関わる科目です。主に「日本文化演習Ⅰ」と関連します。また、「民俗学Ⅰ」、「民俗学Ⅱ」とも関係します。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回：	沖縄の概要－地理・言語・歴史等－	授業の目的と内容、沖縄の概要について理解する	
第2回：	沖縄の霊魂観と魔物（1）－死霊（シニマプイ）と生霊（イチマプイ）－	沖縄の霊魂観の特徴を考える（資料の通読）	
第3回：	沖縄の霊魂観と魔物（2）－魔物（マジムン）・妖怪と心霊スポット－	沖縄の霊魂観の特徴を考える（資料の通読）	
第4回：	沖縄のシャーマニズム（1）－シャーマンに成る－	沖縄のシャーマニズムを考える（資料の通読）	
第5回：	沖縄のシャーマニズム（2）－シャーマンの役割－	沖縄のシャーマニズムを考える（資料の通読）	
第6回：	沖縄の祖先祭祀と親族組織（1）－共同で祖先を祀る－	沖縄の祖先祭祀の特徴を考える（資料の通読）	
第7回：	沖縄の祖先祭祀と親族組織（2）－父系親族組織について－	沖縄の祖先祭祀の特徴を考える（資料の通読）	
第8回：	研究発表と資料収集・卒論について	研究発表と資料収集・卒論のゼミについて理解する	
第9回：	沖縄の祭祀と世界観（1）－来訪神と他界観－	沖縄の祭祀の特徴を考える（資料の通読）	
第10回：	沖縄の祭祀と世界観（2）－御嶽と聖地－	沖縄の祭祀の特徴を考える（資料の通読）	
第11回：	沖縄の祭祀と世界観（3）－女性司祭者とオナリ神信仰－	沖縄の祭祀の特徴を考える（資料の通読）	
第12回：	沖縄の祭祀と世界観（4）－祭祀組織の現在－	沖縄の祭祀の特徴を考える（資料の通読）	
第13回：	沖縄の祭祀と世界観（5）－村落祭祀と民俗芸能－	沖縄の祭祀の特徴を考える（資料の通読）	
第14回：	琉球舞踊について	沖縄の芸能の特徴を考える（資料の通読）	
第15回：	まとめ	授業全体の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	無し。		
レポート	75％ 期末レポート。		
小テスト等	無し。		
成果発表	無し。		
受講態度他	25％ 受講態度。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>正当な理由の無い遅刻、途中退席をしないこと。  「日本文化演習Ⅱ」を履修する者は、「日本文化演習Ⅰ」を履修することが望ましい。  4年次の「卒業論文」のゼミを希望する者は、「日本文化演習Ⅰ・Ⅱ」を履修することが望ましい。  原則、他学科からの受講は認めない。</p>		
教科書	適時プリントを配る。教科書等の購入の必要はない。		
指定図書	無し。		
参考図書	赤嶺政信『沖縄の神と食の文化』青春出版社（2003年）。 リーブラ.P.W『沖縄の宗教と社会構造』弘文堂（1974年）。		
オフィスアワー	火曜日昼休み（12:30-13:00）	メールアドレス	

授業科目	日本文化研究入門		開講時期	後期
担当教員	時里 奉明・森田 真也・宇野 智行		単位	2
授業の目的と概要	<p>文化の定義、文化研究の意義についての知識を得る。宗教・思想という概念的文化が生活基盤に流れていることを理解する。歴史を学ぶことにより、日本文化の形成・発展のあり方を学ぶ。民俗・習慣などへのアプローチを通じて、地域の生活文化についての理解を深める。</p> <p>この授業は、日本文化研究についてのオリエンテーションの意味で開講します。しかし、「日本文化学」といった学問分野を意図しているわけではなく、3人の教員それぞれの分野（宗教学・歴史学・民俗学）からどのように日本文化にアプローチするのか、日本文化を理解することにどのような意義があるのかについて、理解を深めることを目指します。また、文化理解の手法を通じて、現代社会における様々な問題解決の糸口を探ってみましょう。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文化を学ぶことの意義について説明することができる。</li> <li>2. 自分が興味を持つ文化について、資料を収集・分析することができる。</li> <li>3. 文化研究のアプローチ方法に則って、ある「文化」について説明することができる。</li> <li>4. 論理的思考力をもって研究成果を表現することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、学科DP4「日本文化の構造や特徴について説明することができる」の達成に関わる科目です。「民俗学I・II」「ビジュアル日本史」「仏教文化論」「日本文化演習I・II」と関連する科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	宗教から見る日本文化（1）—イントロダクション・文化とは何か—：担当者 宇野	レポート①		
第2回	宗教から見る日本文化（2）—カルチャーショック—：担当者 宇野	レポート①		
第3回	宗教から見る日本文化（3）—死生観の比較文化論—：担当者 宇野	レポート①		
第4回	宗教から見る日本文化（4）—死後の世界観と宗教—：担当者 宇野	レポート①		
第5回	宗教から見る日本文化（5）—宗教学のススメ・異文化理解—：担当者 宇野	レポート①		
第6回	歴史から見る日本文化（1）—イントロダクション・歴史は役に立つか—：担当者 時里	レポート②		
第7回	歴史から見る日本文化（2）—従軍慰安婦をめぐる論争—：担当者 時里	レポート②		
第8回	歴史から見る日本文化（3）—従軍慰安婦論争と歴史学—：担当者 時里	レポート②		
第9回	歴史から見る日本文化（4）—「日本人」のアイデンティティ—：担当者 時里	レポート②		
第10回	歴史から見る日本文化（5）—歴史像を提示すること—：担当者 時里	レポート②		
第11回	民俗から見る日本文化（1）—イントロダクション・文化を考える視点—：担当者 森田	レポート③		
第12回	民俗から見る日本文化（2）—伝統と現代—：担当者 森田	レポート③		
第13回	民俗から見る日本文化（3）—文化を比較する—：担当者 森田	レポート③		
第14回	民俗から見る日本文化（4）—地域を考える—：担当者 森田	レポート③		
第15回	民俗から見る日本文化（5）—民俗学のススメ—：担当者 森田	レポート③		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% レポート3回			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	40% 受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	3名の担当者から指示されたレポートは全て提出すること。一つでも提出されない場合は単位を認定しない。			
教科書	授業時に担当者から指示。			
指定図書	なし			
参考図書	授業時に担当者から指示。			
オフィスアワー	時里：金曜の昼休み 宇野：火曜15：00～16：20	メールアドレス		

授業科目	【閉講】日本文化特論 I	開講時期	前期
担当教員	永淵 道彦	単位	2
授業の目的と概要	日本近代・大正期の特記すべき文化事象（芥川龍之介の作品、「赤い鳥」の童話作品、「青鞥」の新しい女たち）を教材として、各事象にうかがえる日本文化の特質を探求し、併せて各探求の方法を学ぶことを目的とする。 現代日本の文化的揺籃期である大正時代における文化事象として、「新思潮」派と芥川龍之介の文学、「赤い鳥」の童話と児童文学ルネサンス、「青鞥」と新しい女たち、を取り上げる。各文化事象における小説、童話作品、文献などを教材に、その時代背景と共に、具体的に考察する。併せて、関連する書籍の利用な仕方なども学習する。		
到達目標	1、日本文化について考察するために必要な日本近代・大正期の資料について説明できる。 2、日本近代・大正期の文化事象について書かれている叙述部分に着眼し調査研究することができる。 3、研究テーマと日本文化と関連させて考察することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	日本近代・大正期における文化事象の概観	関連書籍など	
第2回	「新思潮」派と芥川文学	関連資料を読む	
第3回	芥川龍之介「秋」の主人公・信子をめぐって① (大正期女子高等教育と信子の進路)	関連資料、テキストの読み込みと討議	
第4回	同上 ② (信子の新婚生活)	同上	
第5回	同上 ③ (姉妹の葛藤と信子の挫折)	同上	
第6回	大正期と児童文学ルネサンスについて	関連資料を読む	
第7回	児童文学ルネサンスと「赤い鳥」誌について	同上	
第8回	「赤い鳥」誌の童話「天下一の馬」について	関連資料、テキストの読み込み	
第9回	「赤い鳥」誌の童話「コーカサスの禿鷹」について	同上	
第10回	「赤い鳥」誌の童話「彗星の話」について	同上	
第11回	女子高等教育と「青鞥」創刊について	関連資料を読む	
第12回	「青鞥」誌と新しい女たち①(資料調査)	同上	
第13回	同上 ②(討議)	同上	
第14回	問題提起とレポート作成方	関連資料情報等	
第15回	総括	各自の論文テーマとの関連付けの考察	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	80%		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	出来るだけ多くの参考文献を読むことを心掛けてほしい。		
教科書	『豊島与志雄・童話の世界』花書院、配布のプリントなど		
指定図書	講義中に指示		
参考図書	講義中に指示		
オフィスアワー	木曜日の午後	メールアドレス	

授業科目	【閉講】日本文化特論Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	森田 真也	単 位	2
授業の目的と概要	この講義では、民俗学の立場から、現代日本社会を人々の日常実践と思考を通して読み解いていく。そして、近代以降、日本社会が直面してきた課題、現在の都市的生活者や地域社会が抱えもつ課題を、生活者の立場からとらえていく。また、あわせて日本社会の多様な問題に対して、生活者の視点から批判的に検証し、実践的にアプローチする力を培う。 この講義では、日本社会を「文化」をめぐる諸問題からとらえなおしていく。そして、近年、日本社会で散見されるような民俗文化の活用の試みと、地域社会を生きる人々の営みと思考にあるギャップや矛盾点について考えていく。そのため、日本、沖縄における「文化資源化」の事例、具体的には、地域社会の民俗文化を活用した観光による地域振興、文化政策等の議論を、講義、研究論文の輪読と発表、ディスカッションを通して批判的に検証していく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人々の日常実践と思考の在り方を、現場に則しながら考察する視点を獲得することが出来る。</li> <li>・近代以降の日本社会の変化と課題について理解することが出来る。</li> <li>・日本社会の多様な問題に対して、批判的に検証し、実践的にアプローチする力を身につけることが出来る。</li> <li>・文献の輪読と議論によって、論旨を読み取り、自らの見解を明確にまとめることが出来る。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	専門的な知識を深めるとともに、複数の学問的課題の中心に関連性を求め、研究の視点を広げる。「研究基礎」、そして「フィールド・ワーク」（森田真也担当）と関連する。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1 回：	文化から社会を見通す視点—本講義のねらい—	授業の目的と内容について理解する	
第 2 回：	民俗学と文化人類学における日本研究	民俗学と文化人類学の特徴について理解する（資料の通読）	
第 3 回：	文化の資源化の諸問題（1）—民俗文化とフォークロリズム—	文化の資源化とは何か理解する（資料の通読）	
第 4 回：	文化の資源化の諸問題（2）—観光と地域振興—	観光と地域振興の関係について考える（資料の通読）	
第 5 回：	文化の資源化の諸問題（3）—地域社会と文化政策—	地域社会と文化政策の課題について考える（資料の通読）	
第 6 回：	文化の資源化の諸問題（4）—地方と都市の関係—	観光から地方と都市の関係について考える（資料の通読）	
第 7 回：	文献の輪読とディスカッション①	文献の読解・内容整理	
第 8 回：	文献の輪読とディスカッション②	文献の読解・内容整理	
第 9 回：	文献の輪読とディスカッション③	文献の読解・内容整理	
第10回：	文献の輪読とディスカッション④	文献の読解・内容整理	
第11回：	文献の輪読とディスカッション⑤	文献の読解・内容整理	
第12回：	文献の輪読とディスカッション⑥	文献の読解・内容整理	
第13回：	海外（諸外国）の文化の資源化の事例から	海外の事例と比較して考える	
第14回：	文化の資源化の課題	文化の資源化の課題と可能性について考える	
第15回：	講義の総括	授業全体の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	無し。		
レポート	40％ 期末レポート。		
小テスト等	無し。		
成果発表	40％ 論文の輪読と研究発表を数回行ない、質疑応答をする。		
受講態度他	20％ 研究姿勢を評価する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	輪読する論文（文献）については、講義中に指示する。事前に読んでおくこと。 積極的な受講を希望する。 受講者の人数によって、輪読論文、講義計画の変更の可能性もある。		
教科書	無し。状況に応じて資料を配布する。		
指定図書	岩本通弥編『ふるさと資源化と民俗学』吉川弘文館（2007年）。〈本学図書館所蔵〉		
参考図書	講義中に適時紹介する。		
オフィスワー	木曜日昼休み（12:30-13:00）	メールアドレス	

授業科目	日本文化論 I	開講時期	前期
担当教員	横山 尊	単 位	2
授業の目的と概要	<p>テーマ：〈科学技術〉からみる近代日本          本講義は、〈科学技術〉という切り口から近代日本を見通すものである。日本人が近代科学、近代技術を西洋諸国から本格的に導入、摂取することを開始して、すでに100年以上経った。20世紀は科学技術の時代とも言われる。特に日本社会にとり後半は戦後復興と経済成長に科学技術の発展が大きく貢献した。しかし、一方でその発展が社会や環境にひずみをもたらしているのも事実である。本講義は、幕末から現代にいたる長いスパンを通して、科学技術に関する機関、制度、資金をめぐる国家政策を中心に論じる。それだけでなく、科学技術と思想、文学の関わり、メディア報道や「科学」イメージの形成など、ハードな側面とソフトな側面を織り交ぜて講義を展開する。それらを学ぶことで、受講者は高校日本史とは異なる切り口で日本史を捉えることができ、同時に科学リテラシーを養うことも可能になるだろう。</p>		
到達目標	<p>第一に日本の科学技術史の基礎的知識を習得し、政治・経済・社会・文化との関係性の中で、科学技術を捉える視野を獲得すること。第二に、「科学」という概念を自明なものせず、歴史的な見地から相対的、批判的に捉える視点を身につけること。これらを通して、学生は文系・理系の壁を越え、眺望的視野から大学と学問を捉えることができるだろう。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	日本文化論Ⅱ、日本思想史を履修すれば、本授業で得られた知見をさらに深めることができるだろう。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	導入—〈科学技術〉はどう捉えられてきたか?—世界史的文脈から	レジュメと参考文献で復習することが好ましい。	
第2回	幕末維新の軍事技術—洋式小銃を中心に	レジュメと参考文献で復習することが好ましい。	
第3回	明治前期における工科系官僚の栄光と挫折	レジュメと参考文献で復習することが好ましい。	
第4回	明治政府と応用昆虫学—〈害虫〉の発見	レジュメと参考文献で復習することが好ましい。	
第5回	明治期における動物進化論と社会進化論	レジュメと参考文献で復習することが好ましい。	
第6回	近代心霊学と明治日本—こっくりさん・催眠術・千里眼	レジュメと参考文献で復習することが好ましい。	
第7回	戦前日本の科学ジャーナリズムの展開	レジュメと参考文献で復習することが好ましい。	
第8回	第一次世界大戦と理化学研究所—研究機関と軍部・産業界	レジュメと参考文献で復習することが好ましい。	
第9回	昭和戦前期の科学技術政策—科学技術新体制	レジュメと参考文献で復習することが好ましい。	
第10回	日本人の起源をめぐる「科学」—人類学と考古学	レジュメと参考文献で復習することが好ましい。	
第11回	帝国の膨張と稲の品種改良—「稲も亦大和民族なり」	レジュメと参考文献で復習することが好ましい。	
第12回	戦後日本の科学技術政策—敗戦から現在までの見取り図	レジュメと参考文献で復習することが好ましい。	
第13回	原爆から原発へ—日本が原子力国家になった原点	レジュメと参考文献で復習することが好ましい。	
第14回	公害問題の発見から地球環境問題へ	レジュメと参考文献で復習することが好ましい。	
第15回	東日本大震災とリスク社会のこれから	レジュメと参考文献で復習することが好ましい。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	80%		
レポート	0%		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	20%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語などの迷惑行為を行なった者には退室を命じる。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	広重徹『科学の社会史』(上)(下)岩波書店、2003年(元1973年) 鈴木淳『日本史リブレット100 科学技術政策』山川出版社、2010年		
オフィスアワー	講義前後の休憩時間	メールアドレス	

授業科目	日本文化論Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	横山 尊	単 位	2
授業の目的と概要	<p>テーマ：〈人口と移民〉からみる近代日本  人口は、内部的には出生・死亡・結婚（離婚）、移動といった要因で変動する。それらがどう組み合わせ、人口が変動したかが人口研究の課題となってきた。逆に、人口変動が社会や経済、文化に影響を与えることもある。例えば、現在日本が直面する少子高齢化は、社会保障の問題をはじめとし、日本の社会・経済・文化を大きく変える可能性を秘めている。本講義は、近世から現代日本を対象にその様相を論じる。</p> <p>関連して、本講義は、人の移動、移民に焦点を当てる。実は1920年代から1970年代頃の50年余りにわたり、日本は積極的な移民送出国だった。一方で、20世紀末から外国人の大量流入にも直面している。本講義は、在日朝鮮人や1970年代の女性外国人労働者などの国内のマイノリティやそれに伴う差別問題にも着目しながら、その様相を論じていく。</p>		
到達目標	<p>第一に近代日本の人口や移民をめぐる問題の基礎的知識を習得し、政治・社会・文化との関係性の中で捉える視野を獲得すること。第二に、出生・死亡・結婚・移動を中心とした人びとの多様な生の営みを、人種主義やマイノリティをめぐる問題と絡め、歴史的な見地から捉える視点を身につけること。こうした視野の獲得は、現代の人口問題やグローバル社会への理解にも大きく寄与するだろう。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>前期の日本文化論Ⅰ、後期の日本思想史も履修すれば、本授業で得られる理解は深まるだろう。特に日本思想史と併せた学習は〈身体〉〈ジェンダー〉、〈生—政治〉の知見深化の上で有意義であろう。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	<人口と移民>から近代日本をみる意味	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第2回	江戸時代の結婚・出産・死亡—歴史人口学の世界	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第3回	人口調節装置としての江戸時代の都市—都市は「蟻地獄」？	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第4回	日本人の海外渡航解禁と「国際結婚」の成立	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第5回	ハワイの日本人移民—ハワイ王国の滅亡前と後	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第6回	北米の日本人移民排斥運動とアメリカ政府	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第7回	ブラジル移民政策と日本移民—米国排日運動の反響	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第8回	満州国農業移民が映し出す社会帝国主義	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第9回	1920-1940年代の人口政策構想—人口政策確立要綱に至るまで	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第10回	黄禍論・人種主義と日本人の自画像	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第11回	大日本帝国と朝鮮人の移動	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第12回	大日本帝国の崩壊と引揚・復員—そして博多港・二日市療養所	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第13回	シベリア抑留と戦後日本—ソ連共産主義の「収容所列島」の中で	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第14回	「家族計画」が登場するまで—避妊と中絶をめぐる制度と運動	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
第15回	総括と展望：日本が人口減少社会になるまで—今後の日本人口と労働移民問題	プリントや講義中の参考文献の復習を行うのが好ましい。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	80%		
レポート	0%		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	20%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語などの迷惑行為を行なった者には退室を命じる。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	鬼頭宏『人口から読む日本の歴史』講談社学術文庫、2000年〔原1983年〕 山田迪生『船にみる日本人移民史』中公新書、1998年		
オフィスアワー	講義時間前後の休憩時間	メールアドレス	



授業科目	日本文学の現在(再)		開講時期	前期
担当教員	松本 常彦		単 位	2
授業の目的と概要	<p>IT革命後の情報通信産業の世界的展開に率られるかたちで、グローバル化が進行する現在において、「他者」の問題は、いっそう深刻になっている。この授業では、日本の現代小説を通して、「他者」とそれを「読む地平」の二つを考察することを目的とする。</p> <p>概要を問題のメニューとして示すなら、「他者とはだれか」、「他者を読むためのモデル」、「内なる他者」、「他者の声」、「何が他者をつくるのか」、「他者の表象」、「私という他者」、「他者を読む地平」などが問題群となる。</p> <p>以上の問題群を日本の現代小説に即して考える。</p> <p>「他者」とそれを読む「地平」の問題が、文学の次元の問題にとどまらず、人間や世界の理解と不可分であることを理解し、授業のテーマを通して、自発的に人間や世界を読む姿勢を養成すること。</p>			
到達目標	<p>小説に含まれる種々のメッセージについて、まずは文意に即した解釈ができるようになること。</p> <p>次に、そのメッセージが内包する「他者」性について読者の地平という条件を考慮しながら読解できるようになること。</p> <p>最終的な到達目標としては、小説のメッセージを自身の問題意識にまで高め、その問題意識を種々の資料やデータによって検証しつつ、一定の見解にして発信できること。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	講義の概要について	シラバスをよく読んで受講すること		
第 2回	「他者」とそれを読むための「地平」の問題について	次週までに授業中に指示した配布資料を読んできると		
第 3回	「他者とはだれか」	次週までに授業中に指示した配布資料を読んできると		
第 4回	「他者を読むためのモデル」	次週までに授業中に指示した配布資料を読んできると		
第 5回	「内なる他者」	次週までに授業中に指示した配布資料を読んできると		
第6回	「他者の声」を読む 1	次週までに授業中に指示した配布資料を読んできると		
第 7回	「他者の声」を読む 2	次週までに授業中に指示した配布資料を読んできると		
第 8回	「他者の声」を読む 3	次週までに授業中に指示した配布資料を読んできると		
第 9回	「何が他者をつくるのか」 1	次週までに授業中に指示した配布資料を読んできると		
第10回	「何が他者をつくるのか」 2	次週までに授業中に指示した配布資料を読んできると		
第11回	「他者の表象」 1	次週までに授業中に指示した配布資料を読んできると		
第12回	「他者の表象」 2	次週までに授業中に指示した配布資料を読んできると		
第13回	「私という他者」 1	次週までに授業中に指示した配布資料を読んできると		
第14回	「私という他者」 2	次週までに授業中に指示した配布資料を読んできると		
第15回	「他者を読む地平」について	試験の準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	授業の進度や理解度に応じて課す場合がある。そのときは、定期試験と合わせて総合的に評価する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業を受講する上での一般的なルールを守る			
教科書	本文をプリントで配布する			
指定図書	配布資料に記載			
参考図書	配布資料に記載			
オフィスアワー	金曜日の講義時間の前後	メールアドレス		

授業科目	人間科学概論		開講時期	前期
担当教員	松本 和寿・浅田 淳一・山崎 安則・宇治 和貴		単位	2
授業の目的と概要	<p>「人間とは何者か」「どのような生きものか」ということについて、認識を深め理解の幅を拡げるのがこの授業の目的です。人間は複雑で多様な生きものです。さまざまな不合理や矛盾を抱えながらも、全体として一つのまとまりのある存在として生きているのが人間でもあります。この講義では、人間科学部での学びの基盤となる人間理解の視点を自分のものとするとともに、人間支援の基本的な姿勢と方法を身につけることを目的としたものです。</p> <p>授業は、4人の異なる専門領域をもつ教員による、オムニバス形式のリレー講義で進めます。心理学の立場から浅田が6回、社会福祉学の立場から山崎が3回、教育学の立場から松本が3回、仏教の立場から宇治が3回の講義を行います。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間が複雑多様な存在であることを説明できる。</li> <li>2. 人間が不合理で矛盾に満ちた存在でありながら、一つのまとまりのある存在であることが説明できる。</li> <li>3. 人間理解の方法について説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は人間科学部のDP①「人と人、人と社会のつながりを尊重し、共生社会の実現に向け行動ができる。」の達成にかかわる科目です。</p> <p>なかでも人間形成専攻の学生においては、DP①「教育者/保育者としての豊かな人間性や社会人として必要な知識・技能を身に付けることができる。」の達成に関わる科目です。</p> <p>また、人間関係専攻の学生においては、DP①「人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。」の達成にかかわる科目です。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	宇宙における人間の地位（浅田）	ノート整理		
第2回	西洋思想史に於ける人間論の登場（浅田）	ノート整理		
第3回	ルネッサンスに於ける人間の再発見（浅田）	ノート整理		
第4回	Liberal Artsの成立（浅田）	ノート整理		
第5回	Human Science(人間科学)の成立（浅田）	ノート整理		
第6回	Human Science(人間科学)の内実（浅田）	ノート整理とレポート作成		
第7回	ノーマライゼーションの理念と歴史（山崎）	ノート整理		
第8回	デンマーク流「幸せの国」のつくり方（山崎）	ノート整理		
第9回	デンマークに学ぶ日本の福祉（山崎）	ノート整理とレポート作成		
第10回	人間の成長と教育のかかわり（松本）	ノート整理と小レポート作成		
第11回	教育学からみた現代社会の諸問題（松本）	ノート整理と小レポート作成		
第12回	歴史的視座からみた日本の教育（松本）	ノート整理と小レポート作成		
第13回	仏教の人間観①「いのち」の重さ（宇治）	ノート整理		
第14回	仏教の人間観②「いのち」の平等について（宇治）	ノート整理		
第15回	仏教の人間観③「いのち」の受けとめ手（宇治）	ノート整理とレポート作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学部での学びの基礎になるものです。真摯な態度での受講を求めます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	各教員から、必要に応じ随時指示をします。			
オフィスワー	授業の前後、または、各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	人間科学概論		開講時期	前期
担当教員	崔 淑芬・小野 望・小川 直樹		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本科目は当研究科の基礎教育科目として1年次前期におかれる必修科目である。当研究科における学修のガイダンスとしての役割をもつ同時に、人間存在に関する広汎な学問体系のなかに、学生自身が自己の研究テーマに関連する重要な考え方と知識を見いだすことができることを目的とする。</p> <p>3人の教員によるオムニバス形式の講義で行う。それぞれの教員の専門分野からの講義内容は①女性学の社会的視点―その推移と現状―からみる人間理解と人間支援、②言語学の分野からみた人間理解、人間支援、③福祉学の分野からみた人間理解、人間支援の3部からなる。全体のオリエンテーション、最終の2回の全体討論を除いて残り12回の講義を各教員が4回ずつ担当する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間理解・人間支援に関して心理、人文、社会科学のそれぞれの観点から考察できる</li> <li>2. 自己の研究テーマに関して、関連諸科学の考え方を援用して考察を進めることができる。</li> <li>3. 自己の研究の進め方に関して、当研究科で得られた知識をもとにその概要を考察し、発表できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	全体オリエンテーション：人間科学、理解と支援、研究方法	教員の紹介する参考図書の読書		
第2回	女性学概論	教員の紹介する参考図書の読書		
第3回	過去における女性の生き方	教員の紹介する参考図書の読書		
第4回	女性の社会的地位の変遷	教員の紹介する参考図書の読書		
第5回	女性学に関する現状と課題	教員の紹介する参考図書の読書		
第6回	言語とは何か	教員の紹介する参考図書の読書		
第7回	言語学から見る人間理解	教員の紹介する参考図書の読書		
第8回	言語学から見る社会理解	教員の紹介する参考図書の読書		
第9回	言語学における研究アプローチの具体例	教員の紹介する参考図書の読書		
第10回	「福祉学」、その学問的位置づけ	教員の紹介する参考図書の読書		
第11回	展開―関係性希薄の時代と福祉をめぐる論点	教員の紹介する参考図書の読書		
第12回	地域研究からみた人間理解、人間支援	教員の紹介する参考図書の読書		
第13回	研究アプローチの具体例 一個人・家族／地域・自治体／民間非営利	事前課題に取り組む		
第14回	全体討論(1) 学生発表「研究をどうすすめていくか」	発表資料準備		
第15回	全体討論(2) 学生発表「研究をどうすすめていくか」	発表資料準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	行わない。			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	80% 2回の全体討論のなかでの発表内容を主たる評価対象とする。			
受講態度他	20% 質疑応答の内容			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	大学院における講義を教員とともに作り上げるという意識が求められる。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	それぞれの担当教員が随時紹介する。			
オフィスワー	各教員の他科目のシラバスを参照	メールアドレス		

授業科目	人間関係総合演習（発達臨床心理コース）		開講時期	後期
担当教員	渋谷 登美子・浅田 淳一・酒井 均・浦田 英範・榊 祐子・森田 理香・宇治 和貴		単位	2
授業の目的と概要	<p>心理学やその関連領域に関するテーマ設定し、文献研究を通して学習を深化することができる。調べた成果を発表し、討論することができる。</p> <p>個々の学生が選択したテーマを元に文献研究等で学習した成果をまとめ発表していく。その後、学生相互の討論や教員からの助言を通して、さらに深化させていく。</p>			
到達目標	<p>① 心理学やその関連領域について関心のあるテーマを設定し、先行研究の文献検索が適切に行なえる</p> <p>② 先行研究をまとめ、効果的な発表できる。</p> <p>③ 卒業ゼミナールに向けて、問題を解決、考察するための研究計画を立てることができる</p> <p>④ 他者の発表に対して創造的、論理的意見を述べ、議論を深めることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		各自研究テーマについて調べておく。		
第2回 テーマの設定		テーマに関する先行研究の検索		
第3回 先行研究の整理		先行研究の講読		
第4回 発表・討論①： 先行研究の整理、問題点の明確化		先行研究についてまとめたレジュメを作成		
第5回 発表・討論②： 先行研究の整理、問題点の明確化		先行研究についてまとめたレジュメを作成		
第6回 発表・討論③： 先行研究の整理、問題点の明確化		先行研究についてまとめたレジュメを作成		
第7回 研究計画の作成		研究テーマを具体化するための計画を作成		
第8回 発表・討論④： 研究計画について、途中経過の発表、検討		事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。		
第9回 発表・討論⑤： 研究計画について、途中経過の発表、検討		事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。		
第10回 発表・討論⑥： 研究計画について、途中経過の発表、検討		事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。		
第11回 発表・討論⑦： 研究計画について、途中経過の発表、検討		事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。		
第12回 発表・討論⑧： 研究計画について、途中経過の発表、検討		事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。		
第13回 発表・討論⑨： 研究計画について、途中経過の発表、検討		事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。		
第14回 発表・討論⑩： 研究計画について、途中経過の発表、検討		事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。		
第15回 まとめ		復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。			
小テスト等	なし			
成果発表	30% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。			
受講態度他	30% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回の出席は必須条件、遅刻も厳禁</p> <p>資料の丸写し、インターネットを用いてのコピー&amp;ペーストは厳禁</p> <p>自分の見解を加味した上で資料を作成し発表を行う。</p>			
教科書	各担当教員による			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	浅田：火を除く昼休、酒井：火昼休み、浦田：月2限、浅田：水4限、榊：火5限、森田：火2、宇治：火木昼休	メールアドレス		

授業科目	人間関係総合演習（社会福祉コース）		開講時期	後期
担当教員	池田 和彦・徳永 勇・新家 めぐみ・高木 佳世子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>社会福祉（ソーシャルワーク）に関連する研究テーマを自ら設定し、自覚的・主体的に追究することを通して、論理的かつ実践的な思考力および問題解決能力を身につけることを目的とする。</p> <p>ソーシャルワーカーとしてはいうまでもなく、将来ひとりの職業人となるにあたって、ある状況に対する自分の考え方や態度を確立することは非常に重要だからである。</p> <p>人間関係総合演習（ゼミナール）は、社会福祉（ソーシャルワーク）に関連する研究テーマを自ら設定し、自覚的・主体的に追究することを通して、論理的かつ実践的な思考力および問題解決能力を身につけることを支援する科目で、これまでの学習内容を総合的に体得するという意味を持つ。具体的には、各専任教員が少数のゼミを分担し、学生はいずれかのゼミに所属する。学生各自が自らのテーマを設定し、それにそった資料や文献の収集、報告・討論といったことが主たる内容となる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自ら取り組む研究テーマが設定できる。</li> <li>2. 研究の視点を理解し、研究方法を身につけることができる。</li> <li>3. 研究成果を発表したり、それについて討議する能力が習得できる。</li> <li>4. 次年度の「卒業研究」作成に向けた計画を立てることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本科目は「卒業ゼミナールⅠ・Ⅱ」「卒業論文」の基礎となる科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	研究テーマの設定	資料収集・検討		
第 2回	研究テーマの設定	資料収集・検討		
第 3回	研究テーマの設定	資料収集・検討		
第 4回	資料収集および研究方法、レジュメ作成方法の学習	発表資料（レジュメ）作成		
第 5回	資料収集および研究方法、レジュメ作成方法の学習	発表資料（レジュメ）作成		
第 6回	資料収集および研究方法、レジュメ作成方法の学習	発表資料（レジュメ）作成		
第 7回	研究発表および討論	発表と討論		
第 8回	研究発表および討論	発表と討論		
第 9回	研究発表および討論	発表と討論		
第10回	研究発表および討論	発表と討論		
第11回	研究発表および討論	発表と討論		
第12回	研究発表および討論	発表と討論		
第13回	研究発表および討論	発表と討論		
第14回	研究発表および討論	発表と討論		
第15回	全体のまとめ — 卒業研究・卒業論文作成に向けて	発表と討論		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 演習での研究発表、メンバー間の討論や教員からの指導などをふまえ、レポートを作成			
小テスト等	なし			
成果発表	25% 研究発表の内容・水準			
受講態度他	25% 出席状況 + 討論への参加度など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 履修登録オリエンテーション時に指定されたゼミ（クラス）で履修登録し、所属したゼミを担当する教員の指導を受けることになる。</li> <li>2. 毎回の授業の出席及び積極的な発言と参加態度が重要となる。</li> </ol>			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	各教員による			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照してください。	メールアドレス		

授業科目	人間関係総合演習		開講時期	後期
担当教員	大霧 香		単 位	2
授業の目的と概要	<p>心理学やその関連領域に関するテーマ設定し、文献研究を通して学習を深化することができる。調べた成果を発表し、討論することができる。</p> <p>個々の学生が選択したテーマを元に文献研究等で学習した成果をまとめ発表していく。その後、学生相互の討論や教員からの助言を通して、さらに深化させていく。</p>			
到達目標	<p>① 心理学やその関連領域について関心のあるテーマを設定し、先行研究の文献検索が適切に行なえる</p> <p>② 先行研究をまとめ、効果的な発表できる。</p> <p>③ 卒業ゼミナールに向けて、問題を解決、考察するための研究計画を立てることができる</p> <p>④ 他者の発表に対して創造的、論理的意見を述べ、議論を深めることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 オリエンテーション			各自研究テーマについて調べておく。	
第 2回 テーマの設定			テーマに関する先行研究の検索	
第 3回 先行研究の整理			先行研究の講読	
第 4回 発表・討論①： 先行研究の整理、問題点の明確化			先行研究についてまとめたレジュメを作成	
第 5回 発表・討論②： 先行研究の整理、問題点の明確化			先行研究についてまとめたレジュメを作成	
第 6回 発表・討論③： 先行研究の整理、問題点の明確化			先行研究についてまとめたレジュメを作成	
第 7回 研究計画の作成			研究テーマを具体化するための計画を作成	
第 8回 発表・討論④： 研究計画について、途中経過の発表、検討			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第 9回 発表・討論⑤： 研究計画について、途中経過の発表、検討			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第10回 発表・討論⑥： 研究計画について、途中経過の発表、検討			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第11回 発表・討論⑦： 研究計画について、途中経過の発表、検討			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第12回 発表・討論⑧： 研究計画について、途中経過の発表、検討			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第13回 発表・討論⑨： 研究計画について、途中経過の発表、検討			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第14回 発表・討論⑩： 研究計画について、途中経過の発表、検討			事前に抄録原稿を準備し、専門用語等は調べる。	
第15回 まとめ			復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。			
小テスト等	なし			
成果発表	30% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。			
受講態度他	30% ゼミによって運営のやり方や配点の割合について、多少、異なることもある。担当ゼミの先生の運営方法に注意すること。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回の出席は必須条件、遅刻も厳禁</p> <p>資料の丸写し、インターネットを用いてのコピー&amp;ペーストは厳禁</p> <p>自分の見解を加味した上で資料を作成し発表を行う。</p>			
教科書	各担当教員による			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスワー	月曜日2限	メールアドレス		

授業科目	人間関係文献講読 I		開講時期	前期
担当教員	浅田 淳一		単位	2
授業の目的と概要	<p>心理学の文献を正確に読解し、適切な日本語に翻訳できるようになること。また、それによって、心理学を引き続き研究できる他大学の大学院を受験して合格できる英語の読解力を身につけること。</p> <p>心理学の入門書 INTRODUCTION TO PSYCHOLOGY, (Ann L. Weber)を、各自で読んで適切な日本語に翻訳し、毎時間ごとにその翻訳をチェックしながら、英文法を復習し、心理学の英語文献の翻訳に慣れていくことを目指す。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の基本的な文法を理解し、その知識を英語の翻訳に適応用することが出来る。</li> <li>2. 心理学の基本的な概念を英語で理解することができる。</li> <li>3. 心理学の基本的な用語を英語で覚えていることができる。</li> <li>4. 他大学の大学院の英語の入試問題を、辞書を使って時間をかければ読解し翻訳することができる。</li> <li>5. 何故、そのように翻訳したかを、文法的に説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>DP (4) の(4)社会生活に必要な基礎的技能を獲得している。①コミュニケーション・スキル②情報リテラシー③論理的思考力④問題解決力に関わる。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	本講義の目的と授業方法についての説明とテキストの配布	Text予習		
第2回	Preface	Text予習		
第3回	Chap.1 The Origins and Scope of Psychology①	Text予習		
第4回	Chap.1 The Origins and Scope of Psychology②	Text予習		
第5回	Chap.1 The Origins and Scope of Psychology③	Text予習		
第6回	Chap.1 The Origins and Scope of Psychology④	Text予習		
第7回	Chap.1 The Origins and Scope of Psychology⑤	Text予習		
第8回	Chap.2 Research Methods and Statistics①	Text予習		
第9回	Chap.2 Research Methods and Statistics②	Text予習		
第10回	Chap.2 Research Methods and Statistics③	Text予習		
第11回	Chap.2 Research Methods and Statistics④	Text予習		
第12回	Chap.3 The Physiological Basis of Behavior①	Text予習		
第13回	Chap.3 The Physiological Basis of Behavior②	Text予習		
第14回	Chap.3 The Physiological Basis of Behavior③	Text予習		
第15回	Chap.3 The Physiological Basis of Behavior④	Text予習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0			
レポート	0			
小テスト等	0			
成果発表	80% 到達目標の各項目をその都度チェックする。			
受講態度他	20% 遅刻などせず、講義に集中して受講しているか。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>受講は、本気で大学院受験を考えている学生に限る。特に大学院を目指さない学生の参加も認めるが、しっかり予習して来ない学生は、途中で受講を禁ずる場合もある。</p> <p>評価は、平常点で行うので試験・レポートは課さないが、受講態度と予習状況を重視するので注意!!</p>			
教科書	コピー資料を配布			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み	メールアドレス		

授業科目	人間関係文献講読 I		開講時期	前期
担当教員	安恒 万記		単位	2
授業の目的と概要	<p>広く人間関係に関する文献を取り上げ、その内容に即して、人間関係に関する専門知識、またその学問的な基礎概念や理念の理解を目指します。自分の興味や関心のあるテーマを見出すためには、人間や社会に対する幅広い知識と問題意識が必要です。人間関係に関連する文献を読み進め、広く意見交換する中で、読む力・書く力・プレゼンテーション力をも身につけます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献の内容を正確に読み取ることができる。</li> <li>2. 人間関係に関する様々な知識や理念、社会の現状を深く理解し、自分の考えをまとめることができる。</li> <li>3. 自分の考えを分かり易く、的確に伝えることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス…講義のねらい、文献の紹介	テキストの準備		
第2回	グループ編成と文献担当	テキスト熟読、発表準備		
第3回	ソーシャルワークと子育て支援（孤立への援助、北米における子育て支援のソーシャルワーク、日本におけるソーシャルワーク）【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第4回	ソーシャルワークと子育て支援（イライラはどうして起こるのか、事例から考える支援策、予防と対応の六段階）【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第5回	子育て期を支援する（親になる準備、子どもを産んだら）【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第6回	子育て期を支援する（孤独でないということ）【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第7回	「私であること」と子育て環境（子育てと就業・就学、子どもを預ける仕組み）【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第8回	「私であること」と子育て環境（子育てが楽になること、みんなで子どもを支えるということ）【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第9回	子どもを尊重するということ（トロント、人権とは何か、子どもの人権、幼児教育計画）【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第10回	いなほ保育園	テキスト熟読、発表準備		
第11回	トロントに学ぶ子育て支援実現の方策（情報を入手する、ファンド・レイジング）【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第12回	トロントに学ぶ子育て支援実現の方策（仲間の協力、希望）【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第13回	これからの子育て環境づくり（個人レベルでの取り組み）【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第14回	これからの子育て環境づくり（社会的レベルでの取り組み）【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第15回	まとめ	振り返りと討論の準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	40%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	30%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻・欠席をしないよう心がけてください。積極的な参加、自発的な学習が必要です。各自が責任を持って授業に参加してください。			
教科書	武田信子 『社会で子どもを育てる 子育て支援とトロントの発想』 平凡社新書			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します			
オフィスワー	火曜日 9:10~16:30	メールアドレス		



授業科目	人間関係文献講読Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	浅田 淳一	単位	2
授業の目的と概要	<p>心理学の文献を正確に読解し、適切な日本語に翻訳できるようになること。また、それによって、心理学を引き続き研究できる他大学の大学院を受験して合格できる英語の読解力を身につけること。</p> <p>心理学の入門書 INTRODUCTION TO PSYCHOLOGY, (Ann L. Weber)を、各自で読んで適切な日本語に翻訳し、毎時間ごとにその翻訳をチェックしながら、英文法を復習し、心理学の英語文献の翻訳に慣れていくことを目指す。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の基本的な文法を理解し、その知識を英語の翻訳に適宜応用することが出来る。</li> <li>2. 心理学の基本的な概念を英語で理解することができる。</li> <li>3. 心理学の基本的な用語を英語で覚えていることができる。</li> <li>4. 他大学の大学院の英語の入試問題を、その指示に従って時間内に読解し解答することができる。</li> <li>5. 何故、そのように翻訳したかを、文法的に説明することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>DP(4)の(4)社会生活に必要な基礎的技能を獲得している。①コミュニケーション・スキル②情報リテラシー③論理的思考力④問題解決力に関わる。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	本講義の目的と授業方法についての説明とテキストの配布	Text予習	
第2回	Chap.4 State of Consciousness①	Text予習	
第3回	Chap.4 State of Consciousness②	Text予習	
第4回	Chap.4 State of Consciousness③	Text予習	
第5回	Chap.4 State of Consciousness④	Text予習	
第6回	Chap.5 Sensation and Perception①	Text予習	
第7回	Chap.5 Sensation and Perception②	Text予習	
第8回	Chap.5 Sensation and Perception③	Text予習	
第9回	Chap.5 Sensation and Perception④	Text予習	
第10回	Chap.6 Learning and Behavior①	Text予習	
第11回	Chap.6 Learning and Behavior②	Text予習	
第12回	Chap.6 Learning and Behavior③	Text予習	
第13回	Chap.7 Memory①	Text予習	
第14回	Chap.7 Memory②	Text予習	
第15回	Chap.7 Memory③ 大学院入試問題	Text予習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0		
レポート	0		
小テスト等	0		
成果発表	80%到達目標の各項目をその都度チェックする。		
受講態度他	20%遅刻などせず、講義に集中して受講しているか。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>受講は、本気で大学院受験を考えている学生に限る。特に大学院を目指さない学生の参加も認めるが、しっかり予習して来ない学生は、途中で受講を禁ずる場合もある。</p> <p>評価は、平常点で行うので試験・レポートは課さないが、受講態度と予習状況を重視するので注意!!</p>		
教科書	コピー資料を配布		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み	メールアドレス	

授業科目	人間関係論	開講時期	後期
担当教員	岡村 尚昌	単 位	2
授業の目的と概要	コミュニケーションの知識と技法を学ぶことにより、自己や他者理解を深め、日常の人間関係を良好に保つ能力を身につけると同時に、様々な人間関係に対応できるスキルを身につけることを目的とします。		
到達目標	1. 自己を理解する理論と基礎的技術を身につける。 2. 対人援助における人間関係について説明できるようになる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に文学部、人間科学部の共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション：人間関係論の基本的視点	講義の際、指示します。	
第2回	自分と他者の関係性	講義の際、指示します。	
第3回	自分と他者のコミュニケーション	講義の際、指示します。	
第4回	人間関係の生涯発達	講義の際、指示します。	
第5回	集団の中での行動パターン	講義の際、指示します。	
第6回	家族関係	講義の際、指示します。	
第7回	夫婦関係	講義の際、指示します。	
第8回	親子関係	講義の際、指示します。	
第9回	教師と学生との関係	講義の際、指示します。	
第10回	職場の人間関係	講義の際、指示します。	
第11回	援助専門職者の人間関係①：臨床心理学領域を中心にして	講義の際、指示します。	
第12回	援助専門職者の人間関係②：高齢者との人間関係	講義の際、指示します。	
第13回	援助専門職者の人間関係③：福祉領域を中心として	講義の際、指示します。	
第14回	ソーシャル・サポートとQOL向上	講義の際、指示します。	
第15回	総括	講義の際、指示します。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	80％ 学んだことの復習として行う。		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20％ 講義への参加態度や出席状況も考慮します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義をよく聴き、積極的に討論に参加してください。		
教科書	『人を育む人間関係論—援助専門職者として、個人として』		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	講義の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	人間学	開講時期	後期
担当教員	浅田 淳一	単 位	2
授業の目的と概要	<p>「宇宙における人間の地位」について自分なりの考えが持てるようになること。そして、特に人間を「生きている者」として捉えた場合のその特性について理解し、さらに、男と女という二つの性に分かれて生きていることの意味、そして、その両性がより平等にそしてより幸福に生きていくための倫理を自ら考えていけるようになること。</p> <p>「宇宙における人間の地位とはどのようなものなのか?」。これが、哲学的人間学の最も根本的な問いである。</p> <p>本講義では、まずこの問いに真正面から答えようとした哲学者として、プラトンとアリストテレスとルソーをとりあげ、彼らの人間観を紹介する。その上で、特に生きている存在として、しかも男と女として生きている存在としての人間の振る舞いと、その倫理について考えてみる。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プラトン・アリストテレス・ルソーの人間観を理解し述べることができる。</li> <li>2. 「生きている者」としての人間の特徴を説明することができる。</li> <li>3. 生物としての男と女について、その違いを客観的に説明することができる。</li> <li>4. 人間としての男と女が、平等にしかも幸福に生きていくための倫理学を構想することができる。</li> <li>5. 自分自身が確立した人間観から、「生命倫理の問題」を考えることができる。</li> </ol>		
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>この授業は、主に人間科学部共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。</p> <p>また、DP①「人間が多面的で多様性をもった存在であることを説明することができる。」の達成にもかかわる科目です。</p> <p>関係する科目は、「哲学」「倫理学」「人格心理学」「女性と政治」「人間科学概論」です。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	哲学的人間学の問い：「宇宙における人間の地位」とは？	課題（宇宙の中での人間の地位の特殊性について各自考えてみる）	
第 2回	プラトンの人間観：魂と肉体の峻別・人間＝理性の主体	課題（プラトニックラブについて、自分だったらどうかんがえるか）	
第 3回	アリストテレスの人間観：人間＝成長し・運動し・考える存在	課題（植物・他の動物と人間を比べたときの人間の特徴とは何か）	
第 4回	ルソーの人間観：人間＝感じながら・考え・意志する存在	課題（ルソーの人間観をプラトンやアリストテレスの人間観と比較する）	
第 5回	「生物」としての人間の特徴とはⅠ：裸のサル？	課題（何故、人間は裸（毛が生えていない）のか考えてみる）	
第 6回	「生物」としての人間の特徴とはⅡ：パンツをはいたサル？	課題（何故、人間は衣服を来ているのか？考えてみる）	
第 7回	生物としての男と女Ⅰ：何故有性生殖が必要か？	課題（何故生物は、非常に効率の悪い有性生殖を選んだのか？）	
第 8回	生物としての男と女Ⅱ：何故、男はスケベなのか？	課題（男がスケベな理由について考えてみよう！！）	
第 9回	生物としての男と女Ⅲ：何故、女は男の地位とお金に弱いのか？	課題（あなたは、イケメンならフリーターでもいいですか？）	
第10回	人間としての男と女Ⅰ：自然主義的誤謬を避けよ！！	課題（人間以外に約束をする動物がいるかどうか考えてみよう）	
第11回	人間としての男と女Ⅱ：男の幸福と女の幸福（共通点・相違点）	課題（人間としての男女の幸福について考えてみよう）	
第12回	人間としての男と女Ⅲ：負け犬は本当に負け犬か？	課題（30代未婚・子なしの女性は本当に不幸なのか、考えてみよう）	
第13回	男女平等の実現：区別は差別か？	課題（男女の平等について具体的に考えてみよう）	
第14回	男女が共に幸福な社会：貴女が男だったら自分と結婚するか？	課題（貴方のような男性がいたとすれば、貴方は彼と結婚するか考えてみる）	
第15回	自分の人間観とは？	課題（あなたにとっての「人間」について自分なりに考えてみる）	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	100% ただし、例外あり、ルールに関わる情報を見よ。		
レポート	なし		
小テスト等	各講義の最後に簡単な問題に答えてもらうが、特に成績には反映させない		
成果発表	なし		
受講態度他	目に余る場合には、退出を要求し出席を取り消す場合がある。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業中の私語は厳禁。講義開始後30分以上遅刻した場合には入室は認めるが、出席としては認めない(欠席扱い)。</p> <p>テストの成績が可否のボーダーライン上にある場合には、受講態度を考慮する場合がある。</p>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	<p>『男と女の倫理学』ナカニシヤ出版</p> <p>『幸福の薬を飲みますか?』ナカニシヤ出版</p>		
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み	メールアドレス	

授業科目	人間形成総合演習 I	開講時期	前期
担当教員	人間形成専攻 専任教員	単 位	2
授業の目的と概要	<p>幼児教育及び小学校教育に関する様々なテーマについて、自らの問題意識に即して調査・研究を行い、発表と討論を行うことを通して、教育について深く考察することをめざす。領域や教科等の他に、平和教育、環境教育などの横断的・総合的な分野や、学校経営、学級経営、保護者対応などの今日的課題についても考察の対象とする。</p> <p>学生が自らの問題意識に即し設定したテーマや教員が提示するテーマ等について調査・研究し、その発表を踏まえて全員で討論する。</p>		
到達目標	<p>幼児教育及び小学校教育に関する様々なテーマについて、その現状と課題について説明できる。</p> <p>幼児教育及び小学校教育に関する様々なテーマについて、自分なりの考えをもち論理的に説明できる。</p> <p>自分が追究するテーマを明確にもち、適切な方法で調査・研究し発表できる。</p> <p>他の学生の発表を理解するとともに的確な質問をすることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション（演習の進め方やテーマ設定の仕方の説明、発表順等の決定など）	興味・関心のあるテーマを明確にしておく。	
第 2回	教員が提示したテーマについての討論。	第 1 回に提示されたテーマについて調査・研究しておく。	
第 3回	教員が提示したテーマについての討論。	第 1 回に提示されたテーマについて調査・研究しておく。	
第 4回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第 5回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第 6回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第 7回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第 8回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第 9回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第10回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第11回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第12回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第13回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第14回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
第15回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名）及びまとめ	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	50%		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	50%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと。		
教科書	『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房（購入済：基礎ゼミナールで使用した教科書）		
指定図書	授業の際に指示する。		
参考図書	授業の際に指示する。		
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照してください。	メールアドレス	

授業科目	人間形成総合演習Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	人間形成専攻 専任教員		単 位	2
授業の目的と概要	人間形成総合演習Ⅰを踏まえて、卒業ゼミナール（または卒業論文）へ向けての自身の問題意識の深化と、研究能力の向上をめざす。 学生が自らの問題意識に即し設定したテーマや教員が提示するテーマ等について調査・研究し、その発表を踏まえて全員で討論する。			
到達目標	卒業ゼミナールもしくは卒業論文のテーマを決定することができる。 研究していく上で必要な問題設定、文章構成、資料の扱い方などを習得する。 他の学生との生産的な議論ができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	オリエンテーション（演習の進め方や発表順等の決定など）	追究するテーマを明確にしておく。		
第 2回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第 3回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第 4回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第 5回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第 6回	学生個々のテーマについての発表と討論①（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第 7回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第 8回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第 9回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第10回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第11回	学生個々のテーマについての発表と討論②（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第12回	学生個々のテーマについての発表と討論③（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第13回	学生個々のテーマについての発表と討論③（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第14回	学生個々のテーマについての発表と討論③（2～3名）	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
第15回	学生個々のテーマについての発表と討論③（2～3名）及びまとめ	発表準備（発表者）、当日の発表テーマの事前学習（他者）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由なく欠席しないこと。			
教科書	『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房（購入済：基礎ゼミナールで使用した教科書）			
指定図書	授業の際に指示する。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスワー	担当教員の他科目のシラバスを参照してください。	メールアドレス		

授業科目	人間形成特殊講義Ⅰ		開講時期	後期
担当教員	松本 和寿・徳野 光昭		単位	2
授業の目的と概要	<p>小学校教員として必要な基礎的学力の向上と基礎的指導力について学ぶことを目的とする。</p> <p>基礎的学力については特に数学を取り上げ、領域ごとに問題を解きその解法や背景にある数理について分析する。基礎的指導力については、実践的な指導場面を取り上げながら演習を行う。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教員として必要な基礎的学力（数学）について各領域の問題を解くとともに背景にある数理について理解できる。</li> <li>・小学校教員として必要な基礎的指導力について、自分なりの学級経営の方針を抱き文章等に表現することができる。</li> <li>・与えられた問題場面に即した児童への生活指導を、学級担任の話として模範的に行うことができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に初等コースのDP「教育に関する諸課題にアプローチする思考力・判断力、表現力、コミュニケーション能力を身に付け、客観的研究方法により探究し、えられた結果を研究成果としてまとめることができる」の達成に関わる科目です。また、DP④教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的スキルを身に付け、活用することができる」の達成にも関わります。</p> <p>1年次「数学基礎」、2年次「初等教育研究」、4年次「学級経営論」に関連します。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション・小学校教員としての基礎的学力（数学）「数・式・計算について法則を使って問題を解こう」	資料を使って数学基礎の復習をする。		
第2回	小学校教員としての基礎的学力（数学）「方程式・不等式について公式を活用して問題を解こう」	資料を使って方程式・不等式の公式を復習する。関数、グラフの予習をする。		
第3回	小学校教員としての基礎的学力（数学）「1次関数について関数とグラフを使って問題を解こう」	資料を使って1次関数の発展問題を解く。2次関数のグラフの予習をする。		
第4回	小学校教員としての基礎的学力（数学）「2次関数について関数とグラフを使って問題を解こう」	資料を使って2次関数の発展問題を解く。平面図形の性質の予習をする。		
第5回	小学校教員としての基礎的学力（数学）「平面図形について図形の性質を活用して問題を解こう」	資料を使って平面図形の発展問題を解く。立体図形の性質について予習をする。		
第6回	小学校教員としての基礎的学力（数学）「立体図形について図形の性質を活用して問題を解こう」	資料を使って立体図形の発展問題を解く。確率について予習をする。		
第7回	小学校教員としての基礎的学力（数学）「確率・統計について事象を数理的に捉え、分析し問題を解こう」	資料を使ってデータの整理と分析の復習をする。第7回までのまとめをする。		
第8回	小学校教員としての基礎的学力（数学）「数学のまとめをし発展問題を解こう」（総合演習、テスト）	数学の学習のまとめをするとともに関連する問題に取り組む。		
第9回	小学校教員としての基礎的指導力「子どもの前に立つ」（学級担任として自己紹介をしよう）	担任したい学年の児童の発達の段階についてイメージしておく。		
第10回	小学校教員としての基礎的指導力「どんな学級を作りたいか」（学級目標をつくらう）	第9回で想定した学年にふさわしい学級目標を考えておく。		
第11回	小学校教員としての基礎的指導力「教師の思いを伝える」①（学級だよりを書こう）	第10回に配布するワークシートに自分の考えを書いておく。		
第12回	小学校教員としての基礎的指導力「教師の思いを伝える」②（「私の目指す学級」について語り合おう）	第11回で書いた学級だよりのプレゼン方法を考えておく。		
第13回	小学校教員としての基礎的指導力「生活指導をする」①（朝の会・帰りの会の模擬指導をしよう）	第12回で配布した指導内容について展開を考えておく。		
第14回	小学校教員としての基礎的指導力「生活指導をする」②（朝の会・帰りの会の模擬指導をしよう）	第12回で配布した指導内容について展開を考えておく。		
第15回	小学校教員としての基礎的指導力「生活指導をする」③（朝の会・帰りの会の模擬指導をしよう）	第12回で配布した指導内容について展開を考えておく。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20％ 小学校教員としての基礎的指導力で実施する。			
小テスト等	50％ 小学校教員としての基礎的学力（数学）で実施する。			
成果発表	20％ 小学校教員としての基礎的指導力で実施する。			
受講態度他	10％ 受講上の留意点・ルールに即して評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正当な理由なく欠席しないこと。</li> <li>・参加型の授業になるので主体的な取組を望む。</li> <li>・数学においては毎回小テストを行うので授業外学修をしっかりと行うこと。</li> </ul>			
教科書	なし			
指定図書	指定しない。			
参考図書	授業の際に指示する。			
オフィスワー	月曜日、金曜日の昼休み（他の時間帯でも可能な場合あり）及び授業の前後	メールアドレス		

授業科目	人間形成文献講読 I		開講時期	前期
担当教員	安恒 万記		単位	2
授業の目的と概要	<p>広く教育・人間形成に関する文献を取り上げ、その内容に即して、人間形成に関する専門知識、またその学問的な基礎概念や理念の理解を目指します。自分の興味や関心のあるテーマを見出すためには、人間や社会に対する幅広い知識と問題意識が必要です。人間形成に関連する文献を読み進め、広く意見交換する中で、読む力・書く力・プレゼンテーション力をも身につけます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献の内容を正確に読み取ることができる。</li> <li>2. 人間関係に関する様々な知識や理念、社会の現状を深く理解し、自分の考えをまとめることができる。</li> <li>3. 自分の考えを分かり易く、的確に伝えることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	第1回 ガイダンス…講義のねらい、文献の紹介			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス…講義のねらい、文献の紹介	テキストの準備		
第2回	グループ作成と文献担当	テキスト熟読、発表準備		
第3回	第1章マッチ売りの少女が幸せになるためには①【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第4回	第1章マッチ売りの少女が幸せになるためには②【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第5回	第2章はだかの王様のように騙されない①【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第6回	第2章はだかの王様のように騙されない②【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第7回	第3章みにくいアヒルの子をいじめたのはなぜ?①【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第8回	第3章みにくいアヒルの子をいじめたのはなぜ?②【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第9回	第4章赤い靴は無責任の教え①【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第10回	第4章赤い靴は無責任の教え②【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第11回	第5章ナイチンゲールの歌声は介護の心①【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第12回	第5章ナイチンゲールの歌声は介護の心②【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第13回	第6章人魚姫の選択①【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第14回	第6章人魚姫の選択②【輪読・発表・討議】	テキスト熟読、発表準備		
第15回	まとめ	復習と討論準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	30%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻・欠席をしないよう心がけてください。積極的な参加、自発的な学習が必要です。各自が責任を持って授業に参加してください。			
教科書	千葉忠夫 『世界一幸福な国デンマークの暮らし方』 PHP新書			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します			
オフィスアワー	火曜日 9:10~16:30	メールアドレス		

授業科目	【閉講】人間形成文献講読Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	原田 博子	単位	2
授業の目的と概要	教育に関する基礎的文献および書物を講読する。(書かれている内容や意味を解説し、論じる。) 要約文の作成を通して要約する力と要約文の発表を通してプレゼンテーションの力をつける。 討論を通して、自分の捉え方だけではなく、他者の捉え方を理解し、より深く文献および書物の理解をする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献および書物の内容を正確に理解し、要約することができる。</li> <li>2. 要約したものを他者へわかりやすく伝えることができる。</li> <li>3. 内容について自分の意見を述べることができる。</li> <li>4. 討論を円滑に進めることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション (受講の心構え、授業のねらい、スケジュール、分担決めなど)	テキスト熟読、発表準備	
第2回	「長い教師生活のなかで」 要約文発表	論点整理、自分の意見を明確にする。	
第3回	「長い教師生活のなかで」 討論、まとめ	テキスト熟読、発表準備	
第4回	「教師の資格」 要約文発表	論点整理、自分の意見を明確にする。	
第5回	「教師の資格」 討論、まとめ	テキスト熟読、発表準備	
第6回	「教えない教師」 要約文発表	論点を整理する。	
第7回	「教えない教師」 討論	大村のいう教えないということについての自分の意見を明確にする。	
第8回	「教えない教師」 まとめ	テキスト熟読、発表準備	
第9回	「無責任な教師」 要約文発表	論点整理、自分の意見を明確にする。	
第10回	「無責任な教師」 討論、まとめ	テキスト熟読、発表準備	
第11回	「ほんものの教師」 要約文発表	論点を整理する。	
第12回	「ほんものの教師」 討論	大村のいうほんものの教師についての自分の意見を明確にする。	
第13回	「ほんものの教師」 まとめ	発表準備	
第14回	最終レポート発表	発表準備	
第15回	最終レポート発表 まとめ	最終提出用レポート作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	70%：要約文30% 最終レポート40%		
小テスト等	0%		
成果発表	15%		
受講態度他	15%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・責任を持って参加してください。</li> <li>・積極的に参加してください。</li> <li>・自分で考え、自分の意見を持って臨んでください。</li> </ul>		
教科書	大村はま『新編教えるということ』筑摩書房		
指定図書	なし		
参考図書	大村はま『教師 大村はま96歳のしごと』小学館		
オフィスアワー	月曜日 4限目	メールアドレス	



授業科目	【閉講】人間福祉特論	開講時期	前期
担当教員	池田 和彦	単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、人間が人間らしく生きるうえで必要な社会的条件としての社会保障が果たすべき役割と課題について検討することを目的とする。</p> <p>まず、人間の生命と暮らしをどのようにとらえるか、その視点と方法を設定し、人間が人間らしく生きるとはどういうことか、逆にそれが成立しないのはなぜなのかについて検討する。</p> <p>そのうえで、戦後日本において、人間が人間らしく生きることの意味を問い、「人間裁判」とも称された朝日訴訟を採りあげ、その経緯と歴史的・社会的意義について考察する。</p> <p>講義の後半では、こうした検討、考察を踏まえ、近年の社会保障制度改革の動向と問題点をテキストを通して学び、社会保障のあり方を明らかにすることとしたい。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間が人間らしく生きるとはいかなる意味をもつのかを説明できる。</li> <li>2. 人間が人間らしく生きるために必要な条件について説明できる。</li> <li>3. 朝日訴訟の概要と経緯を理解し、その今日的意義について説明できる。</li> <li>4. 近年の社会保障制度改革の概要と問題点について説明できる。</li> <li>5. 社会保障のあり方について自分なりの考えをまとめることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 人間の生命と暮らしをとらえる方法（生活問題をとらえる基本的な柱と枠組み、ライフの視点）		生活問題をとらえる基本的な柱と枠組み、ライフの視点について検討	
第2回 社会保障制度の体系的理解		社会保障制度をバラバラではなく、体系的に理解することの検討	
第3回 日本国憲法と社会保障 — 生活保護裁判の社会的意義		生存権保障と生活保護制度について検討	
第4回 朝日訴訟（人間裁判）とは何か		朝日訴訟の全体像について検討	
第5回 朝日訴訟（人間裁判）の社会的背景と経緯		朝日訴訟が起こった社会的背景と経緯について検討	
第6回 朝日訴訟（人間裁判）の歴史的・社会的意義		朝日訴訟がもった歴史的・社会的意義について検討	
第7回 戦後社会保障の展開		戦後社会保障の展開について検討	
第8回 消費税増税と安倍政権の社会保障改革		テキスト第1章	
第9回 生活保護制度改革		テキスト第2章	
第10回 子ども・子育て支援新制度		テキスト第3章	
第11回 医療制度改革		テキスト第4章	
第12回 介護保険制度改革		テキスト第4章	
第13回 公的年金制度改革		テキスト第5章	
第14回 社会保障改革のゆくえと課題		テキスト第6章	
第15回 社会保障のあり方について		社会保障のあり方について検討	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	50%（朝日訴訟、社会保障改革について指示した課題の発表）		
受講態度他	50%（課題発表、討論など、講義への主体的参加度）		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	○大学院の授業なので、教員が一方向的に講義を行うのではなく、受講生に発表を課し、講義中にも意見を求めることになる。したがって、受身の姿勢ではなく、主体的な問題意識をもって受講してほしい。		
教科書	伊藤周平『社会保障改革のゆくえを読む』（自治体研究社、2015年）を使用するが、詳細は講義時に指示する。		
指定図書	なし		
参考図書	必要に応じ、講義時に紹介する。		
オフィスワー	水-4	メールアドレス	

授業科目	認知・学習心理学	開講時期	前期
担当教員	榊 祐子	単位	2
授業の目的と概要	人間の心は「知・情・意」と密接に結びついているといわれているが、「認知心理学」は、「知」の側面から人間を理解しようとする学問である。心理学では比較的新しい分野である認知心理学において、記憶や言語といった人間の知識や認識に関連した機能のしくみやその働きについて学ぶことを目指す。「学習心理学」では、生得的な基盤や過去の体験、さらに現在の環境といった様々な要因のもとで、人間の学習行動がどのように獲得されるのかという問題について理解を深める。我々が外界からの情報や刺激を取り入れたり、様々な学習を通して体験したことを、どのように知識や経験として蓄積しているのか、そのプロセスを以下の内容に沿って学んでいく。		
到達目標	①知覚の処理システムについて具体例を用いて述べるができる ②記憶の構造や仕組みを整理し、実証的研究から明らかになったことを説明することができる ③日常生活における学習行動を条件づけのプロセスを使い説明することができる		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に発達臨床心理コースのDP②「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」の達成に関わる科目です。 関連科目には、心理学概論Ⅱ、心理学基礎実験などがあります。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	ガイダンス：授業の概要と受講にあたっての留意点の説明	認知・学習心理学のイントロダクションの復習	
第2回	学習心理学とは：学習とは、研究の方法	学習の定義についての復習	
第3回	古典的条件づけ①：古典的条件づけの定義と分類	古典的条件づけの定義についての復習	
第4回	古典的条件づけ②：古典的条件づけの獲得、消去	古典的条件づけの生起のプロセスについての復習	
第5回	オペラント条件づけ①：オペラント条件づけの定義と分類	オペラント条件づけの生起のプロセスについての復習	
第6回	オペラント条件づけ②：オペラント条件づけの基礎、強化	オペラント条件づけの強化のプロセスについての復習	
第7回	概念、記憶と学習：概念学習、イメージの記憶	概念とイメージについての復習	
第8回	まとめ①	学習心理学の全体像についての復習	
第9回	認知心理学とは：「認知」とは、認知心理学の成立	認知心理学の定義についての復習	
第10回	知覚：見るということ、空間知覚	知覚のプロセスについての復習	
第11回	記憶のしくみ①：記憶のシステム	記憶のシステムについての復習	
第12回	記憶のしくみ②：忘却と検索	忘却と検索のプロセスについての復習	
第13回	概念と言語：カテゴリー、言語の獲得	概念と言語獲得についての復習	
第14回	知識と表象：知識としての記憶、スキーマ理論	知識とスキーマ理論についての復習	
第15回	まとめ②	認知心理学の全体像についての復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	70% 学習、認知に関する小テストを実施		
レポート	20% 授業中にショートレポートを作成します。		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% 授業に関する質問やコメントの内容		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退中は慎むこと。 簡単な実験を実施することがありますので、遅刻をしないよう留意してください。		
教科書	指定なし		
指定図書	指定なし		
参考図書	梅本・大山・岡本 『心理学 心のはたらきを知る』 サイエンス社 北尾・中島・井上・石玉 『グラフィック心理』 サイエンス社		
オフィスアワー	火曜日 5限	メールアドレス	

授業科目	発達と教育(再)		開講時期	後期
担当教員	酒井 均		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、幼児・児童・生徒の各発達段階の特徴、諸側面の発達過程とその特徴を学び、近年の子どもたちに特徴的にみられる発達の様相や問題について考察することにより、子どもの心身の発達についての理解を深めることを目的とする。さらに特別支援教育において対象とされる発達障害の概要とその支援方法や支援体制についても学習することを目的とする</p> <p>近年の子どもたちは発達上の問題を多く抱えている。本講義では、子どもの発達についての理解を深める中で、教育実践への活用を目指した学習をすすめていく。さらに、発達障害に対する正しい知識と支援の方法をあわせて身につけてほしい。学生には、日ごろから教育や子どもに関係する事柄に関心を持ち、情報の収集に努めてほしい。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期から青年期までの発達段階の特徴を述べることができる。</li> <li>・ソーシャルスキル、ことばの発達過程について説明することができる。</li> <li>・発達上の問題について考察し、必要な教育活動・支援について自分の見解を述べることができる。</li> <li>・発達障害について説明でき、その支援方法について述べるができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	オリエンテーション	ショートレポート		
第 2回	発達について	ショートレポート		
第 3回	発達段階の特徴 乳児期～幼児期	ショートレポート		
第 4回	発達段階の特徴 児童期～青年期	ショートレポート		
第 5回	ソーシャルスキルの発達 (1) 乳幼児期～児童期	ショートレポート		
第 6回	ソーシャルスキルの発達 (2) 思春期～成人期	ショートレポート		
第 7回	ことばの発達 (1) 乳児期～幼児期の発達	ショートレポート		
第 8回	ことばの発達 (2) 児童期～青年期の発達	ショートレポート		
第 9回	発達・教育支援の方法 アセスメント	ショートレポート		
第10回	発達・教育支援の方法 ABA	ショートレポート		
第11回	発達・教育支援の方法 BAA ソーシャルスキルトレーニング	ショートレポート		
第12回	発達・教育支援の方法 サバイバルスキルトレーニング	ショートレポート		
第13回	発達・教育支援の方法 感覚統合	ショートレポート		
第14回	発達障がいについて	ショートレポート		
第15回	家族支援について	最終レポート		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	毎回のショートレポート30%、最終レポート70%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度については、幼稚園教諭、保育士にふさわしい態度を求めます(人数が少ないので目立ちます)。遅刻、私語、居眠り、携帯電話の使用は厳禁です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	それぞれの時間で紹介します			
オフィスアワー	火曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	発達と教育【中等教職】		開講時期	後期
担当教員	水内 良子		単位	2
授業の目的と概要	本講義は、幼児・児童・生徒（障がいのある幼児・児童・生徒を含む）の各発達段階の特徴、諸側面の発達過程とその特徴を学び、近年の子供たちに特徴的にみられる発達の様相や問題について考察することにより、子どもの心身の発達についての理解を深めることを目的とする。			
到達目標	乳幼児期から青年期までの発達段階の特徴を述べるができる。言葉・社会性・認知の発達について説明することができる。発達上の問題について考察し、必要な教育活動・支援について自分の見解を述べるができる。発達障害について理解し、その支援方法について述べるができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、教育職員免許法施行規則に定める「教育の基礎理論に関する科目」に該当し、以下の内容について学びます。・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 発達とは	ショートレポート		
第2回	発達段階の特徴 (1) 乳幼児期	ショートレポート		
第3回	発達段階の特徴 (2) 児童期	ショートレポート		
第4回	発達段階の特徴 (3) 青年期	ショートレポート		
第5回	発達課題と人生曲線	ショートレポート		
第6回	言葉の発達	ショートレポート		
第7回	社会性の発達	ショートレポート		
第8回	認知の発達	ショートレポート		
第9回	障がいについて 概論	ショートレポート		
第10回	発達障がいについて (1) ASD	ショートレポート		
第11回	発達障がいについて (2) ADHD	ショートレポート		
第12回	発達障がいについて (3) LD	ショートレポート		
第13回	発達・教育支援の方法 (1) アセスメント	ショートレポート		
第14回	発達・教育支援の方法 (2) 療育、特別支援の方法	ショートレポート		
第15回	家族支援について	最終レポート		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	毎回のショートレポート30%、最終レポート70%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	-			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講態度については、教職生にふさわしい態度を求めます。遅刻、私語、携帯電話の使用は厳禁です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	それぞれの時間で紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	発達臨床演習（家族）		開講時期	後期
担当教員	大霧 香		単 位	2
授業の目的と概要	<p>家族は時代によって形態や関係性、機能などが変化していく。現代の社会においては、核家族化、地域とのつながりの希薄化など家族を取り巻く環境も大きな変化をとげている。さらに家族間の関係性や役割においてもここ何十年間で大きく変化してきている。</p> <p>この授業では、家族とは何か、家族をめぐる諸問題、家族を支援することなど家族をめぐるテーマを取り上げる。各自が興味のあるテーマを設定し、発表すること、さらに発表に対するディスカッションを行うことで、家族に対する理解を深めることを目的とする。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族が持つ特徴や諸問題について調べることが出来る。</li> <li>・家族が持つ機能や家族を支援する必要性について述べる事が出来る。</li> <li>・テーマにそって文献を講読し、まとめ、効果的なプレゼンテーションをすることが出来る。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は人間科学部人間関係専攻発達臨床心理コースDP⑥「自己の問題意識に基づいたテーマを設定し、客観的研究方法により得られた結果を論理的に考察し、研究結果としてまとめることができる。」に該当する科目である。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション	テーマ、文献について		テーマについて考える	
第2回 文献講読	意見交換		ミニレポート	
第3回 文献講読	意見交換		ミニレポート・資料作成	
第4回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第5回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第6回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第7回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第8回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第9回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第10回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第11回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第12回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第13回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第14回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第15回 まとめ	総合評価・講評		ミニレポート	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート40％ 授業ごとのミニレポート30％			
小テスト等	なし			
成果発表	30％			
受講態度他	受講態度が悪い場合は減点する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	演習に主体的に取り組み、発表を行うこと。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	月曜日 2講時・昼休み		メールアドレス	

授業科目	【閉講】発達臨床演習（障がい児・者）	開講時期	後期
担当教員	渋田 登美子	単 位	2
授業の目的と概要	本授業は、障がい児・者の障がい特性・心理的特性と、障がい児・者を取り巻く社会的状況について理解を深めることを目的とする。具体的には、各自が設定したテーマについて文献収集し、資料を作成して、発表をする。さらにディスカッションを通して互いに理解を深めていく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 選んだテーマについて情報収集し、適切な発表資料を作成することができる。</li> <li>2. 効果的なプレゼンテーションを通して問題提起をすることができる。</li> <li>3. 発表者のプレゼンテーションについて自分の意見をまとめ、的確に伝えることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、人間関係専攻DP6「自己の問題意識に基づいたテーマを設定し、客観的研究方法により得られた結果を論理的に考察し、研究成果としてまとめることができる。」を充足する科目です。これまでに受講した「知的障がい者の心理・生理・病理」、「肢体不自由者の心理・生理・病理」や「知的障がい者の教育」などで興味を持ったテーマや問題を取り上げ、理解を深めます。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回オリエンテーション	：授業の進め方の説明、発表テーマの検討	発表テーマを考える	
第2回テーマの設定、意見交換		テーマについての情報収集、発表の目的を設定する	
第3回グループに分かれてのテーマを深める		発表資料の作成、準備	
第4回発表とディスカッション		発表資料の作成、準備	
第5回発表とディスカッション		発表資料の作成、準備	
第6回発表とディスカッション		発表資料の作成、準備	
第7回発表とディスカッション		発表資料の作成、準備	
第8回発表とディスカッション		発表資料の作成、準備	
第9回発表とディスカッション		発表資料の作成、準備	
第10回発表とディスカッション		発表資料の作成、準備	
第11回発表とディスカッション		発表資料の作成、準備	
第12回発表とディスカッション		発表資料の作成、準備、期末レポートの準備	
第13回発表とディスカッション		発表資料の作成、準備、期末レポートの準備	
第14回発表とディスカッション		発表資料の作成、準備、期末レポートの準備	
第15回まとめ		期末レポートの作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	期末レポート30%、授業中のミニレポート20%		
小テスト等	0%		
成果発表	30%		
受講態度他	20% 積極的な質問やディスカッションへの参加態度を評価		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	発表は問題意識を明確にして行い、積極的なディスカッションを求めます。発表者の欠席、授業中の携帯電話の操作は厳禁です。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	各自のテーマに対して授業中に提示		
オフィスアワー	水曜日の昼休みと4講目	メールアドレス	

授業科目	発達臨床演習（女性）		開講時期	後期
担当教員	森田 理香		単 位	2
授業の目的と概要	現在、女性の生き方は多様化し、多くの選択肢が与えられています。本授業では女性の人生について心理学的な立場から理解することを目的とします。授業では文献を通して、女性のライフサイクルにおける課題や葛藤について考察します。具体的には、各自が関心のあるテーマを絞り、文献を収集し、発表資料を作成し、さらに、発表を行います。また、他者の発表に対して自分の意見を表明することが出来ることになることも求めます。人前でいかに自分の意見や主張を発言できるか重視します。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 女性のライフサイクルにおける心理的な課題や葛藤について自分なりのテーマを見つける。</li> <li>2. 女性のライフサイクルにおける課題について文献を収集し、資料を作成する。</li> <li>3. 効果的なプレゼンテーションの方法で自分の意見や主張を述べることが出来る。</li> <li>4. 他者の発表に対して、自分の意見を表明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	本授業は人間関係専攻発達臨床心理コースのDP6「自己の問題意識に基づいたテーマを設定し、客観的研究方法により得られた結果を論理的に考察し、研究成果としてまとめることができる」に関連する科目です。テーマの設定、文献検索、資料作成、発表に関しては「基礎ゼミナールⅠ」で基礎的なスキルを身につけます。本講義ではそのスキルを応用します。また、「女性心理学」で女性の生涯発達についてさらに深く学ぶことができます。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	オリエンテーション 講義のねらい、課題、進め方の確認	各自テーマの設定を行う		
第 2回	課題設定、発表予定者の決定、意見交換	テーマを設定し、文献を検索する		
第 3回	グループによる研究	テーマを設定し、文献を検索する		
第 4回	グループ討論	グループ討論のテーマについて振り返る		
第 5回	グループ討論	グループ討論のテーマについて振り返る		
第 6回	発表、討論	発表資料の作成、発表、振り返り		
第 7回	発表、討論	発表資料の作成、発表、振り返り		
第 8回	発表、討論	発表資料の作成、発表、振り返り		
第 9回	発表、討論	発表資料の作成、発表、振り返り		
第10回	発表、討論	発表資料の作成、発表、振り返り		
第11回	発表、討論	発表資料の作成、発表、振り返り		
第12回	発表、討論	発表資料の作成、発表、振り返り		
第13回	発表、討論	発表資料の作成、発表、振り返り		
第14回	発表、討論	発表資料の作成、発表、振り返り		
第15回	全体のまとめ	期末のレポート作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％（学期末のレポート40％、ミニレポート10％+授業内での課題10％）			
小テスト等	なし			
成果発表	20％ 口頭発表（レジユメの作り方、プレゼンテーション）、質疑応答（コメントや質問に対する答え）			
受講態度他	20％ 人の発表に対するコメント、質問に対してポイントを加算します。 私語、居眠りはポイントを減点します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	各自が責任を持って発表を行うこと。遅刻厳禁。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	火曜日 2限	メールアドレス		

授業科目	発達臨床演習（児童・青年）		開講時期	前期
担当教員	大霧 香		単 位	2
授業の目的と概要	<p>児童期から青年期においては、人間関係が広がり、心身が急激な変化をとげていく。子どもから大人へと大きな成長を遂げていく時期でもあるが、一方で心理的に不安定な状態陥りやすい時期でもある。学習上の問題、学校におけるいじめや不登校の問題、親との関係性の問題、進路選択の問題など臨床的な課題は多岐にわたる。</p> <p>本授業では児童期・青年期特有の心理的課題や諸問題について知ること、およびそれに対する支援について理解していくことを目的とする。この授業では自分が関心を持つ児童期・青年期におけるテーマについて説明することが出来るようになること、さらに様々なテーマに関し自分なりの意見や考えを述べる事が出来るようになることを目的とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 児童期・青年期の心理的特徴や諸問題について調べることが出来る。</li> <li>2. 児童期・青年期の心理的な課題およびその支援について説明することが出来る。</li> <li>3. 児童や青年が直面する課題やその支援について自分の考えを述べる事が出来る。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は人間科学部人間関係専攻発達臨床心理コースDP⑥「自己の問題意識に基づいたテーマを設定し、客観的研究方法により得られた結果を論理的に考察し、研究結果としてまとめることができる。」に該当する科目である。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 オリエンテーション	テーマ、文献について		テーマについて考える	
第2回 文献講読	意見交換		ミニレポート	
第3回 文献講読	意見交換		ミニレポート	
第4回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第5回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第6回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第7回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第8回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第9回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第10回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第11回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第12回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第13回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第14回 発表・討論	口頭発表・討論		資料作成 ミニレポート	
第15回 まとめ	総合評価・講評		ミニレポート	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート40％ 授業ごとのミニレポート30％			
小テスト等	なし			
成果発表	30％			
受講態度他	受講態度が悪い場合は減点する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	演習に主体的に取り組み、発表を行うこと。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日 昼休み・3講時目		メールアドレス	



授業科目	発達臨床演習（成人・老年）		開講時期	前期
担当教員	板井 修一		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この半世紀の間に日本では急速に長寿化が進み、高齢者は長い成人期と長い老年期を過ごすことになった。超高齢社会のフロンティアランナーである日本の高齢者がサクセスフル・エイジングを実現するためには、先ず長期化した成人期と老年期について理解し、長い人生を自ら設計することが必要と言える。</p> <p>この授業は、私たちが人生の主人公として主体性を持って自分らしく最後まで生活していくためには、どのような内的資源と外的資源が必要か考察することを目的とする。具体的には、成人期と老年期についていくつかのテーマのもとで各自がテーマを選択し、文献収集・発表し、ディスカッションによって理解を深めていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期と老年期の心理的課題とその支援について、説明することができる。</li> <li>2. サクセスフル・エイジングを可能にするために必要な内的・外的資源について、自らの考えを述べることができる。</li> <li>3. 選んだテーマの発表を通して問題提起をすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、発達臨床心理コースのDP⑥「自己の問題意識に基づいたテーマを設定し、客観的研究方法により得られた結果を論理的に考察し、研究成果としてまとめることができる」を充足させるための科目です。この授業の基礎には1年次科目「生涯発達心理学Ⅱ」が位置づけられます。また、この授業での学びは、4年次の「卒業ゼミナールⅠ・Ⅱ」や「卒業論文」に発展していくことが期待されます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション： 授業の目的と進め方、サクセスフル・エイジングについて	テーマについて考え、文献資料を探す		
第2回	発表テーマの設定と発表スケジュールの確認	文献検索し、読んでいく		
第3回	成人期のストレス	文献を読み、発表資料を作成する		
第4回	成人期① 発表と討論	文献を読み、発表資料を作成する		
第5回	成人期② 発表と討論	文献を読み、発表資料を作成する		
第6回	成人期③ 発表と討論	文献を読み、発表資料を作成する		
第7回	成人期④ 発表と討論	文献を読み、発表資料を作成する		
第8回	成人期⑤ 発表と討論	文献を読み、発表資料を作成する		
第9回	成人期⑥ 発表と討論	文献を読み、発表資料を作成する		
第10回	老年期① 発表と討論	文献を読み、発表資料を作成する		
第11回	老年期② 発表と討論	文献を読み、発表資料を作成する		
第12回	老年期③ 発表と討論	文献を読み、発表資料を作成する		
第13回	老年期④ 発表と討論	文献を読み、発表資料を作成する。期末レポートの作成		
第14回	老年期⑤ 発表と討論	文献を読み、発表資料を作成する。期末レポートの作成		
第15回	まとめ	期末レポートの作成		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	40%			
小テスト等	0%			
成果発表	40% 発表内容・発表態度・発表資料			
受講態度他	20% 出席状況とディスカッションへの参加態度を勘案する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>成人期・老年期を考える場合、喪失によるネガティブな側面と臨床的な問題に比重がおかれがちであるが、その発達段階のポジティブな側面についても理解を深めたい。</p> <p>発表は問題意識を明確に行い、積極的なディスカッションを求める。</p> <p>発表者の欠席は厳禁。</p>			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	<p>松岡・川崎・丸山（編）『現代人の心の支援シリーズ第4巻 成人・老年期』 慶応義塾大学出版会</p> <p>黒川・斎藤・松田（編）『老年臨床心理学』有斐閣</p>			
オフィスアワー	水曜日の3時間目	メールアドレス		

授業科目	発達臨床演習（乳・幼児）		開講時期	前期
担当教員	榊 祐子		単位	2
授業の目的と概要	現代の日本社会において、乳幼児期の子どもたちを取り巻く環境には大きな変化がみられる。家族だけでなく、社会全体で子どもたちの成長に関わる現状を理解し、具体的にどのような支援が行なわれているのか検討する。最終的に、地域における支援策について、実践計画を立てることを目的とする。乳幼児期の発達やその特徴について再確認し、現代社会が乳幼児期の子どもたちをどのように支えているのか具体的な実践活動を検証する。それらの活動を通して、乳幼児に対するよりよい支援のあり方を具体的に説明できる力を身につける。			
到達目標	①乳幼児期の子どもたちに対する育児や支援の現状や変遷について調べることが出来る ②地域社会（福岡やその近辺）で実際にどのような子育て支援が行なわれているのか調べ、問題点や課題を具体的に説明することが出来る			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は主に発達臨床心理コースの学科DP⑥「自己の問題意識に基づいたテーマを設定し、客観的研究方法により得られた結果を論理的に考察し、研究成果としてまとめることができる」の達成に関わる科目です。関連科目には、発達臨床演習（児童・青年）、発達臨床演習（女性）、発達臨床演習（障がい児・者）などがあります。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：授業の構成、進め方について	授業のイントロダクションについて復習		
第2回	文献検索、論文収集：文献検索や論文収集の方法についての確認	文献検索		
第3回	研究計画作成：テーマの選択とグループ分け、発表までの計画作成	発表にについての研究計画作成		
第4回	テキスト講読・発表①	予習（発表予定のトピックの講読）		
第5回	テキスト講読・発表②	予習（発表予定のトピックの講読）		
第6回	テキスト講読・発表③	予習（発表予定のトピックの講読）		
第7回	テキスト講読・発表④	予習（発表予定のトピックの講読）		
第8回	テキスト講読・発表⑤	復習（発表予定のトピックの講読）		
第9回	子育て支援プロジェクト作成①	プロジェクトに関するテーマ、問題点、課題の整理		
第10回	子育て支援プロジェクト作成②	プロジェクトに関する実践例や現状の整理		
第11回	子育て支援プロジェクト作成③	発表資料の作成		
第12回	発表・討論① 自分たちが出来る子育て支援プロジェクト	子育て支援プロジェクトに関する振り返り		
第13回	発表・討論② 自分たちが出来る子育て支援プロジェクト	子育て支援プロジェクトに関する振り返り		
第14回	発表・討論③ 自分たちが出来る子育て支援プロジェクト	子育て支援プロジェクトに関する振り返り		
第15回	まとめ：各研究テーマの達成度や課題について検討	達成度や今後の課題についての振り返り		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 発表した内容についてレポートにまとめる			
小テスト等	-			
成果発表	40% 乳幼児期に関するテーマについての発表			
受講態度他	10% 発表に対する質疑応答への態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業中の私語、携帯電話の使用、不要な途中退出は慎むこと。			
教科書	無藤隆・佐藤恵理子 訳 『子どもの養育に心理学がいえること』 新曜社			
指定図書	指定なし			
参考図書	指定なし			
オフィスアワー	火曜日5限	メールアドレス		

授業科目	発達臨床心理学 I		開講時期	後期
担当教員	森田 理香		単 位	2
授業の目的と概要	発達とは人の誕生から死に至る過程において生じる一連の出来事によって構成される。現代社会の急激な変化によって、人のこころの発達は大きな影響を受けている。本講義では、胎児期、乳児期、児童期の人生の前半における心理的な特徴と課題について臨床心理学的な立場から理解する。さらに、心理的な課題を持った子ども達や周辺の人々に対する様々な援助法について理解することを目的とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 発達臨床的な視点から子どもと周囲の人々の心理学的課題について説明できる。</li> <li>2 発達臨床的な問題に対する心理学的アセスメントと心理臨床的介入について説明できる。</li> <li>3 子どもの発達過程における心理的課題について自分の意見を述べる事が出来る。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は人間関係専攻発達臨床心理コースのDP3「援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる。」にかかわる科目です。心理臨床的な課題について知る前に、子どもの正常な発達についての理解を深める必要があります。そのために、「生涯発達心理学 I」を受講しておくことが望ましいです。さらに、人生後半の臨床心理学的課題については「発達臨床心理学 II」で学ぶことができます。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	発達臨床心理学とは：授業のねらい		なし	
第 2回	胎児期①：先天異常		先天異常について復習	
第 3回	胎児期②：出生前診断とは		出生前診断について復習	
第 4回	胎児期③：出生前診断、遺伝子診断の実際		出生前診断について復習	
第 5回	胎児期④：出生前診断、遺伝子診断の課題		出生前診断についてレポート作成	
第 6回	乳児期①：周産期の臨床		周産期の臨床について復習	
第 7回	乳児期②：小さく生まれた赤ちゃんと家族の支援		周産期の臨床についてのレポート作成	
第 8回	幼児期①：不適切な養育		不適切な養育についてのレポート作成	
第 9回	幼児期②：虐待による影響、愛着障害		不適切な養育、虐待について復習	
第10回	幼児期③：乳幼児を持つ親の理解、家族支援		乳幼児を持つ親、家族に関する支援について復習	
第11回	幼児期④：不適切な養育を受けた子どもへの支援		不適切な養育を受けた子どもや家族への支援に関するレポート作成	
第12回	児童期①：子ども達の仲間関係の希薄化と病理		子ども達の仲間関係に関するレポート作成	
第13回	児童期②：子どもの不適応、精神病理		子どもの不適応について復習	
第14回	児童期・思春期の子ども達への対応：非言語的アプローチ		児童期・思春期の子ども達へのアプローチに関するレポート作成	
第15回	総括：全体のまとめ		最終レポート作成	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100％（学期末のレポート25％、 授業期間内のレポート75％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度が不良の場合レポートの得点から減点します			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	特に教科書は使用しないので、各期に関連する情報を新聞、書籍などを通じて得る努力をすること。キーワードしか提示しないこともあるので、各自で必要な情報はノートをとっておくこと。			
教科書	プリント配布			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に紹介します			
オフィスアワー	火曜日 2限		メールアドレス	

授業科目	発達臨床心理学Ⅱ		開講時期	前期
担当教員	大霧 香		単 位	2
授業の目的と概要	人は受精してから死まで様々な変化をとげていく。その過程で様々な困難にも出会い、発達のな問題・心理的な問題が生じることもある。本講義では思春期、青年期、成人期、老年期におけるその発達のな特徴を心理学的な視点から理解することを目的とする。さらに各時期に起こりうる臨床的な問題や心理臨床的支援について知ることを目的とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各時期における発達上の課題について述べる事が出来る。</li> <li>各時期に起こりやすい発達のな問題・心理的問題について説明する事が出来る。</li> <li>各時期に応じた心理臨床的支援について述べる事が出来る。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は人間科学部人間関係専攻発達臨床心理コースDP③「援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観について説明することができる」に該当する科目である。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション		授業の復習	
第2回	適応、不適応について		資料の通読・授業の復習	
第3回	パーソナリティ形成とこころの問題		資料の通読・授業の復習	
第4回	心理臨床学的支援の基礎		資料の通読・授業の復習	
第5回	思春期①：思春期の発達課題		資料の通読・授業の復習	
第6回	思春期②：思春期の心理的問題（学校への適応）		ミニレポート①	
第7回	思春期③：思春期の心理的問題（こころの病を中心に）		ミニレポート①	
第8回	思春期④：思春期の心理的問題（障がいを中心に）		ミニレポート①	
第9回	青年期①：青年期の発達課題		資料の通読・授業の復習	
第10回	青年期②：青年期の心理的問題		ミニレポート②	
第11回	成人期①：成人期の発達課題		資料の通読・授業の復習	
第12回	成人期②：成人期に起こりうる心理的問題		ミニレポート③	
第13回	老人期①：老年期の発達課題		資料の通読・授業の復習	
第14回	老人期②：老年期における心理的問題		ミニレポート③	
第15回	総括・まとめ		定期試験への準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	期末試験 70％			
レポート	ミニレポート 25％			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	5％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	資料を配布するので、各自ファイルを用意すること			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	講義中に紹介する。			
オフィスアワー	火曜日 昼休み・3講目		メールアドレス	

授業科目	博物館概論【博物館学芸員】		開講時期	前期
担当教員	時里 奉明		単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業では、「博物館とは何か」について学ぶ。まず、私にとって博物館って何だろうと自問自答してほしい。それをふまえたうえで、博物館の制度、歴史、種類について基本的な問題を学習する。また博物館は地域社会にとってどのような存在なのかを具体的に検討する。この講義を通して、私における博物館、社会における博物館を考える。</p> <p>授業を通して、私にとって博物館とは何か、社会にとって博物館とは何か、についてとりあえずの答えを持つようにしたい。そして実際に博物館を訪れること。人文系博物館と関連する、歴史、民俗、考古、美術の科目に広く興味をもつことを希望する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 博物館とは何かという問いに答えることができる。</li> <li>2 博物館が制度的な存在であることを理解できる。</li> <li>3 博物館の歴史を説明できる。</li> <li>4 博物館が多種多様であることを理解できる。</li> <li>5 レポートを作成することによって、論理的な思考をまとめることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス：スケジュールと履修方針の確認 私にとって博物館とは？	課題（評価の確認と心構え）		
第2回	博物館の制度（1）：博物館法	課題（博物館法）		
第3回	博物館の制度（2）：関連法規（文化財保護法）	課題（レポート① 太宰府市の文化財）		
第4回	博物館の制度（3）：博物館法の分類、学芸員制度	課題（博物館の分類、学芸員制度）		
第5回	博物館の制度（4）：博物館の国際機構 博物館の現状と課題	課題（現状と課題を理解する）		
第6回	中間まとめ（ディスカッション）	課題（博物館制度の確認）		
第7回	博物館の歴史（1）：ヨーロッパ	課題（レポート② 『ミュージアムの思想』について感想文）		
第8回	博物館の歴史（2）：ルーブル美術館（ビデオ鑑賞） アメリカ	課題（ビデオ鑑賞）		
第9回	博物館の歴史（3）：日本	課題（日本の博物館を知る）		
第10回	博物館の種類（1）：①総合 ②人文系	課題（博物館の種類を知る）		
第11回	博物館の種類（2）：③自然系	課題（レポート③ エコミュージアムについて）		
第12回	現代社会と博物館（1）：地域社会と博物館	課題（地域社会における博物館を考える）		
第13回	現代社会と博物館（2）：生涯学習と博物館	課題（生涯学習における博物館を考える）		
第14回	現代社会と博物館（3）：エコミュージアムについて 特別講師を予定	課題（エコミュージアムとは何か）		
第15回	まとめ	課題（期末レポートの作成）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	85% 学期中レポート3回と期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	15% 毎回授業の感想を提出、簡単なテストを含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回授業の感想を提出し、出欠を確認する。感想はコメントをつけて、次回の授業で返却する。欠席3回で警告と減点とする。遅刻2回で欠席1回とみなす。授業中はディスカッション、質疑応答など行うので、積極的な姿勢をお願いしたい。			
教科書	毎回プリントを配布する。			
指定図書	全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』芙蓉書房出版（2012年）			
参考図書	講義中に紹介する。			
オフィスワーカー	金の昼休み。研究室にいる時はいつでも。	メールアドレス		

授業科目	博物館教育論【博物館学芸員】		開講時期	後期
担当教員	梶原 宏之		単位	2
授業の目的と概要	<p>現代博物館は、資料を収集保存するだけでなく、それを分かりやすく市民社会へ伝える仕事も重要になっています。学芸員（教育）といった旧来みられない仕事も公募採用が出ており、そのための必要な知識と技術を学ぶのがこの授業の目的です。博物館の現場、特に来館者と直接接する職員は、ひとつの専門分野にこだわらず複数の知恵を広く横に繋げ、分かりやすくかつ楽しく来館者へ伝える能力が求められます。そこでこの授業では博物館学芸員が必要とされる全ての分野をまず学びます。次いで私たちが抱える現代社会の問題から、博物館へどうアプローチできるか逆に考えていきます。</p> <p>実際に学芸員やエデュケータになれば文系も理系も必要なのでどちらも話しますが、特別な専門知識は必要ありません。むしろそうした学問の壁を越え、多様な博物館情報をどうダイナミックに市民社会へ普及教育できるか、学問と社会の関わりに関心の高い学生を望みます。</p>			
到達目標	<p>a) 博物館教育の専門分野にはどのような切り口があるか、全体像を把握することができる。</p> <p>b) 博物館情報をどう教育情報として市民社会へ出せば効果的か、デザインすることができる。</p> <p>c) 博物館教育には、どのような問題点が生じうるか、予測することができる。</p> <p>d) 自ら総体的な企画展を立案することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	博物館教育の意義と理念（博物館諸機能の教育的意義）	課題レポート提出（A4用紙1枚）		
第2回	博物館教育の実際（1 考古学の現場から、生涯学習の場としての博物館を考える）	課題レポート提出（A4用紙1枚）		
第3回	博物館教育の実際（2 歴史学の現場から、博物館教育の対象人物を考える）	課題レポート提出（A4用紙1枚）		
第4回	博物館教育の実際（3 民俗学の現場から、博物館教育の評価を考える）	課題レポート提出（A4用紙1枚）		
第5回	博物館教育の実際（4 地学の現場から、地域社会と博物館教育を考える）	課題レポート提出（A4用紙1枚）		
第6回	博物館教育の実際（5 植物学の現場から、博物館リテラシーを考える）	課題レポート提出（A4用紙1枚）		
第7回	博物館教育の実際（6 動物学の現場から、人材養成の場としての博物館を考える）	課題レポート提出（A4用紙1枚）		
第8回	博物館教育の実際（7 芸術学の現場から、博物館教育の発想を変えてみる）	課題レポート提出（A4用紙1枚）		
第9回	博物館の利用と学び（1 学校教育と博物館教育の協働を考える）	課題レポート提出（A4用紙1枚）		
第10回	博物館の利用と学び（2 野外における博物館活動を考える）	課題レポート提出（A4用紙1枚）		
第11回	博物館の利用と学び（3 多文化社会と博物館教育を考える）	課題レポート提出（A4用紙1枚）		
第12回	博物館の利用と学び（4 福祉社会と博物館の連携を考える）	課題レポート提出（A4用紙1枚）		
第13回	博物館の利用と学び（5 ツーリズムと博物館連携を考える）	課題レポート提出（A4用紙1枚）		
第14回	博物館教育実習（実際の博物館訪問と参加体験）	体験の振り返り		
第15回	博物館教育論まとめ（自ら考える企画展の構想と発表）	発表案の作成（口頭発表）		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	筆記試験により評価します。（100%）			
レポート	毎回課題レポートを科します。原則として評価は定期試験で行ないませんが、課題レポートの未提出回数が4回以上となると履修放棄とみなし、答案は採点されません。			
小テスト等	なし			
成果発表	課題の企画展アイデアについては、適宜指導します。			
受講態度他	レポートの提出と内容を評価の参考にします。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業前は、新聞やニュースで博物館に関する情報を幅広くチェックしておくこと。授業後は、出された課題についてレポートにまとめ次回提出すること（この課題がそのまま試験問題となります）。</p> <p>期間中に一度実際の博物館に皆で出掛け、教育担当者との交流や活動の参加体験を予定しています。近隣の博物館を検討しますが、具体的な日程等は先方とも相談のうえ講義や筑女ネットでお伝えします。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	<p>染川香澄『こどものための博物館—世界の事例を見る』岩波ブックレット（1994年）</p> <p>小笠原喜康・チルドレンズミュージアム研究会『博物館の学びをつくりだす—その実践へのアドバイス』ぎょうせい（2006年）</p>			
オフィスアワー	水曜日の午前中	メールアドレス		

授業科目	博物館経営論【博物館学芸員】		開講時期	後期
担当教員	大津 忠彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を養い、学芸員としての社会的問題意識と実践意欲の大小が博物館経営にとって重要であることを理解することが目的です。そのために、まずは博物館の実情と問題を、いくつかの具体例について検討・考察します。そして、学芸員は「人類共通の文化財」を社会に生かし、次代に伝える責任を自覚し、新鮮な感性を磨きつづけることが切に望まれること、そしてこのことが博物館経営における学芸員の基であることを認識します。</p> <p>概要：博物館の経営にかかわる諸問題の実情事例を、講義での解説・考察の材料に提示して授業を進行します。「芸術文化に関わる経営学」の財政、人事的困難さ、「高度情報化社会」において博物館が求められる対応の多様性・柔軟性がどのように工夫されているか、その具体例・問題点を理論面と実践面より再検証します。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館経営と一般企業経営との類似点・差異（博物館経営の特性）を具体的に挙げて説明することができる。</li> <li>・博物館経営における関連分野の多様性について、具体的に挙げて説明することができる。</li> <li>・博物館活性化のための具体的方策（アイデア）を提案することができるようになる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 再考：博物館の社会的使命		「博物館法」第2条の暗唱		
第2回 博物館の経営内容と関連周辺状況		「博物館法」第2条の暗唱		
第3回 博物館経営の担い手と受益者		課題①：近隣の博物館事情レポート		
第4回 博物館経営原理：理念と現実		第5回までに課題①を提出		
第5回 「ミュージアム・マネジメント」－その（1）：知的充実感		第5回までに課題①を提出		
第6回 「ミュージアム・マネジメント」－その（2）：非日常的充足感		課題②：博物館経営問題に関わる報道事例の探査		
第7回 博物館経営と博物館施設		第8回までに課題②を提出		
第8回 博物館経営と「組織」		第8回までに課題②を提出		
第9回 博物館の人材と財政課題		課題③：「博物館建替え」要不要問題事例を考える		
第10回 博物館経営－我が国における歴史の変遷		第11回までに課題③を提出		
第11回 外国の博物館経営事情		第11回までに課題③を提出		
第12回 博物館経営と地域社会		課題④：博物館活性化への提言		
第13回 博物館経営と高度情報化社会		第15回までに課題④を提出		
第14回 博物館経営における新戦略とその可能性		第15回までに課題④を提出		
第15回 「博物館経営論」総括		第15回までに課題④を提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	50% ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	50% ②受講態度（含、時々的小テスト成果や「授業外学習」課題提出成果）を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・上記「成績評価」、「割合（％）、種類・評価基準など」欄の、①と②の判定組合せが「秀&amp;秀」、「秀&amp;優」を秀、「秀&amp;良」、「優&amp;優」を優、「秀&amp;可」、「優&amp;良」、「優&amp;可」、「良&amp;良」を良、「良&amp;可」、「可&amp;可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。講義の進行に集中し、自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせて適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日の5時間目	メールアドレス		

授業科目	博物館資料保存論【博物館学芸員】		開講時期	前期
担当教員	加藤 和歳		単 位	2
授業の目的と概要	<p>博物館には長い年月を越えて遺されてきた数多くの美術工芸品、古文書や考古資料などが保存、展示公開されており、わたしたちの歴史や文化を護り、伝えていく場所として役割を果たしています。この授業では、歴史系博物館における資料保存および展示環境を科学的に捉え、博物館資料が良好な状態で保存されていくための考え方や具体的な取り組みを理解することを目的とします。</p> <p>博物館は資料を保存するだけではなく、多くの人たちに見ていただくことが重要です。資料という「もの」と観覧者や学芸員という「ひと」との関係を考え、博物館が「もの」にも「ひと」にも優しい施設とはどのようなものか、文化財保存環境の立場から考えます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博物館資料が保存上、置かれている現状を知り、劣化させる要因やメカニズムを科学的な視点で理解できるようになる。</li> <li>2. 多様な種類、材質をもつ博物館資料の科学的調査、保存修復手法を理解し、適切な資料保存対策に関する考え方や基礎的な知識を身につけることができ、博物館での実務がわかるようになる。</li> <li>3. 資料という「もの」と観覧者や学芸員という「ひと」との関係を考え、博物館が「もの」にも「ひと」にも優しい施設とはなにか、文化財保存環境の立場から具体的に述べるができるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	イントロダクション	課題：身近にどのような文化財があるか調べる		
第2回	資料の保存環境1（温度・湿度・光）	課題：博物館の環境と身近な環境を比較し、違いを考える1		
第3回	資料の保存環境2（博物館内部の空気汚染）	課題：博物館の環境と身近な環境を比較し、違いを考える2		
第4回	資料の保存環境3（博物館周辺の大気汚染）	課題：博物館の環境と身近な環境を比較し、違いを考える3		
第5回	資料の保存環境4（生物被害とその対策 IPM 総合的有害生物管理）	課題：博物館の環境と身近な環境を比較し、違いを考える4		
第6回	資料の保存環境5（梱包・輸送・盗難・人的破壊・自然災害）	課題：博物館の環境と身近な環境を比較し、違いを考える5		
第7回	資料の劣化と科学的調査1（考古資料）	課題：博物館のリスクを考える1		
第8回	資料の劣化と科学的調査2（美術工芸品・古文書・典籍・歴史資料）	課題：博物館のリスクを考える2		
第9回	資料の保存修復の考え方と実際（考古資料・古文書・典籍・歴史資料）	課題：博物館のリスクを考える3		
第10回	博物館の建設と展示・収蔵環境の計画	課題：博物館等で展示の工夫を調べる1		
第11回	博物館資料保存の現場（現地研修：九州歴史資料館）	課題：博物館等で展示の工夫を調べる2		
第12回	資料の保存対策1（伝統的な保存対策）	課題：博物館等で展示の工夫を調べる3		
第13回	資料の保存対策2（文化財公開施設に関する法規等）	課題：博物館等で展示の工夫を調べる4		
第14回	博物館における資料の保存と活用（展示・収蔵から野外、景観・歴史的環境まで）	課題：博物館等で展示の工夫を調べる5		
第15回	まとめ	課題：期末レポート		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 期末レポートを提出してもらいます。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 出席・授業への参加姿勢を重視します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回、異なるテーマについて授業を行うので遅刻・欠席・早退しないようにしてください。第11回の授業は現地集合、現地解散とします（各自、交通費を用意してください）。授業中、中学校理科第一分野程度の用語が出てきて戸惑うことがあるかもしれませんが、文系に軸足を置いた内容としています。			
教科書	毎回、プリントを配布します。			
指定図書	なし			
参考図書	①三浦定俊 佐野千絵 木川りか 『文化財保存環境学』 朝倉書店 ②京都造形芸術大学編 『文化財のための保存科学入門』 角川書店 ③東京文化財研究所編 『文化財の保存環境』 中央公論美術出版			
オフィスアワー	授業後＋メール	メールアドレス		



授業科目	博物館資料論【博物館学芸員】		開講時期	後期
担当教員	大津 忠彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養います。何がどのように収集され、どのように活用されているのかについて具体例を参考に考察します。</p> <p>概要：博物館の「資料」に関する役割のうち、その収集、保管、活用についての具体的手法や留意点・問題点を学びます。博物館が所蔵する資料は、その博物館ばかりでなく社会情勢の変遷を具現していることを国内外の事例から理解し、将来に継承して行くべき公的財産であり、学芸員の果たすべき責務を考えます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館資料の様々な収集法について具体的に述べるができる。</li> <li>・企業博物館とその所蔵資料の具体例を列挙することができる。</li> <li>・博物館資料の安全性に関し、保管（収蔵）と活用（展示ほか）の視点から留意点を説明することができる。</li> <li>・博物館資料の様々な活用法について、具体的に述べるができる。</li> </ul>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目など	<p>この授業は全学DP②の「現代社会を生きる自己を実現するための幅広い教養と特定分野の知識・技能を獲得している。」、全学DP③「社会の多様な問題に取り組む実践力を身につけている。」、日本語・日本文学科DP④「日本文化の構造や特徴について説明することができる」、英語学科DP④「英語を活かすための職業上の知識や技能の基礎を身につけている」、アジア文化学科のDP④「アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる。」という目的の達成に関わる科目です。この科目と共に、「博物館概論」、「博物館展示論」を受講すると相互の理解が深まります。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 「博物館資料」と博物館法第2条		課題①：「博物館法」第2条の暗唱		
第2回 「博物館資料」の実際：東京国立博物館の収蔵品事例より		課題①：「博物館法」第2条の暗唱		
第3回 「博物館資料」の実際：東京国立博物館の収蔵品事例より		課題②：近隣博物館に「重要文化財」を捜す		
第4回 なにが、どのようにして博物館資料になるのか：博物館資料の様々な収集法とその問題・留意点		課題②：近隣博物館に「重要文化財」を捜す		
第5回 なにが、どのようにして博物館資料になるのか：博物館資料の様々な収集法とその問題・留意点		課題②：近隣博物館に「重要文化財」を捜す		
第6回 「博物館資料」の実際：「企業博物館」（日本）の収蔵品事例より		課題③：1品レポート（企業博物館）		
第7回 「博物館資料」の実際：「企業博物館」（日本）の収蔵品事例より		課題③：1品レポート（企業博物館）		
第8回 「博物館資料」の収集、来歴：外国の事例よりーアシュモレアン博物館・大英博物館・ルーブル美術館ー		課題④：1品レポート（欧州博物館）		
第9回 「博物館資料」の収集、来歴：外国の事例よりーアシュモレアン博物館・大英博物館・ルーブル美術館ー		課題④：1品レポート（欧州博物館）		
第10回 「博物館資料」：継承すべき「文化遺産」		課題④：1品レポート（欧州博物館）		
第11回 博物館資料の保管ー安全性の優越ー		課題⑤：九州国立博物館の展示法レポート		
第12回 博物館資料の活用ー展覧会ー		課題⑤：九州国立博物館の展示法レポート		
第13回 博物館資料と教育、医療、福祉		課題⑤：九州国立博物館の展示法レポート		
第14回 博物館資料と学芸員ー多様性と望まれる「創意」		上記課題①～⑤の再点検・提出		
第15回 博物館資料論総括		上記課題①～⑤の再点検・提出		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	50% ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	50% ②受講態度（含、時々的小テスト成果や提出課題成果）を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・上記「成績評価に関する情報」欄の、①と②の判定組合せが「秀&amp;秀」・「秀&amp;優」を秀、「秀&amp;良」・「優&amp;優」を優、「秀&amp;可」・「優&amp;良」・「優&amp;可」・「良&amp;良」を良、「良&amp;可」・「可&amp;可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。受講態度の良否は成績評価に大きく影響します。講義の進行に集中し自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。</p>			
教科書	ありません。			
指定図書	ありません。			
参考図書	適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日の5時間目	メールアドレス		

授業科目	博物館情報・メディア論【博物館学芸員】		開講時期	前期
担当教員	大橋 光雄		単位	2
授業の目的と概要	<p>授業においては、メディアの意義と博物館情報・メディアの理論、それに博物館における情報発信と博物館と知的財産について用途や必要性を理解しさらに活用していく方法を考えていきます。</p> <p>いま急速に発展する電子メディアから溢れ出る多様な情報化社会と教育のかかわりについて考察し進めていく。</p> <p>学校教育・社会教育・生涯学習機関（博物館、図書館等における視聴覚メディア利用の意義と実際について理解する。視聴覚教育の歴史、各種メディアの機能、すぐれた教材例、すぐれた実践例について学び、その特性と機能を理解し、それを教育の場でどのように生かせばよいかを考える。</p>			
到達目標	<p>博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解する</p> <p>博物館の情報提供と活用等に関する基礎的能力を養う</p> <p>博物館を情報とメディアの活用によって活性化に導く</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	生涯学習概論/博物館概論/博物館経営論/博物館資料論/博物館資料保存論/博物館展示論/博物館情報・メディア論/博物館教育論/博物館実習			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	進化する博物館（博物館情報・メディア論の解説）	アミューズメント について調べてみる		
第2回	メディアとしての博物館（視聴覚教育メディア論の発展）	ユビキタスについて調べてみる		
第3回	情報とメディアの基礎1（情報とはなにか？）	メディアとしての博物館について調べてみる		
第4回	情報とメディアの基礎2（メディアとはなにか？）	利用方法について調べてみる		
第5回	博物館情報・メディアの心理と学習	利用方法について調べてくる資料 ドキュメンテーションとデータベース化		
第6回	博物館メディアリテラシー	利用方法について調べてくる		
第7回	メディアを活用した展示手法1	映像展示について調べてみる		
第8回	メディアを活用した展示手法2（ICT社会の中の博物館）	ICTについて調べてくる		
第9回	情報から情報発信へ	情報発信の方法について調べてくる		
第10回	博物館のインターネットの活用	ICTについて調べてみる		
第11回	デジタルアーカイブスの現状と課題（権利処理の方法）	デジタルアーカイブス管理運営について調べてくる		
第12回	メディアによるユニバーサル的手法	多文化教育について調べてみる		
第13回	情報とメディアの法的問題1 制作と利用方法 知的財産（著作権等）	著作権等について調べてくる		
第14回	情報とメディアの法的問題2 個人情報（肖像権等）	個人情報について調べてくる		
第15回	近未来の博物館	メディアの課題 権利処理について調べてくる		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%この授業をきっかけとして、いかに考えて、それを理解出来たかを評価する。			
小テスト等	20%この授業をきっかけとして、いかに考えて、それを表現することが出来たかを評価する。			
成果発表	20% 授業中に作成する（作品は提出）			
受講態度他	10%質問や感想発表等による授業への積極的参加を考慮します。視聴覚機材等の準備操作をおこなう。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎講義の初めに前回の振り返りと配布資料の説明をおこなう。			
教科書	適宜 プリント配布			
指定図書	『視聴覚メディアと教育』玉川大学出版部&樹村房 『博物館映像展示論』雄山閣			
参考図書	授業の中で適宜紹介 DVDも含む 『博物館と情報』中央新書			
オフィスアワー	授業後に質問を受ける。	メールアドレス		

授業科目	博物館実習【博物館学芸員】		開講時期	通年
担当教員	大津 忠彦・森田 真也・小林 知美		単 位	3
授業の目的と概要	この講義の目的は、博物館・美術館についての知識を獲得し、博物館学芸員の実務と研究について理解し、その技能を身につけることにある。また、あわせて現代社会における博物館・美術館、学芸員の役割について学外実習において実践的に学ぶことから、市民としての社会責任を理解し、社会人として生きる力を培う。なお、博物館実習は、前期の学内実習（博物館見学を含む）と主に夏休み期間中に各博物館・美術館等で実施される学外実習で構成されている。 学内実習：考古学（大津）、民俗学（森田）、美術史（小林）の3クラスに分かれ、学芸員に必要な技能を学ぶ。年二回、博物館・美術館見学に行く（事前・事後の「見学レポート」提出）。 学外実習：各博物館が準備しているプログラムによって行なわれる。実習期間はほぼ2週間。この間、「実習日誌」をまとめる。実習後、報告会を行ない、「学外実習レポート」を提出する。年度末に冊子『学芸員の星たち』を編集する。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館・美術館についての知識を深めることができる。</li> <li>・博物館学芸員の実務と研究について理解することができる。</li> <li>・博物館学芸員の基礎的スキルを身につけることができる。</li> <li>・学外実習を通して、市民としての社会責任について理解し、社会人として生きる力を獲得することができる。</li> </ul>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	博物館に関する知識や技能を習得し、博物館学芸員の資格を取得する。 博物館に関する科目、「生涯学習概論」「博物館概論」「博物館経営論」「博物館資料論」「博物館資料保存論」「博物館展示論」「博物館教育論」「博物館情報・メディア論」の全てに関係する。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回： 博物館実習について			授業の目的と内容、進め方について理解する	
第2～13回： 学内実習（1）考古学…大津			課題① 考古学実習 具体的課題は担当教員の指示に従うこと	
第2～13回： 学内実習（2）民俗学…森田			課題② 民俗学実習 具体的課題は担当教員の指示に従うこと	
第2～13回： 学内実習（3）美術史…小林			課題③ 美術史実習 具体的課題は担当教員の指示に従うこと	
第14回： 博物館・美術館見学			見学事前レポート・事後レポート	
第15回： 学外実習オリエンテーション			実習館に関する事前リサーチ	
第16～29回： 学外実習（各博物館・美術館） 実習期間中、各館のプログラムに従い学芸員の指導を受け、「実習日誌」を作成する			（課題）（予習）（復習）各実習館の担当者の指示に従うこと	
第30回： 学外実習報告会			学外実習内容の整理、発表、レポート	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	無し。			
レポート	見学レポート、学外実習レポート等 20％。			
小テスト等	無し。			
成果発表	無し。			
受講態度他	学内実習 30％。受講態度 20％（無断欠席をしないこと）。学外実習 30％。学外実習の評価は、実習を担当する博物館・美術館による。「実習日誌」の記述も評価に関係する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	用意する必要があるものは、講義中に指示する。また、掲示板等を確認し、オリエンテーションや報告会には必ず出席すること。博物館見学の際、土日を利用することがある。その際、博物館施設への入場料等は自己負担となる。集団での移動となる。欠席、遅刻の際には連絡すること。受講態度に問題がある場合、学外実習にいけないこともある。この講義は、学外の博物館とも関係する。自覚と積極的な意思を持って臨むこと。提出物の期限が守られない場合は単位を「不可」とすることがある。			
教科書	無し。			
指定図書	無し。			
参考図書	各教員が授業中に個別に指示する。			
オフィスアワー	水曜日昼休み（12:30～13:00）。	メールアドレス		

授業科目	博物館展示論【博物館学芸員】		開講時期	前期
担当教員	大津 忠彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養い、博物館における展示とは、博物館資料を通してのコミュニケーションのひとつであり、モノを見せることを社会的使命とする博物館にとってもっとも大切な表舞台に関わることを理解することが目的です。</p> <p>概要：博物館の展示にかかわる基本的課題を、理論と、実践（展示作業）上の技術的視点より考察します。博物館展示論は、対象物たるモノ（博物館資料）の真価を、どのように来館者に伝えるか、そのコミュニケーションに関わる、創意・工夫が求められる実践論です。実際の博物館展示事例を参照しつつ、博物館利用者側および博物館側の双方の立場から、博物館展示の諸問題を考察します。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・博物館における「展示」の特異性を博物館学的に説明することができる。</li> <li>・博物館展示における基本的留意事項、工夫を実例に即して説明することができる。</li> <li>・博物館展示には、学芸員のほか、様々な業種がふかく関わることを具体例を挙げて説明することができる。</li> </ul>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 「博物館展示論」概観		「博物館法」第2条の暗唱		
第2回 博物館展示の実例検討ーその①		「博物館法」第2条の暗唱		
第3回 博物館展示の実例検討ーその②		課題①：近隣の博物館展示実態レポート（その①）		
第4回 博物館展示の意義・原理		第5回までに課題①を提出		
第5回 「博物館展示」をめぐる利用者（来館者）vs博物館		第5回までに課題①を提出		
第6回 博物館展示と「展示室」		課題②：展覧会開催関連業界レポート（その①）		
第7回 博物館展示環境ーその①：構造的条件		第8回までに課題②を提出		
第8回 博物館展示環境ーその②：生理的・心理的条件		第8回までに課題②を提出		
第9回 博物館展示方法ーその①：展示作業		課題③：展覧会開催関連業界レポート（その②）		
第10回 博物館展示方法ーその②：見せ方の基本技術		第11回までに課題③を提出		
第11回 博物館展示方法ーその③：見せ方の創意・工夫		第11回までに課題③を提出		
第12回 展示の歴史の変遷と博物館		課題④：近隣の博物館展示実態レポート（その②）		
第13回 博物館展示の将来像と課題		第15回までに課題④を提出		
第14回 再考：博物館展示と学芸員の責務		第15回までに課題④を提出		
第15回 「博物館展示論」総括		第15回までに課題④を提出		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	50% ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	50% ②受講態度（含、時々的小テスト成果や「授業外学習」課題提出成果）を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・上記「成績評価」、「割合（%）、種類・評価基準など」欄の、①と②の判定組合せが「秀&amp;秀」、「秀&amp;優」を秀、「秀&amp;良」、「優&amp;優」を優、「秀&amp;可」、「優&amp;良」、「優&amp;可」、「良&amp;良」を良、「良&amp;可」、「可&amp;可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。</p> <p>・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。講義の進行に集中し、自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスアワー	火曜日の2時間目	メールアドレス		

授業科目	はじめての手話	開講時期	前期
担当教員	池田 和彦・本田 いずみ・市川 杏奈	単位	1
授業の目的と概要	手話は目で見える言葉であり、聴覚障害者にとってはお互いの意思疎通を図るために有効なコミュニケーション手段としてなくてはならないものである。最近では、テレビのニュースやドラマなど、私たちの日常生活の中でも手話を目にする機会が増えてきている。 本講義では、聴覚障害者への理解とコミュニケーション手段（言語）としての手話について、その特徴や、基本的な日常会話を中心に、指文字・口話・筆談・空書・ジェスチャーなどを取り混ぜながら、様々なコミュニケーション・スキルについて、講義と実技を通して学んでいく。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 聞こえ、聴覚障害についての正しい理解ができる。</li> <li>2. 指文字や日常生活に必要な手話単語を覚え、表現できる。</li> <li>3. 手話で基本的な日常会話（読み取りも含む）、コミュニケーションができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	人間科学部共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」に対応する科目である。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 聴覚障害者の生活と手話		ミニ・レポート	
第2回 大学で学ぶ聴覚障害者の実情① — 先進的な取り組みの実例		ミニ・レポート	
第3回 大学で学ぶ聴覚障害者の実情② — 筑紫女学園大学での取り組み（MSG）		ミニ・レポート	
第4回 筑紫女学園大学の取り組みから発展したNPO活動（MCP）、表情とものの形		ミニ・レポート、手話表現の復習	
第5回 指文字と数字の表し方		手話表現の復習	
第6回 主な手話単語		手話表現の復習	
第7回 自己紹介・あいさつ（誕生日、年齢、家族など）		手話表現の復習	
第8回 趣味（スポーツ、読書、料理など）		手話表現の復習	
第9回 学校での会話		手話表現の復習	
第10回 職場での会話		手話表現の復習	
第11回 買い物での会話		手話表現の復習	
第12回 手話スピーチ①		手話表現と読み取り	
第13回 手話スピーチ②		手話表現と読み取り	
第14回 手話技能検定模擬試験 第1回		手話技能検定模擬試験の復習	
第15回 手話技能検定模擬試験 第2回		手話技能検定模擬試験の復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	20% 講義時に提出するミニ・レポート		
小テスト等	40% 第14回および第15回目の講義で行う手話技能検定模擬試験		
成果発表	40% 第12回および第13回目に行う手話スピーチ		
受講態度他	点数化はしないが、教員の指示に従い、真剣かつ積極的に受講していることが前提となる。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義の時間帯のみで手話技術を習得することは困難なので、NHKで放送されている「みんなの手話」「ワンポイント手話」「ろうを生きる 難聴を生きる」「こども手話ウィークリー」「手話ニュース」などを視聴して学習を深めること。 また、手話技能検定や手話通訳技能認定試験（手話通訳士試験）なども実施されているので、興味のある学生は挑戦してほしい。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	必要に応じ、講義時に指示する		
オフィスアワー	池田：講義終了後または火-5 本田、市川：講義終了後	メールアドレス	

授業科目	はじめての手話	開講時期	前期
担当教員	佐藤 久子	単位	1
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害者の日常生活における課題とその対応方法を理解する。手話は「手や身体・表情」で表し、「目」で見て理解することばです。手話で伝え合う楽しさを知り、地域のろう者と手話で日常会話できるように身につける。</li> <li>・手話言語としてろう者の大切な6つのコミュニケーションがあることを意識しながら表現できないときは身振りや口話や空書などを上手く使いこなせるように学んでいく。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡単な手話ができ、手話であいさつ、自己紹介程度の会話ができるようになること。入門編では「相手の簡単な手話が理解でき、手話で挨拶、自己紹介程度の会話ができるよう身につける。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に現代社会学部の共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関係する科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
	・聴覚障害者の生活8「わたしの大切な家族」のDVD鑑賞) ろう者の生活：子育て	課題① ミニレポート	
	・手話の基礎知識(伝え合ってみましょう)	課題① ミニレポート	
	・自己紹介しましょう(名前・家族)	課題③ 手話表現	
	・趣味について話しましょう(数)	課題③ 手話表現	
	・仕事について話しましょう(コラム) ろう者の仕事	課題③ 手話表現	
	・住所を紹介しましょう	課題③ 手話表現	
	・一日のことを話しましょう(コラム) 手話サークル	課題③ 手話表現	
	・一ヶ月のことを話しましょう	課題③ 手話表現	
	・一年のことを話しましょう	課題④ 手話表現	
	・パーティのことを話しましょう	課題③ 手話表現	
	・旅行のことを話しましょう(コラム) ろう者：通信	課題③ 手話表現	
	・病院のことを話しましょう(コラム) ろう者の生活：病院	課題①③手話表現ミニレポート	
	・学校のことを話しましょう(コラム) 聾学校について	課題③ 手話表現	
	・職場のことを話しましょう(コラム) ろう者の生活：職場	課題③ 手話表現	
	・手話でスピーチしましょう(入門編のまとめ)	課題③ 手話表現	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	筆記試験		
レポート	講義時二回・感想三回提出		
小テスト等	講座中行う手話表現(身につけた手話表現の「成果発表」)		
成果発表	入門編の会話発表		
受講態度他	ろう講師に対する手話の世界を理解しながら積極的に受講していることが前提となる		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回講座の復習のためにテキスト付DVDを見ること。NHKで放送されている「みんなの手話」「ろうを生きる 難聴を生きる」「手話ニュース」等視聴すること。手話検定が実施されているので、興味のある学生は挑戦してほしい。		
教科書	『手話奉仕員養成テキスト(手話を学ぼう・手話で話そう)』社会福祉法人 全国手話研修センター		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワーク	佐藤久子：柳元路子(在室中はいつでも可) 授業の前夜	メールアドレス	

授業科目	表象文化論		開講時期	前期
担当教員	一木 順		単位	2
授業の目的と概要	表象とは人間の営みの中で生み出された多様な文化事象を対象として、それを生み出した時代や社会との関係性について分析し、そこに現れた人間の意識を理解しようとするものである。本講義では、表象文化論という考え方について、4つのポイント、すなわち「関係の概念」「イメージ分析」「政治性の追求」「理論化」について理解することを目的とする。さらに、「表象」概念の基礎を理解するだけでなく、さまざまな領域を横断して人間の創造行為を捉えなおすことで、表象文化という概念が、現代社会および人間のありようへの知的な批判装置として機能することを理解することを求めたい。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「表象」という観点について説明することができる</li> <li>2. 表象論に基づいて、現代文化を分析することができる。</li> <li>3. 自らの分析に基づいて、現代文化の政治性を説明することができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この講義は現代社会学科メディアコースのDP③「現代メディア社会においてポピュラー文化の意味や役割について分析・説明することができる」の達成のための科目です。この科目を通して、ポピュラー文化の社会的な意味を分析する手法を修得することが期待されています。その手法は「サブカルチャー論」「オタク文化論」「ファッション文化論」などに生かされています。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回：授業のイントロダクション		特になし		
第2回：「表象」とは何かー「表象」の範囲		指定された文献を読むこと		
第3回：「表象」とは何かー「表象」と「鑑賞」と		指定された文献を読むこと		
第4回：「表象」とは何か		指定された文献を読むこと		
第5回：イメージの中の政治-『マダムバタフライ』から		『蝶々夫人』について調べること		
第6回：イメージの中の政治-『マダムバタフライ』と日本への視線		指定された文献を読むこと		
第7回：イメージの中の政治-『ミスサイゴン』から		『ミスサイゴン』について調べること		
第8回：イメージの中の政治-西洋にとってのアジア		指定された文献を読むこと		
第9回：文化の中の政治ーサイドの議論から		指定された文献を読むこと		
第10回：文化の中の政治ーフィスクの議論から		指定された文献を読むこと		
第11回：表象された「パールハーバー」		『パールハーバー』（2001）の鑑賞レポート作成		
第12回：表象された「パールハーバー」		『永遠のゼロ』（2014）の鑑賞レポート作成		
第13回表象された「パールハーバー」ー文化の政治学とは		指定された文献を読むこと		
第14回：ポピュラー文化についての議論		任意のポピュラー文化について調べること		
第15回：ポピュラー文化の政治学		それぞれが選んだ文化を分析すること		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	20% 授業前課題の提出 40% 最終レポート（概要は授業内で指示する）			
小テスト等	0%			
成果発表	20% 授業内でのグループプレゼンテーション			
受講態度他	20% 受講態度や授業内でのディスカッションへの参加度を勘案する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業の各回の内容は事前に指定された授業前課題の内容に基づいて構成されているので、授業前課題を必ず行って授業に参加すること。 授業内でのディスカッションやグループプレゼンへの参加は必須である。			
教科書	特になし			
指定図書	エドワード・サイド『オリエンタリズム』（ちくま学芸文庫） 渡辺保ほか『表象文化研究』（放送大学教育振興会）			
参考図書	授業内で指示します			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	比較文化演習	開講時期	後期
担当教員	喜多村 百合	単位	2
授業の目的と概要	<p>空前の経済発展で変化著しい現代インドの社会・文化について、各自が選んだテーマで報告を行い、ディスカッションを通して比較分析的な理解を深めることを目的とする。テーマ導入のための数回の講義後、前半では現代インド人の生活に影響を及ぼす、政治や経済、消費やメディアなどを取り上げ、文献以外にドキュメンタリー番組、映画、雑誌、女性誌なども使い検討する。後半は、ジェンダーとカースト・マイノリティの視点から見た社会・文化のあり方について検討し、包括的かつバランスのとれたインド理解を目指す。体験編として、①南アジア出身者のレクチャー、②インド・レストランでの食文化体験も予定している。導入二回で、ゼミの諸作業について確認する。その後講師により、現代インド社会について概況をPPTで把握する。さらに争点としてのジェンダー・マイノリティについて導入を行い、報告のためのレディネスを養う。</p>		
到達目標	<p>①ゼミを構成する諸作業（問題設定、資料収集・検討、レジュメ作成・報告・ディスカッション・ディフェンス、小論文制作+ゼミ司会）の基本的な技法を身につける。  ②資料・文献にあたりレジュメにまとめ報告を行い、さらにテーマを発展させることができる。  ③テーマに沿って、他のメンバーの報告について批評ができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 導入①：ゼミのねらい、使用文献、作業内容の確認		課題設定	
第2回 導入②：報告文献と報告スケジュールの決定		文献収集・検討	
第3回 現代インド社会の諸相		文献収集・検討	
第4回 現代インド社会とジェンダー		文献収集・検討	
第5回 現代インド社会とカースト		文献収集・検討	
第6回 報告とディスカッション		レジュメ作成	
第7回 報告とディスカッション		報告準備	
第8回 報告とディスカッション		報告準備	
第9回 報告とディスカッション		報告準備	
第10回 報告とディスカッション		報告準備	
第11回 報告とディスカッション		報告準備	
第12回 体験プログラム①：南アジア出身ゲストのレクチャー		小レポート	
第13回 体験プログラム②：インド・レストランで食文化体験		小レポート	
第14回 総合ディスカッション		小レポート	
第15回 期末レポート作成について		期末レポート	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	期末レポート20%小レポート10%		
小テスト等	-		
成果発表	40%		
受講態度他	30%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	報告とディスカッションは基本的に学生主体で実施する。積極的にディスカッションに参加することを、大いに奨励する。		
教科書	適宜プリント配布		
指定図書	①田中雅一他『南アジアを学ぶ人のために』 ②金基淑他『カーストから現代インドを知るための30章』 ③川口章『日本のジェンダーを考える』		
参考図書	授業中に適宜紹介する		
オフィスアワー	月～水午後	メールアドレス	



授業科目	【閉講】比較文化特論	開講時期	後期
担当教員	崔 淑芬	単 位	2
授業の目的と概要	現代はグローバル化によって、世界のあらゆる地域の人々が好むと好まざるとにかかわらず、何らかの形で直接的・間接的な関係を持たざるを得ない状況になってきている。こうした現代に生きる我々にとって、多文化共存・共生に対する理解・交流のための知識とスキルは不可欠である。本講座では、この国際化時代に対応できる柔軟な思考力を身につけるため、総合的に中国の教育とアジア地域の文化をとらえ、特に中国・日本・韓国における文化的異同点の比較研究を通して、少人数クラスにおいて、“自ら調べ、自ら考え”、多文化に対する理解を深め、さらに比較研究水準を高め、現代が抱えるさまざまな問題を自立的に解決できるようになることを目的とする。 学生同士の意見交換を行いながら、多文化であることによって生じた摩擦や問題を設定、これを解決、対応する方法を議論し、それを考えることによって、文化の多様性、相互的な関係を考察する。		
到達目標	①比較教育の観点から教育の役割を考え、論理的な思考力や創造性、表現力、洞察力などを培うとともに、主体的問題を切り拓くことのできる実力を身につけることができる。 ②アジア文化圏についての異文化を学び、理解を深め、さらに日本との比較を通して外国文化の背景を学び、多角的な多文化理解することによって、国際化時代に対応できる柔軟な思考力を身につけることができる。 ③身近な素材から異文化の受容、変貌、発展を考え、「多文化」であることによって生じた摩擦や問題を解決する実力を身につけ、多文化共生の社会・人づくりを考える前提として、世界の様相や日本の状況を把握し、自分の興味に沿った応用法を発見することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	論理的な思考力や創造性、表現力、洞察力などを培うとともに、さらに日本との比較を通して外国文化の背景を学び、多角的な多文化理解することによって、国際化時代に対応できる柔軟な思考力を身につける。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス、「地域性と世界性」		多文化とは何か	
第2回 多文化共生に関わる諸問題①		多文化教育の型、全体討議	
第3回 多文化共生に関わる諸問題②		多宗教社会の構造、宗教とナショナリズム	
第4回 多文化共生社会の宗教と教育① 民族と宗教（内モンゴル・チベットを中心とする）		イスラム教、民族教育のとらえ方	
第5回 多文化共生社会の宗教と教育② 教育と宗教（ウイグル・回族のイスラム教を中心とする）		多民族地域の多元文化	
第6回 文化の伝承と教育①		文化伝承の事例	
第7回 文化の伝承と社会②		ジェンダー社会論、労働社会	
第8回 女子教育・社会進出の現状と諸問題①		女子教育の進展	
第9回 女子教育・社会進出の現状と諸問題②		少子化社会の構成	
第10回 少子化社会①形成、現状		青少年の教育問題	
第11回 少子化社会②教育、諸問題		日本の留学生受け入れ政策	
第12回 教育の国際化、30万人留学生の受け入れ①		留学生の実態	
第13回 教育の国際化、海外留学の現状②		現代の教育社会が抱える教育課題を取り上げ	
第14回 多文化・多民族化の進行に伴って生じる問題		現代社会が抱える問題	
第15回 受講者の関心によるテーマの研究、全体討議、総括まとめ		レポートの作成、提出	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	%		
レポート	30%		
小テスト等	%		
成果発表	%		
受講態度他	70% 受講態度関わる姿勢などをふまえて総合的に判定する。積極的に検討問題に取り込む授業へ参加、総合判断した上で一定基準に達した者を相対評価する		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自ら積極的に発言、真剣に取り組むことが望ましい。 必要に応じて、参加する学生にも文献・資料の講読や発表などを担当してもらう。		
教科書	教科書は使用しない予定。必要に応じてプリントなどを配付する		
指定図書	教室で適宜指示する		
参考図書	随時、紹介する		
オフィスアワー	火・金	メールアドレス	

授業科目	比較文化論	開講時期	後期
担当教員	小林 知美	単 位	2
授業の目的と概要	<p>すぐれた美術作品をみると人は感動を覚えるものであるが、そのような感動を出発点として、作品を生み出した時代や地域についての知識を深め、それらを受容していた人々の思いに接近することができる。この授業では、韓国と日本の美術作品を比較しながら鑑賞し、それぞれの作品の作られた国のその時代の歴史を知る。また、それぞれの作品に関する美術史的問題について言及する。</p> <p>また映像によって作品をじっくり鑑賞し、つぎにその作品の制作背景に関する知識を身につける。作品は、基本的に教科書の『韓国の美術・日本の美術』にしたがって取り上げ、各回ごとに共通のテーマを儲けて比較する。さらに美術館・博物館での実地見学を通して、講義で得た知識を体験をとおして確かなものとする。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術作品をじっくり鑑賞し、作品の特徴を把握しようとする積極的態度を身につける。</li> <li>・韓国と日本の歴史的時代区分と、それぞれの時代の宗教と歴史について概説できる。</li> <li>・両国の歴史的時代区分ごとに代表的な美術作品の名称をあげて説明することができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学科DP④の「アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる。」を目標とする。</li> <li>・関連する代表的な科目は下記の通り。 「東アジア入門」「アジア生活文化概論」「アジアの建築」「アジア芸術思想概論」「アジアの世界遺産」「アジアと仏教」（1年次開講） 「体験－ミュージアムで学ぶアジア」「体験－伝統文化」「仏教美術史」（2年次開講） 「日本美術史」（4年次開講科目）</li> </ul>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション：「比較」美術史の試み（9月26日）	参考文献リストを見て図書館で関連資料を探す	
第2回	九博特別展見学事前授業「『鳥獣人物戯画』一遊び心とその表現一」（10月3日）	「①見学レポート」（10月21日〆切り）準備	
第3回	見学①：九州国立博物館「常設展」（10月10日） ※九博入り口集合、持参：学生証、鉛筆とメモ帖	「①見学レポート」（10月21日〆切り）準備	
第4回	見学②：九州国立博物館「特別展：京都高山寺と明恵上人展」（10月16日〈日〉）12：00※3階展示室入り口集合、年間パスポート事前購入	「①見学レポート」（10月21日〆切り）準備	
第5回	三国時代と飛鳥時代の美術②：古墳壁画と副葬品（10月17日）	「①見学レポート」（10月21日〆切り）準備	
第6回	三国時代と飛鳥時代の美術③：仏像（10月24日）	「②興味を持った作品・テーマレポート」（11月25日〆切り）準備	
第7回	統一新羅時代と奈良時代の美術：仏像と塔（11月7日）	「②興味を持った作品・テーマレポート」（11月25日〆切り）準備	
第8回	高麗時代と平安時代の美術①：仏画～観音・浄土・地獄～（11月14日）	「②興味を持った作品・テーマレポート」（11月25日〆切り）準備	
第9回	高麗時代と平安時代の美術②：経典と経箱（11月21日）	「②興味を持った作品・テーマレポート」（11月25日〆切り）準備	
第10回	高麗時代と平安時代の美術③：金工品（11月28日）	「③日韓美術比較レポート」準備（1月27日〆切り）	
第11回	李朝時代と室町・桃山時代の美術：山水画と都市の絵（12月5日）	「③日韓美術比較レポート」準備（1月27日〆切り）	
第12回	李朝時代の江戸時代の美術①：動物画と風俗画（12月12日）	「③日韓美術比較レポート」準備（1月27日〆切り）	
第13回	李朝時代の江戸時代の美術②：美人図と肖像画（12月19日）	「③日韓美術比較レポート」準備（1月27日〆切り）	
第14回	李朝時代の江戸時代の美術③：陶磁器（1月16日）	「③日韓美術比較レポート」準備（1月27日〆切り）	
第15回	まとめ（1月23日）	「③日韓美術比較レポート」準備（1月27日〆切り）	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	—		
レポート	80％		
小テスト等	—		
成果発表	—		
受講態度他	20％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>学外見学を二回行います。 第1回は授業開始から間もない時に九州国立博物館常設展の見学、第2回は終盤に近隣の美術・博物館または社寺などへの見学です。1回目の見学は授業時間内に行いますが、2回目の見学は行先に応じて日時を決定しますので、授業時間外になる可能性があります。なお、2回目の見学に交通費・観覧費がかかる場合は自己負担とします。</p>		
教科書	なし		
指定図書	鄭干澤・並木誠士編『韓国の美術・日本の美術』昭和堂（2002年）		
参考図書	菊竹淳一・吉田宏志責任編集『世界美術大全集 東洋編 第10巻 高句麗・新羅・高麗』小学館（1998年） 菊竹淳一・吉田宏志責任編集『世界美術大全集 東洋編 第11巻 朝鮮王朝』小学館（1999年）		
オフィスアワー	水曜日の昼休み～3限（他は事前に連絡してください）	メールアドレス	

授業科目	比較文学	開講時期	後期
担当教員	間瀬 玲子	単 位	2
授業の目的と概要	比較文学は、19世紀にヨーロッパで生まれた学問である。言語の境界を超えて普遍的な文学理論をうちたてようとするものである。この授業では比較文学の研究の歴史、方法、領域を学ぶことを目的とする。そして比較文学とは何か、こんにち比較文学を考えることの意味を明らかにすることを目的とする。		
到達目標	1. 比較文学の歴史、方法、領域を説明することができる。 2. 比較文学を考えることの意味を明らかにすることができる。 3. 比較文学研究の国際的な動向を説明することができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、文学部共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。 関連科目： 1年次 言語学、芸術文化論、哲学 2年次 メディアと文化 関連科目も履修して、より理解を深めてください。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の進め方 何ゆえに比較文学なのか	予習 シラバスを読む	
第2回	境界の問題 (外国、諸外国文学)	予習 授業資料 (第2回)	
第3回	境界の問題 (世界文学、比較の境界線)	予習 授業資料 (第3回)	
第4回	外国作品の受容 (受容の美学、受容の歴史)	予習 授業資料 (第4回)	
第5回	外国作品の受容 (受容であって、影響ではない? 展望)	予習 授業資料 (第5回)	
第6回	文学と言語 (言語における作品、翻訳の作品)	予習 授業資料 (第6回)	
第7回	文学と言語 (展望)	予習 授業資料 (第7回)	
第8回	神話と文学形式 (神話の活力、文学の働き)	予習 授業資料 (第8回)	
第9回	神話と文学形式 (神話、国際的なあるいは普遍的な? 展望)	予習 授業資料 (第9回)	
第10回	各国文学の比較史 (道具と表現、問題)	予習 授業資料 (第10回)	
第11回	各国文学の比較史 (いくつかの見通し)	予習 授業資料 (第11回)	
第12回	比較詩学へむけて (詩学それとも諸詩学?、比較 (諸) 詩学)	予習 授業資料 (第12回)	
第13回	比較詩学へむけて (一般詩学、比較詩学)	予習 授業資料 (第13回)	
第14回	国際比較文学会の動向	予習 授業資料 (第14回)	
第15回	授業の総括	予習 授業資料 (第15回)	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	50% 授業の内容に関する複数の設問		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	50% 受講態度及び授業への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業前に必ず授業資料を読んでおいてください。 筑女ネットに授業資料 (補足) をアップします。		
教科書	教科書はありません。授業資料を配布します。		
指定図書	日本比較文学会編『越境する事の葉』彩流社、イヴ・シュヴレル『比較文学入門』白水社、文庫クセジュ、山田登世子『「フランスかぶれ」の誕生』藤原書店		
参考図書	授業中に適宜指示します。		
オフィスアワー	水曜日 4 講時	メールアドレス	

授業科目	東アジア近現代史		開講時期	後期
担当教員	秦 惟人		単 位	2
授業の目的と概要	<p>東アジアの近代をどのようなものとするか、従来からの「西洋の衝撃」や「反帝国主義闘争」を重視する見かたにに対して、今では東アジアの文化自身の中に近代の諸相をさぐる見方が有力となっている。本講義では、中国をはじめとする東アジアの近現代史を学ぶことによって、現代アジアに生きる力を身につける。</p> <p>講義の概要について。</p> <p>本講義では東アジア近現代史を5つの時期に分けて、中国を中心に見ていく。はじめに、中華人民共和国の歴史（現代史）を概観する。この歴史の到達点を念頭に、中華帝国と近代世界、中華帝国の変容と革新、中華帝国の滅亡、近代中国の展開という歴史の流れを理解する。</p>			
到達目標	<p>中華人民共和国の歴史を学んで、その前半と後半の差異などについて説明ができる。</p> <p>中国を初めとする東アジアの近代の始まりとはどんな性質をもつものかを理解し、説明ができる。</p> <p>20世紀の東アジア諸国が帝国主義世界のなかでどのように変容をとげていったのかを簡単に説明できる。</p> <p>中国を初めとする東アジア諸国がどのような改革の課題と取り組んだかを理解し、説明ができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は歴史の授業です。アジア文化学科のDP③「アジアの地理・歴史についての基礎的・専門的知識を身につけている」に該当します。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	はじめに 中華人民共和国の現状と歴史	予習：講義ノート V		
第2回	V 現代の中国（1）中華人民共和国の成立	予習：講義ノート V		
第3回	V 現代の中国（2） 中華人民共和国の展開	予習：講義ノート I		
第4回	I 中華帝国と近代世界	予習：講義ノート I		
第5回	II 中国近代化の出発（1）中華世界秩序の変容	予習：講義ノート II		
第6回	II 中国近代化の出発（2）民衆運動の展開 小テスト	予習：講義ノート II		
第7回	II 中国近代化の出発（3）同治中興と中華帝国の変容	予習：講義ノート II		
第8回	II 中国近代化の出発（4）洋務運動と19世紀後半の中国経済	予習：講義ノート II		
第9回	III 中華帝国の終焉（1）帝国主義成立期の中国と世界	予習：講義ノート III		
第10回	III 中華帝国の終焉（2）中国分割の危機と中国の対応	予習：講義ノート III		
第11回	III 中華帝国の終焉（3）帝国主義と中国の改革	予習：講義ノート III		
第12回	III 中華帝国の終焉（4）革命運動と二千年帝国の終焉	予習：講義ノート III		
第13回	IV 近代中国の展開（1）北洋政権と中国産業の発達	予習：講義ノート IV		
第14回	IV 近代中国の展開（2）アジアの民族運動の高揚から国民革命へ	予習：講義ノート IV		
第15回	IV 近代中国の展開（3）南京国民政府と日中戦争	予習：講義ノート IV		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	100％（期末テスト 60％ 小テスト 40％）			
レポート	小テストに欠席した者は、全問をレポートとする。			
小テスト等	小テスト1回			
成果発表	なし			
受講態度他	欠席6回以上は「無資格」とする。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回出席をとります。欠席6回以上は「無資格」とします。			
教科書	講義ノート（レジュメ）配布			
指定図書	なし			
参考図書	高橋・姫田等『中国近現代史』上（東京大学出版会） 天児慧『中華人民共和国史 新版』（岩波新書）			
オフィスアワー	水曜④ 木曜③	メールアドレス		

授業科目	東アジア地誌		開講時期	後期
担当教員	秦 惟人		単 位	2
授業の目的と概要	東アジアの自然環境についてイメージできるようになる。中国の気候風土にみあった農牧業について、地域に分けて説明できるようになる。都市と農村を結ぶ定期市の機能を認識する。中国の都市の特徴と現代の都市について具体的に説明できるようになる。以上の4点を目的とします。 授業の概要は、次のとおり。東アジアは、大陸東岸の中緯度地帯にあり、独特の気候風土をもっています。授業では、東アジアの自然環境を見たあと、中国の社会を都市と農村、両者を結ぶ農村定期市のネットワークに分けて見ていきます。そして、現在発展が著しい中国の諸産業と、その問題点について考えます。			
到達目標	東アジアの地体構造と自然環境について、地図などによって具体的な説明ができる。 中国の伝統的な農業と農村社会およびその変遷について、各地域に分けて具体的に説明ができる。 中国の都市と農村を結ぶ定期市の変遷について、学説に基づいて説明ができる。 中国の都市の起源と中国の都市の特質について、現代の事例をあげて説明できるようになる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	アジア文化学科のDP③の地理科目に該当します。他の「地誌」の科目には「地誌学」があります。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	講義概要。現代中国の問題点—VTR等	予習：講義ノートⅠ		
第2回Ⅰ	東アジアの自然と文明① 東アジアの自然	予習：講義ノートⅠ		
第3回Ⅰ	東アジアの自然と文明② 世界の新石器文化	予習：講義ノートⅠ		
第4回Ⅰ	東アジアの自然と文明③ 東アジアの農牧文化	予習：講義ノートⅠ		
第5回Ⅱ	中国の農業地域と農村社会① 中国の農業地域	予習：講義ノートⅡ		
第6回Ⅱ	中国の農業地域と農村社会② 中国の農村社会	予習：講義ノートⅡ		
第7回Ⅱ	中国の農業地域と農村社会③ 地域社会と地域エリート	予習：講義ノートⅡ		
第8回Ⅲ	農村定期市のネットワーク① 農村定期市の機能	予習：講義ノートⅢ		
第9回Ⅲ	農村定期市のネットワーク② 定期市の展開と現代化	予習：講義ノートⅢ		
第10回Ⅳ	中国の都市① 中国の都城	予習：講義ノートⅣ		
第11回Ⅳ	中国の都市② 中国の経済都市	予習：講義ノートⅣ		
第12回Ⅳ	中国の都市③ 中国都市の近代化	予習：講義ノートⅣ		
第13回Ⅴ	中国都市と国際化① 国際化と中国都市	予習：講義ノートⅤ		
第14回Ⅴ	中国都市と国際化② 社会主義化と中国都市	予習：講義ノートⅤ		
第15回Ⅴ	中国都市と国際化③ 改革開放と中国都市	予習：講義ノートⅤ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	100% (期末テスト75% 小テスト25%)			
レポート	小テストを受験しなかった者は全問をレポート			
小テスト等	上記のとおり、25%			
成果発表	なし			
受講態度他	欠席6回以上は「無資格」とする			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回出席をとります。欠席6回以上は無資格とします。			
教科書	講義ノート(レジュメ) 配布			
指定図書	なし			
参考図書	三谷孝ほか『村から中国を読む』(青木書店 2000年) 本体2800円 高橋孝助・古厩忠夫編『上海史』(東方書店 1995年) 本体2718円			
オフィスアワー	水曜④ 木曜③	メールアドレス		

授業科目	東アジア入門		開講時期	前期
担当教員	妻 海善		単位	2
授業の目的と概要	<p>アジアの中でも中国（香港含む）、台湾、韓国、北朝鮮を東アジアと定義し、これらの国の基礎的知識、行政区分、近現代における政治変化及び社会経済変化の特徴と流れを学ぶことを目的とする。</p> <p>①東アジア諸国の社会経済発展の歩みと背景、今後の展望を説明する。</p> <p>②韓国、中国、モンゴル、香港、台湾の基礎的な知識、近現代の歴史、政治、経済の流れを学ぶ。</p>			
到達目標	<p>1. 東アジア各国の個別事情に関して説明することができる。</p> <p>2. 東アジア各国のお互いの関連性について比較しながら説明することができる。</p> <p>3. 東アジア諸国と日本の歴史・政治及び経済関係等を体系的に理解することができる。</p> <p>4. 東アジア諸国と日本との今後の課題やあり方に関して自分の見解を述べるることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、</p> <p>①アジア文化学科のDP2「東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの各地域の社会事情について、具体的な事例を通して説明できる」</p> <p>②中国語副専攻の授業科目を充足するための科目です。</p> <p>関連科目は、「アジア経済論」「アジア女性労働論」「現代韓国事情」などがある。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業概要紹介、座席配置、東アジア地図、東アジアとは	東アジアの地理的、経済的定義を調べる		
第2回	東アジア経済、東アジアの目覚ましい発展	東アジアの経済発展の背景を調べる		
第3回	日本と東アジアの経済関係、日中韓歴史	日本経済と東アジア経済の関係を調べる		
第4回	韓国の基礎知識、韓国の独立と韓国政府樹立	戦後から韓国政府樹立までの歴史を調べる		
第5回	朝鮮戦争と南北分断	朝鮮戦争の背景と経緯、その被害を調べる		
第6回	戦後の韓国の政治経済	韓国の経済発展の流れを調べる		
第7回	韓国と北朝鮮-1	韓国と北朝鮮の関係変化を調べる		
第8回	韓国と北朝鮮-2	韓国と北朝鮮の統一の可能性と課題を考える		
第9回	モンゴルの基礎知識、中国の基礎知識、中国の行政	モンゴル経済の発展の流れを調べる		
第10回	中国の政治経済；中華民国建国から戦前まで	中国の近代史を調べる		
第11回	(7月9日、補講予定；飛翔会館3階)、ドキュメンタリー映画「花の夢ーある中国残留婦人ー」上映と監督トーク	レポート：800字程度（内容と感想）、授業後提出（用紙は配布する）		
第12回	中国の政治・経済；戦後から1970年代まで	戦後からの中国の政治・経済の流れをまとめる		
第13回	小テストあり。中国の改革開放政策	改革開放政策を調べる		
第14回	中国経済の成果と行方は	中国が抱えている課題を調べる		
第15回	全体のまとめ	全体のまとめ		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	0%			
小テスト等	100%			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>①B5サイズのノートを準備し毎回の授業の内容をまとめておく。</p> <p>②小テストには手書きノートのみ持ち込可。</p> <p>③欠席が5回を超えると評価しない（就職活動、病気、その他の理由による欠席も5回の中を含める）。</p>			
教科書	プリントは毎回の授業時に配る。			
指定図書	特になし			
参考図書	講義の中で適宜紹介			
オフィスワー	月、水曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	ヒンディー語 I		開講時期	前期
担当教員	Ranjan Mikesh		単位	1
授業の目的と概要	<p>インド社会や文化や現在の人々の暮らしについて、基本的な事柄を学びながら、ヒンディー語の基本を習得することを目的とします。</p> <p>1. ヒンディー語の基本的な語彙、文法を学ぶこと。平易な文章の読み書きを学習する。また、学習したフレーズがどのような場面で使われるかを知り、インドの人々とのコミュニケーションを通してインドを身近に感じられるようにする。</p> <p>2. インドのお祭りや神などを学び、文化や習慣を理解する。</p> <p>3. 歌や踊りが特徴のインド映画（制作本数で世界一）の鑑賞などを通して、魅力あふれるインド文化を体験的に学習する。</p>			
到達目標	<p>① ヒンディー語の文字の読み書きができるようになる。</p> <p>② ヒンディー語であいさつ、自己紹介ができるようになる。</p> <p>③ ヒンディー語の基礎的な文章を学んで日常会話ができるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主にアジア文化学科のDP①「アジア地域で使用されている諸言語の一つを用いて、基礎的な会話ができる。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 挨拶、インドとヒンディー語の基礎知識		教科書の「文字と発音」の箇所を読んでおく。		
第2回 デーヴァナーガリー文字 I: 母音字、自己紹介		母音字の発音と書き方を覚える。文字スライドを見る。		
第3回 デーヴァナーガリー文字 II: 子音字、性差、自己紹介		子音字の発音と書き方を覚える。		
第4回 デーヴァナーガリー文字 III: 子音字の表し方、つづりと発音、構文		子音字の発音と書き方、構文方を覚える。		
第5回 第1回～4回までの復習 小テスト		半母音字の発音と書き方を覚える。ここ、そこ、あそこ、どこ等言葉の説明。		
第6回 デーヴァナーガリー文字 IV: 子音字、特別な文字、ヒンディー語の数字		特別な文字と数字を覚える。新しい単語を覚える。		
第7回 動詞のフォーム（過去、現在、将来）、女性名詞と男性名詞、ゲーム		動詞語形変化の方法を覚える。家族の単語を覚える。		
第8回 動詞のフォーム（過去、現在、将来）、女性名詞と男性名詞		動詞語形変化の方法を覚える。新しい単語を覚える。		
第9回 第6回～8回までの復習、インドのお祭りの画像・映像		第1課で学んだ文法事項、単語の復習。		
第10回 動詞のフォーム（過去、現在、将来）、インドの画像、単語の復習		動詞語形変化の方法を覚える。新しい単語を覚える。		
第11回 後置詞、小テスト		で、に、から、まで、も等助詞の使い方を覚える。グループ 会話		
第12回 インド文化体験: インドの服、サリーを着てみよう、料理体験		新しい単語も覚える。インドの服についての画像・映像		
第13回 文型・表現、名詞の単数形と複数形		名詞（主格）の語尾活用原則を覚える。時間関連の言語を覚える。		
第14回 文型・表現		「から・ので・だから」文法を覚える。よく使う形容詞を覚える。		
第15回 復習		文型、名詞、形容詞の活用変化を復習する。インドの結婚式の画像・映像		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	80%			
レポート	0%			
小テスト等	10%（毎授業時行います）			
成果発表	0%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業ではヒンディー語の文法理解を基本としますが、会話能力の取得も重視しているので、発音・会話練習ではきちんと口を開けて声を出すように努めてください。</p> <p>教科書付属のCDを授業以外でも聴くように心がけてください。</p> <p>ヒンディー音楽・映画を鑑賞することは耳を鍛えることになるので、希望者にはCD・DVDを貸します。</p>			
教科書	町田和彦『ニューエクスプレス ヒンディー語』白水社 (再受講の場合、『CDエクスプレス ヒンディー語』をもっていれば、新しく買う必要なし)			
指定図書	なし			
参考図書	町田和彦『書いて覚えるヒンディー語の文字-デーヴァナーガリー文字入門』白水社、 坂田貞二『入門ヒンディー語』国際語学社			
オフィスアワー	授業の前後やメールで相談してください。	メールアドレス		

授業科目	ヒンディー語Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	Ranjan Mikesh	単位	1
授業の目的と概要	<p>ヒンディー語Ⅰに引き続き、インド社会や人々の暮らしについて、基本的な事柄を学びながら、ヒンディー語の基本を習得することを目的とします。</p> <p>1. ヒンディー語Ⅰに引き続き、インド旅行や日常生活の様々な場面を想定した会話、基本的な文法知識、平易な文章の読み書きを学習します。</p> <p>2. また、学習したフレーズがどのような場面で使われるかを、インド料理体験、ヒンディー映画の台詞や、ヒンディー語の歌曲の歌詞などをふまえて確認します。</p>		
到達目標	<p>① ヒンディー語の文章の読み書きができるようになる。</p> <p>② ヒンディー語の日常会話が理解できるようになる。</p> <p>③ インドの映画で、インドの町・習慣・文化等の経験する。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主にアジア文化学科のDP①「アジア地域で使用されている諸言語の一つを用いて、基礎的な会話ができる。」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 復習Ⅰ：人称代名詞とコピュラ動詞		人称代名詞とコピュラ動詞の対応を復習する。	
第2回 復習Ⅱ：名詞・形容詞の活用変化		名詞・形容詞の活用変化を復習する。	
第3回 後置詞・助詞、自己紹介		と、に、から、まで、も等助詞の使い方を覚える。グループ会話	
第4回 文型・表現、インドについて画像		「のを・のが・のは」文法の用法。新出単語を覚える。	
第5回 文型・表現		「ために・のに、たり…たり」文法を使って文を作る。読む練習。	
第6回 ヒンディー語で会話をしながら、インド料理体験		単語、フレーズの復習	
第7回 インド映画鑑賞 インドの町、文化について様々場面での表現		単語、フレーズの復習	
第8回 インド映画鑑賞 インドの町、文化について様々場面での表現		単語、フレーズの復習	
第9回 第7回、第8回の復習		命令形、発音と読む練習。	
第10回 文型・表現		「為に」文法を使って文を作る。気持の言葉覚える。	
第11回 会話・表現		初対面での会話と単語の復習。発音と読む練習	
第12回 文型・表現		「見に行く、会って嬉しい」文法を使って文を作る。	
第13回 ヒンディー語で会話をしながら、インド料理体験		単語、フレーズの復習	
第14回 インド映画鑑賞 北インドのイメージ、一般的なインド人のイメージ		単語、フレーズの復習	
第15回 会話・テスト復習。		自己紹介・会話等の復習。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	80%		
レポート	0%		
小テスト等	10% (毎授業時行います)		
成果発表	0%		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業ではヒンディー語の文法理解を基本としますが、会話能力の取得も重視しているので、発音・会話練習ではきちんと口を開けて声を出すように努めてください。教科書付属のCDを授業以外でも聴くように心がけてください。ヒンディー音楽・映画を鑑賞することは耳を鍛えることになるので、希望者にはCD・DVDを貸します。		
教科書	町田和彦『ニューエクスプレス ヒンディー語』白水社 (再受講の場合、『CDエクスプレス ヒンディー語』をもっていれば、新しく買う必要なし)		
指定図書	なし		
参考図書	町田和彦『書いて覚えるヒンディー語の文字-デーヴァナーガリー文字入門』白水社、坂田貞二『入門ヒンディー語』国際語学社		
オフィスアワー	授業の前後やメールで相談してください。	メールアドレス	



授業科目	病弱教育	開講時期	後期
担当教員	大轟 香	単 位	2
授業の目的と概要	病弱児の医学的・心理学的特徴を理解し、病弱教育について理解を深め、病弱児の教育課程や指導方法、支援のあり方を知ることが目的とする。本授業では病弱児の教育の歴史と現状、基本的理解、教育課程、指導の概説を学ぶ。また院内学級における教育課程や交流教育についても学んでいく。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病弱児の心理的・医学的特徴について説明できる。</li> <li>・病弱児の教育について説明できる。</li> <li>・病弱児の指導や支援のあり方について述べる事が出来る。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は人間科学部人間関係専攻発達臨床心理コースDP④「人間が直面する心理・社会的諸問題に対処し、改善・解決を図るために有効な援助法や社会資源・制度について説明することが出来る」に該当する科目である。「病弱者の心理・生理・病理」を事前に受講しておくことより学びを深めることができる。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 病弱児に対する基本的理解		授業内容の復習	
第2回 病弱教育の現状		ミニレポート、授業内容の復習	
第3回 病弱児における教育課程概論（歴史を含む）		配布資料の通読、授業内容の復習	
第4回 病弱児の学習特性と教育課程		配布資料の通読、授業内容の復習	
第5回 病弱児における教育課程及び指導法（幼稚園）		学習指導要領の指定ページを通読する、授業内容の復習	
第6回 病弱児における教育課程及び指導法（小学校）		学習指導要領の指定ページを通読する、授業内容の復習	
第7回 病弱児における教育課程及び指導法（中学校・高等学校）		学習指導要領の指定ページを通読する、授業内容の復習	
第8回 教科指導（1） 各教科		配布資料の通読、授業内容の復習	
第9回 教科指導（2） 学習の工夫		配布資料の通読、授業内容の復習	
第10回 教科指導（3） 自立活動との関連から		配布資料の通読、授業内容の復習	
第11回 院内学級における教育課程及び指導法（1）学習指導		配布資料の通読、授業内容の復習	
第12回 院内学級における教育課程及び指導法（2）生活指導		ミニレポート	
第13回 病弱児の心理特性と教育		ミニレポート	
第14回 交流教育について（院内交流・学校間交流）		配布資料の通読、授業内容の復習	
第15回 まとめ		定期試験への準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	70％ 定期試験		
レポート	25％ 3回のミニレポート		
小テスト等	—		
成果発表	—		
受講態度他	5％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	資料を配布しますので、各自ファイルを用意してください。		
教科書	指定しない		
指定図書	特になし		
参考図書	谷川弘治・駒松仁子・松浦和代・夏路瑞穂編 『病気の子どもの心理社会的支援入門』 ナカニシヤ出版 文部科学省 『特別支援学校教育要領・学習指導要領』 海文堂出版		
オフィスワー	月曜日 2講時・昼休み	メールアドレス	

授業科目	病弱者の心理・生理・病理	開講時期	前期
担当教員	大轟 香	単 位	2
授業の目的と概要	病弱者（特に児童、思春期）の心理的な特徴や生理・病理的な特徴を知ることが目的とする。さらに病弱者に対する対応について理解を深める。さらに、病弱者のハイリスクとしての極低出生体重児（極小未熟児）についても学習する。病弱者の定義を学習した後、それぞれの心理や生理、病理の特徴をつかみ基礎的な対応や病弱者の支援についてを学習する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病弱者の心理・生理・病理的特徴について説明することができる。</li> <li>・病弱者の病気の概要や病気に対する注意点について説明することができる。</li> <li>・病弱者に対する基礎的な対応を述べるることができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は人間科学部人間関係専攻発達臨床心理コースのDP③「援助や支援の根底に求められる価値観や倫理感について説明することができる」にかかわる科目である。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	病弱者とは	復習	
第2回	極低出生体重児（極小未熟児）の心理・生理・病理（1） 極低出生体重児とは	ミニレポート① 授業内容の復習	
第3回	極低出生体重児（極小未熟児）の心理・生理・病理（2） ハイリスク児への支援	ミニレポート① 授業内容の復習	
第4回	腎疾患の心理・生理・病理（1） 腎疾患とは	ミニレポート② 授業内容の復習	
第5回	腎疾患の心理・生理・病理（2） 腎疾患の子どもが抱えやすい問題とその対応について	ミニレポート② 授業内容の復習	
第6回	心疾患の心理・生理・病理 心疾患とその子どもが抱えやすい問題とその対応について	ミニレポート② 授業内容の復習	
第7回	小児の糖尿病・肥満の心理・生理・病理	ミニレポート② 授業内容の復習	
第8回	てんかんの心理・生理・病理（1） てんかんとは	ミニレポート③ 授業内容の復習	
第9回	てんかんの心理・生理・病理（2） 発作に対する対応とてんかんを持つ人への配慮について	ミニレポート③ 授業内容の復習	
第10回	小児がんの心理・生理・病理（白血病を中心に）	ミニレポート③ 授業内容の復習	
第11回	アレルギー疾患・喘息の心理・生理・病理（1） ぜんそくを中心に	ミニレポート④ 授業内容の復習	
第12回	アレルギー疾患・喘息の心理・生理・病理（2） 食物アレルギーを中心に	ミニレポート④ 授業内容の復習	
第13回	病弱者の家族への支援（1） 家族の思い	ミニレポート④ 授業内容の復習	
第14回	病弱者の家族への支援（2） 家族への支援	ミニレポート④ 授業内容の復習	
第15回	まとめ	復習、期末レポートへの準備	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60% 期末レポート 35% ミニレポート（4回）		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	5% 受講態度を考慮します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	プリントを配布しますので、ファイルを用意して下さい。 事前に授業計画に書かれている疾患について自己学習をしておいて下さい。		
教科書	使用しない		
指定図書	特になし		
参考図書	谷川弘治・駒松仁子、松浦和代・夏路瑞穂編 『病気の子どもの心理社会的支援入門』 ナカニシヤ出版 小野次朗・西牧謙吾・榎原洋一編著 『特別支援教育に生かす病弱児の生理・病理・心理』 ミネルヴァ書房		
オフィスアワー	火曜日 昼休み・3講時	メールアドレス	

授業科目	ビジュアル日本史	開講時期	前期
担当教員	横山 尊	単 位	2
授業の目的と概要	<p>*テーマ：原節子とその時代  2015年9月の死去が大きな話題となった「伝説」の女優、原節子（1920年生まれ）は、1935年にデビューし、1962年に事実上の引退をし、その死去まで隠遁生活を送った。彼女の活動は、日中戦争、三国同盟、太平洋戦争、戦後復興とその終わりと重なっており、戦前と戦後の狭間の時期を考察する上でも格好の材料を提供してくれる。  本講義は、原節子が出演した代表作を概観することで、その時期の政治・文化のあり方を理解し、表現する能力を磨くことを目的とする。これら作品群は、特に女性や家族のあり方を考察する上で興味深い材料を提供してくれる。同時に、原節子自身や、小津安二郎や黒澤明など個々の映画監督の個性、同時期の映画界やメディアの内情への理解も深めたい。  講義は、①題材とする映画を読み解く上での基礎知識の解説→②実際の映画鑑賞→③小レポートの作成のサイクルで展開する。</p>		
到達目標	<p>①戦前・戦後の日本映画やそれをめぐる制度の歴史についての基礎知識を習得し、理解を深める。  ②映画を通して、戦前・戦後の日本の文化、政治、社会を読み解く視点を身につける。  ③講義ごとの小レポート作成や試験を通して、映像史料を読解し、論理的な議論を展開する能力を身につける。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	後期の日本思想史と同時に受講すれば、本講義の理解はさらに深まるだろう。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンスー原節子の生涯と代表作	講義レジュメを復習し参考図書にも目を通したい。	
第2回	新しき土（アーノルド・ファンク監督、1937年）①	講義レジュメを復習し参考図書にも目を通したい。	
第3回	新しき土（アーノルド・ファンク監督、1937年）②	講義レジュメを復習し参考図書にも目を通したい。	
第4回	決戦の大空へ（渡辺邦夫監督、1943年）①	講義レジュメを復習し参考図書にも目を通したい。	
第5回	決戦の大空へ（渡辺邦夫監督、1943年）②	講義レジュメを復習し参考図書にも目を通したい。	
第6回	わが青春に悔なし（黒澤明監督、1946年）①	講義レジュメを復習し参考図書にも目を通したい。	
第7回	わが青春に悔なし（黒澤明監督、1946年）②	講義レジュメを復習し参考図書にも目を通したい。	
第8回	晩春（小津安二郎監督、1949年）①	講義レジュメを復習し参考図書にも目を通したい。	
第9回	晩春（小津安二郎監督、1949年）②	講義レジュメを復習し参考図書にも目を通したい。	
第10回	めし（成瀬巳喜男監督、1951年）①	講義レジュメを復習し参考図書にも目を通したい。	
第11回	めし（成瀬巳喜男監督、1951年）②	講義レジュメを復習し参考図書にも目を通したい。	
第12回	東京物語（小津安二郎監督、1953年）①	講義レジュメを復習し参考図書にも目を通したい。	
第13回	東京物語（小津安二郎監督、1953年）②	講義レジュメを復習し参考図書にも目を通したい。	
第14回	小早川家の秋（小津安二郎監督、1961年）①	講義レジュメを復習し参考図書にも目を通したい。	
第15回	小早川家の秋（小津安二郎監督、1961年）②	講義レジュメを復習し参考図書にも目を通したい。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	50%		
レポート	0%		
小テスト等	40%		
成果発表	0%		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>本講義では戦中・戦後の映画（大半はモノクロ）を見ますが、これらは画面が暗く、音声も聞き取りづらいことも少なくありません。人によっては苦痛や退屈さのみを感じるかもしれず、そうした方の受講はお勧めできません。また、小レポートを頻繁に課した上で、定期試験も実施します。ご自身の適性をよく考えた上で受講してください。  講義中に鑑賞する映画は、変更の可能性もあります。上に記したのは暫定的な予定です。  私語などの迷惑行為を行なった者には退室を命じます。</p>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	千葉伸夫『原節子—伝説の女優』平凡社、2001年 『ユリイカ』48巻3号（特集：原節子と〈昭和〉の風景）、2016年2月		
オフィスアワー	講義時間前後の休憩時間。	メールアドレス	

授業科目	ビジネス英語		開講時期	前期
担当教員	野中 誠司		単位	2
授業の目的と概要	<p>企業活動がグローバル化した結果、世界の人々とコミュニケーションを行うための共通手段として、英語の重要性がますます高まっている。この授業では、ビジネスの現場で求められる基本的な英語力を身につけることを第1目的とする。また、ビジネス分野における知識・技能を活用して、コミュニケーション・スキル、論理的思考力、問題解決能力など社会生活に必要な基礎的技能的習得および向上を第2目的とする。</p> <p>基本的に教科書を使って授業を進めるが、教科書には必要最低限のことしか書かれていないので、補足説明を行う。そのための板書を毎回行うので、専用ノートを必ず準備しておくこと。また、語学は反復が重要である。教科書の内容に準拠した音声ファイルをインターネット上の指定のサイトからダウンロードして、英文を見なくても音声だけで内容が理解できるようになるまで練習すること。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネスの現場に必要な単語や表現を理解し、それらを口頭と文章で再現することができる。</li> <li>2. ビジネスに関連した英文を音声で聞いたり、精読や多読によって、その内容が理解できる。</li> <li>3. ビジネス分野における知識・技能を、自己にふさわしい将来設計（キャリアプランニング）に活用できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Telephone 1: 電話に対応する			予習pp. 1-5	
第2回 Telephone 1: 電話に対応する			予習pp. 1-5	
第3回 Business Email: Eメールを読む			予習pp. 6-10	
第4回 Business Email: Eメールを読む			予習pp. 6-10	
第5回 Telephone 2: 正確な情報を得る			予習pp. 11-15	
第6回 Telephone 2: 正確な情報を得る			予習pp. 11-15	
第7回 Business Letter: ビジネスレターを読む			予習pp. 16-20	
第8回 Business Letter: ビジネスレターを読む			予習pp. 16-20	
第9回 Company Profile: 会社について説明する			予習pp. 31-35	
第10回 Company Profile: 会社について説明する			予習pp. 31-35	
第11回 Your Job: 自分の仕事を説明する			予習pp. 41-45	
第12回 Your Job: 自分の仕事を説明する			予習pp. 41-45	
第13回 Preparation for Meetings: 会議の準備をする			予習pp. 91-95	
第14回 Preparation for Meetings: 会議の準備をする			予習pp. 91-95	
第15回 まとめ			復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	なし			
小テスト等	30%			
成果発表	なし			
受講態度他	20%: 主体的かつ積極的に参加している点を評価する。無条件で付与される出席点ではない。無断欠席および遅刻は回数に関係なく減点する。10分以上の遅刻も欠席とみなす。無断欠席6回で受講放棄とみなし、名簿から氏名を削除する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開講日から教科書を使用するので、事前に購入しておくか、必要な箇所をコピーするなどして授業に出席すること。教科書なしで授業に参加した場合は、最終評価から減点などのペナルティーを科す。第2回以降の授業にもこのルールを適用する。</li> <li>2. 名簿順に座席を指定するので、指定された席にすわること。座席の要望があれば、開講日に受けつけるので申し出ること。</li> <li>3. 病気、忌引などやむをえない理由で欠席した場合は、客観的な証明書類を後日必ず提出すること。提出がない場合、無断欠席</li> </ol>			
教科書	T. Tsujimoto / J. Noguchi / A. Miyama / A. Mikuhira / R. Kirinura / J. Mirao (2015), "Getting Global," KINSEIDO			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に相談のこと。	メールアドレス		

授業科目	ビジネス英語 I		開講時期	前期
担当教員	佐藤 勇治		単 位	1
授業の目的と概要	この授業では、グローバル化の時代にビジネスに影響を与える諸要因と、それらが英語でどのように表現されているかを理解することを目的とする。その結果として、ビジネス世界で必要とされる英語での読解力と表現力を身につけることも目的である。具体的には、税制などの政治の動き、株価や為替変動などの経済の動きなど、ビジネスに影響を与える諸要因を扱うことで、ビジネス界にかかわる英語を学んでいく。			
到達目標	この授業を履修することで、1. ビジネスを取り巻く諸要因の一端が理解できるようになり、2. ビジネスに関わる諸事象の英文資料を読み理解する基礎知識を身につけ、3. ビジネスに関わる諸事象を英語で表現できるようになることが到達目標である。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、本学の「社会における自己実現」という教育目標と、「自己実現のための特定分野の知識と技能の獲得」というDPに関わるものである。その土台に立ち、現代社会学部の「コミュニケーション能力を持った社会に貢献できる女性の育成」という教育目標と「現代社会に必要なコミュニケーション能力の獲得と活用」というDPを具体化するものである。「ビジネスコミュニケーション」「実務英語I・II」「国際ビジネス」など他の科目とも関連して、グローバルな展開が益々進展するビジネス分野での基礎力養成に役立つものである。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	ビジネスと英語の関わりについて		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第2回	国政と税とビジネス		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第3回	外国為替の変動		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第4回	物価、失業率、景気見通し		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第5回	株価の動き		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第6回	マーケットシェア競争		課題レポートに取り組むこと	
第7回	賃金交渉		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第8回	知的財産権と特許訴訟		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第9回	自然災害と企業損益		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第10回	ビジネス情報		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第11回	共同事業		課題レポートに取り組むこと	
第12回	経済予測		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第13回	国際経済機関		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第14回	労務問題		教科書の所定箇所を読み問に答えること	
第15回	国際金融		定期試験の準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%			
レポート	40%(学期中に所定の課題に対してレポートを2回提出)			
小テスト等	%			
成果発表	%			
受講態度他	%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ビジネスを取り巻く政治や経済の動きを日頃からテレビ、ラジオ、新聞、インターネットなどから知るように努めること。特に英語でそれらの情報がどのように表現されているかに留意すること。受講に際し指定された教科書の部位を読み、問に答え、また課題に取り組むことで本科目の狙いを達成するように努めること。			
教科書	佐藤哲三(他)、『Let's Enjoy Business English』、南雲堂 (最初の授業日に担当教員からの案内に従い購入すること)			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介する			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	ビジネス英語Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	佐藤 勇治		単位	1
授業の目的と概要	この授業では、国際ビジネスの英語を企業内外のコミュニケーションに場面をとり、文書・口頭の両面でその形式と内容と表現について学ぶことを目的とする。具体的には、国際ビジネスで英語コミュニケーションが、どのような状況で必要となるのか、また、その際どのような英語の知識が必要となるのかを学ぶことを目的としている。さらに、国際ビジネスを展開するために必要とされる国際マーケティングや国際取引の仕組みについても、その基礎的な知識を得ることも目的としている。内容的には、取引先との手紙やメールによるやりとり、面会を通じた商談、国際マーケティングを通じた市場理解、そして貿易取引に関係した仕組みとやりとりを英語を通じて学ぶ。			
到達目標	到達目標は、国際ビジネスにおいて、目的に応じた各種手紙とメールを理解し、書けること。商談に関する面談などを文書と口頭で行えること。国際マーケティングは何のためにどのようなことを行うのかを理解できること。実際の国際取引を行うために必要な過程を理解し、文書によるコミュニケーションがとれることである。いずれの場合も、基礎的な知識と技能を得ることが目標である。			
この授業が目的としてDPや関連する科目など	この授業は、本学の「自己実現をする人の育成」という教育目標と、そのための「特定分野の知識と技能の獲得」というDPに基いている。この土台の上に、現代社会学部の「コミュニケーション能力を持った職業人として社会に貢献できる女性の育成」という教育目標の実現のために、学部のDPである「コミュニケーション能力を身に付け活用できる人」の育成に寄与することを目指している。ビジネス分野の「ビジネスコミュニケーション」や「国際ビジネス」とも関連した科目である。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業内容と進め方についての紹介	教科書の所定の個所を読んでくること		
第2回	英文ビジネスレター作成の基礎（レター・Eメールの形式と用語・記号）	教科書の所定の個所を読んでくること		
第3回	英文ビジネスレター事例学習（会社紹介・注文書・履歴書）	教科書の所定の個所を読んでくること		
第4回	英文ビジネスレター事例学習（会議案内・苦情・お詫び）	教科書の所定の個所を読んでくること		
第5回	国際ビジネス会話（種類と内容）	課題レポートに取り組むこと		
第6回	国際ビジネス会話事例学習（面談予約・会社訪問）	教科書の所定の個所を読んでくること		
第7回	国際ビジネス会話事例学習（食事会・工場訪問）	教科書の所定の個所を読んでくること		
第8回	国際マーケティングの概要（国情・市場・取引先等の調査）	教科書の所定の個所を読んでくること		
第9回	国際取引の仕組み（輸出・輸入）と関係書類（商業送り状・船荷証券）	教科書の所定の個所を読んでくること		
第10回	国際取引の仕組み（輸出・輸入）と関係書類（信用状・包装明細書）	課題レポートに取り組むこと		
第11回	国際取引の実務（照会・取引先の選定）	教科書の所定の個所を読んでくること		
第12回	国際取引の実務（売買交渉）	教科書の所定の個所を読んでくること		
第13回	国際取引の実務（契約）	教科書の所定の個所を読んでくること		
第14回	国際取引の実務（注文・手配・決済）	教科書の所定の個所を読んでくること		
第15回	ビジネス英語の総括と今後の発展学習についての案内	定期試験の準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	60%			
レポート	40%（所定の課題に対するレポートを2回提出）			
小テスト等	%			
成果発表	%			
受講態度他	%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日頃のテレビ、新聞、インターネットニュースなどに登場するビジネス関係の記事やニュースに関心を持って読んだり、見たり、聞いたりすること。特に英語でどう表現されているかに関心を持って触れてみる。受講に際しては、指定個所の予習と復習に努め、所定の課題にも取り組むこと。			
教科書	日本商工会議所（編）、『日商ビジネス英語検定3級公式テキスト』（改訂版）、日本能率協会マネジメントセンター			
指定図書	なし			
参考図書	授業中に適宜紹介する			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	ビジネスコミュニケーション		開講時期	後期
担当教員	大橋 健治		単 位	2
授業の目的と概要	<p>「お客様とのコミュニケーションがうまくいかない」、「上司や同僚など、会社の人間関係で悩んでいる」、「嫌いな人と仕事をしなくてはいけない」、学生が就職して社会人になるとこのような問題から逃げられない。しかも、対人関係の問題から早期に離職してしまうケースが多いという現実がある。本授業では、学生でも想像可能なケーススタディ（事例研究）を用意して、職場で遭遇する対人コミュニケーションのあり方を学ぶことを目的とする。</p> <p>授業の目的を効果的に達成するために、TBL (Team-Based Learning) を導入する。TBLを成立させるためには、個々の学生が責任を持って授業外学修に取り組み→授業において真摯にチームで討議を行い→クラス全体で討議を行うとともに→教員からのメッセージを受け取り、気づきを内省するというプロセスが不可欠である。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネスコミュニケーションの基礎（あいさつ、敬語、人間関係の作り方、セールス、プレゼン、ビジネス文書、会議、メールなど）が理解できる。</li> <li>2. ビジネスコミュニケーションの基礎を応用して実践できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現代社会学部のDP④現代社会に必要なコミュニケーションならびに情報リテラシー能力を身につけ活用することができる、を達成することを目的に設置された授業である。1年次の「実務英語Ⅰ・Ⅱ」、2年次の「ビジネス英語Ⅰ」、「ビジネス英語Ⅱ」、「ソフトウェア演習A・B」、3年次の「ソフトウェア演習C・D」などと関連立てて受講することにより、DP④の達成を支援していく。さらに「インターンシップⅠ」、「インターンシップⅡ」を履修しようとする学生は、本授業を履修することが前提となっているので留意すること。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業）	シラバスの内容の吟味と履修の意思決定		
第2回	今さら人に聞けない！ ビジネスコミュニケーションの基礎知識（第1章）：チーム討議&クラス討議	受講ノートの指示に沿った教科書第1章の事前学修・事後学修		
第3回	今さら人に聞けない！ ビジネスコミュニケーションの基礎知識（第1章）：教員との対談	受講ノートに記述した授業の内容と自分なりの見解の整理		
第4回	チームビルディング演習	継続して受講予定の学生は必ずチームビルディング演習に参加すること		
第5回	人に好かれる！ 良い「人間関係」の作り方（第2章）：チーム討議&クラス討議	受講ノートの指示に沿った教科書第2章の事前学修・事後学修		
第6回	人に好かれる！ 良い「人間関係」の作り方（第2章）：教員との対談	受講ノートに記述した授業の内容と自分なりの見解の整理		
第7回	売り込まずに売れる！ 「セールストーク」テクニック（第3章）：チーム討議&クラス討議	受講ノートの指示に沿った教科書第3章の事前学修・事後学修		
第8回	売り込まずに売れる！ 「セールストーク」テクニック（第3章）：教員との対談	受講ノートに記述した授業の内容と自分なりの見解の整理		
第9回	一目置かれる！ 「プレゼンテーション」の技術（第4章）：チーム討議&クラス討議	受講ノートの指示に沿った教科書第4章の事前学修・事後学修		
第10回	一目置かれる！ 「プレゼンテーション」の技術（第4章）：教員との対談	受講ノートに記述した授業の内容と自分なりの見解の整理		
第11回	どんなピンチも切り抜ける！ 状況別のビジネスコミュニケーション（第5章）：チーム討議&クラス討議	受講ノートの指示に沿った教科書第5章の事前学修・事後学修		
第12回	どんなピンチも切り抜ける！ 状況別のビジネスコミュニケーション（第5章）：教員との対談	受講ノートに記述した授業の内容と自分なりの見解の整理		
第13回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション）と質疑応答	成果発表の準備と授業内容の振り返り		
第14回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション）と質疑応答 受講ノートの提出	成果発表の準備と授業内容の振り返り		
第15回	授業のまとめと振り返り 受講ノートの返却	過去14回の授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 受講ノートの提出（最終ページに授業全体の振り返りを必ず記述のこと）			
小テスト等	なし			
成果発表	20% オーラル・プレゼンテーション			
受講態度他	50% TBLへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の目的と概要で述べたように、本授業ではTBL (Team-Based Learning) を導入する。TBLを成立させる大前提は、個々の学生による自らとチームの仲間の学修への責任をもった授業外学修である。これを怠る学生は授業の場に入ることを拒否する。初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し、受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。</p>			
教科書	箱田忠昭著『今さら聞けない！ビジネスコミュニケーション入門』フォレスト出版（2011、1400円＋税） ※初回の授業時に本授業専用の受講ノートを配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	ビジネス実務演習 I		開講時期	後期
担当教員	大橋 健治		単 位	2
授業の目的と概要	<p>企業であれ公共事業体であれ、組織は目標をもって活動する。ビジネス実務とは、チームが担う課題達成に向けた仕事（協働）と、個人が担う役割達成に向けた仕事（個働）の二つの側面からみた活動である。本授業では、この協働と個働の二側面からビジネス実務を学び、職場で大切にされる価値観や職場での身の処し方の基本を修得することを目的とする。授業の目的を効果的に達成するために、TBL (Team-Based Learning) を導入する。TBLを成立させるためには、個々の学生が責任を持って授業外学修に取り組み→授業において真摯にチームで討議を行い→クラス全体で討議を行うとともに→教員からのメッセージを受け取り、気づきを内省するというプロセスが不可欠である。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネス実務の概念が理解できる。</li> <li>2. ビジネス実務に就く上で必要となる基礎知識を身につけることができる。</li> <li>3. ビジネス実務に就く上での持論を語るすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現代社会学部ビジネス社会コースのDP③ビジネス組織の目標を達成していくための効果的なコミュニケーションのあり方を説明することができる、を達成することを目的に設置された授業である。2年次の「セールスマネジメント」、3年次の「ビジネス実務演習Ⅱ」、「国際ボランティア」、「ソーシャルビジネス論」などと関連立てて受講することにより、DP③の達成を支援していく。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業）	シラバスの内容の吟味と履修の意思決定		
第2回	第1章 ビジネス実務とは何か	受講ノートの指示に沿った教科書第1章の事前学修・事後学修		
第3回	第2章 ビジネスとは何か	受講ノートの指示に沿った教科書第2章の事前学修・事後学修		
第4回	チームビルディング演習	継続して受講予定の学生は必ずチームビルディング演習に参加すること		
第5回	第3章 ビジネスの管理Ⅰ 利益	受講ノートの指示に沿った教科書第3章の事前学修・事後学修		
第6回	第4章 ビジネスの管理Ⅱ 組織と人材	受講ノートの指示に沿った教科書第4章の事前学修・事後学修		
第7回	第5章 ビジネスの管理Ⅲ 社会・経済・法規・倫理	受講ノートの指示に沿った教科書第5章の事前学修・事後学修		
第8回	第6章 個人業務とマネジメント	受講ノートの指示に沿った教科書第6章の事前学修・事後学修		
第9回	第7章 協働業務とマネジメント	受講ノートの指示に沿った教科書第7章の事前学修・事後学修		
第10回	第8章 キャリアデザインと能力開発	受講ノートの指示に沿った教科書第8章の事前学修・事後学修		
第11回	第9章 ビジネスコミュニケーションⅠ 職場	受講ノートの指示に沿った教科書第9章の事前学修・事後学修		
第12回	第10章 ビジネスコミュニケーションⅡ 会議	受講ノートの指示に沿った教科書第10章の事前学修・事後学修		
第13回	成果発表と質疑応答	成果発表の準備と授業内容の振り返り		
第14回	成果発表と質疑応答 受講ノートの提出	成果発表の準備と授業内容の振り返り		
第15回	授業のまとめと振り返り 受講ノートの返却	過去14回の授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 受講ノートの提出（最終ページに授業全体の振り返りを必ず記述のこと）			
小テスト等	なし			
成果発表	20% オーラル・プレゼンテーション			
受講態度他	50% TBLへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の目的と概要で述べたように、本授業ではTBL (Team-Based Learning) を導入する。TBLを成立させる大前提は、個々の学生による自らとチームの仲間の学修への責任をもった授業外学修である。これを怠る学生は授業の場に入ることを拒否する。初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し、受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。</p>			
教科書	九州TBL研究会が作成した「ビジネス実務総論」の教科書をプリントにして配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日の昼休み	メールアドレス		



授業科目	ビジネス中国語		開講時期	前期
担当教員	王 震緒		単位	2
授業の目的と概要	<p>中国と関わっていく上で、語学的なテクニックは言うに及ばず、文化、風習などを知っておくことが、物事をスムーズに運ぶためには必要不可欠であるとの認識から、この半期の授業では、語学のみならず、時事問題を通して中国に対する理解を深めることを目的とします。</p> <p>文法の習得、長文和訳、会話、スキットの内容に関するコメントを要求する授業をしていきます。学生を指名し、質問に答えさせるという形式をとります。講義や、進捗状況によってはビデオ鑑賞も行う予定です。テキストのみならず、随時プリントを配布して長文訳や会話の練習も行う予定です。</p>			
到達目標	中国語の読解力を強化するとともに、ビジネスの場における簡単な会話の習得を目指します。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション		教科書の予習	
第2回	第1課「中国概況」文法説明		教科書の予習	
第3回	第1課「中国概況」訳、ヒアリング、スピーキング		教科書の予習	
第4回	第2課「中国人の食生活」文法説明		教科書の予習	
第5回	第2課「中国人の食生活」訳、ヒアリング、スピーキング		教科書の予習	
第6回	第3課「中国の祝祭日」文法説明		教科書の予習	
第7回	第3課「中国の祝祭日」訳、ヒアリング、スピーキング		教科書の予習	
第8回	ビデオ鑑賞		教科書の予習	
第9回	第4課「家族間のあいさつ」文法説明		教科書の予習	
第10回	第4課「家族間のあいさつ」訳、ヒアリング、スピーキング		教科書の予習	
第11回	第5課「交際のマナー」文法説明		教科書の予習	
第12回	第5課「交際のマナー」訳、ヒアリング、スピーキング		教科書の予習	
第13回	ビデオ鑑賞		教科書の予習	
第14回	復習		教科書の予習	
第15回	復習		教科書の予習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70% 定期試験の結果を最重視します。			
レポート	随時指示します。			
小テスト等	-			
成果発表	大学の発表時期に準じます。			
受講態度他	30% 授業中の発表など、授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修にあたっては初級中国語の単位を習得している必要があるのみならず、中国に興味を持っている必要があります。ただし、初級段階の学習とは異なり、当クラスでは中国に対する興味こそが、充実した授業にするためのモチベーションだと判断するからです。教科書・辞書必携(電子辞書も可)。			
教科書	池上貞子ほか『新・中国ってこんな国! -日々是変化-』朝日出版社			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	ビジネス文書作成		開講時期	後期
担当教員	藤村 やよい		単 位	2
授業の目的と概要	<p>ビジネスにおいて、相手に情報をわかりやすく正確に伝えるために、伝えるべき情報を文書で示すことは重要な仕事です。その際にビジネス文書作成者の作成能力や人柄が問われるので、正確で信用できる文書や「見直し」の重要性について理解し、正確で信頼できるビジネス文書作成や心のこもった文書を作成するための知識や技術を身につけます。</p> <p>ビジネス文書には、社内文書と社外文書（社交文書を含む）があります。特に会社を代表して書く社外文書は、会社の信用にかかわります。そのため基本形式にしたがった正確なビジネス文書の書き方や心のこもった社交文書の書き方を学びます。さらに縦書きの手書きのお礼状、封筒・はがきなどの書き方や文書作成に関連する知識・技術を学びます</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本形式にしたがったビジネス文書を作成することができる。</li> <li>2. ビジネス文書特有の慣用句を使った文書作成ができる。</li> <li>3. 信頼のある正確な文書を作成することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回 ビジネス文書とは			講義の際に指示します	
第 2回 ビジネス文書の種類、特徴、作成の心構え			講義の際に指示します	
第 3回 文書作成の要点、社内文書と社外文書			講義の際に指示します	
第 4回 社内文書の基本形式と書き方			講義の際に指示します	
第 5回 社外文書の基本形式			講義の際に指示します	
第 6回 社外文書の書き方			講義の際に指示します	
第 7回 社外文書			課題	
第 8回 社交文書の書き方			講義の際に指示します	
第 9回 縦書きの書き方と手書きのポイント			講義の際に指示します	
第10回 縦書きの社交文書			課題	
第11回 封筒・はがき・返信はがきの書き方			講義の際に指示します	
第12回 郵便の知識、機密文書の取り扱い			講義の際に指示します	
第13回 文書表現関連知識			講義の際に指示します	
第14回 文書の整理・保管・活用			講義の際に指示します	
第15回 総括			講義の際に指示します	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％ 筆記試験			
レポート	10％ 課題の未提出者は受験資格なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	課題の提出は、締切日を厳守すること。			
教科書	石井典子、三村善美『ビジネス文書実務』早稲田教育出版			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します			
オフィスワーク	授業の前後に相談してください		メールアドレス	

授業科目	【閉講】 フィールド・ワーク	開講時期	後期
担当教員	榊 祐子	単位	2
授業の目的と概要	<p>グローバル化する社会において日本でも増加傾向にある外国人、特に留学生に対する支援のあり方やその方法、実践活動について学ぶことを目的とする。福岡における留学生支援の実態やボランティア活動、交流プログラムへの参加を通して、課題や問題点などを認識、考察する力を身につける。</p> <p>異文化適応のプロセスや多文化間カウンセリングなどの基本的知識や理論について概説し、留学生が抱える問題や現状を具体的な例を用いながら説明する。さらに、留学生の生活支援やボランティア活動、多文化理解プログラムなどを体験し、そこから見えてきた課題や検討すべき問題、自らが学んだ点などを発表、ディスカッションを通じて理解を深めたい。</p>		
到達目標	<p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 異文化適応のプロセスを自分の体験を通して説明することが出来る</li> <li>2. 留学生が直面している問題や留学生を取り巻く日本社会の現状について自ら調べることが出来る</li> <li>3. 多文化理解プログラムやボランティア活動の体験を通して見えてきた問題を具体的に述べる事が出来る</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション：授業の進め方、講義概要について	復習	
第2回	研究、実践活動の基礎：	復習	
第3回	異文化適応とは：カルチャーショックと適応のプロセス	カルチャーショックのプロセスについて体験レポート作成	
第4回	多文化間カウンセリング：文化にかかわるカウンセリングの基本的な理解	復習	
第5回	留学生と日本社会①：日本における留学生政策と現状	留学生政策と現状について調べる	
第6回	留学生と日本社会②：留学生を取り巻く問題	異文化理解に関わる活動を調査	
第7回	心理学研究方法：心理学における研究計画の立て方	実習の目的、課題を整理	
第8回	課外実習計画書作成：実習の目的や活動計画の明確化	実習計画書作成	
第9回	課外実習：留学生の生活支援やボランティア活動、多文化理解プログラムへの参加①	実習の振り返り	
第10回	課外実習：留学生の生活支援やボランティア活動、多文化理解プログラムへの参加②	実習の振り返り	
第11回	課外実習：留学生の生活支援やボランティア活動、多文化理解プログラムへの参加③	実習の振り返り	
第12回	実習報告書作成：課外実習での体験から課題や問題点を考察	実習報告書作成	
第13回	発表：課外実習の総括と自己評価①	実習報告書をもとに発表レジュメ作成	
第14回	発表：課外実習の総括と自己評価②	実習報告書をもとに発表レジュメ作成	
第15回	総括	復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40％ 課外実習の活動報告と課題や問題点の検討		
小テスト等	-		
成果発表	40％ 課外実習計画書、体験報告書の作成と発表		
受講態度他	20％ 講義、演習、及び発表への積極的態度		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	留学生支援や多文化理解などの領域に関心を持ち、ボランティア活動やプログラムを自ら選択し、参加するという積極的姿勢が求められる。		
教科書	特になし		
指定図書	特になし		
参考図書	授業中に適宜紹介		
オフィスワー	火曜日5限	メールアドレス	

授業科目	フィールド・ワーク		開講時期	後期
担当教員	山崎 安則		単位	2
授業の目的と概要	<p>平成の福祉改革によって、わが国の社会福祉のあり方も“地域”を重要なフィールドとして再編・再構築が進んでいます。本講義では、地域福祉計画の策定の意義とその展開手法について、フィールド・ワーク（地域踏査）を通して実践的に学んでいきます。</p> <p>授業では、各自の研究テーマに基づく地域を指定し、既存の関連資料や地方自治体が刊行している行政報告書や行政資料等の収集と住民への意識調査等を通して、その町の生活問題や福祉問題などを収集・整理・分析を行い、最終的に報告及びレポートを作成します。</p>			
到達目標	<p>①フィールド・ワーク（地域踏査）の概念を理解し説明できる。  ②地域踏査の技法を用いて情報の収集を行い課題の抽出・整理・分析ができる。  ③報告レポートにまとめて発表することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	フィールド・ワーク「概念と手法」	復習		
第2回	フィールド・ワーク「対象と課題設定」	復習		
第3回	フィールド・ワーク「グループディスカッション」	課題		
第4回	フィールド・ワーク「地域踏査①」	課題		
第5回	フィールド・ワーク「地域踏査②」	課題		
第6回	フィールド・ワーク「地域踏査③」	課題		
第7回	フィールド・ワーク「中間発表」	課題		
第8回	フィールド・ワーク「地域踏査④」	課題		
第9回	フィールド・ワーク「地域踏査⑤」	課題		
第10回	フィールド・ワーク「地域踏査⑥」	課題		
第11回	フィールド・ワーク「計画書の作成」	課題		
第12回	フィールド・ワーク「計画書の作成」	課題		
第13回	フィールド・ワーク「計画書の発表」	課題		
第14回	報告レポートの作成	課題		
第15回	発表とまとめ	課題		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60％ 期末レポート			
小テスト等	—			
成果発表	20％ 中間発表・期末発表			
受講態度他	20％ 履修規定・受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自分が暮らしているまちや地域のことに関心を向け、市の広報紙や社協だよりなどの地域の情報誌を収集するなど主体的に取り組んでください。また、各自の地域踏査の状況に応じて随時、助言・支援などのスーパービジョンを行っていきます。			
教科書	なし			
指定図書	武川正吾編『地域福祉計画ーガバナンス時代の社会福祉計画ー』有斐閣アルマ			
参考図書	牧里毎治他編著『協働と参加の地域福祉計画』ミネルヴァ書房			
オフィスワー	火曜日を除く昼休み時間（12:20～13:10）	メールアドレス		

授業科目	布教法【本願寺派教師】		開講時期	通年
担当教員	高石 双樹・北嶋 文雄・芳村 隆法		単位	4
授業の目的と概要	<p>布教の意義・方法・心得を学び、原稿を作成し、実際に布教することができるようになる。  “すべてのものの救い”を願う浄土真宗は、その教えを他者と共有しようとする布教伝道と不可分である。本講義では、布教について、まずその意義や方法・心得について学び、次いで実演に向けて布教案を作成して、実演・講評を行う。そして、その繰り返しによって、より良い布教ができるようになることを目指す。</p>			
到達目標	<p>1、布教の意義・作法・心得を理解することができる。  2、布教案を作成することができる。  3、布教することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は浄土真宗本願寺派教師資格課程科目です。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 布教の意義			浄土真宗と布教	
第2回 布教の方法			布教の使命と役割	
第3回 布教の心得			布教現場の認識	
第4回 布教の実際			布教の作法	
第5回 布教案作成			教えを伝える工夫	
第6回 布教案検討			相互検討と修正	
第7回 布教の実演			布教実演と相互検討	
第8回 反省・講評			自己評価と相互評価	
第9回～29回 布教案作成～反省・講評の繰り返し			それぞれの課題を克服	
第30回 まとめ			布教ということ	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
—			—	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	20% 布教案を評価。			
小テスト等	なし。			
成果発表	40% 布教実演を評価。			
受講態度他	40% 講義に向き合う姿勢を評価。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>浄土真宗の教えにふれ、それを他者と共有するための学びを通して、人間的に成長していくことを目標にして講義をすすめます。  様々な困難も担当教員や他の学生と協力しながら、乗り越えてください。</p>			
教科書	『浄土真宗聖典 註釈版 第二版』 本願寺出版			
指定図書	なし。			
参考図書	講義時に紹介します。			
オフィスアワー	講義後。	メールアドレス		

授業科目	福祉科教育法Ⅰ【中等教職】		開講時期	前期
担当教員	高石 伸人		単位	4
授業の目的と概要	<p>高等学校教育における福祉科教育の意義について学び、それらの重要性について考察することにより、その価値を認識できるようになる。このために、まず、高等学校教育の目的を理解し、福祉科教育の内容がそれとどのように関係し、位置づけられているかを理解する。そして、それを踏まえて福祉科教育を担当する教員としての基礎的・実践的能力を身につける。</p> <p>本講義では、福祉科教育を担当する教師をイメージして、これに関する知識と実践に重きを置き、前半では福祉科教育の内容を中心に、後半では個人発表や模擬授業を通じて、教育実践力を習得することができるように展開し、各自を教育力を高める。</p>			
到達目標	<p>本講義を受講することにより、高等学校教育の目的を理解し、福祉科教育の重要性を認識する。また、単なる知識としてだけでなく、これを基礎として実践能力を習得する。さらに、教師としての姿勢、授業の内容、教材研究などの授業に臨む態度を身につけ、福祉科教師として授業を展開することができるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	社会福祉関係科目、人権や医療、国際関係等の関連科目についても積極的に履修すること。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション、高等学校教育の目的と福祉科教育	授業内容の復習		
第2回	福祉科教育の意義及び編成	授業内容の復習		
第3回	高等学校学習指導要領と福祉科教育	授業内容の復習		
第4回	福祉科教育の内容 (1) (2)	授業内容の復習		
第5回	福祉科教育の指導法 (1) (2)	指導内容の復習		
第6回	教科「社会福祉基礎」の考え方、内容及び具体的展開方法	授業内容の復習		
第7回	学習指導案の作成方法 (1) (2)	授業内容の復習		
第8回	学習指導案の作成	学習指導案の作成と発表準備		
第9回	模擬授業 (1) 評価表による評価 教員のコメント	模擬授業の課題整理と発表準備		
第10回	模擬授業 (2) 評価表による評価 教員のコメント	模擬授業の課題整理		
第11回	模擬授業の振り返り、フィールドワークの目的と事前学習	事前学習の課題整理		
第12回	フィールドワークⅠ～福祉問題の現場を歩く～	フィールドワークの反省と発表準備		
第13回	模擬授業 (3) 評価表による評価 教員のコメント	模擬授業の課題整理と発表準備		
第14回	模擬授業 (4) 評価表による評価 教員のコメント	模擬授業の課題整理		
第15回	福祉科教育の実践課題と福祉科教員の役割	授業内容の復習とまとめ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 学習指導案の評価 50% 模擬授業の評価			
受講態度他	30% 質問等による授業への積極的参加を考慮			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻や無断欠席はしないようにお願いします。発表時間の遅刻等は他の受講生に迷惑をかけることになるので注意してください。			
教科書	『社会福祉基礎』実教出版			
指定図書	なし			
参考図書	二文字理明他編著『福祉科教育学』明石書店 学習指導要領			
オフィスアワー	火曜日の授業前30分	メールアドレス		

授業科目	福祉科教育法Ⅱ【中等教職】		開講時期	後期
担当教員	高石 伸人		単 位	4
授業の目的と概要	高等学校福祉科の福祉に関する科目の中から、おもに「コミュニケーション技術」「介護総合演習」の内容を取り上げ、学習指導要領に基づく教育法について学ぶ。福祉科教育法Ⅰの基礎の上に、総合的な指導計画及び授業計画を作成して授業を実施できるよう、福祉科教育の担当者としての専門的な資質を身につける。「総合的学習の時間」における福祉的な内容の取扱い、地域との連携による生涯学習的位置づけの福祉教育なども取り上げる。前期に引き続き学習指導案を作成して模擬授業も行う。			
到達目標	自ら指導計画を作成し、それに基づき高校の授業さながらの模擬授業を展開し、相互に評価することを通じて、指導法や技術を向上させ、高等学校福祉科教員としての実践力を高める。あわせて、社会の多様な問題を考え、アプローチする実践力の習得も目指す。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	社会福祉関係科目、人権や医療、国際関係等の関連科目についても積極的に履修すること。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	高校福祉科の教育目標と教育内容の考え方	授業内容の復習		
第2回	教科「コミュニケーション技術」の考え方、内容及び具体的展開方法	授業内容の復習		
第3回	教科「介護総合演習」の考え方、内容及び具体的展開方法	授業内容の復習		
第4回	「コミュニケーション技術」の内容理解 (1) (2)	授業内容の復習		
第5回	「介護総合演習」の内容理解 (1) (2)	授業内容の復習		
第6回	福祉科教育の教材研究 (1)	授業内容の復習		
第7回	福祉科教育の教材研究 (2)	授業内容の復習		
第8回	学習指導案の作成	指導案の作成と発表準備		
第9回	模擬授業 (1) 評価表による評価 教員のコメント	模擬授業の課題整理と発表準備		
第10回	模擬授業 (2) 評価表による評価 教員のコメント	模擬授業の課題整理		
第11回	フィールドワークⅡ～地域連携による福祉教育～	フィールドワークの反省と模擬授業の発表準備		
第12回	模擬授業 (3) 評価表による評価 教員のコメント	模擬授業の課題整理と発表準備		
第13回	模擬授業 (4) 評価表による評価 教員のコメント	模擬授業の課題整理		
第14回	「総合的学習の時間」と福祉教育	授業内容の復習		
第15回	全体評価 「高校福祉科教員のあるべき姿」について	授業内容の復習とまとめ		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	20% 学習指導案の評価 50% 模擬授業の評価			
受講態度他	30% 質問等による授業への積極的参加を考慮			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	模擬授業の評価は、学生各自の判断に基づいて記述するものとし、私情を交えたり個人攻撃は厳に慎むこと。また、評価を受けた側は真摯に受け止め、必要に応じて意見を交わし、異存がある場合は指導教員に申し出る。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	二文字理明他編著『福祉科教育学』明石書店 学習指導要領			
オフィスワー	火曜日の授業前30分	メールアドレス		

授業科目	福祉計画論		開講時期	前期
担当教員	山崎 安則		単位	2
授業の目的と概要	<p>2000（平成12）年の社会福祉法の改正によって地域福祉の推進が掲げられ、平成の市町村合併以降身近なところで地域福祉計画や地域福祉活動計画の策定が進行しています。そこで本講義では、地域福祉計画を取り上げ、その意義や目的さらに策定過程や方法の基礎的知識と技術を学んでいきます。</p> <p>授業では、20人単位のグループを編成し架空の市町村の住民として策定作業に関わっていきます。具体的にはKJ法によるワークショップを通して、その市町村の生活課題や福祉問題などを収集・整理・分析を行い、その解決に向けた計画書を策定し、各グループが発表していきます。最後には、学生個人が住民懇談会への案内状（チラシ・広報紙）を作成し評価しあいます。</p>			
到達目標	<p>①地域福祉計画の意義と目的が説明できる。          ②地域福祉計画を策定することができる。          ③課題の整理や分析を通して説明ができる。          ④図表を使ってチラシや広報紙を作成することができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この科目は社会福祉士資格取得の指定科目です。          本科目は社会福祉士養成科目の講義科目として重要な科目です。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	わが国の社会福祉計画法の概念と遠隔	予習		
第2回	社会福祉計画の種類と地域福祉計画の範囲と性格	予習		
第3回	地域福祉計画の概要「理念と範囲」	予習		
第4回	地域福祉計画の策定①「グループ分けと手順の説明」	予習		
第5回	地域福祉計画の策定②「ワークショップとKJ法」	予習		
第6回	地域福祉計画の策定③「生活課題や福祉問題の抽出」	課題		
第7回	地域福祉計画の策定④「生活課題や福祉問題の収集と整理」	課題		
第8回	地域福祉計画の策定⑤「生活課題や福祉問題の分析」	課題		
第9回	地域福祉計画の策定⑥「中間発表」	課題		
第10回	地域福祉計画の策定⑦「生活課題・福祉問題の解決」	課題		
第11回	地域福祉計画の策定⑧「計画書の作成」	課題		
第12回	地域福祉計画の策定⑨「計画書の作成」	課題		
第13回	地域福祉計画の策定⑩「計画書の発表」	課題		
第14回	広報紙・チラシによるプレゼンテーション「評価」	課題		
第15回	地域福祉計画とまちづくり	課題		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	定期試験なし 50％課題の提出			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	20％			
受講態度他	30％履修規定・受講態度・出席状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	自分が暮らしているまちや地域のことに関心を向け、行政の広報紙や社協だよりなどの地域情報を収集するなど主体的に取り組んでほしい。また、演習ではグループごとの策定状況に応じて助言・支援などのスーパービジョンを行います。			
教科書	新・社会福祉士養成講座編『福祉行財政と福祉計画』中央法規 第4版 2015年			
指定図書	島津淳也編著『地域福祉計画の理論と実践』ミネルヴァ書房			
参考図書	牧里毎治編著『共同と参加の地域福祉計画』ミネルヴァ書房			
オフィスワー	火曜日を除く昼休み時間（12:20～13:10）	メールアドレス		



授業科目	フランス語 I		開講時期	前期
担当教員	中軽米 明子		単位	1
授業の目的と概要	<p>授業の目的としては、フランス語と高校時代まで慣れ親しんできた外国語である英語との間に、どのような共通点がありどのような違いがあるかを認識しつつ、簡単なフランス語表現を習得することである。また、それによって異文化交流に積極的になることである。</p> <p>授業では、教科書を中心に最小限のフランス語文法とフランス語表現を学習する。原則として、その日の授業で学んだフランス語表現は、その日の授業時間内に暗記する（授業時間内にできるだけ暗記の時間を設けます）。次の授業でも復習する。</p>			
到達目標	<p>①最小限のフランス語文法を説明できる。</p> <p>②15以上のフランス語表現を話すことができる。</p> <p>③15以上のフランス語表現を書くことができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、文学部及び人間科学部共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身に付ける。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	フランス語のアルファベット（アルファベ）、発音の特徴	予習（pp.6-8）		
第2回	「私は～である」、「きみは～である」という表現	復習（pp.6-8）、予習（p.10）		
第3回	自己紹介の仕方	予習（p.11）		
第4回	「これは～です」という表現	予習（p.14）		
第5回	「これは何ですか？」という表現	予習（p.15）		
第6回	「～に住んでいる」という表現	予習（p.18）		
第7回	「どこに住んでいますか？」という表現	予習（p.19）		
第8回	第1課～第3課までの復習、数の数え方	予習（p.26の数字）		
第9回	「はい」、「いいえ」で答える表現	予習（p.24）		
第10回	買い物の仕方	予習（p.25）		
第11回	「行く」、「～をする」などの重要な動詞	予習（p.28）		
第12回	「何が」、「誰が」などの様々な疑問文	予習（p.29）		
第13回	「どんな」という疑問文	予習（p.32）		
第14回	場所を尋ねる表現、あいさつなどの日常表現のまとめ	予習（p.33）		
第15回	補足と復習	定期試験に備えての復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	70% 定期試験期間中に、70点満点の筆記テストを行います。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 授業への積極的参加度を評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業時間外での予習をした、しなかったに関係なく、とにかく授業に毎回出席することが大事です。授業時間に集中しましょう。私語は厳禁。			
教科書	藤田裕二『パリ・ボルドー』朝日出版社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	フランス語 I		開講時期	前期
担当教員	木下 樹親		単位	1
授業の目的と概要	この授業の目的は、フランス語のつづり字と発音体系の関係を把握し、簡単な会話表現を習得することと、現代フランスの社会や文化についての基礎知識を身につけることです。 そのため、わかりやすく楽しい教科書で発音と文法を学習し、その応用表現を口頭と筆記の両面で反復練習します。また教科書付属の動画でフランス文化の一端を見たり、学習内容に応じてフランスのポップスをときどき聴いたりします。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語のつづり字を見て、正しい発音ができるようになる。</li> <li>2. 自己紹介に始まる会話表現を覚え、運用することができるようになる。</li> <li>3. フランスの諸文化の基礎的な特徴を述べることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、学部共通科目のDP 3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	ガイダンス (授業の進め方、仏和辞典、試験と成績認定などについての説明) 第0課① フランス語の発音と綴り字	予習 pp. 6-7		
第2回	第0課② フランス語の発音と綴り字	予習 pp. 7-8		
第3回	第1課① 自己紹介する	予習 pp. 10-11		
第4回	第1課② 自己紹介する	予習 pp. 12-13		
第5回	第2課① 物を指し示す	予習 pp. 14-15		
第6回	第2課② 物を指し示す	予習 pp. 16-17		
第7回	第3課① 尋ねる	予習 pp. 18-19		
第8回	第3課② 尋ねる	予習 pp. 20-21		
第9回	第4課① 買い物をする	予習 pp. 24-25		
第10回	第4課② 買い物をする	予習 pp. 26-27		
第11回	第5課① 物事や人について尋ねる	予習 pp. 28-29		
第12回	第5課② 物事や人について尋ねる	予習 pp. 30-31		
第13回	第6課① 場所を尋ねる	予習 pp. 32-33		
第14回	第6課② 場所を尋ねる	予習 pp. 34-35		
第15回	授業の総括	これまでの学習内容の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	55% 定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	10% 小テスト			
成果発表	なし			
受講態度他	35% 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書の出版社のWEB(目次参照)で、映像と音声視聴しながら予・復習をしてください。 授業には積極的に参加し、不明な点や疑問点があれば、遠慮なく尋ねてください。 授業中の不必要な私語、スマートホンの依存的な使用、食事等は言うまでもなく禁止です。			
教科書	藤田裕二『パリ - ボルドー』朝日出版社			
指定図書	特になし。			
参考図書	仏和辞典。初回時に紹介します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	フランス語 I	開講時期	前期
担当教員	間瀬 玲子	単位	1
授業の目的と概要	<p>わかりやすく楽しい教科書を使いながら、フランス語のコミュニケーション能力を身につける。また教科書の内容に即したDVDを見ながら、フランス文化を理解することができるようになることを目的とする。</p> <p>フランス語のコミュニケーション能力を身につけるために最小限の文法と役立つ表現を勉強する。またフランス語学習を通してフランスの文化、社会に関するさまざまな情報に触れる。パリの映像を見ながら、フランスとフランス語を身近に感じながら学ぶ。この教科書ではパリに来た大学生がボルドーを訪れ、料理やワインに関心を持っていくというストーリーを中心としている。教科書準拠のHPも用意されており、美しい風景やフランス人の日常生活を鑑賞することができる。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最小限のフランス語文法を説明できる。</li> <li>2. 簡単なフランス語表現を話すことができる。</li> <li>3. 読み・書き・話す・聞くという4技能をバランスよく身につける。</li> <li>4. フランス文化の基礎を説明できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は文学部、人間科学部の共通科目DP3 「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関する科目です。</p> <p>関連する科目 文学部 フランス語Ⅱ、フランス語Ⅲ、フランス語Ⅳ、比較文学、言語学 人間科学部 フランス語Ⅱ</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	世界遺産「パリのセーヌ河岸」	予習 p. 5	
第2回	フランス語の発音と綴り字 (アルファベから半母音まで)	予習 pp. 6-8	
第3回	フランス語の発音と綴り字 (子音字)、自己紹介する	予習 pp. 8-11	
第4回	国籍を表す形容詞、世界の中のフランス語、物を指し示す	予習 pp. 12-14	
第5回	質問の仕方、フランスの電子辞書、形容詞の位置	予習 pp. 14-16	
第6回	フランスのクール・ジャパン、尋ねる	予習 pp. 17-19	
第7回	話し方の変化、街にあるもの、モンバルナス地区	予習 pp. 19-21	
第8回	練習問題を解く (1課～3課)、買い物をする	予習 pp. 22-24	
第9回	朝市での買い物、数字 (1～30)	予習 pp. 24-26	
第10回	市場、物事や人について尋ねる	予習 pp. 27-29	
第11回	ボルドー行きの相談をする、フランスの主要都市、パリの鉄道の駅	予習 pp. 29-31	
第12回	場所を尋ねる、ホテルを探す、挨拶・日常表現	予習 pp. 32-34	
第13回	世界遺産の街ボルドー、「～したいと言う」	予習 pp. 34-36	
第14回	エクスカーションの申し込み方、観光に関する語彙、ボルドーワイン	予習 pp. 37-39	
第15回	授業の総括	教科書準拠HP及び筑女ネットの授業資料を復習する	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	50% 定期試験 (文法、読解、単語)		
レポート	0%		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	50% 質問や発表による授業への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>予習箇所を明記している回は、授業前に予習をしてください。</p> <p>筑女ネット (LMS) にアップしている授業資料を積極的に活用してください。</p> <p>教科書準拠HPにはテキスト内の映像と音声が開示されています。授業前に必ず見ておいてください。</p>		
教科書	藤田裕二 『パリ・ボルドー』朝日出版社		
指定図書	佐藤絵子『パリのいちばん』パイ・インターナショナル、富田正二『CD付 仏検5級スピード合格 (新訂版)』、飯田良子『ネイティブがよく使うフランス語会話表現ランキング』 語研		
参考図書	仏和辞典、参考書等は授業中に紹介します。		
オフィスアワー	木曜日 2 講時	メールアドレス	

授業科目	フランス語Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	間瀬 玲子	単位	1
授業の目的と概要	フランス語Ⅰに続き、わかりやすく、楽しく学ぶことができる教科書を使いながら、フランス語のコミュニケーション能力を身につける。また教科書の内容に即したDVDの映像を見ながら、フランス文化を理解することができるようになることを目的とする。フランス語のコミュニケーション能力を身につけるために最小限の文法と役立つ表現を勉強する。またフランス語学習を通してフランスの文化、社会に関するさまざまな情報に触れる。フランス語Ⅱでは大学生が世界的なワインの生産地ボルドーに到着し、料理やワインに対する関心を深めていきます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最小限のフランス語文法を説明できる。</li> <li>2. 簡単なフランス語表現を話すことができる。</li> <li>3. 読み・書き・話す・聞くという4技能をバランスよく身につける。</li> <li>4. フランス文化の基礎を説明できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は文学部、人間科学部の共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。</p> <p>関連する科目  文学部 フランス語Ⅰ、フランス語Ⅲ、フランス語Ⅳ、比較文学、言語学  人間科学部 フランス語Ⅰ</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	4課から7課までの練習問題を解く、興味を述べる	予習 pp. 40-42	
第2回	ボルドーのシャトー巡り、話し方の変化、国の名前	予習 pp. 42-44	
第3回	ワインの試飲の仕方、誘う	予習 pp. 45-47	
第4回	世界遺産の村 サン＝テミリオン、日常よく用いられる代名動詞	予習 pp. 47-49	
第5回	天候と時刻を言う、ブドウ畑の様子	予習 pp. 50-52	
第6回	天候と時刻の表現、レストランにおける注文から終了まで	予習 pp. 52-54	
第7回	8課から10課までの練習問題を解く、数量を表す	予習 pp. 54-56	
第8回	ワインと食事のマリアージュ、食べ物と飲み物の表現	予習 pp. 56-58	
第9回	ボルドーの特産物、比較する	予習 pp. 59-61	
第10回	レストランでの会話、形容詞、フランスとイギリスの比較	予習 pp. 61-63	
第11回	過去のことを話す、ボルドーの思い出話（複合過去を使う）	予習 pp. 64-66	
第12回	フランス人とバカンス、11課から13課までの練習問題を解く	予習 pp. 66-68	
第13回	仮定する（将来の事）	予習 pp. 69-71	
第14回	将来について話し合う、月と曜日、ブドウの収穫の季節	予習 pp. 72-74	
第15回	授業の総括	範囲の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	50％ 定期試験（文法、読解、単語）		
レポート	0％		
小テスト等	0％		
成果発表	0％		
受講態度他	50％ 質問や発表による授業への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習箇所を明記している回は、授業前に予習をしてください。筑女ネット（LMS）にアップしている授業資料を積極的に活用してください。		
教科書	フランス語Ⅰで使用した藤田裕二『パリ・ボルドー』朝日出版社（授業前に教科書を準備しておいてください）		
指定図書	富田正二『CD付 仏検4級スピード合格（新訂版）』三修社、小倉博史『CD付 仏検対策4級問題集』白水社、清岡智比古『フラ語動詞、こんなにわかっていいかしら？（改訂版）』白水社		
参考図書	授業の中で適宜紹介します。		
オフィスアワー	水曜日 4 講時	メールアドレス	

授業科目	フランス語Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	木下 樹親	単位	1
授業の目的と概要	この授業の目的は、「フランス語Ⅰ」の履修を踏まえ、フランス語のつづり字と発音体系の関係を把握し、簡単な会話表現を習得することと、現代フランスの社会や文化についての基礎知識を身につけることです。そのため、わかりやすく楽しい教科書で発音と文法を学習し、その応用表現を口頭と筆記の両面で反復練習します。また教科書付属の動画でフランス文化の一端を見たり、学習内容に応じてフランスのポップスをとときき聴いたりします。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語のつづり字を見て、正しい発音ができるようになる。</li> <li>2. 自己紹介に始まる会話表現を覚え、運用することができるようになる。</li> <li>3. フランスの諸文化の基礎的な特徴を述べることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、学部共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 第7課①	～したいと言う	予習 pp. 36-37	
第2回 第7課②	～したいと言う	予習 pp. 38-39	
第3回 第8課①	興味を述べる	予習 pp. 42-43	
第4回 第8課②	興味を述べる	予習 pp. 44-45	
第5回 第9課①	誘う	予習 pp. 46-47	
第6回 第9課②	誘う	予習 pp. 48-49	
第7回 第10課①	天候と時刻を言う	予習 pp. 50-51	
第8回 第10課②	天候と時刻を言う	予習 pp. 52-53	
第9回 第11課①	数量を表す	予習 pp. 56-57	
第10回 第11課②	数量を表す	予習 pp. 58-59	
第11回 第12課①	比較する	予習 pp. 60-61	
第12回 第12課②	比較する	予習 pp. 62-63	
第13回 第13課①	過去のことを語る	予習 pp. 64-65	
第14回 第13課②	過去のことを語る	予習 pp. 66-67	
第15回 第14課、および授業の総括		予習 pp. 70-71 これまでの学習内容の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	55% 定期試験		
レポート	なし		
小テスト等	10% 小テスト		
成果発表	なし		
受講態度他	35% 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書の出版社のWEB(目次参照)で、映像と音声を視聴しながら予・復習をしてください。授業には積極的に参加し、不明な点や疑問点があれば、遠慮なく尋ねてください。授業中の不必要な私語、スマートホンの依存的な使用、食事等は言うまでもなく禁止です。		
教科書	フランス語Ⅰに引き続き、藤田裕二『パリ - ボルドー』朝日出版社を使用します。フランス語Ⅱのみ受講する人は、各自生協に注文してください。		
指定図書	特になし。		
参考図書	授業の中で適宜紹介します。		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	フランス語Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	中軽米 明子	単位	1
授業の目的と概要	<p>授業目的としては、フランス語Ⅰで学んだフランス語表現に加えて、さらに多くの表現を習得する。それによって、フランス人と実際にコミュニケーションをとりたいという欲求を高める。</p> <p>授業ではフランス語Ⅰと同様に、教科書を中心に最小限のフランス語文法とフランス語表現を学習する。原則として、その日の授業で学んだフランス語表現は、その日の授業時間内に暗記する（授業時間内にできるだけ暗記の時間を設けます。）。次回の授業でも復習する。</p>		
到達目標	<p>①最小限のフランス語文法を説明できる。</p> <p>②フランス語Ⅰで覚えたフランス語表現に加えて、さらに15以上のフランス語表現を話すことができる。</p> <p>③フランス語Ⅰで覚えたフランス語表現に加えて、さらに15以上のフランス語表現を書くことができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、文学部及び人間科学部共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身に付ける。」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	「～したい」という表現	予習 (p36)	
第2回	第4課～第7課の復習、30以上の数字を覚える	予習 (p74の数字)	
第3回	興味を述べる	予習 (p.42)	
第4回	「寝る」、「起きる」などの表現	予習 (p.46)	
第5回	天候や時刻の表現	予習 (p.50)	
第6回	命令形、感嘆文	予習 (p.51)	
第7回	第8課～第10課の復習、月と曜日を覚える	予習 (p72の月と曜日)	
第8回	数量の表現	予習 (p.56)	
第9回	レストランでの食事	予習 (p.57)	
第10回	比較級	予習 (p.60)	
第11回	未来の表現の仕方	予習 (p60)	
第12回	過去の表現	予習 (p.64)	
第13回	もうひとつの過去の表現	予習 (p.64)	
第14回	仮定の表現	予習 (p.70)	
第15回	補足と復習	定期試験に備えての復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	70% 定期試験期間中に70点満点の筆記テストを行います。		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	30% 授業への積極的参加度を評価。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業時間外での予習をした、しなかったに関係なく、とにかく授業に毎回出席することが大事です。授業時間に集中しましょう。私語は厳禁。		
教科書	藤田裕二『パリ・ボルドー』朝日出版社		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	フランス語Ⅲ		開講時期	前期
担当教員	間瀬 玲子		単位	1
授業の目的と概要	フランス語Ⅰ・Ⅱに続き、フランス語の基礎的なコミュニケーション能力を身につける。また教科書の内容に即したDVDを見ながら、フランス文化の基礎的な事柄を理解することができるようになることを目的とする。フランス語の細かい文法事項を網羅的に勉強するのではなく、文法をできる限り簡略化して、より自由に自発的に会話ができるようになることを目標とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な文法を説明できる。</li> <li>2. フランス語の短い会話を行うことができる。</li> <li>3. 筑女ネットにアップした音声聞き取ることができる。</li> <li>4. フランス語の短い文章を日本語に訳すことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は文学部の共通科目DP3 「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる授業です。</p> <p>関連する科目 文学部 フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ、フランス語Ⅳ、比較文学、言語学</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	知らない単語の意味をフランス語でたずねる、自己紹介、アルファベ	予習 pp.9-11		
第2回	自己紹介(名前、職業、住んでいる町)の続き。数字。	予習 pp.11-13		
第3回	発音の仕方と書き方、教室で使える言葉、先生が使う言葉、否定文	予習 pp.14-16		
第4回	否定の質問に答える、自分の状況を表現する	予習 pp.16-18		
第5回	「～である」「持っている」、会話を長く続ける方法を学ぶ	予習 pp.19-21		
第6回	理想の恋人を表現する、フランス語が上手になる方法	予習 pp.21-23		
第7回	「～する」と「行く」時や頻度を表す副詞句	予習 pp.24-26		
第8回	交通手段、行ってみたい国を表現する、好きなことを言う	予習 pp.26-30		
第9回	趣味について話す(スポーツ、料理、音楽など)、どちらが好きかを言う	予習 pp.30-32		
第10回	100までの数字、時間、日付、値段	予習 pp.33-35		
第11回	パン屋さんでの会話を行う	予習 pp.35-37		
第12回	形容詞を覚える	予習 pp.38-40		
第13回	冠詞の復習、天気・天候	予習 pp.40-42		
第14回	怖いものについて話す、疑問文の作り方	予習 pp.42-44		
第15回	成果発表と授業の総括	成果発表の練習と範囲の復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%定期試験(文法、読解、単語)			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	20% 巻末の会話部分をグループで発表してもらいます。詳細は授業中に説明します。			
受講態度他	30% 質問や発表による授業への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習箇所を明記している回は、授業前に予習をしてください。筑女ネット(LMS)にアップしている授業資料は積極的に活用してください。			
教科書	オリヴィエ・ロリヤール、小田涼 『鳥に乗って一直線』 朝日出版社			
指定図書	富田正二『CD付 仏検3級スピード合格(新訂版)』三修社、西村亜子『フランス語で楽しむ日本昔ばなし』IBCパブリッシング、長野督 『フランス語で日記をつけよう』白水社			
参考図書	授業中に適宜紹介します。			
オフィスワー	木曜日2講時	メールアドレス		

授業科目	フランス語Ⅲ	開講時期	前期
担当教員	木下 樹親	単位	1
授業の目的と概要	フランス語Ⅰ・Ⅱの習得事項を踏まえ、発音と文法を復習しながら、より実用的な表現を身につけることを目的とします。また現代フランス文化の諸状況についての理解を深めます。また学習内容に応じてフランスのポップスをとときき聴きます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発音と文法の体系をより早く関係づけられる。</li> <li>2. より高度な表現を覚え、運用することができる。</li> <li>3. フランスの諸文化の特徴を述べることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、学部共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	ガイダンス（授業の進め方、試験と成績認定などについての説明）、第1課：自己紹介①	予習 pp.10-11、14	
第2回	第2課：自己紹介②	予習 pp.12-13、15	
第3回	第3課：否定	予習 pp.16-19	
第4回	第4課①：etreとavoir	予習 pp.20-21	
第5回	第4課②：etreとavoir	予習 pp.22-23	
第6回	第5課①：faireとaller	予習 pp.24-25	
第7回	第5課②：faireとaller	予習 pp.26-27	
第8回	第6課①：aimerとpreferer	予習 pp.30-31	
第9回	第6課②：aimerとpreferer	予習 pp.32-33	
第10回	第7課①：数字を用いた表現	予習 pp.34-35	
第11回	第7課②：数字を用いた表現	予習 pp.36-37	
第12回	第8課①：C'est～、Ca l'air～	予習 pp.38-39	
第13回	第8課②：Il y a～	予習 pp.40-41	
第14回	第9課①：天候表現、avoirを用いた表現	予習 pp.42-43	
第15回	第9課②、および授業の総括	予習 pp.44-45、これまでの学習内容の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	55％ 定期試験		
レポート	なし		
小テスト等	10％ 小テスト		
成果発表	なし		
受講態度他	35％ 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書の出版社のWEBからダウンロードできる音声聞きながら予・復習をしてください。授業には積極的に参加し、不明な点や疑問点があれば、遠慮なく尋ねてください。授業中の不必要な私語、スマートホンの依存的な使用、食事は言うまでもなく禁止です。		
教科書	オリヴィエ・ロリヤール、小田涼『鳥に乗って一直線』朝日出版社		
指定図書	特になし。		
参考図書	授業中に適宜紹介します。		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス	



授業科目	【閉講】フランス語Ⅳ		開講時期	後期
担当教員	間瀬 玲子		単位	1
授業の目的と概要	フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに続き、フランス語の基礎的なコミュニケーション能力を身につける。また教科書の内容に即したDVDを見ながら、フランス文化の基礎的な事柄を理解することができるようになることを目的とする。フランス語の細かい文法事項を網羅的に勉強するのではなく、文法をできる限り簡略化して、より自由に自発的に会話ができるようになることを目標とする。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基礎的な文法を説明できる。</li> <li>2. フランス語の短い会話を行うことができる。</li> <li>3. 筑女ネットにアップした音声聞きながら音声問題を解くことができる。</li> <li>4. フランス語の長い文章を日本語に訳すことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は文学部の学部共通科目DP3 「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」を達成するための科目です。</p> <p>関連科目 文学部 フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ、フランス語Ⅲ、比較文学、言語学</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	フランスの休暇について、時間の表現	予習 pp. 45-47		
第2回	動詞の具体的な使い方（使う、食べる、勉強する、思う、考える）	予習 pp. 48-49		
第3回	動詞の具体的な使い方（買う、払う、服を着る）	予習 pp. 50-51		
第4回	冠詞のまとめ	予習 pp. 52-53		
第5回	レストランでの会話を覚える	予習 pp. 54-55		
第6回	動詞の具体的な使い方（来る、出発する、外に出る）	予習 pp. 56-57		
第7回	道に迷う、パリの記念建造物	予習 pp. 58-59		
第8回	近接未来、できることを表現する	予習 pp. 60-61		
第9回	義務、禁止の表現、誘いを断る表現	予習 pp. 62-63		
第10回	フランスの家族について、週末の遊び	予習 pp. 64-65		
第11回	自分の家族を紹介する	予習 pp. 66-67		
第12回	代名動詞の使い方	予習 pp. 68-69		
第13回	フランスの祭日・年中行事、時間の表現	予習 pp. 70-71		
第14回	年・月・日付けの言い方	予習 pp. 72-73		
第15回	成果の発表と授業の総括	範囲の復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50％定期試験（文法、読解、単語）			
レポート	0％			
小テスト等	0％			
成果発表	20％ 巻末の会話部分をグループで発表してもらいます。詳細は授業中に説明します。			
受講態度他	30％ 質問や発表等による授業への積極的な参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習箇所を明記している回は、授業前に予習をしてください。筑女ネット（LMS）にアップしている授業資料を積極的に活用してください。			
教科書	フランス語Ⅲで使用したオリヴィエ・ロリヤール、小田涼 『鳥に乗って一直線』朝日出版社（授業前に教科書を準備しておいてください）			
指定図書	池田理代子『「ベルサイユのばら」で学ぶフランス語』朝日新聞出版、田中幸子『Eメールのフランス語』増補版、白水社、榎本恵子『毎日1文 筆記体でフランス語』白水社			
参考図書	授業中に適宜紹介します。			
オフィスワー	水曜日 4 講時	メールアドレス		

授業科目	フランス語Ⅳ	開講時期	後期
担当教員	木下 樹親	単位	1
授業の目的と概要	フランス語Ⅲの内容をさらに発展させ、発音と文法の学習を継続します。より高度な表現を身につけることを目的とします。また現代フランスの諸文化についての理解を深めます。フランス語Ⅲの教科書を続けて使用します。学習した表現を口頭と筆記の両面で反復練習します。また学習内容に応じてフランスのポップスをとときどき聴きます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 発音と文法の体系をより早く関係づけられる。</li> <li>2. より高度な表現を覚え、運用することができる。</li> <li>3. フランスの諸文化の特徴を述べることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、学部共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	第10課①：第1群規則動詞	予習 pp. 46-47	
第2回	第10課②：第1群規則動詞	予習 pp. 48-49	
第3回	第10課③：第1群規則動詞	予習 pp. 50-51、52	
第4回	第11課①：不規則動詞	予習 pp. 54-55	
第5回	第11課②：不規則動詞	予習 pp. 56-57	
第6回	道順の教え方	予習 pp. 58-59	
第7回	第12課①：助動詞的動詞	予習 pp. 60-61	
第8回	第12課②：助動詞的動詞	予習 pp. 62-63	
第9回	第13課①：代名動詞	予習 pp. 64-65	
第10回	第13課②：家族紹介、目的語代名詞	予習 pp. 66-67	
第11回	第13課③：目的語代名詞	予習 pp. 68-69	
第12回	第14課①：複合過去	予習 pp. 70-71	
第13回	第14課②：複合過去	予習 pp. 72-73	
第14回	半過去	予習 pp. 74-75	
第15回	授業の総括	これまでの学習内容の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	55％ 定期試験		
レポート	なし		
小テスト等	10％ 小テスト		
成果発表	なし		
受講態度他	35％ 質問や発表等による授業への積極的な参加を考慮します。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	教科書の出版社のWEBからダウンロードできる音声聞きながら予・復習をしてください。授業には積極的に参加し、不明な点や疑問点があれば、遠慮なく尋ねてください。授業中の不必要な私語、スマートホンの依存的な使用、食事等は言うまでもなく禁止です。		
教科書	フランス語Ⅲに引き続き、オリヴィエ・ロリヤール、小田涼『鳥に乗って一直線』朝日出版社を使います。Ⅳのみ履修する人は、各自生協で注文してください。		
指定図書	特になし。		
参考図書	授業中に適宜紹介します。		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	フランス語Ⅴ	開講時期	前期
担当教員	間瀬 玲子	単位	1
授業の目的と概要	フランス語Ⅰ～Ⅳまでの学習で習得したフランス語コミュニケーション能力を基礎とし、文法知識の更なる定着をはかる。そして読解力、語彙力、聴解力、会話力の向上をめざすことを目的とする。10代から20代のフランス人に対して、趣味、食生活、家族生活、就職活動、将来の夢などについてたずねたインタビューを読む。教科書の内容と関連する映像を見ることにより、フランス文化に対する理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語の長い文章を読むことができる。</li> <li>2. 文法チェック問題を解くことができる。</li> <li>3. 筑女ネットにアップした音声聞き取ることができる。</li> <li>4. フランス文化に関する理解を深める。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	授業の進め方に関する説明	予習 「はじめに」と「目次」	
第2回	東京のフランス人（読解、文法のまとめ）	予習 pp. 2-3	
第3回	東京のフランス人（自己紹介の表現を学ぶ、学生の自己紹介、日本におけるフランスの学校）	予習 pp. 4-5	
第4回	趣味について語る（読解、文法のまとめ）	予習 pp. 6-7	
第5回	趣味について語る（好きなことについて語る、趣味・娯楽の単語、ジャパン・エキスポ）	予習 pp. 8-9	
第6回	フランスでの食生活（読解、文法のまとめ）	予習 pp. 10-11	
第7回	フランスでの食生活（食習慣について話す、食事・食材の単語、フランスの冷凍食品事情）	予習 pp. 12-13	
第8回	日本食のイメージ（読解、文法のまとめ）	予習 pp. 14-15	
第9回	日本食のイメージ（近い未来、近い過去、料理・レストランの単語、フランスにおける日本食ブーム）	予習 pp. 16-17	
第10回	ブルターニュの音楽祭（読解、文法のまとめ）	予習 pp. 1-19	
第11回	ブルターニュの音楽祭（形容詞、音楽フェスティバル）	予習 pp. 20-21	
第12回	パリに住む、地方に住む（読解、文法のまとめ）	予習 pp. 22-23	
第13回	パリに住む、地方に住む（比較する、住環境の単語、パリと地方の違いを学ぶ）	予習 pp. 24-25	
第14回	クロエの1日（読解、文法のまとめ）	予習 pp. 26-27	
第15回	クロエの1日（1日の出来事を表現する、代名動詞、時間・衣類の単語、フランスの小学校）	予習 pp. 28-29	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	50%（読解のポイントと音声問題）		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	50% 発表や質問による授業への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	原則としてフランス語Ⅳまでの単位を取得した学生、または履修中の学生を対象とします。筑女ネットにアップした教材を活用してください。		
教科書	井上櫻子、ヴァンサン・ブランクール『フランスの若者は「いま』』朝日出版社		
指定図書	西村亜子『フランス語日本紹介事典 JAPAMEDIA ジャパメディア』IBCパブリッシング、高橋信良『徹底整理フランス語 動詞のしくみ』白水社、高岡優希『声に出すフランス語 即答練習ドリル』白水社		
参考図書	授業中に適宜紹介します。		
オフィスワー	木曜日 2 講時	メールアドレス	

授業科目	フランス語VI	開講時期	後期
担当教員	間瀬 玲子	単位	1
授業の目的と概要	フランス語 I～V までの学習で習得したフランス語コミュニケーション能力を基礎とし、文法知識の更なる定着をはかる。そして読解力、語彙力、聴解力、会話力の向上をめざすことを目的とする。10代から20代のフランス人に対して、趣味、食生活、家族生活、就職活動、将来の夢などについてたずねたインタビューを読む。教科書の内容と関連する映像を見ることにより、フランス文化に対する理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フランス語の長い文章を読むことができる。</li> <li>2. 文法チェック問題を解くことができる。</li> <li>3. 筑女ネットにアップした音声聞き取ることができる。</li> <li>4. フランス文化に関する理解を深める。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	ヴァカンスとアルバイト (読解、文法のまとめ)	予習 pp. 30-31	
第2回	ヴァカンスとアルバイト (過去の出来事を語る、ヴァカンスに関する単語、フランスのアルバイト事情)	予習 pp. 32-33	
第3回	演劇との出会い (読解、文法のまとめ)	予習 pp. 34-35	
第4回	演劇との出会い (過去の出来事を語る、スペクタクルに関する単語、フランス人と舞台芸術)	予習 pp. 36-37	
第5回	家庭事情 (読解、文法のまとめ)	予習 pp. 38-39	
第6回	家庭事情 (家族について語る、家族・カップルに関する単語、フランスの家庭事情)	予習 pp. 40-41	
第7回	就職問題 (読解、文法のまとめ)	予習 pp. 42-43	
第8回	就職問題 (ジェロンディフを用いて話す、雇用関係の単語、若者の就職難)	予習 pp. 44-45	
第9回	バカロレアを受けてからどうする? (読解、文法のまとめ)	予習 pp. 46-47	
第10回	バカロレアを受けてからどうする? (未来の予定や希望について語る、学校生活の単語、フランスの高等教育)	予習 pp. 48-49	
第11回	所有形容詞、疑問文	予習 pp. 50-51	
第12回	疑問代名詞、指示形容詞	予習 pp. 52-53	
第13回	指示代名詞、命令法	予習 pp. 54-55	
第14回	直説法大過去、直説法前未来	予習 pp. 56-57	
第15回	総復習	予習 範囲を前もって復習しておくこと	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	50% (読解のポイントと音声問題)		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	50% 発表や質問による授業への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	原則としてフランス語 I～IV までの単位を取得した学生、または履修中の学生を対象とします。筑女ネットにアップした教材を活用してください。		
教科書	フランス語Vで使用した井上櫻子、ヴァンサン・ブランクール『フランスの若者は「いま」』朝日出版社 (授業前に教科書を準備しておいてください)		
指定図書	町田健『フランス語文法総解説』研究社、目黒士門『現代フランス広文典(改訂版)』白水社、福田育弘『新・ワイン学入門』集英社インターナショナル		
参考図書	授業中に適宜紹介します。		
オフィスアワー	水曜日 4 講時	メールアドレス	

授業科目	仏教学 I	開講時期	前期
担当教員	小林 久泰	単 位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である仏教とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、仏教の開祖である釈尊の生涯について知る。さらに、仏教の学びを通じて、今の自分の生き方を考える。</p> <p>釈尊の生涯をたどりながら、日本をはじめ世界中に広まった仏教という教えを説いた釈尊の人物像に迫る。そのうえで、自分の生き方を振り返り、より広い視点から人生を考える時間をもつ。それにより、人間にとって宗教がどのような意味を持つのかについて考察を深める。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宗教が何を目的としているかについて説明することができる。</li> <li>2. 釈尊の生涯に起こった主要な出来事について説明することができる。</li> <li>3. 釈尊の教えに照らして自分自身の生き方を振り返ることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、共通科目の DP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成にかかわる科目です。「仏教学II」および「親鸞・人と思想I」「親鸞・人と思想II」と関連する科目です。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	イントロダクション：宗教を学ぶ意味	復習・課題レポート	
第 2回	宗教が目指すもの	復習・課題レポート	
第 3回	世界の中の仏教	復習・課題レポート	
第 4回	仏教成立以前の宗教：バラモン教	復習・課題レポート	
第 5回	仏教成立以前の宗教：沙門たち	復習・課題レポート	
第 6回	釈尊の誕生	復習・課題レポート	
第 7回	少年時代の釈尊	復習・課題レポート	
第 8回	出家の動機：四門出遊	復習・課題レポート	
第 9回	苦行生活とその放棄	復習・課題レポート	
第10回	成道：縁起の理法	復習・学期末レポート	
第11回	説法の躊躇と梵天勧請	復習・学期末レポート	
第12回	はじめての説法：初転法輪	復習・学期末レポート	
第13回	布教活動：様々な人たちとの出会い	復習・学期末レポート	
第14回	入滅：釈尊の遺言	ノートまとめ・全講義の復習・学期末レポート	
第15回	まとめ	ノートまとめ・全講義の復習・学期末レポート	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	法話レポート（10％）・課題レポート（10％）・学期末レポート（20％）		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	60％ 毎回の「感想ラベル」の記述内容および受講態度により評価する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席は指定制とし、遅刻・私語・居眠りなどは減点します。毎回授業終了時に「感想ラベル」を書いて提出すること。		
教科書	配布プリント・『仏教を学ぶために』（筑紫女学園大学・短期大学部編）		
指定図書	なし		
参考図書	授業中、適宜指示する。		
オフィスアワー	水曜 3 講時	メールアドレス	

授業科目	仏教学 I		開講時期	前期
担当教員	宇野 智行		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である仏教とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、仏教の開祖である釈尊の生涯について知る。さらに、仏教の学びを通じて、今の自分の生き方を考える。</p> <p>本学建学の精神である仏教はいかなる要請によって生まれたのか、仏教の目指すところはどこにあるのか、インドの思想的・社会的背景を学習しながら、釈尊の教えとその現代的意義について考える。また、仏教の倫理観・人間観を学ぶことにより、今一度、「わたし」を見つめ直す機会とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宗教が何を目的としているかについて、説明することができる。</li> <li>2. 釈尊の生涯に起こった出来事について、主要な事項を説明することができる。</li> <li>3. 釈尊の教えを通じて、自分の生き方について自分で振り返ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本授業は、共通科目DP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成に関わる科目です。「仏教学II」「親鸞・人と思想I」「親鸞・人と思想II」と関連する科目です。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション		復習・課題レポート「宗教の目的」	
第2回	宗教とは何か①：道徳、哲学との相違		復習・課題レポート「宗教の目的」	
第3回	宗教とは何か②：科学、政治との相違		復習・課題レポート「宗教の目的」	
第4回	仏教以前の宗教①：バラモン教		復習・課題レポート「宗教の目的」	
第5回	仏教以前の宗教・思想②：唯物論		復習・課題レポート「宗教の目的」	
第6回	仏教以前の宗教・思想③：ジャイナ教		復習・課題レポート「宗教の目的」	
第7回	釈尊の誕生：古代インドの社会状況		復習・課題レポート「宗教の目的」	
第8回	若き釈尊の悩み：苦しみとは何か		復習・課題レポート「宗教の目的」	
第9回	釈尊の出家と苦行：苦しみを超越する方法		復習・課題レポート「宗教の目的」	
第10回	釈尊の覚り：縁起の法		復習・学期末レポート「苦しみへの対処法」	
第11回	釈尊の説法：苦しみと煩惱		復習・学期末レポート「苦しみへの対処法」	
第12回	釈尊の入滅：真実の世界		復習・学期末レポート「苦しみへの対処法」	
第13回	仏教と現代社会		復習・学期末レポート「苦しみへの対処法」	
第14回	仏教における幸せとは何か		ノートまとめ 全講義の復習 学期末レポート	
第15回	まとめ		ノートまとめ 全講義の復習 学期末レポート	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	法話レポート（10％）・課題レポート（10％）・学期末レポート（20％）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	60％ 毎回の「講義の感想／意見」および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>座席は指定制とする。遅刻・私語・居眠りなどは減点する。毎回授業終了時（10分間）に、「講義の感想／意見」を書いて提出すること。提出のない場合は大幅な減点対象とする。</p>			
教科書	プリント配布・筑紫女学園大学・短期大学部編『仏教を学ぶために』学術図書出版社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日 15：00-16：20		メールアドレス	

授業科目	仏教学Ⅰ		開講時期	前期
担当教員	栗山 俊之		単位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である仏教とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、仏教の開祖である釈尊の生涯について知る。さらに、仏教の学びを通じて、今の自分の生き方を考える。</p> <p>本学建学の精神である仏教はいかなる要請によって生まれたのか、仏教の目指すところはどこにあるのか、インドの思想的・社会的背景を学習しながら、釈尊の教えとその現代的意義について考えてみましょう。また、仏教の倫理観・人間観を学ぶことにより、今一度、「わたし」を見つめ直す機会にしてください。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 宗教が何を目的としているかについて、説明することができる。</li> <li>2. 釈尊の生涯に起こった出来事について、主要な事項を説明することができる。</li> <li>3. 釈尊の教えを通じて、自分の生き方について自分で振り返ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に全学共通科目のDP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成に関わる科目です。「仏教学Ⅱ」および「親鸞・人と思想Ⅰ」「親鸞・人と思想Ⅱ」と関連する科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 オリエンテーション		仏教を学ぶことの意味について		
第2回 筑紫女学園、その建学の精神・校訓		『聖典』に掲載されている建学の精神・校訓を読んでください		
第3回 建学の精神にもとづく様々な活動（東日本大震災、インド、京都・奈良研修など）		仏教とボランティアや、インド、京都・奈良の関係について調べてください		
第4回 仏教行事の実際（全学礼拝）		仏教行事に参加してみでの感想を提出してください		
第5回 人間について		現代の私たちが抱える様々な課題について考えてみましょう		
第6回 人間について		現代の私たちが抱える様々な課題について考えてみましょう		
第7回 宗教とは		身近にある宗教について、あなたはどうか考えますか		
第8回 インド概説		インドについて		
第9回 仏教誕生以前のインド社会		バラモン教・カースト制度について調べてください		
第10回 釈尊の誕生		一人ひとりの尊さについて		
第11回 人権講演会		上野千鶴子について調べておく		
第12回 若き釈尊の苦悩・「四門出遊」		存在そのものが不可避的に抱える不条理について・生老病死について		
第13回 出家と苦行		覚りへの道、真実との出会いについて		
第14回 釈尊の覚り		無我ということ		
第15回 まとめ		前期の講義を振り返ってください		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	全学礼拝・礼拝アワーレポート（20％）・学期末レポート（30％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50％ 毎回の「講義の感想／意見」および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席は指定制とする。毎回授業終了時（10分間）に、「講義の感想／意見」を書いて提出すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	仏教学 I		開講時期	前期
担当教員	宇治 和貴		単位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である仏教とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、仏教の開祖である釈尊の生涯について知る。さらに、仏教の学びを通じて、今の自分の生き方を考える。</p> <p>釈尊の生涯を、テキストに添って学ぶ。まず、ビデオや資料を用いて感心がもてるようにしたい。そのうえで、釈尊が説いた仏教の思想内容を学ぶ。最終的には、自分たちにとって、仏教で教えることが如何なる意味を持つかを主体的に考えることができるようになる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 釈尊の生涯について、誕生から涅槃までを学ぶ。</li> <li>2. 釈尊がさとした内容が、どのようなものであったかを説明することができる。</li> <li>3. 仏教の教えが、自分にとってどのようなものであるかを述べるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目のDP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成に関わる授業です。「生命倫理」など「いのち」に関する授業を受けるとさらに理解が深まります。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション (連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要)	「私語をすること」について課題カード提出		
第2回	宗教とは何か	「宗教」について課題カード提出		
第3回	現代社会における仏教に対する誤解	「社会」について課題カード提出		
第4回	仏教の基本的性格	「仏教」について課題カード提出		
第5回	釈尊以前の仏教	「インド」について課題カード提出		
第6回	釈尊の生涯 (誕生)	課題 レポート①「世界宗教について考える」		
第7回	釈尊の生涯 (青年時代とその宗教状況)	課題 レポート①「世界宗教について考える」		
第8回	釈尊の生涯 (四門出遊と出家)	課題 レポート①「世界宗教について考える」		
第9回	釈尊の生涯 (修行)	釈尊の「修行」について課題カード提出		
第10回	釈尊の生涯 (成道とその内容)	釈尊の「成道」について課題カード提出		
第11回	釈尊の生涯 (初転法輪)	釈尊の「初転法輪」について課題カード提出		
第12回	釈尊の生涯 (弟子たちの特色)	「釈尊の弟子」について課題カード提出		
第13回	釈尊の生涯 (晩年の釈尊)	課題 レポート②「釈尊の生涯について学ぶ」		
第14回	釈尊の生涯 (最後の説法)	レポート②「釈尊の生涯について学ぶ」		
第15回	まとめ —私たちの生活と仏教—	課題 レポート②「釈尊の生涯について学ぶ」		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50%			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話・メールなどは厳禁です。学内で開催される全学礼拝などに参加してください。			
教科書	釈尊の道—その生涯と教え—			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	火～木の3講目	メールアドレス		



授業科目	仏教学Ⅰ		開講時期	前期
担当教員	中川 正法		単位	2
授業の目的と概要	<p>本学の建学の精神である仏教とはどのような教えであるかを学ぶ。特に、仏教の開祖である釈尊の生涯について知る。さらに、仏教の学びを通じて、今の自分の生き方を考える。</p> <p>釈尊の生涯を、経典に記されている「仏伝」を通して学ぶ。また、美術資料やビデオを用いて、インドやアジア地域において釈尊の生涯がどのように伝えられてきたかを確かめる。出家のきっかけとなった「四門出遊」のエピソードや涅槃に入る直前の釈尊の姿を通して、「わが身の事実」を知り、自分の生き方を見つめていく時間を持つ。また、釈尊に出会った人々の生き方にも注目する。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 釈尊の生涯について、誕生から涅槃までを説明することができる。</li> <li>2. 釈尊が王子でありながら城を出て、修行生活に入った原因を具体的に述べることができる。</li> <li>3. 釈尊が歩んだ道を通して自己と向きあい、自分の生き方を振り返るとともに、社会人として生きることについて考えることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、共通科目のDPⅠ「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成に関わる授業です。この授業で学んだことを「仏教学Ⅱ」でさらに深めることができます。また、「親鸞 人と思想Ⅰ・Ⅱ」を学ぶための基礎的な知識を得ることができます。「生命倫理」など「いのち」に関する授業を受けるとさらに理解が深まります。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 序論 「仏教に出会う」ということ		教科書p. 38-39を読む		
第2回 釈尊の誕生：誕生にまつわるエピソードとその思想的背景		教科書p. 12-13、講義内容をノートにまとめる		
第3回 若き日の釈尊：青年時代 結婚 「四門出遊」		p. 13-14、 ノートまとめ		
第4回 「四門出遊」が語るもの		p. 14 ノートまとめ		
第5回 出家・出城から苦行生活へ		p. 14-15 ノートまとめ		
第6回 出家 苦行の放棄 悪魔との闘い		p. 15-16、 ノートまとめ		
第7回 覚りとその内容		p. 15-16, 24 ノートまとめ		
第8回 梵天勧請：新しいブッダの誕生		p. 16、 ノートまとめ		
第9回 初転法輪とその意義		p. 16-17, 25 ノートまとめ		
第10回 サンガの拡大 サンガを支えた人々 女性の出家		p. 17, 26-27、 ノートまとめ		
第11回 釈尊に出会った人々		p. 17-18、 ノートまとめ		
第12回 晩年の釈尊：大般涅槃経を中心に		p. 19, 28 ノートまとめ		
第13回 涅槃： 最期の説法 舍利の争奪 仏塔の建立		p. 19-20, 29 ノートまとめ		
第14回 涅槃の後、仏教はどう広まったのか		p. 20, 50-51、 ノートまとめ		
第15回 まとめ 宗教の意義		レポート作成準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70％ 期末レポート。課せられたテーマ・書式で書く。授業の理解度を評価。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30％ 授業参加への意欲ならびに授業終了時に提出される感想・意見により評価。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>仏教学は、自分自身と向き合う時間です。私語・携帯電話の使用は厳に慎んでください。</p> <p>学内で開催される全学礼拝・礼拝アワーに積極的に出席すること。</p>			
教科書	『釈尊と親鸞』龍谷ミュージアム編（法蔵館）			
指定図書	なし			
参考図書	『ブッダ物語』中村元・田辺和子 岩波ジュニア新書 / 『21世紀仏教への旅』（インド編上・下）五木寛之 講談社			
オフィスアワー	火曜日と水曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	仏教学Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	小林 久泰		単 位	2
授業の目的と概要	<p>仏教の基本的な教えについての知識を得る。また、仏教の人間観・世界観を通じて、生きることを考える。さらに、現代社会の様々な問題を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>前期で学んだ釈尊の生涯を確認しつつ、仏教の基本的な教えを学ぶ。また、釈尊の入滅後、仏教教団がどのように展開していったのかを概観する。そのうえで、現代社会に生きる私たちにとって仏教がどのような意味を持つかを考えていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 釈尊の思想の基本的内容を説明できる。</li> <li>2. 仏教の現代的意味について自分の見解を表明できる。</li> <li>3. 仏教的な視点から、自分自身の生き方を振り返ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、共通科目の DP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成にかかわる科目です。「仏教学I」および「親鸞・人と思想I」「親鸞・人と思想II」と関連する科目です。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	釈尊の生涯の復習	復習・課題レポート		
第 2回	根源的な勘違い：無常・苦・無我	復習・課題レポート		
第 3回	四つの真理：苦しみの原因とその消滅	復習・課題レポート		
第 4回	八つの正しい道：両極端を離れる	復習・課題レポート		
第 5回	縁起という世界観	復習・課題レポート		
第 6回	心の安らぎ：涅槃寂靜	復習・課題レポート		
第 7回	釈尊入滅後の仏教の展開と大乘仏教運動	復習・課題レポート		
第 8回	慈悲：平等とは何か	復習・課題レポート		
第 9回	智慧：沈黙は語る	復習・課題レポート		
第10回	世俗と勝義	復習・学期末レポート		
第11回	菩薩とは	復習・学期末レポート		
第12回	業報思想とその超越	復習・学期末レポート		
第13回	仏教に対する様々な誤解	復習・学期末レポート		
第14回	仏教の人生観：限りある生命をいかに生きるか	ノートまとめ・全講義の復習・学期末レポート		
第15回	まとめ	ノートまとめ・全講義の復習・学期末レポート		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	法話レポート（10％）・課題レポート（10％）・学期末レポート（20％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	60％ 毎回の「感想ラベル」の記述内容および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席は指定制とし、遅刻・私語・居眠りなどは減点します。毎回授業終了時に「感想ラベル」を書いて提出すること。			
教科書	配布プリント・『仏教を学ぶために』（筑紫女学園大学・短期大学部編）			
指定図書	なし			
参考図書	授業中、適宜指示する。			
オフィスアワー	水曜 3 講時	メールアドレス		

授業科目	仏教学Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	宇野 智行		単 位	2
授業の目的と概要	<p>仏教の基本的な教えについての知識を得る。また、仏教の人間観・世界観を通じて、生きることを考える。さらに、現代社会の様々な問題を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>「縁起」「無我」などの釈尊の教えについて講義する。また、「人間としていかに生きるか」「人間は死後どうなるのか」など、現代人が抱える思想的問題に対して仏教が示す指針を考察して、「自分」を見つめ直す時間とする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 仏教の中心教義である「縁起」について説明することができる。</li> <li>2. 釈尊の死後の世界についての見解について、自己の意見を表明することができる。</li> <li>3. 仏教が提供する人間観・倫理観を通じて、自己と向き合い、自己を取り巻く世界を振り返ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本授業は、共通科目DP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成に関わる科目です。「仏教学Ⅰ」「親鸞・人と思想Ⅰ」「親鸞・人と思想Ⅱ」に関連する科目です。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	はじめに：仏教学Ⅰの復習	復習・課題レポート「縁起の世界」		
第 2回	釈尊の教え①：無常	復習・課題レポート「縁起の世界」		
第 3回	釈尊の教え②：無我	復習・課題レポート「縁起の世界」		
第 4回	釈尊の教え③：縁起	復習・課題レポート「縁起の世界」		
第 5回	釈尊の教え④：四諦	復習・課題レポート「縁起の世界」		
第 6回	釈尊の教え⑤：八正道	復習・課題レポート「縁起の世界」		
第 7回	釈尊の教え⑥：涅槃	復習・課題レポート「縁起の世界」		
第 8回	釈尊の教え⑦：業報	復習・課題レポート「縁起の世界」		
第 9回	仏教から見る輪廻	復習・課題レポート「縁起の世界」		
第10回	輪廻と道徳	復習・学期末レポート「輪廻転生とわたしの生活」		
第11回	輪廻と差別	復習・学期末レポート「輪廻転生とわたしの生活」		
第12回	仏教から見るカースト	復習・学期末レポート「輪廻転生とわたしの生活」		
第13回	アンベードカルと仏教	復習・学期末レポート「輪廻転生とわたしの生活」		
第14回	仏教から見る人生観	ノートまとめ 全講義の復習 学期末レポート		
第15回	まとめ：建学の精神	ノートまとめ 全講義の復習 学期末レポート		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	法話レポート（10%）・課題レポート（10%）・学期末レポート（20%）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	60% 毎回の「講義の感想／意見」および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>座席は指定制とする。遅刻・私語・居眠りなどは減点する。毎回授業終了時（10分間）に、「講義の感想／意見」を書いて提出すること。提出のない場合は大幅な減点対象とする。</p>			
教科書	プリント配布・筑紫女学園大学・短期大学部編『仏教を学ぶために』学術図書出版社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日 15：00-16：20	メールアドレス		

授業科目	仏教学Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	宇治 和貴		単 位	2
授業の目的と概要	<p>仏教の基本的な教えについての知識を得る。また、仏教の人間観・世界観を通じて、生きることを考える。さらに、現代社会の様々な問題を見つめ 直す視点を身につける。</p>			
到達目標	<p>1. 民族宗教と普遍宗教の違いをしる。  2. 仏教で教える価値観の一つは用語とともに説明できるようになる。  3. 仏教の思想を学ぶことで、現代社会が抱える問題を見つめなおすことができるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に全学共通科目のDP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成に関わる科目です。</p> <p>前期で学んだ釈尊の生涯を振り返りつつ、仏教の基本的な教えを学ぶ。テキストに添いながら、「無常」「無我」「四諦」などの意味を解説していく。必要な場合はビデオなどを見て、仏教伝来の状況なども、関心を持ちながら学習できるようにしたい。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	釈尊の生涯を振り返る		「夏休みに学んだこと」についての課題カード提出	
第2回	さとりの構造		「さとり」についての課題カード提出	
第3回	釈尊の悟り（縁起・因果の法則）		「縁起」についての課題カード提出	
第4回	悟りからみた世界（無常・無我・涅槃）		「無常・無我」についての課題カード提出	
第5回	心のふしぎ（仏教の認識論）		「仏教の認識論」についての課題カード提出	
第6回	業と輪廻思想		「業」についての課題カード提出	
第7回	さとりへの道（八正道・中道）		課題 レポート①「釈尊の悟りの内容について」	
第8回	さとりの実践（慈悲と智慧について）		課題 レポート①「釈尊の悟りの内容について」	
第9回	さとりの実践（慈悲と愛について）		課題 レポート①「釈尊の悟りの内容について」	
第10回	初期仏教教団の形成		「初期仏教教団」についての課題カード提出	
第11回	大乘仏教の起こりについて		「大乘仏教」についての課題カード提出	
第12回	愛しさと切なさとの慈悲と		「慈悲」についての課題カード提出	
第13回	人間関係で苦しむあなたへ		「苦」についての課題カード提出	
第14回	苦の解決方法について		課題 レポート②「現在の仏教教団の課題」	
第15回	自分を見つめる視点の獲得「智慧」		課題 レポート②「現在の仏教教団の課題」	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50%			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語・携帯電話・メールなどは厳禁です。学内で開催される全学礼拝などに参加してください。			
教科書	釈尊の道—その生涯と教え—			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	特になし			
オフィスアワー	火～木の3講目	メールアドレス		

授業科目	仏教学Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	中川 正法		単位	2
授業の目的と概要	<p>仏教の基本的な教えについての知識を得る。また、仏教の人間観・世界観を通じて、生きることの意味を考える。さらに、現代社会の様々な問題を見つめ直す視点をも身につける。</p> <p>前期で学んだ釈尊の生涯を振り返りつつ、仏教の基本的な教えを学ぶ。また、初期の仏教経典としてよく知られている『法句経』を読みながら、仏教の人間観・死生観にもふれる。釈尊入滅後、仏教徒はどのようにしてその生涯と教えを伝えようとしたのか。仏教美術や考古学的資料をとおして、仏教がどのようにして広まっていったかをたどる。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「無常・苦・無我」「四諦・八正道」「縁起」など仏教の基本的な教えを説明することができる。</li> <li>2. 仏教の人間観・死生観をとおして、現代社会がかかえる問題を見つめなおし、市民としての社会的責任をいかに担うかについて意見を述べるすることができる。</li> <li>3. 仏教美術に関する基礎知識を知り、鑑賞に役立てることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、共通科目のDP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成に関わる科目です。この授業で得た知識は、「親鸞 人と思想Ⅰ・Ⅱ」を学ぶときの基本となります。また、この授業と同時に「生命倫理」や「いのち」をテーマとする授業を受講するとより深い理解が得られます。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 釈尊の生涯をたどる（仏教学Ⅰの復習）		教科書第1章を読む		
第2回 釈尊の入滅と仏教の展開	『法句経』講読	授業で学んだ仏教の教えと法句経をノートにまとめる。		
第3回 仏教の教え：無常・苦・無我	『法句経』講読	授業で学んだ仏教の教えと法句経をノートにまとめる。		
第4回 仏教の教え：四諦	『法句経』講読	授業で学んだ仏教の教えと法句経をノートにまとめる。		
第5回 仏教の教え：八正道	『法句経』講読	授業で学んだ仏教の教えと法句経をノートにまとめる。		
第6回 仏教の教え：縁起	『法句経』講読	授業で学んだ仏教の教えと法句経をノートにまとめる。		
第7回 仏教と美術：仏塔の構造と浮き彫り	『法句経』講読	p. 61～63, 図書館で美術書やDVDに目をおす。		
第8回 仏教と美術：仏塔浮き彫りの主題と表現	『法句経』講読	p. 61-63, 図書館で美術書やDVDに目をおす。		
第9回 仏教と美術：仏像の誕生 ガンダーラ仏とマトゥラー仏	『法句経』講読	p. 68～70, 図書館で美術書やDVDに目をおす。		
第10回 仏教と美術：インドの石窟寺院	『法句経』講読	p. 64～65, 図書館で美術書やDVDに目をおす。		
第11回 仏教と社会：医療技術の発展と仏教の生命観		生命倫理に関する新聞記事やTV番組をみて記録する。		
第12回 仏教と社会：医療技術の発展と仏教の生命観		生命倫理に関する新聞記事やTV番組をみて記録する。		
第13回 仏教と社会：終末期医療をめぐる		終末期医療に関する新聞記事やTV番組をみて記録する。		
第14回 大乘仏教とは何か		p. 85～91, 大乘仏教の教えの特徴をノートにまとめる。		
第15回 まとめ：仏教とは何か。宗教とは何か		レポート作成準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70% 期末レポート。課せられたテーマ・書式で書く。授業の理解度を評価。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 授業参加への意欲ならびに授業終了時に提出される感想・意見により評価。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>仏教学は、自分自身と向き合う時間です。私語・携帯電話の使用は厳に慎んでください。</p> <p>学内で開催される全学礼拝・礼拝アワーに積極的に出席すること。</p> <p>九州国立博物館や福岡市博物館をはじめとする博物館・美術館・寺院で仏教美術関連の展示を鑑賞すること。</p>			
教科書	『釈尊と親鸞』龍谷ミュージアム編（法蔵館） 『聖典』筑紫女学園聖典改定委員会			
指定図書	なし			
参考図書	『ブッダ最後の旅』中村元 岩波文庫 『インド美術史』宮治昭 吉川弘文館			
オフィスアワー	火曜日と水曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	仏教学Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	栗山 俊之		単 位	2
授業の目的と概要	<p>仏教の基本的な教えについての知識を得る。また、仏教の人間観・世界観を通じて、生きることを考える。さらに、現代社会の様々な問題を見つめ直す視点を身につける。</p> <p>「縁起」「無我」などの釈尊の教えについて講義します。また、「人間としていかに生きるか」「死についてどう考えるか」など、現代人が抱える思想的問題に対して仏教が示す指針を考察して、「自分」を見つめ直しましょう。</p> <p>本学建学の精神である仏教はいかなる要請によって生まれたのか、仏教の目指すところはどこにあるのか、インドの思想的・社会的背景を学習しながら、釈尊の教えとその現代的意義について考えてみましょう。また、仏教の倫理観・人間観を学ぶことにより、今一度、「わたし」を見つめ直す機会にしてください。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 仏教の中心教義である「縁起」について説明することができる。</li> <li>2. 釈尊の死についての見解について、自己の意見を表明することができる。</li> <li>3. 仏教が提供する人間観・倫理観を通じて、自己と向き合い、自己を取り巻く世界を振り返ることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、共通科目の DP1「自己と向き合い、人としての在り方や生き方について考える力を育てる」の達成にかかわる科目です。「仏教学Ⅰ」および「親鸞・人と思想Ⅰ」「親鸞・人と思想Ⅱ」と関連する科目です。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	はじめに：仏教学Ⅰの復習		仏教学Ⅰを振り返ってください	
第2回	不可思議なる世界		「不思議」ということ	
第3回	坐を立て、あらゆるものの救いへ		自利利他ということ	
第4回	初転法輪「縁起」		関係の中での存在	
第5回	釈尊の教団		サンガ	
第6回	釈尊の説法①		対機説法	
第7回	釈尊の説法②		賢愚	
第8回	釈尊の説法③		善悪	
第9回	釈尊の死		ブッタ最後の旅	
第10回	釈尊滅後の仏教の展開		上座部仏教と大乘仏教	
第11回	あらゆるものの救いという願い		阿弥陀如来	
第12回	仏教、日本へ		日本の仏教受容と親鸞までの日本仏教の展開	
第13回	仏教に出会った人びと①		親鸞	
第14回	仏教に出会った人びと②		宮沢賢治	
第15回	まとめ		後期を振り返ってください	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	全学礼拝・礼拝アワーレポート(20%)・学期末レポート(30%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% 毎回の「講義の感想/意見」および受講態度により評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	座席は指定制とする。毎回授業終了時(10分間)に、「講義の感想/意見」を書いて提出すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	仏教学特論		開講時期	前期
担当教員	中川 正法		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この科目は、本研究科の主題である「人間科学」のうち、「人間とは何か」というテーマを思想的に理解するための基幹科目として設置されているものであり、仏教の視点からの人間理解を深めることを目的とする。</p> <p>まず仏教とは何かということを導入として学び、それから仏教研究の方法、経典資料について概説し、その上で仏教の人間観の歴史的展開の跡をたどることとする。また、現代社会の諸問題との関わりの中で、仏教の思想がいかなる意味を持ち得るかを考え、自己と向き合うとともに、社会人として生きる意義を考える。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 仏教の開祖釈尊の生涯と仏教の思想的な特色について、基本的な事項を説明することができる。</li> <li>2. 一定のテーマに関する参考文献、資料を探して整理し、レポートにまとめることができる。</li> <li>3. 仏教の人間観について自分の見解を述べることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業を受講した後、「仏教文化特論」を受講すると一層仏教に対する理解が深まります。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回	オリエンテーション この科目の意義、目的、授業計画について。	仏教に関する入門書を読む。		
第 2回	釈尊の生涯（1）	仏教に関する入門書を読む。		
第 3回	釈尊の生涯（2）	釈尊の生涯に関する文献を読む		
第 4回	釈尊の生涯（3）	釈尊の生涯について表現された仏教美術資料を調べる。		
第 5回	釈尊の生涯（4）	課題①釈尊の生涯についてまとめる。		
第 6回	釈尊の生涯（5）	課題① 釈尊の生涯についてまとめる。		
第 7回	釈尊の生涯（6）	課題① 釈尊の生涯についてまとめる		
第 8回	釈尊の生涯（7）	課題① 釈尊の生涯についてまとめる		
第 9回	仏教の基本思想—無常・苦・無我	課題②仏教の基本思想をまとめる。		
第10回	仏教の基本思想—四諦・八正道	課題②仏教の基本思想をまとめる。		
第11回	仏教の基本思想—縁起	課題②仏教の基本思想をまとめる。		
第12回	大乘仏教とは—大乘仏教の基本思想	大乘仏教について調べ、その基本的思想をまとめる。		
第13回	大乘仏教とは—浄土思想	浄土思想の基本用語の意味を調べる。		
第14回	大乘仏教経典の世界	設定したテーマに添って資料を集めレポートを書く。		
第15回	テーマの設定 資料の探索 レポートの書き方	設定したテーマに添って資料を集めレポートを書く。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	70% 提出課題①、②、各15% 期末レポート40%として評価する。			
小テスト等	—			
成果発表	0%			
受講態度他	30% 授業への参加意欲、受講態度を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	提示された参考書を積極的に読み、遠慮なく質問してください。			
教科書	使用しない。			
指定図書	なし。			
参考図書	授業中に指示する。			
オフィスワー	火曜：14：50～16：20 月・木曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	仏教社会史		開講時期	後期
担当教員	宇治 和貴・金見 倫吾		単 位	2
授業の目的と概要	<p>この講義では、仏教者の社会的活動の歴史を概観し、日本社会における社会的弱者の生活失態の把握に努めるとともに、仏教が本来救済活動をどのようなものとみなすべきであったのかを考えてみたい。</p> <p>また、現代社会における課題を考え、実際に活動している方に話を伺ったり、活動に参加するなどする時間も計画している。仏教者の実践が各時代においてどのようにくりひろげられたのかを、紹介し、それを支える基本的な理念がどのようなものだったかを考える。そのことで、本来、仏教が社会的にはどのような実践を導きだす宗教なのかを把握できるようにする。</p> <p>各講義ごとにテキストとなる文章を指定して、受講者の中から担当者を決め発表してもらう中で、お互いの疑問点などを出し合いながら相互の理解を深めていく形式とする。後半には、具体的な活動を行っている宗教者グループの社会活動に参加して体験的な学習をする。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 古代から現代に至る各時代において、社会的弱者がどのような状況に置かれ、いかに生きてきたかを述べることができる。</li> <li>2. それぞれの時代のなかで、社会的弱者の救済のために仏教者がどのような社会的活動を行ってきたのかを説明することができる。</li> <li>3. 仏教者の社会的活動が日本社会に果たしてきた役割とその課題について、自分の意見を述べることができる。</li> <li>4. 宗教にもとづいた福祉がどのようなものを理想とするべきかを、具体的な活動に参加して経験する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本学の建学の精神である「仏教・親鸞精神」を社会において具体的に展開するということが、どのようなことかを理解することを目標とする。</p> <p>「仏教学Ⅰ・Ⅱ」「親鸞・人と思想Ⅰ・Ⅱ」「現代社会と仏教」などと関連して理解を深める。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	オリエンテーション（連絡事項・単位認定方法の説明・講義概要）	高石史人『仏教福祉への視座』該当箇所を読む		
第2回	仏教福祉を学ぶことの意義	高石史人『仏教福祉への視座』該当箇所を読む		
第3回	仏教からのターミナルケア①	ビハーラ活動について調べておく		
第4回	仏教からのターミナルケア②	ビハーラ活動について調べる		
第5回	仏教からのターミナルケア③	ビハーラ活動について調べる		
第6回	古代社会と仏教での救済事業	二葉憲香『歴史のなかの親鸞』該当箇所を読む		
第7回	平安時代における穢れの意識の展開	二葉憲香『歴史のなかの親鸞』該当箇所を読む		
第8回	鎌倉仏教と救済事業	二葉憲香『歴史のなかの親鸞』該当箇所を読む		
第9回	幕藩体制下での仏教救済事業	長谷川匡利『日本仏教福祉思想』該当箇所		
第10回	明治維新と仏教側の対応	福嶋寛隆『歴史のなかの真宗』の該当箇所を読んでおく		
第11回	戦時厚生事業と仏教	高石史人『仏教福祉への視座』該当箇所を読む		
第12回	仏教からの実践活動①	仏教者がかかわっている社会活動について調べておく		
第13回	仏教からの実践活動②	仏教者がかかわっている社会活動について調べておく		
第14回	仏教からの実践活動③	仏教者がかかわっている社会活動について調べておく		
第15回	仏教社会史のまとめ	これまでの講義について復習しておく		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	無し			
レポート	50％ 講義中に提出のレポートで評価します。			
小テスト等	無し			
成果発表	受講者に人数によって、受講者による発表形式を採用する場合があります。			
受講態度他	50％ 出席状況・受講態度から総合的に判断します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義で配布するプリントや、講義中に使用した用語などで分からないことは辞書で調べる努力をしてください。			
教科書	適宜プリント配布			
指定図書	特に指定しない			
参考図書	高石史人『仏教福祉への視座』永田文昌堂 吉田久一、長谷川匡俊『日本仏教福祉思想史』法蔵館			
オフィスアワー	火～木の3講目	メールアドレス		



授業科目	仏教美術史		開講時期	後期
担当教員	小林 知美		単位	2
授業の目的と概要	<p>テーマ：日本の仏教絵画</p> <p>日本の仏教絵画を対象とし、日本の仏教絵画の黄金期である平安時代の作品を中心に取り上げ、映像で鑑賞し、その仏教美術としての意味や作品の思想的背景を学ぶ。また、実地見学により自分の目で作品を見ることで、教室で得た知識を確かなものにする。</p> <p>日本の仏教絵画の名品を、その主題ごとにわけて、映像によって紹介する。作品をじっくり見て描かれたほとけの特徴を発見し、その仏の意味や作品の作られた歴史的背景についての知識を深めていく。</p> <p>また作品の研究史の紹介をとおして美術史学研究の現状についても言及する。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 仏教絵画を鑑賞し、伝統文化に接近する姿勢を身につける。</li> <li>・ 仏教美術の基本である、ほとけの4分類について、その名称と意味と形の特徴を説明できるようになる。</li> <li>・ 実地見学をとおして身近な仏教美術作品にふれ、その作品についての説明ができるようになる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学科DP④の「アジアの文化に共感し、またそれを理解して、その特徴を具体的に説明、表現することができる。」を目標とする。</li> <li>・ 関連する主な科目は下記の通り 「アジア芸術思想概論」「アジアの世界遺産」「アジアと仏教」（1年次開講科目） 「体験－ミュージアムで学ぶアジア」「体験－伝統文化」「比較文化論」（2年次開講科目） 「日本美術史」（4年次開講科目）</li> </ul>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション：美術史学の方法論～様式論、図像学、+α～（9月29日）	図書館で仏教美術史関連資料を探す		
第2回	学外授業「京都高山寺と明恵上人展」（九州国立博物館）見学（10月6日）	「①高山寺展見学・聴講レポート」執筆（メ切10月28日〈金〉）		
第3回	ほとけの分類①：如来 京都・神護寺（じんごじ）<釈迦如来像（しゃかによらいぞう）（10月13日）	「①高山寺展見学・聴講レポート」執筆（メ切10月28日〈金〉）		
第4回	学外授業「京都高山寺と明恵上人展」講座聴講（10月16日〈日〉13：30～15：00）※チケット半券またはパスポート持参。	「①高山寺展見学・聴講レポート」執筆（メ切10月28日〈金〉）		
第5回	ほとけの分類②：菩薩 東京国立博物館<普賢菩薩像（ふげんぼさつぞう）（10月20日）	「②ブックレポート：仏教美術史関連図書」準備（メ切11月11日〈金〉）		
第6回	ほとけの分類③：明王 京都・醍醐寺（だいがじ）<五大明王像（ごだいだいみょうおうぞう）（10月27日）	「②ブックレポート：仏教美術史関連図書」準備（メ切11月11日〈金〉）		
第7回	ほとけの分類④：天 京都国立博物館<十二天像（じゅうにてんぞう）（11月10日）	「③作品レポート」準備（メ切1月20日〈金〉）		
第8回	ほとけの分類⑤：その他 京都・清涼寺（せいりょうじ）<十六羅漢図（じゅうろくらかんず）（11月17日）	「③作品レポート」準備（メ切1月20日〈金〉）		
第9回	情景描写の仏画①：仏伝図 和歌山・金剛峯寺（こんごうぶじ）<応徳涅槃図（おうとくねはんず）（11月24日）	「作品レポート」準備（メ切1月20日〈金〉）		
第10回	情景描写の仏画②：浄土図 奈良・当麻寺（たいまでら）<当麻曼荼羅図（たいまんだらず）（12月1日）	「③作品レポート」準備（メ切1月20日〈金〉）		
第11回	情景描写の仏画③：来迎図 京都・平等院（びょうどういん）<九品来迎図（くほんらいごうず）（12月18日）	「③作品レポート」準備（メ切1月20日〈金〉）		
第12回	情景描写の仏画④：六道絵 滋賀・聖衆来迎寺（しょうじゅうらいこうじ）<六道絵（ろくどうえ）（12月15日）	「③作品レポート」準備（メ切1月20日〈金〉）		
第13回	情景描写の仏画⑤：垂迹画 東京・根津美術館（ねづみ美術館）<那智瀧図（なちたきず）（12月22日）	「③作品レポート」準備（メ切1月20日〈金〉）		
第14回	幾何学描写の仏画：曼荼羅図 京都・教王護国寺（きょうおうごこくじ）<両界曼荼羅図（りょうがいまんだらず）（1月12日）	「作品レポート」準備（メ切1月20日〈金〉）		
第15回	まとめ（1月19日）	「作品レポート」執筆（メ切1月20日〈金〉）		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	80％			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	第2・4学外授業内容：「京都高山寺と明恵上人展」（九州国立博物館）見学・講座聴講。各自、事前に前売券・または年間パスポート購入のこと（学生前売800円、年間パスポート1100円）			
教科書	なし			
指定図書	町田甲一『仏像入門』創元社（1991年初版）、有賀祥隆『仏画の鑑賞基礎知識』至文堂（1996年）			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日の昼休み～3限（他は事前に連絡してください）	メールアドレス		

授業科目	仏教福祉特論		開講時期	後期
担当教員	高石 史人		単 位	2
授業の目的と概要	<p>仏教(宗教)は、人間の現実の歴史的世界(=世俗世界)において、これを信仰・信奉する人々の宗教的・社会的実践として、福祉(慈善)をはじめとして人間や社会の抱える諸問題・課題に深い関わりをもってきた。この講義では、宗教(仏教)が福祉の生成・発展に関わってきた歴史的な経緯や実態について学び、その果たしてきた役割や意味を考えるとともに、現代の福祉問題の解決に寄与しうる宗教(仏教)の役割や意義・課題についても考えていく。</p> <p>この講義では、まず福祉の生成・発展のモデルとなった西洋キリスト教と慈善の関わりについて学び、そうした影響も受けながらとり組まれた日本近代の仏教慈善・社会事業の実態について史資料を通して検証し、その宗教的・社会的実践の意味を本質論(教え)、状況論(機能論)の両面から考察していく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉の生成・発展に宗教(仏教)が果たしてきた役割や意味について説明することができる。</li> <li>2. 社会制度としての社会福祉と仏教(宗教)の福祉実践との関係やその功罪について説明することができる。</li> <li>3. 現代の福祉をめぐる課題に、仏教(宗教)が寄与しうる役割や意義について提言を行うことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	序：現代の福祉と宗教	復習		
第2回	福祉について、宗教について	復習		
第3回	福祉と宗教の関わり(本質論、実体論、機能論)	復習		
第4回	福祉と宗教：実践から(その1)	予・復習		
第5回	福祉と宗教：実践から(その2)	予・復習		
第6回	福祉と宗教：実践から(その3)	予・復習		
第7回	福祉の歴史と宗教(1) 西洋キリスト教と慈善	予・復習		
第8回	福祉の歴史と宗教(2) 西洋中世(トマス・アクィナス)から救貧の世俗化へ	予・復習		
第9回	福祉の歴史と宗教(3) 日本近代の救貧制度(国家)と宗教	予・復習		
第10回	福祉の歴史と宗教(4) 日本近代のキリスト教と慈善	予・復習		
第11回	福祉の歴史と宗教(5) 日本近代の仏教と慈善(その1)	予・復習		
第12回	福祉の歴史と宗教(6) 日本近代の仏教と慈善(その2)	予・復習		
第13回	福祉の歴史と宗教(7) 日本近代の仏教と社会事業	予・復習		
第14回	現代福祉の課題と宗教、質疑応答	復習		
第15回	総括；社会福祉の目的と仏教(宗教)福祉の目的、質疑応答	復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% 期末レポート			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 質疑や意見等授業への積極的な参加を考慮する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	福祉や宗教に関する身の回りの出来事について注意を払っておくこと。 資料として配布するプリントは、予め目を通して授業に臨むこと。			
教科書	なし、必要に応じてプリント配布。			
指定図書	なし			
参考図書	高石史人著『仏教福祉への視座』永田文昌堂、高石他著『戦前期仏教社会事業の研究』不二出版、その他は授業の中で適宜紹介			
オフィスワー	火曜日講義前後の時間	メールアドレス		

授業科目	【閉講】仏教文化特論	開講時期	後期
担当教員	中川 正法	単位	2
授業の目的と概要	<p>釈尊入滅後、仏教徒はどのようにして釈尊の生涯や教説を伝えようとしたかを、仏教文学と仏教美術をとおして知る。また、インドの仏教文化が、アジア地域の思想や文化に与えた影響を学ぶ。</p> <p>インドの仏教説話文学や美術資料という仏教の伝播形態に焦点をあてながら、仏教文化の発展を学ぶ。また、インドのみならず、仏教が広まった周辺地域の文化への影響や実態にも注目してみる。これらのことを学びながら仏教の人間観とりわけ死生観に注目し、現代社会とりわけ医療がかかえる問題についても考えていく。</p>		
到達目標	<p>1. インドの仏教説話の文学形式・説き示されている仏教思想について説明ができる。</p> <p>2. インドの仏教美術について、基礎的な知識を得、鑑賞ガイドができる。</p> <p>3. 現代社会の問題、とりわけ「いのち」に関することについて問題点を明らかにし、自分の考えを仏教思想に基づいて発言できるとともに、市民としての社会的責任をいかに担うかを発言できる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業を受講する前に「仏教学特論」を受講しておくことが望ましい。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 序論：科目設定の意義・目的について		配布資料を読む。	
第2回 仏教説話文学：仏伝やジャータカ（前生物語）について、インドの原典や漢訳を参照しながら形式・内容の概説		仏教説話に関する文献を読み、話の内容や思想を学ぶ。	
第3回 仏教説話文学：仏伝やジャータカ（前生物語）について、インドの原典や漢訳を参照しながら形式・内容の概説		仏教説話に関する文献を読み、話の内容や思想を学ぶ。	
第4回 仏教文学と仏教思想：仏教説話にみる無常と死の教え		仏教説話に関する文献を読み、話の内容や思想を学ぶ。	
第5回 インドの仏教美術：仏塔の構造と浮彫の主題		参考図書や図書館の美術関連図書を開き、美術資料を確認する	
第6回 インドの仏教美術：仏塔の構造と浮彫の主題		図書館の美術関連図書や世界遺産ビデオで資料を確認する。	
第7回 インドの仏教美術：仏像の出現と展開 ガンダーラ仏とマトゥラー仏		参考図書や図書館にある美術関連図書で仏像を見る。	
第8回 インドの仏教美術：仏像の出現と展開 ガンダーラ仏とマトゥラー仏		世界遺産などのビデオを参照する。ノート整理。	
第9回 インドの仏教美術：インドの石窟寺院		図書館にある美術関連図書で講義で提示された資料を確認。	
第10回 インドの仏教美術：アジャンター石窟寺院と壁画		世界遺産などのビデオを参照する。ノート整理。	
第11回 シルクロードの仏教美術：キジル石窟群		参考図書や美術関連図書を開き美術資料を確認する。	
第12回 シルクロードの仏教美術：敦煌莫高窟と経変図		世界遺産などのビデオを参照する。ノート整理。	
第13回 仏教と現代社会：終末期医療～ビハーラ活動をとおして		現代医療（ターミナル・ケア）の問題点を調べまとめる。	
第14回 仏教と現代社会：脳死・臓器移植をめぐる		脳死と臓器移植の問題点を調べまとめる。	
第15回 まとめ 「いのち」をめぐる現代社会の諸問題		レポート作成準備	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	70％ 期末レポートにより理解度・論理的思考を評価。		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	30％ 質問に対する回答などにより講義への参加意欲を評価。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>説話文学に関する文献やインド・アジアの美術全集など、図書館にて参照すること。</p> <p>博物館や美術館、太宰府市内の寺院などでの展覧会や常設展示に積極的に出かけること。</p> <p>現代医療をめぐるテレビ番組や新聞記事、関連サイトに関心を持つ。</p>		
教科書	プリントを配布する		
指定図書	なし		
参考図書	<p>宮治 昭『インド美術史』吉川弘文館 / 杉本卓洲『ブッタと仏塔の物語』大法輪閣</p> <p>宮治 昭『仏像学入門』春秋社 / 田宮 仁『「ビハーラ」の提唱と展開』学友社</p>		
オフィスアワー	火曜日と金曜日の昼休み	メールアドレス	

授業科目	仏教文化論		開講時期	前期
担当教員	川尻 洋平		単 位	2
授業の目的と概要	信仰とは何か、何を信仰し、その信仰はどのような形で表現されるのか。仏教においてもその信仰形態は様々である。この授業では、そのような様々な信仰について知識を深めることを目的とする。そしてそれを通じて、現代日本に至るまで仏教がどのように歴史的に展開していったのかを、自力と他力という観点から理解することができる。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 様々な宗教における信仰の違いに基づいて、各宗教の特徴を自分の言葉で説明することが出来る。</li> <li>2. 仏教で実践された様々な信仰形態について説明することが出来る。</li> <li>3. 自力と他力という観点から、仏教の歴史を説明することが出来る。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に日文のDP4「日本文化の構造や特徴について説明することができる」の達成に関わる科目です。「仏教学I、II」や「親鸞・人と思想I、II」と関連します。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション：信仰とは何か		課題レポート(1)「信仰とは何か」	
第2回	様々な信仰：キリスト教における信仰		課題レポート(1) 「信仰とは何か」	
第3回	様々な信仰：ヴェーダの神々		課題レポート(1) 「信仰とは何か」	
第4回	様々な信仰：ヒンドゥー教の神々		課題レポート(1) 「信仰とは何か」	
第5回	信仰と救済：猫理論と猿理論		課題レポート(1) 「信仰とは何か」	
第6回	ブッダと信仰：梵天勸請		課題レポート(2) 「自力と他力」	
第7回	ブッダと信仰：初期仏教における自力と利他		課題レポート(2) 「自力と他力」	
第8回	ブッダと信仰：仏塔崇拜		課題レポート(2) 「自力と他力」	
第9回	大乘仏教と信仰：大乘仏教の興隆		課題レポート(2) 「自力と他力」	
第10回	大乘仏教と信仰：大乘仏教とヒンドゥー教		課題レポート(2) 「自力と他力」	
第11回	大乘仏教と信仰：タントリズムへの展開		課題レポート(2) 「自力と他力」	
第12回	日本仏教と信仰：奈良仏教		課題レポート(2) 「自力と他力」	
第13回	日本仏教と信仰：天台宗と真言宗		全講義の復習／ノートのまとめ／学期末レポート	
第14回	日本仏教と信仰：浄土信仰		全講義の復習／ノートのまとめ／学期末レポート	
第15回	まとめ		全講義の復習／ノートのまとめ／学期末レポート	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70%：課題レポート2回(20%×2)・学期末レポート(30%)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30%：受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語など他者に迷惑のかかる行為は慎んでください。			
教科書	プリント配付			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください		メールアドレス	

授業科目	文化観察演習	開講時期	後期
担当教員	森田 真也	単位	2
授業の目的と概要	<p>講義の目的は、フィールドワークを通して、日本の文化や社会について理解を深めることにある。この講義では、文化を観察することの意味を考えながら、実際に現場に足を運び、自分の眼で見ること、聞いてみることに重点をおく。実際、現場を歩き、見て、聞いて、記録する。そして、現場をフィールドワークすることの面白さと、それをまとめることの難しさを体験し、創造的思考力を鍛える。</p> <p>この講義では、最初に学内でフィールドワークの考え方の概説を行なう。その後、学外に出て様々な文化を観察することに主眼を置く。そのため主体的な参加を期待する。太宰府市・筑紫野市周辺等の博物館・美術館・遺跡、祭礼等の見学を考えている。学外見学について具体的にいつどこにいくかは、開講されてから相談して決定する。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークの技法や考え方の基礎について理解することが出来る。</li> <li>・大学周辺のフィールドワークを通して、地域社会について知ることが出来る。</li> <li>・現場に足を運ぶことで、日本の文化や社会について直接的な理解を深めることが出来る。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に日本語・日本文学科のDP4「日本文化の構造や特徴について説明することができる。」の達成に関わる科目です。</p> <p>「文化人類学」「民俗学Ⅰ」「民俗学Ⅱ」と関係します。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回：	文化を観察する意味	授業の目的と内容について理解する	
第2回：	文化を観察する方法	フィールドワークの方法と特徴について理解する	
第3回：	大学周辺を歩く（1）－太宰府を中心として－	探訪地についての事前調べ	
第4回：	大学周辺を歩く（2）－筑紫野を中心として－	探訪地についての事前調べ	
第5回：	大学周辺を歩く（3）－九州国立博物館の見学－	探訪地についての事前調べ	
第6回：	大学周辺を歩く（4）－宝満宮竈門神社－	探訪地についての事前調べ	
第7回：	大学周辺を歩く（4）－宝満宮竈門神社－	探訪地についての事前調べ	
第8回：	映像資料を見る（1）－沖縄の祖先祭祀－	映像資料の読み方について理解する（資料の通読）	
第9回：	映像資料を見る（2）－華僑・華人の祭礼－	映像資料の読み方について理解する（資料の通読）	
第10回：	学外見学（1）－場所未定－	探訪地についての事前調べ	
第11回：	学外見学（1）－場所未定－	探訪地についての事前調べ	
第12回：	学外見学（2）－場所未定－	探訪地についての事前調べ	
第13回：	学外見学（2）－場所未定－	探訪地についての事前調べ	
第14回：	大学周辺を歩く（5）－石穴稲荷神社－	探訪地についての事前調べ	
第15回：	まとめ	授業全体の復習とレポート	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	無し。		
レポート	30％ 期末レポート。		
小テスト等	無し。		
成果発表	無し。		
受講態度他	70％ 受講態度を重視する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>常に教室で講義をするわけではない。まずは大学周辺をまわる。設定されている講義時間を、2回（4回分）、土日等の学外での現地見学に振替える。その際、交通費、博物館施設等への入場料、食費等は自己負担となる。集団で行動するため、遅刻や欠席の場合、事前に連絡をすること。最初に計画を立てるので、第1回、第2回の講義に必ず出席すること。</p> <p>なお、履修希望者が多い場合、人数制限（20人）をすることもある（別途指示）。</p>		
教科書	無し。		
指定図書	無し。		
参考図書	講義中、適時紹介する。		
オフィスアワー	金曜日昼休み（12:30-13:00）	メールアドレス	

授業科目	文化産業論	開講時期	後期
担当教員	須藤 遙子	単位	2
授業の目的と概要	文化経済概念をもとに、メディア企業やコンテンツ産業の現状を学ぶ。現代における「文化」とは何かを、消費社会との結びつきで考える。日本のみならず世界、とりわけ東アジアの動向も概観する。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化産業の現状を理解すると同時に、「文化」という概念が批判的に考察できる。</li> <li>国家政策における「文化」の位置付けを把握する。</li> <li>フランクフルト学派の理論などから、ポピュラー文化の政治性について考える。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	メディア社会コースDP1:「現代メディア社会において、メディアならびにポピュラー文化に関する基本的な知識と技能の獲得を図る」 関連科目:メディアコンテンツ論、ポピュラー文化演習、文化と現代社会、文化政策論など		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。	文化産業にはどのようなものがあるか考える。	
第2回	文化経済とは。	文化経済の概念を把握する。	
第3回	コンテンツ産業とは。	コンテンツにはどのようなものがあるか考える。	
第4回	映画産業	映画について考える。	
第5回	テレビ産業	テレビについて考える。	
第6回	広告産業	広告について考える。	
第7回	音楽産業	音楽について考える。	
第8回	ゲーム産業	ゲームについて考える。	
第9回	インターネット産業	レポート課題。	
第10回	コンテンツ産業政策1:日本	日本のコンテンツ産業政策を復習。	
第11回	コンテンツ産業政策2:欧米	欧米のコンテンツ産業政策を復習。	
第12回	コンテンツ産業政策3:東アジア	東アジアのコンテンツ産業政策を復習。	
第13回	文化産業と国家1:批判理論の概要	文化産業と国家との結びつきを考える。	
第14回	文化産業と国家2:現代の問題点	現代における問題点を考える。	
第15回	まとめ	復習。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	%		
レポート	40%(好きなコンテンツ産業を一つ選び、調べたことを書く)		
小テスト等	40%(授業終盤に実施)		
成果発表	%		
受講態度他	20%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	細かいルールに関しては、第1回目のオリエンテーションで説明します。		
教科書	なし。		
指定図書	なし。		
参考図書	その都度、指定します。		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス	

授業科目	文化人類学	開講時期	前期
担当教員	森田 真也	単 位	2
授業の目的と概要	<p>講義の目的は、同時代にある人間の多様性と共通性を認め、そこから自分たちの存在について問い直していくことにある。そのためこの講義では、日本だけでなく、異なる民族、異なる社会、地域の文化的特質を取り上げ考察の対象とする。それは、異文化を知り、理解する試みから、自分たちの文化、さらには現代の社会にある諸問題について考えていくことである。最初に文化人類学の学問的特質や方法、対象、発展の歴史について触れる。そして、人種・民族・国家、女と男という人の分類とアイデンティティの諸問題について考える。その後、毎週、下記のようなスケジュールで、文化的、社会的領域からトピックを設定して、解説していく。</p> <p>文化に「高い」、「低い」はない。私たちと異なる文化的営みは、その社会でなんらかの意味を持っている。それらの比較を通して、他者を理解することの困難さや面白さを知り、また自らを振り返る機会としてほしい。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・異文化を知り、自文化についての認識を深めることが出来る。</li> <li>・人間の文化の多様性と共通性について理解することで、論理的、創造的思考力を獲得出来る。</li> <li>・自分たちの常識や価値観をとらえなおすことで、健全な人間観を獲得することが出来る</li> <li>・現代世界における社会の諸問題を的確に考察出来るようになる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に日本語・日本文学科のDP4「日本文化の構造や特徴について説明することができる。」の達成に関わる科目です。主に「日本事情」と関連します。興味を持った人は、「民俗学Ⅰ」、「民俗学Ⅱ」も受講してみてください。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回：	「文化」を考える意味	授業の目的と内容について理解する	
第2回：	文化人類学とはどのような学問なのか	文化人類学の学問的特徴について理解する（資料の通読）	
第3回：	文化人類学はどのように生まれ発展してきたのか	文化人類学の学史について理解する（資料の通読）	
第4回：	「文化」とは何だろうかー「文化」というフィルターー	見る、聞くという行為の客観性について考える（資料の通読）	
第5回：	人種・国家・民族という枠組みは客観的なものなのか	人種・国家・民族という枠組みの客観性について考える（資料の通読）	
第6回：	女らしさ男らしさの基準は世界で共通なのか	女と男という区分の客観性について考える（資料の通読）	
第7回：	ワールドミュージックとエスニック・アイデンティティ	音楽とアイデンティティの関係について考える（資料の通読）	
第8回：	人はなぜ人生を区切るのかー通過儀礼と人の一生ー	人の一生と区切りの意味について考える（資料の通読）	
第9回：	呪術的行為は今でも信じられているのか	呪術的行為の社会的意味について考える（資料の通読）	
第10回：	神や死者の言葉を伝えるシャーマンは迷信か	シャーマンの社会的役割について考える（資料の通読）	
第11回：	人は死をどのようにとらえてきたのか	死者を供養することの社会的意味について考える（資料の通読）	
第12回：	タトゥーやピアスに抵抗はありますかー変工される身体ー	身体と社会の関係について考える（資料の通読）	
第13回：	先住民の現在（1）ー社会構成と生活ー	先住民のおかれた社会的位置付けについて考える（資料の通読）	
第14回：	先住民の現在（2）ー権利と問題ー	先住民の権利と抱える課題について考える（資料の通読）	
第15回：	まとめ	授業全体の復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	80% 期末テスト（自筆ノート、配布プリント持込可、論述形式）。		
レポート	無し。		
小テスト等	無し。		
成果発表	無し。		
受講態度他	20% 受講態度。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由の無い遅刻、途中退席をしないこと。		
教科書	適時プリントを配る。教科書等の購入の必要はない。		
指定図書	無し。		
参考図書	山下晋司・船曳建夫編『文化人類学キーワード』有斐閣（1997年）。講義中、適時紹介する。		
オフィスアワー	水曜日昼休み（12:30-13:00）	メールアドレス	

授業科目	文化と現代社会	開講時期	後期
担当教員	間瀬 玲子	単 位	2
授業の目的と概要	本講義は、現代社会における文化のありようについての概説的な知識を得ることを目的とする。社会において文化がどのような機能を果たすのかについて、グラムシやフーコーらの理論に依拠しつつ理解する。一方、社会の中で周縁化された人々にとって、文化が対抗的な機能を持つことについてのディック・ヘブディッジやジョン・フィスクの議論も紹介する。本講義を通して、現代社会における文化の役割について導入的な機能を持つことが期待されている。		
到達目標	1. フーコー、グラムシ、フィスク、ヘブディッジの理論の概要を説明できる。 2. フランスの文化の多様性を説明できる。 3. フランスの現代社会の諸問題を説明できる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は現代社会学部メディア社会コースDP①「現代メディア社会において、メディアならびにポピュラー文化を分析・理解するうえでの基本的な知識を持っている」に関する科目です。 関連科目 : 1年次 メディア論 2年次 ポピュラー文化演習、文化表象演習 関連科目の履修により、より理解を深めてください。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	授業の進め方、フランスの基礎データ	予習 シラバスを読む	
第2回	ミシェル・フーコー、アントニオ・グラムシ、ジョン・フィスク、ディック・ヘブディッジの理論(概要)	予習 授業資料(第2回)	
第3回	文化① マンガ	予習 授業資料(第3回)	
第4回	文化② ワイン	予習 授業資料(第4回)	
第5回	文化③ クレオール	予習 授業資料(第5回)	
第6回	文化④ 学校	予習 授業資料(第6回)	
第7回	文化⑤ グラン・プロジェ	予習 授業資料(第7回)	
第8回	文化⑥ 地域言語	予習 授業資料(第8回)	
第9回	文化⑦ モード	予習 授業資料(第9回)	
第10回	現代社会① 移民	予習 授業資料(第10回)	
第11回	現代社会② 文化政策	予習 授業資料(第11回)	
第12回	現代社会③ 言語政策	予習 授業資料(第12回)	
第13回	現代社会④ コルシカ問題	予習 授業資料(第13回)	
第14回	現代社会⑤ フランスと植民地	予習 授業資料(第14回)	
第15回	現代社会⑥ シャルリ・エブド事件	予習 授業資料(第15回)	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	50% 授業内容に即した複数の設問		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	50% 受講態度及び授業への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	筑女ネットに授業資料(補足)をアップしますので、頻りにチェックしてください。また授業資料の復習をするようにしてください。		
教科書	なし。授業資料を配布します。		
指定図書	トリストラン・ブルネ『水曜日のアニメが待ち遠しい』誠文堂新光社、清岡智比古『パリ移民映画』白水社、『パリ同時テロ事件を考える』白水社		
参考図書	授業中に適宜紹介します。		
オフィスアワー	水曜日 4 講時	メールアドレス	



授業科目	文化表象演習	開講時期	後期
担当教員	小山 昌宏	単 位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、現代にいたるマンガメディアの画像分析、アニメメディアの映像分析の方法と技術、物語分析に関する基礎知識を身につけ、実作品の画像、映像の解析ができる力量を身につけることを目的とする。</li> <li>・具体的には、講義と映像分析、演習（質疑応答）による授業進行をおこない、各授業毎のリアクションペーパー（復習：振り返り）を活かした確実な技法取得をめざすことを目的とする。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・慣れ親しんでいるマンガメディアに関する画像分析手法を身につけることができる。</li> <li>・同様にアニメメディアに関する映像分析手法を身につけることができる。</li> <li>・マンガメディアのアニメメディアへの変換によるメディアミックス手法、映像演出の差異について学び、物語構造、創造の実際に関与できる知識と力量を身につける。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、現代社会学部メディアコースのDP①「現代メディア社会において、メディアならびにポピュラー文化を分析・理解するうえでの基本的な知識を持っている」の該当科目です。基礎的な表象文化に関する知識はDP③「表象文化論」、メディアコンテンツに関する知識はDP②「メディアコンテンツ論」で取得することができます。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	絵巻物の読解 ～絵巻物の読み解き方について学ぶ	次回授業に関連する資料を読んでおく	
第2回	マンガ表現読解 ～表現技法の進化と効果について学ぶ	次回授業に関連する資料を読んでおく	
第3回	マンガ技法分析 ～作画技法の基礎について学ぶ	次回授業に関連する資料を読んでおく	
第4回	マンガ表象分析 ～キャラの「かわいい」と「萌え」について考える	次回授業に関連する作品を読んでおく	
第5回	マンガ物語演習 ～羽海野チカ「冬のキリン」をドラマ化する	次回授業に関連する作品を読んでおく	
第6回	マンガ物語構造分析 ～宮崎駿「風の谷のナウシカ」の物語構造について学ぶ	次回授業に関連する作品を視聴しておく	
第7回	アニメ映像分析（ポジショニングとモーション）～「1stガンダム」「まど☆マジ」を題材に学ぶ	次回授業に関連する音楽を視聴しておく	
第8回	アニメ楽曲分析（音楽の演出）～アニソン代表曲の魅力について学ぶ	次回授業に関する声優情報をまとめておく	
第9回	アニメ声優・キャラクター分析 ～宮崎アニメ「俳優」の声の演技に学ぶ	次回授業に関連するマンガかアニメを視聴しておく	
第10回	アニメコンティニューイティ分析 ～マンガ「スラムダンク」のアニメ演出について学ぶ	次回観賞作品の下調べをおこなう	
第11回	アニメ作品鑑賞1-1 ～フライシャー兄弟「バット君町に行く」鑑賞	観賞作品に関するまとめ、分析をしておく	
第12回	アニメ作品分析1-2 ～フライシャー兄弟「バット君町に行く」解析	次回観賞作品の下調べをおこなう	
第13回	アニメ作品鑑賞2-1 ～原恵一「クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ！モーレッツ大人帝国」鑑賞	観賞作品に関するまとめ、分析をしておく	
第14回	アニメ作品分析2-2 ～原恵一「クレヨンしんちゃん 嵐を呼ぶ！モーレッツ大人帝国」解析	期末レポート内容の報告準備	
第15回	まとめ 確認テスト 期末レポート概要・3分間スピーチ	期末報告の確定をおこなう	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	0％		
レポート	50％（期末レポート）、20％（授業ごとのリアクションペーパー内容）		
小テスト等	10％（第15回目）		
成果発表	0％		
受講態度他	20％（授業内でのセッションへの参加意欲、発言）を加味します		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、基本的に個人参加の演習になり、個々が映像を読解し、解析できる力を養います。</li> <li>・毎回、リアクションペーパー内容をまとめ、要点整理の上、次回授業のはじめに振り返り紹介いたします（復習）</li> <li>・第15回目は確認のための小テストを実施し、期末レポート提出に向けた受講者のプレゼン（3分間スピーチ）をおこないます。</li> </ul>		
教科書	適宜プリントを配布する		
指定図書	なし		
参考図書	授業内で指示する		
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス	

授業科目	文学		開講時期	前期
担当教員	松下 博文		単位	2
授業の目的と概要	①夏目漱石「吾輩は猫である」の解釈と鑑賞を通して、自らの教養と文学的感性を高めることを目指す。 ②「吾輩は猫である」を社会学的視点から解説する。			
到達目標	①テキストの背景にある社会的事象を読み取ることができる。 ②活字の羅列としてのテキストを、辛抱強く読むことができる。 ③自己と向き合い、社会人としての基本的な資質を形成し、確かな倫理観と人間観を身につける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	人間科学部のDP「3 社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」に関連する科目であり、「哲学」「倫理学」「芸術文化論」に関連する科目であり、「メディアと文化」へと発展・展開して行く科目である。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 漱石入門(1)			漱石について文学事典で調べる	
第2回 漱石入門(2)			漱石について文学事典で調べる	
第3回 「吾輩は猫である」を読む(1)			予習 5～35ページ	
第4回 「吾輩は猫である」を読む(2)			予習 36～66ページ	
第5回 「吾輩は猫である」を読む(3)			予習 67～97ページ	
第6回 「吾輩は猫である」を読む(4)			予習 98～129ページ	
第7回 「吾輩は猫である」を読む(5)			予習 130～159ページ	
第8回 「吾輩は猫である」を読む(6)			予習 160～189ページ	
第9回 「吾輩は猫である」を読む(7)			予習 190～229ページ	
第10回 「吾輩は猫である」を読む(8)			予習 230～259ページ	
第11回 「吾輩は猫である」を読む(9)			予習 260～289ページ	
第12回 「吾輩は猫である」を読む(10)			予習 290～329ページ	
第13回 「吾輩は猫である」を読む(11)			予習 330～359ページ	
第14回 「吾輩は猫である」を読む(12)			予習 360～390ページ	
第15回 「吾輩は猫である」を読む(13)			予習 391～420ページ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100% 作品の進み具合によって、その都度レポートを要求する。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席(欠席扱い)させます。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物を置かないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。			
教科書	夏目漱石『吾輩は猫である』(ワイド版岩波文庫)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	水曜日 12時30分～13時		メールアドレス	

授業科目	文学	開講時期	後期
担当教員	松下 博文	単 位	2
授業の目的と概要	①夏目漱石「吾輩は猫である」の解釈と鑑賞を通して、自らの教養と文学的感性を高めることを目指す。 ②「吾輩は猫である」を社会学的視点から解説する。		
到達目標	①テキストの背景にある社会的事象を読み取ることができる。 ②活字の羅列としてのテキストを、辛抱強く読むことができる。 ③自己と向き合い、社会人としての基本的な資質を形成し、確かな倫理観と人間観を身につける。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	現代社会学部「ビジネス社会コース」「メディア社会コース」「環境共生社会コース」のDP「(1) 自己と向き合い、社会人としての基本的な資質を形成している。」の「① 確かな「倫理観・人間観」を身につけ、社会の一員として生きる力」に関連する科目であり、「現代社会とメディア」「社会学入門」「社会学史」へと発展・展開して行く科目である。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1回	漱石入門 (1)	漱石について文学事典で調べる	
第 2回	漱石入門 (2)	漱石について文学事典で調べる	
第 3回	「吾輩は猫である」を読む (1)	予習 5～35ページ	
第 4回	「吾輩は猫である」を読む (2)	予習 36～66ページ	
第 5回	「吾輩は猫である」を読む (3)	予習 67～97ページ	
第 6回	「吾輩は猫である」を読む (4)	予習 98～129ページ	
第 7回	「吾輩は猫である」を読む (5)	予習 130～159ページ	
第 8回	「吾輩は猫である」を読む (6)	予習 160～189ページ	
第 9回	「吾輩は猫である」を読む (7)	予習 190～229ページ	
第10回	「吾輩は猫である」を読む (8)	予習 230～259ページ	
第11回	「吾輩は猫である」を読む (9)	予習 260～289ページ	
第12回	「吾輩は猫である」を読む (10)	予習 290～329ページ	
第13回	「吾輩は猫である」を読む (11)	予習 330～359ページ	
第14回	「吾輩は猫である」を読む (12)	予習 360～390ページ	
第15回	「吾輩は猫である」を読む (13)	予習 391～420ページ	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	100% 作品の進み具合によって、その都度レポートを要求する。		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	授業中の私語は慎むこと。場合によっては退席(欠席扱い)させます。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語は慎むこと。 机上に飲食物を置かないこと。 携帯は必ず仕舞っておくこと。もし使用が見つかった場合はその場で取り上げます。		
教科書	夏目漱石『吾輩は猫である』(ワイド版岩波文庫)		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワー	水曜日 12時30分～13時	メールアドレス	

授業科目	【閉講】文学の周辺	開講時期	前期
担当教員	大内 英範	単位	2
授業の目的と概要	文学作品をより深く理解するためには、作品や作者に関わるさまざまなことについて知ることが重要です。この授業では作品の文章を読みながら、あるいは作品が書かれている「本」そのものについて考えながら、特に古代の作品が生まれた背景や環境、その時その時の社会構造や習慣、現代人にはなじみ深くなくなった自然の景物などを知り、理解します。また、文学作品の読まれ方、つまり受容についても学び、文学作品の各時代における存在意義なども理解します。		
到達目標	(1) 文学作品に関わる社会背景や習慣などを理解し、説明できる (2) 文学作品とメディアとの関わりについて自分なりの考えを説明できる (3) 文学作品の受容について理解し、説明できる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は日本語日本文学科のDP3「③各時代の日本文学の特徴や背景について概要を説明することができる。」に関わる科目です。 この科目で身につけた知識は3年次配当の「古代文学演習1」「古代文学演習2」などで古典文学作品を読む際に役立ちます。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 ガイダンス		シラバスをよく読んでおく	
第2回 王朝文学と平安京・貴族制度		テキスト該当箇所をよく読んでおく	
第3回 王朝文学と後宮		テキスト該当箇所をよく読んでおく	
第4回 王朝文学と行事		テキスト該当箇所をよく読んでおく	
第5回 王朝文学と建築		テキスト該当箇所をよく読んでおく	
第6回 王朝文学と結婚・出産		テキスト該当箇所をよく読んでおく	
第7回 王朝文学と自然		テキスト該当箇所をよく読んでおく	
第8回 王朝文学と服飾・調度・車輿		テキスト該当箇所をよく読んでおく	
第9回 王朝文学と教養・娯楽		テキスト該当箇所をよく読んでおく	
第10回 王朝文学と服喪・葬送		テキスト該当箇所をよく読んでおく	
第11回 王朝文学と信仰		テキスト該当箇所をよく読んでおく	
第12回 古典文学とメディア—紙・本		配布プリントをよく読んでおく	
第13回 古典文学とメディア—映画・小説・漫画		配布プリントをよく読んでおく	
第14回 古典文学と現代語訳・翻訳		配布プリントをよく読んでおく	
第15回 古典文学と権力		配布プリントをよく読んでおく	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	35%		
レポート	30% 随時		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	35%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	随時のレポートがあります。 毎回の授業に際してはテキスト等で予習してのぞみましょう。		
教科書	池田亀鑑『平安朝の生活と文学』（ちくま学芸文庫）		
指定図書	なし		
参考図書	随時紹介します		
オフィスアワー	火4、水3ほか随時	メールアドレス	

授業科目	文芸創作 I		開講時期	前期
担当教員	田代 俊一郎		単 位	2
授業の目的と概要	受講生による企画会議で決めた素材に沿って、実際に取材、執筆をはじめ、レイアウト、装丁、製本までの工程を行う。テーマによって適宜、装丁家、デザイナーなど専門家をゲストに招く。			
到達目標	企画の立て方や原稿の書き方をはじめ、それをどう発信していくかを学び、実社会、実生活に役立てる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス			-	
第2回 企画会議			課題の草案作り	
第3回 現地取材			課題の準備	
第4回 現地取材			課題の準備	
第5回 企画のタイトル案会議			課題の草案作り	
第6回 企画のレイアウト会議			課題の草案作り	
第7回 原稿書き			課題の下書き	
第8回 原稿書き			課題の下書き	
第9回 装丁案会議			課題の草案作り	
第10回 装丁完成			課題の草案作り	
第11回 本作り			課題の草案作り	
第12回 本作り			課題の草案作り	
第13回 完成作品の宣伝と広報			-	
第14回 完成作品の宣伝と広報			-	
第15回 全体の総括			-	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30%			
小テスト等	なし			
成果発表	50%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語、遅刻は厳禁			
教科書	田代 俊一郎著「九州ジャズロード増補改訂版」(書肆侃侃房)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	文芸創作Ⅱ		開講時期	後期
担当教員	田代 俊一郎		単 位	2
授業の目的と概要	前期「文芸創作Ⅰ」では取材という形の創作だったが、後期のⅡでは実際に幻想小説（400字×10枚程度）を書き、条件に合う文学賞に応募する。			
到達目標	書くという行為がいかに想像力、創造力が必要であるかを学び、そこに到達する方法論を身につける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ガイダンス 書くという行為について	-		
第2回	テーマ会議	課題の準備		
第3回	テーマについての資料収集	課題の準備		
第4回	テーマについての資料収集	課題の準備		
第5回	テーマについての名作を読む	課題の準備		
第6回	テーマについての名作を読む	課題の準備		
第7回	各自の構想発表	課題の準備		
第8回	各自の構想発表	課題の準備		
第9回	原稿書きと修正	課題の準備		
第10回	原稿書きと修正	課題の準備		
第11回	相互批評	課題の読み込み		
第12回	相互批評	課題の読み込み		
第13回	本もしくは冊子作り	課題の準備		
第14回	本もしくは冊子作り	課題の準備		
第15回	まとめと総括	-		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30％			
小テスト等	なし			
成果発表	50％			
受講態度他	20％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	私語、遅刻厳禁			
教科書	田代 俊一郎著「立原道造への旅」（書肆侃侃房）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	プレゼンテーション演習	開講時期	後期
担当教員	小野 望	単位	2
授業の目的と概要	この科目は、日本語学の発展科目として設置されているものである。 プレゼンテーションは、単なる発表・説明の技術を問うものではない。それらはもちろん重要であるが、その前にまず、伝えるべき課題を設定して調査し、自分が納得することが必要だ。その上で、どう伝えたいか、何を言えばよいか、相手は何を求めているか、総合的に判断しながらストーリーを組み立て、必要なデータをそろえ、発表資料を作成していくことになる。 課題の考察と解決、自己認識と他者理解、論理構成と口頭発表、まさに総合的な能力を必要とするものである。これらは社会に出て求められる能力でもある。自己実現のためにも、実践の機会を活用しよう。		
到達目標	(1) 日本語の構造を十分に理解し、適切な語彙・文体を用いてプレゼンテーション資料・文章作成ができる。 (2) さまざまな情報メディアの特質を十分に理解し、それを活用したプレゼンテーション資料作成ができる。 (3) 発表の場の要素《人・時・場所》に応じて、適切な配慮行動を含めた口頭プレゼンテーションができる。 (4) 就職試験等の口頭面接におけるプレゼンテーション能力を高めて、適切な自己表現・受け応えができる。 (5) 集団内における自己表現・他者理解の能力を高めて、個性的なプレゼンテーションができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は、日本語・日本文学科のDP①「日本語の4技能（読む・書く・聞く・話す）を用いて、適切なコミュニケーションができる。」の達成に関わるものである。 「日本語表現演習I・II」とともに受講することで、多様な自己表現の方法を身につけ、コミュニケーション力の向上を図る。 プレゼンテーションソフトの扱いについては、共通科目の「情報処理応用演習C」（PowerPoint）で学修しておくことが望ましい。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	プレゼンテーション概説 プレゼンテーションの構成要素	プレゼンテーションに対するイメージをまとめておこう。	
第2回	プレゼンテーションイメージ	身近なプレゼンテーション場面について考えよう。	
第3回	プレゼンテーション観察	実例映像を観察し、それぞれのプレゼンとしての特徴を考えよう。	
第4回	プレゼンテーション作成練習	「ブラックバイト」の原稿を分析し、スライドの作成練習をしよう。	
第5回	プレゼンテーション準備	就職試験頻出課題等を参照し、発表課題を報告しよう。	
第6回	プレゼンテーション準備	スライド計画を決定し、発表資料を準備しよう。	
第7回	プレゼンテーション準備	スライド計画を決定し、発表資料を準備しよう。	
第8回	プレゼンテーション準備	スライド計画を決定し、発表資料を準備しよう。	
第9回	プレゼンテーション準備	発表資料を完成し、リハーサルをしよう。	
第10回	プレゼンテーション実践（1）	プレゼンテーションを聞き意見交換をしよう。	
第11回	プレゼンテーション実践（2）	プレゼンテーションを聞き意見交換をしよう。	
第12回	プレゼンテーション実践（3）	プレゼンテーションを聞き意見交換をしよう。	
第13回	プレゼンテーション実践（4）	プレゼンテーションを聞き意見交換をしよう。	
第14回	第12回 プレゼンテーション実践（5）	プレゼンテーションを聞き意見交換をしよう。	
第15回	プレゼンテーション実践（6）	プレゼンテーションを聞き意見交換をしよう。	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30％ 授業時の小レポート（作業のまとめ、発表のまとめ等）を評価する。		
小テスト等	0%		
成果発表	50％ プレゼンテーション実践時に作成した発表資料、および発表行動・質問行動を評価する。		
受講態度他	20％ 課題提出マナー・出席意欲・自分を磨こうという意欲を 評価する。 適宜 授業中に設定する課題等を 評価に加える。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	・受講者数によって、授業の運営方法が変わることがあります。 ・基本的に筑女ネットを使った授業となります。 ・演習科目ですから、自らテーマを設定し、それについて調査報告することはもちろん、他の報告・発表についての意見をまとめ、発言するなどの行動（web上の）を求めます。 ・取り組み方によって成果は大きく異なってきます。考える力を高めるとともに、よりよいコミュニケーションの主体となること		
教科書	使用しない。必要に応じ、筑女ネット上に参考資料を提示する。		
指定図書	使用しない。		
参考図書	脇山真治著『プレゼンテーションの教科書』日経デザイン ほかに授業中に紹介する。		
オフィスアワー	木曜日：2講時～昼休み	メールアドレス	

授業科目	プログラミング演習		開講時期	後期
担当教員	隅田 康明		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的 コンピュータを動作させるために必要となるプログラムを作成する作業（プログラミング）の基礎的な知識を習得し、実際に動作するプログラムを作成することを目的とする。</p> <p>概要 プログラミング言語Visual Basicを用いて、変数、演算、条件分岐、繰り返し、プロシージャ(関数)といった概念について学ぶ。また、それらの概念を用いてプログラムを作成する。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・変数に値を代入できる。</li> <li>・変数を用いた処理を記述できる。</li> <li>・条件分岐を含む処理を記述できる。</li> <li>・繰り返しを含む処理を記述できる。</li> <li>・プロシージャ(関数)を記述でき、プロシージャ(関数)を呼び出せる。</li> </ul>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>情報メディア研究が関連する。どちらもプログラミングを扱う。</p> <p>情報メディア研究では、グラフィックスの描画やアニメーション、効果音や音楽の再生を扱うプログラム作成について学ぶ。プログラミング演習では、概念や文法といったプログラミングそのものについて、また画面設計についても学ぶ。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 ガイダンス			作業内容の復習	
第2回 開発環境のインストール			作業内容の復習	
第3回 プログラムの入力と実行の仕方			作業内容の復習	
第4回 プロパティ			作業内容の復習	
第5回 変数・演算			作業内容の復習	
第6回 条件分岐 (1) 基礎			作業内容の復習	
第7回 条件分岐 (2) 応用			作業内容の復習	
第8回 前半まとめ			作業内容の復習	
第9回 繰り返し			作業内容の復習	
第10回 プロシージャ (1) 基礎			作業内容の復習	
第11回 プロシージャ (2) 応用			作業内容の復習	
第12回 イベント処理			作業内容の復習	
第13回 応用			作業内容の復習	
第14回 発展			作業内容の復習	
第15回 まとめ			作業内容の復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	100% (毎回メールで提出する)			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	なし			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	受講の際にはノートPCを携行すること。ノートPCを携行していない場合原則として出席とは認めない。			
教科書	なし (資料を配布する)			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		



授業科目	ベンチャー起業論		開講時期	後期
担当教員	古田 龍輔		単位	2
授業の目的と概要	この授業で言う「ベンチャー」とは、創業後に急成長を遂げる数少ない新興企業のことです。いま現存する大企業も、創業時には数名の社員しかいない場合がほとんどで、その後の急成長を経て巨大化していますから、元ベンチャーなのです。ベンチャーが誕生する原動力として、この授業では「コンセプト」と「ビジネスモデル」という概念を中心に取り上げます。そして、これらの概念を使ってグループで事業計画を立案できるようになることが、この授業の目的です。ここまで体験しておけば、それ以後に見聞する現実の会社の動きに敏感になれるだろうし、3年次以降に就職先を選択する際にも、経営の良し悪しを判断できる眼力が備わると期待します。なお、コンセプトとビジネスモデルを正しく理解していれば、営利企業だけでなく、非営利組織を立ち上げる場合にも大いに威力を発揮しますので、将来は非営利分野で仕事をしたい人にも有益な授業だと思います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 会社というものがどのように創業され成長または倒産するのかを理解することができる。</li> <li>2 現存する元ベンチャーのビジネスモデルを解明するか、または新規事業でのビジネスモデルの提案をすることができる。</li> <li>3 グループで作成したビジネスモデル課題を、受講生全員の前で効果的に発表することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、ビジネス社会コースのDP2の「ビジネス組織の目標を達成していくための、効果的なマネジメントのあり方を説明することができる」を目指す科目の1つになります。同じく後期開講の経営史では、明治時代以降の歴史的な元祖ベンチャーが登場しますが、ベンチャー起業論ではいま話題の現役ベンチャーが多く登場するので、並行して受講すると効果的だと思います。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
授業全体の概要説明		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
普通の起業とベンチャー型の起業		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
成功しやすい事業案とは？		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
起業家とは？（1）		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
起業家とは？（2）		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
事業コンセプトの考え方（1）		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
事業コンセプトの考え方（2）		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
事業コンセプトの考え方（3）		グループで考案した事業コンセプトをPowerPointで作成しネットで提出する。		
ビジネスモデルの考え方（1）		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
ビジネスモデルの考え方（2）		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
ビジネスモデルの考え方（3）		ビジネスモデルのグループ課題の中間報告を準備しておく。		
ビジネスモデルの考え方（4）		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
起業と失敗		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
ビジネスモデル課題の発表会1		課題を所定の時間内で発表できるように資料を準備し練習しておくこと。		
ビジネスモデル課題の発表会2		課題を所定の時間内で発表できるように資料を準備し練習しておくこと。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	30%	定期試験中に60分間で行われる試験の点数（100点満点）		
レポート	30%	指定資料を読んで提出する予習シートの評価点		
小テスト等	なし			
成果発表	30%	グループ課題の評価点		
受講態度他	10%	授業の出席状況		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	無断欠席をしたら、受講を放棄したものと見なします。やむを得ず欠席する場合は、必ずメールなどで事前に連絡すること。ただし、連絡すれば欠席はいくらでも出来るというわけではありません。			
教科書	とくになし			
指定図書	とくになし			
参考図書	とくになし			
オフィスワーク	月曜日の午後	メールアドレス		

授業科目	保育・教職実践演習(幼稚園)(幼保コース)		開講時期	後期
担当教員	古田 瑞徳・山之内 輝美・原 陽一郎		単 位	2
授業の目的と概要	<p>これまでの授業や実習を通して学んできた、保育者となるために必要な能力を再認識し、専門職として必要な実践力を向上させることを目的とする。教育や保育をはじめ、人権、環境、平和、健康、家族などのテーマについて、情報収集、分析、ディスカッション等を行う。また、教育や保育について分析し、判断する能力を向上させながら、最終的には、保育者として必要な教育や保育のための方法や技術を習得することを目的とする</p> <p>概要としては、図書館やインターネットを通じての情報収集や、これまでの実践を振り返りながら、自らの課題を発見し、その課題について調べたことをレポートにまとめるとともに、授業内でのプレゼンテーションと学生同士でディスカッションを行う。また、保育教材の製作をも実践していく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育に関する自発的で、応用力をもった学習能力・問題解決能力を身につける。</li> <li>2. 現代社会の諸問題や保育に関する現代的課題について、適切に分析や検討を行うことができる。</li> <li>3. 問題を発見し、その問題を解決する過程を理解し、その内容を再検討することができる。</li> <li>4. 幼稚園や保育所等での実習経験を基に、保育活動のシミュレーションができる。</li> <li>5. 保育者としての資質や能力について確認し、コミュニケーション・スキルや実践力を向上させる。</li> <li>6. 保育のための教材・教具を駆使することができ、自分自身でも製作することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>①保育にかかわる課題の中から一以上のものに関する分析、考察、検討を行うとともに、その課題について、児童や保護者を援助するための技術、方法等について学修する。さらに、問題を発見し、その問題を解決する過程や解決内容について再検討する手法を取得する。</p> <p>②必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育実習を通しての学び等を踏まえ、保育士として必要な知識技能を修得したことを確認する。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	乳幼児期の子育てに関する問題を整理する①		講義で提起された社会的課題に関して調べる	
第2回	乳幼児期の子育てに関する問題を整理する②		講義で提起された社会的課題について分析する	
第3回	乳幼児期の子育てに関する問題を整理する③		自分が取り組みたい社会的課題についてその原因について考察する	
第4回	子育ての課題解決のための保育の具体的検討①		社会的課題解決のための具体的保育について考える	
第5回	子育ての課題解決のための保育の具体的検討②		社会的課題解決のための具体的保育を組み立てる	
第6回	課題解決の方策①		課題解決のための保育について発表する	
第7回	課題解決の方策②		課題解決のための保育について発表する	
第8回	課題解決の方策③		課題解決のための保育について発表する	
第9回	グループ・ディスカッションⅠ 子どもたちの課題と向き合う①		情報収集	
第10回	グループ・ディスカッションⅡ 保育者の役割について考える②		情報収集	
第11回	グループ活動Ⅲ 現場で役立つ保育技術①		課題⑤「園行事企画書作成」	
第12回	グループ活動Ⅳ 現場で役立つ保育技術②		課題⑤「園行事企画書作成」	
第13回	グループ活動Ⅴ 発達障害についての理解を深める		発達障害の子どもたちの活きている世界について具体的に理解する	
第14回	グループ活動Ⅵ 発達障害の子どもへの支援を具体的に考える		子どもの抱えている問題に対するアプローチを具体的に考える	
第15回	保育者として望まれる資質や能力について、授業全体のまとめ		各自の課題設定	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	60% グループ活動の課題レポートをそれぞれ評価し判定する			
小テスト等	なし			
成果発表	30% 課題研究の発表をそれぞれ評価し判定する			
受講態度他	10% 課題研究への取り組み方をそれぞれ秀・優・良・可・不可で評価し判定する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	個人での発表も行うが、グループでの情報収集、話し合い、発表が中心となるので、各自が、主体的に責任をもってグループ活動に参加すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する			
オフィスアワー	後期 火曜日2限		メールアドレス	

授業科目	保育原理	開講時期	前期
担当教員	大元 千種	単位	2
授業の目的と概要	<p>保育とは何かについて考察し、理解を深める。さらに、保育者、あるいは子どもに関わる者として必要な保育についての基本的な視点や姿勢を身につけることを目的とする。</p> <p>授業では、家庭や社会の変容から現代の保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園等の保育施設についての意義と目的について考える。2015（平成27）年度から実施の、「子ども・子育て関連3法」による保育制度の改変について理解し、これからの保育、就学前教育について考察する。また、子どもの発達にとっての集団や活動・遊びの重要性についてもふれながら、子ども観や発達観を検討する。さらに、先人達の保育思想や構想した保育施設等を概観することによって、時代や国を越えて現代にも生かすべき子ども観や保育観などについて理解を深めていく。最後に、授業での学びから、わが国の保育・就学前教育の課題について、自分の言葉で説明できるように考察する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園等の保育施設の特徴を的確に説明することができる。</li> <li>2. 制度としての保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園の目的や役割について、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づいて的確に説明することができる。</li> <li>3. 保育の内容と方法の基本について説明することができる。</li> <li>4. 「子ども・子育て関連3法」にもとづく新制度の特徴を説明することができる。</li> <li>5. 保育の思想とそれに伴う保育施設の歴史の変遷を理解し、その特徴を説明することができる。</li> <li>6. 現代の保育所や幼稚園、幼保連携型認定こども園等保育施設の課題について、自分の意見を述べることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に発達臨床心理コース、社会福祉コースのDP②「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」、初等教育コースのDP②「初等教育に関する専門的知識や子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況についての知識を身に付けることができる。」、幼児保育コースのDP②「子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況に関する知識を身に付けることができる。」の達成に関わる科目です。</p> <p>関連科目：社会学概論Ⅰ、社会福祉論、保育者論、教職入門、教育原理</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	保育とは何か～理念と概念について：子どもの最善の利益を考慮した保育	予習：第1章 宿題：保育所と幼稚園の対比表	
第2回	制度としての保育の場～保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園	予習：第1章、保育所、幼稚園、幼保連携型認定こども園の概要	
第3回	保育所保育の原則	予習：第1章	
第4回	現代の保育・就学前教育の課題	予習：第1章	
第5回	保育所保育指針と幼稚園教育要領①：幼稚園教育要領の流れ	予習：第3章、保育所保育指針、幼稚園教育要領	
第6回	保育所保育指針と幼稚園教育要領②：保育所保育指針の流れ	予習：第3章、保育所保育指針、幼稚園教育要領	
第7回	子ども・子育て支援新制度について	予習：子ども・子育て支援関連3法	
第8回	保育における活動の構造と保育の方法～保育の構造を考える	宿題：「あそび」「生活」「課業」「行事」の特徴と意義	
第9回	保育における活動の構造と保育の方法～「あそび」「生活」「課業」「行事」の特徴と意義	予習：保育形態とは	
第10回	保育における活動の構造と保育の方法～保育形態の特徴	予習：保育形態とは	
第11回	保育の思想と歴史の変遷①：諸外国の保育の思想と歴史…子どもの発見	予習：第3章	
第12回	保育の思想と歴史の変遷②：諸外国の保育の思想と施設	予習：第3章	
第13回	保育の思想と歴史の変遷③：日本の保育思想と施設	予習：第3章、第4章、第5章	
第14回	わが国の幼稚園、保育所の変遷と課題①保育施設の創設期～明治期～	予習：第3章、第4章、第5章	
第15回	わが国の幼稚園、保育所の変遷と課題②大正デモクラシーから戦前、戦中の保育	予習：第3章、第4章、第5章	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	80％ 期末テスト		
レポート	0％		
小テスト等	0％		
成果発表	0％		
受講態度他	20％ 毎授業時の「学びの軌跡」で授業への参加態度を確認し、評価の対象に含む。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業はシラバスの予定に沿って行う。教科書通りではないが、関連の章は記載しているので、教科書は授業前に読んでおくこと。</li> <li>・ 社会情勢や制度改変等により、授業計画を変更する場合がある。その都度伝達したうえで授業の予定を変更する。</li> <li>・ 随時質問するので、主体的な授業参加をすること。</li> </ul>		
教科書	民秋 言他(編著)『新保育ライブラリーシリーズ 保育原理(新版)』北大路書房 2014年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針 原本』チャイルド本社 2014年		
指定図書	なし		
参考図書	講義の中で適宜紹介		
オフィスアワー	月曜日昼休み	メールアドレス	

授業科目	保育者論	開講時期	後期
担当教員	大元 千種	単位	2
授業の目的と概要	現代の幼稚園や保育所等保育施設や子育て支援施設に何が求められているのかを考える。さらに、「子ども・子育て関連3法」導入に伴う制度の変更についても取り上げ、幼稚園教諭、保育士、保育教諭等保育者の社会的立場づけとその専門性についての理解を促すとともに、保育者として必要な様々な協働について考察する。また、近年の社会的状況を理解し、子どもや親たちをうけとめ、保育ニーズに対応できるような保育者としての態度を養成することを目的とする。 保育実践の分析やビデオ視聴などによって、具体的に現代の幼稚園や保育所や子育て支援施設の保育の質を考える。保育実践や外国の取り組みを手がかりに保育、子育て支援の基本や保育者の専門性について理解を深める。授業の多くは講義形態であるが、視聴覚教材（ビデオ）や保育実践例等とおして、より具体的・実践的に理解する。また、毎回授業での気づきや考察を「学びの軌跡」にまとめ、自らの学びを確認する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教諭、保育士、保育教諭等の保育者の役割と倫理について、例をあげて説明することができる。</li> <li>2. 保育者の資格、要件、責務について説明することができる。</li> <li>3. 保育の実践から保育の実際をイメージし、分析・評価することができる。</li> <li>4. 保育者の協働について具体的に説明することができる。</li> <li>5. 「保育の質」の視点や、保育者の専門性および資質について意見を述べるることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に発達臨床心理コース、社会福祉コースのDP②「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」、初等教育コースのDP②「初等教育に関する専門的知識や子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況についての知識を身に付けることができる。」、幼児保育コースのDP②「子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況に関する知識を身に付けることができる。」の達成に関わる科目です。 関連科目*社会学概論Ⅰ、社会福祉論、保育原理、教職入門、教育原理		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	保育者（幼稚園教諭、保育士、保育教諭等）の役割と倫理について	予習：第1章	
第2回	保育者の制度的立場づけ：資格・要件・責務についての比較	予習：幼稚園教諭と保育士の違いについて調べる	
第3回	「子ども・子育て関連3法」にもとづく新制度における保育者の立場づけ	予習：「子ども・子育て関連3法」について調べる	
第4回	保育者の専門性とは①：養護と教育	予習：第2章、第8章	
第5回	保育者の専門性とは②：資質、能力について	予習：第8章	
第6回	保育者の専門性とは③：保育の省察について	予習：第7章	
第7回	保育者の専門性とは④：事例検討	予習：第3章、第4章	
第8回	保育者の協働①：保育と保護者支援にかかわる協働	予習：第6章	
第9回	保育者の協働②：専門職間及び専門機関との連携	予習：保育に関わる関係機関について調べる	
第10回	保育者の役割①：子どもとともに心と体を動かす	予習：第4章	
第11回	保育者の役割②：豊かな文化や自然との出会いをつなぐ	予習：第5章	
第12回	世界の保育と子育て支援から学ぶ①保育の質とは	課題：外国の保育の内容について調べる	
第13回	世界の保育と子育て支援から学ぶ②：レッジョ・エミリア市の保育と保育者	課題：外国の保育者に求められる専門性について調べる	
第14回	世界の保育と子育て支援から学ぶ③：フィンランドの保育・子育て支援と保育者	予習：保育を含めた子育て支援における連携について調べる	
第15回	保育者の専門性：子どもの遊びを保障する保育と保育者の役割	予習：第8章	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	80％ 期末テスト		
レポート	0％		
小テスト等	0％		
成果発表	0％		
受講態度他	20％ 毎授業時の「学びの軌跡」で授業への参加態度を確認し、評価の対象に含む。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業はシラバスに従って行うので、教科書とおりに進まない。また、急な社会情勢や制度変更等諸事情により、予定のシラバスも変更する場合がある。その場合はその都度授業で伝達する。教科書以外の参考資料を多く使用するので、必ず各自で資料等を整理しておくこと。また、毎回授業での気づきや考察を「学びの軌跡」にまとめ、自らの学びを確認すること。		
教科書	汐見穂幸・大豆田啓友（編）『保育者論』 ミネルヴァ書房 2010年		
指定図書	平松知子『子どもが心のかっとうを超えるとき』 ひとなる書房 2012 清水玲子『育ちあう風景』 ひとなる書房 2013		
参考図書	授業で随時紹介		
オフィスアワー	月曜日昼休み	メールアドレス	

授業科目	保育心理	開講時期	後期
担当教員	S. Kumar	単位	2
授業の目的と概要	人間形成の原理と社会に生きていく上で、心理学の考え方やそれに関する様々な方法を学びます。心理学的な視点から子どもの成長として、発達、教授や学習の過程、学習への動機、人格の形成を学びます。人間は生まれてからどのような発達段階を経て、成長していくことへの理解。それに関して、乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期の理解。それぞれの発達段階で知能の発達、情緒の発達、社会性の発達などを理解しながら学ぶ。様々な心理テストなどを通して、人間の考え方、知能、行動、学習過程、記憶、性格をもっと理解することを学ぶ。また、保育士という職業的自立につながる知識を身につける。		
到達目標	社会の中生きることとして生まれてから成長していく発達の段階、様々な学習と記憶のプロセスと理論、考え方、人格の形成や人間の行動について様々な心理テストを通して理解する。社会的自立として日常生活の中、上記のものを取り入れて、心理学の適切な理解や判断力を身につけることができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は保育士免許と幼稚園教諭に関する科目であり、乳幼児の成長、学習などと保育心理の基本知識を学びます。保育現場で対応できる保育心理的な実践や活動体験を基にした保育又は教育指導を学びます。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 保育心理学とは何か		保育心理の定義の理解課題	
第2回 心理学の歴史		心理学者についての復習	
第3回 乳幼児期の運動と知能の発達		発達についての復習	
第4回 ピアジェの発達段階論の理解		ピアジェ理論の課題の復習	
第5回 幼児期の知識、運動、言語と情緒の発達について		言語発達についての復習	
第6回 仲間関係と社会性の形成		集団遊びの予習	
第7回 学習の成立 (S-R説)		日常生活の中学習の復習	
第8回 学習過程の知識論		パヴロフ論についての課題	
第9回 内発的動機付けと外発的動機づけ		動機はなぜ必要かの課題の復習	
第10回 記憶		短期記憶と長期記憶の理解課題	
第11回 人格の理解		人格についての復習	
第12回 人格の理解の投影法検査		ロールシャハールについての課題	
第13回 発達と人格に関する心理テストの理解		心理テストはなぜ必要かの予習	
第14回 発達・学習・人格に関する心理テスト		心理テストの理解課題	
第15回 授業全体の理解と総まとめ		人間と心理の関係理解復習	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	90%筆記試験		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	10% (私語5%、遅刻3%、授業中携帯電話の使用など2%)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義の際に指示します		
教科書	指定しない (資料配布)		
指定図書	なし		
参考図書	勝地三郎 監修『新教育心理』ナカニシヤ出版 岩田純一・佐々木正人・石田勢津子・落石幸子『児童の心理学』		
オフィスアワー	Surender Kumar - 授業の前後	メールアドレス	

授業科目	保育実習 I		開講時期	通年
担当教員	大元 千種		単位	4
授業の目的と概要	<p>保育実習は、これまで大学において学習してきた心理学、教育学、保育、福祉、保健、保育内容等の専門科目・教養科目等の理論を基礎として、保育の実際にあたり、指導技術を実践する。それによって、理論と実践の統合をはかり、専門的知識・技術および豊かな人間性をおねそなえた保育士を育成することを目的とする。</p> <p>保育実習 I では、保育所実習において、保育所生活に参加し、乳幼児への理解を深める。それとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。施設実習においては、居住型児童福祉施設等の生活に参加し、子どもへの理解を深める。それとともに、居住型児童福祉施設等の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習保育所、施設の日課と職員を理解する。</li> <li>2. 保育所の乳幼児や児童福祉施設利用者、職員に積極的に関わることができる。</li> <li>3. 実習生としての謙虚さと積極性をもち、状況にふさわしい言動を取ることができる。</li> <li>4. 問題意識や実習課題をもって実習に取り組み、今後の課題を明確にすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第 1回	保育所での実習についての事前指導：学内オリエンテーション	課題：実習準備、実習生調書、保育実習計画書		
第 2回	保育所での実習についての事前指導：実習施設	課題：実習準備		
第 3回	保育所での実習についての事前指導：学内最終オリエンテーション	課題：実習準備		
第 4回	実習10日間	課題：保育所の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第 5回	実習10日間	課題：保育所の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第 6回	実習10日間	課題：保育所の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第 7回	事後指導：実習保育所内での反省会	課題：『保育実習日誌』整理、「保育実習報告」、「園レポート」		
第 8回	事後指導：大学内での総括と今後の課題	課題：お礼状、反省と次の実習にむけての課題		
第 9回	居住型児童福祉施設での実習についての事前指導：学内オリエンテーション	課題：実習準備、実習生調書、保育実習計画書		
第10回	居住型児童福祉施設での実習についての事前指導：学内直前オリエンテーション	課題：実習準備		
第11回	実習10日間	課題：実習施設の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第12回	実習10日間	課題：実習施設の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第13回	実習10日間	課題：実習施設の指導と各自の実習計画に基づく実習		
第14回	事後指導：実習保育所内での反省会	課題：『保育実習日誌』整理、「保育実習報告」、「園レポート」		
第15回	事後指導：大学内での総括と今後の課題	課題：お礼状、反省と次期実習にむけての課題		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	30% 実習先事前学習（10%）、実習生調書・実習計画書（10%）、実習報告書・実習園レポート（10%）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	70% オリエンテーション出席（10%）、実習評価（50%）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>保育所と居住型児童福祉施設の両方での実習を行わなければならない。</p> <p>提出物の期日を厳守、無断欠席、遅刻厳禁。健康管理に注意。報告、連絡、相談の徹底</p>			
教科書	なし			
指定図書	厚生労働省（編）『保育所保育指針 解説書』 フレーベル館 2008年			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスワー	(実習指導担当 大元) 月曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	保育実習Ⅱ		開講時期	通年
担当教員	大元 千種		単位	2
授業の目的と概要	<p>これまで大学において学習してきた専門科目・教養科目の理論を基礎にして、保育の実際にあたり、私道技術を実践する。それによって理論と実践の統合をはかり、専門知識・技術および豊かな人間性をかねそなえた保育士を育成することを目的とする。</p> <p>自らの保育課題を明確にし、さらなる学びへと発展させていく。</p> <p>3年次後期の保育実習Ⅱでは、保育所保育を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。子どもや家庭の福祉ニーズに対する理解を深め、判断力を養うとともに、子育て支援に必要な能力を培う。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 問題意識や実習課題をもって実習に取り組み、保育所の保育を実践する。</li> <li>2. 保育所の保育士として必要な資質、能力、技術等を習得し、部分保育、一日保育で生かすことができる。</li> <li>3. 保育所の職員の協働体制について理解を深める。</li> <li>4. 保育所の行う子育て支援について理解を深める。</li> <li>5. 今後の課題を明確にすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 事前指導：学内オリエンテーション（保育所実習…10日間）		実習準備、実習生紹介状、保育実習計画書		
第2回 事前指導：学内直前オリエンテーション		課題：実習準備		
第3回 事前指導：実習保育所でのオリエンテーション		課題：実習準備		
第4回 保育所実習1日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第5回 保育実習2日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第6回 保育実習3日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第7回 保育実習4日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第8回 保育実習5日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第9回 保育実習6日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第10回 保育実習7日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第11回 保育実習8日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第12回 保育実習9日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第13回 保育実習10日目		課題：実習保育所からの指導と各自の実習計画による		
第14回 事後指導：実習保育所での実習の総括		課題：『保育実習日誌』、「保育実習報告」、「園レポート」		
第15回 事後指導：大学での実習の総括		課題：お礼状、実習反省と今後の課題		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	30% 実習先についての事前学習（10%）、実習生調書・実習計画書（10%）、実習報告書・園レポート（10%）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	70% オリエンテーション出席（10%）、実習評価（50%）、保育実習日誌（10%）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>保育実習Ⅱと保育実習Ⅲを同時に履修することはできない。</p> <p>提出物の期日を厳守。無断欠席。遅刻厳禁。健康管理に注意。報告、連絡、相談の徹底。</p>			
教科書	なし			
指定図書	厚生労働省（編）『保育所保育指針 解説書』 フレーバル館 2008年			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスワーカー	（実習指導担当 大元）月曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	保育実習Ⅲ		開講時期	通年
担当教員	大元 千種		単 位	2
授業の目的と概要	<p>保育実習は、これまで大学において学習してきた専門科目・教養科目等の理論を基礎として、保育の実際にあたり、指導技術を実践する。それによって、理論と実践の統合をはかり、専門的知識・技術および豊かな人間性をお互に養い、保育士を育成することを目的とする。さらに自らの保育課題を明確にし、さらなる学びへと発展させていく。</p> <p>3年次後期の保育実習Ⅲでは、保育所以外の児童福祉施設、その他社会福祉施設の養護を実践し、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。子どもや家庭の福祉ニーズに対する理解を深め、判断力を養うとともに、子育て支援に必要な能力を養う</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 問題意識や実習課題をもって実習に取り組み、児童福祉施設、その他の社会福祉施設の保育を実践する。</li> <li>2. 児童福祉施設、社会福祉施設の保育士として必要な資質、能力、技術等を習得し、実習で生かすことができる。</li> <li>3. 福祉施設の職員の協働体制について理解するとともに、その中での保育士の役割について考える。</li> <li>4. 児童福祉施設を行う子育て支援について理解を深める。</li> <li>5. 今後の課題を明確にすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回 事前指導：大学内オリエンテーション		課題：実習準備、実習調書、実習計画書		
第 2回 事前指導：大学内直前オリエンテーション		課題：実習準備		
第 3回 事前指導：実習施設オリエンテーション		課題：実習準備		
第 4回 保育実習1日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による		
第 5回 保育実習2日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による		
第 6回 保育実習3日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による		
第 7回 保育実習4日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による		
第 8回 保育実習5日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による		
第 9回 保育実習6日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による		
第10回 保育実習7日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による		
第11回 保育実習8日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による		
第12回 保育実習9日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による		
第13回 保育実習10日目		課題：実習施設からの指導と各自の実習計画による		
第14回 事後指導：実習施設での実習反省		課題：『保育実習日誌』整理、「保育実習報告」、「園レポート」		
第15回 事後指導：大学内での実習報告とまとめ		課題：お礼状、反省と今後の課題		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	30% 実習先についての事前学習（10%）、実習生調書・実習計画書（10%）、実習報告書・園レポート（10%）			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	70% 直前オリエンテーション出席（10%）、実習評価（50%）、保育実習日誌（10%）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>保育実習Ⅱと保育実習Ⅲを同時に履修することはできない。</p> <p>提出物の期日を厳守。無断欠席。遅刻厳禁。健康管理に注意。報告、連絡、相談の徹底。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介する。			
オフィスワー	(実習指導担当 大元) 月曜日昼休み	メールアドレス		



授業科目	保育実習指導 I		開講時期	前期
担当教員	大元 千種・古田 瑞穂・山之内 輝美		単位	2
授業の目的と概要	<p>保育実習指導 I においては、保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、保育士としての基礎的な実践力を養成することを目的とする。主として保育実習 I（保育所・居住型児童福祉施設）にむけて必要な知識、技能や倫理などについて修得し、各自の実習課題を明確化する。本授業は、教科書のほか、視覚教材や実際の実習日誌等により具体的、実践的に実習準備を進めていく。</p> <p>本授業そのものが実習の事前指導であることを自覚し、主体的に学修することとする。</p> <p>保育実習に際して、本実習指導の他に学内での実習オリエンテーション、各実習施設における事前指導等も実施される。これらは、各保育実習のシラバスに記載されている。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習生として保育現場に入るための課題を明確に持つことができる。</li> <li>2. 挨拶、返事、言葉使い、姿勢等実習生としての基本を身につける。</li> <li>3. 手遊びや実践、絵本の読み聞かせなど対象者を考慮して実践できる。</li> <li>4. 実習日誌の記入、指導案の作成を適切にできる。</li> <li>5. 対象年齢や状況に応じた教材研究ができる。</li> <li>6. 実習後の反省により、実習での学びと次の実習にむけての課題を明確にすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第 1 回	保育実習の意義：保育実習についての目的と意義について	予習：第 1 章。 課題：「わたしの手遊びノート」「わた		
第 2 回	保育の現場に出会う：保育現場に入るときの心得、文章表現（1）	第 1 章 課題：保育現場の文章、漢字練習／教材		
第 3 回	保育実習施設の特徴①：それぞれの特徴と役割、文章表現（2）、漢字テスト	第 2 章、資料 課題：保育実習施設の特徴		
第 4 回	保育実習施設の特徴②：保育の 1 日の流れとデイリープログラム、文章表現テスト	第 4 章 課題：実習課題（保育実習施設の特徴、		
第 5 回	実習前指導：先輩ゼミと実習課題（保育実習施設の特徴、保育所実習計画）	課題：実習課題（保育実習施設の特徴、保育所実習計画）		
第 6 回	保育の記録①：記録をとることの意味	資料、課題：日誌の模写（かかった時間記録）		
第 7 回	保育の記録②：実習日誌の書き方	課題：指導案模写		
第 8 回	保育所実習にむけて①：実習計画書、指導計画（指導案作成についての注意点）	課題：指導案作成（各自制作教材を研究し、作成した教材を使用）		
第 9 回	保育所実習にむけて②：指導計画（指導案の検討）	課題：制作教材の作成および指導案完成		
第 10 回	教材研究（指導案用教材）の検討	課題：模擬保育にむけて準備・練習		
第 11 回	保育所実習にむけて③：模擬保育（その 1）	課題：模擬保育にむけて準備・練習、保育所実習準備		
第 12 回	保育所実習にむけて④：模擬保育（その 2）	課題：模擬保育にむけて準備・練習、保育所実習準備		
第 13 回	保育所実習にむけて⑤：模擬保育（その 3）	課題：模擬保育にむけて準備・練習、保育所実習準備		
第 14 回	保育所実習にむけて⑥：模擬保育（その 4）	課題：保育所実習準備、施設実習にむけて、実習計画書と実習生調書下書		
第 15 回	保育所実習にむけて⑦：最終確認、施設実習にむけて①：実習計画書と実習生調書下書き	課題：場面記録、保育所実習準備、保育実習 II または III の実習先探し		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	40% 実習施設事前学習、授業課題、指導案など			
小テスト等	—			
成果発表	20% 教材研究、指導案の発表準備含む			
受講態度他	40% 出席状況の他、意見の発表や配布用紙で授業への参加態度を確認する。毎授業時の「学びの軌跡」で授業への参加態度を確認し、評価の対象に含む。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>主体的に授業参加をする。</p> <p>無断欠席、遅刻、早退は認められない。3回以上の欠席、遅刻の場合、状況によっては特別に課題を付加する。</p> <p>「手遊びノート」や「絵本ノート」をもとに、授業中に手遊びや絵本の読み聞かせ等保育実技も発表を行う。いつでも対応できるように日ごろから準備しておくこととする。</p> <p>教科書どおりの進行ではない。</p>			
教科書	安部和子・増田まゆみ・小櫃智子 『最新保育講座 保育実習（第2版）』 ミネルヴァ書房 2014年			
指定図書	厚生労働省（編） 『保育所保育指針解説書』 フレーブル館 2008年			
参考図書	田上貞一郎 『保育者になるための国語表現』 萌文書林 2010年			
オフィスワー	月曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	保育実習指導 I		開講時期	後期
担当教員	大元 千種・S. Kumar・山之内 輝美		単位	2
授業の目的と概要	<p>保育実習指導 I においては、保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、保育士としての基礎的な実践力を養成することを目的としている。主として保育実習 I（児童福祉施設）にむけて必要な知識、技能や倫理などについて修得し、各自の実習課題を明確化していきます。本授業は、教科書のほかに、視聴覚教材や実際の実習日誌等により具体的、実践的に実習準備を進めていきます。</p> <p>本授業そのものが実習の事前指導であることを自覚し、主体的に学修していきます。</p> <p>保育実習に際して、本実習指導の他に学内での実習オリエンテーション、各実習施設における事前指導等も実施されます。これらは、各保育実習のシラバスに記載されています。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習生として保育現場に入るための課題を明確に持つことができる。</li> <li>2. 挨拶、返事、言葉使い、姿勢等実習生としての基本を身につける。</li> <li>3. 手遊びや実践、絵本の読み聞かせなど対象者を考慮して実践できる。</li> <li>4. 実習日誌の記入、指導案の作成を適切にできる。</li> <li>5. 対象年齢や状況に応じた教材研究ができる。</li> <li>6. 実習後の反省により、実習での学びと次の実習にむけての課題を明確にすることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>「保育実習指導 I」は人間科学部人間形成専攻幼児保育コースの専攻科目で、DP④「幼児教育・保育の専門知識や保育技術、音楽や図画工作、体育などの基礎技能を身に付け、活用することができる。」ことを目的にした科目です。「保育実習 I」を実施するにあたって必ず受講しなければならない科目です。3年生前期開講科目「保育実習指導 II」は、「保育実習指導 I」を基礎としながら、「保育実習 II」や「保育実習 III」に向けて、さらに実践力を身に付けるための科目です。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第 1回 保育実習の意義：保育実習についての目的と意義について		課題：実習についての理解		
第 2回 保育の現場に出会う：保育現場に入るときの心得		課題：保育現場の理解		
第 3回 保育実習施設の特徴①：それぞれの特徴と役割		課題：保育実習施設の特徴、保育実習 II または III の実習先探		
第 4回 保育実習施設の特徴②：保育の 1 日の流れとデイリープログラム		課題：実習課題（保育実習施設の特徴）		
第 5回 実習前指導：先輩ゼミと実習課題（保育実習施設の特徴、実習計画）		課題：実習課題（保育実習施設の特徴）		
第 6回 保育の記録①：記録をとることの意味		資料、課題：実習日誌の記述		
第 7回 保育の記録②：実習日誌の書き方		課題：実習計画書、実習日誌の記述		
第 8回 保育実習にむけて①：実習計画書の記述		課題：実習計画書の作成		
第 9回 保育実習にむけて②：実習計画書や指導計画（指導案の検討）		課題：遊びや制作等教材を研究する		
第10回 教材研究（指導案用教材）の検討		課題：遊びの検討、教材の作成		
第11回 保育実習にむけて③：模擬保育（その 1）		課題：模擬保育にむけて準備・練習、保育実習準備		
第12回 保育実習にむけて④：模擬保育（その 2）		課題：模擬保育にむけて準備・練習、保育実習準備		
第13回 保育実習にむけて⑤：模擬保育（その 3）		課題：模擬保育にむけて準備・練習、保育実習準備		
第14回 施設実習にむけて直前準備		課題：施設実習にむけてのまとめ、準備		
第15回 保育実習にむけてのまとめ		課題：施設実習の振り返り、保育所実習準備		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	40% 実習施設事前学習、授業課題、指導案など			
小テスト等	—			
成果発表	20% 教材研究、指導案の発表準備含む			
受講態度他	40% 出席状況の他、意見の発表や配布用紙で授業への参加態度を確認する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>主体的に授業に参加をします。</p> <p>無断欠席、遅刻、早退は認められません。3回以上の欠席、遅刻については、状況によっては特別な課題、実習延期や中止となる場合があります。</p> <p>授業中に手遊びや絵本の読み聞かせ、設定保育の模擬保育等保育実技の発表を行います。</p> <p>実習先の状況に応じて、特別指導を行うこともあります。</p>			
教科書	授業前に提示します。			
指定図書	なし			
参考図書	田上貞一郎 2010 保育者になるための国語表現 萌文書林			
オフィスワー	月曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	保育実習指導Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	大元 千種	単位	1
授業の目的と概要	<p>保育実習指導Ⅰの内容を受け、実習の反省、評価、総括を行う。その上で、保育実習Ⅱ（保育所）にむけて、保育実習Ⅰで生じた課題をさらに明確化し、自らの課題設定のもとに知識・技術の修得等を深め、将来の保育士としての実践的力量を高めていくことを目的とする。</p> <p>実習振り返りや記録、指導案の相互検討、および模擬保育による実践をもとにした検討など受講生の主体的かつ協同の学修を行う。授業前半は、保育実習Ⅰ（施設）の事前指導および事後指導を行うが、それが保育実習Ⅱの事前指導でもある。つねに主体的に授業に取り組むことが期待される。</p> <p>本授業の他に学内での実習オリエンテーション、各保育実習先において事前指導等が実施されるが、それは保育実習Ⅱに記載されている。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習にむけての課題、計画、準備を主体的に取り組むことができる。</li> <li>2. 挨拶、返事、ことば使い、姿勢等実習生としての基本を確実に身につける。</li> <li>3. 自分の実践をふりかえり課題を明確にするとともに他の実践についての確に分析することができる。</li> <li>4. 「素」で話をするにより自分の癖や注意事項に気づき、話し方に工夫をすることができる。</li> <li>5. 保育実習で適切な配慮を行うことができるように、子どものことばや行動を理解し意味づけることができる。</li> <li>6. 活動指導案の作成、教材研究について習熟し、指導案作成と実践をすることができるようになる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 授業概要 保育実習による総合的な学び① 子どもの最善の利益を考慮した保育の理解と子ども（利用者）の理解		課題：各自の実習課題設定	
第2回 保育実習による総合的な学び② 施設を利用する子どもの理解と適切なかかわり		課題：施設実習にむけてグループ学習、準備	
第3回 計画と観察、記録、自己評価① 保育の観察、施設実習留意点		実習日誌	
第4回 計画と観察、記録、自己評価②実習日誌について		指導案	
第5回 計画と観察、記録、自己評価③ 支援計画や指導案について		課題：「実習の記録」	
第6回 計画と観察、記録、自己評価④自己評価、施設実習の振り返り		課題：グループ討議の準備	
第7回 事後指導における実習の総括と評価①実習の総括と評価（その1）		課題：グループ発表、教材研究	
第8回事後指導における実習の総括と評価②実習の総括と評価（その2）		課題：場面記録（保育実習Ⅰ（保育所））、教材研究	
第9回 保育実践力の育成①保育実習Ⅰ（保育所）の場面記録の検討（その1）		課題：場面記録、教材研究・素話の練習	
第10回保育実践力の育成②保育実習Ⅰ（保育所）の場面記録の検討（その2）		課題：手作り教材、指導案、模擬保育準備	
第11回 保育実践力の育成③ 模擬保育および検討（その1）		課題：手作り教材、指導案、模擬保育	
第12回 保育実践力の育成④ 模擬保育および検討（その2）		課題：手作り教材、指導案、模擬保育	
第13回 保育実践力の育成⑤ 模擬保育および検討その3）		課題：手作り教材、指導案、模擬保育	
第14回 保育実践力の育成⑥模擬保育および検討（その4）		課題：手作り教材、指導案、模擬保育、漢字練習、保育実習Ⅱの場面記録	
第15回保育実習Ⅱ事後指導における実習の総括と評価		課題：場面記録	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	—		
レポート	40% 実習課題、日誌、指導案、実習まとめ、場面記録、手作り教材等		
小テスト等	—		
成果発表	20% 教材研究準備と発表の態度		
受講態度他	40% 意見発表や配布用紙で授業への参加態度を確認。毎授業時の「学びの軌跡」で授業への参加態度を確認し、評価の対象に含む。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>主体的な授業への参加と課題意識を持つことを期待する。</p> <p>原則として無断欠席、遅刻、早退は認められない。状況によっては特別に課題を付加する。教科書を使用するが、授業の進行は教科書どおりではない。また、上記の授業計画は場合によっては変更することがある。授業外に開催する実習オリエンテーションにも必ず参加すること。所定の服装、身だしなみに注意すること。</p>		
教科書	安部和子・増田まゆみ・小櫃智子 『最新保育講座13 保育実習（第2版）』 ミネルヴァ書房 2014年		
指定図書	厚生労働省 『保育所保育指針解説書』 フレーベル館 2008年		
参考図書	授業で紹介する。		
オフィスワー	月曜日昼休み	メールアドレス	

授業科目	保育実習指導Ⅲ	開講時期	後期
担当教員	山之内 輝美	単位	1
授業の目的と概要	<p>保育実習指導Ⅰの内容と受けて、実習の反省、評価、総括を行う。その上で、保育実習Ⅲ（保育所以外の児童福祉施設等）にむけて、施設における保育実習の意義と目的について理解を促し、施設の特徴を認識した上でその保育を総合的に学ぶことを目的としている。保育実践力の養成、さらに、保育士の専門性と職業倫理についての理解を促す。実習の事後学習を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にし、将来の保育士としての力量を高めていくことを目的とする。</p> <p>受講生の主体的かつ協同の学修学習を行う。</p> <p>本授業の他に学内での実習オリエンテーション、各実習先において事前指導等が実施されるが、それは保育実習Ⅲに記載されている。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育実習の意義と目的について説明できる。</li> <li>2. 施設について理解し、保育実践に必要な技能を習得し、発揮することができる。</li> <li>3. 保育の観察や記録、自己評価等を踏まえた保育の改善について自分なりの意見を述べるすることができる。</li> <li>4. 保育士の専門性と職業倫理について具体的に例をあげて説明できる。</li> <li>5. 活動指導案の作成、教材研究について習熟し、作成し、実践することができるようになる。</li> <li>6. 事後学習を通して、実習の総括を行い、保育に対する課題を明確にもち説明できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 保育実習による総合的な学び① 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解と子ども（利用者）の理解		課題：各自の実習課題設定	
第2回 保育実習による総合的な学び② 施設を利用する子ども（利用者）の理解と適切ななかかわり		課題：施設実習にむけてグループ発表	
第3回 計画と観察、記録、自己評価① 保育の観察、施設実習留意点		実習日誌	
第4回 計画と観察、記録、自己評価② 実習日誌について		指導案	
第5回 計画と観察、記録、自己評価③ 支援計画や指導案について		課題：「実習の記録」	
第6回 計画と観察、記録、自己評価④ 自己評価、施設実習振り返り		課題：グループ討議の準備	
第7回 事後学習における実習の総括と評価① 実習の総括と評価（その1）		課題：グループ発表	
第8回 事後学習における実習の総括と評価① 実習の総括と評価（その2）		課題：グループ発表、教材研究	
第9回 保育実践力の育成① 保育の表現技術を生かした保育実践その1 模擬保育および検討		教材研究	
第10回 保育実践力の育成② 保育の表現技術を生かした保育実践その2 模擬保育および検討		教材研究	
第11回 保育実践力の育成③ 保育の表現技術を生かした保育実践その3 模擬保育および検討		教材研究	
第12回 保育実践力の育成④ 保育の表現技術を生かした保育実践その4 模擬保育および検討		模擬保育の準備	
第13回 保育実践力の育成⑤ 保育の表現技術を生かした保育実践その5 模擬保育および検討		模擬保育	
第14回 保育士の専門性と職業倫理、まとめ		保育実習Ⅲに向けての準備	
第15回 事後学習における実習の総括と評価③ 実習の総括と評価、課題の明確化		保育実習Ⅲのまとめ	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	％		
レポート	50％ 提示した課題やレポート		
小テスト等	％		
成果発表	20％		
受講態度他	30％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>主体的な授業への参加と課題意識を持つこと。</p> <p>原則として無断欠席、遅刻、早退は認められない。</p> <p>授業外に開催する実習オリエンテーションにも必ず参加すること。</p>		
教科書	安部和子・増田まゆみ・小櫃智子 『最新保育講座 保育実習（第2版）』 ミネルヴァ書房 2014年（保育実習指導Ⅰで使用テキスト）		
指定図書	小池由佳・山縣文治編著『社会的養護』小池由佳・山縣文治編著，ミネルヴァ書房。		
参考図書	授業で紹介する。		
オフィスアワー	月曜日 12:30-13:00	メールアドレス	

授業科目	保育相談支援		開講時期	後期
担当教員	原 陽一郎・大森 ちづる		単位	2
授業の目的と概要	<p>保育に関する専門的知識・技術を背景としながら、保護者が支援を求めている子育ての問題や課題に対して保育相談、助言ができるようになる。</p> <p>保育相談支援の体系を理解するために事例および意義、基本、実際に学ぶ</p>			
到達目標	<p>① 保育相談支援の意義や基本的視点について理解する</p> <p>② 保育相談支援の実際を学び、内容や方法を理解する</p> <p>③ 保護者支援の基本を理解する</p> <p>④ 保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション 保育相談支援の意義と基本視点 保育相談支援とは何か	国の子育て支援施設の流れについても考察する		
第2回	保育士の業務と役割、相談の実際事例	ケアワーク業務、保護者支援について認識する		
第3回	保育相談支援の価値と倫理、相談の実際事例	保護者支援の原則 家庭福祉の理念を考える		
第4回	信頼関係を築く受容と自己決定、相談の実際事例	信頼関係の捉え方を理解する ラポールについて考察する		
第5回	子どもの最善の利益の重視 子供の成長の喜びの共有、相談の実際事例	「児童の権利に関する条約」が批准されて以降、子どもの権利の考え方を知る		
第6回	社会資源との連携・協力、相談の実際事例	連携・協力の対象となる地域資源や関係機関を把握する		
第7回	保育を基盤とした保育相談支援、相談の実際事例	日常場面で展開される保育相談支援の事例を考察する		
第8回	保育相談支援の方法と技術、相談の実際事例	保育相談支援で活用される保育技術について考える		
第9回	保育相談支援の展開、相談の実際事例	保育の専門性に基づく援助行為の道筋を理解する		
第10回	保育所における保育相談支援、相談の実際事例	保育相談支援のいろいろな場面を知る		
第11回	地域子育て支援における保育相談支援、相談の実際事例	VTR「ババママ育て」を通して子育て支援の一部をみる		
第12回	児童福祉施設における保育相談支援、相談の実際事例	施設機能に即した保育相談の特性を知る		
第13回	子どもの虐待について、相談の実際事例	虐待が起きる要因を考える		
第14回	子育て相談のポイント	相談を受けるにあたっての実際面について認識する		
第15回	全国保育士会の倫理・綱領を通して、まとめ	心身ともに活力ある指導者となるために考察する		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	10%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	20% 授業の出席状況および受講態度についても成績評価に加える			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	将来、保護者・児童の指導者となるにふさわしい履修態度を求める			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	保育内容演習（環境）		開講時期	前期
担当教員	平山 静男		単位	2
授業の目的と概要	保育内容「環境」に関する適切な保育を行うことができるようになるために、子ども理解を深めながら、保育者に求められる保育力を身につける。授業は、保育内容「環境」のねらい、内容、内容の取扱いについて学修し、さらに、幼児が環境とのかかわりを深めることができる活動について模擬保育を行う。これらを通して、幼児にとっての「環境」のもつ意味、発達における「環境」とのかかわりの重要性、幼児の自然認識、そこにおける保育者の役割を検討、考察する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1, 保育内容「環境」に関する基本的な知識について説明することができる。</li> <li>2, 保育内容「環境」に関する保育計画を作成することができる。</li> <li>3, 保育内容「環境」に関する模擬保育を行うことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、初等教育コースのDP「教科指導の専門的知識や技術指導、基礎的技能を身に付け、活用することができる。」の達成に関わる科目です。「初等教育の専門的知識や技能を身に付け、実践力を高める学修」で、他領域の保育内容演習と比較することで理解が深まります。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業の目的と概要、「環境」とは	復習		
第2回	子どもを取り巻く環境の変化	復習、グループ協議（指導計画の作成、教材研究、模擬保育の準備）		
第3回	ねらい及び内容について、園の環境	復習、グループ協議（指導計画の作成、教材研究、模擬保育の準備）		
第4回	子どもの発達と環境	復習、グループ協議（指導計画の作成、教材研究、模擬保育の準備）		
第5回	「自然とふれあい感動する」に関わる模擬保育と検討	グループ協議（指導計画の作成、教材研究、模擬保育の準備）		
第6回	「物事の法則性に気づく」に関わる模擬保育と検討	グループ協議（指導計画の作成、教材研究、模擬保育の準備）		
第7回	「季節感を味わう」に関わる模擬保育と検討	グループ協議（指導計画の作成、教材研究、模擬保育の準備）		
第8回	「自然を取り入れて遊ぶ」に関わる模擬保育と検討	グループ協議（指導計画の作成、教材研究、模擬保育の準備）		
第9回	「生命の営みにふれる」に関わる模擬保育と検討	グループ協議（指導計画の作成、教材研究、模擬保育の準備）		
第10回	「身のまわりの物に愛着をもつ」に関わる模擬保育と検討	グループ協議（指導計画の作成、教材研究、模擬保育の準備）		
第11回	「科学を体感する」に関わる模擬保育と検討	グループ協議（指導計画の作成、教材研究、模擬保育の準備）		
第12回	「数量・図形に親しむ」に関わる模擬保育と検討	グループ協議（指導計画の作成、教材研究、模擬保育の準備）		
第13回	「標識や文字の必要感を育む」に関わる模擬保育と検討	グループ協議（指導計画の作成、教材研究、模擬保育の準備）		
第14回	「身近な情報や施設を生かし、生活を豊かにする」に関わる模擬保育と検討	グループ協議（指導計画の作成、教材研究、模擬保育の準備）		
第15回	領域「環境」、模擬保育、指導計画の総括。	復習、課題を受けてのレポート作成		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし。			
レポート	40%。指導計画、模擬保育に関する課題についてレポートにまとめる。1回。			
小テスト等	なし。			
成果発表	40%。指導計画の内容、及び模擬保育の内容について評価する。			
受講態度他	20%。授業に臨む意欲など積極的な受講態度について、主として意見発表や質問などにより評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席、遅刻は事前もしくは事後に理由を申し出ること。また、途中早退は事前に理由を申し出て、了解を得ること。			
教科書	田宮緑著『体験する 調べる 考える 領域環境』萌文書林			
指定図書	なし。			
参考図書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館			
オフィスアワー	授業の前後。	メールアドレス		

授業科目	保育内容演習（環境）		開講時期	前期
担当教員	原 陽一郎		単 位	2
授業の目的と概要	保育内容「環境」は、子どもに環境と関わる力を育てるという視点から、その内容や方法を考えようとするものである。とくに乳幼児期の教育においては、「自発的、意欲的に関われるような環境を構成」することによって「生活と遊びを通して総合的に」おこなうことが必要である。よって本講義では、このような「環境の構成力」を身につけるために、物的環境・人的環境・社会及び自然の事象についての理解を深めることを目的とする。			
到達目標	<p>環境 目的 「周囲の様々な環境に好奇心や探求心を持ってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う。</p> <p>①子どもたちが、「周囲の様々な環境に好奇心や探求心」をもてるような働きかけができるようになるために、自分自身の好奇心や探求心を深めるために興味を持ったことを実験・観察し、その面白さを伝えられるようになる。</p> <p>②子どもの育ちにとって適切な環境を考える基礎を理解し、その理由を説明することが出来る。</p> <p>③指導案を作成し、目的が達成されるような保育をおこなうための留意点について把握する。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
	「保育」とは何か 幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における保育の定義	上記要領・指針を読み、保育とは何かについて考えを深める		
	保育者の専門性とは 幼稚園教育要領、保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領から読み取る保育者の専門性	上記要領・指針を読み、保育者の専門性について考えを深める		
	領域「環境」とは 幼稚園教育要領、保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領における領域「環境」とは	上記要領・指針を読み、領域「環境」について理解する		
	領域「環境」の実践のために① 「周囲の様々な環境に好奇心や探求心を持って」かかわるために	実験・観察する事象を決め、これらについての資料を集めておく		
	領域「環境」の実践のために② 「周囲の様々な環境に好奇心や探求心を持って」かかわるために	実験・観察を実施し、その事象についての知識を具体化する		
	領域「環境」の実践のために③ 「周囲の様々な環境に好奇心や探求心を持って」かかわるために	実験・観察を実施し、その事象についての知識を具体化する		
	領域「環境」の実践のために④ 実験・観察した事象についてのプレゼンと情報共有	その事象の面白さを伝えられるようにプレゼンを準備する		
	保育における物的環境① 室内環境のあり方について考える	保育雑誌等で室内環境についてどのように考えられているかを把握しておく		
	保育における物的環境② おもちゃのあり方について	玩具店などでどのような乳幼児起用のおもちゃがあるか観察しておく		
	日常生活の中での興味や関心 法則性、数量、図形、文字などへの興味関心について	認知発達について復習しておく		
	指導案作成上の留意点	その教材のおもしろさについて整理しておく		
	保育内容「環境」から見た実践的課題①	人的環境の変化と影響について情報を収集する		
	保育内容「環境」から見た実践的課題②	物的環境の変化と影響について情報収集する		
	保育内容「環境」から見た実践的課題③	自然及び社会の事象の変化と影響について情報収集する		
	まとめ	講義内容についてまとめておくこと		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	40％ 基本的項目についての理解を問う			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	50％ ①興味を持った事象のプレゼン 30％ ②指導案の提出 20％			
受講態度他	10％ 講義で提起した各種体験の課題などの遂行状況、意見発表など			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	興味を持った事象については資料をプレゼンが必要となるので、丁寧に準備すること。 指導案は、そこで興味を持ったものから作成しても構わない。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	小田豊・湯川秀樹編『保育内容 環境』北大路書房（2009）			
オフィスワー	木曜2限	メールアドレス		

授業科目	保育内容演習（健康）（再）		開講時期	前期
担当教員	古田 瑞徳		単 位	2
授業の目的と概要	<p>保育内容「健康」の目的は、乳幼児の健康な心と体を育て、乳幼児自ら健康で安全な生活をつくりだす力を養うこととしています。</p> <p>この授業では、健康・心・体・安全・生活などをキーワードとして、乳幼児の発育発達・健康・生活習慣・運動に関する内容について学習し、指導できることを目的としています。</p> <p>保育内容の「健康」に関する諸問題を通じて、子どもたちにどのような健康問題があり、それらに対してどのように取り組むのかを学びます。</p>			
到達目標	<p>① 人間の発達発達を理解し、説明することができる。</p> <p>② 子どもの健康を守るための生活習慣と安全管理を理解し、説明することができる。</p> <p>③ 運動遊びを理解し、年齢別の発達にあわせて適切な内容を選ぶことができる。</p> <p>④ 「健康」に関する内容について、その指導法を検討したり、指導案を作成することができる。</p> <p>⑤ 子どもを取り巻く社会・環境について興味を持つとともに、問題解決に向けて考える力を養う。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は幼児保育コースDP4の「幼児教育・保育の専門的知識や保育技術・音楽や図画工作、体育などの基礎技能を身に付け活用することができる」を充足するための科目です。 関連科目として、「体育Ⅰ」・「体育Ⅱ」があります。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション 「健康」とは		予習 教科書p.13-16	
第2回	生涯を通じた健康 子どもの健康		予習 教科書p.1-23 レポート課題「子どもの健康」	
第3回	発育発達① 人類の発生		予習 教科書p.26-34	
第4回	発育発達② 構造・機能		予習 教科書p.34-41	
第5回	運動の発達①		予習 教科書p.41-48	
第6回	運動の発達②		予習 教科書 p.48-52 レポート課題「子どもの運動」	
第7回	測定と評価		予習 教科書p.80-86、p.104-118	
第8回	心・人間関係・社会性の発達		予習 教科書 p.53-64	
第9回	遊びの発達		予習 教科書 p.66-78	
第10回	子どもの生活習慣① 疾病から身を守る		予習 教科書 p.88-102	
第11回	子どもの生活習慣② 環境や事故から見を守る		予習 教科書p.120-130	
第12回	安全管理と応急処置、保育者の健康		予習 教科書 p132-143	
第13回	保育計画と指導案の作成		予習 教科書 p.156-165	
第14回	健康に関する行事プログラム作成		予習 教科書 p.146-154	
第15回	まとめ		予習 教科書 1冊	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% 毎回ワークシート形式のレポート課題実施。			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業に進行を妨げたり、他の受講生の妨げになるような行為はしないこと。			
教科書	民秋 言・権丸武臣 編著『保育内容 健康』北大路書房（2014）			
指定図書	なし			
参考図書	図書に限らず健康に関する情報全般			
オフィスワー	火曜日昼休み。相談してください。		メールアドレス	



授業科目	保育内容演習（言葉）		開講時期	前期
担当教員	稲田 八徳		単位	2
授業の目的と概要	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の5領域うちの「言葉」について理解し、具体的に実践をイメージすることができるようにすることを目的とする。また、幼児の「言葉」の発達を理解し、集団保育の意義や保育者の役割、乳幼児の「言葉」の発達を促す様々な児童文化についても考察し、実践的力を養う。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「言葉」の意義について理解し、考察することができる。</li> <li>幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」について理解し、解説することができる。</li> <li>子どもの「言葉」の発達過程を理解し、系統立てて説明することができる。</li> <li>絵本、紙芝居などの教材を使った児童文化の指導について理解し、「言葉」の発達を促す実践力を身に付けることができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に人間形成専攻のDP④「教科指導の専門的知識や技術指導、音楽や図画工作、体育などの基礎的スキルを身に付け、活用することができる。」（初等コース）の達成に関わる科目です。2年次科目の「初等教科教育法（国語）」や「保育内容演習（表現）」を履修するために必要な基本的事項を身に付けることができます。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション、言葉の意義：言葉の特性	復習：自分の初語について家族にインタビューする。		
第2回	言葉の機能、言葉のはたらき	復習：言葉の機能、はたらきについて自分なりの考察をする。		
第3回	幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「言葉」について	予習：「幼稚園教育要領」解説、「保育所保育指針」を読む。		
第4回	領域「言葉」の変遷	復習：領域「言葉」がどのように変遷してきたかをまとめる。		
第5回	言葉の発達 乳児期	復習：乳児期の言葉の発達についてまとめる。		
第6回	言葉の発達 幼児期	復習：幼児期の言葉の発達についてまとめる。		
第7回	学齢期の言葉の発達	復習：乳児期から学齢期までの言葉の発達について考察する。		
第8回	「言葉」を育むための保育者のかかわり	復習：保育者の関わりについてまとめる。		
第9回	指導計画における「言葉」について	復習：指導計画書を書く。		
第10回	家庭との連携と「言葉」について	課題：幼稚園または保育所における「言葉」に関わる取り組みを考える。		
第11回	「言葉」を育てるあそびー児童文化財①「言葉あそび」	予習：グループで発表準備 復習：振り返り（評価カード）		
第12回	「言葉」を育てるあそびー児童文化財②絵本	予習：グループで発表準備 復習：振り返り（評価カード）		
第13回	「言葉」を育てるあそびー児童文化財③紙芝居	予習：グループで発表準備 復習：振り返り（評価カード）		
第14回	「言葉」を育てるあそびー児童文化財④わらべうた	予習：グループで発表準備 復習：振り返り（評価カード）		
第15回	「言葉」を育てるあそびー児童文化財④劇、お話作り	復習：振り返り（評価カード）		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50％（保育者の言葉に関わりについての内容：後日指示する）			
小テスト等	なし			
成果発表	30％ 分担発表（言葉の発達に関わる児童文化の活動を意欲的に発表する。）			
受講態度他	20％ 意欲的な学修態度、発言等を評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	主体的な授業への参加と課題意識を持つ。 分担発表や課題発表は積極的に取り組む。			
教科書	『幼稚園教育要領解説』文部科学省（初等国語科概論で購入済み）			
指定図書	なし			
参考図書	授業で随時紹介する			
オフィスアワー	火曜日午前、木曜日午後	メールアドレス		

授業科目	保育内容演習（言葉）	開講時期	前期
担当教員	大元 千種	単位	2
授業の目的と概要	<p>幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「言葉」について理解し、具体的にイメージすることができるようにすることを目的とする。</p> <p>乳幼児期の子どもの「言葉」は、話し言葉としての言語だけでなく、泣き声、表情、動作なども含めてとらえることができる。本演習を通して幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「言葉」について理解し、具体的にイメージすることができるようにする。事例等から子どもの表現する「言葉」に込められた思いを読み解くことができるよう具体的に考え、「言葉」の発達過程と指導援助についての理解を深める。さらに、ストーリーテリング、絵本、文字等により、乳幼児の「言葉」の発達を促す実践的力量を養う。また、毎回授業での気づきや考察を「学びの軌跡」にまとめ、自らの学びを確認する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「言葉」について理解し、具体的にイメージすることができる。</li> <li>2. 子どもの「言葉」の表現を話し言葉としての言語だけでなく、泣き声、表情、動作なども含めてとらえることができる。</li> <li>3. 子どもの「言葉」の発達過程を見通すことができるようになる。</li> <li>4. 子どもの「言葉」の発達を促す人との関わりの重要性と具体的手立てを考察することができる。</li> <li>5. 「言葉」を育む児童文化や地域文化について考察することができる。</li> <li>6. 文字への関心を促す子どもの日常生活の工夫を考察することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としてDPや関連する科目など	<p>この授業は、DP④「幼児教育・保育の専門的知識や保育技術、音楽や図画工作、体育などの基礎的技能を身に付け、活用することができる。」に主に関わる科目です。</p> <p>*関連科目 初等国語科概論、保育実習指導Ⅰ、保育内容演習（表現）、保育内容演習（人間関係）、保育内容総論、幼児教育実習指導、総合表現演習、教育課程論Ⅰ、教育課程論Ⅱ、幼児教育研究、保育実習Ⅰ、保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲ、幼児教育実習Ⅱ</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回「ことば（言葉）」とは		アンケート、発表分担、第1章予習	
第2回 保育内容としての「ことば」の歴史①：保育内容「ことば」の移り変わり		第2章予習	
第3回 保育内容としての「ことば」の歴史②：幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「言葉」		第2章予習/確認小テスト①（第1回～2回分）	
第4回 ことばの育つみちすじ①：0歳児、1・2歳児		第3章予習/発表・コメント/確認小テスト②（第3回分）	
第5回 ことばの育つみちすじ②：3歳児、4歳児		第3章予習/発表・コメント	
第6回 ことばの育つみちすじ③：5歳児、1年生		第3章予習/発表	
第7回 「ことば」を育むための保育者のかかわり・役割①：話し合い場面、けんか・トラブル場面		第4章予習/発表・コメント/確認小テスト②（第4～6回分）	
第8回 「ことば」を育むための保育者のかかわり・役割②：保育現場におけることばをめぐる問題と保育者の「ことば」		第4章予習/発表・コメント、グループ分け	
第9回 指導計画と「ことば」		第6章予習/児童文化財発表分担/確認小テスト③（7、8回）	
第10回 家庭との連携と「ことば」		課題：幼稚園または保育所の「おたより」や連絡帳確認	
第11回 「ことば」を育てるあそびー児童文化財①ことばあそび		発表/コメント	
第12回 「ことば」を育てるあそびー児童文化財②幼保：絵本/初等：絵本・紙芝居		発表/コメント	
第13回 「ことば」を育てるあそびー児童文化財③幼保：わらべうた/初等：紙芝居		発表/コメント	
第14回 ことばを育てるあそびー児童文化財④幼保：お話/初等：わらべうた		課題：	
第15回 幼保：「ことば」を聞く意味、記録する意味/初等：ことばを育てるあそびー児童文化財④お話、作文		課題：子どもの「ことば」を「子どもの権利」から考	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	25% 「わたしの絵本ノート」 15点、最終授業で作文 10点		
小テスト等	30% 確認の小テスト3回 30点（10点×3回）		
成果発表	20% グループ発表2回 20点（10点×2回）、		
受講態度他	25% 授業時の態度、発言等の行動や意欲 15点。毎授業時の「学びの軌跡」で授業への参加態度を確認し、評価の対象に含む@10点。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>主体的な授業への参加と課題意識を持つことを期待する。</p> <p>分担発表や課題発表は必ず実施すること。</p> <p>発表およびコメントについては、評価対象とする。</p> <p>提示した課題を踏まえて授業進行をするので、必ず課題を提出すること。</p> <p>受講生の状況や社会情勢などを鑑みて授業の予定を変更する場合がある。</p>		
教科書	近藤幹生・寶川雅子・源 証香・小谷宣路・瀧口 優 『実践につなぐ ことばと保育』 ひとなる書房 2011年		
指定図書	今井和子 『子どもとことばの世界』 ミネルヴァ書房 1996年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針 <原本>』 チャイルド本社 2014年		
参考図書	厚生労働省 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 2008年 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2009年		
オフィスワーク	月曜日昼休み	メールアドレス	

授業科目	保育内容演習（人間関係）		開講時期	後期
担当教員	古賀野 卓		単位	2
授業の目的と概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「人間関係」について理解し、乳幼児期における人間関係の基本的な特色と集団の生活の重要性を捉えたとともに、障がい児や被虐待児などの事例を通して、特別に配慮の必要な子どもの理解とその対応策を習得できるようにする。また、高齢者や外国人等地域の人々との関係性を図る取り組みについても考える。			
到達目標	①幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「人間関係」について理解し、具体的にイメージすることができる。 ②乳幼児期における人間関係の基本的な特色と集団の生活の重要性について説明することができる ③保育者として、日常場面で発生しうる人間関係にかかわる諸問題を把握し、分析した上での対応策をとることができる。 ④障がい児や被虐待児など特別に配慮の必要な子どもの理解とその対応策を説明することができる。 ⑤高齢者や地域の人たちとの関係性を図る取り組みを具体的に説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	現代社会における人間関係の重要性	復習		
第2回	教育病理現象から考える子どもの人間関係づくりの課題	予習		
第3回	近代教育思想における個と集団の関係性① ーベスタロッター思想から探るー	課題①		
第4回	近代教育思想における個と集団の関係性② ーフレーベル思想から探るー	予習		
第5回	近代教育思想における個と集団の関係性③ ーモンテッソーリ思想から探るー	予習		
第6回	近代教育思想における個と集団の関係性④ ーサリバン思想から探るー	予習		
第7回	人間関係の発達と保育① 乳幼児期における集団とのかかわりの重要性	課題②		
第8回	人間関係の発達と保育② さまざまな園の実践事例の検討	予習		
第9回	特別な配慮の必要な子どもと保育① 発達障がい児をどう支援するか	予習		
第10回	特別な配慮の必要な子どもと保育② 被虐待児への対応について	課題③		
第11回	幼稚園教育要領、保育所保育指針における「人間関係」のねらい	予習		
第12回	幼稚園教育要領・保育所保育指針 「人間関係」を中心にした指導計画の例① 未満児を中心に	予習		
第13回	幼稚園教育要領・保育所保育指針 「人間関係」を中心にした指導計画の例② 年少児を中心に	予習		
第14回	幼稚園教育要領・保育所保育指針 「人間関係」を中心にした指導計画の例③ 年中・年長児を中心に	課題④		
第15回	まとめ 個と集団の関係づくりにおいて保育者が心がけておくこと	復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	ー			
レポート	60％			
小テスト等	ー			
成果発表	ー			
受講態度他	40％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業への積極的な取り組みを評価します。			
教科書	使用しない。			
指定図書	なし			
参考図書	幼稚園教育要領、保育所保育指針			
オフィスワーク	後期水曜日昼休み	メールアドレス		

授業科目	保育内容演習（表現）	開講時期	前期
担当教員	吉川 暢子	単 位	2
授業の目的と概要	<p>幼稚園教育要領及び保育所保育指針に沿って領域「表現」の目標や「ねらい」および「内容」について理解を促すことを目的とする。保育内容「表現」という領域を全体的な視野から捉える力を身につける。幼稚園や保育所での子どもの生活の中で、子どもが表現することの意味や意義を具体的に理解し、保育現場での活かし方や工夫の仕方を身に付け、さらに子どもへの必要な支援について考察することを促す。</p> <p>「表現」とは、子どもの豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにすることとして音楽表現、造形表現、身体表現、言語表現、演劇表現などが含まれます。よって、音楽・図画工作・体育などの科目と関連しています。</p>		
到達目標	<p>①保育内容「表現」の目標について説明することができる。  ②保育内容「表現」の「ねらい」及び「内容」を具体的に述べるができる。  ③幼稚園や保育所で領域「表現」に関わる環境を準備することができる。  ④幼稚園や保育所で領域「表現」活動へ関わる子どもへの必要な支援について予測を立てることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、初等教育コースのコースDP④「教科指導の専門的知識や 技術指導、音楽や図画工作、 体育などの基礎的技能を身に付け、活用することができる。」、幼児保育コースのDP④「幼児教育・保育の専門的知識 や保育技術、音楽や図画工作、 体育などの基礎的技能を身に付け、活用することができる。」の達成に関わる科目です。この授業に合わせて「音楽演習・器楽I」、「図画工作II」、「体育I・体育II」などの様々な「遊び」の発展となる科目を受講する事で、「表現」や「遊び」について更に理解が深まります。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	幼稚園教育要領及び保育所保育指針における領域「表現」とは	手遊びを覚える・ワークシートを書く	
第2回	コミュニケーションとしての表現	手遊びを覚える・ワークシートを書く	
第3回	子どもの造形表現と発達	手遊びを覚える・ワークシートを書く	
第4回	造形的な遊びの実際①	手遊びを覚える・ワークシートを書く	
第5回	造形的な遊びの実際②	手遊びを覚える・ワークシートを書く	
第6回	子どもの音楽表現と発達	手遊びを覚える・ワークシートを書く	
第7回	音楽的な遊びの実際①	手遊びを覚える・ワークシートを書く	
第8回	音楽的な遊びの実際②	手遊びを覚える・ワークシートを書く	
第9回	子どもの身体表現と発達	レポート・ワークシートを書く	
第10回	身体的な遊びの実際①	手遊びを覚える・ワークシートを書く	
第11回	身体的な遊びの実際②	手遊びを覚える・ワークシートを書く	
第12回	子どもの言語表現と発達	手遊びを覚える・ワークシートを書く	
第13回	言葉遊び・劇遊びの実際①	手遊びを覚える・ワークシートを書く	
第14回	言葉遊び・劇遊びの実際②	手遊びを覚える・ワークシートを書く	
第15回	子どもの感性や表現を育てる生活と環境について	手遊びを覚える・ワークシートを書く	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	実施しない。		
レポート	40％ 子どもの「表現」を育てる保育内容についての総括		
小テスト等	％		
成果発表	40％ 表現遊びの創造性、工夫、発表態度、ワークシート（10％×4）		
受講態度他	20％ 授業での積極的な態度や姿勢を評価する		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	未提出作品・レポート類がある場合は評価を出さないことがある。 課題作品・レポートの提出期限は守ること。		
教科書	『幼稚園教育要領』（文部科学省）、『保育所保育指針』（厚生労働省） 必要に応じてプリントを配布する。		
指定図書	ありません。		
参考図書	ありません。		
オフィスワー	水曜午後、または、講義日の講義時間以外	メールアドレス	

授業科目	保育内容総論		開講時期	後期
担当教員	原 陽一郎		単 位	2
授業の目的と概要	本講義では、幼稚園教育要領、保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領の「保育目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連づけ、保育の全体的な構造を理解することが目的である。また、保育の基本は「生活」や「遊び」であることを、体験を通して認識し、深めていく。			
到達目標	①保育の全体構造と保育内容について理解する。 ②幼稚園教育、保育所保育の歴史の変遷から、現在実施されている保育の多様性の理由と問題点について理解する。 ③「遊び」の重要性について、体験を通して認識を深めていく。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領における保育内容のとらえ方①	要領・指針の総則を読む		
	幼稚園教育要領、保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領における保育内容のとらえ方②	要領・指針の総則のポイントを理解する		
	幼稚園教育要領、保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領における保育内容のとらえ方③	要領・指針の第2章を読む		
	遊びから学ぶこと① 鬼ごっこなど	子どもたちに負けないように本気で遊んでみる		
	遊びから学ぶこと② 紙飛行機を飛ばそう	紙飛行機の作り方について調べておくこと		
	遊びから学ぶこと③ チャンバラ、コーン倒しなど	攻撃性を合法的に発散することの重要性を理解する		
	生活から学ぶこと① 縄跳びづくり	必ず完成させること		
	生活から学ぶこと② 雑巾縫い	必ず完成させること		
	保育内容の歴史の変遷 現在実施されている保育内容の問題点について考える	幼稚園・保育所の歴史、倉橋惣三が提起したことについて復習しておくこと		
	保育の多様な展開① 未満児保育	保育所保育指針から乳児保育の留意事項についてまとめておく		
	保育の多様な展開② 長時間保育	どのような形態の長時間保育があるのか調べておくこと		
	保育の多様な展開③ 特別な支援を必要とする子どもの保育	とくに、発達障害の特性についてまとめておくこと		
	保育の多様な展開④ 地域の子育て支援のあり方	現在の保護者が抱える問題について調べる		
	多文化共生の保育	宗教による生活のちがいについて調べておく		
	まとめ	講義内容全体をふり返ること		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 課題レポート			
小テスト等	20% 講義毎の小レポートの提出			
成果発表	20% 製作物の提出			
受講態度他	10% 意見発表などの受講態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	とくに、遊びや生活についての講義には積極的な態度で参加すること。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	大豆生田啓友、渡辺英則、柴崎正行、増田まゆみ編『保育内容総論 第2版』ミネルヴァ書房(2014)			
オフィスアワー	火曜日2限目	メールアドレス		

授業科目	法学	開講時期	前期
担当教員	大谷 美咲	単位	2
授業の目的と概要	私たちは、一人で生きていくことはできない、常に社会に所属し社会生活をおこなうのである。そして、人が社会生活をおこなう限り、様々なトラブルが生じ、様々なルールが必要になることになる。法律とは社会のルールの一つであり、社会生活をおこなう上で不可欠なものである。この授業では、現代社会で問題となっている法律問題を幅広く概観し、それぞれの分野の法的ルールを説明できるようになることを目的とする。		
到達目標	<p>①毎回の講義では、中心となるテーマを挙げ説明するので、テーマに関する多様な意見を踏まえた上で、自分なりの考えを確立し説明できるようになること。</p> <p>②毎回の講義で説明する各々の領域についての法制度の基本をまとめ、説明できるようになる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に現代社会学部の共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。</p> <p>関連科目： 現代社会とビジネス      女性・ジェンダー論      政治学</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 ガイダンス	この講義では、どういうことを扱い何を学ぶのでしょうか？ 法学の知識が必要なのはなぜ？	プリント、ノートの整理	
第2回 憲法の全体構造	憲法は何を守る法律なのか？ 憲法の目的と全体構造について知ろう。	特に憲法の全体構造を説明できるようにすること。	
第3回 人権論	特に、現代社会で問題となるプライバシー、個人情報保護などの新しい分野についての考察をおこなう。	プライバシー権の法的根拠と情報プライバシー権についてまとめる	
第4回 人権論	平等権について	平等とは何か？について多様な視点から説明できるようにすること	
第5回 犯罪と刑罰	刑罰の本質とは？ 死刑制度について	刑罰の本質を理解したうえで、死刑制度を論ずることができるようにする	
第6回 家庭生活と法	多様な家族観に伴う法の解釈について	非嫡出子相続分違憲判決について特に復習すること	
第7回	中間テスト	試験問題についてノート・プリントで確認すること。	
第8回 医療と法	生命倫理・尊厳死・安楽死をめぐる自己決定権について	各テーマについてそれぞれ自分の考えをまとめるようにすること	
第9回 医療と法	中絶は女性の自己決定権か？ 脳死臓器移植法の法的考察	各テーマについてそれぞれ自分の考えをまとめるようにすること	
第10回 職場と法	労働基本権、労働3法について(働く上での基本ルールについて)	時間外労働のルール、懲戒処分のルールについて説明できるようにしておく	
第11回 職場と法	労働組合法分野(不合理な扱いを受けたら、どうしたらいい?)	労働組合とは何か 組合活動、争議活動にどんなものがあるか説明できるように	
第12回 教育と法	学校事故と損害賠償について	プリント、ノートの整理 不法行為、国家賠償、債務不履行の違いを考える	
第13回 行政と法	行政の仕事にはどのようなものがあるの？	プリント、ノートの整理をおこなうこと。	
第14回 政治と法	政治・行政腐敗の原因と対策は？	このテーマについて自分の言葉でまとめておくこと	
第15回	全体の復習及び試験範囲の確定	試験勉強	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	60% (期末レポート)		
小テスト等	30%		
成果発表	なし		
受講態度他	10%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	プリントの整理、板書の整理を着実におこなって下さい。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	授業中にその都度提示します。		
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	放送メディア研究		開講時期	後期
担当教員	吉野 嘉高		単位	2
授業の目的と概要	今テレビはいくつかの意味で転換点にある。娯楽や情報収集のためのメディアといえば、自らが主体的、能動的に関わることができるパソコンやケータイを挙げる若者が多く、“テレビ離れ”が指摘されることもある。こんな時代に、私たちは、テレビとどう向き合えばいいのか？そして、テレビはどう変わるのか？テレビについて理解を深めれば、番組の見方も変わるはず。この授業を、より上手くテレビと付き合うためのきっかけにして欲しい。この授業では、テレビ番組とその背景にある仕組み、社会的枠組みなどを様々な角度から考察することで、テレビを主体的に読み解く能力、いわば“テレビリテラシー”を身につける。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビの歴史を踏まえ、テレビと社会の関係を自分なりの言葉でまとめ説明できること</li> <li>・テレビの構造的問題をいくつか取り上げて説明できること</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 オリエンテーション			予習・復習	
第2回 事例研究1) ～テレビ報道の危機～ 政府の報道への「介入」と現場の「自主規制」			予習・復習	
第3回 事例研究1) ～テレビ報道の危機～政府の「介入」がない時代 58年ドラマ「私は貝になりたい」は今も放送可？ *ドラマの視聴あり			予習・復習	
第4回 事例研究1) ～テレビ報道の危機～政府の「介入」がない時代 58年ドラマ「私は貝になりたい」は今も放送可？			予習・復習	
第5回 事例研究1) 60年に政府の「介入」が強化 62年ドラマ「ひとりっ子」放送中止の経緯 *ドラマの視聴あり			予習・復習	
第6回 事例研究2) フジテレビはなぜ凋落したのか？ 80年代フジテレビバラエティがテレビを変えた			小レポート	
第7回 事例研究2) フジテレビはなぜ凋落したのか？ 原因は何なのか？ ～ディスカッション～			予習・復習	
第8回 事例研究2) フジテレビはなぜ凋落したのか？ ネットで“マスコミ”と呼ばれ炎上する理由は？			予習・復習	
第9回 事例研究3) 戦争番組とテレビ ～ドラマとドキュメンタリーのリアリティー～ *番組視聴あり			予習・復習	
第10回 事例研究3) 戦争番組とテレビ ～ドラマとドキュメンタリーのリアリティー～ *番組視聴あり			予習・復習	
第11回 事例研究4) 戦争番組とテレビ ～主観的現実の歪み～			予習・復習	
第12回 ゲスト講師「今テレビの現場では・・・」(仮)			予習・復習	
第13回 事例研究5) 選挙とテレビ ～政治的公平性とは？～			予習・復習	
第14回 事例研究6) 東日本大震災とテレビ ～テレビの役割はどう変わったか？～			予習・復習	
第15回 まとめ			復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	30% (期末レポート)			
小テスト等	50% (基本的に毎回授業中に実施)			
成果発表	-			
受講態度他	20% 積極的な受講態度を重視			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>パワーポイントで作成した資料や、映像資料を中心に授業を展開します。  ディスカッションのほかクリッカーを使ったアンケート調査などのアクティブラーニング・ラーニングを適宜行います。  教科書を履修者は必ず入手し、授業に持参するようにしてください。レポート作成の資料としても使います。  毎回、授業中に実施する小テストの配点が大きいことに注意してください。</p>			
教科書	吉野嘉高著『フジテレビはなぜ凋落したのか』新潮新書			
指定図書	なし			
参考図書	授業で適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	法律学(国際法を含む)		開講時期	後期
担当教員	高木 佳世子		単 位	2
授業の目的と概要	1. 法とは何か、法の基礎知識を学び、私たちの生活と法律のかかわりについて考える。 2. 「六法」といわれる法律と労働法、社会保障法について概要を理解する。 3. 国際法について概観する。			
到達目標	1. 憲法、行政法、民法、商法、刑法、訴訟法、労働法、社会保障法の趣旨目的について説明できる。 2. 国際法で登場する専門用語のうち基礎的なものについて正しく説明できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主にアジア文化学科のDP2「東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの各地域の社会事情について、例を通して説明できる。」、発達臨床心理コース、社会福祉コースのDP2「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」、初等教育コースのDP1「教育者としての豊かな人間性や社会人として必要な知識・技能を身に付けることができる。」、幼児保育コースのDP1「保育者としての豊かな人間性や社会人として必要な知識・技能を身に付けることができる。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	法とは何か、法秩序の構造、法の解釈、法の歴史	資料配付		
第2回	日本国憲法（基本原理、人権と平和）	資料配付		
第3回	日本国憲法（統治機構）	資料配付		
第4回	行政法	資料配付		
第5回	民法（財産法）、消費者法	資料配付		
第6回	民法（家族法）	資料配付		
第7回	商法	資料配付		
第8回	刑法	資料配付		
第9回	労働法、社会保障法	資料配付		
第10回	民事訴訟法、刑事訴訟法	資料配付		
第11回	国際法（国際法の成立、普遍化、国際法の法源）	資料配付		
第12回	国際法（国際法と国内法の関係、国際法の主体、国際機構、国家の基本的権利義務と国家管轄権）	資料配付		
第13回	国際法（国家の国際責任、国家領域、海洋・空・宇宙空間等）	資料配付		
第14回	国際法（国際法における個人、人権の国際的保障、国際経済活動と国際環境保護）	資料配付		
第15回	国際法（国際紛争の解決、集団安全保障、国際人道法）	資料配付		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	あり（100％）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	0％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。			
教科書	なし（資料を配付します）			
指定図書	①谷口貴都・松原哲編著『基礎からわかる法学 [第2版]』成文堂、②渡部茂己・喜多義人編『国際法 [第2版]』弘文堂、③南野森編『ブリッジブック法学入門 [第2版]』信山社			
参考図書	講義の際に指示します。			
オフィスアワー	水曜2,3限	メールアドレス		



授業科目	法律学概論 I	開講時期	前期
担当教員	高木 佳世子	単 位	2
授業の目的と概要	1. 私たちの生活と法のかかわりについて知り、権利擁護の意義を学ぶ。 2. 憲法、民法、行政法の基礎知識を身に着ける。		
到達目標	1. 人権の意味と権利擁護の意義について理解する。 2. 憲法・民法・行政法の基礎的な知識を理解する。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	1. この授業は、主に社会福祉コースのDP2「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」の達成に関わる科目です。 2. 社会福祉士・精神保健福祉士の養成科目であり、後期の「法律学概論Ⅱ」と通しの内容となっています。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	権利擁護の意義／法学入門	第1章第1節	
第2回	憲法（1）憲法と立憲主義	第1章第2節1, 2	
第3回	憲法（2）包括的基本権と法の下での平等	第1章第2節3, 5	
第4回	憲法（3）精神的自由権	第1章第2節3, 4	
第5回	憲法（4）経済的自由権、社会権	第1章第2節4	
第6回	憲法（5）統治機構	第1章第2節8	
第7回	憲法（6）地方自治、財政	第1章第2節9, 10	
第8回	民法（1）総則（行為能力、意思表示、代理）	第1章第4節1～3	
第9回	民法（2）物権	第1章第4節3	
第10回	民法（3）債権（契約、不法行為）、消費者法	第1章第4節4～6	
第11回	民法（4）親族	第1章第4節7	
第12回	民法（5）相続	第1章第4節8	
第13回	権利擁護の意義と必要性	第1章第2節11	
第14回	行政法（1）行政法の一般原則と行政組織法	第1章第3節1	
第15回	行政法（2）行政活動（行政処分を中心に）	第1章第3節2	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	100％		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	0％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。		
教科書	（編集）社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度（第4版）』中央法規		
指定図書	なし		
参考図書	講義の際にお伝えします。		
オフィスアワー	金曜4限	メールアドレス	

授業科目	法律学概論Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	高木 佳世子	単位	2
授業の目的と概要	1. 前期の法律学概論Ⅰに引き続き、行政法の概要を学ぶ。 2. 成年後見制度と日常生活自立支援事業について詳しく学ぶ。 3. 権利擁護活動の実際について事例を検討する。		
到達目標	1. 成年後見制度や日常生活自立支援事業について詳細に説明できる。 2. 権利擁護活動が社会の中でどのように行われているのかについて全体像を説明できる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	1. この授業は、主に社会福祉コースのDP2「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」の達成に関わる科目です。 2. 社会福祉士・精神保健福祉士の養成科目であり、前期の「法律学概論Ⅰ」と通しの内容となっています。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	行政法（4）行政救済制度（行政事件訴訟法、行政不服審査法、国家賠償法）	第1章第3節3～5	
第2回	行政法（5）行政手続法／情報公開制度	第1章第4節6	
第3回	社会福祉関連法と成年後見制度	第1章第5節、資料配布	
第4回	成年後見制度（1）成年後見、保佐、補助の概要	第2章第1節～第3節	
第5回	成年後見制度（2）成年後見等の申立ての流れ	第2章第4節	
第6回	成年後見制度（3）成年後見人、保佐人、補助人の職務	第2章第6節	
第7回	任意後見制度	第2章第5節	
第8回	日常生活自立支援事業／成年後見制度利用支援事業	第3章、第4章	
第9回	権利擁護に関わる組織・団体	第5章	
第10回	権利擁護に関わる専門職	第6章	
第11回	団体の役割と実際	第6章、資料配布	
第12回	権利擁護活動の実際（1）認知症高齢者等への支援の実際	第7章第1節、第8章第2節	
第13回	権利擁護活動の実際（2）被虐待児、依存症者等への支援の実際	第8章第1節、第3節	
第14回	権利擁護活動の実際（3）障害児・者等への支援の実際	第7章第3節	
第15回	権利擁護、成年後見制度の動向と課題	第2章第7節	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	100％		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	なし		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	やむをえない欠席、遅刻の場合は、自主的に情報を補い学修するようにしてください。		
教科書	（編集）社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座19 権利擁護と成年後見制度（第4版）』中央法規		
指定図書	なし		
参考図書	講義の際にお伝えします。		
オフィスアワー	水曜2,3限	メールアドレス	

授業科目	ホスピタリティと経営戦略		開講時期	前期
担当教員	古田 龍輔		単位	2
授業の目的と概要	<p>「ホスピタリティ」の源流的な意味は、対等な人間関係にもとづく協働です。よく訳語とされる「おもてなし」は、日本社会で一般的な強い上下関係にもとづく協働だと考えてください。上下関係にも良い面は多くありますが、私がこれまで観察してきた「良い会社」では例外なしに、創業者によって対等な人間関係が意図的に創りだされています。このことが社員のやる気と創意工夫を引き出し、会社全体の態勢（経営戦略）が無理のない成長に適した形になっています。この科目では、ホスピタリティと経営戦略の関連性について多くの業界での実例を通じて理解し、「良い会社」を見抜く眼力を養ってもらいます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>「ホスピタリティ」と「おもてなし」の根源的な違いを理解できること。</li> <li>経営戦略の考え方を理解できるようになること。</li> <li>「ホスピタリティ型の経営」を実践している会社やお店を識別し、訪問取材をすることでその経営実態を具体的に解明できること。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、ビジネス社会コースのDP2の「ビジネス組織の目標を達成していくための、効果的なマネジメントのあり方を説明することができる」を目指す科目の1つになります。1年次後期に開講されるベンチャー起業論では、創業後に急成長する新興企業の原動力=コンセプトやビジネスモデルを理解することが目的ですが、会社の急成長が社員を幸福にするとは限りません。本科目では、会社自体の成長よりもまず社員の成長を最優先する経営のあり方を学ぶことができます。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 科目の概要説明		とくになし		
第2回 ホスピタリティとおもてなし1		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第3回 ホスピタリティとおもてなし2		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第4回 女性にとって働きやすい会社とは？		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第5回 女性管理職や女性経営者という生き方		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第6回 ホスピタリティのプロフェッショナル		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第7回 ホテル業界のホスピタリティと経営戦略		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第8回 航空業界のホテル業界のホスピタリティと経営戦略		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第9回 外食業界のホスピタリティと経営戦略		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第10回 スーパー業界のホスピタリティと経営戦略2		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第11回 家具業界の外食業界のホスピタリティと経営戦略		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第12回 金融業界のホスピタリティと経営戦略		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第13回 建築業界の外食業界のホスピタリティと経営戦略		指定資料を読んで感想レポートを書き、授業前に紙で提出する。		
第14回 グループ課題の発表会1		グループごとに取材した会社やお店についてプレゼンできる準備をしておく。		
第15回 グループ課題の発表会2		グループごとに取材した会社やお店についてプレゼンできる準備をしておく。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	30% 定期試験中に60分間で行われる試験の点数(100点満点)			
レポート	30% 指定資料を読んで提出する予習シートの評価点			
小テスト等	なし			
成果発表	30% グループ課題の評価点			
受講態度他	10% 授業の出席状況			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	無断欠席をしたら、受講を放棄したものと見なします。やむを得ず欠席する場合は、必ずメールなどで事前に連絡すること。ただし、連絡すれば欠席はいくらでも出来るというわけではありません。			
教科書	とくになし			
指定図書	とくになし			
参考図書	とくになし			
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	ボランティア・NPO論		開講時期	後期
担当教員	大浦 浩平		単位	2
授業の目的と概要	<p>わが国におけるボランティア活動の領域は、保健、福祉、医療、教育、環境、まちづくり、国際協力など幅広い分野に及んでいます。</p> <p>阪神・淡路大震災以降、市民のボランティア活動に対する関心や参加により民間レベルからの自主的な多様な取り組みが推進されてきました。さらに「特定非営利活動促進法（NPO法）」の施行後、ボランティア活動は拡大化・多様化の時代を迎えています。</p> <p>本講義では、「ボランティア活動の理論と実際」の学習を通して、ボランティア活動への理解・認識を高め、実践力の高い基礎的知識と技術を学んでいきます。また、講義や演習（体験学習、グループワーク）を通して、より実践的な知識と技術の習得をめざします。</p>			
到達目標	<p>①ボランティア・NPOの意義と役割を理解し説明できる。</p> <p>②ボランティア活動に必要な知識と技術を理解し活用できる。</p> <p>③参加したボランティア活動の「ふりかえり」ができる。</p> <p>④ボランティア・NPOに関する自分の「考え」や「思い」を人に伝えることができる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、発達臨床心理コース、社会福祉コースのDP「援助や支援の根底に求められる価値観や倫理観のついて説明することができる。」、初等教育コース、幼児保育コースのDP「子どものよさや課題を理解し、適切に支援するための理論について概要を説明することができる。」の達成に関わる科目です。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 オリエンテーション			配布した資料による復習	
第2回 ボランティア活動の歴史の変遷			配布した資料による復習	
第3回 ボランティアの理念と定義			配布した資料による復習	
第4回 ボランティア活動の対象と範囲			配布した資料による復習	
第5回 NPOの理念と定義			配布した資料による復習	
第6回 ボランティア活動の実際①「高齢者・障がい者・児童」			配布した資料による復習	
第7回 ボランティア活動の実際②「災害」			配布した資料による復習	
第8回 ボランティア活動の実際③「地域福祉」			配布した資料による復習	
第9回 ボランティア活動にあたって①「体験学習」			配布した資料による復習	
第10回 ボランティア活動にあたって②「体験学習」			配布した資料による復習	
第11回 ボランティア活動にあたって③「体験学習」			配布した資料による復習	
第12回 ボランティアコーディネーション			配布した資料による復習	
第13回 グループワーク①			グループでのアイデアのまとめ	
第14回 グループワーク②			グループでの企画、発表準備	
第15回 総括			配布した資料による復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	50% 期末レポート			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	30% 授業に対する意欲や受講態度 20% ボランティア活動に参加、課題			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>ボランティア論が机上の空論にならないよう、ボランティア活動に積極的に参加し、実践的に学んでください。</p> <p>日頃からボランティアやNPOの活動に関心を持ち、体験したボランティア活動については成果と課題を考察しておいてください。</p> <p>学生のみなさんに主体的に参加していただく場面が多くあります。意欲を持って受講してください。</p>			
教科書	使用しない 資料を配布			
指定図書	巡静一・早瀬昇編著『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』中央法規			
参考図書	藤田久美著『大学生のためのボランティア活動ハンドブック』ふくろう出版			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	ボランティア論		開講時期	後期
担当教員	上村 真仁		単 位	2
授業の目的と概要	<p>現代社会において「ボランティア」は、様々な領域で実施されており、社会問題の解決のためにはなくてはならない活動となっている。本講義では、ボランティアが生まれた社会的な背景を理解するとともに、ボランティア活動の特徴である「主体性」「公共性」「無償性（非営利性）」の理解、今日のボランティア活動の役割、課題の理解とボランティアマネジメントに関する現状の理解、および自分の住む地域や生活圏における身近なボランティア活動への気づきを主たる目的とする。</p>			
到達目標	<p>現代社会におけるボランティアの意義を説明することが出来る。  自分の価値観を明確に持ち、ボランティアに関するディスカッションを行なうことが出来る。  自己実現と社会貢献を両立するボランティア活動を構想することが出来る。  ボランティアの意義や社会的な役割について体験やグループでの議論を通じて自身の考えをまとめ授業で発表することが出来る。  身近なボランティア活動への理解が促進され、実際にボランティア活動へ参加する機会を得ることが出来る。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に現代社会学部共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける。」の達成に関わる科目です。「地域デザイン」「地域デザイン演習」「NPO論」とあわせて受講することで、社会への貢献のために自分が出来ることをより明確に理解し、実践のための手法を身につけることが出来ます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	ボランティア論について 授業の進め方、身近なボランティアについて考えよう	ボランティアの経験、イメージをまとめて来てください。		
第2回	ボランティアと活動の理解	「ボランティア」の語源とその歴史について調べて来てください。		
第3回	NPOとは何か？	自分が参加してみたボランティアについて複数考えて来てください。		
第4回	ボランティアの現場を見る その1（九州国立博物館）	ボランティアの社会的な意義について考えて来てください。		
第5回	ボランティア活動の組織（任意団体、NPO法人）	ボランティアとNPO活動の違いについて考えて来てください。		
第6回	行政とNPOの協働、CSRの考え方	テーマに沿った事例を調べて来てください。		
第7回	ボランティアを始めるために	自身の参加したいボランティア団体について調べて来てください。		
第8回	ボランティア活動を計画してみよう（計画づくり）	ボランティアを実施する際に必要なことを考えて来てください。		
第9回	ボランティアの現場を見る その2（太宰府市内のボランティア団体の活動）	計画したボランティア活動に実際に参加する。		
第10回	ボランティア体験（第8回終了から11回までの間にボランティア活動に参加する）	計画したボランティア活動に実際に参加する。		
第11回	ボランティア活動のまとめ（グループワーク）	体験して、良かった点、悪かった点、自分自身の変化をまとめてください。		
第12回	グループ発表（1～4グループ）	各グループで発表を準備して来てください。		
第13回	グループ発表（5～8グループ）	各グループで発表を準備して来てください。		
第14回	グループ発表（9～12グループ）	各グループで発表を準備して来てください。		
第15回	中間支援の意味と重要性 自分にとってのボランティアとは	期末レポートの作成と計画の実践を行なう。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	30％ 授業の中で、テキストからの出題による小テストを実施する。			
成果発表	合計50％ 個人でのボランティア計画書作成 20％、グループでのボランティア体験発表 30％。			
受講態度他	20％ ボランティア活動への参加の状況などをにより評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>本科目では、自分自身で参加したいボランティアを選び定められた期間中に実際にボランティアを行います。その体験を踏まえて授業の中でグループワークを行ないます。グループのメンバーに迷惑をかけないよう、積極的に参加するようにしてください。</p>			
教科書	「テキスト市民活動論」 大阪ボランティア協会			
指定図書	授業の中で適宜紹介する。			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	水曜日の授業前後	メールアドレス		

授業科目	ポピュラー文化演習		開講時期	前期
担当教員	岡本 文子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本演習では、私たちが日々接しているポピュラー文化の中から、ファッショントレンドを取り上げます。ファッショントレンドはその時代の社会背景を反映するものです。ファッショントレンドにもさまざまなカテゴリーが存在しますが、本演習では3つのカテゴリーに注目し、そのデザインの特徴はもとより、社会的側面から多角的に分析することを通して、現代社会を文化から理解することを目的としています。</p> <p>本演習では、グループワークにより3つのカテゴリー（ストリートファッション・ハイブランド・ファストファッション）のそれぞれについて、その特徴や社会背景について分析し、各グループ毎に発表を行います。発表後、発表内容についての議論を通して、現代社会におけるそれぞれのファッショントレンドの役割や意義、文化的意味について理解を深めましょう。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストリートファッションとは何か、例を挙げて説明できる。</li> <li>・ハイブランドファッションとは何か、例を挙げて説明できる。</li> <li>・ファストファッションとは何か、例を挙げて説明できる。</li> <li>・ファッショントレンドの3つのカテゴリーについて、その社会背景を理解した上で、現代社会における文化的意味について説明できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本演習では、現代社会学部現代社会学科メディア社会コースDP3「現代メディア社会におけるポピュラー文化に関して、基幹となるテーマから各論的な事項までのより深い理解力を養成する」、DP4「現代社会におけるメディアならびにポピュラー文化に関して、多角的視点からの理解を図る」を目的としている。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回 オリエンテーション	今後の授業の進め方、グループ分け、カテゴリー選択、スキャナーの使用法	発表内容の枠組みと構想		
第2回 発表内容の枠組みと構想		発表内容の枠組みと構想（完成）		
第3回 発表スライド作成		発表スライド作成（完成）		
第4回 発表原稿作成、レジュメ作成、質問紙作成		発表原稿作成、レジュメ作成、質問紙作成（完成）		
第5回 発表準備		発表準備（完成）		
第6回 ストリートファッション①		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第7回 ストリートファッション②		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第8回 ストリートファッション③		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第9回 ハイブランドファッション①		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第10回 ハイブランドファッション②		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第11回 ハイブランドファッション③		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第12回 ファストファッション①		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第13回 ファストファッション②		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第14回 ファストファッション③		毎回配布の授業内容を確認する質問紙プリントの復習		
第15回 まとめ		まとめの復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	50%			
成果発表	40%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	第6回～第15回について、毎回発表内容を確認するプリントを配布します。次回確認プリントの小テストを行います。復習をして臨んでください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日 12:00～13:00	メールアドレス		

授業科目	ポピュラー文化演習		開講時期	前期
担当教員	須藤 遙子		単位	2
授業の目的と概要	私たちの身の回りに溢れているポピュラー文化を、実例を通して考察し、グループワークで自分たち自身でも試作してみることで、その特徴や意義を学ぶ。本年は、九州地方の「ゆるキャラ」「萌えキャラ」を題材とする。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポピュラー文化に対する批判的な分析ができる。</li> <li>・チームワークを円滑に進めるための的確な役割分担や積極的な発言ができる。</li> <li>・プレゼンテーション能力を身につける。</li> <li>・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	メディア社会コースDP1：「現代メディア社会において、メディアならびにポピュラー文化に関する基本的な知識と技能の獲得を図る」 メディア社会コースDP5：「現代社会の諸事象の中から問題を発見し、収集した情報を主体的に分析し、協働作業の中で議論し、その成果を発信できる」 関連科目：メディアコンテンツ論、ポピュラー文化演習、文化と現代社会、文化産業論など			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。		身近なポピュラー文化を考える。	
第2回	ポピュラー文化とは。		身近なポピュラー文化を考える。	
第3回	「ゆるキャラ」1、概要、分析方法。		九州地方のゆるキャラを調べる。	
第4回	「ゆるキャラ」2、グループ分け、キャラ選択、グループ討論。		グループで決めたゆるキャラを調べる。	
第5回	「ゆるキャラ」3、グループ討論、続き。		グループで決めたゆるキャラを調べる。	
第6回	「ゆるキャラ」4、グループ発表。		ゆるキャラとは何か、を考える。	
第7回	「ゆるキャラ」まとめ。グループ分け、キャラ選択。		九州地方の萌えキャラを調べる。	
第8回	「萌えキャラ」1、概要、分析方法。		グループで決めた萌えキャラを調べる。	
第9回	「萌えキャラ」2、グループ分け、キャラ選択、グループ討論。		グループで決めた萌えキャラを調べる。	
第10回	「萌えキャラ」3、グループ討論。		萌えキャラとは何か、を考える。	
第11回	「萌えキャラ」4、まとめ。		グループで作るキャラのアイデアを考える。	
第12回	キャラを考えよう！1、概要、グループ討論。		グループで作るキャラのアイデアを考える。	
第13回	キャラを考えよう！2、グループ討論、続き。		グループで作ったキャラの発表方法を考える。	
第14回	キャラを考えよう！3、グループ発表。		復習。	
第15回	まとめ。		復習。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	%			
レポート	%			
小テスト等	30% (ゆるキャラ分析、萌えキャラ分析、キャラ創作のそれぞれ最後のクラス内で考察レポートを出してもらいます)			
成果発表	50%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	グループ作業となるため、適宜グループ内での連絡を取る必要あり。また、出席・遅刻の回数は、評価に大きく影響する。キャラのアイデアを作ってもらいが、絵やイラストの技術は問わない。キャラ考察の回ではパソコン持参。その他、細かいルールに関しては、第1回目のオリエンテーションで説明します。			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	ポピュラー文化論		開講時期	後期
担当教員	一木 順		単 位	2
授業の目的と概要	この授業は、現代社会を理解するためにポピュラー文化を学ぶための基礎知識を身につけることを目的とする。ポピュラー文化とは何か、現代社会におけるポピュラー文化の意味とは何か、ポピュラー文化を語るための視座は何かといったことを、スチュアート・ホール、レイモンド・ウィリアムスらの文化研究を参考に学んでいく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分が親しんでいるポピュラー文化を社会的な視点から考えることができる</li> <li>2. ポピュラー文化を考えるためのキーワードを説明することができる</li> <li>3. 自分が選んだ題材をより深く理解するための情報収集ができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は現代社会学部メディアコースのDP1「現代のメディア社会において、メディア並びにポピュラー文化を理解・分析するうえで基本的な知識を持っている」を充足するための科目です。さらにこの授業はメディアコースのポピュラー文化についての学びの基盤となるものの一つです。この授業で学んだことを「ポピュラー文化演習」でさらに発展させたり、「表象文化論」「サブカルチャー論」などの授業でさらに深めたりすることができます。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回：授業のイントロダクション		なし		
第2回：ポピュラー文化とは何か		指定された課題①を行うこと		
第3回：ポピュラー文化とは何か②		指定された資料を通読すること		
第4回：ポピュラー文化とは何か③		指定された資料を通読すること		
第5回：ポピュラー文化への歴史①		「マイフェアレディ」の鑑賞レポートを提出すること		
第6回：ポピュラー文化への歴史②		指定された資料を通読すること		
第7回：ポピュラー文化への歴史③		指定された課題を行うこと		
第8回：ポピュラー文化への歴史④		19世紀末の社会について調べること		
第9回：ポピュラー文化への歴史⑤		指定された資料を通読すること		
第10回：中間のまとめ		ここまでのキーワードを整理して持ってくる		
第11回：ポピュラー文化と社会①		指定された資料を通読すること		
第12回：ポピュラー文化と社会②		指定されたテーマについて各自調べる		
第13回：ポピュラー文化と社会③		指定された資料を通読すること		
第14回：ポピュラー文化と社会④		21世紀のプリンセスについて考えること		
第15回：まとめ		なし		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	0％			
レポート	40％（指定に従ってコンセプトマップを作成・提出すること）			
小テスト等	0％			
成果発表	20％（授業内でのグループプレゼンテーション）			
受講態度他	40％（授業前課題の提出度、出来を勧奨する20％を含む）			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	この授業では授業外での学習成果、授業内でのグループ学習やディスカッションへの参加を特に重視する。毎回の授業のキーワードを記録するためのポストイットを各自準備すること			
教科書	適宜プリントを配布する			
指定図書	なし			
参考図書	授業内で指示する			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		



授業科目	マーケティング概論		開講時期	前期
担当教員	大橋 健治		単位	2
授業の目的と概要	<p>企業の目的は顧客の創造である。この命題に真っ向から取り組むのがマーケティングの本質的な役割である。企業に就職する学生はもちろん、行政機関に就職する学生も、この命題を強く認識しておく必要がある。本授業では、マーケティングの発想法と近年話題になったマーケティング手法の考え方を学ぶことを目的とする。授業の目的を効果的に達成するために、TBL (Team-Based Learning) を導入する。TBLを成立させるためには、個々の学生が責任を持って授業外学修に取り組み→授業において真摯にチームで討議を行い→クラス全体で討議を行うとともに→教員からのメッセージを受け取り、気づきを内省するというプロセスが不可欠である。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マーケティングの発想法を、自分が知る事例を用いて説明することができる。</li> <li>2. 教科書で取り上げたマーケティング手法を、自分が知る事例を用いて説明することができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>現代社会学部ビジネス社会コースのDP①現代社会を構成する機能の中で、ビジネスが果たさなければならない役割を説明することができる。を達成することを目的に設置された授業である。1年次の「現代経済論」、「観光学概論」、2年次の「女性とビジネス」、「ロジスティクス」、「観光産業論」、「観光経営論」、3年次の「国際ビジネス」、「ファイナンス」、「仏教とビジネス」、「交通産業論」、「観光政策・行政論」などに関連立てて受講することにより、DP①の達成を支援していく。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業の概要説明 (授業の全体像を理解するための模擬授業)	シラバスの内容の吟味と履修の意思決定		
第2回	第1章 ビジョンとミッション ～なぜ、何をしたいのか。	受講ノートの指示に沿った教科書第1章の事前学修・事後学修		
第3回	第2章 現状分析 ～強み、弱み、チャンス、ピンチ、ライバルについて。	受講ノートの指示に沿った教科書第2章の事前学修・事後学修		
第4回	チームビルディング演習	継続して受講予定の学生は必ずチームビルディング演習に参加すること		
第5回	第3章 ターゲットオーディエンス ～向き合う相手はいったい「誰」なのか。	受講ノートの指示に沿った教科書第3章の事前学修・事後学修		
第6回	第4章 ポジショニング ～どう差別化して、何に見られたいのか。	受講ノートの指示に沿った教科書第4章の事前学修・事後学修		
第7回	第5章 4つのPのマーケティングミックス ～何を、どう、社会にもたらすのか。	受講ノートの指示に沿った教科書第5章の事前学修・事後学修		
第8回	第6章 実施計画とマネジメント ～いつ、誰が、何を、いくらかけてやるのか。	受講ノートの指示に沿った教科書第6章の事前学修・事後学修		
第9回	第7章 実行と評価 ～どう世界を幸せにしたのか。	受講ノートの指示に沿った教科書第7章の事前学修・事後学修		
第10回	DVD「市場が企業を生かす」視聴とディスカッション	受講ノートの指示に沿った授業内容のまとめと事後学修		
第11回	DVD「需要を創る」視聴とディスカッション	受講ノートの指示に沿った授業内容のまとめと事後学修		
第12回	DVD「競争に勝つ」視聴とディスカッション	受講ノートの指示に沿った授業内容のまとめと事後学修		
第13回	成果発表 (オーラル・プレゼンテーション) と質疑応答	マイケースの整理とプレゼンテーションの準備		
第14回	成果発表 (オーラル・プレゼンテーション) と質疑応答 受講ノートの提出	マイケースの整理とプレゼンテーションの準備		
第15回	授業のまとめと振り返り 受講ノートの返却	過去14回の授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 受講ノートの提出 (最終ページ「授業を振り返って」をしっかりと記述のこと)			
小テスト等	なし			
成果発表	20% オーラル・プレゼンテーション (マイケースでマーケティング・マネジメントを語る)			
受講態度他	50% TBLへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的な参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の目的と概要で述べたように、本授業ではTBL (Team-Based Learning) を導入する。TBLを成立させる大前提は、個々の学生による自らとチームの仲間の学修への責任をもった授業外学修である。これを怠る学生は授業の場に入ることを拒否する。初回の授業で本授業専用の受講ノートを配付し、受講に関するルールの詳細について説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加することを強く求める。</p>			
教科書	『コトラーが教えてくれたこと 女子大生バンドが実践したマーケティング』 (西内啓、福吉潤 著、ぱる出版、1,400円+税) ※初回の授業時に本授業専用の受講ノートを配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	『マーケティング原理』 フィリップ・コトラー、ゲイリー・アームストロング共著			
オフィスアワー	火曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	マイノリティを生きる		開講時期	後期
担当教員	酒井 均・宇治 和貴		単 位	2
授業の目的と概要	現在社会の中でマイノリティと呼ばれる人々が居る。これらの人々はマイノリティーゆえの様々な苦勞や同時に喜びも感じている。これらの人々を正しく理解しともに生きていく同朋としての認識を育てることを目的とする。ここでは特にマイノリティーと呼ばれる人々の話や関係者の話、家族の話聞き、自分自身と関連付けながら考察を深めていく。			
到達目標	マイノリティーについて正しく理解し説明することができる。 自分自身と関係付けて、その人々を同朋と考えていくことができる。 マイノリティーの人々の現在置かれている社会的な立場を理解できる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に人間科学部共通科目のDP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。 総合講座（人権）			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	マイノリティーとは その歴史		レポート	
第2回	マイノリティーとは 諸相		レポート	
第3回	障害について（1） 障害とは		レポート	
第4回	障害について（2） 発達障害		レポート	
第5回	障害者支援について		レポート	
第6回	当事者の話（1）		レポート	
第7回	当事者の話（2）		レポート	
第8回	当事者の話（3）		レポート	
第9回	当事者の話（4）		レポート	
第10回	当事者の話（5）		レポート	
第11回	家族の話（1）		レポート	
第12回	家族の話（2）		レポート	
第13回	関係者の話（1）		レポート	
第14回	関係者の話（2）		レポート	
第15回	まとめ		レポート	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	80% テーマについては講義中にお知らせします			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	当事者や関係者のお話を聞くことが多くなると思いますが、ここでのお話は他では話さないでください（守秘義務）。また2人で担当しますが外部から話していただける方との関係でシラバス通りに進まないことが予想されます。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	各教員の他科目のシラバスを参照		メールアドレス	

授業科目	マスコミュニケーション論		開講時期	前期
担当教員	林田 スマ・山口 一雄・手島 博		単位	2
授業の目的と概要	<p>マスコミュニケーション全般に好奇心を持って接し、理解を深める。新聞、放送、出版、映画などに加えてインターネットの普及が加速している。メディアの歴史を知り、未来を予測する中で、自身の立ち位置を考える。情報の体得方法や、メディア・リテラシー＝活用術は、社会を生き抜く力、適応力、そしてコミュニケーション能力を磨く。</p> <p>元毎日新聞記者の手島は、長年の経験から新聞の歴史や役割、責任などについて考え、新聞を読み解く。RKB元ニュースキャスターの中村は、ニュース取材から編集、放送までを具体的に。林田は、アナウンサーの仕事で感じる放送の問題や広告、映画、さらに女性とメディアなどについて講義する。</p>			
到達目標	<p>メディア・リテラシーは、情報の選択に始まる。溢れる情報から、何を選ぶか、その眼を養う。メディアの動きを学び、メディア活用力の向上を目指す。専門講師の授業で、ニュース取材、編集、紙面化、番組化、放送までを理解することで、マスコミへの関心も深める。マスコミが持つ社会への影響力、世論形成についても考える。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	マスコミの現状、課題について、前期の講義全体の目標などについて	マスコミ全般についての考察		
第2回	瓦版から新聞まで、活字マスコミの歴史	新聞購読		
第3回	新聞とは何か、ニュースとは何か	新聞購読		
第4回	新聞の役割と責任	新聞購読		
第5回	知る権利と表現の自由	新聞購読		
第6回	マスメディアの中の新聞	新聞購読		
第7回	放送の歴史	番組視聴		
第8回	大規模災害と報道	番組視聴		
第9回	ニュース取材と番組制作について	番組視聴とニュース解釈		
第10回	放送局の組織	番組視聴、ニュース選択と感想		
第11回	政治とネット社会	ネットで政治を見る、ニュース選択と感想		
第12回	メディア・リテラシー、女性とメディア	女性問題研究		
第13回	映画産業の歴史	映画情報の収集		
第14回	出版産業の歴史	書店、書籍のチェック		
第15回	広告産業の移り変わりとコマーシャル	広告、CMのチェック		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>新聞を読む、ニュースを見聞きする、マスコミに対する感度を高める。世の中の動きに敏感になる。大きなニュースの内容や課題について、意見交換する。</p>			
教科書	レジュメ配布			
指定図書	なし			
参考図書	<p>池上彰『ニュースを読む技術』ビジネス社(2010年)          亘英太郎『ジャーナリズム「現」論』世界思想社(2004年)</p>			
オフィスワーク	講義の前夜	メールアドレス		

授業科目	マスメディアの表現		開講時期	後期
担当教員	林田 スマ・山口 一雄・手島 博		単 位	2
授業の目的と概要	<p>メディアの表現を学び、情報を理解、租借する能力を高める。情報を選択する能力を身に付ける為に、メディアが持つ社会への影響力について考える。情報の受け手としてだけでなく、表現方法を学び、情報発信を体験することで、マスメディアの可能性や問題点を知る。</p> <p>元毎日新聞記者手島は、新聞が読者に届くまでの過程や取材の実際、記事の書き方などを指導し、新聞を読み解くことで、マスコミの課題を考える。RKB元ニュースキャスターの中村は、テレビ取材、報道の経験から、放送原稿の書き方とニュースの読み方を指導する。林田は、アナウンサーとしての経験から、メディアの具体的な表現を指導、また、CM作成も課題にしながら取り組む。</p>			
到達目標	<p>マスメディアの情報発信を体験することで、メディア・リテラシーの向上を目指す。記事を書き、番組構成を考え、コマーシャルを研究することから、メディアの課題も見えてくる。こうした体験から表現力を磨き、受け手としての眼力を養う。メディアに対する積極的な姿勢も身に付ける。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	メディアの表現全般について、女性問題とメディア	女性問題研究		
第2回	新聞社の組織と新聞ができるまで	新聞購読		
第3回	新人記者のイロハと取材体験	新聞購読		
第4回	新聞報道の変遷	新聞購読		
第5回	現代日本の課題とマスコミ(1)	新聞購読		
第6回	現代日本の課題とマスコミ(2)	新聞購読		
第7回	テレビ・ラジオのニュースが出来るまで	番組視聴、ニュース選択		
第8回	取材体験から見えること	番組視聴、ニュース選択と感想		
第9回	ニュースを放送が、どのように取り扱ったか	番組視聴、ニュース選択と感想		
第10回	政治、外交から海外メディアまで	番組視聴、ニュース選択と感想		
第11回	ニュース原稿を書く、読む	文章化、発表方法		
第12回	メディアと販売促進について	販促研究		
第13回	コマーシャルを考える、暮らしとメディア	CM視聴、研究		
第14回	商品広告、チラシ、コマーシャルを作る	広告収集		
第15回	メディアと放送文化の未来を考える	放送文化学習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	50%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>メディアの情報発信者として、情報の作成体験を重要な目標とする。作成に当たって、情報収集を通じて、メディアに近づく。新聞購読の大切さを含めてメディア接触の必要性和逆に危険性も理解する。</p>			
教科書	レジュメ配布			
指定図書	なし			
参考図書	<p>ウォルター・リップマン『幻の公衆』柏書房(2007年) 原寿雄『ジャーナリズムの可能性』岩波新書(2009年)</p>			
オフィスワーク	講義の前後	メールアドレス		

授業科目	南アジア近現代史		開講時期	後期
担当教員	喜多村 百合		単 位	2
授業の目的と概要	<p>今世紀最後の大国と呼ばれ、空前の経済発展をするインド。現在のインド社会を理解するには、南アジアの歴史、特に近現代期を踏まえることが必須である。ムガル帝国支配の洗礼を受け、その後のイギリスの植民地統治を通じ受容した「近代」が、フラット化したグローバル世界で頭角を現すインド世界の歴史的裏づけに他ならない。また現在社会問題化する宗教対立、カーストやジェンダー問題は、この時期に再編・固定化された「創られた伝統」から生じているとさえ言われる。多元的なインド世界の諸特徴を、歴史過程を通して理解することが、この授業のねらいである。</p>			
到達目標	<p>①イギリスのインド植民地統治の流れと特徴を説明できる。  ②植民地支配期に「創られた」ヒンドゥー教と宗派対立、ジェンダーやカースト問題の歴史的背景を説明できる。  ③ガンディーの非暴力・不服従運動の特徴と現代的意義を説明できる。  ④その他現代インド社会・文化の緒特徴について、歴史的背景から説明できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、アジア文化学科のDP3「アジアの地理・歴史についての基礎的・専門的知識を身につけている。」の達成に関わる科目です</p> <p>①インド世界を表わすキーワード「多様性の中の統一」における、時間軸の多様性を知る基本的かつ重要な科目である。</p> <p>②段階的には一年次で履修し、二年次の「現代インド事情」二年次の「アジア文化人類学」三年次「アジア・ジェンダー論」「移民文化論」「比較文化演習」へつなげることで、重層的発展的学びが可能となる。また他地域、特に「東南アジア近現代史」、「東アジア近現代史」を履修することで、相互に関連づけられたグローバル・ヒストリー的アプローチが可能となる。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1回 導入：豊富化し変化する「過去」へのまなざし		教科書1章 指定図書①		
第 2回 前近代の南アジア世界：古代、中世、近世		教科書2～4章		
第 3回 近代Ⅰ：ヨーロッパ勢力の進出とムガル帝国の盛衰		教科書5章前半		
第 4回 近代Ⅱ：イギリスの介入と地方勢力の台頭		教科書5章後半		
第 5回 近代Ⅲ：イギリス植民地統治開始と政治経済変化		教科書6章前半		
第 6回 近代Ⅳ：イギリス植民地統治と社会変化—植民都市コルカタ		教科書6章前半 指定図書②		
第 7回 近代Ⅴ：イギリス植民地統治の社会変化—創られるカースト		教科書6章後半		
第 8回 近代Ⅵ：イギリス植民地統治と社会変化—ジェンダー		中間レポート		
第 9回 現代Ⅰ：第一次独立戦争—大反乱		教科書6章後半		
第10回 現代Ⅱ：民族独立運動①国民会議派の請願運動		教科書7章前半		
第11回 現代Ⅲ：民族独立運動②M.K. ガンディーの非暴力・不服従運動		教科書7章後半 指定図書③		
第12回 現代Ⅳ：インド・パキスタン分離独立—民主主義体制の試練		教科書8章		
第13回 現代Ⅴ：国民国家形成—国民会議派一党優位体制		教科書9、10章		
第14回 現代Ⅵ：経済発展と国民統合—ヒンドゥー・ナショナリズム		教科書11章		
第15回 総括		期末レポート		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	80% (期末レポート60%、中間レポート20%)			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日ごろからインドを中心に南アジアについての報道、情報に注意し、その歴史的背景を調べ知識を豊富にすることを期待する。			
教科書	内藤雅雄他『南アジアの歴史—複合的社会の歴史と文化』(有斐閣アルマ)			
指定図書	①辛島昇『南アジア史』、②本田毅彦『インド植民地官僚』、③B. R. ナンダ『ガンディー：インド独立への道』			
参考図書	栗屋利江『イギリス支配とインド社会』、小名康之『ムガル帝国時代のインド社会』			
オフィスアワー	月～水午後	メールアドレス		

授業科目	南アジア入門		開講時期	前期
担当教員	喜多村 百合		単位	2
授業の目的と概要	多様なあり方をする南アジア世界を学ぶ入門編です。前半では、イギリス植民地支配の後に独立した南アジア7カ国地域について、基礎的なデータを学びます。中盤では、インド共和国について歴史・風土・文化・社会について多面的に考察します。同時に経済発展とグローバル化で頭角をあらわす、現代インド社会の可能性や課題について把握を試みます。さらに終盤では、多元的な南アジア世界におけるブロック化の試みであるSAARC（南アジア地域協力連合）の取組みを検討します。			
到達目標	① 南アジアを構成する7カ国地域について基本的な特徴を述べるができる。 ② インド共和国について、地歴や基層文化・社会構造に加え、現代社会が示す可能性・課題について概略的に説明することができる。 ③ 南アジア地域協力連合の取組みについての基本を述べるができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、「アジア文化学科のDP2「東アジア、東南アジア、南アジア、西アジアの各地域の社会事情について、具体的な事例を通して説明できる。」の達成に関わる科目です ①日本人には遠い南アジア世界の多様なあり方を理解するために、座学にとどまらず現地の映像や現地由来の生資料に触れることで認識を身近なものとし、関心を培える授業を目指します。 ②段階的学びとして、「南アジア近現代史」（1年後学期）、「現代インド事情」（2年前学期）、「アジア文化人類学」（3年前学期）、「アジア・ジェンダー論」（3年後学期）を履修することができる。また応用的アプローチとして、インドが含まれる「NPO・NGO論」（2年後学期）、「移民文化論」（3年後学期）が履修できる。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	導入：地域研究と文化理解という営み	配布資料、教科書1章		
第2回	南アジア地域概論(1)：構成7カ国の基礎データ①インド・パキスタン・バングラデシュ	プリント復習		
第3回	南アジア地域概論(2)：構成7カ国の基礎データ②ネパール、ブータン、スリランカ、モルディブ	プリント復習		
第4回	インドの地歴／文化／社会(1)：歴史・地理(映像)	配布プリント		
第5回	インドの地歴／文化／社会(2)：基礎データ	配布プリント		
第6回	インドの地歴／文化／社会(3)：宗教	配布プリント		
第7回	インドの地歴／文化／社会(4)：社会構造	配布プリント		
第8回	インドの地歴／文化／社会(5)：女性・ジェンダー・マイノリティ	教科書2章		
第9回	インドの地歴／文化／社会(6)：政治—世界最大の民主主義国	レポート作成		
第10回	インドの地歴／文化／社会(7)：経済—今世紀最後の経済大国	プリント復習		
第11回	インドの地歴／文化／社会(8)：都市中間層の暮らし	配布資料		
第12回	インドの地歴／文化／社会(9)：現代大衆文化「インド映画」	指定図書②7章		
第13回	インドの地歴／文化／社会(10)：グローバル化の中のインド	プリント復習		
第14回	SAARC南アジア地域協力連合一連携の模索	プリント復習		
第15回	まとめ	期末レポート作成		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート60%、中間レポート20%			
小テスト等	—			
成果発表	なし			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日ごろから南アジア、特にインドに関しての時事報道や番組、情報に気をつけておくこと。			
教科書	栗屋利江『イギリス支配とインド社会』			
指定図書	①広瀬崇子他『現代インドを知るための60章』 ②ラージクマール・ヒラニ『きつとうまくいく』(DVD)			
参考図書	①辛島昇他『南アジアを知る事典』 ②金基淑他『カーストから現代インドを知るための30章』			
オフィスアワー	火～木午後	メールアドレス		

授業科目	民俗学 I	開講時期	前期
担当教員	森田 真也	単位	2
授業の目的と概要	<p>講義の目的は、日常生活の一コマから、自分たちの文化や社会の基層、そして伝統性と現代性、地域性を考えてもらうことである。民俗学は、現在の人々の日常生活から、環境、歴史性を含んだ私たち自身の思考や実践をとらえていく試みである。それは、今を生きる私たち自身の事を、さらには日本社会の今の在り方を、さまざま課題や問題を踏まえて考えてみるということである。民俗学の対象とする「民俗」とは、歴史学が扱う事件、大きな政治や経済の流れとは違い、民間の人々が先祖より伝承してきた、生活の様式、技術、知識、習慣、思考の全体をさすものである。この講義では、最初に民俗学の考え方、特徴、成立過程を解説する。そして、「現代社会と民俗学」を主なキーワードとして、近現代の女性の生き方、社会的位置づけ、学校の怪談や都市伝説等の口承の文化、さらには精神文化を通して、現代社会を生きる人々の「心」の問題を考察していく。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の文化と向きあいながら、私たちの日常生活を再認識する視点を獲得出来る。</li> <li>・日本文化の伝統性と現代的展開について理解出来る。</li> <li>・自分たちの現代社会にある課題について、現場の人々の生活の在り方に則した視点で考察出来るようになる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に日本語・日本文学科のDP 4「日本文化の構造や特徴について説明することができる。」の達成に関わる科目です。主に「民俗学Ⅱ」、「日本文化研究入門」と関連します。また、「日本文化演習Ⅰ」、「日本文化演習Ⅱ」とも関係します。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回： 民俗学を学ぶにあたって		授業の目的と内容について理解する	
第2回： 民俗学の考え方		民俗学の考え方について理解する（資料の通読）	
第3回： 民俗学の特徴		民俗学の特徴について理解する（資料の通読）	
第4回： 民俗学の成り立ち－柳田国男と民俗学の成立－		民俗学の学史について理解する（資料の通読）	
第5回： 民俗学の性格－民俗学と隣接諸学の関係－		民俗学と隣接諸学の関係について理解する（資料の通読）	
第6回： 女性の生活誌（1）－近代から現代の女性の生き方－		近代から現代の女性の生き方について考える（資料の通読）	
第7回： 女性の生活誌（2）－女性差別とケガレ・霊力－		女性の差別と優位性について考える（資料の通読）	
第8回： 女性の生活誌（3）－ファッションとジェンダー－		女性のファッションとジェンダー意識について考える（資料の通読）	
第9回： 口承の文化（1）－学校の怪談と昔話－		口承の文化の意味について考える（資料の通読）	
第10回： 口承の文化（2）－学校の怪談と幽霊－		口承の文化の意味について考える（資料の通読）	
第11回： 口承の文化（3）－都市伝説と現代社会－		口承の文化の意味について考える（資料の通読）	
第12回： 口承の文化（4）－癒し、占い、新宗教、精神世界－		口承の文化の意味について考える（資料の通読）	
第13回： 民俗学とマスメディア－水木しげると「ゲゲゲの鬼太郎」－		民俗学とマスメディアの関わりについて考える（資料の通読）	
第14回： 日本の祭りの現在		祭礼の現状と可能性について考える（資料の通読）	
第15回： まとめ		授業全体の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	80％ 期末テスト（自筆ノート、配布プリント持込可、論述形式）。		
レポート	無し。		
小テスト等	無し。		
成果発表	無し。		
受講態度他	20％ 受講態度。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由の無い遅刻、途中退席をしないこと。		
教科書	適時プリントを配る。教科書等の購入の必要はない。		
指定図書	無し。		
参考図書	佐野賢治他編『現代民俗学入門』吉川弘文館（1996年）。 小松和彦・関一敏編『新しい民俗学へ』せりか書房（2002年）。		
オフィスアワー	木曜日昼休み（12:30-13:00）	メールアドレス	

授業科目	民俗学Ⅱ	開講時期	後期
担当教員	森田 真也	単 位	2
授業の目的と概要	<p>講義の目的は、民俗学の立場から、旅や観光の文化を考え、さらには近代以降、日本社会が直面してきた課題、現在の都市的生活者や地域社会が抱えもつ課題を、生活者の立場からとらえていくことにある。そのためこの講義では、主に観光と地域振興を題材に、人々の日常生活における実践や思考を捉えていく。そして、環境、歴史性を含んだ私たち自身の思考や文化、社会を読み解いていく。</p> <p>この講義では、最初に日本人の旅の習俗、近代マスツーリズム（大衆観光）の成立について概観する。そして、地域社会と観光の関わり、観光によって破壊されるもの、観光によって創られるものについて、日本、沖縄等のいくつかの地域の事例を取り上げながら解説していく。また、あわせてハワイや台湾、バリ等、海外各地の観光の事例を参照し、日本の文化政策や世界遺産の批判的検討、村おこし・町づくりといった地域振興との関係等も考察していく。</p>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光による地域振興、文化政策を批判的に検証する視点を獲得出来る。</li> <li>・観光を通して、近代以降の日本社会の変化について理解出来る。</li> <li>・自分たちの現代社会にある課題について、現場の人々の生活の在り方に則した視点で考察出来るようになる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に日本語・日本文学科のDP4「日本文化の構造や特徴について説明することができる。」の達成に関わる科目です。主に「民俗学Ⅰ」と「日本文化研究入門」に関連します。また、「日本文化演習Ⅰ」、「日本文化演習Ⅱ」とも関係します。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回： 民俗学の考え方		授業の目的と内容について理解する	
第2回： 民俗学の視点による観光研究の意義		民俗学の特徴と観光研究の意義を理解する（資料の通読）	
第3回： 近世の旅と近代マスツーリズムの成立		日本の観光の概要について理解する（資料の通読）	
第4回： 沖縄の観光化		沖縄の観光化の経緯と現状について考える（資料の通読）	
第5回： 観光と地域社会（1）－竹富島の町並み保存運動と観光化－		観光と地域社会の関係を具体的事例から考える（資料の通読）	
第6回： 観光と地域社会（2）－竹富島の種子取祭と観光客－		観光と地域社会の関係を具体的事例から考える（資料の通読）	
第7回： 地域振興策と観光の関わり		地域振興と文化政策の課題について考える（資料の通読）	
第8回： 世界遺産と文化政策の批判的検討		地域振興と文化政策の課題について考える（資料の通読）	
第9回： 都市的生活者とふるさとをテーマにした観光		観光から地方と都市の関係を考える（資料の通読）	
第10回： 観光地ハワイの成立と民族観光		民族観光のプラスとマイナスについて考える（資料の通読）	
第11回： ハワイ観光から生まれたフラ		観光と伝統文化の創造について考える（資料の通読）	
第12回： 台湾の「原住民」観光と民族意識		民族観光のプラスとマイナスについて考える（資料の通読）	
第13回： インドネシア・バリの観光と伝統の創造		観光と伝統文化の創造について考える（資料の通読）	
第14回： 九州の温泉と地域振興		温泉と観光の関わりについて考える（資料の通読）	
第15回： まとめ		授業全体の復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	80％ 期末テスト（自筆ノート、配布プリント持込可、論述形式）。		
レポート	無し。		
小テスト等	無し。		
成果発表	無し。		
受講態度他	20％ 受講態度。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	正当な理由の無い遅刻、途中退席をしないこと。		
教科書	適時プリントを配る。教科書等の購入の必要はない。		
指定図書	無し。		
参考図書	山下晋司編『観光人類学』新曜社（1996年）。 古川彰・松田素二編『観光と環境の社会学』新曜社（2003年）。		
オフィスアワー	火曜日昼休み（12:30-13:00）	メールアドレス	



授業科目	メディア・IT活用演習		開講時期	前期
担当教員	小山 昌宏		単位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像メディア、画像、オーディオファイルの取り扱い、活用方法を身につける。</li> <li>映像編集ソフトWindowsムービーメーカーについて理解し、利活用方法を取得する。</li> <li>映像メディア制作の基本について理解し、ムービー作成の手順、作成方法を習熟する。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>映像制作ソフトウェア、Windowsムービーメーカーの取り扱い、操作ができるようになる。</li> <li>映像、画像、音声、音楽素材を利用して、映像メディアの編集ができるようになる。</li> <li>オリジナルムービーを作成できるようになる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	映像編集ソフト・ムービーメーカーの演習であるこの授業の他、現代社会学部共通のDP④「現代社会に必要なコミュニケーションならびに情報リテラシー能力を身につけ、活用することができる」科目である「ソフトウェア演習A」「ソフトウェア演習B」を学ぶことで、パーソナルメディア作成の基礎を身につけることができます。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 授業計画、心得、進め方	コンピュータとネットワーク概要	ムービーメーカーインストール確認		
第2回	ムービーメーカー概説 ～コンピュータへの素材取り込み（画像・イラスト）	作業、課題練習の復習・予習		
第3回	ムービーメーカー操作 ～コンピュータへの素材取り込み（映像・音楽）	作業、課題練習の復習・予習		
第4回	ムービー編集（1） ～ピクチャー編集（カット、シークエンス）	作業、課題練習の復習・予習		
第5回	ムービー編集（2） ～クリップ編集（速度・分割・トリミング）	作業、課題練習の復習・予習		
第6回	ムービー編集（3） ～アニメーション効果（切り替え効果）①	作業、課題練習の復習・予習		
第7回	ムービー編集（4） ～アニメーション効果（特殊効果）②	作業、課題練習の復習・予習		
第8回	ムービー編集（5） ～タイトル、キャプション クレジット作成 ①	作業、課題練習の復習・予習		
第9回	ムービー編集（6） ～タイトル、キャプション、クレジット作成 ②	作業、課題練習の復習・予習		
第10回	ムービー編集（7） ～オーディオ（音声・音楽）編集	作業、課題練習の復習・予習		
第11回	ムービー編集（8） ～オートムービー他、編集	作業、課題練習の復習・予習		
第12回	ムービー発行 ～ムービー発行、保存、アップロードなど	作業、課題練習の復習・予習		
第13回	課題演習 オリジナルムービー作成 ～独力でオリジナルムービーを制作する ①	作業上の課題を整理し、問題を残さない		
第14回	課題演習 オリジナルムービー作成 ～独力でオリジナルムービーを制作する ②	作業上の課題を整理し、問題を残さない		
第15回	課題演習 オリジナルムービー完成 ～独力でオリジナルムービーを制作する ③	ムービーを完成させる		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70%（オリジナルムービー作成の評価）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	30%（出席状況・課題練習状況）を加味します			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回演習資料を配布します。授業ではLMS（e-Learning）の一環として「筑女ネット」を利用します。授業で積み残した課題を、次回に残さないために復習ができ、また次回の理解をすすめやすくする予習が可能です。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	羽石相『はじめてのWindowsムービーメーカー』（秀和システム）			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	メディア英語翻訳演習		開講時期	後期
担当教員	那須 省一		単位	2
授業の目的と概要	英字新聞やインターネットなどさまざまな英文メディアに登場する英語を理解する上での留意点を学ぶ。 英米文学の名作のさわり（興味深いところ）に触れ、翻訳の難しさ、楽しさを味わう。 オー・ヘンリーの短編 "A Retrieved Reformation" を自分の言葉で完訳することを目指す。			
到達目標	英文メディアの記事の書き出しを読み、内容がある程度、理解（推測）できるようになる。 文学作品や英字新聞を通し、英語表現と日本語表現の類似点、相違点を認識できるようになる。 英文和訳・和文英訳のコツを身に付ける。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション（授業の進め方の説明） オー・ヘンリーの "A Retrieved Reformation" の翻訳に挑戦①	プリントアウト精読		
第2回	メディアチェック 英字新聞の特徴①（見出し） オー・ヘンリーの "A Retrieved Reformation" の翻訳に挑戦②	プリントアウト精読		
第3回	メディアチェック 英字新聞の特徴②（前文） オー・ヘンリーの "A Retrieved Reformation" の翻訳に挑戦③	プリントアウト精読		
第4回	メディアチェック 英字新聞の特徴③（本文） オー・ヘンリーの "A Retrieved Reformation" の翻訳に挑戦④	プリントアウト精読		
第5回	メディアチェック 英字新聞の特徴④（本文） オー・ヘンリーの "A Retrieved Reformation" の翻訳に挑戦⑤	プリントアウト精読		
第6回	メディアチェック 英字新聞の特徴⑤（本文） 小テスト実施 オー・ヘンリーの "A Retrieved Reformation" の翻訳に挑戦⑥	プリントアウト精読		
第7回	メディアチェック 小テスト講評 オー・ヘンリーの "A Retrieved Reformation" の翻訳に挑戦⑦	プリントアウト精読		
第8回	メディアチェック 翻訳の世界をのぞく①（「不思議の国のアリス」） オー・ヘンリーの "A Retrieved Reformation" の翻訳に挑戦⑧	プリントアウト精読		
第9回	メディアチェック 翻訳の世界をのぞく②（「不思議の国のアリス」） オー・ヘンリーの "A Retrieved Reformation" の翻訳に挑戦⑨	プリントアウト精読		
第10回	メディアチェック 翻訳の世界をのぞく③（「老人と海」） オー・ヘンリーの "A Retrieved Reformation" の翻訳に挑戦⑩	プリントアウト精読		
第11回	メディアチェック 翻訳の世界をのぞく④（「老人と海」） 小テスト実施 オー・ヘンリーの "A Retrieved Reformation" の翻訳に挑戦⑪	プリントアウト精読		
第12回	メディアチェック 小テスト講評 オー・ヘンリーの "A Retrieved Reformation" の翻訳に挑戦⑫	プリントアウト精読		
第13回	メディアチェック 翻訳の世界をのぞく⑤（「二人の運命は二度変わる」） オー・ヘンリーの "A Retrieved Reformation" の翻訳に挑戦⑬	プリントアウト精読		
第14回	メディアチェック 翻訳の世界をのぞく⑥（「二人の運命は二度変わる」） オー・ヘンリーの "A Retrieved Reformation" の翻訳に挑戦⑭	プリントアウト精読		
第15回	授業のまとめ	プリントアウト精読		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	70％			
レポート	なし			
小テスト等	20％			
成果発表	なし			
受講態度他	10％			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	日本語の新聞や英字新聞、英文メディアを普段から（図書館やネットを活用して）良く読むように心がける。 筑女ネットの時間割欄に毎回、授業の後にアップする授業のまとめを熟読してください。			
教科書	プリントアウト			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	メディアコンテンツ演習		開講時期	後期
担当教員	橋本 嘉代		単位	2
授業の目的と概要	<p>コンピュータを活用し、メディアコンテンツを制作する授業です。雑誌や書籍、パンフレットなどの出版物をデザインするページレイアウトソフト「InDesign」を使って、誌面デザインを学びます。コンテンツ制作と発信のための基本的な知識・技能の習得を目指します。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータを活用してコンテンツを作る情報リテラシーを身につける。</li> <li>・情報を整理し、印刷物の形にしてわかりやすく人に伝えることができる。</li> <li>・印刷物制作の基本的なルールを身につける。</li> <li>・ページレイアウトソフト「InDesign」の基本設定、文字組み、フォント設定、画像やテキストデータの流し込みなどができる。</li> <li>・ソーシャルメディアでオリジナルコンテンツの情報発信ができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は現代社会学部メディア社会コースのDP1「現代メディア社会において、メディアならびにポピュラー文化を分析・理解するうえでの基本的な知識を持っている」を充足するための科目です。また、この授業は、メディアとポピュラー文化について学ぶための基礎となる基幹演習科目でもあります。この授業に加え、「メディア・IT活用演習」で映像の編集方法を学んだり、発展科目「出版論」で出版の歴史や社会的意義を知ることにより、さらに学びが深まります。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 印刷とDTPの基本① (Section1前半)		教科書の範囲の予習・復習		
第2回 印刷とDTPの基本② (Section1後半)		教科書の範囲の予習・復習		
第3回 グラフィックデータの基本① (Section 2 前半)		教科書の範囲の予習・復習		
第4回 グラフィックデータの基本② (Section 2 後半)		教科書の範囲の予習・復習		
第5回 文字組みの基本① (Section3前半)		教科書の範囲の予習・復習		
第6回 文字組みの基本② (Section3後半)		教科書の範囲の予習・復習		
第7回 デザインの基本① (Section4)		教科書の範囲の予習・復習		
第8回 レイアウトをしよう① (Section5前半)		教科書の範囲の予習・復習		
第9回 レイアウトをしよう② (Section5後半)		教科書の範囲の予習・復習		
第10回 中間課題作成・提出		授業中に提出できなかった場合は、授業外に課題制作・提出		
第11回 データ作成と入稿のしかた① (Section6前半)		教科書の範囲の予習・復習		
第12回 データ作成と入稿のしかた② (Section 6 後半)		教科書の範囲の予習・復習		
第13回 色校正のみかた (Section 7)		教科書の範囲の予習・復習、最終課題制作		
第14回 ソーシャルメディアでの情報発信		SNSアカウント開設・写真準備(著作権・肖像権OKのもの)、最終課題提出		
第15回 最終課題の講評+仕上げ(表紙、目次などをつけて小冊子化)		授業外に課題制作・提出(提出締切は授業中に指示)		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	70%			
小テスト等	0%			
成果発表	%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回出席を前提としたペースで進めていきます。</li> <li>・コンピュータ演習室1に入っているソフトウェア「InDesign」を使用します。コンピュータ演習室1(AかB)に他の授業が入っていない時間帯や昼休みなどに自習ができます。</li> <li>・ファイル紛失や作業内容の消失を防ぐため、自分が決めた場所に「名前をつけて保存」をしてから作り始め、5分に一度は上書き保存。</li> </ul>			
教科書	柳田寛之『DTP印刷デザインの基本』玄光社			
指定図書	なし			
参考図書	波多江 潤子『デザインの学校 これからはじめるInDesignの本 [CS6/CS5.5対応版]』技術評論社			
オフィスアワー	火曜14:50-16:20	メールアドレス		

授業科目	メディアコンテンツ研究A		開講時期	前期
担当教員	吉野 嘉高		単位	2
授業の目的と概要	<p>学生が主体となってニュースを掘り下げてリサーチし多角的に考察する授業である。グループ作業によるアクティブラーニングがメインとなる授業で、受け身ではなく、受講生同士が活発に話し合うことなどを重視する。</p> <p>グループ単位で現代社会に関するあるテーマについて「疑問」を見つけ、ネットを使ってその「答え」を探し出す。(問題発見・解決型授業)「既定テーマ」と「自由テーマ」の2つのテーマについて取り組む。この授業では、ドキュメントや調査結果の分析に「KJ法」を取り入れる。「KJ法」は、小さなカードに情報を書き込み、つながりのあるものを関連付けてグループ化する中、構造や課題を明確化し、全体を概観する方法である。あるテーマに沿ってリサーチする中、「疑問」を発見し、その「答え」を導き出す方法を身に付ける。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに沿った情報収集ができる。</li> <li>・KJ法を使って情報分析ができる。</li> <li>・ニュースを多角的に考察することができる。</li> <li>・グループ内で積極的に発言できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーションほか 既定テーマに沿って、2～3人で1チームをつくる。既定テーマは、憲法改正、安保法制などの硬め	復習・予習		
第2回	チームで話し合い、共有できたひとつの「疑問」(リサーチクエスチョン)を発表する。	課題・「疑問」の提出		
第3回	「疑問」に沿って、チームメンバー全員が、ネットを使って調査する。	課題・各自「作業メモ」の提出		
第4回	KJ法の説明およびグループワーク。	課題・追加調査等		
第5回	KJ法によるグループワークの続き。発表用資料(パワポ)を作成する。	課題・発表用資料の提出		
第6回	チーム内で発表用資料の回し読み後、発表者を決定し発表する。	復習・予習		
第7回	発表の続き。	課題・「自由テーマ」について考える。		
第8回	チーム内で「自由テーマ」を設定し、発表する。	課題・「自由テーマ」の提出		
第9回	チームで話し合い、共有できた「疑問」(リサーチクエスチョン)を発表する。	課題・「疑問」の提出		
第10回	「疑問」に沿って、チームメンバー全員が、ネットを使って調査する。	課題・各自「作業メモ」の提出		
第11回	KJ法によるグループワーク。	課題・追加調査等		
第12回	KJ法によるグループワークの続き。発表用資料(パワポ)を作成する。	課題・発表用資料の提出		
第13回	チーム内で発表用資料の回し読み後、発表者を決定し発表する。	予習・復習		
第14回	発表の続き。	課題・ニュースを「不完全商品」として捉えてまとめる。		
第15回	まとめ	復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	40%(課題はすべてレポート扱いとする。)			
小テスト等	—			
成果発表	40%(チーム点と個人点に分ける。発表者には、個人点に加点する。)			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	「グループ作業」を中心にした互いの「学び合い」を通じて知識やスキルの獲得・定着を図ります。既定テーマに関しては変更があるかもしれません。なるべく時事的でライブ感のあるものにしたいです。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	川喜田二郎著『発想法 創造性開発のために』中公新書、竹田圭吾『コメントする力』PHP			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	メディアコンテンツ研究A		開講時期	前期
担当教員	須藤 遙子		単位	2
授業の目的と概要	テレビCMや企業サイトを通じて、映像メディアやインターネットメディアの特徴を学ぶ。グループでの討論をしながら、チームワークにおけるコミュニケーションスキルを高める。「消費社会」に対する批判的な視点を養う。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チームワークを円滑に進めるための的確な役割分担や積極的な発言ができる。</li> <li>・プレゼンテーション能力を身につける。</li> <li>・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。</li> <li>・メディアの特性による情報の違いを理解する。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。	気になるテレビCMや企業サイトをチェックする。		
第2回	テレビCM(1) 概説、分析方法。	気になるテレビCMをチェックする。		
第3回	テレビCM(2) グループ分け、テーマ決め、グループ討論。	グループで決めたテレビCMを分析し、討論用にメモする。		
第4回	テレビCM(3) グループ討論、発表内容決定。	発表準備。		
第5回	テレビCM(4) グループ発表、コメント。	復習。		
第6回	テレビCM(5) グループ発表、コメント、続き。	復習。		
第7回	インターネット企業サイト(1) 概説、分析方法。	気になる企業サイトをチェックする。		
第8回	インターネット企業サイト(2) グループ分け、テーマ決め、グループ討論。	グループで決めたテレビCMを分析し、討論用にメモする。		
第9回	インターネット企業サイト(3) グループ討論、発表内容決定。	発表準備。		
第10回	インターネット企業サイト(4) グループ発表、コメント。	復習。		
第11回	インターネット企業サイト(5) グループ発表、コメント、続き。	雑誌広告をチェックする。		
第12回	雑誌広告について全体討論。	新聞広告をチェックする。		
第13回	新聞広告について全体討論。	これまでの授業をふまえて「消費社会」について考察する。		
第14回	「消費社会」について概説、全体討論。	復習。		
第15回	まとめ。	復習。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	%			
小テスト等	%			
成果発表	70%(グループでの参加度、発表者としてのスキル)			
受講態度他	30%(全体討論への参加態度も含める)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	グループ作業となるため、適宜グループ内での連絡を取る必要あり。出席・遅刻の回数は、評価に大きく影響する。テレビCM サイト分析の回は、パソコン持参のこと。その他、細かいルールに関しては、第1回目のオリエンテーションで説明します。			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスワーク	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	メディアコンテンツ研究B	開講時期	前期
担当教員	橋本 嘉代	単位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の分析視角からメディアコンテンツを見ることを通して、情報リテラシーや創造的な思考力を高める。</li> <li>・雑誌メディアならびに出版産業についての理解を深める。</li> <li>・社会背景や社会意識とメディアコンテンツの関連性について考える力を養う。</li> <li>・グループ作業を通じてチームワークを学び、コミュニケーションスキルを身につける。</li> </ul>		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の分析視角からメディアコンテンツを批判的に見る論理的思考力を身につける</li> <li>・グループ作業で自分の意見を持ってディスカッションすることができる</li> <li>・データベースを用いたり学術的な分析手法にもとづいて、調べたことをまとめる情報リテラシーを身につける</li> <li>・他の学生の報告を聞いて、的確なコメントができる</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンテンツ制作の知識・技能を学ぶ「ソフトウェア演習ⅡA」「ソフトウェア演習ⅡB」などを履修することで、この授業で身につけた分析力に加え、情報発信力を養うことができます。</li> </ul>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション (さまざまな雑誌分析手法の紹介)	ノートの整理。自分が使いたい手法や分析したい雑誌を考える	
第2回	国際比較 (Vogueの日本版、海外版を比較)	日本の雑誌の独自性を整理。書店などで他の国際誌を見てみる	
第3回	「雑誌の人格」を想像してみる① (課題①作成)	分析したい雑誌を選び、持参。	
第4回	「雑誌の人格」を想像してみる② (課題①提出) →発表	課題制作→第4回授業開始時までに完成させておき、授業時に持参	
第5回	データベースを利用した雑誌分析① (グループ作業) ※PC持参 (課題②作成)	Web-Oyabunko, JMPAマガジンデータなどのデータベース検索、グラフ化	
第6回	データベースを利用した雑誌分析② (グループ作業) ※PC、発表用ファイル持参 (課題②)	発表用ファイル作成	
第7回	歴史的比較 (特定の雑誌・雑誌群の歴史的な変化をみる) <1980年代以降の赤字雑誌の予定>	日本の消費文化の歴史を把握 (参考資料: 電通 広告景気年表など)	
第8回	内容分析①手法説明 → 赤字雑誌チームvs青文字雑誌チームで実践	参加したいチームの雑誌を入手し、読み込む→当日持参	
第9回	内容分析②分析対象誌、分析方法の検討 (グループ作業)	分析したい雑誌の選定 (グループで決め、分担して複数号を入手)	
第10回	内容分析③実践 (グループ作業)	分析したい雑誌を購入し、読み込んでおく	
第11回	内容分析: 実践、結果発表 (グループ作業) 課題③	分析 (頻出用語の数を数えるなど)、発表準備	
第12回	個人研究 (最終プレゼン) のテーマ検討、プレゼンテーションとは? (どのようにスライドを作ればよいか) <講義→質疑応答>	OPACで参考文献を探し、図書館で借りて読む。分析対象誌を探す	
第13回	個人研究用の発表用ファイル作成 ※PCと分析対象誌を持参	これまでに学んだ手法を用いて分析し、発表ファイル作成 (冬休みの課題)	
第14回	学生によるプレゼンテーション: 前半 (聞き手は質問やコメントをする) 課題④	プレゼンテーション資料作成、発表練習、TED視聴	
第15回	学生によるプレゼンテーション: 後半 (聞き手は質問やコメントをする) 課題④	プレゼンテーション資料作成、発表練習、TED視聴	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	0%		
小テスト等	0%		
成果発表	70% (課題①②③④)		
受講態度他	30% (発表へのコメントやディスカッションへの貢献度)		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6回以上欠席だと不可。30分以上の遅刻・早退は欠席扱い。遅刻3回で欠席1回分とみなします。</li> <li>・教科書はありませんが、シラバスを参照し、分析に使いたい雑誌を持参してください (大学図書館の雑誌は選択肢が少ないので注意)</li> <li>・ノートPC持参の回があります (シラバスの予定と異なる場合は授業時に説明します)。</li> <li>・グループ作業では、グループメンバー同士で協力・連携して課題に取り組んでください。欠席などの際は事前に連絡をし、他</li> </ul>		
教科書	教科書の指定はありませんが、分析したい雑誌 (数冊) を購入してもらいます (授業中に指示)。		
指定図書	なし		
参考図書	『マガジンデータ2015 (2014年版)』一般社団法人日本雑誌協会、『ファッション誌をひもとく』(富川淳子著)、『雑誌の人格』(能町みね子著)		
オフィスアワー	火曜 14:50-16:20	メールアドレス	

授業科目	メディアコンテンツ研究B		開講時期	前期
担当教員	須藤 遙子		単位	2
授業の目的と概要	<p>実際の新聞記事の分析を通じて、新聞メディアの特徴を学ぶ。  各紙の違いを理解しながら、情報リテラシーを身につける。  個人の調査・分析能力、プレゼンテーション能力を高める。  課題とは別に、全員に1回「今週の気になったニュース」を発表してもらいます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で問題を設定し、的確な方法で分析ができる。</li> <li>・プレゼンテーション能力が身につく。</li> <li>・他人の発表に対し、的確なコメントを言えるようにする。</li> <li>・各紙の特性による情報の違いを理解する。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。	身近な新聞に目を通す。		
第2回	新聞メディアとは。	身近な新聞に目を通す。		
第3回	全国紙1：企業体制と特徴	全国紙のうち1紙を購入し、目を通す。		
第4回	全国紙2：社説とコラム	全国紙の社説とコラムを最低1紙読む。		
第5回	全国紙3：過去の記事（同一日）	図書館で同一日の複数の全国紙の記事を読み比べる。		
第6回	全国紙4：過去の記事（同一事件）	図書館である一つの事件の報道がどのように変化するか調べる。		
第7回	全国紙5：まとめ	全国紙に関するレポート。		
第8回	地方紙1：企業体制と特徴	地方紙のうち1紙を購入し、目を通す。		
第9回	地方紙2：社説とコラム	地方紙の社説とコラムを最低1紙読む。		
第10回	地方紙3：過去の記事（同一日）	図書館で同一日の複数の地方紙の記事を読み比べる。		
第11回	地方紙4：過去の記事（同一事件）	図書館である一つの事件の報道がどのように変化するか調べる。		
第12回	地方紙5：まとめ	地方紙に関するレポート。		
第13回	インターネット新聞1：大手新聞社	大手新聞社のサイトを見る。		
第14回	インターネット新聞2：市民ジャーナリズム	ネットニュースを見る。		
第15回	まとめ。	復習。		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	%			
レポート	%			
小テスト等	%			
成果発表	80%（課題への取り組み、発表者としてのスキル）			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎回の宿題、準備が必要。よって、出席・遅刻の回数は、評価に大きく影響する。  グループでなく、個人での発表を行う。  その他、細かいルールに関しては、第1回目のオリエンテーションで説明します。</p>			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		

授業科目	メディアコンテンツ論		開講時期	後期
担当教員	須藤 遙子		単 位	2
授業の目的と概要	メディアの歴史や変遷を社会との関わりを考えながら学ぶ。 活字メディア、映像メディア、通信メディアの特性を理解し、メディアの役割を体系的に考える。 現代のコンテンツ産業、コンテンツ政策に関する基礎的知識を身につける。			
到達目標	専門分野へ進むためのメディア、コンテンツに関する基礎知識を得る。 メディア史の概要を理解する。 現在のメディア状況を社会的視点から捉えられる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	メディア社会コースDP1:「現代メディア社会において、メディアならびにポピュラー文化に関する基本的な知識と技能の獲得を図る」 関連科目:メディアコンテンツ論、ポピュラー文化演習、文化と現代社会、文化産業論など			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション。授業の進め方の説明。		メディアとはなにか、を考える。	
第2回	メディアとは。		「ものみなメディア」という視点で、周囲を観察する。	
第3回	大衆(マス)とは。		「マス・メディア」を考察する。	
第4回	新聞:歴史、特性、現状。		授業内容をふまえ、新聞を読む。	
第5回	雑誌:歴史、特性、現状。		授業内容をふまえ、雑誌を読む。	
第6回	ラジオ:歴史、特性、現状。		授業内容をふまえ、ラジオを聴く。	
第7回	テレビ1:歴史、特性、現状。		授業内容をふまえ、テレビニュースを観る。	
第8回	テレビ2:報道と問題点。		授業内容をふまえ、テレビニュースを観る。	
第9回	マス・メディアまとめ。小テスト。		マス・メディアに関する復習。	
第10回	インターネット1:歴史、特性、マス・メディアとの違い。		授業内容をふまえ、インターネットサイトを観る。	
第11回	インターネット2:情報社会、グローバル化。		授業内容をふまえ、インターネットサイトを観る。	
第12回	インターネット3:SNSの歴史、特性、現状。		授業内容をふまえ、SNSを観る。	
第13回	メディア・リテラシーとは。		自身のメディア行動を考察する。	
第14回	インターネット・メディアまとめ。小テスト。		「インターネット・メディア」を考察する。	
第15回	まとめ。		復習。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	%			
レポート	%			
小テスト等	80%。中間(マス・メディア)と最後(インターネット・メディア)の2回実施。			
成果発表	%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	その他、細かいルールに関しては、第1回目のオリエンテーションで説明します。			
教科書	なし。			
指定図書	なし。			
参考図書	その都度、指定します。			
オフィスワー	授業の前後に相談してください。	メールアドレス		



授業科目	メディア産業論		開講時期	前期
担当教員	橋本 嘉代		単位	2
授業の目的と概要	<p>「文化と商業の関係性」という観点から現代社会をとらえなおすための授業です。</p> <p>放送、新聞、出版、広告、音楽、マンガ、アニメ、などの各産業の特徴と動向を知り、日本のメディア産業の特徴や課題を認識することを目的とします。</p> <p>「○○業界は××」などと機械的に丸暗記するのではなく「なぜそうなっているのか」を考える創造的思考力を身につけ、変化が激しい実社会の諸問題の解決に寄与できる力を養います。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>各産業が主にどのような収益構造でビジネスを成立させているのかを説明することができる</li> <li>日本のメディア産業の特徴について、他国との違いを例にあげながら説明することができる</li> <li>自分が興味を持っている業界についての知識を深め、自己のキャリアプランニングに生かすことができる</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、現代社会学部メディア社会コースのDP2「現代メディア社会におけるメディアの意味や役割について分析・説明することができる」を充足するための科目です。</p> <p>メディアとポピュラー文化について学ぶための基礎となる基幹講義科目の一つでもあります。</p> <p>1年次の「メディア論」「ポピュラー文化論」などで学んだことを、この授業でさらに発展させるという位置づけです。</p> <p>この授業で学んだうえで、「メディアコンテンツ論」「メディアコンテンツ演習」「ポピュラー文化演習」「文化政策論」などを履修すると、さらに知識や理解が深まります。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	イントロダクション、文化と商業の関係性、メディア概況	なし		
第2回	各産業の特徴と動向①放送	指定された資料の通読		
第3回	各産業の特徴と動向②インターネット	指定された資料の通読		
第4回	各産業の特徴と動向③モバイル関連産業	指定された資料の通読		
第5回	各産業の特徴と動向④新聞・出版	指定された資料の通読		
第6回	各産業の特徴と動向⑤広告	指定された資料の通読		
第7回	各産業の特徴と動向⑥映像コンテンツ	指定された資料の通読		
第8回	各産業の特徴と動向⑦音楽	指定された資料の通読		
第9回	各産業の特徴と動向⑧マンガ、アニメ	指定された資料の通読		
第10回	各産業の特徴と動向⑨ゲーム	指定された資料の通読		
第11回	日本型メディア産業の現状と課題	指定された資料の通読		
第12回	海外のメディア産業	指定された資料の通読		
第13回	メディア産業と法的環境	指定された資料の通読		
第14回	メディア産業従事者の労働環境	興味がある業界の労働環境を調べる、指定された資料の通読		
第15回	企業のメディア化、ライフスタイルの商品化	指定された資料の通読		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40%			
レポート	30%			
小テスト等	%			
成果発表	%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の授業の範囲を毎回事前に読んでおいてください。</li> <li>授業時間中の教室の出入りは原則として禁止。</li> <li>遅刻3回で欠席1回と換算します。6回以上欠席すると、定期試験の受験資格を得ることができません。</li> </ul>			
教科書	なし(資料を筑女ネットに掲載)			
指定図書	なし			
参考図書	河島伸子『変貌する日本のコンテンツ産業』『コンテンツ産業論——文化創造の経済・法・マネジメント』ともにミネルヴァ書房、湯浅正敏『メディア産業論』有斐閣、一般社団法人デジタルコンテンツ協会『デジタルコンテンツ白書2013-2015』			
オフィスアワー	火曜14:50-16:20	メールアドレス		

授業科目	メディアと文化		開講時期	前期
担当教員	小山 昌宏		単 位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業は、メディアと文化に関する基礎知識を、映画、ドラマ、アニメ、音楽、雑誌などの具体例を通して身につけることを目的とする。</li> <li>・また具体例を検証することにより、メディア、マスコミュケーションの基礎理論を事例とともに身につけることを目的とする。</li> <li>・具体的には、毎回の講義時リアクションペーパー（質疑応答：出席表）による復習（振り返り）を活かし、学びを深め（思考力の獲得）、期末レポート作成に活かす。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディア、個別メディアの機能と社会的影響力について、説明することができる。</li> <li>・各メディアの諸問題点を発見し、それについて掘り下げ、考えることができ、その内容について報告ができる。</li> <li>・リアクションペーパー内容の振り返りにより、他者の意見を取り入れ、自分の知識を再形成することができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、現代社会学部、文学部共通科目です。現代社会学部メディア社会コースDP②「現代メディア社会におけるメディアの意味や役割について分析・説明することができる」の「メディア産業論」「メディアコンテンツ論」と合わせて学ぶことで、メディア全般の基礎知識が身につきます。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	メディアとは何か？ ～F・ラング「メトロポリス」とチャップリン「モダン・タイムス」を題材に	2作品いずれかを視聴しておく		
第2回	メディアの発展とその機能 ～メディアの進化と身体コミュニケーション	次回題材にする「ドラマ」を視聴しておく		
第3回	地域文化とメディア ～能年玲奈の「あまちゃん」と地域振興	次回授業に関連する資料を読んでおく		
第4回	電話と声 ～郷ひろみ「よろしく哀愁」からRADWIMPS「携帯電話」へ	次回授業に関連する資料を読んでおく		
第5回	新聞メディアとその役割 ～娯楽と報道の「間」に揺れるその未来	次回授業に関連する資料を読んでおく		
第6回	放送メディアと文化 ～その「公共性」と社会的役割について	次回授業に関連する資料を読んでおく		
第7回	視覚と映像 ～機械の目と人間の目が織りなす映像の基本ルール	次回授業に関連する資料を読んでおく		
第8回	マスコミュケーションと情報操作 ～「ナチス情報戦」「火星人襲来」から「ケネディ暗殺」へ	次回授業に関する作品を視聴しておく		
第9回	アニメ・パッシングとオーディエンス ～血・性・暴力表現はいかにしてアニメから排除されるか	次回授業に関する資料を読んでおく		
第10回	ミニコミと自己プロデュース ～「サブカルポップマガジンまぐま」19年の歩みから	次回授業に関する作品を視聴しておく		
第11回	聖地巡礼とコンテンツ消費 ～「時かけ」「らき☆すた」から「炎の蜃気楼」「水木しげるロード」へ	次回授業内容について下調べしておく		
第12回	コンテンツビジネス論 ～アニメコンテンツと窮乏化するアニメーター	次回授業内容について下調べしておく		
第13回	メディア・リテラシーとセキュリティ ～テレビCM、ネット広告の罠とリテラシー	次回授業に関連する資料を読んでおく		
第14回	情報セキュリティの役割 ～インターネットにおける社会的信頼	次回授業に関連する資料を読んでおく		
第15回	情報メディアの編集と生成 ～学際的メディア編集とは何か？	期末レポートテーマを確定する		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	70%（期末レポート） 30%（リアクションペーパーの内容）			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	第1回目の授業時に受講の心得についてお話しします			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この授業では、毎回、リアクションペーパー内容をまとめ、要点整理の上、次回授業のはじめに振り返り紹介いたします（復習）</li> <li>・リアクションペーパーと振り返りによる学習効果を、期末レポート作成に活かします。</li> </ul>			
教科書	適宜配布いたします			
指定図書	なし			
参考図書	授業内で指示する			
オフィスアワー	授業の前後	メールアドレス		

授業科目	メディア文化論	開講時期	前期
担当教員	荒巻 龍也	単位	2
授業の目的と概要	<p>1. 新聞、電話、映画、ラジオ、テレビといった個別のメディアについてメディアの歴史としての理解を深める。</p> <p>2. 歴史的な考察を現代的な問い、ネット社会やグローバル化の新しい状況につなげて理解する。</p> <p>3. メディアリテラシーとしてメディアとのかかわりの歴史をまとめ、整理する。 我々の周りには様々なメディアがあります。授業の前半では新聞、電話、映画、ラジオ、テレビなどの個々のメディアの歴史とその現状を考察していきます。またメディアリテラシー（演習）として、「私とメディア、私たちとメディア」というテーマで、個々人のメディアとのかかわりの歴史を整理していきます。最後に現代におけるメディアの現状と特徴を考察しながら、これからのメディアについて考えていきます。</p>		
到達目標	<p>1. メディアと文化（社会）の関わりについて理解し、説明することができる。</p> <p>2. 個々のメディアの歴史とその現状を理解し、説明できる。</p> <p>3. メディアと私、私たちのかかわりを整理することができる。</p> <p>4. グループ作業で自分の意見を述べ、グループの意見などをまとめることができる。（メディアリテラシー）</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	関連する科目：メディア論、テレビ論 など		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	授業の概要、授業計画、授業の進め方・受け方、メディアとは何か	資料の復習	
第2回	新聞と近代ジャーナリズム	第7話を熟読、関連資料を熟読→予習課題1、教材の復習	
第3回	電話が誕生したのはいつだったのか	第8話を熟読、関連資料を熟読→予習課題2、教材の復習	
第4回	誰が映画を誕生させたのか	第9話を熟読、関連資料を熟読→予習課題3、教材の復習	
第5回	ラジオ・マニアたちの社交圏	第10話を熟読、関連資料を熟読→予習課題4、教材の復習	
第6回	テレビが家にやって来た	第11話を熟読、関連資料を熟読→予習課題5、教材の復習	
第7回	前半のまとめ、第1部（方法としてのメディア）の総括、レポート課題1について	これまでの復習、発表準備、レポート課題1	
第8回	メディアリテラシー～私とメディア、私たちとメディア(1)メディアとは？	メディアリテラシー課題1（私のメディア史）	
第9回	メディアリテラシー～私とメディア、私たちとメディア(2)私のメディア史、私たちのメディア史	メディアリテラシー課題2（私たちのメディア史）	
第10回	メディアリテラシー～私とメディア、私たちとメディア(3)今週のテレビ日記	メディアリテラシー課題3（テレビ日記）	
第11回	メディアリテラシー～私とメディア、私たちとメディア(4)メディアと流行	メディアリテラシー課題4（メディアと流行）	
第12回	ケータイが変える都市の風景	第12話を熟読、関連資料を熟読→予習課題6、教材の復習	
第13回	パソコンとネットワーク化する市民社会	第13話を熟読、関連資料を熟読→予習課題7、教材の復習	
第14回	グローバル・メディアとは何か	第14話を熟読、関連資料を熟読→予習課題8、教材の復習	
第15回	メディアを変革するための知、後半のまとめ、レポート課題2について	第15話を熟読、関連資料を熟読→予習課題9、教材の復習、レポート課題2	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	0% なし		
レポート	70% レポート課題1（前半のまとめ）（15%）、レポート課題2（後半のまとめ）（15%）、予習課題・授業中課題・メディアリテラシー課題（40%）		
小テスト等	0% なし		
成果発表	20% 発表・プレゼンテーション（メディアリテラシー含む）など		
受講態度他	10% 出席状況ならびに授業に対する積極性など		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業はテキストならびに筑女ネットのPowePoi nt教材等を利用して進めていきます。授業中に必ずしも筑女ネットを閲覧する必要はありませんが、予習・復習ならびに課題においては筑女ネットの閲覧が必須になります。筑女ネット教材の閲覧・利用が確実にできるようにしておいてください。</p> <p>授業中にほぼ毎回、各回の内容に関する小課題に取り組んでもらいます。授業中は私語などもなく、集中して受講してください。メディアリテラシーの回では、グループに分かれて作業してもらうこともあります。</p>		
教科書	吉見俊哉著 『メディア文化論 改訂版』 有斐閣アルマ（有斐閣） プリントならびに「筑女ネット」のオンライン教材も併用していきます。		
指定図書	なし		
参考図書	鈴木みどり編 『新版 Study Guide メディア・リテラシー【入門編】』 リベルタ出版 藤竹 暁著 『図説 日本のメディア』 NHKブックス（NHK出版）		
オフィスアワー	水曜日 10:00 - 12:00、金曜日 10:00 - 12:00	メールアドレス	

授業科目	メディアリテラシー演習		開講時期	前期
担当教員	吉野 嘉高		単位	2
授業の目的と概要	<p>学生が主体となってニュースを掘り下げてリサーチし多角的に考察する授業である。グループ作業によるアクティブラーニングがメインとなる授業で、受け身ではなく、受講生同士が活発に話し合うことなどを重視する。</p> <p>グループ単位であるニュースについて「疑問」を見つけ、ネットを使ってその「答え」を探し出す。(問題発見・解決型授業)</p> <p>「既定テーマ」と「自由テーマ」の2つのテーマについて取り組む。この授業では、ドキュメントや調査結果の分析に「KJ法」を取り入れる。「KJ法」は、小さなカードに情報を書き込み、つながりのあるものを関連付けてグループ化中、構造や課題を明確化し、全体を概観する方法である。あるテーマに沿ってリサーチする中、「疑問」を発見し、その「答え」を導き出す方法を身に付ける。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに沿った情報収集ができる。</li> <li>・KJ法を使って情報分析ができる。</li> <li>・ニュースを多角的に読み解くことができる。</li> <li>・グループ内で積極的に発言できる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、メディア社会コースのコースDP1「現代メディア社会において、メディアならびにポピュラー文化を分析・理解するうえで基本的な知識を持っている」に沿った内容になっている。この授業で学んだことを「ジャーナリズム論」などで深めることができる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーションほか 既定テーマに沿って、2～3人で1チームをつくる。既定テーマは憲法改正、安保法制など硬めの2	復習・予習		
第2回	チームで話し合い、共有できたひとつの「疑問」(リサーチクエスチョン)を発表する。	課題・「疑問」の提出		
第3回	「疑問」に沿って、チームメンバー全員が、ネットを使って調査する。	課題・各自「作業メモ」の提出		
第4回	KJ法の説明およびグループワーク。	課題・追加調査等		
第5回	KJ法によるグループワークの続き。発表用資料(パワポ)を作成する。	課題・発表用資料の提出		
第6回	チーム内で発表用資料の回し読み後、発表者を決定し発表する。	復習・予習		
第7回	発表の続き。	課題・「自由テーマ」について考える。		
第8回	チーム内で「自由テーマ」を設定し、発表する。	課題・「自由テーマ」の提出		
第9回	チームで話し合い、共有できた「疑問」(リサーチクエスチョン)を発表する。	課題・「疑問」の提出		
第10回	「疑問」に沿って、チームメンバー全員が、ネットを使って調査する。	課題・各自「作業メモ」の提出		
第11回	KJ法によるグループワーク。	課題・追加調査等		
第12回	KJ法によるグループワークの続き。発表用資料(パワポ)を作成する。	課題・発表用資料の提出		
第13回	チーム内で発表用資料の回し読み後、発表者を決定し発表する。	予習・復習		
第14回	発表の続き。	課題・ニュースを不完全商品と捉えてまとめる。		
第15回	まとめ	復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	40%(課題はすべてレポート扱いとする。)			
小テスト等	—			
成果発表	40%(チーム点と個人点に分ける。発表者には、個人点に加点する。)			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	「グループ作業」を中心にした互いの「学び合い」を通じて知識やスキルの獲得・定着を図ります。既定テーマに関しては変更があるかもしれません。なるべく時事的でライブ感のあるものにしたいです。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	川喜田二郎著『発想法 創造性開発のために』中公新書、竹田圭吾『コメントする力』PHP			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	メディア論		開講時期	後期
担当教員	吉野 嘉高		単位	2
授業の目的と概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアを作り出したのは、私たち人間である。一方で、メディアが私たちの日常の思考や身体感覚、社会的コミュニケーションのあり方を決定することにより、現代人を作り出し、世界を変えてきたともいえる。このプロセスについて理解を深める。</li> <li>・また、歴史社会的な文脈の中で、各メディアの成り立ちを追い、メディアと社会との関係について理解を深める。</li> </ul>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアが社会にどう影響を変えるのか、説明できること</li> <li>・メディアが私たちの思考や感覚にどう影響を及ぼすのか、説明できること</li> <li>・歴史的、社会的文脈の中で、メディアのあり方がどう変化するか説明できること。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、メディア社会コースのコースDP1「現代メディア社会において、メディアならびにポピュラー文化を分析・理解するうえでの基本的な知識を持っている」に沿った内容になっている。このほかに、「ポピュラー文化論」「文化と現代社会」を受講すると、メディア社会コースの学びの基礎を身に付けることができる。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション	予習・課題		
第2回	「メディア」の現状(事例研究1)～フジテレビはなぜネットで叩かれるのか～	予習・課題		
第3回	「メディア」の現状(事例研究1)～そもそも”ネット炎上”とは一体何なのか?～	予習・課題		
第4回	「メディア」とは何か?	予習・課題		
第5回	メディアが私たちを形作る～ケータイで私たちの何が変わったのか?～	予習・課題		
第6回	マクルーハンらの言説①～「メディアはメッセージ」とは	予習・課題		
第7回	マクルーハンらの言説②～「音声メディア」から「視覚的メディア」へ	予習・復習		
第8回	マクルーハンらの言説③～「視覚的メディア」から「電子メディア」へ～	予習・課題		
第9回	「技術決定論」と「社会構成主義」	予習・課題		
第10回	映画を歴史社会的に見てみよう	予習・課題		
第11回	ラジオを歴史社会的に見てみよう	予習・課題		
第12回	テレビを歴史社会的に見てみよう①	予習・課題		
第13回	テレビを歴史社会的に見てみよう②	予習・課題		
第14回	「メディアの現状」(事例研究2)～ネットでひとり歩きするもうひとりの自分～	予習・課題		
第15回	まとめ	復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	-			
レポート	30%(期末レポート)			
小テスト等	30%(基本的に授業中に毎回実施)			
成果発表	20%(課題提出、グループ別発表等)			
受講態度他	20% 積極的な受講態度を重視			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の最後に小テストを実施。  ディスカッション、グループ別発表等のアクティブラーニングを適宜行うため、スケジュールに若干の変更もあり得ます。  教科書は必ず入手し、持参してください。  小テストの配点が大きいことに注意してください。  事例研究は変更の可能性あり。</p>			
教科書	伊藤守 編著『よくわかる メディア・スタディーズ 第2版』ミネルヴァ書房			
指定図書	-			
参考図書	授業中に適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	ユニバーサルデザイン論		開講時期	後期
担当教員	安恒 万記		単位	2
授業の目的と概要	<p>ユニバーサルデザインは「みんなのためのデザイン」とも言われます。その根幹を成す考え方を学ぶために、本講義では、ものや住まい、街のデザイン事例を取り上げ、自らの生活実態と重ね合わせることでデザインの及ぼす影響について考察します。デザインのための基礎知識を習得するとともに、生活の中でのデザインの現状を分析し、その課題の解決に向けて自ら考え、創造する力をつけることを目指します。</p> <p>授業では、ものや住まい、まちのデザイン事例を映像等を用いて学びます。色々な視点で生活の問題を考え、その生活に影響を及ぼすさまざまなデザインについて関心を深めるために、演習も取り入れます。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ノーマライゼーションの概念を説明できる。</li> <li>2. 色々な視点で生活の問題を捉えることができる。</li> <li>3. さまざまなデザイン上の課題の解決に向けて自ら考え、創造することができる。</li> <li>4. 解決が難しい問題から目をそらさずに取り組むことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、発達臨床心理コース・社会福祉コースのDP2「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる。」、初等教育コースのDP2「初等教育に関する専門的知識や子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況についての知識を身に付けることが出来る。」、幼児保育コースのDP2「子どもを取り巻く社会・地域・家庭の状況についての知識を身に付けることが出来る。」の達成に関する科目です。</p> <p>「家族社会学」や「地域社会学」など同一DPの科目はもちろんですが、現代社会学科の「居住福祉論」とともに受講することで、幅広い知識を得ることが出来、相互の理解が深まります。</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	ユニバーサルデザインとバリアフリー		情報整理	
第2回	ノーマライゼーション		北欧に関する基礎知識	
第3回	ユニバーサルデザインの社会的背景		情報整理	
第4回	ユニバーサルデザイン事例①		ユニバーサルデザイン事例収集	
第5回	ユニバーサルデザイン事例②		ユニバーサルデザイン事例収集	
第6回	ユニバーサルデザイン事例③（演習）		プレゼンテーション準備	
第7回	特別な配慮を必要とするユーザーについて① … 年齢・性別・障がい・言語・文化など		視野を広げる	
第8回	特別な配慮を必要とするユーザーについて② … 年齢・性別・障がい・言語・文化など		視野を広げる	
第9回	ユニバーサルデザインのまちづくり①		DVDのまとめ	
第10回	デザインとユーザー		生活を見つめる	
第11回	ユニバーサルデザインのまちづくり②		まちを探索	
第12回	福岡市営地下鉄、東京ディズニーリゾート		プリント学習	
第13回	ユニバーサルデザイン提案（演習）		プレゼンテーション準備	
第14回	美しく使いやすい、が当たり前になるために（まとめと演習）		プレゼンテーション準備	
第15回	美しく使いやすい、が当たり前になるために（まとめと演習）		プレゼンテーション準備	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	85%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	5%			
受講態度他	10% 質問や発表等による授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>毎講義の冒頭に、前回の講義内容に関する質問を口頭で行いますので、毎回の講義内容を復習しておくこと。</p> <p>プリントへの書き込みのためのマーカーやペンを用意すること。</p>			
教科書	プリントを配布します			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します			
オフィスアワー	水曜日 11:00～17:00		メールアドレス	

授業科目	幼児教育研究		開講時期	後期
担当教員	薄 千里・原 陽一郎・今釜 亮・S. Kumar・原田 博子		単 位	1
授業の目的と概要	<p>コースの教育目標である「知識・技能」「専門性」「人間性」のあり方を考え、学び、資質を身に付けていくことを目的とする。</p> <p>保育者としての資質や実習生として必要な事務処理などを学ぶこと、障がい児通所施設や保育所への見学実習で施設・保育所の現状を知り保育のあり方を学んでいくこと、遊びや絵本の読み聞かせなどの保育技術を身に付けていきます。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者として目指すべき態度や資質を学び、実践することができる</li> <li>・実習時に必要な文書の書き方を学び、書く力を身に付ける</li> <li>・保育所や障がい児施設の現状を知り、保育のあり方を学ぶ</li> <li>・てあそび、読み聞かせ、わらべうたなどのあそびについて考察、理解し、実践できる力を身につける</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>本授業は、幼児保育コースDP5「幼児教育・保育に関する諸課題にアプローチする思考力・判断力、表現力、コミュニケーション能力を身に付け、客観的方法により探求し、得られた結果を研究成果としてまとめることができる」の達成に関わる科目です。この授業と「保育実習指導Ⅰ」で学ぶ内容を基盤に保育実習Ⅰに取り組んでいきます。</p>			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	保育者の心構えや実習生に必要な書類/オリエンテーション、実習生調書や腸内細菌検査などの説明	実習生調書を書く		
第2回	見学実習オリエンテーション/障がい児通所施設についての講話	障がい児についての調べ学習		
第3回	保育士講話/現場保育士の講話、実習生調書の添削	講話のレポート		
第4回	てあそびワークショップ	見学実習で実践できるてあそびを覚える		
第5回	絵本の読み聞かせ	見学実習で実践できる絵本を選ぶ		
第6回	見学実習事前指導/班別オリエンテーション、報告書についての説明	見学実習の準備		
第7回	障がい児通所施設にて見学実習	報告書の作成		
第8回	障がい児通所施設にて見学実習	報告書の作成		
第9回	保育所見学実習	報告書の作成		
第10回	保育所見学実習	報告書の作成		
第11回	見学実習事後指導/グループディスカッション	見学実習の内容を予めまとめる		
第12回	報告書やお礼状	お礼状の作成		
第13回	保育の中のアそび①/遊びの考え方・実践	遊びについて調べる		
第14回	保育の中のアそび②/わらべうた遊びについて	わらべうたの実践ができる		
第15回	まとめ/実習直前の留意点	保育実習Ⅰ（施設）に向けての準備		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	30% 感想などの課題を提出すること			
小テスト等	なし			
成果発表	10% 発表の状況を点数にします			
受講態度他	60% 授業中の私語や欠席・遅刻など、保育者にふさわしくない受講態度は減点となります			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	提出物は必ず期限までに提出するようにしてください。授業中の積極的な質問は大いに歓迎します。授業内容や担当者が前後することがあります。			
教科書	特になし			
指定図書	特になし			
参考図書	幼稚園教育要領・保育所保育指針 その他授業内で紹介します			
オフィスワーク	担当教員の他科目のシラバス参照	メールアドレス		

授業科目	幼児教育実習 I		開講時期	通年
担当教員	原 陽一郎		単 位	2
授業の目的と概要	幼稚園での実習を通して、これまで大学で習得した知識と技術を活かして、実際の保育の場面における様々な場面で、子どもの発達に応じた援助の方法を把握しながら、専門職としての幼稚園教諭という仕事への理解を深める。			
到達目標	(1) 一人ひとりの子どもに対する理解を深め、幼児の生活や遊び、発達の特徴を説明することができる。 (2) 幼稚園教諭としての職務内容を理解し、子どもの発達段階や年齢に応じた援助ができるようになる。 (3) 家族とコミュニケーションがとれるようになる。 (4) 地域との連携を含め、幼稚園の子育て支援センターとしての社会的役割について説明することができる。 (5) 幼稚園教諭としての倫理、職責を自覚する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	幼児教育実習直前ガイダンス		実習の手引き	
第2回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第3回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第4回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第5回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第6回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第7回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第8回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第9回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第10回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第11回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第12回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第13回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第14回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習（2週間）	
第15回	事後指導		各自、実習園で実習（2週間）	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50%：実習日誌、実習先に関する事前学習、実習計画書、実習報告書			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50%：実習園からの評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	定められている履修要件に留意し、「幼児教育実習指導」の受講を前提とする。			
教科書	「実習の手引き」（「幼児教育実習指導」の授業にて配布）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	木曜日2限	メールアドレス		



授業科目	幼児教育実習Ⅱ		開講時期	通年
担当教員	原 陽一郎		単 位	4
授業の目的と概要	幼稚園での実習を通して、これまで大学で習得した知識と技術を活かして、実際の保育の場面における様々な場面で、子どもの発達に応じた援助の方法を把握しながら、専門職としての幼稚園教諭という仕事への理解を深める。また、幼児と実際にかかわることを通して幼児理解を深め、幼稚園教諭としての倫理、職責について学ぶ。			
到達目標	(1) 一人ひとりの子どもに対する理解を深め、幼児の生活や遊び、発達の特徴を説明することができる。 (2) 幼稚園教諭としての職務内容を理解し、子どもの発達段階や年齢に応じた援助ができるようになる。 (3) 家族とコミュニケーションがとれるようになる。 (4) 地域との連携を含め、幼稚園の子育て支援センターとしての社会的役割について説明することができる。 (5) 幼稚園教諭としての倫理、職責を自覚する。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	幼児教育実習直前ガイダンス		実習の手引き	
第2回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習 (4週間)	
第3回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習 (4週間)	
第4回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習 (4週間)	
第5回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習 (4週間)	
第6回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習 (4週間)	
第7回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習 (4週間)	
第8回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習 (4週間)	
第9回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習 (4週間)	
第10回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習 (4週間)	
第11回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習 (4週間)	
第12回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習 (4週間)	
第13回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習 (4週間)	
第14回	幼稚園における実習		各自、実習園で実習 (4週間)	
第15回	事後指導		各自、実習園で実習 (4週間)	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50%：実習日誌、実習先に関する事前学習、実習計画書、実習報告書			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50%：実習園からの評価			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	定められている履修要件に留意し、「幼児教育実習指導」の受講を前提とする。			
教科書	「実習の手引き」（「幼児教育実習指導」の授業で配布する）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスワー	木曜日2限	メールアドレス		

授業科目	幼児教育実習指導		開講時期	前期
担当教員	薄 千里・原 陽一郎・吉川 暢子		単 位	1
授業の目的と概要	幼稚園実習を円滑に進めていくことができるようにするために、教育現場としての幼稚園、教育の対象となる幼児を理解すること、実習生として求められる知識、技術、態度を習得することを目的とする。概要としては実習前、実習中、実習後を見通して、一人ひとりが計画的に実習に取り組むことができるようになることを目指す。そのため、指導計画の立案や教材研究を通して、これまで各教科で学習した知識や技術を実習場面でいかに活用するか、実習の意義や目的とは何かについて学ぶとともに、実習に向けての具体的な手続きや書類、実習園との連絡や打ち合わせ、実習上の留意点などを学ぶ。			
到達目標	①教育実習の意義や目的、内容、ならびに方法が説明できる。 ②実習上の留意点について説明することができる。 ③幼稚園の目的や役割、幼児の幼稚園での生活を理解できる。 ④指導計画の立案や教材研究ができる。 ⑤自己の実習課題を明確にすることができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	実習オリエンテーション：実習の意義や目的、実習内容と評価について	幼稚園教育要領を読む		
第2回	幼稚園の教育内容の多様性の理解	幼稚園の歴史について復習する		
第3回	実習園の保育内容の理解	実習園の保育内容について情報収集する		
第4回	実習計画の作成（各自の課題を明確にする）	実習計画書を作成し提出する		
第5回	実習記録の意義と方法：幼児の観察と記録の取り方	ビデオを基に観察記録を作成する		
第6回	実習日誌の作成Ⅰ：実習日誌の書き方	ビデオを基に実習日誌を作成する		
第7回	教材研究Ⅰ	課題②教材研究		
第8回	教材研究Ⅱ	教材研究		
第9回	教材研究Ⅲ	教材研究		
第10回	指導案の作成	課題③指導案の作成		
第11回	指導案の作成と模擬保育Ⅰ	課題④模擬保育の準備		
第12回	指導案の作成と模擬保育Ⅱ	模擬保育の準備		
第13回	実習直前オリエンテーション	課題の設定		
第14回	実習事後指導	各自の振り返り		
第15回	実習事後指導	課題の設定		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	60％：課題の提出状況と取り組みを評価			
小テスト等	—			
成果発表	20％：模擬保育への取り組み			
受講態度他	20％：模擬保育およびディスカッションへの参加態度			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	幼児教育実習履修のための必修科目となるため、実習生としての意識を持って積極的に参加すること。 無断欠席、遅刻などについては厳しく対応する。 授業のときには、常に「実習の手引」を持参すること。			
教科書	「実習の手引き」（授業中に配布）			
指定図書	なし			
参考図書	随時紹介する			
オフィスアワー	木曜日2限	メールアドレス		

授業科目	幼児理解	開講時期	後期
担当教員	板井 修一	単位	1
授業の目的と概要	<p>幼児期の子どものさまざまな心理的問題に的確に対応するためには、幼児期の子どもの心理的特質と発達に関する基本的知識について習得することを目的とする。</p> <p>幼児期の子どもは、発達が未分化から分化の方向に向かう途上段階にある。言葉によるコミュニケーション能力が未熟であるために、遊びや行動観察をとおして、幼児理解を進めなければならないことを学習する。また、母子関係の発達の歪みによる問題も重要であり、母子関係を見る視点についても学習する。授業は講義形式で進めるが、映像資料を視聴することで理解を促す。</p>		
到達目標	<p>①子どもの発達と臨床の基盤となる理論を習得する</p> <p>②幼児理解の具体的な技法である、観察、面接の実際を理解し、身につける。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業が目的としている専攻のDPは、「③子どものよさや課題を理解し、適切に支援するための理論について概要を説明することができる」である。関連する科目は、基礎的知識として1年次科目の「生涯発達心理学Ⅰ」が関係している。また、この講義を基として実践力を高めていく科目として3年次科目の「教育相談」が位置づけられる。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	幼児理解の必要性	幼児理解の欠如や不足から起きた事件・事故について調べまとめる	
第2回	幼児理解の基盤となる発達理論と発達の法則 基本的な発達理論 発達の法則	配布資料をもとに復習	
第3回	身体発達とこころの発達 身体発達とこころの発達の関連	配布資料をもとに復習	
第4回	知性の発達 子どもは世界をどのように理解しているのか	子ども独特の世界理解(アニミズム等)を表す子どもの表現を収集する	
第5回	言葉の発達と意義 言葉以前のコミュニケーション 言葉獲得の道筋 言葉の役割	幼児期独特の言葉の問題と特徴について調べまとめる。	
第6回	子どもの人間関係 母子関係の成立 分離・独立 友達関係の広がり	自分の子ども時代のアルバムを振り返り、自分の母子関係について考える。	
第7回	幼児理解のためのアセスメント 行動観察 遊び 面接 遊戯療法	期末レポート作成のための資料収集	
第8回	さまざまな子どもの理解 さまざまな子ども(発達障がい等) 治療教育	期末レポート作成のための資料整理と執筆	
第9回	—	—	
第10回	—	—	
第11回	—	—	
第12回	—	—	
第13回	—	—	
第14回	—	—	
第15回	—	—	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	0%		
レポート	80%(期末レポート60%、小レポート20%)		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	20%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の妨害となる私語は厳しく注意する。注意1回につき、5点を減点する。</p> <p>授業外の学習課題として小レポートの提出を求めることがある(評価の対象とする)</p>		
教科書	教科書は使用しない。毎回、資料を配付する。		
指定図書	なし		
参考図書	必要に応じ、適宜紹介をする。		
オフィスアワー	水曜日の3時間目	メールアドレス	

授業科目	ライフマネジメント I		開講時期	後期
担当教員	大橋 健治・古田 龍輔・藤原 隆信		単位	2
授業の目的と概要	もっと人前で自由闊達に話せればいいのに悩んでしまう。友人と旅行に行きたいと思うが資金が足りない。彼氏から求婚されたがまだ結婚するには早いかと悩んでしまう。このように人生は問題の連続である。問題とは“あるべき状態と現状のギャップ”である。人生をより豊かなものにしていくためには、そのような問題と向き合い解決していかねばならない。解決の方法は色々あるが、本授業ではより合理的な方法として問題解決の手法を学んでいく。授業の目的を達成するためにアクティブ・ラーニングを導入する。この授業では、教員それぞれが提示するアクティブ・ラーニングの手法によって、より良い自律的学習をすることをめざす。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 問題を他人任せにせず自律的にとらえることができる。</li> <li>2. 問題を問題解決の手順にそって解決していこうとする姿勢が保てる。</li> <li>3. チームとして協力し合いながら問題解決に臨める。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	全学共通科目のDPの2。人に学び、人とのつながりの中で、人生を豊かにつくりあげる、を具現化するための科目である。「キャリアデザイン基礎」に続き本授業を受講し、「ライフマネジメントII」や「こころと身体のフィットネス」、「キャリアインテグレーション」などを引き続き受講することで、DP2の達成を支援していく。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業）	シラバスの内容の吟味と履修の意思決定		
第2回	教科書1限目：問題解決能力を身につけよう（小テスト①）	受講ノートの指示に沿った教科書1限目の事前学修・事後学修		
第3回	教科書1限目に関するケーススタディ①	ケース①の実施と振り返り		
第4回	チームビルディング演習	継続して受講予定の学生は必ずチームビルディング演習に参加すること		
第5回	教科書2限目：問題の原因を極め、打ち手を考える（小テスト②）	受講ノートの指示に沿った教科書2限目の事前学修・事後学修		
第6回	教科書2限目に関するケーススタディ②	ケース②の実施と振り返り		
第7回	教科書3限目：問題の原因を極め、打ち手を考える（小テスト③）	受講ノートの指示に沿った教科書3限目の事前学修・事後学修		
第8回	教科書3限目に関するケーススタディ③	ケース③の実施と振り返り		
第9回	インタラクティブ・レクチャー（教科書とケーススタディのまとめ）	小テスト①②③の振り返り		
第10回	問題の発見と解決演習（チーム討議→チーム代表選出）	与えられたケースから問題を発見し解決策を探る		
第11回	問題の発見と解決演習（チーム代表によるクラス発表）	チーム代表の問題解決案のブラッシュアップ（力を結集）		
第12回	問題の発見と解決演習（チーム代表によるクラス発表）	授業内の全体学修：チーム代表の発表内容の評価		
第13回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション）	成果発表の準備と振り返り		
第14回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション） 受講ノートの提出	成果発表の準備と振り返り		
第15回	授業のまとめと振り返り 受講ノートの返却	過去14回の授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 受講ノートの提出（最終ページに授業全体の振り返りを必ず記述のこと）			
小テスト等	15% 教科書1限目（5%）、2限目（5%）、3限目（5%）			
成果発表	20% オーラル・プレゼンテーション			
受講態度他	45% アクティブ・ラーニングへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的参加			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業の目的と概要で述べたように本授業はアクティブ・ラーニングで運営する。アクティブ・ラーニングの前提は学生による事前学習への誠実な取り組みである。また、授業への無遅刻・無欠席での参加も重要な要素である。やむを得ない遅刻・欠席は可能な限り事前に連絡を入れること。私語や居眠りは当然のこと、主体的・能動的に学習しようとしないうちは授業の場にいたとしても出席として認めない。なお、初回の授業で本授業専用の受講ノートの配付し受講に関するルールについて説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加すること。			
教科書	『世界一やさしい問題解決の授業』（渡辺健介、2007、ダイヤモンド社、1,200円＋税）			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	大橋・藤原→火曜日の昼休み 古田→月曜日の13:00～16:00	メールアドレス		

授業科目	ライフマネジメントⅡ	開講時期	前期
担当教員	大橋 健治・古田 龍輔・藤原 隆信	単位	2
授業の目的と概要	<p>ライフマネジメントⅠでは、問題解決の考え方と手法を学んだ。しかし、人は人生のさまざまな問題に直面して、必ずしも合理的な問題解決を行えるわけではない。ヒューリスティック（思考の短絡化）やバイアス（偏見）によって簡単に歪められてしまう。そこで、ライフマネジメントⅡでは、女性としての交渉力に焦点を当て、次のようなことを考えていくことを目的とする。</p> <p>1. 男女共同参画が必要な現代社会において、我々がいかにジェンダーバイアス（男女の役割に関する固定観念）に囚われているか。</p> <p>2. 男女の役割に関する固定観念の呪縛から逃れ、女性らしい交渉力を身につけるためにはどうすれば良いか。</p> <p>授業の目的を達成するためにアクティブ・ラーニングを導入する。この授業では、教員それぞれが提示するアクティブ・ラーニングの手法によって、より良い自律的学習をすることをめざす。</p>		
到達目標	<p>1. 女性のジェンダーバイアスを、教科書にそって第三者と議論をしながら考えることができる。</p> <p>2. 自らが理想とする交渉スタイルを、第三者に語るすることができる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>全学共通科目のDPの2. 人に学び、人とのつながりの中で、人生を豊かにつくりあげる、を具現化するための科目である。「キャリアデザイン基礎」や「ライフマネジメントⅠ」、「こころと身体のフィットネス」、「キャリアインターンシップ」などと併せて受講することで、DP2の達成を支援していく。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	授業の概要説明（授業の全体像を理解するための模擬授業）	シラバスの内容の吟味と履修の意思決定	
第2回	求めようとしないう女性たち（教科書序章）	受講ノートの指示に沿った教科書序章の事前学修・事後学修	
第3回	問題1：他人に認められるのを待っていませんか？（教科書1章）	受講ノートの指示に沿った教科書1章の事前学修・事後学修	
第4回	チームビルディング演習	継続して受講予定の学生は必ずチームビルディング演習に参加すること	
第5回	問題2：自分の価値を低くみていませんか？（教科書2章）	受講ノートの指示に沿った教科書2章の事前学修・事後学修	
第6回	問題3：人間関係を大切にすぎませんか？（教科書3章）	受講ノートの指示に沿った教科書3章の事前学修・事後学修	
第7回	問題4：制裁を恐れていませんか？（教科書4章）	受講ノートの指示に沿った教科書4章の事前学修・事後学修	
第8回	交渉不安の原因—その克服のために（教科書5章）	受講ノートの指示に沿った教科書5章の事前学修・事後学修	
第9回	交渉結果が低い理由—その克服のために（教科書6章）	受講ノートの指示に沿った教科書6章の事前学修・事後学修	
第10回	女性への厳しい制限—その克服のために（教科書7章）	受講ノートの指示に沿った教科書7章の事前学修・事後学修	
第11回	女性のように交渉する—統合的交渉のすすめ（教科書8章）	受講ノートの指示に沿った教科書8章の事前学修・事後学修	
第12回	家庭でも交渉を（教科書終章）	受講ノートの指示に沿った教科書終章の事前学修・事後学修	
第13回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション）	成果発表の準備と振り返り	
第14回	成果発表（オーラル・プレゼンテーション） 受講ノートの提出	成果発表の準備と振り返り	
第15回	授業のまとめと振り返り 受講ノートの返却	過去14回の授業を振り返り、本授業を履修した成果のまとめを作って参加する	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	30% 受講ノートの提出（最終ページに授業全体の振り返りを必ず記述のこと）		
小テスト等	なし		
成果発表	20% オーラル・プレゼンテーション		
受講態度他	50% アクティブ・ラーニングへの貢献、チーム討議・クラス討議への積極的参加		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業の目的と概要で述べたように本授業はアクティブ・ラーニングで運営する。アクティブ・ラーニングの前提は学生による事前学修への誠実な取り組みである。また、授業への無遅刻・無欠席での参加も重要な要素である。やむを得ない遅刻・欠席は可能な限り事前に連絡を入れること。私語や居眠りは当然のこと、主体的・能動的に学修しようとしないう学生は授業の場にいたとしても出席として認めない。なお、初回の授業で本授業専用の受講ノートの配付し受講に関するルールについて説明する。この授業を履修しようとする学生は必ず初回の授業に参加すること。</p>		
教科書	『そのひとことが言えたら……働く女性のための統合的交渉術』（リンダ・バブcock、サラ・ラシェーヴァー共著、2005、北大路書房、1,700円＋税）		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	大橋・藤原—火曜日の昼休み 古田—月曜日の13：00～16：00	メールアドレス	

授業科目	旅行韓国語		開講時期	後期
担当教員	李 昭知		単 位	2
授業の目的と概要	グローバル化と共に、外国語によるコミュニケーションスキルが様々な分野で求められている。このような背景の中で、隣国として観光や文化交流で関心の高まる韓国は、日本においても需要が伸びている言語である。本授業では、旅先で使う会話の定型表現やフレーズを、ショッピングセンタやレストランといった場面に基いて学習し、コミュニケーション能力を高めることを目的としている。			
到達目標	韓国語のコミュニケーションスキルの獲得や異文化理解			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	アジア地域で使用されている諸言語の一つを用いて、基礎的な会話ができる。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回 ガイダンス、自己紹介			予習、韓国旅行について調べる	
第2回 空港・機内			韓国の空港の種類や場所、特徴を調べる。航空便を調べる。	
第3回 交通			地下鉄路線図の読み方を調べる	
第4回 宿泊			ホテル、ユースホステルやホームステイについて調べる	
第5回 料理			韓国料理について調べる	
第6回 レストラン・カフェ			メニュー、値段について調べる	
第7回 市場・屋台・スーパー・コンビニ			メニュー、品物、値段について調べる	
第8回 中間試験			まとめ、復習	
第9回 買い物：衣類・化粧品			デパート、ショッピングモールなどについて調べる	
第10回 買い物：雑貨・お土産			日本で人気のある韓国のお土産について調べる	
第11回 趣味			韓国人の趣味活動について調べる	
第12回 文化体験			伝統茶、チマチョゴリなど韓国の伝統文化について調べる	
第13回 病院・トラブル			病院や薬局、警察署など緊急時利用できる施設について調べる	
第14回 観光地、旅行プラン			行きたい所、観光地について調べる	
第15回 期末試験			まとめ、復習	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	60%			
レポート	0			
小テスト等	20%			
成果発表	0			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	韓国語 I・II を履修すること			
教科書	国立国語院「世宗韓国語」国立国語院（韓国）			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中に随時紹介する			
オフィスアワー	メールにて対応	メールアドレス		

授業科目	旅行実務 I		開講時期	前期
担当教員	岩井 朝子		単 位	2
授業の目的と概要	<p>本授業は、「国内旅行業務取扱管理者」試験の試験科目の一つである「国内旅行実務」に対応した科目で、旅行業法や旅行業約款、日本各都道府県の地理的位置、気候、特産物、祭り、温泉や庭園などの観光施設について学び、簡潔にわかりやすく説明できるようにすることを目的とする。</p> <p>授業では、プリントでの説明と過去問を解きながら旅行業法や旅行業約款について学び、写真や映像を使用しながら国内地理の理解を深めると同時に、自主的な調べ学習のプレゼンテーションをすることによって、日本各地の基礎的な知識を習得していく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 日本の代表的な山脈、川、湖、気候、世界遺産、国立公園について説明することができる</li> <li>2 各都道府県の特産物、温泉、庭園、テーマパークについて説明することができる</li> <li>3 各地の陶磁器、織物、伝統工芸品、祭りについて理解を深め、比較しながら説明することができる</li> <li>4 旅行業法と旅行業約款について概要を理解することができる</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	授業についてのイントロダクション 日本の都道府県 旧国名 p63	国内旅行業務取扱管理者試験の概要説明 旧国名のついた特産品について調べる		
第2回	旅行業法の目的・旅行業の定義	ネットで旅行業法を調べ読んでみる		
第3回	北海道北部：稚内・知床・大雪山 p40-45	北海道の人気観光ルート調べる		
第4回	旅行業取扱管理者の職務	旅行業取扱管理者の具体的な仕事について調べる		
第5回	東北北部：八幡平・世界遺産平泉 平泉文化 p50-55	東北地方の4大祭りについて調べる		
第6回	旅行業務取扱料金・旅行業約款・標識	標準旅行業約款についてネットで調べる		
第7回	関東：世界遺産日光 日光周辺の温泉・観光地 p60-62	2014年に世界遺産となった富岡製糸場について調べる		
第8回	旅程管理	添乗員の仕事について調べる		
第9回	中部Ⅱ：高山・黒部峡谷・世界遺産白川郷 p70-75	日本屈指の人気観光ルートである飛騨・高山エリアについて調べる		
第10回	関西：世界遺産熊野・奈良・伊勢 p78-79	奈良・京都の世界遺産について調べる		
第11回	標準旅行業約款 総則	募集型企画旅行と受注型企画旅行の違いについて調べる		
第12回	契約の変更	契約が変更できる場合の具体例について考える		
第13回	契約の解除	旅行業者が契約解除した場合の払戻し等について調べてみる		
第14回	企画旅行契約 責任	旅行業者の損害賠償について調べる		
第15回	沖縄：首里城・石垣島・西表島 p100-104	沖縄の織物、陶器について調べる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	20% 授業内で指定した課題のレポートを提出する。			
小テスト等	50% 授業内に小テストを数回行う。			
成果発表	なし			
受講態度他	30% 建設的で積極的な授業参加態度を成績評価に加える。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業には前回の復習を行ってから参加すること。また上記以外の課題を授業内で指定することもありうる。			
教科書	『すぐに役立つ国内旅行地理ベーシック300+α』JTB総合研究所			
指定図書	なし			
参考図書	『国内旅行業務取扱管理者試験テキスト&問題集 第3版』ナツメ社			
オフィスワー	授業の前夜	メールアドレス		

授業科目	旅行実務Ⅱ	開講時期	前期
担当教員	岩井 朝子	単位	2
授業の目的と概要	<p>本授業は、「国内旅行業務取扱管理者」試験の試験科目の一つである「国内旅行実務」に対応した科目で、その中で最も出題率の高いJR6社の運賃・料金の計算を中心に学び、旅行実務を行う上で必要な基本的知識を習得することを目的とする。</p> <p>授業では、国内航空運賃、フェリー運賃、貸し切りバス運賃、ホテル・旅館の各種料金の計算を、実際の試験問題を解きながら学習し、正確に計算ができる能力を培う。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 JRの運賃と料金について違いを説明できる</li> <li>2 JRの運賃を計算できる</li> <li>3 JRの料金を計算できる</li> <li>4 国内航空券の予約、取消料、払戻し料について説明できる</li> <li>5 宿泊料金の計算ができる</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 授業についてのイントロダクション	国内旅行業務取扱管理者試験の概要説明 JRの年齢区分	雑誌や新聞などのツアー広告を集めて、記載事項をチェックする	
第2回 JRチケットの発売日と有効期限	(航空券との違いを比較)	JR時刻表を見て学んだことを確認する	
第3回 JR団体運賃と料金の計算		自分が利用している電車の運賃と料金について調べる	
第4回 JR運賃の変更・払戻し		JR時刻表に記載されている運賃変更・払戻しの項を読み確認する	
第5回 JR運賃の基礎と基本原則	p152-155	JR時刻表に記載されている基本原則を読み確認する	
第6回 JR運賃計算のしくみ	p156-161 運賃の割引 p168-171	最新の特例や割引についてネットなどで調べる	
第7回 JR料金の基本	p172-181 p190-194	料金と運賃の違いについてまとめる	
第8回 JR料金 乗継割引 1	p182-189	最新の乗継割引についてネットなどで調べる	
第9回 JR料金 乗継割引 2	運賃・料金のプリントで演習	JR時刻表に記載されている料金の基本原則を読み確認する	
第10回 JR料金・団体の総合的問題のプリントで演習		JR料金計算の例外についてまとめ、基本と比較検討する	
第11回 宿泊約款・宿泊料金の計算	p138-143 p224-228	雑誌や新聞などのツアー広告から宿泊料金設定について考える	
第12回 フェリー運賃と料金の計算	主な都市・空港コード p130-137 p229-231	雑誌や新聞などのツアー広告からフェリー運賃設定について考える	
第13回 貸切バス・国内航空運賃と料金の計算	p126-129 p232-235 p238-240	ツアーを計画し、貸切バスの運賃を具体的に計算する	
第14回 国内航空運賃と料金のプリントで演習	p241-249	各航空会社の運賃・料金をネットなどで調べ、比較する	
第15回 航空会社の責任範囲・総合問題		航空会社の責任について簡潔にまとめる	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	40% 授業内で指定された課題を提出する。		
小テスト等	30% 授業内に小テストを行う。		
成果発表	なし		
受講態度他	30% 建設的で積極的な授業参加態度を成績評価に加える。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	授業には前回の復習を行ってから参加すること。また上記以外の課題を授業内で指定することもありうる。		
教科書	やさしく学ぶ 国内旅行業務取扱管理者 合格テキスト&練習問題 トラベル&コンダクターカレッジ編 I SBN 978-4-274-21040-2		
指定図書	なし		
参考図書	JR時刻表		
オフィスワーク	授業の前後	メールアドレス	



授業科目	リスクマネジメント	開講時期	前期
担当教員	守田 弘美	単 位	2
授業の目的と概要	本講義では、リスクマネジメントのプロセスおよびリスクの処理技術（保険）について学び、その重要性を理解し、適切な対応ができるようになることを目的とします。具体的には、リスクマネジメントの処理技術として最も利用しやすく、普及している保険（生命保険、損害保険、第3分野保険）を中心に基礎的な知識を身につけ、個人および企業におけるリスクの評価、対応ができるようになることを目指します。		
到達目標	①リスクマネジメントのプロセスとその処理技術の分類について説明することができる。 ②生命保険、損害保険、第3分野保険の各保険商品の特徴、違いを説明することができる。 ③保険証券から保障内容を読み取り、契約者にとって適切な内容となっているかを判断することができる。 ④本やインターネットなどから情報を収集し、リスクへの対応、解決策を自ら調べることができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主にビジネス社会コースDP2「ビジネス組織の目標を達成していくための、効果的なマネジメントのあり方を説明することができる。」の達成に関わる科目です。 企業に所属する場合だけでなく、自営や起業する場合、また個人の生活においてもリスクの把握や対策に役立ちます。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	イントロダクション：授業全体の概要説明、リスクマネジメントとは何か？	予習不要。リスクマネジメントのプロセスについて復習すること。	
第2回	生命、医療に関する保険の概要、公的保障（社会保障）と私的保障の違い	予習として公的保障にはどのようなものがあるか調べておくこと。	
第3回	生命保険（死亡保険）	指定する課題について各自調べること。（宿題）	
第4回	生命保険（生存保険、生死混合保険）	死亡、生存、生死混合の各保険について復習すること。	
第5回	生命保険（特約）、第3分野保険	指定する課題について各自調べること。（宿題）	
第6回	必要保障額の考え方	必要保障額の計算ができるように復習すること。	
第7回	保険証券の読み取り方	様々な保険証券の読み取りができるように復習すること。	
第8回	損害保険（火災保険）	授業の復習をすること。	
第9回	損害保険（自動車保険）	指定する課題について各自調べること。（宿題）	
第10回	損害保険（傷害保険）	授業の復習をすること。	
第11回	損害保険（賠償保険）	授業の復習をすること。	
第12回	企業リスクマネジメント（人的損失のリスク）	指定する課題を実施すること。（宿題）	
第13回	企業リスクマネジメント（財産損失と収入減少のリスク）	指定する課題を実施すること。（宿題）	
第14回	企業リスクマネジメント（賠償責任のリスク）	指定する課題を実施すること。（宿題）	
第15回	まとめ	なし	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	40％ リスクマネジメントのプロセスや証券読み取り、各種保険について出題。60分間で行われる試験の点数（100点満点）		
レポート	0％		
小テスト等	0％		
成果発表	30％ 課題（宿題）についてや、その他適宜授業内で取り上げるテーマについて個人やグループで口頭発表		
受講態度他	30％ 授業内でのディスカッションやグループワークの参加度や貢献度を含む。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	使用する・しないにかかわらず、毎回電卓を持参してください。 欠席、遅刻は可能な限り理由とともに事前連絡すること。事前連絡できない場合は次回出席時に理由とともに報告してください。 。やむを得ない事情の欠席以外は成績評価に影響します。		
教科書	初回授業の際に購入方法について説明します。初回は教科書は不要です。 公益財団法人生命保険文化センター『ほけんのキホン』公益財団法人生命保険文化センター/テキスト以外に適宜プリントを配布		
指定図書	なし		
参考図書	授業内で指示する		
オフィスワー	授業の前後	メールアドレス	

授業科目	理論社会学	開講時期	前期
担当教員	花野 裕康	単 位	2
授業の目的と概要	社会学は現実の社会現象を材料に研究を進める学問だが、それら個々の社会現象を説明するための骨組みが「理論」である。個々の具体的な社会現象に共通の骨組みであるから幾分抽象的な面持ちだが、飽くまで現実の社会現象をよりよく説明するために存在することを忘れてはならない。この授業では、具体的な社会現象への説明能力を増大させるものとしての「理論」という位置付けで、社会学の諸理論を学ぶ。そのことで、受講者はそれら理論を用いて、目の前にある社会現象をよりよく説明できるようになることを目的とする。「理論の現実に対する力」を思い知るための授業であるから、常に現実の社会現象を念頭に授業するし、受講者もその心算で受講することとなる。授業内では議論を投げかけるが、「分かりません」は厳禁である。唸りながらでも考えることが要求される。なお他授業で既習の題材が登場しても、本授業は新たに理論的視点から扱うので同じ内容にはならない。		
到達目標	①社会学における理論の「立ち位置」と現状とを簡潔に述べることができる。 ②有力な社会学理論を挙げて、その概略を述べるができる。 ③社会学理論を実際の社会現象を用いて説明し、さらにそのことで社会学理論の説明能力を示すことができる。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、現代社会学部の学部DP2である「現代社会を理解するために、社会学の基礎的な知識と技能を身につけている」の達成に関わる科目です。達成目標の達成によって、社会を理論的視角から基礎観察することができるようになり、その事がすなわち本DP2における「基礎的な知識と技能」の獲得となります。現代社会学概論I, IIや社会学入門、社会学史に続いて、(現代)社会学の理論的な枠組みを提供するための最重要科目です。本科目を受講することで、各論としての「〇〇社会学(〇〇には産業、家族等の語句が入る)」や「〇〇社会論(同様)」等の開講科目への理解もスムーズに行きます。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回 実証主義と社会進化論		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第2回 マルクスの包括的社会理論		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第3回 デュルケームの社会学主義		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第4回 構造機能主義		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第5回 社会システム論		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第6回 ウェーバーの社会理論		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第7回 シンボリック相互作用論		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第8回 エスノメソドロジー		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第9回 社会構造とその「担い手」		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第10回 構造化理論		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第11回 統合理論と紛争理論		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第12回 フェミニズム		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第13回 ポストコロニアル・ポスト構造主義の理論		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第14回 グローバリゼーションとリスクの社会理論		授業中に出した「問題」を自宅で考え解答し次週提出	
第15回 社会理論の総括と展望		「総括の小論」を作成し提出	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	なし		
小テスト等	100%(毎回の授業にて実施するものと、授業後に自宅で解答してもらうものがある。その積み重ねで評価する)		
成果発表	なし		
受講態度他	欠席や授業に積極的に参加しない等、受講態度が芳しくない受講者に関しては、小テストを受け取らない。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	休まずに出席すること(病欠や忌引きであってもその回の小テストが受けられない事には変わりはないので要注意)。これまでの自らの経験と知識を総動員しながら考えつつ受講すること。講義者(花野)とのやり取りに積極的に参加すること。授業中に無関係な他の事をしないこと。特に(許可された場合以外での)スマホ操作、居眠り、他の受講者に迷惑がかかる行為は厳禁とする。見つけ次第退出もしくはこれに代わる措置を取る。その代わり授業中に5分休憩を取る。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	授業の前後(長引く場合はその際に面会日時を打ち合わせしましょう)	メールアドレス	

授業科目	臨床心理学各論		開講時期	後期
担当教員	岡村 尚昌		単位	2
授業の目的と概要	臨床心理学各論においては、臨床心理学の基礎編に引き続き、臨床心理学の実際について、様々な理論、技法について学ぶことを目的とする。 臨床心理学の実践活動について、具体的な技法について講義するものである。			
到達目標	1・臨床心理学の介入の様々な理論について理解し、説明することができる。 2・臨床心理学の実際的な技法について理解し、説明することができる。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	臨床心理学概論、カウンセリング概論、心理アセスメントⅡとの関連性が高い。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション、臨床心理学とは？	予習・復習		
第2回	臨床心理学の基礎知識	予習・復習		
第3回	心に表れるさまざまな症状①	予習・復習		
第4回	心に表れるさまざまな症状②	予習・復習		
第5回	インテーク面接とその目的	予習・復習		
第6回	心理アセスメント	予習・復習		
第7回	ラポールの形成について	予習・復習		
第8回	三大療法（精神分析療法、行動療法・来談者中心療法）とその特徴	予習・復習		
第9回	さまざまな心理療法と技法①	予習・復習		
第10回	さまざまな心理療法と技法②	予習・復習		
第11回	問題への介入について	予習・復習		
第12回	コミュニティへの介入	予習・復習		
第13回	カウンセリングの実際－ケースから学ぶ－	予習・復習		
第14回	危機への心理支援学について	予習・復習		
第15回	総括	復習		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	80％ 習ったことの復習として定期試験をします。			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20%授業内容にどのくらいコミットメントしているかも評価する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義をよく聴き、積極的に討論に参加してください。			
教科書	松原達哉 編著 『臨床心理学のすべてがわかる本』 ナツメ社			
指定図書	なし			
参考図書	下山 晴彦編『よくわかる臨床心理学 改訂版』ミネルヴァ書房			
オフィスワー	基本的には、講義の前後にご相談ください。	メールアドレス		

授業科目	臨床心理学概論	開講時期	前期
担当教員	板井 修一	単位	2
授業の目的と概要	この授業は、人間科学部でこれから学ぶ、人間理解と人間支援に関わるさまざまな科目の基礎となる臨床心理学を学びます(基礎科目)。人の心の働きと支援のための方法について、重要な視点や知識を臨床心理学という学問を通して学ぶ授業です。臨床心理学の基本的な概念や理論について理解し、説明できるようになることを目的とします。臨床心理学は、生きた人間の心に直接触れ、アプローチしながら形作られてきた学問領域です。そのために、臨床心理学は、他の学問領域とは異なり、独自の人間理解の視点や発想が生み出されて来ました。授業を通して、他の学問領域とは違う臨床心理学の独自性が理解でき、その視点を身につけることを目的とします。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学独自の人間理解の視点について説明できるようになる。</li> <li>2. 臨床心理学の成り立ちについて説明することができるようになる。</li> <li>3. 人間理解の方法としての心理アセスメントの意義について説明することができるようになる。</li> <li>4. さまざまなこころの病について、その原因や具体的な症状について説明することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、発達臨床心理コースのDP②「人間が人生を送るなかで出会う心理・社会的諸問題や諸課題について説明することができる」ようになることをめざすものである。 この授業と関連する科目としては、「カウンセリング概論」や「教育相談」が3年次配当科目として用意されています。併せて受講すると、相互に理解が深まるものと期待されます。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	臨床心理学とは何か1：臨床心理学の理念・全体構造 臨床心理学の独自性、問題を抱えつつ生きることの援助	「医学モデル」と「成熟モデル」の違いについて整理する	
第2回	臨床心理学とは何か2：臨床心理学の実践と研究 他職種とのコラボレーションの重要性、実践活動の有効性を裏付ける科学的研究の意義	「コラボレーション」の意味と意義について整理する	
第3回	臨床心理学とは何か3：臨床心理学の歴史 精神分析学、行動療法、カウンセリング	授業内容と関連した配付資料を読む	
第4回	アセスメント1：アセスメントとは何か 診断とアセスメントの違い、アセスメントの手続き	授業内容と関連した配布資料を読む	
第5回	アセスメント2：検査法(質問紙法、投影法、知能検査、神経学的検査) 質問紙法によるパーソナリティアセスメントの体験的理解	授業で体験した心理テスト結果を分析・解釈し報告書作成	
第6回	アセスメント3：観察法・行動分析・生態学的アプローチ・初回面接 観察法によるアセスメントの体験的理解	課題(行動観察)についての報告書の作成	
第7回	異常心理学1：異常心理学とは何か・精神症状の分類 正常と異常の多元性、心理的機能障害としての各種精神症状	正常と異常の判断基準について復習する	
第8回	異常心理学2：統合失調症 統合失調症の臨床症状、類型、心理的援助	授業中に指示したウェブサイトから関連ページを視聴	
第9回	異常心理学3：気分障害・不安障害 うつ病の臨床症状、気分障害の治療と心理援助のポイント	授業中に指示したウェブサイトから関連ページを視聴	
第10回	異常心理学4：身体表現性障害と解離性障害 身体表現性障害と解離性障害の臨床症状、類型、心理的援助のポイント	授業中に指示したウェブサイトから関連ページを視聴	
第11回	異常心理学5：性同一性障害・摂食障害・人格障害 臨床症状と援助のポイント	授業中に指示したウェブサイトから関連ページを視聴	
第12回	発達臨床心理学1：乳幼児期の心理的問題 乳幼児期の発達課題、知的障害、自閉症、学習障害、注意欠陥/多動性障害、虐待	授業中に指示したウェブサイトから関連ページを視聴	
第13回	発達臨床心理学2：児童期・思春期・青年期の心理的問題 児童期・青年期の発達課題、不登校、いじめ、アイデンティティ獲得をめぐるさまざま	授業中に指示したウェブサイトから関連ページを視聴	
第14回	発達臨床心理学3：中年期・老年期の心理的問題 中年期・老年期の発達課題、中年期の心理的問題、老年期の心理的問題	授業中に指示したウェブサイトから関連ページを視聴	
第15回	総括	総括で話した授業内容のポイントについて復習をする	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	60% 定期試験(60点満点)		
レポート	40% 4回の小レポート [(期日内提出5点+内容5点)×4回=40点]		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	授業の進行を妨げるような私語については、厳しく注意を与える。1回の注意につき、5点の減点とする。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	学習内容が多いので、講義内容をしっかり聞いて下さい。配布されるプリントに書き込んだり、ノートをきちんとまとめることも大切です。漫然と講義を聞くのではなく、自己の体験や観察と照らし合わせながら受講してください。		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	河合隼雄著『カウンセリングの実際問題』誠信書房 河合隼雄著『心理療法序説』岩波書店		
オフィスアワー	水曜日の3時間目	メールアドレス	

授業科目	臨床心理学基礎実習		開講時期	前期
担当教員	酒井 均・洪田 登美子・森田 理香		単 位	1
授業の目的と概要	<p>1. 集団性精神療法のひとつである心理劇での役割体験を通し、自発性の向上や自己洞察を深める。</p> <p>2. 表現療法を体験し、自己理解と他者理解を深める。</p> <p>3. SSTやハンディキャップオリエンテーションを通して、社会性の技法や障害に対する洞察を深める。</p> <p>受講生を3つのグループに分け、それぞれのグループごとに一人ずつ教員がテーマをもって実習に当たる。3人の教員がローテーションしていく。テーマは心理劇、箱庭、SSTなどである。</p>			
到達目標	<p>1. 対人援助に役立つ基本的な技法を身につける。</p> <p>2. 自己洞察を深め、お互いに意見を交換できる。</p> <p>3. 社会性を育てる技法の習得と障害に対する洞察ができる。</p>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>この授業は人間関係専攻発達臨床心理コースのDP5「援助や支援の基礎的な技術を身につけ、活用することができる」に関するものです。</p> <p>本授業を受講するにあたって、「臨床心理学概論」および「臨床心理学各論」を事前に受講し、臨床心理学に関する基本的な知識を身に付けておくことが望ましいです。また、「臨床心理実習」では心理臨床の実際についての認識を深めることができます。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	心理劇とは	役割を通しての自己理解・他者理解	配布資料の通読	
第2回	心理劇体験	マジックショップ	体験についてのレポート作成	
第3回	心理劇体験	トレジャーズメッセージ	体験についてのレポート作成	
第4回	心理劇体験	子どもの頃の思い出	体験についてのレポート作成	
第5回	心理劇体験	季節の行事	5回の体験を通して、まとめのレポート作成	
第6回	箱庭玩具による自己紹介		レポート作成	
第7回	スキュグル		レポート作成	
第8回	グループによる箱庭制作		レポート作成	
第9回	コラージュ制作①		レポート作成	
第10回	コラージュ制作②		レポート作成	
第11回	ゲームによる自己発見・他者理解		レポート作成	
第12回	ハンディキャップオリエンテーション①	感覚障害を中心に	レポート作成	
第13回	ハンディキャップオリエンテーション②	発達障害を中心に	レポート作成	
第14回	SST①	SSTとは、幼児SST	レポート作成	
第15回	SST②	小学校SST, 中学校SST, 高等学校SST	レポート作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	40% 各教員による			
小テスト等	-			
成果発表	20% 各教員による			
受講態度他	40% 各教員による			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回の出席は必修、遅刻も厳禁			
教科書	各教員による			
指定図書	各教員による			
参考図書	各教員による			
オフィスアワー	酒井：火曜日12：30-13：00、洪田：月曜日4限、森田：火曜日10：00-12：00	メールアドレス		

授業科目	臨床心理学特講		開講時期	後期
担当教員	福田 恭介		単 位	2
授業の目的と概要	臨床心理学で使われる心理療法、とくに認知行動療法について、ペアレントトレーニング（ペアトレ）を通して学習する。 ペアトレは、子どもの気になる行動について、子どもをトレーニングするのではなく、親（保護者）をトレーニングすることを通して、子どもの気になる行動を変えていこうとする試みである。親（保護者）には子どもの行動の記録だけでなく、親（保護者）の行動の記録も求める。これを通して、親の子育てに関する考え方（認知）を変え、子育て行動（行動）を変え、その結果、子どもの行動が変わり、その結果、親は子育てに自信を回復していく。子どもは、不適切な行動をしたときには親は相手になってくれないけれども、適切な行動をしたときに親が注目してくれる、かかわってくれることを学び、適切な行動を増やすことを学んでいく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業を聞いて、疑問点やコメントを記述できる。</li> <li>2. ペアレントトレーニングや発達障害に関する本の内容を要約し、コメントを記述できる。</li> <li>3. 伝えたいことを整理して口頭発表できる</li> <li>4. 他人の発表に対してコメントを述べるができる。？</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	援助や支援の基礎的な技術を身につけ、活用することができる。 関連する科目 ・心理アセスメントⅠ・Ⅱ ・知的障がい・発達援助の技法			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第1回	心理学と臨床心理学	筑女ネットから資料を前もってコピーし、熟読しておく。		
第2回	臨床心理学における行動療法と認知行動療法	筑女ネットから資料を前もってコピーし、熟読しておく。		
第3回	発達障害を持つ子どもたち（自閉症）	筑女ネットから資料を前もってコピーし、熟読しておく。		
第4回	発達障害を持つ子どもたち（ADHD）	筑女ネットから資料を前もってコピーし、熟読しておく。		
第5回	発達障害を子どもたち（LD）	筑女ネットから資料を前もってコピーし、熟読しておく。		
第6回	認知行動療法とペアレントトレーニング	筑女ネットから資料を前もってコピーし、熟読しておく。		
第7回	ペアレントトレーニングの概要	筑女ネットから資料を前もってコピーし、熟読しておく。		
第8回	ペアレントトレーニングの事例発表1	教科書の指定された章をプレゼンテーションができるように準備しておく。		
第9回	ペアレントトレーニングの事例発表2	教科書の指定された章をプレゼンテーションができるように準備しておく。		
第10回	ペアレントトレーニングの事例発表3	教科書の指定された章をプレゼンテーションができるように準備しておく。		
第11回	ペアレントトレーニングにおける観察と記録の仕方	筑女ネットから資料を前もってコピーし、熟読しておく。		
第12回	子どもの望ましい行動を増やすには	筑女ネットから資料を前もってコピーし、熟読しておく。		
第13回	できないときの手助けの仕方と環境の整え方	筑女ネットから資料を前もってコピーし、熟読しておく。		
第14回	子どもの困った行動を減らすには	筑女ネットから資料を前もってコピーし、熟読しておく。		
第15回	これまでのペアレントトレーニング事例の紹介	筑女ネットから資料を前もってコピーし、熟読しておく。		
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	20%			
小テスト等	%			
成果発表	20%			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	毎回の授業に対して(1)認識を新たにしたこと、(2)疑問点をコメント用紙に記入してもらおう。この内容を評価する事例発表の場合は、グループで話し合っって役割分担しながら発表する。事例発表を聴く場合は、質問やコメントを述べる。			
教科書	「ペアレントトレーニング実践ガイドブックーきょうまくいく。子どもの発達支援」 福田恭介（編著） あいり出版			
指定図書	授業中に紹介			
参考図書	授業中に紹介			
オフィスワーク	授業中に書かれたコメントに次の時間に返事する。または、授業の前後。	メールアドレス		

授業科目	臨床心理学特論	開講時期	前期
担当教員	浦田 英範	単位	2
授業の目的と概要	臨床心理学の基本的な考え方を理解する。それらの理解に伴い、どうケースフォーミュレーションを行い、心理支援を行うかを学ぶ。 教科書、「おもしろいほどわかる臨床心理学」を中心に講義を行い、事例研究を通して、アセスメントの方法や見立て、そして、支援方法を学ぶ。		
到達目標	1, ケースフォーミュレーションの考え方を理解し、臨床心理学的支援方法を立てる。 2, 実際の支援方法を理解する。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	オリエンテーション・臨床心理学とは何か。	予習	
第2回	臨床心理学の基本理論	予習・復習	
第3回	アセスメントとは何か。	予習・復習	
第4回	アセスメントの基礎理論	予習・復習	
第5回	生涯発達としてのアセスメント	予習・復習	
第6回	発達過程で生じる障害や問題	予習・復習	
第7回	問題に介入するための基礎理論	予習・復習	
第8回	問題に介入するための理論モデル	予習・復習	
第9回	問題加入のための理論モデル（クライアント中心療法）	予習・復習	
第10回	問題加入のための理論モデル（精神分析療法）	予習・復習	
第11回	問題加入のための理論モデル（行動療法）	予習・復習	
第12回	事例を通して介入技法を考える。	予習・復習	
第13回	医療領域の事例研究を通して介入技法を考える。	予習・復習	
第14回	教育領域の事例研究を通して介入技法を考える。	予習・復習	
第15回	総括	復習	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	80%レポートについては講義中に指示する。		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20% 討議においては積極的に参加すること。自分の考えをわかりやすく説明できるようにすること。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	講義をよく聴き、ノートにきちんとまとめる能力を身につけること。		
教科書	下山晴彦編『面白いほどわかる臨床心理学』東西社（2012）		
指定図書	なし		
参考図書	下山晴彦編『よくわかる臨床心理学』ミネルヴァ書房（2009）		
オフィスアワー	講義の前後でご相談下さい。	メールアドレス	

授業科目	臨床心理実習	開講時期	前期
担当教員	酒井 均・森田 理香・宇治 和貴	単位	1
授業の目的と概要	<p>心理職が働くさまざまな現場を見学し、場合によっては実際にその業務に参加し、心理職の役割と現場の状況を理解し、自分の将来的な展望を持つことができる。</p> <p>さまざまな心理職がはたらく現場（児童相談所、保健所、病院、児童施設、療育施設など）を見学したり、心理職にインタビューしたりする。場合によってはその業務の一部に参加をする。その後、それらをレポートにまとめ発表する。</p>		
到達目標	<p>心理職の役割と現場の状況を説明できる。 将来的な展望をきちんと説明できる。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション		見学先調査	
第2回 見学		報告書まとめ	
第3回 見学		報告書まとめ	
第4回 見学		報告書まとめ	
第5回 見学		報告書まとめ	
第6回 見学		報告書まとめ	
第7回 見学		報告書まとめ	
第8回 中間報告会		見学先調査	
第9回 見学		報告書まとめ	
第10回 見学		報告書まとめ	
第11回 見学		報告書まとめ	
第12回 見学		報告書まとめ	
第13回 見学		報告書まとめ	
第14回 見学		報告書まとめ	
第15回 最終報告会		最終レポート	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	70％		
小テスト等	なし		
成果発表	20％		
受講態度他	10％		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>この授業は将来心理専門職に就職するという固い意志のある学生のために開講しています。興味本位では受講できません。また、見学が中心のため時間外の授業がほとんどになります。しかも、見学先の状況によっては、いつ見学になるかもわかりません。このため筑女ネット、掲示等のチェックは怠らないように注意してください。</p>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワーク	担当教員の他科目のシラバス参照	メールアドレス	



授業科目	倫理学	開講時期	前期
担当教員	浅田 淳一	単 位	2
授業の目的と概要	<p>昨今、漠然とした仕方で「モラルの低下」などが声高に叫ばれているが、そもそもモラルは何なのだろうか。本講義では、こうした素朴な疑問から出発して、自分自身が納得して受け入れることができる「我々の時代の我々のモラル」とはどのようなものかを探求していく。その結果「私は少なくとも私の考える限りでは、正しく善く生きて行ける」と確信が持てることに一歩でも近づけることを目指す。</p> <p>「自由に生きて何故悪い」と主張する若者たちの見解を倫理的に考察し、倫理学の有効性・必要性を考える。その上で、改めて各人の幸福観にもとづいて、望ましい社会について展望する。さらに現代において支配的な「功利主義」の立場を批判的に検討するなかで、「我々の時代の我々のモラル」の可能性について考察を深めていく。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理学が提示するモラルの一般的定義を正しく説明することができる。</li> <li>2. 自由主義のモラルの要点を正しく説明することができる。</li> <li>3. 普遍化可能性原理（カントの定言命法）の要点を正しく説明することができる。</li> <li>4. 幸福についての様々な立場を、正しく説明することができる。</li> <li>5. 出生前診断、脳死体からの臓器移植、などの具体的問題に対する自分の見解を明示することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に文学部と人間科学部の共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。</p> <p>関連する科目は、「哲学」「人間学」「仏教学Ⅰ・Ⅱ」「生命倫理」「マイノリティを生きる」です。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1 回	モラルとは： 法律とモラルの一致点・不一致点	課題（若者の直面する倫理的課題について自分なりに考えてみる）	
第 2 回	若者の主張の検討：Ⅰ モラルの全面的否定は可能か？	課題（それぞれの立場に自分の身を置いてリアルに考えてみる）	
第 3 回	若者の主張の検討：Ⅱ 自然主義的誤謬について	課題（自分が犯している自然主義的誤謬について反省してみる）	
第 4 回	自由主義的モラル：J. S. ミルの自由論	課題（大人と子どもの区別について自分なりに考えてみる）	
第 5 回	普遍化可能性原理：カントの定言命法（モラルのただ乗り）	課題（モラルのただ乗りについて、自ら反省してみる）	
第 6 回	個人の幸福観について：問い「幸福の薬を飲みますか？」	課題（自分自身の幸福とは何か？各自で考えてみる）	
第 7 回	様々な幸福観：禁欲主義、快楽主義、力の発揮など	課題（講義で紹介された様々な幸福観を自分に照らして検討してみる）	
第 8 回	功利主義：欲望の追求と秩序の維持を可能にした理論	課題（功利主義を実際に適用した場合の利点について考えてみる）	
第 9 回	功利主義の問題点：人権の侵害、少数派の問題など	課題（功利主義の問題点について、各自で検討してみる）	
第10回	極端な功利主義の例：John Harris : Survival Lottery	課題（ハリスのサバイバル・ロタリーへの反論を各自で試してみる）	
第11回	「所有物」と「授かりもの」の対比：功利主義の克服	課題（自分の命の特殊性について、各自反省してみる）	
第12回	生命倫理の諸問題： 出生前診断、臓器移植など	課題（自分が妊娠出産する際に直面する問題について想像してみる）	
第13回	欲望の爆発の必然性：神の死、自由主義、資本主義	課題（何故欲望は爆発するのか？その理由について考えてみる）	
第14回	欲望の爆発を回避する可能性：地域通貨、一般意志など	課題（欲望の爆発を回避する可能性について自分なりに考えてみる）	
第15回	死の恐怖と生への驚き：生の完成としての死	課題（「いのち」について、自らを振り返って考えてみる）	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	100%ただし、例外あり、ルールに関わる情報を見よ。		
レポート	0%		
小テスト等	0%各講義の最後に簡単な問題に答えてもらうが、特に成績には反映させない		
成果発表	0%		
受講態度他	0%目に余る場合には、退出を要求し出席を取り消す場合がある。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業中の私語は厳禁。講義開始後30分以上遅刻した場合には入室は認めるが、出席としては認めない(欠席扱い)。テストの成績が合否のボーダーライン上にある場合には、受講態度を考慮する場合がある。</p>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	『幸福の薬を飲みますか』（ナカニシヤ出版）		
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み	メールアドレス	

授業科目	倫理学	開講時期	後期
担当教員	浅田 淳一	単 位	2
授業の目的と概要	<p>昨今、漠然とした仕方で「モラルの低下」などが声高に叫ばれているが、そもそもモラルは何なのだろうか。本講義では、こうした素朴な疑問から出発して、自分自身が納得して受け入れることができる「我々の時代の我々のモラル」とはどのようなものかを探求していく。その結果「私は少なくとも私の考える限りでは、正しく善く生きて行ける」と確信が持てることに一歩でも近づけることを目指す。</p> <p>「自由に生きて何故悪い」と主張する若者たちの見解を倫理的に考察し、倫理学の有効性・必要性を考える。その上で、改めて各人の幸福観にもとづいて、望ましい社会について展望する。さらに現代において支配的な「功利主義」の立場を批判的に検討するなかで、「我々の時代の我々のモラル」の可能性について考察を深めていく。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 倫理学が提示するモラルの一般的定義を正しく説明することができる。</li> <li>2. 自由主義のモラルの要点を正しく説明することができる。</li> <li>3. 普遍化可能性原理（カントの定言命法）の要点を正しく説明することができる。</li> <li>4. 幸福についての様々な立場を、正しく説明することができる。</li> <li>5. 出生前診断、脳死体からの臓器移植、などの具体的問題に対する自分の見解を明示することができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に文学部と人間科学部の共通科目DP3「社会の諸問題を考え、自分の意見を人に伝えるための技術を身につける」の達成に関わる科目です。</p> <p>関連する科目は、「哲学」「人間学」「仏教学Ⅰ・Ⅱ」「生命倫理」「マイノリティを生きる」です。</p>		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第 1 回	モラルとは： 法律とモラルの一致点・不一致点	課題（若者の直面する倫理的課題について自分なりに考えてみる）	
第 2 回	若者の主張の検討：Ⅰ モラルの全面的否定は可能か？	課題（それぞれの立場に自分の身を置いてリアルに考えてみる）	
第 3 回	若者の主張の検討：Ⅱ 自然主義的誤謬について	課題（自分が犯している自然主義的誤謬について反省してみる）	
第 4 回	自由主義的モラル：J. S. ミルの自由論	課題（大人と子どもの区別について自分なりに考えてみる）	
第 5 回	普遍化可能性原理：カントの定言命法（モラルのただ乗り）	課題（モラルのただ乗りについて、自ら反省してみる）	
第 6 回	個人の幸福観について：問い「幸福の薬を飲みますか？」	課題（自分自身の幸福とは何か？各自で考えてみる）	
第 7 回	様々な幸福観：禁欲主義、快楽主義、力の発揮など	課題（講義で紹介された様々な幸福観を自分に照らして検討してみる）	
第 8 回	功利主義：欲望の追求と秩序の維持を可能にした理論	課題（功利主義を実際に適用した場合の利点について考えてみる）	
第 9 回	功利主義の問題点：人権の侵害、少数派の問題など	課題（功利主義の問題点について、各自で検討してみる）	
第10回	極端な功利主義の例：John Harris : Survival Lottery	課題（ハリスのサバイバル・ロタリーへの反論を各自で試してみる）	
第11回	「所有物」と「授かりもの」の対比：功利主義の克服	課題（自分の命の特殊性について、各自反省してみる）	
第12回	生命倫理の諸問題： 出生前診断、臓器移植など	課題（自分が妊娠出産する際に直面する問題について想像してみる）	
第13回	欲望の爆発の必然性：神の死、自由主義、資本主義	課題（何故欲望は爆発するのか？その理由について考えてみる）	
第14回	欲望の爆発を回避する可能性：地域通貨、一般意志など	課題（欲望の爆発を回避する可能性について自分なりに考えてみる）	
第15回	死の恐怖と生への驚き：生の完成としての死	課題（「いのち」について、自らを振り返って考えてみる）	
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など		
定期試験	100%ただし、例外あり、ルールに関わる情報を見よ。		
レポート	0%		
小テスト等	0%各講義の最後に簡単な問題に答えてもらうが、特に成績には反映させない。		
成果発表	0%		
受講態度他	目に余る場合には、退出を要求し出席を取り消す場合がある。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>授業中の私語は厳禁。講義開始後30分以上遅刻した場合には入室は認めるが、出席としては認めない(欠席扱い)。テストの成績が合否のボーダーライン上にある場合には、受講態度を考慮する場合がある。</p>		
教科書	なし		
指定図書	なし		
参考図書	『幸福の薬を飲みますか』（ナカニシヤ出版）		
オフィスアワー	火曜日を除く昼休み	メールアドレス	

授業科目	歴史考古学演習		開講時期	後期
担当教員	大津 忠彦		単位	2
授業の目的と概要	<p>目的：考古学は物を研究資料にして、そこに歴史的解釈を試みます。文献史学とやや異なるところです。それではいったい、物（研究資料）をどのように操作して行くのでしょうか、そして、どのように物へアプローチすれば、それが「考古学的」手法といえるのでしょうか。授業ではこの問題について先ずは演習発表を通して考察し、考古学における資料の集成、分類という最も基礎的方法の重要性を学びます。</p> <p>概要：「歴史考古学」研究のテーマをゼミ生各自が見出すことからはじまります。そしていくつかの考古学的研究法にしたがい、段階をおって研究成果を口頭発表します。効果的な発表のための考古資料操作法や発表資料の作成法は適宜学びます。ゼミ生は授業中、他者の発表に対して必ず何らかのコメント、あるいは質問するようにします。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自らの選択した考古資料について、考古学的解説ができる。</li> <li>・自らの選択した考古資料について、その類例を考古学的に集成・分類することができる。</li> <li>・自らの選択した考古資料に関する先行研究を紹介・解説することができる。</li> <li>・他者の発表に対して、的確な質問・コメントをすることができる。</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	考古学研究法の基礎：「資料」・「史料」、「集成」・「分類」について	課題①：研究課題探し		
第2回	研究課題の設定：資料・先行研究・参考文献の検索法	第2回までに課題①を提出		
第3回	研究課題の口頭発表－その（1）：着想の明示	課題②：発表内容の500字要約		
第4回	研究課題の口頭発表－その（2）：展開の明示	第4回までに課題②を提出		
第5回	分かり易さへの工夫：レジュメ作成法	課題③：レジュメ作成、発表内容の500字要約		
第6回	関連資料の検討（口頭発表）－その（1）：関連資料内容紹介	第9回までに課題③を提出		
第7回	関連資料の検討（口頭発表）－その（2）：関連資料の意義付け	第9回までに課題③を提出		
第8回	「参考文献」、「先行研究」の紹介（口頭発表）－その（1）：先行研究紹介	第9回までに課題③を提出		
第9回	「参考文献」、「先行研究」の紹介（口頭発表）－その（2）先行研究紹介の意義付け	第9回までに課題③を提出		
第10回	研究発表の文章化：研究課題考察の具体化と独創性への挑戦	課題④：先行研究事例（1件）の要約レポート		
第11回	研究成果発表と質疑応答－その（1）：着想と論の構成具合	第15回までに課題④を提出		
第12回	研究成果発表と質疑応答－その（2）：「先行研究VS独創性」の具合	第15回までに課題④を提出		
第13回	研究成果発表と質疑応答－その（3）：判り易さへの配慮具合	第15回までに課題④を提出		
第14回	研究成果発表と質疑応答－その（4）：「結論」、「まとめ」の具合	第15回までに課題④を提出		
第15回	「歴史考古学演習」総括	第15回までに課題④を提出		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	50% ①定期試験レポート内容を秀・優・良・可・不可で判定。			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	50% ②受講態度（含、発表成果や提出課題成果）を秀・優・良・可・不可で判定。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・上記「成績評価に関する情報」欄の、①と②の判定組合せが「秀&amp;秀」・「秀&amp;優」を秀、「秀&amp;良」・「優&amp;優」を優、「秀&amp;可」・「優&amp;良」・「優&amp;可」・「良&amp;良」を良、「良&amp;可」・「可&amp;可」を可と成績評価する（これら以外、すなわち不可が含まれる組合せになるものの成績評価は不可）。・「学生便覧」記載の注意点を再度確認し、遵守すること。受講態度の良否は成績評価に大きく影響します。講義の進行に集中し自分が必須と判断する事項を講義内容から要約して記録にとる（ノートを作成する）力を養成するよう意識して受講すること。ノートは課題レポート作成時に必要となります。</p>			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	授業進行にあわせ適宜紹介します。			
オフィスアワー	水曜日の5時間目	メールアドレス		

授業科目	ロジスティクス	開講時期	後期
担当教員	方 慧美	単 位	2
授業の目的と概要	ロジスティクスとは市場の動きに合わせて生産や仕入れ活動を行なうマネジメントのことである。顧客のニーズにあわせて、必要な商品や物資を、適切な時間に、適切な場所に、適切な品質と量を、できるだけ少ない費用で供給しようとする。社会構造の変化によるモノ・情報・商取引の流れの変化は、ロジスティクス活動にも大きな影響を与えている。本講義では、まずロジスティクスの概念と考え方を説明した後、ロジスティクスの取り巻く環境の変化によって、ロジスティクス活動がどのように変化してきたかを解説していく。		
到達目標	①ロジスティクスに関する基礎知識を身につけること。 ②ロジスティクスに関する基礎知識を身につけ、それらに関して口頭もしくは論述で簡単に説明できること。 ③ロジスティクスの考えを学ぶことの意義について理解し、関連する知識や概念の修得に積極的となること。		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、ビジネス社会コースのDP1である「現代社会を構成する機能の中で、ビジネスが果たさなければならない役割を説明することができる」の達成に関わる科目である。ロジスティクスの考えを理解するためには「マーケティング概論」で学ぶ流通論が基本となっており、続けて履修すると効果的である。		
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	ガイダンス、物流の基本を学ぼう	復習をして下さい。	
第2回	流通とは 一消費者の側からの流通と生産者の側からの流通	復習をして下さい。	
第3回	なぜ小売業に物流は重要なのか	復習をして下さい。	
第4回	物流の機能	復習をして下さい。	
第5回	物流からロジスティクスへ	復習をして下さい。	
第6回	物流を戦略として捉えよう	復習をして下さい。	
第7回	物流で顧客の利便性を高める	復習をして下さい。	
第8回	物流を効率化する	復習をして下さい。	
第9回	成長する通信販売のロジスティクス	復習をして下さい。	
第10回	Eビジネス時代のロジスティクス戦略	復習をして下さい。	
第11回	物流コストをマネジメントする	復習をして下さい。	
第12回	サプライチェーン管理	復習をして下さい。	
第13回	先進企業の取り組みに学ぶ 事例①	復習をして下さい。	
第14回	先進企業の取り組みに学ぶ 事例②	復習をして下さい。	
第15回	先進企業の取り組みに学ぶ 事例③	復習をして下さい。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	期末レポート(10%)、課題提出(10%)		
小テスト等	20% 4回		
成果発表	10% 授業の進行に合わせて適宜、個人・チームでの発表をしてもらいます。その内容で判断します。 40% レポート及びプレゼンテーション		
受講態度他	10% 授業への出席状況や受講態度などを勘案する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻・欠席・途中退席・私語は厳しく処分する。事前報告無しの場合途中退出に関しては、今後の受講は一切認めない。講義中の携帯電話の使用は一切禁止とする。使用した場合は欠席扱いにする。		
教科書	講義の内容に合わせて講義資料配布		
指定図書	講義の内容に合わせて講義資料配布		
参考図書	講義の内容に合わせて講義資料配布		
オフィスワー	授業前後に行う。その他の場合は事前にメールにて日時を調整する。	メールアドレス	

授業科目	Advanced Oral Presentation		開講時期	後期
担当教員	Alan Michaels		単位	2
授業の目的と概要	This class will be a continuation of Oral Presentation in term 1. Moving through the second half of the text book, 'Challenge Book #4,' students will continue to learn more advanced public speaking techniques and practice using them, including methods for reducing anxiety when speaking to a group. They will enjoy and continue to gain confidence speaking English to a group, to describe themselves and their ideas through the presentations and preparation for them. Content of presentation will be addressed as well. Individual and pair presentations in English will be the main activity, working towards building greater confidence and comfort on a stage.			
到達目標	<p>Learning objectives are the same as Oral Presentation with more depth and awareness of basic public speaking skills.</p> <p>Students will acquire knowledge about appropriate communication strategies, how to explain and speak more clearly, expand and simplify vocabulary for their audience. When understood and used well:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students will be more aware of their own and others power of persuasion.</li> <li>2. Students will have more confidence as English speakers.</li> <li>3. Students will increase their creativity and success as communicators.</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course introduction and summer vacation stories. My favorite teacher	予習		
第2回	Movie interview - the best movie I ever saw	予習		
第3回	Movie improvisation and charades. My home	予習		
第4回	Halloween. The relative I respect the most	予習		
第5回	The best birthday I ever had	予習		
第6回	My hobby	予習		
第7回	My favorite proverb	予習		
第8回	Why I study English	予習		
第9回	My dream	予習		
第10回	Chapter 3 review. End of year/new year customs	予習		
第11回	Proverbs and dreams	予習		
第12回	Making a sales pitch	予習		
第13回	How was Winter/Spring vacation?	予習		
第14回	Make a sales pitch	予習		
第15回	Final presentations	予習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	10%			
レポート	0%			
小テスト等	0%			
成果発表	70%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>Speak English in class. Do your homework. Bring your textbook, dictionary and writing notebook to every class. If you miss a class it is your responsibility to contact the teacher or another student for notes and lesson details. If you miss an assignment, it is your responsibility to contact the teacher for what to do about it. Use your imagination - go beyond the textbook to make interesting and dynamic presentations. Smart phone can be used in class as a dictionary and presentation visual aid only.</p>			
教科書	Helene Uchida『Challenge Book #4』 Little America			
指定図書	Nothing specially			
参考図書	Nothing specially			
オフィスアワー	After class and lunchtime on Thursdays. Before class and other times by appointment.	メールアドレス		

授業科目	Business English II		開講時期	後期
担当教員	Chris Flynn		単位	2
授業の目的と概要	<p>The object of this course is to familiarise students with English used in the business environment. This course is a continuation of Business English I.</p> <p>There will be an emphasis on computer literacy with web-based study materials and power point presentations used together with the textbook. In addition, each student will choose a company listed on an international stock market and report its fluctuation each week.</p>			
到達目標	<p>Students will be able to understand a number of business/office related situations. Emphasis will be on accurately communicating business reports and figures.</p> <p>Students who have not taken Business English I may join this class, however it is advised that new students consult with the teacher or fellow students on which company they will choose for their stock report.</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Outline of Course	コースの概要		講義の際に指示しま	
第2回 Stock report preparation			講義の際に指示しま	
第3回 Computer terminology and operation			講義の際に指示しま	
第4回 Frequently used business terms			講義の際に指示しま	
第5回 Text lesson 7: Checking in at an airport	回		Text lesson 8	
第6回 Text lesson 8: Getting through immigration and customs			Text lesson 8	
第7回 Text lesson 9: Settling into your hotel			Text lesson 9	
第8回 Stock report mid term test			講義の際に指示しま	
第9回 Business messages and passing them on to third parties			講義の際に指示しま	
第10回 Text lesson 10: Conducting a business meeting			Text lesson 10	
第11回 Text lesson 11: Making appointments with customers			Text lesson 11	
第12回 Text lesson 12: Making small talk with colleagues			Text lesson 12	
第13回 パソコンによる試験の模擬試験			講義の際に指示しま	
第14回 ビジネスメッセージの口頭模擬試験			講義の際に指示しま	
第15回 パソコンによる評価試験			講義の際に指示しま	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40%			
レポート	10%			
小テスト等	20%			
成果発表	%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Business English web site L:\flynn/			
教科書	Todd J Leonard『Business as Usual』成美堂			
指定図書	-			
参考図書	Yahoo Finance site			
オフィスワーク	Before and after the class.	メールアドレス		

授業科目	Business English I		開講時期	前期
担当教員	Chris Flynn		単位	2
授業の目的と概要	<p>The object of this course is to familiarise students with English used in the business environment</p> <p>There will be an emphasis on computer literacy with web-based study materials and power point presentations used together with the textbook. In addition, each student will choose a company listed on an international stock market and report its fluctuation each week.</p> <p>Information searching skills will also be part of classwork.</p>			
到達目標	Students will be able to understand a number of business/office related situations. Emphasis will be on accurately communicating business reports and figures.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Outline of Course	コースの概要		講義の際に指示します	
第2回 Stock report preparation			講義の際に指示します	
第3回 Computer terminology and operation			講義の際に指示します	
第4回 Frequently used business terms			講義の際に指示します	
第5回 Text lesson 1: Introducing yourself to a business colleague			Text lesson 1	
第6回 Text lesson 2: Making a self introduction at a business meeting			Text lesson 2	
第7回 Text lesson 3: Introducing business guests to colleagues			Text lesson 3	
第8回 Stock report mid term test			講義の際に指示します	
第9回 Business messages and passing them on to third parties			講義の際に指示します	
第10回 Text lesson 4: Leaving a message on answering machine			Text lesson 4	
第11回 Text lesson 5: Leaving a message by phone			Text lesson 5	
第12回 Text lesson 6: Taking a message in person			Text lesson 6	
第13回 Business message oral test			講義の際に指示します	
第14回 Revision			講義の際に指示します	
第15回 Oral Presentations			講義の際に指示します	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40%			
レポート	10%			
小テスト等	20%			
成果発表	0%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Business English Web Site L:\flynn/			
教科書	Todd J Leonard 『Business as Usual』 成美堂			
指定図書	-			
参考図書	Yahoo Finance			
オフィスワーク	Before and after the class.	メールアドレス		

授業科目	Communication Theory I	開講時期	前期
担当教員	C. B. Painter	単位	2
授業の目的と概要	Participants gain understanding of Interpersonal Communicative Competence through the presentation and discussion of basic concepts of Communication Theory. These include the characteristics of: symbol, context, as well as the dynamics of communication in interpersonal relations and interpersonal communicative competence. As a result self-realization and social responsibility can develop. This course outlines the knowledge and abilities required to achieve Communicative Competence, and in particular, Interpersonal Communicative Competence. During the lesson participants discuss and provide example situations from their own experience which clarify the characteristics under discussion.		
到達目標	Participants achieve proficiency in recognizing & describing Interpersonal Communicative Competence and component parts. Participants are prepared to exercise Interpersonal Communicative Competence in interaction. Furthermore, participants can recognize hindrances to Communicative Competence and employ methods to overcome them. Understanding the contents will encourage self-realization and therefore an increased sense of social responsibility.		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP4「英語を活かすための職業上の知識や技能の基礎を身につけている。」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	Interpersonal Communicative Competence: preliminary comparative analysis (1)	Comparison Selection	
第2回	Interpersonal Communicative Competence: preliminary comparative analysis (2)	Comparison Opinion	
第3回	Communication as a social science	Review pp. 1-6 and 119-122	
第4回	Basic concepts of communication	Review pp. 7-14 and 123-130	
第5回	Communication and symbol	Review pp. 15-21 and 131-138	
第6回	Communication and context	Review pp. 22-28 and 139-146	
第7回	Interpersonal relations and communication (1)	Review pp. 29-33 and 147-154	
第8回	Interpersonal relations and communication (2)	Review pp. 34-38 and 155-161	
第9回	Concepts of interpersonal communicative competence (1)	Review pp. 39-41 and 162-165	
第10回	Concepts of interpersonal communicative competence (2)	Review pp. 41-44 and 166-171	
第11回	Concepts of interpersonal communicative competence (3)	Review pp. 44-50 and 172-178	
第12回	Interpersonal Communicative Competence: Comparative analysis (1).	Comparison Selection	
第13回	Interpersonal Communicative Competence: Comparative analysis (2).	Comparison Opinion	
第14回	Interpersonal Communicative Competence: Comparative analysis. Evaluate.	Comparison Assessment	
第15回	Review	Revision points	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	80% Semester test		
レポート	None		
小テスト等	None		
成果発表	None		
受講態度他	20% Attendance Regulation 10 Article (2) applies (over 5 absences = unqualified). Note: Twice Late = 1 absence. 1 absence: -4%. Late: -2%. Chatting, using a mobile, doing other work = Grade level reduction.		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Each lesson is reviewed by reading the relevant part in the textbook; see details (授業計画: 授業外学修)		
教科書	Text and prints will be made available during the course.		
指定図書	None		
参考図書	A Japanese-English, English-Japanese dictionary. Also, an English-English dictionary such as: The Oxford Advanced Learners' Dictionary of English.		
オフィスアワー	Friday 14:50-15:50	メールアドレス	



授業科目	Communication Theory II		開講時期	後期
担当教員	C. B. Painter		単位	2
授業の目的と概要	Participants gain understanding of Interpersonal Communicative Competence through the presentation and discussion of basic concepts of Communication Theory. These include the characteristics of: persuasion, listening, Japanese communicative competence and cosmopolitan communicative competence, as well as the dynamics of communication in interpersonal relations and interpersonal communicative competence. As a result self-realization and social responsibility can develop. This course outlines the knowledge and abilities required to achieve Communicative Competence, and in particular, Interpersonal Communicative Competence. During the lesson participants discuss and provide example situations from their own experience which clarify the characteristics under discussion.			
到達目標	Participants achieve proficiency in recognizing & describing Interpersonal Communicative Competence and component parts. Participants are prepared to exercise Interpersonal Communicative Competence in interaction. Furthermore, participants can recognize hindrances to Communicative Competence and employ methods to overcome them. Understanding the contents will encourage self-realization and therefore an increased sense of social responsibility.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP4「英語を活かすための職業上の知識や技能の基礎を身につけている。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Interpersonal Communicative Competence: preliminary comparative analysis (1)	Comparison Selection		
第2回	Interpersonal Communicative Competence: preliminary comparative analysis (2)	Comparison Opinion		
第3回	Communicative competence of persuasion (1)	Review pp. 51-54 and 179-182		
第4回	Communicative competence of persuasion (2)	Review pp. 54-59 and 183-187		
第5回	Communicative competence of listening (1)	Review pp. 60-64 and 188-193		
第6回	Communicative competence of listening (2)	Review pp. 65-70 and 194-199		
第7回	Japanese communicative competence (1)	Review pp. 71-78 and 200-206		
第8回	Japanese communicative competence (2)	Review pp. 78-84 and 207-212		
第9回	Cosmopolitan communicative competence (1)	Review pp. 85-87 and 213-216		
第10回	Cosmopolitan communicative competence (2)	Review pp. 87-92 and 217-221		
第11回	Cosmopolitan communicative competence (3)	Review pp. 92-97 and 222-226		
第12回	Interpersonal Communicative Competence: Comparative analysis (1)	Comparison Selection		
第13回	Interpersonal Communicative Competence: Comparative analysis (2)	Comparison Opinion		
第14回	Interpersonal Communicative Competence: Comparative analysis. Evaluate	Comparison Assessment		
第15回	Review	Revision points		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	80% Semester test			
レポート	None			
小テスト等	None			
成果発表	None			
受講態度他	20% Attendance Regulation 10 Article (2) applies (over 5 absences = unqualified). Note: Twice Late = 1 absence. 1 absence: -4%. Late: -2%. Chatting, using a mobile, doing other work = Grade level reduction.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Each lesson is reviewed by reading the relevant part in the text; see details (授業計画: 授業外学修)			
教科書	Text and prints will be made available during the course.			
指定図書	None			
参考図書	A Japanese-English, English-Japanese dictionary. Also, an English-English dictionary such as: The Oxford Advanced Learners' Dictionary of English.			
オフィスアワー	Friday 14:50-15:50	メールアドレス		

授業科目	Conversation A I		開講時期	前期
担当教員	Saza LINDA		単位	1
授業の目的と概要	The aim of this course is to give low intermediate level students with a limited knowledge of English the necessary communication skills to converse about themselves and their interests, with some degree of confidence.			
到達目標	The course will cover various topics, but most lessons will focus on language skills necessary for survival in travel situations.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	Students will be required to participate in role playing exercises, pair work and listening exercises. They will also be required to make short speeches.			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Overview			Prepare Text and Preview Text Page 6-7	
第2回 Arriving in a strange place			Page 8-9	
第3回 Arranging transportation			Page 10-11	
第4回 Finding your way around			Page 12-13	
第5回 Discussing facilities, locations and operation hours			Page 14-15	
第6回 Rules and regulations, asking for permission			Page 16-17	
第7回 Homestay hints			Page 18-19	
第8回 Asking and giving directions, Maps			Page 20-21, and review exercises	
第9回 Food, restaurants, ordering and asking about the menu			Page 28-29	
第10回 Numbers, prices and tipping			Page 30-31	
第11回 Arranging for activities on vacation			Page 32-34	
第12回 Taking public transportation, ticketing and prices			Page 36-37	
第13回 Discussing past trips			Page 38-39 and Individual project prep	
第14回 Projects			Individual project prep	
第15回 Projects and review for test			Test prep	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	0%			
小テスト等	30%			
成果発表	0%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Be prepared to participate!			
教科書	On the Go By Gershon, Mares and Walker Published by Pearson Longman			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスワーク	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Conversation A I		開講時期	前期
担当教員	T. R. Honkomp		単位	1
授業の目的と概要	<p>Conversation A I is a course designed to give students at the high-beginning or low-intermediate level many opportunities to understand and practice essential language for meaningful communication in context. This course will use the context of travel and related situations to introduce, practice and internalize practical English in order to build confidence and increase student output. Students are encouraged to take responsibility for their own language learning and to actively pursue positive development of their language skills by applying themselves to the opportunities that are presented in class.</p>			
到達目標	<p>Examples of daily class activities include and are not limited to the following: introduction of topics, pronunciation practice, listening comprehension, conversation practice, and discussion of cultural aspects of foreign destinations in English speaking countries. There will also be videotaped fluency exercises that will be viewed for correction and feedback purposes.</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に英語学科のDP1「英語の聴き、話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができる。」の達成に関わる科目です。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course Introduction; explanation of course syllabus; text introduction	Review Useful Classroom Expressions		
第2回	Boarding pass; understanding flight information; check in for a flight	Quiz #1 - Useful Classroom Expressions		
第3回	Self-introduction Introduce yourself; talk about topics of interest	Preview Unit 3		
第4回	Finding a hotel; check in at a hotel; make special requests	Review units 1 - 3		
第5回	Day trip; choose a day trip and make a plan	Preview Unit 5		
第6回	Transport; arrange and pay for public transportation	Review Vocab. #1 - 4		
第7回	Food and drink; choose a restaurant; ordering meals at restaurants	Quiz #2 Vocabulary Units 1 - 4		
第8回	Walking around; understanding locations; following simple directions	Review Units 4 - 7		
第9回	Shopping; shop for items; understand prices; videotape assignment 1	Preview Unit 9		
第10回	Lost & found; reporting found items; describe lost items	Review Vocab. #5 - 8		
第11回	Sickness & health; understand health situations; talking to a doctor	Quiz #3 Vocabulary Units 5 - 8		
第12回	Returning home; talking about a trip; ask follow-up questions	Review Units 9 - 11		
第13回	Street-smarts; ask for and give advice; learn about travel safety	Preview Unit 12		
第14回	Consolidation & vocabulary review	Vocab. #9 - 12		
第15回	Semester and exam review	Review sheets		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	30% Final Exam			
レポート	There will generally be no reports or presentations in this course			
小テスト等	—			
成果発表	Results of quizzes will be given in class.			
受講態度他	25% Class participation and in-class performance 45% Three quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions.			
教科書	Adventures Abroad	Dale Fuller & Kevin Cleary	MacMillan Languagehouse	
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Conversation A I (S)		開講時期	前期
担当教員	T.R. Honkomp		単位	1
授業の目的と概要	A particular focus of Conversation A II (S) will be to reinforce and develop proficiency in the skills of speaking and listening. This general objective will be achieved through practice of communication on selected topics and texts and through the expression of opinions about those topics. Students will practice these skills weekly with the instructor and with classmates. Special emphasis will be given to expressing and comparing cultural characteristics of Japanese lifestyle.			
到達目標	Vocabulary development will be emphasized as well as the opportunity to introduce cultural aspects of communication. Each unit from the text will have modules of listening, vocabulary and conversation.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP1「英語の聴き、話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができる。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course introduction; course information, policies and expectations	Preview Unit 1		
第2回	Friends; introduction to text, exchanging personal info.	Vocab. #1		
第3回	Past experience; past tense, talking about the past	Vocab. #2		
第4回	Music; talking about favorite genres recent trends	Quiz #1 Vocab. #3		
第5回	Vacations; plans for leisure activities, travel	Vocab. #4		
第6回	Cooking & food; eating out, eating in, food discussion	Vocab. #5		
第7回	Traveling in Japan; explaining cultural attractions in Japan	Vocab. #6		
第8回	Good times; the best and worst of everything	Vocab. #7		
第9回	Nature and the environment; challenges, technology and solutions	Quiz #2 Vocab. #8		
第10回	Health; lifestyle choices, physical and mental health trends	Vocab. #9		
第11回	Giving opinions; likes and dislikes, expressing opinions	Vocab. #10		
第12回	Sports; participation and spectator sports; sports celebrities	Vocab. #11		
第13回	Movies; actors and favorite productions; recent trends	Quiz #3 Vocab. #12		
第14回	Future plans; expectations and life in the real world	Vocab. #1-12		
第15回	Semester review; exam review and semester consolidation	Exam review sheet		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	25% Final Exam			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30% Class participation and class activities 45% Three quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions.			
教科書	Face to Face	Fuller	MacMillan LanguageHouse	
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Conversation A I		開講時期	前期
担当教員	M.E. Kamada		単位	1
授業の目的と概要	The aim of this class is to practice conversing in everyday English. The focus will be on three conversational skills: giving interesting answers to questions; asking questions; and giving responses. Students will practice with a partner or in small groups. Students will also give presentations explaining current Japanese culture.			
到達目標	At the end of this course, students should be able to: (1) talk about themselves and their lives; (2) be able to give interesting answers to questions; (3) ask questions; (4) respond to another speaker; (3) explain some aspects of Japanese culture.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP①「英語の聴き、話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができる。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
	Orientation and Class Overview; Useful Classroom Language	Make a self-introduction card		
	第2回 Unit One: Personal Information	Unit 1: Question Bank		
	第3回 Continuing Personal Information	Prepare for quiz # 1		
	第4回 Unit Two: Family and Home	Unit 2: Question Bank		
	第5回 Continuing Family and Home	Preview Unit 3; p. 15		
	第6回 Unit Three: Hobbies and Preferences	Unit 3: Question Bank		
	第7回 Continuing Hobbies and Preferences / Talking about Japan	Practice Talking about Japan presentation		
	第8回 Talking about Japan: presentations / Unit Six: Routines	Unit 6: Question Bank		
	第9回 Continuing Routines	Prepare for Quiz # 2		
	第10回 Unit Nine: Travel / Talking about Japan	Practice Talking about Japan presentation		
	第11回 Talking about Japan: presentations / Continuing Travel	Unit 9: Question Bank		
	第12回 Continuing Travel	Preview Unit 10; p. 52		
	第13回 Unit Ten: Dating	Unit 10: Question Bank		
	第14回 Continuing Dating	Prepare for Quiz # 3		
	第15回 Semester Review & Test Preparation	Prepare for final test		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	30% Final test			
レポート	-			
小テスト等	30% ( 3 quizzes at 10% each )			
成果発表	-			
受講態度他	40% (Speaking points, Presentations)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Students will be expected to bring all class materials to every class. Three lates equals one absence.			
教科書	Out Front ( 6th Edition ) by Robert Diem & Roberto Rabbini (English Education Press)			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Students can talk to me after class.	メールアドレス		

授業科目	Conversation AII		開講時期	後期
担当教員	Saza LINDA		単位	1
授業の目的と概要	This course is designed as a follow-up to Conversation AI. Once again, a mix of listening and speaking exercises will be used to build confidence in communicating in English.			
到達目標	Students will be called upon to participate in a variety of exercises aimed at improving basic communication skills in English.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	Students will be required to complete listening tasks, pair work and role playing exercises. Each student must also give a short speech.			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Review of 1st semester and course overview		Prepare text	
第2回	Checking into a hotel		Page 40-41	
第3回	Using hotel amenities		Page 42-43 and Review Section	
第4回	Shopping, sizes, styles		Page 48-49	
第5回	Discussing fashion and previous purchases		Page 50-51	
第6回	Airport Security and Check-In process		Page 52-53	
第7回	Buying incidental goods		Page 54	
第8回	On a sightseeing tour		Page 56-58	
第9回	Talking about your family, your hometown and your schedule		Page 60-62 and review section	
第10回	Voicing your opinion, agreeing on activities, time		Page 68-70	
第11回	Discussing forms of entertainment		Page 72-74	
第12回	Talking about Japanese culture and customs		Page 76-77	
第13回	Talking about various customs and celebrations		Page 78-79 and individual project prep	
第14回	Projects		Individual Project Prep	
第15回	Projects and Review for Test		Test Prep	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	0%			
小テスト等	30%			
成果発表	0%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Come prepared to participate!			
教科書	On the Go by Gershon, Mares and Walker Published by Pearson Longman			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスワーク	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Conversation A II		開講時期	後期
担当教員	T. R. Honkomp		単位	1
授業の目的と概要	<p>Conversation A II is a course designed to give students at the high-beginning or low-intermediate level many opportunities to understand and practice essential language for meaningful communication in context. This course will use the context of travel and related situations to introduce, practice and internalize practical English in order to build confidence and increase student output. Students are encouraged to take responsibility for their own language learning and to actively pursue positive development of their language skills by applying themselves to the opportunities that are presented in class.</p>			
到達目標	<p>Examples of daily class activities include and are not limited to the following: introduction of topics, pronunciation practice, listening comprehension, conversation practice, and discussion of cultural aspects of foreign destinations in English speaking countries. There will also be videotaped fluency exercises that will be viewed for correction and feedback purposes.</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に英語学科のDP1「英語の聴き、話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができる。」の達成に関わる科目です。</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course Introduction; explanation of course syllabus; text introduction	Review Useful Classroom Expressions		
第2回	Boarding pass; understanding flight information; check in for a flight	Quiz #1 - Useful Classroom Expressions		
第3回	Self-introduction Introduce yourself; talk about topics of interest	Preview Unit 3		
第4回	Finding a hotel; check in at a hotel; make special requests	Review units 1 - 3		
第5回	Day trip; choose a day trip and make a plan	Preview Unit 5		
第6回	Transport; arrange and pay for public transportation	Review Vocab. #1 - 4		
第7回	Food and drink; choose a restaurant; ordering meals at restaurants	Quiz #2 Vocabulary Units 1 - 4		
第8回	Walking around; understanding locations; following simple directions	Review Units 4 - 7		
第9回	Shopping; shop for items; understand prices; videotape assignment 1	Preview Unit 9		
第10回	Lost & found; reporting found items; describe lost items	Review Vocab. #5 - 8		
第11回	Sickness & health; understand health situations; talking to a doctor	Quiz #3 Vocabulary Units 5 - 8		
第12回	Returning home; talking about a trip; ask follow-up questions	Review Units 9 - 11		
第13回	Street-smarts; ask for and give advice; learn about travel safety	Preview Unit 12		
第14回	Consolidation & vocabulary review	Vocab. #9 - 12		
第15回	Semester and exam review	Review sheets		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	30% Final Exam			
レポート	There will generally be no reports or presentations in this course			
小テスト等	—			
成果発表	Results of quizzes will be given in class.			
受講態度他	25% Class participation and in-class performance 45% Three quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions.			
教科書	Adventures Abroad	Dale Fuller & Kevin Cleary	MacMillan Languagehouse	
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Conversation A II (S)		開講時期	後期
担当教員	T.R. Honkomp		単位	1
授業の目的と概要	A particular focus of Conversation A II (S) will be to reinforce and develop proficiency in the skills of speaking and listening. This general objective will be achieved through practice of communication on selected topics and texts and through the expression of opinions about those topics. Students will practice these skills weekly with the instructor and with classmates. Special emphasis will be given to expressing and comparing cultural characteristics of Japanese lifestyle.			
到達目標	Vocabulary development will be emphasized as well as the opportunity to introduce cultural aspects of communication. Each unit from the text will have modules of listening, vocabulary and conversation.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP1「英語の聴き、話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができる。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course introduction; course information, policies and expectations	Preview Unit 1		
第2回	Friends; introduction to text, exchanging personal info.	Vocab. #1		
第3回	Past experience; past tense, talking about the past	Vocab. #2		
第4回	Music; talking about favorite genres recent trends	Quiz #1 Vocab. #3		
第5回	Vacations; plans for leisure activities, travel	Vocab. #4		
第6回	Cooking & food; eating out, eating in, food discussion	Vocab. #5		
第7回	Traveling in Japan; explaining cultural attractions in Japan	Vocab. #6		
第8回	Good times; the best and worst of everything	Vocab. #7		
第9回	Nature and the environment; challenges, technology and solutions	Quiz #2 Vocab. #8		
第10回	Health; lifestyle choices, physical and mental health trends	Vocab. #9		
第11回	Giving opinions; likes and dislikes, expressing opinions	Vocab. #10		
第12回	Sports; participation and spectator; sports celebrities	Vocab. #11		
第13回	Movies; actors and favorite productions; recent trends	Quiz #3 Vocab. #12		
第14回	Future plans; expectations and life in the real world	Vocab. #1-12		
第15回	Semester review; exam review and semester consolidation	Exam review sheet		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	25% Final Exam			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30% Class participation and class activities 45% Three quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions.			
教科書	Face to Face	Fuller	MacMillan LanguageHouse	
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Before and after class.	メールアドレス		



授業科目	Conversation BI (S)		開講時期	前期
担当教員	C. B. Painter		単位	1
授業の目的と概要	Participants practice: Listening & speaking English in simulated everyday situations. Predict language in given contexts. Identify communicative aims of conversations from aspects such as: vocabulary, grammar, context, register & body language. Create & act-out similar conversations & self-evaluate conversational ability via fluency & accuracy activities. Participants expand communication skills via pair/group teamwork from the pre-intermediate level. Learners should be willing to participate in pairs/groups using English. Each learner-pair/group studies at their own pace assessing their development in role-plays in a 7-step procedure. Learners choose conversational situations & thus language functions according to interest resulting in a unique route via the syllabus of topics outlined below.			
到達目標	Improved abilities: Using appropriate language in specific everyday situations. Linking grammar and purpose. Identifying communicative aims. Self-evaluating conversational & communicative performance ability. Thus, fundamental communicative skills required for social life in any culture are strengthened.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP1「英語の聴き、話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができる」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Procedure training 1- Whole class practise 7 steps with unit 1: At the airport		Procedure Guide, Recall/Practice	
第2回	Procedure training 2- Whole class practise 7 steps with unit 1: At the airport		Procedure Guide, Recall/Practice	
第3回	Procedure training 3- Whole class practise 7 steps with unit 1: At the airport		Procedure Guide, Recall/Practice	
第4回	Training 4: Learner pairs complete 7 steps with unit 2: 1 Tourist information		Recall/Practice	
第5回	Training 5: Learner pairs complete 7 steps with unit 2: 2 Tourist information		Recall/Practice	
第6回	Learner selected unit, e.g., at a hotel, completed in 7 steps		Recall/Practice	
第7回	Learner selected unit, e.g., at a restaurant, completed in 7 steps		Recall/Practice	
第8回	Learner selected unit, e.g., at a bar, completed in 7 steps		Recall/Practice	
第9回	Learner selected unit, e.g., at an estate agency, completed in 7 steps		Recall/Practice	
第10回	Learner selected unit, e.g., viewing an apartment, completed in 7 steps		Recall/Practice	
第11回	Learner selected unit, e.g., at an appliance store, completed in 7 steps		Recall/Practice	
第12回	Learner selected unit, e.g., at someone's home, completed in 7 steps		Recall/Practice	
第13回	Learner selected unit, e.g., telephoning a friend, completed in 7 steps		Recall/Practice	
第14回	Learner selected unit, e.g., telephoning an organization, completed in 7 steps		Recall/Practice	
第15回	Review & evaluate		Recall/Practice	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40% Semester test (based on language functions and topics practiced in the class)			
レポート	None			
小テスト等	None			
成果発表	40% 5+ units = 40% (A record of 7 completed steps is required for each unit)			
受講態度他	20% Attendance Regulation 10 Article (2) applies (over 5 absences = unqualified). Note: Twice Late = 1 absence. 1 absence: -4%. Late: -2%. Chatting, using a mobile, doing other work = Grade level reduction.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Learners keep their own dated records of completed steps in each lesson. Accumulated records are brought to subsequent lessons to facilitate learning & assessment. In case of absence, a learner should be prepared to change partners as required, the purpose being to avoid skipping steps herself and to avoid causing the original partner to repeat steps. Permanent pairs are not a course design feature. Change of partner provides challenges that reflect the nature of interaction in the real world.			
教科書	Software, Procedure Guide and Self-assessment role-play cards are provided by the teacher. A B5 notebook is necessary for this class to record steps and should be brought to each class.			
指定図書	None			
参考図書	A Japanese-English, English-Japanese dictionary. Also, an English-English dictionary such as: The Oxford Advanced Learners' Dictionary of English.			
オフィスアワー	Friday 14:50-15:50	メールアドレス		

授業科目	Conversation B I		開講時期	前期
担当教員	Saza LINDA		単位	1
授業の目的と概要	This course is designed to give the intermediate student a full workout in communication skills, in hopes that they will be better able to express themselves on a variety of topics.			
到達目標	The target conversation topics are centered around travel, work and study abroad.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	A variety of exercises will be used to motivate the students to participate, including pair work and role playing tasks. The text includes a CD for listening exercises. Students will also have to make a small speech.			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Overview			Prepare text , Preview pages 6-7	
第2回 Meeting people (1)			page 8-9	
第3回 Meeting people (2) and making introductions			page 10-11	
第4回 New classes, new teachers and schedules			page 12-13	
第5回 Describing people, time schedules			page 14-15	
第6回 Making plans for the weekend			page 16-19	
第7回 Types of transportation			page 20-21	
第8回 Tickets and prices			page 22-23	
第9回 Review Chapter			page 24-27	
第10回 Talking about work			page 28-29	
第11回 Talking about trends in the working world			page 30-31	
第12回 Making reservations			page 32-33	
第13回 Talking about food			page 34-35, project prep	
第14回 Projects			Student's individual projects	
第15回 Projects and Review			Projects and test prep	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	0%			
小テスト等	30%			
成果発表	0%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Come to class prepared to participate!			
教科書	On the Move by Gershon, Mares and Walker Published by Pearson Longman			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスワーク	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Conversation B I		開講時期	前期
担当教員	T.R. Honkomp		単位	1
授業の目的と概要	A particular focus of Conversation B I will be to reinforce and develop proficiency in the skills of speaking and listening. This general objective will be achieved through practice of communication on selected topics and texts and through the expression of opinions about those topics. Weekly sessions of this class will include a variety of class activities focused on practicing the integrated skills of language learning. Student real-life experiences, personal topics from the text and scrapbook preparation will be used as a basis for expression and discussion.			
到達目標	Examples of daily class activities include and are not limited to the following: introduction of topics, pronunciation practice, listening comprehension, vocabulary development, cloze exercises, conversation practice and discussion of cultural aspects of communication. Students will prepare explanations based their original personal experiences.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course introduction; course information, policies and expectations	Preview Unit 1		
第2回	Introduction to the scrapbook & self introductions	Vocab. #1		
第3回	Student topic and presentation	Conv. questions		
第4回	Hobbies, Likes & Dislikes	Quiz #1; Vocab. #2		
第5回	Student topic and presentation	Conv. questions		
第6回	Recent Activities	Vocab. #3		
第7回	Student topic and presentations	Conv. questions		
第8回	Personal Past Experiences	Quiz #2; Vocab. #4		
第9回	Student topic and presentations	Conv. questions		
第10回	Family and Friends	Vocab. #5		
第11回	Student topic and presentations	Conv. questions		
第12回	Weekly Schedule and Free Time	Quiz #3; Vocab. #6		
第13回	Hopes and Dreams for the Future	Conv. questions		
第14回	Upcoming Plans and Vacation Activities	Vocab. review		
第15回	Semester review; exam review and semester consolidation	Exam Review sheet		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	25% Final Exam			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30% Class participation and class activities 45% Three quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions. Students are expected to make a scapbook for this class. Class activities will focus on the pages in the scarpbook that the students have designed.			
教科書	In My Life Kluge & Taylor MacMillan LanguageHouse			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Conversation BⅡ(S)		開講時期	後期
担当教員	T.R. Honkomp		単位	1
授業の目的と概要	A particular focus of Conversation B I will be to reinforce and develop proficiency in the skills of speaking and listening. This general objective will be achieved through practice of communication on selected topics and texts and through the expression of opinions about those topics. Weekly sessions of this class will include a variety of class activities focused on practicing the integrated skills of language learning. Some of the commercial issues from the will be used as a basis for student expression and discussion.			
到達目標	Examples of daily class activities include and are not limited to the following: introduction of topics, pronunciation practice, listening comprehension, vocabulary development, cloze exercises, conversation practice and discussion of cultural aspects of communication.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course introduction; course information, policies and expectations	—		
第2回	Commercial introduction; shopping in the U.S.	Vocab. #1		
第3回	Student topics and presentations	Conv. questions		
第4回	Beverage commercials; original inventions	Vocab. #2		
第5回	Student topics and presentations	Conv. questions		
第6回	Anti-discrimination campaign - Respecting Human Rights	Vocab. #3		
第7回	Student topics and presentations	Conv. questions		
第8回	Fast food history and impact on society	Quiz #1; Vocab. #4		
第9回	Student topics and presentations	Conv. questions		
第10回	Delivery services - post and private	Vocab. #5		
第11回	Student topic and presentations	Conv. questions		
第12回	Automobile industry; competition and globalization	Vocab. #6		
第13回	Student videotape presentations	Conv. questions		
第14回	Student presentations continued; vocabulary review	Vocab. # 1-6		
第15回	Semester review; exam review and semester consolidation	Exam Review sheet		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	25% Final Exam			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30% Class participation and class activities 45% Quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions.			
教科書	English in 30 Seconds	Aoki	Nan' un-do	
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Conversation BII		開講時期	後期
担当教員	Keith Kinstler		単位	1
授業の目的と概要	<p>This conversation course is designed to reinforce prior conversation practice. Emphasis is given to a deeper understanding of basic grammatical models used in everyday interactions. Pair Work is employed throughout. Songs will be used for listening and pronunciation practice. Q and A classes (Question and Answer) will allow students to engage in general conversation with each other and the teacher. There will be several FCs (Free Conversation) on set topics</p>			
到達目標	<p>Students must learn simple English idioms used in daily conversation. In addition, formal rules of pronunciation, sentence structure and question formation will be reviewed.</p> <p>困難なことも慣れれば簡単</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	INTRO - CLASSROOM ENGLISH - GRAMMAR & PARSING - IDIOMS	Read and Prepare Departures 2 and 4 - Write FC JOBS		
第2回	Departures 2 and 4 - Q and A	Read and Prepare Departures 5		
第3回	Departures 5 - Song	Read and Prepare Departures 6		
第4回	Departures 6 - Q and A	Read and Prepare Departures 8, 9 and 24		
第5回	Departures 8, 9 and 24	Read and Prepare Departures 11		
第6回	Departures 11 - Song	Read and Prepare Departures 13		
第7回	Departures 13 - Q and A	Read and Prepare Departures 14 and 15		
第8回	Departures 14 and 15	Read and Prepare Departures 16 - Song		
第9回	Departures 16	Read and Prepare Departures 18 and 19		
第10回	Departures 18 and 19 - Q and A	Read and Prepare Departures 20 and 22		
第11回	Departures 20 and 22	Read and Prepare Departures 23		
第12回	Departures 23	Read and Prepare Departures 25		
第13回	Departures 25	Read and Prepare Departures 27 and 30		
第14回	Departures 27 and 30 - GENERAL REVIEW	None		
第15回	QUIZ	授業前に配布プリント、教科書の単語の意味などを調べておくこと。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	30%			
レポート	10%			
小テスト等	10%			
成果発表	30%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・この授業は全て英語で行われます。 ・定期試験のみで合格点をとっても、単位取得はできません。毎回の授業、課題提出が大事です。</p> <p>・クラス活動、授業態度が重視され、積極的に主体的な授業参加が望まれます。 ・授業活動、練習で継続的に評価を行います。</p> <p>・前期は15回授業があり、1回のクラスワークで最高10点もらえます。休んだ場合のクラスワーク点は0点、公欠に関しては考慮します。理由のない遅刻は減点されます。</p>			
教科書	毎回、教材プリントを配布します			
指定図書	ENGLISH - JAPANESE JAPANESE - ENGLISH DICTIONARY			
参考図書	None			
オフィスアワー	Before or after the class.	メールアドレス		

授業科目	Conversation BII		開講時期	後期
担当教員	C. B. Painter		単位	1
授業の目的と概要	Participants practice: Listening & speaking English in simulated everyday situations. Predict language in given contexts. Identify communicative aims of conversations from aspects such as: vocabulary, grammar, context, register & body language. Create & act-out similar conversations & self-evaluate conversational ability via fluency & accuracy activities. Participants expand communication skills via pair/group teamwork from the pre-intermediate level. Learners should be willing to participate in pairs/groups using English. Each learner-pair/group studies at their own pace assessing their development in role-plays in a 7-step procedure. Learners choose conversational situations & thus language functions according to interest resulting in a unique route via the syllabus of topics outlined below.			
到達目標	Improved abilities: Using appropriate language in specific everyday situations. Linking grammar and purpose. Identifying communicative aims. Self-evaluating conversational & communicative performance ability. Thus, fundamental communicative skills required for social life in any culture are strengthened.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP1「英語の聴き、話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができる」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Procedure training 1- Whole class practise 7 steps with unit 1: At the airport	Procedure Guide, Recall/Practice		
第2回	Procedure training 2- Whole class practise 7 steps with unit 1: At the airport	Procedure Guide, Recall/Practice		
第3回	Procedure training 3- Whole class practise 7 steps with unit 1: At the airport	Procedure Guide, Recall/Practice		
第4回	Training 4: Learner pairs complete 7 steps with unit 2: 1 Tourist information	Recall/Practice		
第5回	Training 5: Learner pairs complete 7 steps with unit 2: 2 Tourist information	Recall/Practice		
第6回	Learner selected unit, e.g., at the post office, completed in 7 steps	Recall/Practice		
第7回	Learner selected unit, e.g., at a restaurant, completed in 7 steps	Recall/Practice		
第8回	Learner selected unit, e.g., at a clothing shop, completed in 7 steps	Recall/Practice		
第9回	Learner selected unit, e.g., at a pharmacy, completed in 7 steps	Recall/Practice		
第10回	Learner selected unit, e.g., at someone's home, completed in 7 steps	Recall/Practice		
第11回	Learner selected unit, e.g., at a bookshop, completed in 7 steps	Recall/Practice		
第12回	Learner selected unit, e.g., at a cafe, completed in 7 steps	Recall/Practice		
第13回	Learner selected unit, e.g., at the bank, completed in 7 steps	Recall/Practice		
第14回	Learner selected unit, e.g., at a school, completed in 7 steps	Recall/Practice		
第15回	Review & evaluate	Recall/Practice		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40% Semester test (based on language functions and topics practiced in the class)			
レポート	None			
小テスト等	None			
成果発表	40% 5+ units = 40% (A record of 7 completed steps is required for each unit)			
受講態度他	20% Attendance Regulation 10 Article (2) applies (over 5 absences = unqualified). Note: Twice Late = 1 absence. 1 absence: -4%. Late: -2%. Chatting, using a mobile, doing other work = Grade level reduction.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Learners keep their own dated records of completed steps in each lesson. Accumulated records are brought to subsequent lessons to facilitate learning & assessment. In case of absence, a learner should be prepared to change partners as required, the purpose being to avoid skipping steps herself and to avoid causing the original partner to repeat steps. Permanent pairs are not a course design feature. Change of partner provides challenges that reflect the nature of interaction in the real world.			
教科書	Software, Procedure Guide and Self-assessment role-play cards are provided by the teacher. A B5 notebook is necessary for this class to record steps and should be brought to each class.			
指定図書	None			
参考図書	A Japanese-English, English-Japanese dictionary. Also, an English-English dictionary such as: The Oxford Advanced Learners' Dictionary of English.			
オフィスアワー	Friday 14:50-15:50	メールアドレス		

授業科目	Conversation B II		開講時期	後期
担当教員	L. Aoki		単位	1
授業の目的と概要	In this class, students will focus on the two points of conversation: speaking and listening. Students will have various listening practices and speaking exercised to improve their ability in those two skills. Student speaking practices will include interviews, question and answers, gathering information from classmates, games, etc. The students' listening in the textbook includes a variety of natural conversations. Time allowing, the students will listen to other materials, such as songs, or my own speech. The students will also study one grammar or expression point in each unit. Finally, they will study (review) vocabulary which relates to the unit topic. In this way, the students will have support for speaking ability.			
到達目標	At the end of the class, students will know how to speak on the following topics: asking for information, describing things, making requests, asking for permission, giving opinions, comparing things, giving advice or suggestions, and talking about their experiences. They will also have reviewed (or learned) the expressions and vocabulary that goes with the above topics, including studying comparison adjectives and present perfect tense for experiences. The students' listening ability in the topics listed above will also have improved. Most importantly, the students' general ability in speaking and listening will have improved due to various exercises and mini-quizzes throughout the semester.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は英語学科DPの英語の聴く話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができるように相当する。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Introduction to the course. Explanation of rules, grading, class schedule. Asking about personal information.	short self-introduction		
第2回	Unit 1-Getting information. Learning expressions to ask for information. Listening practice. Conversation practice	Review information expressions		
第3回	Unit 1. Continue information speaking exercises. Unit 2-Describing things. Basic listening. Study vocabulary to describe daily items.	Review description expressions		
第4回	Unit 2. Continue description listening and speaking exercises.	Short writing: Describe one item		
第5回	Unit 3-Making requests. Basic listening. Study expressions to make requests. Listening practice. Conversation practice.	Review request expressions.		
第6回	Unit 3. Continue request speaking exercises. Unit 6-Asking for permission. Basic listening. Study expressions to ask for permission.	Review permission expressions.		
第7回	Unit 6. Continue permission listening and speaking exercises.	Short writing: Ask permission/Make a request for something		
第8回	Unit 8-Giving Opinions. Study expressions for giving opinions. Listening and speaking practices.	Review expressions for giving an opinion		
第9回	Unit 8. Continue opinion speaking exercises. Unit 9-Comparing things. Basic listening. Study comparisons adjectives, and other forms.	Review comparison forms.		
第10回	Unit 9. Continue listening and speaking exercises for comparisons. Catch up.	Short Report: An Opinion or Comparison of: A and B. Due 13th class		
第11回	Unit 11-Giving advice. Basic listening. Study advice/suggestion expressions. Listening and speaking exercises.	Review advice expressions. Short report writing.		
第12回	Unit 11. Continue speaking exercises. Unit 12-Giving experiences. Basic listening. Study experience expressions (present perfect tense).	Short report writing.		
第13回	Special, alternative (other) activities related to winter holidays. Report Homework DUE.	Review experience sentences		
第14回	Unit 12. Continue listening and speaking practice on relating an experience. Prepare for Speaking Test.	prepare for Speaking Test		
第15回	Speaking Test. Review. Explanation of Final Test	Study for Final Test		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	30% Content will be expressions, vocabulary and grammar of topics studied, with listening section.			
レポート	20% Three short writing homework=10%. One report homework=10%			
小テスト等	20% Two Mini speaking tests (10% each)			
成果発表	20% Speaking Test			
受講態度他	10% Attitude. Includes class participation and attitude			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Students should remember to bring their textbook every week. You must have your own textbook. Textbook Information: writer--Wilson & Barnard, publisher--Pearson Longman Also, please bring a notebook and writing materials (pencil, pen, eraser, etc.) The use of cell / i-Phones / smart phones in class will NOT be allowed. So, bring an electric or book dictionary if you need it.			
教科書	Warren Wilson, Roger Barnard 『Fifty-Fifty Book 2 -- 3rd Edition』 Pearson / Longman			
指定図書	none			
参考図書	none			
オフィスアワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Conversation CI (S)		開講時期	前期
担当教員	D.J. Wood		単位	2
授業の目的と概要	As spoken English proficiency is necessary for successful interaction, students will: aim for conversational competence by practicing intensive question and answer sessions acquire fluent use of prompts and cues raise their level of oral ability enough to produce English that is easy to understand; and practice avoiding unclear usage and common mistakes that can lead to communicative breakdowns.			
到達目標	As target-language, text-free interaction is appropriate for successful communication, students: engage in real life tasks (interviews, Q&A sessions, conversations, topic talks) employ listening and reading activities, integrated with speaking and writing supplement limited class time with self study activities; and, use control language appropriately. Everybody must be positive and outgoing in every class.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	Students acquire real spoken communicative ability in English by having real conversational interaction only without the obstruction of written textbooks which defy it.			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course Orientation and Overview	To be announced		
第2回	Question and Response Introduction	To be announced		
第3回	Question&Response Pair&Group Practice	To be announced		
第4回	Question and Response Pair&Group Practice	To be announced		
第5回	Question and Response Quiz	To be announced		
第6回	Conversation Practice Outline	To be announced		
第7回	Conversation Pair&Group Practice	To be announced		
第8回	Conversation Pair&Group Practice	To be announced		
第9回	Conversation Pair&Group Quiz	To be announced		
第10回	Pair&Group Presentation Description	To be announced		
第11回	Pair&Group Presentation Practice	To be announced		
第12回	Pair&Group Presentation Practice	To be announced		
第13回	Pair&Group Presentation Quiz	To be announced		
第14回	Review for Presentation Preparation	To be announced		
第15回	Student Presentations and review for test	To be announced		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% Preparation, participation and quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	Study material will be distributed			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays.	メールアドレス		



授業科目	Conversation CI	開講時期	前期
担当教員	Keith Kinstler	単位	2
授業の目的と概要	<p>This conversation course is designed to reinforce prior conversation practice. Emphasis is given to a deeper understanding of basic grammatical models used in everyday interactions. 千里の道も一歩から。  Pair Work is employed throughout.  Students will be required to give a prepare FC (Free Conversation) on specific topics for use in class. There will also be a number of Q and A sessions(Question and Answer) to allow students to participate in general conversation with each other and the teacher.</p>		
到達目標	<p>Students must learn simple English idioms used in daily conversation. In addition, formal rules of pronunciation, sentence structure and question formation will be reviewed.</p> <p>困難なことも慣れれば簡単</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	よりこなれた会話力をつける。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	INTRO - CLASSROOM ENGLISH - GETTING TO KNOW YOU	Read and Prepare Departures 21 AND 35 - Write FC 'Food'	
第2回	Departures 21 AND 22 - Paying for something - FC 'Food'	Read and Prepare Departures 23	
第3回	Departures 23 - getting something - Q and A	Read and Prepare Departures 24	
第4回	Departures 24 - Where were you? Q and A - Song	Read and Prepare Departures 25	
第5回	Departures 25 - Returning Vacations - Q and A	Read and Prepare Departures 26 - Write FC 'Foreign Trip'	
第6回	Departures 26 Foreign Vacations? - 'Foreign Trip'	Read and Prepare Departures 27	
第7回	Departures 27 - Surviving? - Q and A	Read and Prepare Departures 28 - Write FC 'Fashion'	
第8回	Departures 28 - Past Simple Tense - FC 'Fashion'	Read and Prepare Departures 29 - Write FC 'Shopping'	
第9回	Departures 29 - Did you - FC 'Shopping'	Read and Prepare Departures 30	
第10回	Departures 30 The News - Q and A	Read and Prepare Departures 31	
第11回	Departures 31 - An Accident Song	Read and Prepare Departures 32	
第12回	Departures 32 - Could you	Read and Prepare Departures 33	
第13回	Departures 33 - Personal History - Q and A	Read and Prepare Departures 34 and35	
第14回	Departures 34 and 35 - Elmer	授業前に配布プリント、教科書の単語の意味などを調べておくこと。	
第15回	Quiz	予習：授業参加前に与えられたプリント、教科書の単語を調べておく。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	30%		
レポート	10%		
小テスト等	20%		
成果発表	10%		
受講態度他	30%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>The language of instruction will be English. この授業は全て英語で行われます。  このコースの評価は毎回のクラス活動と課題(70%)、及び定期試験(30%)の総合評価によるものとする。  定期試験のみで合格点をとっても、単位取得はできない。毎回の授業、課題提出が大事である。</p>		
教科書	毎回、教材プリントを配布します		
指定図書	ENGLISH - JAPANESE JAPANESE - ENGLISH DICTIONARY		
参考図書	None		
オフィスアワー	Before or after class.	メールアドレス	

授業科目	Conversation CI		開講時期	前期
担当教員	C. B. Painter		単位	2
授業の目的と概要	Participants practice: Listening & speaking English in simulated everyday situations. Predict language in given contexts. Identify communicative aims of conversations from aspects such as: vocabulary, grammar, context, register & body language. Create & act-out similar conversations & self-evaluate conversational ability via fluency & accuracy activities. Participants expand communication skills via pair/group teamwork from the intermediate level. Learners should be willing to participate in pairs/groups using English. Each learner-pair/group studies at their own pace assessing their development in role-plays in a 7-step procedure. Learners choose conversational situations & thus language functions according to interest resulting in a unique route through the syllabus of topics outlined below.			
到達目標	Improved abilities: Using appropriate language in specific everyday situations. Linking grammar and purpose. Identifying communicative aims. Self-evaluating conversational & communicative performance ability. Thus, fundamental communicative skills required for social life in any culture are strengthened.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP1「英語の聴き、話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができる」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Procedure training 1- Whole class practise 7 steps with unit 1: At the airport	Procedure Guide, Recall/Practice		
第2回	Procedure training 2- Whole class practise 7 steps with unit 1: At the airport	Procedure Guide, Recall/Practice		
第3回	Procedure training 3- Whole class practise 7 steps with unit 1: At the airport	Procedure Guide, Recall/Practice		
第4回	Training 4: Learner pairs complete 7 steps with unit 2: 1 Tourist information	Recall/Practice		
第5回	Training 5: Learner pairs complete 7 steps with unit 2: 2 Tourist information	Recall/Practice		
第6回	Learner selected unit, e.g., at a hotel, completed in 7 steps	Recall/Practice		
第7回	Learner selected unit, e.g., at a restaurant, completed in 7 steps	Recall/Practice		
第8回	Learner selected unit, e.g., at a bar, completed in 7 steps	Recall/Practice		
第9回	Learner selected unit, e.g., at an estate agency, completed in 7 steps	Recall/Practice		
第10回	Learner selected unit, e.g., viewing an apartment, completed in 7 steps	Recall/Practice		
第11回	Learner selected unit, e.g., at an appliance store, completed in 7 steps	Recall/Practice		
第12回	Learner selected unit, e.g., at someone's home, completed in 7 steps	Recall/Practice		
第13回	Learner selected unit, e.g., telephoning a friend, completed in 7 steps	Recall/Practice		
第14回	Learner selected unit, e.g., telephoning an organization, completed in 7 steps	Recall/Practice		
第15回	Review & evaluate	Recall/Practice		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40% Semester test (based on language functions and topics practiced in the class)			
レポート	None			
小テスト等	None			
成果発表	40% 5+ units = 40% (A record of 7 completed steps is required for each unit)			
受講態度他	20% Attendance Regulation 10 Article (2) applies (over 5 absences = unqualified). Note: Twice Late = 1 absence. 1 absence: -4%. Late: -2%. Chatting, using a mobile, doing other work = Grade level reduction.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Learners keep their own dated records of completed steps in each lesson. Accumulated records are brought to subsequent lessons to facilitate learning & assessment. In case of absence, a learner should be prepared to change partners as required, the purpose being to avoid skipping steps herself and to avoid causing the original partner to repeat steps. Permanent pairs are not a course design feature. Change of partner provides challenges that reflect the nature of interaction in the real world.			
教科書	Software, Procedure Guide and Self-assessment role-play cards are provided by the teacher. A B5 notebook is necessary for this class to record steps and should be brought to each class.			
指定図書	None			
参考図書	A Japanese-English, English-Japanese dictionary. Also, an English-English dictionary such as: The Oxford Advanced Learners' Dictionary of English.			
オフィスアワー	Friday 14:50-15:50	メールアドレス		

授業科目	Conversation CII		開講時期	後期
担当教員	Chris Flynn		単位	2
授業の目的と概要	<p>The aim of this class is to develop conversational skills on topics that students can relate to. Another aim is to help students develop the confidence to speak in front of a number of people.</p> <p>Each week students will be given conversations to be presented to the class the following week. The frequency of presentations will depend on the number of students registered for the class.</p>			
到達目標	<p>Students should be able to reply to a number of questions equivalent to the interview test in the English Step level 2 test, and hold a detailed conversation.</p> <p>Also, the aim is for students to be confident when speaking English in front of an audience.</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Class orientation	講義の際に指示します		
第2回	Personal introductions	講義の際に指示します		
第3回	Sports	講義の際に指示します		
第4回	Restaurants, describing food preferences	講義の際に指示します		
第5回	My school days. Talking about your experiences at school.	講義の際に指示します		
第6回	Talking about travel. Talking about places you have been	講義の際に指示します		
第7回	Talking about music. Your favourite music and musicians.	講義の際に指示します		
第8回	Talking about movies. Types of movies you like and dislike.	講義の際に指示します		
第9回	Teachers	講義の際に指示します		
第10回	People I respect	講義の際に指示します		
第11回	My favourite English proverb	講義の際に指示します		
第12回	My dream Your future plans.	講義の際に指示します		
第13回	Review	講義の際に指示します		
第14回	Test presentation drafting and corrections.	講義の際に指示します		
第15回	Presentation test practice and review.	講義の際に指示します		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40%			
レポート	0%			
小テスト等	30%			
成果発表	0%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Students should bring dictionary to class and use it as soon as they hear a word they don't understand.			
教科書	Helene Uchida 『Challenge Book #4』			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスワー	Before and after the class.	メールアドレス		

授業科目	Conversation CII (S)	開講時期	後期
担当教員	C. B. Painter	単位	2
授業の目的と概要	Participants practice: Listening & speaking English in simulated everyday situations. Predict language in given contexts. Identify communicative aims of conversations from aspects such as: vocabulary, grammar, context, register & body language. Create & act-out similar conversations & self-evaluate conversational ability via fluency & accuracy activities. Participants expand communication skills via pair/group teamwork from the intermediate level. Learners should be willing to participate in pairs/groups using English. Each learner-pair/group studies at their own pace assessing their development in role-plays in a 7-step procedure. Learners choose conversational situations & thus language functions according to interest resulting in a unique route through the syllabus of topics outlined below.		
到達目標	Improved abilities: Using appropriate language in specific everyday situations. Linking grammar and purpose. Identifying communicative aims. Self-evaluating conversational & communicative performance ability. Thus, fundamental communicative skills required for social life in any culture are strengthened.		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP1「英語の聴き、話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができる」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	Procedure training 1- Whole class practise 7 steps with unit 1: At the airport	Procedure Guide, Recall/Practice	
第2回	Procedure training 2- Whole class practise 7 steps with unit 1: At the airport	Procedure Guide, Recall/Practice	
第3回	Procedure training 3- Whole class practise 7 steps with unit 1: At the airport	Procedure Guide, Recall/Practice	
第4回	Training 4: Learner pairs complete 7 steps with unit 2: 1 Tourist information	Recall/Practice	
第5回	Training 5: Learner pairs complete 7 steps with unit 2: 2 Tourist information	Recall/Practice	
第6回	Learner selected unit, e.g., at a hotel, completed in 7 steps	Recall/Practice	
第7回	Learner selected unit, e.g., at a restaurant, completed in 7 steps	Recall/Practice	
第8回	Learner selected unit, e.g., at a bar, completed in 7 steps	Recall/Practice	
第9回	Learner selected unit, e.g., at an estate agency, completed in 7 steps	Recall/Practice	
第10回	Learner selected unit, e.g., viewing an apartment, completed in 7 steps	Recall/Practice	
第11回	Learner selected unit, e.g., at an appliance store, completed in 7 steps	Recall/Practice	
第12回	Learner selected unit, e.g., at someone's home, completed in 7 steps	Recall/Practice	
第13回	Learner selected unit, e.g., telephoning a friend, completed in 7 steps	Recall/Practice	
第14回	Learner selected unit, e.g., telephoning an organization, completed in 7 steps	Recall/Practice	
第15回	Review & evaluate	Recall/Practice	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	40% Semester test (based on language functions and topics practiced in the class)		
レポート	None		
小テスト等	None		
成果発表	40% 5+ units = 40% (A record of 7 completed steps is required for each unit)		
受講態度他	20% Attendance Regulation 10 Article (2) applies (over 5 absences = unqualified). Note: Twice Late = 1 absence. 1 absence: -4%. Late: -2%. Chatting, using a mobile, doing other work = Grade level reduction.		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Learners keep their own dated records of completed steps in each lesson. Accumulated records are brought to subsequent lessons to facilitate learning & assessment. In case of absence, a learner should be prepared to change partners as required, the purpose being to avoid skipping steps herself and to avoid causing the original partner to repeat steps. Permanent pairs are not a course design feature. Change of partner provides challenges that reflect the nature of interaction in the real world.		
教科書	Software, Procedure Guide and Self-assessment role-play cards are provided by the teacher. A B5 notebook is necessary for this class to record steps and should be brought to each class.		
指定図書	None		
参考図書	A Japanese-English, English-Japanese dictionary. Also, an English-English dictionary such as: The Oxford Advanced Learners' Dictionary of English.		
オフィスアワー	Friday 14:50-15:50	メールアドレス	

授業科目	Conversation CII		開講時期	後期
担当教員	D.J. Wood		単位	2
授業の目的と概要	As spoken English proficiency is necessary for successful interaction, students will: aim for conversational competence by practicing intensive question and answer sessions acquire fluent use of prompts and cues raise their level of oral ability enough to produce English that is easy to understand; and practice avoiding unclear usage and common mistakes that can lead to communicative breakdowns.			
到達目標	As target-language, text-free interaction is appropriate for successful communication, students: engage in real life tasks (interviews, Q&A sessions, conversations, topic talks) employ listening and reading activities, integrated with speaking and writing supplement limited class time with self study activities; and, use control language appropriately. Everybody must be positive and outgoing in every class.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	Students acquire real communicative ability by having their own conversation without the interference of a textbook which is anathema to spontaneous interaction			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course Orientation and Overview	To be announced		
第2回	Question and Response Introduction	To be announced		
第3回	Question and Response Pair Practice	To be announced		
第4回	Question and Response Pair Practice	To be announced		
第5回	Question and Response Pair&Group Quiz	To be announced		
第6回	Conversation Practice Outline	To be announced		
第7回	Conversation Pair&Group Practice	To be announced		
第8回	Conversation Pair&Group Practice	To be announced		
第9回	Conversation Pair&Group Quiz	To be announced		
第10回	Pair&Group Presentation Description	To be announced		
第11回	Pair&Group Presentation Practice	To be announced		
第12回	Pair&Group Presentation Practice	To be announced		
第13回	Pair&Group Presentation Quiz	To be announced		
第14回	Review for Presentation Preparation	To be announced		
第15回	Student Presentations and review for test	To be announced		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% Preparation, participation and quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	Study materials to be distributed			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays.	メールアドレス		

授業科目	Core English I		開講時期	前期
担当教員	宮原 牧子		単位	1
授業の目的と概要	このコースは多くのタスク（演習問題）を行う参加型の授業で、英語を楽しく学ぶことを第一の目的とします。Core は（中）核という意味で、皆さんがこれから英語を学習する上で、その中心となる英語の基礎を体系的、段階的に学習して、英語の4技能をしっかり作り上げ、英語学習のナビゲートをします。英語を「勉強する」という気持ちよりは、「慣れ親しんで使う」という気楽な気持ちで取り組んでください。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英文法の基本的なことが十分理解できる。</li> <li>2. 基本的な文法による英文を困難なく読める。</li> <li>3. 英語に対する苦手意識がある場合、それを克服できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は学科DP2「社会生活に必要な英語の基本的文書や資料を読み、書くことができる。」に相当します。後期開講の「Core English II」や「Readin and Writing」の基礎を養う科目です。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	英語力自己診断&オリエンテーション		小テストの復習&テキストの予習(pp. 2-3)	
第2回	Unit 1	文の成り立ち	暗唱プリント&テキストの予習(pp. 8-9)	
第3回	Unit 2	時制	暗唱プリント&テキストの予習(pp. 14-15)	
第4回	Unit 3	文型 [1]	暗唱プリント&テキストの予習(pp. 20-21)	
第5回	Unit 4	文型 [2]	暗唱プリント	
第6回	Unit 1 ~ 4の復習		小テストの準備	
第7回	小テスト(1)&復習		小テストの解きなおし&テキストの予習(p. 26-27)	
第8回	Unit 5	現在完了形	暗唱プリント&テキストの予習(pp. 32-33)	
第9回	Unit 6	助動詞	暗唱プリント&テキストの予習(pp. 38-39)	
第10回	Unit 7	受動態	暗唱プリント	
第11回	Unit 5 ~ 7の復習		小テストの準備	
第12回	小テスト(2)&復習		小テストの解きなおし&テキストの予習(p. 44-45)	
第13回	Unit 8	不定詞	暗唱プリント&テキストの予習(pp. 50-51)	
第14回	Unit 9	動名詞	暗唱プリント	
第15回	Unit 8 ~ 9の復習		期末テストの準備	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60% 学期末定期試験 20% 小テスト(2回) 10%×2			
レポート	-			
小テスト等	-			
成果発表	-			
受講態度他	20% 受講態度と授業への積極的参加を考慮する			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習を必ず行っただうえで授業に出席すること。 毎回テキストの例文をプリントで配布するので、次の講義までに暗唱してくること。			
教科書	清田洋一他著 『English Quest Basic』 (Pearson Longman)			
指定図書	-			
参考図書	講義中にご紹介します。			
オフィスアワー	火曜日4限	メールアドレス		

授業科目	Core English II		開講時期	後期
担当教員	石井 康仁		単位	1
授業の目的と概要	英語を日常で運用できるようになるために、高校までの英語の知識を土台としながら英語を使った情報の受信および発信能力（リーディング・ライティング）を身につける。コミュニケーション・スキルの基礎を培うとともに、英語の構造について理解できるようにすることを目指す。 Core English I で用いた教科書の後半部分を学習していく。同じテキストを用いることで連続性をもたせるとともに、Core English I 及び II を連続して受講する学生には、1年を通して英文法全般の基礎学力がつくよう意図されている。もちろん Core English II のみ受講する学生でも、テキスト後半の内容だけでなく、Core English I にある内容も適宜復習しながら進めていく。テキストには音声CD-ROMが添付されているので、授業の予習・復習に活用することが望まれる。また適宜、副教材プリントを配布し、テキストの内容を補完する演習も行っていく。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 接続詞・現在完了・受動態などの文法事項を説明できる。</li> <li>2. 英文を読みながら、英文の文法構造を説明できる。</li> <li>3. 文法規則に沿った正しい英文を書けるようになる。</li> <li>4. テキストの演習問題を正しく解答できる。</li> <li>5. 論理的思考力をもって演習問題の解答を説明できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP2「社会生活に必要な英語の基本的文書や資料を読み、書くことができる。」の達成に関わる科目です。基礎的なことももう一度確認する趣旨で、他の多くの科目に関わってきます。			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など		
第 1 回	オリエンテーション & 教科書 1 課～9 課の復習	各単元の予習及び復習: 付属 CD-ROM も活用すること		
第 2 回	1 0 課 Robot 分詞	1 0 課の予習: 付属 CD-ROM も活用すること		
第 3 回	1 1 課 Band Concert 比較	1 1 課の予習: 付属 CD-ROM も活用すること		
第 4 回	1 2 課 Let's Go to a Museum! 関係詞	1 2 課の予習 付属 CD-ROM も活用すること		
第 5 回	1 3 課 Miss You. 仮定法	1 3 課の予習 付属 CD-ROM も活用すること		
第 6 回	1 4 課	1 4 課の予習 付属 CD-ROM も活用すること		
第 7 回	1 0 課～1 4 課の復習 & 小テスト	各単元の予習及び復習: 付属 CD-ROM も活用すること		
第 8 回	Unit 17 プリント教材 1 & 英語表現の練習 (ビデオ教材)	各回の授業の予習及び復習: 付属 CD-ROM も活用すること		
第 9 回	プリント教材 2 & 英語表現の練習 (ビデオ教材)	各回の授業の予習及び復習: 付属 CD-ROM も活用すること		
第 10 回	プリント教材 3 & 英語表現の練習 (ビデオ教材)	各回の授業の予習及び復習: 付属 CD-ROM も活用すること		
第 11 回	プリント教材 4 & 英語表現の練習 (ビデオ教材)	各回の授業の予習及び復習: 付属 CD-ROM も活用すること		
第 12 回	プリント教材 5 & 英語表現の練習 (ビデオ教材)	各回の授業の予習及び復習: 付属 CD-ROM も活用すること		
第 13 回	プリント教材 6 & 英語表現の練習 (ビデオ教材)	各回の授業の予習及び復習: 付属 CD-ROM も活用すること		
第 14 回	プリント教材 7 & 英語表現の練習 (ビデオ教材)	各回の授業の予習及び復習: 付属 CD-ROM も活用すること		
第 15 回	全体のまとめ & 小テスト 2	各単元の総復習		
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	6 0 % 学期末定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	2 0 % 小テスト (1 0 % × 2)、再テストは行わない			
成果発表	なし			
受講態度他	2 0 % 受講態度と出席状況 (欠席・遅刻) を含む			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	予習を必ず行っただうえで授業に出席すること。 毎回例文の暗唱を課すので、次の講義までに暗唱してくること。			
教科書	清田洋一他著 『English Quest Basic』 (Pearson Longman)			
指定図書	綿貫陽改訂・著『徹底例解ロイヤル英文法』旺文社、綿貫陽、マーク・ピーターセン共著『表現のためのロイヤル英文法』(旺文社) A Pocket Style Manual (Bedford/St. Martin's 2005)			
参考図書	国際交流センターの英語図書・ソフト (センターに行き利用してください)			
オフィスアワー	月曜日 4 限目、火曜日 1 3 : 3 0 ~ 1 4 : 4 0	メールアドレス		

授業科目	Core Oral English I	開講時期	前期
担当教員	C. B. Painter	単位	1
授業の目的と概要	Participants work in pairs and groups using English at the pre-intermediate level. Information gap exercises will promote authentic communication. Goals and outcomes are highlighted to encourage awareness of communicative purpose, thus promoting and motivating meaningful interaction. Task planning will promote fluency and accuracy. Process maintains importance over product.		
到達目標	Participants increase ability in the skills of listening, speaking, and use of body language. They improve ability to converse for the purpose of getting to know people, giving personal information, describing people, describing routines and schedule, talking about locations, giving directions & talking about the past. Thus fundamental skills required for social life in any culture are developed.		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP1「英語の聴き、話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができる」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	Getting to know people	Review pp. 8-11	
第2回	Giving personal information	Review pp. 12-19	
第3回	Giving personal information	Review pp. 12-19	
第4回	Describing people	Review pp. 20-27	
第5回	Describing people	Review pp. 20-27	
第6回	Describing routines and schedules	Review pp. 28-35	
第7回	Describing routines and schedules	Review pp. 28-35	
第8回	Talking about locations	Review pp. 36-43	
第9回	Talking about locations	Review pp. 36-43	
第10回	Giving directions	Review pp. 44-51	
第11回	Giving directions	Review pp. 44-51	
第12回	Talking about the past	Review pp. 52-59	
第13回	Talking about the past	Review pp. 52-59	
第14回	Review	Review	
第15回	Review	Review	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	80% Final Test		
レポート	None		
小テスト等	None		
成果発表	None		
受講態度他	20% 履修規程第10条(2)に従う(5度を超えると無資格)。注:遅く二度=欠席一度。欠席一度=-4%。遅く一度=-2%。他の仕事をする、携帯電話を使う、しゃべるのは成績評価を一つのレベルによって減少する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Please note: previously used textbooks (Unit 1-6) or photocopies are not permitted. In the case of repeating a semester new textbooks are required. These conditions are required for credit acquisition. Also, a B5 notebook or B5 loose-leaf sheets are necessary. Review the lesson after completion (see: 授業計画: 授業外学修)		
教科書	Each student must have her own new copy of the following text: Marc Helgesen "English Firsthand 1" 2010 edition. (IS BN 978-988-00-3059-8). Photocopies or previously used copies (Unit 1-6) are not permitted.		
指定図書	None		
参考図書	A Japanese-English, English-Japanese dictionary. Also, an English-English dictionary such as: The Oxford Advanced Learners' Dictionary of English.		
オフィスアワー	Friday 14:50-15:50	メールアドレス	



授業科目	Core Oral English I		開講時期	前期
担当教員	D. J. Wood		単位	1
授業の目的と概要	<p>This course develops oral English communication skills up to the STEP grade 2 level spoken interview by:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・using greetings and developing clear pronunciation with phonic support as necessary</li> <li>・making simple explanations about oneself and information that is provided</li> <li>・asking and answering questions about each other in pairs</li> <li>・building vocabulary beyond that which is required at high school</li> <li>・gaining familiarity with and understanding contracted forms of speech</li> <li>・receiving supplementary listening practice through CDs, DVDs, and so on.</li> </ul> <p>Basic Method: Students: use English to discover things about each other in pairs make short English presentations t</p>			
到達目標	<p>In detail, using English, students will:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・master the necessary control language to make input understandable</li> <li>・ask and answer content questions about information split between them</li> <li>・respond to speech gambits and initiate simple conversations</li> <li>・talk about themselves and try to understand others doing the same</li> <li>・use simple visual aids to describe people and places</li> <li>・practice reading aloud clearly and with understanding simple statements and so on.</li> <li>・develop the necessary knowledge and language to identify simple topics.</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>In accordance with departmental diploma policy, this course promotes real English communication and therefore avoids the unnatural and unreal problems arising from any textbooks which defy it.</p>			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Making greetings and participating in English icebreaking games	To be announced		
第2回	Delivering simple self introductions about physical appearance, character, etc.	To be announced		
第3回	Using numbers in meaningful contexts ? e.g. ages, dates of birth, addresses, etc.	To be announced		
第4回	Presenting information about family and friends	To be announced		
第5回	Responding to directions to get around school	To be announced		
第6回	Giving directions around one' s home neighborhood, and to and from school	To be announced		
第7回	Communicating one' s first impressions of school	To be announced		
第8回	Mid-term assessment: a listening exercise based on the class content to date	To be announced		
第9回	Describing simply life at previous schools and one' s favorite things	To be announced		
第10回	Learning to compare previous and present schools simply	To be announced		
第11回	Talking briefly about familiar topics in English, e.g. national holidays	To be announced		
第12回	Conveying opinions about topics of relevance to them, e.g. co-education	To be announced		
第13回	Describing simple short-term plans and possibilities, e.g. weekends and holidays	To be announced		
第14回	Learning from and telling others about basic changes in oneself and one' s routine	To be announced		
第15回	Late-term Assessment: listening review covering recent class content	To be announced		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	Final Pair interviews exam 60%			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	Short Tests and Assessments 40%;			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	Printed materials to be distributed			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays.	メールアドレス		

授業科目	Core Oral English II	開講時期	後期
担当教員	C. B. Painter	単位	1
授業の目的と概要	Participants work in pairs and groups using English at the pre-intermediate level & beyond. Information gap exercises will promote authentic communication. Goals and outcomes are highlighted to encourage awareness of communicative purpose, thus promoting and motivating meaningful interaction. Task planning will promote fluency and accuracy. Process maintains importance over product.		
到達目標	Participants increase ability in the skills of listening, speaking, and use of body language. They improve ability to converse for the purpose of getting to know people, talking about occupations & skills, inviting, suggesting, talking about the future, buying & comparing things, describing processes and talking about personal interests. Thus fundamental skills required for social life in any culture are developed.		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP1「英語の聴き、話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができる」の達成に関わる科目です。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	Getting to know people	Review pp. 8-11	
第2回	Talking about occupations & skills	Review pp. 64-71	
第3回	Talking about occupations & skills	Review pp. 64-71	
第4回	Inviting & suggesting	Review pp. 72-79	
第5回	Inviting & suggesting	Review pp. 72-79	
第6回	Talking about the future	Review pp. 80-87	
第7回	Talking about the future	Review pp. 80-87	
第8回	Buying & comparing things	Review pp. 88-95	
第9回	Buying & comparing things	Review pp. 88-95	
第10回	Describing processes	Review pp. 96-103	
第11回	Describing processes	Review pp. 96-103	
第12回	Talking about personal interests	Review pp. 104-111	
第13回	Talking about personal interests	Review pp. 104-111	
第14回	Review	Review	
第15回	Review	Review	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	80% Final Test		
レポート	None		
小テスト等	None		
成果発表	None		
受講態度他	20% 履修規程第10条(2)に従う(5度を超えると無資格)。注:遅く二度=欠席一度。欠席一度=-4%。遅く一度=-2%。他の仕事をする、携帯電話を使う、しゃべるのは成績評価を一つのレベルによって減少する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Please note: previously used textbooks (Unit 7-12) or photocopies are not permitted. In the case of repeating a semester new textbooks are required. These conditions are required for credit acquisition. Also, a B5 notebook or B5 loose-leaf sheets are necessary. Review the lesson after completion (see: 授業計画: 授業外学修)		
教科書	Each student must have her own new copy of the following text: Marc Helgesen "English Firsthand 1" 2010 edition. (IS BN 978-988-00-3059-8). Photocopies or previously used copies (Unit 7-12) are not permitted.		
指定図書	None		
参考図書	A Japanese-English, English-Japanese dictionary. Also, an English-English dictionary such as: The Oxford Advanced Learners' Dictionary of English.		
オフィスアワー	Friday 14:50-15:50	メールアドレス	

授業科目	Core Oral English II		開講時期	後期
担当教員	T.R. Honkomp		単位	1
授業の目的と概要	A particular focus of Core Oral English II will be to reinforce and develop proficiency in the skills of speaking and listening. This general objective will be achieved through practice of communication on selected topics and texts and through the expression of opinions about those topics. Students will practice these skills weekly with the instructor and with classmates. Special emphasis will be given to expressing and comparing cultural characteristics of Japanese lifestyle.			
到達目標	Vocabulary development will be emphasized as well as the opportunity to introduce cultural aspects of communication. Each unit from the text will have modules of listening, vocabulary and conversation.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP1「英語の聴き、話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができる。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course introduction; course information, policies and expectations	Preview Unit 1		
第2回	Friends; introduction to text, exchanging personal info.	Vocab. #1		
第3回	Past experience; past tense, talking about the past	Vocab. #2		
第4回	Lifestyles; working and free time	Vocab. #3		
第5回	Aesthetic values; beauty, describing people and fashion	Vocab. #4 - Vocabulary Quiz #1		
第6回	Vacations; plans for leisure activities, travel	Vocab. #5		
第7回	Money & finances; budgeting and spending habits	Vocab. #6		
第8回	City & country life; advantages & disadvantages living environment	Vocab. #7		
第9回	Giving opinions; likes and dislikes, expressing opinions	Vocab. #8 - Vocabulary Quiz #2		
第10回	Cooking & food; eating out, eating in, food discussion	Vocab. #9		
第11回	Good times; the best and worst of everything	Vocab. #10		
第12回	Traveling in Japan; explaining cultural attractions in Japan	Vocab. #11		
第13回	The future; making plans, thinking about future life	Vocab. #12 - Vocabulary Quiz #3		
第14回	Student presentations and vocabulary review	Vocab. # 1-12		
第15回	Semester review, exam review and semester consolidation	Exam review sheet		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	25% Final Exam			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	30% Class participation and class activities 45% Three quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions.			
教科書	New Changing Times	Dale & Chris Fuller	MacMillan LanguageHouse	
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Creative Writing		開講時期	前期
担当教員	J. Stewart		単位	2
授業の目的と概要	The purpose of creative writing is to express one's thoughts, feelings and emotions, rather than to simply convey information.			
到達目標	<p>Each lesson will begin with a ten-minute warm-up, written to the "writing prompt" of the day. Some attention will then be given to grammatical points that often trouble students. The main part of the lesson will consist of reading a passage from the textbook and evaluating it in class. Writing assignments will be done either in the classroom or at home. Students should have a computer or tablet with</p> <p>By the end of this course, students will have studied the various forms of creative writing. They will have written passages using each form. They will have submitted a final project.</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	This is an optional course offered by the Department of English and Multimedia.			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course Requirements, Types of Writing, Personal Communication - A Penny for Your Thoughts.	Turn in Writing Task: One-Day Diary Entry.		
第2回	Personal Communication - Travel Diaries, Dream Diaries, etc. The Wild Blue Yonder.	Turn in Writing Task: One-Day Travel Journal.		
第3回	Personal Communication - Journals. Waterfalls.	Turn in Writing Task: Describe a Waterfall		
第4回	Personal Communication - Dream Journals. Merrily, Merrily, Merrily, Merrily.	Turn in Writing Task: Write About a Dream		
第5回	Media Communication - Newspaper Article, Editorial, Weather Report, etc. Read All About It!	Task: Write an Advertisement (or a Comic Strip / or an Advice Column).		
第6回	Drama - You're on the Air!	Turn in Writing Task: A Television CM (Commercial Advertisement).		
第7回	Drama - Video Drama, Puppet Show, Monologue, etc. When Fairy Tales Come True.	Turn in Writing Task: Write an Original Fairy Tale.		
第8回	Stories: Be Thou the Joyful Player.	Turn in Writing Task. Write a Classroom Play, Soap Opera, etc.		
第9回	Film: Lights, Camera, Action!	Turn in Writing Task: Simon's Cat Original Screenplay.		
第10回	Film: That's Awesome!	Turn in Writing Task: Write a Set-Piece Scene for a Movie.		
第11回	Film: 17.	Turn in Writing Task: Watch a movie. Tell what happens at 17 minutes.		
第12回	Poetry: Stepping Outside of Yourself.	Turn in Writing Task: Write a Poem		
第13回	Poetry: Finding Yourself Again.	Turn in Writing Task: Write a Sonnet.		
第14回	Poetry: Sestina.	Turn in Writing Task: Write a Sestina (or a half-Sestina).		
第15回	Poetry: Seventeen Syllables.	Turn in Writing Task: Write a Haiku (in English).		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	75% for in-class /at home writing tasks (5% x 15 weeks); 25% for final writing project			
小テスト等	0%			
成果発表	Nothing			
受講態度他	・			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>Students must bring a notebook or a laptop PC each week on which to write notes. As this course is offered by the Department of English and Multimedia, students should also demonstrate computer literacy.</p> <p>This course is meant to convey an enjoyable atmosphere for learning to write in English. Please do not abuse your privileges.</p>			
教科書	Inklings II - ISBN 978-1-312-04857-7. Students must buy it the first day of class. Students who obtain a used book may suffer a loss of many points; the purpose of the course is to DO YOUR OWN WORK.			
指定図書	・			
参考図書	・			
オフィスアワー	Wednesday 2nd Period.	メールアドレス		

授業科目	English Interpreting		開講時期	後期
担当教員	野中 誠司		単位	2
授業の目的と概要	<p>英語通訳におけるトレーニング方法について知り、それらを実践することで、総合的な英語力を身につけることを第1目的とする。また、通訳者の役割である、内容を他人にわかりやすく伝えるというプレゼンテーション能力の習得を通じて、社会生活に必要な基礎的スキルであるコミュニケーション・スキル、論理的思考力、問題解決能力などの向上を第2目的とする。</p> <p>通訳の訓練方法を英語力の向上に応用することを目的とした授業を行う。訓練の基本はスピードであり、聞いたものにすばやく反応する瞬発力と聴解力が重要である。なぜならば、通訳者の役割は、話し手からのメッセージを第三者に伝えることだからである。受講者にはこうした訓練に対応できる一定の英語力が備わっていることが望ましい。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 通訳訓練のさまざまな方法を理解し、それらを的確に実践できる。</li> <li>2. 習得した訓練法を用いて、聴衆にわかりやすい通訳（プレゼンテーション）ができる。</li> <li>3. 通訳訓練で得た知識や技能を、自己にふさわしい将来設計（キャリアプランニング）に活用できる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 自己紹介		課題		
第2回 自己紹介、家族		課題		
第3回 家族、大学生生活		課題		
第4回 大学生生活		課題		
第5回 医療		課題		
第6回 医療		課題		
第7回 国際交流 I		課題		
第8回 国際交流 I		課題		
第9回 日本文化		課題		
第10回 日本文化		課題		
第11回 環境		課題		
第12回 環境		課題		
第13回 国際交流 II		課題		
第14回 国際交流 II		課題		
第15回 まとめ		復習		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	なし			
小テスト等	30%			
成果発表	なし			
受講態度他	20%：主体的かつ積極的に参加している点を評価する。無条件で付与される出席点ではない。無断欠席および遅刻は回数に関係なく減点する。10分以上の遅刻も欠席とみなす。無断欠席6回で受講放棄と判断し、名簿から氏名を削除する。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 配付するプリントには予備がないので、紛失しないように自己管理を徹底すること。また欠席した場合は、クラスメートから借りてコピーをとるなど自主的に対応すること。</li> <li>2. 名簿順に座席を指定するので、指定された席にすわる。座席の要望があれば、開講日に受けつけるので申し出ること。</li> <li>3. 病気、忌引などやむをえない理由で欠席した場合は、客観的な証明書類を後日必ず提出すること。提出がない場合、無断欠席として処理する。</li> </ol>			
教科書	使用しない。適宜プリントを配付する。			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介する。			
オフィスアワー	授業の前後に相談のこと。	メールアドレス		

授業科目	English Meaning and Use I		開講時期	前期
担当教員	中村 テーマ		単位	2
授業の目的と概要	In this class we will look at language and meaning first through jokes. Then we will examine common mistakes made by Japanese speakers of English to understand how the meaning differs from English. The goal is to use native-like English. You will understand jokes in easy English to understand the meaning of language. Then you will examine Japanese speakers common mistakes in English and find the difference in meaning and use in native English. Finally, the humorous sense of language in daily life will be understood using Snoopy comic strips.			
到達目標	①to understand the meaning of humor in English through Snoopy and jokes. ②to explain the meaning of Japanese English speakers' common mistakes and use the native English expression. ③to use native -like English			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Introduction		資料 1		
第2回 Hello. How are you?		資料 2		
第3回 I will stay at Hilton Hotel.		資料 3		
第4回 Can I drink water?		資料 4		
第5回 Just a moment please.		資料 5		
第6回 Could you take a picture for me?		資料 6		
第7回 Please give me time.		資料 7		
第8回 May I have your name, please?		資料 8		
第9回 We have four seasons in Japan.		資料 9		
第10回 I' m sorry.		資料10		
第11回 I' m an office worker.		資料11		
第12回 Are you sure?		資料12		
第13回 Can you teach me your telephone number?		資料13		
第14回 Please use your mobile phone gently		資料14		
第15回 Review		講義の際に指示します。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	80% (2 tests - 40% each)			
レポート	-			
小テスト等	-			
成果発表	10% in-class dicussion			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Review and self-study of all handouts.			
教科書	Tamah Nakamura 『Basics in Language and Communication』 松柏社			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	月曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	English Meaning and Use II		開講時期	後期
担当教員	石井 康仁		単位	2
授業の目的と概要	In this class the goal is to use native-like English. You will examine Japanese speakers' common mistakes in English and find the difference in meaning and use in native English. Also, the humorous sense of language in daily life will be understood using Snoopy comic strips. We may add some topics and activities as we go along.			
到達目標	①to understand the meaning of humor in English through Snoopy and jokes. ②to explain the meaning of Japanese English speakers' common mistakes and use the native English expression. ③to use native -like English			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Introduction		資料 1		
第2回 You can call me Jim		資料 2		
第3回 I can speak English a little.		資料 3		
第4回 I had a chicken for lunch.		資料 4		
第5回 Take it easy.		資料 5		
第6回 How do you like my hair?		資料 6		
第7回 Can you read hiragana?		資料 7		
第8回 Your number is wrong.		資料 8		
第9回 We've lost.		資料 9		
第10回 The flue is popular this year.		資料10		
第11回 Let's finish the game.		資料11		
第12回 We can discount 10% of the digital camera.		資料12		
第13回 Is there anything to drink?		資料13		
第14回 I hope you'll find a job		資料14 I've had enough.		
第15回 Review		講義の際に指示します。		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	80%			
レポート	-			
小テスト等	-			
成果発表	10% in-class discussion			
受講態度他	10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Review and self-study of all handouts.			
教科書	初回の授業で指示します。			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスワー	月曜日 5 時限目、火曜日 5 時限目、木曜日 2 時限目	メールアドレス		

授業科目	English Songs	開講時期	後期
担当教員	田江 安廣	単位	2
授業の目的と概要	This class will focus on studying English through English songs. Emphasis will be placed on developing more accurate pronunciation, improving listening, increasing vocabulary, and exploring cultural aspects of songs. The class includes pronunciation practice, vocabulary expansion, rhythm, liaison (sound connection between words), etc. We will also look at emotions expressed in songs, including songs written to reflect strongly held personal views and aimed at having an impact on society and the world at large (civil rights, anti-war, etc.). Students will also participate in group discussion relating to the various song topics. Although students will have a chance to sing along with the songs we learn, singing is not required. However, students will be expected to pronounce song lyrics.		
到達目標	At the end of this course, students should: (1) pronounce English with greater accuracy; (2) have a basic understanding of liaison in both speech and singing; (3) have an expanded vocabulary, particularly relating to the various themes discussed in this class; (4) have an increased understanding and appreciation of how culture can be reflected in music.		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	Orientation & Class Overview Theme #1 (Music)	復習	
第2回	Introduction to Liaison; Listening Strategies (Ongoing) Music (Continued)	復習	
第3回	Theme #2 (House & Home) ~ Theme-related Songs & Learning Activities	復習	
第4回	House & Home (Continued) ~ Group Discussion & Theme Wrap-up	復習	
第5回	Theme #3 (Travel) ~ Theme-related Songs & Learning Activities	復習	
第6回	Travel (Continued) ~ Group Discussion & Theme Wrap-up Theme #4 (Nature) ~ Theme-related Songs & Learning Activities	復習	
第7回	Nature (Continued) ~ Group Discussion & Theme Wrap-up	復習	
第8回	Theme #5 (Holidays & Celebrations) ~ Theme-related Songs & Learning Activities	復習	
第9回	Holidays & Celebrations (Continued) ~ Group Discussion & Theme Wrap-up	復習	
第10回	Theme #6 (Music & Societal Messages 1): Life Struggle, Hardship, Perseverance ~ Theme-related Songs & Learning Activities	復習	
第11回	Music & Societal Messages 1 (Continued) ~ Group Discussion & Theme Wrap-up	復習	
第12回	Theme #7 (Self-awareness): One's Life Influences So Far Theme-related Songs & Learning Activities	復習	
第13回	Self-awareness (Continued) ~ Group Discussion & Theme Wrap-up	復習	
第14回	Theme #8 (Music & Societal Messages 2): Love, World Peace, Anti-war ~ Theme-related Songs & Learning Activities	復習	
第15回	Music & Societal Messages 2 (Continued) Final Project (Personal "Good News" Newspaper) ~ Pre-Exam Wrap Up	復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	30% ~ Final Exam		
レポート	40% ~ Final Project (Personal "Good News" Newspaper)		
小テスト等	-		
成果発表	-		
受講態度他	30% ~ Homework, Class Participation, Attitude		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Students will be expected to bring all class materials to every class. Failure to do so will negatively influence final grades.		
教科書	There is no textbook in this class, but students will need a Clear File Notebook (A4 ~ 40-60 pages). Handouts and other class materials will be provided by the instructor.		
指定図書	-		
参考図書	-		
オフィスアワー	授業後; その他随時	メールアドレス	



授業科目	English Songs	開講時期	後期
担当教員	太田 梢	単位	2
授業の目的と概要	<p>本講義は、英語の歌を介して英語力を向上させることを目的とする。          テーマにそった英語の歌をリスニングすることにより、発音や表現方法を耳から習得していく。          また、歌詞を多読することにより、語彙力・文法力も鍛える。          さらに歌の時代背景をディスカッションを通して学んでいくことで、歌が社会・文化に与える／与えられた影響も考えていく。          本講義を通して、英語力と同時に文化への理解力、双方の向上が期待されている。</p>		
到達目標	<p>1. 英語のリスニング力の向上          2. 英語の語彙力・文法力の向上          3. 時代背景を通して社会・文化を読み取る力の養成</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 イントロダクション 授業の進め方、成績の評価方法などを説明します。また、アンケートを実施します。詳しくは授業中		授業中に指示します。	
第2回 歌とは何か？ 「歌」とは何か？まず、英語の歌の「しくみ」について概説を行います。		授業中に指示します。	
第3回 歌の種類について① 歌にはどのような種類があり、どのような特徴があるでしょうか？時系列に事例を挙げて説明します		授業中に指示します。	
第4回 歌の種類について②ディスカッション 第3回であげた事例を詳しくみていきましょう。		授業中に指示します。	
第5回 歌の種類について③ディスカッション 同上		授業中に指示します。	
第6回 歌の種類について④まとめ 同上		授業中に指示します。	
第7回 トピック1—① 世界的な事件に関する2曲をクローズアップし、社会と歌の関連性を読み解きます。		授業中に指示します。	
第8回 トピック1—②ディスカッション 同上		授業中に指示します。	
第9回 トピック2—① 同上		授業中に指示します。	
第10回 トピック2—②ディスカッション		授業中に指示します。	
第11回 トピック3—① 社会的な流行を2曲クローズアップし、文化と歌の関連性を読み解きます。		授業中に指示します。	
第12回 トピック3—②ディスカッション 同上		授業中に指示します。	
第13回 トピック4—① 同上		授業中に指示します。	
第14回 トピック4—②ディスカッション 上に加え、次週に提出してもらう小レポートに対する留意点を解説し、各々の苦手克服に沿ったアド		授業中に指示します。	
第15回 総論<小レポート提出> まとめと定期試験の説明を行います。		授業中に指示します。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	40%		
レポート	30%		
小テスト等	0%		
成果発表	0%		
受講態度他	30%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>日常的に新聞やメディア情報のチェックを行うこと。          授業中の私語や携帯電話の使用、飲食は厳禁。          遅刻・欠席は理由を明確に、可能であれば事前連絡が望ましい。</p>		
教科書	なし。各回オリジナルプリントを配布する。		
指定図書	なし。		
参考図書	初回のイントロダクション及び各回で紹介する。		
オフィスアワー	授業前後が望ましい。	メールアドレス	

授業科目	Film Communication		開講時期	前期
担当教員	D. J. Wood		単位	2
授業の目的と概要	This course develops Visual Literature so it is an advantage to take the Year 2 course first if possible. While Visual Literature featured how a novel is translated into a movie, Film Communication examines movies that begin as just an idea and develop into a shooting script, which precedes the making of the movie. We will read about the movie in class and practice some of the dialogues before watching short scenes to see how a movie communicates its message both in terms of the plot and the different levels of symbol, metaphor and image, visual, oral, aural and otherwise.			
到達目標	By studying the nature of a movie as an act of communication, students will understand more about how other movies work and about communication itself, as well as improving their language ability and knowledge of movies and culture.  Students will practice both spoken and written communication, and will acquire both interpretational and predictive skills. Movies have become the de facto literature of the 20th and 21st centuries, and include some of the greatest stories told so it is a necessary communication skill to understand their structure and purpose in order to evaluate them			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 Overall Introduction		To be announced		
第2回 Specific Introduction		To be announced		
第3回 Scene & Reading 1		To be announced		
第4回 Scene & Reading 2		To be announced		
第5回 Scene & Reading 3		To be announced		
第6回 Scene & Reading 4		To be announced		
第7回 Scene & Reading 5		To be announced		
第8回 Review 1		To be announced		
第9回 Class Test 1		To be announced		
第10回 Results & Retest as required		To be announced		
第11回 Scene & Reading 6		To be announced		
第12回 Scene & Reading 7		To be announced		
第13回 Scene & Reading 8		To be announced		
第14回 Review 2		To be announced		
第15回 Class Test 2		To be announced		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% Readings, Q&A and class participation			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	Materials will be explained in class			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays.	メールアドレス		

授業科目	【閉講】 Gender and Communication		開講時期	後期
担当教員	中村 テーマ		単位	2
授業の目的と概要	Students will be able to identify and list differences in male and female communication styles in the USA. They will be able to compare male and female communication styles in Japanese society. The use of viewing materials demonstrates how gendered communication socialized at the physical, non-verbal levels, as well as at the word, speech, verbal levels..			
到達目標	Students will watch short dvd and flim clips of communication examples and learn related vocabulary and concepts. They will be able to identify male and female communication styles in social settings as well, from direct observation and in-class readings. Examples drawn from Japanese social settings will be used for comparison.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は英語学科DP④「英語を活かすための職業上の知識や技能の基礎を身につけている。」に関連する科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Gender and Communication (Male and female differences in verbal and non-verbal behavior) Introduction	予習		
第2回	Gender observation discussion	Observation list		
第3回	Non-Japanese observation examples: discussion and written report	予習		
第4回	Gender reading: elementary grade 1 (text) (Norway)	予習		
第5回	Gender reading: elementary grade 2 text (Norway)	予習		
第6回	Gender reading: elementary grade 3 text (Norway)	予習		
第7回	Gender reading: elementary grade 4 text (Norway)	予習		
第8回	Gender reading: elementary grade 5 text (Norway)	予習		
第9回	Gender reading: elementary grade 6 text (Norway)	予習		
第10回	Discussion on gender teaching points in texts; written report.	予習		
第11回	Killing Us Softly: Advertising for Girls and Women - view material	予習		
第12回	Discussion - Killing Us Softly: advertising for girls and women	予習		
第13回	Tough Guise: Advertising for Boys and Men - view material	予習		
第14回	Discussion and comparions with Japanese advertising	予習		
第15回	Written report: Comparison U.S./Japan gender advertising in terms of body language	予習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70% (Final test)			
レポート	30% (1 observation list of Japanese examples ; 2 reports)			
小テスト等	-			
成果発表	None			
受講態度他	None			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Attendance and active participation are required.			
教科書	Materials will be provided by the teacher			
指定図書	None			
参考図書	Appropriate library references to be announced in class			
オフィスアワー	月曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	Hotel and Airline English I		開講時期	前期
担当教員	三日月 雅子		単位	2
授業の目的と概要	英語はグローバル社会での基本的なコミュニケーション・スキルです。必要な実践的な英語力を身に付けることこそ重要な課題といえます。この授業ではAirlineとHotel英語に特化した学習を目的とします。英語で不自由する理由の1つに、遭遇する各場面での対処の仕方に不慣れであり、その場面で必要な表現を知らないことが挙げられます。授業では、私たちが海外旅行の際に遭遇する様々な場面での「役に立つ実践的な英語」を学習し、旅行およびホテル英語の基本的なリスニングとスピーキングを効果的に学び、コミュニケーションスキルの向上を目指します。授業は主としてペアワークでの口頭発表です。			
到達目標	旅行業界・ホテル業界への就職に興味がある学生やTOEICのリスニング力をアップさせたい学生にとってのスキルアップを到達目標とします。また、近い将来、海外旅行を計画している学生には即戦力としての役立つ旅行英語を習得することもできます。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	前期授業の進行の説明		別途指示	
第2回	Prologue-Before you startのListeningとSpeaking		課題	
第3回	Prologue-Before you start のReadingとTip		課題	
第4回	On an AirplaneのListeningとSpeaking		課題	
第5回	On an AirplaneのReadingとTip		課題	
第6回	At Honolulu Airport-Immigration and CustomsのListeningとSpeaking		課題	
第7回	At Honolulu Airport-Immigration and CustomsのReadingとTip		課題	
第8回	Transit at Honolulu AirportのListeningとSpeaking		課題	
第9回	Transit at Honolulu AirportのReadingとTip		課題	
第10回	Hotel-Check-inのListeningとSpeaking		課題	
第11回	Hotel-Check-inのReadingとTip		課題	
第12回	Staying at HotelのListeningとSpeaking		課題	
第13回	Staying at HotelのReadingとTip		課題	
第14回	前期復習		復習	
第15回	前期復習		復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%：定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	Listening test			
成果発表	20%：ペアワークによる口頭発表			
受講態度他	20%：出席状況および発表等による授業への参加を考慮			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	テキストに沿った予習が必ず必要です。さらに、毎授業、英語表現を暗記して発表することが求められます。			
教科書	著者：三日月 雅子 Fly across the Borders 出版社名：松柏社 ISBN 978-4-88198-685-1			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワー	火曜日：昼休みと3限目以降、 水曜日：昼休み	メールアドレス		

授業科目	Hotel and Airline English II		開講時期	後期
担当教員	三日月 雅子		単位	2
授業の目的と概要	英語はグローバル社会での基本的なコミュニケーション・スキルです。必要な実践的英語力を身に付けることこそ重要な課題と言えます。 後期のこの授業では、前期に引き続きAirlineと Hotel 英語に特化した学習に加えて、海外旅行で必要とされる英語表現等の学習を目的とします。英語で不自由する理由の1つに、遭遇する各場面での対処の仕方に不慣れであり、その場面で必要な表現を知らないことが挙げられます。授業では、私たちが海外旅行の際、遭遇する様々な場面での「役に立つ実践的な英語」を学習し、旅行およびホテル英語の基本的なリスニングとスピーキングを効果的に学び、コミュニケーションスキルの向上を目指します。後期の授業では、前期の基本表現の精度をさらに深めて、「本場に役に立つ実践的旅行英語」の学習に力を入れたいと思います。授業は主としてペアワークでの口頭発表です。			
到達目標	旅行業界・ホテル業界への就職に興味がある学生やTOEICのリスニング力をアップさせたい学生にとってのスキルアップを到達目標とします。また、近い将来、海外旅行を計画している学生には即戦力としての役立つ旅行英語を習得することもできます。			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	前期授業の復習と後期授業の説明		別途指示	
第2回	Exchange money : Listening&Speaking		課題	
第3回	Exchange money : Reading&Tip		課題	
第4回	Transportation : Listening&Speaking		課題	
第5回	Transportation : Reading&Tip		課題	
第6回	Sightseeing : Listening&Speaking		課題	
第7回	Sightseeing : Reading&Tip		課題	
第8回	Restaurants : Listening&Speaking		課題	
第9回	Restaurants : Reading&Tip		課題	
第10回	Hotel-Check-out : Listening&Speaking		課題	
第11回	Hotel-Check-out : Reading&Tip		課題	
第12回	Going back home : Listening&Speaking		課題	
第13回	Going back home : Reading&Tip		課題	
第14回	後期復習		復習	
第15回	後期復習		復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60% : 定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	Listening test			
成果発表	20% : ペアワークによる口頭発表			
受講態度他	20% : 出席状況および発表等による授業への参加を考慮			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	テキストに沿った予習が必要です。さらに、毎授業、英語表現を暗記することが求められます。			
教科書	著者：三日月 雅子 Fly across the Borders 出版社名：松柏社 ISBN 978-4-88198-685-1			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワー	火曜日：昼休みと4限以降 金曜日：昼休み	メールアドレス		

授業科目	Intercultural Communication I		開講時期	前期
担当教員	C. B. Painter		単位	2
授業の目的と概要	Participants gain understanding of Intercultural Communicative Competence through the presentation and discussion of basic Intercultural Communication concepts. These include characteristics of: socialization, perception and the ability to distinguish generalization & stereotype. Verbal/non-verbal communication & multiculturalism are also covered. During the lesson participants discuss and provide example situations from their own experience which clarify the characteristics under discussion. The development of self-realization and social responsibility is encouraged. This course is an introduction to Intercultural Communication, with the aim of achieving Intercultural Communicative Competence.			
到達目標	Participants achieve proficiency in recognizing & describing Intercultural Communicative Competence and component parts. Participants are prepared to exercise Intercultural Communicative Competence in interaction. Also, participants can recognize hindrances to Intercultural Communicative Competence and employ methods to overcome them. Understanding the contents will enhance self-realization and therefore an increased sense of social responsibility.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Intercultural Communicative Competence: introduction to comparative analysis	Comparison Selection		
第2回	Intercultural Communicative Competence: preliminary identification of abilities	Comparative Opinion		
第3回	Culture & Identity - Socialization	① pp1-7 ② pp8-11		
第4回	Hidden Culture - Importance of perceptiveness	① pp8-12 ② pp12-13		
第5回	Hidden Culture - Values - Proverbs	① pp8-12 ② pp12-13		
第6回	Stereotypes - Origin - Definition	① pp15-21 ② pp14-19		
第7回	Stereotypes - Distinguishing generalization & stereotype	① pp15-21 ② pp14-19		
第8回	Words - Verbal communication, symbol	① pp23-29 ② pp20, 22		
第9回	Non Verbal Communication - Gesture and body language	① pp31-37 ② pp24-5, 26		
第10回	Diversity - Cultural identity - Accepting difference	① pp39-45 ② pp28, 30		
第11回	Diversity - Multiculturalism	① pp39-45 ② pp28, 30		
第12回	Intercultural Communicative Competence: comparative analysis	Comparison Selection		
第13回	Intercultural Communicative Competence: identifying abilities	Comparative Opinion		
第14回	Intercultural Communicative Competence: assessing abilities. Evaluate	Comparative Assessment		
第15回	Review	Revision points		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40% Semester test			
レポート	40% 6 Lesson Preparation Assignments (6.66% x 6 = 40%)			
小テスト等	None			
成果発表	None			
受講態度他	20% Attendance Regulation 10 Article (2) applies (over 5 absences = unqualified). Note: Twice Late = 1 absence. 1 absence: -4%. Late: -2%. Chatting, using a mobile, doing other work = Grade level reduction.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Please note: previously used textbooks or photocopies are not permitted. In the case of repeating a semester new textbooks are required. Lesson Preparation Assignments must be recorded in two places (A) & (B): (A) In the textbook and (B) on a separate B5 sheet for submission. These conditions are required for credit acquisition. Also, a B5 loose-leaf notebook is necessary specifically for this class, particularly for the Lesson Preparation Assignments.			
教科書	Students must have 2 new text copies: Joseph Shaules ① "Different Realities" Nan' un-do. Joseph Shaules ② "Culture in Action" Nan' un-do (photocopies/used copies are not permitted). Other prints will be provided by the teacher			
指定図書	None			
参考図書	A Japanese-English, English-Japanese dictionary. Also, an English-English dictionary such as: The Oxford Advanced Learners' Dictionary of English.			
オフィスアワー	Friday 14:50-15:50	メールアドレス		

授業科目	Intercultural Communication II		開講時期	後期
担当教員	C. B. Painter		単位	2
授業の目的と概要	Participants gain understanding of Intercultural Communicative Competence through the presentation and discussion of basic Intercultural Communication concepts. These include characteristics of: perception, communication styles, values, deep culture and culture shock. During the lesson participants discuss and provide example situations from their own experience which clarify the characteristics under discussion. The development of self-realization and social responsibility is encouraged. This course is an introduction to Intercultural Communication, with the aim of achieving Intercultural Communicative Competence.			
到達目標	Participants achieve proficiency in recognizing & describing Intercultural Communicative Competence and component parts. Participants are prepared to exercise Intercultural Communicative Competence in interaction. Also, participants can recognize hindrances to Intercultural Communicative Competence and employ methods to overcome them. Understanding the contents will enhance self-realization and therefore an increased sense of social responsibility.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Intercultural Communicative Competence: introduction to comparative analysis	Comparison Selection		
第2回	Intercultural Communicative Competence: preliminary identification of abilities	Comparative Opinion		
第3回	Perception - Describing and interpreting	① pp47-53 ② pp32		
第4回	Perception - Other & self	② pp34-35		
第5回	Communication Styles (1) - Directness, use of silence & cognitive styles	① pp56-62 ② pp36-37		
第6回	Communication Styles (1) - Recognizing styles	① pp56-62 ② pp36-37		
第7回	Communication Styles (2) - Context & involvement	① pp63-69 ② pp38		
第8回	Values - Cultural values, personal values	① pp71-77 ② pp40		
第9回	Values - Cultural dependency	① pp71-77 ② pp40		
第10回	Deep Culture - Beliefs, values, use of time, individualism & collectivism	① pp79-85 ② pp42-43		
第11回	Culture Shock - Surprise, stress, shock and adaptation	① pp87-93 ② pp44-45		
第12回	Intercultural Communicative Competence: comparative analysis	Comparison Selection		
第13回	Intercultural Communicative Competence: identifying abilities	Comparative Opinion		
第14回	Intercultural Communicative Competence: assessing abilities. Evaluate	Comparative Assessment		
第15回	Review	Revision points		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40% Semester test			
レポート	40% 7 Lesson Preparation Assignments (5.7% x 7 = 40%)			
小テスト等	None			
成果発表	None			
受講態度他	20% Attendance Regulation 10 Article (2) applies (over 5 absences = unqualified). Note: Twice Late = 1 absence. 1 absence: -4%. Late: -2%. Chatting, using a mobile, doing other work = Grade level reduction.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Please note: previously used textbooks or photocopies are not permitted. In the case of repeating a semester new textbooks are required. Lesson Preparation Assignments must be recorded in two places (A) & (B): (A) In the textbook and (B) on a separate B5 sheet for submission. These conditions are required for credit acquisition. Also, a B5 loose-leaf notebook is necessary specifically for this class, particularly for the Lesson Preparation Assignments.			
教科書	Students must have 2 new text copies: Joseph Shaules ① "Different Realities" Nan' un-do. Joseph Shaules ② "Culture in Action" Nan' un-do (photocopies/used copies are not permitted). Other prints will be provided by the teacher			
指定図書	None			
参考図書	A Japanese-English, English-Japanese dictionary. Also, an English-English dictionary such as: The Oxford Advanced Learners' Dictionary of English.			
オフィスアワー	Friday 14:50-15:50	メールアドレス		

授業科目	Internet English I	開講時期	前期
担当教員	大場 智恵子	単位	2
授業の目的と概要	<p>Internetで使われている英語表現、画面構成などを認識することを目的とする。また、webの可能性、効用などを具体的なサイトを閲覧しながら考察する。パソコンの使用を通じて、コンピューター、ネットワークの仕組み、ファイル管理、コントロールパネルの使い方を実践的に学ぶ。前期を通じTravel Abroadをテーマとしてリサーチ、学習していく。</p> <p>課題に取り組む際、自分に必要な情報を迅速に得る方法を考察する。この活動を重ねることでリーディングやライティングスキルが向上する。かな打ち、英文入力、テンキーなどのブラインドタッチの練習も一年を通じ行っていく。ペアアクティビティーとして、自宅学習してきた各週のメインテーマについて口頭発表を毎回実施。</p>		
到達目標	<p>海外のサイトの基本的な見方を解釈する。サイト上での英語に慣れる。 英語のサーチエンジンを使い方と、情報の検索、取捨選択の効率的な方法を推論できる。 課題へ取り組むことにより、英語サイトのコンテンツのリーディングにおけるスキミングと、ライティング力の強化を目標とする。</p>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、主に英語学科のDP1「英語を活かすための職業上の知識や技能の基礎を身につけている。」の達成に関わる科目です。本講座で学んだスキルを、3年次開講の「Business English」や2・3年次開講の「旅行実務」で実践することが望まれます。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション、講義の説明、筑女ネットについて		筑女ネットについてその仕組みを学習	
第2回 フォルダー管理についての学習、Active Mailの使用法		Active Mailの基本的な使い方について使い方を学ぶ。	
第3回 Active Mail!の使用法2、フォルダー管理についての学習		自分のPCのフォルダーの基本的な成り立ちを理解する。	
第4回 Travel: 海外の都市についての演習: City		課題1-自分の興味のある海外の都市の概要について調べる。	
第5回 Travel: Air Travel - 海外の航空便をバーチャルで予約		課題2-都市間の航空券のスケジュール日程を組む	
第6回 Travel: Air Line予約と世界の時差について		課題3-航空チケット予約に発生する時差について学習	
第7回 Travel: Hotel 海外のホテルをバーチャルで予約		課題4 ホテルを予約して料金とスケジュールを計算。	
第8回 Travel: Rent-A-Car - レンタカーをバーチャルで予約		課題5 実際にレンタカーを借りて料金と日程を計算。	
第9回 Travel: 海外の都市をナビする。		課題6 実際に地図で目的地を確認してみよう。	
第10回 Travel: Map		課題7 地図の見方と目的地をつなぐ。	
第11回 Travel: 国際電話のかけ方と時差について		課題8-世界の各都市の時差を考えてみる。	
第12回 Travel: Public Transportation - Subway		課題9- New York の地下鉄をネットの時刻表を使って予約	
第13回 Travel: イベントの探し方		課題10- 海外の都市のイベントの探し方	
第14回 Travel: Final Reportについての説明 1		Final Report の大まかなプランを考える。	
第15回 Travel: Final Reportについての説明 2		Final Report の細かいスケジュールをつめていく。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	80% 課題 (80点) 20% 学期末レポート		
小テスト等	なし		
成果発表	原則、翌週に採点后、返却		
受講態度他	講義中、指定されたサイト以外に勝手に行かないこと。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	課題はペアで提出する場合もある。遅刻に関しては、事後申告は証明できない為特例を除き原則認めない。		
教科書	プリント配布		
指定図書	特になし。		
参考図書	授業の中で適宜紹介		
オフィスワーカー	授業の前後に相談のこと	メールアドレス	



授業科目	Internet English II		開講時期	後期
担当教員	大場 智恵子		単位	2
授業の目的と概要	<p>①InteractiveなWebをバーチャル体験することによって、英語圏の本場の英語に触れる機会を持つ。          ②前期に習得した様々なコンピューター情報処理技術の応用と更なる習得を目指す。          ③コンピューターと英語力両方のスキルの習得。</p> <p>シラバスに沿って様々なサイトを閲覧、検索しながら自分にあつた情報を迅速に得る方法を判断。かな打ち、英文入力、テンキーなどのブラインドタッチ入力の練習も前期に引き続き通じて行う。webの可能性、効用などを具体的なサイトを閲覧しながら学習するが、その過程で現地の生活をバーチャル体験する機会を持つ。</p>			
到達目標	<p>①将来の就職活動や日常生活、または学習や趣味での日本語と英語での有益な情報収集やその取捨選択の方法への理解ができる。          ②パソコンの使い方を通じて、Internetで使われている英語表現、画面構成などの解釈が可能となる。          ③ニーズに応じた情報を迅速に得る方法を習得することを目指し、講義の中で様々なサイトを閲覧、検索する</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP1「英語を活かすための職業上の知識や技能の基礎を身につけている。」の達成に関わる科目です。本講座で学んだスキルを、3年次開講の「Business English」や2・3年次開講の「旅行実務」で実践することが望まれます。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション、筑女ネットの使い方についての学習、私のお気に入りサイトの作成	Presentationの準備		
第2回	グループプレゼンテーション、フォルダー管理、I.E.の使い方について	課題1-プレゼンテーションイメージトレーニングする		
第3回	Yahooメールの使い方、英語版アカウントの取得	課題2 - Yahoo Mailを実際に送ってみる。		
第4回	People 海外のHP(Yahoo Home Page)を閲覧し、英語サイトの構成を学ぶ	課題3 - 事前に、海外の様々なサイトを比較研究してくる。		
第5回	海外のメールアドレスを取得 (Yahoo Mail -個人情報の管理法を学ぶ)	課題4 - 個人情報の開示のレベルに関して学習してくる		
第6回	People 海外の自己紹介サイトを閲覧し、英語での自己表現法を学習	課題5 - Interpals のIDを取得し、個人情報管理を学習		
第7回	Interpals のIDを取得し、個人情報管理を学習	課題6 - Interpals IDを取得する		
第8回	海外の人と文通し、そのlogをつけてみる。海外の人とChatしてみる。	課題7 - Chatで使う表現を調べてくる		
第9回	Astrology 星占い	課題8 - 自分の星座についてリサーチする		
第10回	Online Shoppingについて 国内と海外のOnline Shoppingの違いを学ぶ	課題9 - 本をオンラインショッピングでバーチャルで購入		
第11回	Google英語版の活用法について	課題10 - Googleの使い方について自主学習してくる		
第12回	Music 外国の音楽の情報収集法を学習	課題11 - Youtubeと Yahoo Musicの違いについて調べる		
第13回	Mvie 外国の映画の情報収集法を学習	課題12 - 外国の映画や俳優について調べてくる		
第14回	日本語版サーチエンジンの情報検索法	課題13 - 日本語のサーチエンジンについて調べてみる。		
第15回	英語版サーチエンジンの情報検索法	課題14 - Googleの使い方について自主学習してくる		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	あり(20%)			
レポート	Presentation(10%)、課題14回(70%)			
小テスト等	筑女ネットで随時、個人向けに公開。			
成果発表	なし			
受講態度他	Presentationは内容をオンラインファイルとして提出した後、グループで行う。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	欠席回数が、授業回数の3分の1を超えると無資格。			
教科書	プリント配布			
指定図書	特になし。			
参考図書	授業の中で適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後に相談のこと	メールアドレス		

授業科目	LD等、重度・重複障がい者の心理と教育		開講時期	後期
担当教員	酒井 均		単 位	2
授業の目的と概要	<p>LD, ADHD, アスペルガー障がい、高機能自閉症など、通常学級に在籍しているが配慮が必要な児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようなることを目的とする。</p> <p>あわせて重度・重複障がいの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようになることを目的とする</p> <p>LD, ADHD, アスペルガー障がい、高機能自閉症などの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法を具体的に学び、それぞれのケースではどのように考えていったよいかを考えていきます。</p> <p>重度・重複障がいの児童・生徒では、感覚運動的な教育支援を中心に具体的な方法を検討していきます。</p>			
到達目標	<p>LD, ADHD, アスペルガー障がい、高機能自閉症などの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようなる。</p> <p>重度・重複障がいの児童・生徒の特徴を理解し、それに対応した支援の方法がわかり、支援できるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第 1回	オリエンテーション		ケース研究	
第 2回	LDについて 1 その特徴		ケース研究	
第 3回	LDについて 2 アセスメントについて		ケース研究	
第 4回	LDについて 3 アセスメントを生かした教育支援		ケース研究	
第 5回	ADHDについて 1 その特徴		中間レポート作成	
第 6回	ADHDについて 2 行動変容のための支援 ABA		ケース研究	
第 7回	ADHDについて 3 行動変容のための支援 BAA		ケース研究	
第 8回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 1 その特徴		ケース研究	
第 9回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 2 ソーシャルスキルトレーニングについて		ケース研究	
第10回	自閉スペクトラム症 (ASD)について 3 サバイバルトレーニングについて		中間レポート作成	
第11回	発達障がいの総合的支援について その1		ケース研究	
第12回	発達障がいの総合的支援について その2		ケース研究	
第13回	重度・重複障がいについて 1 その特徴		ケース研究	
第14回	重度・重複障がいについて 2 教育的支援		ケース研究	
第15回	保護者への教育的支援について		最終レポート作成	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	中間レポート 各30% 最終レポート40%			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	受講態度も見ます			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	遅刻は厳禁、積極的に発言参加してください。			
教科書	なし			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	火曜日12:30~13:00		メールアドレス	

授業科目	Language and Culture		開講時期	前期
担当教員	T.R. Honkomp		単位	2
授業の目的と概要	<p>Language and Culture is a course that will give Japanese learners of English opportunities to observe and analyze the differences between Japanese and American cultures. Everyday situations that students may find themselves in will be looked at from contrasting points of view.</p> <p>Weekly lesson sessions consist of a topic introduction that includes vocabulary and background explanation. The DVD situations from the text are viewed for comprehension practice and cultural analysis. Group discussion and individual reflection are then completed on the unit worksheets.</p>			
到達目標	<p>The skills of listening and speaking are emphasized as students examine the contexts and cultural implications of a variety of situations. Additional objectives include vocabulary development, pronunciation and fluency practice, and insights into the impact of culture on language. Students are to increase their understanding of American culture while at the same time learn more about themselves and become more aware of Japanese culture. Discussion of video and listening material from the text and expressing original opinions are important elements of this course.</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course information, text, policies & procedures; Introduction unit from text	—		
第2回	Introducing yourself in a social situation - An American House Party	Worksheet #1 - Vocabulary from Unit 1 and Cultural Notes		
第3回	Cultural interaction in various settings - Weekend Barbecue	Worksheet #2 - Vocabulary from Unit 2 and Cultural Notes		
第4回	Taking messages, eliciting and giving advice - Young People and Activities	Worksheet #3 - Vocabulary from Unit 3 and Cultural Notes		
第5回	Describing and talking about family members - Cultural Differences in Family Relationships	Worksheet #4 - Vocabulary from Unit 4 and Cultural Notes		
第6回	Discussing problems and making a good first impression	Worksheet #5 - Vocabulary from Unit 5 and Cultural Notes		
第7回	Understanding job ads and job interviews - Advantages and Disadvantages to a part-time job	Worksheet #6 - Vocabulary from Unit 6 and Cultural Notes		
第8回	Cultural aspects of Japanese food & drink	Worksheet #7 - Vocabulary from Unit 7 and Cultural Notes		
第9回	Prices and sizes - Shopping in different contexts	Worksheet #8 - Vocabulary from Unit 8 and Cultural Notes		
第10回	Leisure activities, county fair, Japanese festivals - Traditional Japanese Cultural Events	Worksheet #9 - Vocabulary from Unit 9 and Cultural Notes		
第11回	Accepting and refusing an invitation - Surprise Birthday Party Quiz #2	Worksheet #10 - Vocabulary from Unit 10 and Cultural Notes		
第12回	Contrasting housing types and issues - Living in an apartment, dormitory or with family	Worksheet #11 - Vocabulary from Unit 11 and Cultural Notes		
第13回	Talking about Japanese and North American cities - Cultural Differences & Lifestyles	Worksheet #12 - Vocabulary from Unit 12 and Cultural Notes		
第14回	Individual presentations - Description of Japanese cultural events, holidays and traditional culture	Vocabulary Review		
第15回	Presentations Continued; Semester and Exam review	Review Sheets - vocabulary and cultural points		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	35% Final Exam			
レポート	—			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	35% Class participation & homework worksheet results 30% Two quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice and express your opinions.			
教科書	America Live!	Dale Fuller		
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Media English A I	開講時期	前期
担当教員	大場 明日香	単位	2
授業の目的と概要	アメリカVOAが実際に放映したビデオを用い、生の英語でアメリカの文化や社会について学びます。比較的ゆっくりとした英語の短いビデオですから、映像や背景に流れる音などの助けを借りることで大まかな内容がつかめます。映像を見る前には、背景知識に関するリーディングに取り組みます。メモを取りながら丁寧に読み進めれば、ビデオの内容が分かりやすくなるだけでなく、英語を読みながら情報を整理する訓練にもなります。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海外メディアの視点でまとめられたビデオを通して異文化への関心と理解を高める</li> <li>・情報をメモにまとめながらリーディングを進めることができる</li> <li>・リーディングで得た背景知識を生かしてビデオの概要を理解することができる</li> <li>・各ユニットの内容を分かりやすい日本語で伝えることができる</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、英語学科で習得を目指す能力・技能のうち、「英語を生かすための職業上の知識や技能の基礎を身につけている」を充足するための科目です。メディア（映像）の英語に慣れ、「Media English A II」でのステップアップにつなげることを目的としています。		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	導入（授業の進め方・小テスト・成果発表の詳細説明）・Video 1 Preview	Video 1 予習（テキスト該当箇所の語彙確認）	
第2回	Video 1: American Buddhists (U1)	Video 1 復習 (Extra Reading) ・ Video 2 予習 (語彙)	
第3回	Video 2: Coral Reefs (U2)	Video 2 復習 (Extra Reading) ・ Video 3 予習 (語彙)	
第4回	Video 3: Drummers (U3)	Video 3 復習 (Extra Reading) ・ Video 4 予習 (語彙)	
第5回	Video 4: Food Stylist (U4)	Video 4 復習 (Extra Reading) ・ Video 5 予習 (語彙)	
第6回	Video 5: Musical Instruments (U5)	Video 5 復習 (Extra Reading) ・ Video 6 予習 (語彙)	
第7回	Video 6-1: Faberge (U6)	Video 6 前半の復習 (テキスト本文・語彙)	
第8回	Video 6-2: Faberge (U6)	Video 1-6 のまとめ	
第9回	In-Class Task 1 (中間課題)	Video 7 予習 (語彙)	
第10回	Video 7-1 (該当ユニットは第9回に通知)	Video 7 前半の復習 (テキスト本文・語彙)	
第11回	Video 7-2 (該当ユニットは第9回に通知)	Video 7 復習 (Extra Reading) ・ Video 8 予習 (語彙)	
第12回	Video 8-1 (該当ユニットは第11回に通知)	Video 8 前半の復習 (テキスト本文・語彙)	
第13回	Video 8-2 (該当ユニットは第11回に通知)	Video 1-8 のまとめ	
第14回	In-Class Task 2 (期末課題)	In-Class Task 2の見直し	
第15回	全体のまとめとフィードバック	全回のまとめ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	なし		
レポート	なし		
小テスト等	20% 小テスト (ユニット毎)		
成果発表	60% In-Class Task (中間・期末課題)		
受講態度他	20% 個人・グループ作業への積極的な取り組み・課題		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・受講者数等の理由で学習するユニットが変わることがあります (変更は授業内で通知します)。</li> <li>・初回に小テストやIn-Class Taskなどについての詳細を説明します。受講を希望する方は必ず出席してください。(万一初回を欠席した場合は、授業のルールを全て理解したものと扱います)</li> </ul>		
教科書	John S. Lander著 『English Mosaic -Special English from VOA Video-』 (朝日出版)		
指定図書	なし		
参考図書	適宜紹介		
オフィスアワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス	

授業科目	Media English A I	開講時期	前期
担当教員	野中 誠司	単位	2
授業の目的と概要	<p>NHKの海外向けニュース番組NEWSLINEを活用して、実践的な英語運用能力を身につけることを第1目的とする。また、ニュースに関連した知識などを知り、内容に対する興味や関心を高めることで、社会生活に必要な情報リテラシー、論理的思考力、問題解決力などの向上を第2目的とする。</p> <p>この授業ではニュースという視聴覚教材を活用して、いまの日本で起きている問題を、相手とのコミュニケーションにおける話題（素材）に活用できるように習得していく。教科書はさまざまなジャンルのトピックを取り上げている。番組を収録したDVDもついているので、くりかえし聞きながら、予習・復習やリスニング力向上に活用すること。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 放送で使われている単語や表現が聞きとれ、それらを口頭と文章で再現することができる。</li> <li>2. 放送で使われている単語や表現に関連したことを理解し、それらを口頭で説明することができる。</li> <li>3. 学習したニュースで得た知識や技能を、現代社会を生きる自己を実現する力として活用できる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、学科DP4「英語を活かすための職業上の知識や技能の基礎を身につけている」の達成に関わる科目です。本科目にくわえて、Internet Englishなど他のメディアに関する科目も積極的に受講してください。同じ話題・内容であっても、媒体手段によって、そのアプローチや表現などは異なります。それらを比較することで、メディアにおける英語を多角的に理解することができます。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回	Waste Not, Want Not : 食べられるお皿—ゴミ減量大作戦	予習pp. 1-6	
第2回	Waste Not, Want Not : 食べられるお皿—ゴミ減量大作戦	予習pp. 1-6	
第3回	Creature Comforts : 猫好き集まれ	予習pp. 13-18	
第4回	Creature Comforts : 猫好き集まれ	予習pp. 13-18	
第5回	Rescue Bike : 車椅子に変身する自転車	予習pp. 25-30	
第6回	Rescue Bike : 車椅子に変身する自転車	予習pp. 25-30	
第7回	Crash Course Boom : 五輪に向けて英会話大特訓	予習pp. 31-38	
第8回	Crash Course Boom : 五輪に向けて英会話大特訓	予習pp. 31-38	
第9回	Sweet Acts of Kindness : おいしく食べて、支援もできる	予習pp. 45-50	
第10回	Sweet Acts of Kindness : おいしく食べて、支援もできる	予習pp. 45-50	
第11回	Pioneering Photojournalist : 100歳の写真家—今も現役	予習pp. 51-56	
第12回	Pioneering Photojournalist : 100歳の写真家—今も現役	予習pp. 51-56	
第13回	At Home in the Sky : 小さな航空会社—サービスにひと工夫	予習pp. 75-80	
第14回	At Home in the Sky : 小さな航空会社—サービスにひと工夫	予習pp. 75-80	
第15回	まとめ	復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	50%		
レポート	なし		
小テスト等	30%		
成果発表	なし		
受講態度他	20% : 主体的かつ積極的に参加している点を評価する。無条件で付与される出席点ではない。無断欠席および遅刻は回数に関係なく減点する。10分以上の遅刻も欠席とみなす。無断欠席6回で受講放棄と判断し、名簿から氏名を削除する		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開講日から教科書を使用するので、事前に購入しておくか、必要な箇所をコピーするなどして授業に出席すること。教科書なしで授業に参加した場合は、最終評価から減点などのペナルティーを科す。第2回以降の授業にもこのルールを適用する。</li> <li>2. 名簿順に座席を指定するので、指定された席にすわること。座席の要望があれば、開講日に受けつけるので申し出ること。</li> <li>3. 病気、忌引などやむをえない理由で欠席した場合は、客観的な証明書類を後日必ず提出すること。提出がない場合、無断欠席として処理する。</li> </ol>		
教科書	T. Yamazaki / S. M Yamazaki / E. C. Yamazaki (2016), "What' s on Japan 10," KINSEIDO		
指定図書	なし		
参考図書	授業の中で適宜紹介する。		
オフィスアワー	授業の前後に相談のこと。	メールアドレス	

授業科目	Media English AII		開講時期	後期
担当教員	大場 明日香		単位	2
授業の目的と概要	イギリスBBCが実際に放送したニュースを用い、生のイギリス英語でイギリスの今を学びます。ところ変わればニュースも変わります。日本では扱われないニュースがあったり、同じ題材でも取り上げ方が全く異なったり、ニュースを通して新たな見方を学ぶことができます。学習者用の教材ではないため、初めは速さに戸惑うかもしれませんが、ニュース英語の構造と特徴を知り、分かる部分を増やしていきます。講座前半はニュースの英語に慣れることを目的に特にニュースの冒頭に注目し、音声のみならず映像や背景知識などをフル活用して内容を把握します。後半はニュース全体を細部まで読み解き、分かりやすい日本語で情報を伝えることにも挑戦します。			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニュース英語の構造と特徴を知る</li> <li>・映像や背景知識の助けを借りながらニュースの大まかな内容をつかむことができる</li> <li>・ニュースの内容や背景を調べ、分かりやすい日本語に置き換えて伝えることができる</li> <li>・ニュース音源のディクテーションを通してリスニング力の強化に努める（成果は小テストで確認）</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、英語学科で習得を目指す能力・技能のうち、「英語を生かすための職業上の知識や技能の基礎を身につけている」を充足するための科目です。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	導入（授業の進め方・予習・小テスト・In-Class Task の詳細説明）・News 1 Preview	News 1 予習（語彙・ネット上のニュース映像を用いたリスニング）		
第2回	News 1: Poppies at the Tower of London (Unit 1)	News 2 (Unit 3) 予習		
第3回	News 2: Shakespeare in London's East End (Unit 3・小テストあり)	News 3 (Unit 5) 予習		
第4回	News 3: A Chip under the Skin (Unit 5・小テストあり)	News 4 (Unit 7) 予習		
第5回	News 4: Paternity Leave (Unit 7・小テストあり)	News 5 (Unit 13) 予習		
第6回	News 5-1: The Price of the Monarchy (Unit 13・小テストあり)	News 5 (Unit 13) 予習		
第7回	News 5-2: The Price of the Monarchy (Unit 13)	In-Class Task 準備		
第8回	In-Class Task 1 (Plan)	In-Class Task 仕上げ		
第9回	In-Class Task 1 (Do)	In-Class Task 見直し		
第10回	In-Class Task 1 (See)	In-Class Task 準備		
第11回	In-Class Task 2 (Plan)	In-Class Task 仕上げ		
第12回	In-Class Task 2 (Do)	In-Class Task 見直し		
第13回	In-Class Task 2 (See)	In-Class Task 3 (Final) 準備		
第14回	In-Class Task 3 (Do)	In-Class Task 3 (Final) 見直し		
第15回	In-Class Task 3 (See)	全体のまとめ		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	20% ニュース映像のリスニングと単語の小テスト（ユニット毎）			
成果発表	60% In-Class Task（個人・グループでのニュースの読み解き×3回）			
受講態度他	20% 個人・グループワーク作業への積極的な取り組み・課題			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業外でオンライン映像にアクセスして自習（予・復習）をする必要があります。</li> <li>・初回に小テストや成果発表の内容などの詳細を説明しますので、受講を希望する方は必ず出席してください。（万一欠席した場合は、本講座のルールを全て理解したものと扱います）</li> </ul>			
教科書	Timothy Knowles, Daniel Brooks, Yukiko Takeoka, Mayumi Tamura, Rima Uraguchi 著『Seeing the World through the News 3』（金星堂）			
指定図書	なし			
参考図書	適宜紹介			
オフィスアワー	授業の前後に相談してください	メールアドレス		

授業科目	Media English B I		開講時期	前期
担当教員	三日月 雅子		単位	2
授業の目的と概要	この授業では、毎回英語放送のニュースを視聴しながら、テキストの英文を解釈して、英語ニュースの語法や語彙などを学んでいきます。練習問題も解くので、総合的な学習ができます。また、ニュースの背景にある文化的・社会的事情や国際事情の理解を深め、ニュースを通じて多様な問題を考察することができます。予習としてDVDを視聴していただくことが必須です。その予習を基に、ListeningとReadingの学習に焦点を当てた授業です。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. DVDを視聴して英語ニュースの内容がある程度理解できるようになる。</li> <li>2. 英語ニュースの語法、語彙の基礎を身に付ける。</li> <li>3. 英語ニュースの国際的、政治的、文化的、社会的背景を理解できるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション：授業の概要・課題・評価についての説明	課題		
第2回	Unit 1 News Story	復習・課題		
第3回	Unit 1 Exercise and Summary	復習・課題		
第4回	Unit 2 News Story	復習・課題		
第5回	Unit 2 Exercise and Summary	復習・課題		
第6回	Unit 3 News Story	復習・課題		
第7回	Unit 3 Exercise and Summary	復習・課題		
第8回	Unit 4 News Story	復習・課題		
第9回	Unit 4 Exercise and Summary	復習・課題		
第10回	Unit 9 News Story	復習・課題		
第11回	Unit 9 Exercise and Summary	復習・課題		
第12回	Unit 10 News Story	復習・課題		
第13回	Unit 10 Exercise and Summary	復習・課題		
第14回	Unit 13 News Story, Exercise and Summary	復習・課題		
第15回	まとめ	まとめ		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%：定期試験の評価に基づく			
レポート	必要に応じて指示			
小テスト等	ノートチェック			
成果発表	20%：授業時の発表			
受講態度他	20%：出席状況および発表等による授業への参加を考慮			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	テキストに付属のDVDを視聴して、指示された課題を必ず予習して授業に臨むこと。辞書を必ず持参すること。			
教科書	著者：S. Yamane他 ABC World News 18 出版社：金星堂 ISBN978-4-7647-4014-3			
指定図書	特になし			
参考図書	授業時に適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日：昼休みと3限目以降、 水曜日：昼休み	メールアドレス		

授業科目	Media English B II		開講時期	後期
担当教員	三日月 雅子		単位	2
授業の目的と概要	<p>この授業では、ニュース映像を利用しながら、世界中で起きるさまざまな問題に触れます。ニュースで用いられる基本的な語法、語彙などを学ぶとともに、英語のListening, Readingの力を養成することができます。さらに、さまざまな練習問題を通して、総合的な英語学習ができ、ニュースの背景となっている国際事情、文化的・社会的事情の理解を深め、多様な問題を考察することができます。</p> <p>予習としてDVDを視聴していただくことが必須です。その予習を基に、ListeningとReadingの学習に焦点を当てた授業です。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. DVDを視聴して英語ニュースの内容がある程度理解できるようになる。</li> <li>2. 英語ニュースの語法、語彙の基礎を身に付ける。</li> <li>3. 英語ニュースの国際的、政治的、文化的、社会的背景を理解できるようになる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回：オリエンテーション			課題	
第2回：Unit 1			復習・課題	
第3回：Unit 2			復習・課題	
第4回：Unit 3			復習・課題	
第5回：Unit 4			復習・課題	
第6回：Unit 5			復習・課題	
第7回：Unit 6			復習・課題	
第8回：Unit 7			復習・課題	
第9回：Unit 8			復習・課題	
第10回：Unit 9			復習・課題	
第11回：Unit 10			復習・課題	
第12回：Unit 11			復習・課題	
第13回：Unit 12			復習・課題	
第14回：Unit 13			復習・課題	
第15回：まとめ			まとめ	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	60%：定期試験の評価に基づく			
レポート	必要に応じて指示			
小テスト等	ノートチェック			
成果発表	20%：授業時の発表			
受講態度他	20%：出席状況および発表等による授業への参加を考慮			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>指示された課題の予習が必ず必要です。</p> <p>辞書を必ず持参すること。</p>			
教科書	著者 Makoto Shishido他 AFP World News Report 3 出版社：成美堂 ISBN978-4-7919-4793-5			
指定図書	特になし			
参考図書	授業時に適宜紹介する。			
オフィスアワー	火曜日：昼休みと4限目以降 金曜日：昼休み	メールアドレス		



授業科目	NPO・NGO論		開講時期	後期
担当教員	喜多村 百合		単位	2
授業の目的と概要	<p>今日国内外で注目される、市民がアクターとなるNPO・NGOの活動について検討します。日本でNPOが注目されはじめたのは阪神淡路大震災でのボランティア活動がきっかけで、その後1998年のNPO法の成立・施行により、日本の社会貢献活動は一気に活性化しました。</p> <p>インドでは数万ものボランティア団体が稼働し、アメリカでは500万人以上の市民に活動や雇用の機会を提供しています。また女性が多く活動できる分野でもあります。この講義は、NPO・NGOの成り立ち、働き、可能性や課題について、豊富な事例を踏まえながら理解することをねらいとします。また講師が調査・研究してきたインドの女性NGO・SEWAについて、その特徴と成果、課題を検討します。さらに次世代型事業として、ソーシャル・ビジネスなど多様な市民社会組織(Civil Society Organization: CSO)と、フィランソロ・キャピタリズムを発展的に学ぶことを目的とします。</p>			
到達目標	<p>①NPO・NGO組織化の軌跡(関連法を含む)、働き、課題一般について説明できる。</p> <p>②日本のNPO・NGO組織化の軌跡、NPO法の成立、またその働きや課題一般について説明できる。</p> <p>③「NGO大国」インドの女性開発NGO・SEWAの活動の特徴・成果・課題について説明できる。</p> <p>④次世代NPO・NGOと呼ばれるソーシャル・ビジネス、CSO、さらにフィランソロ・キャピタリズムについて説明できる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回 導入：NPO・NGOの定義。本講義のねらい		プリント復習		
第2回 日本のNPO・NGO(1) 定義と関連法、活動軌跡		NPO復習		
第3回 日本のNPO・NGO(2) 事例紹介		指定図書①、NGO復習		
第4回 国際社会のNPO・NGO(1) 定義と関連法、活動軌跡		NPO調査		
第5回 国際社会のNPO・NGO(2) 事例紹介		調査レポート作成		
第6回 NPO調査発表 インドのNPO・NGO(1) 定義と関連法、活動軌跡		教科書序章		
第7回 インドのNPO・NGO(2) 女性開発NGO・SEWA①理念と構造、活動軌跡		同3章前半		
第8回 インドのNPO・NGO(3) 女性開発NGO・SEWA②都市部の活動		同3章後半		
第9回 インドのNPO・NGO(4) 女性開発NGO・SEWA③支援事業		同4章前半		
第10回 インドのNPO・NGO(5) 女性開発NGO・SEWA④農村部の活動		同4章後半		
第11回 インドのNPO・NGO(6) ケーララ・モデルとNGO①SEWAケーララ		同5章・結論		
第12回 インドのNPO・NGO(7) ケーララ・モデルとNGO②SAKHI		プリント復習		
第13回 ソーシャル・ビジネス・市民社会組織(CSO)		指定図書②、ソーシャル・ビジネス、CSO復習		
第14回 フィランソロ・キャピタリズム		調査レポート		
第15回 NGO、ソーシャル・ビジネス、CSO調査報告 まとめ		期末レポート		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	期末レポート 50%、調査レポート 20%			
小テスト等	-			
成果発表	10%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	ふだんから、地域や国内外のNPO・NGO活動、SEやCSRの活動や報道などに関心を持って臨んでほしい。			
教科書	喜多村百合『インドの発展とジェンダー』新曜社			
指定図書	①馬橋憲男『グローバル問題とNGO・市民社会』 ②広井良典『共生社会と協同労働』 ③名越修一他『自分たちで作るNPO法人』			
参考図書	早瀬昇他『NPOがわかる』 重田康博『NGOの発展の軌跡』 斉藤千宏『NGO大国インド』			
オフィスワー	月～水午後	メールアドレス		

授業科目	Oral Presentation		開講時期	前期
担当教員	Alan Michaels		単位	2
授業の目的と概要	The purpose of this course is for students to learn some basic public speaking techniques and practice using them, including methods for reducing anxiety when speaking to a group. Quality and quantity of content of presentation will be addressed as well. Individual and pair presentations in English will be the main activity, working towards building greater confidence and comfort on a stage, using a variety of easy topics of general human interest. This is not a lecture course. Students will be doing most of the speaking, in English, preparing and assisting each other with practice and actual presentations. Teacher will give support and guidance to the class and individuals along the way. Weekly homework is to be completed by the next lesson regardless of absences or other excuses.			
到達目標	Students will acquire knowledge about appropriate communication strategies, how to explain and speak more clearly, expand and simplify vocabulary for their audience. When used well: 1. Students will be more aware of their own and others power of persuasion. 2. Students will have more confidence as English speakers. 3. Students will increase their creativity and success as communicators.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Couse, text and self-introductions	予習		
第2回	Personal information, 'Wh' questions. Introducing a friend	予習		
第3回	Family presentation preparation	予習		
第4回	Presentation 1: Me and my family. Sports interview	予習		
第5回	My favorite sport. Cuisine interview	予習		
第6回	Menu order. My favorite restaurant	予習		
第7回	Chapter 1 review and quiz	予習		
第8回	Presentation 2: Sports and food. School memory lane	予習		
第9回	My best school trip. My school club	予習		
第10回	Presentation 3: School memories. Music interview	予習		
第11回	My favorite English song. Travel interview	予習		
第12回	The best vacation. My favorite singer	予習		
第13回	The best concert. My favorite movie star	予習		
第14回	Presentation 4: Stars and travel. Chapter 2 quiz	予習		
第15回	Final showtime	予習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	0%			
小テスト等	10%			
成果発表	70%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Speak English in class. Do your homework. Bring your textbook, dictionary and writing notebook to every class. If you miss a class it is your responsibility to contact the teacher or another student for notes and lesson details. If you miss an assignment, it is your responsibility to contact the teacher for what to do about it. Use your imagination - go beyond the textbook to make interesting and dynamic presentations. Smart phone can be used in class as a dictionary and presentation visual aid only.			
教科書	Helene Uchida 『Challenge Book #4』 Little America			
指定図書	Nothing specially			
参考図書	Nothing specially			
オフィスアワー	After class and lunchtime on Thursdays. Before class and other times by appointment.	メールアドレス		

授業科目	Pronunciation I		開講時期	前期
担当教員	松崎 徹		単位	1
授業の目的と概要	本授業では、英語でのコミュニケーションをより円滑に行うことを目的に、母音と子音を中心とした単音の正しい発音法を基礎から身につけていきます。まず導入として、日英両語の音韻および音節構造を比較・検討しながら、私たち日本人が英語の発音を困難だと感じる原因を検証していき、英語の発音に対する受講生の意識を高めます。導入終了後は、英語の母音・子音個々の音の特徴をテキストに沿って順次解説していく。それに平行しながら、ネイティブスピーカーによる発音模範ビデオも視聴し、受講生の英語の発音が正しい調音点と調音法に基づいて行われているか（例えば[l]と[r]の区別など、特に日本人が苦手とする発音など）を聴覚および視覚的に確認・指導していきます。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英語の母音を正しく発音することができる。</li> <li>2. 英語の子音を正しく発音することができる。</li> <li>3. 英語の単語を正しく発音することができる。</li> <li>4. 短文を正しい発音で読むことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP1「英語の聴き、話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができる。」の達成に関わる科目です。本講座で学んだスキルを、同じく1年次前期開講の「Conversation AI」や「Core Oral English I」で実践することが望まれます。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	より良い英語の発音のために：「気づき」の大切さ	プリント復習		
第2回	英語と日本語の母音および子音の数の違い	プリント復習		
第3回	英語と日本語の音節構造の違い	プリント復習		
第4回	母音の発音（1）【 /i:/, /i/ 】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 1-2		
第5回	母音の発音（2）【 /e/, /a/, /ɜ:/ 】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 3-5		
第6回	母音の発音（3）【 /ɜ:/, /ɜ:/r/ 】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @p. 7; p. 15		
第7回	母音の発音（4）【 /ɜ:/, /ɜ:/r/ 】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 8-9		
第8回	母音の発音（5）【 /u/, /u:/, /ɜ:/ 】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 10-12		
第9回	母音の総復習	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 1-12		
第10回	子音の発音（1）【 /p/, /t/, /k/ 】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @p. 16; p. 18; p. 20		
第11回	子音の発音（2）【 /l/, /r/ 】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @p. 25; p. 35		
第12回	子音の発音（3）【 /f/, /v/ 】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 26-27		
第13回	子音の発音（4）【 /θ/, /ð/ 】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @p. 28; p. 32		
第14回	子音の発音（5）【 /w/, /z/ 】	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @p. 37; p. 38		
第15回	子音の総復習	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 16-38		
成績評価	割合（%）、種類・評価基準など			
定期試験	80% 習熟度試験（受講生の発音を講師が評価・採点します）			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 授業への積極的参加を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義では主として米国式標準音に基づき指導します。</li> <li>・発音練習の際、口の開き具合および舌の位置を適宜確認するので、毎時間必ず手鏡を持参してください。</li> <li>・授業外でもテキスト付属のCDを聴いて発音の反復練習を必ず実践してください。</li> </ul>			
教科書	Kazuyuki Watanabe & Shiro Osaka 『For Better Pronunciation』 Yumi Press			
指定図書	なし			
参考図書	巽 一朗 『英語の発音がよくなる本』 中経出版			
オフィスアワー	水：3講目、金：4講目	メールアドレス		

授業科目	Pronunciation II		開講時期	後期
担当教員	松崎 徹		単 位	1
授業の目的と概要	本講座では、短文レベルの正しい発音・リズム・イントネーションを身につけることにより、英語での円滑なコミュニケーションができるようになることを目指します。単音レベルを中心とした前期の発音指導を土台に、後期では英語母国語話者による発音指導のビデオを視聴しながら、(1) 類音の正しい発音のし分け方 (2) 異音 (allophone) の正しい発音法 (3) 短文の正しい読み方、以上の3点に焦点を当てて指導していきます。授業ではテキスト中の短文を音読し合うペアワークを取り入れ、ペアワーク中に各受講生の習熟度を確保するため講師が机間巡視して個別指導を行います。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 単音を正しく発音できる。</li> <li>2. 類音を正しく発音し分けることができる。</li> <li>3. 異音 (allophone) を正しく発音し分けることができる。</li> <li>4. 短文を正しいリズム・イントネーションをつけながら読むことができる。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP1「英語の聴き、話す技能を用いて、日常的なコミュニケーションができる。」の達成に関わる科目です。本講座で学んだスキルを、同じく1年次後期開講の「Conversation AII」や「Core Oral English II」で実践することが望めます。			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	Lesson 16	She is a well-known linguist.	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 71-74	
第2回	Lesson 18	Do you have a pen I can borrow?	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 79-84	
第3回	Lesson 1	What would you like to drink?	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 1-6	
第4回	Lesson 3	Can you read French?	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 13-16	
第5回	Lesson 4	What a nice car! (1)	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 17-20	
第6回	Lesson 4	What a nice car! (2)	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 17-20	
第7回	Lesson 5	Would you be free this Friday?	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 21-24	
第8回	Lesson 6	It's going really well.	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 25-30	
第9回	Lesson 7	I'll have to settle for a salad. (1)	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 31-36	
第10回	Lesson 7	I'll have to settle for a salad. (2)	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 31-36	
第11回	Lesson 9	To Tell you the truth... (1)	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 41-44	
第12回	Lesson 9	To Tell you the truth... (2)	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 41-44	
第13回	Lesson 10	She always makes me laugh.	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 45-48	
第14回	Lesson 11	There's a shortage of good help...	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 49-52	
第15回	Lesson 12	That tennis class was really challenging.	既習事項の音読反復練習、テキスト予習 @pp. 53-56	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	80% 習熟度試験(受講生の発音を講師が採点・評価します)			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 授業への積極的参加(ペアワーク、等)を考慮します。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義では主として米国式標準音に基づき指導します。</li> <li>・発音練習の際、口の形および舌の位置を適宜確認するので、毎時間必ず手鏡を持参してください。</li> <li>・授業外で付属ビデオを自主的に視聴して反復練習を必ず実践してください。</li> </ul>			
教科書	Mirakawa Hi sako 『Sounds Right! Sounds Good!』 (MACMILLAN LANGUAGE HOUSE)			
指定図書	なし			
参考図書	授業の中で適宜紹介します。			
オフィスアワー	火：2講目、水：4講目		メールアドレス	

授業科目	Reading A	開講時期	前期
担当教員	田江 安廣	単位	2
授業の目的と概要	英語の4技能は連動しているが、前期はライティング(アウトプット)に資するようリーディング(インプット)を目指す。良質の英文を多く読むことは、英語の語感を養うために何より重要であるが、読む内容も物語、エッセーなどさまざま種類の英文を読む。すなはち読み方も内容に応じて変えてゆくこと、分野に応じた表現、用語も学ぶ。		
到達目標	英検2級～1級 TOEIC: 500～600		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	英語史、英作文、英文法		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回: How do you read? (読む内容に応じて読み方を変える)		辞書の機能について調べる(辞書を最大限に活用する)	
第2回: Work and Stress (仕事とストレス: 健康とは何か)		つなぎ言葉1; 副詞	
第3回: Hurricanes (台風、ハリケーン: 風速の定義と半球による違い)		気候に関する単語や表現	
第4回: Architecture (世界の建物: 建物の象徴性)		建物を説明する英語表現	
第5回: Too Young for Oxford? (14才で入学した学生: 教育)		つなぎ言葉2: however, but, still, nonetheless; 複数形の形	
第6回: 大学応募の手順と応募の書き方		教育に関する単語、英語表現	
第7回: Technology (テクノロジーと人間)		電子機器に関する用語	
第8回中間テスト		Websiteで電子機器の定義、機能を検索する	
第9回: Foodmile (食べ物と環境汚染: 長距離食料輸送が環境を汚染する)		つなぎ言葉3 and; in addition; furthermore,	
第10回: 同義語; 反意語(接頭辞・接尾辞)		mind map の使用	
第11回: Cities of the World: 世界で最も人気のある都市、ヴァンクーバー(評価の物差し)		グラフや表の読み方	
第12回: グラフや表を比べる		都市を説明するときどうやる? 都市クイズ	
第13回: Brain (脳のはたらき)		睡眠について読む	
第14回: 人間の身体の部位を英語で説明する		健康に関する単語と表現	
第15回: Diabetes (文明と糖尿病)		統計の読み方と代名詞	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	50%		
レポート	15%		
小テスト等	15%		
成果発表	15%		
受講態度他	5%		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	1 辞書とノート持参すること。 2 発表、テスト欠席者は原則として点数はありません。		
教科書	Headway Academic Skill: Reading and Writing (Level 1)		
指定図書	Michael Swan, Practical English Usage		
参考図書	マーフィーの英文法		
オフィスワー	授業後; その他随時	メールアドレス	

授業科目	Reading B		開講時期	後期
担当教員	田江 安廣		単位	2
授業の目的と概要	<p>アメリカの犯罪小説を読みます。まず小説を楽しむこと。次に小説の要素として、人間の行動の動機がどう描かれているか。(例えばお金、憎しみ、嫉妬、愛等々) 次に、サスペンスがどのように盛り上げられているか(あらすじの分析)。最後に、結末の合理性などを考察します。</p> <p>授業はゆっくり、しっかり進みます。内容について練習問題や、プリントでレビューします。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英検2級～1級</li> <li>2. 基本的用語と成句</li> <li>3. 探偵小説のいくつかのパターンを知る</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	アメリカの社会、風俗			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回：オリエンテーション：授業の進め方；評価の方法		次週の予習範囲 (pp1-5.)自殺願望の男と警官		
第2回：Death Wish: (,自殺願望の男)		予習： p p. 5-9.		
第3回：Death Wish (男の正体)		Death on Christmas Eve (pp. 11-14)		
第4回：Death on Christmas Eve クリスマスでの出来事 (pp. 11-14)		Death on Christmas Eve (pp. 15-18)		
第5回：Death on Christmas Eve (20年前の出来事とは?)		The Heroine (pp. 21-24).		
第6回：The Heroine (pp. 21-24)		The Heroine (pp. 25-28.)		
第7回：The Heroine (pp. 25-28)		The Heroine (pp. 29-32)		
第8回：中間試験		Ride the Lightning (pp. 33-36)		
第9回：Ride the Lightning (pp. 33-36) 「稲妻に乗る」とは、どんな意味?		Ride the Lightning (pp. 37-41.)		
第10回：Ride the Lightning (pp. 37-41)		Ride the Lightning (pp. 41-44)		
第11回：Ride the Lightning (pp. 44-48)		The Lipstick (pp. 49-52)		
第12回：The Lipstick (pp. 49-52)		The Lipstick (pp. 53-56)		
第13回：The Lipstick (pp. 57-60)		The Lipstick (pp. 61-64)		
第14回：The Lipstick (pp. 61-64)		The Lipstick (pp. 65-67)		
第15回：The Lipstick (pp. 65-67)		配布プリントへ書き込む		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40%			
レポート	15%			
小テスト等	30%			
成果発表	15%			
受講態度他	評価の参考とする(成果発表を含む)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. やむなく中間テストを受けられないとき、あらかじめ相談してください。受験しない人には原則として再テストは行いません。</li> <li>2. 遅刻をしないようにしましょう。</li> </ol>			
教科書	American Crime Stories			
指定図書	アガサ・クリスティー短編集			
参考図書	「モルグ街の殺人」「刑事コロンボ」「刑事ファイル」「オリエン特急殺人事件」「まだらのひも」「砂の器」「ゼロの焦点」			
オフィスアワー	授業後、その他随時相談に応じて。	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing A I (S)		開講時期	前期
担当教員	D. J. Wood		単位	1
授業の目的と概要	<p>This course's aim is communicative accuracy in reading and writing. Thus students learn to avoid mistakes defeating communication. Students study two English skills in a single class. Accordingly, this course emphasizes additional independent assignments. Learners can achieve significant progress in reading and writing from first to final class. The content, skills and production of the class include:</p> <p>using students' own photos for composition from first draft, peer review to final versions;  note-taking; directed written assignments; independent reading assignments; integrated reading and writing activities;  e-diaries on specific occasions; ongoing journals for daily completion; short written lectures for reading and so</p>			
到達目標	<p>Students develop computer English reading and writing skills.  They learn to extend their writing ability to connect sentences.  They practice how to organize ideas into short paragraphs.  They increase comprehension by identifying key words and topic sentences.  They acquire the ability to read writers' attitudes.  They develop the ability to summarize reading passages.  They practice reading summaries of fellow students' written work.</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>In accordance with the relevant diploma policy, this course promotes the ability to read and write English necessary for social interaction.</p>			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Entry reading quiz		To be announced	
第2回	Entry writing quiz		To be announced	
第3回	Writing self descriptions		To be announced	
第4回	Writing about character and personality		To be announced	
第5回	Writing about plans		To be announced	
第6回	Writing about recent events		To be announced	
第7回	Writing directions		To be announced	
第8回	School writing project		To be announced	
第9回	Comparing high school and college		To be announced	
第10回	Comparing hometowns and school towns		To be announced	
第11回	Library writing project		To be announced	
第12回	Writing about working part-time and free time		To be announced	
第13回	Exit writing quiz		To be announced	
第14回	Exit reading quiz		To be announced	
第15回	Summer reading and writing project orientation		To be announced	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% homework and quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	All study materials will be distributed in class			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays.	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing A I		開講時期	前期
担当教員	緒方 隆文		単位	1
授業の目的と概要	<p>目標1：英語コミュニケーション・スキル向上のため、ReadingとWritingの基礎的スキルを習得し、英語を正しく理解し使えるようになる。目標2：英語の母国語話者が持つ感覚をイメージスキーマを通して感じられるようになる。目標3：題材を通して、英語文化及び言語に対する関心を高め、ことばとしての英語及び日本語を考察し比較できるようになる。目標4：論理的思考力をもって、英語の文を作ることができる。</p> <p>授業は二部構成で進める。まず基本英文のディクテーションを行い、数週ごとに小テストを行う。その後で下記テキストを用いて、演習問題を解いていく。テキストの演習問題は予習を前提とし、難しく感じる学生のために補足プリントを配布して進めていく。</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 演習問題を正しく解くことができる。</li> <li>2. 演習問題の解答がなぜそのようになるかを、論理的思考力をもって、説明することができる。</li> <li>3. 英文の構文・構成をふまえ、その意味を適切に説明することができる。</li> <li>4. 英文の構文・構成をふまえ、日本語を適切に英語で表現することができる。</li> <li>5. コミュニケーション・スキルにおける基礎的な英文を書くことができる。</li> </ol>			
この授業が目的として いるDPや関連する科目 など	<p>この授業は、英語学科のDP2「社会生活に必要な英語の基本的文書や資料を読み、書くことができる。」の達成にかかわる科目です。英語の基本的な英文を読んだり、書いたりすることで、読み書き能力を身に付けることを目的としています。この科目は1年後期のReading and Writing A I I、2年生科目のReading and Writing B I・B I I、3年生科目のReading and Writing C I・C I Iという一連の流れにある科目群の最初の科目になり、一番基礎的な内容を学習していきます。</p>			
授業計画	授 業 内 容		授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション, Lesson 1 Heights		時制～テキストの復習及び次回予習、Dictationの復習	
第2回	Dictation(Break), Lesson 2 Seasons		名詞、代名詞、冠詞～テキストの復習及び次回予習、Dictationの復習	
第3回	Dictation(Bring), Lesson 3 Be careful with your licence.		助動詞～テキストの復習及び次回予習、Dictationの復習	
第4回	Dictation(Come), Lesson 4 Doctors		to不定詞、動名詞～テキストの復習及び次回予習、Dictationの復習	
第5回	Dictation(Get), Lesson 5 Business Hours		接続詞、前置詞～テキストの復習及び次回予習、Dictationの復習	
第6回	Dictation(Give), Lesson 6 Public Holidays		進行形、使役動詞～テキストの復習及び次回予習、Dictationの復習	
第7回	Dictation(Go), Lesson 7 Your Transport, My Transport		形容詞、副詞～テキストの復習及び次回予習、Dictationの復習	
第8回	Dictation(Keep), Lesson 8 Convenience Stores		完了時制～テキストの復習及び次回予習、Dictationの復習	
第9回	Dictation(Leave), Lesson 9 Is it a good noise?		否定～テキストの復習及び次回予習、Dictationの復習	
第10回	Dictation(Look), Lesson 10 Fireworks		疑問文、命令文～テキストの復習及び次回予習、Dictationの復習	
第11回	Dictation(Make), Lesson 11 Public or Private?		分詞～テキストの復習及び次回予習、Dictationの復習	
第12回	Dictation(Pay), Lesson 12 Technology		関係詞～テキストの復習及び次回予習、Dictationの復習	
第13回	Dictation(Put), Lesson 13 Weddings		比較、数詞～テキストの復習及び次回予習、Dictationの復習	
第14回	Dictation(Run), Lesson 14 Dialects		仮定法～テキストの復習及び次回予習、Dictationの復習	
第15回	Dictation(Set), Lesson 15 Winter Warmth		態(能動態、受動態)～テキストの復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50% 定期試験を実施する。			
レポート	20% 毎回の授業において課題が課せられる。			
小テスト等	10% 小テストを3回実施する。			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 十分な予習をもとにした、積極的な受講を考慮する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる。			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	テキストは単語を調べ、練習問題は分かる範囲ですべて予習をしておくこと。また授業後は、しっかりと復習し、小テスト/期末試験にそなえること。細かい授業のルールについては、第1回の授業で配布する。			
教科書	テリー オプライエン 他 (著). 『Viewpoints: Japan and England—すつきり日英比較』 南雲堂.			
指定図書	特になし			
参考図書	授業中、必要に応じて紹介する。			
オフィスワー	月曜日と火曜日と水曜日の昼休み(予約が望ましい)	メールアドレス		



授業科目	Reading and Writing A II		開講時期	後期
担当教員	L. Aoki		単位	1
授業の目的と概要	In this class, students will study and review basic grammar, practice writing sentences and questions using that grammar. Students will practice writing short pieces about various parts of students' lives. Students will be learning vocabulary, as well as the basics of the writing process, so that they learn how to organize writing a paragraph, as well as how to fix mistakes. Due to time limitations, most of the reading will be done outside of class. However, the students will be given exact information about how to write short reports on the books they have read.			
到達目標	At the end of this class, students will be able to write simple grammatically correct sentences, and to write on the following topics: a self introduction, an introduction of family member or relative, a description of home/room, a report on one's typical week and a description of one's taste in movies (or books), and about a trip they have taken. They will also learn to explain their opinions about short stories and books they have read. Finally, providing a room is available, the students will have one class in the computer room to learn how to use Microsoft Word for writing reports in English.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は英語学科のDP2「社会生活に必要な英語の基本的文書や資料を読み、書くことができるように相当する。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Introduction of the course: the class schedule and purpose, grading, rules, writing correction key, writing format, the writing process.	Correction and editing exercise.		
第2回	UNIT 1. Self introduction word study. Review Present Tense of "To Be". Looking at Nationality words, Write a simple self introduction.	Review grammar learned in class. Decide book for book report.		
第3回	UNIT 1. the usage of "and", and capitalization. UNIT 2. Household word study. Review of "there is / are" and have/has. Bk Rprt 1 Explanation. Due 7th class.	H/W 1 Writing. Book report (B.R.) reading.		
第4回	Unit 2. Review of place prepositions, "too/also", and "a/an". "Self Introduction" and "My Room" H/W 1 Explanation. Due. 6th class.	Exercises on grammar studied in class.		
第5回	UNIT 3. Activity and chore word study. Simple tense II. with regular verbs. Time expressions. Study "or/either". Review subject-verb agreement. Editing Practice.	H/W 1 writing. Book report reading.		
第6回	H/W 1 DUE. Finish Unit 3. Midterm on Units 1 - 3, grammar and writing. Unit 4. Family and word study	H/W rewriting. B. R. writing		
第7回	Homework Counseling on H/W 1. Rewrite Due 9th class. READING day. Book Report 1 DUE.	B. R. reading		
第8回	Unit 4. Family word study. Review and practice subject, object and possessive pronouns. Learn expressions to describe relationships. Explain Book Report 2 - Due 11th class.	H/W 1 rewriting. Book report reading.		
第9回	Unit 4. Review usage "and / but", capital letters and names. Practice editing for common pronoun mistakes. Explanation of H/W 2 "Family" Due 10th Class. Rewrite I DUE.	H/W 2 writing. Book report reading.		
第10回	Unit 5. Entertainment word study. Study frequency adverbs and phrases. H/W 2 "Family" DUE.	Book Report 2 writing.		
第11回	Unit 5. Learning how to make adjectives with nouns and underlining for book titles. Review adverb placement. Explanation of H/W 3 "Entertainment" Due 12th class Bk Rpt 2 DUE.	H/W 3 writing.		
第12回	H/W 3 "Entertainment" DUE. Unit 9. A Trip. Study trip vocabular. Past tense review. Study paragraph structure. Study past tense.	Review of past tense		
第13回	Special activities using extra materials. Group writing	Review grammar and expressions		
第14回	Homework Counseling (H/W 2, 3). Homework II Rewrite Due 15th class. READING DAY.	H/W 2 Rewriting.		
第15回	Unit 9. More trip expressions and connecting words. Study clauses with "when", "before", and "after". H/W A "A Trip" Due. Final Exam Day. Rewrite II DUE. Explain Final Test.	Study for final exam		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	30% Final test will contain short grammar and usage section, a short reading section, plus a writing section.			
レポート	55% This is 2 book reports =20%, and, 4 writing reports =35%			
小テスト等	10% A midterm mini-test on grammar and punctuation studied			
成果発表	0%			
受講態度他	5% This includes: coming to class on time, giving homework reports on time, and class participation.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	The textbook will be used in class all the time, so the students MUST remember to bring their textbook and something to write with. On reading days, (and other days if possible), bringing a dictionary is highly recommended. Also, this class will require lined paper B5 size, and a file for all reports, which will be explained on the first day. No use of cellphones, iPhones, smart			
教科書	Laurie Blass, Deborah Gordon 『Writers at Work: From Sentence to Paragraph』		Cambridge University Press	
指定図書	graded readers in the library should be used for book reports			
参考図書	other books can be used for book reports, checked with teacher			
オフィスアワー	before class, lunch time - Wednesday	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing AII		開講時期	後期
担当教員	大場 明日香		単位	1
授業の目的と概要	<p>高校までに学んだ英語をフル活用して、ジャンルごとに「それらしさ」のある文章作りに挑みます。書き手の気持ちを一方的に綴るだけではなく、読み手にも配慮できる、優しい大人の文章を目指しましょう。メモ・レシビ・広告など、様々なタイプの英文に含まれる「英語らしさの鍵」を真似て書くことから始め、何度も繰り返していけば徐々に自分のものとして身につけていくはず。</p>			
到達目標	<p>高校までに学んだ英語の基礎を踏まえ、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々なジャンルのお手本を読み解き、英文の特徴を知る</li> <li>・ジャンルごとの特徴の再現した文章作りを学ぶ</li> <li>・英語らしい表現のストックを増やす</li> </ul>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP2「社会生活に必要な英語の基本的文書や資料を読み、書くことができる。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	授業概要の説明・お手本集めのススム		Chapter 1-1, 2	
第2回	情報を読み解く		Chapter 1-3, 4	
第3回	情報を集める		Chapter 1-5, 6	
第4回	文章のTPO		Chapter 1-7, 8	
第5回	手順を伝える		Chapter 1-9, Chapter 2-1	
第6回	カジュアルはおまかせ		Chapter 2-2, 3	
第7回	中間課題（テキストP1-61の確認テストを含む）		Chapter 2-4, 5	
第8回	フォーマルを着こなす		Chapter 2-6, 7	
第9回	主張は格調高く		Chapter 2-8, 9	
第10回	利点はさらびやかに		Chapter 2-10, 11	
第11回	欠点はポジティブに		Chapter 2-12, 13	
第12回	言いにくいこともしっかりと		Chapter 2-14, 15	
第13回	期末課題（テキストP62-122の確認テストを含む）		最終課題の準備	
第14回	最終課題		これまでの見直し	
第15回	まとめとフィードバック		まとめ	
成績評価	割合（％）、種類・評価基準など			
定期試験	—			
レポート	授業内で作成・提出するライティング20%			
小テスト等	中間・期末課題（テキスト内容の確認）30%			
成果発表	最終課題40%			
受講態度他	個人／グループ作業の取り組み10%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	扱う内容は受講人数その他の理由で前後することがあります（授業内で通知します）。			
教科書	中村良廣 『English Writing Without Tears』 松柏社			
指定図書	特になし			
参考図書	特になし			
オフィスワー	初回授業時に通知	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing A II		開講時期	後期
担当教員	T. R. Honkomp		単位	1
授業の目的と概要	Reading and Writing A II will first assess the skill level of first-year students in the essential language skills of reading and writing. Development and tracking progress of these skills will then become the overall objective of this class. There will be an element of independent learning especially concerning the reading portion of this course. Students will be expected to keep a record of their progress as they proceed through the reading laboratory. In-class and group activities will account for most of the writing portion of this course, and there will also be the occasional written homework assignment.			
到達目標	Using the SRA Reading Laboratory, the student's individual skill level will be determined. Each student will then progress and keep a record of the speed, level, and vocabulary development that they attain through the reading program. Occasional reviews and quizzes will challenge the level of improvement. The writing portion of this course will take students from the gradual progression of forming basic sentences to composing more complex and developed sentences, and then finally to cohesive paragraph development.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP2「社会生活に必要な英語の基本的文書や資料を読み、書くことができる。」の達成に関わる科目です。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Course Introduction; explanation of syllabus; reading level assessment		Introduce student record book	
第2回	Begin SRA Reading Laboratory power builders, skill builders and key cards Introduce rate builders		Student record book for rate builders	
第3回	SRA Reading Laboratory power builders and student self-assessment continued Writing activity - Acrostic puzzles		Student record book	
第4回	SRA Reading Laboratory power builders and student self-assessment continued Writing activity - Dictation #1		Student record book	
第5回	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment continued		Student record book	
第6回	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment continued		Student record book	
第7回	SRA Reading Laboratory power builders and student self-assessment continued Writing activity - Skill builders #1		Student record book	
第8回	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment continued		Student record book	
第9回	SRA Reading Laboratory power builders rate builders and student self-assessment continued		Student record book	
第10回	SRA Reading Laboratory power builders and student self-assessment continued Writing activity - Video story #2		Student record book	
第11回	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment continued		Student record book	
第12回	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment continued		Student record book	
第13回	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment continued		Student record book	
第14回	SRA Reading Laboratory power builders, rate builders and student self-assessment continued		Student record book	
第15回	Semester and Exam Review		Exam Review Sheet	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	25 % Final Exam			
レポート	There will generally be no reports in this class.			
小テスト等	15% Mid-term test			
成果発表	Results of mid-term test will be given in class.			
受講態度他	30 % Class participation, self-evaluation and homework 15% Power builder record book 15% Rate builder record book			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Participation in class activities is essential for success in this class. Please come to class every week prepared to practice reading and writing.			
教科書	No Text. (Reading materials will be provided by the teacher.)			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスアワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing AII (S)		開講時期	後期
担当教員	D. J. Wood		単位	1
授業の目的と概要	This course's aim is communicative accuracy in reading and writing. Students learn to avoid mistakes that defeat communication. Students study two English skills in just one class. Accordingly, this course emphasizes additional independent assignments. Learners can achieve significant progress in reading and writing from first to final class. The content, skills and production of the class include: using students' own photos for composition from first draft, peer review to final versions; note-taking; directed written assignments; independent reading assignments; integrated reading/writing activities; diaries on specific occasions; ongoing journals for daily completion;			
到達目標	Students develop computer English reading and writing skills. They learn to extend their writing ability to connect sentences. They practice how to organize ideas into short paragraphs. They increase comprehension by identifying key words and topic sentences. They acquire the ability to read writers' attitudes. They develop the ability to summarize reading passages. They practice reading summaries of fellow students' written work.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	In accordance with the department's relevant diploma policy, students continue to develop the skills necessary to achieve basic level social interaction in written English.			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Post-summer reading quiz		To be announced	
第2回	Post-summer writing quiz		To be announced	
第3回	Writing more detailed self descriptions		To be announced	
第4回	Writing about disappointments.		To be announced	
第5回	Writing about surprises		To be announced	
第6回	Reading and writing about national topics		To be announced	
第7回	Reading and writing about problems		To be announced	
第8回	Reading and writing about international opinions		To be announced	
第9回	Reading and writing about plans		To be announced	
第10回	Reading and writing about future events		To be announced	
第11回	Reading and writing about changes		To be announced	
第12回	Course review		To be announced	
第13回	Exit writing quiz		To be announced	
第14回	Exit reading quiz		To be announced	
第15回	Reading and writing project orientation		To be announced	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% homework and quizzes			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	All study materials will be distributed in class			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays.	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing B I (S)		開講時期	前期
担当教員	中村 テーマ		単位	1
授業の目的と概要	Students will develop fluency in reading and writing. Reading ? connect skills to materials in the real world (Weekly Student Times online); Writing ? skills for sentence combining from grammar level to paragraph and story level. Reading and writing activities and exercises will be centered on grammatical level to paragraph to full story writing and reading comprehension.			
到達目標	Students will practice specific exercises for each writing skill: sentence-making, sentence-combining (sentence, paragraph, story levels), skill-building (editing, organizing). Reading exercises focus on vocabulary-building, paraphrasing and comprehension extended to the real world context.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は英語学科DP②「社会生活に必要な英語の基本的文書や資料を読み、書くことができる。」に関連する科目です。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Introducing sentence-combining; adjectives; conjunctions		Unit 2	
第2回	The Jellyfish (writing theme)		予習	
第3回	Reading passages (WST)		予習	
第4回	Using adverbs; prepositional phrases		Unit 3	
第5回	The Batter		予習	
第6回	Reading passages (WST)		予習	
第7回	Analyzing paragraphs		Unit 4	
第8回	The Snowboarder		予習	
第9回	Reading passages (WST)		予習	
第10回	Using gerunds; participles		Unit 5	
第11回	The Snowboarder 2		予習	
第12回	Using noun phrases; infinitive phrases		Unit 6	
第13回	The "Untrained" King		予習	
第14回	Using quotations		Unit 7	
第15回	Flowers for My Wife		予習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	80% (reading and writing test)			
レポート	20% (homework; in-class participation)			
小テスト等	-			
成果発表	None			
受講態度他	None			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Attendance and active participation are required.			
教科書	Curtis Kelly 『Significant Scribbles』 Pearson Longman			
指定図書	None			
参考図書	Appropriate library references to be announced in class			
オフィスアワー	月曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing B1		開講時期	前期
担当教員	Keith Kinstler		単位	1
授業の目的と概要	<p>READING &amp; WRITING B1 emphasizes reading for understanding and writing grammatically equivalent responses to text based comprehension exercises. Students will be expected to develop writing ability from model reading texts. Idiomatic English will be used throughout. 千里の道も一歩から。 Materials are chosen on the basis of variety, clarity, simplicity and general interest. Each passage will be a few pages long and will include writing exercises.</p>			
到達目標	<p>Students will study basic English sentence structure and the relationship between various parts of speech. Variant spellings and pronunciation will be analyzed in order to allow students to recognize differences between spelling and pronunciation. 困難なことも慣れれば簡単</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	INTRO - CLASSROOM ENGLISH - GRAMMAR & PARSING - IDIOMS		Homework: Read 'Pompeii' Hand-out	
第2回	Pompeii - Writing Review - Etymology		Homework: Read Can You Believe It 3 Lesson 1	
第3回	Dream Home - Comprhesion & Vocabulary Written - Etymology Responses		Homework: Read Can You Believe It 3 Lesson 2	
第4回	Eating Out - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Homework: Read Can You Believe It 3 Lesson 3	
第5回	Out on a Limb - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Homework: Read Can You Believe It 3 Lesson 4	
第6回	On Top of the World - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Homework: Read 'The Plain People' Hand-out	
第7回	The Plain People - Question Formation - Etymology		Homework: Read Can You Believe It 3 Lesson 5	
第8回	Boy Fights Lion - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Crossword	
第9回	Extra - Writing Exercises		Homework: Read Can You Believe It 3 Lesson 6	
第10回	Face to Face - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Crossword	
第11回	Extra - Writing Exercises		Homework: Read Can You Believe It 3 Lesson 7	
第12回	Frog - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Crossword	
第13回	Extra - Writing Exercises		Crossword	
第14回	Reading Review		Crossword	
第15回	Quiz		予習: 授業の前に配布プリント、教科書の単語の意味などを調べておく。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	30%			
レポート	10%			
小テスト等	20%			
成果発表	10%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>この授業は全て英語で行われます。定期試験のみで合格点をとっても、単位取得はできません。毎回の授業、課題提出が大事です。</li> <li>この科目ではクラス活動、授業態度を重視し、積極的に主体的な授業参加が望まれます。</li> <li>クラス活動、練習で継続的に評価を行っていきます。</li> <li>前期は15回授業があり、1回のクラスワークで最高10点もられます。公欠は考慮しますが、理由のない遅刻は減点となります。</li> </ul>			
教科書	HUIZENGA 『CAN YOU BELIEVE IT? BOOK 3』 Oxford University Press			
指定図書	ENGLISH - JAPANESE JAPANESE - ENGLISH DICTIONARY			
参考図書	ENGLISH - ENGLISH Dictionaries			
オフィスワー	Before or after the class.	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing B 1		開講時期	前期
担当教員	Saza LINDA		単位	1
授業の目的と概要	This course has two main objectives. The first goal is to help students express themselves clearly and accurately in written form. The second goal is to introduce students to examples of superior writing, so that they may improve their own methods of expression.			
到達目標	The writing portion of the lessons will focus on practicing common sentence patterns. Punctuation, grammar and spelling rules will be spotlighted. The reading will be done at home, but will be discussed in class. The aim here is to have the students write opinion pieces on the reading selections.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	All reading material will be distributed by the teacher. The introduction of brainstorming techniques and outlining exercises will help students to organize their ideas. This will improve their writing skills in any language.			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Overview			Prepare text and necessary materials	
第2回 Basic parts of speech - Nouns, pronouns, and verbs. Definition of a sentence.			Page 6-13	
第3回 Parts of speech - Prepositions, adjectives, and adverbs.			Page 14-20	
第4回 Sentence patterns - be verbs. Subject / verb agreement .			Page 21-28	
第5回 Sentence patterns - There is , there are. Adverb phrases of location			Page 29-36	
第6回 Sentence pattern for have verbs. Describing people and things.			Page 37-43	
第7回 Combining sentences with and, but, or and so. Gerunds			Page 44-51	
第8回 Putting adjectives in correct order. Subject and object pronouns.			Page 52-59	
第9回. Simple present and present continuous tenses. Adverbs of frequency. Intro to paragraphs.			Page 60-67, Reading assignment	
第10回 Formal and informal language in writing. Topic sentences, supporting sentences and concluding sentences.			Page 68-74, Reading assignment	
第11回 Brainstorming , outlining, topic sentences.			Page 75-82, Opinion Paper	
第12回 Supporting and concluding sentences continued. The use of too and not...enough.			Page 83-90	
第13回 Writing a strong conclusion.			Opinion Paper	
第14回 Contrasting the present perfect and simple past . Intro for term paper.			Page 91-97 , Prepare Term Paper	
第15回 Final Writing Assignment - Term paper Workshop			Prepare Term Paper	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%			
小テスト等	30%			
成果発表	0%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Get ready to write!			
教科書	SENTENCE WRITING - The basics of writing by Dorothy E. Zemach Published by Macmillan			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing BII		開講時期	後期
担当教員	Saza LINDA		単位	1
授業の目的と概要	This course is designed as the continuation of Reading and Writing BI. The goals remains the same. The first is to help students express themselves more clearly and accurately in written form. The second is to introduce students to examples of good writing.			
到達目標	The writing portion of the lessons will focus on paragraph writing. The aim is to have the students write strong thesis statements followed by well supported, organized ideas. Once again, the reading will be done at home, but will be discussed in class. Students will write opinion pieces on the reading selections.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	All reading material will be distributed by the teacher. The introduction of brainstorming techniques and outlining exercises will help students to organize their ideas. This will improve their writing skills in any language.			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Overview			Prepare the text	
第2回 Recognizing and writing complete sentences. Identifying topic sentences.			Page 5-13	
第3回 Picking out topics and main ideas. Skimming skills in reading.			Page 13-19	
第4回 Developing paragraphs. Brainstorming by listing.			Page 20-25	
第5回 Writing conclusions. Brainstorming by mapping.			Page 26-33	
第6回 The importance of peer reading. Brainstorming by freewriting.			Page 34-41	
第7回 Writing Opinion Papers			Page 42-47	
第8回 Writing explanations and excuses. Reading selection			Page 48-54	
第9回 Expressing personal feelings. Writing in logical order.			Page 55-61	
第10回 Ordering events in a narrative. Using time expressions. Logical order.			Page 62-68	
第11回 Organizing a comparison paragraph.			Page 69-74, reading selection	
第12回 How to start your term paper. Catching the readers attention.			Page 75-79 Print provided, reading selection	
第13回 Connecting paragraphs to make an essay. Writing about the future.			Page 80-84	
第14回 Opinion piece for reading selection. Preparing a final draft.			Prepare final paper	
第15回 Final Term Paper			Prepare term paper	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	0%			
レポート	50%			
小テスト等	30%			
成果発表	%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Come prepared to write!			
教科書	Paragraph Writing - from the sentence to paragraph by Dorothy Zemach Published by Macmillan			
指定図書	-			
参考図書	-			
オフィスワー	Before and after class.	メールアドレス		



授業科目	Reading and Writing BII		開講時期	後期
担当教員	Keith Kinstler		単位	1
授業の目的と概要	<p>READING &amp; WRITING BII emphasizes reading for understanding and writing grammatically equivalent responses to text based comprehension exercises. Students will be expected to develop writing ability from model reading texts.</p> <p>Idiomatic English will be used throughout.</p> <p>千里の道も一歩から。 Materials are chosen on the basis of variety, clarity, simplicity and general interest. Each passage will be a few</p>			
到達目標	<p>Students will study basic English sentence structure and the relationship between various parts of speech. Variant spellings and pronunciation will be analyzed in order to allow students to recognize differences between spelling and pronunciation.</p> <p>困難なことも慣れれば簡単</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	INTRO ? CLASSROOM ENGLISH REVIEW - GRAMMAR & PARSING - IDIOMS		Homework: Read 'Brats' Hand-out	
第2回	Brats - Writing Review - Etymology		Homework: Read Can You Believe It 3 Lesson 8	
第3回	Emu - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Crossword	
第4回	Extra - Writing Exercises		Homework: Read Can You Believe It 3 Lesson 9	
第5回	Tying the Knot - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Homework: Read Can You Believe It 3 Lesson 10	
第6回	Graffiti - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Homework: Read 'The Map' Hand-out	
第7回	The Map		Crossword	
第8回	Extra - Writing Exercises		Homework: Read Can You Believe It 3 Lesson 11	
第9回	Hitting the Road - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Homework: Read Can You Believe It 3 Lesson 12	
第10回	Unique Hotel - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Crossword	
第11回	Extra - Writing Exercises		Homework: Read Can You Believe It 3 Lesson 13	
第12回	Cyber Romance - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Homework: Read Can You Believe It 3 Lesson 14	
第13回	Solo Sailor - Comprehension & Vocabulary Written Responses - Etymology		Crossword	
第14回	Reading Review		None	
第15回	Quiz		予習：配布プリント、教科書の単語の意味などを調べておくこと。	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	30%			
レポート	10%			
小テスト等	20%			
成果発表	10%			
受講態度他	30%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>・この授業は全て英語で行われます。 ・定期試験のみで合格点をとっても、単位取得はできません。毎回の授業、課題提出が大事です。</p> <p>・クラス活動、授業態度が重視され、積極的で主体的な授業参加が望まれます。 ・授業活動、練習で継続的に評価を行っていきます。 ・前期は15回授業があり、1回のクラスワークで最高10点もらえます。休んだ場合のクラスワーク点は0点、公欠に関しては考慮します。理由のない遅刻は減点されます。</p>			
教科書	HUIZENGA 『CAN YOU BELIEVE IT ? BOOK 3』 Oxford University Press			
指定図書	ENGLISH - JAPANESE JAPANESE - ENGLISH DICTIONARY			
参考図書	None			
オフィスアワー	Before or after the class.	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing BII (S)		開講時期	後期
担当教員	林 恵子		単位	1
授業の目的と概要	Students will develop fluency in reading and writing. Reading ? connect skills to materials in the real world (Weekly Student TiReading and writing activities and exercises will be centered on grammatical level to paragraph to full story writing and reading comprehension. mes online); Writing ? skills for sentence combining from grammar level to paragraph and story level.			
到達目標	Students will practice specific exercises for each writing skill: sentence-making, sentence-combining (sentence, paragraph, story levels), skill-building (editing, organizing). Reading exercises focus on vocabulary-building, paraphrasing and comprehension extended to the real world context.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この科目は英語学科DP②「社会生活に必要な英語の基本的文書や資料を読み、書くことができる。」に関連する科目です。			
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Using subordinate clauses, relative clauses		Unit 8	
第2回	Coffee break (writing theme)		予習	
第3回	Simple sentences		Unit 9	
第4回	Ghandi' s Sandal		予習	
第5回	Reading passages (WST)		予習	
第6回	Using appositives, punctuation		Unit 10	
第7回	The Librarian		予習	
第8回	Reading passages (WST)		予習	
第9回	Sentence embedding		Unit 11	
第10回	The Telephone Operator		予習	
第11回	Using topic sentences		Unit 12	
第12回	The Stones of Life		予習	
第13回	Reading passages (WST)		予習	
第14回	Making a writing plan		Unit 13	
第15回	A Quiet Stay in Hawaii		予習	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など			
定期試験	80% (reading and writing test)			
レポート	20% (homework; in-class participation)			
小テスト等	None			
成果発表	None			
受講態度他	None			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Attendance and active participation are required			
教科書	Curtis Kelly 『Significant Scribbles』 Pearson Longman			
指定図書	None			
参考図書	Appropriate library references to be announced in class			
オフィスワー	授業の終了後をお願いします。		メールアドレス	

授業科目	Reading and Writing CI		開講時期	前期
担当教員	L. Aoki		単位	1
授業の目的と概要	In this class the students will learn how to write a paragraph, and a composition using logical order and correct format for English writing. Students will learn about the writing process and learn how to develop a topic as well as how to write details. They will learn how to write a summary and how to write about their own life experiences. Finally, they will study how to write a book report, and learn to think about what the author wished to say and what is the main idea or moral of the book or story. Students will review grammar points in order to use them correctly in writing, and they will have practice in editing their own work using the hints the teacher has marked on their paper			
到達目標	By the end of the class, students will know how to write a composition about a classmate, about their experience, and a book summary; neatly in the correct format of indenting, margins, spacing, and the correct use of basic punctuation. They will be able to write an organized essay with logical progression. Students will be able to write a topic sentence, support sentences and a conclusion to their work, and to think clearly about what they want to express. They will be able to write a book report that shows they have thought more deeply about what the author has written, and be able to express their opinion about the work.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
	Introduction of the course goals, methods, rules, grading system, schedule. Review of paragraph parts. Explanation of book reports.	Review of paragraph parts. Choose book for book reports.		
	Unit 1. Profile reading. Interview preparation. Student interviews. Organizing interview data. Writing main idea (topic) sentence.	Book report reading.		
	Unit 1. Study how to develop the body of the profile composition. Practice writing details. Learn how to write a conclusion sentence. Introduction on how to write the book reports.	Book report reading.		
	Unit 1. Editing for subjects and verbs. Further instruction on the way to write the first book report. Explanation of H/W 1: Profile. Due 6th class	Book report writing. Editing exercises.		
	Unit 2. Experience reading. Organize writing for one's experience. Write an outline. Peer discussion. Write the Main Idea sentence for an experience composition. Book Report 1 DUE.	Book report reading. Homework writing: Profile		
	Unit 2. Experience writing: main idea sentence, time order organization, details and action, and conclusion sentence. H/W 1 Classmate Profile DUE.	Book report reading.		
	Homework counseling on H/W 1, and Reading Day. H/W Rewrite 1 due 9th class. Explain H/W 2: Experience Composition due 9th class.	Book report reading. Homework writing: Profile rewrite, Experience.		
	Unit 2. Finish experience writing: editing for past tense, and unnecessary sentences. Study of use of direct quotations. Explain book report 2 Due 10th Class	Book report and homework writing.		
	Unit 7. Reading stories for writing a summary. Practice finding important parts of story and rewriting that in one's own words. H/W 1 Rewrite Profile, and H/W 2 Experience DUE.	Book report writing.		
	Homework counseling on H/W 2, and Reading Day. H/W Rewrite 2 due 11th class. Book report 2 DUE.	H/W Rewriting		
	Unit 7. Continue to practice reading and finding important parts to write a summary. Learn how to write the Main Idea sentence for this composition. H/W 2 Experience Rewrite DUE.	Catch up on unfinished homework.		
	Unit 7. Learn use of literary present tense to summarize. Learn use of direct and indirect quotes with correct punctuation. Continue summary practice. Explanation H/W 3 Due 13th class.	H/W 3 Summary writing		
	Unit 7. More summary practice if needed. Or alternate writing/reading. H/W 3 Summary DUE.	H/W 3 Summary writing		
	Homework counseling for H/W 3 Summary. Rewrite due 15th class. Reading Day.	Rewrite H/W 3 Summary.		
	Explanation of Final test. Review. Continue reading, alternative writing. H/W 3 Summary Rewrite DUE. NO PREVIOUS H/W ACCEPTED AFTER THIS DAY.	Study for Final Test		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	30% Test on writing skills and reading comprehension, as well as self editing and rewriting			
レポート	60% This includes two book reports = 20%, and three composition homework = 30%, and reading day comprehension questions = 10%			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	10% This includes class participation, coming to class on time, attitude, and submitting homework on time.			
受講上の留意点・ルールに関する情報	You MUST have a new textbook. A used textbook with the answers already written in it will not be accepted. No cell/smart/i-phones allowed in class Please bring dictionaries. Electric dictionaries is all right, but not smart phones. A book dictionary is best.			
教科書	Ann O. Strauch 『Writers at Work: The Short Composition』 Cambridge University Press			
指定図書	graded readers (Oxford, Penguin) in the library			
参考図書	other short novels			
オフィスアワー	Wednesdays after class, at lunch period, Mondays 1st period	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing CI		開講時期	前期
担当教員	M.E. Kamada		単位	1
授業の目的と概要	The aim of this course is for students to improve their reading and writing skills in English, to enjoy reading and writing in English, and to be able to communicate effectively in written English. Reading easy to understand graded readers will help students improve their reading fluency. Students will learn to write more effectively by learning the process of gathering initial ideas, writing a first draft, sharing written work with other students and the teacher, revising, and editing. Students will get advice from the teacher on how to improve their writing. Common grammar mistakes will be pointed out, and students will correct their mistakes. At the end of the course, students will prepare a neatly presented portfolio of their corrected work.			
到達目標	At the end of this course, students should be able to be able to: 1. write a well organized composition 2. support their ideas with details, examples, and reasons 3. recognize and correct common grammar mistakes 4. summarize and comment on a story			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Guidance; class schedule; grading; book report form	Prepare a self-introduction card		
第2回	Extensive reading; book report form	Extensive reading		
第3回	Composition #1: Writing about a Person; reading sample compositions	Write book report #1		
第4回	Interview questions; the first draft: main idea, body, conclusion	Write interview questions		
第5回	Peer feedback, adding details, revising	Write Composition #1		
第6回	Composition #2: Narrating a Personal Experience; reading sample compositions	Extensive reading		
第7回	Organizing ideas in time order; using quotations; writing the first draft	Write book report #2		
第8回	Peer feedback; revising	Write Composition #2		
第9回	Composition #3: Giving Examples to Support an Idea; reading sample compositions	Extensive reading		
第10回	Organizing by time order or by order of importance	Write book report #3		
第11回	Adding details; writing conclusions	Write Composition #3		
第12回	Rewriting; grammar	Rewrite Compositions #1 and #2		
第13回	Editing and revising; grammar	Rewrite Composition #3		
第14回	Editing and revising; grammar	Make a portfolio		
第15回	Review	Study for the final exam		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	30%, final exam			
レポート	50%, compositions (30%), book reports (20%)			
小テスト等	20%, portfolio			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Students need to be on time for class and submit assignments on time. Students should have behavior that shows respect for the teacher and other students. Sleeping, chatting, or looking at cell phones are examples of unacceptable behavior. Students should be ready to engage in the class by having the text, a graded reader, and a dictionary.			
教科書	Writers at Work - The Short Composition by Ann O. Strauch (Cambridge University Press)			
指定図書	Graded readers are in the library.			
参考図書	An English-Japanese / Japanese-English Dictionary			
オフィスアワー	Students can talk to me after class.	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing CI(S)		開講時期	前期
担当教員	中村 テーマ		単位	1
授業の目的と概要	Students will be able to improve reading and writing fluency in English through screenplays in communicative settings, and understand themes in social situations through novels. The approach to reading and writing fluency focuses on reading comprehensions skills, vocabulary building, useful expressions, and paraphrasing exercises. Thinking skills are developed through inference and analytical activities.			
到達目標	Students will be able to 1) identify the theme in each text, 2) explain the elements of the story which develop the theme, and 3) describe discourse patterns across varying communicative settings.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Roman Holiday - background	Units 1-2		
第2回	Reading: Time-order organization - human development and experiential interaction	Units 3-6		
第3回	Discussion & writing: narrative essay on Anne's learning process	Units 7-10		
第4回	Miss Potter - background (reading material prepared by teacher)	Chaps. 1-5		
第5回	Reading: Theme - Life Influences art	Chaps. 5-10		
第6回	Discussion and writing: Timeline author study on Miss Potter	Chaps. 10-15		
第7回	Twelve Angry Men - background	Act I		
第8回	Reading: Identify argumentation and discussion points	Act II		
第9回	Discussion: American discussion patterns	Act III		
第10回	Writing: Turn-taking in English discussion with examples from play	予習		
第11回	Twelve Gentle Japanese - background	news article		
第12回	Viewing - 1990 film	予習		
第13回	Discussion: Identify Japanese discussion patterns	予習		
第14回	Writing: comparative USA/Japanese discussion patterns	予習		
第15回	Review of all readings	予習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	70%			
レポート	30% (three essays at 10% each)			
小テスト等	-			
成果発表	None			
受講態度他	None			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Attendance and active participation are required.			
教科書	初回の授業で指示します。			
指定図書	None			
参考図書	Appropriate library references to be announced in class			
オフィスアワー	月曜日の昼休み	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing CII		開講時期	後期
担当教員	M.E. Kamada		単位	1
授業の目的と概要	This course is a continuation of Reading and Writing C I. The aim of this course is for students to improve their skills in reading and writing English, to enjoy reading and writing in English, and to be able to communicate effectively in written English. Students will become able to read more fluently by reading extensively. Students will improve their writing skills by proceeding through the stages of gathering ideas, writing a first draft, revising, and editing. Students will get comments from the teacher on how to improve their work. Common grammar mistakes will be pointed out, and students will correct their mistakes. At the end of the course, students will prepare a neatly presented portfolio of their corrected work.			
到達目標	At the end of this course students should be able to do the following: 1. Write poems using descriptive adjectives, adverbs, and similes; 2. Write compositions giving reasons, explanations, and examples; 3. Summarize and comment on a news article; 4. Correct their written work.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回	Guidance; book report form		Extensive reading	
第2回	Composition #1: Supplying Reasons; reading sample compositions		Extensive reading	
第3回	Details; transitions; logical order		Write book report #1	
第4回	Sentences: simple; compound; complex		Write Composition #1	
第5回	Composition #2: Interpreting Quotations and Proverbs; reading sample compositions		Extensive reading	
第6回	Composing the main idea: topic and comment; using descriptive words		Write book report #2	
第7回	Transition signals; writing specific details		Write Composition #2	
第8回	Reading and writing poems; using sensory verbs		Write poems	
第9回	Reading and writing poems; using adjectives		Write poems	
第10回	Reading and writing poems; using adverbs		Write poems	
第11回	Reading and writing poems; using similes		Write poems	
第12回	In-class reading; writing a summary		Rewrite Compositions #1 and #2	
第13回	In-class reading; writing a summary		Make a portfolio	
第14回	In-class reading; writing a summary		Study for the final exam	
第15回	Review		Study for the final exam	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	30%、final exam			
レポート	50%、compositions (20%), book reports (20%), poems (10%)			
小テスト等	10%、TOEIC test, 10% Portfolio			
成果発表	0%			
受講態度他	0%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Students must be on time for class and submit assignments on time. Students should behave in a way that shows respect for the teacher and other students. Sleeping, chatting, or looking at cell phones are examples of unacceptable behavior. Students should be ready to engage in the class by having the text, a graded reader and a dictionary.			
教科書	Writers at Work - The Short Composition by Ann O. Strauch (Cambridge University Press)			
指定図書	Graded readers are in the library			
参考図書	An English-Japanese / Japanese-English Dictionary			
オフィスアワー	Students can talk to me after class	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing CII (S)		開講時期	後期
担当教員	T.R. Honkomp		単位	1
授業の目的と概要	The second semester course of Reading and Writing C II (S) emphasizes continued and advanced development in the skills of reading and writing. Particular attention will be given to improving reading speed, comprehension and developing techniques that increase reading proficiency. Most reading will be done outside of class as homework, and the writing component of this course will introduce in-class activities where students work together and share ideas to create original and more developed written sentences.			
到達目標	Vocabulary development will be emphasized as well as the opportunity to build reading confidence and competence. Students will select a graded reader that is appropriate to their reading level and read the complete text during the semester. Periodic checks will determine student progress. A book report about the text will culminate the experience and will be due near the end of the semester. Student journals will be an important part of the writing part of this course. Journal assignments will give students the chance to express their original ideas and life experiences while focussing on sentence development and more complete sentence structure.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Course introduction; course information, introduction to journals & book report assignment	—		
第2回	Grammar topic #1: Logical connectors; introduction and practice using connecting & transition words;	Grammar exercise practice		
第3回	Synonyms; Rewrite description using other words; developing details	Handout		
第4回	Sensory vocabulary; Expanding vocabulary that appeals to the five senses Journal Assignment #2	Vocabulary handout		
第5回	In class reading for book reports; progress check	Student selected books		
第6回	Introduction to imagery and colorful language; onomatopoeia Journal Assignment #3	Handouts		
第7回	Figures of speech; Introduction to simile, metaphor, hyperbole	Handouts		
第8回	Figures of speech continued; How vs. Why Journal Assignment #4	Handouts		
第9回	Grammar topic #2: Reported Speech, Indirect discourse introduction and practice	Homework exercises		
第10回	Continued development of creative and descriptive sentences Journal Assignment #5	Handouts		
第11回	Grammar topic #3 : Indefinite vs. definite articles introduction & practice	Handout exercises		
第12回	Figures of speech; development of exaggeration and hyperbole, personification, paradox Journal Assignment #6	Book reports due		
第13回	Introduction to simple poems; syllables, rhyme and rhythm, haiku	Handouts		
第14回	Simple poems continued; practice with limericks	Handouts		
第15回	Semester wrap-up and exam review	Exam review handouts		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	40%			
レポート	15% Book report			
小テスト等	—			
成果発表	—			
受講態度他	20% Class participation and class activities 25% Writing assignments and journals			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Class participation and weekly class activities will play an important factor in final evaluation. Please come to class every week prepared to actively pursue reading and writing practice.			
教科書	—			
指定図書	—			
参考図書	—			
オフィスアワー	Before and after class.	メールアドレス		

授業科目	Reading and Writing CII		開講時期	後期
担当教員	L. Aoki		単位	1
授業の目的と概要	In this class the students will learn how to write a paragraph, and a composition using logical order and correct format for English writing. Students will learn about the writing process and learn how to develop a topic as well as how to write details. They will learn how to write about a topic using examples, and write a critique on a fiction story. Finally, they will practice writing about book characters, and learn to think about what the author wished to say and what is the main idea or moral of the book or story. Students will review grammar points in order to use them correctly in writing, and they will have practice in editing their own work using the hints the teacher has marked on their paper			
到達目標	By the end of the class, students will know how to write a composition about a topic using examples or reasons to explain their opinion, they will be able to write an essay about a proverb, and an essay critiquing a fictional story; neatly in the correct format of indenting, margins, spacing, and the correct use of basic punctuation. They will be able to write an organized essay with logical progression. Students will be able to write a topic sentence and a conclusion to their work, and to think clearly about what they want to express. They will be able to write a book report that shows they have thought more deeply about what the author has written, and be able to express their opinion about the work.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
	Introduction of class (for new students and review): rules, grading, new class schedule.	Book report reading.		
	Unit 3. Example Composition Reading. Begin work on this composition of examples to explain a topic, choose a topic. Peer discussion and freewrite.	Book report reading.		
	Unit 3. Continue Example work. Study and practice Main Idea sentence. Organization and transition techniques. Study supporting details. Explanation of Book Report 1-DUE 5th Class.	Book report reading.		
	Finish Example Unit 3: Conclusion. Unit 4. Reason Composition Reading. Explanation of H/W 1 Example or Reason Composition-DUE 6th Class.	Book report writing.		
	Unit 4. Reason Composition Study organization and details. Book Report 1 DUE.	Book report reading. H/W 1 writing.		
	Unit 4. Study clauses and sentence types. Begin Unit 6 Proverb-Reading choose a proverb. H/W 1 Reason or Example Composition DUE.	Book report reading.		
	H/W 1 Counseling and Reading Day. H/W 1 Reason/Example Rewrite-DUE 8th Class	Book report reading. H/W 1 rewriting.		
	Unit 6. Proverb Essay. Organization of Proverb composition. Explanation of H/W 2 Proverb-Due 10th Class. H/W 1 Rewrite DUE	Book report reading. Homework 2 writing		
	Unit 6. Clustering for organization. Main idea sentence. Details in body with sense verbs and images. Study conclusion for this essay. Explanation of book report 2-DUE 11th Class	Book report reading. Homework 2 writing		
	Continue Proverb Unit. Study wordiness and use of definite and indefinite articles. H/W 2 Proverbs DUE. Alternate writing, time permitting.	Book report writing.		
	H/W 2 Counseling and Reading Day. H/W 1 Proverbs Rewrite-DUE 13th Class	H/W 2 Re-writing.		
	Unit 9. Critique of Fiction. Sample reading. Look at ideas critiqued. H/W 2 Proverbs Rewrite DUE. Read own story for critiquing by 14th class.	H/W 2 Proverbs Re-writing.		
	Special Class using materials concerning fall	Critique story reading		
	Unit 9 continue. Study main idea sentence, practice writing summary of own story in class. Study how to critique, and modal verbs. Explanation of H/W 3-DUE 15th Class.	H/W 3 Fiction Critique writing		
	Finish Unit 9. Catch up on any homework not due. Review and extra materials. NO PREVIOUS HOMEWORK OF ANY TYPE ACCEPTED AFTER TODAY. H/W 3 DUE. Explanation of Final Exam	Study for final exam		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	30% The test will be divided into grammar/usage section, writing section, and reading comprehension section. Each section will probably be 10%. (10X3=30%)			
レポート	50% Includes: 2 book reports 20%; 2-3 homework reports 30%.			
小テスト等	10% TOIEC test. (For juniors only. 3年生のみ) For seniors (4年生) 10% on attitude/participation.			
成果発表	0			
受講態度他	10% Based on reading days comprehension questions. Homework done on time.			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	You MUST have a new textbook. A used textbook with the answers already written in it will not be accepted. No cell/smart/i-phone use allowed in class Please bring dictionaries. Electric dictionaries is all right, but not smart phones. A book dictionary is best.			
教科書	Ann 0. Strauch 『Writers at Work: The Short Composition』 Cambridge University Press			
指定図書	graded readers (Oxford, Penguin) in the library			
参考図書	other short novels			
オフィスアワー	Wednesdays after class, at lunch period	メールアドレス		



授業科目	Research and Academic Writing		開講時期	後期
担当教員	M.E. Kamada・太田 梢		単位	2
授業の目的と概要	The aim of this course is for students to learn to write academic paragraphs and essays. Students will learn the process of writing which includes choosing a topic, gathering ideas, organizing ideas, writing, and rewriting. By reflecting on the teacher's comments, students will become aware of common grammar mistakes and improve their work.			
到達目標	At the end of this course, students should be able to do the following: 1. write topic sentences; 2. write supporting sentences that develop the topic with details, explanations, and examples; 3. write concluding sentences; 4. check for common grammar mistakes.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	Chapter One: A Morning Person or a Night Person?; the format of a paragraph	Write a self-introduction card		
第2回	Continuing A Morning Person or a Night Person?; topic sentences	Write paragraph # 1		
第3回	Chapter Two: A Person Important to You; topic sentences, supporting sentences	Editing practice; p. 124		
第4回	Continuing A Person Important to You; subject-verb agreement	Write paragraph # 2		
第5回	Chapter Four: A Scary or Funny Experience; compound sentences	Rewrite paragraph # 1		
第6回	Continuing A Scary or Funny Experience; using details	Write paragraph # 3		
第7回	Chapter Five: Holidays; conclusions	Rewrite paragraph # 2		
第8回	Continuing Holidays; complex sentences	Write paragraph / essay # 4		
第9回	Chapter Seven: A Favorite Place; prepositions of place	Rewrite paragraph # 3		
第10回	Continuing A Favorite Place	Write paragraph / essay # 5		
第11回	Chapter Nine: What's Your Opinion?; giving reasons	Rewrite paragraph / essay # 4		
第12回	Continuing What's Your Opinion?; editing	Rewrite paragraph / essay # 5		
第13回	Chapter Eight: The Ideal Spouse; transitions	Prepare a portfolio		
第14回	Continuing The Ideal Spouse; transitions	Editing print		
第15回	Review	Prepare for examination		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	30%			
レポート	50% for paragraphs and essays			
小テスト等	0%			
成果発表	0%			
受講態度他	20%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	Students should bring a dictionary to each class and paper for writing. Three lates equals one absence.			
教科書	Writers at Work: The Paragraph by Jill Singleton (Cambridge University Press)			
指定図書	nothing			
参考図書	nothing			
オフィスアワー	Students can talk to me after class.	メールアドレス		

授業科目	TOEIC Practice A	開講時期	後期
担当教員	緒方 隆文	単位	1
授業の目的と概要	<p>目標1：英語コミュニケーション・スキル向上のため、TOEIC BRIDGEの演習問題に取り組み、正しい英語を使うことができる。</p> <p>目標2：実務的な能力・知識を身につけ、実社会で活躍できるよう、より実践的な内容の演習問題に正しく答えることができる。</p> <p>目標3：TOEIC BRIDGEでの高得点を目指し、資格単位認定が得られるくらいの英語力を身につける。目標4：論理的思考力でもって、問題の構成、解答方法を理解できる。</p> <p>授業は二部構成で進める。1つは下記テキストの演習問題を行い、数週毎に小テストを行う。テキストは予習を前提として進める。また内容が難しく感じる学生用に、スクリプト等の補足プリントを授業HPにのせ、閲覧・ダウンロードできるようにする。2つめにテキストとは別に、TOEIC BRIDGEの模擬試験問題を解いていく。授業の最後には、毎回授業の内容の復習となるよう、課題を出し、その提出を求めていく。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. TOEIC BRIDGEの演習問題を正しく解くことができる。</li> <li>2. 演習問題の解答がなぜそのようになるのかを、論理的思考力でもって説明ができる。</li> <li>3. 学期末のTOEIC BRIDGE試験で、初回模擬テストよりも高得点をとることができる。</li> </ol>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	<p>この授業は、英語学科のDP4「英語を活かすための職業上の知識や技能の基礎を身につけている。」の達成にかかわる科目です。ビジネスイングリッシュの能力を測定するTOEICを学習することで、社会で用いる英語運用能力を高めることを目的としています。この科目は2年次開講のTOEIC Practice B、3年次開講のTOEIC Practice Cという一連の流れの科目群の最初の科目に相当し、一番基礎的な内容を学習していくことになります。</p>		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 オリエンテーション, テキスト演習問題 ①(SAMPLE QUESTIONS)		①(SAMPLE QUESTIONS)～テキストの復習	
第2回 模擬テスト(TOEIC Bridge)		テキストの復習及び次回予習	
第3回 テキスト演習問題 ②(DAILY LIFE)		②(DAILY LIFE)～テキストの復習及び次回予習	
第4回 テキスト演習問題 ③(PLACES)		③(PLACES)～テキストの復習及び次回予習	
第5回 テキスト演習問題 ④(PEOPLE & PROFESSIONS)		④(PEOPLE & PROFESSIONS)～テキストの復習及び次回予習	
第6回 テキスト演習問題 ⑤(THINGS AROUND US)		⑤(THINGS AROUND US)～テキストの復習及び次回予習	
第7回 テキスト演習問題 ⑥(EXPRESSING IDEAS)		⑥(EXPRESSING IDEAS)～テキストの復習及び次回予習	
第8回 テキスト演習問題 ⑦(ACTION)		⑦(ACTION)～テキストの復習及び次回予習	
第9回 テキスト演習問題 ⑧(SITUATIONS)		⑧(SITUATIONS)～テキストの復習及び次回予習	
第10回 テキスト演習問題 ⑨(DESCRIBING THINGS)		⑨(DESCRIBING THINGS)～テキストの復習及び次回予習	
第11回 テキスト演習問題 ⑩(COMPANY & BUSINESS)		⑩(COMPANY & BUSINESS)～テキストの復習及び次回予習	
第12回 テキスト演習問題 ⑪(MARKETING)		⑪(MARKETING)～テキストの復習及び次回予習	
第13回 テキスト演習問題 ⑫(EDUCATION & OTHERS)		⑫(EDUCATION & OTHERS)～テキストの復習及び次回予習	
第14回 テキスト演習問題 ⑬(ENTERTAINMENT)		⑬(ENTERTAINMENT)～テキストの復習及び次回予習	
第15回 テキスト演習問題 ⑭(PRACTICE TEST)		⑭(PRACTICE TEST)～テキストの復習	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	50% 定期試験を実施する。		
レポート	20% 毎回の授業において課題が課せられる。		
小テスト等	15% TOEIC Bridge(12月下旬:10%)を1回・小テストを2回(5%)実施する。		
成果発表	なし		
受講態度他	15% 十分な予習をもとにした、積極的な受講を考慮する。 評価の細かい配分は、初回授業で説明がなされる。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>テキストは単語を調べ、練習問題は分かる範囲ですべて予習をしておくこと。このとき教科書に付属のCD-ROMも活用すること。また授業後は、しっかり復習し、小テスト/期末試験にそなえること。細かい授業のルールについては、第1回の授業で配布する。</p>		
教科書	水本篤, M.D.Stafford 著. 『Over the TOEIC Bridge TEST』. 桐原書店.		
指定図書	特になし		
参考図書	授業中、必要に応じて紹介する。		
オフィスワー	月曜日と火曜日と水曜日の昼休み(予約が望ましい)	メールアドレス	

授業科目	TOEIC Practice B		開講時期	後期
担当教員	田吹 香子		単位	1
授業の目的と概要	本授業では、受講生のTOEIC Testのスコアアップを第一目標とする。そのためには、TOEIC受験対策テキストで学ぶ頻出単語や文法、特徴的な言い回し、業種やシチュエーション別の特徴的表現を学習し、ミニ復習テストで自己の到達度を確認する。			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各Unitに出てくる語彙や生活とビジネスに直結した表現を習得する。</li> <li>2. 高校までに学んだ文法を復習し、新たを知る文法事項を試験において活用できるようにする。</li> <li>3. 各パートの特徴を知り、試験の傾向に慣れる。</li> <li>4. 本講座受講終了までにTOEIC本試験で500点以上のスコアを取得する。</li> </ol>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など	この授業は、主に英語学科のDP4「英語を活かすための職業上の知識や技能の基礎を身につけている」の達成に関わる科目です。本講座で修得したスキルを、3年次後期開講の「TOEIC Practice C」でさらに向上させることが望めます。			
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション、Unit 1 Pre-Test	Unit 2の予習、指定図書による自学自習		
第2回	Unit 2 Daily Life解説、ミニ復習テスト	Unit 3の予習、ミニ復習テストに向けての準備、指定図書による自学自習		
第3回	Unit 3 Airport解説、ミニ復習テスト	Unit 4の予習、ミニ復習テストに向けての準備、指定図書による自学自習		
第4回	Unit 4 Traffic解説、ミニ復習テスト	Unit 5の予習、ミニ復習テストに向けての準備、指定図書による自学自習		
第5回	Unit 5 Hotel解説、ミニ復習テスト	Unit 6の予習、ミニ復習テストに向けての準備、指定図書による自学自習		
第6回	Unit 6 Bank解説、ミニ復習テスト	Unit 7の予習、ミニ復習テストに向けての準備、指定図書による自学自習		
第7回	Unit 7 Office解説、ミニ復習テスト	Unit 8の予習、ミニ復習テストに向けての準備、指定図書による自学自習		
第8回	Unit 8 Meeting解説、ミニ復習テスト	Unit 9の予習、ミニ復習テストに向けての準備、指定図書による自学自習		
第9回	Unit 9 Employment解説、ミニ復習テスト	Unit 10の予習、ミニ復習テストに向けての準備、指定図書による自学自習		
第10回	Unit 10 Factory解説、ミニ復習テスト	Unit 11の予習、ミニ復習テストに向けての準備、指定図書による自学自習		
第11回	Unit 11 Order解説、ミニ復習テスト	Unit 12の予習、ミニ復習テストに向けての準備、指定図書による自学自習		
第12回	Unit 12 Contract解説、ミニ復習テスト	Unit 13の予習、ミニ復習テストに向けての準備、指定図書による自学自習		
第13回	Unit 13 Business解説、ミニ復習テスト	Unit 14の予習、ミニ復習テストに向けての準備、指定図書による自学自習		
第14回	Unit 14 Health解説、ミニ復習テスト	ミニ復習テストに向けての準備、指定図書による自学自習		
第15回	Post-Test、これまでの復習	期末試験に向けての準備		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50% 定期試験			
レポート	なし			
小テスト等	20%ミニ復習テスト、10%TOEIC IP Test			
成果発表	なし			
受講態度他	20% 授業への積極的参加(予習の状況等)			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業には辞書を持ってくること。</li> <li>・授業日に解説するUnitはあらかじめ辞書などを使い予習しておくこと。</li> <li>・授業内で習得した新たな単語や表現は「オリジナル単語帳」にまとめること。</li> <li>・テキストのリスニング問題のスキriptやリーディング問題の文章は、授業後「音読」すること。</li> <li>・本講座受講期間中の実施されるTOEIC公開テスト、または本学で実施されるTOEIC IP Testを積極的に受験することが望ましい</li> </ul>			
教科書	Open the Gate for the TOEIC Test (金星堂)			
指定図書	TOEIC Test レベル別問題集500点突破リーディング編、TOEIC Test レベル別問題集500点突破リスニング編(東進ブックス)			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜日 授業時間前後	メールアドレス		

授業科目	TOEIC Practice C		開講時期	後期
担当教員	D. J. Wood		単位	1
授業の目的と概要	This preparation course is compulsory. Students will become familiar with the test format, timing, and possible approaches for preparation the Test of English for International Communication. The test is a test of English language proficiency so students must improve their English during all their classes and free time to achieve a high score.			
到達目標	By studying the exact nature of and best possible techniques for the test, students will improve their ability to answer in various ways such as: * how to use the available time to the maximum effect; * which listening and reading strategies are most effective for them; * how to deal with questions that they cannot answer at first; * how to use the information in the exam to double check and confirm their answers; * and, how to improve their proficiency in their own time.			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容		授業外学修など	
第1回 Overall Introduction			To be announced	
第2回 Listening Introduction			To be announced	
第3回 Listening Practice 1			To be announced	
第4回 Listening Practice 2			To be announced	
第5回 Listening Practice 3			To be announced	
第6回 Reading Introduction			To be announced	
第7回 Reading Practice 1			To be announced	
第8回 Reading Practice 2			To be announced	
第9回 Reading Practice 3			To be announced	
第10回 Combined Practice Introduction			To be announced	
第11回 Combined Practice 1			To be announced	
第12回 Combined Practice 2			To be announced	
第13回 Combined Practice 3			To be announced	
第14回 Advanced Techniques			To be announced	
第15回 Overall Review			To be announced	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	50%			
レポート	なし			
小テスト等	なし			
成果発表	なし			
受講態度他	50% Practices and class participation			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。			
教科書	Materials will be explained in class			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays.	メールアドレス		

授業科目	Visual Literature	開講時期	後期
担当教員	D. J. Wood	単位	2
授業の目的と概要	Film Communication is related to Visual Literature which is helpful for students to follow this class. Film Communication considers the kind of movie arising from an original shooting script. Shooting scripts which usually precedes a movie, and open for the director to use or ignore as desired. Themes change in terms of the respective emphases the writer and director place upon them.		
到達目標	Both forms of the same story employ different kinds of imagery. This is in order to convey the specific expression of their themes. The effectiveness of this imagery needs to be evaluated. This can determine which medium is the more successful at conveying the particular emphasis intended.		
この授業が目的としているDPや関連する科目など	In accordance with departmental diploma policy, this course aims to familiarize students with basic concepts of literature and culture in English for them to be able to summarize and explain.		
授業計画	授業内容	授業外学修など	
第1回 Orientation to Film Communication		To be announced	
第2回 Background to the chosen film for study		To be announced	
第3回 Initial film script reading		To be announced	
第4回 Initial film scene interpretation		To be announced	
第5回 Mid-film script reading		To be announced	
第6回 Mid-film scene interpretation		To be announced	
第7回 Review of first half of the movie		To be announced	
第8回 Quiz about first half of the movie		To be announced	
第9回 Script reading of the later scenes		To be announced	
第10回 Interpretation of the later scenes		To be announced	
第11回 Script reading of the final scenes		To be announced	
第12回 Interpretation of the final scenes		To be announced	
第13回 Review of the second half of the film		To be announced	
第14回 Quiz about second half of the movie		To be announced	
第15回 Review of the entire film		To be announced	
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など		
定期試験	50%		
レポート	なし		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	50% Class tests and participation		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	履修規程第10条(2)に従います。		
教科書	Study materials will be distributed in class		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスアワー	Lunchtime on Tuesdays.	メールアドレス	

授業科目	Writing Skills A (再)		開講時期	前期
担当教員	高森 暁子		単位	2
授業の目的と概要	<p>英文を書くための基本的なルールを再確認します。日本語と英文の違いを知ることによって、正しい英語表現ができるようになります。</p> <p>英語特有のイディオム表現を学習することによって、より自然な英語表現ができるようになります。</p> <p>自分の主張を英語で効果的に表現するコミュニケーションスキルの習得につながります。</p>			
到達目標	<p>正しい英文の書き方のルールが明確に理解できる。</p> <p>日本語表現にとらわれて間違えていた英語表現を正しいものにすることができます。</p> <p>英語特有のイディオム表現を学習することによって、より自然な英語表現ができるようになる。</p>			
この授業が目的としているDPや関連する科目など				
授業計画	授業内容	授業外学修など		
第1回	オリエンテーション (学習の仕方、授業の進め方、成績評価などの詳細な説明)	テキストp.2-8予習		
第2回	There is/ areを使った表現	復習およびテキストp.9-21予習		
第3回	前置詞を使った場所の表現	復習およびテキストp.24-39予習		
第4回	時間についての表現	復習およびテキストp.42-50予習		
第5回	現在形、現在進行形、過去形、未来系	復習およびテキストp.51-62予習		
第6回	現在完了形、過去完了形、未来完了形	復習およびテキストp.63-73予習		
第7回	知覚動詞、使役動詞、受動態	中間テストに向けての復習		
第8回	中間テスト	テキストp.76-88予習		
第9回	関係詞	復習およびテキストp.90-94予習		
第10回	仮定法	復習およびテキストp.95-98予習		
第11回	仮定法を使った慣用表現	復習およびテキストp.100-110予習		
第12回	時制の一致、比較表現	復習およびテキストp.112-119予習		
第13回	間違えやすい英語表現(1)	復習およびテキストp.120-127予習		
第14回	間違えやすい基本表現(2)	まとめテストに向けての総復習		
第15回	まとめテスト	まとめテストの復習		
成績評価	割合(%)、種類・評価基準など			
定期試験	なし			
レポート	なし			
小テスト等	中間テスト 35% まとめテスト 50%			
成果発表	なし			
受講態度他	15%			
受講上の留意点・ルールに関わる情報	<p>欠席が6回に達すると単位修得の資格を失います。</p> <p>遅刻・欠席は2回で1回欠席にカウントします。</p> <p>30分以上の遅刻は欠席にカウントします。</p> <p>辞書は必ず持参して下さい。辞書アプリではなく、電子辞書か紙の辞書を持参して下さい。</p>			
教科書	鈴木卓 『ヒントと例文で学べる表現英作文』 松柏社			
指定図書	なし			
参考図書	なし			
オフィスアワー	水曜5時間目	メールアドレス		

授業科目	e-Learning研究	開講時期	前期
担当教員	田口 純	単 位	2
授業の目的と概要	インターネットの普及に伴って本格化している e-Learning は現在、学校や企業などで広く利用されており、学習者に適したさまざまな教材が各種開発されています。この授業では、PC やスマートフォンを利用した e-Learning 教材を使用して、英語力のアップを図るとともに、e-Learning で学習することのメリットやデメリット、一斉学習や協働学習との相違などを研究していく予定です。英語メディア学科の学生として普段から使用している PC やスマートフォンを大いに活用して、さらなる英語力の向上を目指してください。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PC を活用した e-Learning 教材の理解を深めることができる。</li> <li>・ スマートフォンを活用した e-Learning 教材の理解を深めることができる。</li> <li>・ PC やスマートフォンを活用して英語力の向上を図ることができる。</li> <li>・ e-Learning のメリット、デメリットについて研究を深めることができる。</li> <li>・ e-Learning と一斉学習、協働学習との相違について研究を深めることができる。</li> </ul>		
この授業が目的としているDPや関連する科目など			
授業計画	授 業 内 容	授 業 外 学 修 など	
第1回	オリエンテーション (授業の進め方など)	配布した資料をよく読んでおくこと。	
第2回	e-Learning 教材の進め方	配布した資料をよく読んでおくこと。	
第3回	Practical English 6 (1)	決められた課題を期日までにこなしておくこと。	
第4回	Practical English 6 (2)	決められた課題を期日までにこなしておくこと。	
第5回	Practical English 6 (3)	決められた課題を期日までにこなしておくこと。	
第6回	Blended Learning (1)	e-Learning 活用のための時間管理について研究しておくこと。	
第7回	Practical English 6 (4)	決められた課題を期日までにこなしておくこと。	
第8回	Practical English 6 (5)	決められた課題を期日までにこなしておくこと。	
第9回	Practical English 6 (6)	決められた課題を期日までにこなしておくこと。	
第10回	Blended Learning (2)	PC とスマートフォンでの利用の相違について研究しておくこと。	
第11回	Practical English 6 (7)	決められた課題を期日までにこなしておくこと。	
第12回	Practical English 6 (8)	決められた課題を期日までにこなしておくこと。	
第13回	Practical English 6 (9)	決められた課題を期日までにこなしておくこと。	
第14回	Blended Learning (3)	e-Learning と一斉学習、協働学習との相違について研究しておくこと。	
第15回	総まとめ	これまで学んできたことを総復習してください。	
成績評価	割合 (%)、種類・評価基準など		
定期試験	60%		
レポート	20%		
小テスト等	なし		
成果発表	なし		
受講態度他	20% 積極的な授業参加を評価する。		
受講上の留意点・ルールに関わる情報	4年生は就職活動(就活)などで欠席することもあるので、就活に行った時には必ず「就職活動による欠席届」に企業から証明をもらって、提出してください。		
教科書	教科書はありませんが、e-Learning 教材受講料として約3,000円がかかります。		
指定図書	なし		
参考図書	なし		
オフィスワーカー	月曜・火曜の昼休み、またはメールで相談	メールアドレス	